

授業コード	10300201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	遠藤 正敬				
シラバス執筆(主)	遠藤 正敬				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、近現代の社会においてさまざまな形で現れてきた人間の営みを政治、法、制度、慣習など多角的にとらえてみる。自由や平等など正の面と、紛争や差別や犯罪など負の面の両方に目を向け、現在自分が生きている社会がどのような特徴をもっているのかを理解することで、あるべき共生社会を考える手がかりをさぐることを目的とする。人種、民族、国籍、ジェンダー、宗教、職業などいろいろな論点を取り上げ、豊かな議論を行いたい。

★この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出する形で実施する予定です。

到達目標

- 1、現在の自分を取り巻く世界の情勢がどのようなものであるかを社会学的観点から説明できる。
- 2、何事にも多様な価値観をもって評価することができる。
- 3、社会の動きや人間の営みを自分なりの意見をもって説明できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：授業のねらい
内容・方法：文化の異同からみえてくるもの
- 【第2回】
テーマ：近代社会の形成 ①
内容・方法：「革命」とは何か
- 【第3回】
テーマ：近代社会の形成 ②
内容・方法：宗教と個人の自由
- 【第4回】
テーマ：「国民」とは誰か
内容・方法：国籍と市民権、外国人の人権
- 【第5回】
テーマ：法と裁判の社会史
内容・方法：神明裁判から「法の裁き」へ
- 【第6回】
テーマ：「奴隷」とは何か
内容・方法：奴隷制度の歴史にみる「人間」観
- 【第7回】
テーマ：食文化と社会
内容・方法：肉食をめぐる文化比較
- 【第8回】
テーマ：社会とステレオタイプ
内容・方法：「人種」や「民族」の描かれ方
- 【第9回】
テーマ：「障害者」とは誰か
内容・方法：社会や法における障害者の歴史
- 【第10回】
テーマ：「家族」のかたちと社会 ①
内容・方法：結婚と戸籍、夫婦別姓
- 【第11回】
テーマ：「家族」のかたちと社会 ②
内容・方法：同性婚をめぐる世界の流れ
- 【第12回】
テーマ：「優生思想」とは何か
内容・方法：進化論から強制不妊まで
- 【第13回】
テーマ：「無戸籍」とは何か
内容・方法：日本における無戸籍問題の意味
- 【第14回】
テーマ：グローバル化と社会の変容
内容・方法：移民、難民、重国籍
- 【第15回】
テーマ：まとめ
内容・方法：講義の総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：ニュースや時事問題に目を通し、問題を掴んでおく 2時間
 ②事後学修課題：疑問点の整理 2時間
- 【第2回】
 ①事前学修課題：多文化社会の観察 2時間
 ②事後学修課題：多文化社会の発見 2時間
- 【第3回】
 ①事前学修課題：ニュースの確認 2時間
 ②事後学修課題：講義内容の復習 2時間
- 【第4回】
 ①事前学修課題：ニュースの確認 2時間
 ②事後学修課題：講義内容の復習 2時間
- 【第5回】
 ①事前学修課題：資料の予習 2時間
 ②事後学修課題：資料の理解 2時間
- 【第6回】
 ①事前学修課題：歴史の復習 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第7回】
 ①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第8回】
 ①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第9回】
 ①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第10回】
 ①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第11回】
 ①事前学修課題：ニュースの確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第12回】
 ①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第13回】
 ①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第14回】
 ①事前学修課題：予備知識の確認 2時間
 ②事後学修課題：テキストの理解 2時間
- 【第15回】
 ①事前学修課題：これまでの復習 2時間
 ②事後学修課題：何を理解できたかを確認してみる 2時間

課題に対するフィードバックの方法

前回の授業内容の整理を毎回授業内の冒頭で行うとともに、毎回の授業内課題については各自の解答を採点した上で、課題のポイントはどこにあったのかを次回の授業内で説明する。履修者から寄せられた質問については個別に解答し、共有すべき質問については授業内で解答する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、課題および最終レポート等によって到達目標に即して総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題(60)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 毎回、レジュメを配布する。

参考書 適宜、授業内で指示する。

履修条件・他の科目との関連

積極的に授業への意見や質問、自分の関心事などを投じてくれることを期待する。

授業コード	10300206	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	本間 桃里				
シラバス執筆(主)	本間 桃里				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

個人が抱える様々な生きづらさは社会によってつくられるものであると気づかせてくれる学問が、社会学である。この講義では、立場が異なると見えている世界がどのように異なるのかについて、社会学の知見を応用しながら考える。それを通じて社会の「当たり前」を批判的に問い直し、身の回りに潜む排除や差別に気づくことが、本講義のねらいである。よりよい社会とは何か、社会にどのような働きかけができるのか等についても受講者のみなさんと一緒に探求したい。

★この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中（原則は動画公開から1週間）に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

1. 社会的な考え方や概念を理解し、自分の言葉で説明することができる。
2. 社会で起こっていることや多様な人々が抱える困難さを社会構造の観点から考えることができる。

授業計画

- 【第1回】イントロダクション
—社会学とは何か、どのように誕生したのかについて解説する。
- 【第2回】家族と社会
—「家族」とは何かを問い、社会における家族の機能について考える。
- 【第3回】学校と社会①
—「教育」とは何かを問い、社会における教育の機能について考える。
- 【第4回】学校と社会②
—不登校、不就学、公教育の周縁に置かれた人々について考える。
- 【第5回】コミュニティと社会
—「コミュニティ」とは何かを問い、社会におけるコミュニティの機能について考える。
- 【第6回】移民からみた社会①
—「外国人労働者」を取り巻く構造について考える。
- 【第7回】移民からみた社会②
—移民背景がある子どもを取り巻く構造について考える。
- 【第8回】移民からみた社会③
—難民、無国籍、非正規滞在の人々を取り巻く構造について考える。
- 【第9回】「障害」がある人々からみた社会①
—「障害」とは何かを問い、「障害」がある人々を取り巻く構造について考える。
- 【第10回】「障害」がある人々からみた社会②
—「障害」がある子どもを取り巻く構造について考える。
- 【第11回】貧困状態にある人々からみた社会①
—貧困とは何かを問い、貧困状態に置かれている人々を取り巻く構造について考える。
- 【第12回】貧困状態にある人々からみた社会②
—貧困状態に置かれている子どもを取り巻く構造について考える。
- 【第13回】性的マイノリティの人々からみた社会
—性にまつわる規範を問い直し、性的マイノリティの人々を取り巻く構造について考える。
- 【第14回】社会運動論①
—排除や差別と闘う人々の実践を取り上げ、社会運動とは何かについて考える。
- 【第15回】社会運動論②、まとめ
—問題が問題として認識されること／されないことについて考える。

★そのときどきの社会情勢、時事ニュース、受講生の関心などに応じて内容に変更がある可能性があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：社会問題に関心を持ち、時事ニュースや身の回りの出来事にアンテナを張る。テーマに関連することについて積極的に調べ、思考する。（各回2時間）

事後学習：重要な語彙や概念を復習する。講義および文献や資料等を参照しながら、そのテーマについて考察を深め、リアクションペーパーを提出する。（各回2時間）

課題に対するフィードバックの方法

講義の冒頭で前回のリアクションペーパーに対するフィードバックをしますので、質問や考えたことなどは積極的に書いてください。

期末レポートは、採点后、希望者にはフィードバックを行います。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の講義後に提出するリアクションペーパー	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて講義の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 履修条件は特にないが、計画的に学習時間を確保すること。

授業コード	10300301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

心理学は人間の行動や経験といった心の働きに関する多種多様な知見を体系化してきた。それは「こころの概念」としてあらわされたり、また「こころの理論」として記述されたりしている。その概念や理論は人間の行動や経験を一般化して、「人間とは何か」という問に対する一定の回答を提示してきたと言える。本講義では、自分や他者の心理を理解することで日常生活や職業生活における生活の質の向上を目指し、そのために人間の心の働きを「記述する」として「説明する」ことが目的である。講義はパワーポイントによるプレゼン形式で行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。授業はオンラインを用いた資料提示や課題提出を随時実施していく予定であり、受講において自身のパソコンを常に使用することを求める。

★この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

1. 人間の心の働きを記述することができる
2. 人間の心の働きを説明することができる

授業計画

- 第1回 授業オリエンテーション
本科目の目的と概要、授業ノートの構成について述べる
- 第2回 自己の心理1： 自己への意識
自己意識理論にもとづく私的側面と公的側面の自己意識を紹介する
- 第3回 自己の心理2： 自己の把握
アイデンティティ、自己概念、自己スキーマの事例を紹介する
- 第4回 自己の心理3： 自己の状態
エゴグラムにおける5つの側面とその特徴を紹介する
- 第5回 自己の心理4： 自己の表出
自己呈示、自己開示、自己モニタリングの特徴と機能を紹介する
- 第6回 コミュニケーションの心理1： 空間とコミュニケーション
コミュニケーションにおける物理的距離と位置関係の意味を紹介する
- 第7回 コミュニケーションの心理2： 非言語のコミュニケーション
言葉以外のコミュニケーションの種類と機能を紹介する
- 第8回 コミュニケーションの心理3： コミュニケーションのうまさ
コミュニケーションに関する技能の内容と事例を紹介する
- 第9回 対人関係の心理1： 夫婦のトラブル、夫婦の破綻
夫婦間葛藤の心理的要因の分類を紹介する
- 第10回 対人関係の心理2： 青年期の親子、家族の問題と役割
家族機能と親子間葛藤の特徴を紹介する
- 第11回 対人関係の心理3： 想像する恋愛、恋愛の始まり
恋愛のイメージ、一目惚れの心理的要因を紹介する
- 第12回 対人関係の心理4： 恋愛スキル、恋愛の破局
恋愛を促進させる技能、失恋の時期と原因を紹介する
- 第13回 集団・組織の心理1： 集団の条件
集団成立の最低限の要因、集団維持の要因を紹介する
- 第14回 集団・組織の心理2： 集団の愚行
集団による愚かな意思決定の特徴を紹介する
- 第15回 集団・組織の心理3： リーダーシップ
リーダーシップ理論の概念と種類を紹介する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 2.0時間
【事後】 オリエンテーションの説明内容にもとづき心理学の位置づけを理解し、ノートを準備する 2.0時間
- 第2回
【事前】 「人が自分に注意を向ける」ことに関する文献を読む 1.5時間
【事後】 「自己注目」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
【事前】 「人が自分の特性を知る」ことに関する文献を読む 1.5時間

- 【事後】「自己把握」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第4回
- 【事前】「人が有する自我状態の側面」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「エゴグラム」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第5回
- 【事前】「人が自分を他者に見せる」ことに関する文献を読む 1.5時間
【事後】「自己表出」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第6回
- 【事前】「人が他者と接するときの空間の使い方」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「個人的空間」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第7回
- 【事前】「人が言語以外の手段で他者と意思疎通する」ことに関する文献を読む 1.5時間
【事後】「ノンバーバルコミュニケーション」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第8回
- 【事前】「人が他者とうまく意思疎通する方法」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「コミュニケーションスキル」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第9回
- 【事前】「夫婦、結婚」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「夫婦関係の問題、結婚のストレス」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第10回
- 【事前】「親子、家族」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「親子関係の葛藤、家族の機能不全」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第11回
- 【事前】「恋愛」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「恋愛の実態調査」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第12回
- 【事前】「恋人関係」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「恋愛スキル」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第13回
- 【事前】「集団・組織が盛衰する」ことに関する文献を読む 1.5時間
【事後】「集団・組織に必要な要素」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第14回
- 【事前】「集団・組織の意思決定」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「集団浅慮」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間
第15回
- 【事前】「集団・組織の運営」に関する文献を読む 1.5時間
【事後】「有能なリーダーと有効なリーダーシップ」に関する資料を検索し、その内容をまとめてノートに加筆する 2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について自己採点が可能になるよう正解（模範解答）を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内での評価に関する課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。定期試験に代わるレポートを未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	「自己の心理」「コミュニケーションの心理」「対人関係の心理」「集団・組織の心理」それぞれ最終回に実施する課題 (4回×10)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	全授業終了後に提出するレポート課題	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	講義の内容はノートをとることが必要となる。

授業コード	10300501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人権教育論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長澤 敦士				
シラバス執筆(主)	長澤 敦士				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

【概要】 「深夜3時の人権論」
 例えば、この社会には深夜3時になると明日を生きるのではなく、いま・ここで自ら命を絶つという選択をしようとする人たちがいます。少なくとも、わたしの人生ではそういう他者(ひと)とかわる機会が何度かありました。わたしは彼ら／彼女らとどれだけかわっても、彼ら／彼女らがそう思うに至る背景を説明するための道筋をつくるのが出来ずにいます。なぜなら、彼ら／彼女らのことを「理解する」道筋には、いくつもの困難が付きまとうからです。それでも、わたしは彼ら／彼女らの背景にあるものを「理解」したいとは思っています。

ところで、一般的に人権とは「人が生きるためにどうしても必要なもの、奪われてはならないもの」(森田 2000: 31)とされています。今日の社会では、この意味での「人権」が実現されるためにさまざまな法律や政策が制定／策定され施行／実施されています。そうした法律や政策はとても大切です。しかし、これらの法律や政策はときにわたしたちの日常において「人権」を実現しようとするものの弊害になることがあるのも事実です。そこで、この講義では「そもそも「人権」を日常の中で保障するとはどういうことなのか」という問いを基盤にして、例えば、深夜3時に自ら命を絶つという選択しようとしたけれども、最終的に明日を生きることを選択した人を「メンヘラ」や「躁鬱病」といった名前を付けて理解してしまうのではなく(もちろん、そうした理解の可能性も残しつつ)、そうした人々の個別具体的な人生や生活に光を当てることで日常実践(≠政策や法律)として実現される「人権」の在り処(ありか)を受講者のみなさんと一緒に探究します。

【講義形態】 この講義は基本的に講義形式で行う予定ですが、受講者数によっては受講生同士のディスカッションを中心とした形式で行う可能性があります。

到達目標

1. 人権にかかわる社会問題についての基本的な事項を自分の言葉で説明することができる。
2. 人権にかかわる社会問題について複眼的に考え、自分なりの意見を述べるすることができる。

授業計画

【第1回】 はじめに：この社会に絶望することについて
 キーワード 「答え」のない問い、複眼的思考

【第2回】 「人間らしくある」とはどのようなことか——理想／理念としての人権について考える
 キーワード 世界人権宣言、国際人権規約、社会権と自由権

【第3回】 踏まれた足の痛みは踏まれた者にしかわからないのか——社会問題について考える視座としての社会学
 キーワード 差別／排除、マイノリティ、マジョリティ

【第4回】 なぜオフィスでラブなのか——性について考える①
 キーワード ジェンダー、性別役割分業、フェミニズム

【第5回】 みんな違って、みんないい、のか？——性について考える②
 キーワード LGBT+, アセクシュアル、SOGI

【第6回】 『カラコエの花』——性について考える③
 キーワード カミングアウト、アウティング、ALLY

【第7回】 「お前のためを思って」という欺瞞——「加害者になること」について考える①
 キーワード DV、ハラスメント

【第8回】 No Means No! ——「加害者になること」について考える②
 キーワード 性的同意、共依存、トラウマ

【第9回】 無駄とされる人々——障害について考える①
 キーワード 障害の社会モデル、生活自立運動、当事者主権

【第10回】 「愛と正義を否定」された先に何をどうすればいいのか——障害について考える②
 キーワード 障害児・者支援、合理的配慮、インクルーシブ社会

【第11回】 ホームレスにすまなれない女性たち——貧困について考える①
 キーワード 女性の貧困、世帯の中に隠れた貧困、シングルマザー

【第12回】 家族に足を引っ張られる人生——貧困について考える②
 キーワード 貧困対策／支援、子どもの貧困、貧困の連鎖(貧困の世代的再生産)

【第13回】 「移民」と「難民」の狭間で——外国にもつながりがある人々について考える
 キーワード 逸脱論、移民、非正規移民

【第14回】 「メンヘラ」と呼ばれる人々をつくりだすもの——「深夜3時の人権論」の応用問題
 キーワード パパ活、自傷行為(リストカット)、依存症、売春防止法

【第15回】 おわりに：この社会で希望を持つことについて
 キーワード アドボカシー(権利擁護)、生活史法

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：自らの日々の日常生活(例えば、サークル活動やバイト、ボランティア、家族など)に潜む差別や排

除にまつわる事象に敏感になること。各回ごとに2時間程度。
事後学習：講義で共有したことや考えたことを念頭に、改めて自らの日常生活を「人権」の視点で捉え返すこと。必要に応じて講義内で紹介した参考書籍なども読むこと。各回ごとに2時間程度。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたコメントシートに対しては、適宜、講義内でコメントを付します。
また、実施した課題について採点后、希望者についてはコメントを付して返却することも考えています。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業内外での評価及びレポート試験により総合的に評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎回の授業後に提出するコメントシート	1, 2
授業外での評価	10	中間レポート	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2
その他	0		

テキスト 特に指定はありません。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介します。ただし、以下の書籍は本講義との関連で参考になるものです。①と②の書籍は本学の図書館で借りることができます。興味のある方は手に取ってみてください。
①森山至貴(2020)『10代から知っておきたい あなたを閉じこめる「ずるい言葉」』、WAVE出版。
②宮地尚子(2013)『トラウマ』、岩波書店。
③好井裕明(2007)『差別原論：〈わたし〉のなかの権力とつきあう』(平凡社新書)、平凡社。

履修条件・他の科目との関連 履修条件はとくに指定しませんが、社会問題について自分なりの視点から考える意欲のある学生を歓迎します。
また、この講義の担当者が依拠する学問的立場は社会学や人類学と呼ばれる立場であり、心理学や精神医学ではないことには注意が必要です。

授業コード	10300801	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	人間とスポーツ [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 光子				
シラバス執筆(主)	佐藤 光子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツには一人一人の健康だけでなく、地域社会再生・経済発展・国際平和貢献など重要な意義と効果があることが期待されている。わが国のスポーツ基本法(2011年制定)をはじめ世界の多くの国では、スポーツを世界共通の人類の文化であるとし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であると謳っている。これらのことをふまえて、スポーツを生涯の友として豊かに暮らすための知識と考察を深めよう。本講義では、講義動画と関連資料を配信し、理解度テストを実施して採点返却する。これまでのあなたの人生で出会ったスポーツを振り返ることから始めるが、競技としてのスポーツだけでなく、健康や楽しみのためのスポーツ、様々な工夫を加えた新たなスポーツなども解説する。スポーツを歴史的・社会的な観点や、医学的・科学的な観点などから幅広く考えることができるよう、様々な資料を提供する。長年に亘り、ランニング学会認定上級指導者として、また日本トレイルランナーズ協会理事として、一般市民のスポーツ指導に携わっている経験をもとに講義を進めたい。

到達目標

1. スポーツの歴史をふまえて、現代のスポーツの定義を説明できる
2. スポーツと健康、ケガ、病気、子どもの成長などについて医療と発達科学の観点から説明できる
3. 様々な種類のスポーツについて、その内容を説明できる
4. スポーツと平和、人権、マナーなどについて、その問題点を説明できる
5. 講義で得た知見に加えて、自身で調べたことや考えについて述べられる
6. 講義で得た知見をふまえて、自身のスポーツ観について述べられる

授業計画

この授業はオンデマンド型の遠隔授業です。

【第1回】オリエンテーション

講義の主題、受講や課題提出の方法、到達目標と評価方法について確認する

【第2回】スポーツとは何か

現代社会におけるスポーツの定義について考える

【第3回】スポーツの歴史

古代オリンピックから近代スポーツまでの変遷を学ぶ

【第4回】スポーツと平和

スポーツと平和、人権について考える

【第5回】スポーツと健康

スポーツと健康との基本的な関係について理解する

【第6回】有酸素運動

呼吸循環機能を維持向上させる有酸素運動について理解する

【第7回】レジスタンス運動

筋力を維持向上させるレジスタンス運動について理解する

【第8回】スポーツの楽しみ方

スポーツを「みる」楽しみとして、スポーツを題材とした小説、映画、マンガなどの作品を探してみる

※中間レポート ここまでの講義の中で強く関心を持った内容についてレポートを提出する

【第9回】スポーツとケガ

捻挫などの急性障害、疲労骨折などの慢性障害を知り、応急処置を身につける

【第10回】スポーツと病気

貧血などの慢性障害、心停止や熱中症などの急性障害を知り、感染症対策についても理解する

【第11回】子どもの成長とスポーツ

成長期の子どもの身体の特徴を知り、スポーツにおける留意点を理解する

【第12回】アダプテッドスポーツ

ルールや用具などを参加者の状況に合わせたスポーツ、アダプテッドスポーツの概念を理解する

【第13回】多様化するスポーツ

既存の競技を簡便にしたもの、昔の遊びをスポーツ化したもの、まったく新たな発想で生まれたスポーツなど、現代の様々なスポーツについて調べる

【第14回】スポーツのルールとマナー

厳しい自然の中のアウトドアスポーツを事例としてルールとマナーについて考える

【第15回】講義のまとめ

第8回授業での「スポーツを題材とした作品」の投票結果の発表と講評のほか、講義全体を総括する

※最終レポート すべての講義を通じて強く関心を持った内容、または講義全体を通じてのレポートを提出する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、翌週の講義テーマについて自ら調べ、概要を把握しておくこと。

事後学習としては、授業で紹介したものだけでなく自ら調べた書籍やインターネット情報などを活用し、理解を

深めること。特に理解度テストで間違えた事柄についてはきちんと調べておこう。
毎回の授業につき、事前学習1.5時間程度、事後学習2.5時間程度が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回講義後に理解度テストを実施するが、提出期限後に採点し返却する。
2回のレポートも、提出期限後に採点し返却する。
評価に対する質問があればClassroomやOIUメールを通じて尋ねること。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえで60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
ただし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価対象外「K評価」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の授業後に行う理解度テスト(70)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	全講義の前半を終えた時点で提出する中間レポート(15)	5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	全講義終了後に提出する最終レポート(15)	5, 6
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	講義内で適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	特になし。

授業コード	10300901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人間と情報 [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現在の情報社会において、情報は大きな価値を持ち、これらはコンピューターを用いた情報システムにより管理・運用されている。情報システムとは、社会や企業等の活動に必要な情報の利活用に関わるしくみのことであり、本講義では効果的な情報デザイン手法、生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システム、情報モラル、未来の情報技術等について解説していく。
授業の形態は、講義・演習・グループワーク等である。

到達目標

1. 効果的な情報デザイン手法を使ってコンテンツを作成することができる。
2. 生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システムについて説明できる。
3. 情報モラル及びセキュリティについて説明できる。
4. 未来の情報社会と情報システムについて説明できる。
5. 上記の知識を用いて、身の回りにある情報システムのしくみを概説することができる。
6. 積極的にコミュニケーションを取りながら、他者と協力できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション (授業の進め方、受講ルール、情報システムの概要等)
第2回	情報デザイン (情報の構造化、レイアウト、文字等)
第3回	生活を支える情報システム (1) (電子行政と電子認証、気象・防災システム)
第4回	生活を支える情報システム (2) (交通関連システム、医療情報システム)
第5回	生活を支える情報システム (3) (情報家電と組み込みシステム、日常生活の進化)
第6回	ビジネスを支える情報システム (1) (電子商取引、電子決済)
第7回	ビジネスを支える情報システム (2) (販売時点情報管理、顧客情報管理、企業資源管理計画等)
第8回	ビジネスを支える情報システム (3) (供給連鎖管理システム、ネットビジネス等)
第9回	ものづくりを支える情報システム (1) (設計・製造・生産管理における情報システム等)
第10回	ものづくりを支える情報システム (2) (生産管理・農業・漁業における情報システム等)
第11回	情報モラル (1) (情報社会の特徴と問題点、著作権問題、ネット上のルールとマナー等)
第12回	情報モラル (2) (情報漏えいと対策、サイバー犯罪、サイバー攻撃と防衛等)
第13回	未来の情報技術 (ユビキタスコンピューティング、新たなユーザーインターフェイス等)
第14回	未来の情報社会と人間 (現在の情報社会、現在から未来へつながる技術、未来の情報社会等)
第15回	学習のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また事後には、学んだ重要キーワード及びその周辺事項について、インターネットを用いて調査すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施した課題の解答・解説を行う。その他のレポート、定期試験に代わるレポートの結果については希望者に個別にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業期間中に実施される課題(20)、レポート(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート試験(40)	5
その他	20	授業中の取り組み(20)	6

テキスト	<ul style="list-style-type: none">・コンピューターと情報システム、福田真規夫 監修、日本理工出版会、2,500円(税別)、ISBN978-4-89019-528-2・資料を必要に応じて配付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。・「情報処理のしくみ」の単位を取得済み、あるいは同等の知識を有していることを前提とする。・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。

授業コード	10301001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	新谷 廣一				
シラバス執筆(主)	新谷 廣一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面に急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。

開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1~1.6)。

【第3週】日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7~1.8、2.1~2.3)。

【第4週】「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1~3.4)。

【第5週】「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1~2.3)。

【第6週】「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1~3.4)。

【第7週】「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1~4.3)。

【第8週】「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
(演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索

(講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
(演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)

(講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
(演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)

(講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
(演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)

(講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
(演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)

(講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
(演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)

(講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
(演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税
オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税
上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。

授業コード	10301101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	新谷 廣一				
シラバス執筆(主)	新谷 廣一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面に急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成Ⅰ」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成Ⅱ」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能Ⅰ」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理Ⅰ」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税 オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税 上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。 上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。 本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10301301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	現代の日本社会 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	香月 悠希				
シラバス執筆(主)	香月 悠希				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

高度に複雑化した現代の日本社会において、社会のあり方と社会問題に対して、借り物ではない自分なりの意見を形成するのは容易ではない。社会やそれをとりまく問題を主体的に捉えるには、社会をかたちづくる政治の仕組みと、社会問題を分析する理論枠組みについての体系的な理解が不可欠なためである。そこで本講義では、政治学および政治理論の基本的な知識の学習を通じて、現代の日本社会を主体的に分析・考察する視点の獲得を目指す。

この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間にZoom等で参加する方法)ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

到達目標

1. 日本の政治制度の基本的な用語と仕組みを説明できるようになる。
2. 代表的な政治理論上の立場である、自由主義、功利主義、卓越主義について、その特徴と問題点を説明できるようになる。
3. 社会問題をめぐる政治的な主張について、その背後にある価値判断を、根拠をもって検討できるようになる。

授業計画

- 【第一回 イン트로ダクション】授業についての概説を行い、受講にあたっての理解を深める。
- 【第二回 なぜ政治を考えるのか】「政治とはなにか」「なぜ政治を考えるのか」という問いの考察を通じて、政治についての基本的な知識や考え方について学ぶ。
- 【第三回 政治と価値】政治において大切だとされる「価値」について学び、単なる好き嫌いではないものとして政治的な主張や政治思想を理解できるようになる。
- 【第四回 自由主義①】現代政治の中心的価値である自由について、リベラリズムの政治理論を手がかりに学ぶ。
- 【第五回 自由主義②】現代政治の中心的価値である自由について、リバタリアニズムの政治理論を手がかりに学ぶ。
- 【第六回 功利主義①】現代政治において大きな影響力を持つ功利主義について、古典的功利主義を中心に学ぶ。
- 【第七回 功利主義②】現代政治において大きな影響力を持つ功利主義について、現代功利主義を中心に学ぶ。
- 【第八回 卓越主義】公共政策の議論において、無視できない影響力を持つ卓越主義について学ぶ。
- 【第九回 非個人主義的価値】個人主義的な価値に還元することのできない価値について学ぶ。
- 【第十回 民主主義】多くの人が自明のものとしている民主主義について、民主主義をめぐる政治理論の考察を通じて学ぶ。
- 【第十一回 民主政治を支える制度①】内閣制度を中心に基礎知識を学習し、現実の政治の動きを理解する。
- 【第十二回 民主政治を支える制度②】議会制度を中心に基礎知識を学習し、現実の政治の動きを理解する。
- 【第十三回 民主政治を支える制度③】政党制度を中心に基礎知識を学習し、現実の政治の動きを理解する。
- 【第十四回 政治と現実】現実の政策実践について、政治学や政策研究、政治理論の知見を手がかりに学ぶ。
- 【第十五回 政治と理想】これまで学んできた内容をふりかえりつつ、政治と社会について個人が考えることの意義についてあらためて考察する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【初回】

[事前学習] シラバスを熟読し、授業構成を理解したうえで、政治について日頃疑問に思っていること、考えていることを言語化する。

【各回共通】

[事前学習] 新聞やテレビ等のメディアに目を通し、個人的に興味のあるニュースや、よく意味のわからなかったニュースについて、前回までの講義で得た知識と関連性がないか考える。事前学習の目安は二時間とする。

[事後学習] 配布した講義資料を読み返しつつ、不明な点を中心に講義動画を再視聴しながら復習すること。解決しなかった不明点については、随時メールをもちいて質問すること。事後学習の目安は二時間とする。

課題に対するフィードバックの方法

優れたコメントや興味深い質問を講義でとりあげ、講評・解説をおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業に関するコメント・質問の提出、期末レポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なくレポートを提出しなかった場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	20	授業に関するコメント・質問	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	80	レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、講義資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	履修条件はとくに指定しません。政治と社会問題について自分なりの視点から考える意欲のある学生を歓迎します。

授業コード	10301501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	日本の歴史と文化 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	増成 一倫				
シラバス執筆(主)	増成 一倫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、古代～近代・現代までの時代から幅広くテーマをとりあげ、日本の歴史や文化について概観していく。その際、文字史料だけでなく、遺跡や遺物などの考古資料、絵画資料などの多様な資料を紹介し、多角的な視点からその特徴を明らかにしていく。授業では、各時代を概説的に取りあげるとともに、いくつかのテーマについてはやや詳しく取り上げ、近年の研究成果にも言及しつつ、それぞれの特徴や歴史的意義を検討していく。さらに、各時代の比較を通じて、現代社会とのつながりや相違点、多様な社会のありかたについて理解を深めるとともに、それぞれの時代や文化について主体的に学ぶ手がかりとすることを旨とする。

なお、講義の進度や受講者の興味・関心などに応じて、授業計画は変更することがある。

★この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

1. 日本の歴史や文化について、それぞれの時代の大まかな特徴や流れを説明できる。
2. 歴史的事実を解明するための様々な種類の史料・資料について、それぞれの特徴や、時代ごとの性格を説明できる。
3. 授業で取り扱った様々な時代やテーマについて、現代社会とのつながりや相違点にも着目しつつ、歴史的意義を説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：本講義の進め方、評価方法について説明する。あわせて、過去の歴史的事実をわれわれはどのような方法で知ることができるのかなど、歴史を学ぶ方法や意義を考察する。
- 【第2回】
 テーマ：旧石器時代・縄文時代・弥生時代の歴史
 内容・方法：旧石器時代・縄文時代・弥生時代の歴史について、社会集団の形成過程に着目して考察する。
- 【第3回】
 テーマ：古墳時代の歴史
 内容・方法：古墳時代の歴史について、古墳が造られた背景や政治的まとまりの形成過程に着目して考察する。
- 【第4回】
 テーマ：飛鳥時代の歴史
 内容・方法：「大化の改新」の検討を中心に、飛鳥時代の歴史について、その特徴と展開を考察する。
- 【第5回】
 テーマ：奈良時代の歴史
 内容・方法：奈良時代の歴史について、律令制の特徴と政治の変遷に着目し、その特徴と展開を考察する。
- 【第6回】
 テーマ：平安時代の歴史
 内容・方法：平安時代の歴史について、摂関政治や院政の成立過程や構造に着目し、その特質と展開を考察する。
- 【第7回】
 テーマ：鎌倉時代の歴史
 内容・方法：鎌倉時代の歴史について、鎌倉幕府の構造や変遷に着目し、その特質と展開を考察する。
- 【第8回】
 テーマ：南北朝時代・室町時代・戦国時代の歴史
 内容・方法：南北朝時代・室町時代・戦国時代の歴史について、室町幕府の展開過程に着目し、その特質と展開を考察する。
- 【第9回】
 テーマ：安土桃山時代・江戸時代の歴史（その①）
 内容・方法：安土桃山時代から、江戸時代中頃までの歴史について、織田信長・豊臣秀吉による全国の統一過程と江戸幕府の構造に着目し、その特質と展開を考察する。
- 【第10回】
 テーマ：江戸時代の歴史（その②）
 内容・方法：江戸時代の中頃から、幕末までの歴史について、幕府で行なわれた改革と、幕末の「開国」に着目し、その特質と展開を考察する。
- 【第11回】
 テーマ：明治時代・大正時代・昭和時代・現代の歴史と文化
 内容・方法：明治時代から現代にいたる歴史について、それぞれの時代の文化にも着目しながら、その特質と展開を考察する。
- 【第12回】
 テーマ：古代の文化-飛鳥文化、天平文化、弘仁・貞観文化、国風文化を中心に-
 内容・方法：飛鳥時代・奈良時代・平安時代の文化について、仏教の位置づけや対外関係に主に着目し、その特

質と展開を考察する。

【第13回】

テーマ：中世の文化-鎌倉時代の文化、室町時代の文化（北山文化・東山文化）を中心に-

内容・方法：鎌倉時代・室町時代の文化について、担い手や現代の伝統文化とのつながりにも着目しつつ、その特質と展開を考察する。

【第14回】

テーマ：近世の文化-元禄文化・化政文化を中心に-

内容・方法：江戸時代の文化について、代表的作品を取り上げ、その特質と展開を考察する。

【第15回】

テーマ：本講義のまとめ

内容・方法：講義で取り扱ったテーマを振り返りながら、それぞれの時代の歴史や文化の特徴についてまとめる。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- ・第1回目については、事前学習としてシラバスに目を通しておく。
- ・第1回目の事後学習、第2回目～第14回目までの事前事後学習、第15回目の事前学習では、授業で配信した映像（音声）教材や授業資料をよく確認し、内容を復習しておく。
- ・第15回目の事後学習では、これまでの授業で配布された映像（音声）教材や授業資料を熟読し、内容を振り返っておく。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業ごとの課題の解答については、次回以降の授業でポイントを解説する。
- ・授業ごとの感想ペーパーで出された質問などについては、可能な限り次回の授業で回答する。
- ・期末レポートの評価については、希望があれば個別に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業のそれぞれの回ごとに提示・提出する課題や感想ペーパーと、期末レポートにより総合的に評価のうえ、100点満点に換算して60点以上を合格とし、単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回の課題の解答内容(20)と、感想ペーパーの内容(20)により評価する。	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	期末レポートの内容(60)により評価する。	3
その他	0		

テキスト

授業ごとに映像（音声）教材や、授業資料を配布（配信）する。

参考書

必要に応じて、各授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・配信する授業資料等を用いて、真面目に授業を受けること。
- ・授業にて指示する課題やレポート課題に真面目に取り組み、期限を厳守して提出すること。

授業コード	10301801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	日本と世界の宗教 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小西 賢吾				
シラバス執筆(主)	小西 賢吾				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「宗教」と聞くと、多くの人にとっては日常生活にあまり関係のないものと感じるかもしれませんが。しかし、例えば「魔法」や「占い」「妖怪」といったことばは、皆さんの周りにあふれていることに気づくでしょう。この講義では、人間が誰でも持っている思考や行動の様式という視点から、宗教と関連する文化をとらえ、それを理解するための基本的な考え方を紹介します。日本や世界のさまざまな事例を通して、自分の心の中にも科学や合理性だけでは説明できない考え方が根付いていることを知り、異なる宗教を持った世界の人びとをより身近に理解するための視点を養うことを目指します。それは、多文化共生社会において、異なる背景をもった人びとと、ビジネスから日常生活にいたる多様な活動をともにするために必要とされる知見でもあります。リアクションツールなどを用いて、リアルタイムで受講者からのコメントを踏まえて議論を展開する双方向的な授業を行います。

到達目標

1. 宗教を理解するための基本的な視点を身につけ、現代社会の諸側面を宗教的な切り口から説明できる。
2. アジアを中心にして特定の宗教の概要を理解し、その背後にある考え方を説明できる。
3. 日常生活における宗教的要素を捉えるために、身近な経験の中から適切な事例を判断でき、その内容について説明できる。

授業計画

- 第1回 イントロダクション：この授業であつかう「宗教」の意味を理解する。
 第2回 「おまじない」と「ジンクス」から知る宗教：身近な経験の背後にある宗教的考え方を理解する。
 第3回 人生と宗教：人生の様々な節目や、家族の形成に宗教が関係していることを理解する。
 第4回 地域社会と宗教：祭りなどの伝統的な宗教行事が地域社会に果たす役割を理解する。
 第5回 国家・民族と宗教：宗教が人間のアイデンティティと深く結びついていることを理解する。
 第6回 聖地とパワースポット：人間が、自然環境をはじめとするさまざまな場に「聖なるもの」を見いだしてきたことを知る。
 第7回 つながりと宗教：「縁結び」をはじめとして、つながりの生成に宗教が果たす役割を理解する。
 第8回 からだ・病気・治療にみる宗教(1)：身体や病気に対する考え方と宗教との結びつきを知る。
 第9回 からだ・病気・治療にみる宗教(2)：宗教的な治療の事例から、その社会的な意味を理解する。
 第10回 宗教と死(1)：人間の死にはなぜ葬儀と宗教が必要なのかを考える。
 第11回 宗教と死(2)：異文化の死生観を宗教を通じて理解する。
 第12回 グローバル化・越境と宗教①：グローバル化と宗教の関係について知り、異なる文化の中で働く人びとにとっての宗教の意義を理解する。
 第13回 グローバル化・越境と宗教②：グローバル化時代における宗教のメリット・デメリットとその背景について理解する。
 第14回 メディアにみる宗教：映像をはじめとするメディアから宗教を理解する意義と問題点を理解する。
 第15回 まとめ：授業の内容をまとめ、宗教を理解するために得た視点を確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とします。
 事前学習：授業の内容に関する小課題が出題されるので、自分でさまざまなツールを用いて情報を収集し、授業前までに課題に取り組む。
 事後学習：毎回の配付資料やスライドの内容を復習し、要点をまとめるとともに、自らの経験にひきつけて解釈し、その応用可能性を考える。

課題に対するフィードバックの方法

小課題の解答やコメントに解説を加え、授業の内容に反映します。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内で出題する小課題への解答	1, 2, 3
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	授業終了後に実施するレポート試験	1, 2, 3
その他	0		
テキスト	使用しません。授業中に適宜資料を配布します。		
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。		
履修条件・他の科目との関連	履修条件はとくにありません。授業の中ではリアクションツールなどを用いた双方向的な議論を行いますので、授業で聞いた内容を踏まえて自分の考えをまとめながら受講してください。欠席者には配付資料を別途アップロードするなどの配慮を行います。		

授業コード	10302001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	キャリア基礎Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	柴崙 雅子				
シラバス執筆(主)	柴崙 雅子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

この授業は社会や企業に関する基本的知識を習得すると同時に、自分自身の価値観や長所や短所を自覚し、キャリアデザインの基礎を作ることを目的としている。
集中科目であり、個人ワークや個人発表、ペアワークやディスカッションも行う。

到達目標

1. キャリアデザインに必要な社会や企業に関する基本的用語を説明できる。
2. 自分自身の価値観、長所や短所を、他者に分かりやすく説明できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
- 【第2回】ライフラインチャート：これまでの自分
- 【第3回】自分の価値観と様々な役割
- 【第4回】アサーション
- 【第5回】産業：現代の特徴
- 【第6回】お金：給料と使い方
- 【第7回】日本的雇用：メンバーシップ型とジョブ型
- 【第8回】業界
- 【第9回】職種
- 【第10回】多様な働き方
- 【第11回】ワークルール
- 【第12回】様々な社会人・企業の紹介①
- 【第13回】様々な社会人・企業の紹介②
- 【第14回】インターンシップ
- 【第15回】振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業の復習以外に、紹介された資料や本を調べたりするために、1回につき1時間程度の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に指摘したり、メールで知らせる。

成績評価の方法・基準(方針)

授業中のワーク・発表・レポートで評価する。
正当な理由のない欠席が5回以上でK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	100	ワーク・発表・レポート(70) 学修に取り組む姿勢(30)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	参考書は授業時に適宜、指示する。
履修条件・他の科目との関連	キャリア基礎Ⅰの単位を修得していることが望ましい。

授業コード	10302101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザイン I [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、職業理解と自己理解を深め、これらを踏まえて自分が目指したいキャリアのあり方について検討していく。このことを通じて、自分の目指したいキャリアを実現するために何が重要なのかに気づき、必要な行動計画を立てる準備をする。さらに、自己洞察を通じて、今後の学生生活を充実させることの意義と、そのためにとるべき行動について認識することを目指す。再履修クラスとして集中講義で行い、個人ワークや個人発表、ペアワークやディスカッションを行う。

到達目標

1. 職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を説明できる。
2. キャリアプランニングに必要な自己理解を行い、将来を展望することができる。
3. キャリアプランニングについての気づきや基礎的知識を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会・経済・雇用の変化
- 第3回 就職活動の変化
- 第4回 働き方の変化
- 第5回 業界、企業への着目
- 第6回 第1回～第5回の振り返り
- 第7回 採用担当者の視点 (1)
- 第8回 採用担当者の視点 (2)
- 第9回 インターンシップの意義と活用法
- 第10回 職業適性とキャリアプランニング
- 第11回 キャリア自己診断の実施と結果の読み取り
- 第12回 自分の持つ強みの理解
- 第13回 今までの人生経験から自己理解を深める
- 第14回 コミュニケーションから自己理解を深める
- 第15回 ライフキャリアと人生の多重役割

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

職業理解と自己理解を深めるために、毎授業で行ったワークおよび返却された前回のレポートを見直すことで、毎回約1時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートなど、提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・毎回のミニレポートおよび適宜課題で評価する。
- ・事由なく欠席5回以上はK評価とする。
- ・「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	100	ワーク・発表・レポート(70%) 学修に取り組む姿勢(30%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリア基礎Ⅱを受講していることが望ましい。

授業コード	10302201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	高橋 広明				
シラバス執筆(主)	高橋 広明				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指す進路・就職を実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画を文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 自己理解と職業理解を踏まえた今後の準備
- 第3回 職業理解①
- 第4回 職業理解②
- 第5回 インターンシップ(課外)の活用
- 第6回 筆記試験で求められるもの
- 第7回 就職活動で求められるマナー
- 第8回 自己分析①
- 第9回 自己分析②
- 第10回 エントリーシートの作成①
- 第11回 エントリーシートの作成②
- 第12回 グループディスカッションの実践
- 第13回 面接の実践①
- 第14回 面接の実践②
- 第15回 今後の行動計画、就職活動に向けた留意事項

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要。職業理解と自己理解を深めるために、毎授業で行ったワークおよび返却された前回のレポートを見直すことで、毎回約1時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業でのミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

績評価の方法・基準(方針)

- ・授業でのミニレポートおよび適宜課題で評価する。
- ・事由なく欠席5回以上はK評価とする。
- ・「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	100	講義内容に関する基礎的知識の理解度、講義内容を踏まえた自身の考えや洞察、今後の行動計画に関する文章内容。	1, 2, 3

テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
------	--------------------

参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザイン I を履修していることが望ましい。

授業コード	10302301	授業形態	実習 (学外)	実務家教員	—
授業科目名	インターンシップ I [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業での仕事体験を通じて、仕事理解を深めることを目的とする演習・実習科目である。学期期間中の事前授業、長期休みを中心とした実習（合計3日程度の仕事体験）、事後授業で構成される。最終的に授業を通じて得た学びを整理した「仕事発見レポート」の作成と発表を行い、経験を振り返る。

到達目標

1. 社会に対する問題意識や興味関心を持つことができる
2. 仕事とはいったいものか自分の言葉で語ることができる

授業計画

- 事前授業（学期期間中の土曜日を中心に集中して実施する）
 - 事前授業（1）【第1回】 オリエンテーション
 - 事前授業（2）【第2,3,4回】 受入企業によるゲストトーク
 - 事前授業（3）【第5,6回】 仕事理解ワーク
 - 事前授業（4）【第7,8回】 目標設定
 - 事前授業（5）【第9,10回】 キックオフ
- 実習（長期休みを中心に実施）
 - ・主に長期休みを利用し、合計3日程度の仕事体験を実施する
 - ・具体的なスケジュールは企業と相談の上、決定することとなる
- 事後授業（実習終了後に土曜日を中心に集中して実施する）
 - 事後授業（1）【第11回】 経験の振り返り
 - 事後授業（2）【第12,13回】 仕事発見レポートの発表

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業と実習以外に合計40時間の事前事後学習が必要となる。企業の協力を得て、学外に出る仕事体験を伴う授業であることから、授業時間外にも必要な活動が発生することを理解しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題は授業内で講評するとともに、必要に応じてコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

すべての事前授業・実習・事後授業への参加と、必要な課題の期限内提出、必要な取り組みへの期限内実施を単位認定要件とする。その上で、単位認定要件を満たした者に対し、以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	毎回の授業の振り返りシート (20%) 各種ワークシート・エントリー課題 (20%) 仕事発見レポート (20%)	1, 2
授業外での評価	20	実習中の活動報告書	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート課題	1, 2
その他	0		

テキスト テキストは使用せず必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ・集中講義のため、年度当初の履修登録はない

履修条件・他の科目との関連

- ・受講希望者は4月に開催する説明会に必ず参加すること
- ・説明会の詳細は4月初旬にUNIPAにて案内する
- ・21年度以前の入学生については、「インターンシップ I」と同科目である

授業コード	10302302	授業形態	実習 (学外)	実務家教員	—
授業科目名	インターンシップ I [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業・団体などの仕事の現場をフィールドとして、主に夏休み期間を中心に、80時間(10日)以上の就業体験(以下、現場実習)を行う実習科目である。実際の仕事の現場での実践を通じて、関わる業界や仕事の理解、自身の得意・不得意、向き・不向き、強み・弱みなどの自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、その後の学生生活や将来に向けた自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。通年開講の集中科目である本科目は、年度当初の履修登録はなく、①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③本科目で紹介する受け入れ先での80時間以上の現場実習と実習中課題の期限内提出、これらの単位認定要件を充たした者を成績評価の対象とする。本科目は、授業として行う現場実習であり、受け入れ先も本科目の目的に賛同した企業・団体が前提となるため、就職活動に直接結びつく可能性のある企業主導型のインターンシップではない(企業・団体に採用意図はない)ということと、本科目の目的を理解した上で受講することを求める。

到達目標

1. 現場実習先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる
2. 自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる
3. 目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる
4. 経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる

授業計画

社会情勢やその他の事情により企業・団体の受け入れ状況を考慮し、実施できない場合がある。しかし、実施が実現できることを前提に授業を進める。授業のスケジュールや開講日時などの詳細は、4月に開催する事前研修「ガイダンス」にて案内をするので、必ず参加すること。

- 【事前研修(1)】 ガイダンス (授業: 90分)
 授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する
- 【事前研修(2)】 目標設定および各資格に関する説明 (授業: 90分)
 現場実習の参加目的を明確にし、現場実習参加で果たしたい目標を設定する
 各資格の特徴を理解し、現場実習で取り組むべき課題を設定する
- 【事前研修(3)】 現場実習参加申込書の作成 (授業: 90分)
 設定した目標および課題をもとに、現場実習参加申込を作成することにより、実習内容を深めるための視点を理解する
- 【エントリープロセス(1)】 学内選考 (連絡調整: 30分・面談: 60分 ※場合により複数回実施する可能性がある)
 学内選考として、学科担当教員との個人面談面談を受ける
- 【事前研修(4)】 個人票の作成 (授業: 90分)
 現場実習先企業・団体に提出する個人票の作成するとともに、実習先への事前連絡・訪問・面接の目的と具体的方法、訪問マナーについて理解する
- 【エントリープロセス(2)】 事前訪問・受け入れ先選考 (連絡調整: 30分・面接: 60分 ※場合により複数回実施)
 受け入れ先選考として企業・団体を訪問し、面接を受ける
- 【事前研修(5)】 キックオフ研修 (授業: 90分)
 現場実習にあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する
 身だしなみや挨拶、言葉遣いなどのビジネスマナーについて、その目的と具体的方法について理解する
- 【現場実習実施】 (主に夏休み期間を中心に、80時間以上の現場実習を実施)
 各受入先のプログラムで現場実習を行い、毎日、振り返りの上、活動日誌を作成し、必要な課題に取り組む
- 【事後研修】 経験の振り返り・修了報告会 (授業: 90分)
 現場実習終了後、実務内容の報告と今後のアクションプランに関するプレゼンテーションを行う

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事後、毎回の授業で指示のある授業後の課題に最低1時間取り組み、期限内に提出すること。
 また、エントリープロセスの中で、参加申込書や個人票など、課題の再修正や面談を繰り返す可能性がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で全体に向け課題に対しての振り返りとフィードバックを行うとともに、必要に応じて、個人に対し、課題の添削・コメントを、Googleクラスルーム・OIUメール、または、直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

【単位認定要件】

- ①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出
- ②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出
- ③本科目で紹介する受け入れ先での80時間以上の現場実習と実習中課題の期限内提出

【成績評価】

すべての単位認定要件を充たした者を成績評価対象とし、提出課題と評価表を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業課題、エントリー課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	活動日誌	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	修了報告書(最終のレポート課題として提出)	1, 2, 3, 4
その他	30	受入先評価	1, 2, 3, 4

テキスト	授業内で適宜配布する
------	------------

参考書	必要に応じて、授業内で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>年度当初の履修登録はない。 受講者数は40名程度を予定している。 受講希望者は、4月に実施する事前研修「ガイダンス」に必ず参加すること。 事前研修「ガイダンス」の詳細は、受講対象者全員に対し、4月の学科オリエンテーションやUNIPAにて案内する。 本授業は、実習に必要な知識・技術を身につけ、礼節や責任感を有する学生の受講を認めるものとする。</p>
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10302402	授業形態	実習 (学外)	実務家教員	—
授業科目名	インターンシップⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業・団体などの仕事の現場をフィールドとして、主に夏休み期間を中心に、80時間(10日)以上の就業体験(以下、現場実習)を行う実習科目である。実際の仕事の現場での実践を通じて、関わる業界や仕事の理解、自身の得意・不得意、向き・不向き、強み・弱みなどの自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、その後の学生生活や将来に向けた自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。通年開講の集中科目である本科目は、年度当初の履修登録はなく、①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③本科目で紹介する受け入れ先での80時間以上の現場実習と実習中課題の期限内提出、これらの単位認定要件を充たした者を成績評価の対象とする。本科目は、授業として行う現場実習であり、受け入れ先も本科目の目的に賛同した企業・団体が前提となるため、就職活動に直接結びつく可能性のある企業主導型のインターンシップではない(企業・団体に採用意図はない)ということと、本科目の目的を理解した上で受講することを求める。

到達目標

1. 現場実習先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる
2. 自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる
3. 目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる
4. 経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる

授業計画

社会情勢やその他の事情により企業・団体の受け入れ状況を考慮し、実施できない場合がある。しかし、実施が実現できることを前提に授業を進める。授業のスケジュールや開講日時などの詳細は、4月に開催する事前研修「ガイダンス」にて案内をするので、必ず参加すること。

- 【事前研修(1)】 ガイダンス (授業: 90分)
 授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する
- 【事前研修(2)】 目標設定および各資格に関する説明 (授業: 90分)
 現場実習の参加目的を明確にし、現場実習参加で果たしたい目標を設定する
 各資格の特徴を理解し、現場実習で取り組むべき課題を設定する
- 【事前研修(3)】 現場実習参加申込書の作成 (授業: 90分)
 設定した目標および課題をもとに、現場実習参加申込を作成することにより、実習内容を深めるための視点を理解する
- 【エントリープロセス(1)】 学内選考 (連絡調整: 30分・面談: 60分 ※場合により複数回実施する可能性がある)
 学内選考として、学科担当教員との個人面談面談を受ける
- 【事前研修(4)】 個人票の作成 (授業: 90分)
 現場実習先企業・団体に提出する個人票の作成するとともに、実習先への事前連絡・訪問・面接の目的と具体的方法、訪問マナーについて理解する
- 【エントリープロセス(2)】 事前訪問・受け入れ先選考 (連絡調整: 30分・面接: 60分 ※場合により複数回実施)
 受け入れ先選考として企業・団体を訪問し、面接を受ける
- 【事前研修(5)】 キックオフ研修 (授業: 90分)
 現場実習にあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する
 身だしなみや挨拶、言葉遣いなどのビジネスマナーについて、その目的と具体的方法について理解する
- 【現場実習実施】 (主に夏休み期間を中心に、80時間以上の現場実習を実施)
 各受入先のプログラムで現場実習を行い、毎日、振り返りの上、活動日誌を作成し、必要な課題に取り組む
- 【事後研修】 経験の振り返り・修了報告会 (授業: 90分)
 現場実習終了後、実務内容の報告と今後のアクションプランに関するプレゼンテーションを行う

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事後、毎回の授業で指示のある授業後の課題に最低1時間取り組み、期限内に提出すること。
 また、エントリープロセスの中で、参加申込書や個人票など、課題の再修正や面談を繰り返す可能性がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で全体に向け課題に対しての振り返りとフィードバックを行うとともに、必要に応じて、個人に対し、課題の添削・コメントを、Googleクラスルーム・OIUメール、または、直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

【単位認定要件】

- ①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出
 - ②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出
 - ③本科目で紹介する受け入れ先での80時間以上の現場実習と実習中課題の期限内提出
- 【成績評価】

すべての単位認定要件を充たした者を成績評価対象とし、提出課題と評価表を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業課題、エントリー課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	活動日誌	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	修了報告書(最終のレポート課題として提出)	1, 2, 3, 4
その他	30	受入先評価	1, 2, 3, 4

テキスト	授業内で適宜配布する
------	------------

参考書	必要に応じて、授業内で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>年度当初の履修登録はない。 受講者数は40名程度を予定している。 受講希望者は、4月に実施する事前研修「ガイダンス」に必ず参加すること。 事前研修「ガイダンス」の詳細は、受講対象者全員に対し、4月の学科オリエンテーションやUNIPAにて案内する。 本授業は、実習に必要な知識・技術を身につけ、礼節や責任感を有する学生の受講を認めるものとする。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10302901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	オーラルイングリッシュ I [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. D. スコット				
シラバス執筆(主)	D. D. スコット				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10302902	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	オーラルイングリッシュ I [対面]				
シラバス執筆(全員)	G. S. ジョン=バプティースト				
シラバス執筆(主)	G. S. ジョン=バプティースト				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10303001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	オーラルイングリッシュⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. D. スコット				
シラバス執筆(主)	D. D. スコット				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】

テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】

テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】

テーマ: Unit 7: I love weekends!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】

テーマ: Unit 8: Let's eat!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】

テーマ: Presentation skills practice
内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】

テーマ: Presentation 2
内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】

テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】

テーマ: Unit 10: welcome to my home.
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10303002	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	オーラルイングリッシュⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	G.S. ジョン=バプティースト				
シラバス執筆(主)	G.S. ジョン=バプティースト				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice – introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 – group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 – decide the topic and plan the slides.

【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 – group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 – decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10303101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	オーラルイングリッシュⅢ [対面]				
シラバス執筆(全員)	M. H. バナム				
シラバス執筆(主)	M. H. バナム				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- ① converse in English in various situations
- ② carry on longer and longer conversations
- ③ increase your productive vocabulary
- ④ be able to use basic English grammar when speaking

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Course explanation and Google Classroom orientation.
 内容・方法: Scope and sequence.
- 【第2回】
 テーマ: Greetings, Introducing yourself
 内容・方法: Conversation and Language practice, Registration for online practice
- 【第3回】
 テーマ: Greetings, Introducing yourself
 内容・方法: Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第4回】
 テーマ: Personal Information
 内容・方法: Conversation and Language practice
- 【第5回】
 テーマ: Personal Information
 内容・方法: Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第6回】
 テーマ: Talking about likes and dislikes
 内容・方法: Conversation and Language practice
- 【第7回】
 テーマ: Talking about likes and dislikes
 内容・方法: Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第8回】
 テーマ: Mid- semester review & assessment
 内容・方法: Review Units 1-3 and mid-semester assessment.
- 【第9回】
 テーマ: Talking about habits and routines
 内容・方法: Conversation and Language practice
- 【第10回】
 テーマ: Talking about habits and routines
 内容・方法: Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第11回】
 テーマ: Describing everyday activities
 内容・方法: Conversation and Language practice
- 【第12回】
 テーマ: Describing everyday activities
 内容・方法: Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第13回】
 テーマ: Talking about past events
 内容・方法: Conversation and Language practice
- 【第14回】
 テーマ: Talking about past events
 内容・方法: Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第15回】
 テーマ: End-of-semester review & assessment
 内容・方法: Review of units 4-6 and explanation of final assessment.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題: Buy the textbook Register for Google Classroom.
- ②事後学修課題: Homework assignments and Unit 1, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第2回】

- ①事前学修課題: Do Unit 1-1-5 オンラインOnline Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignment and do Unit 1-All online activities

【第3回】

- ①事前学修課題: Complete all online conversation and video activities for Unit 1.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 2, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第4回】

- ①事前学修課題: Do Unit 2, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 2 online conversation and video activities

【第5回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 2 online conversation and video activities
- ②事後学修課題: Homework assignments do Unit 3, 1-5, online vocabulary and grammar activities.

【第6回】

- ①事前学修課題: Do Unit 3, 1-5, Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 3 online conversation and video activities.

【第7回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 3 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines. Prepare for the mid-term assessment.

【第8回】

- ①事前学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines for the mid-term assessment.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 4, 1-5 all online vocabulary and grammar activities

【第9回】

- ①事前学修課題: Do Unit 4, 1-5 all Online Vocabulary and Grammar activities
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 4 online conversation and video activities.

【第10回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 4 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 5, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第11回】

- ①事前学修課題: Do Unit 5, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 5 online conversation and video activities.

【第12回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 5 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 6, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第13回】

- ①事前学修課題: Do Unit 6, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 6 online conversation and video activities.

【第14回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 6 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening. Prepare for the final assessment.

【第15回】

- ①事前学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening for the final assessment..
- ②事後学修課題: Submit the final examination. Listen to English during the summer break.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on dialog performance, pair work activities and class activities (30%). There will be regular vocabulary and grammar quizzes (20%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 tests: a mid-term and end-of-term evaluation (20%). There will be a final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	dialog performance, pair work activities and class activities (30%), vocabulary and grammar quizzes (20%), a mid-term and end-of-term evaluation (20%).	1, 2, 3, 4

授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	final examination (10%)	1, 2, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8		
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)		
-----	-------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10303201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	オーラルイングリッシュⅣ [対面]				
シラバス執筆(全員)	M.H. バナム				
シラバス執筆(主)	M.H. バナム				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. You will work on a English presentation project in this course. As you develop your presentation, you will discuss your content, make small group presentations and get ideas and feedback from your peers. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. converse in English in various situations
2. carry on longer and longer conversations
3. increase your productive vocabulary
4. be able to use basic English grammar when speaking
5. be able to give a full presentation in English and use appropriate language and phrases for making a presentation.

授業計画

【第1回】

テーマ: Review of Units 1-6. Course explanation and Google Classroom orientation. Course presentation project explanation.

内容・方法: Review conversations Units 1-6, Review of presenting skills, posture, gestures, and voice inflections.

【第2回】

テーマ: Start presentation project.

内容・方法: Decide theme and outline the presentation. Pair practice - present ideas in pairs and get feedback and ideas from peers.

【第3回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第4回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第5回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (1) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part I (Introduction), peer feedback.

【第6回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start body of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第7回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第8回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第9回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (2) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part II (Body), peer feedback.

【第10回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start conclusion of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第11回】

テーマ: Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第12回】

テーマ : Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第13回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 3

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment. Explanation of final test - submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English II course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills.

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK.

②事後学修課題 : Decide your project theme and outline your presentation.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part I (Introduction) Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第9回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part II (Body) Do HWK presentation assignments.

【第10回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第15回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations. Submit movie of your final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given during the semester and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on class activities (10%). Semester project work and presentations

(30%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 assessments (10%). There will be a final project presentation and end of semester task (30%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Class activities (10%), Semester project work and presentations (30%). Semester assessments (10%).	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	30	Final project presentation and end of semester task (30%)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)
-----	-------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10303501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	ボキャブラリービルディング I [対面]				
シラバス執筆(全員)	G. S. ジョン=バプティースト				
シラバス執筆(主)	G. S. ジョン=バプティースト				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

Vocabulary building is the process of expanding your vocabulary. In order to learn English, you first need to know the words. The purpose of this course is to expand vocabulary by learning how words are used and how to use them in context. In the class, students will learn vocabulary through a variety of tasks and activities that use the four skills of reading, listening, writing, and speaking. Sometimes, crossword puzzles, guessing games, and English songs are used to make learning fun. The goal is to acquire the basic 1000 words as receptive and productive vocabulary. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 1-20 over the course of the semester.
2. Learn to recognize and use common verbs from Units 38-49 over the course of the semester.
3. This course aims to review and learn approximately 1000 of the most basic words of English.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Outline the course. Units 1, 2. Google Classroom registration and explanation.
 内容・方法: Text units 1 & 2. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第2回】
 テーマ: Units 3, 4. Focus on Verbs: Unit 38 Have/had
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第3回】
 テーマ: Units 5, 6. Focus on Verbs: Unit 39 Go/went/gone
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第4回】
 テーマ: Units 7, 8. Focus on Verbs: Unit 40 Do/did/done
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Review of previous units.
- 【第5回】
 テーマ: Unit Evaluation Quiz 1
 内容・方法: Unit review, Evaluation 1, teacher-selected activities
- 【第6回】
 テーマ: Units 9, 10. Focus on Verbs: Unit 41 Make/made
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第7回】
 テーマ: Units 11, 12. Focus on Verbs: Unit 42 Come/came
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第8回】
 テーマ: Units 13, 14. Focus on Verbs: Unit 43 Take/took/taken
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第9回】
 テーマ: Units 15, 16. Focus on Verbs: Unit 44 Bring/brought
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Review of previous units
- 【第10回】
 テーマ: Unit Evaluation Quiz 2 (+ units review)
 内容・方法: Evaluation 2
- 【第11回】
 テーマ: Units 17, 18. Focus on Verbs: Unit 45 Get, got
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第12回】
 テーマ: Units 19, 20. Focus on Verbs: Unit 46 & 47 Phrasal verbs, everyday verbs
 内容・方法: Text units. Useful verbs focus. Supplementary material / Extra reading material.
- 【第13回】
 テーマ: Focus on Verbs: Unit 48 & 49 Talking & Moving
 内容・方法: Text units. Unit Review: 1-10. Unit review.
- 【第14回】
 テーマ: Unit Review: 11-20. Focus on Verbs Review
 内容・方法: Unit 11-20. Verbs: Unit 38-49
- 【第15回】
 テーマ: Unit Evaluation Quiz 3 (+ units review)
 内容・方法: Evaluation 3 & Course review. Final Examination explanation

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

- 【第1回】
事前学修課題: Read the course outline
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第2回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第3回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第4回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation.
- 【第5回】
事前学修課題: Prepare for Evaluation
事後学修課題: Review errors on evaluation. Vocabulary homework exercises
- 【第6回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第7回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第8回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第9回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation
- 【第10回】
事前学修課題: Prepare for Evaluation
事後学修課題: Review errors on Evaluation. Vocabulary homework exercises
- 【第11回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第12回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第13回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第14回】
事前学修課題: Review the units studied
事後学修課題: Review units studied. Prepare for Final Evaluation.
- 【第15回】
事前学修課題: Final Evaluation
事後学修課題: Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

In-class activities and assignments (10%) and vocabulary quizzes (10%). Unit evaluation quizzes (30%). Presentation and communication activities (10%). Homework assignments (20%) and final examination (20%).

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	In-class activities and assignments (10%) and vocabulary quizzes (10%), unit evaluation quizzes (30%), presentation and communication activities (10%).	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework assignments (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final examination (20%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell, Book with answers and Enhanced eBook, Cambridge University Press; 3 edition, 2017, ISBN: 9781316631522
参考書	
履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>

授業コード	10303601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	ボキャブラリービルディングⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	G. S. ジョン=バプティースト				
シラバス執筆(主)	G. S. ジョン=バプティースト				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

Vocabulary building is the process of expanding your vocabulary. In order to learn English, you first need to know the words. The purpose of this course is to expand vocabulary by learning how words are used and how to use them in context. In the class, students will learn vocabulary through a variety of tasks and activities that use the four skills of reading, listening, writing, and speaking. Sometimes, crossword puzzles, Guessing games, and English songs are used to make learning fun. The goal is to acquire the basic 1000 words as receptive and productive vocabulary. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

1. Learn to recognize and use vocabulary from thematic units 1-20 over the course of the semester.
2. Learn to recognize and use common verbs from Units 38-49 over the course of the semester.
3. This course aims to review and learn approximately 1000 of the most basic words of English.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Orientation: Outline the course, explain syllabus and grading policy.
 内容・方法: Outline the course, explain syllabus and grading policy. Start on Units 21, 22.
- 【第2回】
 テーマ: Unit 23, 24. Focus on Grammar: Unit 50 (conjunctions)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material
- 【第3回】
 テーマ: Unit 25, 26. Focus on Grammar: Unit 51 (days, months, seasons)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material
- 【第4回】
 テーマ: Unit 27, 28. Focus on Grammar: Unit 52 (time words)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Review of previous units
- 【第5回】
 テーマ: Unit Evaluation Quiz 1
 内容・方法: Test 1, unit review, teacher-selected activities
- 【第6回】
 テーマ: Unit 29, 30. Focus on Grammar: Unit 53 (places)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material
- 【第7回】
 テーマ: Unit 31, 32. Focus on Grammar: Unit 54 (manner: adjectives/adverbs)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material
- 【第8回】
 テーマ: Unit 33, 34. Focus on Grammar: Unit 55 (common uncountable nouns)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material / Extra reading material
- 【第9回】
 テーマ: Unit 35. Focus on Grammar: Unit 56 (common adjectives)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Review of previous units
- 【第10回】
 テーマ: Unit Evaluation Quiz 2
 内容・方法: Evaluation 2, unit review, teacher-selected activities
- 【第11回】
 テーマ: Unit 36. Focus on Grammar: Unit 57 (prepositions)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units
- 【第12回】
 テーマ: Unit 37. Focus on Grammar: Unit 58, 59 (prefixes, suffixes)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units
- 【第13回】
 テーマ: Units Review: 21-30. Focus on Grammar: Unit 60 (confusing words)
 内容・方法: Text units. Useful Grammar focus. Supplementary material. Review of previous units
- 【第14回】
 テーマ: Units Review: 31-37. Focus on Grammar: Review of units 50-60
 内容・方法: Review of previous units
- 【第15回】
 テーマ: Unit Evaluation Quiz 3 (+ units review)
 内容・方法: Evaluation 3 & Course review. Final Examination explanation

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

- 【第1回】
 事前学修課題: Read the course outline.
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第2回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第3回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第4回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation.
- 【第5回】
 事前学修課題: Prepare for Evaluation
 事後学修課題: Review errors on evaluation. Vocabulary homework exercises
- 【第6回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第7回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第8回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第9回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises. Prepare for Evaluation
- 【第10回】
 事前学修課題: Prepare for Evaluation
 事後学修課題: Review errors on Evaluation. Vocabulary homework exercises
- 【第11回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第12回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第13回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Vocabulary homework exercises
- 【第14回】
 事前学修課題: Review the units studied
 事後学修課題: Review units studied. Prepare for Final Evaluation.
- 【第15回】
 事前学修課題: Final Evaluation
 事後学修課題: Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

In-class activities and assignments (10%) and vocabulary quizzes (10%). Unit evaluation quizzes (30%), Presentation and communication activities (10%). Homework assignments (20%) and final examination (20%).

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	In-class activities and assignments (10%) and vocabulary quizzes (10%), unit evaluation quizzes (30%), presentation and communication activities (10%).	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework assignments (20)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final examination (20%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Vocabulary In Use: Elementary, Michael McCarthy, Felicity O'Dell, Book with answers and Enhanced eBook, Cambridge University Press; 3 edition, 2017, ISBN: 9781316631522
参考書	
履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>

授業コード	11100201	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	ビジネス基礎演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 由佳子				
シラバス執筆(主)	織田 由佳子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ビジネス社会で活躍するためには、社会を理解し、さまざまな実務の基本スキル、物事に取り組む姿勢と知識を習得することが必要である。この授業では社会に出る準備として、具体的な仕事の進め方やビジネスコミュニケーションスキルをグループ演習で体験する。また、自分のキャリアや生活を築いていくために必要な社会保険や税金の基礎知識・時代に沿ったビジネス用語などの理解を、個人演習で深める。同時に、社会人の姿勢として「遅刻・欠席をしない、期限を守る」こと、きちんとした文章が書けることが信頼獲得の大前提であることを理解し、課題の期限内提出、文章の見直し習慣をこの授業期間を通じ身につける。現在、官公庁、企業、医療機関などで人材育成を行い、ビジネスマナー・コミュニケーション研修を行っている実務家教員が、その経験をもとに指導する。学生各々が社会人生活を具体的にイメージでき、今後の自分にどのような知識やスキルの強化が必要か把握し、取り組む意識を持てる授業としたい。

到達目標

1. 周囲に信頼を与える仕事の進め方について理解し、説明ができる
2. ビジネスコミュニケーションの基礎を身につけ、実行できる
3. ビジネスマナーの基本を体得し、実行にうつせる
4. ビジネス文書の基本を理解し、メール作成に応用できる
5. 社会保険・業種・業界の知識が説明できる

授業計画

- 第1回 キャリア形成と就業意識：仕事・キャリア形成のための考え方や意識を学ぶ
 第2回 職場コミュニケーション(1)：人間関係を構築するコミュニケーションの基本スキルを学ぶ
 第3回 職場コミュニケーション(2)：気持ちの伝わる敬語・相手が受け入れやすい心配り表現を学ぶ
 第4回 報告・連絡・相談：確実に言うポイントと、相手が理解しやすい結論志向の話法を学ぶ
 第5回 会議業務：主催・参加の知識と心構え、会議を円滑に進める進行役のポイントを学ぶ
 第6回 来客対応と訪問マナー：好印象を与える立ち居振る舞いを学ぶ
 第7回 電話対応：基本マナーと架電・受電の流れ、場面ごとの具体的フレーズを学ぶ
 第8回 プレゼンテーション：プレゼンテーションの基本と、相手に伝わるスピーチ技法を学ぶ
 第9回 仕事の取り組み方(1)：PDCAサイクルの役立て方・職場のルール・法律を学ぶ
 第10回 仕事の取り組み方(2)：社会保険と税金の基礎知識・給与明細の見方を学ぶ
 第11回 ビジネス文書とメール：個人SNSとの明確な区別、社会人にふさわしい文章とメールの書き方を学ぶ
 第12回 社内文書・社外文書の知識：書式と文書の種類、ビジネス文書特有の慣用句を学ぶ
 第13回 業種・業界の知識：就職活動の業界研究に役立つ知識と情報の探し方を学ぶ
 第14回 会社の仕組みと経営の基本：会社組織、株式会社の特徴、マーケティングの基本的事項を学ぶ
 第15回 交際業務とコミュニケーションまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 毎回1時間の事前学習が必要。テキストの該当部分について不明点や質問を準備の上、授業に参加する。
- 毎回2時間ほどの事後学習が必要。内容としては以下の通り。
 - ・ 授業での説明と演習を行った後には理解が深まっているので、「テキストの読み返し、考察」により気づき内容の定着を図る
 - ・ 興味を持った内容について書籍・インターネットなどで調べたり実践するなどして知見を広め、社会に出るための準備を進める
 - ・ 計4回の課題作成
- さらに試験対策として15時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題は段階を評価し、翌週以降に評価説明を可能とする予定である。

成績評価の方法・基準(方針)

演習を中心に授業を進めるので遅刻を禁じ、連絡や正当な理由なく欠席回数が5回以上になる場合は「K」評価とする。欠席時は事前連絡が必要であり、欠席回数が5回以上になる場合は期末試験への参加不可。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業中の質疑応答 (10) グループ/ペアワークにおける貢献度 (10)	1, 3

		毎回の振り返りシート(完成度と期限内提出の状況を評価) (20)	
授業外での評価	20	授業に関連した計4回の課題(完成度と期限内提出状況を評価) (20)	2, 3, 4, 5
定期試験	40	期末試験(上記「到達目標」の1～5の目標に到達できているかどうかを問う) (40)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『よくわかる社会人の基礎知識 ～マナー・文書・仕事のキホン～』 著者名:岡野絹枝 出版社:ぎょうせい 定価: 2,420円(税込み) 発行日 2019年04月25日 ISBN 978-4-324-10599-3		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介。		
履修条件・他の科目との関連	状況に応じて、ワーク形式の実施は調整する。		

授業コード	11100202	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	ビジネス基礎演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山田 敏子				
シラバス執筆(主)	山田 敏子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ビジネス社会で活躍するためには、社会を理解し、さまざまな実務の基本スキル、物事に取り組む姿勢と知識を習得することが必要である。この授業では社会に出る準備として、具体的な仕事の進め方やビジネスコミュニケーションスキルをグループ演習で体験する。また、自分のキャリアや生活を築いていくために必要な社会保険や税金の基礎知識・時代に沿ったビジネス用語などの理解を、個人演習で深める。同時に、社会人の姿勢として「遅刻・欠席をしない、期限を守る」こと、きちんとした文章が書けることが信頼獲得の大前提であることを理解し、課題の期限内提出、文章の見直し習慣をこの授業期間を通じ身につける。現在、官公庁、企業、医療機関などで人材育成を行い、ビジネスマナー・コミュニケーション研修を行っている実務家教員が、その経験をもとに指導する。学生各々が社会人生活を具体的にイメージでき、今後の自分にどのような知識やスキルの強化が必要か把握し、取り組む意識を持てる授業としたい。

到達目標

1. 周囲に信頼を与える仕事の進め方について理解し、説明ができる
2. ビジネスコミュニケーションの基礎を身につけ、実行できる
3. ビジネスマナーの基本を体得し、実行にうつせる
4. ビジネス文書の基本を理解し、メール作成に応用できる
5. 社会保険・業種・業界の知識が説明できる

授業計画

- 第1回 キャリア形成と就業意識：仕事・キャリア形成のための考え方や意識を学ぶ
 第2回 職場コミュニケーション(1)：人間関係を構築するコミュニケーションの基本スキルを学ぶ
 第3回 職場コミュニケーション(2)：気持ちの伝わる敬語・相手が受け入れやすい心配り表現を学ぶ
 第4回 報告・連絡・相談：確実にを行うポイントと、相手が理解しやすい結論志向の話法を学ぶ
 第5回 会議業務：主催・参加の知識と心構え、会議を円滑に進める進行役のポイントを学ぶ
 第6回 来客対応と訪問マナー：好印象を与える立ち居振る舞いを学ぶ
 第7回 電話対応：基本マナーと架電・受電の流れ、場面ごとの具体的フレーズを学ぶ
 第8回 プレゼンテーション：プレゼンテーションの基本と、相手に伝わるスピーチ技法を学ぶ
 第9回 仕事の取り組み方(1)：PDCAサイクルの役立て方・職場のルール・法律を学ぶ
 第10回 仕事の取り組み方(2)：社会保険と税金の基礎知識・給与明細の見方を学ぶ
 第11回 ビジネス文書とメール：個人SNSとの明確な区別、社会人にふさわしい文章とメールの書き方を学ぶ
 第12回 社内文書・社外文書の知識：書式と文書の種類、ビジネス文書特有の慣用句を学ぶ
 第13回 業種・業界の知識：就職活動の業界研究に役立つ知識と情報の探し方を学ぶ
 第14回 会社の仕組みと経営の基本：会社組織、株式会社の特徴、マーケティングの基本的事項を学ぶ
 第15回 交際業務とコミュニケーションまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 毎回1時間の事前学習が必要。テキストの該当部分について不明点や質問を準備の上、授業に参加する。
- 毎回2時間ほどの事後学習が必要。内容としては以下の通り。
 - ・ 授業での説明と演習を行った後には理解が深まっているので、「テキストの読み返し、考察」により気づき内容の定着を図る
 - ・ 興味を持った内容について書籍・インターネットなどで調べたり実践するなどして知見を広め、社会に出るための準備を進める
 - ・ 計4回の課題作成
- さらに試験対策として15時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題は段階を評価し、翌週以降に評価説明を可能とする予定である。

成績評価の方法・基準(方針)

演習を中心に授業を進めるので遅刻を禁じ、連絡や正当な理由なく欠席回数が5回以上になる場合は「K」評価とする。欠席時は事前連絡が必要であり、欠席回数が5回以上になる場合は期末試験への参加不可。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業中の質疑応答 (10) グループ/ペアワークにおける貢献度 (10)	1, 3

		毎回の振り返りシート(完成度と期限内提出の状況を評価) (20)	
授業外での評価	20	授業に関連した計4回の課題(完成度と期限内提出状況を評価) (20)	2, 3, 4, 5
定期試験	40	期末試験(上記「到達目標」の1～5の目標に到達できているかどうかを問う) (40)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『よくわかる社会人の基礎知識 ～マナー・文書・仕事のキホン～』 著者名:岡野絹枝 出版社:ぎょうせい 定価: 2,420円(税込み) 発行日 2019年04月25日 ISBN 978-4-324-10599-3		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介。		
履修条件・他の科目との関連	状況に応じて、ワーク形式の実施は調整する。		

授業コード	11100302	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	経営学入門 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐々木 紀夫				
シラバス執筆(主)	佐々木 紀夫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

経営学の基本的な概念や理論を体系的に学ぶことを目的とする。
 経営学とは企業について研究する学問であり、優れた企業経営の仕方あるいは失敗した企業からの学びから、これからの社会や人々の生活に活かされる仕組みやあり方を探しあて、論理立てて考える学問である。本講義は、経営学を構成する経営戦略、マーケティング、ビジネスモデル、生産管理、組織、ファイナンスの各分野の基礎を学ぶ。

到達目標

1. 企業経営の全体像、経営学の基本的な知識や概念、理論を理解でき、説明することができる。
2. 経営学を構成する各分野が企業経営においてどのような役割を担っているのかを説明することができる。
3. 上位学年で自身の専門領域を絞り込み、学修および研究を行うことができる基礎学力を身につける。

授業計画

※授業計画については、場合によっては変更する可能性もある。

【第1回】オリエンテーション

授業の目的・概要・進め方、到達目標

【第2回】経営学の基本

企業とは、経営学とは、会社の種類、会社の作り方

【第3回】経営戦略①

経営戦略とは、全社戦略と事業戦略、経営戦略の策定方法、

【第4回】経営戦略②

業界分析、自社の強みと弱み、競争戦略、資金配分

【第5回】マーケティング入門①

マーケティングとは、顧客ニーズ、マーケティング戦略の策定方法、ターゲットの特定

【第6回】マーケティング入門②

マーケティング・ミックス

【第7回】マーケティング入門③

ポジショニング、事例研究

【第8回】ビジネスモデル①

ビジネスモデルとは、ビジネスモデルの変遷、消耗品モデル、会員制モデル

【第9回】ビジネスモデル②

プラットフォーム戦略、フリーミアム、シェアリングビジネス、ロングテール、ライセンス事業、クラウドファンディング

【第10回】生産管理

生産管理とは、損益分岐点、生産方式、プライベートブランド、規模の経済、範囲の経済

【第11回】製品開発とイノベーション

規格・標準、マーケットイン、プロダクトアウト、プロダクトライフサイクル、イノベーション

【第12回】組織①

組織とは、組織の三要素、官僚制組織、機能別組織と事業部制組織、コアコンピタンス

【第13回】組織②

P D C A、組織行動論、目標管理制度、リーダーシップ

【第14回】企業会計とファイナンス

財務諸表、キャッシュフロー、経営指標、ファイナンス

【第15回】まとめ

第1～14回までの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計45時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

事前：授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 1.0時間

事後：オリエンテーションの内容を復習し、経営学入門を学ぶ意義について理解を深める 1.0時間

【第2回】

事前：経営学とは何か、会社とは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間

事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間

【第3回】

事前：経営戦略とは何か、全社戦略と事業戦略とは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく

1.5時間

事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間

【第4回】

事前：競争戦略とは何か、またどんな競争戦略があるかを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第5回】	
事前：マーケティングとは何か、顧客ニーズとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	1.5
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第6回】	
事前：マーケティング・ミックスとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	1.5時間
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第7回】	
事前：マーケティングにおけるポジショニングとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第8回】	
事前：ビジネスモデルとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	1.5時間
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第9回】	
事前：プラットフォーム戦略とは何か、シェアリングビジネスとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第10回】	
事前：規模の経済とは何か、範囲の経済とは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	1.5時間
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第11回】	
事前：マーケットインとは何か、プロダクトライフサイクルとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	
事後：講義資料をもとに復習をする、ゲストスピーカーに質問したい 1.5時間	1.5時間
【第12回】	
事前：事業部制組織とは何か、コアコンピタンスとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	
事後：講演の内容のメモを作成し、学んだ事をまとめる 2.0時間	
【第13回】	
事前：目標管理制度とは何か、リーダーシップとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第14回】	
事前：財務諸表とは何か、キャッシュフローとは何かを調べ、自分なりの言葉でノートにまとめておく 1.5時間	1.5
事後：講義資料をもとに復習をする 1.5時間	
【第15回】	
事前：これまで学修してきたことを復習する 2.0時間	
事後：定期試験対策を行う 2.0時間	

課題に対するフィードバックの方法

課題は、授業内にて解説を行う。
小テストは、授業内にて解説を行い、答えは採点をして返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内の課題、授業ノート、小テスト、定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席が4回以上、または公欠を除くいかなる理由の欠席が6回以上の場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内の課題(15)、授業ノート(10)、小テスト(15)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	60	全授業終了後に実施する筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	使用しない
------	-------

参考書	経営学の基本・平野敦士・宝島社・定価1,300円(税別)・ISBN 978-4-299-01794-9 経営学・鈴木竜太・池田書店・定価1,500円(税別)・ISBN 978-4-262-17476-1 大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる・高橋伸夫・定価1,500円(税別)・ISBN 978-4-04-601765-9
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連

- ・やむなく欠席する場合（公欠含む）は、休む理由を添えて、授業前に担当教員にメールで連絡をすること
- ・授業前にメールでの連絡がなかった場合は、正当な理由のない欠席とする
- ・欠席した授業については、クラスルームに掲示された授業資料を使って、自己学習をすること

授業コード	11100401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	経済学入門 [対面]				
シラバス執筆(全員)	未定				
シラバス執筆(主)	未定				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「コンビニでパンを買う」たったそれだけの行動にも、様々な経済的要素が含まれています。そのパンをなぜ選んだのか。値段がお手頃、メーカーの信頼度、以前食べて美味しかった、テレビで紹介されていた等々。そもそもお金の出所は、お小遣いなのかバイト代なのか。支払いは現金か電子マネーか。もちろん消費税も払う必要があるし、買ったパンがどのようにして作られたかまで考えるときりがありません。

また、景気の悪い日本しか知らない諸君も、かつてはこの国にも高度成長期や、バブルではあれ80年代後半の国全体が活気に満ち溢れていた時代があったという事は知っているでしょう。では、なぜ景気が良くなったり悪くなったりするのか？そもそも景気とは何なのか？

この授業では、いわゆる「経済学」の基礎的な考え方を説明します。それはつまり、モノとカネの動きを捉え、人と人、人と社会、社会と社会の相互依存関係を理論的に明らかにすることです。ごくごく身近な問題から国や世界レベルまで、さらに時間的にも過去・現在・未来と広範囲に渡りますが、各回の練習問題を解いていくことで理解を深められます。

到達目標

1. 経済の基本的な仕組みを説明できる
2. 経済学の視点から物事を判断できる
3. 現実の経済動向について基礎的な分析ができる
4. 現実の経済が抱える様々な問題点について議論できる

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 市場とは？
その仕組みと役割を理解します
- 【第3回】 ミクロとマクロの経済学
経済理論を大別する2つの違いを定義します
- 【第4回】 ミクロ編1：家計の経済行動
家計＝消費者の経済学的考え方と行動を解説します
- 【第5回】 ミクロ編2：企業の経済行動
企業＝生産者の経済学的考え方と行動を解説します
- 【第6回】 ミクロ編3：ゲーム理論
幅広い分野で応用されるゲーム理論の基礎を学びます
- 【第7回】 ミクロ編4：余剰分析
政府の介入による経済厚生の変化について議論します
- 【第8回】 ミクロ編5：情報の非対称性
情報の偏りによって起こる問題とその克服法を考察します
- 【第9回】 ミクロ編まとめ
- 【第10回】 マクロ編1：GDP統計
GDPとは何かを再確認し、GDP関連のデータを整理します
- 【第11回】 マクロ編2：GDPの決定理論1
GDPが決定する仕組みを理論モデルで解明します～民間のみ～
- 【第12回】 マクロ編3：GDPの決定理論2
前回のモデルに政府を追加します
- 【第13回】 マクロ編4：経済政策1
IS-LMモデルを使った同時均衡を説明します～IS曲線～
- 【第14回】 マクロ編5：経済政策2
前回のつづきとしてLM曲線と財政・金融政策の効果について議論します
- 【第15回】 マクロ編まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、各回のレジュメを読んで、わからないところをチェックしておきましょう（毎回2時間）。事後学習としては、授業の復習はもちろん、前回分の課題を間違えた場合は、納得ができるまで繰り返し解いてみましょう（毎回2時間）。行き詰まったときは、どんな些細な内容でもいいので気軽に質問してください。

課題に対するフィードバックの方法

授業始めに前回分の課題を解説します。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の課題と試験の結果を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定し

ます。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題の提出状況および内容	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。その代わりに毎回Google Classroomでレジユメを配布します。
------	--------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業内で紹介します。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	この授業の後に続けて履修することが望ましい科目として、ミクロ経済学I・IIやマクロ経済学I・IIがあります。
---------------	--------------------------------------------------------

授業コード	11100502	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	会計学入門 [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	市川 直樹				
シラバス執筆(主)	市川 直樹				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

会計学入門は、企業会計の基本的な考え方や技法を習得するとともに、会計情報をビジネスに効果的に活用するための資質と能力を養成することを目指します。これにより、ビジネスの担い手にとって必要なコスト感覚や社会的な側面からビジネスを展開する能力や態度を養成します。

企業会計は、複雑なビジネス活動を一定のルールに従って、簡潔に表現し、評価する技法です。企業会計により表現される会計情報は、ビジネス活動を写し出す「ビジネス言語」とも言われています。会計学入門では、企業会計の基本的な考え方や技法を習得し、ビジネスにおける共通言語を理解できるように養成します。これにもとづいて、簡単な財務諸表を作成したり、財務比率を計算してこれを分析したりする技法を習得し、会計情報をビジネスに活用できる能力や態度を養成します。このため、会計学入門では、①企業会計の概要、②会計処理、③財務諸表の作成、④財務諸表の分析の基礎を主な内容として構成します。

到達目標

この科目では、実践的・体験的な学習活動を通して、会計情報の提供と活用に必要な資質と能力を養成することを目指します。

- ① 企業会計に関する基本的な知識や考え方を体系的・系統的に理解するとともに、これに関連する技術を身につけるようにします。
- ② 企業会計に関する法規と基準、これにもとづく会計処理の方法の妥当性と課題を考察し、会計的側面から企業を分析する技法と能力を養成します。
- ③ 会計責任を果たす能力と態度の向上を目指してみずから学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養成します。

授業計画

第1回 授業オリエンテーション

どのビジネス系の大学でも会計学は基礎科目になっています。第1回では、「なぜ、会計学を学ぶのか」を中心に説明し、会計を学ぶ「大切さ」について理解します。

第2回 企業会計とは

会計の意味や方法について解説する。

会計責任、企業会計、会計公準、企業実体の公準、貨幣評価の公準、継続企業の公準、複式簿記、財務諸表、損益計算書、経営成績、貸借対照表、財政状態

第3回 会計情報と企業会計原則

会計が提供する情報や制度や原則について解説する。

資本利益率、利害関係者、企業会原則、真実性の原則、正規の簿記の原則、複式簿記、資本取引と損益取引の区別の原則、明瞭性の原則、継続性の原則、保守主義の原則、単一性の原則、重要性の原則

第4回 損益計算書と貸借対照表

貸借対照表と損益計算書について解説する。

貸借対照表、資産、負債、純資産、株主資本、調達源泉、運用形態、財政状態、損益計算書、収益、費用、純利益、成果、努力・犠牲、経営成績

第5回 期間損益計算の方法

適正な期間損益計算の方法と複式簿記について解説する。

財産法、損益法、資産、負債、収益、費用、損益計算書、貸借対照表、複式簿記

第6回 発生主義会計

適正な期間損益計算をするための認識基準と測定基準について解説する。

現金主義会計、発生主義会計、経過勘定、収益・費用の繰延べ、前払費用、前受収益、収益・費用の見越し、未払費用、未収収益、取得原価主義

第7回 商品売買取引と発生主義会計

商品売買に関する認識基準と損益計算書と貸借対照表との関係について解説する。

発生主義の原則、実現主義の原則、収益・費用対応の原則、取得原価主義、資産、負債、収益、費用、仕入高、売上高、売上原価、棚卸資産、損益計算書、貸借対照表、総額主義の原則、区分表示の原則

第8回 損益計算書の表示区分と見方

損益計算書の表示区分と見方について解説する。

経営成績、営業損益計算、経常損益計算、純損益計算、売上高、売上原価、売上総利益、販売費および一般管理費、営業利益、営業外収益、営業外費用、経常利益、特別利益、特別損失、税引前当期純利益、法人税等、当期純利益

第9回 損益計算書の分析

損益計算書の見方によって損益計算書を分析する方法について解説する。

売上高総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上高純利益率

第10回 貸借対照表の本質と流動資産・流動負債

貸借対照表の本質、貸借対照表区分と流動資産と流動負債について解説する。

財政状態、流動資産、当座資産、固定資産、繰延資産、流動負債、固定負債、純資産、売上債権、仕入債務、営業循環基準、1年基準、現金預金、売上債権、受取手形、売掛金、前払金、棚卸資産、売買目的有価証券、前払費用、未収収益、仕入債務、支払手形、買掛金、前受金、前受金、未払費用

第11回 固定資産と減価償却

固定資産と固定負債、減価償却について解説する。
固定資産、取得原価、有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産、繰延資産、発生主義、収益・費用対応の原則、費用配分の原則、減価償却
第12回 純資産と貸借対照表の見方
純資産の部の内容、貸借対照表の見方について解説する。
流動資産、当座資産、売上債権、棚卸資産、固定資産、流動負債、仕入債務、固定負債、純資産、株主資本、正味運転資本、財政状態、短期の支払能力、長期資本の適合性
第13回 貸借対照表の分析と自己資本純利益率
貸借対照表の見方に従って財政状態を分析する方法、資本の構成の分析、自己資本純利益率について解説する。
財政状態の分析、短期の支払能力、流動比率、当座比率、長期資本の適合性、固定比率、固定長期適合率、資本構成の分析、デット・ファイナンス、エクイティ・ファイナンス、自己資本比率、資本構成の是正、企業の体質改善、財務体質の改善
第14回 収益性の分析
資本利益率、総資本経常利益率とその展開による分析方法について解説する。
総資本経常利益率、売上高経常利益率、売上高総利益率、売上高営業利益率、総資本回転率、流動資産回転率、売上債権回転期間、仕入債務回転期間、商品回転期間、固定資産回転率
第15回 会計学入門のまとめ
会計学入門全体について復習する。
企業会計、会計公準、企業会計原則、損益計算書、貸借対照表、財務諸表の分析

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業は講義形式ですが、例題にもとづいて計算したり、図表を作成したりするなどの作業を伴う演習科目です。また、毎回の講義を積み重ねていくため、必ず、これまでの講義を復習して授業に臨んでください。事前学習では、授業の振り返りが重要です。必ず、これまでの講義を復習して授業に臨んでください。また、Moodle上のプリントを印刷して授業内容を確認し、これに出てくる用語などについてインターネットや参考書などで調べて授業に臨んでください。事後学習では、例題を繰り返し行い、参考書などにより補足して完全に理解できるまで復習してください。また、Moodle上の演習問題、および自習課題の解答が100%の正解となるように努力するなどの主体的に学習をしてください。さらに、日商簿記検定に挑戦してください。

第1回 授業オリエンテーション 事前学習

授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 1.0 時間

事後学習

オリエンテーション説明内容にもとづき心理学の基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0 時間

第2回 企業会計とは

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

第3回 会計情報と企業会計原則

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

第4回 損益計算書と貸借対照表

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

第5回 期間損益計算の方法

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

第6回 発生主義会計

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

第7回 商品売買取引と発生主義会計

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

第8回 損益計算書の表示区分と見方

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

間
第9回 損益計算書の分析
事前学習 Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習 配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間
第10回 貸借対照表の本質と流動資産・流動負債
事前学習 Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習 配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間
第11回 固定資産と減価償却
事前学習 Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習 配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間
第12回 純資産と貸借対照表の見方
事前学習 Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習 配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間
第13回 貸借対照表の分析と自己資本純利益率
事前学習 Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習 配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間
第14回 収益性の分析
事前学習 Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習 配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間
第15回 会計学入門のまとめ
事前学習 第2回から第14回までのプリントを復習し、企業会計に関する基本的な知識や考え方をまとめる。1.5時間
事後学習 例題などにより、これまでの講義を振り返り、ビジネスと会計情報との関係について検討する。2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

例題については授業内で解説する。
演習問題および自習課題についてはMoodleにより実施するためMoodleによりフィードバックされる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される演習問題20点および自習課題20点と、定期試験（Moodleによる筆記試験）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、期末試験の受験がない場合には、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	演習問題	1, 2, 3
授業外での評価	20	自習課題	1, 2, 3
定期試験	50	定期試験(Moodleによる筆記試験)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。
参考書	企業会計審議会『企業会計原則』 安平昭二著『入門 企業会計』第5版 など
履修条件・他の科目との関連	会計学入門は簿記原理と表裏一体の関係にありますから、簿記原理を履修していることが望ましい。 電卓必須(12桁の電卓推奨、携帯電話の使用は不可)。

授業コード	11100701	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	法学入門 [対面]				
シラバス執筆(全員)	三輪 淳之				
シラバス執筆(主)	三輪 淳之				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「法律」は、我々が社会の中で守らなければならないルールである。
「法学」は、そのようなルールを学ぶもので、その知識と法的なものの考え方を身に付けておくことで、これからの人生でトラブルが起こった場合でも冷静に対処できる。
本授業では、皆さんの多くが経験していくであろう場面や身近なテーマについて、担当教員が長年に亘り、企業において「国際法務」業務に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、実際に経験した実例を取り入れながら概説し、「役に立つ法学」とすることを目標とし、「役に立つことを学んで得をした」、と感じることがができる実践的な学びの場とすることを狙いとする。
新聞やインターネット上の新聞記事に普段から目を通して、日常生活の中での法律・ルールに関連するトピックについて意識をしてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。

到達目標

1. 法律やルールの存在意義・基本的な枠組みについて記述することができる
2. 法律を日常生活の武器として活用し、自分を守るための法的思考力を身につけることにより、社会的・政治的問題について主体的に考え、説明することができる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス - 法学への招待
「法律とは何なのか、法律の種類にはどのようなものがあるのか、私たちの生活に法律はどのような影響を及ぼしているのかについて学ぶ。」
- 第2回：民法（契約法） - 契約は守るべき？
「契約はどのようにすれば成立するのか、契約はなぜ守らなければならないのか、契約から解放されたいときはどのような手段があるのかについて学ぶ。」
- 第3回：民法（消費者法） - 身近な生活の中で
「消費者法とはどのような法律を指しているのかや民法の一般的なルールとは異なり消費者が特に手厚く保護されている理由を学ぶ。」
- 第4回：民法（不法行為） - もしケガをさせてしまったら？
「どのような行為をすれば損害賠償を請求することができるのか、また損害賠償はどのような形で請求することができるのかを学ぶ。」
- 第5回：民法（家族法）
「家族法とは何を指すのか、結婚が認められるのはどのような時か、また子の保護をどのように行っているのかについて学ぶ。」
- 第6回：刑法（犯罪と刑罰） - 民法と刑法はどう違う？
「民法と刑法の違い、刑罰の種類、罪が認められる条件にはどのようなものがあるのかについて学ぶ。」
- 第7回：刑法（性犯罪関係） - トラブルに巻き込まれたら
「性犯罪を題材に、刑法典に規定されている罪だけではなく、その周辺の特例法の罪についても学ぶ。」
- 第8回：憲法（統治） - 選挙、大切な一票
「憲法とはどのような法律なのか、主権者である国民はどのように政治に参加するのか、国会・内閣・裁判所はどのような仕事をしているのかについて学ぶ。」
- 第9回：憲法（人権） - 憲法で人権を保障するということ
「憲法上の人権は誰に対して保障されるのか、人権の種類、人権の制約が許されるのはどのような時であるのかについて学ぶ。」
- 第10回：会社法 - 企業は社会でどう活動するの？
「株式会社が資金を調達する方法や株式会社を適切に運営するための組織の仕組みについて学ぶ。」
- 第11回：労働法 - 職業選択の自由、アルバイトも正社員も労働者
「株式会社が資金を調達する方法や株式会社を適切に運営するための組織の仕組みについて学ぶ。」
- 第12回：国際連合と国際法 - SDGsと日本
「条約と国際慣習法や、国内法と国際法の関係、SDGsについて学ぶ。」
- 第13回：国際法と人権 - グローバル化と法
「人権は国際的にどのように保障されているのか、外国人労働者は法的にどのように保護されるのかについて学ぶ。」
- 第14回：法律学習リテラシー - より本格的に学びたい人のために
「インターネット時代の法律のあり方や新たに出現した人権などを中心に時代に即した法律について学ぶ。」
- 第15回：振り返り・まとめ
「14回目まで学んできた法律を総ざらいし、あらためて私たちの生活と法律の関係について学ぶ。」

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする。

- ・事前学習：
テキストの該当箇所を読んで、疑問点を整理しておくこと。
- ・事後学習：
毎授業の理解を深めるために、ノートを整理して授業資料を読み返すこと。

課題に対するフィードバックの方法

各理解度テストについては、次回の授業において解答や解説、講評等をおこなう。
詳細は初回授業の際に説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間内に実施される理解度テスト、定期試験等を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく理解度テストを4回以上未提出の場合、又は定期試験を受験・提出しなかったかのいずれかの場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎授業後の理解度テスト(40)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	60	全授業終了後に実施する試験(60)	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「プレステップ 法学 第4版」池田 真朗(弘文堂、2022年) 1,800円(税別) ISBN978-4-335-00099-7 2. 上記1. に加えて、必要に応じて授業で資料を配布する。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	ポケット六法などの六法があれば望ましい
-----	---------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>法律についての知識がない学生を歓迎します。 新聞やインターネット上の新聞記事に普段から目を通して、日常生活の中での法律・ルールに関連するトピックについて意識をしてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	11100801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	情報学入門 [対面]				
シラバス執筆(全員)	下條 善史				
シラバス執筆(主)	下條 善史				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

情報学は、現在においても、唯一の明快な定義は無く、主に自然界や人工物の分野における情報に関する学問の領域であるとされている。それだけ「情報」というのは多義性があり、世の中すべてを対象とするとってもよいほどあいまいなものである。本講義では、社会のすべてについて情報との関わりを探究することを目標とするが、特に人間と人間、人間と社会、および人間と機械のインターフェイスとしての情報の役割や今後の発展について考察する。

到達目標

1. 情報学の基礎概念を理解し、情報関連のニュースを読めるようになること。
2. 情報技術の進歩の歴史について知り、現代社会を動かしている情報技術の成り立ちを理解すること。
3. 情報技術の進歩についての概要を知り、今後の社会の変化について議論できるようになること。

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容・方法：科目の概要、目的、達成目標やスケジュールなどについて説明する。

【第2回】

テーマ：情報とはなにか

内容・方法：情報とは何か。身の回りの情報とコンピュータにおける内部表現について。

【第3回】

テーマ：ハードウェアとソフトウェア

内容・方法：コンピューターのハードウェアとソフトウェアについて分類し、解説する。

【第4回】

テーマ：プログラムとアルゴリズム

内容・方法：ソフトウェアを2つに分けたうちのひとつ、プログラムについて。

【第5回】

テーマ：データベース

内容・方法：ソフトウェアを2つに分けたうちのもうひとつ、データについて。

【第6回】

テーマ：ネットワークのしくみ

内容・方法：ネットワークの分類、プロトコル、サービス、伝送速度について。

【第7回】

テーマ：ネットワークの利用

内容・方法：ネットワークのハードウェアと、メールやWEBなどネットワークアプリケーションについて。

【第8回】

テーマ：ネットワークのセキュリティ

内容・方法：セキュリティとリスク、暗号技術など。

【第9回】

テーマ：コンピューターシステムの進化

内容・方法：コンピューターの歴史を振り返り、この先を予想する。

【第10回】

テーマ：メディアとしてのコンピューター

内容・方法：コンピューターとインターネットがもたらした新しいメディアについて。

【第11回】

テーマ：ネットワークと著作権

内容・方法：コンピューターネットワークが変えた、法律と社会。

【第12回】

テーマ：ヒューマンインタフェース

内容・方法：高度に専門的な機械が廉価になり大衆化していった経緯。

【第13回】

テーマ：ロボットと人工知能

内容・方法：ロボットなどの事例を通して機器を人工知能技術で制御することについて。

【第14回】

テーマ：社会を変える情報ネットワーク

内容・方法：情報ネットワークがもたらす、高度に情報化された社会。

【第15回】

テーマ：まとめと最終レポート

内容・方法：この授業全体を通して総括するとともに、理解度の確認を行い、最終レポートを課す。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学修：事前に配布された資料について内容を確認し、疑問点等をまとめておく。
事後学修：授業中に出された課題についてまとめ、提出する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に出した課題について解説を行い、理解度の確認を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、授業内で適宜質問を投げかけ、その解答をフォームへ入力することで、授業の理解度と積極的な参加の度合いを測る方法とする。また、期末には全授業にまたがった簡単なレポートを課し、この解答によって授業の達成度を測る。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	毎回の授業の理解度と授業への参加の積極度を見る問題を課す。	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート課題	1, 3
その他	0		

テキスト 資料としてPPTXファイルをGoogle Classroomにて配布する。

参考書 必要な都度にプリントを配布したり、書籍などを紹介する。

履修条件・他の科目との関連 5回以上の欠席者は不合格とする。

授業コード	10400108	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫、西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

〈セミナー I a の目的と概要〉

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400109	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一、林 幸史				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400110	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志、上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400111	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	安達 康生、森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

＜セミナー I a の目的と概要＞

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400112	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	安達 康生、盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400113	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	幸川 由美子、高山 昌子				
シラバス執筆(主)	幸川 由美子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習 1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400114	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志、岸本 直子				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習 1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400115	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫、田中 淳				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習 1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400116	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志、寺田 進志				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習 1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400117	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾、津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400118	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	木村 真人、東 亜弓				
シラバス執筆(主)	木村 真人				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

〈セミナー I a の目的と概要〉

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習 1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400119	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	安達 康生、堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

- 第01回 オリエンテーション1 「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
 第02回 オリエンテーション2 大学における学びについて、学修目標の設定
 第03回 セミナー I 共通課題1 社会人基礎力の測定
 第04回 学部学科別ワーク1 ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
 第05回 学部学科別ワーク2 ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
 第06回 学部学科別ワーク3 特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
 第07回 グループ学習1 タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
 第08回 セミナー I 共通課題2 社会人基礎力の解説
 第09回 学部学科別ワーク4 成績評価・GPA・履修取消制度について
 第10回 グループ学習2 タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
 第11回 グループ学習3 タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
 第12回 グループ学習4 タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
 第13回 学部学科別ワーク5 学部学科関連テーマ課題(作成回)
 第14回 学部学科別ワーク6 学部学科関連テーマ課題(発表回)
 第15回 前期振り返り まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
 またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogle Classroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400130	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I a の目的と概要>

本授業は、本学園の建学の精神である「全人教育」の理解から始まる、大阪国際大学における4年間の学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

大学での学びは、自らの意思で計画し、考え、行動するという能動的・積極的な姿勢が求められる。本授業では大学及び学部・学科が目指す人材像やそのために設定された教育課程、成績評価の方法、進級・卒業要件などの教育制度の説明を行った後、演習を進めるうえで必要な個人及びグループでの学習方法、情報収集の技法やレポートの作成法等についての解説を行う。

また、それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深めるとともに、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学ぶ。テキストや本学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人の学習スキルとグループでの学習スキルを用いた課題解決の過程において、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。

到達目標

1. 大学の教育方針を理解し、主体的な学びを実践できる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを身につけ、課題に取り組むことができる。
3. 他者とのコミュニケーション及びグループ活動の意義を理解し、その活動に参加できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを活用して解決を図ることができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを計画し、学修に取り組むことができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション1	「建学の精神」と教育方針、Gクラスルームについて、履修について
第02回	オリエンテーション2	大学における学びについて、学修目標の設定
第03回	セミナー I 共通課題1	社会人基礎力の測定
第04回	学部学科別ワーク1	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第05回	学部学科別ワーク2	ライブラリーツアー、学内施設説明、面談、等
第06回	学部学科別ワーク3	特別企画、大学生の基礎学修、面談、等
第07回	グループ学習1	タクナルEpisode 1「相互理解ゲーム」、基礎力セルフチェック1回目
第08回	セミナー I 共通課題2	社会人基礎力の解説
第09回	学部学科別ワーク4	成績評価・GPA・履修取消制度について
第10回	グループ学習2	タクナルEpisode 2「議論ゲーム」(議論回)
第11回	グループ学習3	タクナルEpisode 4「企画立案」(企画回)
第12回	グループ学習4	タクナルEpisode 5「プレゼンテーション」(発表回)
第13回	学部学科別ワーク5	学部学科関連テーマ課題(作成回)
第14回	学部学科別ワーク6	学部学科関連テーマ課題(発表回)
第15回	前期振り返り	まとめ、学修目標の到達状況の確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・今後の学修計画の策定	2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は1年次前期開講の「教養演習」、「デジタルリテラシー」と関連している。 また、いずれかの授業回において「人権問題」について触れる機会があり、その課題提出を求めることになる。</p>		

授業コード	10400208	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫、西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400209	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一、林 幸史				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400210	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志、上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400211	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	安達 康生、森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

＜セミナー I b の目的と概要＞

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400212	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	安達 康生、盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400213	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	幸川 由美子、高山 昌子				
シラバス執筆(主)	幸川 由美子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400214	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志、岸本 直子				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400215	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫、田中 淳				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400216	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志、寺田 進志				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400217	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾、津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400218	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	木村 真人、東 亜弓				
シラバス執筆(主)	木村 真人				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400219	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	安達 康生、堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400230	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b (課題解決) [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫、植松 康祐				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<セミナー I b の目的と概要>

この授業は、大学における学修スタイルの確立を目指した演習授業である。

本授業ではセミナー I a における学びを継続・発展させ、テキスト及び大学オリジナルテーマよりいくつかの課題を取り上げ、個人及びグループでその課題を解決する過程で、「聴く」「纏める」「伝える」力を高めていく。同時に、自らの社会的基礎力の向上に取り組み、グループにおける課題解決の活動について他者との関係を構築し、具体的な解決への貢献の仕方を考え、論理的な思考にもとづいた方法を採用するといった応用的なスキルを身につけていく。

それらの学習スキルをベースに、自分が生活している社会に対する理解を深め、大学での学びが社会とどのように繋がっているのかを学び、期末には大学初年次学生として自らの学修成果をまとめることができるようにする。

到達目標

1. 自らの学修成果と社会的基礎力を理解し、その改善と向上に取り組むことができる。
2. 個人及びグループでの学習スキルを用いて課題に取り組むことができる。
3. グループ活動の課題を理解し、その解決に貢献できる。
4. 課題に対して論理的に思考し、ICTを応用して解決することができる。
5. 大学初年次学生として自らの学びを振り返り、学修成果をまとめることができる。

授業計画

第01回	オリエンテーション	前期成績評価、履修修正、学修目標の設定
第02回	グループ学習 1	タクナルEpisode 3「自分の意見を伝えよう」、基礎力セルフチェック (SC) 2nd
第03回	グループワーク 1	学科別課題「情報収集」(大学祭参加の場合、準備等可)
第04回	グループワーク 2	学科別課題「討議」(大学祭参加の場合、準備等可)
第05回	グループワーク 3	学科別課題「総括・発表」(大学祭参加の場合、総括・反省会等可)
第06回	グループ学習 2	タクナルEpisode 6「情報を集めよう」(企画回)
第07回	グループ学習 3	タクナルEpisode 7「情報を集めよう」(発表回)
第08回	グループ学習 4	タクナルEpisode 9「情報を分析しよう」(企画回)
第09回	グループ学習 5	タクナルEpisode 10「情報を分析しよう」(発表回)
第10回	グループ学習 6	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(企画回)
第11回	グループ学習 7	タクナルEpisode 11「問題を提起しよう」(中間回)
第12回	グループ学習 8	タクナルEpisode 12「問題を提起しよう」(発表回)
第13回	グループ学習 9	タクナルEpisode 15「自分と仲間の成長」
第14回	グループワーク 4	タクナル体験と学科別課題のまとめ「個人発表、集団発表」
第15回	後期振り返り	学修目標の到達度の振り返り、基礎力SC 3rd

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の復習や準備のため毎回3時間ほどの学習が求められる。
またグループ学習やグループワークの発表資料作成のため計15時間ほどを要する。

課題に対するフィードバックの方法

個別面談及びGoogleClassroomなどで課題に関するフィードバックをおこなう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	課題への取組・活動への参加	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業内での課題の取り組み・学びの振り返りと学修成果のまとめ	1, 2, 3, 4, 5

その他	0		
テキスト	タクナル		
参考書	各担当教員より参考書に関する指示が示される。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は1年次後期開講の「デジタルリテラシー演習 I」と関連している。		

授業コード	10400321	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーIIaでは、セミナーIで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。特にセミナーIIaは、セミナーIII・IVに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーIとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 大学生として備えておくべき知識を得る
 2. より高度な知識を得るための方法を学ぶ
 3. 論理的な思考を身につける・文章力を磨く
 4. 発表力を養う
- 上記の点において、セミナーIの時よりも向上する

授業計画

- 【第1回】
共通プログラム(機構担当)学修目標の設定、他・オリエンテーション
- 【第2回】
イントロダクション。授業の進め方および評価方法について説明する。2人1組やグループでの自己紹介を通じて、対話の練習をする。
- 【第3回】
『レポートの種類』について解説する。2人1組やグループで、ゲーム形式の対話の練習をする。
- 【第4回】
自己探求(合同)(日程は前後する)。自己発見レポート結果に関するフォローアップガイダンス。
- 【第5回】
『レポートの書式とマナー』について解説する。。3人での対話の練習
- 【第6回】
『ゼミ発表の仕方;聞く気にさせる話し方』について解説する。
課題の発表1 順に課題を発表し、質疑応答する。
- 【第7回】
『レポート・論文の書き方;基本編』について解説する。
課題の発表2 順に課題を発表し、質疑応答する。
- 【第8回】
『レポート・論文の書き方;実践編』について解説する。
課題の発表3 順に課題を発表し、質疑応答する。
- 【第9回】
『表現を洗練させる』について解説する。
課題の発表4 順に課題を発表し、質疑応答する。
- 【第10回】
『引用の方法』について解説する。
課題の発表5 順に課題を発表し、質疑応答する。
- 【第11回】
全学人権映画会(合同)(日程は前後する)
- 【第12回】
『レジュメの作り方』について解説する。
課題の発表6 順に課題を発表し、質疑応答する。
- 【第13回】
『図書館探索と資料の検索』・2年次生用ライブラリツアー(日程は前後する)
図書館職員による2回生向けの図書館の利用案内・簡単な実習を体験する。
『図書館探索と資料の検索』について解説する。
- 【第14回】
共通プログラム(機構担当)学修目標に関する振り返り、他)
- 【第15回】
セミナーIIaのまとめ。全員の課題をデータ化して提出する。授業終了後、ラーニングポートフォリオを作成する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の講義内容について、関連の図書等を読むなどの1.5時間の事前学習、および配布資料を復習するなどの2.5時間の事後学習が必要である。最終課題の冊子作成については、15時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションレポートは、OIUメールで提出し、ラーニングポートフォリオを作成し最終課題とする。その他の課題については、提出後評価・コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得の必要条件として、最終課題冊子の作成がある。セミナーへの積極的な取り組み姿勢を重視する。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	リアクションレポート(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	各回の小課題の量(20)、および各小課題の質(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	冊子課題レポート(30) ラーニングポートフォリオ(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト プリントを配布する。

参考書 適宜資料を配布する。

履修条件・他の科目との関連 単位取得の必要条件として、セミナーⅡaで作成する冊子への課題内容の掲載がある。セミナーⅡabでの研究・発表を通じて自身の興味を明確化し、セミナーⅢ選択および進路選択に結び付けるようにする。

授業コード	10400322	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーIIでは、セミナーIで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。特にセミナーIIは、セミナーIII・IVに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーIとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 大学生として備えておくべき知識を得る
 2. より高度な知識を得るための方法を学ぶ
 3. 論理的な思考を身につける・文章力を磨く
 4. 発表力を養う
- 上記の点において、セミナーIの時よりも向上する

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション、自己紹介、共通プログラム(学修目標の設定、他)
【第2回】 II aで行いたい研究を全員が口頭発表し、意見交換
【第3回】 グループ研究 1
【第4回】 グループ研究 2
【第5回】 グループ研究 3
【第6回】 グループ研究 4 グループ研究の内容を発表
【第7回】 Ibで行った研究発表 1
【第8回】 Ibで行った研究発表 2
【第9回】 II a課題作成
【第10回】 II a課題作成(全員が一度教員に見せる)
【第11回】 II aまとめ発表 1
内容: 前期に学んできたことを、レポートのまとめ方を意識してまとめてきて、発表してディスカッションする。
【第12回】 II aまとめ発表 2
内容: 前期に学んできたことを、レポートのまとめ方を意識してまとめてきて、発表してディスカッションする。
【第13回】 II aまとめ発表 3
内容: 前期に学んできたことを、レポートのまとめ方を意識してまとめてきて、発表してディスカッションする。
【第14回】 共通プログラム
内容: 学修目標に関する振り返り、他
【第15回】 前期のまとめ 前期で学んできたことを振り返って、後期の計画を立てる。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。

事前学習: 次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行う

事後学習: セミナーでのディスカッションを踏まえたうえで、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表に対し適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での発表の内容と期末の提出課題(期末レポート)を評価の対象とする。4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	70	発表時の発表内容	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末提出課題(期末レポート)	1, 2, 3
その他	10	取り組み姿勢	1, 2, 3, 4

テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
------	------------------

参考書	内容に応じて適宜紹介する。
-----	---------------

履修条件・他の科目との関連	<p>4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。課題の提出締め切りを必ず守ること。無断欠席厳禁。最後まであきらめずに出席し、参画すること。授業への積極的な参加を求めます。受講生の関心に応じて授業内容は適宜調整する。日程が前後する場合もある。単位取得の必要条件として、セミナーで作成する冊子への課題内容の掲載がある。</p> <p>セミナーⅡでの研究・発表を通じて自身の興味を明確化し、セミナーⅢ選択および進路選択に結び付けるようにする。</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する可能性があります。その場合は随時連絡します。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400323	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡでは、セミナーⅠで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。特にセミナーⅡは、セミナーⅢ・Ⅳに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーⅠとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 将来の進路を視野に入れて、高度な知識・情報を収集し、それを論理的文章で表現し発表できる。
2. 自分が何に関心があるかを明確に説明できる。
3. 自分の関心ある勉学にとって必要なものを考えることができる

授業計画

第1回	共通プログラム(学修目標の設定、他)
第2回	セミナーでの作法
第3回	グループワーク① 問題の発見
第4回	グループワーク② 文献を探す
第5回	グループワーク③ 文献を読み込む
第6回	グループワーク④ 文献を要約する
第7回	グループワーク⑤ 文献を比較する
第8回	グループワーク⑥ レジューメを作成する
第9回	グループワーク⑦ 発表する
第10回	全学人権映画会(合同・日程は前後する)
第11回	研究報告① 研究テーマの設定
第12回	研究報告② 研究の方法と実施
第13回	研究報告③ 研究の発表
第14回	共通プログラム(学修目標に関する振り返り、他)
第15回	前期まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、各回のテーマについて、予備知識を得て、授業内で具体的に発表・討議できるようにしておく。

事後学習 授業1回につき2時間以上、各回授業を受けて、自らの研究を改善し、冊子課題に反映させる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。単位取得の必要条件として、セミナーで作成する冊子への課題内容の掲載がある。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎回の活動成果(30)	1, 2, 3
授業外での評価	30	毎回の活動報告(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	セミナー冊子(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	セミナーへの積極的な取り組み姿勢を重視する。

授業コード	10400324	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡでは、セミナーⅠで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力を、さらに養い個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。特にセミナーⅡは、セミナーⅢ・Ⅳに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーⅠとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 大学生として備えておくべき知識を獲得する
2. より高度な知識を得るための方法を学ぶ
3. 論理的な思考と文章力を身につける
4. 発表力を養う

授業計画

- 第1回 共通プログラム(学習目標の設定、他)
- 第2回 レポート課題のテーマ設定
- 第3回 文献の検索と決定
- 第4回 文章の要約と批評
- 第5回 冊子課題の問題関心と方法の検討
- 第6回 グループ発表(中間)
- 第7回 アウトライン作成
- 第8回 先行研究の検討
- 第9回 二次資料の検索
- 第10回 グループ発表(二次)
- 第11回 全学人権映画会(合同・日程は前後する)
- 第12回 成果発表
- 第13回 アカデミックレポートの作成
- 第14回 共通プログラム(学習目標の関する振り返り、他)
- 第15回 前期のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で使用する資料収集や事前の資料読み込み(1.5時間)
事後学習：授業内で生じた課題や作業を進める(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、口頭で開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
単位取得の必要条件として、レポート課題の作成がある。
なお、正答な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	プレゼン(20)	1, 4
授業外での評価	20	ワークシート(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート課題(40)	1, 2, 3
その他	20	演習に対する参与度・発言・質問・コメント(20)	1, 2, 4

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	原則、毎回の出席とし、やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、必ず授業開始前までに連絡を行うこと。 レポート課題は本演習の単位必須課題となる。

授業コード	10400325	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡでは、セミナーⅠで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。特にセミナーⅡは、セミナーⅢ・Ⅳに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーⅠとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 大学生として備えておくべき知識を得る
 2. より高度な知識を得るための方法を学ぶ
 3. 論理的な思考を身につける・文章力を磨く
 4. 発表力を養う
- 上記の点において、セミナーⅠの時よりも向上する

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介、共通プログラム(学修目標の設定、他)
- 第2回 ライブラリツアー(日程は前後する)
- 第3回 コミュニケーションワーク①(発表テーマの検討)
- 第4回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第5回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第6回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第7回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第8回 コミュニケーションワーク②
- 第9回 コミュニケーションワーク③
- 第10回 コミュニケーションワーク④
- 第11回 全学人権学習(合同・日程は前後する)
- 第12回 冊子課題(内容・体裁・書式の確認)
- 第13回 冊子課題(作成・提出)
- 第14回 共通プログラム(学修目標に関する振り返り、他)
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で活用する課題の情報収集・読み込み・資料作成(2.5時間)
 事後学習：授業内でのディスカッションから生まれた疑問・問題の整理(1.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表や課題に対して適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 また、冊子課題は本科目の単位必須課題である。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	個人発表・小レポート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	冊子課題	1, 2, 3
その他	20	積極的姿勢・関与度	1, 2, 3, 4

テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	遅刻・欠席の際は事前に連絡を行うこと。 冊子課題は本科目の単位必須課題である。

授業コード	10400331	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡa（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaでは、セミナーⅠaおよびⅠbで養ってきた力をさらに高め、自らを向上させていこうとする力（自己学習力）を身につけることを目的とします。卒業研究の基盤となる企画力、実行力およびプレゼンテーション力を養います。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 必要な情報を収集することができる。
2. 自分の伝えたいことを他人に伝達することができる。
3. 発表等の企画および実行することができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容・方法：時間割の作成を行う。

【第2回】

テーマ：お互いを知る（自己紹介、他己紹介）

内容・方法：自己紹介の後、セミナーのメンバーでインタビューを行い、他己紹介を行う。

【第3回】

テーマ：1年間の目標、1年間の行動計画作成

内容・方法：1年間の目標を決め、行動計画（資格、参加する研修など）を作成する。

【第4回】

テーマ：1年間の目標、行動計画（発表）、夢を実現させるためには？

内容・方法：1年間の目標、行動計画について発表する。

【第5回】

テーマ：グループワークの計画

内容・方法：グループごとにテーマを決める。

【第6回】

テーマ：ライブラリーツアー

内容・方法：セミナーの課題を行うための文献検索方法を知る。ライブラリーツアーに参加する。

【第7回】

テーマ：グループワーク（情報交換）

内容・方法：集めた文献の内容を各自各グループ内で発表する。

【第8回】

テーマ：グループワーク（内容要約）

内容・方法：課題を規定の用紙にまとめる。

【第9回】

テーマ：グループワーク（発表準備）

内容・方法：各グループで発表準備を行う（発表原稿の作成）

【第10回】

テーマ：グループワーク（発表準備）

内容・方法：各グループで発表準備を行う（パワーポイントの作成）

【第11回】

テーマ：人権映画会

内容・方法：人権について理解を深める。

【第12回】

テーマ：各グループで発表準備を行う（リハーサル）

内容・方法：発表リハーサルを行う。

【第13回】

テーマ：グループワークの発表

内容・方法：グループで取り組んだ課題の発表会で発表する。

【第14回】

テーマ：1年間の計画進捗状況について

内容・方法：1年間の計画進捗状況について発表する（中間発表）。

【第15回】

テーマ：夏休みの課題について

内容・方法：夏休みの目標、課題を各自掲げ、計画等を発表する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

授業の復習や発表の準備などに、毎回3時間程の学修が求められる。さらに共通課題の作成に合わせて15時間ほどかける必要がある。

課題に対するフィードバックの方法

第9回、10回、12回発表準備時に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく欠席（遅刻または早退3回につき1回欠席とする）した場合は、担当教員からレポート等の課題提出の指示があります。

欠席等レポート5回以上の未提出で「K」評価とする。

共通課題および5回以上欠席課題が提出されない場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	セミナーⅡグループワーク課題の提出	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2
その他	40	課題や発表に取り組む姿勢や内容で評価	1, 2, 3

テキスト テキストは使用せずプリント(資料)を配布する

参考書 必要に応じて適宜紹介する

履修条件・他の科目との関連

・新型コロナウイルス感染対策等の理由でグループ活動や発表が遠隔となる場合があります。その際は随時ユニパまたはGoogleクラスルーム等で連絡いたします。

・欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示するので確認すること。掲示されない場合もありますのでその際は各担当教員までメール等で問い合わせ受け取ってください。欠席した場合でも提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。

担当教員への連絡方法

長野 崇 t-nagano@oiu.jp

授業コード	10400332	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡa (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaでは、セミナーⅠaおよびⅠbで養ってきた力をさらに高め、自らを向上させていこうとする力（自己学習力）を身につけることを目的とします。卒業研究の基盤となる企画力、実行力およびプレゼンテーション力を養います。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 必要な情報を収集することができる。
2. 自分の伝えたいことを他人に伝達することができる。
3. 発表等の企画および実行することができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：時間割の作成を行う。
- 【第2回】
 テーマ：お互いを知る（自己紹介、他己紹介）
 内容・方法：自己紹介の後、セミナーのメンバーでインタビューを行い、他己紹介を行う。
- 【第3回】
 テーマ：1年間の目標、1年間の行動計画作成
 内容・方法：1年間の目標を決め、行動計画（資格、参加する研修など）を作成する。
- 【第4回】
 テーマ：1年間の目標、行動計画（発表）、夢を実現させるためには？
 内容・方法：1年間の目標、行動計画について発表する。
- 【第5回】
 テーマ：グループワークの計画
 内容・方法：グループごとにテーマを決める。
- 【第6回】
 テーマ：ライブラリーツアー
 内容・方法：セミナーの課題を行うための文献検索方法を知る。ライブラリーツアーに参加する。
- 【第7回】
 テーマ：グループワーク（情報交換）
 内容・方法：集めた文献の内容を各自各グループ内で発表する。
- 【第8回】
 テーマ：グループワーク（内容要約）
 内容・方法：課題を規定の用紙にまとめる。
- 【第9回】
 テーマ：グループワーク（発表準備）
 内容・方法：各グループで発表準備を行う（発表原稿の作成）
- 【第10回】
 テーマ：グループワーク（発表準備）
 内容・方法：各グループで発表準備を行う（パワーポイントの作成）
- 【第11回】
 テーマ：人権映画会
 内容・方法：人権について理解を深める。
- 【第12回】
 テーマ：各グループで発表準備を行う（リハーサル）
 内容・方法：発表リハーサルを行う。
- 【第13回】
 テーマ：グループワークの発表
 内容・方法：グループで取り組んだ課題の発表会で発表する。
- 【第14回】
 テーマ：1年間の計画進捗状況について
 内容・方法：1年間の計画進捗状況について発表する（中間発表）。
- 【第15回】
 テーマ：夏休みの課題について
 内容・方法：夏休みの目標、課題を各自掲げ、計画等を発表する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業の復習や発表の準備などに、毎回3時間程の学修が求められる。さらに共通課題の作成に合わせて15時間ほどかける必要がある。

【第1回】			
<事前>	過年度の履修状況の確認、履修科目の確認	1.0時間	
<事後>	作成した時間割の登録の確認およびシラバスによる準備物等の準備	1.5時間	
【第2回】			
<事前>	自己紹介の準備、プレゼンの方法について調べる	1.5時間	
<事後>	自己紹介および他己紹介について自己紹介の進め方、インタビューの方法を振り返る	1.5時間	
【第3回】			
<事前>	履修する科目や取得する資格を確認、また課外活動や研修等の予定を確認する。	1.5時間	
<事後>	作成した行動計画を自身の予定に組み込み、時間割や受講科目等の確認登録を行う。	1.5時間	
【第4回】			
<事前>	1年間の目標・行動計画の発表原稿をまとめる	1.5時間	
<事後>	作成した1年間の行動計画をもとに準備すべき事項を確認しスケジュール等に追加する	1.5時間	
【第5回】			
<事前>	グループ発表で取り上げるテーマを提案できるよう学科で学ぶ分野の中からテーマの案を考える	2.0時間	
<事後>	決定したテーマについて下調べをする	1.5時間	
【第6回】			
<事前>	図書館のHPを確認し、施設使用のマニュアル等を確認する	2.5時間	
<事後>	ライブラリツアーで学んだ文献資料等の検索方法で資料の検索を行い資料を収集する	2.5時間	
【第7回】			
<事前>	資料の内容を読み、要点をまとめ発表の準備を行う	2.5時間	
<事後>	グループワークで情報交換した内容を整理する	2.5時間	
【第8回】			
<事前>	グループワークで情報交換した内容を要約しまとめる	1.5時間	
<事後>	発表の内容をまとめる	2.5時間	
【第9回】			
<事前>	自身が担当する発表部分の原稿の下書きを作成する	2.5時間	
<事後>	グループの発表原稿を確認し、パワーポイントの作成に必要な情報を集める	2.5時間	
【第10回】			
<事前>	パワーポイントに使用する図表を作成するためのデータや情報を収集する	2.5時間	
<事後>	自身が担当するパワーポイントを完成させる	2.5時間	
【第11回】			
<事前>	事前に入権映画会のテーマについて下調べし、知識を得る	1.5時間	
<事後>	映画の内容について感想等をまとめレポートを作成する	1.5時間	
【第12回】			
<事前>	発表に使用するパワーポイントおよび発表原稿を確認し、自身でリハーサルを行う	2.5時間	
<事後>	発表内容および使用する資料についてグループメンバーとのミーティング等を行い練習する	2.5時間	
【第13回】			
<事前>	グループワークの発表について自身が担当する部分を繰り返し練習し調整する	2.5時間	
<事後>	発表内容を見直し、グループのメンバーで振り返る	2.5時間	
【第14回】			
<事前>	1年間を振り返り計画の進捗状況について発表内容をまとめる	2.5時間	
<事後>	1年間の振り返りをもとに今後の計画をたてる	1.5時間	
【第15回】			
<事前>	夏休み期間中の自身の行動目標、計画についての発表原稿を作成する	2.5時間	
<事後>	計画を遂行するための準備を行うとともに実行に移す	1.5時間	

課題に対するフィードバックの方法

第9回、10回、12回発表準備時に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく欠席(遅刻または早退3回につき1回欠席とする)した場合は、担当教員からレポート等の課題提出の指示があります。欠席等レポート5回以上の未提出で「K」評価とする。共通課題および5回以上欠席課題が提出されない場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	セミナーⅡグループワーク課題の提出(50)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート試験(10)	1, 2
その他	40	課題や発表に取り組む姿勢や内容で評価(40)	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用せずプリント(資料)を配布する
参考書	必要に応じて適宜紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策等の理由でグループ活動や発表が遠隔となる場合があります。その際は随時ユニパまたはGoogleクラスルーム等で連絡いたします。 ・欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示するので確認すること。掲示されない場合もありますのでその際は各担当教員までメール等で問い合わせ受け取ってください。欠席した場合でも提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。

授業コード	10400333	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡa（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaでは、セミナーⅠaおよびⅠbで養ってきた力をさらに高め、自らを向上させていこうとする力（自己学習力）を身につけることを目的とする。また、卒業研究の基盤となる企画力、実行力およびプレゼンテーション力を養う。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標の達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する。

到達目標

1. 必要な情報を収集することができる。
2. 自分の伝えたいことを他人に伝達することができる。
3. 発表等の企画および実行をすることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容・方法：時間割の作成を行う。

【第2回】

テーマ：お互いを知る（自己紹介、他己紹介）

内容・方法：自己紹介の後、セミナーのメンバーでインタビューを行い、他己紹介を行う。

【第3回】

テーマ：1年間の目標、1年間の行動計画作成

内容・方法：1年間の目標を決め、行動計画（資格、参加する研修など）を作成する。

【第4回】

テーマ：1年間の目標、行動計画（発表）、夢を実現させるためには？

内容・方法：1年間の目標、行動計画について発表する。

【第5回】

テーマ：グループワークの計画

内容・方法：グループごとにテーマを決める。

【第6回】

テーマ：ライブラリーツアー

内容・方法：セミナーの課題を行うための文献検索方法を知る。ライブラリーツアーに参加する。

【第7回】

テーマ：グループワーク（情報交換）

内容・方法：集めた文献の内容を各自各グループ内で発表する。

【第8回】

テーマ：グループワーク（内容要約）

内容・方法：課題を規定の用紙にまとめる。

【第9回】

テーマ：グループワーク（発表準備）

内容・方法：各グループで発表準備を行う（発表原稿の作成）

【第10回】

テーマ：グループワーク（発表準備）

内容・方法：各グループで発表準備を行う（パワーポイントの作成）

【第11回】

テーマ：人権映画会

内容・方法：人権について理解を深める。

【第12回】

テーマ：各グループで発表準備を行う（リハーサル）

内容・方法：発表リハーサルを行う。

【第13回】

テーマ：グループワークの発表

内容・方法：グループで取り組んだ課題を発表会で発表する。

【第14回】

テーマ：1年間の計画進捗状況について

内容・方法：1年間の計画進捗状況について発表する（中間発表）。

【第15回】

テーマ：夏休みの課題について

内容・方法：夏休みの目標、課題を各自挙げ、計画等を発表する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要である。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要である。

授業の復習や発表の準備などに、毎回3時間程の学修が求められる。さらに共通課題の作成に合わせて15時間ほどかける必要がある。

課題に対するフィードバックの方法

第9回、10回、12回発表準備時に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく欠席（遅刻または早退3回につき1回欠席とする）した場合は、担当教員からレポート等の課題提出の指示がある。

欠席等レポート5回以上の未提出で「K」評価とする。

共通課題および5回以上欠席課題が提出されない場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	セミナーⅡグループワーク課題の提出	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2
その他	40	課題や発表に取り組む姿勢や内容で評価	1, 2, 3

テキスト テキストは使用せずプリント(資料)を配布する。

参考書 必要に応じて適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連
・グループ活動や発表が遠隔となる場合は、適宜、UNIPAまたはGoogleクラスルーム等で連絡する。
・欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに掲示するので確認すること。掲示されない場合は担当教員にメール等で問い合わせ、受け取ること。欠席した場合でも提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。

授業コード	10400341	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
- 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ大会を通して健康・スポーツの運営方法等を学ぶ

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ大会の参加を通して、健康・スポーツ大会の企画立案、計画、運営方法を理解する。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
履修登録を確認する。クラス内交流を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。
- 【第2回】 【学修成果の登録（マイステップ）】
(基幹教育機構・担当部分)
- 【第3回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：1年次に学んだプレゼンテーション技法について確認する。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第4回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第5回】 スポーツ業界研究①
スポーツ教育分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。
- 【第6回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第7回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第8回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第9回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第10回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。

【第11回】ゼミ内プレゼンテーション①
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の予行演習をする。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第12回】ゼミ内プレゼンテーション②
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の準備をしておく。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第13回】プレゼンテーションコンテスト
 セミナー代表によるプレゼンテーション
 事前学修：代表者のプレゼンテーションテーマについて調べておく。
 事後学修：代表者の発表を聞いて気づいたことを整理する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】
 （基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括
 授業全体のまとめ、レポート提出
 事前学修：夏季休業中の活動について、発表できる準備をする。
 事後学修：他者の発表の良い点などを参考に、夏季休業中の活動計画等を見直す。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。
 授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の活動(40)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(25)、プレゼンテーション(15)	1
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2

テキスト 特になし

参考書 井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019
 その他、必要に応じて授業で紹介する

履修条件・他の科目との関連 本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。なお、セミナー I aおよびセミナー I bの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。さらに、本授業の内容を基に、「セミナー II b(2年生・後期・必修科目)」が展開される。そのため、セミナー II aで学修した内容を十分に理解して「セミナー II b」を履修する必要がある。

授業コード	10400342	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
- 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ大会を通して健康・スポーツの運営方法等を学ぶ

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ大会の参加を通して、健康・スポーツ大会の企画立案、計画、運営方法を理解する。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
履修登録を確認する。クラス内交流を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。
- 【第2回】 【学修成果の登録（マイステップ）】
(基幹教育機構・担当部分)
- 【第3回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：1年次に学んだプレゼンテーション技法について確認する。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第4回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第5回】 スポーツ業界研究①
スポーツ教育分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。
- 【第6回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第7回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第8回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第9回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第10回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。

【第11回】ゼミ内プレゼンテーション①
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の予行演習をする。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第12回】ゼミ内プレゼンテーション②
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の準備をしておく。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第13回】プレゼンテーションコンテスト
 セミナー代表によるプレゼンテーション
 事前学修：代表者のプレゼンテーションテーマについて調べておく。
 事後学修：代表者の発表を聞いて気づいたことを整理する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】
 （基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括
 授業全体のまとめ、レポート提出
 事前学修：夏季休業中の活動について、発表できる準備をする。
 事後学修：他者の発表の良い点などを参考に、夏季休業中の活動計画等を見直す。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。
 授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の活動(40)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(25)、プレゼンテーション(15)	1
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2

テキスト 特になし

参考書 井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019
 その他、必要に応じて授業で紹介する

履修条件・他の科目との関連 本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。なお、セミナー I aおよびセミナー I bの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。さらに、本授業の内容を基に、「セミナー II b(2年生・後期・必修科目)」が展開される。そのため、セミナー II aで学修した内容を十分に理解して「セミナー II b」を履修する必要がある。

授業コード	10400343	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
- 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ大会を通して健康・スポーツの運営方法等を学ぶ

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ大会の参加を通して、健康・スポーツ大会の企画立案、計画、運営方法を理解する。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
履修登録を確認する。クラス内交流を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。
- 【第2回】 【学修成果の登録（マイステップ）】
(基幹教育機構・担当部分)
- 【第3回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：1年次に学んだプレゼンテーション技法について確認する。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第4回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第5回】 スポーツ業界研究①
スポーツ教育分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。
- 【第6回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第7回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第8回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第9回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第10回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。

【第11回】ゼミ内プレゼンテーション①
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の予行演習をする。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第12回】ゼミ内プレゼンテーション②
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の準備をしておく。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第13回】プレゼンテーションコンテスト
 セミナー代表によるプレゼンテーション
 事前学修：代表者のプレゼンテーションテーマについて調べておく。
 事後学修：代表者の発表を聞いて気づいたことを整理する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】
 （基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括
 授業全体のまとめ、レポート提出
 事前学修：夏季休業中の活動について、発表できる準備をする。
 事後学修：他者の発表の良い点などを参考に、夏季休業中の活動計画等を見直す。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。
 授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の活動(40)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(25)、プレゼンテーション(15)	1
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2

テキスト 特になし

参考書 井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019
 その他、必要に応じて授業で紹介する

履修条件・他の科目との関連 本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。なお、セミナー I aおよびセミナー I bの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。さらに、本授業の内容を基に、「セミナー II b(2年生・後期・必修科目)」が展開される。そのため、セミナー II aで学修した内容を十分に理解して「セミナー II b」を履修する必要がある。

授業コード	10400344	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
- 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ大会を通して健康・スポーツの運営方法等を学ぶ

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ大会の参加を通して、健康・スポーツ大会の企画立案、計画、運営方法を理解する。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
履修登録を確認する。クラス内交流を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。
- 【第2回】 【学修成果の登録（マイステップ）】
(基幹教育機構・担当部分)
- 【第3回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：1年次に学んだプレゼンテーション技法について確認する。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第4回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第5回】 スポーツ業界研究①
スポーツ教育分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。
- 【第6回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第7回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第8回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第9回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第10回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。

【第11回】ゼミ内プレゼンテーション①
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の予行演習をする。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第12回】ゼミ内プレゼンテーション②
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の準備をしておく。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第13回】プレゼンテーションコンテスト
 セミナー代表によるプレゼンテーション
 事前学修：代表者のプレゼンテーションテーマについて調べておく。
 事後学修：代表者の発表を聞いて気づいたことを整理する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】
 （基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括
 授業全体のまとめ、レポート提出
 事前学修：夏季休業中の活動について、発表できる準備をする。
 事後学修：他者の発表の良い点などを参考に、夏季休業中の活動計画等を見直す。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。
 授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の活動(40)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(25)、プレゼンテーション(15)	1
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2

テキスト 特になし

参考書 井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019
 その他、必要に応じて授業で紹介する

履修条件・他の科目との関連 本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。なお、セミナー I aおよびセミナー I bの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。さらに、本授業の内容を基に、「セミナー II b(2年生・後期・必修科目)」が展開される。そのため、セミナー II aで学修した内容を十分に理解して「セミナー II b」を履修する必要がある。

授業コード	10400345	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
- 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ大会を通して健康・スポーツの運営方法等を学ぶ

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ大会の参加を通して、健康・スポーツ大会の企画立案、計画、運営方法を理解する。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
履修登録を確認する。クラス内交流を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。
- 【第2回】 【学修成果の登録（マイステップ）】
(基幹教育機構・担当部分)
- 【第3回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：1年次に学んだプレゼンテーション技法について確認する。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第4回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第5回】 スポーツ業界研究①
スポーツ教育分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。
- 【第6回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第7回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第8回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第9回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第10回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。

【第11回】ゼミ内プレゼンテーション①
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の予行演習をする。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第12回】ゼミ内プレゼンテーション②
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の準備をしておく。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第13回】プレゼンテーションコンテスト
 セミナー代表によるプレゼンテーション
 事前学修：代表者のプレゼンテーションテーマについて調べておく。
 事後学修：代表者の発表を聞いて気づいたことを整理する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】
 （基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括
 授業全体のまとめ、レポート提出
 事前学修：夏季休業中の活動について、発表できる準備をする。
 事後学修：他者の発表の良い点などを参考に、夏季休業中の活動計画等を見直す。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。
 授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の活動(40)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(25)、プレゼンテーション(15)	1
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2

テキスト 特になし

参考書 井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019
 その他、必要に応じて授業で紹介する

履修条件・他の科目との関連 本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。なお、セミナー I aおよびセミナー I bの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。さらに、本授業の内容を基に、「セミナー II b(2年生・後期・必修科目)」が展開される。そのため、セミナー II aで学修した内容を十分に理解して「セミナー II b」を履修する必要がある。

授業コード	10400346	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
- 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ大会を通して健康・スポーツの運営方法等を学ぶ

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ大会の参加を通して、健康・スポーツ大会の企画立案、計画、運営方法を理解する。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
履修登録を確認する。クラス内交流を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。
- 【第2回】 【学修成果の登録（マイステップ）】
(基幹教育機構・担当部分)
- 【第3回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：1年次に学んだプレゼンテーション技法について確認する。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第4回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第5回】 スポーツ業界研究①
スポーツ教育分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。
- 【第6回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第7回】 スポーツ大会の実施 / クラス別活動
スポーツ大会に参加する。参加するだけでなく、運営方法について観察する。
事前学修：自身がスポーツ大会を運営する場合、どのように取り組むのか考える。
事後学修：運営方法について、良かった点、改善点をまとめる。
- 【第8回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第9回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
- 【第10回】 クラス別活動
クラスの個別の課題に取り組む。プレゼンテーションを行うための資料作成の方法について学ぶ。
事前学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。
事後学修：進捗状況に応じて、クラス担当教員の指示を受ける。

【第11回】ゼミ内プレゼンテーション①
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の予行演習をする。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第12回】ゼミ内プレゼンテーション②
 セミナー内で発表を行い、セミナー代表者を決める。
 事前学修：発表の準備をしておく。
 事後学修：自分や他者の発表内容をまとめる。

【第13回】プレゼンテーションコンテスト
 セミナー代表によるプレゼンテーション
 事前学修：代表者のプレゼンテーションテーマについて調べておく。
 事後学修：代表者の発表を聞いて気づいたことを整理する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】
 （基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括
 授業全体のまとめ、レポート提出
 事前学修：夏季休業中の活動について、発表できる準備をする。
 事後学修：他者の発表の良い点などを参考に、夏季休業中の活動計画等を見直す。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。
 授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の活動(40)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(25)、プレゼンテーション(15)	1
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2

テキスト 特になし

参考書 井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019
 その他、必要に応じて授業で紹介する

履修条件・他の科目との関連 本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。なお、セミナー I aおよびセミナー I bの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。さらに、本授業の内容を基に、「セミナー II b(2年生・後期・必修科目)」が展開される。そのため、セミナー II aで学修した内容を十分に理解して「セミナー II b」を履修する必要がある。

授業コード	10400421	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡbでは、セミナーⅡaで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけます。
特にセミナーⅡbは、セミナーⅢ・Ⅳに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーⅡaに比べ、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。
セミナーⅢ選択を視野に入れ、興味のある研究テーマを見つけるため、図書館を積極的に活用します。各種課題では、自分でテーマを設定し、興味を深めます。授業は発表と討論で進められ、アクティブラーニングの要素を含みます。発表時は聞き手を惹きつけるわかりやすい発表ができること、質問時は積極的に手を挙げて質問する力を養成します。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 大学生として備えておくべき知識を得る
 2. より高度な知識を得るための方法を学ぶ
 3. 論理的な思考を身につける・文章力を磨く
 4. 発表力を養う
- 上記の点において、セミナーⅡaの時よりも向上する
5. 「パネル発表会」で発表する

授業計画

【第1回】
共通プログラム(機構担当)学修目標の設定、他・セミナーⅡbのイントロダクション

【第2回】
パワーポイントを使用した課題発表1、質疑応答

【第3回】
パワーポイントを使用した課題発表2、質疑応答

【第4回】
パワーポイントを使用した課題発表3、質疑応答

【第5回】
パワーポイントを使用した課題発表4、質疑応答

【第6回】
パネル制作1 発表後、修正したデータを印刷し、パネルを製作する。

【第7回】
パネル制作2 発表後、修正したデータを印刷し、パネルを製作する。

【第8回】
パネル発表会(合同)。パネル提示方式の発表会を実施する。質疑応答、それに基づく課題提出がある。

【第9回】
セミナーⅢ配属説明会(合同)。専門セミナーの位置づけになるセミナーⅢの選択方法、および、決定方法等の説明。

【第10回】
キャリア教育。自分の将来、特に大学卒業後の進路について具体的に考える。

【第11回】
職業適性セミナーを体験する(日程は前後する)。学生相談室主催の職業適性セミナーを体験し、職業適性検査を受けて解説を聞く。

【第12回】
海外研修について考える(日程は前後する)。国際交流センターから講師を招いて、留学についての説明を聞く。

【第13回】
パワーポイントを使用した課題発表5、質疑応答する。

【第14回】
共通プログラム(機構担当)学修目標に関する振り返り、他

【第15回】
セミナーⅡbのまとめ。『大学生のあいだに実現したいこと』について各自発表し、グループワーク『言葉の花束を贈ろう』を実施する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の講義内容について、関連の図書等を読むなどの1.5時間の事前学習、および配布資料を復習するなどの2.5時間の事後学習が必要である。最終課題のパネル発表会用パネル作成については、15時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションレポートは、OIUメールで提出する。授業終了後にまとめてその他の課題については、提出後評価・コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得の必要条件として、パネル作成と全体発表会への参加がある。セミナーへの積極的な取り組み姿勢を重視する。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小課題の発表(20)質疑応答(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	小課題の量(20)および質(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	パネル発表会用パネルの作成(20)パネル発表会での発表・質疑応答(10)	1, 2, 3, 4, 5
その他	10	ラーニングポートフォリオ(10)	1, 2, 3

テキスト	プリントを配布する。
------	------------

参考書	適宜資料を配布する。
-----	------------

履修条件・他の科目との関連	セミナーⅡbでの研究・発表を通じて自身の興味を明確化し、セミナーⅢ選択および進路選択に結び付けるようにする。
---------------	--------------------------------------------------------

授業コード	10400422	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーIIでは、セミナーIで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。特にセミナーIIは、セミナーIII・IVに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーIとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

到達目標

- 1, 大学生として備えておくべき知識を得る
 - 2, より高度な知識を得るための方法を学ぶ
 - 3, 論理的な思考を身につける・文章力を磨く
 - 4, 発表力を養う
- 上記の点において、セミナーIの時よりも向上する
- 5, 「パネル発表会」を行なう

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション、共通プログラム(学修目標の設定、他)
- 【第2回】 セミナーⅡbのイントロダクション、パネル発表会のテーマと方法を各自考えて口頭発表
- 【第3回】 先行研究発表： 夏休みに調べた先行研究をまとめて発表し、質疑応答する。
- 【第4回】 先行研究発表： 夏休みに調べた先行研究をまとめて発表し、質疑応答する。
- 【第5回】 先行研究発表： 夏休みに調べた先行研究をまとめて発表し、質疑応答する。
- 【第6回】 パネル中間発表
内容：全員がパワーポイント9枚を作成し、教員、セミナーメンバーに見せて、教員や学生との意見交換を行い、内容を確定させる。
- 【第7回】 パネル発表会予行演習1
内容：全員がパワーポイントを使って発表し、パネル発表会の予行演習を行う。
- 【第8回】 パネル発表会予行演習2
内容：全員がパワーポイントを使って発表し、パネル発表会の予行演習を行う。
- 【第9回】 パネル発表会予行演習3
内容：全員がパワーポイントを使って発表し、パネル発表会の予行演習を行う。
- 【第10回】 パネル作成
内容：次週のパネル発表会に向けてパネルを完成させる。
- 【第11回】 パネル発表会
内容：セミナーⅡを通して調べたことを、まとめてパネル発表会で発表。
- 【第12回】 セミナーⅢ配属説明会(合同)
内容：セミナーⅢ配属について、合同説明会に参加する。
- 【第13回】 セミナーⅢで行う研究について
内容：セミナーⅢに向けて、自分が調べたいこと、関心があることについて、自分の考えをまとめ、意見交換を行う。
- 【第14回】 共通プログラム
内容：学修目標に関する振り返り、他
- 【第15回】 セミナーⅡのまとめ
内容：セミナーⅡを通して学んできた、調べたいことを決めること、調べること、調べたことをまとめること、伝えることなどについてまとめを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。

事前学習： 次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行う

事後学習： セミナーでのディスカッションを踏まえ、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表に対し適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での発表の内容と期末試験のレポート、取り組み姿勢を評価の対象とする。4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	発表時の発表内容	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末課題レポート(作成したパネルを含む)	1, 2, 3
その他	10	取り組み姿勢	2, 3, 4

テキスト 必要に応じてプリントを配布する。

参考書 内容に応じて適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連 4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。課題の提出締め切りを必ず守ること。無断欠席厳禁。最後まであきらめずに出席し、参画すること。授業への積極的な参加を求めます。受講生の関心に応じて授業内容は適宜調整する。日程が前後する場合もある。セミナーⅡbでの研究・発表を通じて自身の興味を明確化し、セミナーⅢ選択および進路選択に結び付けるようにする。新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する可能性があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	10400423	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーIIでは、セミナーIで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。

特にセミナーIIは、セミナーIII・IVに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーIとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 将来の進路を視野に入れて、高度な知識・情報を収集し、それを論理的な文章で表現し発表できる。
2. 自分が何に関心があるかを明確に説明できる。
3. 自分の関心ある勉学にとって必要なものを考えることができる。

授業計画

- 第1回 共通プログラム(学修目標の設定、他)
- 第2回 パネル課題の検討1 統一テーマを提示し、学生との意見交換を通してテーマの概要をかためる。
- 第3回 パネル課題の検討2 テーマを細分化して提示する。学生間で調整をさせることにより、個別テーマの決定に導く。
- 第4回 パネル作成1 パワーポイントでパネル原稿を作成する
- 第5回 パネル作成2 パワーポイントでパネル原稿を作成する
- 第6回 パネル作成3 パワーポイントでパネル原稿を作成する
- 第7回 パネル作成4 パワーポイントでパネル原稿を作成する
- 第8回 パネル作成5 パワーポイントでパネル原稿を作成する
- 第9回 パネル作成6 パワーポイントでパネル原稿を作成する
- 第10回 パネル発表の検討1 合同パネル発表会に向けての検討・討議
- 第11回 パネル発表の検討2 合同パネル発表会に向けての検討・討議
- 第12回 パネル発表会(合同) パネル掲示方式の発表会を実施する。質疑応答、それに基づく課題提出がある。
- 第13回 セミナーIII配属説明会(合同)
- 第14回 共通プログラム(学修目標に関する振り返り、他)
- 第15回 まとめ パネル発表を受けて、セミナー2で得られた学びの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、各回のテーマについて、予備知識を得て、授業内で具体的に発表・討議できるようにしておく。

事後学習 授業1回につき2時間以上、各回授業を受けて、自らの研究を改善し、パネル発表に反映させる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOJUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
単位取得の必要条件として、パネル作成と全体発表会への参加がある。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎回の活動成果(30)	1, 2, 3
授業外での評価	30	毎回の活動報告(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	パネル発表(40)	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	テキストを使用しない。		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	セミナーへの積極的な取り組み姿勢を重視する。		

授業コード	10400424	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡでは、セミナーⅠで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけてもらいます。特にセミナーⅡは、セミナーⅢ・Ⅳに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーⅠとくらべて、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 大学生として備えておくべき知識を獲得する
2. より高度な知識を得るための方法を学ぶ
3. 論理的な思考と文章力を身につける
4. 発表力を養う

授業計画

- 第1回 共通プログラム(学修目標の設定、他)
- 第2回 パネル課題のテーマ検討
- 第3回 先行研究と方法の検討
- 第4回 調査実施(個別)
- 第5回 中間発表
- 第6回 課題内容の精査と最終決定
- 第7回 Powerpoint作成
- 第8回 成果発表①個人発表
- 第9回 成果発表②フィードバック
- 第10回 パネル作成
- 第11回 パネル発表会(合同)
- 第12回 セミナーⅢ配属説明会(合同)
- 第13回 質疑へのフィードバック
- 第14回 共通プログラム(学修目標に関する振り返り、他)
- 第15回 一年間の振り返りーセミナーⅢへ向けてー

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で使用する資料収集や事前の資料読み込み(1.5時間)
事後学習：授業内で生じた課題や作業を進める(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、口頭で開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
単位取得の必要条件として、パネル発表会の参加がある。
なお、正答な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	個人発表(20)	2, 4
授業外での評価	20	ワークシート(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	パネルポスター(40)	2, 3, 4
その他	20	演習・発表会における参与度、質問、発言(20)	2, 3, 4

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	4回生の卒業研究発表会への参加を求める可能性がある。 原則、毎回の出席とし、やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、必ず授業開始前までに連絡を行うこと。 パネル作成および発表が本演習における単位必須課題となる。

授業コード	10400425	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡbでは、セミナーⅡaで養ってきた(1)高度な知識、(2)情報収集能力、(3)論理的思考力、(4)文章力、(5)発表力をさらに養い、個人の中で統合して活用できる能力を身につけます。特にセミナーⅡbは、セミナーⅢ・Ⅳに向けての基礎固めにあたる重要な節目です。(1)将来の進路を視野に入れ、(2)何に関心があるかを明確にしていきつつ、(3)そのために必要なことを具体的に考えていくことが必要です。セミナーⅡaに比べ、より積極的、かつ自主的な姿勢が求められます。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 大学生として備えておくべき知識を得る
 2. より高度な知識を得るための方法を学ぶ
 3. 論理的な思考を身につける・文章力を磨く
 4. 発表力を養う
- 上記の点において、セミナーⅡaの時よりも向上する
5. 「パネル発表会」で発表する

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、共通プログラム (学修目標の設定、他)
- 第2回 個人発表について (書式・発表テーマの検討①)
- 第3回 個人発表について (発表テーマの検討②)
- 第4回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第5回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第6回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第7回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第8回 個人発表・質疑応答・小レポート作成
- 第9回 パネル作成 (体裁・書式の確認)
- 第10回 パネル作成 (印刷)
- 第11回 パネル発表会 (合同)
- 第12回 セミナーⅢ配属説明会 (合同)
- 第13回 パネルのフィードバック
- 第14回 共通プログラム (学修目標に関する振り返り、他)
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で活用する課題の情報収集・読み込み・資料作成 (2.5時間)

事後学習：授業内でのディスカッションから生まれた疑問・問題・改善点の整理 (1.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表に対して適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
また、単位取得の必要条件として、パネル作成と全体発表会への参加がある。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	個人発表・小レポート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	パネル発表	1, 2, 3, 4, 5

その他	20	積極的姿勢・関与度	1, 2, 3, 4
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考書	適宜授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	遅刻・欠席の際は事前に連絡を行うこと。 パネル作成と全体発表会への参加が単位取得の必要条件である。		

授業コード	10400431	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡbでは、セミナーⅡaで養ってきた力をさらに高め、自己学習力を高めていくことを目的とします。また、社会に出て仕事をしていく上で不可欠な力を身につけることを習得します。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 必要な情報を収集し、分析および活用することができる。
2. 自分の伝えたいことを他人に伝達することができる。
3. ソーシャルスキルが向上する。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：夏休みに取り組んだことを振り返り、今後の計画を立てる。
- 【第2回】
 テーマ：夏休みの課題発表
 内容・方法：夏休みに取り組んだことを発表し、その成果と今後の計画について述べる。
- 【第3回】
 テーマ：セミナー課題について
 内容・方法：セミナーⅡの課題について、取り組み方、進め方、まとめ方等の説明
- 【第4回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査方法を知る）
 内容・方法：図書館にて学術論文等の検索方法を学び、実践する。
- 【第5回】
 テーマ：セミナー課題（テーマ決め）
 内容・方法：自身に取り組む課題のテーマを決める。
- 【第6回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査）
 内容・方法：テーマに属した文献を検索し、手に入れる。
- 【第7回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査）
 内容・方法：検索した文献の要点をまとめる。
- 【第8回】
 テーマ：セミナー課題（複数の文献を読む）
 内容・方法：複数の文献を読み比べ、テーマに沿ってまとめる。
- 【第9回】
 テーマ：セミナー課題（レポートをまとめる）
 内容・方法：得られた情報を文章にまとめる。
- 【第10回】
 テーマ：セミナー課題（図表の作成方法）
 内容・方法：図表にするデータをもとに、図表を作成する。
- 【第11回】
 テーマ：セミナー課題（レポートの完成）
 内容・方法：図表を加えたレポートを完成させる。
- 【第12回】
 テーマ：社会人のマナー
 内容・方法：外部講師による社会人マナー教育講演
- 【第13回】
 テーマ：課題のチェック（相互チェック）
 内容・方法：共通課題の提出に向け、第三者のチェックを受ける。
- 【第14回】
 テーマ：共通課題提出
 内容・方法：課題提出、まとめ
- 【第15回】
 テーマ：1年間を振り返って

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

【1回】

- ①事前学修課題：特になし
- ②事後学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.0時間

【第2回】

- ①事前学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.5時間
- ②事後学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間

【第3回】

- ①事前学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間
- ②事後学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間

【第4回】

- ①事前学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間
- ②事後学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間

【第5回】

- ①事前学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間
- ②事後学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間

【第6回】

- ①事前学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間
- ②事後学修課題：新聞などで最新の情報を集める。2.5時間

【第8回】

- ①事前学修課題：課題のフォーマットを準備する。2.5時間
- ②事後学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間

【第9回】

- ①事前学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間
- ②事後学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間

【第10回】

- ①事前学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間
- ②事後学修課題：図表作成の際に使用したデータの出典等をチェックする。2.5時間

【第11回】

- ①事前学修課題：作成した図表のチェック、参考文献の情報をまとめる。2.5時間
- ②事後学修課題：完成したレポートの誤字脱字等のチェックを行う。2.5時間

【第12回】

- ①事前学修課題：事前に配布された資料を確認する。1.0時間
- ②事後学修課題：学んだ事を実生活で実践する。1.0時間

【第13回】

- ①事前学修課題：課題をプリントアウトする。1.5時間
- ②事後学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間

【第14回】

- ①事前学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間
- ②事後学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。2.0時間

【第15回】

- ①事前学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。1.0時間
- ②事後学修課題：卒業研究のテーマについて考える。1.5時間

課題に対するフィードバックの方法

第3～11回および第14回発表準備時に適宜フィードバックを行う。
成績評価の方法・基準（方針）

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回以上欠席（遅刻または早退3回につき1回欠席とする）した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。
セミナーⅡb課題について、正当な理由なしに〆切期限に未提出および未完成の場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題への取り組む態度(20) 進捗状況確認のためのレポート提出(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2
その他	40	第14回共通課題提出について、規定内容の達成度(40)	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用せずプリント(資料)を配布する
参考書	必要に応じて適宜紹介する

履修条件・他の科目との関連

- ・レポート課題については、作成途中のレポートを各授業回にて提出することがとめられる。
- ・新型コロナウイルス感染対策等の理由で授業が遠隔となる場合があります。その際は随時ユニパまたはGoogleクラスルーム等で連絡いたします。
- ・欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示するので確認すること。掲示されない場合もありますのでその際は各担当教員までメール等で問い合わせ受け取ってください。欠席した場合でも提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。

授業コード	10400432	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡbでは、セミナーⅡaで養ってきた力をさらに高め、自己学習力を高めていくことを目的とします。また、社会に出て仕事をしていく上で不可欠な力を身につけることを習得します。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 必要な情報を収集し、分析および活用することができる。
2. 自分の伝えたいことを他人に伝達することができる。
3. ソーシャルスキルが向上する。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：夏休みに取り組んだことを振り返り、今後の計画を立てる。
- 【第2回】
 テーマ：夏休みの課題発表
 内容・方法：夏休みに取り組んだことを発表し、その成果と今後の計画について述べる。
- 【第3回】
 テーマ：セミナー課題について
 内容・方法：セミナーⅡの課題について、取り組み方、進め方、まとめ方等の説明
- 【第4回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査方法を知る）
 内容・方法：図書館にて学術論文等の検索方法を学び、実践する。
- 【第5回】
 テーマ：セミナー課題（テーマ決め）
 内容・方法：自身に取り組む課題のテーマを決める。
- 【第6回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査）
 内容・方法：テーマに属した文献を検索し、手に入れる。
- 【第7回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査）
 内容・方法：検索した文献の要点をまとめる。
- 【第8回】
 テーマ：セミナー課題（複数の文献を読む）
 内容・方法：複数の文献を読み比べ、テーマに沿ってまとめる。
- 【第9回】
 テーマ：セミナー課題（レポートをまとめる）
 内容・方法：得られた情報を文章にまとめる。
- 【第10回】
 テーマ：セミナー課題（図表の作成方法）
 内容・方法：図表にするデータをもとに、図表を作成する。
- 【第11回】
 テーマ：セミナー課題（レポートの完成）
 内容・方法：図表を加えたレポートを完成させる。
- 【第12回】
 テーマ：社会人のマナー
 内容・方法：外部講師による社会人マナー教育講演
- 【第13回】
 テーマ：課題のチェック（相互チェック）
 内容・方法：共通課題の提出に向け、第三者のチェックを受ける。
- 【第14回】
 テーマ：共通課題提出
 内容・方法：課題提出、まとめ
- 【第15回】
 テーマ：1年間を振り返って
 内容・方法：1年間を振り返り、発表する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【1回】
①事前学修課題：特になし
②事後学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.0時間
【第2回】
①事前学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.5時間
②事後学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間
【第3回】
①事前学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間
②事後学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間
【第4回】
①事前学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間
②事後学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間
【第5回】
①事前学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間
②事後学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間
【第6回】
①事前学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間
②事後学修課題：新聞などで最新の情報を集める。2.5時間
【第8回】
①事前学修課題：課題のフォーマットを準備する。2.5時間
②事後学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間
【第9回】
①事前学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間
②事後学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間
【第10回】
①事前学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間
②事後学修課題：図表作成の際に使用したデータの出典等をチェックする。2.5時間
【第11回】
①事前学修課題：作成した図表のチェック、参考文献の情報をまとめる。2.5時間
②事後学修課題：完成したレポートの誤字脱字等のチェックを行う。2.5時間
【第12回】
①事前学修課題：事前に配布された資料を確認する。1.0時間
②事後学修課題：学んだ事を実生活で実践する。1.0時間
【第13回】
①事前学修課題：課題をプリントアウトする。1.5時間
②事後学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間
【第14回】
①事前学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間
②事後学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。2.0時間
【第15回】
①事前学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。1.0時間
②事後学修課題：卒業研究のテーマについて考える。1.5時間

課題に対するフィードバックの方法

第3～11回および第14回発表準備時に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。また正当な理由なく欠席（遅刻または早退3回につき1回欠席とする）した場合は、担当教員からレポート等の課題提出の指示があります。欠席等レポート5回以上未提出で「K」評価とする。
 セミナーⅡb課題について、正当な理由なしに〆切期限に未提出および未完成の場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題への取り組む態度(20) 進捗状況確認のためのレポート提出(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート試験(10)	1, 2
その他	40	第14回共通課題提出について、規定内容の達成度(40)	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用せずプリント(資料)を配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> レポート課題については、作成途中のレポートを各授業回にて提出することがもとめられる。 新型コロナウイルス感染対策等の理由で授業が遠隔となる場合があります。その際は随時ユニパ

履修条件・他の科目との関連

たはGoogleクラスルーム等で連絡いたします。

・欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示するので確認すること。掲示されない場合もありますのでその際は各担当教員までメール等で問い合わせ受け取ってください。欠席した場合でも提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。

授業コード	10400433	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡbでは、セミナーⅡaで養ってきた力をさらに高め、自己学習力を高めていくことを目的とする。また、社会に出て仕事をしていく上で不可欠な力を身につけることを習得する。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する。

到達目標

1. 必要な情報を収集し、分析および活用することができる。
2. 自分の伝えたいことを他人に伝達することができる。
3. ソーシャルスキルの向上。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：夏休みに取り組んだことを振り返り、今後の計画を立てる。
- 【第2回】
 テーマ：夏休みの課題発表
 内容・方法：夏休みに取り組んだことを発表し、その成果と今後の計画について述べる。
- 【第3回】
 テーマ：セミナー課題について
 内容・方法：セミナーⅡの課題について、取り組み方、進め方、まとめ方等の説明
- 【第4回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査方法を知る）
 内容・方法：図書館にて学術論文等の検索方法を学び、実践する。
- 【第5回】
 テーマ：セミナー課題（テーマ決め）
 内容・方法：自身に取り組む課題のテーマを決める。
- 【第6回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査）
 内容・方法：テーマに属した文献を検索し、手に入れる。
- 【第7回】
 テーマ：セミナー課題（文献調査）
 内容・方法：検索した文献の要点をまとめる。
- 【第8回】
 テーマ：セミナー課題（複数の文献を読む）
 内容・方法：複数の文献を読み比べ、テーマに沿ってまとめる。
- 【第9回】
 テーマ：セミナー課題（レポートをまとめる）
 内容・方法：得られた情報を文章にまとめる。
- 【第10回】
 テーマ：セミナー課題（図表の作成方法）
 内容・方法：図表にするデータをもとに、図表を作成する。
- 【第11回】
 テーマ：セミナー課題（レポートの完成）
 内容・方法：図表を加えたレポートを完成させる。
- 【第12回】
 テーマ：社会人のマナー
 内容・方法：外部講師による社会人マナー教育講演
- 【第13回】
 テーマ：課題のチェック（相互チェック）
 内容・方法：共通課題の提出に向け、第三者のチェックを受ける。
- 【第14回】
 テーマ：共通課題提出
 内容・方法：課題提出、まとめ
- 【第15回】
 テーマ：1年間を振り返って

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要である。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要である。

【1回】

- ①事前学修課題：特になし
- ②事後学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.0時間

【第2回】

- ①事前学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.5時間
- ②事後学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間

【第3回】

- ①事前学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間
- ②事後学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間

【第4回】

- ①事前学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間
- ②事後学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間

【第5回】

- ①事前学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間
- ②事後学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間

【第6回】

- ①事前学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間
- ②事後学修課題：新聞などで最新の情報を集める。2.5時間

【第8回】

- ①事前学修課題：課題のフォーマットを準備する。2.5時間
- ②事後学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間

【第9回】

- ①事前学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間
- ②事後学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間

【第10回】

- ①事前学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間
- ②事後学修課題：図表作成の際に使用したデータの出典等をチェックする。2.5時間

【第11回】

- ①事前学修課題：作成した図表のチェック、参考文献の情報をまとめる。2.5時間
- ②事後学修課題：完成したレポートの誤字脱字等のチェックを行う。2.5時間

【第12回】

- ①事前学修課題：事前に配布された資料を確認する。1.0時間
- ②事後学修課題：学んだ事を実生活で実践する。1.0時間

【第13回】

- ①事前学修課題：課題をプリントアウトする。1.5時間
- ②事後学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間

【第14回】

- ①事前学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間
- ②事後学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。2.0時間

【第15回】

- ①事前学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。1.0時間
- ②事後学修課題：卒業研究のテーマについて考える。1.5時間

課題に対するフィードバックの方法

第3回～第11回および第14回発表準備時に適宜フィードバックを行う。
成績評価の方法・基準（方針）

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回以上欠席（遅刻または早退3回につき1回欠席とする）した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。
セミナーⅡb課題について、正当な理由なしにメ切期限に未提出および未完成の場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題への取り組む態度(20) 進捗状況確認のためのレポート提出(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2
その他	40	第14回共通課題提出について、規定内容の達成度(40)	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用せずプリント(資料)を配布する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・レポート課題については、作成途中のレポートを各授業回にて提出することが求められる。
- ・授業が遠隔となる場合は、適宜、UNIPAまたはGoogleクラスルーム等で連絡する。
- ・欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに掲示するので確認すること。掲示されない場合は担当教員までメール等で問い合わせ、受け取る。欠席した場合でも提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。

授業コード	10400441	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む
 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ業界を理解する

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ業界における様々な業種を理解する
- 3) 将来の進路に向けて学修を深めるスポーツの専門領域を決定する

授業計画

【第1回】オリエンテーション
履修登録を確認する。今後のスケジュールの確認を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。

【第2回】【学修成果の登録（マイステップ）】
(基幹教育機構・担当部分)

【第3回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第4回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第5回】スポーツ業界研究②
スポーツマネジメント分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。

【第6回】スポーツ業界研究③
健康・スポーツ分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。

【第7回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第8回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第9回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第10回】セミナーⅢガイダンス①
セミナーⅢ担当教員から、専門分野に関係する研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。
事前学修：担当教員の専門を確認する。
事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第11回】セミナーⅢガイダンス②

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に係る研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第12回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第13回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括

1年間の振り返り、レポート提出

事前学修：設定した計画について、他者に説明できるように準備する。

事後学修：他者の意見も参考にしながら、来年度に向けての学修目標を設定し、実行する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。

授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	クラス別活動の課題(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(40)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2, 3

テキスト	特になし
------	------

参考書	井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019 その他、必要に応じて授業で紹介する
-----	---------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。 なお、セミナー I a、セミナー I bおよびセミナー II aの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400442	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む
 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ業界を理解する

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ業界における様々な業種を理解する
- 3) 将来の進路に向けて学修を深めるスポーツの専門領域を決定する

授業計画

【第1回】オリエンテーション

履修登録を確認する。今後のスケジュールの確認を行う。

事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。

事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。

【第2回】【学修成果の登録（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第3回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第4回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第5回】スポーツ業界研究②

スポーツマネジメント分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。

事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。

事後学修：講演内容をまとめる。

【第6回】スポーツ業界研究③

健康・スポーツ分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。

事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。

事後学修：講演内容をまとめる。

【第7回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第8回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第9回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第10回】セミナーⅢガイダンス①

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に関係する研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第11回】セミナーⅢガイダンス②

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に係る研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第12回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第13回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括

1年間の振り返り、レポート提出

事前学修：設定した計画について、他者に説明できるように準備する。

事後学修：他者の意見も参考にしながら、来年度に向けての学修目標を設定し、実行する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。

授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	クラス別活動の課題(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(40)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2, 3

テキスト	特になし
------	------

参考書	井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019 その他、必要に応じて授業で紹介する
-----	---------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。 なお、セミナー I a、セミナー I bおよびセミナー II aの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400443	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む
 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ業界を理解する

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ業界における様々な業種を理解する
- 3) 将来の進路に向けて学修を深めるスポーツの専門領域を決定する

授業計画

【第1回】オリエンテーション
履修登録を確認する。今後のスケジュールの確認を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。

【第2回】【学修成果の登録（マイステップ）】
（基幹教育機構・担当部分）

【第3回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第4回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第5回】スポーツ業界研究②
スポーツマネジメント分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。

【第6回】スポーツ業界研究③
健康・スポーツ分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。

【第7回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第8回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第9回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第10回】セミナーⅢガイダンス①
セミナーⅢ担当教員から、専門分野に関係する研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。
事前学修：担当教員の専門を確認する。
事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第11回】セミナーⅢガイダンス②

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に係る研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第12回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第13回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括

1年間の振り返り、レポート提出

事前学修：設定した計画について、他者に説明できるように準備する。

事後学修：他者の意見も参考にしながら、来年度に向けての学修目標を設定し、実行する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。

授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	クラス別活動の課題(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(40)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2, 3

テキスト	特になし
------	------

参考書	井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019 その他、必要に応じて授業で紹介する
-----	---------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。 なお、セミナー I a、セミナー I bおよびセミナー II aの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400444	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb (課題探究) [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む
 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ業界を理解する

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ業界における様々な業種を理解する
- 3) 将来の進路に向けて学修を深めるスポーツの専門領域を決定する

授業計画

【第1回】オリエンテーション

履修登録を確認する。今後のスケジュールの確認を行う。

事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。

事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。

【第2回】【学修成果の登録（マイステップ）】

(基幹教育機構・担当部分)

【第3回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第4回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第5回】スポーツ業界研究②

スポーツマネジメント分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。

事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。

事後学修：講演内容をまとめる。

【第6回】スポーツ業界研究③

健康・スポーツ分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。

事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。

事後学修：講演内容をまとめる。

【第7回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第8回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第9回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第10回】セミナーⅢガイダンス①

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に関係する研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第11回】セミナーⅢガイダンス②

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に係る研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第12回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第13回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括

1年間の振り返り、レポート提出

事前学修：設定した計画について、他者に説明できるように準備する。

事後学修：他者の意見も参考にしながら、来年度に向けての学修目標を設定し、実行する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。

授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	クラス別活動の課題(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(40)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2, 3

テキスト	特になし
------	------

参考書	井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019 その他、必要に応じて授業で紹介する
-----	---------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。 なお、セミナー I a、セミナー I bおよびセミナー II aの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400445	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む
 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ業界を理解する

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ業界における様々な業種を理解する
- 3) 将来の進路に向けて学修を深めるスポーツの専門領域を決定する

授業計画

【第1回】オリエンテーション
履修登録を確認する。今後のスケジュールの確認を行う。
事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。
事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。

【第2回】【学修成果の登録（マイステップ）】
（基幹教育機構・担当部分）

【第3回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第4回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第5回】スポーツ業界研究②
スポーツマネジメント分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。

【第6回】スポーツ業界研究③
健康・スポーツ分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。
事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。
事後学修：講演内容をまとめる。

【第7回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第8回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第9回】個別セミナー
各セミナーの個別課題に取り組む。
事前学修：セミナー担当教員より指示する。
事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第10回】セミナーⅢガイダンス①
セミナーⅢ担当教員から、専門分野に関係する研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。
事前学修：担当教員の専門を確認する。
事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第11回】セミナーⅢガイダンス②

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に係る研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第12回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第13回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括

1年間の振り返り、レポート提出

事前学修：設定した計画について、他者に説明できるように準備する。

事後学修：他者の意見も参考にしながら、来年度に向けての学修目標を設定し、実行する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。

授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	クラス別活動の課題(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(40)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2, 3

テキスト	特になし
------	------

参考書	井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019 その他、必要に応じて授業で紹介する
-----	---------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。 なお、セミナー I a、セミナー I bおよびセミナー II aの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400446	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb（課題探究） [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は1年次に身につけたスタディスキルの応用として、下記の項目について取り組む
 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、成果を発表するプロセスを実践する
 2) 学びを深めるスポーツの専門領域を決定するために、スポーツ業界を理解する

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

- 1) 自ら課題を発見し、その解決のための考えをまとめ、発表することができる
- 2) スポーツ業界における様々な業種を理解する
- 3) 将来の進路に向けて学修を深めるスポーツの専門領域を決定する

授業計画

【第1回】オリエンテーション

履修登録を確認する。今後のスケジュールの確認を行う。

事前学修：履修登録を完了させ、シラバスを確認する。

事後学修：自身が取得したい資格・検定を見つめ直す。

【第2回】【学修成果の登録（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第3回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第4回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第5回】スポーツ業界研究②

スポーツマネジメント分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。

事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。

事後学修：講演内容をまとめる。

【第6回】スポーツ業界研究③

健康・スポーツ分野に関係する仕事に携わる外部講師による講演を聞く。

事前学修：スポーツ業界の業種を調べておく。

事後学修：講演内容をまとめる。

【第7回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第8回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第9回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第10回】セミナーⅢガイダンス①

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に関係する研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第11回】セミナーⅢガイダンス②

セミナーⅢ担当教員から、専門分野に係る研究成果、関連する仕事、セミナーで実施する内容について概説する。

事前学修：担当教員の専門を確認する。

事後学修：各教員の研究分野について整理し、興味があるセミナーの担当教員と面談を行う。

【第12回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第13回】個別セミナー

各セミナーの個別課題に取り組む。

事前学修：セミナー担当教員より指示する。

事後学修：セミナー担当教員より指示する。

【第14回】【学修成果の振り返り（マイステップ）】

（基幹教育機構・担当部分）

【第15回】総括

1年間の振り返り、レポート提出

事前学修：設定した計画について、他者に説明できるように準備する。

事後学修：他者の意見も参考にしながら、来年度に向けての学修目標を設定し、実行する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載の通り。

授業内容を事前把握し、授業後に理解度を確認するためには、授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後学修をあわせて、1単位あたり45時間が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはオフィスアワー、ゼミ授業前後にて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。30分以上の遅刻は欠席とする。
- 2) 課題の未実施・未提出がある場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 3) 授業出欠、テスト等で不正が発覚した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	クラス別活動の課題(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート(40)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢等(10)	1, 2, 3

テキスト	特になし
------	------

参考書	井下 千以子, 思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版], 慶應義塾大学出版会, 2019 その他、必要に応じて授業で紹介する
-----	---------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本授業は、3年次への進級要件の単位になっているため、必ず履修すること。 なお、セミナー I a、セミナー I bおよびセミナー II aの内容を基に展開されるため、十分に復習して履修すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400509	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教養総合講義 [対面]				
シラバス執筆(全員)	柴崎 雅子、山本 明志、森上 幸夫				
シラバス執筆(主)	柴崎 雅子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

＜教養総合講義の目的と概要＞

本授業は、特定の教養科目を個別に学ぶのではなく、人文・社会等の諸科学の分野、それらを横断した学際的な分野における学問的な問題、方法、対象の理解を通して総合的な教養の知を修得することが目的である。加えて、与えられた問題の正解を求めるような高校までの「勉強」から、ものごとや現象の本質・真理を絶えず考究するような大学での「主体的かつ探究的な学びの態度」へと、学生諸君の姿勢が変化することも目指している。

授業は、種々の分野を広く包含するように3名の教員が5回ずつ担当するオムニバス形式で展開する。自らが所属する学科の専門性に近い内容を学ぶ場合は自らの関心をさらに深めることを意識しながら、また所属学科の専門性と異なる内容を学ぶ場合は学問的視野を広げて自らの関心につながる点を見出すことを意識しながら受講することが求められる。

到達目標

1. 講義を受ける学問分野における問題、方法、対象に関する知識や概念を説明できる。
2. 講義を受ける学問分野において研究されているテーマについて論理的に説明できる。
3. 教養特定科目（1年次後期以降の配当科目）を中心に学修計画をたてることのできる。

授業計画

担当：柴崎雅子（人間健康科学科）

テーマ：人間の生と死

①脳死移植

脳死移植について概説する。日本の脳死移植件数は世界的に見て異様に少ない。その背後にある、西洋の心身二元論とは異なる日本の心身一如の考え方を説明し、改めて脳死は「人の死」なのかを探る。

②生殖補助医療

人工授精、体外受精、代理出産について概説する。また精子・卵子提供をめぐる問題、出自を知る権利についても説明し、現代における親子関係の複雑化について考察する。

③命の選別

新型コロナウイルス感染症のように急激に患者数が増えると、希望するすべての人に治療を行うことができなくなる。そうした場合に実施されるトリアージと、その背景にある生命の質（QOL）や功利主義といった考え方について説明し、「命の選別」の実態を探る。

④人間の命と動物の命

「命を大切に」と言うとき、私たちは通常、人間のことしか考えていない。人間以外の動物の扱いに関して、現代的畜産などの倫理的問題について概説する。また「動物の権利」運動についても紹介する。

⑤死生観

日本でも近年、QOLを著しく下げる治療や単なる延命治療を拒否することが可能になってきた。世界ではさらに、医師による自死援助や安楽死を合法化する国や地域が増えている。21世紀におけるこうした死生観の変化について解説する。

担当：山本明志（基幹教育機構）

テーマ：東アジアの文化を理解する中から、「我々の普通」を相対化する

①中華人民共和国の風土と漢民族の文化

「中国」は南北に分けて理解することが有効であり、それぞれに文化的特性があることを検討する。さらに、「中国」の多数民族である漢民族の世界観について、日本と比較しながら考察する。

②モンゴルの遊牧文化

モンゴル人遊牧民の生活について家畜との関わりから検討し、その合理性と環境への影響について検討する。また、日本とモンゴルが関わるいくつかの「商品」について考察する。

③チベットの仏教文化

日本人も仏教やお寺には多少馴染みがあるだろうが、ヒマラヤ山脈の北側に住むチベット人たちはどのような仏教文化を育ててきたのか、輪廻の考え方・鳥葬の文化などから検討する。

④「照葉樹林文化論」の射程

「日本文化」をより大きな地域設定の中でとらえる「照葉樹林文化論」は、日本文化の「固有性」「特異性」認識をいかに変えうるのかを検討する。

⑤「少数民族」と近代国民国家

国民国家の中において文化的少数者集団が出現するしくみを解説し、特に中華人民共和国における「少数民族」の問題について検討する。

担当：森上幸夫（基幹教育機構）

テーマ：心のリスクにいかに向き合うか

①イントロダクション「心の科学とは何か」

人間の心に対する研究アプローチは、自然科学、人文科学、社会科学のいずれが適切なのかという議論、そして心の定義と心理的な問題・課題（心のリスク）について概説する。

②加齢の心理

人間が高齢になることで生じる心身の変化を概説し、加齢および高齢に対する適応の仕方であるサクセスフ

ル・エージングを概説する。

③被災の心理

災害に対する準備の程度により個人および社会のダメージが異なってくる。人間は、災害に対していかなる心理的な準備と対応が必要であるのかを概説する。

④罹患の心理

健康は現代の人間において最大の興味・関心の対象であるとも言える。健康が損なわれたり失われたりするときの心の状態について概説する。

⑤コンクルージョン「心のリスクへの対処」

生きていくうえで体験する、衰え・災害・不健康などから生じる心理的な問題や課題（心のリスク）に対して、人間はいかに対処しているのか、いかに生きることを意味づけているのかを考察する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各担当教員より事前事後の学習の内容が示される。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員より課題に対するフィードバックの方法が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員より「授業内での評価」の方法・基準（方針）が示される。ただし各教員は担当5回分で25点の「授業内での評価」の点数をもつが、3回以上の欠席があった場合、その教員の担当5回分の成績は0点となる。科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。また「定期試験に代わるレポート」は25点の配点で、科目全クラスの授業終了後 GoogleClassroom にて課題が掲示される。このレポートを提出しない場合、ただちに「K評価（評価不能）」にはならないが、科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	担当教員3名 × 25	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	25	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 原則テキストは使わない。

参考書 参考書については各担当教員から示される。

履修条件・他の科目との関連 3名の担当教員によるオムニバス科目であるので、課題に関する指示や提出の方法が異なるので注意すること。また、本科目は1年次後期以降開講の「教養特定科目」群の各科目と関連している。

授業コード	10400503	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教養総合講義 [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫、藤田 了、杉寄 聡紀				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

＜教養総合講義の目的と概要＞

本授業は、特定の教養科目を個別に学ぶのではなく、人文・社会等の諸科学の分野、それらを横断した学際的な分野における学問的な問題、方法、対象の理解を通して総合的な教養の知を修得することが目的である。加えて、与えられた問題の正解を求めるような高校までの「勉強」から、ものごとや現象の本質・真理を絶えず考究するような大学での「主体的かつ探究的な学びの態度」へと、学生諸君の姿勢が変化することも目指している。

授業は、種々の分野を広く包含するように3名の教員が5回ずつ担当するオムニバス形式で展開する。自らが所属する学科の専門性に近い内容を学ぶ場合は自らの関心をさらに深めることを意識しながら、また所属学科の専門性と異なる内容を学ぶ場合は学問的視野を広げて自らの関心につながる点を見出すことを意識しながら受講することが求められる。

到達目標

1. 講義を受ける学問分野における問題、方法、対象に関する知識や概念を説明できる。
2. 講義を受ける学問分野において研究されているテーマについて論理的に説明できる。
3. 教養特定科目（1年次後期以降の配当科目）を中心に学修計画をたてることのできる。

授業計画

担当：森上幸夫（基幹教育機構）

テーマ：心のリスクにいかに向き合うか

①イントロダクション「心の科学とは何か」

人間の心に対する研究アプローチは、自然科学、人文科学、社会科学のいずれが適切なのかという議論、そして心の定義と心理的な問題・課題（心のリスク）について概説する。

②加齢の心理

人間が高齢になることで生じる心身の変化を概説し、加齢および高齢に対する適応の仕方であるサクセフル・エイジングを概説する。

③被災の心理

災害に対する準備の程度により個人および社会のダメージが異なってくる。人間は、災害に対していかなる心理的な準備と対応が必要であるのかを概説する。

④罹患の心理

健康は現代の人間において最大の興味・関心の対象であるとも言える。健康が損なわれたり失われたりするときの心の状態について概説する。

⑤コンクルージョン「心のリスクへの対処」

生きていくうえで体験する、衰え・災害・不健康などから生じる心理的な問題や課題（心のリスク）に対して、人間はいかに対処しているのか、いかに生きることを意味づけているのかを考察する。

担当：藤田了（人間健康科学科）

テーマ：少子高齢社会について

①少子高齢化の現状

現在のわが国の合計特殊出生率や高齢化率及び歴史的変遷などについて概説する。また、家族形態や婚姻の現状についても説明し、現在における世帯の問題について考察する。

②子どもの福祉について

少子化に対するさまざまな施策や取り組みについて概説する。また、児童養護施設や乳児院、児童自立支援施設などについても説明し、児童福祉施設における今日的な課題について考察する。

③高齢者の福祉について

高齢者の介護などの負担を家族だけでなく社会全体で支える制度である「介護保険制度」について概説する。また、介護を必要とする人に対するさまざまな在宅介護サービスについて紹介する。

④少子高齢化時代の高齢者の住まいについて

独居や高齢者世帯が増えてきている現状を理解し介護を必要とする人に対する「住まい」について考察する。さらに、要介護高齢者を対象としたさまざまな施設介護サービスについても紹介する。

⑤高齢者の暮らしを支える環境整備

要介護高齢者支援における福祉用具や住宅の改修について概説する。介護が必要になった場合、日常生活にはどのような問題があるのか生活環境の視点で考察する。

担当：杉寄聡紀（国際観光学科）

テーマ：テーマパークをビジネス視点で考える

①イントロダクション「テーマパークと遊園地の違い」

テーマパークの定義やテーマパークを構成する要素について概説し、遊びに行く場所から、ビジネス視点への転換を図る。

②テーマパークは必要か？

レジャー（余暇）視点でテーマパークを見つめ、ディスカッションを通じてテーマパークやレジャーの必要性について考える機会とする。

③テーマパークビジネスの特徴

テーマパークに人が集まる理由とその仕組み・仕掛けについて概説する。

④海外テーマパーク事例研究

海外と日本のテーマパークの比較から、ビジネスのヒントや求められるレジャー・観光について考える機会とする。

⑤コンクレーション「テーマパークから事業構想とキャリアを考える」

テーマパークを実例に、事業の発想・構想そして実現の方法を知り、自身の今後のキャリア形成について考える機会とする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各担当教員より事前事後の学習の内容が示される。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員より課題に対するフィードバックの方法が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員より「授業内での評価」の方法・基準(方針)が示される。

ただし各教員は担当5回分で25点の「授業内での評価」の点数をもつが、3回以上の欠席があった場合、その教員の担当5回分の成績は0点となる。科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

また「定期試験に代わるレポート」は25点の配点で、科目全クラスの授業終了後 GoogleClassroom にて課題が掲示される。このレポートを提出しない場合、ただちに「K評価(評価不能)」にはならないが、科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	担当教員3名×25	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	25	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

原則テキストは使わない。

参考書

参考書については各担当教員から示される。

履修条件・他の科目との関連

3名の担当教員によるオムニバス科目であるので、課題に関する指示や提出の方法が異なるので注意すること。また、本科目は1年次後期以降開講の「教養特定科目」群の各科目と関連している。

授業コード	10400504	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教養総合講義 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志、柴寄 雅子、森上 幸夫				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

＜教養総合講義の目的と概要＞

本授業は、特定の教養科目を個別に学ぶのではなく、人文・社会等の諸科学の分野、それらを横断した学際的な分野における学問的な問題、方法、対象の理解を通して総合的な教養の知を修得することが目的である。加えて、与えられた問題の正解を求めるような高校までの「勉強」から、ものごとや現象の本質・真理を絶えず考究するような大学での「主体的かつ探究的な学びの態度」へと、学生諸君の姿勢が変化することも目指している。

授業は、種々の分野を広く包含するように3名の教員が5回ずつ担当するオムニバス形式で展開する。自らが所属する学科の専門性に近い内容を学ぶ場合は自らの関心をさらに深めることを意識しながら、また所属学科の専門性と異なる内容を学ぶ場合は学問的視野を広げて自らの関心につながる点を見出すことを意識しながら受講することが求められる。

到達目標

1. 講義を受ける学問分野における問題、方法、対象に関する知識や概念を説明できる。
2. 講義を受ける学問分野において研究されているテーマについて論理的に説明できる。
3. 教養特定科目（1年次後期以降の配当科目）を中心に学修計画をたてることのできる。

授業計画

担当：山本明志（基幹教育機構）

テーマ：東アジアの文化を理解する中から、「我々の普通」を相対化する

①中華人民共和国の風土と漢民族の文化

「中国」は南北に分けて理解することが有効であり、それぞれに文化的特性があることを検討する。さらに、「中国」の多数民族である漢民族の世界観について、日本と比較しながら考察する。

②モンゴルの遊牧文化

モンゴル人遊牧民の生活について家畜との関わりから検討し、その合理性と環境への影響について検討する。また、日本とモンゴルが関わるいくつかの「商品」について考察する。

③チベットの仏教文化

日本人も仏教やお寺には多少馴染みがあるだろうが、ヒマラヤ山脈の北側に住むチベット人たちはどのような仏教文化を育ててきたのか、輪廻の考え方・鳥葬の文化などから検討する。

④「照葉樹林文化論」の射程

「日本文化」をより大きな地域設定の中でとらえる「照葉樹林文化論」は、日本文化の「固有性」「特異性」認識をいかに変えるのかを検討する。

⑤「少数民族」と近代国民国家

国民国家の中において文化的少数者集団が出現するしくみを解説し、特に中華人民共和国における「少数民族」の問題について検討する。

担当：森上幸夫（基幹教育機構）

テーマ：心のリスクにいかに向き合うか

①イントロダクション「心の科学とは何か」

人間の心に対する研究アプローチは、自然科学、人文科学、社会科学のいずれが適切なのかという議論、そして心の定義と心理的な問題・課題（心のリスク）について概説する。

②加齢の心理

人間が高齢になることで生じる心身の変化を概説し、加齢および高齢に対する適応の仕方であるサクセフル・エイジングを概説する。

③被災の心理

災害に対する準備の程度により個人および社会のダメージが異なってくる。人間は、災害に対していかなる心理的な準備と対応が必要であるのかを概説する。

④罹患の心理

健康は現代の人間において最大の興味・関心の対象であるとも言える。健康が損なわれたり失われたりするときの心の状態について概説する。

⑤コンクルージョン「心のリスクへの対処」

生きていくうえで体験する、衰え・災害・不健康などから生じる心理的な問題や課題（心のリスク）に対して、人間はいかに対処しているのか、いかに生きることを意味づけているのかを考察する。

担当：柴寄雅子（人間健康科学科）

テーマ：人間の生と死

①脳死移植

脳死移植について概説する。日本の脳死移植件数は世界的に見て異様に少ない。その背後にある、西洋の心身二元論とは異なる日本の心身一如の考え方を説明し、改めて脳死は「人の死」なのかを探る。

②生殖補助医療

人工授精、体外受精、代理出産について概説する。また精子・卵子提供をめぐる問題、出自を知る権利についても説明し、現代における親子関係の複雑化について考察する。

③命の選別

新型コロナウイルスのように急激に患者数が増えると、希望するすべての人に治療を行うことができなくなる。そうした場合に実施されるトリアージと、その背景にある生命の質（QOL）や功利主義といった考え方について説明し、「命の選別」の実態を探る。

④人間の命と動物の命

「命を大切に」と言うとき、私たちは通常、人間のことしか考えていない。人間以外の動物の扱いに関して、現代的畜産などの倫理的問題について概説する。また「動物の権利」運動についても紹介する。

⑤死生観

日本でも近年、QOLを著しく下げる治療や単なる延命治療を拒否することが可能になってきた。世界ではさらに、医師による自死援助や安楽死を合法化する国や地域が増えている。21世紀におけるこうした死生観の変化について解説する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各担当教員より事前事後の学習の内容が示される。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員より課題に対するフィードバックの方法が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員より「授業内での評価」の方法・基準（方針）が示される。ただし各教員は担当5回分で25点の「授業内での評価」の点数をもつが、3回以上の欠席があった場合、その教員の担当5回分の成績は0点となる。科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。また「定期試験に代わるレポート」は25点の配点で、科目全クラスの授業終了後 GoogleClassroom にて課題が掲示される。このレポートを提出しない場合、ただちに「K評価（評価不能）」にはならないが、科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	担当教員3名 × 25	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	25	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 原則テキストは使わない。

参考書 参考書については各担当教員から示される。

履修条件・他の科目との関連 3名の担当教員によるオムニバス科目であるので、課題に関する指示や提出の方法が異なるので注意すること。また、本科目は1年次後期以降開講の「教養特定科目」群の各科目と関連している。

授業コード	10400505	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教養総合講義 [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉寄 聡紀、柴寄 雅子、森上 幸夫				
シラバス執筆(主)	杉寄 聡紀				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<教養総合講義の目的と概要>

本授業は、特定の教養科目を個別に学ぶのではなく、人文・社会等の諸科学の分野、それらを横断した学際的な分野における学問的な問題、方法、対象の理解を通して総合的な教養の知を修得することが目的である。加えて、与えられた問題の正解を求めるような高校までの「勉強」から、ものごとや現象の本質・真理を絶えず考究するような大学での「主体的かつ探究的な学びの態度」へと、学生諸君の姿勢が変化することも目指している。

授業は、種々の分野を広く包含するように3名の教員が5回ずつ担当するオムニバス形式で展開する。自らが所属する学科の専門性に近い内容を学ぶ場合は自らの関心をさらに深めることを意識しながら、また所属学科の専門性と異なる内容を学ぶ場合は学問的視野を広げて自らの関心につながる点を見出すことを意識しながら受講することが求められる。

到達目標

1. 講義を受ける学問分野における問題、方法、対象に関する知識や概念を説明できる。
2. 講義を受ける学問分野において研究されているテーマについて論理的に説明できる。
3. 教養特定科目（1年次後期以降の配当科目）を中心に学修計画をたてることのできる。

授業計画

担当：杉寄聡紀（国際観光学科）

テーマ：テーマパークをビジネス視点で考える

①イントロダクション「テーマパークと遊園地の違い」

テーマパークの定義やテーマパークを構成する要素について概説し、遊びに行く場所から、ビジネス視点への転換を図る。

②テーマパークは必要か？

レジャー（余暇）視点でテーマパークを見つめ、ディスカッションを通じてテーマパークやレジャーの必要性について考える機会とする。

③テーマパークビジネスの特徴

テーマパークに人が集まる理由とその仕組み・仕掛けについて概説する。

④海外テーマパーク事例研究

海外と日本のテーマパークの比較から、ビジネスのヒントや求められるレジャー・観光について考える機会とする。

⑤コンクルージョン「テーマパークから事業構想とキャリアを考える」

テーマパークを実例に、事業の発想・構想そして実現の方法を知り、自身の今後のキャリア形成について考える機会とする。

担当：森上幸夫（基幹教育機構）

テーマ：心のリスクにいかに向き合うか

①イントロダクション「心の科学とは何か」

人間の心に対する研究アプローチは、自然科学、人文科学、社会科学のいずれが適切なのかという議論、そして心の定義と心理的な問題・課題（心のリスク）について概説する。

②加齢の心理

人間が高齢になることで生じる心身の変化を概説し、加齢および高齢に対する適応の仕方であるサクセスフル・エイジングを概説する。

③被災の心理

災害に対する準備の程度により個人および社会のダメージが異なってくる。人間は、災害に対していかなる心理的な準備と対応が必要であるのかを概説する。

④罹患の心理

健康は現代の人間において最大の興味・関心の対象であるとも言える。健康が損なわれたり失われたりするときの心の状態について概説する。

⑤コンクルージョン「心のリスクへの対処」

生きていくうえで体験する、衰え・災害・不健康などから生じる心理的な問題や課題（心のリスク）に対して、人間はいかに対処しているのか、いかに生きることを意味づけているのかを考察する。

担当：柴寄雅子（人間健康科学科）

テーマ：人間の生と死

①脳死移植

脳死移植について概説する。日本の脳死移植件数は世界的に見て異様に少ない。その背後にある、西洋の心身二元論とは異なる日本の心身一如の考え方を説明し、改めて脳死は「人の死」なのかを探る。

②生殖補助医療

人工授精、体外受精、代理出産について概説する。また精子・卵子提供をめぐる問題、出自を知る権利についても説明し、現代における親子関係の複雑化について考察する。

③命の選別

新型コロナ感染症のように急激に患者数が増えると、希望するすべての人に治療を行うことができなくなる。

そうした場合に実施されるトリアージと、その背景にある生命の質（QOL）や功利主義といった考え方について説明し、「命の選別」の実態を探る。

④人間の命と動物の命

「命を大切に」と言うとき、私たちは通常、人間のことしか考えていない。人間以外の動物の扱いに関して、現代的畜産などの倫理的問題について概説する。また「動物の権利」運動についても紹介する。

⑤死生観

日本でも近年、QOLを著しく下げる治療や単なる延命治療を拒否することが可能になってきた。世界ではさらに、医師による自死援助や安楽死を合法化する国や地域が増えている。21世紀におけるこうした死生観の変化について解説する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各担当教員より事前事後の学習の内容が示される。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員より課題に対するフィードバックの方法が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員より「授業内での評価」の方法・基準（方針）が示される。ただし各教員は担当5回分で25点の「授業内での評価」の点数をもつが、3回以上の欠席があった場合、その教員の担当5回分の成績は0点となる。科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。また「定期試験に代わるレポート」は25点の配点で、科目全クラスの授業終了後 GoogleClassroom にて課題が掲示される。このレポートを提出しない場合、ただちに「K評価（評価不能）」にはならないが、科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	担当教員3名×25	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	25	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 原則テキストは使わない。

参考書 参考書については各担当教員から示される。

履修条件・他の科目との関連 3名の担当教員によるオムニバス科目であるので、課題に関する指示や提出の方法が異なるので注意すること。また、本科目は1年次後期以降開講の「教養特定科目」群の各科目と関連している。

授業コード	10400506	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教養総合講義 [対面]				
シラバス執筆(全員)	柴寄 雅子、山本 明志、森上 幸夫				
シラバス執筆(主)	柴寄 雅子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

<教養総合講義の目的と概要>

本授業は、特定の教養科目を個別に学ぶのではなく、人文・社会等の諸科学の分野、それらを横断した学際的な分野における学問的な問題、方法、対象の理解を通して総合的な教養の知を修得することが目的である。加えて、与えられた問題の正解を求めるような高校までの「勉強」から、ものごとや現象の本質・真理を絶えず考究するような大学での「主体的かつ探究的な学びの態度」へと、学生諸君の姿勢が変化することも目指している。

授業は、種々の分野を広く包含するように3名の教員が5回ずつ担当するオムニバス形式で展開する。自らが所属する学科の専門性に近い内容を学ぶ場合は自らの関心をさらに深めることを意識しながら、また所属学科の専門性と異なる内容を学ぶ場合は学問的視野を広げて自らの関心につながる点を見出すことを意識しながら受講することが求められる。

到達目標

1. 講義を受ける学問分野における問題、方法、対象に関する知識や概念を説明できる。
2. 講義を受ける学問分野において研究されているテーマについて論理的に説明できる。
3. 教養特定科目（1年次後期以降の配当科目）を中心に学修計画をたてることのできる。

授業計画

担当：森上幸夫（基幹教育機構）

テーマ：心のリスクにいかに向き合うか

①イントロダクション「心の科学とは何か」

人間の心に対する研究アプローチは、自然科学、人文科学、社会科学のいずれが適切なのかという議論、そして心の定義と心理的な問題・課題（心のリスク）について概説する。

②加齢の心理

人間が高齢になることで生じる心身の変化を概説し、加齢および高齢に対する適応の仕方であるサクセスフル・エイジングを概説する。

③被災の心理

災害に対する準備の程度により個人および社会のダメージが異なってくる。人間は、災害に対していかなる心理的な準備と対応が必要であるのかを概説する。

④罹患の心理

健康は現代の人間において最大の興味・関心の対象であるとも言える。健康が損なわれたり失われたりするときの心の状態について概説する。

⑤コンクルージョン「心のリスクへの対処」

生きていくうえで体験する、衰え・災害・不健康などから生じる心理的な問題や課題（心のリスク）に対して、人間はいかに対処しているのか、いかに生きることを意味づけているのかを考察する。

担当：柴寄雅子（人間健康科学科）

テーマ：人間の生と死

①脳死移植

脳死移植について概説する。日本の脳死移植件数は世界的に見て異様に少ない。その背後にある、西洋の心身二元論とは異なる日本の心身一如の考え方を説明し、改めて脳死は「人の死」なのかを探る。

②生殖補助医療

人工授精、体外受精、代理出産について概説する。また精子・卵子提供をめぐる問題、出自を知る権利についても説明し、現代における親子関係の複雑化について考察する。

③命の選別

新型コロナウイルス感染症のように急激に患者数が増えると、希望するすべての人に治療を行うことができなくなる。そうした場合に実施されるトリアージと、その背景にある生命の質（QOL）や功利主義といった考え方について説明し、「命の選別」の実態を探る。

④人間の命と動物の命

「命を大切に」と言うとき、私たちは通常、人間のことしか考えていない。人間以外の動物の扱いに関して、現代的畜産などの倫理的問題について概説する。また「動物の権利」運動についても紹介する。

⑤死生観

日本でも近年、QOLを著しく下げる治療や単なる延命治療を拒否することが可能になってきた。世界ではさらに、医師による自死援助や安楽死を合法化する国や地域が増えている。21世紀におけるこうした死生観の変化について解説する。

担当：山本明志（基幹教育機構）

テーマ：東アジアの文化を理解する中から、「我々の普通」を相対化する

①中華人民共和国の風土と漢民族の文化

「中国」は南北に分けて理解することが有効であり、それぞれに文化的特性があることを検討する。さらに、「中国」の多数民族である漢民族の世界観について、日本と比較しながら考察する。

②モンゴルの遊牧文化

モンゴル人遊牧民の生活について家畜との関わりから検討し、その合理性と環境への影響について検討する。

また、日本とモンゴルが関わるいくつかの「商品」について考察する。

③チベットの仏教文化

日本人も仏教やお寺には多少馴染みがあるだろうが、ヒマラヤ山脈の北側に住むチベット人たちはどのような仏教文化を育んできたのか、輪廻の考え方・鳥葬の文化などから検討する。

④「照葉樹林文化論」の射程

「日本文化」をより大きな地域設定の中でとらえる「照葉樹林文化論」は、日本文化の「固有性」「特異性」認識をいかに変えるのかを検討する。

⑤「少数民族」と近代国民国家

国民国家の中において文化的少数者集団が出現するしくみを解説し、特に中華人民共和国における「少数民族」の問題について検討する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各担当教員より事前事後の学習の内容が示される。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員より課題に対するフィードバックの方法が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員より「授業内での評価」の方法・基準(方針)が示される。

ただし各教員は担当5回分で25点の「授業内での評価」の点数をもつが、3回以上の欠席があった場合、その教員の担当5回分の成績は0点となる。科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

また「定期試験に代わるレポート」は25点の配点で、科目全クラスの授業終了後 GoogleClassroom にて課題が掲示される。このレポートを提出しない場合、ただちに「K評価(評価不能)」にはならないが、科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	担当教員3名×25	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	25	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 原則テキストは使わない。

参考書 参考書については各担当教員から示される。

履修条件・他の科目との関連 3名の担当教員によるオムニバス科目であるので、課題に関する指示や提出の方法が異なるので注意すること。また、本科目は1年次後期以降開講の「教養特定科目」群の各科目と関連している。

授業コード	10400601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	教養演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 昌子、幸川 由美子、村田 菜穂子				
シラバス執筆(主)	中村 昌子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

<教養演習の目的>

大学生として必須の基本的な技能（スキル）である「文章読解、文章表現、数的処理」は教養を修得する根幹であると捉え、それを身につけることを目的とした授業である。基本的技能である日本語を用いたコミュニケーション・スキル及び数的処理や統計図表読解に関わるスキルを大学初年次の間で適切に運用できること、そしてこれらのスキルが礎となり今後本学での専門教育で必要となる専門的スキルや進路先となる社会で求められる高度なスキルの修得が容易になることも目指している。

<教養演習の概要>

授業は、それぞれのスキルに関する専門の複数教員がオムニバスで授業を担当する形式である。また、各教員から指定される授業内容の予習復習や本学のドリル教材を用いた学習など事前事後の学習を重視する。

さらに、本授業の学習成果目標に到達しそうな場合は学修支援プログラムと連携して、これらの基本スキルを必ず修得するための補習機会を準備している。

到達目標

1. 論理的に考えることができる
2. 筋道を立てて説明することができる
3. 文章を読み解くことができる
4. 学術的文章を書くことができる
5. 表・グラフなどの統計資料を読み解くことができる

授業計画

<文章読解の基礎>

担当：中村昌子

- 第1回：情報の整理（文章の構造の理解）
 第2回：文章の理解の基本（記述と説明の区別、事実と意見の区別）
 第3回：文章を読み解く（パラグラフの理解と分析）
 第4回：文章を要約する（パラグラフの要点の整理）
 第5回：文章を解釈する（パラグラフの関係の理解）

<文章表現の基礎>

担当：村田菜穂子・奥田和子

- 第1回：大学生のレポートとは（アカデミックワードの使用、事実と意見の区別）
 第2回：アカデミック・ライティングとは（レポートの基本構成、先行研究の役割）
 第3回：レポートにおける決まりごと（引用の方法、注のつけ方、参考文献の書き方）
 第4回：Eメールの書き方（基本的なEメールの書き方、連絡する、返信を求める）
 第5回：説明する（わかりやすい説明の順序）

<数的処理の基礎>

担当：幸川由美子

- 第1回：論理表の活用（文章の内容を表で整理し、論理的に正しい関係を導く）
 第2回：推論（3段論法や論理式を活用し、論理的に物事を推理する）
 第3回：集合と論理（集合論のベン図などを用いて、論理的に物事の関係性を導く）
 第4回：表とグラフの基礎（表やグラフの見方など、統計の基礎を学ぶ）
 第5回：表とグラフの読み取り（表やグラフから統計データを読み取る）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各担当教員より事前事後の学習の内容が示される。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員より課題に対するフィードバックの方法が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員より「授業内での評価」の方法・基準（方針）が示される。
 ただし各教員は担当5回分で25点の「授業内での評価」の点数をもつが、3回以上の欠席があった場合、その教員の担当5回分の成績は0点となる。科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。
 また「定期試験に代わるレポート」は25点の配点で、科目全クラスの授業終了後 GoogleClassroom にて課題が掲示される。このレポートを提出しない場合、ただちに「K評価（評価不能）」にはならないが、科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	担当教員3名×25	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	25	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	なし
------	----

参考書	参考書については各担当教員から示される。
-----	----------------------

履修条件・他の科目との関連	3名の担当教員によるオムニバス科目であるので、課題に関する指示や提出の方法が異なるので注意すること。また、本科目はセミナー I a(課題解決)、セミナー I b(課題解決)と関連している。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400604	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	教養演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 昌子、幸川 由美子、奥田 和子				
シラバス執筆(主)	中村 昌子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

<教養演習の目的>

大学生として必須の基本的な技能（スキル）である「文章読解、文章表現、数的処理」は教養を修得する根幹であると捉え、それを身につけることを目的とした授業である。基本的技能である日本語を用いたコミュニケーション・スキル及び数的処理や統計図表読解に関わるスキルを大学初年次の間で適切に運用できること、そしてこれらのスキルが礎となり今後本学での専門教育で必要となる専門的スキルや進路先となる社会で求められる高度なスキルの修得が容易になることも目指している。

<教養演習の概要>

授業は、それぞれのスキルに関する専門の複数教員がオムニバスで授業を担当する形式である。また、各教員から指定される授業内容の予習復習や本学のドリル教材を用いた学習など事前事後の学習を重視する。

さらに、本授業の学習成果目標に到達しそうな場合は学修支援プログラムと連携して、これらの基本スキルを必ず修得するための補習機会を準備している。

到達目標

1. 論理的に考えることができる
2. 筋道を立てて説明することができる
3. 文章を読み解くことができる
4. 学術的文章を書くことができる
5. 表・グラフなどの統計資料を読み解くことができる

授業計画

<文章読解の基礎>

担当：中村昌子

- 第1回：情報の整理（文章の構造の理解）
- 第2回：文章の理解の基本（記述と説明の区別、事実と意見の区別）
- 第3回：文章を読み解く（パラグラフの理解と分析）
- 第4回：文章を要約する（パラグラフの要点の整理）
- 第5回：文章を解釈する（パラグラフの関係の理解）

<文章表現の基礎>

担当：村田菜穂子・奥田和子

- 第1回：大学生のレポートとは（アカデミックワードの使用、事実と意見の区別）
- 第2回：アカデミック・ライティングとは（レポートの基本構成、先行研究の役割）
- 第3回：レポートにおける決まりごと（引用の方法、注のつけ方、参考文献の書き方）
- 第4回：Eメールの書き方（基本的なEメールの書き方、連絡する、返信を求める）
- 第5回：説明する（わかりやすい説明の順序）

<数的処理の基礎>

担当：幸川由美子

- 第1回：論理表の活用（文章の内容を表で整理し、論理的に正しい関係を導く）
- 第2回：推論（3段論法や論理式を活用し、論理的に物事を推理する）
- 第3回：集合と論理（集合論のベン図などを用いて、論理的に物事の関係性を導く）
- 第4回：表とグラフの基礎（表やグラフの見方など、統計の基礎を学ぶ）
- 第5回：表とグラフの読み取り（表やグラフから統計データを読み取る）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各担当教員より事前事後の学習の内容が示される。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員より課題に対するフィードバックの方法が示される。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員より「授業内での評価」の方法・基準（方針）が示される。ただし各教員は担当5回分で25点の「授業内での評価」の点数をもつが、3回以上の欠席があった場合、その教員の担当5回分の成績は0点となる。科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。また「定期試験に代わるレポート」は25点の配点で、科目全クラスの授業終了後 GoogleClassroom にて課題が掲示される。このレポートを提出しない場合、ただちに「K評価（評価不能）」にはならないが、科目の評定・GPAの低下につながるので注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	担当教員3名×25	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	25	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	なし
------	----

参考書	参考書については各担当教員から示される。
-----	----------------------

履修条件・他の科目との関連	3名の担当教員によるオムニバス科目であるので、課題に関する指示や提出の方法が異なるので注意すること。また、本科目はセミナー I a(課題解決)、セミナー I b(課題解決)と関連している。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400702	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	日本の文化 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	増成 一倫				
シラバス執筆(主)	増成 一倫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、古代～近代・現代までの時代から幅広くテーマをとりあげ、日本の文化について概観していく。その際、各時代の文化を代表する様々な作品や文化財を数多く取り上げることで、その特徴を明らかにしていく。あわせて、それぞれの文化が展開した時代の特徴や、文化の担い手の性格などにも言及することで、それぞれの文化が成立・展開した背景を、歴史的な側面からも検討していく。

さらに、各時代の文化の比較を通じて、それぞれの文化の関係や相違点を理解するとともに、現代社会とのつながりや相違点、多様な社会や文化の在り方についても理解を深め、日本の文化について、多角的な視点から、主体的に学ぶ手がかりとすることを目指す。

なお、講義の進度や受講者の興味・関心などに応じて、授業計画は変更することがある。

★この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

1. 日本の文化について、それぞれの文化の大まかな特徴や、どのような代表的な作品・文化財があるのかを説明できる。
2. 日本の文化について、文化の担い手や歴史的な背景との関連から、その特徴を説明できる。
3. 授業で取り扱った様々な文化の特徴や歴史的な性格について、現代社会とのつながりや相違点に着目しつつ、その性格を説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：本講義の進め方、評価方法について説明する。あわせて、日本の文化の特徴や、大まかな流れについて説明する。
- 【第2回】
 テーマ：日本史概説-古代・中世を中心に-
 内容・方法：日本の文化の特徴を理解するための前提として、古代・中世（旧石器時代～戦国時代まで）の日本の歴史を概説する。
- 【第3回】
 テーマ：日本史概説-近世・近現代を中心に-
 内容・方法：日本の文化の特徴を理解するための前提として、近世・近現代（安土桃山時代～現代まで）の日本の歴史を概説する。
- 【第4回】
 テーマ：旧石器時代、縄文時代の文化
 内容・方法：代表的な作品や文化財をとりあげ、旧石器時代、縄文時代の人々の暮らしと文化について考察する。
- 【第5回】
 テーマ：弥生時代、古墳時代の文化
 内容・方法：代表的な作品や文化財をとりあげ、弥生時代、古墳時代の文化について、政治的なまとまりの形成過程との関連にも言及しながら考察する。
- 【第6回】
 テーマ：飛鳥時代の文化-飛鳥文化、白鳳文化-
 内容・方法：飛鳥時代の文化である飛鳥文化、白鳳文化について、法隆寺や薬師寺などの寺院の文化財を主にとりあげその特徴を考察する。
- 【第7回】
 テーマ：奈良時代の文化-天平文化-
 内容・方法：奈良時代の文化である天平文化について、仏教と国際関係に主に着目し、その特徴を考察する。
- 【第8回】
 テーマ：平安時代の文化（その①）-弘仁・貞観文化-
 内容・方法：平安時代前期の文化である弘仁・貞観文化について、密教などの新たな仏教の展開に主に着目し、その特徴を考察する。
- 【第9回】
 テーマ：平安時代の文化（その②）-国風文化、院政期の文化-
 内容・方法：平安時代中期～後期の文化である国風文化・院政期の文化について、浄土教などの仏教や、文学作品や絵画作品などの文化に着目して考察する。
- 【第10回】
 テーマ：鎌倉時代の文化
 内容・方法：鎌倉時代の文化について、鎌倉仏教の特徴や文学作品などの性格に着目して考察する。
- 【第11回】
 テーマ：室町時代の文化-南北朝文化、北山文化、東山文化-
 内容・方法：室町時代の文化である南北朝文化、北山文化、東山文化について、その特色や現在の伝統文化との

関係に着目して考察する。

【第12回】

テーマ：安土桃山時代の文化、江戸時代の文化（その①）-元禄文化-

内容・方法：安土・桃山時代の文化と、江戸時代前期の代表的な文化である元禄文化を中心に、代表的な作品や文化財を取り上げその特徴を考察する。

【第13回】

テーマ：江戸時代の文化（その②）-化政文化-

内容・方法：江戸時代後期の文化である化政文化について、庶民文化としての性格に着目しつつその特徴を考察する。

【第14回】

テーマ：近代・現代の文化-明治時代以降の文化を中心に-

内容・方法：明治時代から現代にいたる文化について、社会や生活の変化に着目し、その特徴を考察する。

【第15回】

テーマ：本講義のまとめ

内容・方法：講義で取り扱ったテーマを振り返りながら、それぞれの時代の文化の特徴についてまとめる。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- ・第1回目については、事前学習としてシラバスに目を通しておく。
- ・第1回目の事後学習、第2回目～第14回目までの事前事後学習、第15回目の事前学習では、授業で配信した映像（音声）教材や授業資料をよく確認し、内容を復習しておく。
- ・第15回目の事後学習では、これまでの授業で配布された映像（音声）教材や授業資料を熟読し、内容を振り返っておく。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業ごとの課題の解答については、次回の授業でポイントを解説する。
- ・授業ごとの感想ペーパーで出された質問などについては、可能な限り次回の授業で回答する。
- ・期末レポートの評価については、希望があれば個別に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業のそれぞれの回ごとに提示・提出する課題や感想ペーパーと、期末レポートにより総合的に評価のうえ、100点満点に換算して60点以上を合格とし、単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回の課題の解答内容(20)と、感想ペーパーの内容(20)により評価する。	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	期末レポートの内容(60)により評価する。	3
その他	0		

テキスト 授業ごとに映像(音声)教材や、授業資料を配布(配信)する。

参考書 必要に応じて、各授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
・配信する授業資料等を用いて、真面目に授業を受けること。
・授業にて指示する課題やレポート課題に真面目に取り組み、期限を厳守して提出すること。

授業コード	10400803	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	心理学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

まず、心理学の基礎的な理論として、臨床心理学や心理学の全体像、心理学の研究や実験などについて学ぶ。その後、心理学の幅広い分野として、認知や学習、感情、人格や脳・神経などの身体的側面についても学ぶ。最終的には、教育分野、産業分野、司法分野などの各分野にまつわる心理学について学び、心理学の基礎を幅広く学ぶことを目的とする。講義全体を通して、学んだことが日常生活に活かせることを目的とする。担当教員が長年にわたり現場で心理支援を行ってきた経験をもとに、実務家教員として、理論的理解に加えて実践や事例を交えて、できるだけわかりやすく講義を展開する。

★この授業は、遠隔授業となります。

リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出する形で実施する予定です。

到達目標

1. 基本的な心理学の理論や支援のポイントなどについて理解し、説明することができる
2. 毎回の授業の内容を理解し、その授業のポイントを説明することができる
3. 授業で習った内容を、実感をもって理解し、どのように自身の人間関係や生活に役立てられるかを説明することができる

授業計画

- 【第1回】 心理学・臨床心理学の全体像 1
内容：生理学から実験心理学、精神分析への発展の過程や、その過程の種々の理論について学ぶ。
- 【第2回】 心理学・臨床心理学の全体像 2
内容：ユング心理学、パーソン・センタードアプローチ、行動主義、認知行動療法などについて学ぶ。
- 【第3回】 心理学・臨床心理学の全体像 3
内容：人間性心理学、ゲシュタルト心理学、認知神経科学、社会構成主義などについて学ぶ。
- 【第4回】 心理学における研究
内容：心理学における主な研究法や研究倫理などについて学ぶ。
- 【第5回】 心理学に関する実験
内容：心理学における実験計画の立て方、実験の方法、実験結果の解釈と報告書の作成などについて学ぶ。
- 【第6回】 知覚および認知
内容：人の感覚・知覚の機序とそれぞれの器官に障害が出た場合の理解などについて学ぶ。
- 【第7回】 学習および言語
内容：人の行動に影響する学習の概念や言語の習得について学ぶ。
- 【第8回】 感情および性格、人格
内容：感情とはどのようなものか、性格や人格について学ぶ。
- 【第9回】 社会および集団に関する心理学
内容：対人関係や集団における人の意識や行動などについて学ぶ。
- 【第10回】 脳・神経の働き
内容：脳や神経系の構造や機能、記憶などについて学ぶ。
- 【第11回】 障がい者（児）の心理学
内容：障がいの国際的分類や障がいに関する法律等について学び、障がい者（児）の心理社会的課題と支援について学ぶ。
- 【第12回】 教育に関する心理学
内容：教育にかかわる法律や教育現場における心理支援について学ぶ。
- 【第13回】 発達
内容：人の発達に関する主要な理論と生涯発達について学ぶ。
- 【第14回】 産業・組織に関する心理学
内容：産業分野に関する法律と職場でのメンタルヘルス支援などについて学ぶ。
- 【第15回】 司法・犯罪に関する心理学
内容：司法分野の制度や必要な心理支援について学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位45時間の学習が必要です。毎回の事前学習として、関連する文献・資料を読んでおくこと（1.5時間）。そして事後学習として授業中に追記した資料を使って復習し、授業で習った概要について説明できる程度に理解を深めておくことが必要である（2.5時間）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の提出課題を採点し、必要に応じてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で課されるミニレポート(60)。第1回～第15回の授業の最後にミニレポート(各4点)を実施する(4×15=60)。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	教員が作成した資料を-googleクラスルームに掲示する。
------	-------------------------------

参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	心理学関連の科目を履修していることが望ましい。 新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する場合があります。その場合は随時連絡します。 5回以上の欠席は認めません。自分で予定を管理して、課題の提出を行ってください。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10400804	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	安原 彰子				
シラバス執筆(主)	安原 彰子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

心理学は心や行動について科学的に理解し、自分自身や他者といった人間理解に役立つ学問である。本講義では、心理学事象の基礎となる感情、判断と意思決定、パーソナリティについて学ぶ。これらを通して、自分や他者の心理を理解するために、人間の心の働きを「記述する」と「説明する」ことを目標とする。
★この授業はオンデマンド型の遠隔授業です。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

到達目標

1. 人間の心の働きを記述することができる
2. 人間の心の働きを説明することができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
 - ・本科目の目的と概要について述べる。
- 【第2回】 感情 1
 - ・感情の定義と理論を紹介する。
- 【第3回】 感情 2
 - ・感情の機能について紹介する。
- 【第4回】 感情 3
 - ・感情と関連のある精神疾患について紹介する。
- 【第5回】 感情 4
 - ・ポジティブ感情と健康の関連について紹介する。
- 【第6回】 判断と意思決定 1
 - ・人の思考のクセを紹介する。
- 【第7回】 判断と意思決定 2
 - ・社会的影響力について紹介する。
- 【第8回】 判断と意思決定 3
 - ・承諾の心理メカニズムについて紹介する。
- 【第9回】 判断と意思決定 4
 - ・リスク認知の特徴について紹介する。
- 【第10回】 判断と意思決定 5
 - ・災害発生時の意思決定の特徴、行動について紹介する。
- 【第11回】 パーソナリティ 1
 - ・パーソナリティの理論を紹介する。
- 【第12回】 パーソナリティ 2
 - ・パーソナリティの発達や形成要因について紹介する。
- 【第13回】 パーソナリティ 3
 - ・パーソナリティの測定方法について紹介する。
- 【第14回】 パーソナリティ 4
 - ・パーソナリティ障害について紹介する。
- 【第15回】 最新の研究トピックと応用分野
 - ・最新の心理学研究の紹介と応用分野について紹介する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する
 - 【事後】 オリエンテーションの説明内容にもとづき心理学の位置づけを理解し、書き出す
- 第2回
 - 【事前】 感情の理論について文献を検索し、その内容を書き出す
 - 【事後】 授業で提示した「感情の理論」についての課題に取り組む。
- 第3回
 - 【事前】 自身の経験を振り返り、感情の機能を考え、書き出す。
 - 【事後】 授業で提示した「感情の機能」についての課題に取り組む。
- 第4回
 - 【事前】 感情に関連のある精神疾患について検索し、その内容を書き出す。
 - 【事後】 授業で提示した「精神疾患と感情の関連」についての課題に取り組む。
- 第5回
 - 【事前】 ポジティブ感情の機能に関する文献を検索し、その内容を書き出す。
 - 【事後】 授業で提示した「ポジティブ感情と健康」についての課題に取り組む。

第6回	【事前】 2重過程理論について文献を検索し、その内容を書き出す。 【事後】 授業で提示した「2つの思考システム」についての課題に取り組む。
第7回	【事前】 自身の経験を振り返り、他者の依頼を承する心理学的メカニズムを考え、書き出す。 【事後】 授業で提示した「社会的影響力」についての課題に取り組む。
第8回	【事前】 社会的影響力について文献を検索し、その内容を書き出す。 【事後】 授業で提示した「承諾の心理」についての課題に取り組む。
第9回	【事前】 リスク認知に関する文献を検索し、その内容を書き出す。 【事後】 授業で提示した「リスク認知」についての課題に取り組む。
第10回	【事前】 災害時の意思決定について文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】 授業で提示した「災害時の意思決定」についての課題に取り組む。
第11回	【事前】 パーソナリティの理論について文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】 授業で提示した「パーソナリティ理論」についての課題に取り組む。
第12回	【事前】 パーソナリティの発達に関する文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】 授業で提示した「パーソナリティの発達」についての課題に取り組む。
第13回	【事前】 性格検査に関する文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】 授業で提示した「パーソナリティの測定方法」についての課題に取り組む。
第14回	【事前】 パーソナリティ障害に関する文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】 授業で提示した「パーソナリティ障害」についての課題に取り組む。
第15回	【事前】 心理学の最新の研究について検索し、その内容を書き出す。 【事後】 授業で提示した「心理学の応用分野」についての課題に取り組む。

課題に対するフィードバックの方法

<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業内課題に対して授業内で講評・解説します。 ・レポートは、評価基準表にもとづく評価結果をフィードバックします。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、授業内で実施される課題、定期試験に代わるレポートに基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	毎回の授業内で課す課題(計15回・各4)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	これまでに学習した内容について課題を出す(40)	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布します
------	-------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。
-----	-------------------

履修条件・他の科目との関連	受講にあたり、特別な配慮を必要とする学生は申し出てください。
---------------	--------------------------------

授業コード	10400903	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

社会とは何か、われわれは社会とどうかかわっているのか。社会学とは「社会」についての学問であるが、とりわけ「私たちの社会における常識」の成り立ちを問い直す学問である。本講義は社会学の代表的理論や現代の社会問題を概説しながら、学生が社会学の基本的な考え方を習得することを目的とする。ただし社会学の入門編として位置づけ、映像メディアや新聞記事、身近で日常的な事例を多く用いながら、われわれが生きる現代社会を読み解くツールとしての社会学を学ぶ。

★この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等に参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

1. さまざまな社会学者の基本的な考え方や用いられる概念を理解し、説明できる。
2. 社会学的想像力を養い、社会状況や自分の立ち位置を判断できる。
3. 現代の社会問題について深く考察し、説明できる。

授業計画

第1回	イントロダクション-社会学とは何か
第2回	家族の社会学 —近代家族の成立と変容を踏まえ、現代の家族が抱えている問題について解説する
第3回	ジェンダーの社会学 —性愛関係の多様性や日本の社会規範の問題について、A・ギデンズの学説を取り上げて解説する
第4回	学校の社会学 —I・イリイチの脱学校化、土井隆義のキャラ化やカースト化の議論を踏まえ、学校の自明性を問い直す
第5回	労働の社会学 —日本型経営や制度を踏まえ、これから求められる働き方や労働のありかたを解説する
第6回	都市と地域の社会学 —都市化がもたらす生活様式の変容を踏まえて、都市・地域におけるコミュニティの問題を解説する
第7回	医療と福祉の社会学 —近代施設としての病院や医療福祉の制度の問題について、医療化の議論を取り上げ解説する
第8回	小括-前半内容を振り返る
第9回	格差の社会学 —現代の貧困問題を「不可視化」というキーワードを用いて解説する
第10回	メディアの社会学 —インターネットやSNSの普及がわれわれの生活や関わり方に与えた影響と問題について解説する
第11回	消費の社会学 —1980年以降の高度消費社会化の議論を踏まえ、現代のアイデンティティについて考える
第12回	監視と排除の社会学 —D・ライアンの監視社会化の議論を踏まえたうえで、監視がもたらす社会的排除の問題を解説する
第13回	若者と社会学 —社会学における若者論を概観し、日本の若者が抱える問題や困難について解説する
第14回	「幸せ」について考える —他国の様々な社会制度や実践と比較して、われわれが生きている日本社会における「幸福」を考える
第15回	まとめ-われわれはいかなる時代を生きているか

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：社会問題に関心をもち、現代社会の生きづらさについての情報を収集する（各2時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、社会問題やわれわれの日常生活を問い直し文章化する（各2時間）

課題に対するフィードバックの方法

授業冒頭にコメントペーパーをフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	70	リアクションペーパー(70)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	新聞の社会面などを読み、時事問題に対して関心をもつこと。
---------------	------------------------------

授業コード	10400904	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	古川 岳志				
シラバス執筆(主)	古川 岳志				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

社会学は、その名の通り社会を考える学問である。私たちは社会の中で、社会に影響を受けながら生き、それによって社会を形作る一翼を担っている。社会は私たちにとっておなじみのものだが、それだけにかえて、客観的に捉えるのが難しいものでもある。社会学は、この身近だけれど曖昧で捕まえにくい「社会」という対象に真正面から取り組み、考察、分析し、さまざまな問題を発見し解決の道を探求してきた。この講義では、テーマとして主に家族と都市に関する現代社会の課題をとりあげ、社会学の視点から考察していく。
 [この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間にZoom等で参加する方法)ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。]

到達目標

1. 現代の家族や都市をめぐる社会問題について概要を説明できる。
2. 身近な社会問題について社会学の概念を使って考察できる。

授業計画

- 【第1回】社会学とは何か：社会学の基本的な考え方について概説する
- 【第2回】近代社会と社会学：社会学がどのように誕生したのか。歴史について概説する。
- 【第3回】家族の社会学1（家族を考えるための基礎概念）：社会学の中で家族がどのように問題化されてきたのかを概説する。
- 【第4回】家族の社会学2（家族の近代）：近代家族という概念について説明する。
- 【第5回】家族の社会学3（家族の変容）：近代以降、家族がどのように変化してきたのかを説明する。
- 【第6回】ジェンダーの社会学1（女性解放運動と現代社会）：男女平等はどのように進んできたのか。歴史的過程を含めて解説する。
- 【第7回】ジェンダーの社会学2（恋愛と社会）：恋愛結婚の普及にはどのような背景があるのか。大衆文化の変化も含め再考する。
- 【第8回】ジェンダーの社会学3（男性学について）：「男らしさ」という社会的拘束について説明する。
- 【第9回】都市の社会学1（都市と農村）：社会学において都市はどのように考えられてきたのかを概説する。
- 【第10回】都市の社会学2（都市の匿名性と自由）：ゴッフマンの社会学理論を通じて、都市における匿名性について学ぶ。
- 【第11回】都市の社会学3（都市のサブカルチャー）：都市空間において雑種の文化がどのように形成されるのかについて考察する。
- 【第12回】文化の社会学1（近代社会とスポーツ）：近代スポーツという概念が何を意味するのかを学ぶ。
- 【第13回】文化の社会学2（スポーツとメディア）：スポーツの発展とマス・メディアの関係について学ぶ。
- 【第14回】文化の社会学3（越境する文化）：国境を超えたポピュラーカルチャーの広がりについて、K-popを事例にして考察する。
- 【第15回】全体のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回のテーマについて、予備知識を得ておく。2回目以降は、前回の復習をしておくこと。各回ごとに2時間程度を要する。
 事後学習：講義内容をノートにまとめ、復習しておくこと。各回ごとに2時間程度を要する。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説は、次回の講義中に行う。ミニレポートに関しては授業内で適宜フィードバックを行う。希望者には最終レポートの講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	小テスト(70)	1, 2
授業外での評価	10	ミニレポート(10)	1, 2
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート(20)	1, 2
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料等を配布する。

参考書 講義中に適宜指示する。

履修条件・他の科目との関連 社会に関するあらゆる科目と関連がある。毎回積極的に受講すること。

授業コード	10401003	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	暮らしのなかの憲法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	三輪 淳之				
シラバス執筆(主)	三輪 淳之				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

憲法というと、自分たちにとっては遠い存在のように感じられ、あるいは法律の中でもとっつきにくいイメージがあるが、実際には憲法は、私たちが社会活動を行う中で大いに影響があり、無意識のうちに私たちも憲法の規律のもとにおかれている。

本授業では、遠い存在である憲法について、担当教員が長年に亘り企業において「国際法務」業務に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、実際に経験した実例を取り入れながら講義を展開する。その際、憲法の存在意義、暮らしのなかでの憲法の適用のされ方やありかたについて理解を深めるため、双方向授業の形式を取り入れる。

双方向型の授業を通じ、受講生が自らの頭で思考して出す意見もふまえ、日常生活における法律行為や時事問題について解説をしていく。

本講義は憲法を身近なものとすることをめざすものであり、そのための実践的な学びの場とすることを狙っている。

到達目標

1. 憲法そのものの存在意義や基本的な枠組みについて記述することができる。
2. 憲法的視点を身につけることにより、社会的・政治的問題について主体的に考え、説明することができる。
3. 憲法という題材を通して、社会のあらゆる立場にある人の利害調整について多角的視点を持って分析結果を発表することができる。

授業計画

第1回；ガイダンス - 日本国憲法とは？

1. 憲法の定義と目的
2. 憲法の基本原理と構造
「憲法の目的、法律の中の憲法の位置づけや大まかな構成について学ぶ」

第2回；天皇と象徴

1. 天皇の位置付け
2. 天皇の仕事
「天皇の立場や仕事内容、財産を学ぶ」

第3回；人権の制限

1. 外国人
2. 公務員
3. 受刑者
4. 未成年

「日本人と外国人の人権は同じか、公務員の人権はどのように保障されるか；猿払事件等の判例をとりあげて解説する」

第4回；信教の自由

1. 思想良心の自由
2. 信教の自由

「国による宗教的行為とは何なのか；津地鎮祭事件等の判例を取り上げて解説する」

第5回；表現の自由とプライバシーの侵害

1. 表現の自由と知る権利（インターネット上の表現）
2. 検閲の禁止
3. 通信の秘密
4. プライバシー権（個人情報保護等）と肖像権
5. 学問の自由
6. 教育を受ける権利と義務教育

「プライバシーのあり方の変化と最近のネット社会での動きや、チャタレイ夫人事件等の判例を取り上げて表現の自由について解説し、大学の自治についても触れる」

第6回；婚姻の自由と男女平等

1. 婚姻の自由
2. 男女平等（社会・企業における取り組み）
3. 再婚禁止期間
4. 積極的是正措置

「男女平等の歴史に触れ、女性の再婚禁止期間変更の法改正や、子供の父親確定ルール等について解説する」

第7回；勤労の権利・義務と生存権

1. 勤労の権利・義務と過重労働問題等
2. 職業選択の自由
3. 生存権（生活保護制度等）・財産権
4. 労働権（労働三権）

「働く権利と義務や職業を選ぶ自由について、そして過労死とブラック企業等について解説する」

第8回；立法と国会

1. 立法の仕事（選挙制度のあり方、国会組織・運営）
2. 国会議員の特権

「法律やルールができるまでの動きや、政治家の仕事・役割等について解説する」

第9回；行政と内閣

1. 行政権
2. 議院内閣制
3. 内閣総理大臣の役割と権限
4. 独立行政委員会

「首相や大臣はどうやって選ばれるのか、政治とは何か等について解説する」

第10回；司法と裁判所

1. 司法権
2. 裁判員制度
3. 違憲立法審査権
4. 裁判官の独立・権限

- 「裁判とは何か；裁判所の仕組みについて解説し、国民参加の裁判員制度等について解説する」
- 第11回；地方自治
1. 地方自治・住民投票（地方自治体の組織、大阪都構想）
- 「国と地方の政治や最近の大阪都構想と住民投票等について解説する」
- 第12回；憲法9条と自衛隊
1. 憲法9条 2. 自衛隊の位置付け 3. 自衛権
「戦争放棄とは何を意味するのか；自衛隊の位置づけについて、砂川事件判例や百里基地事件判例等をと
りあげて解説する」
- 第13回；憲法改正
1. 現在議論されているトピック 2. 憲法改正手続
「世界の憲法改正状況と日本の憲法改正の議論について解説する」
- 第14回；国民の義務、新しい人権
「憲法制定時には想定しなかった新しいプライバシー権やLGBTの権利等について解説する」
- 第15回；「暮らしのなかの憲法」まとめ
「14回目までの総ざらいをする」

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする。

- ・事前学習；
テキストの該当箇所を読んで、疑問点を整理しておくこと。
- ・事後学習；
毎授業の理解を深めるために、ノートを整理して授業資料を読み返すこと。

課題に対するフィードバックの方法

各回の理解度テストについては、次回の授業において解答や解説、講評等をおこなう。
詳細は初回授業の際に説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間内に実施される理解度テスト、定期試験等を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく理解度テストを4回以上未提出の場合、又は定期試験を受験・提出しなかったかのいずれかの場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎授業後の理解度テスト(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	60	全授業終了後に実施する試験(60)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	1. 「大学生のための日本国憲法入門」吉田 成利(慶應義塾大学出版会、2020年) 1,500円(税別) ISBN978-4-7664-2647-2 2. 上記1. に加えて、必要に応じて授業で資料を配布する。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	ポケット六法などの六法があれば望ましい
-----	---------------------

履修条件・他の科目との関連	憲法についての知識がまったくない学生を歓迎します。 新聞やインターネットの新聞記事に普段から目を通して、憲法に関連するトピックについてピックアップするとともに、何がとりあげられてどのような焦点が当てられているのかについて理解と関心を高めておくこと。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10401004	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	暮らしのなかの憲法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小原 博臣				
シラバス執筆(主)	小原 博臣				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本国憲法は施行から70年あまりを経過した。憲法は国のあり方の基本を定める最高法規である。憲法の条文には抽象的で曖昧な規定が多いが、その憲法は私たちの日々の「暮らしのなか」に息づいている。とりわけ人権規定は、歴史的に見れば市民が自らの生活を守るために国家や為政者から勝ち取ってきた成果であるが、その意味内容は、常に各々の時代や文化のなかを生きる人々の解釈を通して切り開かれてきたものである。現代を生きる私たちもまた、日々の暮らしのなかで、そのような憲法を解釈するという営為に携わっていると言える。本講義では、日本国憲法のうち、主に基本的人権に関わる領域について解説する。特に過去の判例や現在生じている問題を素材にしながら、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討する。また憲法や人権に関わる問題に取り組むうえで、自ら考え見解を述べることは重要である。そのため本講義では憲法や人権に関わる問題について、授業の中でディスカッションを行ったり、論述レポートの提出を求めたりする予定である。

到達目標

1. 憲法と人権の歴史的背景と基礎的な事項を説明することができる。
2. 日本国憲法の基本的人権規定が有する内容や限界を説明することができる。
3. 人権規定が、現代の我々の生活とどのように関係しているのかを説明することができる。
4. 習得した知識を、自分の言葉で的確に表現することができる。

授業計画

- 【第1回】
授業テーマ：ガイダンス
内容・方法等：講義の概要・基本方針、注意事項、成績評価、本講義で取り上げる対象、法とは何か
- 【第2回】
授業テーマ：日本国憲法の基礎と歴史
内容・方法等：立憲主義、法の支配、日本国憲法の成立史、憲法の基本原理
- 【第3回】
授業テーマ：人権総論（人権とは何か）
内容・方法等：人権の分類、人権を享有する主体、公共の福祉
- 【第4回】
授業テーマ：生命・自由・幸福追求権
内容・方法等：憲法13条の意義、新しい人権の創出、プライバシーの権利（「放っておいてもらう権利」から「私生活をみだりに公開されない権利」へ）
- 【第5回】
授業テーマ：自己決定権（判例上の「人格権」との相違について）
内容・方法等：校則・就業規則に基づく規制の是非（服装、頭髪・ひげ問題）、リプロダクティブライツ（旧「優生保護法」強制不妊訴訟から）、安楽死と尊厳死、治療拒否問題
- 【第6回】
授業テーマ：法の下での平等（1）【総論】
内容・方法等：法の下での平等の意味、平等権と平等原則、相対的平等と絶対的平等、形式的平等と実質的平等
- 【第7回】
授業テーマ：法の下での平等（2）【各論：判例等から具体的事例を検討する】
内容・方法等：性差別と憲法14条、非嫡出子の相続格差、女性の再婚禁止期間、夫婦別姓、LGBTと同性婚
- 【第8回】
授業テーマ：信教の自由（精神的自由権について）
内容・方法等：精神的自由とは、信教の自由とその限界、政教分離原則（目的効果基準とは）
- 【第9回】
授業テーマ：表現の自由（1）
内容・方法等：知る権利と忘れられる権利、報道の自由と取材の自由、検閲の禁止
- 【第10回】
授業テーマ：表現の自由（2）
内容・方法等：表現の自由の限界（表現内容規制と内容中立規制）、ポルノ規制（芸術か猥褻か）、営利的言論の自由
- 【第11回】
授業テーマ：職業選択の自由（自由主義経済と経済的自由権）
内容・方法等：営業の自由（積極目的規制と消極目的規制について）、法規制は合憲か違憲か（公衆浴場配置規制、薬局開設距離制限）
- 【第12回】
授業テーマ：参政権（法の下での平等との関連性）
内容・方法等：選挙権の法的性格と要件、在外邦人選挙権訴訟、一票の格差問題
- 【第13回】
授業テーマ：生存権（「最低限度の生活」とは）
内容・方法等：憲法25条と法的性格、生活保護問題、判例の示した考え方の検討（朝日訴訟、堀木訴訟から）

【第14回】

授業テーマ：教育を受ける権利（義務ではなく権利？）

内容・方法等：学習権と国の責務、学問の自由と教育の自由（旭川学力テスト事件判決から）

【第15回】

授業テーマ：まとめと補足

内容・方法等：重要事項の確認、その他の人権規定について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、授業計画を参考にテキストの該当箇所を読んで、わからない用語等があれば法律用語辞典や国語辞典等で調べておくこと。また、新聞等で関連するニュースがあれば、スクラップするなど、1.5時間ほどの学習時間を要する。
事後学習は、授業時に配布したプリントや資料をもとに、ノート整理をするなど2.5時間ほどの学習時間を要する。

【第1回】

①事前学習課題：シラバスを確認する。テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第2回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第3回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第4回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第5回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第6回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第7回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第8回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第9回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第10回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第11回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第12回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第13回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第14回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第15回】

①事前学習課題：疑問点等を洗い出しておくこと。

②事後学習課題：テキストと配布資料のすべてを確認し、総復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了時にふりかえりシートを回収し、次回の授業時に冒頭でフィードバックを行う。

小テストについては、採点・解説を行う。

レポートに関しては総括して講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく5回以上、但し5回未満であっても3回連続で授業を欠席した場合、また定期試験を受験しなかった場合には評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類

評価割合 (%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	20	授業における積極的な発言・質問(10) ふりかえりシートの提出(5) 小テスト(5)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	レポート課題	1, 2, 3, 4
定期試験	70	期末試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	初宿正典ほか編著『目で見える憲法[第5版]』、有斐閣、1,760円(税込)、ISBN:978-4-641-22735-4 ※その他、必要に応じて資料等プリントを配布する。		
------	------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・初宿正典ほか編『いちばんやさしい憲法入門[第6版]』(有斐閣アルマ、2020年) ・芦部信喜『憲法[第7版]』(岩波書店、2019年) ・松井茂記『日本国憲法を考える[第3版]』(大阪大学出版会、2014年) ・ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)などの六法 その他のものについては、必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	授業中は、特にこちらから指示のない限りスマホやパソコン等は基本的に使用しないので、授業中は机に出さずに必ずカバンの中に入れておくこと。 授業の中ですべてを説明し尽くすことには限界があり、学生諸君の理解をより深めるためにもテキストは必ず事前に購入の上、予習および復習することが重要である。 授業への不参加(欠席)の多い者、遅刻・早退の多い者など、いわゆる出席状況の良い者については、単位を認定することが出来なくなるので注意すること。		
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10401104	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人権教育論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長澤 敦士				
シラバス執筆(主)	長澤 敦士				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

【概要】 「深夜3時の人権論」
 例えば、この社会には深夜3時になると明日を生きるのではなく、いま・ここで自ら命を絶つという選択をしようとする人たちがいます。少なくとも、わたしの人生ではそういう他者（ひと）とかかわる機会が何度かありました。わたしは彼ら／彼女らとどれだけかかわっても、彼ら／彼女らがそう思うに至る背景を説明するための道筋をつくるのが出来ずにいます。なぜなら、彼ら／彼女らのことを「理解する」道筋には、いくつもの困難が付きまとうからです。それでも、わたしは彼ら／彼女らの背景にあるものを「理解」したいとは思っています。

ところで、一般的に人権とは「人が生きるためにどうしても必要なもの、奪われてはならないもの」（森田 2000：31）と言われていています。今日の社会では、この意味での「人権」が実現されるためにさまざまな法律や政策が制定／策定され施行／実施されています。そうした法律や政策はとても大切です。しかし、これらの法律や政策はときにわたしたちの日常において「人権」を実現しようとするものの弊害になることがあるのも事実です。そこで、この講義では「そもそも「人権」を日常の中で保障するとはどういうことなのか」という問いを基盤にして、例えば、深夜3時に自ら命を絶つという選択しようとしたけれども、最終的に明日を生きることを選択した人を「メンヘラ」や「躁鬱病」といった名前を付けて理解してしまうのではなく（もちろん、そうした理解の可能性も残しつつ）、そうした人々の個別具体的な人生や生活に光を当てることで日常実践（≠政策や法律）として実現される「人権」の在り処（ありか）を受講者のみなさんと一緒に探究します。

【講義形態】 この講義は基本的に講義形式で行う予定ですが、受講者数によっては受講生同士のディスカッションを中心とした形式で行う可能性があります。

到達目標

1. 人権にかかわる社会問題についての基本的な事項を自分の言葉で説明することができる。
2. 人権にかかわる社会問題について複眼的に考え、自分なりの意見を述べるすることができる。

授業計画

【第1回】 はじめに：この社会に絶望することについて
 キーワード 「答え」のない問い、複眼的思考

【第2回】 「人間らしくある」とはどのようなことか——理想／理念としての人権について考える
 キーワード 世界人権宣言、国際人権規約、社会権と自由権

【第3回】 踏まれた足の痛みは踏まれた者にしかわからないのか——社会問題について考える視座としての社会学
 キーワード 差別／排除、マイノリティ、マジョリティ

【第4回】 なぜオフィスでラブなのか——性について考える①
 キーワード ジェンダー、性別役割分業、フェミニズム

【第5回】 みんな違って、みんないい、のか？——性について考える②
 キーワード LGBT+、アセクシュアル、SOGI

【第6回】 『カラコエの花』——性について考える③
 キーワード カミングアウト、アウティング、ALLY

【第7回】 「お前のためを思って」という欺瞞——「加害者になること」について考える①
 キーワード DV、ハラスメント

【第8回】 No Means No！——「加害者になること」について考える②
 キーワード 性的同意、共依存、トラウマ

【第9回】 無駄とされる人々——障害について考える①
 キーワード 障害の社会モデル、生活自立運動、当事者主権

【第10回】 「愛と正義を否定」された先に何をどうすればいいのか——障害について考える②
 キーワード 障害児・者支援、合理的配慮、インクルーシブ社会

【第11回】 ホームレスにすんなれない女性たち——貧困について考える①
 キーワード 女性の貧困、世帯の中に隠れた貧困、シングルマザー

【第12回】 家族に足を引っ張られる人生——貧困について考える②
 キーワード 貧困対策／支援、子どもの貧困、貧困の連鎖（貧困の世代的再生産）

【第13回】 「移民」と「難民」の狭間で——外国にもつながりがある人々について考える
 キーワード 逸脱論、移民、難民、非正規移民

【第14回】 「メンヘラ」と呼ばれる人々をつくりだすもの——「深夜3時の人権論」の応用問題
 キーワード パパ活、自傷行為（リストカット）、依存症、売春防止法

【第15回】 おわりに：この社会で希望を持つことについて
 キーワード アドボカシー（権利擁護）、生活史法

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：自らの日々の日常生活（例えば、サークル活動やバイト、ボランティア、家族など）に潜む差別や排

除にまつわる事象に敏感になること。各回ごとに2時間程度。
事後学習：講義で共有したことや考えたことを念頭に、改めて自らの日常生活を「人権」の視点で捉え返すこと。必要に応じて講義内で紹介した参考書籍なども読むこと。各回ごとに2時間程度。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたコメントシートに対しては、適宜、講義内でコメントを付します。
また、実施した課題について採点后、希望者についてはコメントを付して返却することも考えています。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業内外での評価及びレポート試験により総合的に評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎回の授業後に提出するコメントシート	1, 2
授業外での評価	10	中間レポート	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2
その他	0		

テキスト 特に指定はありません。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介します。ただし、以下の書籍は本講義との関連で参考になるものです。①と②の書籍は本学の図書館で借りることができます。興味のある方は手に取ってみてください。
①森山至貴(2020)『10代から知っておきたい あなたを閉じこめる「ずるい言葉」』、WAVE出版。
②宮地尚子(2013)『トラウマ』、岩波書店。
③好井裕明(2007)『差別原論:〈わたし〉のなかの権力とつきあう』(平凡社新書)、平凡社。

履修条件・他の科目との関連 履修条件はとくに指定しませんが、社会問題について自分なりの視点から考える意欲のある学生を歓迎します。
また、この講義の担当者が依拠する学問的立場は社会学や人類学と呼ばれる立場であり、心理学や精神医学ではないことには注意が必要です。

授業コード	10401101	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	人権教育論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 昌子、幸川 由美子				
シラバス執筆(主)	中村 昌子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「人権」とは、すべての人が安心と自由を確保し、幸せに生きていくための権利である。そして、それは決して侵害されることがあってはならない。しかし、現在、私たちの周りには多くの人権問題があり、十分に人権が守られた社会であるとは言えない。本授業では、現在も続くさまざまな人権課題を取り上げ、自身にかかわることとして理解を深めるとともに、人権に根差した社会を作り上げる一員として必要な資質を育成することを目標とする。長年のあいだ、教職に従事した実務経験をもとに、将来、教育・福祉関係等の分野で活躍したい人にも役立つ授業を展開する。

授業の形態は、講義と発表やグループワークを組み合わせたものである。プレゼンテーションやグループでの活動などでは、特に積極的な参加が必要となる。

到達目標

- 1 人権問題を自分にかかわる問題としてとらえ、人権に根差した社会の構築に向けた判断ができる。
- 2 さまざまな人権課題を理解し問題と向き合い、自分の意見を説明できる。
- 3 異なる立場や考え方を理解し、自他を尊重する視点に立って自分の意見を説明できる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション・「世界人権宣言」から見える世界情勢
- 【第2回】 自分自身の人権について考える
- 【第3回】 「ことば」を奪う人権侵害について考える
- 【第4回】 子どもの人権について考える
- 【第5回】 性の多様性について考える
- 【第6回】 男女平等について考える
- 【第7回】 障がい者の人権について考える
- 【第8回】 いじめ問題について考える
- 【第9回】 同和問題について考える
- 【第10回】 さまざまなハラスメントについて考える
- 【第11回】 人種差別について考える
- 【第12回】 個人情報保護・インターネット上の人権侵害について考える
- 【第13回】 さまざまな病気に対する人権侵害について考える
- 【第14回】 犯罪被害者や家族の人権について考える
- 【第15回】 人権教育がめざす社会について考える

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前】 毎回の授業で人権に関わるニュースを確認するので、最新の情報を調べておくこと。
- 【事後】 毎回の授業で課題を課すので、次回の授業までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内で実施する発表やグループワークについては、適時指導助言を行う。
- ・各回の課題については、授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内及び授業外の課題、期末試験の結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	ワークシート(10回を予定)(40)、授業内発表(10)	1, 2, 3
授業外での評価	30	小課題(6回を予定)(30)	1, 2, 3
定期試験	20	全授業終了後に実施する期末試験(20)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・人権問題は自身に関わる問題であるということを認識して、積極的に授業に参加すること。・欠席した場合、担当教員に欠席を連絡したうえで、資料を取りに来ること。

授業コード	10401202	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人間と科学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	矢島 彰				
シラバス執筆(主)	矢島 彰				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代における人間の社会活動は科学を基盤としたものになっています。なぜ人間だけが地球上の他の生物と異なるレベルで科学を活用しているのでしょうか。人間の誕生のプロセスを地球の歴史と共に知ることで、人間の科学の誕生とその根底にある地球の科学が密接に関連していることがわかります。また、人間は今、自分たちの科学では制御できない自然現象にどのように対応すべきかを考える時期に到達しています。人間の存在が地球環境に及ぼす影響が無視できないほど大きくなりました。これからの人間の科学がどうあるべきなのか、災害をキーワードにして考えていきます。

★この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。各回の演習問題は、授業内容について理解し、自分の言葉で説明することができるかを問う記述問題（50字～200字を1問～5問程度）です。

到達目標

1. 科学とは何かを理解し、様々な説や見解が科学的見地に基づいているかを分別できる。
2. 地球誕生から人類の誕生へ至る経緯を理解し、なぜ科学が誕生したかを説明できる。
3. 現在の人類にとって重要な課題である防災の科学を知り、これからの科学のあり方について説明できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：地球科学の様々な量
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第2回】
テーマ：似非科学とのつきあい方
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第3回】
テーマ：地震予測に挑む
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第4回】
テーマ：地震のしくみと被害
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第5回】
テーマ：加速する異常気象との闘い
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第6回】
テーマ：大水害・海面上昇と地盤沈下
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第7回】
テーマ：大水害・水害に強い都市計画
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第8回】
テーマ：地球大進化<第一集>生命の星 大衝突からの始まり
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第9回】
テーマ：地球大進化<第二集>全球凍結 大型生物誕生の謎
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第10回】
テーマ：地球大進化<第三集>大海からの離脱 そして手が生まれた
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第11回】
テーマ：地球大進化<第四集>大量絶滅 巨大噴火がほ乳類を生んだ
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第12回】
テーマ：地球大進化<第五集>大陸大分裂 目に秘められた物語
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第13回】
テーマ：地球大進化<第六集>ヒト 果てしなき冒険者
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第14回】
テーマ：総合演習（防災）
内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む
- 【第15回】
テーマ：総合演習（地球大進化）

内容・方法：資料・映像を見て演習問題に取り組む

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を想定しています。

- 【第1回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第2回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第3回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第4回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第5回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第6回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第7回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第8回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第9回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第10回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第11回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第12回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第13回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第14回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出
- 【第15回】
①事前学修課題：基本用語事前調べ
②事後学修課題：授業のまとめの作成と提出

課題に対するフィードバックの方法

GoogleClassroomでの評価・コメントを用いる予定です。

成績評価の方法・基準(方針)

各授業の課題提出によって評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	90	授業内容の理解度を問う設問への解答状況や、授業のテーマについての自身の意見表明の内容を評価します。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	与えられたテーマについて、授業で学んだことを根拠とし、自分の推論も加えて結論を導くレポートになります。授業で学んだことを推論の材料として用いているか、筋道だった結論になっているかを評価します。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	利用しません。
参考書	授業時に随時紹介します。
履修条件・他の科目との関連	特になし

授業コード	10401302	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人間と環境 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	坂田 啓三				
シラバス執筆(主)	坂田 啓三				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちの暮らしや産業は地球の環境や資源などに支えられて成り立っています。これからも私たちの健康で快適な暮らしを維持するためには地球の環境や資源に関する理解を深めなければいけません。この講義では、人間の産業活動により引き起こされた地球環境への問題や環境を守るための活動について解説します。これらの内容を学ぶことで、地球の環境と共存し、よりよく生きていくための基礎的な知識と思考するためのスキルを身につけることを目的とします。

この授業は、遠隔授業となります。

リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出する形で実施する予定です。

到達目標

1. 環境科学について基礎的な化学や物理学、生物学の観点から理解し説明できる。
2. 私たち人間は地球の環境を構成する一員であり、私たちの生活は地球の環境に密接に関係していることを理解し、説明できる。
3. 過去に人間の活動によって引き起こされた環境問題について学び、環境の悪化が私たち人間の生存にとって大きな脅威であることを理解し、説明できる。
4. 環境保護の取り組みについて学ぶことで、環境問題の解決のために自分に何ができるのかを考え、行動するというプロセスについて理解し、説明できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：「人間と環境」に関するイントロダクションを行います。
- 第2回 環境科学を学ぶ上で必要な化学・物理学の基礎（復習小テスト①を実施）
- 第3回 環境科学を学ぶ上で必要な生物学の基礎（復習小テスト②を実施）
- 第4回 化学物質と健康被害：化学物質が生命に影響を与えるについて説明します。
- 第5回 日本の公害：四大公害を筆頭に、日本で起こっている公害と環境基本法について説明します。
- 第6回 健全な水の循環と利用：上水道・下水道の役割と関連法規について説明します。
- 第7回 地球温暖化・気候変動：地球温暖化など気候に関する諸問題について説明します。
- 第8回 前半のまとめと復習（確認試験①を課題として実施）
- 第9回 プラスチック問題：プラスチックごみ等による海洋の汚染について説明します。
- 第10回 放射能汚染：放射線の有害性を説明し、原発事故による環境への影響について説明します。
- 第11回 農業と環境：農業による環境負荷について説明し、持続可能な食糧生産について考えます。
- 第12回 生物の絶滅と人間社会：人間の活動による生物の絶滅や多様性の低下について説明し、共存可能な社会について考えます。
- 第13回 生物多様性と環境保全①：環境を守るための法律や決まり事を説明し、よりよい共生社会とは何かについて考えます。
- 第14回 生物多様性と環境保全②：環境を守るための具体的な事例を学び、共生社会を目指してどのような取り組みが最善か考えます。
- 第15回 後半のまとめと総復習（確認試験②を課題として実施）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

2時間程度の事前学習と2時間程度の事後学習が必要です。

事前学習としてインターネットや図書館などで講義の主題に関する基礎的な周辺知識を身に付けておくことが望まれます。

また、講義終了後に講義用資料や自分で取った講義ノートを整理しながら復習し、重要事項を纏めるための事後学習が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーおよび期末レポートは原則としてGoogle Classroomを用いての提出とします。

復習小テストおよび確認試験はGoogle Classroomを利用して行い、解答例はGoogle Classroomを用いて示します。

質問はメールもしくはGoogle Classroomのコメント機能を利用して受け付けます。回答は同様に、メールもしくはGoogle Classroomのコメント機能を利用して返します。

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく授業を5回以上欠席した場合は評価不能として「K」評価とします。

授業の出欠確認はリアクションペーパーの提出をもって行うものとします。

成績は以下の方法によって評価し、60点以上を合格として単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	1. リアクションペーパー(15) 2. 復習小テスト①(10) 3. 復習小テスト②(10) 4. 確認試験①(20) 5. 確認試験②(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	期末レポート(25)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは指定しません.
------	--------------

参考書	『文系のための環境科学入門 新版』 有斐閣 ISBN 978-4641174238 『新版 新しい環境科学』 駿河台出版社 ISBN978-4411040398 その他, 適宜授業内で紹介します.
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	テキストや配布資料がなく, 講義中のノートテイキング重視の講義です. 各自がしっかりと自分のノートを作成することが求められます. 状況により授業内容の一部および順番の変更を行う場合もあります.
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10401303	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人間と環境 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

最新の生命科学は、様々な環境要因が遺伝子の発現に影響する（エピジェネティクス）ことを明らかにしてきています。人間の健康は、食料生産を含む持続可能な社会の構築を基盤とした環境との調和・共存によって維持されています。

この講義では、世界各地で問題を引き起こしてきた様々な公害、放射性物質や化合物による地球環境汚染などの不幸な出来事とそれらへの対処方法などを具体的に概説しながら、すべての人間が幸せに暮らすための基盤となる人間と環境との関係を科学的に説明し、将来健康に過ごすために欠かすことができない基盤的知識とスキルを身につけます。

この授業はオンデマンド型の遠隔授業です。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義をあらかじめ録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

到達目標

- 1) 環境が人間の遺伝子の発現に影響することを、科学的かつ具体的に実例をあげながら説明できるようになります。
- 2) 過去に人間が環境を破壊したために引き起こされた様々なできごとについて、科学的かつ具体的に実例をあげながら説明し、それを防ぐ方法について具体的に提言できるようになります。
- 3) 地球規模で問題化している環境の保全と共存のための手法について、科学的かつ具体的に実例をあげながら説明できるようになります。
- 4) 将来健康に過ごすために欠かすことができない大気、大地、水系、食料などの環境に関わる様々なスキルを身につけて的確かつ具体的に実例をあげながら説明できるようになります。

授業計画

- 第1回 講義のオリエンテーション：人間と環境に関するイントロダクション。
- 第2回 エピジェネティクス：環境が遺伝子発現に影響することを最新の生命科学にもとづいて説明します。
- 第3回 環境科学の重要性：人間に残された時間（環境危機時計・地球カレンダー）などについて説明します。
- 第4回 日本の四大公害（水俣病・新潟水俣病・イタイイタイ病・四日市ぜんそく）と環境基本法などについて説明します。
- 第5回 健全な水の循環と利用（1）：上水道の役割と上水道基準について歴史的経緯を含めて説明します。
- 第6回 健全な水の循環と利用（2）：下水処理と水質汚濁（水質汚濁防止法）などについて説明します。
- 第7回 前半のまとめと復習（レポート試験）
- 第8回 生活環境の公害（騒音・振動・悪臭）と産業廃棄物：豊島問題を例にあげながらリサイクルについて考えます。
- 第9回 化学物質による環境汚染（1）：農薬の安全性評価法と問題点および対処方法について実例をあげながら考えます。
- 第10回 化学物質による環境汚染（2）：環境中の有害物質と基準について説明します。
- 第11回 放射能汚染（1）：放射性核種の科学と有害性について説明します。
- 第12回 放射能汚染（2）：福島原発事故による農畜産物や土壌の放射能汚染などについて実例をあげながら対処方法を考えます。
- 第13回 地球温暖化のもたらすもの：二酸化炭素濃度の経年変化・オゾン層の破壊などについて説明します。
- 第14回 地球規模での環境問題：持続可能な農業生産について考えます。
- 第15回 後半のまとめと復習（レポート試験）
- なお、状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は・オンライン・オンデマンド形式でおこなうので受動的学習となり、アクティブラーニングの要素を含みませんが、事前に積極的に教科書、参考書の講読やオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfの精読、インターネット検索などによる基礎的知識を身につけたうえで受講することなどがが必要です（1. 5時間の事前学習）。

事後に講義ノートを整理しながら復習すること、および受講レポートの作成やレポート試験に解答することなどが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

試験などを実施する場合を除いて、授業毎に「講義の概要」と「講義をうけて新たに分かったことや自分で考えたこと、質問したかったことなど」などを記述した受講レポートを実施します。質問があった場合には適時クラスルームなどを通じて説明します。

成績評価の方法・基準(方針)

試験などを実施する場合を除いて、授業毎に「講義の概要」と「講義をうけて新たに分かったことや自分で考えたこと、質問したかったことなど」などを記述した受講レポートを実施します。講義内に実施するレポート試験、「前半のまとめと復習」や「後半のまとめと復習」において実施するレポート試験、講義終了後に実施するレポート試験などを介して成績を評価します。これらの受講レポートやレポート形式の試験などは締切期限までに必ず提出してください。提出が遅れた場合は評価しません。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	受講毎の平常点として受講レポートを作成し、期日内に提出していただき、受講レポートの内容を評価します。	1, 2
授業外での評価	30	「まとめと復習」の際にレポート試験を行います: 30点	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	講義終了後にレポート試験を行います: 40点	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「文系のための環境科学入門新版」・藤倉良ら著・有斐閣・2,530円・ISBN: 978-4641174238 オンラインを通じて授業毎に講義用のパワーポイントのpdfを配布します。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	「トコトンやさしい環境汚染の本」・大岩敏男ら著・日刊工業新聞社・ISBN-13:978-4526073007 「健康と環境の科学: 人類の明るい未来を目指して」・三浦悌二ら著・南山堂・ISBN978-4-525-61101-9 上記の他に必要に応じて授業の中で紹介します。
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	テキストと参考書およびオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfなどを用いて予習・復習を行って受講してください。講義に際しては、各自がしっかりと自分自身の講義ノートを作成することが求められます。 ・状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。 ・受講レポート、授業内試験(小試験、中試験、レポート試験)レポート形式の定期試験などは締切期限までに必ず提出してください。提出が遅れた場合は評価しません。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10401402	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	生涯スポーツ論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 光子				
シラバス執筆(主)	佐藤 光子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツには一人一人の健康だけでなく、地域社会再生・経済発展・国際平和貢献など重要な意義と効果があることが期待されている。わが国のスポーツ基本法（2011年制定）をはじめ世界の多くの国では、スポーツを世界共通の人類の文化であるとし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であると謳っている。これらのことをふまえて、スポーツを生涯の友として豊かに暮らすための知識と考察を深めよう。本講義では、映像や画像資料などを用いて講義を行い、理解度テストを実施して採点返却する。これまでのあなたの人生で出会ったスポーツを振り返ることから始めるが、競技としてのスポーツだけでなく、健康や楽しみのためのスポーツ、様々な工夫を加えた新たなスポーツなども解説する。スポーツを歴史的・社会的な観点や、医学的・科学的な観点などから幅広く考えることができるよう、様々な資料を提供する。長年に亘り、ランニング学会認定上級指導者として、また日本トレイルランナーズ協会理事として、一般市民のスポーツ指導に携わっている経験をもとに講義を進めたい。

到達目標

1. スポーツの歴史をふまえて、現代のスポーツの定義を説明できる
2. スポーツと健康、ケガ、病気、子どもの成長などについて医療と発達科学の観点から説明できる
3. 様々な種類のスポーツについて、その内容を説明できる
4. スポーツと平和、人権、マナーなどについて、その問題点を説明できる
5. 講義で得た知見に加えて、自身で調べたことや考えについて述べられる
6. 講義で得た知見をふまえて、自身のスポーツ観について述べられる

授業計画

この授業は通常授業です。
【第1回】オリエンテーション
講義の主題、受講や課題提出の方法、到達目標と評価方法について確認する
【第2回】スポーツとは何か
現代社会におけるスポーツの定義について考える
【第3回】スポーツの歴史
古代オリンピックから近代スポーツまでの変遷を学ぶ
【第4回】スポーツと平和
スポーツと平和、人権について考える
【第5回】スポーツと健康
スポーツと健康との基本的な関係について理解する
【第6回】有酸素運動
呼吸循環機能を維持向上させる有酸素運動について理解する
【第7回】レジスタンス運動
筋力を維持向上させるレジスタンス運動について理解する
【第8回】スポーツの楽しみ方
スポーツを「みる」楽しみとして、スポーツを題材とした小説、映画、マンガなどの作品を探してみる
※中間レポート ここまでの講義の中で強く関心を持った内容についてレポートを提出する
【第9回】スポーツとケガ
捻挫などの急性障害、疲労骨折などの慢性障害を知り、応急処置を身につける
【第10回】スポーツと病気
貧血などの慢性障害、心停止や熱中症などの急性障害を知り、感染症対策についても理解する
【第11回】子どもの成長とスポーツ
成長期の子どもの身体の特徴を知り、スポーツにおける留意点を理解する
【第12回】アダプテッドスポーツ
ルールや用具などを参加者の状況に合わせたスポーツ、アダプテッドスポーツの概念を理解する
【第13回】多様化するスポーツ
既存の競技を簡便にしたもの、昔の遊びをスポーツ化したもの、まったく新たな発想で生まれたスポーツなど、現代の様々なスポーツについて調べる
【第14回】スポーツのルールとマナー
厳しい自然の中のアウトドアスポーツを事例としてルールとマナーについて考える
【第15回】講義のまとめ
第8回授業での「スポーツを題材とした作品」の投票結果の発表と講評のほか、講義全体を総括する
※最終レポート すべての講義を通じて強く関心を持った内容、または講義全体を通じてのレポートを提出する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、翌週の講義テーマについて自ら調べ、概要を把握しておくこと。
事後学習としては、授業で紹介したものだけでなく自ら調べた書籍やインターネット情報などを活用し、理解を

深めること。特に理解度テストで間違えた事柄についてはきちんと調べておこう。
毎回の授業につき、事前学習1.5時間程度、事後学習2.5時間程度が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回講義後に理解度テストを実施するが、提出期限後に採点し返却する。
2回のレポートも、提出期限後に採点し返却する。
評価に対する質問があれば授業時に直接尋ねること。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえで60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
ただし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価対象外「K評価」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の授業後に行う理解度テスト(70)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	全講義の前半を終えた時点で提出する中間レポート(15)	5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	全講義終了後に提出する最終レポート(15)	5, 6
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	講義内で適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	特になし。

授業コード	10401502	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	文化人類学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	小瀬木 えりの				
シラバス執筆(主)	小瀬木 えりの				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業は、オンデマンド型の遠隔授業である。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出してもらう形で実施する。使用ツールはgoogle classroomとする。

文化人類学とは広い意味での「文化」の概念を基に、人間と社会の多様なあり方を歴史的・地理的に理解することを目指す学問である。この授業では以下の3つを主なテーマの柱に据え、それらについての理解を深める。

(1) 人間の様々な生業形態や歴史的に発達してきた諸活動について新進化論的観点を変えて学習する。生業形態の伝統的なあり方と今日の様子を比較し、それに依拠して生きる人々について理解を深め、時の流れによっても変わらない人間の普遍的な特性について考える。

(2) 人間が生み出してきた様々な社会制度について、普遍的に人類が築いてきた家族／親族と結婚の慣習の制度を中心にその意味と役割を理解し、民族によって異なるそれらの様々な形態や関連する儀礼や慣習について学ぶ。また、今日の社会で変化しつつあるそれらの状況について考察する。

(3) 前記の(1)、(2)と関連して、先進国を中心とした今日の近代的価値観と、伝統社会に残る風習や価値観の対立から生じる国際的に社会問題化している係争事や懸案事について学び、その解決方法を考察する。

講義では、これらの点に関して、具体例を含めて紹介する。受講者には、異文化を自らの文化と比較することを通じて、人間が無意識のうちに身につけている自文化中心のものの見方を是正し、異文化に対する寛容な心を養うとともに、人間の共通性について深く理解することが期待される。

到達目標

1. 人類の歴史的進化の各段階での特徴を説明できる。
2. 人間社会が発達させてきた家族／親族や婚姻を中心とした社会制度や文化慣習と、地域や民族によるそれらの違いを説明できる。
3. 人間社会に存在する人種概念が社会的構造物にすぎず、人種差別に科学的根拠がないことを説明できる。
4. 他文化の人びととの交流において、異なる文化・習慣を尊重した行動を取ることが適切であるとの判断ができる。
5. 人間社会で受け継がれてきた伝統や習慣と、先進国を中心とした今日の価値観との対立から起こる問題を理解し、その解決方法を考察し、妥当な対策について判断できるようになる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：イントロダクション：人間と文化、民族について
 内容：科目と分野で扱う基礎的概念についての説明
- 【第2回】
 テーマ：科目と分野で探究する内容と視点についての説明：文化人類学とはどのような学問か
 内容：現代社会と文化人類学の現在：文化人類学の意義について
- 【第3回】
 テーマ：文化人類学の研究方法について
 内容：文化人類学と質的研究、エスノグラフィーについて
- 【第4回】
 テーマ：ヒトの進化と生業形態の発達（1）
 内容：ホモサピエンス以前の人類のサルからの進化と特徴について
- 【第5回】
 テーマ：ヒトの進化と生業形態の発達（2）
 内容：ホモサピエンス以前の人類の栄枯盛衰について
- 【第6回】
 テーマ：ヒトの進化と生業形態の発達（3）
 内容：今日につながる文化の起源とその発達について
- 【第7回】
 テーマ：人種概念の発達と人種差別
 内容：歴史的に見た「人種」という概念の発生とその後の発展、現代に通じる人種差別の起源と問題点を探る
- 【第8回】
 テーマ：家族と親族
 内容：血縁を基本とした家族・親族と個人のつながり、人類に普遍的な家族と親族制度についての説明
- 【第9回】
 テーマ：親族制度
 内容：民族、文化、地域等によって異なるさまざまな親族制度とその特徴について
- 【第10回】
 テーマ：結婚
 内容：民族、文化、地域等によって異なるさまざまな結婚の制度とその特徴について
- 【第11回】
 テーマ：宗教と世界観・価値観
 内容：民族、文化、地域等によって異なるさまざまな信仰、信念、儀礼とそれに関連する慣習について

【第12回】

テーマ：現代社会と諸民族の伝統文化の対立（1）

内容：現代の先進国を中心とした社会と伝統を残す諸社会の価値観の相違から生じる問題の紹介

【第13回】

テーマ：現代社会と諸民族の伝統文化の対立（2）

内容：現代の先進国を中心とした社会と伝統を残す諸社会の価値観の相違から生じる問題の解決について、また、文化人類学が直面している現代の諸問題について

【第14回】

テーマ：現代社会における政治状況と文化人類学的共感の果たす意義

内容：現代社会において頻発する国際紛争とそれにとまなう異民族対立に文化人類学が役立ち得るかどうかについて説明する

【第15回】

テーマ：現代社会における文化人類学的理解の総合的な意義

内容：現代社会において文化人類学が提唱する異文化理解がどのような役割を果たし得るのかについて説明する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習は2時間、事後学習は2時間を目安とする。

【第1回】

①事前学習課題：文化人類学の入門書や概論書などを各自読んでおくこと（参考書を参照）

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第2回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第3回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第4回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第5回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第6回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第7回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第8回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第9回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第10回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、その内容をまとめた講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第11回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第12回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第13回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第14回】

①事前学習課題：前回の授業で学んだ内容を復習し、しっかり覚えておく

②事後学習課題：授業で学習したことを踏まえ、講義ノートを作成し、授業内容をよく理解しておく

【第15回】

①事前学習課題：講義ノート全体を見直して、学習内容を再確認しておく

②事後学習課題：第1回目から14回目までの講義ノートを再読して授業内容全体の理解を定着させておく

課題に対するフィードバックの方法

授業ごとに出す理解度を確認するための課題については、次週の授業の始めに正解の要点を示すなどしてフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。指定された期限までにGoogle classroomに掲示により課題を提出した場合は出席とみなす。期限後に遅れて課題が提出されても無効とし、欠席扱いとなる。ただし、教務課で定められた期限内に、公欠届もしくは欠席確認書の写真が、クラスルームを通じて、もしくはメールの添付で担当者に提出されれば考慮する。原則として、この科目では通常は出席と欠席のみを認め、公欠もしくは欠席確認書が提出された場合を除いては、遅刻は認めない。特段の事情があつての遅刻の場合も2回で欠席1回分の扱いとなるため注意すること。私事都合での欠席が6回以上に上る受講者は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	90	毎回の授業後に提出を求める課題(1回につき、その出来に応じて1~6点×15回=90)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	15回の全授業終了後に期限を設定して提出を求める学んだ内容の理解度をはかるレポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。

参考書 以下の参考書を読むことを推奨する。『文化人類学』【カレッジ版】第4版 波平恵美子編 医学書院 2021年 ISBN:978-4-260-04220-8 この他には、多岐にわたるため、必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 この科目は二年度配当でBYOD科目に指定されているため、配当年次より上の学年の受講者にも、遠隔授業・オンデマンド型の受講に耐えられるだけの大学推奨のスペック以上のPCでの受講を推奨し、スマホでの受講は勧めない。スマホで受講した場合の不具合や不都合はすべて自己責任とし、課題提出の不備に際して、やむを得ない事情とは認められないため十分注意すること。受講に際してのPCの設定その他の技術的サポートは本科目内ではおこなわないため、アドバイスは必要に応じて教務課もしくは情報システム室に求めること。また、課題が誤って白紙で提出されたり、間違っただけのものが提出された場合も自己責任となりその回は0点となるため十分気をつけること。受講者は人類のサルからの進化や、異文化や世界のさまざまな人々の生活に積極的に興味を持つことが望ましく、世界の歴史や地理に関する基礎的知識が必要である。国際教養学部所属の受講者には関連の学部科目として、「異文化コミュニケーション」、「アジアの歴史と文化」も併せて履修することを推奨する。また、日本語を母語としない受講生の場合、N1相当以上の日本語力がないと理解できない授業内容であるため、その水準に達していない状態で受講すると単位を落とす危険がある。

授業コード	10401503	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	文化人類学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	土田 亮				
シラバス執筆(主)	土田 亮				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

文化人類学とは何でしょうか。ひとまず、文化人類学を「他者・他なるものに出会い、それらとともに学び考え、自らの見方や立場、振る舞いを内省する学問」と定義します。そう定義すると、文化人類学という学問がもつ面白さの一つは、あたりまえを疑うことにあると私は考えます。

「なぜあたりまえを疑うの？それは誰にとって何の意味があるの？役に立つの？」そのような考えがもししたら学生の皆さんから浮かぶかもしれません。あえてその声に答えるならば、文化人類学を学んだからといって、就活やビジネス、みなさんの専門にすぐには役に立たないかもしれません。何事も効率的に理解して物事を進めたいなら、わざわざあたりまえのことに目を向ける必要なんてないでしょう。だって、それをわざわざ考えることは私たちにとって時間の無駄だったり、遠回りだったりするのかもしれないのだから。

しかし、急ぎ足で関心のあることにだけ目を向けて前に進もうとせず、一度立ち止まってあたりまえそのものをじっくり考えてみる、ということをお本授業では提案します。だからこそ、「なぜあたりまえを疑うの？」という問いかけに少しでも何かを感じた学生のみなさんにはぜひ受講してほしいですし、学生のみなさんと一緒に、ありふれたあたりまえとなぜそれを疑うのかを考えてみたいです。

本授業では、文化人類学とは何か？〇〇とは何か？と問うて文化人類学の見方を学ぶこと、その見方を取り入れることによって今日の生活や社会などがどのように変わって見えるかを探究します。また、文化人類学を通して自らの知識や文化だけでなく、どのように見方や立場、振る舞いを変えることが可能なのか、キーワードや問いをもとに文化人類学の基本的な知識と私たちのなかにあるあたりまえを考え直すための道具の使い方を習得することを目指していきます。さらに、本授業は学生のみなさんのコースに結びつく概念、例えば、異文化理解、医療、ビジネスなどの現代的なテーマについても交えて文化人類学の見方を提示することに力点を置き、学生のみなさんとともに考えていきます。こうした具体と抽象、問いと事例/経験、テキストと自分/身の回りのことを行き来することで、今の文化人類学が何を考え、目指しているのかを説明していきます。

※本講義はオンデマンド型の遠隔授業になります。講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施します。

到達目標

1. 文化人類学の見方を通じて、自らの考えやこれまで持っていた見方、立場、振る舞い、新しい考え方について考えて、表現することができる。
2. 文化人類学に関する初歩的な知識や考え方、事例をテキストや授業動画を読んだり視聴したりして、自らの言葉で説明することができる。
3. 文化人類学の見方から、今日の社会や身の回りの生活に関する課題を発見し、課題を考察し、書くことができる。

授業計画

第1回 イン트로ダクション：世界を考える道具をつくろう

-文化人類学とは何か？

○本講義の全体的な流れを紹介し、受講者が文化人類学を通して何をともに学び、考えるか、その目標を言語化します。

第2回 世界のとらえ方①：自然と知識

-自然と文化は対義語か？自然は一つ、文化は複数か？

○これまでの自然と文化に関する見方、関係性、世界の見方について考えます。

第3回 世界のとらえ方②：技術と環境

-スマホのような技術や道具は、人間や動物、身体、環境をどのように変えたのか？

○技術との関わり方やそれがもたらす世界の見方を人類学から考えます。

第4回 世界のとらえ方③：呪術と科学+世界のとらえ方④：現実と異世界

-呪術は誤りなのか？呪術は科学と何が同じで違うか？

-まったく異なる文化と世界を生きる人びとの感じ方ってどうなんだろう？

○呪術やおまじないのような科学とは縁遠いものが、どのようにして存在しているのかを考えます。

また、他者や異文化とはそもそも何で、自らがそれらを理解するとはどういうことか考えます。

第5回 インターロード①：医療と治療

-他者の痛みや苦しきは、いかにして理解できるのか？

○痛みを理解しようとする/理解してほしいという振る舞いは、お互いに何を意味しているのかを考えます。

小課題①：ここまでのテーマの解説を踏まえて、文化人類学を学ぶ前のイメージと実際に学んだ時の気づきを述べてください。

第6回 価値と秩序が生まれるとき①：モノと芸術

-ただのモノがいつ、どうやって芸術になるのか？

○美しさや質素さなどの芸術の価値が織り込まれていく関係性が生まれる過程を考えます。
第7回 価値と秩序が生まれるとき②：贈り物と負債+価値と秩序が生まれるとき③：貨幣と信用
-プレゼントはもらったら返さないといけない雰囲気の本体は何か？
-物々交換の仕組みってどうなっているのだろう？

○モノやお金を介した人と人、モノと人とのコミュニケーションの秩序を考えます。
また、モノとお金の価値が形成・維持されていくシステムについて考えます。

第8回 価値と秩序が生まれるとき④：国家とグローバル化
-ルールや権力支配のない社会とはどのような社会なのか？

○グローバル化という言葉が私たちの生活に広まっていくなか、人びとや社会はどのように対応してきたのかを考えます。

第9回 インターロード②：リスクと災害
-災害は私たちの生活をどのように変えるのか？

○現代的なリスクが抱える問題としての災害を文化人類学の見方から考えます。

第10回 インターロード③：ビジネスと組織

-組織はどのように動くのか？アイデアはどのように生まれていくのか？

○ビジネスにも活かされつつある文化人類学の見方と役割を考えます。

小課題②：ここまでの解説と得られた文化人類学の知識を用いて、身の回りの生活やあたりまえを文化人類学の視点から解釈してみてください。

第11回 あらたな共同性へ①：子どもと大人

-子どもはいつから、何をもちて大人になるのだろうか？

○子ども、大人、家族、労働の役割とそれらから見出せる関係性について考えます。

第12回 あらたな共同性へ②：親族と名前

-人との関係性とその名称はどのようにして生まれるのか？

○文化人類学が見てきた伝統的な家族観と今日の家族観を比較して考えます。

第13回 あらたな共同性へ③：ケアと共同性

-身近に存在するケアって何だろう？

○老い、病い、障害、福祉など、人の生死や生き方におけるケアのあり方について考えます。

第14回 あらたな共同性へ④：市民社会と政治

-市民とは誰で、何のために政治はあるのか？

○社会の何かがおかしいと感じた人たちが集うデモクラシー運動と政治の関係性について考えます。

第15回 アウトロダクション

-結局、文化人類学はあなたの何にどう役に立ったか？

○これまでの授業を振り返り、今後の生活や思考法に活かしていくために言語化します。

最終レポート：これまで取り扱ったテーマから現代社会の問題を一つ取り上げて、文化人類学の観点から考察してください。

※授業で取り扱うテーマは大きくは変えない予定ですが、受講者の関心によっては一部変更する可能性があります。その際は、事前に取り扱うテーマや資料を提示・共有します。ご了承ください。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とし、以下のようなことをおこなってください。

主な事前学習として、前の授業で伝えた疑問点や課題、事例について調べてくること、教科書に一通り声に出して読んでみるのが挙げられます。

主な事後学習として、授業内容をノートにまとめること、授業で示したリアクション・ペーパーに取り組むこと、ツールを用いて振り返りを丁寧におこなうこと、また、小課題・最終レポートに取り組むことが挙げられます。

また、各回で出てきたキーワードをもとに自分の生活や体験、ニュース、動画、本、調べたこと、家族や友人、身近な人との議論などと照らし合わせることもお勧めします。

加えて、次回学習に関して、授業動画後に出るキーワードや問いをもとに、自分の中で想像力をもって考えたり感じたりすることもお勧めします。

小課題は評価基準表(google classroomに掲載したチェックリスト、ルーブリック等)に基づく評価結果やコメントを付して個別に返却します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、課題に対するフィードバックは時間の都合上多くを取り上げることは難しいですが、多かった意見や興味深い意見、補足が必要な意見などがあれば、次の回の授業の冒頭でフィードバックします。必要に応じて追加資料や参考になる動画を配布・紹介します。必ずしも追加資料・動画を読破したり最後まで視聴したりしなくてもよいですが、読んだり見たりすると理解が一層深まります。

また、小課題前後でGoogle Meetを通じて、オンラインで教員・学生交流会および質疑応答・相談を含めたオフィスアワーを小1時間ほど設ける予定です。

加えて、授業履修者間で掲示板を通じてオープンに質問・意見交換コーナーも開きます。どちらも環境が整い次第、google classroomを通じてお伝えします。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。
各回のリアクション・ペーパーの量と質（5×12=60%）、最終レポート（20%）、小課題（10×2=20%）

各授業動画視聴後に、リアクション・ペーパー（google form）の記入を求めます。リアクション・ペーパーは1回ごとに5点満点×12回（第5回、第10回、第15回の3回分を除く）、ペーパーの提出期限は次の授業の動画が始まる前までとしますし、提出をもって出席とみなします。

また最終レポートは20点満点で採点を行います。

その他、小課題（1回10点）を2回課します。期末レポートおよび小課題の提出期限、文字数やフォーマットなどは、レポートを課すときに説明します。これらの合計により成績評価を行います。

小課題と最終レポートは、①意見の表示、②文章の体裁、③表現の推敲、④汎用的技能と態度、志向、文章作成能力の4つの観点から評価します。詳細は、提出前にgoogle classroomを通じて案内しますので、よく確認してください。

特に、引用なく明らかな資料や文章のコピー&ペーストはgoogle classroomの機能によって特定することができます。そのような不正が見られた時は、適宜処分を下します。

また、大学が出した指針に基づき、Chat GPTをはじめとする生成AIの活用に関しては、本授業では、アイデアを出す段階での利用は認めるが、文章作成では認めません。これも確認次第、適宜処分を下しますので、十分に気をつけてください。

利活用に関しては小課題・最終レポート提出前、およびgoogle classroomに前もって周知・掲示しますので、必ず確認して、扱ってください。

欠席やリアクション・ペーパー、小課題、最終レポートの提出が遅れる場合は、正直に教員に、その理由とどのように対処するか/したいかを添えてメールで提出してください。

正当な理由なく5回以上欠席（リアクションペーパーの提出がないこと）した場合はK評価（評価不能）とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	各回のリアクション・ペーパーの量と質	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート（20）	3
その他	20	小課題（10×2）	2

テキスト	<p>テキスト指定はしませんが、松村圭一郎、中川理、石井美保・編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年、価格1,800円＋税、ISBN978-4-7907-1733-1を中心に解説を進めていきます。毎回コピーした章を配布します。</p> <p>ただし、教員の許可なく、無断で授業を受けていない人に対してコピーしたものを配布・二次利用することは禁止ですし、法律で禁じられていますので、注意してください。</p> <p>より熱心に授業内容やテキストの内容を知りたい人はぜひ購入してください。</p>
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介します。例えば、初学者向けのわかりやすく内容が充実したものとして以下のような本が挙げられます。文章や内容のわかりやすさや理解前提のレベルもありますから、ぜひ手に取って読んでから検討してみてください。</p> <p>もちろん全てを買ったり読んだりする必要はありません。授業内容を深く理解したり、もっと学びたいと感じたりした人はぜひ図書館で借りたり、図書館の購入リクエストを出したり、実際に購入したりして、手元に置いて気が向いた時に読んでみてください。</p> <p>・松村圭一郎『旋回する人類学』講談社、2023年</p>
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>履修条件や他の科目との関連については特にありません。</p> <p>オンデマンドの授業ですから、どうしてもただ聞くだけであったり、教員とのコミュニケーションがやりづらかったりするという問題は想定されます。</p> <p>それでも、私から受講生のみなさんに問いかけやあたりまえを考え直すきっかけを作っていくので、皆さんも積極的にそのノリで考えたりあたりまえを問い直したりすることや熱意を期待しています。</p> <p>メールやgoogle classroom、オフィスアワーでの質問やコメントは大歓迎です。</p> <p>また、機械・システム上のトラブルはどうしても直接対応しきれない点があると思います。</p> <p>すべてに対して十分に対応できないことはご了承いただいた上で、問題や気になる点などがあれば、遠慮なくリアクションペーパーの末尾やメール、オフィスアワー、授業評価アンケートなどでお問い合わせください。できる限り問題や気になる点に関して、誠心誠意対応いたします。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10401602	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	世界の歴史と文化 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	山本 明志				
シラバス執筆(主)	山本 明志				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

大学を卒業した社会人が、幅広い教養を有していることは当然のごとく期待されている。特に現代社会がいかなる過程を経て形成されてきたのかについての知見を有していることは、非常に重要である。本講義は特に我々がくらすアジア世界が、いかなる歴史的な過程を経て形作られたのかについて検討するものである。その際にはもちろん、ヨーロッパ世界やアメリカ大陸との相互関係は無視できない。またアジア世界の歴史的展開の中からは、様々な文化も生み出されてきた。本講義は歴史学の最新の成果に基づき、世界の中でもアジアを中心に、その歴史的展開と文化的な特質について考えていく。

本講義は学生諸君が大学の専門教育を受けていく上で、またグローバル社会で生きていく上で必要となる、歴史、文化、国際関係に関する知識に触れるだけでなく、それらを自らの言葉で説明できるようになることをめざすものである。

★この講義は、オンデマンド型の遠隔授業です。講義を録画した動画で学び、一定期間内に課題を提出してもらいます。

到達目標

1. アジアの歴史に関して、特定のトピックについて説明することができる。
2. アジアの文化に関して、特定のトピックについて説明することができる。
3. アジアをめぐる国際関係について、歴史的な背景を踏まえて説明することができる。

授業計画

本講義は、オンデマンド型遠隔授業として実施されます。

- 第1回 歴史学と世界史：本講義の方針を説明し、歴史学とはどのような学問かについて概説する。
- 第2回 世界の文字文化：世界の文字の発明、伝播、変化について概説する。
- 第3回 古代東アジアの初期王権：中国における国家形成の過程について検討する。
- 第4回 古代東アジアの帝国：中国における広域国家の形成過程、その特質について検討する。
- 第5回 秦漢帝国の社会と遊牧国家：秦漢帝国の特徴、同時期にモンゴル高原にあった匈奴について検討する。
- 第6回 シルクロード交易と東西文化の交流：ソグド人の活動を中心に、ユーラシア大陸東部における陸上交易について検討する。
- 第7回 古代東南アジアの海上交易の発展：中国・東南アジア・インドをつなぐ海上交易路の歴史について検討する。
- 第8回 モンゴル帝国の成立と展開：空前絶後の大領域を領有したモンゴル帝国の特質について検討する。
- 第9回 世界をつなぐモンゴル：モンゴル帝国の時代における広域交易の様相について検討する。
- 第10回 モンゴル帝国の遺産：モンゴル政権の崩壊の要因について考察し、次の時代に何が継承されたかを検討する。
- 第11回 「大航海時代」とアジア：ヨーロッパ人商人のアジア市場への参入過程について検討する。
- 第12回 「交易の時代」と「17世紀の危機」：16世紀の世界的な交易の活況、17世紀の経済危機について検討する。
- 第13回 近代化とアジア：近代国民国家の特質について考察した後、アヘン戦争の歴史的な意味合いについて検討する。
- 第14回 第二次世界大戦期のアジア世界：第二次世界大戦時期における東南アジアでの日本軍の活動について検討する。
- 第15回 現代の東アジア世界：中華人民共和国と台湾の今に至る過程について検討する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

大学の講義科目は、単位認定のために、学生が事前・事後学習を行っていることが必要となります。

本講義は、以下のような事前学習・事後学習を想定しています。なお事前学習・事後学習は、各回合わせて4時間、全15回の講義に対して60時間を目安とします。

まず、授業を受ける前に毎回配布するレジュメによく目を通して、よくわからない点・疑問点をはどこかを明確にしておいてください。(=事前学習)

次に教材を用いて授業を受けていただきますが、その際には動画の停止ボタンを使いながら、しっかりノートを取っておいてください。(※このノートテイクが、事後学習で役に立ちます)

授業終了後、課題レポートに取り組んでいただきます。その際には、ノートをきちんと整理し、正確な日本語の文章を書くように注意してください。(=事後学習)

興味を持ったテーマがあれば、関連する読書を行ってください。(=事後学習)

15回の授業終了後、期末最終レポートに取り組んでいただきます。すべてのレジュメ・ノートを見直し、理解が不十分な部分の動画教材を見直して、正確な日本語の文章で提出してください。(=事後学習)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義に関する課題レポートを、Google Classroomに提出してもらいます。

課題レポートは毎回10点満点で評価をつけ、返却します。
 返却の際、可能な限り日本語の添削指導を行い、書くべきポイントについてもコメントします。
 課題レポートには質問欄も設けますので、講義でわからなかったことは質問欄に書いてください。
 質問については、可能な限り回答して返却します。
 共有すべき感想・質問については、次の回の冒頭で紹介し、回答も行います。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。履修登録したものの、課題レポートを一度も出さず、期末試験に代わるレポートも提出しない場合はK評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	毎回の教材についての課題レポートの内容を評価します	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末最終レポートの内容を評価します	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。教員が作成したレジュメを配付する。

参考書 大阪歴史教育研究会：編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014。
 講談社、中国の歴史シリーズ。
 講談社、興亡の世界史シリーズ。
 山川出版社、世界史リブレットシリーズ。

履修条件・他の科目との関連 履修条件はありません。ただし完全なオンデマンド形式の遠隔授業ですので、いつ教材に取り組むのか、いつ課題レポートに取り組むのかを、自分でコントロールしなくてはなりません。きちんと1週間のスケジュールをたて、しっかりと時間をかけて教材と課題に取り組まないと、良い評価にはつながりません。その意味では、自身の生活を律する力がないと苦勞する部分がありますが、それを鍛えるよい機会ともなりえます。
 毎回の課題レポートでは、皆さん一人一人の教材に対する理解を深め、日本語で表現する力を伸ばすことをめざします。インターネット上の情報を探したり、生成AIの出力を利用したりすることは求めません(むしろ、教材の内容を外れた文章を含むレポートは採点対象外とします。自分で調べたことにもとづいて議論したい場合は、「感想欄」に書いてもらいます。)。第1回の教材でこの辺りのルールは丁寧に解説しますので、必ず第1回の教材からスタートしてください。

授業コード	10401603	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	世界の歴史と文化 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	小野 達哉				
シラバス執筆(主)	小野 達哉				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「旅から見た世界史」をテーマとして、古代から近代までの歴史を通観する。人々は古来より旅をしてきた。それは大部な旅行記や報告書を残した著名人であったり、商人や労働者として移動した無名人であったりと様々だが、いずれの旅も異文化との接触・政治経済上の交渉という点で、いずれも個性的な記録となっている。この講義では古代から近代まで、アジア・ヨーロッパを往来して活動した人々の軌跡をたどる。ヘロドトス・司馬遷のような歴史家の旅から、19世紀後半のイザベラ=バードの極東の旅まで、多種多様な内容を取り上げて論じることにはしたい。現代の私たちは、誰もがごく普通に、かつ頻繁に海外へ行き来する時代に生きているが、それは歴史上の旅行者たちの活動から始まったものである。学生の皆さんには最終的に、この「旅から見た世界史」を通じて、自分の現在の生活とも直接つながる問題を見つけ出してほしいと願っている。なお、この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となる。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出してもらう形で実施する予定である。

到達目標

- ①世界史の基本事項について理解し説明できる。
- ②世界史上の異文化交流について理解し説明できる。
- ③世界史上の政治経済交渉について理解し説明できる。
- ④世界史の到達線上に現代の生活があることを理解し説明できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：古代世界における旅①
内容・方法：ヘロドトス『歴史』にみる旅
- 【第2回】
テーマ：古代世界における旅②
内容・方法：司馬遷『史記』にみる旅
- 【第3回】
テーマ：古代世界における旅③
内容・方法：張騫とシルクロード開拓の旅
- 【第4回】
テーマ：古代世界における旅④
内容・方法：玄奘のインド求法の旅
- 【第5回】
テーマ：中世世界における旅①
内容・方法：『エリュトゥラー海案内記』と『シナ・インド物語』の世界
- 【第6回】
テーマ：中世世界における旅②
内容・方法：マルコ=ポーロの世界旅行
- 【第7回】
テーマ：中世世界における旅③
内容・方法：イブン=バットウータの世界旅行
- 【第8回】
テーマ：近世世界における旅①
内容・方法：ヴァスコ=ダ=ガマのインドへの航海
- 【第9回】
テーマ：近世世界における旅②
内容・方法：東インド会社とアジア貿易
- 【第10回】
テーマ：近世世界における旅③
内容・方法：コロンブスの新大陸への航海
- 【第11回】
テーマ：近世世界における旅④
内容・方法：「コロンブスの交換」ヨーロッパと新大陸
- 【第12回】
テーマ：近世世界における旅⑤
内容・方法：イエズス会士のみた中国・日本
- 【第13回】
テーマ：近代世界における旅①
内容・方法：イザベラ=バードの中国・日本紀行
- 【第14回】
テーマ：近代世界における旅②
内容・方法：「八十日間世界一周」世界の一体化と高速化
- 【第15回】

テーマ：まとめ

内容・方法：これまでの講義のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：授業概要のキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第2回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第3回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第4回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第5回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第6回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第7回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第8回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第9回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第10回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第11回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第12回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第13回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第14回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

【第15回】

①事前学修課題：前回の講義時に示したキーワードを辞典等で調べる。

②事後学修課題：レジюмеと史料の内容を確認し理解する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付して返却するつもりである。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の小テスト課題提出、中間レポート・期末レポートの総合評価とする。なお、課題提出の回数が全体の3分の2を下回った者は、履修放棄と見做す。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	毎回授業後の小テスト課題は、講義動画の視聴を前提とする。必ず期限以内に提出すること(20%)。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	40	中間レポートを課す(40%)。中間レポートは、講義内容の理解度を問うものとする。Webサイトの記事の転用は認めないので注意されたい。また、中間レポート未提出の場合は、履修放棄と見做す。	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末レポートを課す(40%)。期末レポートは、講義内容の理解度を問うものとする。Webサイトの記事の転用は認	1, 2, 3, 4

		めないで注意されたい。また、期末レポート未提出の場合は、履修放棄と見做す。	
その他	0		
テキスト	プリントを使用する。		
参考書	講義の中で随時紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	日本史・東洋史・西洋史を含め、歴史全般に幅広く関心を持ってほしい。		

授業コード	10401702	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	現代の国際社会 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	瀬島 誠				
シラバス執筆(主)	瀬島 誠				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

★当授業は、オンデマンド型の遠隔授業となる。具体的には、リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定である。

今日の世界は大きな変革を求められている。ロシアの軍事力行使によって、世界の軍事的緊張は高まっている。グローバル化とデジタル技術によってビジネスの舞台となる世界が大きく変容した。経済のみならず政治、デジタル空間の間に複雑な相互関係が生まれ、多様なアクターが複雑に絡み合っており、世界の問題は従来にない様相を示している。この授業では、新たな国際社会の情勢について、戦争、テロ、核拡散、中国の台頭、破綻国家、地政学、人間の安全保障など具体的な問題を取り上げて、説明する。それらの理解はグローバルビジネスには不可欠のものである。

なお、本授業は現代の国際社会が直面する諸問題を取り扱うため、重要な問題が発生した場合には、その問題を授業で取り上げる。そのため、授業計画通りに進まない場合もあり得る。

到達目標

1. 現代の国際社会がどのような諸問題を抱えているかを理解し説明できる。
2. それらの諸問題の解決が容易でないという複雑さを複眼的視点から理解し、説明できる。
3. それらの諸問題を分析する方法を理解し、応用できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：国際関係とは何か？①

内容・方法：国際関係とは何か？それはアナーキーであることを説明する。

【第2回】

テーマ：国際関係とは何か？②

内容・方法：国際関係において国家が依然として重要なアクターであることを国連との対比で説明する。

【第3回】

テーマ：国際関係の変化と継続

内容・方法：国際関係で起こる様々な出来事を正しく理解する第一歩は変化と継続の両面を正しく理解することである。その理解のために、国際関係の歴史を概観する。

【第4回】

テーマ：テロと合理性

内容・方法：テロや海賊問題の最新事情について説明し、合理性とは何かを考える。

【第5回】

テーマ：戦争はなぜ発生するか

内容・方法：具体的な戦争を取り上げて、戦争はなぜ起こるのかについて説明する。

【第6回】

テーマ：核兵器とその拡散

内容・方法：核兵器とは何か。それはどのようになぜその保有国は拡散しているのかを考える。

【第7回】

テーマ：中国の台頭とアジア・太平洋の安全保障環境

内容・方法：中国の経済力・軍事力の増大がアジア・太平洋地域に及ぼす影響を考える。

【第8回】

テーマ：ナショナリズム

内容・方法：ナショナリズムとは何か？アメリカやヨーロッパの事例を中心に説明する。

【第9回】

テーマ：国際政治経済

内容・方法：貿易、金融、エネルギーなど経済問題は高度に政治的であることを説明する。特に、近年注目を集めるgeo-economicsを中心に説明をする。

【第10回】

テーマ：開発と国連ミレニアム開発計画、SDGs

内容・方法：世界の経済発展は重要な課題である。2016年から、国連は世界の新たな開発計画「持続的開発目標」を立ち上げ、推進している。それは、日本を含め、世界の新たなビジネスチャンスとなっている。その最新事情を説明する

【第11回】

テーマ：破綻国家

内容・方法：国家として機能しきれない破綻国家を具体的にしてみる。

【第12回】

テーマ：情報とデジタル技術革命

内容・方法：国際関係を変化させているもう一つの要因はデジタル技術革命である。この変化の側面について検討する。

【第13回】

テーマ：国際秩序とグローバル公共財

内容・方法：変化する国際関係にどのように秩序を再構築するか。グローバル公共財という視点を説明する。

【第14回】

テーマ：将来の世界を見通す

内容・方法：世界がどのようになるのか。皆さんと考えましょう。

【第15回】

テーマ：過去、現在、未来の国際社会

内容・方法：これまでの授業を復習しつつ、国際社会の様々な問題を検討しよう。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

以下、各回、事前学修は2時間、事後学修は2時間を目安とする。

【第1回】

①事前学修課題：授業概要を読んでおくこと

②事後学修課題：授業の内容を振り返ること

【第2回】

①事前学修課題：事前にウェブで国際連合について調べてくる。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

【第3回】

①事前学修課題：事前にウェブなどで北朝鮮について調べてくる。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

【第4回】

①事前学修課題：事前にウェブでオウム真理教のテロについて調べてくる。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

【第5回】

①事前学修課題：事前にウェブで第二次世界大戦について調べてくる。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

【第6回】

①事前学修課題：事前にウェブで核兵器について調べてくる。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

【第7回】

①事前学修課題：事前にウェブで中国の軍事力について調べてくる。

②事後学修課題：授業を振り返ること

【第8回】

①事前学修課題：事前にウェブでアメリカ社会について調べてくる。

②事後学修課題：授業を振り返ること

【第9回】

①事前学修課題：事前にウェブで資源、エネルギー問題について調べてくる。

②事後学修課題：授業を振り返ること

【第10回】

①事前学修課題：事前にウェブで「持続可能な開発目標」について調べてくる。

②事後学修課題：授業を振り返ること

【第11回】

①事前学修課題：事前にウェブで破綻国家について調べてくる。

②事後学修課題：授業を振り返ること

【第12回】

①事前学修課題：事前に人工知能について調べてくる。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

【第13回】

①事前学修課題：事前にウェブなどで公共財について調べてくる。

②事後学修課題：授業を振り返ること

【第14回】

①事前学修課題：これまでの授業を復習する。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

【第15回】

①事前学修課題：これまでの授業を復習する。

②事後学修課題：授業内容を振り返ること

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業の最後を書いてもらう課題は、評価をつけた後、できるだけ早めにgoogle classroomで返却する。その際、議論や段落の構成、わかりやすい文章の書き方など、どのように質問に答えるべきかなどについても説明をする。

成績評価の方法・基準(方針)

授業の各回最後に提出する課題の評価点と、試験の結果を中心に成績を決める。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	課題の評価点	1, 2, 3
授業外での評価	0		

定期試験	70	定期試験は対面で行う。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	教科書は使わない。動画を配布する。		
参考書	授業の各回の講義の中で、適宜、紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	この授業は、日本と世界の今日的課題を履修するための基礎となるものであり、2年生以降の専門科目を理解するための基盤となる。		

授業コード	10401703	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	現代の国際社会 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	川波 竜三				
シラバス執筆(主)	川波 竜三				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

★この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。

現代の国際社会は技術革新やグローバル化の進展によって急速に発展してきたが、既存の価値やシステムにひずみが生まれ様々な問題が噴出するようになった。また、それらの問題も複雑化しているため全体像を理解することが難しくなっている。本講義では、毎授業において現代の国際社会が抱える論点を取り上げ、「国家」、「国際機構」、「多国籍企業」という3つの主要アクターの視点や関係性から解説する。現代の国際社会における個々の問題の全体像を理解するとともに、今後発生する時事問題について自らの力で論理的に説明できる能力を身につけることを目指す。

到達目標

1. 現代の国際社会が抱える問題点を個別に指摘し説明することができる。
2. 「国家」、「国際機構」、「多国籍企業」の視点から国際社会が抱える問題にアプローチし、その概要を説明することができる。
3. 現在の国際社会における様々な論点に関心を持ち、講義で学んだことをもとに多様な視角から論理的に説明することができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：現代の国際社会における論点と主要アクター

内容・方法：「国家」、「国際機構」、「多国籍企業」とはどのような主体か解説したうえで、本講義で扱う国際社会の論点について概要を説明する。そして、本講義の射程やねらいを明らかにする。

【第2回】

テーマ：新型コロナウイルスへの対応と社会の変化

内容・方法：未知のウイルスの出現は、国際社会が抱える問題点をあぶりだすとともに、新たな社会変革のきっかけとなっている。「国家」、「国際機構」、「国際企業」は、新型コロナウイルスに対してどのように対応したのか、それにより社会はどのように変化しつつあるのか検討する。

【第3回】

テーマ：DX社会の進展と巨大IT企業

内容・方法：新型コロナウイルスの出現により、社会のDX(デジタルトランスフォーメーション)化が一気に進展したと言われている。そして、GAFAMといった巨大IT企業の存在感がますます高まる一方、「国家」にとって有害と見なされる点も散見されるようになった。情報プラットフォームと呼ばれる「多国籍企業」と「国家」および国際経済との関係について考察する。

【第4回】

テーマ：暗号資産の出現とデジタル通貨

内容・方法：ブロックチェーン技術に基づく暗号資産、電子マネー、QRコード決済などの出現は、キャッシュレス社会を進展させてきた。新たな決済手段の開発は、今や国際経済秩序を揺るがす可能性が出てきており、主要国も神経をとがらせている。その現状について解説する。

【第5回】

テーマ：5G覇権をめぐる米中対立

内容・方法：DX社会が進展するうえで、新たな情報技術標準である5Gをめぐる米中の覇権争いは近年鋭さをましてきた。その経緯と現状について学んだうえで、今後の両国の関係について考察する。

【第6回】

テーマ：アメリカを中心とした同盟関係と安全保障

内容・方法：第二次世界大戦以降アメリカは、西側主要国との同盟関係を重視してきた。トランプ前大統領時に強固な同盟関係は一時的に揺らいだもののバイデン政権が発足し、改めて同盟国の協調が図られる可能性が高い。同盟を軸とした伝統的安全保障の変遷と現状、その問題点について解説する。

【第7回】

テーマ：外部講師による講義

内容・方法：時代の最先端で活躍されている社会人を外部講師として招き、専門分野に基づく講義を行って頂く。

【第8回】

テーマ：グローバリゼーションの進展とその功罪

内容・方法：交通手段や金融システム、および情報通信技術の発展により、ヒト・モノ・カネの移動が容易になりグローバリゼーションは進展した。しかし、グローバリゼーションの進展は必ずしも国際社会に良いことばかりをもたらしたわけではない。その概要について説明する。

【第9回】

テーマ：主要国における民主主義の動揺

内容・方法：近年アメリカやイギリスでは、ポピュリスティックなトランプ政権やジョンソン政権が誕生し、主要国の民主主義は動揺している。その要因や現状について解説する。

【第10回】

テーマ：人権と民主主義

内容・方法：昨今、アメリカでは黒人やLGBTQの人権の問題が大きく取りざたされ、昨年行われた大統領選挙の主な争点となった。また、バイデン政権では人権問題をめぐり中国に圧力をかけようという動きもある。人権の問題が、国内および国際社会にどのような影響を及ぼしているのか考察する。

【第11回】

テーマ：外部講師による講義

内容・方法：時代の最先端で活躍されている社会人を外部講師として招き、専門分野に基づく講義を行って頂く。

【第12回】

テーマ：国際通商制度の動向と地域主義

内容・方法：第二次世界大戦後、自由で多角的な貿易制度の確立を目指し様々な通商協定が各国で締結されてきている。また、最近ではRCEPにみられるような地域的な経済連携協定の締結も推し進められている。国際通商制度の動向が、国際社会にどのような影響を与えてきたのか説明する。

【第13回】

テーマ：国家債務の増大とその影響

内容・方法：コロナ禍においては、日本をはじめ各国ともに大幅な財政出動を行い景気を下支えしている。しかし、国家債務の増加は将来的に景気に悪影響を及ぼす可能性がある。主要国の国家債務の現状とその影響について説明する。

【第14回】

テーマ：金融危機と国際社会

内容・方法：日本のバブル崩壊、ITバブルの崩壊、2000年代後半に発生した世界金融危機など、頻繁に金融危機は発生している。金融危機はなぜ発生し、その対応と国際社会への影響はどのようなものになっているのか解説する。

【第15回】

テーマ：本講義のまとめ

内容・方法：本講義における重要な点を改めて見直し、内容理解の深化に努めることとする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習(全授業共通)：授業日までに授業内容に関する概要プリントをダウンロード出来るようにするので事前に目を通し、わからない用語などがあつた場合には調べておくこと。参考書を用いて授業内容に関する予習をしておくと、理解がより進むと考える。事前学習については、各回2時間程度を目安にすること。

事後学習(全授業共通)：各回の授業で扱った内容について宿題として小テストの提出を求める。概要プリントや授業メモを用いて小テストに取り組むこと。特に授業内で重要であると指摘した点については、確実に理解するよう努めること。事後学習についても、各回2時間程度を目安とする。

課題に対するフィードバックの方法

- ・小テストの解説及び質問に対する回答は、次回の授業内で行う。
- ・定期試験の評価については、申し出があれば個別に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。ただし、正当な理由なく5回以上小テストの解答を提出しなかった場合にはK評価とする。提出期限後の解答の提出は原則提出と認められないので、注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	小テストへの取り組み(45)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	55	筆記試験(55)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用せずダウンロード可能な資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 経営経済学部の学生は、事後に「国際関係論」や「政治経済学」を履修すれば、さらに内容の理解が深まると思います。わからないことがあれば積極的に質問するよう心掛けてください。

授業コード	10401805	授業形態	講義・演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	新谷 廣一				
シラバス執筆(主)	新谷 廣一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】 ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】 日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1~1.6)。

【第3週】 日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7~1.8、2.1~2.3)。

【第4週】 「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1~3.4)。

【第5週】 「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1~2.3)。

【第6週】 「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1~3.4)。

【第7週】 「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1~4.3)。

【第8週】 「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】 「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
 (演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索
 (講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
 (演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)
 (講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
 (演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)
 (講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
 (演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)
 (講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
 (演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)
 (講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
 (演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)
 (講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
 (演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
 事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト	<p>オーム社「Microsoft Office Word & PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子 / 著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税 オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子 / 著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税</p> <p>上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。 本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10401806	授業形態	講義・演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	大島 淑恵				
シラバス執筆(主)	大島 淑恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1~1.6)。

【第3週】日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7~1.8、2.1~2.3)。

【第4週】「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1~3.4)。

【第5週】「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1~2.3)。

【第6週】「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1~3.4)。

【第7週】「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1~4.3)。

【第8週】「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
 (演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索
 (講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
 (演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)
 (講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
 (演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)
 (講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
 (演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)
 (講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
 (演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)
 (講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
 (演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)
 (講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
 (演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
 事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト
 オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税
 オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税
 上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。

参考書
 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
 本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。

授業コード	10401807	授業形態	講義・演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	内藤 富美子				
シラバス執筆(主)	内藤 富美子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面に急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】 ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】 日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1~1.6)。

【第3週】 日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7~1.8、2.1~2.3)。

【第4週】 「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1~3.4)。

【第5週】 「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1~2.3)。

【第6週】 「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1~3.4)。

【第7週】 「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1~4.3)。

【第8週】 「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】 「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
 (演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索
 (講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
 (演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)
 (講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
 (演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)
 (講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
 (演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)
 (講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
 (演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)
 (講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
 (演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)
 (講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
 (演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
 事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト
 オーム社「Microsoft Office Word & PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子 / 著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税
 オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子 / 著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税
 上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。

参考書
 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
 本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。

授業コード	10401808	授業形態	講義・演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	野村 孝久				
シラバス執筆(主)	野村 孝久				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1～1.6)。

【第3週】日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7～1.8、2.1～2.3)。

【第4週】「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1～3.4)。

【第5週】「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1～2.3)。

【第6週】「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1～3.4)。

【第7週】「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1～4.3)。

【第8週】「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
 (演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索
 (講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
 (演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)
 (講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
 (演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)
 (講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
 (演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)
 (講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
 (演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)
 (講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
 (演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)
 (講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
 (演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
 事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト
 オーム社「Microsoft Office Word & PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子 / 著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税
 オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子 / 著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税
 上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。

参考書
 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
 本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。

授業コード	10401810	授業形態	講義・演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	三宅 香代子				
シラバス執筆(主)	三宅 香代子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1~1.6)。

【第3週】日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7~1.8、2.1~2.3)。

【第4週】「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1~3.4)。

【第5週】「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1~2.3)。

【第6週】「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1~3.4)。

【第7週】「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1~4.3)。

【第8週】「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
 (演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索
 (講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
 (演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)
 (講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
 (演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)
 (講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
 (演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)
 (講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
 (演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)
 (講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
 (演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)
 (講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
 (演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
 事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト
 オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税
 オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税
 上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。

参考書
 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
 本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。

授業コード	10401811	授業形態	講義・演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸田 由紀子				
シラバス執筆(主)	岸田 由紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1~1.6)。

【第3週】日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7~1.8、2.1~2.3)。

【第4週】「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1~3.4)。

【第5週】「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1~2.3)。

【第6週】「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1~3.4)。

【第7週】「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1~4.3)。

【第8週】「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
 (演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索

(講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
 (演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)

(講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
 (演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)

(講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
 (演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)

(講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
 (演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)

(講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
 (演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)

(講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
 (演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
 事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト	<p>オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税 オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税</p> <p>上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。 本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10401812	授業形態	講義・演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	新谷 廣一				
シラバス執筆(主)	新谷 廣一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目は共通教育科目群の中核において大学の全学部・全学科の初年度において必修となり、現代を生きる誰もが身につけるべき、知識と技術を学習し、大学生としてデジタル環境の中で、それらのしくみを最大限に生かし、自身の学習や研究、文化的活動に生かすことを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、講義形式の授業と、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を混在させて行う。開始当初の3週は、大学から指定・提供されている各種ネットワークサービスの利用方法を習得するために行われ、第4週以降は講義形式の授業を行いつつ、講義内容に即した課題を持参PCにて行う演習形式の授業へとつなげる形態をとる。

到達目標

1. 学内における各種サービスを支障なく利用することができる。
2. Wordの基本的な使用法を修め、文書を作成することができる。
3. PowerPointの基本的な使用法を修め、プレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Excelの基本的な使用法を修め、簡単な計算表とグラフを作成することができる。
5. 授業内で修めたPCの基本的な利用法に慣れ、スムーズにコンテンツ制作が行える。
6. PCアプリを効果的に利用して、自身の思考をわかりやすく表現したコンテンツが作成できる。
7. 現代社会とデジタル技術の関りについての基本的な知識を獲得し、ネットワーク内における自分の権利を守り、かつ自分自身の生活に生かすことができる。

授業計画

【第1週】ネットワークサービスの利用

UNIPA、Google Classroom、Microsoft 365、zoom、WWW、OIUメールの活用を習得する。

【第2週】日本語入力と文書作成(1)

Wordにおける日本語入力を学び、簡単な文書を作成、Google Driveに保存するまでを学ぶ(テキストWord編1.1~1.6)。

【第3週】日本語入力と文書作成(2)

Google Driveに保存した文書を再編集し、より高度な文書作成を学ぶ(テキストWord編1.7~1.8、2.1~2.3)。

【第4週】「PCのクリエイティブな利用」と文書作成(3)

(講義) PCによるコンテンツ作成のあらましを学ぶ。
(演習) Wordによるレポート作成を学ぶ(テキストWord編3.1~3.4)。

【第5週】「マルチウィンドウの利用」とプレゼンテーション(1)

(講義) PCの広い画面を最大限に利用して、ブラウザとアプリの同時利用を学ぶ。
(演習) PowerPointによるプレゼンテーションの概要を学ぶ(テキストPowerPoint編2.1~2.3)。

【第6週】「スマホとの連携」とプレゼンテーション(2)

(講義) PCとスマホのそれぞれの特徴を学び、各々でのデータ利用について学ぶ。
(演習) スマホと連携したコンテンツ作りを、PowerPoint上で体験する(テキストPowerPoint編3.1~3.4)。

【第7週】「ネットワーク/メディアの概要」とプレゼンテーション(3)

(講義) ネットワークがメディアとして活用されている実態を学び、ネットワーク上のコンテンツ利用の実際を学ぶ。
(演習) より興味を引くPowerPointによるプレゼンテーションについて学ぶ(テキストPowerPoint編4.1~4.3)。

【第8週】「セキュリティの知識」とセキュリティ管理

(講義) ネットワーク上の脅威や権利侵害について学び、安全なネットワーク利用について考える。
(演習) 自身のパスワードを変更し、自身によるセキュリティ管理を開始する。

【第9週】「バーコード・QRコード・暗号」と文書作成(4)

(講義) 社会における情報利用のしくみを学び、それらの存在意義や安全性について考える。
 (演習) また、その考察の結果をWordにより文章化する(テキストWord編4.1~4.5)。

【第10週】「ICカード・スマホ決済・Webマネー」と高度なWeb検索

(講義) ネットワーク上のお金について、そのあらましを学ぶ。
 (演習) Webの検索機能を用いて、自分自身も利用するIT技術の詳細について調べる。

【第11週】「クラウド」とプレゼンテーション(4)

(講義) Google Driveを代表とするクラウド技術について知る。
 (演習) 自らWebによって収集したデータを交えてプレゼンテーション資料を作成する(テキストPowerPoint編6章)。

【第12週】「データフォーマットと圧縮」と表計算(1)

(講義) 映像、音声、文書などさまざまな場面で使われる多くのデータフォーマットと、その特徴について知る。
 (演習) データ処理の基本としてExcelの使い方を学ぶ(テキストExcel編1.1~1.6、2.1~2.4)。

【第13週】「ゲームビジネス」と表計算(2)

(講義) 多くの学生にとって興味深いゲームコンテンツにおけるビジネスのしくみを知り、その意義を考える。
 (演習) Excelの関数を学ぶ(テキストExcel編3.1~3.2、4.1~4.2)。

【第14週】「シミュレーション」と表計算(3)

(講義) コンピューターシミュレーションの基礎を学び、知的生産における応用を考える。
 (演習) Excelのグラフ機能を使った簡単なシミュレーションを体験してみる(テキストExcel編6.1~6.3)。

【第15週】「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱの紹介」と表計算(4)

(講義) 科目「デジタル・リテラシー」の結びとして、学習した内容の今後の発展と「デジタル・リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」を紹介する。
 (演習) Excelによって作成したグラフをWord、PowerPointに引用し、アプリを連携したコンテンツ作成を学ぶ(テキストPowerPoint編5章、Word編11.3)。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
 事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて講評を行い、自身の達成度を確認する。またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本授業では、課題の達成度、最終課題の完成度について評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業の受講態度と課題の提出	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	6, 7
その他	0		

テキスト
 オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円+税
 オーム社「コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN978-4-274-22920-6 2400円+税
 上記2冊は1年次後期「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。

参考書
 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
 本科目は1年次後期の必修科目「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」並びに2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」の基礎となる内容であり、本科目の単位を取得していないと後の科目は理解できない恐れがある。

授業コード	10401951	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	新谷 廣一				
シラバス執筆(主)	新谷 廣一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成 I」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成 II」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能 I」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理 I」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401905	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	野村 孝久				
シラバス執筆(主)	野村 孝久				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成Ⅰ」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成Ⅱ」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能Ⅰ」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理Ⅰ」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401906	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	浅里 京子				
シラバス執筆(主)	浅里 京子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面に急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成Ⅰ」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成Ⅱ」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能Ⅰ」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理Ⅰ」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401907	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸田 由紀子				
シラバス執筆(主)	岸田 由紀子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成Ⅰ」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成Ⅱ」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能Ⅰ」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理Ⅰ」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401908	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	新谷 廣一				
シラバス執筆(主)	新谷 廣一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面に急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成 I」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成 II」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能 I」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理 I」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401909	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	三宅 香代子				
シラバス執筆(主)	三宅 香代子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面に急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成 I」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成 II」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能 I」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理 I」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401910	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	野村 孝久				
シラバス執筆(主)	野村 孝久				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面に急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成Ⅰ」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成Ⅱ」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能Ⅰ」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理Ⅰ」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401911	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	大島 淑恵				
シラバス執筆(主)	大島 淑恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成 I」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成 II」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能 I」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理 I」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10401912	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸田 由紀子				
シラバス執筆(主)	岸田 由紀子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参PCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作

【第2週】 Word(1)
テキストWord編第5章「表作成Ⅰ」

【第3週】 Word(2)
テキストWord編第6章「表作成Ⅱ」

【第4週】 Word(3)
テキストWord編第7章「社外ビジネス文書」

【第5週】 Word(4)
テキストWord編第8章「図形描画」

【第6週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編第1章「プレゼンテーションとは」、第6章「図・画像の挿入」

【第7週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編第7章「画面切り替え効果とアニメーション」

【第8週】 Word(5) & PowerPoint(3)
演習問題

【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編第4章「基本的な関数」の復習

【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編第5章「相対参照と絶対参照」

【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編第7章「データベース機能Ⅰ」

【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編第8章「判断処理Ⅰ」

【第13週】 Excel(5)
テキストExcel編第9章「複数シートの利用」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編第10章「基礎編総合演習」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記2冊は1年次前期「デジタル・リテラシー」および2年次前期「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」でも使用される。
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目は必修科目であり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」を基礎としており、「デジタル・リテラシー」の単位を取得後に履修すべきである。また2年次前期の選択科目「デジタル・リテラシー演習Ⅱ」は、本科目を基礎とした科目であり、本科目の単位取得を前提とした授業内容となる。

授業コード	10402002	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	デジタル・リテラシー演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	内藤 富美子				
シラバス執筆(主)	内藤 富美子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2020年から全世界でまん延した新型コロナウイルスの影響で、社会生活は一変した。社会ではそれまでもすでに問題とされていた勤務形態の見直しが進み、学校においてもできるだけ接触の少ない授業形態への試みが積極的に行われ、また生活の形態も大きく変貌を遂げた。その結果として社会生活のあらゆる場面を急速に変貌させていったのが、いわゆるDX(デジタルトランスフォーメーション)の波である。私たちは日常生活、仕事や学習、金融や買い物、そして余暇や趣味の世界でさえ、パソコンやスマホに代表される個人用情報端末と、その背景にあるネットワークを最大限に利用することが可能になり、またそれを求められるようになった。2020年代以降を文化的に暮らしていくためには、デジタル社会を十分に理解し、できるだけ安全に、そして効率的に効果的にその仕組みを活用していくための、デジタル・リテラシーを身につけることが重要となったのである。本科目ではすでに「デジタル・リテラシー」および「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」において学んだPCの操作技術をより深化させ、PCとアプリを縦横無尽に駆使して、デジタル環境における自己の表現技術をより研鑽することを目的としている。

本授業においては原則として普通教室において対面で、持参したPCの操作を中心とした演習形式の授業を行う。

Microsoft 365を使用し、「デジタル・リテラシー」および「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」において学んだ各アプリの基本的利用法をさらに拡張して、デジタルアプリによるより高い思考力と表現力を身につけていく。また、その際に利用する様々なファイルを、クラウドファイルシステム上で整理し管理することを学ぶ。

到達目標

1. クラウド環境において各種の情報をフォルダに整理整頓し管理することができる。
2. クラウド環境を利用しながら、Wordによる高度な文書作成ができる。
3. クラウド環境を利用しながら、PowerPointによる高度なプレゼンテーション資料を作成できる。
4. クラウド環境を利用しながら、Excelによる高度なワークシートの操作ができる。
5. Officeアプリを連携させて利用し、他者への情報伝達のための資料を作成することができる。

授業計画

- 【第1週】 ファイルシステム
Google ClassroomとPCのファイルシステムの利用と操作(オリエンテーション)
- 【第2週】 Word(1)
テキストWord編 第9章「ビジュアルな文書の作成」
- 【第3週】 Word(2)
テキストWord編 第10章「レポート・論文に役立つ機能Ⅰ」
- 【第4週】 Word(3)
テキストWord編 第11章「レポート・論文に役立つ機能Ⅱ」
- 【第5週】 PowerPoint(1)
テキストPowerPoint編 第8章「スライドショーの準備と実行」
- 【第6週】 PowerPoint(2)
テキストPowerPoint編 第9章「資料の作成と印刷」
- 【第7週】 PowerPoint(3)
テキストPowerPoint編 第10章「テンプレートの利用」
- 【第8週】 Word(3) & PowerPoint(3)
演習問題
- 【第9週】 Excel(1)
テキストExcel編 第11章「日付・時刻に関する処理」
- 【第10週】 Excel(2)
テキストExcel編 第12章「文字列に関する処理」
- 【第11週】 Excel(3)
テキストExcel編 第13章「グラフ機能Ⅱ」
- 【第12週】 Excel(4)
テキストExcel編 第14章「判断処理Ⅱ」

【第13週】Excel (5)
テキストExcel編 第15章「データベース機能Ⅱ」

【第14週】Excel (6)
テキストExcel編 第16章「表検索処理」

【第15週】Officeアプリの連携
最終課題を課し、Officeアプリを連携して資料作成できることを確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、各週の演習授業に備えて、テキストを通読しておき、必要に応じて独習しておくこと。
事後の学習は、毎回の講義内容に合わせた演習を通じて復習を行い、成果を提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対して次週授業にて点検を行い、またそこからさらに拡張して課題を発展していくことを繰り返す。

成績評価の方法・基準(方針)

本科目は演習授業であり、毎回の課題の提出とその達成度、最終課題の完成度を評価対象とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の課題提出	2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	課題の達成度	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終課題の完成度	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト
オーム社「Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]」花木泰子・浅里京子／著 ISBN: 978-4-274-22919-0 2400円＋税
オーム社「コンピューターリテラシー(改訂版)Microsoft Office Excel編」多田憲孝・内藤富美子／著 ISBN: 978-4-274-22920-6 2400円＋税
上記のほかに、必要に応じて電子的資料をGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書
必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
本科目を受講するにあたり、毎回必ず十分に充電したPCを持参すること。
本科目は1年次前期の必修科目「デジタル・リテラシー」「デジタル・リテラシー演習Ⅰ」を基礎としており、この2科目の単位を取得後に履修すべきである。

授業コード	10402114	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	L. J. ピッチャー				
シラバス執筆(主)	L. J. ピッチャー				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402115	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	G. S. ジョン=バプティースト				
シラバス執筆(主)	G. S. ジョン=バプティースト				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402116	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. A. チャッタム				
シラバス執筆(主)	D. A. チャッタム				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402117	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	P. J. ベイリー				
シラバス執筆(主)	P. J. ベイリー				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402118	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. M. パーマンター				
シラバス執筆(主)	J. M. パーマンター				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402119	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. N. ゴーフ				
シラバス執筆(主)	S. N. ゴーフ				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402120	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	S.F.N. ティムズ				
シラバス執筆(主)	S.F.N. ティムズ				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402121	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	A. ナデュー				
シラバス執筆(主)	A. ナデュー				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402122	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. M. ラッセル				
シラバス執筆(主)	J. M. ラッセル				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402123	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. スクーカス				
シラバス執筆(主)	J. スクーカス				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402124	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	T. पीート				
シラバス執筆(主)	T. पीート				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402125	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	P.ペレ				
シラバス執筆(主)	P.ペレ				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402131	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English I [対面]				
シラバス執筆(全員)	D.D. スコット				
シラバス執筆(主)	D.D. スコット				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:
 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access Student Book. Student Book with MyMobileWorld. (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402214	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	L. J. ピッチャー				
シラバス執筆(主)	L. J. ピッチャー				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide
- 【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.
- 【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2
- 【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.
- 【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

②事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402215	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	G. S. ジョン=バプティースト				
シラバス執筆(主)	G. S. ジョン=バプティースト				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide
- 【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.
- 【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2
- 【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.
- 【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402216	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. A. チャッタム				
シラバス執筆(主)	D. A. チャッタム				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402217	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	P. J. ベイラー				
シラバス執筆(主)	P. J. ベイラー				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】

テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】

テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】

テーマ: Unit 7: I love weekends!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】

テーマ: Unit 8: Let's eat!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】

テーマ: Presentation skills practice
内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】

テーマ: Presentation 2
内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】

テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】

テーマ: Unit 10: welcome to my home.
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402218	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. M. パーメンター				
シラバス執筆(主)	J. M. パーメンター				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】

テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】

テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】

テーマ: Unit 7: I love weekends!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】

テーマ: Unit 8: Let's eat!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】

テーマ: Presentation skills practice
内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】

テーマ: Presentation 2
内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】

テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】

テーマ: Unit 10: welcome to my home.
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402219	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. N. ゴーフ				
シラバス執筆(主)	S. N. ゴーフ				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402220	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. F. N. ティムズ				
シラバス執筆(主)	S. F. N. ティムズ				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402221	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	A. ナデュー				
シラバス執筆(主)	A. ナデュー				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide
- 【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.
- 【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2
- 【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.
- 【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

②事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402222	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. M. ラッセル				
シラバス執筆(主)	J. M. ラッセル				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】

テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】

テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】

テーマ: Unit 7: I love weekends!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】

テーマ: Unit 8: Let's eat!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】

テーマ: Presentation skills practice
内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】

テーマ: Presentation 2
内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】

テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】

テーマ: Unit 10: welcome to my home.
内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】

テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402223	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. スクーカス				
シラバス執筆(主)	J. スクーカス				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice – introductions. HWK: Self-Introduction power point slide
- 【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 – group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 – decide the topic and plan the slides.
- 【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2
- 【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 – group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 – decide the topic and plan the slides.
- 【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402224	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	T. ピート				
シラバス執筆(主)	T. ピート				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide
- 【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.
- 【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2
- 【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.
- 【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

②事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402225	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	P.ペレ				
シラバス執筆(主)	P.ペレ				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

- 【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide
- 【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.
- 【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2
- 【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit
- 【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.
- 【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.
- 【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402231	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Presenting Skills [対面]				
シラバス執筆(全員)	D.D. スコット				
シラバス執筆(主)	D.D. スコット				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(Regular) The aim of this course is to develop to the basics of English conversation and introduce the basic skills of presenting. During each class, students will take part in conversations about different topics and associated vocabulary and grammar. To develop presenting skills, students will receive instruction in posture, eye contact, and voice inflection and will give presentations using Power Point. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. There will be regular quizzes, weekly homework assignments and class presentation projects. A final presentation will be done in class and submitted as a Power Point video presentation. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. develop the ability to converse about various everyday topics.
2. develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
3. learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.
4. improve presentation delivery skills.
5. improve presentation visuals and slides.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Study of presenting skills.
 内容・方法: Presenting skills, posture, gestures, and voice inflections. Application and practice - introductions. HWK: Self-Introduction power point slide

【第2回】
 テーマ: Presentation skills practice & Self-Introduction Power Point (1 Slide)
 内容・方法: Presentation 1 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第3回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 2 - decide the topic and plan the slides.

【第6回】
 テーマ: Presentation skills practice
 内容・方法: Presentation 2: prepare slides and practice delivery - peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 2

【第7回】
 テーマ: Presentation 2
 内容・方法: Presentation 2 - group presentations and student checklist & feedback. HWK review text unit

【第8回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building & quiz; Listening/Reading review. Dialog & pair work. HWK Reading and grammar.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Review Presentation skills - posture, gestures, and voice inflections. Plan presentation 3 - decide the topic and plan the slides.

【第11回】

テーマ : Presentation skills practice

内容・方法 : Presentation 3: prepare slides and practice delivery – peer edit slides & pairs give feedback and advice on presentation delivery. HWK: practice presentation 3.

【第12回】

テーマ : Presentation 3

内容・方法 : Presentation 3 – group presentations and student checklist & feedback.

【第13回】

テーマ : Final presentation

内容・方法 : Decide the topic, plan the presentation. Explanation of how to make a power point video presentation.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations – student feedback and comment. Explanation of final test – submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills. Do HWK presentation assignment

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice and prepare for the presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read text unit.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第10回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review Presentation skills – posture, gestures, and voice inflections. Do HWK presentation assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Review presentation skills practice.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Practice your presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Prepare for final presentation and do HWK presentation assignments.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit feedback and comments.

【第15回】

② 事前学修課題 : Prepare for final presentation.

② 事後学修課題 : Submit feedback and comments. Submit the final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Language (vocabulary & grammar quizzes) (30%)
- 3) Unit reviews (10%)
- 4) 3 Class Presentations (30%)
- 5) Homework assignments (10%)
- 6) Final presentation and video presentation (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	Participation and class activities (10%), language (vocabulary & grammar quizzes) (30%), unit reviews (10%), and 3 Class Presentations (30%).	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	Homework assignments (10%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final Presentation and video examination (10%)	4, 5
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld (2018 5th edition), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Materials will be issued in class as necessary. 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	-------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402306	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English II [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. N. ゴーフ				
シラバス執筆(主)	S. N. ゴーフ				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- ① converse in English in various situations
- ② carry on longer and longer conversations
- ③ increase your productive vocabulary
- ④ be able to use basic English grammar when speaking

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：Course explanation and Google Classroom orientation.
 内容・方法：Scope and sequence.
- 【第2回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Conversation and Language practice, Registration for online practice
- 【第3回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第4回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第5回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第6回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第7回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第8回】
 テーマ：Mid- semester review & assessment
 内容・方法：Review Units 1-3 and mid-semester assessment.
- 【第9回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第10回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第11回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第12回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第13回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第14回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第15回】
 テーマ：End-of-semester review & assessment
 内容・方法：Review of units 4-6 and explanation of final assessment.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題: Buy the textbook Register for Google Classroom.
- ②事後学修課題: Homework assignments and Unit 1, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第2回】

- ①事前学修課題: Do Unit 1-1-5 オンラインOnline Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignment and do Unit 1-All online activities

【第3回】

- ①事前学修課題: Complete all online conversation and video activities for Unit 1.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 2, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第4回】

- ①事前学修課題: Do Unit 2, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 2 online conversation and video activities

【第5回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 2 online conversation and video activities
- ②事後学修課題: Homework assignments do Unit 3, 1-5, online vocabulary and grammar activities.

【第6回】

- ①事前学修課題: Do Unit 3, 1-5, Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 3 online conversation and video activities.

【第7回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 3 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines. Prepare for the mid-term assessment.

【第8回】

- ①事前学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines for the mid-term assessment.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 4, 1-5 all online vocabulary and grammar activities

【第9回】

- ①事前学修課題: Do Unit 4, 1-5 all Online Vocabulary and Grammar activities
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 4 online conversation and video activities.

【第10回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 4 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 5, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第11回】

- ①事前学修課題: Do Unit 5, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 5 online conversation and video activities.

【第12回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 5 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 6, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第13回】

- ①事前学修課題: Do Unit 6, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 6 online conversation and video activities.

【第14回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 6 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening. Prepare for the final assessment.

【第15回】

- ①事前学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening for the final assessment..
- ②事後学修課題: Submit the final examination. Listen to English during the summer break.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on dialog performance, pair work activities and class activities (30%). There will be regular vocabulary and grammar quizzes (20%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 tests: a mid-term and end-of-term evaluation (20%). There will be a final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	dialog performance, pair work activities and class activities (30%), vocabulary and grammar quizzes (20%), a mid-term and end-of-term evaluation (20%).	1, 2, 3, 4

授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	final examination (10%)	1, 2, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8		
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)		
-----	-------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10402307	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English II [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. M. ラッセル				
シラバス執筆(主)	J. M. ラッセル				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- ① converse in English in various situations
- ② carry on longer and longer conversations
- ③ increase your productive vocabulary
- ④ be able to use basic English grammar when speaking

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：Course explanation and Google Classroom orientation.
 内容・方法：Scope and sequence.
- 【第2回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Conversation and Language practice, Registration for online practice
- 【第3回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第4回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第5回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第6回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第7回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第8回】
 テーマ：Mid- semester review & assessment
 内容・方法：Review Units 1-3 and mid-semester assessment.
- 【第9回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第10回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第11回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第12回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第13回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第14回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第15回】
 テーマ：End-of-semester review & assessment
 内容・方法：Review of units 4-6 and explanation of final assessment.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題: Buy the textbook Register for Google Classroom.
- ②事後学修課題: Homework assignments and Unit 1, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第2回】

- ①事前学修課題: Do Unit 1-1-5 オンラインOnline Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignment and do Unit 1-All online activities

【第3回】

- ①事前学修課題: Complete all online conversation and video activities for Unit 1.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 2, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第4回】

- ①事前学修課題: Do Unit 2, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 2 online conversation and video activities

【第5回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 2 online conversation and video activities
- ②事後学修課題: Homework assignments do Unit 3, 1-5, online vocabulary and grammar activities.

【第6回】

- ①事前学修課題: Do Unit 3, 1-5, Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 3 online conversation and video activities.

【第7回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 3 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines. Prepare for the mid-term assessment.

【第8回】

- ①事前学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines for the mid-term assessment.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 4, 1-5 all online vocabulary and grammar activities

【第9回】

- ①事前学修課題: Do Unit 4, 1-5 all Online Vocabulary and Grammar activities
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 4 online conversation and video activities.

【第10回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 4 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 5, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第11回】

- ①事前学修課題: Do Unit 5, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 5 online conversation and video activities.

【第12回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 5 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 6, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第13回】

- ①事前学修課題: Do Unit 6, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 6 online conversation and video activities.

【第14回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 6 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening. Prepare for the final assessment.

【第15回】

- ①事前学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening for the final assessment..
- ②事後学修課題: Submit the final examination. Listen to English during the summer break.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on dialog performance, pair work activities and class activities (30%). There will be regular vocabulary and grammar quizzes (20%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 tests: a mid-term and end-of-term evaluation (20%). There will be a final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	dialog performance, pair work activities and class activities (30%), vocabulary and grammar quizzes (20%), a mid-term and end-of-term evaluation (20%).	1, 2, 3, 4

授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	final examination (10%)	1, 2, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8		
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)		
-----	-------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10402308	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English II [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. スクーカス				
シラバス執筆(主)	J. スクーカス				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- ① converse in English in various situations
- ② carry on longer and longer conversations
- ③ increase your productive vocabulary
- ④ be able to use basic English grammar when speaking

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：Course explanation and Google Classroom orientation.
 内容・方法：Scope and sequence.
- 【第2回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Conversation and Language practice, Registration for online practice
- 【第3回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第4回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第5回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第6回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第7回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第8回】
 テーマ：Mid- semester review & assessment
 内容・方法：Review Units 1-3 and mid-semester assessment.
- 【第9回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第10回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第11回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第12回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第13回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第14回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第15回】
 テーマ：End-of-semester review & assessment
 内容・方法：Review of units 4-6 and explanation of final assessment.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題: Buy the textbook Register for Google Classroom.
- ②事後学修課題: Homework assignments and Unit 1, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第2回】

- ①事前学修課題: Do Unit 1-1-5 オンラインOnline Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignment and do Unit 1-All online activities

【第3回】

- ①事前学修課題: Complete all online conversation and video activities for Unit 1.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 2, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第4回】

- ①事前学修課題: Do Unit 2, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 2 online conversation and video activities

【第5回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 2 online conversation and video activities
- ②事後学修課題: Homework assignments do Unit 3, 1-5, online vocabulary and grammar activities.

【第6回】

- ①事前学修課題: Do Unit 3, 1-5, Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 3 online conversation and video activities.

【第7回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 3 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines. Prepare for the mid-term assessment.

【第8回】

- ①事前学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines for the mid-term assessment.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 4, 1-5 all online vocabulary and grammar activities

【第9回】

- ①事前学修課題: Do Unit 4, 1-5 all Online Vocabulary and Grammar activities
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 4 online conversation and video activities.

【第10回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 4 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 5, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第11回】

- ①事前学修課題: Do Unit 5, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 5 online conversation and video activities.

【第12回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 5 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 6, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第13回】

- ①事前学修課題: Do Unit 6, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 6 online conversation and video activities.

【第14回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 6 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening. Prepare for the final assessment.

【第15回】

- ①事前学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening for the final assessment..
- ②事後学修課題: Submit the final examination. Listen to English during the summer break.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on dialog performance, pair work activities and class activities (30%). There will be regular vocabulary and grammar quizzes (20%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 tests: a mid-term and end-of-term evaluation (20%). There will be a final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	dialog performance, pair work activities and class activities (30%), vocabulary and grammar quizzes (20%), a mid-term and end-of-term evaluation (20%).	1, 2, 3, 4

授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	final examination (10%)	1, 2, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8		
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)		
-----	-------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10402309	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English II [対面]				
シラバス執筆(全員)	T. ピート				
シラバス執筆(主)	T. ピート				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- ① converse in English in various situations
- ② carry on longer and longer conversations
- ③ increase your productive vocabulary
- ④ be able to use basic English grammar when speaking

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：Course explanation and Google Classroom orientation.
 内容・方法：Scope and sequence.
- 【第2回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Conversation and Language practice, Registration for online practice
- 【第3回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第4回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第5回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第6回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第7回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第8回】
 テーマ：Mid- semester review & assessment
 内容・方法：Review Units 1-3 and mid-semester assessment.
- 【第9回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第10回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第11回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第12回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第13回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第14回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第15回】
 テーマ：End-of-semester review & assessment
 内容・方法：Review of units 4-6 and explanation of final assessment.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題: Buy the textbook Register for Google Classroom.
- ②事後学修課題: Homework assignments and Unit 1, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第2回】

- ①事前学修課題: Do Unit 1-1-5 オンラインOnline Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignment and do Unit 1-All online activities

【第3回】

- ①事前学修課題: Complete all online conversation and video activities for Unit 1.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 2, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第4回】

- ①事前学修課題: Do Unit 2, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 2 online conversation and video activities

【第5回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 2 online conversation and video activities
- ②事後学修課題: Homework assignments do Unit 3, 1-5, online vocabulary and grammar activities.

【第6回】

- ①事前学修課題: Do Unit 3, 1-5, Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 3 online conversation and video activities.

【第7回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 3 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines. Prepare for the mid-term assessment.

【第8回】

- ①事前学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines for the mid-term assessment.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 4, 1-5 all online vocabulary and grammar activities

【第9回】

- ①事前学修課題: Do Unit 4, 1-5 all Online Vocabulary and Grammar activities
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 4 online conversation and video activities.

【第10回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 4 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 5, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第11回】

- ①事前学修課題: Do Unit 5, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 5 online conversation and video activities.

【第12回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 5 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 6, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第13回】

- ①事前学修課題: Do Unit 6, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 6 online conversation and video activities.

【第14回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 6 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening. Prepare for the final assessment.

【第15回】

- ①事前学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening for the final assessment..
- ②事後学修課題: Submit the final examination. Listen to English during the summer break.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on dialog performance, pair work activities and class activities (30%). There will be regular vocabulary and grammar quizzes (20%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 tests: a mid-term and end-of-term evaluation (20%). There will be a final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	dialog performance, pair work activities and class activities (30%), vocabulary and grammar quizzes (20%), a mid-term and end-of-term evaluation (20%).	1, 2, 3, 4

授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	final examination (10%)	1, 2, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8		
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)		
-----	-------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10402310	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Oral English II [対面]				
シラバス執筆(全員)	P. ペレ				
シラバス執筆(主)	P. ペレ				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- ① converse in English in various situations
- ② carry on longer and longer conversations
- ③ increase your productive vocabulary
- ④ be able to use basic English grammar when speaking

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：Course explanation and Google Classroom orientation.
 内容・方法：Scope and sequence.
- 【第2回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Conversation and Language practice, Registration for online practice
- 【第3回】
 テーマ：Greetings, Introducing yourself
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第4回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第5回】
 テーマ：Personal Information
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第6回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第7回】
 テーマ：Talking about likes and dislikes
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第8回】
 テーマ：Mid- semester review & assessment
 内容・方法：Review Units 1-3 and mid-semester assessment.
- 【第9回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第10回】
 テーマ：Talking about habits and routines
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第11回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第12回】
 テーマ：Describing everyday activities
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第13回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Conversation and Language practice
- 【第14回】
 テーマ：Talking about past events
 内容・方法：Listening, reading and conversation practice. Quiz.
- 【第15回】
 テーマ：End-of-semester review & assessment
 内容・方法：Review of units 4-6 and explanation of final assessment.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題: Buy the textbook Register for Google Classroom.
- ②事後学修課題: Homework assignments and Unit 1, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第2回】

- ①事前学修課題: Do Unit 1-1-5 オンラインOnline Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignment and do Unit 1-All online activities

【第3回】

- ①事前学修課題: Complete all online conversation and video activities for Unit 1.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 2, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第4回】

- ①事前学修課題: Do Unit 2, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 2 online conversation and video activities

【第5回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 2 online conversation and video activities
- ②事後学修課題: Homework assignments do Unit 3, 1-5, online vocabulary and grammar activities.

【第6回】

- ①事前学修課題: Do Unit 3, 1-5, Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 3 online conversation and video activities.

【第7回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 3 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines. Prepare for the mid-term assessment.

【第8回】

- ①事前学修課題: Review Units 1-3 vocabulary, grammar and conversation routines for the mid-term assessment.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 4, 1-5 all online vocabulary and grammar activities

【第9回】

- ①事前学修課題: Do Unit 4, 1-5 all Online Vocabulary and Grammar activities
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 4 online conversation and video activities.

【第10回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 4 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 5, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第11回】

- ①事前学修課題: Do Unit 5, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 5 online conversation and video activities.

【第12回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 5 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and do Unit 6, 1-5 online vocabulary and grammar activities.

【第13回】

- ①事前学修課題: Do Unit 6, 1-5 Online Vocabulary and Grammar activities.
- ②事後学修課題: Homework assignments and complete all Unit 6 online conversation and video activities.

【第14回】

- ①事前学修課題: Complete all Unit 6 online conversation and video activities.
- ②事後学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening. Prepare for the final assessment.

【第15回】

- ①事前学修課題: Review Units 4-6 vocabulary, grammar and listening for the final assessment..
- ②事後学修課題: Submit the final examination. Listen to English during the summer break.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on dialog performance, pair work activities and class activities (30%). There will be regular vocabulary and grammar quizzes (20%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 tests: a mid-term and end-of-term evaluation (20%). There will be a final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	dialog performance, pair work activities and class activities (30%), vocabulary and grammar quizzes (20%), a mid-term and end-of-term evaluation (20%).	1, 2, 3, 4

授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	final examination (10%)	1, 2, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8		
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)		
-----	-------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10402406	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Project Based English [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. N. ゴーフ				
シラバス執筆(主)	S. N. ゴーフ				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. You will work on a English presentation project in this course. As you develop your presentation, you will discuss your content, make small group presentations and get ideas and feedback from your peers. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. converse in English in various situations
2. carry on longer and longer conversations
3. increase your productive vocabulary
4. be able to use basic English grammar when speaking
5. be able to give a full presentation in English and use appropriate language and phrases for making a presentation.

授業計画

【第1回】

テーマ: Review of Units 1-6. Course explanation and Google Classroom orientation. Course presentation project explanation.

内容・方法: Review conversations Units 1-6, Review of presenting skills, posture, gestures, and voice inflections.

【第2回】

テーマ: Start presentation project.

内容・方法: Decide theme and outline the presentation. Pair practice - present ideas in pairs and get feedback and ideas from peers.

【第3回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第4回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第5回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (1) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part I (Introduction), peer feedback.

【第6回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start body of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第7回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第8回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第9回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (2) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part II (Body), peer feedback.

【第10回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start conclusion of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第11回】

テーマ: Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第12回】

テーマ : Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第13回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 3

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment. Explanation of final test - submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English II course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills.

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK.

②事後学修課題 : Decide your project theme and outline your presentation.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part I (Introduction) Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第9回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part II (Body) Do HWK presentation assignments.

【第10回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第15回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations. Submit movie of your final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given during the semester and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on class activities (10%). Semester project work and presentations

(30%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 assessments (10%). There will be a final project presentation and end of semester task (30%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Class activities (10%), Semester project work and presentations (30%). Semester assessments (10%).	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	30	Final project presentation and end of semester task (30%)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)
-----	-------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402407	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Project Based English [対面]				
シラバス執筆(全員)	J.M. ラッセル				
シラバス執筆(主)	J.M. ラッセル				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. You will work on a English presentation project in this course. As you develop your presentation, you will discuss your content, make small group presentations and get ideas and feedback from your peers. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. converse in English in various situations
2. carry on longer and longer conversations
3. increase your productive vocabulary
4. be able to use basic English grammar when speaking
5. be able to give a full presentation in English and use appropriate language and phrases for making a presentation.

授業計画

【第1回】

テーマ: Review of Units 1-6. Course explanation and Google Classroom orientation. Course presentation project explanation.

内容・方法: Review conversations Units 1-6, Review of presenting skills, posture, gestures, and voice inflections.

【第2回】

テーマ: Start presentation project.

内容・方法: Decide theme and outline the presentation. Pair practice - present ideas in pairs and get feedback and ideas from peers.

【第3回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第4回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第5回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (1) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part I (Introduction), peer feedback.

【第6回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start body of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第7回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第8回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第9回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (2) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part II (Body), peer feedback.

【第10回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start conclusion of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第11回】

テーマ: Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第12回】

テーマ : Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第13回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 3

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment. Explanation of final test - submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English II course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills.

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK.

②事後学修課題 : Decide your project theme and outline your presentation.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part I (Introduction) Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第9回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part II (Body) Do HWK presentation assignments.

【第10回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第15回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations. Submit movie of your final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given during the semester and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on class activities (10%). Semester project work and presentations

(30%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 assessments (10%). There will be a final project presentation and end of semester task (30%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Class activities (10%), Semester project work and presentations (30%). Semester assessments (10%).	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	30	Final project presentation and end of semester task (30%)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)
-----	-------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402408	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Project Based English [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. スクーカス				
シラバス執筆(主)	J. スクーカス				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. You will work on a English presentation project in this course. As you develop your presentation, you will discuss your content, make small group presentations and get ideas and feedback from your peers. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. converse in English in various situations
2. carry on longer and longer conversations
3. increase your productive vocabulary
4. be able to use basic English grammar when speaking
5. be able to give a full presentation in English and use appropriate language and phrases for making a presentation.

授業計画

【第1回】

テーマ: Review of Units 1-6. Course explanation and Google Classroom orientation. Course presentation project explanation.

内容・方法: Review conversations Units 1-6, Review of presenting skills, posture, gestures, and voice inflections.

【第2回】

テーマ: Start presentation project.

内容・方法: Decide theme and outline the presentation. Pair practice - present ideas in pairs and get feedback and ideas from peers.

【第3回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第4回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第5回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (1) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part I (Introduction), peer feedback.

【第6回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start body of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第7回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第8回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第9回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (2) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part II (Body), peer feedback.

【第10回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start conclusion of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第11回】

テーマ: Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第12回】

テーマ : Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第13回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 3

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment. Explanation of final test - submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English II course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills.

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK.

②事後学修課題 : Decide your project theme and outline your presentation.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part I (Introduction) Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第9回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part II (Body) Do HWK presentation assignments.

【第10回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第15回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations. Submit movie of your final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given during the semester and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on class activities (10%). Semester project work and presentations

(30%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 assessments (10%). There will be a final project presentation and end of semester task (30%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Class activities (10%), Semester project work and presentations (30%). Semester assessments (10%).	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	30	Final project presentation and end of semester task (30%)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)
-----	-------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402409	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Project Based English [対面]				
シラバス執筆(全員)	T. ピート				
シラバス執筆(主)	T. ピート				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. You will work on a English presentation project in this course. As you develop your presentation, you will discuss your content, make small group presentations and get ideas and feedback from your peers. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. converse in English in various situations
2. carry on longer and longer conversations
3. increase your productive vocabulary
4. be able to use basic English grammar when speaking
5. be able to give a full presentation in English and use appropriate language and phrases for making a presentation.

授業計画

【第1回】

テーマ: Review of Units 1-6. Course explanation and Google Classroom orientation. Course presentation project explanation.

内容・方法: Review conversations Units 1-6, Review of presenting skills, posture, gestures, and voice inflections.

【第2回】

テーマ: Start presentation project.

内容・方法: Decide theme and outline the presentation. Pair practice - present ideas in pairs and get feedback and ideas from peers.

【第3回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第4回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第5回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (1) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part I (Introduction), peer feedback.

【第6回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start body of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第7回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第8回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第9回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (2) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part II (Body), peer feedback.

【第10回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start conclusion of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第11回】

テーマ: Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第12回】

テーマ : Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第13回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 3

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment. Explanation of final test - submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English II course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills.

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK.

②事後学修課題 : Decide your project theme and outline your presentation.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part I (Introduction) Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第9回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part II (Body) Do HWK presentation assignments.

【第10回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第15回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations. Submit movie of your final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given during the semester and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on class activities (10%). Semester project work and presentations

(30%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 assessments (10%). There will be a final project presentation and end of semester task (30%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Class activities (10%), Semester project work and presentations (30%). Semester assessments (10%).	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	30	Final project presentation and end of semester task (30%)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)
-----	-------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402410	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Project Based English [対面]				
シラバス執筆(全員)	P. ペレ				
シラバス執筆(主)	P. ペレ				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

This course will help you continue to improve your English conversation ability. In this course you will have many opportunities to practice speaking, mostly in pairs and small groups. You will also start to learn some strategies for managing conversations in order to make your conversations better, longer, and more correct. You will continue to study useful expressions, vocabulary and improve your grammar usage. Listening and reading activities are included to support your English development. You will work on a English presentation project in this course. As you develop your presentation, you will discuss your content, make small group presentations and get ideas and feedback from your peers. Google Classroom will be used in this course for materials and assignments. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

1. converse in English in various situations
2. carry on longer and longer conversations
3. increase your productive vocabulary
4. be able to use basic English grammar when speaking
5. be able to give a full presentation in English and use appropriate language and phrases for making a presentation.

授業計画

【第1回】

テーマ: Review of Units 1-6. Course explanation and Google Classroom orientation. Course presentation project explanation.

内容・方法: Review conversations Units 1-6, Review of presenting skills, posture, gestures, and voice inflections.

【第2回】

テーマ: Start presentation project.

内容・方法: Decide theme and outline the presentation. Pair practice - present ideas in pairs and get feedback and ideas from peers.

【第3回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第4回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第5回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (1) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part I (Introduction), peer feedback.

【第6回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start body of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第7回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第8回】

テーマ: Textbook chapter & Presentation Project

内容・方法: Vocabulary, conversation and language practice. HWK: apply unit content to presentation project.

【第9回】

テーマ: Review of textbook chapters. Assessment (2) of units.

内容・方法: Assessment of units. Presentation - Part II (Body), peer feedback.

【第10回】

テーマ: Presentation Project Continued

内容・方法: Presentation Project: start conclusion of the presentation. Learn appropriate phrases and language.

【第11回】

テーマ: Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第12回】

テーマ : Presentation Project continued

内容・方法 : Presentation Project: edit, revise and improve final presentation. Peer presentations, feedback, and ideas.

【第13回】

テーマ : Final Presentation- session 1

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第14回】

テーマ : Final Presentation- session 2

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment.

【第15回】

テーマ : Final Presentation- session 3

内容・方法 : Individual presentations - student feedback and comment. Explanation of final test - submit a power point movie recording of the final presentation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題 : Review English studied in the Oral English II course.

②事後学修課題 : Review and practice presenting skills.

【第2回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK.

②事後学修課題 : Decide your project theme and outline your presentation.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第5回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part I (Introduction) Do HWK presentation assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Review the text unit .

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Prepare for the unit review.

【第9回】

①事前学修課題 : Review for the unit test.

②事後学修課題 : Review project presentation Part II (Body) Do HWK presentation assignments.

【第10回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Work on your presentation project.

②事後学修課題 : Practice and prepare for presentation.

【第13回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第14回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations.

【第15回】

①事前学修課題 : Prepare for final presentation.

②事後学修課題 : Submit peer evaluations. Submit movie of your final presentation power point.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given during the semester and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

You will be graded in class on class activities (10%). Semester project work and presentations

(30%). Homework and other textbook assignments will also be graded (20%). During the semester there will be 2 assessments (10%). There will be a final project presentation and end of semester task (30%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Class activities (10%), Semester project work and presentations (30%). Semester assessments (10%).	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	Homework and other textbook assignments will also be graded (20%)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	30	Final project presentation and end of semester task (30%)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0	none	

テキスト	Smart Choice 1, 4th Edition with Online Practice, 2020, Ken Wilson, Thomas Healy, Oxford University Press, ISBN: 978-0-19-406099-8
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Smart Choice 1 Online Practice (optional)
-----	-------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402502	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	沈 恩明				
シラバス執筆(主)	沈 恩明				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

中国語の正確な発音と「聞く」・「話す」などの基礎的な語学力を習得することによって中国語の初歩的なコミュニケーション能力を身につけ、これからの中国旅行あるいは卒業後の仕事などにおいて中国人とコミュニケーションするのに少しでも役に立つ基礎的な中国語力の習得と中国理解を目的とする。この授業では正確できれいな発音と聞き取りの練習を繰り返すことにより中国語の基本語彙と文型を習熟していく。「読む、書く、聞く、話す」という四基本技能の内、特に「聞く」と「話す」を重視する。

到達目標

1. 中国語の発音を正確にできること
2. 中国語で自己紹介ができること
3. 基礎的な文法事項を習得すること

授業計画

<p>【第1回】 テーマ：中国語とは 内容・方法：これからの授業についての説明。中国語についての紹介。</p> <p>【第2回】 テーマ：母音と声調 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の説明と練習。</p> <p>【第3回】 テーマ：母音と複母音 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の復習と練習</p> <p>【第4回】 テーマ：子音と鼻母音 内容・方法：中国語の発音（子音と鼻母音）の説明と練習</p> <p>【第5回】 テーマ：声調と変調 内容・方法：中国語における変調などについての説明、中国語の発音をまとめながら正確な発音ができるよう練習と矯正を行う。</p> <p>【第6回】 テーマ：名詞述語文 内容・方法：第1課、代詞と名詞述語文などの要点説明と練習</p> <p>【第7回】 テーマ：疑問文と名詞修飾 内容・方法：第1課、疑問文、連体修飾的などの要点説明と練習</p> <p>【第8回】 テーマ：第1課の理解と練習 内容・方法：第1課の本文理解とドリル</p> <p>【第9回】 テーマ：動詞述語文 内容・方法：第2課、動詞述語文、省略疑問などの要点説明と練習</p> <p>【第10回】 テーマ：選択疑問 内容・方法：第2課、選択疑問、副詞也などの要点説明と練習</p> <p>【第11回】 テーマ：第2課の理解と練習 内容・方法：第2課の本文理解とドリル</p> <p>【第12回】 テーマ：第1課と第2課についての再確認 内容・方法：第1課と第2課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。</p> <p>【第13回】 テーマ：所有と存在表現 内容・方法：第3課、所有、存在の有 等の要点説明と練習</p> <p>【第14回】 テーマ：接続助詞と副詞 内容・方法：第3課、接続詞和、副詞都 等の要点説明と練習</p> <p>【第15回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p> <p>【第16回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p>

- 【第17回】
 テーマ：形容詞述語文と現在進行形
 内容・方法：第4課、形容詞述語文、現在進行の在等の要点説明と練習
- 【第18回】
 テーマ：主述述語文
 内容・方法：第4課、主述述語文、「有点儿+形容詞」等の要点説明と練習
- 【第19回】
 テーマ：第4課の理解と練習
 内容・方法：第4課の本文理解とドリル
- 【第20回】
 テーマ：第3課と第4課の再確認
 内容・方法：第3、4課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。
- 【第21回】
 テーマ：年月日と前置詞
 内容・方法：第5課、年月日の言い方、前置詞からなどの要点説明と練習
- 【第22回】
 テーマ：連動文と願望表現
 内容・方法：第5課、連動文、願望表現などの要点説明と練習
- 【第23回】
 テーマ：第5課の理解と復習
 内容・方法：第5課の本文理解とドリル
- 【第24回】
 テーマ：総合復習
 内容・方法：これまでの内容について総合復習と総合練習
- 【第25回】
 テーマ：指示詞と所在
 内容・方法：第6課、指示詞、所在の在などの要点説明と練習
- 【第26回】
 テーマ：方位詞と助数詞
 内容・方法：第6課、方位詞と助数詞、反復疑問文などの要点説明と練習
- 【第27回】
 テーマ：第6課の本文理解と復習
 内容・方法：第6課の本文理解とドリル
- 【第28回】
 テーマ：時間と曜日の言い方
 内容・方法：第7課、時間などの表現と前置詞の在などの要点説明と練習
- 【第29回】
 テーマ：比況表現と必要、義務の表現
 内容・方法：第7課、「～と同じだ」の表現と助動詞「要」などの要点説明と練習
- 【第30回】
 テーマ：総合復習
 内容・方法：第7課までの総合復習

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
 事前、事後学習として、下記の内容について毎回、それぞれ1時間以上の学習が必要。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：教科書の目次などを見て、中国語について大まかなイメージを掴む
 ②事後学修課題：教員の説明を復習する。
- 【第2回】
 ①事前学修課題：教科書記載の音声ダウンロード方法を参考に音声をダウンロードし、録音を聞いて大まかな母音と声調を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
- 【第3回】
 ①事前学修課題：音声を聞いて複母音を事前予習。
 ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属音声を繰り返し聞く。
- 【第4回】
 ①事前学修課題：音声を聞いて複母音を事前予習。
 ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
- 【第5回】
 ①事前学修課題：音声を聞きながらこれまで学習した中国語の発音を復習
 ②事後学修課題：個々の発音をマスターできたかを自己チェックしながら、復習。
- 【第6回】
 ①事前学修課題：教科書の85と86ページを読んで、中国語の基礎文法のイメージを掴む。
 ②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。
- 【第7回】
 ①事前学修課題：15ページの説明を読んで、大まかなイメージを掴む。
 ②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。この課の内容の音声を繰り返し聞く。
- 【第8回】
 ①事前学修課題：16ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気づいた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。
- 【第9回】
 ①事前学修課題：第2課の新出単語と18ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第10回】

- ①事前学修課題：19ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第11回】

- ①事前学修課題：第2課の本文内容と20ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第12回】

- ①事前学修課題：第1課と第2課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第13回】

- ①事前学修課題：第3課の新出単語と22ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習、音声を繰り返し聞く。

【第14回】

- ①事前学修課題：23ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第15回】

- ①事前学修課題：第3課の本文内容と24ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第16回】

- ①事前学修課題：第4課の新出単語と26ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第17回】

- ①事前学修課題：前回内容の復習と27ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第18回】

- ①事前学修課題：第4課の本文内容と28ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第19回】

- ①事前学修課題：第3課と第4課で習った内容を確認し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた未だ理解できていない部分を復習する。

【第20回】

- ①事前学修課題：第5課の新出単語と30ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第21回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、30と31ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第22回】

- ①事前学修課題：第5課の本文内容と32ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第23回】

- ①事前学修課題：発音や第1課～第5課の内容の再確認し、35ページの総合練習を事前予習する。
- ②事後学修課題：文法まとめや総合練習で気づいた理解できていない部分を復習する。

【第24回】

- ①事前学修課題：第6課の新出単語と38ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第25回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、39ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第26回】

- ①事前学修課題：第6課の本文内容と40ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第27回】

- ①事前学修課題：第7課の新出単語と42ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第28回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、43ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第29回】

- ①事前学修課題：第7課の本文内容と44ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第30回】

- ①事前学修課題：第1課～第7課を総合的に復習し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：総合復習で気づいた問題などについて再度、その内容を復習し、後期の中国語Ⅱに備える。

課題に対するフィードバックの方法

次週授業時に解説及びコメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

授業態度、授業中の練習への取り組み方、課題提出などによる総合評価。尚、正当な理由なく、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	受講態度(授業中の質問への応答状況、私語の状態を)	1, 2, 3

		含めるきちんと受講しているか)	
授業外での評価	30	Google Classに出した課題(計8回)	3
定期試験	50		
定期試験に代わるレポート等	0		1, 2, 3
その他	0		

テキスト	『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社/2400/
------	----------------------------

参考書	担当教員より指示する。
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	1回でも欠席すると、授業について行けなくなるから、必ず全回出席すること。
---------------	--------------------------------------

授業コード	10402503	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	鄭 以君				
シラバス執筆(主)	鄭 以君				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

中国語の正確な発音と「聞く」・「話す」などの基礎的な語学力を習得することによって中国語の初歩的なコミュニケーション能力を身につけ、これからの中国旅行あるいは卒業後の仕事などにおいて中国人とコミュニケーションするのに少しでも役に立つ基礎的な中国語力の習得と中国理解を目的とする。
この授業では正確できれいな発音と聞き取りの練習を繰り返すことにより中国語の基本語彙と文型を習熟していく。「読む、書く、聞く、話す」という四基本技能の内、特に「聞く」と「話す」を重視する。

到達目標

1. 中国語の発音を正確にできること
2. 中国語で自己紹介ができること
3. 基礎的な文法事項を習得すること

授業計画

<p>【第1回】 テーマ：中国語とは 内容・方法：これからの授業についての説明。中国語についての紹介。</p> <p>【第2回】 テーマ：母音と声調 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の説明と練習。</p> <p>【第3回】 テーマ：母音と複母音 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の復習と練習</p> <p>【第4回】 テーマ：子音と鼻母音 内容・方法：中国語の発音（子音と鼻母音）の説明と練習</p> <p>【第5回】 テーマ：声調と変調 内容・方法：中国語における変調などについての説明、中国語の発音をまとめながら正確な発音ができるよう練習と矯正を行う。</p> <p>【第6回】 テーマ：名詞述語文 内容・方法：第1課、代詞と名詞述語文などの要点説明と練習</p> <p>【第7回】 テーマ：疑問文と名詞修飾 内容・方法：第1課、疑問文、連体修飾的などの要点説明と練習</p> <p>【第8回】 テーマ：第1課の理解と練習 内容・方法：第1課の本文理解とドリル</p> <p>【第9回】 テーマ：動詞述語文 内容・方法：第2課、動詞述語文、省略疑問などの要点説明と練習</p> <p>【第10回】 テーマ：選択疑問 内容・方法：第2課、選択疑問、副詞也などの要点説明と練習</p> <p>【第11回】 テーマ：第2課の理解と練習 内容・方法：第2課の本文理解とドリル</p> <p>【第12回】 テーマ：第1課と第2課についての再確認 内容・方法：第1課と第2課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。</p> <p>【第13回】 テーマ：所有と存在表現 内容・方法：第3課、所有、存在の有 等の要点説明と練習</p> <p>【第14回】 テーマ：接続助詞と副詞 内容・方法：第3課、接続詞和、副詞都 等の要点説明と練習</p> <p>【第15回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p> <p>【第16回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p>

- 【第17回】
 テーマ：形容詞述語文と現在進行形
 内容・方法：第4課、形容詞述語文、現在進行の在等の要点説明と練習
- 【第18回】
 テーマ：主述述語文
 内容・方法：第4課、主述述語文、「有点儿+形容詞」等の要点説明と練習
- 【第19回】
 テーマ：第4課の理解と練習
 内容・方法：第4課の本文理解とドリル
- 【第20回】
 テーマ：第3課と第4課の再確認
 内容・方法：第3、4課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。
- 【第21回】
 テーマ：年月日と前置詞
 内容・方法：第5課、年月日の言い方、前置詞からなどの要点説明と練習
- 【第22回】
 テーマ：連動文と願望表現
 内容・方法：第5課、連動文、願望表現などの要点説明と練習
- 【第23回】
 テーマ：第5課の理解と復習
 内容・方法：第5課の本文理解とドリル
- 【第24回】
 テーマ：総合復習
 内容・方法：これまでの内容について総合復習と総合練習
- 【第25回】
 テーマ：指示詞と所在
 内容・方法：第6課、指示詞、所在の在などの要点説明と練習
- 【第26回】
 テーマ：方位詞と助数詞
 内容・方法：第6課、方位詞と助数詞、反復疑問文などの要点説明と練習
- 【第27回】
 テーマ：第6課の本文理解と復習
 内容・方法：第6課の本文理解とドリル
- 【第28回】
 テーマ：時間と曜日の言い方
 内容・方法：第7課、時間などの表現と前置詞の在などの要点説明と練習
- 【第29回】
 テーマ：比況表現と必要、義務の表現
 内容・方法：第7課、「～と同じだ」の表現と助動詞「要」などの要点説明と練習
- 【第30回】
 テーマ：総合復習
 内容・方法：第7課までの総合復習

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。事前、事後学習として、下記の内容について毎回、それぞれ1時間以上の学習が必要。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：教科書の目次などを見て、中国語について大まかなイメージを掴む
 ②事後学修課題：教員の説明を復習する。
- 【第2回】
 ①事前学修課題：教科書記載の音声ダウンロード方法を参考に音声をダウンロードし、録音を聞いて大まかな母音と声調を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
- 【第3回】
 ①事前学修課題：音声を聞いて複母音を事前予習。
 ②事後学修課題：授業内容を復習し、付属音声を繰り返し聞く。
- 【第4回】
 ①事前学修課題：音声を聞いて複母音を事前予習。
 ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
- 【第5回】
 ①事前学修課題：音声を聞きながらこれまで学習した中国語の発音を復習
 ②事後学修課題：個々の発音をマスターできたかを自己チェックしながら、復習。
- 【第6回】
 ①事前学修課題：教科書の85と86ページを読んで、中国語の基礎文法のイメージを掴む。
 ②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。
- 【第7回】
 ①事前学修課題：15ページの説明を読んで、大まかなイメージを掴む。
 ②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。この課の内容の音声を繰り返し聞く。
- 【第8回】
 ①事前学修課題：16ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気づいた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。
- 【第9回】
 ①事前学修課題：第2課の新出単語と18ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第10回】

- ①事前学修課題：19ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第11回】

- ①事前学修課題：第2課の本文内容と20ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第12回】

- ①事前学修課題：第1課と第2課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
 ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第13回】

- ①事前学修課題：第3課の新出単語と22ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習、音声を繰り返し聞く。

【第14回】

- ①事前学修課題：23ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第15回】

- ①事前学修課題：第3課の本文内容と24ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第16回】

- ①事前学修課題：第4課の新出単語と26ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第17回】

- ①事前学修課題：前回内容の復習と27ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第18回】

- ①事前学修課題：第4課の本文内容と28ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第19回】

- ①事前学修課題：第3課と第4課で習った内容を確認し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。
 ②事後学修課題：チェックシートで気づいた未だ理解できていない部分を復習する。

【第20回】

- ①事前学修課題：第5課の新出単語と30ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第21回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、30と31ページの関連内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第22回】

- ①事前学修課題：第5課の本文内容と32ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第23回】

- ①事前学修課題：発音や第1課～第5課の内容の再確認し、35ページの総合練習を事前予習する。
 ②事後学修課題：文法まとめや総合練習で気づいた理解できていない部分を復習する。

【第24回】

- ①事前学修課題：第6課の新出単語と38ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第25回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、39ページの関連内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第26回】

- ①事前学修課題：第6課の本文内容と40ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第27回】

- ①事前学修課題：第7課の新出単語と42ページの内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第28回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、43ページの関連内容を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業内容を復習。音声を繰り返し聞く。

【第29回】

- ①事前学修課題：第7課の本文内容と44ページの練習問題を事前予習する。
 ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第30回】

- ①事前学修課題：第1課～第7課を総合的に復習し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。
 ②事後学修課題：総合復習で気づいた問題などについて再度、その内容を復習し、後期の中国語Ⅱに備える。

課題に対するフィードバックの方法

小テストなどを採点后、速やかに返還し間違いやすいところや、理解が不十分のところを説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業態度、授業中の練習への取り組み方、小テスト及び期末課題提出などによる総合評価。
 なお、正当な理由なく、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業中の参加態度及び課題の完成、小テストの成績を	1, 2, 3

		参考に評価する。	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	課題の提出及び完成度	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社/2400/978-4-86398-116-4
------	---------------------------------------------

参考書	担当教員より指示する
-----	------------

履修条件・他の科目との関連	1回でも欠席すると、授業について行けなくなるから、全回出席することを目指す。 担当教員への連絡方法～鄭 以君 tei@oiu.jp
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10402504	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	侯 月琴				
シラバス執筆(主)	侯 月琴				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

中国語の正確な発音と「聞く」・「話す」などの基礎的な語学力を習得することによって中国語の初歩的なコミュニケーション能力を身につけ、これからの中国旅行あるいは卒業後の仕事などにおいて中国人とコミュニケーションするのに少しでも役に立つ基礎的な中国語力の習得と中国理解を目的とする。この授業では正確できれいな発音と聞き取りの練習を繰り返すことにより中国語の基本語彙と文型を習熟していく。「読む、書く、聞く、話す」という四基本技能の内、特に「聞く」と「話す」を重視する。

到達目標

1. 中国語の発音を正確にできること
2. 中国語で自己紹介ができること
3. 基礎的な文法事項を習得すること

授業計画

<p>【第1回】 テーマ：中国語とは 内容・方法：これからの授業についての説明。中国語についての紹介。</p> <p>【第2回】 テーマ：母音と声調 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の説明と練習。</p> <p>【第3回】 テーマ：母音と複母音 内容・方法：中国語の発音（母音、複母音と声調）の復習と練習</p> <p>【第4回】 テーマ：子音と鼻母音 内容・方法：中国語の発音（子音と鼻母音）の説明と練習</p> <p>【第5回】 テーマ：声調と変調 内容・方法：中国語における変調などについての説明、中国語の発音をまとめながら正確な発音ができるよう練習と矯正を行う。</p> <p>【第6回】 テーマ：名詞述語文 内容・方法：第1課、代詞と名詞述語文などの要点説明と練習</p> <p>【第7回】 テーマ：疑問文と名詞修飾 内容・方法：第1課、疑問文、連体修飾的などの要点説明と練習</p> <p>【第8回】 テーマ：第1課の理解と練習 内容・方法：第1課の本文理解とドリル</p> <p>【第9回】 テーマ：動詞述語文 内容・方法：第2課、動詞述語文、省略疑問などの要点説明と練習</p> <p>【第10回】 テーマ：選択疑問 内容・方法：第2課、選択疑問、副詞也などの要点説明と練習</p> <p>【第11回】 テーマ：第2課の理解と練習 内容・方法：第2課の本文理解とドリル</p> <p>【第12回】 テーマ：第1課と第2課についての再確認 内容・方法：第1課と第2課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。</p> <p>【第13回】 テーマ：所有と存在表現 内容・方法：第3課、所有、存在の有 等の要点説明と練習</p> <p>【第14回】 テーマ：接続助詞と副詞 内容・方法：第3課、接続詞和、副詞都 等の要点説明と練習</p> <p>【第15回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p> <p>【第16回】 テーマ：第3課の理解と練習 内容・方法：第3課の本文理解とドリル</p>

【第17回】

テーマ：形容詞述語文と現在進行形

内容・方法：第4課、形容詞述語文、現在進行の在等の要点説明と練習

【第18回】

テーマ：主述述語文

内容・方法：第4課、主述述語文、「有点儿+形容詞」等の要点説明と練習

【第19回】

テーマ：第4課の理解と練習

内容・方法：第4課の本文理解とドリル

【第20回】

テーマ：第3課と第4課の再確認

内容・方法：第3、4課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。

【第21回】

テーマ：年月日と前置詞

内容・方法：第5課、年月日の言い方、前置詞からなどの要点説明と練習

【第22回】

テーマ：連動文と願望表現

内容・方法：第5課、連動文、願望表現などの要点説明と練習

【第23回】

テーマ：第5課の理解と復習

内容・方法：第5課の本文理解とドリル

【第24回】

テーマ：総合復習

内容・方法：これまでの内容について総合復習と総合練習

【第25回】

テーマ：指示詞と所在

内容・方法：第6課、指示詞、所在の在などの要点説明と練習

【第26回】

テーマ：方位詞と助数詞

内容・方法：第6課、方位詞と助数詞、反復疑問文などの要点説明と練習

【第27回】

テーマ：第6課の本文理解と復習

内容・方法：第6課の本文理解とドリル

【第28回】

テーマ：時間と曜日の言い方

内容・方法：第7課、時間などの表現と前置詞の在などの要点説明と練習

【第29回】

テーマ：比況表現と必要、義務の表現

内容・方法：第7課、「～と同じだ」の表現と助動詞要などの要点説明と練習

【第30回】

テーマ：第7課の本文理解と復習

内容・方法：第7課の本文理解とドリル

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：教科書の目次などを見て、中国語について大まかなイメージを掴む

②事後学修課題：教員の説明を復習する。

【第2回】

①事前学修課題：付属CDを聞いて大まかな母音と声調を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第3回】

①事前学修課題：付属CDを聞いて複母音を事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第4回】

①事前学修課題：付属CDを聞いて子音と鼻母音を事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、付属CDを繰り返し聞く。

【第5回】

①事前学修課題：付属CDを聞きながらこれまで学習した中国語の発音を復習

②事後学修課題：個々の発音をマスターできたかを自己チェックしながら、復習。

【第6回】

①事前学修課題：教科書の85と86ページを読んで、中国語の基礎文法のイメージを掴む。

②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。

【第7回】

①事前学修課題：15ページの説明を読んで、大まかなイメージを掴む。

②事後学修課題：新出単語や授業内容を復習する。付属CDのこの課の内容を繰り返し聞く。

【第8回】

①事前学修課題：16ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業中の復習、練習で気づいた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第9回】

①事前学修課題：第2課の新出単語と18ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第10回】

①事前学修課題：19ページの内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第11回】

- ①事前学修課題：第2課の本文内容と20ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第12回】

- ①事前学修課題：第1課と第2課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第13回】

- ①事前学修課題：第3課の新出単語と22ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第14回】

- ①事前学修課題：23ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第15回】

- ①事前学修課題：第3課の本文内容と24ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第16回】

- ①事前学修課題：第4課の新出単語と26ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第17回】

- ①事前学修課題：前回内容の復習と27ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第18回】

- ①事前学修課題：第4課の本文内容と28ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第19回】

- ①事前学修課題：第3課と第4課で習った内容を確認し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた未だ理解できていない部分を復習する。

【第20回】

- ①事前学修課題：第5課の新出単語と30ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第21回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、30と31ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第22回】

- ①事前学修課題：第5課の本文内容と32ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第23回】

- ①事前学修課題：発音や第1課～第5課の内容の再確認し、35ページの総合練習を事前予習する。
- ②事後学修課題：文法まとめや総合練習で気づいた理解できていない部分を復習する。

【第24回】

- ①事前学修課題：第6課の新出単語と38ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第25回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、39ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第26回】

- ①事前学修課題：第6課の本文内容と40ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第27回】

- ①事前学修課題：第7課の新出単語と42ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第28回】

- ①事前学修課題：前回の内容を復習し、43ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習。付属CDを繰り返し聞く。

【第29回】

- ①事前学修課題：第7課の本文内容と44ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業中の復習、練習で気がついた未だ理解できなかった部分をもう一度復習する。

【第30回】

- ①事前学修課題：中国語Ⅰで習って来た内容を復習し、まだ分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：事前学修で気づいた問題などに対して、教員が行った説明に基づいて再度、これまでの学修内容を復習する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題をチェック後、速やかに返却し間違いやすいところや、理解が不十分のところを説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業態度、授業中の練習への取り組み方、課題提出などによる総合評価。
尚、正当な理由なく、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業中の参加態度及び課題の出来具合を参考に評価する。	1, 2, 3

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題提出	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社
------	----------------------

参考書	担当教員より指示する。
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	1回でも欠席すると、授業について行けなくなるから、必ず全回出席すること。
---------------	--------------------------------------

授業コード	10402602	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	沈 恩明				
シラバス執筆(主)	沈 恩明				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「中国語Ⅰ」に引き続き、中国でもっとも広く使われている「普通話(標準語)」の基礎を勉強していく。中国旅行や卒業後の仕事などにも生かせるように、中国人とのコミュニケーションがよりスムーズにできるための中国語を身につけることが目的である。

「中国語Ⅰ」で習った中国語の発音や基礎文法、句型等を復習しながら、新しい文法事項を習得していく。また、習得したものを応用できるように授業を進めていく。この講義では「聞く・読む・話す・書く」の四基本技能全般の能力養成を重視する。

尚、語学的なもの他にその背景となる中国の文化や現在の社会事情などを紹介し、中国社会全体についての興味を育てる。

到達目標

1. 中国語中級程度の文法事項を理解し、応用できること。
2. 中国語検定4級程度の能力を身につけること。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：中国語Ⅰの復習
内容・方法：中国語Ⅰで習った内容についての復習をする
- 【第2回】
テーマ：完了と仮定表現
内容・方法：第8課 完了の了、仮定表現などの要点説明と練習を行う
- 【第3回】
テーマ：指示詞及び形容詞の名詞修飾
内容・方法：第8課 勧誘を表す「吧」、指示詞や形容詞による名詞修飾などの要点説明と練習を行う
- 【第4回】
テーマ：第8課の理解と練習
内容・方法：第8課の本文理解とドリル
- 【第5回】
テーマ：可能表現
内容・方法：第9課 可能表現会、前置詞離などの要点説明と練習を行う
- 【第6回】
テーマ：時間量の表現と 起点、終点の表現
内容・方法：第9課 時間量、前置詞「从」「到」などの要点説明と練習を行う
- 【第7回】
テーマ：第9課の理解と練習
内容・方法：第9課の本文理解とドリル
- 【第8回】
テーマ：第8課と第9課の再確認
内容・方法：第8、9課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。
- 【第9回】
テーマ：了と比較表現
内容・方法：第10課 発生と実現の了、比較表現などの要点説明と練習を行う
- 【第10回】
テーマ：結果補語と前置詞給
内容・方法：第10課 結果補語と前置詞の給などの要点説明と練習を行う
- 【第11回】
テーマ：第10課の理解と練習
内容・方法：第10課の本文理解とドリル
- 【第12回】
テーマ：第8課～第10課の総合復習
内容・方法：第8課～第10課の総合復習と総合練習
- 【第13回】
テーマ：様態補語、使役表現
内容・方法：第11課の様態補語、使役表現構文などの要点説明と練習を行う
- 【第14回】
テーマ：可能表現と二重目的語
内容・方法：第11課 可能の助動詞、二重目的語を取る動詞などの要点説明と練習を行う
- 【第15回】
テーマ：第11課の理解と練習
内容・方法：第11課の本文理解とドリル
- 【第16回】
テーマ：第11課の理解と練習

内容・方法：第11課の本文理解とドリル

【第17回】

テーマ：経験相と可能補語

内容・方法：12課 経験を表す過、可能補語などの要点説明と練習を行う

【第18回】

テーマ：有の連動的構文

内容・方法：第12課 有の連動的構文、「已經～了」などの要点説明と練習を行う

【第19回】

テーマ：第12課の理解と練習

内容・方法：第12課の本文理解とドリル

【第20回】

テーマ：第11課と第12課の再確認

内容・方法：第11、12課の復習と考査

【第21回】

テーマ：前置詞把と方向補語

内容・方法：第13課 「把」の構文、方向補語などの要点説明と練習を行う

【第22回】

テーマ：禁止表現と持続表現

内容・方法：第13課 禁止の「別」と持続の「着」などの要点説明と練習を行う

【第23回】

テーマ：第13課の理解と練習

内容・方法：第13課の本文理解とドリル

【第24回】

テーマ：受動態と因果関係の表現

内容・方法：第14課 受動態被、因果関係表現などの要点説明と練習を行う

【第25回】

テーマ：比況表現、推測表現

内容・方法：第14課 比況表現、推測表現、出現文などの要点説明と練習を行う

【第26回】

テーマ：第14課の理解と練習

内容・方法：第14課の本文理解とドリル

【第27回】

テーマ：第13課と第14課の再確認

内容・方法：第13課と第14課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。

【第28回】

テーマ：疑問詞の呼応と「～ながら」表現

内容・方法：第15課 同一疑問詞の呼応用法と「～ながら」などの要点説明と練習を行う

【第29回】

テーマ：意思表示の表現と「～ために」

内容・方法：第15課 意思表示の表現と「～ために」、「～のみならず」などの文型説明と練習を行う

【第30回】

テーマ：総合復習

内容・方法：第8課～第15課について総合復習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

事前、事後学習として、下記の内容について毎回、それぞれ1時間以上の学習が必要。

【第1回】

①事前学修課題：中国語Ⅰで習った内容を復習する。

②事後学修課題：授業で復習した時に気づいた忘れていた内容や理解しきれていなかった内容の再復習。

【第2回】

①事前学修課題：第8課の新出単語と46ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第3回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と47ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第4回】

①事前学修課題：第8課の本文と48ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた未だ分からなかったところを復習する。

【第5回】

①事前学修課題：第9課の新出単語と50、51ページの関連内容を予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第6回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と50、51ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第7回】

①事前学修課題：第9課の本文と52ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいたまだ分からなかったところを復習する。

【第8回】

①事前学修課題：第8課、第9家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。

②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第9回】

①事前学修課題：第10課の新出単語と54、55ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第10回】

- ①事前学修課題：前回の学習内容の復習と54、55ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第11回】

- ①事前学修課題：第10課の本文と56ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第12回】

- ①事前学修課題：第8課～第10課で習った内容を再度確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：文法のまとめや総合練習を通じて、分からなかったところについての説明を再度確認し、復習する。

【第13回】

- ①事前学修課題：第11課の新出単語と62、63ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第14回】

- ①事前学修課題：前回の学習内容の復習と62、63ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第15回】

- ①事前学修課題：第11課の本文と64ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第16回】

- ①事前学修課題：第12課の新出単語と66、67ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第17回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と66、67ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第18回】

- ①事前学修課題：第12課の本文と68ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第19回】

- ①事前学修課題：第11課、第12家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を再確認し、復習する。

【第20回】

- ①事前学修課題：第13課の新出単語と70ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第21回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と71ページの内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第22回】

- ①事前学修課題：第13課の本文内容と72ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第23回】

- ①事前学修課題：第14課の新出単語と75ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第24回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と74、75ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第25回】

- ①事前学修課題：第14課の本文内容と76ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第26回】

- ①事前学修課題：第13課と第14課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第27回】

- ①事前学修課題：第15課の新出単語と79ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第28回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と78、79ページの関連内容の予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第29回】

- ①事前学修課題：第15課の本文内容と80ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第30回】

- ①事前学修課題：81ページの総合練習を事前予習する。不明な点や未だ理解できていないところをメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：総合復習の内容を再確認し、総点検を行う。

課題に対するフィードバックの方法

次週授業時に解説及びコメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

授業態度、授業中の練習への取り組み方、課題提出などによる総合評価。
尚、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	受講態度(授業中の質問への応答状況、私語の状態を含めるきちんと受講しているか)	3
授業外での評価	30	Google Classに出した課題(計8回)	4
定期試験	50		
定期試験に代わるレポート等	0	課題提出	1, 2
その他	0		

テキスト	『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社/2400/
------	----------------------------

参考書	担当教員より指示する。
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	中国語Iを単位取得したこと。 1回でも欠席すると、授業について行けなくなるから、必ず全回出席すること。
---------------	--------------------------------------------------------

授業コード	10402603	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	鄭 以君				
シラバス執筆(主)	鄭 以君				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「中国語Ⅰ」に引き続き、中国でもっとも広く使われている「普通話(標準語)」の基礎を勉強していく。中国旅行や卒業後の仕事などにも生かせるように、中国人とのコミュニケーションがよりスムーズにできるための中国語を身につけることが目的である。

「中国語Ⅰ」で習った中国語の発音や基礎文法、句型等を復習しながら、新しい文法事項を習得していく。また、習得したものを応用できるように授業を進めていく。この講義では「聞く・読む・話す・書く」の四基本技能全般の能力養成を重視する。

尚、語学的なもの他にその背景となる中国の文化や現在の社会事情などを紹介し、中国社会全体についての興味を育てる。

到達目標

1. 中国語中級程度の文法事項を理解し、応用できること
2. 中国語検定4級程度の能力を身につけること

授業計画

- 【第1回】
テーマ：中国語Ⅰの復習
内容・方法：中国語Ⅰで習った内容についての復習をする
- 【第2回】
テーマ：完了と仮定表現
内容・方法：第8課 完了の了、仮定表現などの要点説明と練習を行う
- 【第3回】
テーマ：指示詞及び形容詞の名詞修飾
内容・方法：第8課 勧誘を表す「吧」、指示詞や形容詞による名詞修飾などの要点説明と練習を行う
- 【第4回】
テーマ：第8課の理解と練習
内容・方法：第8課の本文理解とドリル
- 【第5回】
テーマ：可能表現
内容・方法：第9課 可能表現会、前置詞離などの要点説明と練習を行う
- 【第6回】
テーマ：時間量の表現と 起点、終点の表現
内容・方法：第9課 時間量、前置詞「从」「到」などの要点説明と練習を行う
- 【第7回】
テーマ：第9課の理解と練習
内容・方法：第9課の本文理解とドリル
- 【第8回】
テーマ：第8課と第9課の再確認
内容・方法：第8、9課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。
- 【第9回】
テーマ：了と比較表現
内容・方法：第10課 発生と実現の了、比較表現などの要点説明と練習を行う
- 【第10回】
テーマ：結果補語と前置詞給
内容・方法：第10課 結果補語と前置詞の給などの要点説明と練習を行う
- 【第11回】
テーマ：第10課の理解と練習
内容・方法：第10課の本文理解とドリル
- 【第12回】
テーマ：第8課～第10課の総合復習
内容・方法：第8課～第10課の総合復習と総合練習
- 【第13回】
テーマ：様態補語、使役表現
内容・方法：第11課の様態補語、使役表現構文などの要点説明と練習を行う
- 【第14回】
テーマ：可能表現と二重目的語
内容・方法：第11課 可能の助動詞、二重目的語を取る動詞などの要点説明と練習を行う
- 【第15回】
テーマ：第11課の理解と練習
内容・方法：第11課の本文理解とドリル
- 【第16回】
テーマ：第11課の理解と練習

内容・方法：第11課の本文理解とドリル

【第17回】

テーマ：経験相と可能補語

内容・方法：12課 経験を表す過、可能補語などの要点説明と練習を行う

【第18回】

テーマ：有の連動的構文

内容・方法：第12課 有の連動的構文、「已經～了」などの要点説明と練習を行う

【第19回】

テーマ：第12課の理解と練習

内容・方法：第12課の本文理解とドリル

【第20回】

テーマ：第11課と第12課の再確認

内容・方法：第11、12課の復習と考査

【第21回】

テーマ：前置詞把と方向補語

内容・方法：第13課 「把」の構文、方向補語などの要点説明と練習を行う

【第22回】

テーマ：禁止表現と持続表現

内容・方法：第13課 禁止の「別」と持続の「着」などの要点説明と練習を行う

【第23回】

テーマ：第13課の理解と練習

内容・方法：第13課の本文理解とドリル

【第24回】

テーマ：受動態と因果関係の表現

内容・方法：第14課 受動態被、因果関係表現などの要点説明と練習を行う

【第25回】

テーマ：比況表現、推測表現

内容・方法：第14課 比況表現、推測表現、出現文などの要点説明と練習を行う

【第26回】

テーマ：第14課の理解と練習

内容・方法：第14課の本文理解とドリル

【第27回】

テーマ：第13課と第14課の再確認

内容・方法：第13課と第14課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。

【第28回】

テーマ：疑問詞の呼応と「～ながら」表現

内容・方法：第15課 同一疑問詞の呼応用法と「～ながら」などの要点説明と練習を行う

【第29回】

テーマ：意思表示の表現と「～ために」

内容・方法：第15課 意思表示の表現と「～ために」、「～のみならず」などの文型説明と練習を行う

【第30回】

テーマ：総合復習

内容・方法：第8課～第15課について総合復習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

事前、事後学習として、下記の内容について毎回、それぞれ1時間以上の学習が必要。

【第1回】

①事前学修課題：中国語Ⅰで習った内容を復習する。

②事後学修課題：授業で復習した時に気づいた忘れていた内容や理解しきれていなかった内容の再復習。

【第2回】

①事前学修課題：第8課の新出単語と46ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第3回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と47ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第4回】

①事前学修課題：第8課の本文と48ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた未だ分からなかったところを復習する。

【第5回】

①事前学修課題：第9課の新出単語と50、51ページの関連内容を予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第6回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と50、51ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第7回】

①事前学修課題：第9課の本文と52ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいたまだ分からなかったところを復習する。

【第8回】

①事前学修課題：第8課、第9家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。

②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第9回】

①事前学修課題：第10課の新出単語と54、55ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第10回】

- ①事前学修課題：前回の学習内容の復習と54、55ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第11回】

- ①事前学修課題：第10課の本文と56ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第12回】

- ①事前学修課題：第8課～第10課で習った内容を再度確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：文法のまとめや総合練習を通じて、分からなかったところについての説明を再度確認し、復習する。

【第13回】

- ①事前学修課題：第11課の新出単語と62、63ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第14回】

- ①事前学修課題：前回の学習内容の復習と62、63ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第15回】

- ①事前学修課題：第11課の本文と64ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第16回】

- ①事前学修課題：第12課の新出単語と66、67ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第17回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と66、67ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第18回】

- ①事前学修課題：第12課の本文と68ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第19回】

- ①事前学修課題：第11課、第12家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を再確認し、復習する。

【第20回】

- ①事前学修課題：第13課の新出単語と70ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第21回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と71ページの内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第22回】

- ①事前学修課題：第13課の本文内容と72ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第23回】

- ①事前学修課題：第14課の新出単語と75ページの内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第24回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と74、75ページの関連内容の事前予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第25回】

- ①事前学修課題：第14課の本文内容と76ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた分からなかったところを復習する。

【第26回】

- ①事前学修課題：第13課と第14課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第27回】

- ①事前学修課題：第15課の新出単語と79ページの関連内容を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第28回】

- ①事前学修課題：前回の内容の復習と78、79ページの関連内容の予習。
- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第29回】

- ①事前学修課題：第15課の本文内容と80ページの練習問題を事前予習する。
- ②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいていなかったところを復習する。

【第30回】

- ①事前学修課題：81ページの総合練習を事前予習する。不明な点や未だ理解できていないところをメモなどに書き留める。
- ②事後学修課題：総合復習の内容を再確認し、総点検を行う。

課題に対するフィードバックの方法

次週授業時に解説及びコメント

成績評価の方法・基準(方針)

授業態度、授業中の練習への取り組み方、課題提出、授業内小テストによる総合評価。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	40	授業への取り組み方や授業中の練習、課題の出来具合によって評価する。	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	課題の提出及び完成度	1, 2
その他	30	授業内で行われる小テストの成績や質問の受け答えによって評価する。	1, 2

テキスト	引き続き下記教材を使用する： 『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社/2400/		
------	----------------------------------------------	--	--

参考書	担当教員が授業時に指示する。		
-----	----------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	中国語Iを単位取得したこと。 欠席によって授業について行けなくなるから、全回出席することを目指す。		
---------------	------------------------------------------------------	--	--

授業コード	10402604	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	侯 月琴				
シラバス執筆(主)	侯 月琴				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「中国語Ⅰ」に引き続き、中国でもっとも広く使われている「普通話(標準語)」の基礎を勉強していく。中国旅行や卒業後の仕事などにも生かせるように、中国人とのコミュニケーションがよりスムーズにできるための中国語を身につけることが目的である。

「中国語Ⅰ」で習った中国語の発音や基礎文法、句型等を復習しながら、新しい文法事項を習得していく。また、習得したものを応用できるように授業を進めていく。この講義では「聞く・読む・話す・書く」の四基本技能全般の能力養成を重視する。

尚、語学的なもの他にその背景となる中国の文化や現在の社会事情などを紹介し、中国社会全体についての興味を育てる。

到達目標

1. 中国語中級程度の文法事項を理解し、応用できること。
2. 中国語検定4級程度の能力を身につけること。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：中国語Ⅰの復習
内容・方法：中国語Ⅰで習った内容についての復習をする
- 【第2回】
テーマ：完了と仮定表現
内容・方法：第8課 完了の了、仮定表現などの要点説明と練習を行う
- 【第3回】
テーマ：指示詞及び形容詞の名詞修飾
内容・方法：第8課 勧誘を表す「吧」、指示詞や形容詞による名詞修飾などの要点説明と練習を行う
- 【第4回】
テーマ：第8課の理解と練習
内容・方法：第8課の本文理解とドリル
- 【第5回】
テーマ：可能表現
内容・方法：第9課 可能表現会、前置詞離などの要点説明と練習を行う
- 【第6回】
テーマ：時間量の表現と 起点、終点の表現
内容・方法：第9課 時間量、前置詞「从」「到」などの要点説明と練習を行う
- 【第7回】
テーマ：第9課の理解と練習
内容・方法：第9課の本文理解とドリル
- 【第8回】
テーマ：第8課と第9課の再確認
内容・方法：第8、9課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。
- 【第9回】
テーマ：了と比較表現
内容・方法：第10課 発生と実現の了、比較表現などの要点説明と練習を行う
- 【第10回】
テーマ：結果補語と前置詞給
内容・方法：第10課 結果補語と前置詞の給などの要点説明と練習を行う
- 【第11回】
テーマ：第10課の理解と練習
内容・方法：第10課の本文理解とドリル
- 【第12回】
テーマ：第8課～第10課の総合復習
内容・方法：第8課～第10課の総合復習と総合練習
- 【第13回】
テーマ：様態補語、使役表現
内容・方法：第11課の様態補語、使役表現構文などの要点説明と練習を行う
- 【第14回】
テーマ：可能表現と二重目的語
内容・方法：第11課 可能の助動詞、二重目的語を取る動詞などの要点説明と練習を行う
- 【第15回】
テーマ：第11課の理解と練習
内容・方法：第11課の本文理解とドリル
- 【第16回】
テーマ：第11課の理解と練習

内容・方法：第11課の本文理解とドリル

【第17回】

テーマ：経験相と可能補語

内容・方法：12課 経験を表す過、可能補語などの要点説明と練習を行う

【第18回】

テーマ：有の連動的構文

内容・方法：第12課 有の連動的構文、「已經?了」などの要点説明と練習を行う

【第19回】

テーマ：第12課の理解と練習

内容・方法：第12課の本文理解とドリル

【第20回】

テーマ：第11課と第12課の再確認

内容・方法：第11、12課の復習と考査

【第21回】

テーマ：前置詞把と方向補語

内容・方法：第13課 「把」の構文、方向補語などの要点説明と練習を行う

【第22回】

テーマ：禁止表現と持続表現

内容・方法：第13課 禁止の「別」と持続の「着」などの要点説明と練習を行う

【第23回】

テーマ：第13課の理解と練習

内容・方法：第13課の本文理解とドリル

【第24回】

テーマ：受動態と因果関係の表現

内容・方法：第14課 受動態被、因果関係表現などの要点説明と練習を行う

【第25回】

テーマ：比況表現、推測表現

内容・方法：第14課 比況表現、推測表現、出現文などの要点説明と練習を行う

【第26回】

テーマ：第14課の理解と練習

内容・方法：第14課の本文理解とドリル

【第27回】

テーマ：第13課と第14課の再確認

内容・方法：第13課と第14課についての復習と考査。学生の質問に説明を行う。

【第28回】

テーマ：疑問詞の呼応と「～ながら」表現

内容・方法：第15課 同一疑問詞の呼応用法と「～ながら」などの要点説明と練習を行う

【第29回】

テーマ：意思表示の表現と「～ために」

内容・方法：第15課 意思表示の表現と「～ために」、「～のみならず」などの文型説明と練習を行う

【第30回】

テーマ：総合復習

内容・方法：第8課～第15課について総合復習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：中国語Ⅰで習った内容を復習する。

②事後学修課題：授業で復習した時に気づいた、忘れていた内容や理解しきれなかった内容の再復習。

【第2回】

①事前学修課題：第8課の新出単語と46ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第3回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と47ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第4回】

①事前学修課題：第8課の本文と48ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた未だ分からなかったところを復習する。

【第5回】

①事前学修課題：第9課の新出単語と50、51ページの関連内容を予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第6回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と50、51ページの関連内容の事前予習。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第7回】

①事前学修課題：第9課の本文と52ページの練習問題を事前予習する。

②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいたまだ分からなかったところを復習する。

【第8回】

①事前学修課題：第8課、第9家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。

②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。

【第9回】

①事前学修課題：第10課の新出単語と54、55ページの関連内容を事前予習する。

②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。

【第10回】

①事前学修課題：前回の学習内容の復習と54、55ページの関連内容の事前予習。

- ②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第11回】
- ①事前学修課題：第10課の本文と56ページの練習問題を事前予習する。
②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた、分からなかったところを復習する。
【第12回】
- ①事前学修課題：第8課～第10課で習った内容を再度確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
②事後学修課題：文法のまとめや総合練習を通じて、分からなかったところについての説明を再度確認し、復習する。
【第13回】
- ①事前学修課題：第11課の新出単語と62、63ページの関連内容を事前予習する。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第14回】
- ①事前学修課題：前回の学習内容の復習と62、63ページの関連内容の事前予習。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第15回】
- ①事前学修課題：第11課の本文と64ページの練習問題を事前予習する。
②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた、分からなかったところを復習する。
【第16回】
- ①事前学修課題：第12課の新出単語と66、67ページの関連内容を事前予習する。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第17回】
- ①事前学修課題：前回の内容の復習と66、67ページの関連内容の事前予習。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第18回】
- ①事前学修課題：第12課の本文と68ページの練習問題を事前予習する。
②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた、分からなかったところを復習する。
【第19回】
- ①事前学修課題：第11課、第12家で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を再確認し、復習する。
【第20回】
- ①事前学修課題：第13課の新出単語と70ページの内容を事前予習する。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第21回】
- ①事前学修課題：前回の内容の復習と71ページの内容の事前予習。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第22回】
- ①事前学修課題：第13課の本文内容と72ページの練習問題を事前予習する。
②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた、分からなかったところを復習する。
【第23回】
- ①事前学修課題：第14課の新出単語と75ページの内容を事前予習する。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第24回】
- ①事前学修課題：前回の内容の復習と74、75ページの関連内容の事前予習。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第25回】
- ①事前学修課題：第14課の本文内容と76ページの練習問題を事前予習する。
②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた、分からなかったところを復習する。
【第26回】
- ①事前学修課題：第13課と第14課で習った内容を確認し、分からないところがあればメモなどに書き留める。
②事後学修課題：チェックシートで気づいた理解できていない部分を復習する。
【第27回】
- ①事前学修課題：第15課の新出単語と79ページの関連内容を事前予習する。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第28回】
- ①事前学修課題：前回の内容の復習と78、79ページの関連内容の予習。
②事後学修課題：授業内容を復習し、音声を繰り返し聞く。
【第29回】
- ①事前学修課題：第15課の本文内容と80ページの練習問題を事前予習する。
②事後学修課題：授業での説明や練習で気づいた、分からなかったところを復習する。
【第30回】
- ①事前学修課題：81ページの総合練習を事前予習する。不明な点や未だ理解できていないところをメモなどに書き留める。
②事後学修課題：総合復習の内容を再確認し、総点検を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題をチェック後、速やかに返却し間違いやすいところや、理解が不十分のところを説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業態度、授業中の練習への取り組み方、課題提出などによる総合評価。
尚、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	80	授業中の参加態度及び課題の出来具合を参考に評価する。	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題提出	1, 2
その他	0		

テキスト	『実学実用 漢語起步』/黄 志軍/白帝社
------	----------------------

参考書	担当教員より指示する。
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	中国語Iを単位取得したこと。 1回でも欠席すると、授業について行けなくなるから、必ず全回出席すること。
---------------	--------------------------------------------------------

授業コード	10402702	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	韓国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	金 文洙、全 ウンフィ				
シラバス執筆(主)	金 文洙				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

韓国語の文字と発音からはじめ、読み・書きができるように習得していく。その上、簡単な言葉を覚え、短い会話表現ができるように練習する。楽しく韓国語を学びながら、隣国文化の理解を深める事が、この授業の目標である。副教材として韓国のドラマや音楽などを利用するが、学んだ事柄は声を出して確認しあう方法で進める。また、折に触れて韓国若者文化の紹介も行う。なお、この授業は二人の講師が曜日によって入れ替わるペア授業である。特に8~9回目からは、曜日に沿って奇数(5・7)課/偶数(6)課の内容を学習していく。

到達目標

到達目標は以下の二点である。
 1. 韓国語の読みと書きができる。
 2. あいさつや自己紹介などができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：ガイダンス
 内容・方法：授業の進め方とハングル誕生の背景
- 【第2回】
 テーマ：文字と発音
 内容・方法：基本母音字
- 【第3回】
 テーマ：文字と発音
 内容・方法：基本子音字
- 【第4回】
 テーマ：文字と発音
 内容・方法：濃音
- 【第5回】
 テーマ：文字と発音
 内容・方法：複母音字
- 【第6回】
 テーマ：文字と発音
 内容・方法：反切表の読みと日本語のハングル表記
- 【第7回】
 テーマ：文字と発音
 内容・方法：終音
- 【第8回】
 テーマ：発音規則と2つの字母のパッチム
 内容・方法：連音化、鼻音化、濃音化など
- 【第9回】
 テーマ：(文型) 名詞文と文末表現(1)~は~です/います・あります
 内容・方法：第5課 私は~です/第6課 時間ありますか
- 【第10回】
 テーマ：(文型) 名詞文と文末表現(2)~は~ですか/いません・ありません
 内容・方法：第5課 私は~です/第6課 時間ありますか
- 【第11回】
 テーマ：(会話) 自己紹介をしてみよう/~にと場所の表現
 内容・方法：第5課 私は~です/第6課 時間ありますか
- 【第12回】
 テーマ：(文型) 名詞文と文末表現(3)否定形/いろんな助詞と位置の表現
 内容・方法：第5課 私は~です/第6課 時間ありますか
- 【第13回】
 テーマ：(文型) 指示語(1)/名詞文と文末表現(4)丁寧語
 内容・方法：第7課 それは何ですか/第6課 時間ありますか
- 【第14回】
 テーマ：(文型) 指示語(2)/名詞文と文末表現(5)丁寧語
 内容・方法：第7課 それは何ですか/第6課 時間ありますか
- 【第15回】
 テーマ：(会話) 職業と趣味/韓国で道を聞く
 内容・方法：これまでのふりかえりとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

語学の授業では、まず時間をかけることが大事である。毎回の事前学習として20分以上、事後学習として30分以上の学習時間を設けること。

- ・事前学習では、学習した教科書の内容を、声をあげて練習する。
- ・事後学習では、ワークシートを用いる。詳細は授業の中で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に小テストを行い、次回の授業内容などで解説・反映する。また、必要な場合は課題に関するフィードバックを授業中やクラスルーム、メールなどを通して行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業への参加度、小テスト、課題、期末テストに代わるレポートの合計で総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	複数の小テストおよび平常点	1, 2
授業外での評価	20	課題提出	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト 『最新 チャレンジ 韓国語』/金順玉著/白水社/2300/9784560017890

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 外国語の授業なので、積極的な参加が望ましい。出席が70%に満たない場合、不可とする。

授業コード	10402703	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	韓国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	韓 尚秀、沈 玉均				
シラバス執筆(主)	韓 尚秀				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

韓国語をはじめて学ぶ学生を対象とする科目であり、聞き・読み・書き・話す機能を基礎から総合的に養うことに主眼を置く。今期は、ハングル文字の母音と子音の成り立ちや仕組みから、自己紹介の表現などを学ぶことで、韓国語の基本的な骨格を身につけることを目指す。

到達目標

①韓国語の文字を覚え、②正しく発音できるようになること。また、③簡単な自己紹介ができるようになること。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：ガイダンスと基礎第1課 韓国語について。
内容・方法：韓国語の特徴及び創製原理。
- 【第2回】
テーマ：基礎第2課 出会いの挨拶と基本母音。
内容・方法：文字と発音。
- 【第3回】
テーマ：基礎第3課 別れの挨拶と基本子音。
内容・方法：激音・濃音。
- 【第4回】
テーマ：基本母音と子音の確認。
内容・方法：歌による発音の練習。
- 【第5回】
テーマ：基礎第4課 感謝の表現と複合母音。
内容・方法：文字と発音。
- 【第6回】
テーマ：基礎第5課 謝罪の表現とパッチム。
内容・方法：終音。
- 【第7回】
テーマ：基礎第6課 発音規則①。
内容・方法：連音化・鼻音化。
- 【第8回】
テーマ：基礎第6課 発音規則②。
内容・方法：流音化・濃音化。
- 【第9回】
テーマ：基礎第6課 発音規則③。
内容・方法：激音化・口蓋音化。
- 【第10回】
テーマ：日本語のハングル表記。
内容・方法：名前をハングルで。
- 【第11回】
テーマ：前半のまとめと小テスト。
内容・方法：基礎第1から6課までの復習。
- 【第12回】
テーマ：第1課 私は浅井ゆかりです。
内容・方法：簡単な自己紹介。
- 【第13回】
テーマ：第1課 私は浅井ゆかりです。
内容・方法：～は/～です。
- 【第14回】
テーマ：第2課 出身はソウルですか。
内容・方法：～ですか。
- 【第15回】
テーマ：第2課 出身はソウルですか。
内容・方法：疑問形。
- 【第16回】
テーマ：第3課 図書館ではありません。
内容・方法：～ではありません。
- 【第17回】
テーマ：第3課 図書館ではありません。
内容・方法：否定文。
- 【第18回】

テーマ：第4課 時間がありますか。
内容・方法：あります/ありません。

【第19回】

テーマ：第4課 時間がありますか。
内容・方法：いますか/いませんか。

【第20回】

テーマ：第5課 何をしますか。
内容・方法：します/しますか。

【第21回】

テーマ：第5課 何をしますか。
内容・方法：丁寧形の文作り。

【第22回】

テーマ：第6課 貿易会社で働いています。
内容・方法：います/あります。

【第23回】

テーマ：第6課 貿易会社で働いています。
内容・方法：現在進行形。

【第24回】

テーマ：第7課 服を買います。
内容・方法：動詞、形容詞。

【第25回】

テーマ：第7課 服を買います。
内容・方法：存在詞・指定詞。

【第26回】

テーマ：第8課 スーパーでよく買います。
内容・方法：用言のヨ体。

【第27回】

テーマ：第8課 スーパーでよく買います。
内容・方法：平叙・疑問・勧誘・丁寧な命令。

【第28回】

テーマ：第9課 2万5千ウォンです。
内容・方法：漢数詞。

【第29回】

テーマ：第9課 2万5千ウォンです。
内容・方法：縮約形。

【第30回】

テーマ：前期のまとめ インタビューテスト。
内容・方法：第I課から第9課まで復習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

事前学習課題：授業の概要を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書基礎第1課を読んでおくこと。1時間

【第2回】

事前学習課題：教科書基礎第2課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第3回】

事前学習課題：教科書基礎第3課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第4回】

事前学習課題：教科書基礎第I、2、3課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第5回】

事前学習課題：教科書基礎第4課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第6回】

事前学習課題：教科書基礎第5課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第7回】

事前学習課題：教科書基礎第6課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第8回】

事前学習課題：教科書基礎第6課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第9回】

事前学習課題：教科書基礎第6課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第10回】

事前学習課題：教科書基礎第4、5、6課を読んでおくこと。1時間

事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間

【第11回】

事前学習課題：教科書基礎第1課から第6課の小テスト勉強をしておくこと。1時間

事後学習課題：教科書基礎第1課から第6課を読んでおくこと。1時間

【第12回】

事前学習課題：教科書第1課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第13回】
 事前学習課題：教科書第1課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第14回】
 事前学習課題：教科書第2課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第15回】
 事前学習課題：教科書第2課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第16回】
 事前学習課題：教科書第3課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第17回】
 事前学習課題：教科書第3課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第18回】
 事前学習課題：教科書第4課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第19回】
 事前学習課題：教科書第4課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第20回】
 事前学習課題：教科書第5課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第21回】
 事前学習課題：教科書第5課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第22回】
 事前学習課題：教科書第6課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第23回】
 事前学習課題：教科書第6課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第24回】
 事前学習課題：教科書第7課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第25回】
 事前学習課題：教科書第7課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第26回】
 事前学習課題：教科書第8課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第27回】
 事前学習課題：教科書第8課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第28回】
 事前学習課題：教科書第9課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第29回】
 事前学習課題：教科書第9課を読んでおくこと。1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。1時間
 【第30回】
 事前学習課題：教科書第1課から第9課のインタビューテストの勉強をしておくこと。1時間
 事後学習課題：教科書第1課から第9課を読んでおくこと。1時間

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施した小テストを返却し、間違った箇所を確認して覚えなおす。

成績評価の方法・基準(方針)

授業への参加態度と小テスト、インタビューテスト及び期末レポートの結果から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	平常点	1, 2, 3
授業外での評価	20	レポート点	1, 2
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート点	1, 2, 3
その他	0	なし	なし

テキスト	基礎から学ぶ「韓国語講座」初級[改訂版]/木内明 著/国書刊行会/978-4-336-05750-1
参考書	適宜、教員が紹介する。
履修条件・他の科目との関連	外国語の習得は毎回の授業の積み重ねが必須であることから、授業に積極的に参加すること。

授業コード	10402802	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	韓国語Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	金 文洙、全 ウンフィ				
シラバス執筆(主)	金 文洙				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

韓国語の読み・書きを確認しながら、短い会話表現ができるように練習していく。授業はテキストを中心に進めるが、学んだ事柄は声を出して確認しあう。また、折に触れて韓国の映画やドラマの紹介も行う。なお、この授業は二人の講師が曜日によって入れ替わるペア授業である。第3回からは、曜日に沿って奇数(9・11・13)課/偶数(8・10・12)課の内容を学習していく。

到達目標

到達目標は以下の三点である。

1. 語彙力を増やしていく。
2. 初級レベルの文法を理解していく。
3. 短い会話表現ができるように目指す。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：前期の復習
内容・方法：文字と発音(1)
- 【第2回】
テーマ：前期の復習
内容・方法：文字と発音(2)
- 【第3回】
テーマ：(文型)へヨ体(1)/用言の否定形(1)
内容・方法：第8課 日曜日に何をしますか/第9課 何が好きですか
- 【第4回】
テーマ：(文型)へヨ体(2)/～しにいきます
内容・方法：第8課 日曜日に何をしますか/第9課 何が好きですか
- 【第5回】
テーマ：固有数詞・時間/(会話)初デートの約束
内容・方法：第8課 日曜日に何をしますか/第9課 何が好きですか
- 【第6回】
テーマ：漢数詞・曜日/変則用言
内容・方法：第8課 日曜日に何をしますか/第9課 何が好きですか
- 【第7回】
テーマ：過去形(1)/未来形(1)
内容・方法：第10課 週末に何をしましたか/第11課 明日は何をするつもりですか
- 【第8回】
テーマ：過去形(2)/未来形(2)
内容・方法：第10課 週末に何をしましたか/第11課 明日は何をするつもりですか
- 【第9回】
テーマ：(文型)連体形/～しています
内容・方法：第10課 週末に何をしましたか/第11課 明日は何をするつもりですか
- 【第10回】
テーマ：(会話)一日の一日を言う/(会話)買い物をしてみましょう
内容・方法：第10課 週末に何をしましたか/第11課 明日は何をするつもりですか
- 【第11回】
テーマ：(文型)形容詞のつながり(1)/勧誘文(1)
内容・方法：第12課 スープが冷たくておいしいです/第13課 一度遊びに来てください
- 【第12回】
テーマ：(文型)形容詞のつながり(2)/勧誘文(2)
内容・方法：第12課 スープが冷たくておいしいです/第13課 一度遊びに来てください
- 【第13回】
テーマ：(文型)用言の否定形(2)/丁寧な提案の表現
内容・方法：第12課 スープが冷たくておいしいです/第13課 一度遊びに来てください
- 【第14回】
テーマ：比較の表現/可能の表現
内容・方法：第12課 スープが冷たくておいしいです/第13課 一度遊びに来てください
- 【第15回】
テーマ：これまでのふりかえりとまとめ
内容・方法：これまでの内容の補足および練習

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

語学の授業では、まず時間をかけることが大事である。毎回の事前学習として20分以上、事後学習として30分以上の学習時間を設けること。

- ・事前学習では、学習した教科書の内容を、声をあげて練習する。
- ・事後学習では、ワークシートを用いる。詳細は授業の中で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に小テストを行い、次回の授業内容などで解説・反映する。また、必要な場合は課題に関するフィードバックを授業中やクラスルーム、メールなどを通して行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業への参加度、小テスト、課題、期末テストに代わるレポートの合計で総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	複数の小テストおよび平常点	1, 2, 3
授業外での評価	20	課題提出	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 『最新 チャレンジ 韓国語』/金順玉著/白水社/2300/9784560017890

参考書 『パスポート朝鮮語小辞典』(白水社 定価2600円)

履修条件・他の科目との関連 外国語の授業なので、積極的な参加が望ましい。
出席が70%に満たない場合、不可とする。

授業コード	10402902	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スタディアブロード I [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本とは違う海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じて、日本社会・文化を捉えなおし、多文化理解を進めるとともに、グローバルマインドを持った国際的に活躍する人材を育成する

【研修メニュー】

- ・海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど世界22カ国・地域）
- ・日本語教員アシスタント研修（ベトナム、韓国など）
- ・グローバル短期研修（インドネシア、ベトナム、カンボジア、シンガポール）
- ・ハワイブライダル研修（1単位）、海外スポーツ交流（シンガポール）（1単位）

到達目標

1. 海外を経験することによって、グローバルマインドを持った国際人となる。
2. 海外体験によって、多文化理解に関心を持つとともに、日本社会・文化の更なる理解を進める。

授業計画

【前期出発（8月・9月出発）】

- <5月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <6月中旬～7月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <8月上旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <8月中旬～9月中旬>各研修プログラム実施
- <10月下旬>事後レポート提出、事後報告会

【後期出発（2月・3月出発）】

- <10月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <11月中旬～2月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <2月中旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <2月下旬～3月下旬>各研修プログラム実施
- <4月下旬>事後レポート提出、事後報告会

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

出発前に行われる研修会に参加し、事前学習をする。事後にはレポート提出をし、振り返りワークショップや事後報告会などを行うことで、事後学習をする。

課題に対するフィードバックの方法

研修レポート他、提出物については、講評を記して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

研修参加者は定められた期間内に、事後レポートを提出すること（A4用紙800字以上）。

- ・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性（30%）
- ・現地プログラムを通じた理解度、積極性（50%）
- ・事後レポート評価（20%）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	100	・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性(30%) ・現地プログラムを通じた理解度、積極性(50%) ・事後レポート評価(A4用紙800字以上)(20%)	1, 2

テキスト	なし
参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・参加希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加についての許可に関する選考がある。 ・I、IIは参加回数を表す。初めて参加のプログラムで単位認定された場合はスタディアブロード I、2回目はスタディアブロード IIとなる。 ・この科目に参加する場合は別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・選考により奨学金を得ることが可能である。 ・スタディアブロードプログラムは国際交流センターが窓口となっている。掲示なども国際交流センターから案内されるので、履修希望者は注意すること。 ・事前研修の出席が不良の場合は研修参加を許可しないことがある。

授業コード	10403002	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スタディアブロードⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本とは違う海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じて、日本社会・文化を捉えなおし、多文化理解を進めるとともに、グローバルマインドを持った国際的に活躍する人材を育成する

【研修メニュー】

- ・海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど世界22カ国・地域）
- ・日本語教員アシスタント研修（ベトナム、韓国など）
- ・グローバル短期研修（インドネシア、ベトナム、カンボジア、シンガポール）
- ・ハワイプライダル研修（1単位）、海外スポーツ交流（シンガポール）（1単位）

到達目標

1. 海外を経験することによって、グローバルマインドを持った国際人となる。
2. 海外体験によって、多文化理解に関心を持つとともに、日本社会・文化の更なる理解を進める。

授業計画

【前期出発（8月・9月出発）】

- <5月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <6月中旬～7月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <8月上旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <8月中旬～9月中旬>各研修プログラム実施
- <10月下旬>事後レポート提出、事後報告会

【後期出発（2月・3月出発）】

- <10月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <11月中旬～2月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <2月中旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <2月下旬～3月下旬>各研修プログラム実施
- <4月下旬>事後レポート提出、事後報告会

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

出発前に行われる研修会に参加し、事前学習をする。事後にはレポート提出をし、振り返りワークショップや事後報告会などを行うことで、事後学習をする。

課題に対するフィードバックの方法

研修レポート他、提出物については、講評を記して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

研修参加者は定められた期間内に、事後レポートを提出すること（A4用紙800字以上）。

- ・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性（30%）
- ・現地プログラムを通じた理解度、積極性（50%）
- ・事後レポート評価（20%）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性(30%) ・現地プログラムを通じた理解度、積極性(50%) ・事後レポート評価(A4用紙800字以上)(20%) 	1, 2

テキスト	なし
参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・参加希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加についての許可に関する選考がある。 ・I、IIは参加回数を表す。初めて参加のプログラムで単位認定された場合はスタディアブロードI、2回目はスタディアブロードIIとなる。 ・この科目に参加する場合は別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・選考により奨学金を得ることが可能である。 ・スタディアブロードプログラムは国際交流センターが窓口となっている。掲示なども国際交流センターから案内されるので、履修希望者は注意すること。 ・事前研修の出席が不良の場合は研修参加を許可しないことがある。

授業コード	10403102	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スタディアブロードⅢ [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本とは違う海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じて、日本社会・文化を捉えなおし、多文化理解を進めるとともに、グローバルマインドを持った国際的に活躍する人材を育成する

【研修メニュー】

- ・海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど世界22カ国・地域）
- ・日本語教員アシスタント研修（ベトナム、韓国など）
- ・グローバル短期研修（インドネシア、ベトナム、カンボジア、シンガポール）
- ・ハワイブライダル研修（1単位）、海外スポーツ交流（シンガポール）（1単位）

到達目標

1. 海外を経験することによって、グローバルマインドを持った国際人となる。
2. 海外体験によって、多文化理解に関心を持つとともに、日本社会・文化の更なる理解を進める。

授業計画

【前期出発（8月・9月出発）】

- <5月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <6月中旬～7月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <8月上旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <8月中旬～9月中旬>各研修プログラム実施
- <10月下旬>事後レポート提出、事後報告会

【後期出発（2月・3月出発）】

- <10月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <11月中旬～2月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <2月中旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <2月下旬～3月下旬>各研修プログラム実施
- <4月下旬>事後レポート提出、事後報告会

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

出発前に行われる研修会に参加し、事前学習をする。事後にはレポート提出をし、振り返りワークショップや事後報告会などを行うことで、事後学習をする。

課題に対するフィードバックの方法

研修レポート他、提出物については、講評を記して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

研修参加者は定められた期間内に、事後レポートを提出すること（A4用紙800字以上）。

- ・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性（30%）
- ・現地プログラムを通じた理解度、積極性（50%）
- ・事後レポート評価（20%）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後研修と事後報告会での発表と積極性(30%) ・現地プログラムを通じた理解度、積極性(50%) ・事後レポート評価(A4用紙800字以上)(20%) 	1, 2

テキスト	なし
参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・参加希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加についての許可に関する選考がある。 ・I、IIは参加回数を表す。初めて参加のプログラムで単位認定された場合はスタディアブロードI、2回目はスタディアブロードIIとなる。 ・この科目に参加する場合は別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・選考により奨学金を得ることが可能である。 ・スタディアブロードプログラムは国際交流センターが窓口となっている。掲示なども国際交流センターから案内されるので、履修希望者は注意すること。 ・事前研修の出席が不良の場合は研修参加を許可しないことがある。

授業コード	10403203	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	ビジネススキル演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山田 敏子				
シラバス執筆(主)	山田 敏子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ビジネス社会で活躍するためには、社会を理解し、さまざまな実務の基本スキル、物事に取り組む姿勢と知識を習得することが必要である。この授業では社会に出る準備として、具体的な仕事の進め方やビジネスコミュニケーションスキルをグループ演習で体験する。また、自分のキャリアや生活を築いていくために必要な社会保険や税金の基礎知識・時代に沿ったビジネス用語などの理解を、個人演習で深める。同時に、社会人の姿勢として「遅刻・欠席をしない、期限を守る」こと、きちんとした文章が書けることが信頼獲得の大前提であることを理解し、課題の期限内提出、文章の見直し習慣をこの授業期間を通じ身につける。現在、官公庁、企業、医療機関などで人材育成を行い、ビジネスマナー・コミュニケーション研修を行っている実務家教員が、その経験をもとに指導する。学生各々が社会人生活を具体的にイメージでき、今後の自分にどのような知識やスキルの強化が必要か把握し、取り組む意識を持てる授業としたい。

到達目標

1. 周囲に信頼を与える仕事の進め方について理解し、説明ができる
2. ビジネスコミュニケーションの基礎を身につけ、実行できる
3. ビジネスマナーの基本を体得し、実行にうつせる
4. ビジネス文書の基本を理解し、メール作成に応用できる
5. 社会保険・業種・業界の知識が説明できる

授業計画

- 第1回 キャリア形成と就業意識：仕事・キャリア形成のための考え方や意識を学ぶ
 第2回 職場コミュニケーション(1)：人間関係を構築するコミュニケーションの基本スキルを学ぶ
 第3回 職場コミュニケーション(2)：気持ちの伝わる敬語・相手が受け入れやすい心配り表現を学ぶ
 第4回 報告・連絡・相談：確実にを行うポイントと、相手が理解しやすい結論志向の話法を学ぶ
 第5回 会議業務：主催・参加の知識と心構え、会議を円滑に進める進行役のポイントを学ぶ
 第6回 来客対応と訪問マナー：好印象を与える立ち居振る舞いを学ぶ
 第7回 電話対応：基本マナーと架電・受電の流れ、場面ごとの具体的フレーズを学ぶ
 第8回 プレゼンテーション：プレゼンテーションの基本と、相手に伝わるスピーチ技法を学ぶ
 第9回 仕事の取り組み方(1)：PDCAサイクルの役立て方・職場のルール・法律を学ぶ
 第10回 仕事の取り組み方(2)：社会保険と税金の基礎知識・給与明細の見方を学ぶ
 第11回 ビジネス文書とメール：個人SNSとの明確な区別、社会人にふさわしい文章とメールの書き方を学ぶ
 第12回 社内文書・社外文書の知識：書式と文書の種類、ビジネス文書特有の慣用句を学ぶ
 第13回 業種・業界の知識：就職活動の業界研究に役立つ知識と情報の探し方を学ぶ
 第14回 会社の仕組みと経営の基本：会社組織、株式会社の特徴、マーケティングの基本的事項を学ぶ
 第15回 交際業務とコミュニケーションまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 毎回1時間の事前学習が必要。テキストの該当部分について不明点や質問を準備の上、授業に参加する。
- 毎回2時間ほどの事後学習が必要。内容としては以下の通り。
 - ・ 授業での説明と演習を行った後には理解が深まっているので、「テキストの読み返し、考察」により気づき内容の定着を図る
 - ・ 興味を持った内容について書籍・インターネットなどで調べたり実践するなどして知見を広め、社会に出るための準備を進める
 - ・ 計4回の課題作成
- さらに試験対策として15時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題は段階を評価し、翌週以降に評価説明を可能とする予定である。

成績評価の方法・基準(方針)

演習を中心に授業を進めるので遅刻を禁じ、連絡や正当な理由なく欠席回数が5回以上になる場合は「K」評価とする。欠席時は事前連絡が必要であり、欠席回数が5回以上になる場合は期末試験への参加不可。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業中の質疑応答 (10) グループ/ペアワークにおける貢献度 (10)	1, 3

		毎回の振り返りシート(完成度と期限内提出の状況を評価) (20)	
授業外での評価	20	授業に関連した計4回の課題(完成度と期限内提出状況を評価) (20)	2, 3, 4, 5
定期試験	40	期末試験(上記「到達目標」の1～5の目標に到達できているかどうかを問う) (40)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『よくわかる社会人の基礎知識 ～マナー・文書・仕事のキホン～』 著者名:岡野絹枝 出版社:ぎょうせい 定価: 2,420円(税込み) 発行日 2019年04月25日 ISBN 978-4-324-10599-3		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介。		
履修条件・他の科目との関連	状況に応じて、ワーク形式の実施は調整する。		

授業コード	10403204	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	ビジネススキル演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 由佳子				
シラバス執筆(主)	織田 由佳子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ビジネス社会で活躍するためには、社会を理解し、さまざまな実務の基本スキル、物事に取り組む姿勢と知識を習得することが必要である。この授業では社会に出る準備として、具体的な仕事の進め方やビジネスコミュニケーションスキルをグループ演習で体験する。また、自分のキャリアや生活を築いていくために必要な社会保険や税金の基礎知識・時代に沿ったビジネス用語などの理解を、個人演習で深める。同時に、社会人の姿勢として「遅刻・欠席をしない、期限を守る」こと、きちんとした文章が書けることが信頼獲得の大前提であることを理解し、課題の期限内提出、文章の見直し習慣をこの授業期間を通じ身につける。現在、官公庁、企業、医療機関などで人材育成を行い、ビジネスマナー・コミュニケーション研修を行っている実務家教員が、その経験をもとに指導する。学生各々が社会人生活を具体的にイメージでき、今後の自分にどのような知識やスキルの強化が必要か把握し、取り組む意識を持てる授業としたい。

到達目標

1. 周囲に信頼を与える仕事の進め方について理解し、説明ができる
2. ビジネスコミュニケーションの基礎を身につけ、実行できる
3. ビジネスマナーの基本を体得し、実行にうつせる
4. ビジネス文書の基本を理解し、メール作成に活用できる
5. 社会保険・業種・業界の知識が説明できる

授業計画

- 第1回 キャリア形成と就業意識：仕事・キャリア形成のための考え方や意識を学ぶ
 第2回 職場コミュニケーション(1)：人間関係を構築するコミュニケーションの基本スキルを学ぶ
 第3回 職場コミュニケーション(2)：気持ちの伝わる敬語・相手が受け入れやすい心配り表現を学ぶ
 第4回 報告・連絡・相談：確実に言うポイントと、相手が理解しやすい結論志向の話法を学ぶ
 第5回 会議業務：主催・参加の知識と心構え、会議を円滑に進める進行役のポイントを学ぶ
 第6回 来客対応と訪問マナー：好印象を与える立ち居振る舞いを学ぶ
 第7回 電話対応：基本マナーと架電・受電の流れ、場面ごとの具体的フレーズを学ぶ
 第8回 プレゼンテーション：プレゼンテーションの基本と、相手に伝わるスピーチ技法を学ぶ
 第9回 仕事の取り組み方(1)：PDCAサイクルの役立て方・職場のルール・法律を学ぶ
 第10回 仕事の取り組み方(2)：社会保険と税金の基礎知識・給与明細の見方を学ぶ
 第11回 ビジネス文書とメール：個人SNSとの明確な区別、社会人にふさわしい文章とメールの書き方を学ぶ
 第12回 社内文書・社外文書の知識：書式と文書の種類、ビジネス文書特有の慣用句を学ぶ
 第13回 業種・業界の知識：就職活動の業界研究に役立つ知識と情報の探し方を学ぶ
 第14回 会社の仕組みと経営の基本：会社組織、株式会社の特徴、マーケティングの基本的事項を学ぶ
 第15回 交際業務とコミュニケーションまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 毎回1時間の事前学習が必要。テキストの該当部分について不明点や質問を準備の上、授業に参加する。
- 毎回2時間ほどの事後学習が必要。内容としては以下の通り。
 - ・ 授業での説明と演習を行った後には理解が深まっているので、「テキストの読み返し、考察」により気づき内容の定着を図る
 - ・ 興味を持った内容について書籍・インターネットなどで調べたり実践するなどして知見を広め、社会に出るための準備を進める
 - ・ 計4回の課題作成
- さらに試験対策として15時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題は段階を評価し、翌週以降に評価説明を可能とする予定である。

成績評価の方法・基準(方針)

演習を中心に授業を進めるので遅刻を禁じ、連絡や正当な理由なく欠席回数が5回以上になる場合は「K」評価とする。欠席時は事前連絡が必要であり、欠席回数が5回以上になる場合は期末試験への参加不可。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業中の質疑応答 (10) グループ/ペアワークにおける貢献度 (10)	1, 3

		毎回の振り返りシート(完成度と期限内提出の状況を評価) (20)	
授業外での評価	20	授業に関連した計4回の課題(完成度と期限内提出状況を評価) (20)	2, 3, 4, 5
定期試験	40	期末試験(上記「到達目標」の1～5の目標に到達できているかどうかを問う) (40)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『よくわかる社会人の基礎知識 ～マナー・文書・仕事のキホン～』 著者名:岡野絹枝 出版社:ぎょうせい 定価: 2,420円(税込み) 発行日 2019年04月25日 ISBN 978-4-324-10599-3		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介。		
履修条件・他の科目との関連	状況に応じて、ワーク形式の実施は調整する。		

授業コード	10403301	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	グローバルビジネス研修 [対面]				
シラバス執筆(全員)	瀬島 誠				
シラバス執筆(主)	瀬島 誠				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

グローバルインターンシップでは、受講生は、海外の企業の現地法人、公的機関、民間企業等にインターン生として派遣される。例えば、国際交流センターのホテルインターンシップ（上級）、同（中級）、同（初級）などがある。あるいは、教育機関のアシスタントなど研修等を実施することもある。実際に、業務を体験することで、学生が実社会に目を向ける機会を提供する。また「実際の仕事や職場の状況を理解することで、自己の職業適性を知り、職業選択について深く考えることが出来、学習意欲が刺激される」という効果が期待できる。グローバルインターンシップの事前研修として、海外での生活の心構え、職場における基本的なビジネスルールやマナー、そして危機管理などについて担当教員らが指導を行なう。また、希望する実習先企業や組織については、それぞれの担当者が個別に対応する。

到達目標

1. グローバルに活躍できる企業への就職の準備をする。
2. 海外の企業でインターンを経験することによって、卒業後の将来を検討する。
3. 海外でインターンを経験することによって、多文化理解の重要性などを理解する。

授業計画

<授業の構成>

- ①オリエンテーション
- ②研修先決定のための学習
- ③事前研修
- ④インターンシップの担当者との面接
- ⑤研修先事前訪問
- ⑥実習（期間はそれぞれの研修によって異なっている。その期間によって、単位数も異なっている。）
- ⑦研修日誌・研修レポート提出
- ⑧全体報告会

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実習先を決めるための研修もある。そして事前の学習をしてから面接を経て、実習先が決めるるので、それに合わせた研修をする必要がある。しっかりと研修をして、インターンシップ先で学ぶ。事後には全体報告会で、発表する必要があり、担当者の指導を得ながら、インターンシップで得たことをしっかりと自分のものとして表現する必要がある。（実習の前後において<授業の構成>に示された項目を事前学習あるいは事後学習として計30時間予定する）

課題に対するフィードバックの方法

インターンシップで得たものを事後の発表練習で、自分のものとしながら、発表会で、意見やアドバイスを得て、さらによいものにするようにしていく。

成績評価の方法・基準(方針)

事前事後研修の参加態度と実習先からの評価を総合的に判定する。原則として、オリエンテーションから事前研修、学科教員との面談、実習、全体報告会のすべてに出席、参加することを単位認定の条件とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	100	事前事後の研修での参加態度を40%、実習先からの評価を60%として、総合的に評価する	1, 2, 3

テキスト

プリントを配布する。

参考書	資料はオリエンテーション、事前研修時に配布する。
履修条件・他の科目との関連	インターンシップ先での実習時間により、12単位を上限として単位を取得できる。

授業コード	10403401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	フューチャー・スキルズ・プロジェクト(FSP) [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、大学と企業が連携する「産学連携」による、社会で実際にある課題の解決に向けて挑戦する「課題解決型」(Project Based Learning: PBL)の授業です。協力企業2社から示される課題テーマに対して提案を行うため、プロジェクト活動(情報収集、チーム議論、発表)に取り組んでいきます。協力企業の方がそれぞれ来学され、発表に対する評価やコメントをいただきます。この授業のプロジェクトの経験によって、「大学でいかに学ぶべきか」「学んだことをどのように役立てるか」を考え、自分のキャリアを形成していくことにつなげていきます。

到達目標

1. 目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を身につける。
2. 大学での学びを「社会」や「社会で求められる能力」と結び付けて考えることができる。
3. 課題解決に必要な基本的な能力を身につけ、チームで力を合わせて課題を遂行することができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	マインドセット・チーム編成・課題の進め方
第3回	プロジェクトA(協力企業A)】①協力企業からの課題提示
第4回	【プロジェクトA(協力企業A)】②チーム活動
第5回	【プロジェクトA(協力企業A)】③協力企業への一次提案
第6回	【プロジェクトA(協力企業A)】④チーム活動
第7回	【プロジェクトA(協力企業A)】⑤企業への最終提案・評価
第8回	プロジェクトAの振り返り
第9回	チーム再編・スキル紹介
第10回	【プロジェクトB(協力企業B)】①協力企業からの課題提示
第11回	【プロジェクトB(協力企業B)】②チーム活動
第12回	【プロジェクトB(協力企業B)】③協力企業への一次提案
第13回	【プロジェクトB(協力企業B)】④チーム活動
第14回	【プロジェクトB(協力企業B)】⑤企業への最終提案・評価
第15回	全体の振り返り・今後の学びの検討

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

図書館で新聞、雑誌、本を読み、自宅や大学で様々な情報を調べるなど、大学生としてしっかり勉強する姿勢が重要となります。課題に対してチームで検討し、提案することになるため、授業時間以外の場でも自主的に集まり、準備に取り組むことが必須です。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出するリアクションシートに書かれた質問等に対して、次回授業の冒頭で回答します。

成績評価の方法・基準(方針)

授業への参加度、チーム活動評価、期末レポート、プレゼンテーション評価

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	65	受講姿勢、チーム活動	1, 2, 3
授業外での評価	20	チーム活動	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	「Project Support Notebook」(ベネッセコーポレーション)
参考書	

履修条件・他の科目との関連

本科目は1年次生を対象とし、企業が実際に抱える課題解決に向けたプロジェクトにチャレンジしていきます。本科目を受講するための専門知識は必要としないので、安心してください。なお、履修者数の上限が設定されていますので、初回の授業で説明します。

授業コード	10403501	授業形態	演習・実習（学外）	実務家教員	—
授業科目名	コーオプ I [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業での仕事体験を通じて、仕事理解を深めることを目的とする演習・実習科目である。学期期間中の事前授業、長期休みを中心とした実習（合計3日程度の仕事体験）、事後授業で構成される。最終的に授業を通じて得た学びを整理した「仕事発見レポート」の作成と発表を行い、経験を振り返る。

到達目標

1. 社会に対する問題意識や興味関心を持つことができる
2. 仕事とはどういったものか自分の言葉で語ることができる

授業計画

- 事前授業（学期期間中の土曜日を中心に集中して実施する）
 - 事前授業（1）【第1回】 オリエンテーション
 - 事前授業（2）【第2,3,4回】 受入企業によるゲストトーク
 - 事前授業（3）【第5,6回】 仕事理解ワーク
 - 事前授業（4）【第7,8回】 目標設定
 - 事前授業（5）【第9,10回】 キックオフ
- 実習（長期休みを中心に実施）
 - ・主に長期休みを利用し、合計3日程度の仕事体験を実施する
 - ・具体的なスケジュールは企業と相談の上、決定することとなる
- 事後授業（実習終了後に土曜日を中心に集中して実施する）
 - 事後授業（1）【第11回】 経験の振り返り
 - 事後授業（2）【第12,13回】 仕事発見レポートの発表

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業と実習以外に合計40時間の事前事後学習が必要となる。企業の協力を得て、学外に出る仕事体験を伴う授業であることから、授業時間外にも必要な活動が発生することを理解しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題は授業内で講評するとともに、必要に応じてコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

すべての事前授業・実習・事後授業への参加と、必要な課題の期限内提出、必要な取り組みへの期限内実施を単位認定要件とする。その上で、単位認定要件を満たした者に対し、以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	毎回の授業の振り返りシート (20%) 各種ワークシート・エントリー課題 (20%) 仕事発見レポート (20%)	1, 2
授業外での評価	20	実習中の活動報告書	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート課題	1, 2
その他	0		

テキスト テキストは使用せず必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ・集中講義のため、年度当初の履修登録はない

履修条件・他の科目との関連

- ・受講希望者は4月に開催する説明会に必ず参加すること
- ・説明会の詳細は4月初旬にUNIPAにて案内する
- ・21年度以前の入学生については、「インターンシップ I」と同科目である

授業コード	10403601	授業形態	演習・実習（学外）	実務家教員	—
授業科目名	コーオプⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

長期休暇期間を中心に、実際の企業活動の現場で行われる事業に参画する「実践型インターンシップ」に挑戦する実習科目である。挑戦の中に生まれる成功体験や失敗体験から自分が社会で働くことの意味／あり方を考えることを目的とする。受け入れ先は日本全国の地域の中小企業・ベンチャー企業を想定し、期間は企業のプログラムごとに異なる。実習中は連携するコーディネート機関のサポートを受ける。授業としては、学期期間中に行われる事前授業、実習、事後授業への参加と必要な課題の期限内提出が単位認定要件となる。

到達目標

1. インターンシップの中で任された仕事や役割に責任を持って取り組むができる
2. 企業の事業と意義について自分なりに語る事ができる
3. 自身の強みと弱みに気づくことができる

授業計画

○事前授業

- 事前授業（1）【第1回】オリエンテーション
 事前授業（2）【第2,3,4回】 マッチングイベントへの参加
 事前授業（3）【第5回】目標設定
 事前授業（4）【第6回】キックオフ研修

○実習

長期休暇を中心とした実践型インターンシップ
 （※期間と活動スケジュールは企業のプログラムごとに異なる。具体的には企業と相談の上、決定することとなる）

○事後授業

- 事後授業（1）【第7回】経験の振り返り
 事後授業（2）【第8,9,10回】実践型インターンシップ報告会

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業・実習を合わせて合計90時間の学修時間が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

課題は授業内で講評する。また、個人面談の機会に直接フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

すべての事前授業・実習・事後授業への参加と、必要な課題の期限内提出、必要な取り組みへの期限内実施を単位認定要件とする。その上で、単位認定要件を満たした者に対し、以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	毎回の授業の振り返りシート	2, 3
授業外での評価	60	各種エントリー課題 (40%) 実習中の活動報告書 (20%)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート課題	2, 3
その他	0		

テキスト テキストは使用せず必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・集中講義のため、年度当初の履修登録はない
- ・受講希望者は4月に開催する説明会に必ず参加すること
- ・説明会の詳細は4月初旬にUNIPAにて案内する
- ・受け入れ可能人数に制限は設けないが、企業側の合否結果により実習に参加できないことがある
- ・21年度以前の入学生については、「インターンシップⅡ」と同科目である

授業コード	10403702	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	サービスラーニング論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 誠之				
シラバス執筆(主)	佐藤 誠之				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講では、サービスラーニングの実際を理解し、社会におけるサービスの価値やその方法論を学ぶものである。具体的には、講義と映像を通して、地域社会の課題を探り、自らその課題や問題に触れ、それらの解決に対して組織が担う役割や必要性を理解する。また、その為に必要なコミュニケーション能力の向上、人とヒト・人と地域を結びつけるファシリテーション能力の習得を目指す。

到達目標

1. ボランティアやサービスラーニングの意味と地域社会における必要性を理解する。
2. 実際に地域社会で起こっている諸問題や課題を理解する。
3. 周囲とのコミュニケーションを活性化できるファシリテーション能力を身に付ける。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション・学びのイメージ
 内容・方法：授業の内容や評価について
- 【第2回】
 テーマ：サービスラーニングとは
 内容・方法：用語の定義などを理解する
- 【第3回】
 テーマ：ボランティアの効果
 内容・方法：ボランティア活動の意義について
- 【第4回】
 テーマ：ボランティアの心得
 内容・方法：ボランティア活動前の注意事項
- 【第5回】
 テーマ：ボランティアの実際 青少年分野
 内容・方法：事例紹介①
- 【第6回】
 テーマ：ボランティアの実際 スポーツ分野
 内容・方法：事例紹介②
- 【第7回】
 テーマ：ボランティアの実際 野外活動分野
 内容・方法：事例紹介③
- 【第8回】
 テーマ：ボランティアの実際 高齢者福祉分野
 内容・方法：事例紹介④
- 【第9回】
 テーマ：ボランティアの実際 障がい者分野
 内容・方法：事例紹介⑤
- 【第10回】
 テーマ：ボランティアの実際 看護・医療分野
 内容・方法：事例紹介⑥
- 【第11回】
 テーマ：ボランティアの実際 防災支援分野
 内容・方法：事例紹介⑦
- 【第12回】
 テーマ：ボランティアの実際 まちづくり分野
 内容・方法：事例紹介⑧
- 【第13回】
 テーマ：ボランティア受け入れ側の期待
 内容・方法：学生が取り組む地域社会づくりについて
- 【第14回】
 テーマ：ボランティアを通じた学び
 内容・方法：ボランティア参加者の振り返りの紹介
- 【第15回】
 テーマ：ボランティア後に行うこと・ボランティアの探し方
 内容・方法：振り返りの方法と重要性

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容に関する情報収集など自分なりのイメージを持つ。(各回2時間)

講義の中で説明した内容をまとめ、情報検索を行うなどして知識を深める。(各回2時間)

具体的な事前・事後学習内容は第1回のオリエンテーションにて説明を行うが、授業終了後のレポート作成と事前課題への取り組みを上手く活用すること。

レポート、課題以外にもインターネット等を活用して情報収集に努めること。

特に自分が興味関心を持つ領域へのボランティアについては、積極的に参加することを推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

レポート、課題についてはclassroomやグーグルフォームを活用し、授業内でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
原則、公欠以外で5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

授業内での積極的な取り組みやふりかえりシートを評価する

口頭発表や最終課題レポートと授業内でのレポート、事前課題、配布資料などファイリングしたものを提出し、それを評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内での積極的な取り組みやふりかえりシートを評価する	1, 2, 3
授業外での評価	40	課題レポートと授業内でのレポート、事前課題、配布資料などファイリングしたものを提出し、それを評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	口頭試問(発表および質疑応答)にて評価する	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	ボランティアを始める人のための「サービスラーニング入門」～ボランティアを通じた学び～ 発行:あさひ高速印刷出版部 ※学内書店にて購入して下さい。
------	--------------------------------------------------------------------------------

参考書	適宜紹介する
-----	--------

履修条件・他の科目との関連	様々なボランティアを経験できるよう自らでアンテナを張り情報を収集すること。 サービスラーニング I・II の関連科目の為、意欲的な受講と積極的な取り組みを求める。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	10403801	授業形態	演習・実習	実務家教員	—
授業科目名	サービスラーニング I [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一、横山 誠				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、地域・社会貢献活動（ボランティア活動＝サービス）での経験と、関連した学習（ラーニング）を通して、視野を広げ、学びを深めることを目指す授業であり、事前研修・ボランティア活動・事後研修から構成される。事前研修では、ボランティアに関する基礎的理解や心構えの確認に加え、各自が参加する活動の背景や関連する問題について調べ、理解を深める。その後、各自で一定時間以上のボランティア活動を実施するとともに、日誌の記入や担当教員とのやり取り、中間振り返り会等を通じて学びや内省を深める。事後研修では、各々の活動の成果や学びを振り返り、活動報告を行う。

到達目標

1. ボランティアやサービスラーニングに関する基礎的事項について説明できる。
 2. 自分が行うボランティア活動の社会的背景や関連する問題について説明できる。
 3. ボランティア活動での学びを、その後どのように活かしていくか説明できる。
 4. 自分がどのように地域や社会に参加・貢献していきたいか説明できる。
- * そのほか、各自が設定した具体的な目標の達成に向けて、内省や自己評価をしながら自律的・主体的に活動を進めていくことが期待される。

授業計画

- 第1回 事前研修1（ガイダンス、自己紹介／関係づくり、ボランティア／サービスラーニングとは何か）
 第2回 事前研修2（活動の背景や関連する問題の調査）
 第3回 事前研修3（活動の背景や活動を通して学びたいことを発表する）
 第4回 事前研修4（ボランティア参加にあたっての心構え、手続きなど）
 第5回～第8回 ボランティア活動の実施（前半） * 活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第9回 中間振り返り会
 第10回～第12回 ボランティア活動の実施（後半） * 活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第13回 事後研修1（活動の振り返り）
 第14回 事後研修2（活動報告の準備）
 第15回 まとめと総括

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

ボランティア活動前は、事前研修の内容に沿って、活動に関する調査や予復習等の課題を課す（計16時間）。ボランティア活動中は、活動の準備や、活動日誌の記入を通じた振り返りに取り組む。ボランティア活動後は、活動報告の発表準備やまとめのレポートの作成を課す（計12時間）。

課題に対するフィードバックの方法

ボランティアの計画段階から実施中の報告、事後レポート等、対面指導やその他個別指導を中心に行います。事前学習、事後学習もレポートだけでなく、自らの言葉でしっかりと評価できるよう心がけて下さい。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前研修・事後研修等での課題や発表(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	50	ボランティア活動への取り組み状況(30)、活動日誌(20)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	口頭試問(15)、総括レポート(15)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。適宜プリントや資料等を提示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・授業開始に先立ち、説明会を実施する(4月後半を予定)。履修希望者は必ず参加すること。実施方法(対面／遠隔)や日時・場所・参加方法等については、UNIPAの掲示等を確認すること。
- ・一定の責任感をもって参加することが求められる。活動はもちろん、事前研修・事後研修等においても、無断欠席をした場合や、受講態度が著しく不適切な場合は、単位を認めないことがある。
- ・学外での活動は、授業内で示す所定の手続きを行った場合のみ認定されるため、必ず事前の承認手続きが必要となる。
- ・質問や相談があれば、担当教員宛にメールで連絡するか、研究室に来室すること。
横山 誠(m-yoko@oiu.jp) 研究室:1号館523教室
加藤 淳一(j-kato@oiu.jp) 研究室:4号館517号室

授業コード	10403901	授業形態	演習・実習	実務家教員	—
授業科目名	サービスラーニングⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	3年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、地域・社会貢献活動（ボランティア活動＝サービス）での経験と、関連した学習（ラーニング）を通して、視野を広げ、学びを深めることを目指す授業であり、事前研修・ボランティア活動・事後研修から構成される。事前研修では、ボランティアに関する基礎的理解や心構えの確認に加え、各自が参加する活動の背景や関連する問題について調べ、理解を深める。その後、各自で一定時間以上のボランティア活動を実施するとともに、日誌の記入や担当教員とのやり取り、中間振り返り会等を通じて学びや内省を深める。事後研修では、各々の活動の成果や学びを振り返り、活動報告を行う。

到達目標

1. ボランティアやサービスラーニングに関する基礎的事項について説明できる。
 2. 自分が行うボランティア活動の社会的背景や関連する問題について説明できる。
 3. ボランティア活動での学びを、その後どのように活かしていくか説明できる。
 4. 自分がどのように地域や社会に参加・貢献していきたいか説明できる。
 5. ボランティア活動の際、運営者側の視点を持って、活動全体をマネジメントすることができる。
- * そのほか、各自が設定した具体的な目標の達成に向けて、内省や自己評価をしながら自律的・主体的に活動を進めていくことが期待される。

授業計画

- 第1回 事前研修1（ガイダンス、自己紹介／関係づくり、ボランティア／サービスラーニングとは何か）
 第2回 事前研修2（活動の背景や関連する問題の調査）
 第3回 事前研修3（活動の背景や活動を通して学びたいことを発表する）
 第4回 事前研修4（ボランティア参加にあたっての心構え、手続きなど）
 第5回～第8回 ボランティア活動の実施（前半） * 活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第9回 中間振り返り会
 第10回～第12回 ボランティア活動の実施（後半） * 活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第13回 事後研修1（活動の振り返り）
 第14回 事後研修2（活動報告の準備）
 第15回 まとめと総括

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

ボランティア活動前は、事前研修の内容に沿って、活動に関する調査や予復習等の課題を課す（計16時間）。ボランティア活動中は、活動の準備や、活動日誌の記入を通じた振り返りに取り組む。ボランティア活動後は、活動報告の発表準備やまとめのレポートの作成を課す（計12時間）。

課題に対するフィードバックの方法

ボランティアの計画段階から実施中の報告、事後レポート等、対面指導やその他個別指導を中心に行います。事前学習、事後学習もレポートだけでなく、自らの言葉でしっかりと評価できるよう心がけて下さい。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前研修・事後研修等での課題や発表(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	50	ボランティア活動への取り組み状況(30)、活動日誌(20)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	口頭試問(15)、総括レポート(15)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト

テキストを使用しない。適宜プリントや資料等を提示する。

参考書	授業内で適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始に先立ち、説明会を実施する(4月後半を予定)。履修希望者は必ず参加すること。実施方法(対面/遠隔)や日時・場所・参加方法等については、UNIPAの掲示等を確認すること。 ・一定の責任感をもって参加することが求められる。活動はもちろん、事前研修・事後研修等においても、無断欠席をした場合や、受講態度が著しく不適切な場合は、単位を認めないことがある。 ・学外での活動は、授業内で示す所定の手続きを行った場合のみ認定されるため、必ず事前の承認手続きが必要となる。 ・質問や相談があれば、担当教員宛にメールで連絡するか、研究室に来室すること。 横山 誠(m-yoko@oiu.jp) 研究室:1号館523教室 加藤 淳一(j-kato@oiu.jp) 研究室:4号館517号室

授業コード	10404103	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインA [対面]				
シラバス執筆(全員)	柴崙 雅子				
シラバス執筆(主)	柴崙 雅子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業後の進路就職に向け、自律的にキャリアを描く力を養うことを目的とする。キャリア形成科目の基礎となる本授業では、広く仕事の世界についての理解を深め、キャリアを考えるための基礎知識の獲得を目指す。また、そこに向かう自分自身についての理解を深め、仕事の世界と自分をつなげるために必要な視点を養う。

到達目標

- (1) 社会人として知っておくべき仕事の世界についての基礎的事項を説明することができる
- (2) キャリアについての自身の考えを言語化することができる
- (3) キャリアを見据えた学生生活を実践することができる

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	大学生のキャリア
第3回	学生生活とキャリア
第4回	仕事とお金
第5回	職業の世界
第6回	様々な働き方(1)
第7回	様々な働き方(2)
第8回	様々な働き方(3)
第9回	職業調べ
第10回	ライフキャリア
第11回	個人特性とキャリア
第12回	学びとキャリア
第13回	就職活動
第14回	ワークルール
第15回	まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業資料やワークシート、ミニレポートの見直しなど毎回4時間の事前事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は、適宜必要に応じてコメント・授業内での解説などでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席5回以上は「K」評価とする。
- ・ 「配慮すべき理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	毎回のミニレポート、ワークの内容(75%) 授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等を評価(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	全授業終了後に実施する期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は必修科目である。

授業コード	10404105	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインA [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業後の進路就職に向け、自律的にキャリアを描く力を養うことを目的とする。キャリア形成科目の基礎となる本授業では、広く仕事の世界についての理解を深め、キャリアを考えるための基礎知識の獲得を目指す。また、そこに向かう自分自身についての理解を深め、仕事の世界と自分をつなげるために必要な視点を養う。

到達目標

- (1) 社会人として知っておくべき仕事の世界についての基礎的事項を説明することができる
- (2) キャリアについての自身の考えを言語化することができる
- (3) キャリアを見据えた学生生活を実践することができる

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	大学生のキャリア
第3回	学生生活とキャリア
第4回	仕事とお金
第5回	職業の世界
第6回	様々な働き方(1)
第7回	様々な働き方(2)
第8回	様々な働き方(3)
第9回	職業調べ
第10回	ライフキャリア
第11回	個人特性とキャリア
第12回	学びとキャリア
第13回	就職活動
第14回	ワークルール
第15回	まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業資料やワークシート、ミニレポートの見直しなど毎回4時間の事前事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は、適宜必要に応じてコメント・授業内での解説などでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席5回以上は「K」評価とする。
- ・ 「配慮すべき理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	毎回のミニレポート、ワークの内容(75%) 授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等を評価(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	全授業終了後に実施する期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は必修科目である。

授業コード	10404106	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインA [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業後の進路就職に向け、自律的にキャリアを描く力を養うことを目的とする。キャリア形成科目の基礎となる本授業では、広く仕事の世界についての理解を深め、キャリアを考えるための基礎知識の獲得を目指す。また、そこに向かう自分自身についての理解を深め、仕事の世界と自分をつなげるために必要な視点を養う。

到達目標

- (1) 社会人として知っておくべき仕事の世界についての基礎的事項を説明することができる
- (2) キャリアについての自身の考えを言語化することができる
- (3) キャリアを見据えた学生生活を実践することができる

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	大学生のキャリア
第3回	学生生活とキャリア
第4回	仕事とお金
第5回	職業の世界
第6回	様々な働き方(1)
第7回	様々な働き方(2)
第8回	様々な働き方(3)
第9回	職業調べ
第10回	ライフキャリア
第11回	個人特性とキャリア
第12回	学びとキャリア
第13回	就職活動
第14回	ワークルール
第15回	まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業資料やワークシート、ミニレポートの見直しなど毎回4時間の事前事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は、適宜必要に応じてコメント・授業内での解説などでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席5回以上は「K」評価とする。
- ・ 「配慮すべき理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	毎回のミニレポート、ワークの内容(75%) 授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等を評価(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	全授業終了後に実施する期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は必修科目である。

授業コード	10404203	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインB [対面]				
シラバス執筆(全員)	柴崎 雅子				
シラバス執筆(主)	柴崎 雅子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目では、社会・職業理解、自己理解を深め、自らのキャリアの価値基準を形づくことで、自分が目指したいキャリアのあり方について検討していく。このことを通じて、自分が目指したいキャリアに実現するために何が必要なかに気づき、自らがとるべき行動について認識し、必要な行動計画を立てる準備をする。授業は、講義による基礎的項目の解説、資料学習による情報探索と収集、授業課題による学びの整理・考察・自己表現などで構成する。

到達目標

1. 産業や職業、就職環境に関する基礎的事項を説明できる。
2. キャリアプランニングに必要な社会・職業理解、自己理解を行い、将来を展望することができる。
3. キャリアプランニングについての気づきや基礎的知識を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 業種・業界、企業、職種
- 第3回 雇用制度
- 第4回 教育・研修、人事評価制度
- 第5回 ワーク・ライフ・バランス
- 第6回 人生100年時代のキャリア
- 第7回 キャリアとダイバーシティ
- 第8回 募集要項の見方
- 第9回 社会で必要とされる力
- 第10回 就職活動の軸
- 第11回 性格・能力・社会人基礎力
- 第12回 自己PR文章の作成
- 第13回 新卒採用の面接
- 第14回 インターンシップ、就職活動の実態
- 第15回 今後のキャリアデザインに向けて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解、自己理解を深め、キャリアプランニングの基礎的知識を獲得するために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜コメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席5回以上はK評価とする。
- ・ 「配慮すべき理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	・毎回のミニレポート・ワークの内容(75%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は必修科目である。キャリアデザインAを履修していることが望ましい。

授業コード	10404205	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインB [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目では、社会・職業理解、自己理解を深め、自らのキャリアの価値基準を形づくことで、自分が目指したいキャリアのあり方について検討していく。このことを通じて、自分が目指したいキャリアに実現するために何が必要なのかに気づき、自らがとるべき行動について認識し、必要な行動計画を立てる準備をする。授業は、講義による基礎的項目の解説、資料学習による情報探索と収集、授業課題による学びの整理・考察・自己表現などで構成する。

到達目標

1. 産業や職業、就職環境に関する基礎的事項を説明できる。
2. キャリアプランニングに必要な社会・職業理解、自己理解を行い、将来を展望することができる。
3. キャリアプランニングについての気づきや基礎的知識を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 業種・業界、企業、職種
- 第3回 雇用制度
- 第4回 教育・研修、人事評価制度
- 第5回 ワーク・ライフ・バランス
- 第6回 人生100年時代のキャリア
- 第7回 キャリアとダイバーシティ
- 第8回 募集要項の見方
- 第9回 社会で必要とされる力
- 第10回 就職活動の軸
- 第11回 性格・能力・社会人基礎力
- 第12回 自己PR文章の作成
- 第13回 新卒採用の面接
- 第14回 インターンシップ、就職活動の実態
- 第15回 今後のキャリアデザインに向けて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解、自己理解を深め、キャリアプランニングの基礎的知識を獲得するために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜コメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席5回以上はK評価とする。
- ・ 「配慮すべき理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	・毎回のミニレポート・ワークの内容(75%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は必修科目である。キャリアデザインAを履修していることが望ましい。

授業コード	10404206	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインB [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目では、社会・職業理解、自己理解を深め、自らのキャリアの価値基準を形づくることで、自分が目指したいキャリアのあり方について検討していく。このことを通じて、自分が目指したいキャリアに実現するために何が 필요한のかに気づき、自らがとるべき行動について認識し、必要な行動計画を立てる準備をする。授業は、講義による基礎的項目の解説、資料学習による情報探索と収集、授業課題による学びの整理・考察・自己表現などで構成する。

到達目標

1. 産業や職業、就職環境に関する基礎的事項を説明できる。
2. キャリアプランニングに必要な社会・職業理解、自己理解を行い、将来を展望することができる。
3. キャリアプランニングについての気づきや基礎的知識を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 業種・業界、企業、職種
- 第3回 雇用制度
- 第4回 教育・研修、人事評価制度
- 第5回 ワーク・ライフ・バランス
- 第6回 人生100年時代のキャリア
- 第7回 キャリアとダイバーシティ
- 第8回 募集要項の見方
- 第9回 社会で必要とされる力
- 第10回 就職活動の軸
- 第11回 性格・能力・社会人基礎力
- 第12回 自己PR文章の作成
- 第13回 新卒採用の面接
- 第14回 インターンシップ、就職活動の実態
- 第15回 今後のキャリアデザインに向けて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解、自己理解を深め、キャリアプランニングの基礎的知識を獲得するために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜コメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席5回以上はK評価とする。
- ・ 「配慮すべき理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	・毎回のミニレポート・ワークの内容(75%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は必修科目である。キャリアデザインAを履修していることが望ましい。

授業コード	10404303	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインC [対面]				
シラバス執筆(全員)	九里 いずみ				
シラバス執筆(主)	九里 いずみ				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。本科目は4月の第1回目の授業以降、隔週で実施し、計8回の授業構成とする。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指すキャリアを実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 インターンシップ
- 第3回 業界企業研究
- 第4回 就職活動で求められるマナー
- 第5回 エントリーシート作成①
- 第6回 エントリーシート作成②
- 第7回 新卒採用の選考（オンライン面接）
- 第8回 今後の行動計画

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解と自己理解を深めるために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席3回以上はK評価とする。
- ・ 「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	・毎回のミニレポート・ワークの内容(80%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	初回の授業で配布する「就活ガイドブック」を使用する。ほか適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザインA・Bを履修していることが望ましい。

授業コード	10404304	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインC [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。本科目は4月の第1回目の授業以降、隔週で実施し、計8回の授業構成とする。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指すキャリアを実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 インターンシップ
- 第3回 業界企業研究
- 第4回 就職活動で求められるマナー
- 第5回 エントリーシート作成①
- 第6回 エントリーシート作成②
- 第7回 新卒採用の選考（オンライン面接）
- 第8回 今後の行動計画

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解と自己理解を深めるために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席3回以上はK評価とする。
- ・ 「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	・毎回のミニレポート・ワークの内容(80%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	初回の授業で配布する「就活ガイドブック」を使用する。ほか適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザインA・Bを履修していることが望ましい。

授業コード	10404305	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインC [対面]				
シラバス執筆(全員)	高木 知香				
シラバス執筆(主)	高木 知香				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。本科目は4月の第1回目の授業以降、隔週で実施し、計8回の授業構成とする。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指すキャリアを実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 インターンシップ
- 第3回 業界企業研究
- 第4回 就職活動で求められるマナー
- 第5回 エントリーシート作成①
- 第6回 エントリーシート作成②
- 第7回 新卒採用の選考（オンライン面接）
- 第8回 今後の行動計画

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解と自己理解を深めるために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席3回以上はK評価とする。
- ・ 「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	・毎回のミニレポート・ワークの内容(80%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	初回の授業で配布する「就活ガイドブック」を使用する。ほか適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザインA・Bを履修していることが望ましい。

授業コード	10404306	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインC [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。本科目は4月の第1回目の授業以降、隔週で実施し、計8回の授業構成とする。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、インターンシップを含む実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指すキャリアを実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画を言葉や文章で表現することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 インターンシップ
- 第3回 業界企業研究
- 第4回 就職活動で求められるマナー
- 第5回 エントリーシート作成①
- 第6回 エントリーシート作成②
- 第7回 新卒採用の選考（オンライン面接）
- 第8回 今後の行動計画

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解と自己理解を深めるために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 事由なく欠席3回以上はK評価とする。
- ・ 「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	・毎回のミニレポート・ワークの内容(80%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	初回の授業で配布する「就活ガイドブック」を使用する。ほか適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザインA・Bを履修していることが望ましい。

授業コード	10404403	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインD [対面]				
シラバス執筆(全員)	香川 愁吾				
シラバス執筆(主)	香川 愁吾				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、採用選考に向けた実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。本科目は9月の第1回目の授業以降、隔週で実施し、計7回の授業構成とする。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指すキャリアを実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画に基づき、行動に移すことができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 新卒採用の選考（対面面接）
- 第3回 先輩の就職活動
- 第4回 インターンシップ
- 第5回 筆記試験
- 第6回 履歴書・エントリーシート作成
- 第7回 今後の行動計画

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解と自己理解を深めるために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 理由なく欠席3回以上はK評価とする。
- ・ 「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回のミニレポート・ワークの内容(70%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	キャリアデザインCの初回の授業で配布する「就活ガイドブック」を使用。ほか適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザインA・B・Cを履修していることが望ましい。

授業コード	10404404	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインD [対面]				
シラバス執筆(全員)	山本 幸一				
シラバス執筆(主)	山本 幸一				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、採用選考に向けた実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。本科目は9月の第1回目の授業以降、隔週で実施し、計7回の授業構成とする。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指すキャリアを実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画に基づき、行動に移すことができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 新卒採用の選考（対面面接）
- 第3回 先輩の就職活動
- 第4回 インターンシップ
- 第5回 筆記試験
- 第6回 履歴書・エントリーシート作成
- 第7回 今後の行動計画

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解と自己理解を深めるために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 理由なく欠席3回以上はK評価とする。
- ・ 「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回のミニレポート・ワークの内容(70%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	キャリアデザインCの初回の授業で配布する「就活ガイドブック」を使用。ほか適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザインA・B・Cを履修していることが望ましい。

授業コード	10404405	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	キャリアデザインD [対面]				
シラバス執筆(全員)	高木 知香				
シラバス執筆(主)	高木 知香				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、自身の進路・就職を具体的に考え、キャリアプランニングに取り組み、社会的・職業的自立に向けた準備を行うことを目的とする。具体的には、採用選考に向けた実践的な活動内容を学び、今後の就職活動に円滑に進めることを目指す。本科目は9月の第1回目の授業以降、隔週で実施し、計7回の授業構成とする。

到達目標

1. 雇用環境や就職活動に関する基礎的知識、実践的な活動内容を説明できる。
2. 目指すキャリアを実現するために必要な事柄を理解し、その準備に着手することができる。
3. 社会的・職業的自立に向けての気づきや行動計画に基づき、行動に移すことができる。

授業計画

- | | |
|-----|----------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 新卒採用の選考（対面面接） |
| 第3回 | 先輩の就職活動 |
| 第4回 | インターンシップ |
| 第5回 | 筆記試験 |
| 第6回 | 履歴書・エントリーシート作成 |
| 第7回 | 今後の行動計画 |

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

社会・職業理解と自己理解を深めるために、授業で扱った資料やワーク、ミニレポートを見直すことで、毎回約4時間の学修が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートならびに提出された課題は適宜評価やコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 理由なく欠席3回以上はK評価とする。
- ・ 「理由のある欠席」の場合、その回の授業に関する特別課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回のミニレポート・ワークの内容(70%) ・授業に関する発言・質問、受講態度・マナー等(10%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	キャリアデザインCの初回の授業で配布する「就活ガイドブック」を使用。ほか適宜プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で指示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目は必修科目である。キャリアデザインA・B・Cを履修していることが望ましい。

授業コード	13048301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人間関係論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人は社会的存在といわれるように、われわれは社会生活を営むうえで何らかの形で他者とのかかわりを築く必要がある。一方で、人と人とのかかわりのあり方は、いつでもどこでも不変であるわけではなく、時代や文化や社会状況によってめまぐるしく変化するものである。本講義では、そうした他者との共生の様態に焦点をあて、自己・家族・友人・職場・地域などにおける現代的な変容と問題について社会学的に概説する。

到達目標

1. 現代の共生（自己と他者のかかわり）における問題を理解できる。
2. 自分の立場や視点から身近な他者とのかかわりを実感し、捉えなおすことができる。
3. より多様な人と人とのかかわりかたの可能性を考え、説明できる。

授業計画

第1回	イントロダクション-共生社会の現在
第2回	時代背景をおさえる-社会と意識の変化 本授業の時代設定を押さえたうえで、意識調査から対人関係観の変化と現代的問題を解説する
第3回	自己と他者 社会学における自己と他者の捉え方を概観し、自己と向き合うための対策を解説する
第4回	新たな家族-非血縁のつながり ポスト平成における家族関係の変化と問題を理解し、家族を再考する必要性を解説する
第5回	純粋化する友人関係 ギデンスの「純粋な関係性」をもとに、現代の友人とのかかわりの性質と変容について解説する
第6回	高齢者の孤立 無縁社会の現状を把握し、超高齢社会における問題について解説する
第7回	匿名的なかかわり メディアの発達が発成する匿名性の問題を信頼関係という観点から解説する
第8回	単身化とソロ行動 ソロ活動の流行を概観し、現代社会における「一人でいること」の意味を考察する
第9回	ボランティアとコミュニティ ボランティア活動への参与や支援行為と日本のコミュニティのかかわりを解説する
第10回	コミュニケーション能力を問い直す 現代の能力言説の内容を踏まえ、個人に責任を期す社会のあり方と問題を解説する
第11回	サードプレイスとは何か サードプレイスの概念や実践を概観し、サードプレイスのもつ可能性を解説する
第12回	新たな居場所実践-地域の居場所 子ども食堂・地域カフェ・学校内居場所などの具体的なサードプレイス実践から居場所の重要性を解説する
第13回	一時的居場所のもつ現代的意義 他者とのかかわりを生み出す居場所論を概観し、一時的・流動的な居場所の在り方からそれらを再評価する
第14回	強いつながりからゆるやかなつながりへ 後期近代における人と人とのかかわりの変化とこれからの個人と社会の関係を解説する
第15回	まとめ-これからの社会を生きるために

受講生の理解度や関心、進捗状況によって内容を変更することもありうる

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各テーマについて自身の見解を用意し、情報を収集する（各1.5時間）
事後学習：講義後、自身の見解を振り返り、より多角的な視点から再評価する（各2.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

授業冒頭にコメントペーパーをフィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	40	コメントペーパー(40)	1, 2
授業外での評価	20	探索課題(20)	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末レポート(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	社会学やコミュニケーションに関連している科目を受講していることが望ましいが、身近な人と人とのかわりに関して問題関心をもって授業に臨むことが何より重要である。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13036201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	コミュニケーション論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太、森下 雄輔、上原 健太郎、飯田 香織、青野 明子、有田 亘、戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

心理コミュニケーション学科の学びは多彩である。したがって、学科の専任教員の専門分野も多様である。たとえば、心理の領域であっても、社会心理学もあれば、臨床心理学もある。また、コミュニケーションの領域であっても、社会学、ファッションと同様なことが言える。しかし、まずは、基本的に、コミュニケーションとは何かということを理解することが重要である。そこで、各教員が各自の専門領域とコミュニケーションを融合させたテーマを設定し、わかりやすく解説することがこの科目の目的である。授業形態は、オムニバスである（主として学科の専任教員が順番に講義を担当する）。

到達目標

1. コミュニケーションの概念について考えることができる
2. 多様なコミュニケーションのあり方を説明できる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション（本授業の趣旨、成績評価方法などの説明）	【尾添】
【第2回】コミュニケーションとは何か	【尾添】
【第3回】一時的協力への扉	【尾添】
【第4回】人と人とのコミュニケーションの扉	【青野】
【第5回】人と動物とのコミュニケーションの扉	【戸口】
【第6回】対等で親密なコミュニケーションへの扉	【西岡】
【第7回】見えない世界への扉 - 四国遍路を歩くということ	【林】
【第8回】「特別な場所」への扉 - 路上生活者と地域社会のコミュニケーション	【上原】
【第9回】自分も相手も大切にしたいコミュニケーションの扉 - 一人に気持ちを伝える技術	【飯田】
【第10回】集団でのコミュニケーションの扉	【森下】
【第11回】コミュニケーション社会学への橋と扉	【有田】
【第12回】自由と孤独の扉	【尾添】
【第13回】競争社会への扉	【尾添】
【第14回】コミュニケーションとコミュニティへの扉	【尾添】
【第15回】まとめ	【尾添】

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、毎回、およそ1時間以上、シラバスを確認し、テキストを熟読する。また、テーマにかかわるワードについて下調べをする。
事後学習として、毎回、およそ3時間以上、テキストに記載されている参考文献や授業で扱われた内容に関する本を積極的に読む。

課題に対するフィードバックの方法

授業担当回の各教員別に個別開示（開示方法は、各教員によって異なるので授業中に要確認）。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	90	毎回授業でのレポート課題(90)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート(10)	1
その他	0		

テキスト 有田亘編、2019、『心理コミュニケーションの扉』大阪国際大学人間科学部心理コミュニケーション学科（初回授業時に受講者に配布）

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・1回生は必修科目である。・多様なコミュニケーションを理解するために、必ず、毎回出席すること。

授業コード	13099301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	フィールドワーク入門 [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘、上原 健太郎、尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フィールドワークは、現場での調査からデータを収集し、社会的事実を記述・分析するための方法である。フィールドワーク入門では、社会学におけるその基本概念や技法についての基礎的な知識を学ぶ。授業形態は講義である。必要に応じてアクティブラーニングを活用したフィールドワーク練習を行う。

到達目標

1. フィールドワーカーの視点を身につけ、それを実践することができる。
2. 質的調査・分析の初歩を実践することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要と受講の心構えについて）（尾添、上原、有田）
 第2回 フィールドに入る、とは？（上原）
 第3回 フィールドノートを作成する（上原）
 第4回 フィールドノートを読む（上原）
 第5回 フィールドノート作成の留意点（上原）
 第6回 資料調査の初歩(1)「まとめサイト」を例に（有田）
 第7回 資料調査の初歩(2) 出典をたどる（有田）
 第8回 資料調査の初歩(3) 要約する（有田）
 第9回 資料調査の初歩(4) 整理・再構成する（有田）
 第10回 インタビュー調査とは何か（尾添）
 第11回 インタビュー調査前に行うこと（尾添）
 第12回 インタビューを実施するうえでの知識（尾添）
 第13回 インタビュー調査後の作業—トランスクリプト（尾添）
 第14回 調査倫理について（尾添）
 第15回 まとめ（尾添、上原、有田）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関する参考書や資料を熟読したり、テーマにかかわるワードについて下調べをすることで、問題関心を明確化しておく。
 事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返り、日常生活と関連付けて理解を深めるとともに、それらの成果をレポート課題に反映させる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOJUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	教員ごとに授業内で指示する作業への取り組み・成果 (10×3)	1, 2
授業外での評価	60	資料調査レポート(20)、観察調査レポート(20)、インタビュー調査レポート(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	コメントペーパー(10)	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連

フィールドワーク I・II と合わせて履修することが望ましい。
2年次以降のアクション分野科目の履修者選抜において、本科目の成績が考慮されることがある。

授業コード	13077201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	ファッションコーディネートI [対面]				
シラバス執筆(全員)	西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	西岡 敦子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

講義科目名の「ファッション」という言葉の示す範疇は限りなく広いが、本講義では「衣服」に限定し、ノンバーバルコミュニケーションの一つとして捉えることとする。また、「コーディネート」という言葉は、本来、「調整する、調和させる」という意味であるが、衣服（モノ）が成り立つ全プロセスとし、広く扱うこととする。

まず、服を着用する人体、アイテムやシルエットについて、次に、洋服の素材、柄、構成へと進み、二次元パターンと三次元形状との関係性や、布物性との関係性を解説する。また、和服の構成やその着装方法にもふれ、最後に、サイズシステムと品質表示についても解説する。

衣服全体を知ることによって、TPOに応じた適切な衣服を選択することや、衣服管理にも役立つ。

授業は、基本的に講義形式で行うが、理解を助けるために簡単な実習を多く取り入れるとともに、それらすべ

到達目標

1. 衣服全般に関する基礎的事項を広範囲にわたって説明できる。
2. 衣服をノンバーバル・コミュニケーションとして捉えることができる。
3. TPOに応じた適切な衣服選択や衣服管理が行える。

授業計画

- 【第1回】ファッションとは何か？（デザインとアート、衣服デザインの構成要素）
- 【第2回】衣服を着る人体（人体の運動機構と、形態、体型（人体の形態、構成比率課題の説明含む））
- 【第3回】服装デザイン画の基礎（プロポーション（デザイン画実習含む））
- 【第4回】衣服の形態（アイテム、シルエット、ディテール（衣服の形態分類の課題説明含む））
- 【第5回】衣服の材料（衣服材料の性質と織物の構成（織り組織の模型作成実習含む））
- 【第6回】衣服の柄（柄の種類 日本伝統文様（文様製図実習含む））
- 【第7回】洋服の原型（女性上衣原型製図（製図実習含む））
- 【第8回】デザインの展開（下衣）（スカート原型からのデザイン展開（製図展開実習含む））
- 【第9回】デザインの展開（上衣）（女性上衣原型からのデザイン展開（製図展開実習含む））
- 【第10回】デザインと素材（デザインへの素材物性の影響）
- 【第11回】和服の種類と着装（伝統きものからニューきものまで（ビデオ視聴含む）（和服のたたみ方実習含む））
- 【第12回】和服の構成（和服の構成（紙素材のひな形作成実習含む））
- 【第13回】衣服のサイズ（JISサイズシステム）
- 【第14回】衣服の品質管理（品質表示）
- 【第15回】まとめ（総復習）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】①事前学修課題：シラバスを熟読し、気になる事項については、本やインターネット等で調べておく。
②事後学修課題：本時の内容を理解すると共に、本やインターネット等を利用して理解を深める。
(以降、同様)
課題プリント（次回、持参）
- 【第2回】①事前学修課題：人体の動き方や体型について観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅰ：「人体の形態、構成比率」授業中のサンプル値を自分の値に入れ替えて作成する。
- 【第3回】①事前学修課題：人体の構成比率について観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅱ：「デザイン画」 授業中に仕上がらなかった分は宿題（以降、同様）
- 【第4回】①事前学修課題：様々な衣服を観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅲ：「衣服の形態分類」
授業中に指示された分類に合致する着想された画像を添付する。
- 【第5回】①事前学修課題：織物の組織を観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅳ：「織り組織の模型」
- 【第6回】①事前学修課題：衣服の柄を観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅴ：「日本の伝統文様の製図」
- 【第7回】①事前学修課題：衣服の構成、特に女性上衣の構造を観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅵ：「女性上衣原型」（製図）
- 【第8回】①事前学修課題：衣服の構造、特に女性下衣の構造、様々な形態を観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅶ：「スカート原型からのデザイン展開」（製図）
- 【第9回】①事前学修課題：女性上衣の様々な形態を観察しておく。
②事後学修課題：課題Ⅷ：「女性上衣原型からのデザイン展開」（製図）
- 【第10回】①事前学修課題：多くの衣服素材に触れておく。

- ②事後学修課題：「衣服のデザイン展開」の復習しておく。
- 【第11回】①事前学修課題：和服と洋服の違いを観察しておく。
②事後学修課題：和服のたたみ方の実習の復習
- 【第12回】①事前学修課題：和服の構成について観察しておく。
②事後学修課題：課題IX：「和服の構成のひな形」
- 【第13回】①事前学修課題：衣服に取り付けられているサイズ表示を確認しておく。
②事後学修課題：課題X：「サイズシステム」授業中のサンプル値を自分の値に入れ替えて作成する。
- 【第14回】①事前学修課題：衣服に取り付けられている品質表示マークを確認しておく。
②事後学修課題：課題XI：「新しい品質表示」手持ちの衣服に付いている品質表示画像を添付し、
新しい品質表示に置き換える。または、新表示を説明する。
- 【第15回】①事前学修課題：前回までのすべての課題の提出を確認しておく。
②事後学修課題：本やインターネット等を利用して、さらに理解や知識を深める。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題にコメントを記して返却する。試験に関しては、希望者に達成度を口頭開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・公欠を除き、3回をこえて欠席した場合は「K」評価となる。また、3回の遅刻で1回の欠席と換算する。
- ・授業中に指導するすべての実習課題の提出、および、定期試験が評価の前提である。よって、すべての実習課題の提出と定期試験の受験がない場合も「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業中に指導するすべての実習課題等の提出を前提とする、実習課題の達成度	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	30	筆記試験の達成度	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト プリントを配付する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・ほぼ毎回、実習課題があるので、出席をしなければ課題内容がわからず、課題の提出ができなくなるので、必ず出席すること。
- ・はさみ、のり、セロテープ、定規、カッターナイフ(デザインナイフ)など基本的な工作用具が必要である。
- ・指示に従って忘れずに持参すること。
- ・課題が多いように感じられるかもしれないが、授業内容の確認レベルである。
- ・欠席した場合は、早急に連絡を取り、5-811研究室を訪問する事。

授業コード	13083501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	現代社会論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本学科の社会学関連講義科目としては最後に位置づけられる講義である。そこで、これまで社会学系科目で折に触れ論じられてきた論点や思考の重要なものを再検討し、現代社会の様々な現象の理解に応用することを試みる。特に模倣という社会的プロセスと、人間心理についての核心的(コア)な知見を掘り下げる予定である。

到達目標

1. 文献参照の規則や、文章作法、その他学問的ルールに則った形式の答案を作成できる。
2. 授業内で学習した社会的知識を正しく説明することができる。
3. 学術的ルールに則った形式と正しい知識に基づいて、合理的根拠を伴った社会的意見を述べるができる。

授業計画

※受講に先立ち重要事項を説明するオリエンテーションを実施するので、指示に従い履修登録すること。

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 デュルケム 自殺論(1)個人的動機への批判・社会現象としての自殺
 第3回 デュルケム 自殺論(2)社会実在論
 第4回 タルド 模倣の社会学(1)無意識的模倣
 第5回 タルド 模倣の社会学(2)反対模倣
 第6回 デュルケムタルド論争とメディア論的なタルド再評価
 第7回 前半まとめ
 第8回 欲望/欲求
 第9回 消費社会論
 第10回 ジラール 欲望の三角形(1)ロマンティックの虚偽とロマネスクの真実
 第11回 ジラール 欲望の三角形(2)モデル=ライバル
 第12回 フロイトの社会学(1)無意識
 第13回 フロイトの社会学(2)抑圧
 第14回 「心理学化」と「行為者の視点」
 第15回 後半まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関するテキストや資料を熟読し、予備知識を得ておくこと。
 事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返って理解を深めるとともに、必要に応じて意見交換を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内レポート課題、および意見交換課題への取り組み・成果(50)	1, 2, 3
授業外での評価	30	事前オリエンテーションにおける重要事項の理解(10) 中間レポート課題(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート課題(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

いろいろあるコミュニケーションの社会学Ver.3.0 / 有田亘・松井広志編/北樹出版 ISBN978-4-

テキスト	7793-0749-2 2,000円＋税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	コア科目の性質上、私の担当する他の科目よりも難易度が高く設定されているのを理解し、納得の上で受講すること。

授業コード	13080501	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	青年心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

青年期特有の心の発達について、心理学的側面から概説する。青年期に起こる様々な身体的変化や認知の発達やそれに伴う心理的影響、青年期の親子関係、友人関係、青年期の心理社会的発達課題であるアイデンティティの確立などについて講義による理論的な理解を深めてもらうとともに、ワークなども通して自己理解を進めることも目的とする。授業では、担当教員が長年にわたり現場で心理支援を行ってきた経験をもとに、実務家教員として、理論的理解に加えて実践や事例を交えて、できるだけわかりやすく講義を展開する。

到達目標

- 1、青年期に起こる身体的な発達、認知発達などについて理解し、説明することができる
- 2、青年期特有の対人関係について理解し、説明することができる
- 3、青年期の発達や心理について学んだことを、自分自身の生活に応用し、考えることができる

授業計画

- 【第1回】 生涯発達
内容：人は生涯発達を続けるという生涯発達の考え方における、各発達段階の発達課題について学ぶ。
- 【第2回】 生涯発達の中の青年期
内容：生涯発達全体の中で、青年期の特徴について学ぶ。
- 【第3回】 青年期の身体的変化と心理的影響
内容：青年期に起こる身体的変化とそれに伴う心理的影響について学ぶ。
- 【第4回】 青年期における認知と感情の発達
内容：青年期における認知発達とそれに伴う感情の発達、大学生の生活感情、ネガティブな感情、自己愛傾向などについて学ぶ。
- 【第5回】 自己意識の形成
内容：乳幼児期からの自己意識の発達と、現実の自己と理想自己の一致・不一致などについて学ぶ。
- 【第6回】 アイデンティティの発達
内容：自分が「自分自身だ」という実感を表す「アイデンティティ」の発達、アイデンティティの発達に影響する充実感、いろいろなアイデンティティのステータス（状態）について学び、自分自身のアイデンティティの現状についても考える。
- 【第7回】 自己理解 演習
内容：自分を表す20の文を作ったり、エゴグラムを実施したりして、自己理解を深める。
- 【第8回】 青年期の親子関係
内容：青年期の親子関係の特徴と、現代の特徴、親からの自立、親子のコミュニケーションなどについて学ぶ。
- 【第9回】 青年期の友人関係
内容：青年期の友人関係の特徴、友人グループの発達などについて学ぶ。
- 【第10回】 青年期の恋愛関係
内容：現代の青年期の恋愛関係の特徴、恋愛関係が青年に及ぼす影響、青年期における恋愛の発達の意義などについて学ぶ。
- 【第11回】 恋愛の心理
内容：心理学的理論に基づく恋愛の心理について学ぶ。心理学的理論に基づく簡単な心理テストも行う。
- 【第12回】 社会性の発達
内容：道徳性や社会的行動の発達、対人交渉能力の発達などについて学ぶ。
- 【第13回】 青年のキャリア発達
内容：人が生涯の中で様々な役割を果たしていくために、自分のもつ可能性と将来の選択肢について、どのようなことが影響しているかを学び、自分のキャリア形成のイメージ作りも行う。
- 【第14回】 青年期の社会不適応
内容：青年期に起こってくる社会的不適応（非行、いじめ、ひきこもり、自傷、自殺など）について学び、それらの支援について考える。
- 【第15回】 生きることの意味
内容：青年期の悩みと自己への問いを経て、「生きる」ということを考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位45時間の学習が必要です。毎回の事前学習として、関連する文献・資料を読んでおくこと（1.5時間）。そして事後学習として授業中に追記した資料を使って復習し、授業で習った概要について説明できる程度に理解を深めておくことが必要である（2.5時間）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の提出課題において、質問があった場合、次回授業冒頭で返答する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	第1回～第15回の授業毎の提出課題(各4点)を実施する(4×15=60)。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	1, 2, 3
その他	20	取り組み姿勢	1, 2, 3

テキスト テキストは使用しない

参考書 レクチャー青年心理学 高坂康雅など 風間書房

履修条件・他の科目との関連 この科目はコア科目(選択必修)の1つである。状況に応じて少し内容を修正する場合もある。

授業コード	13074401	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	臨床心理学概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師カリキュラム、心理学基礎科目の一科目である。臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の代表的な基礎理論を学ぶ。臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人を対象にする応用心理学の一分野である。精神医学が主に病的な人を対象とするのに対し、必ずしも病的とはいえない範囲までを対象として、広く人間の心理的適応・健康や発達、自己実現、心の安定を援助するための心理学の人間理解と方法を実践的・理論的に探究する分野である。公認心理師は「国民の心の健康の保持増進に寄与すること」を目的とした国家資格であり、本科目では専門職としての臨床心理学の技能、すなわちリサーチ技能と臨床技能のうち、臨床技能に必要な代表的な基礎理論について学ぶ。

担当教員が公認心理師・臨床心理士であり、実務家教員として多領域での経験をもとに、将来公認心理師の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

1. 臨床心理学の成り立ちを理解し、基本的な概念について説明できる
2. 臨床心理学の代表的な理論を理解する
3. アセスメントの理論と技法について理解し、概説できる
4. ケースフォーミュレーションと心理療法の理論について理解し、概説できる
5. 心理療法の折衷と技法選択、効果のエビデンスについて理解し、概説できる

授業計画

【第1回】

テーマ：授業の進め方と評価の方法・日本の臨床心理学

内容・方法：授業の進め方および評価の方法について解説する。

日本の臨床心理学の誕生と国家資格公認心理師の誕生について解説する。

【第2回】

テーマ：世界の臨床心理学

内容・方法：世界の臨床心理学の誕生と心理学的アセスメント・心理学的支援法の展開について解説する。

【第3回】

テーマ：臨床心理学の定義・理念・体系

内容・方法：臨床心理学の定義と基礎理念および体系について解説する。

【第4回】

テーマ：臨床心理学の体系的な基礎理論 ①精神分析的アプローチ

内容・方法：精神分析的アプローチの定義、歴史、病理論、治療論について解説する。

【第5回】

テーマ：分析心理学的アプローチ

内容・方法：分析心理学的アプローチの自己関係、コンプレックス、集合的無意識、象徴、個性化の過程について解説する。

【第6回】

テーマ：行動論・認知論的アプローチ

内容・方法：行動論・認知論的アプローチの定義、歴史、臨床理論、介入論について解説する。

【第7回】

テーマ：中間のまとめ

内容・方法：中間のまとめと到達度の確認

【第8回】

テーマ：ヒューマニスティック・アプローチ

内容・方法：ヒューマニスティック・アプローチの歴史、定義、パーソナリティ論、治療論について解説する。

【第9回】

テーマ：システミック・アプローチ

内容・方法：システミック・アプローチの定義、歴史、理論モデル、治療論について解説する。

【第10回】

テーマ：グループ・アプローチ

内容・方法：グループ・アプローチの定義、歴史、臨床理論、研究および意義と展開について解説する。

【第11回】

テーマ：コミュニティ・アプローチ

内容・方法：コミュニティ・アプローチの定義、歴史、諸理論、介入方法について解説する。

【第12回】

テーマ：ナラティブ・アプローチ

内容・方法：ナラティブ・アプローチの定義、意義、治療論、リサーチエビデンスについて解説する。

【第13回】

テーマ：非言語的アプローチ

内容・方法：非言語的アプローチの特徴、適用範囲とアセスメント、エビデンス、意義について解説する。

【第14回】

テーマ：統合的アプローチ

内容・方法：統合的アプローチの定義、歴史、病理論、アセスメントについて解説する。

【第15回】

テーマ：臨床心理学概論まとめ

内容・方法：授業全体のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の講義内容について、関連の図書等を読むなどの1.5時間の事前学習、および配布資料を復習するなどの2.5時間の事後学習が必要である。中間、最終回の到達度の確認については、それぞれ20時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でのリアクションレポートを、次回の授業の最初にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の提出課題と中間と最終回の到達度の確認の総合評価とする。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	各回のリアクションレポートの量(20)および質(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	授業外での学習をふまえた授業内中間到達度の確認(30)	1, 2, 3
定期試験	30	定期試験の点数(30)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト

『公認心理師の基礎と実践 3臨床心理学概論第2版』/野島一彦・岡村達也(編)/遠見書房/2400/

参考書

適宜、参考図書を紹介する。

履修条件・他の科目との関連

公認心理師カリキュラム科目は関連があるため、併せて受講することが望ましい。

授業コード	13080801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会・集団・家族心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。授業では、社会的存在としての人間の心と行動について、個人、対人、家族、集団、文化といった5つの側面から解説する。具体的には、社会的行動の基礎となる認知・感情・動機、他者や集団との関係における個人、家族の成立からその発達に関する理論や学説について講義する。

到達目標

1. 人の態度及び行動について説明できる。
2. 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。
3. 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について説明できる。

授業計画

第01回	社会・集団・家族の心理学
第02回	社会心理学の歴史的な実験
第03回	社会的自己①：自分自身を知る
第04回	社会的自己②：自分自身を見せる
第05回	社会的認知：他者と社会を知る
第06回	動機と感情：行動を起こすもの
第07回	説得と態度変容：態度と行動
第08回	対人行動：対人コミュニケーション
第09回	対人関係：対人魅力
第10回	攻撃と援助：助ける心、傷つける心
第11回	文化と社会化：文化的存在としての私
第12回	集団と個人：集団の中の私
第13回	健康と幸福：ストレスの理解
第14回	家族の心理学：夫婦と親子
第15回	まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき1.5時間ほどの事前学習および2.5時間ほどの事後学習が必要。事前学習の内容については1週前の授業で通達する。事後学習では、授業で取り上げた理論や学説について、専門書等でさらに理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業課題については、翌週の授業の冒頭でフィードバックを実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中の課題	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	70		1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	講義レジュメをClassroomに投稿する。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は公認心理師となるために大学で修めるべき科目である。

授業コード	13073601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための基礎科目である。心理学を幅広い領域から概観し、心の働きを理解するための基本的な知識を養成することを目的とする。
心理学とは、一般に人の「心」と呼ばれるものの働きを科学する学問である。人の心の働きを明らかにするため、心理学では目に見える「行動」を定量化し、数多くの研究を行うことで、多種多様な知見を得てきた。そして現在も心理学は様々な領域から、人の心の働きや仕組みについての理解が進められている。本科目ではそれらについての全般的に学修する。

到達目標

1. 心理学の基礎を理解し、他者にそれを説明できるようになる
2. 自己や他者、そして集団に関する基本的な考え方や知識を身につけ、自分自身や周囲の人々の心の働きや行動について「考える」力を身につける

授業計画

- 第1回 心理学と諸科学（授業オリエンテーション）
- 第2回 心理学の歴史
- 第3回 系統発生的基盤：生理・神経
- 第4回 認知的基盤：知覚・認知
- 第5回 個体発生的基盤：学習
- 第6回 言語的基盤（1）：記憶
- 第7回 言語的基盤（2）：言語・思考
- 第8回 社会的基盤（1）：対人関係
- 第9回 社会的基盤（2）：社会
- 第10回 社会的基盤（3）：集団
- 第11回 文化的基盤（1）：産業
- 第12回 文化的基盤（2）：組織
- 第13回 適応的基盤：臨床・健康
- 第14回 個人的基盤：パーソナリティ
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、授業内容の理解を深めるため、キーワードの情報収集および読んで理解すること。
授業後には事後学習として、授業資料の読み返し復習と、授業内で理解できなかった箇所について調べて理解を進めること。また授業後の事後課題も課す。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題については、課題回答後にフィードバックを行う。
希望者に対しては個別に課題に関するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題と、定期試験の結果に基づき、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席5回以上、または定期試験を未受験の場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内課題	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	70		1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	授業時に資料を配布する。
参考書	授業内で必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	公認心理師の資格取得を目指す場合は必ず履修すること。

授業コード	13080601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	学習・言語心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	野口 智草				
シラバス執筆(主)	野口 智草				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。
学習心理学に関する代表的な理論、言語習得の過程について講義形式で授業を行う。

到達目標

- 1) 人間の心の働きに関する知識を修得し、理解している。
- 2) 様々な情報を読み解くことで導き出された考えやアイデアを説得的に表現できる。(論理的思考力)
- 3) 多様な人間心理や社会の在り方を受容し、多様な人々を寛容に受け入れる態度を持つ。(寛容性)

授業計画

- 第1回：ガイダンス
授業の進め方や内容、採点方法などについて説明する
学習心理学の導入として、簡単な授業を行う
- 第2回：学習・行動領域の心理学
学習・行動研究の歴史、考え方、他領域との接続について説明を行う
- 第3回：行動の測定と実験デザイン
行動の定義、行動の測定法・観察法・実験法について説明を行う
- 第4回：生得的行動
行動の分類、随伴性と条件付け、生得的行動の種類、馴化と鋭敏化について学ぶ
- 第5回：レスポナント(古典的)条件づけ
レスポナント条件づけの手続きやその実験事実について説明を行う
- 第6回：オペラント(道具的)条件づけ
オペラント条件づけの手続きやその実験事実について説明を行う
- 第7回：強化の方法
行動の増強や減弱をもたらす諸変数、強化スケジュールの基礎について説明を行う
- 第8回：般化と弁別
弁別オペラント条件付けの手続き、弁別や般化の基礎、条件性弁別、反応連鎖について説明を行う
- 第9回：高次の学習・行動
選択行動、連続逆転弁別学習、学習の構え、洞察学習、社会的学習などについて説明を行う
- 第10回：言語に関する理論と研究
言語学の分野の紹介や、代表的な研究者と彼らの考え方について説明を行う
- 第11回：言語の獲得過程①
- 第12回：言語の獲得過程②
2週にわたって、子どもが言葉を話せるようになる過程について説明を行う
- 第13回：言語の生物学的基礎と障害
ことばと脳、失語症などの障害について説明を行う
- 第14回：言語と文化・第二言語習得
文化差や第二言語習得について説明を行う
- 第15回：授業の総復習
全15回授業の総復習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎授業後に要点をまとめた「復習クイズ」を配布します。事後学習に利用してください。

課題に対するフィードバックの方法

教員からの採点基準および適切な解答の仕方についての説明を希望するものには、期末試験終了後に教室内にて解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由がなく、定期試験に欠席した場合、また出席回数が2/3に満たない場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	40	毎回授業後に「学習記録」に記入し提出する。これによって理解度を確認します。授業の受講態度も「学習記録」の採点に反映されます。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	60	持ち込み不可で試験を行います。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、ずプリント(資料)を配布する
------	--------------------------

参考書	授業中に紹介する
-----	----------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 2/3以上の出席がなければ単位認定はしません。早退・欠席は2回で欠席1回分と数えます。 * 私語を慎む、携帯電話などを机の上に置かない、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守ってください。守れない学生には、即刻退室してもらいます。 * 資料の予備配布は行わないため、欠席した学生は、次回講義までに出席した学生などから資料をコピーさせてもらうこと。ただし、公欠による欠席はこれに限りません。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13074101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	発達心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、生涯発達の観点から発達心理学の基礎理論および臨床場面における発達支援について学ぶ。特に幼児期～児童期～青年期の発達について学び、その後は発達障害の特性や課題について事例を交えながら紹介する。

到達目標

1. 人間の発達は段階的であり、生涯にわたることを説明できる。
2. 人間の発達は段階的であり、生涯にわたることを記述できる。
3. 発達障害に偏見や誤解を持たず、人間科学の観点で説明できる。
4. 発達障害に偏見や誤解を持たず、人間科学の観点で記述できる。

授業計画

この授業は、通常授業となります。

【第1回】

テーマ：オリエンテーション（人間発達とは、発達障害とは）

内容・方法：講義計画の概要を紹介し、生涯発達の概念と発達障害への理解を高める。

【第2回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅰ

胎児期・新生児期の発達（知覚、視覚、認知）

内容・方法：胎児・新生児の特性を学ぶ

【第3回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅱ

乳児期の発達（愛着、言語、自己と他者の認知）

内容・方法：乳児期の特徴を紹介し、事例を通して愛着や社会的参照などの理論を説明する。

【第4回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅲ

幼児期の発達（心の理論）

内容・方法：自我の芽生え、他視点取得などの基礎理論について事例を通して紹介する。

【第5回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅳ

児童期の発達（読み書きの発達、身体運動）

内容・方法：就学すると学習環境が大きく変化するために生じる発達の課題について紹介する。

【第6回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅴ

青年期・成人期の発達（自己理解）

内容・方法：アイデンティティの構築、よりよく生きることをについて学ぶ。

【第7回】

テーマ：老年期の発達（加齢の影響）

内容・方法：老いることは悪化しているのではなく加齢は経験を重ねることであることを学ぶ。

【第8回】

テーマ：発達段階のまとめ

内容・方法：講義内容の理解の度合いを確認するために講義時間内に課題を実施する。

【第9回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅰ

内容・方法：発達障害の概念を説明し、自閉症について学ぶ。

【第10回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅱ-1

内容・方法：ASD：アスペルガー症候群の概念・特徴を学ぶ。

【第11回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅱ-2

内容・方法：ビデオを見ながらASDの実態を学ぶ。

【第12回】

テーマ：自閉症スペクトラム障害の理解Ⅲ

内容・方法：LD：学習障害の概念・特徴を学び、知的障害との違いを理解し、支援を学ぶ。

【第13回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅳ

内容・方法：ADHDの概念・特徴を学び、正しく理解する。

【第14回】

テーマ：成人の発達障害

内容・方法：成人になって発達障害の診断を受けた人々のビデオを視聴しながら、成人ならではの問題を考える。

【第15回】

テーマ：発達障害へのソーシャルスキルトレーニング
 内容・方法：発達障害者が社会に適応するための方法を学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：人間発達はいつまでなのか自分の考えをまとめる。
- ②事後学修課題：発達障害に関すること諸問題を調べる。

【第2回】

- ①事前学修課題：人間発達とは何かを予習しておく。
- ②事後学修課題：人間発達に関する本や論文を1冊読んでおくこと。

【第3回】

- ①事前学修課題：人間発達に関する本または文献を1冊読んでおくこと。
- ②事後学修課題：乳児期の社会的な問題を考える。

【第4回】

- ①事前学修課題：自分の過去を振り返ってみて発達を考える。
- ②事後学修課題：それぞれの特徴と概念を整理しておく。

【第5回】

- ①事前学修課題：小学校に入ると何が変化するのかを具体的に思い起こしておく。
- ②事後学修課題：就学初期の課題を考える。

【第6回】

- ①事前学修課題：自分の今までの発達について考える。
- ②事後学修課題：現在の自分の発達の課題を考える。

【第7回】

- ①事前学修課題：いままで習ったことすべてを復習しておく。
- ②事後学修課題：確認試験を終えて回答できなかったことを調べる。

【第8回】

- ①事前学修課題：発達障害の定義、現状を知る。
- ②事後学修課題：自閉症について調べる。

【第9回】

- ①事前学修課題：学ぶ前に自分が思っているASDはどのようなものなのかまとめてくる。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何ができるかを考える。

【第10回】

- ①事前学修課題：自分の過去を振り返ってみてASDの人とのかかわりを考える。
- ②事後学修課題：ASDへの支援を考える。

【第11回】

- ①事前学修課題：自分の過去を振り返ってみてLDとのかかわりを考える。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何ができるかを考える。

【第12回】

- ①事前学修課題：過去に紹介した発達障害の特徴を整理しておく。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何ができるかを考える。

【第13回】

- ①事前学修課題：ADHDの特性を復習しておく。
- ②事後学修課題：それぞれの症状の連続性と違いを理解する。

【第14回】

- ①事前学修課題：成人の発達障害でなにが生きていくうえでの障害になるのか考える。
- ②事後学修課題：生きていくうえでの障害を取り外すために何が必要かを考える。

【第15回】

- ①事前学修課題：発達障害者の社会適応に重要な要素を考える。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何ができるかを考える。

課題に対するフィードバックの方法

ビデオ視聴や講義の感想文を提出させた時は、翌週の講義開始時に学生全体にコメントしてフィードバックする。
 また、希望者にはclassroomを通じて中間確認試験の点数を伝える。

成績評価の方法・基準(方針)

定期試験と講義時に実施する中間確認試験の点数にて評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義時間内に実施する中間確認試験(50)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	50	持ち込み不可で臨床発達心理学の試験を実施する(50)	2, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	講義時にプリントを配布する
参考書	よくわかる発達心理学 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編 ミネルヴァ書房 2400円＋税 よくわかる発達障害 LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群 小野次郎・上野一彦・藤田継道編 ミネルヴァ書房 2200円＋税
履修条件・他の科目との関連	隣接領域にある心理学の講義を併せて受講することが望ましい。

授業コード	13080701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育・学校心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	牧野 幸志				
シラバス執筆(主)	牧野 幸志				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この講義では、さまざまな教育場面での実践活動をより効果的に推進するため、教育と学校にかかわる基礎理論とその応用について心理学的な立場から概説する。まず、子どもの心身の発達、記憶、学習などについて基礎的理解をはかり、それを基盤として、子どもの教育場面での諸問題への心構えやその実際的应用について明らかにしていく。主体的・能動的に活動すること。

到達目標

1. 教育現場(学校など)における児童・生徒の態度と行動を記述することができる
2. 教育現場(学校など)における児童・生徒の行動とその心理過程を説明することができる
3. 教育現場(学校など)における教員の態度と行動を記述することができる
4. 教育現場(学校など)における教員の行動とその心理過程を説明することができる

授業計画

この授業は、対面授業となります。講義形式で行います。毎回資料などを提示するので、各自PCかタブレットで視聴してください(大学による指示)。スマホでの視聴は遠慮してください。

- 【第1回】
 テーマ：教育・学校心理学とは？
 内容・方法：ガイダンス 授業ルールの説明 教育・学校心理学とは？ 教育心理学の手法
- 【第2回】
 テーマ：発達と成長
 内容・方法：発達と教育 人間の性格は、遺伝か？、環境か？
- 【第3回】
 テーマ：認知機能の発達
 内容・方法：ピアジェ認知発達段階 各段階の発達課題
- 【第4回】
 テーマ：人間の記憶システム
 内容・方法：短期記憶と長期記憶
- 【第5回】
 テーマ：言語と発達
 内容・方法：言語能力の発達？ 乳児とことば 初語はいつか？
- 【第6回】
 テーマ：性格の形成
 内容・方法：親子関係と性格との関連 性格に影響を与えるもの
- 【第7回】
 テーマ：社会とジェンダー
 内容・方法：男らしさと女らしさはどこから来るのか？ ジェンダーの原因
- 【第8回】
 テーマ：社会性の発達
 内容・方法：遊びと仲間関係 社会性の発達と遊び 理解度テストの実施と解説
- 【第9回】
 テーマ：社会的スキルの発達
 内容・方法：人と仲良くなれる人、なれない人 社会的スキルを身につけるには？
- 【第10回】
 テーマ：学習の動機づけ
 内容・方法：内発的動機づけと外発的動機づけ
- 【第11回】
 テーマ：自己の認知と動機づけ
 内容・方法：自己と自己効力感 自己に関する認知の発達
- 【第12回】
 テーマ：学級集団と子どもの行動
 内容・方法：学級の理解と指導 学級崩壊とリーダーシップ
- 【第13回】
 テーマ：学校への不適応問題
 内容・方法：不適応児・生徒の理解 不登校の原因と対策
- 【第14回】
 テーマ：障害心理学
 内容・方法：障害のある幼児、児童及び生徒の学習過程 発達障害の現状と対策
- 【第15回】
 テーマ：心理療法とカウンセリング
 内容・方法：心理療法の諸技法とカウンセリング理論 理解度テストの実施と解説

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

以下の手順・方法で事前学修2時間、事後学修各2時間とする。

- ①事前学修課題：各回の学習内容に該当する教科書部分を読み、キーワードを理解する。
- ②事後学修課題：各回の学習内容を理解できたか復習し、要点をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回テーマごとにいくつかの授業課題を出す。出された課題に対して、回答を提出してください。当日授業内か翌週の授業以降にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。毎週の授業で実施される小テストと授業課題(20%)、不定期の理解度テスト(70%)、定期試験に代わる課題(10%)の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。50%以上の出席を成績評価の対象とする。出席点などはない。合格の基準以上の得点を取得していない場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	毎回、授業内で課される小テストと授業課題の合計(20%)と不定期に行われる理解度テスト(70%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	定期試験に代わるレポート課題(10%)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	コンパクト教育心理学/北尾倫彦他/北大路書房/2000/978-4-7628-2522-4
------	-----------------------------------------------

参考書	学校教育の心理学 北尾倫彦他著 北大路書房 ほかは講義の中で紹介する
-----	---------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>この授業は対面授業となります。授業の連絡は、Google Classroomを利用します。資料の提示、小テストの実施、授業課題の提出、理解度テストは、moodle を利用します。授業中に、授業課題が出ますので、その答えをPCなどにメモしてください。授業直後にmoodleに提出してください。また、毎回授業終了後にmoodleで小テストを実施します(20%)。小テスト、授業課題には締切があります。必ず守ってください。不定期に理解度テスト(70%)がありますので、受験してください。最後に、定期試験に代わるレポート課題(10%)があります。</p> <p>他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、不必要な教室への出入り、スマホなどの使用など)はすべて禁止とします。スマホなどは、電源を切っておくこと。資料はPCまたはタブレットで見てください。スマホでの視聴は遠慮してください。遅刻しないように受講すること。遅刻などは減点の対象となる(-5点)。</p> <p>本科目は、公認心理師の国家試験のための科目です。将来、国家資格取得希望の方はしっかりと学習すること。また、本科目は教職科目でもあります。将来教員になりたいという方は、教育の諸問題を考えながら、受講してください。教員希望でない人も、教育現場における様々な心理的課題を理解するよう努めてください。</p>
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13080901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	感情・人格心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	野口 智草				
シラバス執筆(主)	野口 智草				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。
感情心理学、人格心理学について講義形式で授業を行う。

到達目標

- 1) 人間の心の働きに関する知識を修得し、理解している。
- 2) 様々な情報を読み解くことで導き出された考えやアイデアを説得的に表現できる。(論理的思考力)
- 3) 多様な人間心理や社会の在り方を受容し、多様な人々を寛容に受け入れる態度を持つ。(寛容性)

授業計画

- 第1回：ガイダンス／感情の基礎
授業の進め方や内容、採点方法などについて説明する
感情心理学の導入として、簡単な授業を行う
- 第2回：感情の理論(1)古典的理論
抹消起源説や中枢起源説、二要因説について説明を行う
- 第3回：感情の理論(2)生物学的基礎
感情と脳機能、感情と身体の働きについて説明を行う
- 第4回：感情の理論(3)基本的感情説と次元説
各研究者の基本的感情の捉え方、感情の次元説について学ぶ
- 第5回：感情の測定
感情の測定方法について説明を行う
- 第6回：感情と行動①
感情の機能や、感情がいかに適応的な判断や行動を導くかについて説明を行う
- 第7回：感情と行動②
視点取得や共感的関心について説明を行う
- 第8回：感情の制御
バイオフィードバック法、自律訓練法、マインドフルネスについて説明を行う
- 第9回：人格の概念
人格の統合機能、人格の個人差や変容について説明を行う
- 第10回：人格の理論(1)
類型論を用いた人格理論について説明を行う
- 第11回：人格の理論(2)
特性論を用いた人格理論について説明を行う
- 第12回：知能・適性
知能および適性について説明を行う
- 第13回：人格の形成と変容
人格の形成および変容について説明を行う
- 第14回：人格の障害
パーソナリティ障害について説明を行う
- 第15回：授業の総復習
全15回授業の総復習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎授業後に要点をまとめた「復習クイズ」を配布します。事後学習に利用してください。

課題に対するフィードバックの方法

教員から採点基準および適切な解答の仕方についての説明を希望するものには、期末試験終了後に教室内にて解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、定期試験を欠席した場合、また出席回数が2/3に満たない場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	40	毎回授業に「学習記録」に記入し提出する。これによって理解度を確認します。授業の受講態度も「学習記録」の採点に反映されます。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	60	持ち込み不可で試験を行います。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、ずプリント(資料)を配布する
------	--------------------------

参考書	授業中に紹介する
-----	----------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 2/3以上の出席がなければ単位認定はしません。早退・欠席は2回で欠席1回分と数えます。 * 私語を慎む、携帯電話などを机の上に置かない、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守ってください。守れない学生には、即刻退室してもらいます。 * 資料の予備配布は行わないため、欠席した学生は、次回講義までに出席した学生などから資料をコピーさせてもらうこと。ただし、公欠による欠席はこれに限りません。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13081001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心と身体 [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、身体を通して心の働きについて考えるとともに、ヨーガと坐禅の実践を通して、「身体で心を整える」ことを学ぶ。実習形式でヨーガと坐禅を専門家の指導の下に体験してもらう。坐禅体験においては、寺院において、僧侶の指導の下に行く。

到達目標

1. 身体心理学の概念や理論を理解し、説明できる。
2. 日々の生活の中で、心と身体の調和を意識できる。

授業計画

第01講	身体で心を整える
第02講	ヨーガ講義
第03講	ヨーガ体験①ゆるやかな動作で行う
第04講	ヨーガ体験②呼吸と動作を一致させる
第05講	ヨーガ体験③意識を体の一部に集中させる
第06講	ヨーガ体験④緊張と弛緩を交代させる
第07講	ヨーガ体験⑤山のポーズ
第08講	ヨーガ体験⑥金剛座
第09講	ヨーガ体験⑦猫のポーズ
第10講	ヨーガ体験⑧呼吸法
第11講	坐禅講義
第12講	坐禅体験①座り方
第13講	坐禅体験②瞑目
第14講	坐禅体験③自問
第15講	まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

ヨーガや坐禅は一度体験しただけで習熟できるようなものではない。本授業は、あくまで受講生にとって「きっかけ」や「気づき」を提供するための場である。そのため、受講生は普段の生活においても、授業で学んだ内容を日々実践し、自分のものとするように努めることが求められる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、総評を口頭で伝える。

成績評価の方法・基準(方針)

授業での取り組み姿勢と期末レポートで総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業での取り組み姿勢と毎回の体験レポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1
その他	0		

テキスト	なし
参考書	
履修条件・他の科目との関連	寺院での坐禅体験が家庭の宗教上、問題とならないこと。

履修条件・他の科目との関連

学外施設の受け入れ可能人数の都合上、20名の履修を上限とする。
履修希望者が20名を超えた場合は、2年次生の履修登録を優先するとともに、履修者選抜によって履修の可否を決定する。

授業コード	13081101	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	公認心理師の職責 [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師カリキュラム、心理学基礎科目の一科目である。公認心理師を目指す人の導入科目であり、その役割、法的義務および倫理、具体的な業務、連携などを学ぶ。心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取り扱い、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野における公認心理師の具体的な業務について解説する。心理学的業務を遂行する中で必要な、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、他職種連携及び地域連携について学ぶ。

担当教員が公認心理師・臨床心理士であり、実務家教員としての長年の多領域での経験をもとに、将来公認心理師の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

1. 公認心理師の職責について理解する
2. 保健医療分野における公認心理師の具体的な業務について理解する
3. 福祉分野における公認心理師の具体的な業務について理解する
4. 教育分野における公認心理師の具体的な業務について理解する
5. 司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務について理解する
6. 産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務について理解する
7. 他職種連携と地域連携および公認心理師の今後の課題と生涯学習への準備について理解する

授業計画

【第1回】

テーマ：授業の進め方と評価方法、公認心理師の役割

内容・方法：授業の進め方および評価の方法について解説する。

公認心理師としての職責と自覚、公認心理師の役割、知識および技術について解説する。

【第2回】

テーマ：公認心理師の法的義務・倫理

内容・方法：公認心理師の法的位置づけ、法的義務と倫理について解説する。

【第3回】

テーマ：心理に関する支援を要する者等の安全の確保

内容・方法：クライアント／患者らの安全の確保のための倫理的配慮、物理的安全、心理的安全について解説する。

【第4回】

テーマ：情報の適切な取り扱いについて

内容・方法：心理職の職業倫理、秘密保持とその例外状況について解説する。

【第5回】

テーマ：保健医療分野における公認心理師の具体的な業務

内容・方法：保健医療分野における心理職の業務と実際について解説する。

【第6回】

テーマ：福祉分野における公認心理師の具体的な業務

内容・方法：福祉分野における心理支援活動の特徴と職能について解説する。

【第7回】

テーマ：中間のまとめと到達度の確認

内容・方法：中間のまとめと到達度の確認を実施する。

【第8回】

テーマ：教育分野における公認心理師の具体的な業務

内容・方法：教育分野における公認心理師の職責と学問的背景、スクールカウンセリングの実際、チーム学校について解説する。

【第9回】

テーマ：司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務

内容・方法：非行臨床の概要、犯罪臨床の概要、被害者支援、家族臨床の概要について解説する。

【第10回】

テーマ：産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務

内容・方法：産業分野における公認心理師の業務、産業分野における心理的支援の実際について解説する。

【第11回】

テーマ：支援者としての自己課題発見・解決能力

内容・方法：公認心理師としての自己課題の発見方法と解決への取り組みについて解説する。

【第12回】

テーマ：生涯学習への準備

内容・方法：公認心理師の生涯学習について解説する。

【第13回】

テーマ：他職種連携と地域連携

内容・方法：他職種連携と地域連携、連携する上での留意点について解説する。

【第14回】

テーマ：公認心理師の今後の課題
内容・方法：公認心理師の資質と心理に関する支援の多様な展開について解説する。

【第15回】

テーマ：公認心理師の職責まとめ
内容・方法：授業全体のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の講義内容について、関連の図書等を読むなどの1.5時間の事前学習、および配布資料を復習するなどの2.5時間の事後学習が必要である。中間、最終回の到達度の確認については、それぞれ20時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でのリアクションレポートを、次回の授業の最初にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

中間の到達度の確認、定期試験、毎回のリアクションレポート、受講態度、ワークへの取り組み態度の総合評価とする。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	各回のリアクションレポートの量(20)および質(20)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	30	授業外での学習をふまえた中間の到達度の確認の点数(30)	1, 2, 3
定期試験	30	授業内・授業外での学習をふまえた定期試験(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 『公認心理師の基礎と実践 1公認心理師の職責』/野島和彦(編)/遠見書房/2000/

参考書 適宜、参考図書を紹介する。

履修条件・他の科目との関連 公認心理師カリキュラム科目は関連があるため、併せて受講することが望ましい。

授業コード	13081201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	知覚・認知心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。人は環境からの情報を入力し、記憶し、判断を行い、環境に適応的な行動として出力する。授業では、こうした情報処理システムの機序について理解をすることを目的とし、知覚・認知心理学における代表的な知見・理論を概観し、分かりやすく解説する。

到達目標

1. 人の心の仕組みと働きについての基本的な考え方を概説できる。
2. 感覚・知覚・認知の機序及びその障害を概説できる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション（知覚・認知心理学とは）
 第2回：感覚
 第3回：知覚
 第4回：注意
 第5回：記憶①ワーキングメモリ
 第6回：記憶②長期記憶
 第7回：記憶③日常記憶
 第8回：知識の表象と構造
 第9回：問題解決と推論
 第10回：意思決定
 第11回：社会的認知①
 第12回：社会的認知②
 第13回：知覚・認知の障害①
 第14回：知覚・認知の障害②
 第15回：まとめと復習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：前授業の復習。各回ごとに2時間以上。
 事後学習：小課題の作成・授業コメントの入力など。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施する小レポートのフィードバックを実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小レポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	40	定期試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 適宜指定する。

参考書 基礎から学ぶ認知心理学 服部雅史など 有斐閣
 認知心理学 箱田祐司など 有斐閣
 知覚・認知心理学(公認心理師の基礎と実践)箱田 裕司(編)遠見書房

履修条件・他の科目との関連 公認心理師の資格取得を目指す場合は必ず履修すること。

授業コード	13081301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	神経・生理心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

脳を中心とした中枢神経系の機能について学ぶ。心の問題に見える行動や感情は中枢神経系の活動と関係している。脳疾患に伴う高次脳機能障害などの診断、治療、神経構造の解明を目的とする神経心理学と、中枢神経や自律神経の機能が心理や行動にどのような影響を及ぼすかに焦点を当てる生理心理学を学び、人間の「心」と脳の関係を理解することを目的とする。

到達目標

- 1、脳神経系の構造及び機能について概説できる。
- 2、記憶、情動等の生理学的反応の機序について概説できる。
- 3、高次脳機能の障害および必要な支援について説明できる。
- 4、脳と運動、言語、遂行機能などの関係について理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 脳全体の構造、大脳・間脳・小脳などの仕組みと働き
内容：脳全体の構造と脳の各部位のしくみと働きについて学ぶ。
- 【第2回】 脳を構成する細胞の仕組み
内容：ニューロン、シナプス、神経伝達物質などについて学ぶ。
- 【第3回】 神経系の構造と機能
内容：神経ネットワークの全体像や脳神経、脊髄神経について学ぶ。
- 【第4回】 自律神経系
内容：自律神経のメカニズムについて学ぶ。
- 【第5回】 運動と体性感覚
内容：運動指令が伝わる仕組みや神経の損傷による運動障害、体性感覚伝達路の仕組み、温度覚、痛覚が伝わる仕組みなどについて学ぶ
- 【第6回】 視覚・聴覚
内容：視覚・聴覚のメカニズムと視覚や聴覚に障害が生じる場合について学ぶ。
- 【第7回】 記憶、学習
内容：記憶の仕組みや記憶の障がいと脳領域の関係、学習の仕組みなどについて学ぶ。
- 【第8回】 言語と脳
内容：言語と脳の関係や、言語面に障がいが生じる場合について学ぶ。
- 【第9回】 感情や情動と脳
内容：情動の形成と表出の仕組み、脳と感情の関係などについて学ぶ
- 【第10回】 注意
内容：注意の種類や注意障がいに関連した症状について学ぶ。
- 【第11回】 遂行機能
内容：遂行機能とは何か、遂行機能の障がいについて学ぶ。
- 【第12回】 脳の病気、精神疾患
内容：脳血管障害やてんかん、統合失調症、物質依存について学ぶ。
- 【第13回】 認知リハビリテーション
内容：高次脳機能障害などに対する認知リハビリテーションについて学ぶ。
- 【第14回】 高次脳機能障害
内容：高次脳機能障害と必要な支援について学ぶ。
- 【第15回】 睡眠
内容：睡眠の構造や睡眠障害などについて学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の講義内容について、関連の図書などを読むなどの1.5時間の事前学習、および配布資料を復習し、授業で習ったことの概要を説明することができる程度に理解を深めるなどの2.5時間の事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業の提出課題や質問などについて、次回の授業でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	60	第1回～第15回の授業毎の提出課題(各4点)を実施する(4×15=60)。各回の授業の最後に授業の内容についての小テスト(持ち込みなし)かミニレポートを行う。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	20	取り組み姿勢	1, 2, 3, 4

テキスト	教員が作成したプリントを使用する。
------	-------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師の基礎と実践⑩ 神経・生理心理学 遠見書房 ・ぜんぶわかる脳の事典―部位別・機能別にわかりやすくビジュアル解説 坂井健雄、久光正 成美堂出版
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。神経生理心理学は、普段なじみの少ない領域なので、難しく感じますが、自身での復習も含め、しっかり理解しようという意欲のある学生が履修するようにしてください。</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13081401	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	心理学的支援法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

代表的な心理学の理論や概念を踏まえて、心理学的支援を行う際の実際の技術についても概説する。カウンセリングだけでなく、プレイセラピーやグループセラピー、心の健康教育などの心理学的支援の方法についても説明する。講義によって、人間の心の働きに関する知識や他者を理解する力を習得し、演習によって人間のコミュニケーションに関する理解を深め、コミュニケーションスキルの向上を目指す。授業では、担当教員が長年にわたり現場で心理支援を行ってきた経験をもとに、実務家教員として、理論的理解に加えて実践や事例を交えて、できるだけわかりやすく講義を展開する。授業の最後にカウンセリング演習を行ったり、グループで話し合いを行うこともある。

到達目標

- 1、心理学の代表的な理論について理解し、説明することができる
- 2、心理学の多様な支援の技術について理解し、日常生活に活かすことができる
- 3、演習を通じて、心理学的支援やコミュニケーションのスキルを高める

授業計画

- 【第1回】 ころの仕組みと心理の仕事
内容：意識と無意識の関係、防衛機制など、人間が自然に行っている心の働きを学ぶ。また、心理職がどのような分野で、どのように働いているのかについて学ぶ。
- 【第2回】 心理学的支援とは 演習
内容：心理学的支援の定義、アセスメントに基づく支援、学派を超えて共通する治療要因、心理学的支援の限界などについて学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第3回】 学派を超えて共通する治療的要因
内容：学派にかかわらず心理学的支援において治療的に作用する要因などについて学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第4回】 システム論
内容：個人だけではなく、環境にも目を向け、様々なこととのつながりを考えるシステム論の考え方、直接的因果律、円環的因果律などについて学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第5回】 関係者のシステムに働きかける
内容：関係者の人間関係をシステムとしてとらえて支援するシステムズアプローチを学び、システム全体に働きかける心理学的支援の実践について事例を通して学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第6回】 援助的コミュニケーションのスキル 演習
内容：心理学的支援の基礎となる基本的な援助的コミュニケーション、カウンセリングで行う基本的な傾聴と応答などについて学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第7回】 心理学的支援の技術1： 気づきの促進、2： 新しい体験の提供
内容：カウンセリングの基礎である「洞察」やエンパワメント、クライアントの気づきを促進する技術について学ぶ。クライアントに新しい体験を提供することになる修正感情体験や、新しい体験を促す様々なワークについて学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第8回】 心理学的支援の技術3： より適応的な行動の学習
内容：行動論や認知行動療法に基づく心理学的支援について学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第9回】 支援者に求められる倫理
内容：倫理とは何か、命令倫理、理想追及倫理、倫理的に健全な心理臨床実践のルール、インフォームド・コンセント等について学ぶ。
- 【第10回】 訪問支援
内容：心理学的支援として訪問支援を行う際の注意点や事例について学ぶ。
- 【第11回】 精神力動論とクライアント中心療法
内容：心理学的支援の代表的な理論である精神力動論とクライアント中心療法の主要概念と、それらを活かした支援について学ぶ。
- 【第12回】 コミュニティ心理学的支援
内容：コミュニティ心理学の主要概念と、それらの概念に基づく心理学的支援について学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第13回】 プレイセラピー
内容：遊ぶことを通じて心理学的支援を行うプレイセラピー（遊戯療法）の原則や実際の様子などについて学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第14回】 グループセラピー
内容：様々なグループセラピーとグループセラピーを行う際のポイントや注意点、グループの発達段階等を学ぶ。基礎演習を実施する。
- 【第15回】 心の健康教育
内容：心理的に重篤な課題を有する前に、できるだけ予防的に支援的介入をするという心の健康教育として、近年心理職に求められる心理教育について学ぶ。基礎演習を実施する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の講義内容について、関連の図書などを読むなどの1.5時間の事前学習、および配布資料を復習し、授業で習ったことの概要を説明することができる程度に理解を深めるなどの2.5時間の事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でのミニレポートを、次回の授業の最初にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で課されるミニレポート(60)。第1回～第15回の授業の最後にミニレポート(各4点)を実施する(4×15=60)。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1, 2
その他	20	授業中や課題についての取り組み姿勢	2, 3

テキスト プリントを配布する

参考書 『公認心理師標準テキスト 心理学的支援法』 北大路書房 杉原保史他編著

履修条件・他の科目との関連 心理学関連の科目を履修していることが望ましい。

授業コード	13081402	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	心理学的支援法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師クラス対象科目である。公認心理師養成カリキュラムの心理学発展科目の中の基礎心理学科目群に属し、代表的な心理療法やカウンセリングについて、訪問支援や地域支援に意義、良好な人間関係の築き方、プライバシー、関係者への支援の在り方の内容から構成される。本科目は面接演習・グループディスカッション・発表と質疑応答形式で進み、アクティブラーニングの要素を含む。
担当教員が公認心理師・臨床心理士であり、実務家教員としての長年の多領域での経験をもとに、将来公認心理師の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について理解し、説明できる
2. 訪問による支援や地域支援の意義について理解し、概説できる
3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について理解し、実践することができる
4. プライバシーへの配慮について理解し、説明することができる
5. 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援および心理教育について理解し、概説することができる

授業計画

- 【第1回】
テーマ：心理学的支援とは 演習
内容・方法：心理学的支援の定義、学派、共通する治療要因、心理学的支援の限界について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第2回】
テーマ：心理力動論 演習
内容・方法：心理力動論の歴史、特徴、主要概念、支援の実際、力動的な心理療法の限界について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第3回】
テーマ：行動論 演習
内容・方法：行動論について、学習、多様な支援法、支援法の歴史、支援の要点について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第4回】
テーマ：システム論 演習
内容・方法：システム論について概観し、有効性と課題を解説する。基礎演習を実施する。
- 【第5回】
テーマ：心理学的支援における価値と倫理 演習
内容・方法：心理学的支援と価値、職業倫理、倫理的な意思決定のプロセスについて解説する。基礎演習を実施する。
- 【第6回】
テーマ：援助的コミュニケーションのスキル 演習
内容・方法：援助的コミュニケーションについて、言語的・非言語的コミュニケーション、イメージや物を媒介としたコミュニケーション、危機的関係におけるコミュニケーションについて解説する。基礎演習を実施する。
- 【第7回】
テーマ：気づきを促進する 演習
内容・方法：力動的な心理療法にへおける気づきについて解説する。基礎演習を実施する。
- 【第8回】
テーマ：新しい感情を提供する 演習
内容・方法：修正感情体験を促す介入技法について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第9回】
テーマ：より適応的な行動の学習を促進する 演習
内容・方法：行動理論と認知理論の心理的支援について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第10回】
テーマ：関係者のシステムに働きかける支援のあり方 演習
内容・方法：関係者を対象とした支援についてを解説する。基礎演習を実施する。
- 【第11回】
テーマ：プレイセラピー 演習
内容・方法：遊戯療法の理論と歴史、実際について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第12回】
テーマ：グループセラピー 演習
内容・方法：グループセラピーの技法について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第13回】
テーマ：地域支援の実際 演習
内容・方法：地域支援が重視する考えと地域支援の方法について解説する。基礎演習を実施する。
- 【第14回】
テーマ：訪問による支援 演習

内容・方法：訪問による支援と各領域における訪問支援について解説する。基礎演習を実施する。

【第15回】

テーマ：心の健康教育

内容・方法：心理教育という支援について解説する。基礎演習を実施する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の講義内容について、関連の図書等を読むなどの1.5時間の事前学習、および配布資料を復習するなどの2.5時間の事後学習が必要である。最終課題作成については、20時間ほどの学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でのリアクションレポートを、次回の授業の最初にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の提出課題と最終レポートの総合評価とする。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	各回の演習への参加姿勢(10) 各回の授業内レポートの量(10)および質(10)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	40	各課題の量(20)および質(20)	1, 2, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	最終課題レポートの量(10)および質(20)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	『公認心理師標準テキスト 心理学的支援法』北大路書房 杉原保史他編著
履修条件・他の科目との関連	公認心理師クラス対象科目である。公認心理師カリキュラム科目は合わせて単位取得することが望ましい。

授業コード	13081501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	グループダイナミクス [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

グループダイナミクスとは、集団を通して人間行動を理解しようとする心理学の一分野である。この授業では、集団行動を理解する上で不可欠な概念や理論を解説する。具体的には、他者存在が人間行動に与える影響からはじまり、集団の中での個人の心理過程、偏見や差別の心理的メカニズム、集団間関係について講義する。

到達目標

1. 私たちの生活において不可欠な集団について理解を深める。
2. 差別や偏見のメカニズムについて理解を深める。
3. 集団行動について心理学の理論を用いて科学的な説明ができる。

授業計画

第01回	グループダイナミクスとは？
第02回	集団の形成と発達
第03回	集団の影響過程
第04回	リーダーシップ
第05回	集団での意思決定
第06回	内集団と外集団①社会的アイデンティティ理論
第07回	内集団と外集団②映画「WAVE」を題材として
第08回	内集団と外集団③映画「WAVE」を題材として
第09回	集団間葛藤の解消
第10回	差別と偏見①ステレオタイプと偏見
第11回	差別と偏見②エイジズム
第12回	差別と偏見③セクシズム
第13回	差別と偏見④レイシズム
第14回	差別と偏見⑤ルッキズム
第15回	まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき1.5時間ほどの事前学習および2.5時間ほどの事後学習が必要。具体的には、授業で取り上げた理論や学説について、専門書等でさらに理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業課題については、翌週の授業の冒頭でフィードバックを実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中の課題	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	70		1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	講義レジュメをClassroomに投稿する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	身近な社会現象や社会問題について関心を持ち、それらが講義で取り上げた心理学の理論や学説でどのように説明できるかを考えてみること。

授業コード	13081601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	健康・医療心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	若井 貴史				
シラバス執筆(主)	若井 貴史				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための科目である。大学院の心理実践実習において医療機関での実習が必須となっていることから分かるように、公認心理師にとって保健医療領域の知識は特に重要であるといえる。それは、市民の「いのち」に直接関わる分野であり、そこで仕事をするために必須の知識と技能があるからである。本授業では、保健医療領域における実践に必要な健康心理学と医療心理学を概説する。健康心理学とは、健康と病気の心理学的側面について研究し、健康の改善のために心理学の理論や方法を用いる学問領域である。また、医療心理学とは、病院や診療所などの医療機関における心理学的サービスの基礎となる学問領域である。授業はパワーポイントにて行い、文字情報の他に、できるだけ静止画・動画の資料などを提示する講義形式となる。ただし、ワークを取り入れることもあるので、主体的に参加することが望まれる。現在、精神科病院に勤務している経験をもとに、実務家教員として、将来、心理関係の業務に従事したいと考えている人に役立つ授業としたい。

到達目標

1. ストレスと心身の疾病との関係を説明できる。
2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援を説明できる。
3. 保健活動が行われている現場における心理社会的課題および必要な支援を説明できる。
4. 災害時等に必要な心理に関する支援を説明できる。

授業計画

- 【第1回】健康・医療心理学概論
- 【第2回】ストレスの心理学と生理学
- 【第3回】ストレスによる心身の疾病と行動医学
- 【第4回】健康心理学とポジティブ心理学
- 【第5回】精神科における公認心理師の活動
- 【第6回】心身医学における公認心理師の活動
- 【第7回】小児医療・母子保健領域における公認心理師の活動
- 【第8回】脳神経内科・リハビリテーション領域における公認心理師の活動
- 【第9回】総合病院のチーム医療における公認心理師の活動
- 【第10回】高齢者医療における公認心理師の活動
- 【第11回】医療観察法指定医療機関における公認心理師の活動
- 【第12回】保健活動の現場と公認心理師
- 【第13回】依存症治療における心理学的支援
- 【第14回】自殺対策と職場復帰支援
- 【第15回】災害被災者の心理と支援

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業前にテキスト当該箇所を読む。
毎回の授業後に、授業内容を復習し、テキストの「学習チェック表」の項目を自分なりの言葉で説明できるようにする。
そのうえで、授業で出された課題をこなす。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、毎授業時に実施する課題について5回以上の未提出、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内で提示された各種レポート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	50	レポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	丹野義彦(編)『健康・医療心理学』(遠見書房)、2,600円+税、ISBN978-4-86616-066-5		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	予習・復習時にテキストをくり返し読みこみ、健康・医療心理学の全体像をしっかり頭に描けるようになってください。キーワードについてはきちんと覚え、自分の言葉で説明できるようにしてください。		

授業コード	13081701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	産業・組織心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。また、多くの人は大学を卒業後、民間企業や官公庁等の「組織」に所属することになる。この授業では、組織におけるモチベーション、人間関係、リーダーシップなどのトピックについて心理学的な観点から考えていく。そこから、実際に働き始めた後の組織現象の理解に有用な知識を獲得することを目的とする。

到達目標

1. 組織についての理解を深め、理解した内容を身近な組織に当てはめて説明できるようになる
2. 将来、自身が組織に所属したときに発生するであろう問題の予測と、それに対処するための力を身につける

授業計画

- 第1回 産業・組織心理学とは？
 第2回 人事の心理学：人事評価と処遇
 第3回 キャリア形成：職業選択とワークライフバランス
 第4回 組織成員の心理と行動（1）：組織における協力と帰属意識
 第5回 組織成員の心理と行動（2）：組織で生じる葛藤とその解消
 第6回 組織成員の心理と行動（3）：ワークモチベーション
 第7回 職場集団のダイナミクス（1）：組織コミュニケーション
 第8回 職場集団のダイナミクス（2）：組織の意思決定と生産性
 第9回 作業改善・安全衛生：職場の安全、ヒューマンエラー
 第10回 メンタルヘルス（1）：組織でのストレスの原因と結果
 第11回 メンタルヘルス（2）：組織におけるサポート
 第12回 リーダーシップ理論（1）：古典的なリーダーシップ理論
 第13回 リーダーシップ理論（2）：近代のリーダーシップ理論
 第14回 消費者の心理：消費者行動
 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、授業内容の理解を深めるため、キーワードの情報収集および読んで理解すること。授業後には事後学習として、授業資料の読み返し復習と、授業内で理解できなかった箇所について調べて理解を進めること。また授業後の事後課題も課す。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題については、次回の授業時に全体的なフィードバックを行う。
 希望者に対しては個別に課題に関するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題と、定期試験の結果に基づき、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のない欠席5回以上、または定期試験を未受験の場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内課題	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	70		1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	授業内で資料を配布する。
参考書	①産業・組織心理学エッセンシャルズ【第4版】 外島 裕 (監) 田中 堅一郎 (編) ナカニシヤ出版

参考書	ISBN:9784779513855 ②産業・組織心理学 改訂版 馬場 昌雄・馬場 房子・岡村 一成(監) 白桃書房 ISBN: 9784561266839 その他、必要に応じて授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	心理学関連の授業を履修していることが望ましい。公認心理師の資格取得を目指す場合は履修すること。

授業コード	13081801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人体の構造と機能及び疾病 [対面]				
シラバス執筆(全員)	高橋 久美子				
シラバス執筆(主)	高橋 久美子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。
 身体的疾患に罹患した人々を心身両面からサポートするために理解しておかなければならない人体の構造と機能の基礎知識を習得し、それらの疾患の病態について理解を深める。
 さらに、心理士が他の専門職とチームを構築し、心理的サポートを提供するうえで必要な医学的知識を習得することを目的とする。

到達目標

1. 人体の構造と機能の基礎知識を学び、身体的疾患に罹患した人々を心身両面からサポートすることに応用できる。
2. 心身両面からのサポートに必要な疾患の病態について理解し、説明できる。
3. 心理士が他の専門職とのチームを構築し、心理サポートを提供するうえで必要な医学的知識を応用できる。

授業計画

- 第1回 医療現場-医学・心理学を中心として-
 第2回 エビデンス(EBM)とナラティブ(NBM)
 第3回 人体の構造1 運動器系 循環器系 消化器系 呼吸器系 血液 リンパ
 第4回 人体の構造2 泌尿器系 神経系 内分泌系 生殖器系 感覚器
 第5回 主な症候1 倦怠感 発熱 めまい 頭痛 腹痛 胸痛
 第6回 主な症候2 しびれ 意識障害 ショック 悪心
 第7回 睡眠
 第8回 糖尿病
 第9回 依存症
 第10回 遺伝性疾患
 第11回 難病
 第12回 HIV・臓器移植
 第13回 ガン
 第14回 認知症
 第15回 緩和ケア

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

定期試験については全授業終了後に授業全体を範囲として出題するため、各授業内容についての復習が必要。

課題に対するフィードバックの方法

小テストについては授業内で解説する。
 定期試験については模範解答を付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定した上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく5回以上欠席した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	記入式小テストを実施。 第1回から第15回の授業ごとの提出課題(各4点)を実施する(4×15=60)。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	40	選択肢式テストを実施(40)。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書	公認心理師の基礎と実践 第21巻 人体の構造及び疾病 遠見書房 公認心理師ベーシック講座 人体の構造と機能及び疾病 講談社
履修条件・他の科目との関連	「公認心理師資格」の取得を考えている学生を対象にする。課題は自ら学ぶものなので、積極的な学びを希望する学生の履修を条件とする。 正当な理由なく5回以上欠席した場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

授業コード	13081901	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	福祉心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

福祉分野における心理学的支援についての総合的な知識と、児童福祉、障がい者福祉、虐待などの各論について、現状や課題を理解し、それぞれの分野における心理学的支援について概説する。授業では、担当教員が長年にわたり現場で心理支援を行ってきた経験をもとに、実務家教員として、理論的理解に加えて実践や事例を交えて、できるだけわかりやすく講義を展開する。

到達目標

- 1、福祉分野における心理学的支援について理解し、説明することができる
- 2、福祉分野において心理職に求められる役割を理解することができる
- 3、児童福祉、障がい者福祉、虐待などの社会における事象について、知識に基づいて考えることができるようになる

授業計画

- 【第1回】 福祉心理学総論 -福祉分野における心理学的支援について-
内容：福祉の定義、福祉心理学的支援とは何かなどについて学ぶ。
- 【第2回】 児童虐待と支援
内容：児童虐待の種類、現状、要保護児童対策地域協議会などの支援などについて学ぶ。
- 【第3回】 子育て支援
内容：日本でされている子育て支援の施策や児童相談所の役割、保護者支援の具体例、社会的養護、乳幼児健診などについて学ぶ。
- 【第4回】 障がい・疾病のある人への心理支援
内容：障がい・疾病のある人への制度の変遷と障がい親の変容、障がい者福祉における心理職の役割などについて学ぶ。
- 【第5回】 精神疾患の理解と支援 -統合失調症を中心に-
内容：精神疾患に関する心理支援について学ぶ。統合失調症の特徴と支援について理解する。
- 【第6回】 精神疾患の理解と支援 -うつ病を中心に-
内容：精神疾患に関する心理支援について学ぶ。うつ病の特徴と支援について理解する。動画等を視聴して理解を深める。
- 【第7回】 人格障害の理解と支援
内容：人格障害の中でも特に境界性人格障害について、その特徴と支援について学ぶ。
- 【第8回】 発達障がいの理解と支援
内容：自閉スペクトラム症、ADHD、LD、知的障害の特徴と支援について学ぶ。
- 【第9回】 高齢者への心理支援・認知症高齢者の心理支援
内容：高齢者の特徴と支援、認知症高齢者の特徴と心理支援について学ぶ。
- 【第10回】 高齢者福祉におけるチーム医療
内容：高齢者福祉における課題やどのようにチーム医療を行っていくかについて、事例などから学ぶ。
- 【第11回】 ひきこもり・自殺予防の心理支援
内容：引きこもりの現状、要因、支援について学ぶ。また、自殺予防として、誰もがゲートキーパーとしてできる支援や自殺にまつわる話の聞き方について学ぶ。
- 【第12回】 生活困窮者・貧困者への心理支援
内容：生活困窮・貧困の背景と問題、実態とそれに対する心理支援について学ぶ。
- 【第13回】 福祉分野での多職種協働と心理職の位置づけ
内容：多職種協働を行う際のポイント、その共通理解のもととなるBPSモデル、チームアプローチの特徴、多職種協働における公認心理師の役割などについて学ぶ。
- 【第14回】 生態学的視座に基づくアセスメントと支援
内容：人と環境の関わりを考える心理学であるシステム論の考え方の特徴と、その考え方に基づく支援について、事例も含めて学ぶ。
- 【第15回】 児童福祉の中での心理学的支援
内容：児童福祉における心理職の役割などについて、事例を通して学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位45時間の学習が必要です。
毎回の事前学習として、関連する文献・資料を読んでおくこと（1.5時間）。そして事後学習として授業中に追記した資料を使って復習し、授業で習った概要について説明できる程度に理解を深めておくことが必要である（2.5時間）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の提出課題を採点し、次回の授業でフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で課されるミニレポート(60)。第1回～第15回の授業の最後にミニレポート(各4点)を実施する(4×15=60)。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2, 3
その他	10	取り組み姿勢	1, 2, 3

テキスト	教員が作成した資料を用いる
参考書	第17巻 福祉心理学(公認心理師の基礎と実践) 中島健一など 遠見書房
履修条件・他の科目との関連	心理学関連の科目を履修していることが望ましい。 新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13082001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	司法・犯罪心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	板山 昂				
シラバス執筆(主)	板山 昂				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。
 本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた心理学的支援について学習します。
 また、上記の理解を深めることで、心理コミュニケーション学科のDPに示される「心の働きに関する知識を修得している。(心理知識)」、「情報を読み解き、筋道立てて物事を考えることができる(論理的思考力)」、「受容的な態度をもって多様な他者と接することができる。(受容性)」ことを目指します。

※注意事項※

本科目では、犯罪被害、特に虐待やDV、ストーカーなど大学生でも決して他人ごとではない犯罪の被害・加害についてとりあげるため、授業時に精神的にしんどくなることが否定できません。
 その点に注意して履修してください。

到達目標

1. 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。
2. 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。
3. 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。
4. ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション：犯罪心理学とは何か、統計面から我が国の犯罪状況
 第2回：犯罪・非行の原因論①（生物学的要因）
 第3回：犯罪・非行の原因論②（精神、心理的要因）
 第4回：犯罪・非行の原因論③（環境の要因）
 第5回：窃盗・強盗（窃盗の原因・予防・解決・支援）
 第6回：子ども虐待（原因、虐待に関する制度・法律、関連機関、支援）
 第7回：DVとデートDV（加害者・被害者における心理学的問題、制度・法律、関連機関）
 第8回：ストーキング（発生原因と法律、関連機関、支援）
 第9回：その他の犯罪類型
 第10回：犯罪者プロファイリング
 第11回：法と心理学①（取り調べと供述の心理学・目撃供述の心理学）
 第12回：法と心理学②（裁判）
 第13回：更生・矯正（関連法律や関連機関）
 第14回：犯罪被害への支援（心理的被害・2次被害、支援と関連機関）
 第15回：再犯リスク予防（アセスメントの次元と手法）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回のテーマについて関連文献を調べたり、犯罪のニュースをチェックしておく。
 事後学習：各回の授業資料を整理し、ふりかえりを行う。

事前・事後学習には、毎回およそ1.5時間～2時間を要する。
 なお、事前・事後学習は各回の前後に具体的なテーマを提示し、調べ学習を求める場合がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のレポートについて、次の授業冒頭で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	100	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業終了時に課す振り返りレポート・小テスト点での評価(15回分) 評価基準 ・問題に対して授業内容を理解したうえでの具体的で明確な回答が来ているか。 ・レポートとして不適切な日本語表現, 誤字脱字等は減点対象とする。 ・感想を求める場合の採点の参考基準 【A】的確な着眼点の意見、感想。 【B】授業内容を適切に理解している内容と意見。 【C】授業内容の理解が不十分なもの。 【D】ただの感想(感情的な評価)。 【E】あまりにも稚拙な感想。 	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	特に指定はしない。毎授業で資料を配布する		
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<p>心理学関連の他科目をある程度履修済みであることが望ましい。 発達心理学や臨床心理学, 社会心理学など, 様々な心理学ある程度の知識がある前提で説明をすることになるため, 1年生では理解がしにくいところがある。 科目担当者としては2年生以上が受講することを想定している。</p>		

授業コード	13082101	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	精神疾患とその治療 [対面]				
シラバス執筆(全員)	若井 貴史				
シラバス執筆(主)	若井 貴史				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は公認心理師を目指す人のための発展科目である。公認心理師を目指す者にとっては、心理学の「周辺学問」について熟知しておく必要がある。特に近年、社会のあらゆる分野で心の病の問題が大きく取り上げられているだけに、精神医学の知識は必須であるといつてよい。保健医療領域を目指す者だけでなく、他の領域を志望している者にとっても、精神医学の知識は必要不可欠である。

本講義では、精神医学についての基本知識を身につけ、現在の精神医学の基本的考え方を理解することを目的とする。そのために、さまざまな精神疾患の特徴やその治療の基礎を概説する。授業はパワーポイントにて行い、文字情報だけでなく、できるだけ具体的なイメージが浮かぶように、静止画・動画の資料などを提示する講義形式とする。ただ、知識を定着させたり、意見を交流したりするために、ワークを取り入れることもあるので、主体的に参加することが望まれる。現在、精神科病院に勤務している経験をもとに、実務家教員として、将来、心理関係の業務に従事したいと考えている人に役立つ授業としたい。

到達目標

1. 各精神疾患の特徴を説明できる。
2. 各精神疾患に対する治療法や支援方法を説明できる。
3. 向精神薬の種類と作用・副作用を説明できる。
4. 医療機関との連携や多職種連携について説明できる。

授業計画

- 【第1回】精神医学の歴史的展望：診断と治療の歴史
- 【第2回】精神医学診断体系：ICDとDSM
- 【第3回】統合失調症：幻覚と妄想
- 【第4回】気分障害：うつ病と双極性障害
- 【第5回】不安障害：生活にひそむ不安
- 【第6回】アルコール・薬物依存・ネット依存：さまざまな依存や嗜癖
- 【第7回】パーソナリティ障害：偏りが生きづらさを生む
- 【第8回】摂食障害：食行動の異常と痩せ願望
- 【第9回】発達障害：発達の凸凹
- 【第10回】認知症とその周辺：中核症状と行動・心理症状
- 【第11回】社会的ひきこもり：「ひきこもり」の多面的側面
- 【第12回】薬物療法：向精神薬の種類と作用・副作用
- 【第13回】心理療法：その適応と有効因子
- 【第14回】社会療法、予防と早期介入：さまざまな介入法
- 【第15回】多職種連携・リエゾン：コンサルテーション・リエゾン精神医学

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業前にテキスト当該箇所を読む。
毎回の授業後に、授業内容を復習し、テキストの「学習チェック表」の項目を自分なりの言葉で説明できるようにする。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては後の授業あるいは、Google Classroomにて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、授業時に実施する課題について1/3以上の未提出の場合、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内で提示された各種レポート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	加藤隆弘・神庭重信(編)『精神疾患とその治療』(遠見書房)、2800円、ISBN978-4-86616-072-6		
------	-----------------------------------------------------------	--	--

参考書	岡田尊司(著)『働く人のための精神医学』(PHP新書) 山下格(著)『精神医学ハンドブック 医学・保健・福祉の基礎知識(第8版)』(日本評論社) その他は、必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	予習・復習時にテキストをくり返し読みこみ、精神医学の全体像をしっかりと頭に描けるようになってください。キーワードについてはきちんと覚え、説明できるようにしてください。		
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13082201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	関係行政論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰、藤田 了、吉田 武大、若井 貴史、黒川 優美子				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための発展科目である。公認心理師に関係する保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野における法律および制度を概観する。主に、憲法、医療法、社会保障法、教育法、民法、国家賠償法、裁判所法、刑法、刑事訴訟法、少年法、犯罪者処遇法（刑事政策）、労働法、障害者雇用促進法などの法律およびそれらに関連する制度が考察の対象となり、多くの専門分野にわたる。また、公認心理士は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働など多職種にわたって、また地域との緊密な連携に基づき、主に心理的側面から、個人・集団・社会に幅広い支援を提供する。このような公認心理士の重要な役割を認識するとともに、公認心理士の法的義務の確認、心理に関する支援を要する者などの安全・利益を最優先する態度の涵養を通じて、現場での問題を自らまたは連携によって解決する能力を身につけることを目標とする。

到達目標

1. 保健医療分野に関する法律・制度について理解できる。
2. 福祉分野に関する法律・制度について理解できる。
3. 教育分野に関する法律・制度について理解できる。
4. 司法・犯罪分野に関する法律・制度について理解できる。
5. 産業・労働分野に関する法律・制度について理解できる。

授業計画

1. オリエンテーション（「心理に関する支援を要する者」の権利など）。
2. 保健医療分野に関する法律・制度（1）（高齢者医療保険制度、医療保険制度、医療法など）
3. 保健医療分野に関する法律・制度（2）（精神保健福祉法、地域包括ケアシステムなど）
4. 福祉分野に関する法律・制度（1）（児童福祉法、子ども・子育て支援法、児童虐待防止法、児童福祉の行政組織・施設など）
5. 福祉分野に関する法律・制度（2）（高齢者福祉、老人福祉法、老人保健法、高齢者の住居、介護保険制度など）
6. 福祉分野に関する法律・制度（3）（障害者福祉、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者差別解消法など）
7. 福祉分野に関する法律・制度（4）（成年後見制度、成年被後見人に対する民法の契約法・不法行為法・家族法の適用、生活保護制度・生活保護法など）
8. 教育分野に関する法律・制度（1）（教育基本法、学校教育法、特別支援教育、障害者権利条約、障害者基本法、発達障害者支援法など）
9. 教育分野に関する法律・制度（2）（学校・施設における幼児・児童・生徒に対する暴力・いじめ問題、いじめ防止対策推進法、国家賠償法、民法の不法行為法、教員、養護教員、スクールカウンセラー、学校、教育委員会など）
10. 司法・犯罪分野に関する法律・制度（1）（要支援者と刑法、要支援者と刑事訴訟法、要支援者と少年法など）
11. 司法・犯罪分野に関する法律・制度（2）（要支援者と刑事施設処遇法、他害行為と措置入院、心神喪失者等医療観察法、刑罰と精神医療の問題など）
12. 司法・犯罪分野に関する法律・制度（3）（犯罪被害者等基本法、犯罪被害者補償法、犯罪被害者援助組織など）
13. 産業・労働分野に関する法律・制度（1）（労働法、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、過労死防止対策推進法など）
14. 産業・労働分野に関する法律・制度（2）（障害者雇用促進制度、一般就労支援、労働基準監督官、障害者職業センターなど）
15. まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回：（事前）シラバスを熟考し、授業概要を理解（事後）オリエンテーション内容の復習。
 第2～14回：（事前）保険医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野についての予習（事後）授業内容の復習。
 第15回：（事前）授業内容の振り返り、（事後）授業内容の復習。
 各回ともに事前・事後合わせて4時間の学習が必要。

課題に対するフィードバックの方法

希望者には採点基準と評価を個別に連絡する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	小レポート, または小テスト	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	関係行政論(公認心理師の基礎と実践)元永拓郎(編)黒川達雄(法律監修)遠見書房
------	-----------------------------------------

参考書	適宜指示する。
-----	---------

履修条件・他の科目との関連	公認心理師の資格取得を目指す場合は必ず履修すること。 複数教員でのオムニバス形式となり, 授業日程が通常と異なることからUNIPA・Googleクラスルームでの情報確認を忘れないこと(授業は1年を通して実施される)。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13100701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	障害者・障害児心理学 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	牧野 幸志				
シラバス執筆(主)	牧野 幸志				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この講義では、さまざまな障害を持つ成人または子どもの現状、心理的特性と支援について、幅広く解説していく。まず、身体障害、精神障害、知的障害など、それぞれの障害について、機能と心的特性を解説して、その特徴と支援の在り方について考えていく。その後、教育場面あるいは社会現場での実際の心構えやその実際の援助について矯正社会の視点から明らかにしていく。オンデマンドではあるが、主体的・能動的に活動すること。

到達目標

1. 身体障害、知的障害および精神障害の概要を機能、心理的特性から説明することができる。
2. 障害者・障害児への適切な支援について、具体的に説明することができる。
3. 共生・共存社会の実現のため、教育現場(学校など)や社会現場においてどのような支援が求められているかを記述することができる。

授業計画

この授業は、遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間にZoom等で参加する方法)ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形(オンデマンド型)で実施予定です。

【第1回】

テーマ：障害者・障害児心理学とは？

内容・方法：ガイダンス 授業ルールの説明 障害者・障害児心理学とは？

【第2回】

テーマ：障害者心理学へのいざない

内容・方法：障害者心理学の意義と目的、障害の定義、障害者心理学が役立つ仕事

【第3回】

テーマ：視覚障害の心理とその支援

内容・方法：視覚障害とは、視覚障害の心理特性

【第4回】

テーマ：聴覚障害の心理とその支援

内容・方法：聴覚障害とは、聴覚障害の心理特性

【第5回】

テーマ：音声・言語障害の心理とその支援

内容・方法：音声・言語障害とは、音声・言語障害の心理特性

【第6回】

テーマ：知的障害の心理とその支援

内容・方法：知的障害とは、知的障害の心理特性

【第7回】

テーマ：知的障害と発達障害

内容・方法：知的障害心理学が役立つ仕事、発達障害の心理

【第8回】

テーマ：自閉スペクトラム症とその支援

内容・方法：自閉スペクトラム症とは、自閉スペクトラム症の心理特性

【第9回】

テーマ：学習障害の心理とその支援

内容・方法：学習障害とは、学習障害の心理特性

【第10回】

テーマ：注意欠陥・多動症の心理とその支援

内容・方法：注意欠陥・多動症とは、注意欠陥・多動症の心理特性

【第11回】

テーマ：情緒障害の心理とその支援

内容・方法：情緒障害とは、情緒障害の心理特性

【第12回】

テーマ：肢体不自由の心理とその支援

内容・方法：肢体不自由とは、肢体不自由の心理特性

【第13回】

テーマ：健康障害の心理とその支援

内容・方法：健康障害とは、健康障害の心理特性

【第14回】

テーマ：重度・重複障害の心理とその支援

内容・方法：重度・重複障害とは、重度・重複障害の心理特性

【第15回】

テーマ：障害心理学への支援、まとめ

内容・方法：各障害に対する心理的支援の在り方

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

以下の手順・方法で事前学修各2時間、事後学修各2時間とする。

- ①事前学修課題：各回の学習内容に該当する教科書部分を読み、キーワードを理解する。
- ②事後学修課題：各回の学習内容を理解できたか復習し、要点をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回テーマごとにいくつかの授業課題を出す。出された課題に対して、回答を提出してください。翌週の授業以降にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。毎週の授業で実施される小テスト(40%)、授業課題(40%)と定期試験に代わる課題(レポート課題)(20%)の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、所定の単位を認定する。合格の基準以上の小テストを受験していない場合、また、授業課題を提出していない場合、また、定期試験に代わる課題を提出していない場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業内で実施される小テスト(40%)、授業内で課される授業課題(40%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート課題(教科書の指定箇所を読んでまとめる課題)(20%)	2, 3
その他	0		

テキスト 障害者心理学(シリーズ心理学と仕事 15)/太田 信夫(監修), 柿澤 敏文(編集)/北大路書房/2017/978-4762829840

参考書

履修条件・他の科目との関連

この授業は遠隔授業(オンデマンド)となります。毎週該当曜日時限前に動画を配信します。動画の配信、小テストの実施、授業課題、レポート課題(定期試験に代わる課題)の提出は、moodleを使用します。期間内に動画を視聴し、動画内の授業課題の答えをスマホ等にメモしておいてください。動画視聴後、提出となります。また、動画視聴後に小テスト(受験時間制限あり)を受けてください。小テストには受験期限等、授業課題とレポート課題(教科書課題)には締切があります。必ず守ってください。動画は一定期間公開されます。視聴期間内に視聴してください。最後に、定期試験に代わるレポート(20%)があります。教科書などを読んで提出すること。
本科目は、公認心理師の国家試験のための科目です。将来、国家資格取得希望の方はしっかりと学習すること。

授業コード	13024001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学研究法 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための基礎科目である。
人間の心と行動を科学的に研究する心理学においては、実際に集めた証拠(データ)に基づいて仮説や理論の正当性を示すことが求められる。
本科目では、確かな証拠を得るための心理学の研究方法について学ぶ。
具体的には、観察、実験、調査、検査、面接によってデータを収集する方法、統計的手法を用いたデータの処理、実証的な思考方法について学ぶ。

到達目標

1. 心理学の研究方法(実験法、調査法、面接法、検査法)についての知識と手法を習得する。
2. 研究テーマに応じて仮説を立て、それが得られたデータによって支持されているかを検証できるようになる。
3. クリティカル思考(証拠に基づく論理的で偏りのない思考)を身につける。

授業計画

- 第01回 心理学研究法Iで学ぶこと：科学と実証
第02回 実験法①：独立変数と従属変数(錯視の実験)
第03回 統計法①：実証の手続き(測定の基本)
第04回 統計法②：記述統計(データの図表化と数値要約)
第05回 実証的思考法：相関と因果
第06回 実験法②：剰余変数と統制(鏡映描写の実験)
第07回 実験法③：自律神経系の実験(心拍測定)
第08回 実験法④：実験デザイン(ストループ効果の実験)
第09回 調査法①：SD法でのイメージ測定
第10回 調査法②：質問紙の作成
第11回 調査法③：社会調査の方法
第12回 調査法④：母集団と標本
第13回 心理学史①：心理学の誕生まで
第14回 心理学史②：20世紀の三大潮流
第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき1.5時間ほどの事前学習および2.5時間ほどの事後学習が必要。
事前学習の内容については1週前の授業で通達する。
事後学習では、授業で取り上げた研究法について、専門書等でさらに理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業課題については、翌週の授業の冒頭でフィードバックを実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業課題	2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	70		1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 講義レジュメをClassroomに投稿する。

参考書	授業中に適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は「心理学実験Ⅰ」と同時に受講すること。 後期の「心理学研究法Ⅱ」も含めて必ず通年で履修すること。 いずれも公認心理師資格取得、認定心理士資格申請に必須の科目。

授業コード	13024101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学研究法Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための基礎科目である。
人間の心と行動を科学的に研究する心理学においては、実際に集めた証拠(データ)に基づいて仮説や理論の正当性を示すことが求められる。
この授業では、「確かな証拠」を得るための心理学の研究方法について学ぶ。
具体的には、性格や態度などを測定するために用いる心理尺度の作成方法や実験法、統計的手法を用いたデータの処理について学ぶ。

到達目標

1. 心理学の研究方法(実験法、調査法、面接法、検査法)についての知識と手法を習得する。
2. 研究テーマに応じて仮説を立て、それが得られたデータによって支持されているかを検証できるようになる。
3. クリティカル思考(証拠に基づく論理的で偏りのない思考)を身につける。

授業計画

第01回	心理学研究法Ⅱで学ぶこと：オリエンテーション
第02回	実験法①：自由再生の実験
第03回	実験法②：蝕2点閾の実験
第04回	心理学論文の読み方①：心理学論文の構成
第05回	心理学論文の読み方②：統計的手法の概説
第06回	心理学論文の読み方③：パラグラフで読み取る
第07回	調査法①：5因子性格測定
第08回	観察法：自然観察法
第09回	統計法：クロス表の作成
第10回	調査法②：リッカート尺度の作成
第11回	調査法③：項目分析
第12回	調査法④：信頼性と妥当性
第13回	面接法と検査法
第14回	計量テキスト分析
第15回	まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき1.5時間ほどの事前学習および2.5時間ほどの事後学習が必要。
事前学習の内容については1週前の授業で通達する。
事後学習では、授業で取り上げた研究法について、専門書等でさらに理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業課題については、翌週の授業の冒頭でフィードバックを実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中の課題	2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	70		1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 講義レジュメをClassroomに投稿する。

参考書	授業中に適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は「心理学実験Ⅱ」と同時に受講すること。 前期の「心理学研究法Ⅰ」も含めて必ず通年で履修すること。 いずれも公認心理師資格取得、認定心理士資格申請に必須の科目。

授業コード	13082401	授業形態	実験	実務家教員	—
授業科目名	心理学実験Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

心理学実験Ⅰでは、心理学における実験的研究の基礎を習得することを目的とする。そのため、心理学の実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・学習・認知・社会等の領域を中心に、実験・調査等の方法について、実験・実習の実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者）として参加体験する。心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察して実験報告書に課題をまとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を身につける。
なお、以下の授業内容は進捗等により変更する可能性があり、変更する際には授業内でその旨を伝える。

到達目標

1. さまざまな実験的技法・実証的手法について知識を身につけ、その内容を説明し、実際に使うことができる。
2. 数量的・仮説検証的調査研究について説明し、それを実施することができる。
3. レポートの締め切りを守ることやグループでの討論を通じて、心理的耐性を身につけることができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション：授業の進め方および実験や調査の概要についての説明
第2回	実験1（ミュラーリヤーの学習）：実験の説明と実験器具の使い方
第3回	実験1（ミュラーリヤーの学習）：実験の実施
第4回	実験1（ミュラーリヤーの学習）：結果のまとめとレポート作成
第5回	実験2（両側性転移）：実験の説明
第6回	実験2（両側性転移）：実験の実施
第7回	実験2（両側性転移）：結果のまとめと発表
第8回	実験3（生理指標）：実験の実施
第9回	実験3（生理指標）：結果のまとめとレポート作成
第10回	実験4（認知的葛藤）：実験の説明と実施
第11回	実験4（認知的葛藤）：結果のまとめ
第12回	実験4（認知的葛藤）：レポートの作成と発表
第13回	実験5（SD法の学習）：内容の説明と準備
第14回	実験5（SD法の学習）：実施とデータ作成
第15回	実験5（SD法の学習）：結果のまとめと発表

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習として、実験や調査の内容について情報を収集しておくこと。
事後学習として、個人レポートの作成等を行うことが必要である。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後、希望者に点数と内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題と、定期試験に代わるレポート等の評価結果に基づき、総合的に判定する。
60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
欠席回数が3分の1を超える場合は評価対象外とする。
原則として、全課題に実験者・実験参加者として実習を体験し、指定期限内にレポートを提出すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業内で課される課題・発表	1, 2, 3
授業外での評価	20	課題レポート	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	心理学研究法 I を同時に履修してください。 認定心理士および公認心理師の資格希望者は、必ず履修してください。

授業コード	13082501	授業形態	実験	実務家教員	—
授業科目名	心理学実験Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

心理学実験Ⅱでは、心理学における実験的研究の基礎を習得することを目的とする。そのため、心理学の実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・認知・社会等の領域を中心に、実験・観察・調査等の方法について、実験・実習の実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者）として参加体験する。心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察して実験報告書に課題をまとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を身につける。
 なお、以下の授業内容は進捗等により変更する可能性があり、変更する際には授業内でその旨を伝える。

到達目標

- さまざまな実験的技法・実証的手法について知識を身につけ、その内容を説明し、実際に使うことができる。
- 数量的・仮説検証的調査研究について説明し、それを実施することができる。
- レポートの締め切りを守ることやグループでの討論を通じて、心理的耐性を身につけることができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション：授業の進め方および実験や調査の概要についての説明
第2回	実験1（自由再生の学習）：内容の説明と準備
第3回	実験1（自由再生の学習）：実施とデータ作成
第4回	実験1（自由再生の学習）：結果のまとめとレポート作成
第5回	行動観察：観察の計画
第6回	行動観察：結果のまとめと報告
第7回	性格テスト：内容の説明と準備
第8回	性格テスト：調査の実施
第9回	性格テスト：結果のまとめと発表
第10回	知能検査：説明と実施
第11回	知能検査：結果のまとめと報告
第12回	調査（リッカート法の学習）：内容の説明と準備
第13回	調査（リッカート法の学習）：調査の実施とデータの作成
第14回	調査（リッカート法の学習）：結果のまとめと発表
第15回	まとめ：期末レポート作成準備

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習として、実験や調査の内容について情報を収集しておくこと。
 事後学習として、個人レポートの作成等を行うことが必要である。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題レポートについては採点した後にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題と、定期試験に代わるレポート等の評価結果に基づき、総合的に判定する。
 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 欠席回数が3分の1を超える場合は評価対象外とする。
 原則として、全課題に実験者・実験参加者として実習を体験し、指定期限内にレポートを提出すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業内課題・発表	1, 2, 3
授業外での評価	30	課題レポート	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	心理学研究法Ⅱを同時に履修してください。 認定心理士および公認心理師の資格希望者は、必ず履修してください。

授業コード	13106901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	心理学実験演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

心理学実験演習では、心理学における実験的研究の基礎を習得することを目的とする。そのため、心理学の実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・学習・認知・社会等の領域を中心に、実験・調査等の方法について、実験・実習の実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者）として参加体験する。心理学の基礎実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察して実験報告書に課題をまとめることを通じて、実験的技法・実証的手法の体系的な知識を身につける。
なお、以下の授業内容は進捗等により変更する可能性があり、変更する際には授業内でその旨を伝える。

到達目標

- さまざまな実験的技法・実証的手法について知識を身につけ、その内容を説明し、実際に使うことができる。
- 数量的・仮説検証的調査研究について説明し、それを実施することができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション	：授業の進め方および実験や調査の概要についての説明
第2回	演習1（一対比較と投影法）	：実験の説明
第3回	演習1（一対比較と投影法）	：実験の準備と実施
第4回	演習1（一対比較と投影法）	：結果のまとめ
第5回	演習1（一対比較と投影法）	：レポート作成
第6回	演習2（概念識別）	：実験の説明
第7回	演習2（概念識別）	：実験の準備
第8回	演習2（概念識別）	：実験の実施
第9回	演習2（概念識別）	：結果のまとめ
第10回	演習2（概念識別）	：レポート作成
第11回	演習3（創造性課題）	：実験の説明
第12回	演習3（創造性課題）	：実験の準備
第13回	演習3（創造性課題）	：実験の実施
第14回	演習3（創造性課題）	：結果のまとめ
第15回	演習3（創造性課題）	：レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、実験や調査の内容について情報を収集しておくこと。
事後学習として、個人レポートの作成等を行うことが必要である。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題レポートについては採点した後にフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施されるレポート課題と、最終レポート等の評価結果に基づき、総合的に判定する。
60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
欠席回数が3分の1を超える場合は評価対象外とする。
原則として、全課題に実験者・実験参加者として実習を体験し、指定期限内にレポートを提出すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内課題・レポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	最終レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	認定心理士の資格希望者は、必ず履修してください。

授業コード	13082601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学統計法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師を目指す人のための基礎科目である。講義では、心理学における実験および調査で収集したデータを統計的手法を用いて理解できるように統計学の基本的な概念と知識の修得を目的とする。

到達目標

1. 心理学で用いられる統計手法を説明できる。
2. 統計に関する基礎的な知識を説明できる。

授業計画

- 第1回 心理学統計法とは何か
- 第2回 度数分布とヒストグラム
- 第3回 データ・変数・尺度水準
- 第4回 1つの変数の記述統計-データの記述
- 第5回 2つの変数の記述統計-相関と回帰
- 第6回 統計的推測の基礎
- 第7回 クロス集計表の検定
- 第8回 2群の平均値差の検定
- 第9回 複数の群の平均値差の検定
- 第10回 相関分析
- 第11回 重回帰分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 ノンパラメトリック検定
- 第14回 効果量と信頼区間, メタ分析
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：前授業の復習。各回ごとに2時間以上。
事後学習：小課題の作成・授業コメントの入力など。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についてフィードバックを授業前半で行うことで、適正な回答事例を確認することができる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小レポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末テスト	1, 2
その他	0		

テキスト 心理学統計法(公認心理師の基礎と実践)繁榊算男・山田剛史(編)遠見書房

参考書 適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連 心理学研究法I・IIおよび心理学実験演習I・IIを単位取得していることが受講の必要条件である。心理学統計法演習I・IIを同年次に履修しなければならない。公認心理師の資格取得を目指す場合は必ず履修すること。認定心理士の資格を必要とする場合は単位取得が望ましい。「心理学系ゼミ」の学生は履修および単位取得が必須である。

授業コード	13082701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	心理学統計法演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目では、心理学統計法で学習した統計的手法や知識をもとに実際に心理学実験および調査により収集したデータをExcelとSPSSで解析しながら、心理学統計に関する手法を修得することを目的とする。

到達目標

1. 心理学統計法で学習した統計的手法や知識をもとに、心理学関連のデータを処理することができる。
2. Excelを用いてデータの集計やグラフ化をおこなうことができる。
3. SPSSを用いて多変量解析をおこなうことができる。

授業計画

- 第1回 心理学統計法とは何か（演習内容の紹介）
 第2回 統計ソフトの扱い方（統計ソフトの扱い方について）
 第3回 「変数とデータ」（「変数とデータ」に関する演習）
 第4回 「度数分布」に関する演習1（度数分布表の作成）
 第5回 「度数分布」に関する演習2（ヒストグラムの作成）
 第6回 「正規分布」（「正規分布」に関する演習）
 第7回 「記述統計」に関する演習1（データの特徴）
 第8回 「記述統計」に関する演習2（代表値と散布度）
 第9回 「統計的検定」（「統計的検定」に関する演習）
 第10回 「対応のないt検定」（「対応のないt検定」に関する演習）
 第11回 「対応のあるt検定」（「対応のあるt検定」に関する演習）
 第12回 「 χ^2 検定」（「 χ^2 検定」に関する演習）
 第13回 「分散分析」（「分散分析」に関する演習）
 第14回 「分散分析の下位検定」（「分散分析の下位検定」に関する演習）
 第15回 心理学統計法演習Iのまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：前授業の復習。各回ごとに2時間以上。
 事後学習：小課題の作成・授業コメントの入力など。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題から適切な解答例をフィードバックとして授業前半に提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小課題	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末課題	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 適宜紹介する。

参考書 適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連 心理学研究法I・IIおよび心理学実験演習I・IIを単位取得していることが受講の必要条件である。心理学統計法、心理学統計法演習IIを同年次に履修しなければならない。公認心理師の資格取得を目指す場合は必ず履修すること。認定心理士の資格を必要とする場合は単位取得が望ましい。

履修条件・他の科目との関連

「心理学系ゼミ」の学生は履修および単位取得が必須である。

授業コード	13082801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	心理学統計法演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目では、心理学統計法で学習した統計的手法や知識をもとに実際に心理学実験および調査により収集したデータをSPSSで解析しながら、心理統計に関する手法を修得することを目的とする。

到達目標

1. 心理統計学Ⅰで学習した統計的手法や知識をもとに、心理学関連のデータを処理することができる。
2. Excelを用いてデータの集計やグラフ化をおこなうことができる。
3. SPSSを用いて多変量解析をおこなうことができる。

授業計画

- 【第1回】 心理統計法の事例研究（心理統計法の事例研究について）
- 【第2回】 多変量解析と推測統計の種類（多変量解析と推測統計の種類について）
- 【第3回】 「相関分析」に関する演習1（量的変数と質的変数）
- 【第4回】 「相関分析」に関する演習2（ピアソンの相関分析）
- 【第5回】 「重回帰分析」に関する演習1（分析モデル）
- 【第6回】 「重回帰分析」に関する演習2（変数の設定）
- 【第7回】 「重回帰分析」に関する演習3（変数の投入）
- 【第8回】 「因子分析」に関する演習1（分析モデル）
- 【第9回】 「因子分析」に関する演習2（直交回転）
- 【第10回】 「因子分析」に関する演習3（斜交回転）
- 【第11回】 心理統計法演習の応用課題1（記述統計）
- 【第12回】 心理統計法演習の応用課題2（統計的検定）
- 【第13回】 心理統計法演習の応用課題3（相関分析）
- 【第14回】 心理統計法演習の応用課題4（重回帰分析、因子分析）
- 【第15回】 心理統計法演習Ⅱのまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：前授業の復習。各回ごとに2時間以上。
 事後学習：小課題の作成・授業コメントの入力など。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題から適切な解答例をフィードバックとして授業前半に提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小課題	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末課題	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 適宜紹介する。

参考書 適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連 心理学研究法I・IIおよび心理学実験演習I・IIを単位取得していることが受講の必要条件である。心理学統計法、心理学統計法演習Iを同年次に履修しなければならない。公認心理師の資格取得を目指す場合は必ず履修すること。認定心理士の資格を必要とする場合は単位取得が望ましい。

履修条件・他の科目との関連

「心理学系ゼミ」の学生は履修および単位取得が必須である。

授業コード	13082901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	心理的アセスメント [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、心理テスト等についての演習、および理論的背景や実施方法等に関する講義を行う。それによって、心理的アセスメントに関する基礎知識を学習するとともに、受講者自身の自己理解を通して、コミュニケーションスキルや問題解決能力を獲得することも目的とする。
本授業で取り扱う心理テストは主に質問紙法を中心とする。なお下記の授業計画は、受講者の要望や進捗状況により変更する場合がある。

到達目標

1. 心理的アセスメントの目的と方法について説明できる
2. 心理テストの演習を通して、自らのパーソナリティや心理特性について説明できる

授業計画

- 第1回 心理的アセスメントとは
第2回 心理的アセスメントの目的と倫理
第3回 質問紙法 (1) : パーソナリティ (交流分析) に関する検査①
第4回 質問紙法 (2) : パーソナリティ (5因子モデル) に関する検査
第5回 質問紙法 (3) : 職業適性に関する検査
第6回 作業検査法
第7回 質問紙法 (4) : 状態的な不安に関する検査
第8回 認知機能検査
第9回 描画法
第10回 質問紙法 (5) : パーソナリティ (特性論) に関する検査
第11回 質問紙法 (6) : パーソナリティ (交流分析) に関する検査②
第12回 質問紙法 (7) : ストレスに関する検査①
第13回 質問紙法 (8) : ストレスに関する検査②
第14回 質問紙法 (9) : 集団適応に関する検査
第15回 総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1～2回】

事前：心理的アセスメントの概要・目的、および倫理について事前に調べる
事後：授業で提示した内容について復習し、重要なポイントの整理をする

【第3～14回】

事後：授業で体験した方法・結果・解釈について復習する

【第15回】

事前：これまでに学習した内容をすべて整理し、重要なポイントをまとめておく
事後：これまで学習した内容や、心理テストの結果をもとに、自己理解が深まった点についてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題やレポートについては授業内で全体的な講評・解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題と、定期試験に代わるレポート(期末レポート)の結果に基づき、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席5回以上、または定期試験に代わるレポート未提出の場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	40	期末レポート	1, 2
その他	0		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	心理学関連の科目を受講していることが望ましい。		

授業コード	13082902	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	心理的アセスメント [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、公認心理師となるために必要な基礎心理学の一科目である。授業では、心理的アセスメントの目的や理論を学んだ後に、臨床現場で用いられることが多い心理検査を実際に体験し、結果の分析、解釈、所見作成、報告について学習する。毎回の授業で心理検査の演習を実施し、結果の解釈を行い、検査結果報告書を作成します。授業では、担当教員が長年にわたり現場で心理支援を行ってきた経験をもとに、実務家教員として、理論的理解に加えて実践や事例を交えて、できるだけわかりやすく講義を展開する。

到達目標

- 1、心理的アセスメントの目的や責任などについて理解し、説明することができる
- 2、心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について概説できる
- 3、心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈することができる
- 4、適切に記録、報告、ふりかえり等を行うことができる

授業計画

【第1回】	心理的アセスメントの目的と責任、質問紙法：	演習	実施と報告書作成
【第2回】	描画式投影法	演習	実施と報告書作成
【第3回】	発達検査：	演習	実施
【第4回】	発達検査：	演習	実施
【第5回】	発達検査：	演習	スコアリング
【第6回】	発達検査：	演習	報告書作成
【第7回】	投影法：	演習	実施と報告書作成
【第8回】	投影法：	演習	実施と報告書作成
【第9回】	質問紙法：	演習	実施と報告書作成
【第10回】	作業検査法	演習	実施と報告書作成
【第11回】	質問紙法：	演習	実施と報告書作成
【第12回】	投影法：	演習	実施と報告書作成
【第13回】	質問紙法：	演習	実施と報告書作成
【第14回】	投影法：	演習	実施と報告書作成
【第15回】	テストバッテリー	(多角的理解のために心理検査を組み合わせ実施する)	

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間（2単位のため60時間）が必要です。

各回を通じて

【事前】 本などを読み、実施する心理検査の知識を得ておく 1.5時間

【事後】 演習した心理検査を復習し、心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈することができるようにしておく 2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で作成する検査結果報告書について、次の授業の最初にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の検査結果報告書(70)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	1, 2, 3
その他	10	演習への取り組み姿勢(10)	3, 4

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で説明する
履修条件・他の科目との関連	公認心理師となるために必要な他の科目も併せて履修すること。

授業コード	13083001	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	心理演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子、飯田 香織				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、公認心理師クラス対象科目であり、公認心理師受験資格取得に必要な科目である。公認心理師のために必要な知識および技能の基本的な水準の修得を目的とする。次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討で取り上げる。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援等。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、実務家教員として長年の多領域での経験をもとに、将来公認心理師の業務に従事したいと考えている人に役立つ授業としたい。

到達目標

1. 心理に関する支援を要する者等に関する（1）コミュニケーション（2）心理検査（3）心理面接（4）地域支援、の知識及び技能を修得し実践できる
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、及び支援計画の作成について概説できる
3. 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解し、概説できる
4. 多職種連携及び地域連携について理解し、検討することができる
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解し、それに基づく基本的な判断ができる

授業計画

【第1回】

テーマ：イントロダクション。心理検査演習（実施）

内容・方法：実際に心理検査を実施する手順を学ぶ、どのような点を見ていくのかを学ぶ。

【第2回】

テーマ：心理検査演習（スコアリング、結果のフィードバック演習）

内容・方法：検査結果を保護者（もしくは本人）にフィードバックする演習

【第3回】

テーマ：心理教育の理解

内容・方法：心理教育の事例をもとに、グループディスカッションを実施する。

【第4回】

テーマ：多職種連携・地域連携・職業倫理、箱庭

内容・方法：多職種連携・地域連携が必要な様々な場面を想定した模擬事例について、職業倫理との兼ね合いも考えて、具体的な連携方法をワーク形式で考え、ディスカッションする。

【第5回】

テーマ：心理面接演習

内容・方法：架空事例について、心理面接のロールプレイを実施し、面接記録を作成する。

【第6回】

テーマ：心理面接演習

内容・方法：架空事例について、心理面接のロールプレイを実施し、面接記録を作成する

【第7回】

テーマ：プレイセラピー

内容・方法：プレイセラピー演習を行い、どのように理解し、どのように反応するかを考え、ディスカッションする。

【第8回】

テーマ：心理検査演習

内容・方法：投影法を実施し、配布資料をもとに結果を解釈し、検査所見をまとめる。

【第9回】

テーマ：心理検査演習

内容・方法：質問紙法を実施し、配布資料をもとに結果を解釈し、検査所見をまとめる。

【第10回】

テーマ：心理検査演習

内容・方法：質問紙法を実施し、配布資料をもとに結果を解釈し、検査所見をまとめる。

【第11回】

テーマ：コミュニケーション演習

内容・方法：架空事例をもとに心理面接のロールプレイを実施し、面接記録を作成する。

【第12回】

テーマ：コミュニケーション演習

内容・方法：架空事例をもとに心理面接のロールプレイを実施し、面接記録を作成する。

【第13回】

テーマ：コミュニケーション演習

内容・方法：架空事例をもとに心理面接のロールプレイを実施し、面接記録を書く。

【第14回】

テーマ地域支援と事例の理解
内容・方法：地域支援の事例をもとに、グループワークを実施する。

【第15回】

テーマ：心理演習のまとめ

内容・方法：授業内容の振り返りおよび、授業内課題の作成

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業内容に合わせた文献を読むなどの事前学習1.5時間および、実施した心理検査の所見を作成するという2.5時間の事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

提出した心理検査所見や面接記録等について、コメント記入後、返却する。数人分の所見を記録を読み上げ、全体に向けてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の心理検査所見、面接記録、リアクションペーパー、受講態度、演習への取り組み態度、最終課題の総合評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の演習参加態度(30)質疑応答(10)リアクションペーパー(10)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	心理検査所見、面接記録等の提出課題の量(10)および質(20)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト プリントを配布する。

参考書 必要に応じて資料や参考図書を紹介、配布する。

履修条件・他の科目との関連 公認心理師クラス対象の科目である。他の公認心理師受験に必要な科目について、ある一定以上の成績で単位取得していること等の履修条件がある。心理演習の履修・単位取得は、心理実習の履修の条件となる。

授業コード	13083101	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	心理実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織、森下 雄輔、青野 明子、戸口 愛泰、林 幸史				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	4年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は公認心理師クラス対象科目であり、公認心理師受験資格取得に必要な科目である。公認心理師のために必要な知識および技能の基本的な水準の修得を目的とする。心理実習を通して、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、相談援助に係る知識と技術について教員による指導を受ける。また、公認心理師として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

次に挙げる事項について心理実習指導担当教員による指導及び施設関係者との連携のもと個別指導を行う。
 (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ) 多職種連携及び地域連携、(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、実務家教員として長年の多領域での実務経験をもとに、将来公認心理師の業務に従事したいと考えている人に役立つ授業としたい。

到達目標

1. 公認心理師に必要な知識と技術、職業倫理及び法的義務について、実習を通して理解し、それに基づく基本的な判断ができる
2. 実習先の利用者及び関係者、実習先の組織・運営・地域社会との関わり等から、公認心理師の業務を総合的に理解し、概説できる
3. 母性や乳幼児への心理的支援、高齢者への心理的支援、教育現場での心理的支援、子どもをめぐる問題への心理的支援、司法・犯罪分野での心理的支援、職場のメンタルヘルスにかかわる心理的支援について理解し、概説できる。
4. 多職種連携及び地域連携、チームアプローチによる総合的支援の実践について理解し、概説できる

授業計画

【実習の組み合わせと時間】

3年次の『心理演習』を履修した後、4年次の『心理実習』を履修する。心理実習科目における実習時間は合計90時間とする。事前学習30時間、3-5領域から選択した実習時間40時間、事後学習20時間で構成する。

【実習期間と実習日】

実習期間は、集中講義（通年）とする。実習日は、実習生と実習受入機関・施設担当者とは協議の上、決定する。但し、休暇期間を中心に、大学での講義等の受講に支障のない範囲を原則とする。

【実習先の選択】

- ①保健医療分野…医療機関の実習は各自必須とし、提携医療機関（複数）にて実施する。
- ②福祉分野…提携施設について、選択制で実施する。
- ③教育分野…本学園幼稚園、中学・高等学校などの提携教育機関にて、選択制で実施する。
- ④司法・犯罪分野…施設見学への同行、定例会・研修会への参加を選択制で実施する。
- ⑤産業・労働分野…提携施設にて選択制で実施する。
 ・福祉・教育施設への実習時間を多めに取ることで、実習時間の確保を優先する場合もある。その他施設の選択方法については、学生の希望と日時の調整により決定する。

【実習計画】

- ①事前学習…30時間
 - ・4-5月 実習先選択の話し合い
 - ・6月 実習先決定とオリエンテーション
 - ・7月 事前打ち合わせ・実習計画書の作成・実習計画書の印刷、受入先に提出
- ②実習期間…40時間
 - ・8-12月 実習（3-5領域×8-14時間=40時間）（実習施設側の状況などによりこれ以外の時期に実施することもある）
- ③事後学習…20時間
 - ・12月 報告書の作成・報告書の印刷・受入先に提出・発表会（運営）準備・発表会資料作成
 - ・1月 成果発表会

【オリエンテーション内容】

1. 実習領域別グループ編成・実習領域別グループによる学習（領域における現状、課題の検討）
2. 実習計画書の書き方
3. 公認心理師の職域における課題についてグループ討論
4. 実習場面を想定したロールプレイ
5. 実習の心得についてグループ討論
6. テーマ別討論会
7. 発表会
8. 公認心理師ゲスト講師より「公認心理師の現状」
9. まとめ

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

事前学習…30時間

- ・4-5月 実習先選択の話し合い
- ・6月 実習先決定とオリエンテーション
- ・7月 事前打ち合わせ・実習計画書の作成・実習計画書の印刷、受入先に提出

事後学習…20時間

- ・12月 報告書の作成・報告書の印刷・受入先に提出・発表会（運営）準備・発表会資料作成
- ・1月 成果発表会

課題に対するフィードバックの方法

実習計画書・実習日誌・実習報告書・成果発表会での報告書等の提出課題については、担当教員および実習施設担当者により、確認後フィードバックされる。

成績評価の方法・基準(方針)

受講態度、実習への取り組み態度、実習計画書・実習日誌・実習報告書・成果発表会での報告書等、提出課題の総合評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	実習・事前事後学習への参加態度(30)実習日誌等のリ アクションペーパー(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	40	実習計画書・実習日誌・実習報告書・成果発表会での 報告書等の提出課題の量(20)および質(20)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	成果発表会での最終報告書の作成(10)発表会での質 疑応答(10)	1, 2
その他	0		

テキスト 実習内で適宜資料を配布する。

参考書 実習内で適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連 公認心理師クラス対象科目である。他の公認心理師受験に必要な科目について、ある一定以上の成績で単位取得していること等の履修条件がある。3年次の『心理演習』を履修した後、4年次の『心理実習』を履修する。
実習は資格取得のためのトレーニングであると同時に、実習先では実際の公認心理師としての行動や態度も期待される。初学者としての謙虚さとともに積極性と主体性をもって受講すること。

授業コード	13083201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	心理学特別演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、フリーの統計プログラムHADを用いて各自の卒業研究データを解析し、応用的な観点から心理学におけるデータの分析手法を身につけることを目的としている。
 具体的には、データの入力と加工の仕方から、基礎統計量の算出、t検定や分散分析、さらには因子分析や重回帰分析などの多変量解析の実施方法について学ぶ。
 また、授業では分析結果を卒業論文にどのように記載すればよいのかについても解説する。

到達目標

- 卒業研究で各自が収集したデータを適切な統計手法を用いて分析し、結果を正しく論文に記載し、発表では聴衆に理解させることができる。
- 心理学論文に記載されている分析手法を理解し、正しく結果を読み取ることができる。

授業計画

第01回	心理学特別演習で学ぶこと：統計法の復習
第02回	データの入力と加工
第03回	基礎統計量の算出：データの図表化と数値要約について
第04回	多変量解析①：因子分析について
第05回	α 係数と尺度得点の算出： α 係数と尺度得点の算出について
第06回	論文での結果の記述①：分析結果の論文での記載の仕方について
第07回	変数間の関連：相関分析と χ^2 検定について
第08回	変数間の相違①：t検定について
第09回	変数間の相違②：1要因の分散分析について
第10回	変数間の相違③：2要因の分散分析について
第11回	多変量解析②：クラスター分析について
第12回	多変量解析③：重回帰分析について
第13回	論文での結果の記述②：分析結果の論文での記載の仕方について
第14回	分析結果のプレゼンテーション①
第15回	分析結果のプレゼンテーション②

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき1.5時間ほどの事前学習および2.5時間ほどの事後学習が必要。
 具体的には、授業で取り上げた統計手法について、専門書等でさらに理解を深めておくこと。
 また、各自の卒業研究テーマに関する論文を収集し、どのような分析手法が用いられているのかを調べるのが求められる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題の提出を複数回求めるが、いずれに関しても、採点結果に独自の評価シートを添えて返却する。
 分析結果のプレゼンテーション課題では、口頭にてフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	プレゼンテーション	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	80	分析レポート	1, 2
その他	0		

テキスト なし

参考書	授業中に必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	受講者は心理統計に関する授業を履修し、統計法についての知識を有していること。 また、卒業研究におけるデータを収集済みであること。

授業コード	13099401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コミュニケーションスキル演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

心理コミュニケーション学科の学びにおいて重要な、実用的な場面におけるコミュニケーションの実践的スキルを修得させることを目標とする。
対人的なコミュニケーションスキルのみならず、論文作成やプレゼンテーション場面におけるメディアコミュニケーションスキルにも習熟してもらうことを意図している。

到達目標

1. 実用的な資格を取得可能なレベルのコミュニケーション能力を身につける。
2. 実用的な資格を取得可能なレベルのメディアリテラシーを身につける。

授業計画

第1回	オリエンテーション(演習の概要、授業の進め方)
第2回	コミュニケーション理論(1)「聞く力」「話す力」
第3回	コミュニケーション理論(2)到達度の確認と要注意項目の解説
第4回	求められるメディアリテラシーと基礎スキルについての解説
第5回	文書作成ソフトの実践的使用スキル(1)「文書作成と管理」
第6回	文書作成ソフトの実践的使用スキル(2)「文字・段落・セクションの書式設定」
第7回	文書作成ソフトの実践的使用スキル(3)「表やリストの作成」
第8回	文書作成ソフトの実践的使用スキル(4)「参考資料の適用」
第9回	文書作成ソフトの実践的使用スキル(5)「オブジェクトの挿入と書式設定」
第10回	到達度の最終確認(メディアコミュニケーションスキル)
第11回	表計算ソフトの実践的使用スキル(1)「ワークシートやブックの管理」
第12回	表計算ソフトの実践的使用スキル(2)「セルやセル範囲のデータの管理」
第13回	表計算ソフトの実践的使用スキル(3)「テーブルとテーブルのデータの管理」
第14回	表計算ソフトの実践的使用スキル(4)「数式や関数を使用した演算の実行」
第15回	表計算ソフトの実践的使用スキル(5)「グラフの管理」

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：テキストに目を通しておくこと。
事後学習：テキストに掲載されている問題について復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	実習課題(40)	1, 2
授業外での評価	30	到達度確認テスト(30)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	報告レポート(30)	1, 2
その他	0		

テキスト	なし
------	----

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション検定 初級公式ガイドブック&問題集(1700円+税) ・よくわかるマスター MOS Word 365 & 2019 対策テキスト & 問題集(2100円+税) ・よくわかるマスター MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト & 問題集(2100円+税)
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連

- ・履修者は、MOS(Word)試験の受験を必須とし、履修にあたって検定の事前払込をしてもらう。
- ・とりわけメディアリテラシーに関しては、PCスキルが必須となる。
- ・演習科目につき、履修者制限を設ける。

授業コード	13083301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	コミュニケーション社会学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

コミュニケーションとは人々が互いに知り合い、理解し合うことだと一般に考えられている。たしかにそれもコミュニケーションの一面ではあるが、それだけでは不十分でもある。むしろ互いに知り合わないですませること、理解しないまま過ごすことの方が、コミュニケーションの重要な、ともするとより本質的な側面であるとも言えるのである。ストレンジャー・インタラクションと呼ばれる、他者とのそうしたコミュニケーションについて、通常より広い視野に立った理解を深めていく。

到達目標

1. 文献参照の規則や、文章作法、その他学問的ルールに則った形式の答案を作成できる。
2. 授業内で学習したコミュニケーション社会学的知識を正しく説明することができる。
3. 学術的ルールに則った形式と正しい知識に基づいて、合理的根拠を伴ったコミュニケーション社会学的意見を述べるができる。

授業計画

- 第1回 はじめに ストレンジャー・インタラクション
 第2回 不関与規範
 第3回 社交性
 第4回 「同担拒否」というストレンジャーインタラクション
 第5回 ドラマトゥルギー
 第6回 役割と役柄
 第7回 感情労働
 第8回 前半まとめ
 第9回 ラベリング理論
 第10回 役割期待
 第11回 老人とのコミュニケーション
 第12回 AIとのコミュニケーション
 第13回 家族とのストレンジャー・インタラクション
 第14回 会話分析からわかること
 第15回 後半まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関するテキストや資料を熟読し、予備知識を得ておくこと。
 事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返って理解を深めるとともに、必要に応じて意見交換を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内レポート、および意見交換課題への取り組み・成果(50)	1, 2, 3
授業外での評価	25	中間レポート課題(25)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	期末レポート課題(25)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	いろいろあるコミュニケーションの社会学Ver.3.0 / 有田亘・松井広志編/北樹出版 ISBN978-4-7793-0749-2 2,000円+税
------	----------------------------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	社会学と合わせて履修することが望ましい。 コミュニケーション論(1年前期)の有田担当回は、コミュニケーション社会学(1年後期)のオリエンテーションを兼ねている。授業趣旨に理解・納得の上で受講すること。(適宜、履修修正期間を活用するとよい。) テキストは上位学年配当の有田担当授業でも用いる。

授業コード	13076001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	多文化共生論 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	遠藤 正敬				
シラバス執筆(主)	遠藤 正敬				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、政治社会においてさまざまな形で展開される異文化の接触と衝突を知ることで、「国民」や「民族」といったものの中身を理解し、あるべき共生社会を考える手がかりをさぐることを目的とする。具体的には、文学、芸術、映画、漫画など諸文化が国家、法、戦争、外交などをどのようにとらえ、またの政治によってどのように左右されてきたのかを考えていきたい。

到達目標

- 1、現在の自分を取り巻く世界の情勢がどのようなものであるかを理解できる。
- 2、何事にも多様な価値観をもって評価することができる。
- 3、法や社会の流れを自分なりの意見をもって説明できる。

授業計画

遠隔授業となり、オンデマンド動画形式で行う。

- 【第1回】
 テーマ：序章
 内容・方法：文化の異同からみえてくるもの
- 【第2回】
 テーマ：国内社会のグローバル化
 内容・方法：日本における多文化社会
- 【第3回】
 テーマ：文化と政治（1）
 内容・方法：国内政治の観点から
- 【第4回】
 テーマ：文化と政治（2）
 内容・方法：国際政治の観点から
- 【第5回】
 テーマ：文明の衝突
 内容・方法：宗教と国際社会
- 【第6回】
 テーマ：文化と戦争（1）
 内容・方法：二つの世界大戦と文化
- 【第7回】
 テーマ：文化と戦争（2）
 内容・方法：冷戦後の戦争と文化
- 【第8回】
 テーマ：文化と市民運動
 内容・方法：世界を変える文化の力
- 【第9回】
 テーマ：文化と差別（1）
 内容・方法：「人種」「国籍」「民族」の描かれ方
- 【第10回】
 テーマ：文化と差別（2）
 内容・方法：マイノリティと抵抗としての文化
- 【第11回】
 テーマ：文化と企業
 内容・方法：越境する文化ビジネス
- 【第12回】
 テーマ：「難民」とは何か
 内容・方法：国際社会と難民の受け入れ
- 【第13回】
 テーマ：日本とアジアの文化交流
 内容・方法：日中、日韓関係と文化政策
- 【第14回】
 テーマ：現代の「家族」のかたち
 内容・方法：家族、結婚、身分登録の比較
- 【第15回】
 テーマ：まとめ
 内容・方法：過去の講義の総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】	①事前学修課題：ニュースや時事問題に目通し、関心を高めておく	2時間
	②事後学修課題：疑問点の整理	2時間
【第2回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：講義内容の復習	2時間
【第3回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：講義内容の復習	2時間
【第4回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：講義内容の復習	2時間
【第5回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第6回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第7回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第8回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第9回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第10回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第11回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第12回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：自分の意見をまとめる	2時間
【第13回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第14回】	①事前学修課題：予備知識の確認	2時間
	②事後学修課題：テキストの理解	2時間
【第15回】	①事前学修課題：これまでの復習	2時間
	②事後学修課題：何を理解できたかを確認してみる	2時間

課題に対するフィードバックの方法

前回の授業内容の整理を毎回授業内の冒頭で行うとともに、毎回の授業内課題については各自の解答を採点した上で、課題のポイントはどこにあったのかを次回の授業内で説明する。履修者から寄せられた質問については個別に解答し、共有すべき質問については授業内で解答する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、課題および最終レポート等によって到達目標に即して総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題(60)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	毎回、レジュメを配布する。
参考書	田中宏『在日外国人 第3版』岩波新書、2013 S・ハンチントン著、鈴木主税訳『文明の衝突』集英社、1998
履修条件・他の科目との関連	積極的に授業への意見や質問、自分の関心事などを投じてくれることを期待する。

授業コード	13107001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	共生社会論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人は社会的存在といわれるように、われわれは社会生活を営むうえで何らかの形で他者とのかかわりを築く必要がある。一方で、人と人とのかかわりのあり方は、いつでもどこでも不変であるわけではなく、時代や文化や社会状況によってめまぐるしく変化するものである。本講義では、そうした他者との共生の様態に焦点をあて、自己・家族・友人・職場・地域などにおける現代的な変容と問題について社会学的に概説する。

到達目標

1. 現代の共生（自己と他者のかかわり）における問題を理解できる。
2. 自分の立場や視点から身近な他者とのかかわりを実感し、捉えなおすことができる。
3. より多様な人と人とのかかわりかたの可能性を考え、説明できる。

授業計画

第1回	イントロダクション-共生社会の現在
第2回	時代背景をおさえる-社会と意識の変化 本授業の時代設定を押さえたうえで、意識調査から対人関係観の変化と現代的問題を解説する
第3回	自己と他者 社会学における自己と他者の捉え方を概観し、自己と向き合うための対策を解説する
第4回	新たな家族-非血縁のつながり ポスト平成における家族関係の変化と問題を理解し、家族を再考する必要性を解説する
第5回	純粋化する友人関係 ギデンスの「純粋な関係性」をもとに、現代の友人とのかかわりの性質と変容について解説する
第6回	高齢者の孤立 無縁社会の現状を把握し、超高齢社会における問題について解説する
第7回	匿名的なかかわり メディアの発達が発成する匿名性の問題を信頼関係という観点から解説する
第8回	単身化とソロ行動 ソロ活動の流行を概観し、現代社会における「一人でいること」の意味を考察する
第9回	ボランティアとコミュニティ ボランティア活動への参与や支援行為と日本的コミュニティのかかわりを解説する
第10回	コミュニケーション能力を問い直す 現代の能力言説の内容を踏まえ、個人に責任を期す社会のあり方と問題を解説する
第11回	サードプレイスとは何か サードプレイスの概念や実践を概観し、サードプレイスのもつ可能性を解説する
第12回	新たな居場所実践-地域の居場所 子ども食堂・地域カフェ・学校内居場所などの具体的なサードプレイス実践から居場所の重要性を解説する
第13回	一時的居場所のもつ現代的意義 他者とのかかわりを生み出す居場所論を概観し、一時的・流動的な居場所の在り方からそれらを再評価する
第14回	強いつながりからゆるやかなつながりへ 後期近代における人と人とのかかわりの変化とこれからの個人と社会の関係を解説する
第15回	まとめ-これからの社会を生きるために

受講生の理解度や関心、進捗状況によって内容を変更することもありうる

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各テーマについて自身の見解を用意し、情報を収集する（各1.5時間）
事後学習：講義後、自身の見解を振り返り、より多角的な視点から再評価する（各2.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

授業冒頭にコメントペーパーをフィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	40	コメントペーパー(40)	1, 2
授業外での評価	20	探索課題(20)	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	期末レポート(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	社会学やコミュニケーションに関連している科目を受講していることが望ましいが、身近な人と人とのかわりに関して問題関心をもって授業に臨むことが何より重要である。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13075901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	ジェンダー論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	西岡 敦子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「女らしく」しなさい、その行動は「男らしく」ない、等といった言動を身近で見聞きしたことはないだろうか？

「女らしく」「男らしく」という言説は、肉体的・生物学的な性差「セックス(sex)」を根拠にしたものではなく、社会的・文化的に構築された性差「ジェンダー(gender)」という概念を根拠にしている。「女だから〇〇してはいけない」、「男だから××すべきだ」といった枠組みを一度取り払って物事を考えてみることで、今まで、当然視していたものが違っていたことに気づくこともあるだろう。

本講義を通して、受講生が自分自身の生き方を探ることができるようになることを目指して、ジェンダーについて概説する。その中で、人間の心の働きや、対人関係、多様な人々の受容など、自分自身や社会のあり様を理解していけるようになることを考える。

授業形態は資料提示やビデオを用いた講義形式である。

授業の構成は、はじめに前回の授業時に書いてもらったミニレポートの講評、および感想の共有を行い、引き続き本時の授業に入る。終了前の10分程度でその日の授業に関するレポートを作成してもらい、その時間の評価とする。(別途、定期試験代わりのレポートを課す)

到達目標

1. ジェンダーの概念を正しく説明できる。
2. 自分の中にあるジェンダー意識を分析できる。
3. ジェンダーに関する身近な課題に積極的に行動できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
ジェンダーとセックスとセクシュアリティ
- 【第2回】セクソロジーとジェンダー(1)(性の分化)
- 【第3回】セクソロジーとジェンダー(2)(性アイデンティティ)
- 【第4回】健康とジェンダー(1)(摂食障害)
- 【第5回】健康とジェンダー(2)(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)
- 【第6回】家族とジェンダー(1)(「家」制度)
- 【第7回】家族とジェンダー(2)(ドメスティック・バイオレンス①)
- 【第8回】家族とジェンダー(2)(ドメスティック・バイオレンス②)
- 【第9回】雇用労働とジェンダー(1)(M字型就労)
- 【第10回】雇用労働とジェンダー(2)(セクシュアル・ハラスメント)
- 【第11回】文化とジェンダー(1)(おとぎ話、童話)
- 【第12回】文化とジェンダー(2)(ポルノ・グラフィ)
- 【第13回】社会政策とジェンダー(夫婦別姓選択制度)
- 【第14回】教育とジェンダー(家庭教育、学校教育)
- 【第15回】まとめ(男性学)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、時間ごとのテーマを参考に、関連した本に目を通し、予備知識を得ておく。
事後学習としては、授業内容を復習するとともに、紹介した本やインターネット等を利用し、さらに理解を深め、定期試験代わりのレポート作成に備える。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のレポートに対しては、次回の授業の最初に、全体を通しての内容の開示を行う。
あわせて、希望者に対して、授業の終了時にレポート内容の達成度を口頭開示する。
定期試験に対しては、希望者に対して口頭開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・公欠を除き、3回をこえて欠席した場合は「K」評価となる。また、3回の遅刻で1回の欠席と換算する。
- ・毎時間の授業終了10分前に実施するミニレポートの評価(およそ85%(0~6点×15回))、定期試験代わりの最終レポートの評価(およそ15%(未提出は「K」評価))の総合評価である。
- ・出席を前提とした評価方法であるので、遅刻せずすべての授業に出席することが求められる。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	85	ミニレポートの達成度	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	最終レポートの達成度	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	本科目を履修していると、他の科目「現代社会と女性」を理解しやすいと思われる。
---------------	----------------------------------------

授業コード	13085401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	現代社会と女性 [対面]				
シラバス執筆(全員)	西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	西岡 敦子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

変動する社会の中であって、今、「いかに生きるか」ということが大きな問題になっている。その一つとして、今まで、一般的に受け入れられてきたものとは相反するような価値観の表出、また、それに伴う、個々人の価値観の多様化があるように思われる。

ここでは、その中でも特に「女性」という視点から幾つかの問題を取り上げ、考察する。そこから、女性の置かれた状況を男女ともに認識することによって、男女が共に生きやすい社会を考え、「いかに生きるか」ということを考えられるように指導する。

その中で、コミュニケーション能力や多様な人々を受け入れる態度を身に着け、社会生活や家庭生活を円滑に営めるようになれると考える。

授業形態は、講義である。ビデオ等も利用する。

授業の最初に、前回の授業時に書いてもらったミニレポートの講評、および感想の共有を行い、引き続き本時の授業を行う。授業終了前の10分程度を利用して本時の授業に関するミニレポートを作成してもらい、本時の評価とする。(別途、定期試験代替りのレポートを課す。)

到達目標

1. 社会の中での女性が置かれている状況を様々な事象をもって説明できる。
2. また、その解決に向けて考えることができる。
3. 男女相互理解の上に立って、いかに生きるかを考えることができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション「ジェンダーとは何か？」
- 【第2回】セクシュアリティ・心・体 (1) 「不妊治療1-母体保護法」
- 【第3回】セクシュアリティ・心・体 (1) 「不妊治療2-代理母」
- 【第4回】セクシュアリティ・心・体 (1) 「不妊治療3 (ディスカッション)」
- 【第5回】セクシュアリティ・心・体 (2) 「チャイルド・アブユーズ」
- 【第6回】セクシュアリティ・心・体 (3) 「買春」
- 【第7回】セクシュアリティ・心・体 (4) 「フェミニスト・カウンセリング」
- 【第8回】家族・仕事・社会 (1) 「男女雇用機会均等法」
- 【第9回】家族・仕事・社会 (2) 「育児休業法」
- 【第10回】家族・仕事・社会 (3) 「介護休業法」
- 【第11回】家族・仕事・社会 (4) 「政治参画」
- 【第12回】家族・仕事・社会 (5) 「宗教と女性」
- 【第13回】海外の女性「開発と女性1-平等・開発・平和」
- 【第14回】海外の女性「開発と女性2-人間開発」
- 【第15回】まとめ(総復習)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、時間ごとのテーマを参考に、関連した本に目を通し、予備知識を得ておく。

事後学習としては、授業内容を復習するとともに、紹介した本やインターネット等を利用し、さらに理解を深め、定期試験代替りのレポート作成に備える。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のレポートに対しては、次回の授業の最初に、全体を通しての内容の開示を行う。

あわせて、希望者に対して、授業の終了時にレポート内容の達成度を口頭開示する。

定期試験に対しては、希望者に対して口頭開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

・公欠を除き、3回をこえて欠席した場合は「K」評価となる。また、3回の遅刻で1回の欠席と換算する。

・毎時間の授業終了10分前に実施するミニレポートの評価(およそ85%(0~6点×15回))、定期試験代替りの最終レポートの評価(およそ15%(未提出は「K」評価))の総合評価とする。

・出席を前提とした評価方法であるので、遅刻せずすべての授業に出席することが求められる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	85	ミニレポートの達成度	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	最終レポートの達成度	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する		
履修条件・他の科目との関連	「ジェンダー論」が履修済みであることが望ましい。		

授業コード	13076401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	文化社会学Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

文化はわれわれ人間が社会生活を営むための様々なスタイルである。この授業では、その多様なあり方を概観し、考察することで社会についての理解を深めることを目指す。そのために社会批評という方法を用いる。それはシンプルには主観的な感想文ではなく、客観的な根拠に基づく研究論文を書くための方法だが、個々人（読者だけでなく、作者も、誰も）が、独善的な主張を一方的に押し付けるのではなく、相互理解にいたるための多様な道を探るための方法である。その説明のため、受講生にとってわかりやすいであろう大衆文化や若者文化に具体例の多くを求めることになるだろう。

到達目標

1. 文献参照の規則や、文章作法、その他学問的ルールに則った形式の答案を作成できる。
2. 授業内で学習した批評理論および文化社会学的知識を正しく説明することができる。
3. 学術的ルールに則った形式と正しい知識に基づいて、文化社会学的な批評文を書くことができる。

授業計画

※受講に先立ち重要事項を説明するオリエンテーションを実施するので、指示に従い履修登録すること。

- 第1回 はじめに 批評・文化論・社会学
- 第2回 批評理論の基礎(1) 批評と感想
- 第3回 批評理論の基礎(2) 作品・作者・読者
- 第4回 作品批評
- 第5回 「となりのトトロ」を例に
- 第6回 「崖の上のポニョ」を例に
- 第7回 「ハウルの動く城」を例に
- 第8回 前半まとめ
- 第9回 サブカルチャー論：文化社会学Ⅱとの接続
- 第10回 文化批評
- 第11回 「アナと雪の女王」を例に
- 第12回 「Let It Go」と英語版(日本語字幕)／日本語吹替版の比較
- 第13回 「雪の女王」との比較
- 第14回 オタク文化とその国際化
- 第15回 後半まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関するテキストや資料を熟読し、予備知識を得ておくこと。
 事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返って理解を深めるとともに、必要に応じて意見交換を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内レポート課題、および意見交換課題への取り組み・成果(50)	1, 2, 3
授業外での評価	30	事前オリエンテーションにおける重要事項の理解(10) 中間レポート課題(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート課題(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	いろいろあるコミュニケーションの社会学Ver.3.0 /有田亘・松井広志編/北樹出版 ISBN978-4-7793-0749-2 2,000円+税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	必要に応じて授業時間外に学外授業を実施し、それへの参加を求めることがある。(交通費等実費は学生負担)

授業コード	13076501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	文化社会学Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、われわれの暮らす現代社会について、サブカルチャーを手がかりに考えていく。社会の多様性・複雑性を考える際に、「メイン(中心的・支配的)」ではなく「サブ(下位的、二次的)」という観点は重要である。また、社会を「カルチャー(文化)」、すなわちわれわれの生活(ライフ)に具体的に直結すると同時に、抽象的な様式(スタイル)として成立しているものとして捉える観点も重要である。それは物事を難解にしすぎず単純化しすぎずに考え、誰をも受け入れることができるのと同時に、誰からも受け入れられる魅力的な人間性を育むために、必要な思考法だからである。

到達目標

1. 文献参照の規則や、文章作法、その他学問的ルールに則った形式の答案を作成できる。
2. 授業内で学習した文化社会学的知識を正しく説明することができる。
3. 学術的ルールに則った形式と正しい知識に基づいて、合理的根拠を伴った文化社会学的な意見を述べるができる。

授業計画

※受講に先立ち重要事項を説明するオリエンテーションを実施するので、指示に従い履修登録すること。

- 第1回 はじめに メインとサブ、そしてカルチャー(文化)
 第2回 異文化とサブカルチャー 食文化を例に
 第3回 「恐怖系」のサブカルチャー
 第4回 「廃墟」のサブカルチャー
 第5回 「ホスト」のサブカルチャー
 第6回 「身体加工」のサブカルチャー(1) タトゥー、ピアス
 第7回 「身体加工」のサブカルチャー(2) 美容整形、ボディハッキング
 第8回 前半のまとめと中間テスト
 第9回 「古着」文化論
 第10回 「ロリータファッション」のサブカルチャー
 第11回 「アイドル」文化論
 第12回 「ヤンキー」文化論
 第13回 「茶の湯」とサブカルチャー
 第14回 サブカルチャー図鑑をつくってみる
 第15回 品評会、後半のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関するテキストや資料を熟読し、予備知識を得ておくこと。
 事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返って理解を深めるとともに、必要に応じて意見交換を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内レポート課題、および意見交換課題への取り組み・成果(50)	1, 2, 3
授業外での評価	30	事前オリエンテーションにおける重要事項の理解(10) 中間レポート課題(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート課題(20)	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	いろいろあるコミュニケーションの社会学Ver.3.0 /有田巨・松井広志編/北樹出版 ISBN978-4-7793-0749-2 2,000円＋税		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	科目の性質上、個人の好みが変われる内容も取り扱う。授業計画を熟読し、事前オリエンテーションにも参加して、納得のうえで履修すること。 必要に応じて授業時間外に学外授業を実施し、それへの参加を求めることがある。(交通費等実費は学生負担)		

授業コード	13083401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	メディア社会学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フェイクニュースなどの情報が一人歩きもする現代社会において、メディア、特にうわさや都市伝説というメディアがわれわれ(の思い込み)に与える社会的影響について考える。そのことを通じて、レポートや論文の書く際に「自分の意見を述べる」とはどういうことかを理解するだけでなく、われわれの暮らす民主主義社会のあるべき形についても考える。

到達目標

1. 文献参照の規則や、文章作法、その他学問的ルールに則った形式の答案を作成できる。
2. 授業内で学習したメディア社会的知識を正しく説明することができる。
3. 学術的ルールに則った形式と正しい知識に基づいて、合理的根拠を伴ったメディア社会的意見を述べるができる。

授業計画

※受講に先立ち重要事項を説明するオリエンテーションを実施するので、指示に従い履修登録すること。

- 第1回 はじめに メディアの影響と現代社会
- 第2回 初期強力効果説(弾丸理論)
- 第3回 初期強力効果説の衰退
- 第4回 限定効果説(1)二段階の流れモデル
- 第5回 限定効果説(2)補強効果・選択的受容
- 第6回 メディア効果論中間まとめ
- 第7回 うわさというメディア(1)オルポート・ポストマンの公式
- 第8回 うわさというメディア(2)ケーススタディ
- 第9回 うわさというメディア(3)都市伝説
- 第10回 サプリミナル効果(1)
- 第11回 カウンターナレッジ
- 第12回 新しい強力効果説
- 第13回 メディア論的な強力効果
- 第14回 初期強力効果論についてのうわさ
- 第15回 全体まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関するテキストや資料を熟読し、予備知識を得ておくこと。
 事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返って理解を深めるとともに、必要に応じて意見交換を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内レポート課題、および意見交換課題への取り組み・成果(50)	1, 2, 3
授業外での評価	30	事前オリエンテーションにおける重要事項の理解(10) 中間レポート課題(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート課題(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	いろいろあるコミュニケーションの社会学Ver.3.0 /有田亘・松井広志編/北樹出版 ISBN978-4-7793-0749-2 2,000円+税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	コミュニケーション社会学、文化社会学 I・II を履修していることが望ましい。 それらの科目より難易度が高めに設定されているのを理解し納得の上で受講すること。

授業コード	13099501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育社会学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、＜教育＞にまつわる社会事象について考えることを目的とする。特に、「よきもの」とされがちな＜教育＞にまつわる事象について、批判的な観点から社会的に考えることに主眼を置く。なお、この授業では、＜教育＞を単に学校教育や家庭教育に限定せず、人間形成（社会化）の過程という大きな観点から捉えることを目指す。

到達目標

1. 「教育＝よきもの」という固定化された考え方を相対化することができる
2. 学校や家庭だけでなく、幅広い観点から＜教育＞を捉えることができる
3. 身近な出来事から、＜教育＞の問題について考えることができる

授業計画

- 第1回 授業のオリエンテーション
 第2回 教育リスクと組体操
 第3回 教育リスクと体罰
 第4回 ブラック校則
 第5回 第4回までのふりかえりと中間レポートに関するアナウンス
 第6回 非正規教員問題
 第7回 義務教育が適用されない子ども
 第8回 奨学金問題
 第9回 就職活動と準拠集団
 第10回 第9回までのふりかえりと中間レポートに関するアナウンス
 第11回 しつけの社会史：戦前編
 第12回 しつけの社会史：戦後編
 第13回 文化資本と社会的地位の再生産
 第14回 文化住宅街の子どもたち
 第15回 全体の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：家族、学校生活、バイトなど、日常に潜む＜教育＞にまつわる事象について考える。各回ごとに2時間以上。
 事後学習：授業で学習したことを念頭に、改めて自らの日々の日常生活を教育社会的に捉え返す。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート課題に対しては、希望があればコメントを返す。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	50	中間レポート(25)計2回実施	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	最終レポートの提出(50)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	とくになし
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連

他の社会学関連科目を履修していることが望ましい。

授業コード	13099601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	地域社会学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、地域社会について考えることを目的とする。特に、都市・地方・農村といったそれぞれの地域について、歴史、地域移動、観光、コミュニティといった社会学的な観点から考えることに主眼を置く。

到達目標

1. 複眼的な視点から地域社会を考えることができる
2. 社会学的な概念を用いて地域社会の特徴が説明できる
3. 地域社会と人間の関係性について幅広く捉えることができる

授業計画

- 第1回 授業のオリエンテーション
 第2回 地域社会とは何か（都市と地方）
 第3回 地方都市と若者（ほどほどパラダイス論をめぐる論争）
 第4回 限界集落と消滅集落（限界は何を意味するか？）
 第5回 第4回までのふりかえりと中間レポートに関するアナウンス
 第6回 地域イメージとオリエンテリズム
 第7回 地域イメージとジレンマ（ジェントリフィケーションとオーバーツーリズム）
 第8回 都市の中の村（都市開発とサードプレイス論）
 第9回 排除する地域社会（ハンセン病の歴史的変遷）
 第10回 排除する地域社会（人生の再生に向けた生活実践）
 第11回 第10回までのふりかえりと中間レポートに関するアナウンス
 第12回 同心円地帯理論と大阪の地理的空間
 第13回 不法占拠地区と空間
 第14回 地域社会と同性婚（同性パートナーシップの制度化）
 第15回 全体の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：都市的生活、地方的生活など、自らが生活する（してきた）地域社会について考える。各回ごとに2時間以上。
 事後学習：授業で学習したことを念頭に、改めて自らの日々の日常生活を地域社会学的に捉え返す。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート課題に対しては、希望があればコメントを返す。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	50	中間レポート(25)計2回実施	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	最終レポートの提出(50)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	とくになし
参考書	森岡清志編、2008、『地域の社会学』有斐閣アルマ
履修条件・他の科目との関連	他の社会学関連科目を履修していることが望ましい。

授業コード	13077301	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	ファッションコーディネートⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 由佳里				
シラバス執筆(主)	加藤 由佳里				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、ファッションコーディネートの中でも「色彩」について概説する。現代社会は、色で溢れている。その使い方や組み合わせ方によって人に与える影響は大きく変わってくる。色は、「人と人」とのコミュニケーションや「モノと人」とのバランスをとるために重要な役割を果たす大切な要素として認識され人々の関心も高い。ファッション界は勿論のこと、住まいのカラーコーディネート、街づくりの色彩計画、食生活における栄養バランス、企業のイメージ戦略などが重要なカギと言われ、「色彩」は、フォルムやデザインと共に大きく評価され重要視される時代である。授業では、色彩の基礎知識、配色理論、その効果を実習を通して学び、理解を深めてカラーコーディネートの基礎を身につける。将来、色彩やカラーコーディネートの分野で活躍したい人にも役立つよう、実務家教員としてカラーコーディネート業務に従事した経験をもとに授業を展開する。

到達目標

1. 色の見えるしくみや役割を理解し、説明出来ること
2. 色の分類や表し方を理解し、説明出来ること
3. 色が人に与える心理効果を理解し、TPOに合った色選びに応用出来ること
4. 配色調和の理論を理解し、配色カードを使ったコーディネートを作ることが出来ること
5. 雑誌や商品などを見て、そのカラーコーディネートを配色ルールに基づいて分析できること
6. 自分らしいカラーコーディネートを見つける事が出来るようになること

授業計画

<p>【第1回】 オリエンテーション テーマ：色とは？色の見えるしくみと役割 内容・方法：光と色の関係、色を認識できる仕組み、色の持つ役割を学ぶ</p> <p>【第2回】 テーマ：色の分類1 記号による表示（1）【実習：色相環図】 内容・方法：数々ある色を分類し、整理するシステムを学ぶ。色を数字や記号で表すことが出来る事を学ぶ。</p> <p>【第3回】 テーマ：色の分類2 記号による表示（2）【実習：等色相面図】 内容・方法：カラーシステムをカラーコーディネートに応用していくための基礎を学ぶ</p> <p>【第4回】 テーマ：色の分類3 言葉による表示【実習：色の言葉による表示】 内容・方法：色々な色を日常どのようにして伝えているか考える</p> <p>【第5回】 テーマ：色彩心理1 色の心理的効果【実習：色の心理効果】 内容・方法：色は人の心にどのような影響を与えるのかを学ぶ</p> <p>【第6回】 テーマ：色彩心理2 色の視覚効果【実習：色の視覚効果】 内容・方法：色が持つ性格によって起こる効果を学ぶ</p> <p>【第7回】 テーマ：色彩調和 配色の基本ルール【実習：色相の関係】 内容・方法：2つ以上の色をどのように組み合わせれば調和するのか、配色の基本ルールを学習する</p> <p>【第8回】 テーマ：色彩調和 色相をもとにした配色【配色実習】 内容・方法：色相を基準にして配色のしかたを学ぶ</p> <p>【第9回】 テーマ：色彩調和 トーンをもとにした配色【配色実習】 内容・方法：トーンを基準にして配色のしかたを学ぶ</p> <p>【第10回】 テーマ：色彩と生活 パーソナルカラー 内容・方法：数ある色の中で自分に似合う色の見つけ方を学ぶ</p> <p>【第11回】 テーマ：色彩と生活 ファッション コーディネーション1【配色実習】 内容・方法：まとまりや変化のあるファッションはどんな配色かを配色カードを使って考える</p> <p>【第12回】 テーマ：色彩と生活 ファッション コーディネーション2【配色実習】 内容・方法：色相やトーンはそれぞれのイメージがある。イメージに合う色からカラーコーディネートを考える</p> <p>【第13回】 テーマ：色彩と生活 ファッション コーディネーション3【配色分析実習】 内容・方法：雑誌などからおしゃれの手本を探し、その特徴を探る</p> <p>【第14回】</p>

テーマ：色彩と生活 インテリアのカラーコーディネーション【色彩計画実習】

内容・方法：色彩がインテリアの中にも活かされていることを学習する

【第15回】

テーマ：色彩と生活 フードのカラーコーディネーションとまとめ【色のイメージ実習】

内容・方法：色彩がフードの中にも活かされていることを学習するとともにカラーコーディネートについて総括する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業1回につき事前学習1.5時間、事後学習2.5時間を各テーマの課題について行うこと。また、授業内で予告した場合には、事前にテキストに目を通しておくこと。授業内に取り組んだ課題で分からなかったところを復習しておくこと。

【第1回】

事前学習：日本には四季があり、色を感じる機会が多い事を再認識する

事後学習：人は色によってどんなシグナルを受け取っているのかを認識する

【第2回】

事前学習：日常生活において自分が伝えたいと思っている色をどのように表現しているか考える

事後学習：学習した色の名前を確認し身近な色に当てはめてみる

【第3回】

事前学習：日常生活の中で目にしている色彩をよく観察する

事後学習：身近にある色を分類してみる

【第4回】

事前学習：日常生活の中で色を他の人にどのように言葉で伝えているかを考える

事後学習：身近にある色を授業で学んだ色名で表現してみる

【第5回】

事前学習：日常生活の中で色に影響を受けた事を思い浮かべてみる

事後学習：それぞれの色彩が及ぼす影響を色彩心理に照らしながら観察する

【第6回】

事前学習：日常生活の中で色がどのように活用されているか観察する

事後学習：色の視覚効果がどのように活用されているのかを確認する

【第7回】

事前学習：自分が気に入った配色を観察する

事後学習：配色の基本ルールを知って日常生活にどのように活かされているか確認する

【第8回】

事前学習：先に学んだ色相環を見直し、自分が気に入った色の配色を観察する

事後学習：色相の違いによる配色を探して分析してみる

【第9回】

事前学習：先に学んだトーン表を見直し、自分が気に入ったトーンの配色を観察する

事後学習：同じトーン、離れたトーンの配色を日常生活の中で探して分析してみる

【第10回】

事前学習：自分が似合うと思う服装を考える

事後学習：自己にとってのベストカラー（勝負色）を知りその活用方法を考える

【第11回】

事前学習：気になるファッションをチェックする

事後学習：気になるファッションの色の組み合わせがどのようなものか観察する

【第12回】

事前学習：色相やトーンがイメージを持っていることを考える

事後学習：いろいろなイメージを色で表現してみる

【第13回】

事前学習：雑誌などからおしゃれなコーディネートと思うものを切り抜いてくる

事後学習：好きなファッションのコーディネーションを知り自分のカラーコーディネートのバリエーションを増やす

【第14回】

事前学習：自分の部屋の状態を観察してくる

事後学習：学んだインテリアのカラーコーディネートを日常生活に活用する

【第15回】

事前学習：毎日の食事の色を考える

事後学習：テーブルコーディネートや料理の盛り付けなどに学んだカラーコーディネートを活用する

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う課題や実習については、講義終了時もしくは、提出期限までにGoogle Classroomに提出してもらい、翌週の授業内で解説を行う。疑問点や不明点が残らないようにGoogle Classroomのコメント欄を利用してフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく5回以上授業を欠席した場合は、「K」評価である。また、3回の遅刻で1回の欠席と換算する。
- ・配色分析課題の未提出、定期試験の未受験も「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	実習課題(14回を予定)(各3)、配色分析実習(1回)	1, 2, 3, 4, 5, 6

		(18)	
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	・ファッション&ビューティーの色彩／監修：財団法人日本色彩研究所／1,000円（税別）／ISBN978-4-907564-19-3（在庫のある書店が少ない書籍であるため、学内書店での購入が望ましい）
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎回実習を行うため、休まずに出席し、課題を提出する事が大切である。また、実習には、必要に応じてのり、ハサミ、定規などの文房具を持参すること。配色分析実習課題は、必ず提出し、定期試験を受ける事が履修条件である。 ・やむを得ず授業を欠席した場合は、配布プリントを翌週の授業で受取り、不明点を確認すること。 ・新型コロナウイルス感染状況等により、進め方や内容を一部変更する場合がある。その場合は、随時連絡するのでGoogle Classroomを確認すること。

授業コード	13077401	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	ファッションコーディネートⅢ [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 由佳里				
シラバス執筆(主)	加藤 由佳里				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、ファッションコーディネートの中でも「インテリア」について概説する。好きなカフェでお茶を飲んでホッとするようにお気に入りの空間に居るだけで気持ちが和み癒されることがある。また、インテリアコーディネートを工夫することで暮らしやすくなったり、そこに集う人達の会話が弾んだりといったコミュニケーションの良し悪しにも影響することがある。このように日々を過ごす環境にこだわることは、とても大切なことである。ただ「素敵な部屋で暮らしたい」と思っているだけでは部屋は素敵にならない。また、それぞれの人がイメージする「素敵な部屋で暮らしたい」の中身は千差万別でもある。授業では、インテリアを構成する要素やコーディネートについて説明する。自分がイメージする素敵なインテリアはどんなものなのかを考え、イメージボードを作って確認し、そのインテリアスタイル・エレメント・基本色などが、どのように構成されているかを学ぶ。

居心地のよいインテリア空間づくりに必要な知識を講義と実習を通して身につけ実生活に活かせるよう、また将来インテリアの分野で活躍したい人にも役立ててもらえるように実務家教員が、インテリアコーディネート業務に従事した経験をもとに授業を展開する。

到達目標

1. インテリアの要素には、どんなものがあるかを説明できる
2. インテリアコーディネートの流れを説明できる
3. インテリアスタイルについてそれぞれの特徴を分析出来るようになる
4. インテリアの基礎知識を実生活に応用できる
5. 自分らしいインテリアスタイルをイメージボードに表現出来る
6. 自分が作成したイメージボードのテーマやコンセプトを説明出来る

授業計画

<p>【第1回】 オリエンテーション インテリアとは？インテリアコーディネートの流れと要素 内容・方法：インテリアの発生やインテリアプランの流れを学び、実施例などを見て確認する</p> <p>【第2回】 テーマ：インテリアスタイルと歴史について 内容・方法：インテリアのイメージ・スタイルには、どのようなものがあるのか？それぞれの特徴や違いを学ぶ</p> <p>【第3回】 テーマ：インテリアのカラーコーディネート1 内容・方法：インテリアのカラーコーディネートをするために必要な色彩の知識を学ぶ</p> <p>【第4回】 テーマ：インテリアのカラーコーディネート2 【実習】 内容・方法：自分の好きなインテリアスタイルを考え、カラーコーディネートについて実習をする</p> <p>【第5回】 テーマ：部屋づくりの基本〈家具〉 内容・方法：家具の基礎知識とレイアウトをする時に必要な空間を考える</p> <p>【第6回】 テーマ：間取り図の基礎知識 【実習】 内容・方法：間取り図の読み方、扉の形状と表現を学び、種々の電気配線図を学ぶ</p> <p>【第7回】 テーマ：部屋づくりの基本〈収納〉 内容・方法：知っておきたい収納の基本を学ぶ</p> <p>【第8回】 テーマ：部屋づくりの基本〈内装材〉 内容・方法：内装材とはどのようなものかを学ぶ</p> <p>【第9回】 テーマ：部屋づくりの基本〈ウィンドトリートメント〉 内容・方法：ウィンドトリートメントの基礎知識を学び、インテリアスタイルとその空間に使われるトリートメントを理解する</p> <p>【第10回】 テーマ：イメージボードをつくる(1) 【実習】 内容・方法：イメージボードを創る準備をする、コンセプトを考え、ネーミングを考える</p> <p>【第11回】 テーマ：イメージボードをつくる(2) 【実習】 内容・方法：イメージボードのレイアウトを試みる、過不足が無いかチェックする、題名・コンセプトを決める</p> <p>【第12回】 テーマ：イメージボードをつくる(3) 【実習】 内容・方法：題名とコンセプトを貼り、イメージボードのレイアウトを決めて貼る</p>

【第13回】

テーマ：部屋づくりの基本〈照明〉
内容・方法：照明の基礎知識を学ぶ

【第14回】

テーマ：イメージボードの発表
内容・方法：自分が作ったイメージボードの発表をする

【第15回】テーマ：部屋づくりの基本〈ディスプレイ〉とまとめ
内容・方法：インテリアの仕上げの基本を学ぶ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

事前学習：インテリアとは、どのようなものか考える
事後学習：インテリアコーディネートの目的を理解し、プランニングの流れを確認する

【第2回】

事前学習：さまざまなインテリアを観察する
事後学習：身の回りのインテリアがどのスタイルの種類かを観察、分析する

【第3回】

事前学習：自分の好きなインテリアの色をチェックする
事後学習：インテリアのスタイルとその特徴を身の回りのインテリアを見て再確認する

【第4回】

事前学習：身の回りのインテリアのカラーコーディネートを観察してくる
事後学習：インテリアスタイルとカラーコーディネートの関係を日常空間において学ぶ

【第5回】

事前学習：身近な家具の観察
事後学習：家具が実際にどのようにレイアウトされているか観察をし、日常生活で改善点が無いか検討してみる

【第6回】

事前学習：間取りがどのようにになっているかを観察する
事後学習：不動産の案内チラシを観察し、その表現を見て授業の内容を再確認する

【第7回】

事前学習：家の中はスッキリと片付いているかチェックする
事後学習：学習した収納の注意点に沿って収納を見直す

【第8回】

事前学習：自分の部屋の内装はどのようなものかを観察する
事後学習：自分の部屋がどのような内装材で出来ているのか観察する

【第9回】

事前学習：日常において窓回りはどのようなものが使われているかを観察する
事後学習：ウィンドウトリートメントは窓回りのみではなく部屋作りにとって大切なものであることを確認する

【第10回】

事前学習：イメージボード作成に向けてイメージに合った切り抜きを集める
事後学習：レイアウト下準備をしてみても不足のイメージの切り抜きを集める

【第11回】

事前学習：イメージボードの準備の切り抜きのチェック、タイトル・コンセプトの確認
事後学習：イメージボードの仕上げに向けて不足を補う

【第12回】

事前学習：イメージボードの仕上げ準備をする
事後学習：ボードの提出を済ませ、他の人たちのボードを見て比較検討する

【第13回】

事前学習：照明がどのように使われているのかを観察する
事後学習：自分の部屋の照明はどのようなものか、お気に入りの店の照明はどのようなものか観察する

【第14回】

事前学習：自分の作成したボードをどのように発表するかを考える
事後学習：他のボードと自分のボードの違いを観察、分析する

【第15回】

事前学習：どんなショールームに行きたいか、何を探しに行きたいかを考える
事後学習：自分の部屋のディスプレイを見直してみる。ショップやショールームに行ってみる（WEBサイトを含む）

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う課題や実習については、講義終了時もしくは提出期限までにGoogle Classroomに提出してもらい、翌週以降の授業内で解説を行う。疑問点や不明点が残らないようにGoogle Classroomのコメント欄を利用してフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・また、正当な理由なく5回以上授業に欠席した場合は、「K」評価である。また、3回の遅刻で1回の欠席と換算する。
- ・イメージボードの未提出、定期試験未受験も「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	60	イメージボード制作実習(25)、発表(5)、間取り実習(10)、授業内簡便課題(計10回を予定)(各2)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。毎回プリントを配布する。		
------	-------------------------	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎回課題や実習を行うため、休まずに出席し、期限を守って提出する事が大切である。イメージボードを必ず作成して提出し、定期試験を受験することが必須条件である。 ・実習に応じてはさみ、のり、筆記用具などの文房具が必要である。指示に従って持参すること。 ・やむを得ず授業を欠席した場合は、配布プリントを翌週の授業で受取り、不明点を確認すること。 ・新型コロナウイルス感染状況等により、進め方や内容を一部変更する場合がある。その場合は、随時連絡する。 		
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13083601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	クラフトワーク [対面]				
シラバス執筆(全員)	西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	西岡 敦子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、心理コミュニケーション学科のコミュニケーション分野に配置されるものである。よって、人を思い、人の手によって受け継がれてきた手工芸を幾つか取り上げ、その文化背景や心情を説明する。また、それらを体験すべく、実習課題を設定し指導する。その実習課題を通して、人の心とそれを受け継いでいく関係性や精神性、また、課題遂行における集中力、忍耐力や、互いに教えあう関係性の構築や、さらには、生涯学習の楽しみも感じられると考える。

授業形態は、ほぼ毎回、講義と、講義を理解するための実習のセットである。なお、最終回は課題のプレゼンテーションである。

到達目標

1. 手工芸作品の制作を通しての心理的影響を説明できる。
2. 手工芸作品自体が人に与える影響を説明できる。
3. 簡単な手工芸作品を制作することができる。
4. 手工芸のある文化背景を説明できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーションとプレ実習
- 【第2回】手工芸と心
- 【第3回】包むと心(折形)
- 【第4回】折ると心(連鶴)
- 【第5回】結ぶと心①(紐飾り)
- 【第6回】結ぶと心②(水引)
- 【第7回】組むと心①(組紐)
- 【第8回】組むと心②(リボンレイ)
- 【第9回】繡すと心①(背守り)
- 【第10回】繡すと心②(クロスステッチ)
- 【第11回】織ると心(紙バンド)
- 【第12回】編むと心(リリヤン)
- 【第13回】15回目の準備回
- 【第14回】結ぶと心③(タティングレース)
- 【第15回】課題プレゼンテーション

※日程が前後することがある。実習課題が変更になる可能性がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- ・毎回の授業内容を理解し、提出課題を仕上げて、決められた期限までに提出できるようにする。
- ・授業で扱う基本的な提出課題を超え、さらなる学習を求める。

課題に対するフィードバックの方法

提出時に口頭コメントする、もしくは、提出された課題にコメントを記して返却する。プレゼンテーション課題に対しては、希望者に達成度を口頭開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・公欠を除き3回をこえて欠席した場合は「K」評価となる。また、3回の遅刻で1回の欠席に換算する。
- ・授業中に指導するすべての実習課題の提出が評価の前提であるので、すべての課題提出が求められる。よって、未提出があれば「K」評価となる。
- ・また、15回目の課題プレゼンテーションの未発表も「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業中に指導するすべての実習課題等の提出を前提とする、実習課題等の達成度(80)。課題作成とそのプレゼンテーションの達成度(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	プリントを配付する。
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ、のり、セロテープ、定規、カッターナイフ(デザインナイフ)など、基本的な工作用具が必要である。 指示に従って、忘れずに持参すること。 ・毎回、実習課題があるので、出席をしなければ、課題内容がわからず、課題提出ができなくなるので、必ず、出席をすること。 ・作品は必ず、自分自身で作成すること。 ・受講人数によって、授業計画の変更等があり得る。 ・欠席した場合は、早急に教員と連絡を取り、5-811研究室を訪問する事。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13048801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	フィールドワーク I [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太、上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、フィールドワークの基礎を学ぶ。具体的には、ある特定の社会現象や日常世界についてフィールドワーク練習を実施し、対象世界を多面的に理解するための基礎的な手法を身につける。授業形態はフィールドワークを取り入れた演習である。学内外でのフィールドワーク練習を行う。

到達目標

1. 問題関心に沿って明確なテーマを設定する
2. 対象世界を観察する手法を身につける
3. 調査結果を分析し、成果にまとめることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要と受講の心構えについて）
- 第2回 全体構想・プロジェクト企画
- 第3回 調査計画 テーマの設定
- 第4回 調査計画 資料調査
- 第5回 初回調査実施
- 第6回 資料整理
- 第7回 実施報告
- 第8回 調査方針の確認・修正
- 第9回 第2回調査実施
- 第10回 資料分析
- 第11回 プレゼン資料の作成
- 第12回 グループ発表
- 第13回 調査に対するフィードバック
- 第14回 調査報告書の作成
- 第15回 総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内容との関連においてテキストを熟読し、授業内での作業準備を行う。
事後学習：調査の計画・実施に伴うさまざまな作業（調査依頼書の作成やデータの整理、報告書原稿の執筆等）を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	グループ発表 (20)	1, 2, 3
授業外での評価	40	フィールドワーク調査 (40)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	調査報告書 (30)	3
その他	10	グループワークへの貢献 (10)	1, 2, 3

テキスト	とくになし
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学外でのフィールドワークへの参加を求める(交通費等は学生負担)。 フィールドワークに参加しなかった場合は、成績評価の対象とせず、K評価とする。

履修条件・他の科目との関連

フィールドワーク入門を履修していることが望ましい。
なお、学外授業実施等を含む演習科目としての性格から、学科の選抜基準に則り履修者制限を設ける。
また、上原・尾添の2クラス制となるが、履修者の振り分けは原則ランダムとする。

本演習は個人調査ではなくグループ調査を実施するため、グループワーク中心の授業となる。

授業コード	13048802	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	フィールドワーク I [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎、尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、フィールドワークの基礎を学ぶ。具体的には、ある特定の社会現象や日常世界についてフィールドワーク練習を実施し、対象世界を多面的に理解するための基礎的な手法を身につける。授業形態はフィールドワークを取り入れた演習である。学内外でのフィールドワーク練習を行う。

到達目標

1. 問題関心に沿って明確なテーマを設定する
2. 対象世界を観察する手法を身につける
3. 調査結果を分析し、成果にまとめることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要と受講の心構えについて）
- 第2回 全体構想・プロジェクト企画
- 第3回 調査計画 テーマの設定
- 第4回 調査計画 資料調査
- 第5回 初回調査実施
- 第6回 資料整理
- 第7回 実施報告
- 第8回 調査方針の確認・修正
- 第9回 第2回調査実施
- 第10回 資料分析
- 第11回 プレゼン資料の作成
- 第12回 グループ発表
- 第13回 調査に対するフィードバック
- 第14回 調査報告書の作成
- 第15回 総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内容との関連においてテキストを熟読し、授業内での作業準備を行う。
事後学習：調査の計画・実施に伴うさまざまな作業（調査依頼書の作成やデータの整理、報告書原稿の執筆等）を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	グループ発表 (20)	1, 2, 3
授業外での評価	40	フィールドワーク調査 (40)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	調査報告書 (30)	3
その他	10	グループワークへの貢献 (10)	1, 2, 3

テキスト とくになし

参考書 必要に応じて授業中に紹介する。

履修条件・他の科目との関連 学外でのフィールドワークへの参加を求める(交通費等は学生負担)。フィールドワークに参加しなかった場合は、成績評価の対象とせず、K評価とする。

履修条件・他の科目との関連

フィールドワーク入門を履修していることが望ましい。
なお、学外授業実施等を含む演習科目としての性格から、学科の選抜基準に則り履修者制限を設ける。
また、上原・尾添の2クラス制となるが、履修者の振り分けは原則ランダムとする。

本演習は個人調査ではなくグループ調査を実施するため、グループワーク中心の授業となる。

授業コード	13048901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	フィールドワークⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太、上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、フィールドワークの応用を学ぶ。具体的には、ある特定の社会現象や日常世界についてフィールドワーク練習を実施し、対象世界を多面的に理解するための応用的手法を身につける。授業形態はフィールドワークを取り入れた演習である。学内外でのフィールドワーク練習を行う。

到達目標

1. 問題関心に沿って明確なテーマを設定する
2. 人びとの語りに耳を傾ける手法を身につける
3. 語りを分析し、成果にまとめることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要と受講の心構えについて）
- 第2回 全体構想・プロジェクト企画
- 第3回 テーマの設定
- 第4回 資料調査
- 第5回 取材対象の決定
- 第6回 調査依頼書の作成、質問項目の設定
- 第7回 アポ取り
- 第8回 調査実施
- 第9回 グループ発表
- 第10回 追加調査
- 第11回 実施後の資料整理
- 第12回 トランスクリプション
- 第13回 調査報告書の作成
- 第14回 優秀調査発表会
- 第15回 総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内容との関連においてテキストを熟読し、授業内での作業準備を行う。
事後学習：調査の計画・実施に伴うさまざまな作業（調査依頼書の作成やデータの整理、報告書原稿の執筆等）を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	個人発表(10)、資料調査(10)	1, 2, 3
授業外での評価	40	インタビュー調査(40)	2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	報告書(30)	3
その他	10	授業に関する発言や事前事後学習への取り組み(10)	1

テキスト	とくになし
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学外でのフィールドワークへの参加を求める(交通費等は学生負担)。 フィールドワークに参加しなかった場合は、成績評価の対象とせず、K評価とする。

履修条件・他の科目との関連

「フィールドワーク入門」「フィールドワークⅠ」を履修していることが望ましい。
なお、学外授業実施等を含む演習科目としての性格から、学科の選抜基準に則り履修者制限を設ける。
また、上原・尾添の2クラス制となるが、履修者の振り分けは原則ランダムとする。

本演習は個人での調査を実施してもらう。

授業コード	13048902	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	フィールドワークⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎、尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、フィールドワークの応用を学ぶ。具体的には、ある特定の社会現象や日常世界についてフィールドワーク練習を実施し、対象世界を多面的に理解するための応用的手法を身につける。授業形態はフィールドワークを取り入れた演習である。学内外でのフィールドワーク練習を行う。

到達目標

1. 問題関心に沿って明確なテーマを設定する
2. 人びとの語りに耳を傾ける手法を身につける
3. 語りを分析し、成果にまとめることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要と受講の心構えについて）
- 第2回 全体構想・プロジェクト企画
- 第3回 テーマの設定
- 第4回 資料調査
- 第5回 取材対象の決定
- 第6回 調査依頼書の作成、質問項目の設定
- 第7回 アポ取り
- 第8回 調査実施
- 第9回 個人発表
- 第10回 追加調査
- 第11回 実施後の資料整理
- 第12回 トランスクリプション
- 第13回 調査報告書の作成
- 第14回 優秀調査発表会
- 第15回 総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内容との関連においてテキストを熟読し、授業内での作業準備を行う。
事後学習：調査の計画・実施に伴うさまざまな作業（調査依頼書の作成やデータの整理、報告書原稿の執筆等）を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	個人発表(10)、資料調査(10)	1, 2, 3
授業外での評価	40	インタビュー調査(40)	2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	報告書(30)	3
その他	10	授業に関する発言・質問や事前事後学習への取り組み(10)	1

テキスト	とくになし
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学外でのフィールドワークへの参加を求める(交通費等は学生負担)。

履修条件・他の科目との関連

フィールドワークに参加しなかった場合は、成績評価の対象とせず、K評価とする。
「フィールドワーク入門」「フィールドワークⅠ」を履修していることが望ましい。
なお、学外授業実施等を含む演習科目としての性格から、学科の選抜基準に則り履修者制限を設ける。
また、上原・尾添の2クラス制となるが、履修者の振り分けは原則ランダムとする。
本演習は個人での調査を実施してもらおう。

授業コード	13083701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	PBL演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

プロジェクトに基づく学習(PBL)を取り入れた演習授業としての、本学科学生の特性に合わせたキャリア教育を展開する。社会人と意見を交わしながら、働くことへの理解を深め、知見や視野を広げる。また、社会で役に立つ、本学科ならではの技能の習得を目的とする。

到達目標

1. 就職活動などに能動的に参加することができるようになる。
2. 目的を達成するための意識的会話ができるようになる。
3. 会話において心理テクニックを用いた相槌が打てるようになる。
4. インタビューにおいて最低限、インタビューを受ける側に不快感を与えない立ち振舞いができるようになる。
5. 働くことを視野に入れた学生生活の有効活用について、考え実行できるようになる。
6. 自己PRができるようになる。

授業計画

- 【第1回】 キャリア教育とはなにか?
- 【第2回】 コミュニケーションの極意①「話し手の“伝わる”伝え方」
- 【第3回】 コミュニケーションの極意②「聞き手の社会で役立つ心理テクニック」
- 【第4回】 社会人インタビュー実施の意味・意義/インタビュー準備の仕方について
- 【第5回】 インタビュー準備：具体的な質問の洗い出し/情報の集め方
- 【第6回】 社会人インタビュー：1回目
- 【第7回】 インタビュー回の振り返り/課題改善
- 【第8回】 社会人インタビュー：2回目
- 【第9回】 社会人インタビューを終えて
- 【第10回】 発信力を持つための要点
- 【第11回】 発信の具体的テクニック
- 【第12回】 発信するための情報を整理
- 【第13回】 戦略設計
- 【第14回】 発信の実施
- 【第15回】 効果測定と振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関する参考書や資料を熟読したり、テーマにかかわるワードについて下調べをすることで、授業内での作業準備を行う。

事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返って理解を深めるとともに、必要に応じて授業に沿った追加活動を行う。またそれらの成果を記録し、後の報告に活用する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	25	毎回の活動成果(25)	2, 3, 4
授業外での評価	30	毎回の活動報告(40)	1, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	最終成果報告発表(25)	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	20	授業に関する発言・質問、受講態度、マナー(20)	1, 2, 3, 4, 5, 6

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	授業内で適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	この学科科目は全学科目であるキャリア形成科目や社会連携科目群を補完する関連性があるのを理解し受講すること。 他のアクション分野科目と合わせて履修することが望ましい。

授業コード	13083801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	PBL演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、プロジェクトに基づく学習（PBL）を取り入れた社会学的な演習を行う。具体的には、「沖縄」に関連したフィールドワーク調査（資料分析、参与観察、インタビューなど）を実施し、地域社会の多様性・複雑性を「記録すること」に主眼を置く。また、調査計画、調査依頼、調査の実施、データ化、データの記述、報告書の作成など、フィールドワーク調査を実施するうえで最低限おさえなければいけない一連のプロセスを経験することを旨とする。

到達目標

1. フィールドワーク調査の実施を通じて、地域社会の多様性・複雑性について考えることができる。
2. 調査で得られたデータを整理し、分析し、記述することができる。
3. 他の受講生と協力しながら、フィールドワーク調査の実施および報告書作成に取り組むことができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	企画の設定① 情報収集
第3回	企画の設定② テーマの選定
第4回	企画報告会
第5回	調査の実施計画① 調査方法の検討
第6回	調査の実施計画② スケジュールの検討
第7回	調査の実施計画③ 調査の依頼
第8回	中間報告会
第9回	プロジェクト実施① 調査の実施
第10回	プロジェクト実施② データの整理
第11回	プロジェクト実施③ データの分析
第12回	成果報告書の作成① テーマと調査概要の執筆
第13回	成果報告書の作成② データの記述
第14回	成果報告書の作成③ 結論と課題の記述
第15回	最終報告会

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：企画の設定、調査計画、プロジェクト実施、報告書の作成について、グループで話し合い、作業を進める。各回2時間以上。

事後学習：企画報告会、中間報告回、最終報告会に向けて、グループで話し合い、作業を進める。各回2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

企画の設定、調査計画、プロジェクト実施、報告書の作成過程において、適宜コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	授業への参加態度(5)、企画の設定(5)、調査計画(5)	1, 2, 3
授業外での評価	40	調査の実施	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	45	報告書の作成(45)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト なし

参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	実際に「沖縄に行く」など、学外授業への参加を求められることがある（交通費や旅費等は基本的に学生負担）。 学外授業実施等を含む演習科目としての性格から、学科の選抜基準に則り、履修者制限を設ける。 なお、履修選抜にあたっては過去のアクション科目（フィールドワーク入門、フィールドワークⅠ、PBLⅠ）の成績を参考にすることがある。

授業コード	13083901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	PBL演習Ⅲ [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、プロジェクトに基づく学習（PBL）を取り入れた社会的な演習を行う。具体的には、大阪日日新聞の記事掲載に向けたインタビュー調査を実施し、学生自身の視点で現代社会における問題とメッセージを「伝えること」を目的とする。教員、新聞社記者との協働によって、新聞記事作成のノウハウや効果的なプレゼン、情報伝達のコツなど、学生が記事取材を実施するための一連の手法に関連した実践（アクティブラーニング）を行う。

到達目標

1. 現代における社会的課題を自ら発見できる。
2. 自ら設定した問題に対する調査方法を身につけることができる。
3. 社会性のあるテーマに関連した文章を作成し、発信できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション（演習の概要、授業の進め方）
第2回	アイスブレイクとテーマ共有
第3回	問題設定①テーマの決定の方法
第4回	問題設定②テーマと調査対象、アポイントメント
第5回	調査計画書・調査依頼書を作成し、アポを取る
第6回	資料調査（学術書、論文、新聞）
第7回	調査実施
第8回	中間報告
第9回	記事の書き方について
第10回	追加調査
第11回	新聞記事作成
第12回	最終報告発表
第13回	結果へのフィードバック
第14回	調査報告書作成
第15回	総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習： 調査計画をスムーズに実施するための準備をする
 事後学習： 授業内で生じた課題や作業を進める

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正答な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	プレゼン(20)	1, 2
授業外での評価	40	学外調査実施(40)	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	調査報告書(30)	1, 2
その他	10	グループワークへの貢献(10)	3

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

本演習は、正課と結びついたアクションプロジェクト(大阪日日新聞プロジェクト)となるため、事前説明会への出席が義務付けられている。
また、新聞記事を作成するため、学外調査の実施が必須となる(交通費等は学生負担)。

学外授業実施等を含む演習という科目特性から、履修者制限を設ける。
なお、履修希望者が超過した場合には学科基準に則り選抜を行う。
新聞社との協働、学外関係者への取材があるため、強い責任感と計画力が求められる。
履修人数に応じて、個人調査かグループ調査のいずれかを選択してもらう。

授業コード	13084001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	PBL演習Ⅳ [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、カメラと写真を用いたコミュニケーションについて学ぶ。
 まず、フォト・ベースド・コミュニケーション (Photo Based Communication: PBC) の実践を通して、写真表現の可能性について考える。
 次に、PBCを小学校の児童を対象として実践することを想定して、子どもたちの自己肯定感を高めるためには、PBCをどのように改良するべきかを受講生全員で議論する。
 そして、改良したPBCを小学校の授業で実践し、子どもたちが写真で表現したものを読みとる。
 さらには、大学1・2年生を対象としたPBCを企画・運営する。

到達目標

1. フォト・ベースド・コミュニケーションがなぜ教育現場で有効なのかを説明できる。
2. 写真をもちいた表現の可能性を理解する。
3. 社会に存在するコミュニケーション上の課題を写真を用いて解決できる。

授業計画

第01回	オリエンテーション：PBCの概要
第02回	PBCの体験①：発見プログラム
第03回	PBCの体験②：発見プログラム
第04回	PBCの体験③：想いプログラム
第05回	PBCの体験④：想いプログラム
第06回	PBC改良のための検討会①
第07回	PBC改良のための検討会②
第08回	PBC改良のための検討会③
第09回	PBC改良のための検討会④
第10回	小学校でのPBCの教育実践①
第11回	小学校でのPBCの教育実践②
第12回	小学校でのPBCの教育実践③
第13回	大学でのPBCの実践①
第14回	大学でのPBCの実践②
第15回	大学でのPBCの実践③

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外においても、心理学やコミュニケーションの知識を体系化することが求められる。
 また、巷に散在する写真に目を向け、写真表現や写真コミュニケーションについての各自の見解をまとめることが求められる。

課題に対するフィードバックの方法

発表に対しては、プロのフォトグラファーと担当教員が口頭でのフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業への取り組み姿勢	2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1
その他	0		

テキスト なし

参考書

履修条件・他の科目との関連

使用できる撮影機材に限りがあるため、20名を履修の上限とします。
小学校への出張授業は平日となるため、参加者には大学の授業を欠席してもらうことになります。
履修者全員を小学校に連れて行くことを確約するものではありません。

授業コード	13077701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	アクションリサーチ [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、アクションリサーチについて学ぶ。文化やメディアに関連した簡単なアクションリサーチを企画し、主体的に実施し、成果を達成するまでを演習する。具体的には古着屋プロジェクトなどを想定しているが、履修者と事前に相談する。キャリア教育との連携も考えている。

到達目標

1. 初歩的なアクションリサーチを計画することができる。
2. 計画したアクションリサーチを実施することができる。
3. 実施したアクションリサーチについて成果報告することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アクションリサーチ企画①
- 第3回 アクションリサーチ企画②
- 第4回 企画報告会
- 第5回 実施計画①
- 第6回 実施計画②
- 第7回 中間報告会
- 第8回 アクションリサーチ実施①
- 第9回 アクションリサーチ実施②
- 第10回 アクションリサーチ実施③
- 第11回 アクションリサーチ実施④
- 第12回 成果報告作成①
- 第13回 成果報告作成②
- 第14回 成果報告作成③
- 第15回 最終報告会

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、授業内容に関する参考書や資料を熟読したり、テーマにかかわるワードについて下調べをすることで、授業内での作業準備を行う。

事後学習 授業1回につき2時間以上、授業内容を振り返って理解を深めるとともに、必要に応じて授業に沿った追加活動を行う。またそれらの成果を記録し、後の報告に活用する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎回の活動成果(30)	1, 2
授業外での評価	40	事前オリエンテーションにおける重要事項の理解(10) 毎回の活動報告(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	最終成果報告発表(30)	3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業中に指示する。

履修条件・他の科目との関連

学外授業への参加を求められることがある。(交通費等は学生負担)
学外授業実施等を含む演習科目としての性格から、(1)履修者制限を設ける。なお、履修選抜にあたっては過去のアクション科目の成績も参考にする。(2)受講に先立ち重要事項を説明するオリエンテーションを実施するので、指示に従い履修登録すること。

授業コード	13071401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢでは、卒業研究に向けて、研究テーマの設定と具体化を行っていくことを目的とする。前期は、自身の研究したいテーマを設定し、どのような心理学的研究方法を用いて分析、研究を行うかについて、具体的に考えていく。そのために、研究する分野の先行研究を集めてまとめ、発表とディスカッションを行う。後期は、決定したテーマに沿って予備調査を実施する。データ入力後、統計解析結果を発表してディスカッションを行い、卒業研究の準備を行う。

到達目標

- 1, 先行研究などの文献を調べてまとめることができる。
- 2, 研究テーマを決定することができる。
- 3, テーマとそのテーマを明らかにするための心理学的研究方法を選ぶことができる。
- 4, 質問紙の作成を行い、分析することができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション、自己紹介
- 【第2回】 セミナーⅢの研究内容を各自口頭発表、意見交換
- 【第3回】 リサーチクエスションの検討
- 【第4回】 セミナーⅡbの発表
- 【第5回】 セミナーⅡbの発表
- 【第6回】 先行研究発表
内容：自分の行いたい研究に近い先行研究1つをまとめて、発表
- 【第7回】 先行研究発表
内容：自分の行いたい研究に近い先行研究1つをまとめて、発表
- 【第8回】 先行研究発表
内容：自分の行いたい研究に近い先行研究1つをまとめて、発表
- 【第9回】 研究計画を作成してみよう1
内容：セミナーⅢを通して行う研究、予備調査の計画を作成してみる
- 【第10回】 研究計画を作成してみよう2
内容：セミナーⅢを通して行う研究、予備調査の計画を作成してみる
- 【第11回】 全学人権学習（日程は前後する）
- 【第12回】 キャリア教育
- 【第13回】 予備調査の研究方法を各自発表、意見交換
- 【第13回】 予備調査の具体化1
内容：使用する尺度や時期などを決めていく
- 【第14回】 予備調査の具体化
内容：使用する尺度や時期などを決めていく
- 【第15回】 前期のまとめ 前期で学んできたことを振り返って補足説明をし、今後について考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。

事前学習： 次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行う
事後学習： セミナーでのディスカッションを踏まえたうえで、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表に対し適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での発表の内容とレポートを評価の対象とする。4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	発表時の発表内容(先行研究、自身の研究計画など)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1, 2, 3
その他	10	取り組み姿勢	1, 2, 3, 4

テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
------	------------------	--	--

参考書	内容に応じて適宜紹介する。		
-----	---------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。課題の提出締め切りを必ず守ること。無断欠席厳禁。最後まであきらめずに出席し、参画すること。授業への積極的な参加を求めます。受講生の関心に応じて授業内容は適宜調整する。日程が前後する場合もある。新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する可能性があります。その場合は随時連絡します。		
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13071402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、①現代のコミュニケーションまたは対人関係に関する問題を社会的に分析する、②フィールドワークや質的調査法を理解しつつ、各自が選択したテーマについて方法と課題を検討することを目的とする。Ⅲaでは、社会学（および横断する隣接領域）におけるコミュニケーション論や現代社会についての基礎的な知識を深める。具体的には、研究テーマに基づいた文献資料の読み込み、先行研究調査の発表を中心とする。

到達目標

1. 社会的視点を養い、基礎的な理論・視点を知識として獲得する
2. コミュニケーション・人間関係についての文献を深く読み込み、自身の問題関心に対して応用することができる
3. 研究テーマについて、自分の見解を他者に丁寧に説明することができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（前期の位置づけ）
- 第2回 輪読文献の決定と分担
- 第3回 輪読①教員による基礎文献の紹介
- 第4回 輪読②個人発表
- 第5回 輪読③フィードバック
- 第6回 卒業研究テーマの検討
- 第7回 問題の設定とは（オリエンテーション）
- 第8回 文献・資料の読み込み
- 第9回 資料作成（レジュメの作成方法について）
- 第10回 個人発表①内容のプレゼン
- 第11回 個人発表②批評とフィードバック
- 第12回 各自の研究課題の検討
- 第13回 研究ノートの作成
- 第14回 課題の再設定と後期までに行う作業計画
- 第15回 前期振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前（2時間）・事後（2時間）において調査資料の収集、読み込み、整理が求められる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での個人発表などにおいて、口頭でフィードバックを行う。
また、必要に応じてワークシートについてコメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	発表(30)	1, 3
授業外での評価	20	ワークシート(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート(30)	1, 2, 3
その他	20	演習での発言・質疑、グループワークでの貢献(20)	2, 3

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	原則として毎回の出席を求め、やむを得ず欠席する場合は必ず事前連絡をすること。

履修条件・他の科目との関連

受講生同士の活発な意見交換や批判的態度が求められる。
積極的な学外調査やフィールドワークが求められる(交通費等は学生負担)。
社会学系講義やアクション科目を履修していることが望ましい(未履修の学生には3年次での履修を求める)。

授業コード	13071403	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、身近な、「ごくごくありふれた日常」について考える。ここでいう「ごくごくありふれた日常」とは、例えばアルバイト、就職活動、サークル活動、観光地、友人、恋愛、家族、都会、地元、障害、ジェンダー、セクシュアリティなどをさす。具体的には、ある特定のテーマに沿って本を選定し、セミナー全体で輪読し、デスカッションを行う。そのことを通じて、社会に対する複眼的思考力を修得し、卒業研究のテーマ設定に向けて準備を進める。

到達目標

1. 社会学的な「問い」を発見することができる
2. 複眼的に社会について考えることができる
3. 他の受講生に対して、自らの考えや調べてきたことを具体的に伝えることができる

授業計画

第1回	前期イントロダクション
第2回	本の選定と発表者の決定
第3回	個人発表とディスカッション1 社会学的な「問い」とは？
第4回	個人発表とディスカッション2 複眼的な思考法
第5回	個人発表とディスカッション3 社会の多様性と複雑性
第6回	第5回までのふりかえり 社会学の基本的視座
第7回	本の選定と発表者の決定
第8回	個人発表とディスカッション1 社会学的方法論
第9回	個人発表とディスカッション2 社会学的な調査
第10回	個人発表とディスカッション3 社会学的な分析
第11回	第11回までのふりかえり
第12回	卒業研究に向けた準備1 テーマの選定と発表
第13回	卒業研究に向けた準備2 テーマに関連する文献の収集
第14回	卒業研究に向けた準備3 研究目的の明確化
第15回	前期のふりかえりと夏季休暇の課題について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：文献の精読と個人発表に向けた資料作成。各回ごとに2時間以上。
事後学習：セミナーでのディスカッションを踏まえ、発表資料の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の個人発表、および発表資料に対して適宜コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業への参加態度(20)、個人発表(60)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポートの作成(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	無遅刻、無欠席を原則とします。

授業コード	13071404	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーでは、社会の中で生活する人間の行動を心理学的な観点から分析するとともに、卒業論文の作成に必要な科学的な思考方法と表現法について学んでいきます。前期は、心理学の研究方法について理解を深めることを目的とします。具体的には、各自に心理学の論文を読んでもらい、それを発表する形式で授業を進めます。

到達目標

1. 社会の中で生活する人間の行動を心理学的な観点から分析できる。
2. 卒業論文の作成に必要な、科学的な思考方法と表現法を身につける。

授業計画

第01回：セミナーⅢで学ぶこと（オリエンテーション）
 第02回：文献検索の方法（論文や書籍の検索方法について）
 第03回：グループ討議（年間グループ課題の設定）
 第04回：心理学論文の読み方（心理学論文の構成と読み方について）
 第05回：心理学論文講読①（個人発表と質疑応答）
 第06回：心理学論文講読②（個人発表と質疑応答）
 第07回：心理学論文講読③（個人発表と質疑応答）
 第08回：心理学論文講読④（個人発表と質疑応答）
 第09回：コミュニケーションワーク
 第10回：心理学論文講読⑤（個人発表と質疑応答）
 第11回：心理学論文講読⑥（個人発表と質疑応答）
 第12回：心理学論文講読⑦（個人発表と質疑応答）
 第13回：心理学論文講読⑧（個人発表と質疑応答）
 第14回：キャリア教育
 第15回：前期の振り返り（前期の反省と後期の課題発見）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前期は、各自の担当論文について関連する書籍を読むなどして理解するとともに、発表用の資料を作成することが主となる。そのためには、文献の検索と熟考、セミナー学生との意見交換などを求める。発表前にはレジュメの作成、学期末にはレポート執筆がある。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題に関しては、独自の評価シートに批評文を添えて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業中の討議への参加姿勢と期末レポートで総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	授業中の討議への参加姿勢	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	なし
参考書	松井豊(2010)改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社

授業コード	13071405	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

社会学、文化社会学、メディア論の分野から、受講者の興味のあるテーマを設定し、自由に研究・発表を通じて問題意識や知識を深める。4回生の卒業研究の準備を整えることを第一目的としている。

到達目標

1. 卒業研究の仮テーマを設定する。
2. 設定したテーマに基づき卒業研究の準備作業を行う。
3. 準備作業に基づき3年次後期の卒業研究計画を立案する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
 第2回 図書館ツアー（日程は前後する）
 第3回 研究法の解説(1)
 第4回 研究法の解説(2)
 第5回 研究テーマ決定のための発表と討議(1)
 第6回 研究テーマ決定のための発表と討議(2)
 第7回 研究テーマ決定のための発表と討議(3)
 第8回 研究テーマ決定のための発表と討議(4)
 第9回 研究テーマ決定のための発表と討議(5)
 第10回 研究テーマ決定のための発表と討議(6)
 第11回 全学人権映画会（日程は前後する）
 第12回 研究テーマ決定のための発表と討議(7)
 第13回 研究テーマ決定のための発表と討議(8)
 第14回 研究テーマ決定のための発表と討議(9)
 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、自らの研究を各回の授業内で具体的に発表・討議できるよう、内容を深め進捗させておく。

事後学習 授業1回につき2時間以上、各回授業を受けて、自らの研究を改善し、次回に向けて進捗させる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回の活動成果(40)	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の活動報告(40)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	卒業研究計画書案(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 卒業「研究」は卒業「論文」だけではない。最終成果物である論文に至る研究過程全てが評価される。卒業研究は各自がどのようなテーマに取り組むかによって、指導内容や難易度が大きく変化する。こ

履修条件・他の科目との関連

のことを理解の上、教員と研究計画を十分な余裕を持って相談し、合意しておくこと。
必要に応じて、個別指導のための補講を実施する。
4回生が実施する中間発表に積極的に参加すること。
有田ゼミ独自の取り組みとして、キャリア教育と関連したPBLの機会を設けることがある。

授業コード	13071406	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、各自が関心や問題意識に基づく独自の研究テーマを設定し、テーマに関連する資料の収集、研究背景の理解を深めながら、研究計画を立てることを目的とする。さらに、討論を繰り返しながら、方法論の検討、調査・実験の実施、結果の分析・解釈など、各自の進行にあわせて順次指導をする。

到達目標

1. 文献資料の入手と熟読をすることができる。
2. 研究テーマの決定をすることができる。
3. 方法論の理解と実施内容の決定をすることができる。
4. 質問紙の作成をすることができる。

授業計画

第1回	4回生によるプレゼミ（自己紹介等）とオリエンテーション
第2回	図書館ツアー
第3回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第4回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第5回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第6回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第7回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第8回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第9回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第10回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第11回	全学人権映画会（合同）（日程は前後する）（「人権」に関する映画を視聴することで、より深く「人権」について理解する）
第12回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第13回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第14回	個別発表（研究テーマの設定と計画の具体化）
第15回	前期のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：文献の検索・熟考と個別発表の準備。各回ごとに2時間以上。
事後学習：討論を踏まえての発表資料の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

セミナー課題（プレゼンテーション）におけるフィードバックはその場で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

個別発表とレポートおよび授業内討論による総合評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	個別発表	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	小レポート	1, 2
その他	20	授業内討論における取り組み姿勢	2, 3

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	セミナーⅣで実施される中間発表会に積極的に参加し、「卒業研究発表会」には必ず出席するこ

授業コード	13071407	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは人間の心について、心理学的研究法の手法を用いて分析、卒業研究の準備をすることを目的とする。各自興味のあるテーマを決定し、先行研究を収集して発表し、討議する。決定したテーマに沿って、卒業研究予備調査の準備を進める。セミナーⅢaは発表と質疑応答形式で進み、アクティブラーニングの要素を含む。担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、長年の勤務経験をもとに、実務家教員として、将来心理関係の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

1. レジューム作成と発表・質疑応答を通じて、卒業研究のテーマを決定する
2. 文章作成力を高める
3. 論理的思考力を高める
4. 主体性、表現力、コミュニケーション力を高める

授業計画

【第1回】
オリエンテーション。セミナーⅢaの進め方について説明する。全員で自己紹介をする。

【第2回】
発表予定の決定・4回生の研究発表と質疑応答1。4回生の卒業研究発表を聞き、討議する。

【第3回】
4回生の研究発表と質疑応答2。4回生の卒業研究発表を聞き、討議する。

【第4回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表1-1。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第5回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表1-2。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第6回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表1-3。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第7回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表1-4。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第8回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表1-5。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第9回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表1-6。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第10回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表2-1。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第11回】
全学人権映画会（合同・日程は前後する）。「人権」に関する映画を視聴することで、より深く「人権」について理解する。

【第12回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表2-2。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第13回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表2-3。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第14回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表2-4。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第15回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表2-5。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。

事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。

事前学習: 次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行う。

事後学習: セミナーでのディスカッションを踏まえたうえで、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

発表回の授業時間内にコメントする。授業時間外に個人面談し、課題のフィードバックをする。

成績評価の方法・基準(方針)

セミナーへの積極的な取り組み姿勢を評価する。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	各発表回の発表(30)質疑応答(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	各発表回の発表レジュメ作成(20)レジュメの質(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	ラーニングポートフォリオ(20)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト プリントを配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 セミナーⅣで実施される中間発表会に積極的に参加すること。
心理学関連科目を履修していることが望ましい。

授業コード	13071408	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢでは、卒業研究に向けて、研究テーマの設定と予備研究を行うことを目標とする。前期のセミナーⅢaでは、各自が興味のあるテーマを決定し、先行研究を収集・熟読を行い、発表と討議を行う。それにより、自身の関心を具体化し、研究を行うための課題を明確にすることを目的とする。

到達目標

1. 心理学に関する先行研究や文献を集め、熟読することができる
2. 研究テーマを決定することができる
3. 心理学研究の方法論を理解し、実施内容を決定することができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索の方法
- 第3回 心理学論文の読み方
- 第4回 発表資料のまとめ方
- 第5回 心理学論文購読①(個人発表)
- 第6回 心理学論文購読②(個人発表)
- 第7回 心理学論文購読③(個人発表)
- 第8回 心理学論文購読④(個人発表)
- 第9回 心理学論文購読⑤(個人発表)
- 第10回 全学人権学習(日程は前後する)
- 第11回 キャリア教育(日程は前後する)
- 第12回 心理学論文購読⑥(個人発表)
- 第13回 心理学論文購読⑦(個人発表)
- 第14回 心理学論文購読⑧(個人発表)
- 第15回 前期のまとめと後期に向けて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業の事前事後で、各自の研究テーマに合わせて文献検索と熟読を行う。また、個人発表に向けて発表資料の準備も必要となる。発表後は、セミナー内でのディスカッションを踏まえたうえで、課題をまとめて、次の情報・文献収集につなげる。

課題に対するフィードバックの方法

発表については授業内で講評を行う。その他のレポートや課題については、個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

セミナーへの積極的な取り組みを総合的に評価する。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内での発表や質疑応答	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	発表資料やその他の課題の内容	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	セミナーⅣで実施される中間発表会に積極的に参加すること。また心理学実験や研究法、心理統

授業コード	13071501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢでは、卒業研究に向けて、研究テーマの設定と具体化を行っていくことを目的とする。前期は、自身の研究したいテーマを設定し、どのような心理学的研究方法を用いて分析、研究を行うかについて、具体的に考えていく。そのために、研究する分野の先行研究を集めてまとめ、発表とディスカッションを行う。後期は、決定したテーマに沿って予備調査を実施する。データ入力後、統計解析結果を発表してディスカッションを行い、卒業研究の準備を行う。

到達目標

- 1, 先行研究などの文献を調べてまとめることができる。
- 2, 研究テーマを決定することができる。
- 3, テーマとそのテーマを明らかにするための心理学的研究方法を選ぶことができる。
- 4, 質問紙の作成を行い、分析することができる。
- 5, 予備調査を行うことができる。

授業計画

- 【第1回】 セミナーⅢbの研究計画の確認
- 【第2回】 先行研究発表 1
内容：夏休みに調べてきた先行研究3本のうち、1本について発表
- 【第3回】 先行研究発表 2
内容：夏休みに調べてきた先行研究3本のうち、1本について発表
- 【第4回】 先行研究発表 3
内容：夏休みに調べてきた先行研究3本のうち、1本について発表
- 【第5回】 先行研究発表 4
内容：夏休みに調べてきた先行研究3本のうち、1本について発表
- 【第6回】 予備調査で使用する尺度を作成して発表、意見交換
- 【第7回】 尺度として完成したものをセミナーⅢメンバーで検討、実施
- 【第8回】 完成した尺度をセミナーⅢメンバー対象に実施 1
- 【第9回】 完成した尺度をセミナーⅢメンバー対象に実施 2
- 【第10回】 予備調査分析実施 (コンピューター室)
- 【第11回】 予備調査分析実施 (コンピューター室)
- 【第12回】 予備調査分析実施 (コンピューター室)
- 【第13回】 予備調査結果発表 1
- 【第14回】 予備調査結果発表 2
- 【第15回】 セミナーⅣ研究計画作成

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。
事前学習： 次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行う
事後学習： セミナーでのディスカッションを踏まえううえで、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表に対し適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での発表の内容とレポートを評価の対象とする。4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	発表時の発表内容	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	10	取り組み姿勢	1, 2, 3, 4, 5
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	内容に応じて適宜紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	4回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。課題の提出締め切りを必ず守ること。無断欠席厳禁。最後まであきらめずに出席し、参画すること。授業への積極的な参加を求めます。受講生の関心に応じて授業内容は適宜調整する。日程が前後する場合もある。新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する可能性があります。その場合は随時連絡します		

授業コード	13071502	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、①現代のコミュニケーションまたは対人関係に関する問題を社会的に分析する、②フィールドワークや質的調査法を理解しつつ、各自が選択したテーマについて方法と課題を検討することを目的とする。Ⅲbでは、卒業研究計画の作成を目的とする。個人発表やディスカッションを通じてブラッシュアップを行い、卒業研究までの課題を明らかにする。また、質的調査研究法の理解を深め、調査練習も行う。

到達目標

1. 社会的視点を養い、基礎的な理論・視点を知識として獲得する
2. コミュニケーション・人間関係についての文献を深く読み込み、自身の問題関心に対して応用することができる
3. 質的調査方法を理解し、卒業研究を完成させるための手法を設定できる
4. 3で設定した方法を実行し、結果を分析できる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（後期の位置づけ）
- 第2回 テーマと課題報告（夏季休暇中の報告）
- 第3回 調査方法の検討
- 第4回 調査方法の決定一何をどのように明らかにするか
- 第5回 調査対象の選定と共有
- 第6回 事前調査
- 第7回 プレ調査
- 第8回 調査報告①実施の詳細
- 第9回 調査報告②実施後の課題一次に何をすべきか
- 第10回 課題の洗い出し
- 第11回 卒業研究計画書の概要
- 第12回 卒業研究計画書発表①（個人発表）
- 第13回 卒業研究計画書発表②（フィードバック）
- 第14回 卒業研究計画書の作成
- 第15回 後期の振り返りと冬期休暇中の作業課題の検討

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前（2時間）・事後（2時間）において調査資料の収集、フィールドデータの整理など卒業研究に向けた準備が求められる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での個人発表などにおいて、口頭でフィードバックを行う。
また、必要に応じてワークシートについてコメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	発表(15)、実施報告(15)	1, 3, 4
授業外での評価	30	プレ調査実施(30)	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究計画書(30)	2, 3, 4
その他	10	演習での発言と質疑・課題への取り組み(10)	1, 2, 3

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業内で紹介する

履修条件・他の科目との関連

原則として毎回の出席を求め、やむを得ず欠席する場合は必ず事前連絡をすること。
受講生同士の活発な意見交換や批判的態度が求められる。
積極的な学外調査やフィールドワークが求められる(交通費等は学生負担)。
社会学系講義やアクション科目を履修していることが望ましい。

授業コード	13071503	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、身近な、「ごくごくありふれた日常」について考える。とくに後期のセミナーⅢbでは、前期の学習成果を踏まえつつ、卒業研究のテーマの明確化、テーマに沿った文献のリストアップ、文献の精読とその関連づけに取り組む。そのことを通じて、研究計画書の中身をブラッシュアップし、次年度の卒業研究執筆へのスムーズな移行を目指す。

到達目標

1. 社会的なテーマを設定することができる
2. 文献を精読し、それらを関連づけることができる
3. 研究の目的を明確にすることができる

授業計画

第1回	後期イントロダクション
第2回	研究テーマの発表者の決定
第3回	個人発表とディスカッション1 社会的な「テーマ」とは？
第4回	個人発表とディスカッション2 社会問題との関連づけ
第5回	個人発表とディスカッション3 個人の問題と社会の問題
第6回	第5回までのふりかえり テーマ・先行研究・目的
第7回	文献レビューの発表者の決定
第8回	個人発表とディスカッション1 先行研究とは？
第9回	個人発表とディスカッション2 先行研究を関連づける
第10回	個人発表とディスカッション3 目的の明確化
第11回	第11回までのふりかえり 大きな問いから小さな問いへ
第12回	卒業研究に向けた準備1 研究計画書の再構成
第13回	卒業研究に向けた準備2 研究計画書の報告
第14回	卒業研究に向けた準備3 研究計画書の完成
第15回	後期のふりかえりと冬季休暇の課題について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：個人発表に向けた資料作成。各回ごとに2時間以上。

事後学習：セミナーでのディスカッションを踏まえ、研究計画書の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の個人発表、および発表資料に対して適宜コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業への参加態度(20)、個人発表(60)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポートの提出(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	無遅刻、無欠席を原則とします。 事情で休む場合、遅刻する場合は、事前に担当教員に必ず連絡してください。

授業コード	13071504	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーでは、社会の中で生活する人間の行動を心理学的な観点から分析するとともに、卒業論文の作成に必要な科学的な思考方法と表現法について学んでいきます。
後期は、卒業研究の「問い」を設定し、具体的な研究計画を立てることを目的とします。
そのため、テーマに関する専門書や論文を読み、個人で発表を行いながら、プレ卒論を作成します。

到達目標

1. 社会の中で生活する人間の行動を心理学的な観点から分析できる。
2. 卒業論文の作成に必要な、科学的な思考方法と表現法を身につける。

授業計画

- 第01回：イントロダクション（後期の展望）
第02回：旅の文化研究報告会
第03回：卒業研究のテーマ設定（卒業研究で取り組むテーマを決定する）
第04回：卒論計画発表①（研究計画発表と質疑応答）
第05回：卒論計画発表②（研究計画発表と質疑応答）
第06回：卒論計画発表③（研究計画発表と質疑応答）
第07回：卒論計画発表④（研究計画発表と質疑応答）
第08回：卒論計画発表⑤（研究計画発表と質疑応答）
第09回：卒論計画発表⑥（研究計画発表と質疑応答）
第10回：卒論計画発表⑦（研究計画発表と質疑応答）
第11回：卒論計画発表⑧（研究計画発表と質疑応答）
第12回：卒業研究の仮説構築①（仮説とその根拠を組み立てる）
第13回：卒業研究の仮説構築②（仮説とその根拠を組み立てる）
第14回：卒業研究の仮説構築③（仮説とその根拠を組み立てる）
第15回：後期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各自の卒業研究テーマに応じて仮説の設定および研究計画の立案が必要となる。
そのためには、文献の検索と熟考、セミナー学生との意見交換などを求める。
発表前にはレジュメの作成、学期末にはレポート執筆がある。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題に関しては、独自の評価シートに批評文を添えて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業中の討議への参加姿勢と期末レポートで総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業中の討議への参加姿勢	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	なし
参考書	松井豊(2010)改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社
履修条件・他の科目との関連	卒業研究発表会にも必ず出席すること。

授業コード	13071505	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

社会学、文化社会学、メディア論の分野から、受講者の興味のあるテーマを設定し、自由に研究・発表を通じて問題意識や知識を深める。4年生の卒業研究の準備を整えることを第一目的としている。

到達目標

1. 卒業研究のテーマを設定する。
2. 設定したテーマに基づき卒業研究の準備作業を行う。
3. 準備作業に基づき4年次の卒業研究計画を立案する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 先行研究講読(1)
- 第3回 先行研究講読(2)
- 第4回 先行研究講読(3)
- 第5回 先行研究講読(4)
- 第6回 先行研究講読(5)
- 第7回 個人発表(1)
- 第8回 個人発表(2)
- 第9回 個人発表(3)
- 第10回 個人発表(4)
- 第11回 個人発表(5)
- 第12回 PROGフォローアップ
- 第13回 研究計画策定(1)
- 第14回 研究計画策定(2)
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、自らの研究を各回の授業内で具体的に発表・討議できるよう、内容を深め進捗させておく。

事後学習 授業1回につき2時間以上、各回授業を受けて、自らの研究を改善し、次回に向けて進捗させる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎回の活動成果(40)	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の活動報告(40)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	卒業研究計画書(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 卒業「研究」は卒業「論文」だけではない。最終成果物である論文に至る研究過程全てが評価される。卒業研究は各自がどのようなテーマに取り組むかによって、指導内容や難易度が大きく変化する。こ

履修条件・他の科目との関連

のことを理解の上、教員と研究計画を十分な余裕を持って相談し、合意しておくこと。
必要に応じて、個別指導のための補講を実施する。
4回生が実施する「卒業研究発表会」には必ず出席すること。
有田ゼミ独自の取り組みとして、キャリア教育と関連したPBLの機会を設けることがある。

授業コード	13071506	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、各自が関心や問題意識に基づく独自の研究テーマを設定し、テーマに関連する資料の収集、研究背景の理解を深めながら、研究計画を立てることを目的とする。さらに、討論を繰り返しながら、方法論の検討、調査・実験の実施、結果の分析・解釈など、各自の進行にあわせて順次指導をする。

到達目標

1. 文献資料の入手と熟読ができる。
2. 研究テーマの決定をすることができる。
3. 方法論の理解と実施内容の決定をすることができる。
4. 質問紙の作成をすることができる。

授業計画

- 第1回 前期の振り返り
 第2回 オリエンテーション（後期内容の確認）
 第3回 個別発表（質問紙作成と予備調査準備）
 第4回 個別発表（質問紙作成と予備調査準備）
 第5回 個別発表（質問紙作成と予備調査準備）
 第6回 個別発表（質問紙作成と予備調査準備）
 第7回 個別発表（質問紙作成と予備調査準備）
 第8回 個別発表（質問紙作成と予備調査準備）
 第9回 個別発表（予備調査結果発表）
 第10回 個別発表（予備調査結果発表）
 第11回 個別発表（予備調査結果発表）
 第12回 個別発表（予備調査結果発表）
 第13回 個別発表（予備調査結果発表）
 第14回 個別発表（予備調査結果発表）
 第15回 プレゼミの準備（次年度用）（作業役割の分担）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：文献の検索・熟考と個別発表の準備。各回ごとに2時間以上。
 事後学習：討論を踏まえての発表資料の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

セミナー課題（プレゼンテーション）におけるフィードバックはその場で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

個別発表とレポートおよび授業内討論による総合評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	個別発表	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	小レポート	1, 2
その他	20	授業内討論への取り組み姿勢	2, 3

テキスト テキストは使用しない。

参考書 適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連 セミナーⅣで実施される中間発表会に積極的に参加し、「卒業研究発表会」には必ず出席すること。

授業コード	13071507	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは人間の心について、心理学的研究法の手法を用いて分析、研究していくことを目的とする。セミナーⅢaで各自決定したテーマに沿って、レジュメと質問紙を作成し、予備調査を実施する。収集したデータを入力後、統計解析結果を発表して討議し、卒業研究の準備を進める。セミナーⅢbは発表と質疑応答形式で進み、アクティブラーニングの要素を含む。

担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、長年の勤務経験をもとに、実務家教員として、将来心理関係の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

1. レジュメ作成と発表・質疑応答を通じて、卒業研究のテーマを決定する
2. 文章作成力を高める
3. 論理的思考力を高める
4. 発表・質疑応答および、セミナー内での対人関係を通じて、主体性、表現力、コミュニケーション力を身につける

授業計画

【第1回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表1。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。発表順と予定を決める。

【第2回】
研究テーマに関連する論文をまとめて発表2。興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。

【第3回】
予備調査レジュメ発表および予備調査準備1。予備調査のテーマを決定し、発表日までに質問紙とレジュメを作成する。レジュメ発表、質疑応答後、予備調査の準備をする。

【第4回】
予備調査レジュメ発表および予備調査準備2。予備調査のテーマを決定し、発表日までに質問紙とレジュメを作成する。レジュメ発表、質疑応答後、予備調査の準備をする。

【第5回】
予備調査レジュメ発表および予備調査準備3。予備調査のテーマを決定し、発表日までに質問紙とレジュメを作成する。レジュメ発表、質疑応答後、予備調査の準備をする。

【第6回】
予備調査レジュメ発表および予備調査準備4。予備調査のテーマを決定し、発表日までに質問紙とレジュメを作成する。レジュメ発表、質疑応答後、予備調査の準備をする。

【第7回】
予備調査レジュメ発表および予備調査準備5。予備調査のテーマを決定し、発表日までに質問紙とレジュメを作成する。レジュメ発表、質疑応答後、予備調査の準備をする。

【第8回】
キャリア教育（日程は前後する）。大学卒業後の具体的な進路に応じて、その準備に必要な事柄を学ぶ。

【第9回】
予備調査結果発表1。予備調査実施後、相関分析結果までのレジュメを発表し、質疑応答する。

【第10回】
予備調査結果発表2。予備調査実施後、相関分析結果までのレジュメを発表し、質疑応答する。

【第11回】
予備調査結果発表3。予備調査実施後、相関分析結果までのレジュメを発表し、質疑応答する。

【第12回】
予備調査結果発表4。予備調査実施後、相関分析結果までのレジュメを発表し、質疑応答する。

【第13回】
予備調査結果発表5。予備調査実施後、相関分析結果までのレジュメを発表し、質疑応答する。

【第14回】
予備調査結果発表6。予備調査実施後、相関分析結果までのレジュメを発表し、質疑応答する。

【第15回】
セミナーⅢbまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
授業(1回につき2時間として計算)と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。
事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。

事前学習：次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行

う。
事後学習：セミナーでのディスカッションを踏まえたうえで、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

各発表回の授業時間内にフィードバックする。授業時間外に個人面談し、課題についてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

セミナーへの積極的な取り組み姿勢を評価する。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	各発表回の発表(30)質疑応答(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	各発表回の発表レジュメ作成(20)レジュメの質(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	ラーニングポートフォリオ(20)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト プリントを配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 セミナーⅣaで実施される中間発表会に積極的に参加し、セミナーⅣbの「卒業研究発表会」には必ず出席すること。
心理学関連科目を履修していることが望ましい。

授業コード	13071508	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢでは、卒業研究に向けて、研究テーマの設定と予備研究を行うことを目標とする。後期のセミナーⅢbでは、自身の関心を具体的な研究計画にし、それを実施することを目的とする。それと並行して、テーマに関する先行研究を読み進め、個人発表を行いながら、プレ卒論を作成する。

到達目標

1. 心理学に関する先行研究や文献を集め、熟読することができる
2. 研究テーマを決定することができる
3. 心理学研究の方法論を理解し、実施内容を決定することができる
4. 研究を実施し、その結果をまとめる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（前期のふりかえり）
 第2回 個人発表①
 第3回 個人発表②
 第4回 個人発表③
 第5回 研究計画と予備研究の準備と実施①
 第6回 研究計画と予備研究の準備と実施②
 第7回 研究計画と予備研究の準備と実施③
 第8回 研究計画と予備研究の準備と実施④
 第9回 研究計画と予備研究の準備と実施⑤
 第10回 予備研究の結果整理①
 第11回 予備研究の結果整理②
 第12回 予備研究結果の発表①
 第13回 予備研究結果の発表②
 第14回 予備研究結果の発表③
 第15回 4年生に向けてのまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業の事前事後で、各自の研究の準備や実施を行う。また研究テーマに合わせて文献検索と熟読も適宜行う。また、個人発表に向けて発表資料の準備も必要となる。発表後は、セミナー内でのディスカッションを踏まえたうえで、課題をまとめて、次の情報・文献収集につなげる。

課題に対するフィードバックの方法

発表については授業内で講評を行う。その他のレポートや課題については、個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

セミナーへの積極的な取り組みを総合的に評価する。以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内での発表や質疑応答	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	発表資料やその他の課題の内容	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト

テキストは使用しない。

参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	卒業研究発表会にも必ず出席すること。また心理学実験や研究法、心理統計法に関する授業も履修すること。

授業コード	13077901	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、「セミナーⅢ」で習得したことを基礎として、各自の選択したテーマに沿って仮説を設定し、調査、研究を行う。最終的には卒業研究としてまとめ、発表することを目的とする。セミナーⅣは発表と質疑応答形式で進み、アクティブラーニングの要素を含む。
担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、長年の勤務経験をもとに、実務家教員として、将来心理関係の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

- 1、卒業研究を作成する
- 2、先行研究などの文献を調べてまとめることができる。
- 3、自分の研究テーマを決め、調査、分析を行うことができる
- 4、自分の意見や調査結果を発表、質疑応答ができる

授業計画

【第1回】 オリエンテーション、本調査研究計画決定 質問紙の決定 本調査の実施順、発表順を決める
【第2回】 本調査準備 1 セミナー内での調査実施
【第3回】 本調査準備 2 本調査日程など決定
【第4回】 卒業研究レジュメ発表および本調査準備、実施 1
内容・方法：卒業研究の項目や調査などを進め、進んだところまでを発表、共有、意見交換。
【第5回】 卒業研究レジュメ発表および本調査準備、実施 2
内容・方法：卒業研究の項目や調査などを進め、進んだところまでを発表、共有、意見交換。
【第6回】 中間発表概要発表
【第7回】 中間発表概要発表
【第8回】 卒業研究レジュメ発表および本調査準備、実施 3
内容・方法：卒業研究の項目や調査などを進め、進んだところまでを発表、共有、意見交換。
【第9回】 本調査結果発表
内容・方法：本調査研究計画に基づき、発表順に本調査を実施し、発表日までに質問紙データを入力し、因子分析、相関分析までの結果をレジュメ発表する。
【第10回】 中間発表 予行演習
【第11回】 中間発表 予行演習
【第12回】 中間発表 パネル作成
【第13回】 中間発表会
【第14回】 中間発表振り返り
【第15回】 前期まとめ
内容・方法：進捗状況を確認し、今後の計画について検討する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。
事前学習：次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行う
事後学習：セミナーでのディスカッションを踏まえ、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表に対し適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での発表の内容と卒業研究を評価の対象とする。3回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	発表時の口頭発表内容と作成資料(先行研究、自身の研究計画など)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	中間発表の発表資料等を評価	1, 2, 3
その他	10	取り組み姿勢	1, 2, 3, 4

テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
------	------------------	--	--

参考書	内容に応じて適宜紹介する。		
-----	---------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	3回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。課題の提出締め切りを必ず守ること。無断欠席厳禁。最後まであきらめずに出席し、参画すること。授業への積極的な参加を求めます。受講生の関心に応じて授業内容は適宜調整する。日程が前後する場合もある。新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する可能性があります。その場合は随時連絡します		
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13077902	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅣでは、セミナーⅢa、セミナーⅢbでの研究成果・計画をもとに、卒業研究の完成に向けて執筆活動を開始する。
Ⅳaでは先行文献の整理と調査計画に基づいた調査実施を目的とし、必要な情報の収集・整理・分析を行う。

到達目標

1. 卒業研究の先行研究をまとめ、研究課題に基づいてそれらを分析することができる
2. 卒業研究計画書に基づいて調査を実施できる
3. 調査実施後の資料を整理、分析することができる

授業計画

- 第1回 前期イントロダクション
- 第2回 春期休暇中の成果発表
- 第3回 先行研究の収集と整理
- 第4回 先行研究の分析
- 第5回 個人発表①先行研究
- 第6回 方法の再検討と調査計画のブラッシュアップ
- 第7回 個人発表②調査計画
- 第8回 調査実施準備
- 第9回 調査実施
- 第10回 実施報告とフィードバック
- 第11回 発表PowerPoint作成
- 第12回 中間発表前添削
- 第13回 中間発表会
- 第14回 論文のいろは一形式の確認
- 第15回 まとめ—夏季休暇中の作業確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：個人発表・調査実施に向けた情報の収集・整理（2時間以上）
事後学習：先行研究・調査実施後の分析と執筆（2時間以上）

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜口頭でのフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	先行研究発表(10)、調査計画発表(10)	1
授業外での評価	30	調査実施(30)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	中間発表(40)	1, 2, 3
その他	10	演習における発言・質疑(10)	1, 2, 3

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	4年間の集大成として、これまで学んだことを自分自身の言動で表現することが求められる。 必要に応じて個別での補講を行う可能性がある。 卒業研究中間発表会への出席は必須。

授業コード	13077903	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢa、セミナーⅢbでの学習成果をもとに、卒業研究の完成に向けて執筆活動を開始する。具体的には、設定したテーマに基づき、先行研究を整理し、その上で綿密な調査計画を立て、必要な情報の収集・整理・分析を行う。とくにセミナーⅣaでは、個人発表やディスカッションを通じて、卒業研究を完成度の高いものに仕上げていくことに主眼を置く。

到達目標

1. 設定したテーマに基づき、必要な情報を集めることができる
2. 集めた情報を整理することができる
3. 集めた情報を分析することができる

授業計画

第1回	前期イントロダクション
第2回	研究テーマの設定と発表
第3回	先行研究の収集
第4回	先行研究の整理
第5回	調査計画書の作成
第6回	調査計画書の完成
第7回	中間発表の準備1 問題意識と問いの明確化
第8回	中間発表の準備2 先行研究の整理
第9回	中間発表の準備3 調査概要の要約
第10回	個人発表とディスカッション1 論文の構成
第11回	個人発表とディスカッション2 レイアウトの調整
第12回	発表資料の作成と完成
第13回	中間発表会
第14回	研究計画書および調査計画書の再調整
第15回	まとめと復習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：個人発表に向けた情報の収集・整理、および資料作成。各回ごとに2時間以上。
事後学習：セミナーでのディスカッションを踏まえ、中間発表会に向けた資料の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の個人発表、および、中間発表会用の資料に対して適宜コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への参加態度(20)、中間発表(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	卒業研究の執筆(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	必要に応じて、個別指導のための補講を実施します。

授業コード	13077904	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅣでは、セミナーⅢで学んだことをもとに、卒業研究を論文としてまとめることを目的とします。具体的には、各自のテーマに沿ってデータの収集と分析を行い、論文の執筆と発表を行います。

到達目標

1. 社会の中で生きる人間の行動を心理学的な観点から分析し、卒業論文としてまとめること。
2. 大学4年間で学んできた科学的な思考方法と表現方法を実践すること。

授業計画

第01回	卒業研究のテーマ確認
第02回	研究経過発表①：個人発表と質疑応答
第03回	研究経過発表②：個人発表と質疑応答
第04回	研究経過発表③：個人発表と質疑応答
第05回	研究経過発表④：個人発表と質疑応答
第06回	調査・実験の準備①：予備調査・実験の実施
第07回	調査・実験の準備②：予備調査・実験の実施
第08回	研究経過発表⑤：個人発表と質疑応答
第09回	研究経過発表⑥：個人発表と質疑応答
第10回	研究経過発表⑦：個人発表と質疑応答
第11回	研究経過発表⑧：個人発表と質疑応答
第12回	研究経過発表⑨：個人発表と質疑応答
第13回	中間発表会の準備：パネルの印刷と発表の心構え
第14回	中間発表会（合同）：パネル提示方式の発表会
第15回	中間発表会の振り返り：中間発表会の反省

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各自のテーマのもと卒業研究に取り組むことが必要である。
具体的には、調査票の作成、データ収集、データ分析などである。

課題に対するフィードバックの方法

中間発表会での発表について、口頭でのフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での議論を活発にする意見出しと、卒業研究の取り組み姿勢で評価する。
単位取得のための前提条件として、中間発表会での発表が必要。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内での議論を活発にする意見出し	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	中間発表のパネル	1, 2
その他	0		

テキスト	なし
参考書	松井豊(2010)改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社
履修条件・他の科目との関連	他のセミナー生の卒業研究にも積極的に関与すること。

授業コード	13077905	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢで学んだことを元に、社会学、文化社会学、メディア論的な観点からの卒業論文を執筆し、中間発表を行う。

到達目標

1. 卒業研究を行い、卒業論文を執筆する。
2. 卒業研究の要旨を作成し、研究発表を行う。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
 第2回 図書館ツアー(日程は前後する)
 第3回 個人発表(1)
 第4回 個人発表(2)
 第5回 個人発表(3)
 第6回 個人発表(4)
 第7回 個人発表(5)
 第8回 個人発表(6)
 第9回 全学人権映画会(日程は前後する)
 第10回 中間発表準備(1)
 第11回 中間発表準備(2)
 第12回 中間発表準備(3)
 第13回 中間発表準備(4)
 第14回 中間発表会
 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、自らの研究を各回の授業内で具体的に発表・討議できるよう、内容を深め進捗させておく。

事後学習 授業1回につき2時間以上、各回授業を受けて、自らの研究を改善し、次回に向けて進捗させる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、単位取得のための前提条件として、卒業研究(中間発表)に合格している必要がある。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎回の活動成果(30)	1, 2
授業外での評価	30	毎回の卒業研究進捗報告・卒業論文原稿(30)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	卒業研究中間発表(40)	1, 2
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

セミナー3までの研究計画の進捗を前提とした指導と評価を行う。
 卒業「研究」は卒業「論文」だけではない。最終成果物である論文に至る研究過程全てが評価される。

履修条件・他の科目との関連

卒業研究は各自がどのようなテーマに取り組むかによって、指導内容や難易度が大きく変化する。このことを理解の上、教員と研究計画を十分な余裕を持って相談し、合意しておくこと。
必要に応じて、個別指導のための補講を実施する。
有田ゼミ独自の取り組みとして、キャリア教育と関連したPBLの機会を設けることがある。

授業コード	13077906	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、セミナーⅢで学習したことを基礎に、各自が関心や問題意識に基づく独自の研究テーマから卒業研究を立案、調査・実験の実施、結果の分析、論文の執筆を行う。また、中間発表と卒業研究提出後の発表会には、各自が卒業研究のプレゼンテーションを行う。

到達目標

1. 調査を実施することができる。
2. 調査結果の分析と理解ができる。
3. 問題の理論的理解と論文構成の検討ができる。
4. ポスター発表を実施できる。
5. 論文の執筆をすることができる。
6. PPTファイルを用いたプレゼンテーションをすることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（セミナー内容の確認）
- 第2回 3年生へのプレゼミ（プレゼミの運営）
- 第3回 個別発表（本調査の準備・実施）
- 第4回 個別発表（本調査の準備・実施）
- 第5回 個別発表（本調査の準備・実施）
- 第6回 個別発表（本調査の準備・実施）
- 第7回 個別発表（本調査の準備・実施）
- 第8回 個別発表（本調査の準備・実施）
- 第9回 個別発表（本調査結果発表）
- 第10回 個別発表（本調査結果発表）
- 第11回 全学人権映画会（合同・日程は前後する）（「人権」に関する映画を視聴することで、より深く「人権」について理解する）
- 第12回 中間発表会の準備（パネルの作成）
- 第13回 中間発表会の準備（パネルの作成）
- 第14回 中間発表会（合同）（パネル提示方式の発表会を実施する。質疑応答、それに基づく課題提出がある）
- 第15回 前期のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：個別発表の準備（本調査の準備・実施）。各回ごとに2時間以上。
事後学習：討論を踏まえての発表資料の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

セミナー課題（個人発表や卒業研究作成）におけるフィードバックはその場で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得のための前提条件として、以下の3件が揃っていること。

1. 卒業研究（中間発表）
2. 卒業研究（論文提出）
3. 卒業研究（口頭発表）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	本調査の進捗と個別発表と中間発表	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	本文の進捗状況	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	中間発表までにデータ収集(調査・実験・インタビュー等)が終了していることが望ましい。 セミナー外の時間も積極的に取り組むこと。

授業コード	13077907	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	西岡 敦子				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

大学生活の集大成として、卒業研究を行う。

「セミナーⅢa」「セミナーⅢb」で学習した内容を基礎として、様々な問題を「女性・男性」「ジェンダー」および「生活科学(被服)」という切り口で、さらに深く考えていくとともに、「セミナーⅢb」で各自が決定した卒業研究題材に対して、さらに、情報を収集し、整理し、分析し、問題解決に向けて取り組めるように指導していく。

セミナー全体としては、セミナー構成員がお互いの研究題材の情報交換を行うことによって、より広く深く関連情報を入手し、お互いに議論が深められる場としたい。

授業形態は演習である。

到達目標

1. 卒業研究活動を通して、報告・連絡・相談ができる。
2. 卒業研究活動を通して、相互のコミュニケーションが取れる。
3. 卒業研究活動を通して、問題解決行動がとれる。
4. 卒業研究中間内容のパネルを作ることができる。
5. 卒業研究中間内容のパネル発表ができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション(卒業研究の問題提起の確認)
 【第2回】【第3回】卒業研究の概要(研究全体の概要の組み立て確認・修正)
 【第4回】研究計画の詳細の詰め(研究計画の詳細の詰めの確認)
 【第5回】～【第9回】研究準備(情報収集・整理・分析・考察)
 【第10回】中間発表会の準備①(パネルの構成・作成)
 【第11回】人権映画動画視聴(日程は前後する)
 【第12回】中間発表会の準備②(パネル修正と仕上げ・質疑応答準備)
 【第13回】中間発表会(合同)
 【第14回】中間発表会の振り返り
 【第15回】今後の計画調整(前期のまとめと夏期休業中の課題の確認)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】①事前学修課題：履修申請書の作成・卒業研究の問題提起の確認
 ②事後学修課題：卒業研究の問題提起の修正
 【第2回】【第3回目】①事前学修課題：研究全体の概要の組み立て作成
 ②事後学修課題：研究全体の概要の組み立ての修正
 【第4回】①事前学修課題：研究計画の詳細の作成
 ②事後学修課題：研究計画の詳細の修正
 【第5回】～【第9回】①事前学修課題：情報収集・整理・分析・考察
 ②事後学修課題：情報収集・整理・分析・考察
 【第10回】①事前学修課題：パネルの構成・作成
 ②事後学修課題：パネルの構成・作成の修正
 【第11回】①事前学修課題：「人権」について、書籍やインターネット等を利用して予備知識を得る
 ②事後学修課題：「人権」についてさらに深く学ぶ
 【第12回】①事前学修課題：パネル修正
 ②事後学修課題：パネル修正と仕上げ・質疑応答準備
 【第13回】①事前学修課題：パネルを準備しておく。
 ②事後学修課題：質疑応答内容も含め、卒業研究の作成に活用する。
 【第14回】①事前学修課題：中間発表時の質疑応答を整理しておく。
 ②事後学修課題：今後の計画の調整を考えておく。
 【第15回】①事前学修課題：今後の計画調整の作成
 ②事後学修課題：夏期休暇中の指導日程の調整

課題に対するフィードバックの方法

各自の発表、報告等を通して、個人指導の中で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく3回をこえて欠席した場合は「K」評価とする。
- ・卒業研究中間発表ができない場合も「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎時の発表、および、質疑応答の状況	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究中間発表会のパネルの内容、および、発表状況	4, 5
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割上の「セミナーIVa」の時間だけでは、卒業研究はとうてい仕上がらない。 時間割上のセミナー以外での活動時間は多大である。 ・早い時期から、積極的に行動することを望む。 ・無断欠席厳禁。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13077908	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、「セミナーⅢa・セミナーⅢb」で習得したことを基礎として、各自の選択したテーマに沿って仮説を設定し、調査、研究を行う。最終的には卒業研究作成を進め、卒業研究中間発表会で発表することを目的とする。セミナーⅣaは発表と質疑応答形式で進み、アクティブラーニングの要素を含む。
担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、長年の勤務経験をもとに、実務家教員として、将来心理関係の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

1. 卒業研究を作成する
2. 卒業研究中間発表会に参加し、発表・質疑応答をする
3. 卒業研究の作成を通じて、論理的思考力を高める
4. セミナー内外での発表や対人関係を通じて、主体性・表現力・コミュニケーション力を高める

授業計画

【第1回】
オリエンテーション。セミナーⅣの進め方について説明する。

【第2回】
年間計画および前期発表予定の決定。発表順と予定を決める。

【第3回】
本調査レジュメ発表および本調査準備1。発表者はセミナーⅢでの予備調査結果をふまえ、本調査に向けて研究計画を進め、レジュメを作成する。

【第4回】
本調査レジュメ発表および本調査準備2。発表者はセミナーⅢでの予備調査結果をふまえ、本調査に向けて研究計画を進め、レジュメを作成する。

【第5回】
本調査レジュメ発表および本調査準備3。発表者はセミナーⅢでの予備調査結果をふまえ、本調査に向けて研究計画を進め、レジュメを作成する。

【第6回】
本調査レジュメ発表および本調査準備4。発表者はセミナーⅢでの予備調査結果をふまえ、本調査に向けて研究計画を進め、レジュメを作成する。

【第7回】
本調査レジュメ発表および本調査準備5。発表者はセミナーⅢでの予備調査結果をふまえ、本調査に向けて研究計画を進め、レジュメを作成する。

【第8回】
本調査レジュメ発表および本調査準備6。発表者はセミナーⅢでの予備調査結果をふまえ、本調査に向けて研究計画を進め、レジュメを作成する。

【第9回】
本調査結果発表1。本調査研究計画に基づき、発表順に本調査を実施し、発表日までに質問紙データを入力し、因子分析、相関分析までの結果をレジュメ発表する。

【第10回】
本調査結果発表2。本調査研究計画に基づき、発表順に本調査を実施し、発表日までに質問紙データを入力し、因子分析、相関分析までの結果をレジュメ発表する。

【第11回】
全学人権映画会（合同）（日程は前後する）。「人権」に関する映画を視聴することで、より深く「人権」について理解する。

【第12回】
本調査結果発表3。本調査研究計画に基づき、発表順に本調査を実施し、発表日までに質問紙データを入力し、因子分析、相関分析までの結果をレジュメ発表する。

【第13回】
本調査結果発表4。本調査研究計画に基づき、発表順に本調査を実施し、発表日までに質問紙データを入力し、因子分析、相関分析までの結果をレジュメ発表する。

【第14回】
中間発表会（合同）。パネル提示方式の発表会を実施する。質疑応答、それに基づく課題提出がある。

【第15回】
中間発表の振り返り。中間発表時、どのような質疑応答があったかについて各自発表し、不明瞭な箇所を解決する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習: 卒業研究の執筆。各回ごとに2時間以上。
事後学習: 卒業研究の執筆、および、ディスカッションを踏まえて論文の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間以外に個別面談し、発表および卒業研究について話し合い、フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得のための前提条件として、卒業研究(中間発表)のパネル作成・出席・質疑応答が揃っていること。
以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	各発表回での発表(20)各回での質疑応答(10)	1, 3, 4
授業外での評価	20	各発表回用レジュメの量(10)および質(10)	1, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究中間発表パネルの質と質疑応答(30)ラーニングポートフォリオ(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト プリントを配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 心理学関連の講義科目を履修していることが望まれる。セミナーへの積極的な取り組みを重視する。

授業コード	13077909	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢで学習したことを基礎に、各自が関心や問題意識に基づく独自の研究テーマから卒業研究を立案、調査・実験の実施、結果の分析、論文の執筆を行う。また、全体での中間発表（パネル発表）によって他者にその内容を伝える。

到達目標

1. 社会の問題に目を向け、心理学的な観点から研究を立案すること
2. 大学4年間で学んできた知識を用いて、科学的な研究を実践すること。
3. 卒業研究を論文や発表資料にまとめて、他者に伝えること。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（セミナー内容の確認）
 第2回 個別発表（本調査の準備・実施）
 第3回 個別発表（本調査の準備・実施）
 第4回 個別発表（本調査の準備・実施）
 第5回 個別発表（本調査の準備・実施）
 第6回 個別発表（本調査の準備・実施）
 第7回 個別発表（本調査の準備・実施）
 第8回 個別発表（本調査の準備・実施）
 第9回 個別発表（本調査結果発表）
 第10回 個別発表（本調査結果発表）
 第11回 全学人権映画会（合同・日程は前後する）
 第12回 中間発表会の準備（パネルの作成）
 第13回 中間発表会の準備（パネルの作成）
 第14回 中間発表会（合同）（パネル提示方式の発表会を実施する。質疑応答、それに基づく課題提出がある）
 第15回 前期のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で計60時間の事前事後学習が必要となる。
 内容は各自の研究の進捗に応じて、実験・調査の準備、データ収集、データ分析、発表準備などである。

課題に対するフィードバックの方法

セミナー課題（個人発表や卒業研究作成）におけるフィードバックはその場で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内でのプレゼンテーションの内容、卒業研究の取り組み姿勢など総合的に評価する。
 単位取得のための条件として、中間発表会でのパネル発表が必須となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内での発表や議論の内容	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	中間発表のパネル	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	セミナー外の時間も積極的に取り組むこと。 他のセミナー生の卒業研究にも積極的に関与し、互いに議論し合うこと。

授業コード	13078001	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	飯田 香織				
シラバス執筆(主)	飯田 香織				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、「セミナーⅢ」で習得したことを基礎として、各自の選択したテーマに沿って仮説を設定し、調査、研究を行う。最終的には卒業研究としてまとめ、発表することを目的とする。セミナーⅣは発表と質疑応答形式で進み、アクティブラーニングの要素を含む。
担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、長年の勤務経験をもとに、実務家教員として、将来心理関係の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

- 1、卒業研究を作成する
- 2、先行研究などの文献を調べてまとめることができる。
- 3、自分の研究テーマを決め、調査、分析を行うことができる
- 4、自分の意見や調査結果を発表、質疑応答ができる

授業計画

- 【第1回】 テーマ：研究発表1（分析結果の発表） 実施した本調査の結果を分析し、発表する。
- 【第2回】 テーマ：研究発表2（分析結果の発表） 実施した本調査の結果を分析し、発表する。
- 【第3回】 テーマ：研究発表3（分析結果の発表） 実施した本調査の結果を分析し、発表する。
- 【第4回】 テーマ：研究発表4（分析結果の発表） 実施した本調査の結果を再分析し、発表する。
- 【第5回】 テーマ：研究論文の作成1 問題と目的、仮説、方法
- 【第6回】 テーマ：研究論文の作成2 問題と目的、仮説、方法
- 【第7回】 テーマ：研究論文の作成3 結果
- 【第8回】 テーマ：研究論文の作成4 結果
- 【第11回】 テーマ：研究発表5 卒研提出に向けて、要旨、結果、考察について発表する。
- 【第12回】 テーマ：研究発表6 卒研提出に向けて、要旨、結果、考察について発表する。
- 【第13回】 テーマ：研究発表7 卒研提出に向けて、要旨、結果、考察について発表する。
- 【第14回】 テーマ：卒業研究発表会予行演習1 卒業研究発表会の予行演習を行う。
- 【第15回】 テーマ：卒業研究発表会予行演習2 卒業研究発表会の予行演習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位当たり45時間が必要です。事前学習として2.5時間、事後学習として1.5時間程度が必要。

事前学習： 次回までに調べてくること、まとめてくることを授業内で指示し、その課題を次回の授業までに行う

事後学習： セミナーでのディスカッションを踏まえたうえで、課題についての情報を収集すること、情報をまとめること、発表の準備をすることが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業内での発表に対し適宜コメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内で課される卒業研究課題と卒業研究を評価の対象とする。卒業研究が提出されない場合は、評価の対象とならずK評価とします。3回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で課される卒業研究課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	全授業終了時に提出される卒業研究	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書	内容に応じて適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	セミナーⅣで実施される中間発表会にパネル発表し、「卒業研究発表会」には必ず出席すること。課題の提出締切を必ず守ること。3回以上の理由のない欠席は認めない。遅刻3回で1回の欠席とみなす。課題の提出締め切りを必ず守ること。無断欠席厳禁。最後まであきらめずに出席し、参画すること。授業への積極的な参加を求めます。受講生の関心に応じて授業内容は適宜調整する。日程が前後する場合もある。新型コロナウイルスの感染状況等により、進め方や内容を一部変更する可能性があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13078002	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾添 侑太				
シラバス執筆(主)	尾添 侑太				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅣでは、セミナーⅢa、セミナーⅢbでの研究成果・計画をもとに、卒業研究の完成に向けて執筆活動を開始する。
Ⅳbでは卒業研究の完成を目的とし、調査から得られた独自の成果をもとに研究課題を検討し、分析・考察を行う。論文と発表をもって最終成果とする。

到達目標

1. アカデミックな形式を備えた研究論文を執筆することができる
2. 自身の成果を、他者に表現し伝え、応答することができる

授業計画

第1回	後期イントロダクション
第2回	アウトライン発表
第3回	卒業研究執筆①調査パート
第4回	卒業研究執筆②考察パート
第5回	卒業研究執筆③結論と課題パート
第6回	仮原稿の添削と修正
第7回	クラス内発表① テーマ・問題・目的
第8回	クラス内発表② 先行研究と方法
第9回	クラス内発表③ 調査とフィールド記述
第10回	クラス内発表④ 調査結果の分析
第11回	クラス内発表⑤ 結論
第12回	体裁の添削と最終修正
第13回	卒業研究最終原稿作成
第14回	卒業研究発表会要旨作成
第15回	卒業研究発表会資料作成

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：卒業研究の執筆
事後学習：卒業研究の執筆

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	20	口頭発表(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	卒業研究(60)	1, 2
その他	20	演習での発言・質疑(20)	1, 2

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	4年間の集大成として、これまで学んだことを自分自身の言動で表現することが求められる。必要に応じて個別での補講を行う可能性がある。

授業コード	13078003	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	上原 健太郎				
シラバス執筆(主)	上原 健太郎				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅣaでの学習成果をもとに、卒業研究の完成に向けて執筆活動を開始する。具体的には、綿密な調査計画書に基づいて収集した情報の分析・考察を実施し、それらを文章化していく。とくにセミナーⅣbでは、卒業研究に必要な各項目（テーマ、先行研究の位置づけ、目的、調査概要、分析、考察、結論、今後の課題）の整合性を意識し、一つの社会的な「作品」の完成を目指す。

到達目標

1. 集めた情報を分析し、考察まで展開することができる
2. 分析と考察を踏まえた上で、研究目的に対する明確な解答を導出することができる
3. 卒業研究の内容を、他の受講生や教員にきちんと伝えることができる

授業計画

第1回	後期イントロダクション
第2回	調査結果の報告
第3回	調査結果の文章化
第4回	考察と結論の執筆
第5回	今後の課題の執筆
第6回	卒業研究の仮原稿の提出と添削
第7回	個人発表とディスカッション テーマ
第8回	個人発表とディスカッション 先行研究と目的
第9回	個人発表とディスカッション 調査概要
第10回	個人発表とディスカッション 調査結果の分析と考察
第11回	個人発表とディスカッション 結論と課題
第12回	個人発表とディスカッション レイアウトの調整
第13回	卒業研究の完成と提出
第14回	卒業研究発表会に向けた準備 1 要旨作成
第15回	卒業研究発表会に向けた準備 2 発表資料の作成

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：卒業研究の執筆。各回ごとに2時間以上。

事後学習：卒業研究の執筆、および、ディスカッションを踏まえて論文の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の個人発表、および、中間発表会用の資料に対して適宜コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への参加態度(10)、個人発表(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究の提出(30)、卒業研究発表会での発表(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	必要に応じて、個別指導のための補講を実施します。

授業コード	13078004	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 幸史				
シラバス執筆(主)	林 幸史				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅣでは、セミナーⅢで学んだことをもとに、卒業研究を論文としてまとめることを目的とします。具体的には、各自のテーマに沿ってデータの収集と分析を行い、論文の執筆と発表を行います。

到達目標

1. 社会の中で生きる人間の行動を心理学的な観点から分析し、卒業論文としてまとめること。
2. 大学4年間で学んできた科学的な思考方法と表現方法を実践すること。

授業計画

第01回	卒業研究論文の執筆に向けて
第02回	データの分析①：卒業研究データの分析
第03回	データの分析②：卒業研究データの分析
第04回	データの分析③：卒業研究データの分析
第05回	分析結果発表①：個人発表と質疑応答
第06回	分析結果発表②：個人発表と質疑応答
第07回	分析結果発表③：個人発表と質疑応答
第08回	論文指導①：卒業論文の加筆・修正
第09回	論文指導②：卒業論文の加筆・修正
第10回	論文指導③：卒業論文の加筆・修正
第11回	論文指導④：卒業論文の加筆・修正
第12回	論文指導⑤：卒業論文の加筆・修正
第13回	論文指導⑥：卒業論文の加筆・修正
第14回	論文指導⑦：要旨集の原稿修正
第15回	卒研発表会の準備：卒業研究発表会のスライド作成

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各自のテーマのもと卒業研究に取り組むことが必要である。具体的には、データ分析、論文の執筆、要旨集の原稿作成、発表会の資料作成などである。

課題に対するフィードバックの方法

執筆した卒業論文、卒業研究発表会での発表について、フィードバックを行う。発表に関しては口頭にて、論文に関しては独自の評価シートに批評文を添えてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得のための前提条件として、以下の3件が揃っていること。

1. 卒業研究（論文形式）
2. 卒業研究（要旨集掲載）
3. 卒業研究（口頭発表）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	70	卒業研究論文	1, 2
その他	30	卒業研究発表	1, 2

テキスト	なし
参考書	松井豊(2010)改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社

授業コード	13078005	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	有田 亘				
シラバス執筆(主)	有田 亘				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢおよびⅣaで学んだことを元に、社会学、文化社会学、メディア論的な観点からの卒業論文を完成させ、発表を行う。

到達目標

1. 卒業研究を行い、卒業論文を執筆する。
2. 卒業研究の要旨を作成し、研究発表を行う。

授業計画

- | | |
|------|------------------|
| 第1回 | 前期後半のまとめとフィードバック |
| 第2回 | 卒業研究完成に向けての計画 |
| 第3回 | 卒業論文作成と個人発表1 |
| 第4回 | 卒業論文作成と個人発表2 |
| 第5回 | 卒業論文作成と個人発表3 |
| 第6回 | 卒業論文作成と個人発表4 |
| 第7回 | 卒業論文作成と個人発表5 |
| 第8回 | 卒業論文作成と個人発表6 |
| 第9回 | 卒業論文作成と個人発表7 |
| 第10回 | 卒業論文作成と個人発表8 |
| 第11回 | 卒業論文作成と個人発表9 |
| 第12回 | 卒業論文作成と個人発表10 |
| 第13回 | 卒業論文作成と個人発表11 |
| 第14回 | 卒研発表会準備1 |
| 第15回 | 卒研発表会準備2 |

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 授業1回につき2時間以上、自らの研究を各回の授業内で具体的に発表・討議できるよう、内容を深め進捗させておく。

事後学習 授業1回につき2時間以上、各回授業を受けて、自らの研究を改善し、次回に向けて進捗させる。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、Googleクラスルーム、あるいはOIUメールを通じて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、単位取得のための前提条件として、以下の3件が揃っていること。

1. 卒業研究 (中間発表)
2. 卒業研究 (論文形式)
3. 卒業研究 (口頭発表)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	毎回の活動成果(30)	1, 2
授業外での評価	30	毎回の卒業研究進捗報告・卒業論文原稿(30)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	卒業研究発表(卒研要旨の作成を含む)(40)	1, 2
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

卒業「研究」は卒業「論文」だけではない。最終成果物である論文に至る研究過程全てが評価される。
卒業研究は各自がどのようなテーマに取り組むかによって、指導内容や難易度が大きく変化する。このことを理解の上、教員と研究計画を十分な余裕を持って相談し、合意しておくこと。
必要に応じて、個別指導のための補講を実施する。

授業コード	13078006	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	戸口 愛泰				
シラバス執筆(主)	戸口 愛泰				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、セミナーⅢで学習したことを基礎に、各自が関心や問題意識に基づく独自の研究テーマから卒業研究を立案、調査・実験の実施、結果の分析、論文の執筆を行う。また、中間発表と卒業研究提出後の発表会には、各自が卒業研究のプレゼンテーションを行う。

到達目標

1. 調査を実施することができる。
2. 調査結果の分析と理解ができる。
3. 問題の理論的理解と論文構成の検討ができる。
4. ポスター発表を実施できる。
5. 論文の執筆をすることができる。
6. PPTファイルを用いたプレゼンテーションをすることができる。

授業計画

- 第1回 前期の振り返り
- 第2回 オリエンテーション（今後のスケジュール確認）
- 第3回 卒業研究の作成・執筆
- 第4回 卒業研究の作成・執筆
- 第5回 卒業研究の作成・執筆
- 第6回 卒業研究の作成・執筆
- 第7回 卒業研究の作成・執筆
- 第8回 卒業研究の作成・執筆
- 第9回 卒業研究の作成・執筆
- 第10回 卒業研究のゼミ内提出
- 第11回 卒業研究の修正・タイトル提出
- 第12回 卒業研究の修正
- 第13回 卒業研究の確認・本提出
- 第14回 レジューメの作成・提出
- 第15回 口頭発表の準備

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：卒業研究の作成・執筆。各回ごとに2時間以上。
事後学習：討論を踏まえての卒業研究の修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

セミナー課題（個人発表や卒業研究作成）におけるフィードバックはその場で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得のための前提条件として、以下の3件が揃っていること。
1. 卒業研究（中間発表）
2. 卒業研究（論文提出）
3. 卒業研究（口頭発表）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	卒業研究作業と個別発表	1, 2, 3, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究の執筆	1, 2, 3, 5
その他	10	卒業研究発表会	4, 6

テキスト	テキストは使用しない。
------	-------------

参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	中間発表までにデータ収集(調査・実験・インタビュー等)が終了していることが望ましい。 セミナー外の時間も積極的に取り組むこと。

授業コード	13078007	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	西岡 敦子				
シラバス執筆(主)	西岡 敦子				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

大学生生活の集大成として、卒業研究を行う。

「セミナーⅢa」「セミナーⅢb」で学習した内容を基礎として、様々な問題を「女性・男性」「ジェンダー」および「生活科学(被服)」という切り口で、さらに深く考えていくとともに、「セミナーⅢb」で各自が決定した卒業研究題材に対して、さらに、情報を収集し、整理し、分析し、問題解決に向けて取り組めるように指導していく。

セミナー全体としては、セミナー構成員がお互いの研究題材の情報交換を行うことによって、より広く深く関連情報を入手し、お互いに議論が深められる場としたい。

授業形態は演習である。

到達目標

1. 卒業研究活動を通して、様々なコミュニケーションが取れる。
2. 卒業研究の論文を作成することができる。
3. 卒業研究のレジュメを作成することができる。
4. 卒業研究の口頭発表をすることができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション(夏期休暇中の進捗状況の発表)
 【第2回】～【第6回】研究の詳細報告(情報収集、整理、分析、考察、結果)
 【第7回】～【第11回】研究論文の作成(論文の構成、作成、修正、仕上げ)
 【第12回】【第13回】レジュメの作成(レジュメの構成、作成、修正、仕上げ)
 【第14回】【第15回】口頭発表の準備(口頭発表原稿とパワーポイントの構成、作成、修正、仕上げ)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】①事前学修課題：夏期休暇中の課題の報告準備
 ②事後学修課題：夏期休暇中の課題の発表を受けて、研究計画の再考
 【第2回】～【第6回】①事前学修課題：情報収集・整理・分析・考察・結果
 ②事後学修課題：情報収集・整理・分析・考察・結果の再考
 【第7回】～【第11回】①事前学修課題：研究論文作成
 ②事後学修課題：研究論文修正
 【第12回】【第13回】①事前学修課題：レジュメの作成
 ②事後学修課題：レジュメの修正・仕上げ
 【第14回】【第15回】①事前学修課題：口頭発表原稿とパワーポイントの作成
 ②事後学修課題：口頭発表原稿とパワーポイントの修正・仕上げ・質疑

応答対応

課題に対するフィードバックの方法

各自の発表、報告等を通して、個人指導の中で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく3回をこえて欠席した場合は「K」評価とする。
- ・卒業研究の論文、レジュメ、口頭発表ができない場合も「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎時の発表、および、質疑応答の状況	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	卒業研究の論文、レジュメ、口頭発表の内容	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・時間割上の「セミナーIVb」の時間だけでは、卒業研究はとうてい仕上がらない。 時間割上のセミナー以外での活動時間は多大である。・早い時期から、積極的に行動することを望む。・無断欠席厳禁。

授業コード	13078008	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	青野 明子				
シラバス執筆(主)	青野 明子				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、セミナーⅣaで習得したことを基礎として、各自の選択したテーマに沿って仮説を設定し、調査、研究を行う。最終的には卒業研究としてまとめ、発表することを目的とする。セミナーⅣbは発表と質疑応答形式で進み、アクティブラーニングの要素を含む。
担当教員が臨床心理士・公認心理師であり、長年の勤務経験をもとに、実務家教員として、将来心理関係の業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

到達目標

1. 卒業研究を作成する
2. 卒業研究発表会において、発表・質疑応答をする
3. 卒業研究の作成を通じて、論理的思考力を高める
4. セミナー内外での発表や対人関係を通じて、主体性・表現力・コミュニケーション力を高める

授業計画

【第1回】
中間発表の振り返り。中間発表時、どのような質疑応答があったかについて各自発表し、不明瞭な箇所を解決する。

【第2回】
セミナーⅣbのオリエンテーションと発表順の決定

【第3回】
本調査統計結果の発表1。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第4回】
本調査統計結果の発表2。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第5回】
本調査統計結果の発表3。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第6回】
本調査統計結果の発表4。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第7回】
本調査統計結果の発表5。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第8回】
本調査統計結果の発表6。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第9回】
卒業研究本文の発表1。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第10回】
卒業研究本文の発表2。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第11回】
卒業研究本文の発表3。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第12回】
卒業研究本文の発表4。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第13回】
卒業研究本文の発表5。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第14回】
レジュメの作成および卒業研究発表会準備。本調査結果の統計解析を進め、卒業研究本文を進行具合に応じて発表する。

【第15回】
卒業研究発表会準備1。卒業研究発表会に向けて、準備したパワーポイントデータを使用し、セミナー内で発表する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
事前学習: 卒業研究の執筆。各回ごとに2時間以上。
事後学習: 卒業研究の執筆、および、ディスカッションを踏まえて論文の加筆修正。各回ごとに2時間以上。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間以外に個別面談し、発表および卒業研究について話し合い、フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得のための前提条件として、以下の3件が揃っていること。

1. 卒業研究（論文形式）
2. 卒業研究（口頭発表抄録）
3. 卒業研究（発表会での口頭発表と質疑応答）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	各発表回での発表(20) 各回での質疑応答(10)	1, 3, 4
授業外での評価	20	各発表回用レジュメの量(10)および質(10)	1, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究本文(20) 卒業研究発表抄録(10) 卒業研究発表会での発表と質疑応答(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	心理学関連の講義科目を履修していることが望まれる。セミナーへの積極的な取り組みを重視する。
---------------	-----------------------------------------------

授業コード	13078009	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	森下 雄輔				
シラバス執筆(主)	森下 雄輔				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢで学習したことを基礎に、各自が関心や問題意識に基づく独自の研究テーマから卒業研究を立案、調査・実験の実施、結果の分析、論文の執筆を行う。
また、卒業論文としてまとめた後に全体での発表会で各自プレゼンテーションを行う。

到達目標

1. 社会の問題に目を向け、心理学的な観点から研究を立案すること
2. 大学4年間で学んできた知識を用いて、科学的な研究を実践すること。
3. 卒業研究を論文や発表資料にまとめて、他者に伝えること。

授業計画

- 第1回 前期のふりかえり
- 第2回 卒業研究の作成・執筆
- 第3回 卒業研究の作成・執筆
- 第4回 卒業研究の作成・執筆
- 第5回 卒業研究の作成・執筆
- 第6回 卒業研究の作成・執筆
- 第7回 卒業研究の作成・執筆
- 第8回 卒業研究の作成・執筆
- 第9回 卒業研究の作成・執筆
- 第10回 卒業研究のゼミ内提出
- 第11回 卒業研究の修正
- 第12回 卒業研究の修正
- 第13回 卒業研究の完成
- 第14回 口頭発表の準備
- 第15回 口頭発表の準備

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で計60時間の事前事後学習が必要となる。
内容は各自の研究の進捗に応じて、実験・調査の準備、データ収集、データ分析、論文執筆、発表準備などである。

課題に対するフィードバックの方法

セミナー課題（個人発表や卒業研究作成）におけるフィードバックはその場で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内でのプレゼンテーションの内容、卒業研究の取り組み姿勢など総合的に評価する。
単位取得のための条件として以下の3件が揃っていること。

1. 卒業研究（論文形式）
2. 卒業研究（要旨集掲載）
3. 卒業研究（口頭発表）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	70	卒業研究論文	1, 2, 3
その他	30	卒業研究発表	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用しない。
------	-------------

参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	セミナー外の時間も積極的に取り組むこと。 他のセミナー生の卒業研究にも積極的に関与し、互いに議論し合うこと。

授業コード	13058601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	栄養学 [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康的な食生活を送るために、またあふれる食情報を正しく理解し、生活に役立てていくためには、栄養に関わる正しい科学的知識が必要です。人間が食物を摂取するのはなぜか、栄養素とは何か、摂取した食物は消化管内でどのように変化するのか、また生体エネルギーについて知ることを目的とし、それらのための基本的な事項について概説します。授業は講義形式で行います。

到達目標

1. 栄養や食生活にかかわる公的なデータを読み解き説明することができる。
2. 食物の消化吸収にかかわる臓器について説明することができる。
3. 栄養素の分類を説明することができる。
4. 各栄養素の身体での働きを説明することができる。
5. 各栄養素が主に含まれている食品について、また各栄養素の効率の良い摂取方法について説明することができる。
6. 栄養学で学んだ知識を実生活にどのように活かすか計画し説明することができる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

1 オリエンテーション	栄養とは何かについて学ぶ
2 現代栄養に関するフェイクニュース	正しい情報や知識をもって食生活を行う大切さを知る
3 人はなぜ食べるのか	食生活の意義について 人はなぜ食べるのかについて学ぶ
4 5大栄養素とエネルギー	5大栄養素の主な働きとエネルギーについて学ぶ
5 1回目中間テストと栄養素の消化吸収	第2～4回目講義の確認テスト、3大栄養素の消化吸収の概要について学ぶ
6 TCA回路について	グルコースの体内での利用について学ぶ
7 タンパク質の消化と体内利用について	タンパク質の消化と体内での働きについて学ぶ
8 脂質の消化と体内利用	脂質の消化と体内での働きについて学ぶ
9 ビタミンとミネラル	ビタミンとミネラルの概要を学ぶ
10 2回目中間テストとビタミン	第2～9回目講義の確認テスト、ビタミンAについて学ぶ
11 ビタミンB群	ビタミンB群 (B1～B6) について学ぶ
12 ビタミンB群とC	ビタミンB群 (B12～パントテン酸) とビタミンCについて学ぶ
13 ビタミンD～ミネラル	ビタミンD～ミネラル (Ca など) について学ぶ
14 ミネラル (P・Fe・Zn)	ミネラル (P・Fe・Zn) について学ぶ
15 栄養学のまとめ	栄養の基礎で学んだことを振り返り学ぶ
16 学んだことを活かす	栄養の基礎で学んだ内容を实生活でどのように活かすかについてレポート
をまとめGoogleクラスルームに提出	

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容の復習と、授業ノートの整理を行うこと。復習テストのための準備や予習等、毎回1.5時間程度の事前学習および2.5時間程度の事後学習が必要。

課題に対するフィードバックの方法

各中間テスト結果にてフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

授業に取り組む態度および、2回実施する中間テストと総合まとめテスト、期末レポートにより評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業に取り組む態度 (30) 中間テスト2回 (2回実施) (各15点、計30) 第15回目 総合まとめテスト (30)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課題レポート(10)	4, 5, 6
その他	0		

テキスト	健やかな成長を育む 令和版子どもの食と栄養/増田啓子編著/一藝社/2024/978-4-86359-279-7 (2024年3月新刊発行予定)		
------	-------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	なし		
-----	----	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>受講の際は必ず教科書を準備してください。 状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。 次回の授業までに教科書を読み返しておくこと。 20分以上の遅刻は欠席とみなす場合があります。 遅刻3回で1回の欠席とします。 欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示するので確認し、提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。</p>		
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13059101	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	人間福祉学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、社会で生活している自分自身を含め、我々の今日的な「幸せ」に着目し、「より良い暮らし」の実現に向けて行われるさまざまな実践について社会福祉の領域から説明する。社会福祉に関連する制度や仕組みについて、健康の考え方、社会保障と公衆衛生、介護や保育等に関する諸制度について概説する。具体的には、社会福祉の対象者である高齢者、障がい者、児童、傷病者、低所得者等に対する制度・政策やサービスについてフォーマル・インフォーマルの両側面から説明する。授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、福祉・介護などの分野に興味がある人に対しても、具体的な実践についてイメージができるよう授業を展開する。

到達目標

1. 自身が考える「福祉」について自己理解を深め記述することができる。
2. 社会生活の中で、「より良い暮らし」が阻害されている要因を説明できる。
3. 各領域の福祉（貧困・低所得者、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉）について説明できる。
4. 福祉関係の専門職について説明できる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：授業の進め方、受講ルールと福祉に関連する対象者についての説明
- 【第2回】 少子高齢化の現状
- 【第3回】 貧困・低所得者の福祉
- 【第4回】 児童福祉関連の制度
- 【第5回】 児童福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第6回】 児童福祉に関連する具体的な実践について
- 【第7回】 障がい者・障がい児福祉関連の制度
- 【第8回】 社会福祉概論前半のまとめ（中間レポート実施）
- 【第9回】 障がい者・障がい児福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第10回】 障がい者・障がい児福祉に関連する具体的な実践について
- 【第11回】 高齢者福祉関連の制度
- 【第12回】 介護保険法
- 【第13回】 高齢者福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第14回】 高齢者福祉に関連する具体的な実践について
- 【第15回】 権利擁護と成年後見制度

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
- 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。1.0時間
- 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。2.0時間
- 第2回
- 【事前】 社会福祉に関連する記事やニュースなどを視聴する。1.5時間
- 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第3回
- 【事前】 前回のノートを復習し「貧困」について調べる。1.5時間
- 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第4回
- 【事前】 自身の地域の児童の問題について調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第5回
- 【事前】 自身の地域の保育所・幼稚園・こども園について設置数や概要を調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第6回
- 【事前】 児童福祉に関連するサービスを調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第7回
- 【事前】 自身の地域の障がい者・障がい児の問題について調べておく。1.5時間
- 【事後】 「障がい者・障がい児」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第8回
- 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。1.5時間

【事後】 第9回	第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 2.5時間
【事前】 【事後】 第10回	自身の地域の障がい者・障がい児施設について設置数や概要を調べておく。1.5時間 「障がい者・障がい児」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第11回	障がい者・障がい児福祉に関連するサービスを調べておく。1.5時間 「障がい者・障がい児福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第12回	自身の地域の高齢者の問題について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第13回	介護保険法について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第14回	自身の地域の介護問題について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第15回	自身の地域の高齢者施設について設置数や概要を調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】	「社会福祉協議会」の概要について自分なりに調べておく。1.5時間 「権利擁護、成年後見制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由（公欠等）が無い場合の未提出は評価しない。（正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする）
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性（文章量）などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学修した内容についてレポートを課す(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用せず適宜プリント(資料)を配布する。

参考書 現代社会福祉要説/松井圭三・今井慶宗編著/ふくろう出版/2500+税/ISBN978-4-86186-806-1

履修条件・他の科目との関連 ・授業内で配布した資料を用い各自がしっかりと自身の講義ノートを作成することが求められます。
 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13018001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	衛生・公衆衛生学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人や生活について理解を深めると共に、社会や環境が人の健康をどう規定し左右するか、あるいは人の健康を保持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会や環境と健康との関わりについて理解することができるように説明する。

到達目標

1. 健康の概念、現状について理解し、説明できる。
2. 健康を阻害する疾病について理解し、説明できる
3. 健康管理について理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 健康の概念 —健康とは何か?—
- 【第2回】 健康の現状 —人口、平均寿命、出生・死亡の状況など—
- 【第3回】 健康に影響する生活要因 —生活習慣病、食生活—
- 【第4回】 健康に影響する生活要因 —身体活動、ストレス、喫煙・飲酒—
- 【第5回】 健康を阻害する疾病の予防 —疾病予防—
- 【第6回】 健康を阻害する疾病の予防 —生活習慣病予防、感染症予防—
- 【第7回】 第1回～第6回まとめ
- 【第8回】 健康作りの施策 —健康づくり運動、法的対応—
- 【第9回】 健康作りの施策 —組織と従事者—
- 【第10回】 健康管理の進め方 —健康管理の考え方と進め方—
- 【第11回】 健康管理の進め方 —健康教育・相談・審査—
- 【第12回】 健康管理の進め方 —健康管理の実際—
- 【第13回】 EBMに基づく健康管理
- 【第14回】 健康情報
- 【第15回】 第8回～第14回まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと。
わからないところは放置せず、必ず質問すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料を配布する。

参考書 「改訂 健康管理論」 苔米地孝之助 監修 建帛社 ISBN:978-4-7679-0496-2 定価2,310円 (税込)

履修条件・他の科目との関連 配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。

授業コード	13015901	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	運動処方演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

処方とは、治療のために患者に与える薬の名や分量などを医師が指示することであるが、運動不足病が社会問題となっている我が国においては、薬と同様に運動がこれらの疾病に有効であることが明らかとなった。生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性、年齢などの諸条件を考慮した安全かつ効果的な運動プログラムについて学修する。担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「運動処方論」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する。

到達目標

1. 健康増進のための運動効能と運動不足が健康に与える影響について理解する
2. 健康づくりのための運動プログラム作成のポイントを理解する
3. レジスタンスエクササイズの種類と運動強度の捉え方を理解し、安全性確保のための至適運動強度を推定せきる

授業計画

- 第1回；健康づくりのための身体活動指針
身体活動基準2013・アクティブガイド
- 第2回；健康づくりのためのトレーニングの原則
運動強度としての%V02max, トレーニング効果と脱トレーニング
- 第3回；健康づくりと運動プログラム作成の基礎
運動トレーニングの原則と運動プログラム作成の基礎
- 第4回；運動プログラムの実際
目標設定と効果の判定
- 第5回；有酸素性運動とその効果
有酸素性運動のプログラミング・有酸素性運動機器の選択と留意点
- 第6回；レジスタンス運動とその効果
安全性・効果・負荷設定・回数・頻度・種類
- 第7回；W-upとC-down
目的・効果・方法・構成・実際のプログラム
- 第8回；ストレッチング
ストレッチングの種類とその特性
- 第9回；陸上での運動や動作
ウォーキングとジョギングの特性・運動効果・速度とエネルギー消費量
- 第10回；エアロビックダンス
エアロビックダンスの特性・運動プログラム
- 第11回；水泳・水中運動
水泳・水中運動の力学
- 第12回；筋パワー・筋持久力向上のためのトレーニング
筋持久力とは何か、カー速度-パワーの関係
- 第13回；健常者と特殊な状況にある人の運動処方
妊婦・小児期・青年期・高齢者・環境的考察
- 第14回；他の臨床疾患患者の運動処方
入院患者のリハビリテーション・外来運動プログラム
- 第15回；総括とサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
主体的な準備学習（予習・復習）が求められる
各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	配布資料
参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 入門運動生理学第4版(杏林書院) 運動処方指針(American College of Sports Medicine)
履修条件・他の科目との関連	スポーツ医学、バイオメカニクス、運動生理学等との関連がある 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外

授業コード	13003501	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	スポーツトレーニング法Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

積極的な健康づくりを目的とした運動やスポーツを、安全にかつ効果的に実践指導するための科学的トレーニングを体得し、適切なプログラムを構成する能力や自ら動きの見本を示せる実演能力の向上を目指す
担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「スポーツトレーニング法」に関する理論を実践への応用に関連づけながら講義を展開する

到達目標

1. スポーツ選手や一般健康者を対象とした、パフォーマンス向上のための体力強化や形態の改善、障害予防、体調調整などを目的にトレーニングを行う知識と技能を修得する
2. 効果的に指導・運営する知識と技能を修得する
3. 自ら動きの見本を示せる知識と実演能力を修得する

授業計画

- 第1回；ガイダンス
授業の内容・進め方・評価方法の概説
- 第2回；トレーニング処方条件
FITT（頻度・強度・時間・種類）の原則
目標心拍数測定・最大酸素摂取量・消費カロリー計算
- 第3回；健康づくりのためのトレーニングの基本原則
最大筋力測定・RM・RFD・筋の起始停止
- 第4回；有酸素性トレーニングとその効果
プログラミングとプログラムの進行
- 第5回；無酸素性トレーニングとその効果
プログラミングとプログラムの進行
- 第6回；柔軟性トレーニングとその効果
スタティック・ダイナミック・PNF・バリスティック
- 第7回；柔軟性トレーニングとその効果
PNF・バリスティック
- 第8回；レジスタンス運動の負荷設定方法
目的に応じた負荷強度、反復回数
- 第9回；体力測定の意義
レジスタンストレーニングの種類、頻度
- 第10回；体力測定の実際
レジスタンス（RM測定）の得点化による評価
- 第11回；体力測定の実際
新体力テストと得点化による評価
- 第12回；体力測定の実際
レジスタンス（フリーウエイト）の得点化による評価
- 第13回；体力測定の実際
自重負荷の得点化による評価
- 第14回；レジスタンストレーニング演習
- 第15回；総括及びサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
主体的な準備学習（予習・復習）が求められる
各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	配布資料
------	------

参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト実践編 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト理論編
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	運動処方論・生理学等で学んだ内容を深化させ科学的根拠に基づいたトレーニング手法を体得する 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13003601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	スポーツトレーニング法Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

トレーニングを実施する対象につき、さまざまな角度から情報収集を行い現状を把握した上で、トレーニング目標を設定し実演する能力を養う
 また上記を達成するための効果的なトレーニングプログラムを作成する能力を養う
 更には科学的根拠に基づく正しい知識や情報について、実施者の特性やレベルに応じてわかりやすく説明する手法についても修得する
 担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「スポーツトレーニング法」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する

到達目標

1. スポーツ選手を対象とした競技力向上のための体力強化や形態の改善、生害予防、体調調整などを目的としたトレーニングを行う知識と技能を修得する
2. 競技力向上トレーニングのメリットとデメリットを理解する
3. 効果的に指導・運営する知識と技能を修得する

授業計画

- 第 1回；ガイダンス（運動指導のための情報収集と活用）
 授業の内容・進め方・評価方法の概説
 第 2回；スポーツの人的資源（トレーニング指導者の役割）
 第 3回；筋力トレーニングの実際（フリーウエイト）
 第 4回；パワートレーニング
 第 5回；特殊なトレーニングシステム及びプログラム作成
 第 6回；筋力トレーニング及びプログラム作成（フリーウエイト）
 第 7回；筋力トレーニング及びプログラム作成（フリーウエイトⅡ）
 第 8回；パワートレーニング及びプログラム作成（クイックリフト）
 第 9回；パワートレーニング及びプログラム作成（クイックリフトⅡ）
 第10回；Stretch Shortning Cycle
 第11回；サーキットトレーニング
 第12回；Speed Agility Quicknessトレーニングおよびプログラム作成
 第13回；Speed Agility Quicknessトレーニングの実際
 第14回；実演及び演習トレーニング
 第15回；総括及びサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要

主体的な準備学習（予習・復習）が求められる

各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2

その他	0		
テキスト	配布資料		
参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト実践編 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト理論編		
履修条件・他の科目との関連	運動処方論・トレーニング法 I で学んだ知識と実演能力をより深化させる 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外		

授業コード	13019601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	共生の援助技術 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

社会福祉実践における社会福祉援助技術の意義や理論、方法の基本的知識について説明する。具体的には、さまざまなトピック（人権・虐待・障がい・貧困・高齢など）を取り上げ、個別援助や集団援助、家族への関わりなどについて概説する。また、ソーシャルワークについての基礎的な理解を深める。授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、将来福祉・介護関係の業務に従事したいと考えている人に対しても実践・理論等役立つ授業を展開する。

到達目標

1. 「共生社会」の阻害要因について具体的に記述することができる。
2. 相談援助に携わる専門職の専門性について説明することができる。
3. ソーシャルワークの実践について説明することができる。
4. さまざまな分野で実践しているソーシャルワーカーについて説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール）
- 【第2回】 「社会生活」と「共に生きる」ことについて
- 【第3回】 生活課題について
- 【第4回】 「共生社会」の阻害要因について
- 【第5回】 ソーシャルインクルージョン
- 【第6回】 対人援助における関わり方の技術
- 【第7回】 対人援助におけるコミュニケーション技術
- 【第8回】 社会福祉援助技術論前半のまとめ
- 【第9回】 ソーシャルワークの概要
- 【第10回】 ソーシャルワークの方法
- 【第11回】 ソーシャルワーカー
- 【第12回】 ソーシャルワークの実践
- 【第13回】 ストレングス
- 【第14回】 エンパワメント
- 【第15回】 利用者主体

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。 1.0時間
 - 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。 2.0時間
- 第2回
 - 【事前】 自分自身が考える「共に生きる社会」とは何か列挙しておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業を振り返り「共生」について感じたことをノートに加筆する。 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 さまざまな社会問題に関する記事やニュースを視聴する。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 人権について自分の意見を記述する。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえ「共生社会」の阻害要因についてノートを加筆する。 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 前回分のノートを復習し「人権」について熟考する。 1.5時間
 - 【事後】 「ソーシャルインクルージョン」について説明できるようノートを加筆する。 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 「個別支援」の必要性について考えておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえ援助の展開過程についてノートを加筆する。 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】 対人援助に必要なコミュニケーションとは何か列挙しておく。 1.5時間
 - 【事後】 「対人援助におけるコミュニケーション技術」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。 1.5時間
 - 【事後】 第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 3.5時間
- 第9回

【事前】	福祉にまつわる地域の社会資源にはどのようなものがあるのか調べておく。	1.5時間
【事後】	「ソーシャルワークの概要」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第10回		
【事前】	ケースワークの概要について調べておく。	1.5時間
【事後】	授業の資料を参照のうえ援助の展開過程についてノートを加筆する。	2.5時間
第11回		
【事前】	前回分のノートを復習し「ソーシャルワーカー」について熟考する。	1.5時間
【事後】	授業の資料を参照のうえソーシャルワーカーについてノートを加筆する。	2.5時間
第12回		
【事前】	前回分のノートを復習し「福祉の専門職」について熟考する。	1.5時間
【事後】	「ソーシャルワークの実践」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第13回		
【事前】	生活していく中で自身の「強み」とは何か列挙しておく。	1.5時間
【事後】	「ストレングス」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第14回		
【事前】	生活する上での「課題」を列挙しておく。	1.5時間
【事後】	「エンパワメント」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第15回		
【事前】	前回分のノートを復習し「利用者支援」の福祉的視点について熟考する。	1.5時間
【事後】	ソーシャルワークについて具体的に説明できるようノートを再加筆する。	3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由が無い場合の未提出は評価しない。(正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする)
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性(文章量)などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	定期試験に代わるレポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せずプリント(資料)を配布する
参考書	新編社会福祉概論/松井圭三・今井慶宗/大学教育出版/2200+税/ISBN978-4-86692-190-7
履修条件・他の科目との関連	・介護・福祉関連の科目を履修していることが望ましい。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13062001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	生命倫理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	柴崙 雅子				
シラバス執筆(主)	柴崙 雅子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業の第一の目的は、人工妊娠中絶、脳死、安楽死といった生命倫理学の主要な問題について理解し、自分なりの考えを作り上げることである。こうした問題は国や地域によって、常識や法律が異なることも少なくない。視野を広げて深く考察できるようにするために、世界の状況も踏まえて概説する。この授業の第二の目的は、思考力、日本語の読解力・表現力、自己管理能力といったスキルを高めることである。そのため、毎回、授業に関するミニレポートの提出を求める。

到達目標

1. 生命倫理学の主要な問題に関する文章やデータを正確に理解できる。
2. 生命倫理学の主要な問題に関して、自分なりの考えを作ることができる。
3. 生命倫理学の主要な問題に関する自分自身の考えを、的確な日本語で表現できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション 「生命の神聖性」と「生命の質」
- 【第2回】 人口妊娠中絶（欧米）
- 【第3回】 人口妊娠中絶（日本）
- 【第4回】 生殖補助医療
- 【第5回】 「障害者」の問題
- 【第6回】 ダウン症の出生前診断
- 【第7回】 病気の遺伝
- 【第8回】 臓器移植
- 【第9回】 生体移植
- 【第10回】 輸血の問題点と献血
- 【第11回】 動物の生命
- 【第12回】 死刑
- 【第13回】 自殺
- 【第14回】 医師による死の援助
- 【第15回】 個人の生命と共同体の存続

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業の復習以外に、紹介された本を調べたり、返却された前回のレポートを見なおしたりするために、毎回4時間程度の学修が必要である。それ以外に、期末レポートを仕上げるために、少なくとも3時間は要する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニレポートは、点数評価を付けて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 毎回提出するミニレポートと、定期試験に代わる期末レポートで評価する。
- ・ 欠席6回以上は「K」評価。
- ・ 公欠を含め正当な理由のある欠席の場合、その回の授業に関した特別レポート課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	毎回提出するミニレポート	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	定期試験に代わるレポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 毎回の授業で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

選択必修の「コア2」の1科目である。

授業コード	13059601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャースポーツ（基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 光子				
シラバス執筆(主)	佐藤 光子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

現代社会においてスポーツは、狭い意味では競争・競技として行う運動、広い意味では楽しみや健康のために自発的に行う運動であると定義されている。またレジャーとは余暇に行う楽しみや遊びのことを指す。レジャースポーツとは勝ち負けよりも楽しみを重視して行うスポーツと理解できるだろう。授業は体育館にて実際に様々なスポーツを実践しながら進める。例えば「ポッチャ」のように、年齢・性別・体力レベルの違いがあっても互いに楽しめるスポーツを紹介する。また「バレーボール」のようにこれまで競技として体験してきたスポーツについては、皆が楽しむための工夫について意見交換の場を設ける。各スポーツの特性に応じてグループワークやペアワークを行い、各自の適性に応じてリーダーシップやフォロワーシップが発揮できる場面を設ける。これらの実践を通して、健康増進やレクリエーションについての基礎知識や、仲間と協調しつつ主体的に行動する力を身につけてほしい。

到達目標

1. レジャースポーツ全般の定義と意義を説明できる
2. 授業で実践した各スポーツの特徴・正規のルール・楽しむための工夫について説明できる
3. スポーツ実践に際して主体的に行動し、成果を上げるための努力ができる
4. スポーツ実践に際して安全に留意した行動ができる
5. スポーツ実践に際してよい人間関係を結ぶ行動ができる

授業計画

原則として体育館におけるスポーツ実践としての対面授業を行う
その他に適宜Classroomで課題を提示する

- 【第1回】卓球：ラリーの続くラージボール
 - 【第2回】卓球：ペアが交互に打つダブルスゲーム
 - 【第3回】ポッチャ：性別や体力だけで勝敗は決まらない
 - 【第4回】ポッチャ：スクエアポッチャに挑戦
 - 【第5回】バドミントン：ハイクリアーでラリーを続けよう
 - 【第6回】バドミントン：陣形を工夫してダブルスゲーム
 - 【第7回】フライングディスク：正確なパスとキャッチ
 - 【第8回】フライングディスク：アルティメットに挑戦
 - 【第9回】バレーボール：全員バレーでパスをつなごう
 - 【第10回】バレーボール：6人制、ローテーションで役割分担
 - 【第11回】バスケットボール：スピーディーな3×3
 - 【第12回】バスケットボール：組織的なディフェンスでオールコートゲーム
 - 【第13回】キンボール：三つ巴のボールゲーム
 - 【第14回】3チーム対抗戦：バレーボール&バドミントン
 - 【第15回】3チーム対抗戦：卓球&バスケットボール
- ※各回で実施するスポーツは状況によって変更することがある

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、毎回、実践するスポーツの特徴、ルール、技術などについて調べておくこと（0.5時間）
事後学習として、有酸素運動とレジスタンス運動を中心にトレーニングを実施し、健康管理を行うこと（0.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

スポーツ実践における主体的で安全な行動や仲間との協調性については、授業時に教員が観察評価しているので、問合せがあれば回答する。
Classroomで提示した課題（各スポーツの基礎知識、最終的な総括レポート）は、その都度採点し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえ、60点以上を合格とする。
ただし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」と評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	スポーツ実践の際の安全・人間関係・主体的行動に係る姿勢(60)	3, 4, 5

授業外での評価	20	各スポーツに関する基礎知識の理解度(20)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に提出する総括レポート(20)	1
その他	0		

テキスト	テキストなし。		
------	---------	--	--

参考書	0		
-----	---	--	--

履修条件・他の科目との関連	履修のための条件(他の科目を受講しなければこれを受講できないなど)は特にありません。しかしスポーツ実践を伴うので、常に健康・体力を維持する、受講にふさわしい身なりで参加する(服装、シューズ、長い髪はまとめる、爪は短く清潔になど)、お互いに仲良く協力する、特に自分の立場を自覚してリーダーシップを発揮したり、リーダーに従うフォロワーシップを発揮するなど、皆で楽しいスポーツの場を作るといふ努力が必要です。		
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13079201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャースポーツ（スキー・スノーボード応用） [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

レジャースポーツ（スキー・スノーボード応用）は、冬季にスキーあるいはスノーボードを行います。この授業は、スキー・スノーボードを履修し、単位習得をしている学生を対象としています。本授業は宿泊を伴う学外実習と学内での事前指導（演習）によって展開します。また、集中講義として行うため、ガイダンスは4月時の学科オリエンテーション時に行い、事前指導は5限目以降、空き時間あるいは補講調整日に実施します。事前指導ではスキー・スノーボードに関する基礎知識として用語や技術などについて学習し、学外実習に向けての知識と技能を身につけます。

到達目標

1. 雪上でのスポーツについて説明することができる。
2. スキー・スノーボードの用語と技術を説明することができる
3. スキー・スノーボードの技術を身につけ、楽しむことができる

授業計画

【第1回】	ガイダンス	実施時期、実施場所、実施内容について解説
【第2回】	事前指導1	雪上でのレジャースポーツの安全確保と注意事項について解説
【第3回】	事前指導2	スキー・スノーボードの仕組みと用語、用具、操作方法について解説
【第4回】	事前指導3	実施要項の確認と学外実習先のゲレンデの詳細、注意事項について解説
【第5回】	学外実習1	スキー・スノーボードの用具、操作方法について実習をおこなう
【第6回】	学外実習2	平地での基本動作を行う
【第7回】	学外実習3	緩斜面での基本動作と滑走練習を行う
【第8回】	学外実習4	緩斜面でのターンの反復練習を行う
【第9回】	学外実習5	リフトに乗って滑走する
【第10回】	学外実習6	主に整地されたゲレンデで滑走する
【第11回】	学外実習7	整地されたゲレンデだけではなく、新雪等の不整地なゲレンデで滑走する
【第12回】	学外実習8	ノンストップトレーニングを行う
【第13回】	学外実習9	ナイター滑走を実施
【第14回】	学外実習10	グループ滑走を実施
【第15回】	学外実習のまとめ	雪上実習のまとめと評価を行う

事前事後の学習

学修に必要な総時間数は45時間です。事前事後学習等については、必要に応じて担当教員より指示します。

事前学習と事後学習に要する時間は第1回目の授業時に提示します。
第1回～第4回は講義、第5回以降は学外実習となりますが、それぞれ1時間の事後学習を要します。

課題に対するフィードバックの方法

実技、レポート課題、研修日誌の評価については希望者に開示します。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・実技試験、レポート課題、研修日誌、事前指導と学外実習時の活動状況による総合評価とします。
- ・事前指導の欠席過多の者は学外実習には参加できません
- ・単位の認定には学外実習への参加が必要です

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	スキー・スノーボードの実技試験(50)	1, 2, 3
授業外での評価	30	研修日誌(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
------	--------------------------

参考書	「日本スキー教程」(全日本スキー連盟) 「全日本スノーボード教程」(日本スノーボード協会)
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形態が集中講義であるため、諸連絡はUNIPAまたはGoogle classroomよりおこないます。 ・事前指導の欠席は学外実習には参加できません。また、単位の認定には学外実習への参加が必要です。 ・学外実費用(交通費、宿泊費、食事、リフト代など):2017年度実績;33,830円 ・ウェア、ボード等のレンタルを利用する場合は、別途レンタル料が必要になります。 ・「レクリエーション概論」を履修しておくこと ・コロナ感染状況によっては、実習が中止または内容が変更となる可能性があります。

授業コード	13079301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャースポーツ（マリンスポーツ応用） [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	3年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

レジャースポーツ（マリンスポーツ応用）ではスクーバダイビングの応用科目としてさらなる知識の習得と技術の向上を目指します。スクーバダイビングでは上位ライセンスの取得を目指します。海洋実習はマリンスポーツの環境に恵まれた沖縄本島あるいは宮古島や石垣島で実施します。本授業は学内での事前指導と宿泊を伴う学外実習によって展開します。集中講義として行うため、事前指導は5時限目以降、空き時間あるいは補講調整日、学外実習の直前に実施します。事前指導では学外実習での活動計画を作成して個々が計画をもとに実習を行い、生涯スポーツとして楽しむことができる知識と技能を身につけます。

到達目標

1. 海洋で行うことができるマリンスポーツを解説できる
2. マリンスポーツの活動計画を作成することができる
3. マリンスポーツを安全に楽しむことができる
4. 研修日誌をまとめることができる

授業計画

- 【第1回】 マリンスポーツ応用の事前指導と学外実習についてのガイダンス
- 【第2回】 事前指導1：マリンスポーツの事故や傷害と安全行動
- 【第3回】 事前指導2：学外実習での活動計画を立案1
- 【第4回】 事前指導3：学外実習での活動計画を立案2
- 【第5回】 事前指導4：実施要項の確認と学外実習先の詳細、注意事項等
- 【第6回】 学外実習1：マリンスポーツⅠ：海洋実習1
- 【第7回】 学外実習2：マリンスポーツⅠ：海洋実習2
- 【第8回】 学外実習3：マリンスポーツⅠ：海洋実習3
- 【第9回】 学外実習4：マリンスポーツⅡ：海洋実習1
- 【第10回】 学外実習5：マリンスポーツⅡ：海洋実習2
- 【第11回】 学外実習6：マリンスポーツⅡ：海洋実習3
- 【第12回】 学外実習7：マリンスポーツⅢ：海洋実習1
- 【第13回】 学外実習8：マリンスポーツⅢ：海洋実習2
- 【第14回】 学外実習9：マリンスポーツⅢ：海洋実習3
- 【第15回】 学外実習10：学外実習のまとめと振り返り

事前事後の学習

学修に必要な総時間数は45時間です。事前事後学習等については、必要に応じて担当教員より指示します。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する1.0時間
 - 【事後】 オリエンテーション説明内容にもとづき夏季に行われているマリンスポーツについて自修し、ノートを準備する3.0時間
- 第2回
 - 【事前】 マリンスポーツの事故や傷害と安全行動を調べる2.0時間
 - 【事後】 マリンスポーツの事故や傷害と安全行動をまとめる3.0時間
- 第3回
 - 【事前】 学外実習での活動計画を検討する2.0時間
 - 【事後】 学外実習での活動計画の素案を検討する3.0時間
- 第4回
 - 【事前】 学外実習での活動計画の素案を作成する2.0時間
 - 【事後】 学外実習での活動計画をまとめる3.0時間
- 第5回
 - 【事前】 学外実習先のゲレンデを調べる2.0時間
 - 【事後】 学外実習先のゲレンデをもとに活動計画を修正する3.0時間
- 第6～8回
 - 【事前】 マリンスポーツⅠで実施する器材を確認する2.0時間
 - 【事後】 マリンスポーツⅠでの取組みをまとめる3.0時間
- 第9～11回
 - 【事前】 マリンスポーツⅡで実施する器材を確認する2.0時間
 - 【事後】 マリンスポーツⅡでの取組みをまとめる3.0時間
- 第12・14回
 - 【事前】 マリンスポーツⅢで実施する器材を確認する2.0時間
 - 【事後】 マリンスポーツⅢでの取組みをまとめる3.0時間
- 第15回
 - 【事前】 今日のマリンスポーツ実習の取組み内容を確認する2.0時間

【事後】研修日誌をまとめる4.0時間

課題に対するフィードバックの方法

活動計画書、実習日誌、レポート試験の評価は希望者に開示します。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、活動計画書、研修日誌、実習時の取り組む姿勢、レポート試験に基づき、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。
事前指導の欠席者は学外実習には参加できません。また、単位の認定には学外実習への参加が必要です。学外実習に不参加の場合、評価の対象とせず、「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実習時の取り組む姿勢(50%)	1, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に行うレポート試験(10%)	1
その他	40	活動計画書(10%)、研修日誌(30%)	2, 4

テキスト 使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書 必要に応じて提示します。

履修条件・他の科目との関連
・講義形態が集中講義であるため、諸連絡はUNIPAもしくはclassroomで行いません。
・学外実習費用(交通費、施設利用費、器材レンタル費、傷害保険料等)が別途必要になります。
・台風等が発生した場合、海洋実習がキャンセルされることがあります。

授業コード	13061921	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅡbでは、セミナーⅡaで養ってきた力をさらに高め、自己学習力を高めていくことを目的とします。また、社会に出て仕事をしていく上で不可欠な力を身につけることを習得します。

※ 開講期のはじめとおわりの頃の回に、共通プログラムとして「学修目標の設定、学修目標に達成に関する振り返り」等の講義及び作業を実施する

到達目標

1. 必要な情報を収集し、分析および活用することができる。
2. 自分の伝えたいことを他人に伝達することができる。
3. ソーシャルスキルが向上する。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：夏休みに取り組んだことを振り返り、今後の計画を立てる。
- 【第2回】
テーマ：夏休みの課題発表
内容・方法：夏休みに取り組んだことを発表し、その成果と今後の計画について述べる。
- 【第3回】
テーマ：セミナー課題について
内容・方法：セミナーⅡの課題について、取り組み方、進め方、まとめ方等の説明
- 【第4回】
テーマ：セミナー課題（文献調査方法を知る）
内容・方法：図書館にて学術論文等の検索方法を学び、実践する。
- 【第5回】
テーマ：セミナー課題（テーマ決め）
内容・方法：自身に取り組む課題のテーマを決める。
- 【第6回】
テーマ：セミナー課題（文献調査）
内容・方法：テーマに属した文献を検索し、手に入れる。
- 【第7回】
テーマ：セミナー課題（文献調査）
内容・方法：検索した文献の要点をまとめる。
- 【第8回】
テーマ：セミナー課題（複数の文献を読む）
内容・方法：複数の文献を読み比べ、テーマに沿ってまとめる。
- 【第9回】
テーマ：セミナー課題（レポートをまとめる）
内容・方法：得られた情報を文章にまとめる。
- 【第10回】
テーマ：セミナー課題（図表の作成方法）
内容・方法：図表にするデータをもとに、図表を作成する。
- 【第11回】
テーマ：セミナー課題（レポートの完成）
内容・方法：図表を加えたレポートを完成させる。
- 【第12回】
テーマ：社会人のマナー
内容・方法：外部講師による社会人マナー教育講演
- 【第13回】
テーマ：課題のチェック（相互チェック）
内容・方法：共通課題の提出に向け、第三者のチェックを受ける。
- 【第14回】
テーマ：共通課題提出
内容・方法：課題提出、まとめ
- 【第15回】
テーマ：1年間を振り返って
内容・方法：1年間を振り返り、発表する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【1回】	
①事前学修課題：特になし	
②事後学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.0時間	
【第2回】	
①事前学修課題：夏休みの課題発表準備を行う。2.5時間	
②事後学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間	
【第3回】	
①事前学修課題：セミナー課題の準備（興味があるテーマを決める）2.5時間	
②事後学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間	
【第4回】	
①事前学修課題：興味があるテーマを決め、さらに興味がある事柄をしぼる。2.5時間	
②事後学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間	
【第5回】	
①事前学修課題：図書館で得た情報をもとに、文献検索を行う。2.5時間	
②事後学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間	
【第6回】	
①事前学修課題：更に新しい文献を検索する。2.5時間	
②事後学修課題：新聞などで最新の情報を集める。2.5時間	
【第8回】	
①事前学修課題：課題のフォーマットを準備する。2.5時間	
②事後学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間	
【第9回】	
①事前学修課題：図表にするデータを集める。2.5時間	
②事後学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間	
【第10回】	
①事前学修課題：作成した図表のレイアウトを考える。2.5時間	
②事後学修課題：図表作成の際に使用したデータの出典等をチェックする。2.5時間	
【第11回】	
①事前学修課題：作成した図表のチェック、参考文献の情報をまとめる。2.5時間	
②事後学修課題：完成したレポートの誤字脱字等のチェックを行う。2.5時間	
【第12回】	
①事前学修課題：事前に配布された資料を確認する。1.0時間	
②事後学修課題：学んだ事を実生活で実践する。1.0時間	
【第13回】	
①事前学修課題：課題をプリントアウトする。1.5時間	
②事後学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間	
【第14回】	
①事前学修課題：課題レポートを校正し、提出のための準備を行う。2.5時間	
②事後学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。2.0時間	
【第15回】	
①事前学修課題：1年間を振り返り、発表内容を考える。1.0時間	
②事後学修課題：卒業研究のテーマについて考える。1.5時間	

課題に対するフィードバックの方法

第3～11回および第14回発表準備時に適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。また正当な理由なく欠席（遅刻または早退3回につき1回欠席とする）した場合は、担当教員からレポート等の課題提出の指示があります。欠席等レポート5回以上未提出で「K」評価とする。
 セミナーⅡb課題について、正当な理由なしに〆切期限に未提出および未完成の場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題への取り組む態度(20) 進捗状況確認のためのレポート提出(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に実施するレポート試験(10)	1, 2
その他	40	第14回共通課題提出について、規定内容の達成度(40)	1, 2, 3

テキスト テキストは使用せずプリント(資料)を配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 ・レポート課題については、作成途中のレポートを各授業回にて提出することがもとめられる。
 ・新型コロナウイルス感染対策等の理由で授業が遠隔となる場合があります。その際は随時ユニパ

履修条件・他の科目との関連

たはGoogleクラスルーム等で連絡いたします。

・欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示するので確認すること。掲示されない場合もありますのでその際は各担当教員までメール等で問い合わせ受け取ってください。欠席した場合でも提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。

授業コード	13099801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	生命科学の基礎 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

生命誕生から始まり、栄養学の基礎となる生体分子（タンパク質、脂質、糖質）、分子や遺伝子レベルから、細胞、生物の個体、集団・社会、そして多様な生物が影響し合う地球環境にまで幅広く学び、理解することができるように説明する。

到達目標

1. 生命の起源について理解し、説明できる。
2. 栄養学の基礎となる生体分子（タンパク質、脂質、糖質）について理解し、説明できる
3. 生物の遺伝情報や仕組みについて理解し、説明できる。
4. 生物の進化と多様性について理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 生命のはじまり（生命の起源、分類、細胞の基本構造）
- 【第2回】 生体分子①（アミノ酸、タンパク質、核酸）
- 【第3回】 生体分子②（糖質、脂質）
- 【第4回】 タンパク質の構造と機能
- 【第5回】 細胞内のエネルギー代謝
- 【第6回】 生物の遺伝情報①（DNAの複製、DNAからRNAへの転写）
- 【第7回】 生物の遺伝情報②（RNAからタンパク質への翻訳）
- 【第8回】 第1回から第7回までの振り返り
- 【第9回】 細胞の増殖①（細胞分裂、細胞死）
- 【第10回】 細胞の増殖②（がん、クローン病）
- 【第11回】 細胞の機能
- 【第12回】 生物の進化
- 【第13回】 第8回から第12回の振り返り
- 【第14回】 日本人の死因第1位である悪性新生物（がん）について
- 【第15回】 癌に対する現在の治療について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと
わからないところは放置せず、必ず質問すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料を配布する。

参考書 「はじめて学ぶ生命科学の基礎」 畠山智充 編著、小田達也 編著 化学同人 ISBN: 9784759814545 本体2,300円＋税

履修条件・他の科目との関連

配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。
状況により授業内容の順番など変更する場合があります。

授業コード	13099901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	栄養の基礎 [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康的な食生活を送るために、またあふれる食情報を正しく理解し、生活に役立てていくためには、栄養に関わる正しい科学的知識が必要です。人間が食物を摂取するのはなぜか、栄養素とは何か、摂取した食物は消化管内でどのように変化するのか、また生体エネルギーについて知ることを目的とし、それらのための基本的な事項について概説します。授業は講義形式で行います。

到達目標

1. 栄養や食生活にかかわる公的なデータを読み解き説明することができる。
2. 食物の消化吸収にかかわる臓器について説明することができる。
3. 栄養素の分類を説明することができる。
4. 各栄養素の身体での働きを説明することができる。
5. 各栄養素が主に含まれている食品について、また各栄養素の効率の良い摂取方法について説明することができる。
6. 栄養学で学んだ知識を実生活にどのように活かすか計画し説明することができる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

1 オリエンテーション	栄養とは何かについて学ぶ
2 現代栄養に関するフェイクニュース	正しい情報や知識をもって食生活を行う大切さを知る
3 人はなぜ食べるのか	食生活の意義について 人はなぜ食べるのかについて学ぶ
4 5大栄養素とエネルギー	5大栄養素の主な働きとエネルギーについて学ぶ
5 1回目中間テストと栄養素の消化吸収	第2～4回目講義の確認テスト、3大栄養素の消化吸収の概要について学ぶ
6 TCA回路について	グルコースの体内での利用について学ぶ
7 タンパク質の消化と体内利用について	タンパク質の消化と体内での働きについて学ぶ
8 脂質の消化と体内利用	脂質の消化と体内での働きについて学ぶ
9 ビタミンとミネラル	ビタミンとミネラルの概要を学ぶ
10 2回目中間テストとビタミン	第2～9回目講義の確認テスト、ビタミンAについて学ぶ
11 ビタミンB群	ビタミンB群 (B1～B6) について学ぶ
12 ビタミンB群とC	ビタミンB群 (B12～パントテン酸) とビタミンCについて学ぶ
13 ビタミンD～ミネラル	ビタミンD～ミネラル (Ca など) について学ぶ
14 ミネラル (P・Fe・Zn)	ミネラル (P・Fe・Zn) について学ぶ
15 栄養学のまとめ	栄養の基礎で学んだことを振り返り学ぶ
16 学んだことを活かす	栄養の基礎で学んだ内容を实生活でどのように活かすかについてレポート
をまとめGoogleクラスルームに提出	

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容の復習と、授業ノートの整理を行うこと。復習テストのための準備や予習等、毎回1.5時間程度の事前学習および2.5時間程度の事後学習が必要。

課題に対するフィードバックの方法

各中間テスト結果にてフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

授業に取り組む態度および、2回実施する中間テストと総合まとめテスト、期末レポートにより評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業に取り組む態度 (30) 中間テスト2回 (2回実施) (各15点、計30) 第15回目 総合まとめテスト (30)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課題レポート(10)	4, 5, 6
その他	0		

テキスト	健やかな成長を育む 令和版子どもの食と栄養/増田啓子編著/一藝社/2024/978-4-86359-279-7 (2024年3月新刊発行予定)		
------	-------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	なし		
-----	----	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>受講の際は必ず教科書を準備してください。 状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。 次回の授業までに教科書を読み返しておくこと。 20分以上の遅刻は欠席とみなす場合があります。 遅刻3回で1回の欠席とします。 欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示するので確認し、提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。</p>		
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13013401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	レクリエーション概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代社会におけるレクリエーションの意義や価値の多様性を学修するとともに、レクリエーションプログラムの企画等を実施し、レクリエーション指導者に求められる基礎的な考え方や技術の習得を目指す。

到達目標

1. レクリエーションの概説を説明することができる。
2. レクリエーション活動を安全に楽しむための基礎的な知識を説明することができる。
3. レクリエーションの指導者に必要な知識を説明することができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：授業内容の説明
- 【第2回】
 テーマ：レクリエーション概論①
 内容・方法：レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの役割
- 【第3回】
 テーマ：レクリエーション概論②
 内容・方法：レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの役割
- 【第4回】
 テーマ：レクリエーション概論③
 内容・方法：レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの役割
- 【第5回】
 テーマ：楽しさと心の元気づくりの理論①
 内容・方法：楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気
- 【第6回】
 テーマ：楽しさと心の元気づくりの理論②
 内容・方法：楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気
- 【第7回】
 テーマ：楽しさと心の元気づくりの理論③
 内容・方法：心の元気と地域のきずな
- 【第8回】
 テーマ：レクリエーション支援の理論①
 内容・方法：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
- 【第9回】
 テーマ：レクリエーション支援の理論②
 内容・方法：良好な集団づくりの理論
- 【第10回】
 テーマ：レクリエーション支援の理論③
 内容・方法：自主的、主体的に楽しむ力を育む理論
- 【第11回】
 テーマ：レクリエーション支援の方法①
 内容・方法：リスクマネジメント
- 【第12回】
 テーマ：レクリエーション支援の方法②
 内容・方法：プログラムの立案
- 【第13回】
 テーマ：レクリエーション支援の方法③
 内容・方法：プログラムの立案
- 【第14回】
 テーマ：レクリエーション支援の方法④
 内容・方法：プログラムの立案
- 【第15回】
 テーマ：レクリエーション支援の方法⑤
 内容・方法：プログラムの立案

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 【事前】 シラバスを確認しておく 1.5時間

【事後】 2.5時間	オリエンテーション説明内容にもとづきレクリエーションの基礎知識を自修し、ノートを準備する
第2回	
【事前】	身近にある「心が元気になる活動」について列挙し、その理由をまとめる 1.5時間
【事後】	レクリエーションの変遷をまとめる 2.5時間
第3回	
【事前】	テキストのレクリエーション支援についての内容を読んでおく 1.5時間
【事後】	レクリエーション支援についてまとめる 2.5時間
第4回	
【事前】	レクリエーション・インストラクターについて調べる 1.5時間
【事後】	有資格者の具体的な活動についてまとめる 2.5時間
第5回	
【事前】	「心が元気」とはどのようなことを意味するのかをまとめる 1.5時間
【事後】	身体と心は密接に関わっている理由についてまとめる 2.5時間
第6回	
【事前】	他者の心を元気にするための手法を列挙する 1.5時間
【事後】	子どもが元気であるということについて調べてまとめる 2.5時間
第7回	
【事前】	高齢者の心を元気にするための手法を列挙する 1.5時間
【事後】	高齢者が元気であるということについて調べてまとめる 2.5時間
第8回	
【事前】	地域を元気にするための手法を列挙する 1.5時間
【事後】	地域が元気であるということについて調べてまとめる 2.5時間
第9回	
【事前】	良好な集団とはどのような集団なのか調べる 1.5時間
【事後】	良好な集団をつくるためにはどのようなことが必要なかをまとめる 2.5時間
第10回	
【事前】	自主的に取り組んだことを列挙する 1.5時間
【事後】	自主的・主体的に取り組むために必要なことをまとめる 2.5時間
第11回	
【事前】	身近なところにある危険因子を列挙する 1.5時間
【事後】	レクリエーション活動におけるリスクマネジメントについてまとめる 2.5時間
第12回	
【事前】	大学生を対象としたレクリエーション支援の内容を立案する 1.5時間
【事後】	立案プログラムの修正を行う 2.5時間
第13回	
【事前】	子どもを対象としたレクリエーション支援の内容を立案する 1.5時間
【事後】	立案プログラムの修正を行う 2.5時間
第14回	
【事前】	高齢者を対象としたレクリエーション支援の活動内容を立案する 1.5時間
【事後】	立案プログラムの修正を行う 2.5時間
第15回	
【事前】	地域で行われている行事を調べる 1.5時間
【事後】	提出課題について確認をしておく 2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

授業内の課題に関して、翌週以降の授業で解説をする。

成績評価の方法・基準(方針)

レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な科目である。正当な理由なく5回以上の欠席は評価が「K」となる。
課題を期日厳守で提出すること。評価は課題や試験を総合的に評価し、60点以上が合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内で提示する課題(20) 小テスト(30)	1, 2, 3
授業外での評価	10	プログラムの立案(10)	1, 2, 3
定期試験	40	定期試験(40)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の基本の理論と方法、公益財団法人日本レクリエーション協会、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,944円、ISBN 978-4-931180-95-6

参考書 必要に応じて適宜配布します

履修条件・他の科目との関連 レクリエーション・インストラクター資格取得の必須科目である。資格取得を希望する学生は必ず履

履修条件・他の科目との関連

修してください。受講生の状況により、授業内容を一部変更することがあります。
コロナ感染状況によっては、オンライン授業になる可能性もあります。
レクリエーション演習Ⅰ、レクリエーション演習Ⅱ

授業コード	13058801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	ライフサイクルと健康 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、胎児期から児童期、思春期へと進んでいくライフサイクルにおいて、心身の発達と健康上の問題について、それぞれのライフステージにみられる発達課題について議論する。こころと身体の発達過程についてライフステージを追いながら学んでいく。

到達目標

1. ライフサイクルに応じた発達課題について記述することができる
2. 発達段階に応じた心理的特徴を記述することができる
3. 心身の成長過程について記述することができる
4. エイジングや加齢について記述することができる
5. それぞれのライフステージの健康課題について記述することができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
- 【第2回】 健康の定義
- 【第3回】 乳幼児期の発育発達の特徴を学ぶ
- 【第4回】 小児期の発育発達の特徴を学ぶ
- 【第5回】 思春期の発育発達の特徴を学ぶ
- 【第6回】 成人期・中年期の発育発達の特徴を学ぶ
- 【第7回】 アイデンティティ形成についてグループワークを通して学ぶ
- 【第8回】 中年期の発育発達の特徴を学ぶ
- 【第9回】 老年期の発育発達の特徴を学ぶ
- 【第10回】 加齢に伴う心理的な問題について学ぶ
- 【第11回】 身体活動・運動の必要性を学ぶ
- 【第12回】 運動による健康行動への影響を学ぶ
- 【第13回】 エイジングと加齢を学ぶ
- 【第14回】 疾病の予防対策を学ぶ
- 【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する1.5時間
 【事後】 オリエンテーション説明内容にもとづき各ライフステージの健康課題の基礎知識を自修し、ノートを準備する2.5時間
- 第2回
 【事前】 健康の定義について学び、健康寿命の延伸について熟考する1.5時間
 【事後】 講義内容を参照のうえノートを加筆する2.5時間
- 第3回
 【事前】 前週分のノートを復習し、「乳幼児期の発育発達の特徴」について熟考する1.5時間
 【事後】 講義内容を参照のうえノートを加筆する2.5時間
- 第4回
 【事前】 前週分のノートを復習し、「小児期の発育発達の特徴」について熟考する1.5時間
 【事後】 講義内容を参照のうえノートを加筆する2.5時間
- 第5回
 【事前】 前週分のノートを復習し、「思春期の発育発達の特徴」について熟考する1.5時間
 【事後】 講義内容を参照のうえノートを加筆する2.5時間
- 第6回
 【事前】 前週分のノートを復習し、「成人期・中年期の発育発達の特徴」について熟考する1.5時間
 【事後】 講義内容を参照のうえノートを加筆する2.5時間
- 第7回
 【事前】 前週分のノートを復習し、「アイデンティティ形成」について熟考する1.5時間
 【事後】 講義内容を参照のうえノートを加筆する2.5時間
- 第8回
 【事前】 前週分のノートを復習し、「中年期の発育発達の特徴」について熟考する1.5時間
 【事後】 講義内容を参照のうえノートを加筆する2.5時間
- 第9回
 【事前】 前週分のノートを復習し、「老年期の発育発達の特徴」について熟考する1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、ノートを加筆する2.5時間

第10回	【事前】 前週分のノートを復習し、「加齢に伴う体力・運動能力の低下」について熟考する1.5時間 【事後】 講義資料を熟読し、ノートを加筆する2.5時間
第11回	【事前】 前週分のノートを復習し、「身体活動・運動の必要性」について熟考する1.5時間 【事後】 講義資料を熟読し、ノートを加筆する2.5時間
第12回	【事前】 前週分のノートを復習し、「運動による健康行動への影響」について熟考する1.5時間 【事後】 講義資料を熟読し、ノートを加筆する2.5時間
第13回	【事前】 前週分のノートを復習し、「エイジングと加齢」について熟考する1.5時間 【事後】 講義資料を熟読し、ノートを加筆する2.5時間
第14回	【事前】 前週分のノートを復習し、「疾病の予防対策」について熟考する1.5時間 【事後】 講義資料を熟読し、ノートを加筆する2.5時間
第15回	【事前】 前週分のノートを復習し、心身の健康について熟考する1.5時間 【事後】 講義資料を熟読し、ノートを加筆する2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題の評価については希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、毎授業時に実施される課題、レポートに加え、小テストおよび定期試験の評価結果に基づいて判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
半期5回以上の欠席、毎授業時に実施される課題、レポートの5回以上未提出がある場合、またはいかなる理由であっても定期試験を受けない場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内で提示された課題、小テスト、およびグループワーク	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	70	持ち込み不可で講義内容に基づいて定期試験を実施する	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 授業時に実施する課題、レポート、および小テストの5回以上の未提出がある場合、または、いかなる理由であっても定期試験を受験しない場合には、評価対象外となり、「K」評価となる。
学習の進捗状況によって、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13058901	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	人体の構造と機能 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この講義を通じて、からだの不思議がわかる「解剖生理学」を修得する。講義全体を通し、器官・臓器が特定の生理学的な機能を果たすように解剖学的に形成されていることを理解する「構造と機能の関係性」を学修する。また「ホメオスタシス」それぞれの器官系が安定して生命を維持するにはたっている「ホメオスタシス」を学修する。そしてこの繊細な平衡が乱されたときに、何が起こるかについて理解することで、習熟度を高める。プロスポーツクラブや地方自治体と協働で、長年にわたり育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた担当教員の実務経験を元に、「人体の構造と機能」に関する理論を実践との応用を関連づけながら講義を展開する。

到達目標

1. 各器官系の構造と機能を学び、人体の内部環境の恒常性を維持する営み、生体を防御するしくみ、生命を次代に繋ぐ生殖等、人間の身体で繰り広げられている生命活動を理解する
2. 病気や健康状態を理解する上で必要な人体の構造と仕組みを理解する
3. 網羅的に覚えるのではなく、組織的階層的に理解し、他の教科で使用可能な知識を修得する

授業計画

- 第 1回；ガイダンス
授業の内容・進め方・評価方法の概説
- 第 2回；免疫系
生体の防御機構：免疫；自己と非自己、リンパ球、胸腺
- 第 3回；血液
血液の組成と機能
- 第 4回；内分泌系の構成と機能
内分泌系の構成と機能の理解
- 第 5回；循環器系の構成と機能 1
心臓の構造と機能の理解
- 第 6回；循環器系の構成と機能 2
動脈、静脈、リンパ管の理解
- 第 7回；呼吸器系の構成と機能
鼻腔から肺胞にいたる呼吸器系の理解
- 第 8回；消化器系の構成と機能
口腔から肛門に至る消化管の理解と肝臓、膵臓の理解
- 第 9回；泌尿器系の構成と機能
腎臓、尿管、膀胱、尿道についての理解
- 第10回；生殖器系の構成と機能
女性生殖器、男性生殖器、受精、胎児の発生の理解
- 第11回；運動器系の構成と機能 1
骨の構造と機能、骨化、骨と骨の結合の理解
機能解剖（上肢・脊柱と胸部・骨盤と下肢）
- 第12回；運動器系の構成と機能 2
筋肉の構造と機能、主な筋肉のはたらき
- 第13回；神経系の構成と機能 1
ニューロン、グリアについて 中枢神経系の理解
- 第14回；神経系の構成と機能 2
末梢神経系の理解
- 第15回；総括とサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
主体的な準備学習（予習・復習）が求められる
各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行う

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	配布資料
------	------

参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト実践編 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト理論編
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	スポーツ医学、バイオメカニクス、健康づくり運動の基礎、運動生理学等との関連がある 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13059001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	健康心理学入門 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療技術等が発展する現代においてもなお私たちの健康は医学の知識や技術だけに頼ることができない。それを補うのが心理学の分野である。本講義では心理学の観点から心身の関わり方について説明し、健康とは何かについて総合的に学ぶ。授業はパワーポイントにて行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示する講義形式となる。事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や紹介された図書や論文をもとに自身のノートに加筆するなどの主体的な学習が必要となる。

到達目標

1. 健康心理学に関する専門用語を説明できる。
2. 健康心理学に関する心理学の専門用語を記述できる。
3. 心の健康の意味を理解し、説明できる。
4. 心の病について、その意味を理解し、記述できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：心理学が果たす役割について考える
- 【第2回】 健康とストレス：健康とストレスの関係について考える
- 【第3回】 こころの病①：うつ病とは何かを考える
- 【第4回】 こころの病②：こころの病について学ぶ
- 【第5回】 こころの病③：気分障害について学ぶ
- 【第6回】 気分障害について映像から学ぶ
- 【第7回】 睡眠とストレス：自身の睡眠について考える
- 【第8回】 食行動の異常について：現代における摂食障害について考える
- 【第9回】 こころと健康：カウンセリング事例から自身の心身について考える
- 【第10回】 児童虐待：児童虐待について考える
- 【第11回】 依存症とは何か？ ①：アルコール依存症を中心に考える
- 【第12回】 依存症とは何か？ ②：ゲーム依存症を中心に考える
- 【第13回】 グループ発表①：心の病についてグループで発表
- 【第14回】 グループ発表②：心の病についてグループで発表
- 【第15回】 まとめ：第1～14回をもとに心の健康とは何かを考え、心理学が果たす役割を今一度考える

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。授業を受けるにあたってのノート作り 1.0時間
 - 【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、心理学が果たす役割について、ノートに加筆する 1.0時間
- 第2回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「健康」の定義について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】 ストレスがもたらす健康状態に対する影響について、ノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 “こころの病”とは何か自分なりに調べ、まとめておく 1.5時間
 - 【事後】 厚生労働省ホームページよりこころの病について調べ、ノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「うつ病」の治療にはどのようなものがあるか自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】 うつ病と関連する文学作品や映画などを探し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、気分障害について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】 神経の作りについて今一度まとめるとともに、神経伝達物質の種類をノートに加筆する 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、気分障害の概念の整理、精神疾患の予防について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】 気分障害の経過および支援の在り方について、ノートに加筆する 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、自身のストレスにどう対処できるか自分なりに考えておく 1.5時間
 - 【事後】 「睡眠の質」について、ノートに加筆する 2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「摂食障害」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5時間

【事後】 第9回	講義資料を熟読し、摂食障害の治療において重要な点をノートに加筆する 3.5時間
【事前】	前週分のノートを復習し、「カウンセリング」について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 第10回	講義資料を熟読し、カウンセリングの役割について、ノートに加筆する 2.5時間
【事前】	前週分のノートを復習し、「虐待」について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 第11回	「世代間伝達」について調べ、ノートに加筆する 2.5時間
【事前】	前週分のノートを復習し、「依存」とは何か調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 第12回	講義資料を熟読し、アルコール依存症における治療において重要な点をノートに加筆する 2.5時間
【事前】	前週分のノートを復習し、依存症に対する地域の取り組みについて調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 第13回	講義資料を熟読し、ゲーム依存症における治療において重要な点をノートに加筆する 2.5時間
【事前】	前週分のノートを復習し、心の病において興味ある事柄を自分なりにまとめ、考えておく 1.5時間
【事後】 第14回	グループで発表の振り返り、あるいは準備を行う 2.5時間
【事前】	前週分のノートを復習し、心の病の予防について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 第15回	グループ発表の振り返りを行う 2.5時間
【事前】	第1回から第14回のノートを復習する 1.5時間
【事後】	医療・福祉分野における心理の役割について今一度考え、説明できるようにノートに加筆する 3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、授業時に実施する課題および小テストの結果に加え、定期試験の結果に基づいて、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、半期5回以上の欠席、毎授業時に実施する課題について5回以上の未提出、またはいかなる理由であっても定期試験が未受験の場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内で提示されたレポートや課題、グループワークへの取り組み、小テスト	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	70	持ち込み不可で講義内容に基づいて定期試験を実施する。	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 授業内で実施する課題、レポート、および小テストの5回以上の未提出がある場合、または、いかなる理由であっても定期試験を未受験の場合には「K」評価となる。
 学習の進捗状況に応じて、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13100001	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	社会福祉概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、社会で生活している自分自身を含め、我々の今日的な「幸せ」に着目し、「より良い暮らし」の実現に向けて行われるさまざまな実践について社会福祉の領域から説明する。社会福祉に関連する制度や仕組みについて、健康の考え方、社会保障と公衆衛生、介護や保育等に関する諸制度について概説する。具体的には、社会福祉の対象者である高齢者、障がい者、児童、傷病者、低所得者等に対する制度・政策やサービスについてフォーマル・インフォーマルの両側面から説明する。授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、福祉・介護などの分野に興味がある人に対しても、具体的な実践についてイメージができるよう授業を展開する。

到達目標

1. 自身が考える「福祉」について自己理解を深め記述することができる。
2. 社会生活の中で、「より良い暮らし」が阻害されている要因を説明できる。
3. 各領域の福祉（貧困・低所得者、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉）について説明できる。
4. 福祉関係の専門職について説明できる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：授業の進め方、受講ルールと福祉に関連する対象者についての説明
- 【第2回】 少子高齢化の現状
- 【第3回】 貧困・低所得者の福祉
- 【第4回】 児童福祉関連の制度
- 【第5回】 児童福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第6回】 児童福祉に関連する具体的な実践について
- 【第7回】 障がい者・障がい児福祉関連の制度
- 【第8回】 社会福祉概論前半のまとめ（中間レポート実施）
- 【第9回】 障がい者・障がい児福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第10回】 障がい者・障がい児福祉に関連する具体的な実践について
- 【第11回】 高齢者福祉関連の制度
- 【第12回】 介護保険法
- 【第13回】 高齢者福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第14回】 高齢者福祉に関連する具体的な実践について
- 【第15回】 権利擁護と成年後見制度

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
- 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。1.0時間
- 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。2.0時間
- 第2回
- 【事前】 社会福祉に関連する記事やニュースなどを視聴する。1.5時間
- 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第3回
- 【事前】 前回のノートを復習し「貧困」について調べる。1.5時間
- 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第4回
- 【事前】 自身の地域の児童の問題について調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第5回
- 【事前】 自身の地域の保育所・幼稚園・こども園について設置数や概要を調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第6回
- 【事前】 児童福祉に関連するサービスを調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第7回
- 【事前】 自身の地域の障がい者・障がい児の問題について調べておく。1.5時間
- 【事後】 「障がい者・障がい児」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第8回
- 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。1.5時間

【事後】 第9回	第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 2.5時間
【事前】 【事後】 第10回	自身の地域の障がい者・障がい児施設について設置数や概要を調べておく。1.5時間 「障がい者・障がい児」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第11回	障がい者・障がい児福祉に関連するサービスを調べておく。1.5時間 「障がい者・障がい児福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第12回	自身の地域の高齢者の問題について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第13回	介護保険法について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第14回	自身の地域の介護問題について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第15回	自身の地域の高齢者施設について設置数や概要を調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】	「社会福祉協議会」の概要について自分なりに調べておく。1.5時間 「権利擁護、成年後見制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由（公欠等）が無い場合の未提出は評価しない。（正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする）
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性（文章量）などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学修した内容についてレポートを課す(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず適宜プリント(資料)を配布する。
参考書	現代社会福祉要説/松井圭三・今井慶宗編著/ふくろう出版/2500+税/ISBN978-4-86186-806-1
履修条件・他の科目との関連	・授業内で配布した資料を用い各自がしっかりと自身の講義ノートを作成することが求められます。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13067501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	健康情報処理演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	石川 高行				
シラバス執筆(主)	石川 高行				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

統計処理は、コンピュータが扱えるだけでそれなりの処理結果が得られるように見られるが、表面的にしか理解していないと、筋違いの処理をして全く役に立たない結果を振り回すことになる。そのため、統計学を学ぶ際は、その本質を理解することと、コンピュータなどを使って実際に統計処理できる技能を身につけることの、2点が重要となる。

教科書は独学できるほど分かりやすいものを採用したので、これを読んだ上で、「こういったデータはどういう統計処理をするとよいか」が判断できることを目指す。

更には、大量のデータを元に意思決定する人工知能のうち比較的簡単な手法を取り上げ、実践する。

到達目標

1. 標準偏差が計算できる
2. 偏差値が計算できる
3. 簡単な検定ができる
4. 既に存在する情報について、どのような統計処理をするとよいか、判断できる
5. パソコンを日常的に利用するにあたり知っておくほうが良いことを説明できる
6. 人工知能の手法について簡易な説明ができる
7. 分析結果について文章で説明できる

授業計画

1. 授業案内
2. MS-Windows の日常的な活用
3. MS-Excel の基本操作
4. 度数分布表
5. 平均値
6. 標準偏差
7. 基準化と基準値
8. 偏差値
9. 正規分布
10. 各種分布、他
11. 相関係数
12. 検定
13. 手作業と大量試行
14. モンテカルロ法
15. 実際のデータの扱い、分析結果を含めたレポートの作成、全体のまとめ

進捗によって各回の内容が多少前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

標準的な学生であれば復習・作業を含めて90時間で終了できる分量を想定している。予習よりも復習が大切であるが、自動採点機能を活かして予習し授業進度よりも先に進んでも問題ない。

一部、授業の前日までにはやっておくべき作業があり、これは授業内に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Moodle における自動採点機能をほぼ全面的に利用する。自分自身の力で正解が導けるまで何度でも挑戦できるので、分かるまで頑張ること。

人工知能に関わる単元は難易度が少々上がるため、不明な点は授業中の質問時間に質問するよう、準備しておくこと。

授業時間外に教員へ質問する際は、e-mail にパソコンの画面を貼り付けて科目担当教員へ送ること。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の通り、通常課題と最終課題合わせて 100% で評価するが、それぞれの課題には締切が設定されているため、本来の授業日を大きく過ぎてから課題に取り組もうとしても取り組めないものがある。課題の出来は基本的に Moodle 上で得点として確認することができる

教室に来ていても授業に参加しているとは言えない取り組み方をしている場合は原則として減点対象となる。毎

回の授業で示される到達目標に達するまで課題に集中しているかどうかによる。

授業不参加が5回を超えると K 評価とする。ただし公欠・出席停止・やむを得ない欠席については証明画像を提出することで考慮の対象となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	自動採点課題 (90)	1, 2, 3, 7
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	10	1, 2, 3, 7
その他	0	成績に含めない課題 (0)	5, 6

テキスト	高橋 信 著『マンガでわかる統計学』(オーム社, 2004年, ISBN:978-4-274-06570-5, 税別2000円) https://www.ohmsha.co.jp/book/9784274065705/
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	Kindle Unlimited で読める書籍について、授業中に適宜紹介する。
-----	-----------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>授業時間外に科目担当教員とやりとりする際には e-mail を使うため、普段から e-mail を1日1回は読んでおくこと。また Universal Passport も1日1回はログインして内容を確認すること。</p> <p>e-mail で質問する際は、自分が困っている場면을写真に撮るかスクリーンショットに撮って e-mail に添付すること。</p> <p>一部、携帯電話だけでも取り組める課題があるが、全ての課題に取り組むには MS-Excel が必須である。授業は MS-Windows の PC を持参していることを前提に進めるが、MacOS でも殆どの課題に取り組むことが可能である。ただし MacOS の操作などに関しては指導しないので、MacOS を利用する場合は操作などは自分で調べる。</p> <p>MS-Excel 上の簡単な関数や絶対指定・相対指定については、自分自身で習熟しておくこと。「デジタル・リテラシー」関係の科目を履修済みであることが望ましいが、必要条件ではない。</p> <p>マウスを所持していることを前提に授業を進める。マウスなしでの受講はかなり困難である。</p> <p>授業に欠席した回も、課題は定められた期限までに提出する必要がある。入院などで長期にわたり課題に取り組むことができなくなった場合は教員へ連絡すること。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13063201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	ライフサイクルと食生活 [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人が誕生してから死に至るまでのライフサイクル、各ライフステージごとの身体的特性および栄養所要量について理解するとともに、栄養に関する基礎的知識のもと、各ライフステージに応じた適切な食生活のあり方について理解する。また、食生活上の問題について考える。自身の食生活を中心とした生活習慣をチェックし、生涯健康を意識した適切な生活習慣を身につけることを目標とする。

到達目標

1. 栄養の基礎的な知識を説明することができる。
2. ライフサイクルに応じた食生活の特徴およびポイントを説明することができる。
3. 嚥下障害時や特殊環境（アスリート他）時の食生活の特徴およびポイントを説明することができる。
4. 自身のライフサイクルおよび生活状況に応じた食生活を計画し実践につなげることができる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。①リアルタイム型の遠隔授業(その授業時間にZoom等で参加する方法)と、②講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく方法 両方の方法で実施する予定です。
①②どちらの方法で講義を実施するかはGoogleクラスルームで事前に連絡するので確認すること。

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1 自身の人生計画 | 自身のライフサイクルを振り返り、今後の人生計画をたてる。 |
| 2 日本人の死因 | 厚生労働省の統計データより日本人の死因を読み解く |
| 3 日本人の食事とその背景 | 日本の食事を数値で知る |
| 4 妊産婦の食事 | 妊産婦の食事について学ぶ |
| 5 新生児、乳児の成長と栄養 | 新生児の食と成長について学ぶ |
| 6 乳児期母乳栄養 | 各時期の身体の特徴と栄養について学ぶ |
| 7 離乳食 | 各時期の身体の特徴と栄養について学ぶ |
| 8 学童期 | 各時期の身体の特徴と栄養について学ぶ |
| 9 思春期 | 各時期の身体の特徴と栄養について学ぶ |
| 10 青年期 | 各時期の身体の特徴と栄養について学ぶ |
| 11 思春期の食生活 | 思春期に気を付けるべき食のポイントについて学ぶ |
| 12 思春期～壮年期 | 各ライフサイクル時の体の変化と生活習慣病について学ぶ |
| 13 老年期 | 老年期、終末までの食について学ぶ |
| 14 スポーツ栄養と特殊環境時の栄養 | スポーツ栄養と特殊環境栄養の概要について学ぶ |
| 15 ライフサイクルと食生活のまとめ、確認オンラインテストの実施 | 学んできたことを整理する。 |
| 16 課題提出；ライフサイクルで学んだことについて実生活でどのように活かすかについてレポートにまとめGoogleClassroomに提出する。 | |

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容の復習と、授業ノートの整理を行うこと。授業時に提示された課題について（課題の作成、発表準備のための資料整理等）、毎回1.5時間程度の事前学習および2.5時間程度の事後学習が必要。毎回につき 1.5 時間ほどの事前学習および 2.5 時間ほどの事後学習が必要である。

【第1回】

- ①事前学修課題：シラバスを熟読する。
- ②事後学修課題：ライフサイクルに沿った自身の人生計画をたてる。

【第2回】

- ①事前学修課題：日本人の死因について各省庁の統計データを検索する。
- ②事後学修課題：厚生労働省の統計データより日本人の死因についてまとめる。

【第3回】

- ①事前学修課題：厚生労働省のHPから国民健康・栄養調査報告を検索し、閲覧する。
- ②事後学修課題：日本人の栄養摂取状況について気づいたことをまとめる。

【第4回】

- ①事前学修課題：教科書第8章を読む。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第5回】

- ①事前学修課題：教科書第9章第1節を読む。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第6回】

- ①事前学修課題：教科書第9章第2節を読む。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第7回】

- ①事前学修課題：教科書第9章第3節～第10章を読む。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第8回】

- ①事前学修課題：教科書第11章第1節を読む。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第9回】

- ①事前学修課題：教科書第11章第2～4節を読む。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第10回】

- ①事前学修課題：青年期の栄養について調べる。
- ②事後学修課題：講義資料を基に講義内容を復習する。

【第11回】

- ①事前学修課題：自身の食生活の記録をとる。
- ②事後学修課題：自身の食生活について改善点について考察する。

【第12回】

- ①事前学修課題：青年期から壮年期の健康について情報を集める。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第13回】

- ①事前学修課題：壮年期、老年期の身体の変化、介護食について調べる。
- ②事後学修課題：配布したプリントをもとに、壮年期、老年期の食生活の留意点についてまとめる。

【第14回】

- ①事前学修課題：スポーツ栄養について調べる。
- ②事後学修課題：講義内容を復習する。

【第15回】

- ①事前学修課題：ライフサイクルと食生活について学んだことをいかし、自身の食生活を見直す。
- ②事後学修課題：自身の食生活の改善点等についてレポートにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

各課題に関して適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

本講義の評価には通常授業時の取り組み態度等（課題点には遠隔授業時での課題提出状況等）に加え、授業内での確認テスト、および期末レポートにより評価されます。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業での取り組み(30) 第15回目確認オンラインテスト(50)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート課題(20)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	<p>子どもの食と栄養/水上由紀他編著 谷貝田公昭他監修/一藝社/2000/9784863591356 (注意:2023年3月より販売中止のため2024年度は購入不可能となります。2023年度以前の1年次開講コア科目「栄養の基礎」で使用した教科書と同じ書籍のため、お持ちの教科書を確認し使用してください。栄養の基礎を受講されていない、または教科書を購入されていない方のみ、下記に示す新版の教科書を購入してください。)</p> <p>健やかな成長を育む 令和版子どもの食と栄養/増田啓子編著/一藝社/2024/978-4-86359-279-7 (2024年3月新刊発行予定)</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業内で紹介する
-----	----------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ◎コア科目「栄養の基礎」で履修した内容を復習しておくこと。 ◎教科書は1年次開講コア科目「栄養の基礎」で使用したものと同じである。2023年度の栄養の基礎を受講されていない又は教科書を購入されていない方は新刊の教科書を購入してください。 ◎第1回目に内容、レポート等の詳細を説明するので、受講希望者は必ず出席すること。 ◎提出物は期限厳守とする。正当な理由なしの提出物未提出の場合は期限を過ぎでの提出は一切認めない。 ◎遅刻および早退あわせて3回を欠席1回とみなす。30分以上の遅刻および早退は、欠席1回と同等とみなす。授業中の私語(ミュート機能ON)を慎む。 ◎講義を欠席した際、講義に使用した資料およびプリント等はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示する場合があります。その際は必ず確認し、提出が必要な課題は期日までに提出すること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13062101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	健康と環境 [対面]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人間が健康を維持して幸せに暮らし続けるためには、生活をとりまく様々な環境を適切に整えることが大切です。この講義では、環境に関する最新の自然科学的知識を身につけるために「環境が人間に及ぼす影響」と「人間が環境に及ぼす影響」について具体的な事例をあげながら説明します。特に、講義を通して、地球規模で大きな問題となっている地球温暖化のメカニズム、軽減策や再生エネルギーの利用などを詳述します。授業を通じて、人間を取り巻く環境の問題点について情報を集め、理解し、考察して将来健康に暮らすために欠かせない基盤的知識とスキルを身につけます。

到達目標

- 1) 地球規模で進行している地球温暖化や環境の劣化が人間の健康および影響について、科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。
- 2) 地球規模で問題化している人口増加と食料危機、水の不足、エネルギーと資源の枯渇などについて、科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。
- 3) 地球の長い歴史のなかで繰り返されてきた生物の絶滅と産業革命がはじまってから急激に進行している生物の絶滅について、科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。
- 4) 将来、健康に暮らし続けるために欠かすことができない環境問題についての知識を身に付けて、それに対応する様々なスキルを身につけて的確かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。

授業計画

- 第1回 講義のオリエンテーション：人間の健康と環境に関するイントロダクション。
- 第2回 気候変動と地球温暖化（1）：地球の長い歴史のなかで繰り返されてきた機構変動について解説し、地球温暖化のメカニズムについて説明します。
- 第3回 気候変動と地球温暖化（2）：地球温暖化の軽減策や再生エネルギーの利用について説明します。
- 第4回 気候変動と地球温暖化（3）：地球規模での取り組み（気候変動枠組条約・締約国会議・Conference of the Parties: COP）などについて説明します。
- 第5回 大気や水の汚染：地球規模で進行している環境汚染について説明し、それが人間におよぼす影響について考察します。
- 第6回 生物の絶滅（1）：地球の長い歴史のなかで繰り返されてきた生物の絶滅について解説します。
- 第7回 生物の絶滅（2）：産業革命がはじまって以降の生物の絶滅について解説し、それが人間におよぼす影響について考察します。
- 第8回 前半のまとめと復習（中試験・レポート試験）
- 第9回 食料危機（1）：人間が発明した農業の歴史とそれによってもたらされた人口増加について説明します。
- 第10回 食料危機（2）：20世紀以降の爆発的人口増加と食糧生産の増加との関係について説明します。
- 第11回 食料危機（3）：食料を増産する方法とそれを阻害する要因について説明し、食料供給の未来について考察します。
- 第12回 水の利用と砂漠化：地球規模で進行している水不足について説明し、それが人間におよぼす影響について考察します。
- 第13回 エネルギーと資源の枯渇：地球規模で進行しているエネルギーと資源の枯渇について説明し、それが人間におよぼす影響について考察します。
- 第14回 防災の科学：人間が経験してきた災害の歴史と対策について説明します。
- 第15回 後半のまとめと復習
- 第16回 期末試験（レポート試験）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は基本的には対面の講義形式（時にオンデマンド）でおこなうので受動的学習となり、アクティブラーニングの要素を含みませんが、事前に積極的に教科書、参考書の講読やオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfの精読、インターネット検索などによる基礎的知識を身につけたうえで受講することなどが重要です（1. 5時間の事前学習）。事後に講義ノートを整理しながら復習すること、および受講レポートの作成やレポート試験に解答することなどが必須です（2. 5時間の事後学習）

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法
試験などを実施する場合を除いて、授業毎に「講義の概要」と「講義をうけて新たに分かったことや自分で考えたこと、質問したかったことなど」などを記述した受講レポートを実施します。質問があった場合には適時講義中に説明します。「前半のまとめと復習」において実施する中試験や期末試験などを介して自己評価と復習を即します。

成績評価の方法・基準(方針)

下記のように、受講の平常点(受講レポートの提出)および授業内試験としてレポート形式で行う小試験と中試験、ならびに期末試験によって成績を総合的に評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内試験として、小試験と中試験としてレポート試験を行います。小試験は適時に実施します。「前半のまとめと復習」と「後半のまとめと復習」の際に中試験を実施します(教員が提示した課題に対するレポートおよび前半の講義の取りまとめ):30点	1, 2
授業外での評価	40	受講毎の平常点として受講レポートの提出を実施します(受講後に提出する受講レポートの内容を評価します。ただし、小試験・中試験を行う場合には受講レポートの提出を求めないことがあります。):40点	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験を終講後に実施します。教員が提示する課題に対するレポートの内容を評価します:30点	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「文系のための環境科学入門新版」・藤倉良ら著・有斐閣・ISBN-13:978-4641174238。別途、オンラインを通じて授業毎に講義用のパワーポイントのpdfを配布します。
参考書	「トコトンやさしい環境汚染の本」・大岩敏男ら著・日刊工業新聞社・ISBN-13:978-4526073007 「健康と環境の科学:人類の明るい未来を目指して」・三浦悌ら著・南山堂・ISBN978-4-525-61101-9 上記の他に参考資料などを必要に応じて授業の中で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	テキストと参考書およびオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfなどを用いて予習・復習を行って受講してください。講義に際しては、各自がしっかりと自分自身の講義ノートを作成することが求められます。 ・状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。 ・受講レポート、授業内試験(中試験・レポート試験)、レポート形式の定期試験などは締切期限までに必ず提出してください。提出が遅れた場合は評価しません。

授業コード	13020501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	健康産業論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「健康」は人類の永遠のテーマといっても過言ではない。この授業では、その健康を取り巻く業界環境やビジネスの現状、健康市場の構造などについて解説する。また、事例研究を通して健康関連企業の実態に迫ることにより、成長産業である健康業界や健康ビジネスをより深く理解することを目的とする。

到達目標

1. 健康ビジネス発展の背景について説明することができる。
2. 健康ビジネス・業界の仕組みと特徴を説明することができる。
3. 健康ビジネスを展開する上でのポイントを説明することができる。
4. 事例研究を通して、情報収集能力やプレゼンテーションスキルを高める。

授業計画

この授業は対面で行う。

- 【第1回】テーマ：オリエンテーション
内容：担当者の紹介、履修上の注意点、資格の紹介など
- 【第2回】テーマ：健康ビジネス発展の背景
内容：新制度で生まれるビジネスチャンスについて学ぶ。
- 【第3回】テーマ：健康ビジネス・業界の仕組みと特徴①
内容：機器や健康グッズの進化について学ぶ。
- 【第4回】テーマ：健康ビジネス・業界の仕組みと特徴②
内容：ヨガビジネス、フィットネス業界等について学ぶ。
- 【第5回】テーマ：健康ビジネス・業界の仕組みと特徴③
内容：接骨院、整骨院、あはきについて学ぶ。
- 【第6回】テーマ：健康ビジネス・業界の仕組みと特徴④
内容：健康食品業界について学ぶ。
- 【第7回】テーマ：健康ビジネス・業界の仕組みと特徴⑤
内容：ウォーキングについて学ぶ。
- 【第8回】テーマ：健康ビジネス・業界の仕組みと特徴⑥
内容：メンタルヘルスケアについて学ぶ。
- 【第9回】テーマ：健康ビジネスを展開する上でのポイント①
内容：健康食品ビジネスの場合について学ぶ。
- 【第10回】テーマ：健康ビジネスを展開する上でのポイント②
内容：リラクゼーションビジネスの場合について学ぶ。
- 【第11回】テーマ：健康ビジネスを展開する上でのポイント③
内容：顧客満足経営の重要性について学ぶ。
- 【第12回】テーマ：事例研究①
内容：情報収集とまとめ
- 【第13回】テーマ：事例研究②
内容：プレゼンテーション①
- 【第14回】テーマ：事例研究③
内容：プレゼンテーション②
- 【第15回】テーマ：授業内容の振り返り
内容：総まとめを行う

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】事前学習課題：シラバスを熟読する。1時間
事後学習課題：講義で紹介した資格について情報収集をする。1.5時間
- 【第2回】事前学習課題：健康ビジネス発展の背景について調べる。1.5時間
事後学習課題：新制度下でのビジネスチャンスについてまとめる。2時間
- 【第3回】事前学習課題：機器や健康グッズにどのようなものがあるか調べる。1.5時間
事後学習課題：機器や健康グッズの進化についてまとめる。2時間
- 【第4回】事前学習課題：ヨガビジネスやフィットネス業界の事例を調べる。1.5時間
事後学習課題：ヨガビジネスやフィットネス業界の現状についてまとめる。2時間
- 【第5回】事前学習課題：接骨院、整骨院、あはきの違いを調べる。1.5時間
事後学習課題：接骨院、整骨院、あはきの現状についてまとめる。2時間
- 【第6回】事前学習課題：健康食品にどのようなものがあるか調べる。1.5時間
事後学習課題：健康食品業界の現状についてまとめる。2.5時間
- 【第7回】事前学習課題：ウォーキング人気について調べる。1.5時間
事後学習課題：ウォーキング関連市場についてまとめる。2時間

【第8回】	事前学習課題：メンタルヘルスケアの事例について調べる。1.5時間 事後学習課題：メンタルヘルスケアの現状についてまとめる。2.5時間
【第9回】	事前学習課題：健康食品ビジネスにおいて重要な点を調べる。1.5時間 事後学習課題：健康食品ビジネスを展開する上でのポイントをまとめる。2.5時間
【第10回】	事前学習課題：リラクゼーションビジネスにおいて重要な点を調べる。1.5時間 事後学習課題：リラクゼーションビジネスを展開する上でのポイントをまとめる。2.5時間
【第11回】	事前学習課題：顧客満足について調べる。1.5時間 事後学習課題：リラクゼーションビジネスと顧客満足の関係についてまとめる。2.5時間
【第12回】	事前学習課題：興味のある企業を選定し情報収集をする。2.5時間 事後学習課題：収集した情報を整理する。3時間
【第13回】	事前学習課題：選定した企業の情報収集を広げる。2.5時間 事後学習課題：収集した情報をまとめる。3時間
【第14回】	事前学習課題：プレゼンテーションの準備をする。3時間 事後隔週課題：発表内容に加筆・修正を加え、完成度を上げる。2時間
【第15回】	事前学習課題：健康業界・健康ビジネスの俯瞰図を書いてみる。2時間 事後学習課題：成長産業である健康業界、健康ビジネスを総合的に理解し、説明できるようにする。2時間

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に提出された課題の回答内容を取りまとめ、次回の授業の最初にコメントの形でフィードバックする。
事例研究の場合は、適宜、コメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回、授業の中で課題を課すことによって、授業内容の理解度を評価（5点満点×15回＝75点満点）する。
また、定期試験に代わるレポートを課すことによって、目標への到達度を評価（25点満点）する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業内容の理解度を評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	目標への到達度を評価する。	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	使用しない。 適宜、資料を配信する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	人間健康科学科において数少ないビジネス系の科目であるため、履修を奨励する。 5回以上欠席をすると単位認定ができない可能性がある。 状況により、講義内容を一部変更することがある。

授業コード	13100101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	健康管理論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人や生活について理解を深めると共に、社会や環境が人の健康をどう規定し左右するか、あるいは人の健康を保持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会や環境と健康との関わりについて理解することができるように説明する。

到達目標

1. 健康の概念、現状について理解し、説明できる。
2. 健康を阻害する疾病について理解し、説明できる
3. 健康管理について理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 健康の概念 —健康とは何か?—
- 【第2回】 健康の現状 —人口、平均寿命、出生・死亡の状況など—
- 【第3回】 健康に影響する生活要因 —生活習慣病、食生活—
- 【第4回】 健康に影響する生活要因 —身体活動、ストレス、喫煙・飲酒—
- 【第5回】 健康を阻害する疾病の予防 —疾病予防—
- 【第6回】 健康を阻害する疾病の予防 —生活習慣病予防、感染症予防—
- 【第7回】 第1回～第6回まとめ
- 【第8回】 健康作りの施策 —健康づくり運動、法的対応—
- 【第9回】 健康作りの施策 —組織と従事者—
- 【第10回】 健康管理の進め方 —健康管理の考え方と進め方—
- 【第11回】 健康管理の進め方 —健康教育・相談・審査—
- 【第12回】 健康管理の進め方 —健康管理の実際—
- 【第13回】 EBMに基づく健康管理
- 【第14回】 健康情報
- 【第15回】 第8回～第14回まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと。
わからないところは放置せず、必ず質問すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料を配布する。

参考書 「改訂 健康管理論」 苫米地孝之助 監修 建帛社 ISBN:978-4-7679-0496-2 定価2,310円(税込)

履修条件・他の科目との関連 配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。

授業コード	13016001	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	運動生理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

生理学とは、生きることの理（ことわり）である。すなわち身体が勝手に反応する原理を学ぶことに繋がる。「運動と身体」について学ぶ最も基本的な学問分野であることから、身体活動や運動、更にはスポーツ実施時の一過性生体反応や、継続的トレーニングによる身体機能の適応や変化について学修する。担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「運動生理学」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する。

到達目標

1. 筋線維の収縮特性および筋収縮のエネルギー供給機構を理解する
2. 筋の収縮特性と筋力との関係を理解し、トレーニングによる筋力増加を理解する
3. 最大酸素摂取量及び無酸素性作業閾値を理解する

授業計画

- 第 1回；ガイダンス
授業の内容・進め方・評価方法の概説
- 第 2回；運動の発現
脳神経系の分類／不随運動と随意運動／運動単位と力の発揮
- 第 3回；骨格筋収縮の神経系による収縮と仕組みおよびエネルギー供給機構
骨格筋の構造・メカニズム・収縮のためのエネルギー
- 第 4回；筋の収縮様式と筋力との関係
赤筋と白筋、遅筋と速筋／筋線維タイプの分類方法／タイプ I 線維とタイプ II 線維
SO線維、FOG線維、FG線維
- 第 5回；トレーニングによる筋力の増加
短距離選手とマラソン選手の筋線維／筋線維タイプの決定
筋収縮の様式と筋力／筋肥大トレーニング
- 第 6回；運動時の呼吸循環系の役割①
呼吸器の働きと構造／血液循環経路／心臓の働きと構造／血管の役割と構造
- 第 7回；運動時の呼吸循環系の役割②
運動時の呼吸の変化・心拍数の変化・1回拍出量の変化・心拍出量の変化・血圧の変化
- 第 8回；最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値①
無酸素性閾値／最大酸素摂取量／酸素借と酸素負債
- 第 9回；最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値②
持久的トレーニングと呼吸系・心臓・血管の適応
- 第10回；運動に対する血液・体液が果たす役割
体液の分類と役割／血液における物質運搬／血液による免疫作用
- 第11回；体力・基礎的動作の発達
有酸素性体力・筋力・基礎的動作スキルの発達
- 第12回；加齢と体力の発達
成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下
- 第13回；体力に影響を及ぼす先天的要因と後天的要因
体力に影響を及ぼす先天的要因（遺伝）と後天的要因（運動実践の効果）
- 第14回；運動と生活習慣病
生活習慣病とは／生活習慣病の特徴／運動処方の実践
- 第15回；総括とサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要

主体的な準備学習（予習・復習）が求められる

各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	定期試験に代わるレポート等	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	配布資料
------	------

参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト実践編 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト理論編
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	運動処方論・生理学・バイオメカニクスで学んだ知識を実演を通して修得する 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13008401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	バイオメカニクス [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤高 紘平				
シラバス執筆(主)	藤高 紘平				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

バイオメカニクスの理解は運動機能の向上やハイパフォーマンスの発揮、無理のない動きや正確な動作を理解する上で重要であり、スポーツ傷害の発生要因や予防方法を考察する上でも必要不可欠な学問である。本講義ではバイオメカニクスを臨床的かつ実践的な立場から捉え、バイオメカニクスの知識に基づいた各種の運動プログラムの作成が出来るよう授業展開していく。

到達目標

1. バイオメカニクスの基本的概念について理解する。
2. 効率的な身体運動やスポーツ動作、スポーツ傷害（外傷・障害）の発生要因を考える際の基礎知識を理解する。
3. バイオメカニクスの知識を応用した、安全かつ効率的な運動プログラムを作成する。

授業計画

- 第1回 授業オリエンテーション バイオメカニクスについて、解剖学および機能解剖学の確認
- 第2回 バイオメカニクスの基礎知識1 バイオメカニクスにおける力学的基礎
- 第3回 バイオメカニクスの基礎知識2 力学的エネルギー
- 第4回 足関節の機能解剖学とバイオメカニクス 足関節の局所解剖学と動きのメカニズム
- 第5回 膝関節の機能解剖学とバイオメカニクス 膝靭帯損傷のバイオメカニクスと予防対策
- 第6回 股関節・骨盤周囲の機能解剖学とバイオメカニクス キック動作のバイオメカニクス
- 第7回 下肢運動連鎖 下肢運動におけるバイオメカニクスの応用（グループワーク）
- 第8回 体幹部の機能解剖学とバイオメカニクス1 脊柱（頸椎・胸椎・腰椎）及び胸郭の機能とバイオメカニクス
- 第9回 体幹部の機能解剖学とバイオメカニクス2 「腰痛」に対するバイオメカニクスの考察
- 第10回 上肢帯の機能解剖とバイオメカニクス -肩関節複合体- 投球動作のバイオメカニクス
- 第11回 上肢帯の機能解剖とバイオメカニクス -肘関節及び前腕部- グリップ動作などに関するバイオメカニクス
- 第12回 パフォーマンス向上のためのバイオメカニクスの応用
- 第13回 スポーツ傷害予防のためのバイオメカニクスの応用（グループワーク）
- 第14回 レジスタンストレーニングとバイオメカニクスの関係 バイオメカニクスの応用によるレジスタンストレーニング
- 第15回 スポーツ現場におけるバイオメカニクスとは バイオメカニクスの臨床応用と限界
授業まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に対する進捗に合わせて適宜、復習や予習を設ける。

課題に対するフィードバックの方法

授業開始前や授業後に適宜、フィードバックを行う。
Google ClassroomやGmailにてフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内態度（取り組む姿勢、聴講の態度、発言内容など）にて成績評価を行い、定期試験および授業最終レポートにて成績評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	本授業における取り組む姿勢、聴講の態度、発言内容を評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	30	本授業内容やグループワークからレポート課題を実施する。	1, 2, 3
定期試験	30	本授業の内容から定期試験を作成し実施する。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 適宜授業内にプリントを配布する。
参考書	『スポーツ技術のバイオメカニクス』植屋清見ほか ブックハウス HD,7,000 円＋税 ,ISBN978 4 938335 69 4 『健康運動実践指導者養成用テキスト』公益財団法人健康・体力づくり事業財団 南江堂
履修条件・他の科目との関連	大阪国際大学履修の手引き2024および学科オリエンテーションで定められている事項は厳守すること。 授業内の悪行、レポートやテストにおける不正行為に対しては厳正に対処する。

授業コード	13050201	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	健康づくりの運動Ⅰ（ウォーキングとジョギング） [対面]				
シラバス執筆(全員)	野口 研治				
シラバス執筆(主)	野口 研治				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性別・年齢・体力の違いによって速度や生態反応が異なることを理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。

到達目標

1. 健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。
2. ウォーキングやジョギングをする際の各部位のストレッチング方法を理解する。
3. ウォーキング、ジョギングのプログラム作成ができる。

授業計画

1. オリエンテーション（概要などの説明）
2. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。
3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。
4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。
5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。
6. 安全に行うための運動前後、運動中の健康管理、注意事項（水分補給など）について喚起できる。
7. 至適運動強度の指標として脈拍の正しい測り方やRPEの利用について実践と指導ができる。
8. 起こり得る傷害を理解し、シューズや服装のアドバイスができる。
9. ウォーキングやジョギングに適したウォーミングアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。
10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。
11. ウォーキングプログラムの作成Ⅰ
12. ウォーキングプログラムの作成Ⅱ
13. ジョギングのプログラム作成Ⅰ
14. ジョギングのプログラム作成Ⅱ
15. まとめ

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習課題（各30分）

- 【第1回】学校体育における陸上競技の意義についてテキストを参考に事前準備をする。
- 【第2回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第3回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第4回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第5回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第6回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第7回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第8回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第9回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第10回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第11回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第12回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第13回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第14回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第15回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。

事後学習課題（各30分）

- 【第1回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第2回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第3回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第4回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第5回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第6回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第7回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第8回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第9回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第10回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第11回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第12回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第13回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。

- 【第14回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
 【第15回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の最後にまとめとして、学習の達成度を伝えて次回の課題とする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により総合的に判定し、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく5回以上の欠席は評価の対象とせずに「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) 最終レポート課題未提出者は評価の対象とせずに「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談を行うこと。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内レポート40 授業態度など20	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0	0	
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート課題40	1, 2, 3
その他	0	0	

テキスト	テキスト使用なし
------	----------

参考書	健康運動実践指導者養成用テキスト
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・運動特性、技術、方法、気づきについて毎時ノート等にまとめておくこと ・授業に適したシューズ、実技に適した服装で受講すること ・水分補給用の飲水ボトルを用意すること
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13050301	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	健康づくりの運動Ⅱ（エアロビックダンス） [対面]				
シラバス執筆(全員)	本山 彩乃				
シラバス執筆(主)	本山 彩乃				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

エアロビックダンスの一連の運動動作を実習するとともに、エアロビックダンスの特性と効果についての理解を深め、基本的な技術を学習する。

健康運動実践指導者の資格取得の人を対象とする。
そのため授業の中で、指導する体験を積み重ね、指導する能力を養うことも目的とする。

到達目標

- 1、エアロビックダンスの特徴を理解し、ステップと動きについて指導出来るようになる。
- 2、エアロビックダンスの技術を習得し、実践することが出来るようになる。
- 3、指導者として必要な技術を習得し、示範及び指導が出来るようになる。

授業計画

<1回目>

オリエンテーション・エアロビックダンスについて
・授業内容、評価方法とエアロビックスの背景と特徴

<2回目>

エアロビックダンスの基本
・リズムの取り方とエアロビックダンスの基本のステップを練習し習得する

<3回目>

エアロビックダンスの体験
・実際にエアロビックダンスを体験し動く

<4回目>

基本ステップの紹介と習得1
・基本のステップを理解し、正確に動けるようにする

<5回目>

基本ステップの紹介と習得2
・基本のステップを理解し、正確に動けるようにする

<6回目>

基本ステップと組み合わせる上肢の紹介と習得
・下肢と上肢を連携させた動きやバリエーションを増やす

<7回目>

指導方法
・エアロビックダンスの際の指導方法（キューイング）を理解し、タイミングの練習をする

<8回目>

指導方法
・動きと言葉を駆使し、さらに伝えやすいキューイングの練習をする

<9回目>

エアロビックダンスの指導
・エアロビックダンスの特性を理解し、グループに分かれ、キューイングを駆使しながら指導の練習を行う

<10回目>

エアロビックダンスの指導
・エアロビックダンスの特性・ステップ名と動きと特徴の最終確認

<11回目>

プログラムの構成と指導練習
・自分でプログラムを作成し、キューイング、動き、姿勢を確認しながら練習する

<12回目>

エアロビックダンスの体験
・再度エアロビックダンスを体験し、自分お指導に必要な部分を確認し、自分のプログラムに修正をかける

<13回目>

指導練習

- ・自分で作成したプログラムを指導者として練習し、より質の高いものを目指す

<14回目>

実技テスト

- ・自分で作成したプログラムを指導者として発表する

<15回目>

プレゼンテーション

- ・相互評価を行い、フィードバックをおこなう

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

<1～3回目>

- ・様々な音楽を聴いてリズムに慣れる
- ・音楽に合わせてカウントを取れるようにする

<4～6回目>

- ・ステップ名と動きの一致とステップの反復練習

<7～9回目>

- ・キューイングの反復練習

<10・11回目>

- ・エアロビックダンスの特徴を理解した上で、指導の反復練習

<12回目>

- ・自分のプログラムの修正とチェック

<13・14回目>

- ・自分のプログラムの反復練習

<15回目>

- ・資格取得のための必要事項をまとめる

課題に対するフィードバックの方法

動きに関するチェックは、毎回本人の希望があればチェックすることが可能
実技試験に対する評価は、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
3回以上の欠席は評価対象外とする
出欠確認が終わった時点で来ていないものは遅刻扱いとする
20分以上の遅刻は欠席扱いとする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	平常(20) 実技試験(40)	1, 2, 3
授業外での評価	10	提出物(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	理論課題(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	必要に応じてプリントしたものを配布
------	-------------------

参考書	必要に応じて授業内で紹介
-----	--------------

履修条件・他の科目との関連	健康運動実践指導者の資格取得を目的とした授業である 指導者を目指す者の態度・意欲で受講すること エアロビックダンスに適した服装・運動靴を着用する 外靴で室内に入った場合、室内シューズを忘れた場合は減点とする
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13050401	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	健康づくりの運動Ⅲ（エアロビックダンスと水泳・水中運動）〔対面〕				
シラバス執筆(全員)	本山 彩乃				
シラバス執筆(主)	本山 彩乃				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目では、エアロビックダンスおよび水泳・水中運動の基本動作を確実に習得するとともに、それぞれの運動の特性と効果について理解を深める。
また、高齢者の健康維持増進のための運動と指導についても学ぶ。
健康運動実践指導者資格の取得を目指す人や、運動指導者を目指す人を対象とする科目であるため、授業内で指導体験を積み重ね、指導能力の養成を行うことを目的とする。

到達目標

1. エアロビックダンスおよび水中運動の技術を習得し、実践できる
2. 指導者として必要な知識・技術を習得し、示範および指導が出来る
3. 体力測定が実施で、結果の解析とフィードバックが出来る

授業計画

【第1回】
エアロビックダンスのプログラム(ウォーミングアップとクールダウンを含む)について学ぶ

【第2回】
エアロビックダンスの基本 4 ステップの正しい動きとブレイクダウンを学ぶ

【第3回】
基本ステップを用いたプログラムの作成①

【第4回】
基本ステップを用いたプログラムの作成②

【第5回】
作成したプログラムの指導練習

【第6回】
エアロビックダンスのグループ指導を行い、体験する

【第7回】
高齢者の体力維持向上のための運動（介護予防の運動）①

【第8回】
高齢者の体力維持向上のための運動（介護予防の運動）②

【第9回】
高齢者への介護予防運動の指導体験

【第10回】
水中レジスタンストレーニングの基本動作と指導方法を学ぶ①

【第11回】
水中レジスタンストレーニングの基本動作と指導方法を学ぶ②水中運動のプログラム作成と集団指導を体験する

【第12回】
水中ウォーキングの基本動作と指導方法を学ぶ①

【第13回】
水中ウォーキングの基本動作と指導方法を学ぶ②

【第14回】
水中運動のプログラム作成と集団指導を体験する

【第15回】
水中運動の個別指導を行い、体験する

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

1. 授業1回あたり、あわせて3時間の事前事後学習を行うこと（授業15回で45時間）
2. 授業内容の理解を進めるために、次回授業までに自主練習を行っておくこと
3. 内容に関する質問や疑問は授業やGoogle ClassroomやOJUメールを利用して、積極的に行うこと

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートは、内容を確認後、次回授業内やGoogle Classroomを用いてフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

- 1、遅刻は20分以内とする
- 2、遅刻3回を1回の欠席として取り扱う

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取り組み、目標達成度	1, 2, 3
授業外での評価	10	授業期間内2回の課題レポート	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レジスタンストレーニングおよび有酸素運動を5分間で実践指導し、完成度を評価する。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	健康運動実践指導者用テキスト(健康・体力づくり事業財団/4,500) テキストは直接大学から財団に申し込む。 申込期間はUNIPAにて案内する。
------	--------------------------------------------------------------------------------

参考書	「新エアロビックダンスエクササイズの実技指導」日本フィットネス協会 購入は大学から一括して申し込む。申込期間はUNIPAにて案内する。
-----	------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	健康運動実践指導者・GFI資格取得希望者は、本科目を履修することが必要である。 無遅刻、無欠席につとめる事。 遅刻は授業開始20分以内とし、それ以降は欠席扱いとする。 遅刻3回は欠席1回として取り扱う。 運動に適したウェア及びシューズを着用すること。 水中運動に適した水着およびスイミングキャップを着用すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13050501	授業形態	実技	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	健康づくりの運動Ⅳ（レジスタンスエクササイズと水泳・水中運動） [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

レジスタンスエクササイズおよび水中水泳運動の一連の運動動作を学修するとともに、それぞれの運動における特性と効果についての理解を深め、基本的な技術を習得する
積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を養成する。適切な運動プログラムを構成する能力、自ら動きの見本を示せる実演能力、優れた指導能力を修得する
担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「健康づくりの運動」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する

到達目標

1. 運動プログラムを構成することができる
2. 動きの見本を示すことができる
3. 動きを指導、修正することができる
4. 運動における動機付けを行うことができる

授業計画

- 第 1回；ガイダンス
授業の内容・進め方・評価方法の概説
- 第 2回；レジスタンス運動の分類
等尺性・等張性・等速性収縮
- 第 3回；MAX（最大筋力）の測定
1RMテスト・最大下テスト
- 第 4回；マシントレーニング①
ウェイトスタック方式・油圧式・空気圧式・電磁式
- 第 5回；マシントレーニング②
動員される筋肉
- 第 6回；フリーウェイトトレーニング①
ツーフンズカール・サイドレイズ・ベントオーバーロウ
- 第 7回；フリーウェイトトレーニング②
ベンチプレス・ミリタリープレス・アップライトロウ
- 第 8回；自重や身近な用具を使ったトレーニング
ゴムバンド・チューブ・自体重・パートナーの力を利用
- 第 9回；指導練習（水中ウォーキングとレジスタンス運動）
- 第10回；指導練習（水中ウォーキングとレジスタンス運動）
- 第11回；指導練習（水中ウォーキングとレジスタンス運動）
- 第12回；指導練習（水中ウォーキングとレジスタンス運動）
- 第13回；指導練習（水中ウォーキングとレジスタンス運動）
- 第14回；サーキットトレーニング
サーキットウェイトトレーニング／スーパーサーキットウェイトトレーニング
- 第15回；トレーニング施設の管理運営・リスクマネジメント
総括とサマライズ

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

必要に応じて、担当教員より指示する
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
主体的な準備学習（予習・復習）が求められる
各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	配布資料		
------	------	--	--

参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト実践編 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト理論編		
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	スポーツ医学、バイオメカニクス、運動生理学等との関連がある 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外		
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13035201	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	運動処方論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

処方とは、治療のために患者に与える薬の名や分量などを医師が指示することであるが、運動不足病が社会問題となっている我が国においては、薬と同様に運動がこれらの疾病に有効であることが明らかとなった。生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性、年齢などの諸条件を考慮した安全かつ効果的な運動プログラムについて学修する。担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「運動処方論」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する。

到達目標

1. 健康増進のための運動効能と運動不足が健康に与える影響について理解する
2. 健康づくりのための運動プログラム作成のポイントを理解する
3. レジスタンスエクササイズの種類と運動強度の捉え方を理解し、安全性確保のための至適運動強度を推定せきる

授業計画

- 第1回；健康づくりのための身体活動指針
身体活動基準2013・アクティブガイド
- 第2回；健康づくりのためのトレーニングの原則
運動強度としての%V02max, トレーニング効果と脱トレーニング
- 第3回；健康づくりと運動プログラム作成の基礎
運動トレーニングの原則と運動プログラム作成の基礎
- 第4回；運動プログラムの実際
目標設定と効果の判定
- 第5回；有酸素性運動とその効果
有酸素性運動のプログラミング・有酸素性運動機器の選択と留意点
- 第6回；レジスタンス運動とその効果
安全性・効果・負荷設定・回数・頻度・種類
- 第7回；W-upとC-down
目的・効果・方法・構成・実際のプログラム
- 第8回；ストレッチング
ストレッチングの種類とその特性
- 第9回；陸上での運動や動作
ウォーキングとジョギングの特性・運動効果・速度とエネルギー消費量
- 第10回；エアロビックダンス
エアロビックダンスの特性・運動プログラム
- 第11回；水泳・水中運動
水泳・水中運動の力学
- 第12回；筋パワー・筋持久力向上のためのトレーニング
筋持久力とは何か、カー速度-パワーの関係
- 第13回；健常者と特殊な状況にある人の運動処方
妊婦・小児期・青年期・高齢者・環境的考察
- 第14回；他の臨床疾患患者の運動処方
入院患者のリハビリテーション・外来運動プログラム
- 第15回；総括とサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
主体的な準備学習（予習・復習）が求められる
各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	配布資料
参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 入門運動生理学第4版(杏林書院) 運動処方指針(American College of Sports Medicine)
履修条件・他の科目との関連	スポーツ医学、バイオメカニクス、運動生理学等との関連がある 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外

授業コード	13100401	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	健康運動指導演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

処方とは、治療のために患者に与える薬の名や分量などを医師が指示することであるが、運動不足病が社会問題となっている我が国においては、薬と同様に運動がこれらの疾病に有効であることが明らかとなった。生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性、年齢などの諸条件を考慮した安全かつ効果的な運動プログラムについて学修する。担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「運動処方論」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する。

到達目標

1. 健康増進のための運動効能と運動不足が健康に与える影響について理解する
2. 健康づくりのための運動プログラム作成のポイントを理解する
3. レジスタンスエクササイズの種類と運動強度の捉え方を理解し、安全性確保のための至適運動強度を推定せきる

授業計画

- 第1回；健康づくりのための身体活動指針
身体活動基準2013・アクティブガイド
- 第2回；健康づくりのためのトレーニングの原則
運動強度としての%V02max, トレーニング効果と脱トレーニング
- 第3回；健康づくりと運動プログラム作成の基礎
運動トレーニングの原則と運動プログラム作成の基礎
- 第4回；運動プログラムの実際
目標設定と効果の判定
- 第5回；有酸素性運動とその効果
有酸素性運動のプログラミング・有酸素性運動機器の選択と留意点
- 第6回；レジスタンス運動とその効果
安全性・効果・負荷設定・回数・頻度・種類
- 第7回；W-upとC-down
目的・効果・方法・構成・実際のプログラム
- 第8回；ストレッチング
ストレッチングの種類とその特性
- 第9回；陸上での運動や動作
ウォーキングとジョギングの特性・運動効果・速度とエネルギー消費量
- 第10回；エアロビックダンス
エアロビックダンスの特性・運動プログラム
- 第11回；水泳・水中運動
水泳・水中運動の力学
- 第12回；筋パワー・筋持久力向上のためのトレーニング
筋持久力とは何か、カー速度-パワーの関係
- 第13回；健常者と特殊な状況にある人の運動処方
妊婦・小児期・青年期・高齢者・環境的考察
- 第14回；他の臨床疾患患者の運動処方
入院患者のリハビリテーション・外来運動プログラム
- 第15回；総括とサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
主体的な準備学習（予習・復習）が求められる
各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	配布資料
参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 入門運動生理学第4版(杏林書院) 運動処方指針(American College of Sports Medicine)
履修条件・他の科目との関連	スポーツ医学、バイオメカニクス、運動生理学等との関連がある 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外

授業コード	13100601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	健康運動特講 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

公益財団法人健康・体力づくり事業財団が認定する医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて実践指導を行うことができる健康運動実践指導者資格試験に対応した講義を展開する
健康運動実践指導者は、令和4年1月現在18,865人(女性10,638人、男性8,227人)存在し、アスレティッククラブやフィットネスクラブ、さらには老人介護・保健・福祉施設等で運動による健康づくりを担っている。
この資格試験合格率は6割程度であり大変難易度の高いものとなっているため、対策講義を展開することで、合格率向上を目指す

到達目標

1. 自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるための知識を有する
2. 健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を有する
3. 健康実施中に発生しうる救急疾病や外科的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防ができる
4. 各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実際と評価について学び、それぞれの測定結果を身体活動・運動やトレーニングに応用できる

授業計画

- 第1回；ガイダンス
授業の内容・進め方・評価方法の概説
- 第2回；健康づくり施策概論
健康と健康増進の概念、歴史、生活習慣病変容の重要性
健康づくり施策の現状とその歴史的変遷
- 第3回；運動生理学1
運動の発現、不随運動、筋線維収縮特性、エネルギー供給機構
- 第4回；運動生理学2
筋力増加、呼吸循環系の役割、最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値、加齢と体力
- 第5回；機能解剖とバイオメカニクス
身体運動に関係する主な骨と筋と関節の名称、筋と腱の弾性エネルギー
- 第6回；栄養摂取と運動
食物の消化・吸収、身体活動・運動のエネルギー消費量、適切な減量計画、日本人の食事摂取基準、生活習慣病等の誘因となる食生活
- 第7回；体力測定と評価1
有酸素性および無酸素性体力の指標と測定方法、身体組成の測定原理および体力指標と測定方法
- 第8回；体力測定と評価2
新体力テストの各項目と体力要素との関連、体力測定結果の分析・評価・活用法
- 第9回；体力づくり運動プログラム
トレーニングの原則と効果、身体活動指針2013、心拍数の個人差、加齢による変化、エアロビックダンスのエネルギー供給機構
- 第10回；運動指導の心理的基礎
運動実践による社会・心理・環境的要因、個別指導における動機づけ・カウンセリング方法
- 第11回；健康づくり運動の実際1
W-upとC-downの目的・効果・重要性・方法・時間・構成
- 第12回；健康づくり運動の実際2
ストレッチング、ウォーキングとジョギング
- 第13回；運動障害と予防・救急処置1
運動開始前および運動中の自覚・他覚徴候、内科的な急性・慢性障害の概要とその予防法
- 第14回；運動障害と予防・救急処置2
肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物除去、慢性的整形外科的障害
- 第15回；総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
人間健康科学科で求められる運動・心理・栄養に関連する総合的な知識が求められるため、多岐にわたる知識修得に対し主体的な学習が求められる

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行う過去問題の回答状況(毎講義に実施)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト

参考書

履修条件・他の科目との関連 運動・心理・栄養関連講義で修得した知識を設問し対し回答することで深化させる
遅刻は3回で欠席1回とみなす
20分以上の遅刻は欠席
課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外

授業コード	13100201	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	トレーニング法 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

積極的な健康づくりを目的とした運動やスポーツを、安全にかつ効果的に実践指導するための科学的トレーニングを体得し、適切なプログラムを構成する能力や自ら動きの見本を示せる実演能力の向上を目指す
担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「スポーツトレーニング法」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する

到達目標

1. スポーツ選手や一般健康者を対象とした、パフォーマンス向上のための体力強化や形態の改善、障害予防、体調調整などを目的にトレーニングを行う知識と技能を修得する
2. 効果的に指導・運営する知識と技能を修得する
3. 自ら動きの見本を示せる知識と実演能力を修得する

授業計画

- 第 1回；ガイダンス
授業の内容・進め方・評価方法の概説
- 第 2回；トレーニング処方条件
FITT（頻度・強度・時間・種類）の原則
目標心拍数測定・最大酸素摂取量・消費カロリー計算
- 第 3回；健康づくりのためのトレーニングの基本原則
最大筋力測定・RM・RFD・筋の起始停止
- 第 4回；有酸素性トレーニングとその効果
プログラミングとプログラムの進行
- 第 5回；無酸素性トレーニングとその効果
プログラミングとプログラムの進行
- 第 6回；柔軟性トレーニングとその効果
スタティック・ダイナミック・PNF・バリスティック
- 第 7回；柔軟性トレーニングとその効果
PNF・バリスティック
- 第 8回；レジスタンス運動の負荷設定方法
目的に応じた負荷強度、反復回数
- 第 9回；体力測定の意義
レジスタンストレーニングの種類、頻度
- 第10回；体力測定の実際
レジスタンス（RM測定）の得点化による評価
- 第11回；体力測定の実際
新体力テストと得点化による評価
- 第12回；体力測定の実際
レジスタンス（フリーウエイト）の得点化による評価
- 第13回；体力測定の実際
自重負荷の得点化による評価
- 第14回；レジスタンストレーニング演習
- 第15回；総括及びサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
主体的な準備学習（予習・復習）が求められる
各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	配布資料
------	------

参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト実践編 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト理論編
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	運動処方論・生理学等で学んだ内容を深化させ科学的根拠に基づいたトレーニング手法を体得する 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13100301	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	トレーニング法Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

トレーニングを実施する対象につき、さまざまな角度から情報収集を行い現状を把握した上で、トレーニング目標を設定し実演する能力を養う
 また上記を達成するための効果的なトレーニングプログラムを作成する能力を養う
 更には科学的根拠に基づく正しい知識や情報について、実施者の特性やレベルに応じてわかりやすく説明する手法についても修得する
 担当教員が長年にわたり、プロスポーツクラブや地方自治体との協働において、育成年代の科学的トレーニング指導に従事してきた実務経験を元に、「スポーツトレーニング法」に関する理論を実践への応用を関連づけながら講義を展開する

到達目標

1. スポーツ選手を対象とした競技力向上のための体力強化や形態の改善、生害予防、体調調整などを目的としたトレーニングを行う知識と技能を修得する
2. 競技力向上トレーニングのメリットとデメリットを理解する
3. 効果的に指導・運営する知識と技能を修得する

授業計画

- 第 1回；ガイダンス（運動指導のための情報収集と活用）
 授業の内容・進め方・評価方法の概説
 第 2回；スポーツの人的資源（トレーニング指導者の役割）
 第 3回；筋力トレーニングの実際（フリーウエイト）
 第 4回；パワートレーニング
 第 5回；特殊なトレーニングシステム及びプログラム作成
 第 6回；筋力トレーニング及びプログラム作成（フリーウエイト）
 第 7回；筋力トレーニング及びプログラム作成（フリーウエイトⅡ）
 第 8回；パワートレーニング及びプログラム作成（クイックリフト）
 第 9回；パワートレーニング及びプログラム作成（クイックリフトⅡ）
 第10回；Stretch Shortning Cycle
 第11回；サーキットトレーニング
 第12回；Speed Agility Quicknessトレーニングおよびプログラム作成
 第13回；Speed Agility Quicknessトレーニングの実際
 第14回；実演及び演習トレーニング
 第15回；総括及びサマライズ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要

主体的な準備学習（予習・復習）が求められる

各回の講義項目および講義内容を確認し、教科書や参考書、授業内で配布するプリントを参考に準備学習（予習・復習）を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で行うサマライズシートへの要約	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	55	最終課題レポート	1, 2

その他	0		
テキスト	配布資料		
参考書	公益財団法人健康・体力づくり事業財団健康運動実践指導者養成用テキスト 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト実践編 日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者テキスト理論編		
履修条件・他の科目との関連	運動処方論・トレーニング法 I で学んだ知識と実演能力をより深化させる 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外		

授業コード	13047801	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	スポーツ医学Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉本 拓也				
シラバス執筆(主)	杉本 拓也				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現在、スポーツ整形外科クリニックで理学療法士として勤務している。その経験をもとに実務家教員として、将来健康運動指導士、健康運動実践指導者、スポーツ指導者をを目指す学生に必要な解剖学、生理学など基礎知識を学習するとともに、各種エクササイズが身体に与える影響やスポーツ外傷・障害の発生メカニズムとアスレティックリハビリテーション、競技力向上、健康増進に役立てるための方法を講義と実技を交えて説明する。

到達目標

1. スポーツ医学の意義を説明することができる
2. スポーツ外傷や障害に対するスポーツ医学的知識が習得できる
3. 生活習慣病などの各種疾病に対する対処法を説明できる

授業計画

第1回	健康とスポーツ医学の関係性	スポーツ医学の概要、健康の概念と歴史的流れ
第2回	スポーツ医学総論	スポーツ指導者とスポーツ医学
第3回	スポーツ医学の基礎知識1	スポーツ医学を理解する上で必要な機能解剖学・病理学
第4回	スポーツ医学の基礎知識2	エクササイズが身体へ与える影響
第5回	スポーツと健康管理	スポーツ医学と健康づくり施策
第6回	内科的および整形外科的メディカルチェックと運動基準・運動指針	
第7回	グループワーク準備	
第8回	グループワーク発表	
第9回	外科的スポーツ外傷・障害1	体幹のスポーツ外傷・障害
第10回	外科的スポーツ外傷・障害2	下肢のスポーツ外傷・障害
第11回	外科的スポーツ外傷・障害3	上肢のスポーツ外傷・障害
第12回	生活習慣病に対するスポーツ医学1	内科的疾患メタボリックシンドロームを中心に
第13回	生活習慣病に対するスポーツ医学2	整形外科的疾患ロコモティブシンドロームを中心に
第14回	内科的疾患に対する運動療法	運動療法の種類と効果
第15回	スポーツ医学とは	スポーツ指導者が備えるべきスポーツ医学

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回	事前学習課題：スポーツ医学の概要、健康の概念と歴史的流れについて調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第2回	事前学習課題：スポーツ指導者とスポーツ医学について調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第3回	事前学習課題：スポーツ医学を理解する上で必要な機能解剖学・病理学について調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第4回	事前学習課題：エクササイズが身体へ与える影響について調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第5回	事前学習課題：スポーツ医学と健康づくり施策について調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第6回	事前学習課題：内科的および整形外科的メディカルチェックと運動基準・運動指針について調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第7回	事前学習課題：外科的スポーツ外傷・障害について調べておく。 事後学習課題：グループ内でパワーポイント資料を作成する。
第8回	事前学習課題：プレゼンテーションの準備(練習)を行う。 事後学習課題：他グループの発表内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第9回	事前学習課題：体幹のスポーツ外傷・障害について調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。
第10回	事前学習課題：下肢のスポーツ外傷・障害について調べておく。 事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。

第11回

事前学習課題：上肢のスポーツ外傷・障害 について調べておく。

事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。

第12回

事前学習課題：内科的疾患メタボリックシンドロームについて調べておく。

事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。

第13回

事前学習課題：整形外科的疾患ロコモティブシンドロームについて調べておく。

事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。

第14回

事前学習課題：内科的疾患に対する運動療法の種類と効果について調べておく。

事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。

第15回

事前学習課題：スポーツ指導者が備えるべきスポーツ医学について調べておく。

事後学習課題：講義内容をまとめ、不明点については次回授業に質問できるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した発表や課題に対しては、本人の希望があれば翌週以降に評価を開示することが可能であり、確認テストについては採点后、希望者に内容を返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・総授業回数に対して3分の1以上欠席した場合は評価対象外とする場合がある。
- ・授業開始時刻より5分以上の遅刻、教員の許可なく途中退室した場合は減点対象とする。
- ・以下に示すとおり、授業期間中に実施されるレポート課題や確認テスト、および定期試験の結果に基づき総合的に判定する。
- ・総合判定で60点以上を対象に所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく定期試験を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	複数回の確認テストおよびグループワークで課された課題に対して内容を理解し論理的に考察した上で、適切にまとめられているか評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	10	グループワークのプレゼンテーション資料および発表内容(練習していたかどうか)にて評価する。	1, 2, 3
定期試験	80	全授業終了後に実施する試験にて評価する。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。適宜授業内にプリントを配布する。

参考書 『スポーツ指導者のためのスポーツ医学』 小出清一ほか
南江堂, 3,200円+税 ISBN978-4-524-524240334-0
『健康運動実践指導者養成用テキスト』公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 南江堂

履修条件・他の科目との関連 出席の不正については厳正に対処する。

授業コード	13047901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ医学Ⅱ [対面または遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	篠原 靖司、岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	篠原 靖司				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

生活習慣病（NCD）、特定健診・保健指導、介護予防について学修するとともに、運動による内科的障害や外科的損傷とその救急対応について理解を深める。
さらに、救急救護と外科的応急処置の基礎的知識を学修するだけでなく、心肺蘇生法、AED、RICE処置、テーピング等の取扱手法を身に付ける。

到達目標

- 生活習慣病（NCD）、特定健診・保健指導、介護予防について説明できる。
- 運動による内科的障害や外科的損傷に係る救急対応を説明できる。
- 救急救護と外科的応急処置の基礎的知識を、心肺蘇生法、AED、RICE処置、テーピングの場面に応用できる。

授業計画

第1回	生活習慣病（NCD）と特定健診・保健指導
第2回	介護予防と運動の重要性
第3回	健康診断と運動前のメディカルチェックの重要性
第4回	健診結果・安静時心電図の読み方（1）健常者の場合
第5回	健診結果・安静時心電図の読み方（2）心疾患等罹患患者等の場合
第6回	内科的障害とその予防（1）運動中の突然死、熱中症の病態と処置
第7回	内科的障害とその予防（2）貧血、オーバートレーニング
第8回	外科的損傷（頭部、頸部、上肢、体幹）とその予防 機能解剖、急性疾患、慢性疾患
第9回	外科的損傷（腰部、下肢）とその予防 機能解剖、急性疾患、慢性疾患
第10回	救急救護の基礎 心肺蘇生とAED
第11回	外科的応急処置の基礎 RICE処置とテーピング
第12回	救急処置の実際（1）心肺蘇生法
第13回	救急処置の実際（2）AEDの取扱い方
第14回	外科的応急処置の実際（1）RICE処置（実習）
第15回	外科的応急処置の実際（2）テーピングによる処置（実習）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
事前学修として関連する人体の機能と構造の部分を復習する、事後学修として課題を提出する、この両者を合わせて2時間を必要とします。
課題の内容は、講義に含まれていないので、講義内容を踏まえて自ら積極的に学修することが必要です。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題の評価については、希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

レポート課題の提出状況、その内容による総合評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート課題の内容	1, 2, 3
その他	90	レポート課題の提出状況、その内容	1, 2, 3

テキスト	なし
参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下). 財団法人健康・体力づくり事業財団

参考書	Reference Book. 公益財団法人日本スポーツ協会
履修条件・他の科目との関連	課題は自ら学ぶものであるため、積極的な学びを希望する者が履修してください。 本授業は健康運動実践指導者、健康運動指導士の養成も目的のひとつとしている。

授業コード	13031001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	野外活動論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 誠之				
シラバス執筆(主)	佐藤 誠之				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

野外で自然資源を生かしつつ行われている活動は、教育の補完的活動であることを解説しつつ、環境教育や冒険教育および価値教育の視点からその重要性について理解する。
また、自然の中での活動は青少年から高齢者、障がい者まで幅広く参加できることから、野外活動が生涯教育の一環としての役割も担っていることを理解する。特に、このような経験を通して自然と人間の関わり合いを学ぶ必要性およびリーダーシップの形成について解説するとともに、組織キャンプの形態、野外活動のプログラムおよび経営について理解する。特に様々な事例や映像を用いて安全管理やリスクマネジメントに関する理解を深めたり、映像や新聞記事等から社会問題について考える。現場で活躍する外部講師を招いて理解を深めることもある。

到達目標

1. 自らが安全で楽しい野外活動を行うという意識を持つことができる。
2. 野外活動のタイプや対象を理解する。
3. リスクマネジメントのスキルを身につける。
4. 野外活動のベネフィットを理解する。

授業計画

【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：授業の進め方や評価の説明、資格に関するガイダンス

【第2回】
テーマ：自然体験活動の意義
内容・方法：自然体験活動の目的や目標を理解する

【第3回】
テーマ：野外教育の効果
内容・方法：定義や分類や効果について理解する

【第4回】
テーマ：組織キャンプ
内容・方法：キャンプの変遷や自然体験活動の意義を理解する

【第5回】
テーマ：指導者の役割と責任
内容・方法：指導者として基本的な心構えや倫理観を理解する

【第6回】
テーマ：対象者の理解
内容・方法：対象者の特性や配慮事項を理解する

【第7回】
テーマ：青少年教育における体験活動
内容・方法：地域活性化や文化・資源を活用した体験の可能性を理解する

【第8回】
テーマ：プログラムの理解と企画・立案について
内容・方法：対象者の理解や地域資源を活用した企画を考える

【第9回】
テーマ：安全教育・防災教育について
内容・方法：基本的な安全管理を理解する

【第10回】
テーマ：安全教育・リスクマネジメント・KYTについて
内容・方法：応急処置やKYTについて理解する

【第11回】
テーマ：野外活動の技術とプログラム
内容・方法：キャンプギアにふれてみる

【第12回】
テーマ：野外活動の技術とプログラム
内容・方法：身近な自然物を使ったクラフト

【第13回】
テーマ：野外活動の技術とプログラム
内容・方法：パッケージド・プログラム

【第14回】
テーマ：野外活動の技術とプログラム
内容・方法：アウトドアリビングスキル

【第15回】
テーマ：後期授業のまとめ
内容・方法：授業のふりかえりと今後の野外活動への抱負

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容に関する情報収集など自分なりのイメージを持つ。(各回2時間)

講義の中で説明した内容をまとめ、情報検索を行うなどして知識を深める。(各回2時間)

具体的な事前・事後学習内容は第1回のオリエンテーションにて説明を行うが、授業終了後のレポート作成と事前課題への取り組みを上手く活用すること。

レポート、課題以外にもインターネット等を活用して情報収集に努めること。

自分が興味関心を持つ野外活動については積極的に取り組み体験から学ぶことも推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での学習内容を確認するために授業終了後に原則毎回ふりかえりシートの提出を求める。

課題レポートについては、内容を評価に反映させることもある。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

原則、公欠以外で5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

授業内での評価：授業態度や積極性、取り組みなどを評価

授業外での評価：ふりかえりシートや課題レポートを評価

期末試験：試験もしくはレポート試験にて評価

その他：ふりかえりやレポートの内容により評価

※公欠以外で5回以上の欠席した場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業態度や積極性、取り組み、ふりかえりシートなどを評価	1, 2, 3, 4
授業外での評価	5	ふりかえりシートや課題レポートを評価	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	期末レポート課題により評価する	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 特に指定しない。適宜紹介する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 レジャースポーツ実習やボランティア等において、野外フィールドに積極的に参加することが望まれる。

授業コード	13064401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レクリエーション演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

レクリエーションに関する基礎理論を理解すると共に、レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。

到達目標

1. レクリエーションおよび支援の技法についての知識を説明することができる。
2. レクリエーション活動のプログラムを立案することができる。
3. 集団や個人とのコミュニケーションをとる能力、集団の中のコミュニケーションを促進する方法を説明することができる。
4. 集団において良好な関係を築くための「姿勢・態度・行動」を考えることができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション レクリエーション活動の習得 (1) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。集団を対象にしたゲーム1
- 【第2回】 レクリエーション活動の習得 (2) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。集団を対象にしたゲーム2
- 【第3回】 レクリエーション活動の習得 (3) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。集団を対象にしたゲーム3
- 【第4回】 レクリエーション活動の習得 (4) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。歌を活用したゲーム
- 【第5回】 レクリエーション活動の習得 (5) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。音楽にあわせた身体活動1
- 【第6回】 レクリエーション活動の習得 (6) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。音楽に合わせた身体活動2
- 【第7回】 レクリエーション活動の習得 (7) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。用具を使用したゲーム1
- 【第8回】 レクリエーション活動の習得 (8) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。用具を使用したゲーム2
- 【第9回】 レクリエーション活動の習得 (9) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。アレンジの基本と応用1
- 【第10回】 レクリエーション活動の習得 (10) レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。アレンジの基本と応用2
- 【第11回】 レクリエーション支援の実施 (1) 理論科目で身に付けた根拠に基づき実技科目で習得した方法と活動を用いて、対象者と活動現場を想定したレクリエーション支援を実施し、評価し、改善する。企画書・指導案の作成
- 【第12回】 レクリエーション支援の実施 (2) 発表 (評価)
- 【第13回】 レクリエーション支援の実施 (3) 発表 (評価)
- 【第14回】 レクリエーション支援の実施 (4) 発表 (評価)
- 【第15回】 レクリエーション支援の評価、まとめ 振り返りを実施し、評価をおこなう

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

実技がメインの授業となるため、授業で実施する内容について事前に確認しておくこと。
授業後は提示された課題に取り組むこと。
人前での発表が評価となるため、説明の仕方や指導案を書く練習をしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題やレポートについては、Google classroomを通じてフィードバックを行う。
授業内の課題については、優れた点を適宜、受講学生と共有する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・レクリエーション・インストラクター資格取得に関連する必須科目であるため、5回以上の欠席は評価対象とせず「K」評価とする。
- ・遅刻および早退は1/3欠席、15分以上の遅刻は欠席扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	70	レクリエーション活動の発表(70)	1, 2, 3
授業外での評価	20	レクリエーション活動のプログラムを立案(20)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	楽しさをおとしたころの元気づくり レクリエーション支援の基本理論と方法、公益財団法人日本レクリエーション協会編、日本レクリエーション協会、ISBN 978-4-931180-95-6		
------	---------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する		
-----	-----------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・実技授業のため、運動のできる服装(トレーニングウェア)で参加すること。 ・化粧、アクセサリー類は事故や怪我の原因となるので、必ず外すこと。 ・レクリエーション・インストラクター資格の必須科目。 ・レクリエーション概論、レクリエーション演習 I ・コロナ感染状況によっては、オンライン授業となる可能性があります。 ・大阪府レクリエーションインストラクター課程認定校交流大会へ授業として参加します 		
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13064501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レクリエーション演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

レクリエーションは、スポーツと同様に現代社会において重要な役割を持っている。「楽しい」や「生きがいづくり」を提供する上で必要な基礎知識を身につけ、教育現場・地域・福祉現場にて、レクリエーション活動プログラムの企画等を実施する。この授業では、競技力向上とは異なる視点から、スポーツや身体活動を「誰でも、いつでも、どこでも、楽しく」できるように工夫し、支援・指導・提供する方法を学修する。レクリエーション・インストラクターに求められる基礎的な考え方や技術の修得を目指す。

到達目標

1. レクリエーションおよび支援の技法についての知識を説明することができる。
2. レクリエーション活動のプログラムを立案することができる。
3. 集団や個人とのコミュニケーションをとる能力、集団の中のコミュニケーションを促進する方法を人前で説明することができる。
4. 集団において良好な関係を築くための「姿勢・態度・行動」を考えることができる。

授業計画

- 【第1回】 授業ガイダンス（授業内容の説明、レクリエーション活動） コミュニケーションワーク(1)アイスブレイキング（仲間作り・友達作り）
- 【第2回】 コミュニケーションワーク(2)アイスブレイキング（仲間作り・友達作り） 学内クイズラリー
- 【第3回】 コミュニケーションワーク(2)アイスブレイキング（コミュニケーションの方法を検討したゲーム）
- 【第4回】 コミュニケーションワーク(3)アイスブレイキング（チーム対抗のゲーム・ニュースポーツ）
- 【第5回】 コミュニケーションワーク(5)ホスピタリティトレーニング（課題解決型ゲーム）
- 【第6回】 レクリエーションワーク(1)目的・対象に合わせた活動レク式体力チェック（新体力測定）
- 【第7回】 レクリエーションワーク(2)目的・対象者に合わせた活動レク式体力チェック（身体組成の測定）
- 【第8回】 レクリエーションワーク(3)目的・対象者に合わせた活動レク式体力チェック（レク式体力チェック・ロコモ度テスト）
- 【第9回】 レクリエーションワーク(4)素材・アクティビティの選択 レク式体力チェック（体力測定結果のフィードバックを含む）
- 【第10回】 レクリエーションワーク(5)活動のアレンジ
- 【第11回】 レクリエーションワーク(6)活動のアレンジ
- 【第12回】 レクリエーション活動の企画立案
- 【第13回】 レクリエーション活動の企画立案
- 【第14回】 レクリエーション活動の発表
- 【第15回】 レクリエーション活動の発表

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

実技がメインの科目であるため、授業で実施する内容について事前に確認しておくこと。
授業後は提示された課題に取り組むこと。
人前での発表が評価となるため、説明の仕方や指導案を書く練習をしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題やレポートについてはGoogle classroomを通じてフィードバックを行う。
授業内の課題については、優れた点を適宜、受講学生と共有する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・レクリエーション・インストラクター資格、健康運動指導士資格取得に関連する必須科目であるため、5回以上の欠席は評価対象とせず「K」評価とする。
- ・欠席した際には課題を期日までに提出すること。
- ・遅刻および早退は1/3欠席、15分以上の遅刻は欠席扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	レクリエーション活動の発表(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レクリエーション活動の企画書(20)	2

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 2, 3, 4
その他	40	グループワーク貢献度(40)	4

テキスト	楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の基本理論と方法、公益財団法人日本レクリエーション協会編、日本レクリエーション協会、1,944円、ISBN 978-4-931180-95-6		
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・実技科目のため、運動のできる服装(トレーニングウェア)で参加すること。 ・化粧、アクセサリー類は事故や怪我の原因となるので、必ず外すこと。 ・レクリエーション・インストラクター資格の必須科目。 ・健康運動指導士資格の必須科目。 ・レクリエーション概論、レクリエーション演習 I ・コロナ感染状況によってはオンライン授業または授業内容を変更する可能性があります。 ・大阪府レクリエーションインストラクター課程認定校交流大会へ授業として参加します 		
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13107501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャースポーツ（基礎Ⅰ） [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 光子				
シラバス執筆(主)	佐藤 光子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

現代社会においてスポーツは、狭い意味では競争・競技として行う運動、広い意味では楽しみや健康のために自発的に行う運動であると定義されている。またレジャーとは余暇に行う楽しみや遊びのことを指す。レジャースポーツとは勝ち負けよりも楽しみを重視して行うスポーツと理解できるだろう。授業は体育館にて実際に様々なスポーツを実践しながら進める。例えば「ポッチャ」のように、年齢・性別・体力レベルの違いがあっても互いに楽しめるスポーツを紹介する。また「バレーボール」のようにこれまで競技として体験してきたスポーツについては、皆が楽しむための工夫について意見交換の場を設ける。各スポーツの特性に応じてグループワークやペアワークを行い、各自の適性に応じてリーダーシップやフォロワーシップが発揮できる場面を設ける。これらの実践を通して、健康増進やレクリエーションについての基礎知識や、仲間と協調しつつ主体的に行動する力を身につけてほしい。

到達目標

1. レジャースポーツ全般の定義と意義を説明できる
2. 授業で実践した各スポーツの特徴・正規のルール・楽しむための工夫について説明できる
3. スポーツ実践に際して主体的に行動し、成果を上げるための努力ができる
4. スポーツ実践に際して安全に留意した行動ができる
5. スポーツ実践に際してよい人間関係を結ぶ行動ができる

授業計画

原則として体育館におけるスポーツ実践としての対面授業を行う
その他に適宜Classroomで課題を提示する

- 【第1回】卓球：ラリーの続くラージボール
 - 【第2回】卓球：ペアが交互に打つダブルスゲーム
 - 【第3回】ポッチャ：性別や体力だけで勝敗は決まらない
 - 【第4回】ポッチャ：スクエアポッチャに挑戦
 - 【第5回】バドミントン：ハイクリアーでラリーを続けよう
 - 【第6回】バドミントン：陣形を工夫してダブルスゲーム
 - 【第7回】フライングディスク：正確なパスとキャッチ
 - 【第8回】フライングディスク：アルティメットに挑戦
 - 【第9回】バレーボール：全員バレーでパスをつなごう
 - 【第10回】バレーボール：6人制、ローテーションで役割分担
 - 【第11回】バスケットボール：スピーディーな3×3
 - 【第12回】バスケットボール：組織的なディフェンスでオールコートゲーム
 - 【第13回】キンボール：三つ巴のボールゲーム
 - 【第14回】3チーム対抗戦：バレーボール&バドミントン
 - 【第15回】3チーム対抗戦：卓球&バスケットボール
- ※各回で実施するスポーツは状況によって変更することがある

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、毎回、実践するスポーツの特徴、ルール、技術などについて調べておくこと（0.5時間）
事後学習として、有酸素運動とレジスタンス運動を中心にトレーニングを実施し、健康管理を行うこと（0.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

スポーツ実践における主体的で安全な行動や仲間との協調性については、授業時に教員が観察評価しているので、問合せがあれば回答する。
Classroomで提示した課題（各スポーツの基礎知識、最終的な総括レポート）は、その都度採点し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえで、60点以上を合格とする。
ただし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」と評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	スポーツ実践の際の安全・人間関係・主体的行動に係る姿勢(60)	3, 4, 5

授業外での評価	20	各スポーツに関する基礎知識の理解度(20)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に提出する総括レポート(20)	1
その他	0		

テキスト	テキストなし。
------	---------

参考書	
-----	--

履修条件・他の科目との関連	履修のための条件(他の科目を受講しなければこれを受講できないなど)は特にありません。しかしスポーツ実践を伴うので、常に健康・体力を維持する、受講にふさわしい身なりで参加する(服装、シューズ、長い髪はまとめる、爪は短く清潔になど)、お互いに仲良く協力する、特に自分の立場を自覚してリーダーシップを発揮したり、リーダーに従うフォロワーシップを発揮するなど、皆で楽しいスポーツの場を作るという努力が必要です。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13107601	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	レジャースポーツ（基礎Ⅱ） [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範、出野 敦弘				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

この授業では、ストリートダンスを通して授業を行い、楽しさを求め、自身の心も豊かにすることを目的とする。余暇の中で身体を「音楽」と共に動かすことは、適度な運動であり、五感を刺激しストレス発散にも繋がる。

生涯スポーツの相互理解と友好・親善を深める観点より、グループワークも行う。グループワーク内では人間的なふれあいを深め、協調性、対人コミュニケーションを図り、爽快感や達成感の精神的な充足や楽しさを学ぶ。集団の中で個性を発揮し、自己表現能力の向上を目的とする。

「NVC（ノンバーバルコミュニケーション）＝非言語コミュニケーション」能力向上にもダンスは有効的である。なぜならば、ダンス中は言語を直接介さず、感情を乗せて踊ることにより、見る人にも大きな感動や楽しみを体験することができる。よって、自身にも他者からの意図や注意を理解する能力向上に繋がることを説明する。

授業の形態は、教員によるステップのレクチャーとグループワークを組み合わせたものである。毎回、課題となる動き（ステップ）を指導するため、事後学習では授業でできなかった動きの反復練習が必要となる。

講義としてストリートダンスの根本であるアメリカで発展してきたブラックカルチャーについても学ぶ。その歴史、音楽性、社会的背景について考察し、カルチャーについて理解できた上でダンスに取り組む。

現在、ストリートダンススクールに勤務している経験をもとに、実務家教員として本格的なダンスの基礎や動きも取り入れ授業を展開する。

到達目標

1. 音楽に合わせてリズムとテンポをキープして踊ることができる
2. グループワークの場面で対人コミュニケーションを取ることができる
3. グループワークの場面で個性を発揮することができる
4. 心を解放し、自由な発想で自己表現ができる
5. 意欲関心をもって取り組むことができる

授業計画

この授業は、実技をメインとした授業なので、動きやすい服装、室内用シューズを持参してください。ストリートダンスは自己表現の場でもあるため、個性的な服装を認めます。

【第1回】授業オリエンテーション：授業の進め方、ボディメイキング（筋力トレーニング、ストレッチ 他）※必要に応じて行う

【第2回】ダンス理論1：音楽に合わせて踊るために、音楽の仕組み（リズムとテンポ）を学ぶ

【第3回】ダンスの基礎1：ステップレクチャー、ボディコントロール（アイソレーション、ウェーブ 他）方法を学ぶ

【第4回】ダンス理論2：体を使った自己表現方法（オノマトペ）、音楽性、ストリートダンスのカルチャーを学ぶ

【第5回】ダンスの基礎2：ステップレクチャー、テンポに変化をつけて踊る

【第6回】ダンス基礎応用1：ステップレクチャー、リズムの変化を体現する

【第7回】ダンス基礎応用2：ステップレクチャー、手足を左右非対称に動かしテクニックを学ぶ

【第8回】前半のまとめ：教員による振付指導

【第9回】グループワーク1：グループに分かれてダンスの振付制作、反復練習、考察

【第10回】グループワーク2：ダンス（エンターテインメント）の構成を学ぶ

【第11回】グループ毎にダンス発表（中間発表）

【第12回】グループワーク3：グループに分かれてダンスの振付制作、反復練習、考察

【第13回】グループワーク4：グループに分かれてダンスの振付制作、反復練習、考察

【第14回】グループ毎にダンス発表（最終発表）

【第15回】後半のまとめ：教員による振付指導

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

第1回

【事前】授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する。

【事後】オリエンテーション内容に基づき、心身のケアを継続して心がける。

第2回

【事前】自身の好きな音楽（ジャンル）を見つけておく。

【事後】自身の好きな音楽を聴きながら授業の内容を対照する。

第3回

【事前】自身の知っている、見たことのあるステップや動きを確認しておく。
【事後】行ったステップ、ボディコントロールを反復練習しておく。

第4回

【事前】自己表現のために、自身の個性（長所と短所）を自問自答しておく。
【事後】YouTubeより「【HIPHOPの歴史】 奴隷制とHIPHOPのルーツ / HIPHOPの誕生」を再確認しておく。

第5回、第6回、第7回

【事前】ダンスの基礎、ボディコントロールを再確認しておく。
【事後】行ったステップを反復練習しておく。

第8回

【事前】ダンスの基礎、ステップ、ボディコントロールを再確認しておく。
【事後】行った振付を反復練習しておく。

第9回

【事前】ダンスの基礎、ステップ、ボディコントロールを再確認しておく。
【事後】制作した振付を反復練習しておく。

第10回

【事前】制作した振付を反復練習しておく。
【事後】ダンス（エンターテインメント）の構成を再確認しつつ、振付の参考にしておく。

第11回、第12回

【事前】制作した振付を反復練習しておく。
【事後】制作した振付を再確認し改善しておく。

第13回

【事前】制作した振付を反復練習しておく。
【事後】制作した振付を完成させておく。

第14回

【事前】発表の練習をしておく。
【事後】制作した振付を再確認し改善しておく。

第15回

【事前】ダンスの基礎、ステップ、ボディコントロールを再確認しておく。
【事後】行った振付を反復練習しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答時間を設け、解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の示すとおり、授業期間中に実施される各回の実技課題の達成度と、発表の評価結果に基づき総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。本科目は実技を中心に評価するため、全講義回数のうち1/3（5回）以上の欠席があった場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で実施する課題、発表、グループワーク(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	【第11回】に実施する発表(10) 【第14回】に実施する発表、完成作品(40)	1, 4
その他	10	授業に関する質問・発言、グループワークでの貢献度	2, 5

テキスト テキストは使用せず適宜プリント(資料)を配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 この授業は身体を動かすため心身のケアを心がけること。
ストリートダンスは自己表現の場でもあるため、個性的な服装を認める。
事前学習として現代社会における「SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」を活用し、好みのステップや動きを発見しておく。また、経験者と共に練習を行ったり、動画撮影を行い客観的に確認することを推奨する。

授業コード	13059701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャースポーツ（キャンプ） [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

レジャースポーツ（キャンプ）は、夏季に野外活動としてのキャンプを実施します。本授業は宿泊を伴う学外実習と学内での事前指導（演習）によって展開します。また、集中講義として行うため、ガイダンスは4月の学科別オリエンテーション時に行い、事前指導は5時限目以降、空き時間あるいは補講調整日、学外実習の直前に実施します。今年度はコロナ感染予防から、学外実習は集中講義期間あるいは夏季休暇中に学内および学外の野外施設において、通所で行います。学外実習ではキャンプに関する技術の習得を目指すだけでなく、課題克服型体験学習も行います。事前指導では用語、用具などについて学習するとともに、ロープワーク、テント設営方法、野外料理などに関する基礎的知識について解説します。

到達目標

1. キャンプに関わる用語について説明できるようになる
2. 野外での生活空間が確保できる（テントの設営・撤収を含む）
3. 野外炊飯ができるようになる
4. ロープワークができるようになる

授業計画

- 【第1回】 キャンプの事前指導と学外実習についてのガイダンス
- 【第2回】 事前指導1：アウトドアリビングスキル
- 【第3回】 事前指導2：野外炊飯について
- 【第4回】 学外実習1：テントの設営
- 【第5回】 学外実習2：生活空間を確保
- 【第6回】 学外実習3：生活用品の作成（お箸づくり）
- 【第7回】 学外実習4：夕食の準備と作成、炊飯場の後片付け
- 【第8回】 学外実習5：ロープワークへの取り組み
- 【第9回】 学外実習6：昼食の準備と作成、炊飯場の後片付け
- 【第10回】 学外実習7：HRTアクティビティ
- 【第11回】 学外実習8：夕食の準備と作成、炊飯場の後片付け
- 【第12回】 学外実習9：ロープワーク（実技試験）
- 【第13回】 学外実習10：テント等の撤収
- 【第14回】 学外実習11：生活空間、炊飯場等の清掃
- 【第15回】 学外実習12：学外実習のまとめと振り返り

事前事後の学習

学修に必要な総時間数は45時間です。事前事後学習等については、必要に応じて担当教員より指示します。

事前学習と事後学習に要する時間の詳細は第1回目の授業時に提示します。第1回～第3回は講義、第4回以後は学外実習となりますが、それぞれ1時間の事後学習を要します。

課題に対するフィードバックの方法

ロープワーク（実技）、レポート課題、研修日記の評価については希望者に開示します。

成績評価の方法・基準(方針)

レポート課題、研修日誌、ロープワーク（実技試験）、クラフトの作成、事前指導と学外実習時の活動状況による総合評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	ロープワーク(20)、野外調理(20)、テント設営(20)	2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 2, 3, 4
その他	30	グループワーク貢献度(30)	1, 2, 3, 4

テキスト 使用しません。必要に応じて配布します。

参考書	『キャンプテキスト』(日本野外教育研究会) 『ロープワーク入門講座』(国方成一) 『野外料理のレシピ集235』(地球丸) 『キャンプ指導者入門 第5版』(日本キャンプ協会)
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形態が集中講義であるため、諸連絡はUNIPA、クラスルームで行います。 ・事前指導の欠席者は学外実習には参加できません。また、単位の認定には学外実習への参加が必要です。 ・「レクリエーション概論」を必ず履修してください。 ・学外実習費用(交通費、宿泊費、食費、傷害保険料等):11,750円(2019年実績、2泊3日) ・コロナ感染状況によっては、実習が中止または内容が変更となる可能性があります。

授業コード	13059801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャースポーツ（スキー・スノーボード） [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

レジャースポーツ（スキー・スノーボード）は、冬季にスキーあるいはスノーボードを行います。本授業は宿泊を伴う学外実習と学内での事前指導（演習）によって展開します。また、集中講義として行うため、ガイダンスは4月時の学科オリエンテーション時に行い、事前指導は5限目以降、空き時間あるいは補講調整日に実施します。事前指導ではスキー・スノーボードに関する基礎知識として用語や技術などについて学習し、学外実習に向けての知識と技能を身につけます。

到達目標

1. 雪上でのスポーツについて説明することができる。
2. スキー・スノーボードの用語と技術を説明することができる
3. スキー・スノーボードの技術を身につけ、楽しむことができる

授業計画

【第1回】	ガイダンス	実施時期、実施場所、実施内容について解説
【第2回】	事前指導1	雪上でのレジャースポーツの安全確保と注意事項について解説
【第3回】	事前指導2	スキー・スノーボードの仕組みと用語、用具、操作方法について解説
【第4回】	事前指導3	実施要項の確認と学外実習先のゲレンデの詳細、注意事項について解説
【第5回】	学外実習1	スキー・スノーボードの用具、操作方法について実習をおこなう
【第6回】	学外実習2	平地での基本動作を行う
【第7回】	学外実習3	緩斜面での基本動作と滑走練習を行う
【第8回】	学外実習4	緩斜面でのターンの反復練習を行う
【第9回】	学外実習5	リフトに乗って滑走する
【第10回】	学外実習6	主に整地されたゲレンデで滑走する
【第11回】	学外実習7	整地されたゲレンデだけではなく、新雪等の不整地なゲレンデで滑走する
【第12回】	学外実習8	ノンストップトレーニングを行う
【第13回】	学外実習9	ナイター滑走を実施
【第14回】	学外実習10	グループ滑走を実施
【第15回】	学外実習のまとめ	雪上実習のまとめと評価を行う

事前事後の学習

学修に必要な総時間数は45時間です。事前事後学習等については、必要に応じて担当教員より指示します。

事前学習と事後学習に要する時間は第1回目の授業時に提示します。
第1回～第4回は講義、第5回以降は学外実習となりますが、それぞれ1時間の事後学習を要します。

課題に対するフィードバックの方法

実技、レポート課題、研修日誌の評価については希望者に開示します。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・実技試験、レポート課題、研修日誌、事前指導と学外実習時の活動状況による総合評価とします。
- ・事前指導の欠席過多の者は学外実習には参加できません
- ・単位の認定には学外実習への参加が必要です

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	スキー・スノーボードの実技試験(50)	1, 2, 3
授業外での評価	30	研修日誌(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書	「日本スキー教程」(全日本スキー連盟)

参考書	「全日本スノーボード教程」(日本スノーボード協会)
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形態が集中講義であるため、諸連絡はUNIPAまたはGoogle classroomよりおこないます。 ・事前指導の欠席は学外実習には参加できません。また、単位の認定には学外実習への参加が必要です。 ・学外実費用(交通費、宿泊費、食事、リフト代など):2017年度実績;33,830円 ・ウェア、ボード等のレンタルを利用する場合は、別途レンタル料が必要になります。 ・「レクリエーション概論」を履修しておくこと ・コロナ感染状況によっては、実習が中止または内容が変更となる可能性があります。

授業コード	13079101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャースポーツ（マリンスポーツ） [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子、山口 直範				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

レジャースポーツ（マリンスポーツ）では、水中・水上で楽しむウォータースポーツとして、スタンドアップパドルボード（SUP）、ウィンドサーフィン（WSF）、カヤック、ダイビング等の知識と技能の習得を目指します。また、レジャースポーツの知識と技能の習得だけでなく、海洋でスポーツ安全に楽しむためのルールやトラブル回避行動についても理解を深めます。本授業は学外実習と学内での事前指導によって展開します。また、夏季の集中講義として行うため、事前指導は5時限目以降、空き時間、補講調整日あるいは学外実習の直前に実施します。

到達目標

1. マリンスポーツの用語と技術について説明できる
2. 水中・水面上で行うレジャースポーツの安全な行動をとることができる
3. マリンスポーツのマナーと技術を身につけ、楽しむことができる
4. 研修日誌をまとめることができる

授業計画

- 【第1回】 マリンスポーツの事前指導と学外実習についてのガイダンス
- 【第2回】 事前指導1：水中・水面上でのルールとトラブル回避方法
- 【第3回】 事前指導2：水中・水面上で行うレジャースポーツの安全な行動
- 【第4回】 事前指導3：マリンスポーツとは
- 【第5回】 事前指導4：マリンスポーツ（スタンドアップパドルボード）に関する用語と技術
- 【第6回】 事前指導5：マリンスポーツ（ウィンドサーフィン）に関する用語と技術
- 【第7回】 事前指導6：マリンスポーツ（パドルカヤック）に関する用語と技術
- 【第8回】 学外実習1：マリンスポーツの器材の装着と基本操作の確認
- 【第9回】 学外実習2：水上実習1
- 【第10回】 学外実習3：水上実習2
- 【第11回】 学外実習4：水上実習3
- 【第12回】 学外実習5：水上実習4
- 【第13回】 学外実習6：水上実習5
- 【第14回】 学外実習7：水上実習6
- 【第15回】 学外実習8：水上実習のまとめと振り返り

事前事後の学習

学修に必要な総時間数は45時間です。事前事後学習等については、必要に応じて担当教員より指示します。

- 第1回
 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する1.0時間
 【事後】 オリエンテーション説明内容にもとづき夏季に行われているマリンスポーツの基礎知識を自修し、ノートを準備する3.0時間
- 第2回
 【事前】 水上のルールとトラブル回避方法を調べる2.0時間
 【事後】 水上のルールとトラブル回避方法をまとめる3.0時間
- 第3回
 【事前】 水上で行うレジャースポーツの安全な行動を調べる2.0時間
 【事後】 水上で行うレジャースポーツの安全な行動をまとめる3.0時間
- 第4回
 【事前】 マリンスポーツを調べる2.0時間
 【事後】 マリンスポーツをまとめる3.0時間
- 第5回
 【事前】 マリンスポーツに関する用語と技術を調べる2.0時間
 【事後】 マリンスポーツに関する用語と技術をまとめる3.0時間
- 第6回
 【事前】 マリンスポーツに関する用語と技術を調べる2.0時間
 【事後】 マリンスポーツに関する用語と技術をまとめる3.0時間
- 第7・9回
 【事前】 マリンスポーツを行う海洋や器材を確認する1.5時間
 【事後】 マリンスポーツ実習での取組みをまとめる3.0時間
- 第10・13回
 【事前】 今日のマリンスポーツ実習の取組み内容を確認する1.5時間
 【事後】 マリンスポーツ実習での取組みをまとめる3.0時間
- 第14・15回
 【事前】 今日のマリンスポーツ実習の取組み内容を確認する1.5時間

【事後】研修日誌をまとめる5.5時間

課題に対するフィードバックの方法

研修日誌やレポート試験の評価については希望者に開示します。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、研修日誌、実習時の取り組む姿勢、レポート試験に基づき、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。
事前指導の欠席者は学外実習には参加できません。また、単位の認定には学外実習への参加が必要です。学外実習に不参加の場合、評価の対象とせず、「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実習時の取り組む姿勢(50%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後に行うレポート試験(10%)	1, 2
その他	40	研究日誌(40%)	4

テキスト 使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書 必要に応じて紹介します。

履修条件・他の科目との関連
・講義形態が集中講義であるため、諸連絡はUNIPAもしくはclassroomで行います。
・事前指導の欠席者は学外実習には参加できません。
・学外実習費用(交通費、施設利用費、器材レンタル費、傷害保険料等)が別途必要になります。

授業コード	13065201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	レジャー・マネジメント演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、レクリエーションやレジャーに関してこれまで学修したことをもとに、レクリエーション・インストラクターに必要な知識やスキルを実践を通してより深めることを目的とする。
レジャー、レクリエーション・プログラムの計画や運営等をグループで協働して行うことや、実際の現場での支援を通して、レジャー、レクリエーション・プログラムの効果的、効率的な運営、支援の方法を実践的に学び、学修成果を実践力として定着できるよう説明する。

到達目標

1. レクリエーション・プログラムを立案することができる。
2. レクリエーション・プログラムを支援することができる。

授業計画

この授業は演習形式の授業ですので、授業内容に応じた教室（体育館や講義室）を使用します。

- 【第1回】オリエンテーション
- 【第2回】プログラムの企画について
- 【第3回】レクリエーション活動の実践
- 【第4回】プログラムの計画1：企画
- 【第5回】プログラムの計画1：準備
- 【第6回】プログラムの計画1：準備
- 【第7回】プログラムの計画1：実施・評価
- 【第8回】プログラムの計画2：企画
- 【第9回】プログラムの計画2：準備
- 【第10回】プログラムの計画2：実施
- 【第11回】プログラムの計画2：評価
- 【第12回】プログラムの計画3：企画
- 【第13回】プログラムの計画3：準備
- 【第14回】プログラムの計画3：準備
- 【第15回】プログラムの計画3：実施・評価、まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて4時間の学習が必要です。

【事前】グループで、プログラムの打合せや準備を行う。

【事後】インターネットや書籍で、レクリエーション事業やプログラムについて、情報収集を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックは、翌週以降の授業や Google Classroom で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	支援のスキル(30) 取り組み姿勢(30) グループメンバーとの協働姿勢(30)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	なし
参考書	必要に応じて授業で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「レジャー・マネジメント演習」は、レクリエーション・インストラクター資格取得科目の一つに位置づけられている。 ・「レクリエーション概論」と「レクリエーション演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。 ・学外のレクリエーション事業に参加し支援方法を学ぶ。 ・授業参加は、授業期間外に行うことや遠隔等の方法で行うことがある。 ・事業参加の状況により、授業計画を変更することがある。 ・新型コロナウイルス感染症の状況により、内容を変更することがある。 ・1回目の授業はオリエンテーションを行うため必ず出席すること。 ・大阪府レクリエーションインストラクター課程認定校交流大会へ授業として参加します

授業コード	13059201	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	対人コミュニケーション [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 真由美				
シラバス執筆(主)	東 真由美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人と人との出会いや印象形成、円滑な人間関係構築など、対面や非対面（SNSなどを含む）での身近なコミュニケーション場面に活用できる理論や技法について身につける。とくに社会心理学や臨床心理学の観点からコミュニケーションについて理解を進め、日常場面への応用を目指す。

担当教員の臨床心理士・公認心理師としての臨床心理業務経験をもとに、実務家教員として講義を行い、将来、対人支援にかかわる業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

授業はテキストを使用し、講義形式で行うが、理解を深めコミュニケーション力を身につけるために、種々の気づきを得るための心理テストやワークも実施するので、受講生の能動的な学びが必要である。毎回のレポートでは、論題の意味を十分に理解し、授業内容を踏まえながら筋道が通ったレポートを求める。そのため、論理的思考力及び文章作成能力の涵養も目指す。

到達目標

1. 人間関係の基礎となる対人コミュニケーションの基礎理論を他者に説明できる。
2. コミュニケーションには様々な方法があり、場に応じて使い分けることにより円滑な関係が構築されることを理解する。
3. 他者と良好な人間関係を保つコミュニケーション力を身につけて、適切な自己表現ができる。

授業計画

- 【第1回】人と人との出会い1
オリエンテーション。どのようにして第一印象が形成されるか理解し、印象形成について学ぶ。
- 【第2回】人と人との出会い2
対人認知、対人魅力について学ぶ。
- 【第3回】人を好きになる心理学
恋愛について心理学の観点で解説する。
- 【第4回】非言語的コミュニケーション
言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの違い、対人距離やアイコンタクトなど言葉を用いないコミュニケーションを学ぶ。
- 【第5回】効果的なコミュニケーションをめざして1
積極的傾聴法について学ぶ。
- 【第6回】効果的なコミュニケーションをめざして2
アサーショントレーニングについて学ぶ。
- 【第7回】われわれは他者からどのように影響を受けるか1「説得的コミュニケーション」
社会心理学の効果的な説得の技法を学ぶ。
- 【第8回】われわれは他者からどのように影響を受けるか2「マス・コミュニケーション」
マス・メディアが生むゆがみや偏りについて理解する。
- 【第9回】われわれは他者からどのように影響を受けるか3「コンピュータ・コミュニケーション」
インターネット上のコミュニケーションの特徴やマナーについて学習する。
- 【第10回】ストレスと人間関係
ストレスの要因となるストレスラーを分類し、その性質について学ぶ。
- 【第11回】対人関係の諸問題
攻撃行動、フラストレーション、匿名性などが攻撃的になる要因を学ぶ。
- 【第12回】より良い人間関係を保つために1
自分を知るために交流分析のエゴグラムを体験する。
- 【第13回】より良い人間関係を保つために2
リフレーミングを学び、自分を肯定的にとらえる。
- 【第14回】より良い人間関係を保つために3
他者に関心をもち肯定的にみようとすることの大切さを学ぶ。
- 【第15回】まとめ
対人コミュニケーションに関する心理学についてのまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の授業前に2時間の事前学習と授業後に2時間の事後学習（レポート課題を含む）を要する。

- 【第1回】
 - ①事前学習：過去の経験を思い出し、第一印象はどうやって形成されるのか、自分の考えをまとめてくる。
 - ②事後学習：授業で学んだ印象形成のしくみについてまとめておく。
- 【第2回】
 - ①事前学習：「対人魅力の規定因」の項を読んでおくこと。
 - ②事後学習：対人魅力の規定因についてまとめ、理解を深める。
- 【第3回】

- ①事前学習：「親密な人間関係」の項を読んでおくこと。
 ②事後学習：恋愛、友情の心理についてまとめておく。
 【第4回】
 ①事前学習：身の回りにある非言語によるコミュニケーション手段を調べておく。
 ②事後学習：非言語によるコミュニケーションが対人関係に与える効果、文化による違いについて要約する。
 【第5回】
 ①事前学習：対人コミュニケーションの分類を調べる。普段、どのように他者の話をきいているか振り返って
 ②事後学習：積極的傾聴法のテクニックを生かして、自分らしい話の聴き方を身につけられるよう練習する。
 【第6回】
 ①事前学習：自分の普段のコミュニケーションの仕方について振り返っておく。
 ②事後学習：アサーショントレーニングについて復習し、アサーションを上達させるための練習をする。
 【第7回】
 ①事前学習：社会心理学でいう「態度」とはなにか、その概念について調べておく。
 ②事後学習：紹介した説得のテクニックを整理しておくこと。
 【第8回】
 ①事前学習：自分の生活の中でマス・メディアの影響を受けていると思うことを調べておく。
 ②事後学習：メディアによる広告効果や流行の仕組みについてまとめておくこと。
 【第9回】
 ①事前学習：コンピュータ・コミュニケーションの特徴や問題点について調べる。
 ②事後学習：インターネット上のコミュニケーションの特徴やマナーのあり方について各自考えておく。
 【第10回】
 ①事前学習：ストレス、ストレス関連疾患について調べておく。
 ②事後学習：自分のストレスを認知的に評価して、その対処方法を考えて実践する。
 【第11回】
 ①事前学習：対人関係の諸問題について調べておく。
 ②事後学習：なぜ人は攻撃的になってしまうことがあるのか、自分の考えをまとめる。
 【第12回】
 ①事前学習：自分の性格について、自分の長所・短所について考えておく。
 ②事後学習：交流分析について復習する。
 【第13回】
 ①事前学習：リフレーミングについて調べる。
 ②事後学習：自分自身を肯定的にとらえられるようにリフレーミングを練習し、上手な自己紹介ができるよ
 ③事後学習：自己紹介の練習をする。
 【第14回】
 ①事前学習：他者との関係の中で人間関係を保つために必要なことについて考えておく。
 ②事後学習：良好な人間関係について、講義から得た知識や体験の中から再度考えを深め、実践につなげる。
 【第15回】
 ①事前学習：すべての復習をしてから講義に臨むこと。
 ②事後学習：これまでの授業内容や課題の意義を再確認し、今後の生きかたに関連付ける。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でレポート課題を行うが、理解不十分な内容については、後日に再度説明するなどのフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 授業ごとに毎回行うレポートの質および課題への積極的取り組み（レポートの文章量等）に対する総合評価とする。評価の84%を占めるため必ず出席し、レポートを提出すること。
 加えて、期末試験に代わるレポートとして、最終回終了後、最終レポート（評価の16%）を提出すること。
 レポートを一度も出さなかった場合はK評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	84	授業内レポート(84)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	16	最終レポート(16)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	ワークショップ人間関係の心理学／藤本忠明・東正訓／ナカニシヤ出版／2004／ISBN9784888488334
------	---------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	授業時間内にテストに代わるレポートを毎回行うので必ず出席すること。 協同学習やワークを積極的にに行い、レポート等の締切を厳守すること。 欠席した授業の資料は、当該授業後2週間以内に、授業前後に申し出て受けとること。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13074101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	発達心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、生涯発達の観点から発達心理学の基礎理論および臨床場面における発達支援について学ぶ。特に幼児期～児童期～青年期の発達について学び、その後は発達障害の特性や課題について事例を交えながら紹介する。

到達目標

1. 人間の発達は段階的であり、生涯にわたることを説明できる。
2. 人間の発達は段階的であり、生涯にわたることを記述できる。
3. 発達障害に偏見や誤解を持たず、人間科学の観点で説明できる。
4. 発達障害に偏見や誤解を持たず、人間科学の観点で記述できる。

授業計画

この授業は、通常授業となります。

【第1回】

テーマ：オリエンテーション（人間発達とは、発達障害とは）

内容・方法：講義計画の概要を紹介し、生涯発達の概念と発達障害への理解を高める。

【第2回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅰ

胎児期・新生児期の発達（知覚、視覚、認知）

内容・方法：胎児・新生児の特性を学ぶ

【第3回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅱ

乳児期の発達（愛着、言語、自己と他者の認知）

内容・方法：乳児期の特徴を紹介し、事例を通して愛着や社会的参照などの理論を説明する。

【第4回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅲ

幼児期の発達（心の理論）

内容・方法：自我の芽生え、他視点取得などの基礎理論について事例を通して紹介する。

【第5回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅳ

児童期の発達（読み書きの発達、身体運動）

内容・方法：就学すると学習環境が大きく変化するために生じる発達の課題について紹介する。

【第6回】

テーマ：発達心理学の基礎Ⅴ

青年期・成人期の発達（自己理解）

内容・方法：アイデンティティの構築、よりよく生きることをについて学ぶ。

【第7回】

テーマ：老年期の発達（加齢の影響）

内容・方法：老いることは悪化しているのではなく加齢は経験を重ねることであることを学ぶ。

【第8回】

テーマ：発達段階のまとめ

内容・方法：講義内容の理解の度合いを確認するために講義時間内に課題を実施する。

【第9回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅰ

内容・方法：発達障害の概念を説明し、自閉症について学ぶ。

【第10回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅱ-1

内容・方法：ASD：アスペルガー症候群の概念・特徴を学ぶ。

【第11回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅱ-2

内容・方法：ビデオを見ながらASDの実態を学ぶ。

【第12回】

テーマ：自閉症スペクトラム障害の理解Ⅲ

内容・方法：LD：学習障害の概念・特徴を学び、知的障害との違いを理解し、支援を学ぶ。

【第13回】

テーマ：自閉スペクトラム症の理解Ⅳ

内容・方法：ADHDの概念・特徴を学び、正しく理解する。

【第14回】

テーマ：成人の発達障害

内容・方法：成人になって発達障害の診断を受けた人々のビデオを視聴しながら、成人ならではの問題を考える。

【第15回】

テーマ：発達障害へのソーシャルスキルトレーニング
 内容・方法：発達障害者が社会に適応するための方法を学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：人間発達はいつまでなのか自分の考えをまとめる。
- ②事後学修課題：発達障害に関すること諸問題を調べる。

【第2回】

- ①事前学修課題：人間発達とは何かを予習しておく。
- ②事後学修課題：人間発達に関する本や論文を1冊読んでおくこと。

【第3回】

- ①事前学修課題：人間発達に関する本または文献を1冊読んでおくこと。
- ②事後学修課題：乳児期の社会的な問題を考える。

【第4回】

- ①事前学修課題：自分の過去を振り返ってみて発達を考える。
- ②事後学修課題：それぞれの特徴と概念を整理しておく。

【第5回】

- ①事前学修課題：小学校に入ると何が変化するのかを具体的に思い起こしておく。
- ②事後学修課題：就学初期の課題を考える。

【第6回】

- ①事前学修課題：自分の今までの発達について考える。
- ②事後学修課題：現在の自分の発達の課題を考える。

【第7回】

- ①事前学修課題：いままで習ったことすべてを復習しておく。
- ②事後学修課題：確認試験を終えて回答できなかったことを調べる。

【第8回】

- ①事前学修課題：発達障害の定義、現状を知る。
- ②事後学修課題：自閉症について調べる。

【第9回】

- ①事前学修課題：学ぶ前に自分が思っているASDはどのようなものなのかまとめてくる。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何が出来るかを考える。

【第10回】

- ①事前学修課題：自分の過去を振り返ってみてASDの人とのかかわりを考える。
- ②事後学修課題：ASDへの支援を考える。

【第11回】

- ①事前学修課題：自分の過去を振り返ってみてLDとのかかわりを考える。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何が出来るかを考える。

【第12回】

- ①事前学修課題：過去に紹介した発達障害の特徴を整理しておく。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何が出来るかを考える。

【第13回】

- ①事前学修課題：ADHDの特性を復習しておく。
- ②事後学修課題：それぞれの症状の連続性と違いを理解する。

【第14回】

- ①事前学修課題：成人の発達障害でなにが生きていくうえでの障害になるのか考える。
- ②事後学修課題：生きていくうえでの障害を取り外すために何が必要かを考える。

【第15回】

- ①事前学修課題：発達障害者の社会適応に重要な要素を考える。
- ②事後学修課題：二次障害を防ぐために何が出来るかを考える。

課題に対するフィードバックの方法

ビデオ視聴や講義の感想文を提出させた時は、翌週の講義開始時に学生全体にコメントしてフィードバックする。
 また、希望者にはclassroomを通じて中間確認試験の点数を伝える。

成績評価の方法・基準(方針)

定期試験と講義時に実施する中間確認試験の点数にて評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義時間内に実施する中間確認試験(50)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	50	持ち込み不可で臨床発達心理学の試験を実施する(50)	2, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	講義時にプリントを配布する
参考書	よくわかる発達心理学 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦編 ミネルヴァ書房 2400円＋税 よくわかる発達障害 LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群 小野次郎・上野一彦・藤田継道編 ミネルヴァ書房 2200円＋税
履修条件・他の科目との関連	隣接領域にある心理学の講義を併せて受講することが望ましい。

授業コード	13006401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人間の健康は、単に身体を動かすことだけでなく、心をコントロールすることと密接に関係している。スポーツと心理学といえばメンタルトレーニングやイメージトレーニングのことを連想するのも、そうしたことが暗黙のうちに理解されているからであろう。現代の科学的なスポーツ実践では、気合、根性、体力だけでは通用せず、心と体の関係性を理解しない限り、実力を発揮することは困難である。スポーツ心理学では、心と競技成績の関係を広く理解するために、競技スポーツを中心に自らの競技経験を交えながら心のはたらきを論じていく。

到達目標

1. 目標設定の意味や達成動機を理解し、競技スポーツにおける心の重要性を論理的に説明できる。
2. 試合に向けた心のコンディションの重要性を説明できる。
3. スポーツ心理学で得た知見を競技だけではなく日常生活でも活用できる。

授業計画

この授業は、対面の通常授業となります。
重要：「資料配布せず、テキストを利用することが非常に多いため、必ず指定のテキストを購入しておくこと。」

【第1回】

テーマ：スポーツ心理学では何を学修するのか

内容・方法：運動心理学とスポーツ心理学の定義

【第2回】

テーマ：心理的スキルとは何か

内容・方法：集中力、コミュニケーション力などさまざま心がある

【第3回】

テーマ：「やる気」とは何か

内容・方法：目標設定の方法により、やる気が高まる。自らの競技力だけではなく指導にも役立つ

【第4回】

テーマ：リラックスと「よい緊張感」とは何か

内容・方法：実力発揮のためのリラックス法を学ぶ

【第5回】

テーマ：トップアスリートから心を学ぶ

内容・方法：国際大会や全日本で協議したアスリートの映像から学ぶ

【第6回】

テーマ：集中力を高める方法

内容・方法：集中力を高め、持続するには何が必要か

【第7回】

テーマ：自信を高める方法

内容・方法：自身を高める要因と方法について

【第8回】

テーマ：作戦イメージのトレーニング

内容・方法：相手によって変化する戦略の重要性を学ぶ

【第9回】

テーマ：競技前の心理的準備とは

内容・方法：競技前のメンタルコンディショニング

【第10回】

テーマ：チームづくりに必要なもの

内容・方法：コミュニケーションスキルの必要性

【第11回】

テーマ：競技スポーツ選手の指導法

内容・方法：介入・指導の方法（個人競技・団体競技）

【第12回】

テーマ：技術獲得の心理的課題

内容・方法：合理的な運動学習の理論

【第13回】

テーマ：健康スポーツとは何か

内容・方法：運動とメンタルヘルスの関係について学ぶ

【第14回】

テーマ：スポーツで心の健康を高められるのか

内容・方法：運動・スポーツの心理的効果

【第15回】

テーマ：まとめ

内容・方法：心の強さにより競技結果が左右されることを理解する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：自分のスポーツ経験を振り返っておく
- ②事後学修課題：スポーツ心理学の持つ意味を考える

【第2回】

- ①事前学修課題：心理的スキルは競技結果に与える影響
- ②事後学修課題：過去の自分は競技に向けてどうであったか振り返る

【第3回】

- ①事前学修課題：やる気が出るときと出ないときは何が違うか考える
- ②事後学修課題：自分の目標を設定してみる

【第4回】

- ①事前学修課題：様々なリラクゼーションを知る
- ②事後学修課題：自分にあうリラクゼーションを実践する

【第5回】

- ①事前学修課題：プロスポーツとアマチュアスポーツの違いを考える
- ②事後学修課題：トップアスリートの競技への姿勢を習得する

【第6回】

- ①事前学修課題：雑然とした中で集中する方法を考える
- ②事後学修課題：集中力を妨害されない方法を習得する

【第7回】

- ①事前学修課題：自分の実力を客観視してポジションを考える
- ②事後学修課題：自信が結果に及ぼす影響を把握する

【第8回】

- ①事前学修課題：イメージとは何かを調べておく
- ②事後学修課題：自宅などでイメージトレーニングを実践する

【第9回】

- ①事前学修課題：競技前に望ましい心の状態を考える
- ②事後学修課題：競技前の心が競技中に与える影響を振り返る

【第10回】

- ①事前学修課題：コミュニケーション力はなぜ必要なのか考える
- ②事後学修課題：個人競技・団体競技に関係なく必要であることを理解する

【第11回】

- ①事前学修課題：過去の自分のスポーツ経験から指導法を考える
- ②事後学修課題：受講後にもう一度、より有効な指導法を考えてみる

【第12回】

- ①事前学修課題：心理学の学習理論を理解しておく
- ②事後学修課題：自分の競技に適した学習方法を論理的に把握する

【第13回】

- ①事前学修課題：競技レベルと健康レベルの運動は何が違うのか調べる
- ②事後学修課題：健康スポーツの具体的な効果を検討する

【第14回】

- ①事前学修課題：心と身体の関係性を調べる
- ②事後学修課題：運動・スポーツで心の健康を維持している場を探してみる

【第15回】

- ①事前学修課題：すべてを振り返ってから講義に臨む
- ②事後学修課題：すべてを振り返り、今後の自分の生活に役立てる

課題に対するフィードバックの方法

スポーツ心理学は競技以外の場でも活用できるため、講義で学んだことを日常生活に応用して実践する。日頃から緊張のあまり実力が発揮できない人は、講義時のコメントに記述すれば、適宜講義内容を活用してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

講義時間内に提出を求める感想(20)と定期試験の結果(80)をもって最終評価とする。定期試験は持ち込み不可で実施し、欠席した学生は評価の対象としない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	80	持ち込み不可で実施(80)	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	講義時間内に提出を求める感想文など(20)	1

テキスト

教養としてのスポーツ心理学/徳永 幹雄/大修館書店/2160/978-4469265774

テキスト	・「配布資料ではなくテキストの内容とPPTスライドを中心」に講義するため、持っていなければ理解が深まらない。必ず購入しておくこと。
参考書	適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・他に心理学関連の科目を受講している方が望ましい。 ・遅刻は、科目担当者にとっても他の受講者にとっても大変迷惑である。理由なく大幅に遅刻した場合は減点対象とする。

授業コード	13062601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	ストレスマネジメント [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代人の私たちは常にストレスに晒されている。そのため、ストレスに対応していく必要があるもののストレスとは何かを知らなければ、ストレスと向き合うことはできない。誰もが関心のある“ストレス”をネガティブに捉えるのではなく、ストレスを知り、自分自身でストレスコントロールしていくことこそが現代社会を生きるために必要なことである。本講義ではストレスの仕組みとストレスとの付き合い方(ストレス・マネジメント)について概観する。そのために、ストレスの概念について説明し、ストレスと健康との関わりについて考える。また、実際のストレスに対処していくための様々な技法を知り、日常生活上で実践していけるようにしていくことを目標とする。授業はパワーポイントにて行い、講義形式となるが、実際のマネジメント法を習得することも求められる。事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や紹介された図書や論文をもとに自身のノートに加筆するなど積極的な学習を行う必要がある。

到達目標

1. ストレスマネジメントにおける専門用語を説明できる。
2. ストレスマネジメントにおける専門用語を記述できる。
3. 具体的なストレス対処法を理解できる。
4. 具体的なストレス対処法を使うことができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション:授業の概要、ストレスと向き合うことの意味について考える
- 【第2回】 ストレスとは? ① :ストレッサーについて学び、自身のストレッサーをチェックシートにて評価していく
- 【第3回】 ストレスとは? ② :ストレス反応について学び、自身のストレッサーをチェックシートにて評価していく
- 【第4回】 ストレス関連する心の病気について:ストレス関連疾患について学ぶ
- 【第5回】 ストレスマネジメントとは? ① :コーピングについて学ぶ
- 【第6回】 ストレスマネジメントとは? ② :認知と行動修正について学ぶ
- 【第7回】 ストレスとは? ③ :自律神経について学ぶ
- 【第8回】 ストレスとは? ④ :ストレス測定法について学ぶ
- 【第9回】 ストレスに対するセルフカウンセリング(実習):ストレスへの理解を深めるとともに、自身のストレスマネジメント法を思考するためのセルフカウンセリング法を使う
- 【第10回】 ストレス対処法① :自律訓練法について学ぶ
- 【第11回】 ストレス対処法② :マインドフルネスについて学ぶ
- 【第12回】 ストレス対処法③ :アロマセラピーについて学ぶ
- 【第13回】 ストレス対処法④ :エゴグラムについて学ぶ
- 【第14回】 ストレス対処法⑤ :自律訓練法の基礎について学ぶ
- 【第15回】 総復習:ストレスマネジメントとは何かを今一度考える

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 授業を受けるにあたってのノート作り 1.0時間
 - 【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、ストレスについての基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0時間
- 第2回
 - 【事前】 ストレッサーとは何かを調べ、自分自身のストレッサーを考えておく 1.5時間
 - 【事後】 「適度なストレッサー」によるパフォーマンス効果についてノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「ストレス反応」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】 特に自律神経系の特徴についてノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「心身相関」について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】 「パニック障害」における実際の治療について、ノートに加筆する 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、自分自身がストレスにどう対処しているか考えておく 1.5時間
 - 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「認知」について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間

第7回	【事前】 前週分のノートを確認するとともに、ストレスが心身に及ぼす影響について自分なりに考えておく 1.5 時間
【事後】	「視床下部」「扁桃体」など位置を図に描きながら、その特徴についてノートに加筆する 2.5 時間
第8回	【事前】 第1回から第7回のノートを確認するとともに、自分自身のストレスについて考えておく 1.5 時間
【事後】	自分自身のストレスが「身体」および「心」にどう影響しているか具体的に考えながら、その特徴についてノートに加筆する 2.5 時間
第9回	【事前】 前週分のノートを確認するとともに、自分自身の呼吸の仕方についてストレスがかかる時とそうでないときでどのような違いがあるか観察し、まとめておく 1.5 時間
【事後】	実際に呼吸法を実践し、心身への影響について観察し、ノートに加筆する 3.5 時間
第10回	【事前】 前週分のノートを確認し、ストレスとところの関係性について調べておく 1.5 時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
第11回	【事前】 前週分のノートを確認し、マインドフルネスとは何か自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
第12回	【事前】 前週分のノートを確認し、アロマセラピーの効用について調べ、考えておく 1.5 時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
第13回	【事前】 前週分のノートを確認し、エゴグラムについて自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
第14回	【事前】 前週分のノートを確認し、自分自身の内面の感情に注意を向けると心身がどのように反応するか観察し、その反応について考えておく 1.5 時間
【事後】	実際のストレスマネジメント法を実際に行ってみた場合に、自身の心身がどのように反応するか観察し、そのことについてノートに加筆する 2.5 時間
第15回	【事前】 第1回から第14回のノートを確認する 1.5 時間
【事後】	授業後の日常生活上で、自分自身が具体的にどのようなストレスマネジメント法を実践していけるか考え、さらにどのように実行していけるかを考え、説明できるようにノートに加筆する 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、毎授業時に実施する課題について5回以上の未提出、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で提示された課題、ワークへの取り組みについてのレポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学習の進捗状況によって、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13078201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	リスクマネジメント特論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日常生活の中で危険やリスクは、いたるところに存在する。リスクとは何かを理解し、リスクを回避するだけでなく、どのようにしてマネジメントするのが重要である。本講義では災害、犯罪、交通事故の事例を中心としたリスクに関する理論を解説する。また、開催が可能な状況であればリスクマネジメントに関する学外研修（白バイ隊員のトレーニング視察など）を実施する予定である。実施日は施設との日程調整のため不確定である。なお、本講義は専門性が高くリスクに関する専門用語や基礎理論が出てくるため、前期科目「安全の行動科学」を必ず履修しておくこと。

到達目標

1. 災害、犯罪、交通事故の3つのリスクをデータに基づいて客観的に説明できる。
2. 3つのリスクについて危険を感じた時には、まず自分が率先して安全行動に移ることができる理由を論じる。
3. 日常生活に潜在的に存在しているリスクに気が付き、正しく評価できる。
4. 科学的データに基づいてリスクマネジメントについて記述できる。

授業計画

この授業は、通常授業となります。

【第1回】

テーマ：オリエンテーション、リスクとは

内容・方法：講義計画の概要を紹介し、行動科学の概念と安全対策への理解を高める。

【第2回】

テーマ：リスクと心理学

内容・方法：人はなぜリスクをとるのか、そのメカニズムを学ぶ。

【第3回】

テーマ：リスク行動を理解する

内容・方法：リスクと人間行動の関係を説明する。

【第4回】

テーマ：リスク知覚

内容・方法：リスクのとらえ方について心理学の観点から事例を通して紹介する。

【第5回】

テーマ：危険とリスクテイキング

内容・方法：リスクに限らず幅広い「危険」について解説する。

また、人はなぜ危険であるとわかっていても、危ないことをしてしまうのかを解説する。

【第6回】

テーマ：リスクとエラーの関係

内容・方法：急いだり、あわてたりするとなぜミスが増えるのかを人間科学で解説する。

【第7回】

テーマ：リスクマネジメントの実践（学外研修：開講回は視察日に準じて変更する）

内容・方法：白バイ隊員のトレーニングや大会を視察することにより事故防止のためにリスクマネジメントを学ぶ。

【第8回】

テーマ：日常の中に潜在するリスクを考えるⅠ

内容・方法：自分の身の回りに潜在しているリスクと対処法を考える。

【第9回】

テーマ：日常の中に潜在するリスクを考えるⅡ

内容・方法：グループワーク（日常正確に潜在しているリスクと対処法を考える）

【第10回】

テーマ：日常の中に潜在するリスクを考えるⅢ

内容・方法：グループワーク（日常正確に潜在しているリスクと対処法を考える）

【第11回】

テーマ：リスクマネジメントの発表Ⅰ

内容・方法：グループワークの結果を発表する。

【第12回】

テーマ：リスクマネジメントの発表Ⅱ

内容・方法：グループワークの結果を発表する。

【第13回】

テーマ：日常の中に潜在するリスクを考えるⅢ

内容・方法：グループワーク（日常正確に潜在しているリスクと対処法を考える）

【第14回】

テーマ：リスクとの付き合い方

内容・方法：交通行動に限らず事故や危険へのリスクは避けられない。共存していく方法を考える。

【第15回】

テーマ：全体のまとめ

内容・方法：講義内容の理解の度合いを確認するために講義時間内に課題を実施する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

日常生活に潜むリスクに意識を向け、国内だけではなく、海外の取り組みにも目を向ける。また、学んだことは日常生活に活用してリスクマネジメントに努めることを復習とする。

【第1回】

- ①事前学修課題：リスクとは何なのか、事前に調べる。
- ②事後学修課題：自分が興味を持った大きな事故に関することを調べる。

【第2回】

- ①事前学修課題：リスクとエラーの関係を予習しておく。
- ②事後学修課題：リスクに関する本や論文を1冊読んでおくこと。

【第3回】

- ①事前学修課題：リスクに関する本または文献を1冊読んでおくこと。
- ②事後学修課題：視覚から入る情報に関する問題をエラーと合わせて考える。

【第4回】

- ①事前学修課題：危険感受性について考える。
- ②事後学修課題：リスク知覚について、自分の考えを整理しておく。

【第5回】

- ①事前学修課題：日常生活の中に潜む危険とリスクを探す。
- ②事後学修課題：潜在的な危険と顕在的な危険に対する人間の行動特性を考える。

【第6回】

- ①事前学修課題：なぜ人は危ないことをするのかについて考える。
- ②事後学修課題：自分の過去を振り返ってリスクテイキング行動を考える。

【第7回】

- ①事前学修課題：リスクテイクのメカニズムを知る。
- ②事後学修課題：どのような時にリスク補償行動が生じるのか調べる。

【第8回】

- ①事前学修課題：日常生活の中にある潜在的なリスクを探す
- ②事後学修課題：リスクについて自分の考えをまとめてグループワークに備える。

【第9回】

- ①事前学修課題：リスクについて自分の考えをまとめてグループワークに備える。
- ②事後学修課題：グループワークでの自分の担当箇所について調べる。

【第10回】

- ①事前学修課題：リスクについて自分の考えをまとめてグループワークに備える。
- ②事後学修課題：グループワークの発表に備える。

【第11回】

- ①事前学修課題：グループワークの発表に備える。
- ②事後学修課題：他のグループの発表について自分の考えをまとめる。

【第12回】

- ①事前学修課題：グループワークの発表に備える。
- ②事後学修課題：他のグループの発表について自分の考えをまとめる。

【第13回】

- ①事前学修課題：グループワークの発表に備える。
- ②事後学修課題：他のグループの発表について自分の考えをまとめる。

【第14回】

- ①事前学修課題：リスクと安全教育の意味を考える。
- ②事後学修課題：有効な安全教育の方法を考える。

【第15回】

- ①事前学修課題：いままで習ったことすべてを復習しておく。
- ②事後学修課題：学んだことを参考にして危険への感受性を高めていく。

課題に対するフィードバックの方法

グループワークやビデオ視聴の感想文に記載された内容や質問に対して次回の講義開始時にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

講義内に実施する発表、グループワーク、レポート試験にて評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義内に実施する小レポート、発表、グループワーク(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	全授業終了後に実施するレポート試験(50)	4

その他	0		
テキスト	適宜プリントを配布する		
参考書	適宜紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<p>専門性が高くリスクに関する専門用語や基礎理論が出てくるため、前期科目「安全の行動科学」を必ず履修しておくこと。 基本的には講義、事例の検索、発表、グループワークで構成する。 また、本講義は特論であるため実践的な内容を中心に解説する。</p>		

授業コード	13078301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	コーチング理論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 憲				
シラバス執筆(主)	加藤 憲				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツ・運動のコーチングに関して概説します。指導者は、スポーツ科学に関する様々な知識が必要です。より良い指導者になるためにも、ただ知識を蓄えるだけでなく、その知識をどのように活用するかが重要になります。基本的にスポーツ心理学の分野から解説していきます。学んだことを、実際の指導場面でどのように活用・応用するかを考えてもらいます。実際の指導現場でも活用できる力をつけることを目標としています。

授業はスライド資料による講義形式で行い、動画、ニュースを提示しながら進めていきます。事前学習として、次の授業に関するニュースやキーワードの意味を調べること、事後学習として、授業で学んだことを調べ直す、復習することが望ましいです。

到達目標

1. 現代のコーチに求められる心得を理解し説明することができる
2. コーチングに必要なスポーツ心理学に関する知識を理解し説明することができる
3. 自分、相手を互いに尊重するコミュニケーションスキルについて理解し応用することができる

授業計画

- 第1回 授業の概要、コーチングとは何か
 第2回 より良い指導者とは、グッドコーチについて
 第3回 体罰・ハラスメントの現状
 第4回 コーチングのリスクマネジメント
 第5回 動機づけ：内発的動機づけ、外発的動機づけ
 第6回 目標設定と動機づけ
 第7回 運動学習、フィードバック
 第8回 発達段階に応じた指導
 第9回 集団、チームワーク、リーダーシップ①：チームビルディング
 第10回 集団、チームワーク、リーダーシップ②：リーダーシップ
 第11回 指導者のメンタルマネジメントの必要性
 第12回 アンガーマネジメント
 第13回 コミュニケーション①：自分の自己表現方法、アサーションについて
 第14回 コミュニケーション②：アサーティブな自己表現をするためには
 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、シラバスを読んで毎回の授業テーマを確認し、自分の関心を整理しておく。事後学習は配布資料をもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業での授業内レポートでの質問等を中心的に、次の授業の最初にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、毎回の授業内レポート、定期試験に代わるレポート試験の評価に基づき、総合的に判定した上で60点以上を合格とし所定の単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内レポート(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	全ての授業終了時に課されるレポート試験(50)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

教材がある場合は別途配布する。

参考書	授業内で必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	スポーツ科学の基礎的な知識を得ていることが望ましい。

授業コード	13062801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	健康心理学研究法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

近年では様々な環境変化に伴い、健康に対する意識を高く持つ人がいる一方で、自分自身の健康を省みない人もいる。それは心身に何ら問題がなければ健康を意識することは難しいからである。しかし、病気がないから健康であると言って良いのだろうか。昨今の目まぐるしい環境変化のなかで私たちが生活していくためには、病気の有無に関わらず「健康」について考えていく必要がある。健康心理学はあらゆる人が自分自身の生き方の目標を定め、自分自身を高める意欲を持ち、「健康的」に生活するために必要な学問である。本講義では健康心理学の基礎的な概念について説明し、各項目で取り上げられるキーワードが実際どのように研究されているかを学ぶことを目的とする。そのために、講義では健康心理学に関する論文などを取り上げながら、心の健康について概観する。授業はパワーポイントにて行い、講義形式となるが、時に自分自身の意見、あるいはグループで調べ、発表することが求められる場合もある。事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や紹介された図書や論文をもとに自身のノートに加筆すること、それぞれ主体的・積極的な学習を行う必要がある。

到達目標

1. 健康心理学の用語を説明できる。
2. 健康心理学の用語を記述できる。
3. 健康心理学の役割について説明できる。
4. 健康心理学の役割について記述できる。

授業計画

- 【第1回】健康心理学とは：健康の定義を再確認し、健康心理学の役割について概観する
- 【第2回】ライフサイクルと健康①：人間の発達とそれに伴う健康問題について考える
- 【第3回】ライフサイクルと健康②：人間の発達とそれに伴う健康問題について考える
- 【第4回】ストレスと心の健康①：ストレスの定義を確認し、健康とストレスについて考える
- 【第5回】ストレスと心の健康②：ストレスおよびQOLのアセスメントについて学ぶ
- 【第6回】ストレスと病気①：疾病と生活習慣の関連について学ぶ
- 【第7回】ストレスと病気②：ストレスから心の病への繋がりについて学ぶ
- 【第8回】ストレスと病気③：ストレスと関連する具体的な心の病気について学ぶ
- 【第9回】心の病気にならないようにするには：ストレスによる心の病気へどう予防していくか考える
- 【第10回】前半のまとめ
- 【第11回】健康行動と生活習慣について学ぶ
- 【第12回】健康と人生①：健康と生きがいについて考える
- 【第13回】健康と人生②：ターミナルケアについて考える
- 【第14回】人間関係と健康：人との関わりが健康にどのように影響するか考える
- 【第15回】総まとめ：健康心理学の視点から自身の健康について考える

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 授業を受けるにあたってのノート作り 1.0時間
 - 【事後】オリエンテーション説明内容に基づき、健康心理学の基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0時間
- 第2回
 - 【事前】ライフサイクルとは何かを調べ、自分自身のライフサイクルを考えておく 1.5時間
 - 【事後】発達課題についてノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】前週分のノートを復習するとともに、「ストレス」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 - 【事後】自分自身のストレスについて、その原因と結果についてノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】前週分のノートを復習するとともに、ストレスに弱い、強いとはどのようなことか自分なりに考え、整理してみる 1.5時間
 - 【事後】講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】前週分のノートを復習するとともに、ストレスによる心と身体の反応について考えておく 1.5時間
 - 【事後】講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】前週分のノートを復習するとともに、ストレスが生じて、何故私たちの心身が一定に保つことができるのか自分なりに考えておく 1.5時間
 - 【事後】講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】前週分のノートを復習するとともに、何故ストレスで病気になってしまうのか自分なりに考えておく

1.5時間	【事後】 授業で提示した以外に、どのようなストレスに関連する病気があるか調べ、ノートに加筆する 2.5時間
第8回	【事前】 前週分のノートを復習するとともに、自分自身のストレスへの耐性がどの程度あるか考えておく 1.5時間
【事後】	身体、精神、社会的視点から自分自身のストレス耐性について、ノートに加筆する 2.5時間
第9回	【事前】 第2回から第8回のノートを復習し、心身の健康について再考する 1.5時間
【事後】	ストレスの視点から、心身の健康に与える影響をまとめ、さらに、健康心理学がどのような役割を果たすのか、ノートに再加筆する 3.5時間
第10回	【事前】 前週分のノートを復習し、自分自身が特に他者と比べてしまう時の心身の反応について考えておく 1.5時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
第11回	【事前】 前週分のノートを復習し、自分自身の劣等感について考えておく 1.5時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
第12回	【事前】 前週分のノートを復習し、「原因」と「結果」の因果関係について考えておく 1.5時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
第13回	【事前】 前週分のノートを復習し、今一度自分自身の劣等感について考えておく 1.5時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
第14回	【事前】 前週分のノートを復習し、他者との「つながり」について考えておく 1.5時間
【事後】	講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
第15回	【事前】 第1回から第14回のノートを復習する 1.5時間
【事後】	健康心理学の視点から、自分自身の健康をどのように維持向上できるか具体的に考え、さらにどのように実行できるか考え、説明できるようにノートに加筆する 3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、欠席半期5回以上、毎授業時に実施する課題について5回以上の未提出、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で提示された課題、小テスト、ワークへの取り組み	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学習の進捗によって、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13078402	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	カウンセリング理論と技法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

カウンセリングという言葉は世の中に広く浸透しているが、言葉のみではなく、カウンセリングの実際について、正しく理解することは重要である。カウンセリングの技法は対人援助の場において、他者の心の理解を促進し、問題解決へと導くことが可能な方法の1つである。また、現代社会において、他者との関係を構築する上でもカウンセリングの技法は一助となり得る。

本講義ではカウンセリングの専門性を考え、カウンセリングの技法の知識と習得を目指す。カウンセリングにはいくつかの学派や技法があるため、それぞれの要素を説明し、体験的な学習を進めていく。

授業はパワーポイントにて行う講義形式を進めるが、カウンセリングの理論と技法を学ぶだけではなく、ロールプレイを取り入れ、実践的に学ぶことを目指す。

事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や文献をもとに自身のノートに加筆すること、それぞれ主体的・積極的な学習を行うことが必要となる。

到達目標

1. カウンセリングにおける専門用語を記述できる。
2. カウンセリングにおける専門用語を説明できる。
3. 傾聴等のカウンセリングの基本技法を使うことができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：授業の概要、カウンセリングの知識が何故必要かを考える。
- 【第2回】 カウンセリングとは？：カウンセリングの起源や歴史を辿り、カウンセリングとは何かを学ぶ。
- 【第3回】 カウンセリングの実際について学ぶ：カウンセリングがどのようにして行われるかを考える。
- 【第4回】 心理アセスメント①：心理査定法について理解する。
- 【第5回】 心理アセスメント②：心理検査について知る。
- 【第6回】 様々なカウンセリング技法：3大カウンセリング理論とその技法について知る。
- 【第7回】 カウンセリング技法実習①：来談者中心療法について学ぶ。
- 【第8回】 前半のまとめ
- 【第9回】 カウンセリング技法実習②：認知行動療法について学ぶ。
- 【第10回】 カウンセリングに必要なコミュニケーション①：「きく」について考える
- 【第11回】 カウンセリングに必要なコミュニケーション②：「受け取る」について考える
- 【第12回】 カウンセリングに必要なコミュニケーション③：「伝える」について考える
- 【第13回】 カウンセリングに必要なノンバーバル・コミュニケーション④：「非言語」について考える
- 【第14回】 非言語の心理療法実習
- 【第15回】 まとめ：これまでのカウンセリング理論と技法を振り返る

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回

【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 授業を受けるにあたってのノート作り 1.0時間

【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、カウンセリングについての基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0時間

第2回

【事前】 カウンセリングについて自分なりに調べ、まとめておく 1.5時間

【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間

第3回

【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「対話」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5時間

【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間

第4回

【事前】 前週分のノートを復習するとともに、日常生活上で目にする「心理テスト」にはどのようなものがあるかについて自分なりに調べ、考えておく 1.5時間

【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間

第5回

【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「投影」とは何か自分なりに調べ、考えておく 1.5時間

【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間

第6回

【事前】 前週分のノートを復習するとともに、実際にカウンセリングにはどのような技法があるのか自分なりに調べ、考えておく 1.5時間

【事後】 インフォームドコンセントの詳細について、ノートに加筆する 2.5時間

第7回

【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「芸術療法」について自分なりに考えておく 1.5時間

【事後】	「箱庭療法」についてノートに加筆する 2.5 時間
第8回	
【事前】	第1回から第7回のノートを復習するとともに、どのような カウンセリング理論や技法があったかについてまとめておく 1.5時間
【事後】	特に、ロジャースのカウンセリング理論について、その特徴をノートに加筆する 2.5 時間
第9回	
【事前】	前週分のノートを復習するとともに、「きく」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
【事後】	カウンセリングにおける「きく」がどのように有効となるか実際場面から観察し、ノートに加筆する 3.5 時間
第10回	
【事前】	前週分のノートを復習し、「受容」について調べ、考えておく 1.5 時間
【事後】	「同情」と「共感」の違いについて考え、ノートに加筆する 2.5 時間
第11回	
【事前】	前週分のノートを復習し、カウンセリングにおけるカウ ンセラーの言葉かけの仕方自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
【事後】	学修した技法を実際に使ってみて他者との関わりがこれまでとどう違うか観察し、ノートに加筆する 2.5 時間
第12回	
【事前】	前週分のノートを復習するとともに、「芸術療法」について自分なりに考えておく 1.5 時間
【事後】	「箱庭療法」についてノートに加筆する 2.5 時間
第13回	
【事前】	前週分のノートを復習し、相手の「心情」をどのように理 解することができるか自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
【事後】	他者を「尊重する」ことの意味を考え、ノートに加筆する 2.5 時間
第14回	
【事前】	前週分のノートを復習し、「芸術療法」について自分なりに考えておく 1.5 時間
【事後】	実習体験について考え、そのことについてノートに加筆する 2.5 時間
第15回	
【事前】	第1回から第14回のノートを復習する 1.5 時間
【事後】	授業後の日常生活上で、自分自身が具体的にどのようにし てカウンセリング技法を使って行けるか考え、説明できるようにノ ートに加筆する 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、毎授業時に実施する課題について5 回以上の未提出、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場
合においては、
評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で提示された課題、小テスト、ワークへの取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート試験	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	受講者の学習状況により、講義の進め方やシラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13078502	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	健康心理学演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

様々な環境変化に伴い、健康に対する意識を持ち、健康行動を実践する者がいる一方で、自分自身の健康を省みない者もいる。それは心身に何ら問題がなければ健康を意識することは難しいからである。健康心理学はあらゆる人が自分自身の生き方の目標を定め、自分を高める意欲を持ち、健康的に生活するために必要な学問となる。本講義では前期の健康心理学研究法からさらに日常生活上の具体的な健康行動について行動変容の理論を概観するとともに、自身や周りの者の健康問題とその健康行動を変化させるための実践的な健康行動への取り組みを考え、試みることを目的とする。授業はパワーポイントにて行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示するとともに、健康行動について各自(グループ)で調べ、紹介しながら互いの学びを深めていく。事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や紹介された図書や論文をもとに自身のノートに加筆するなど主体的・積極的な学習が必要となる。

到達目標

1. 健康心理学が果たす役割について説明できる。
2. 健康心理学が果たす役割について記述できる。
3. 取り上げた健康心理学の用語を説明できる。
4. 取り上げた健康心理学の用語を記述できる。
5. 健康心理学に関わるデータを収集できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション:授業の概要、今一度「健康」とは何か考えるにあたり、行動変容の理論について概説する
- 【第2回】健康心理アセスメント:健康心理学は何をアセスメントするのか考える
- 【第3回】疾病と生活習慣:健康行動の意味を考える
- 【第4回】健康リスク要因と行動1(実習):喫煙と健康について考えながら、喫煙行動を減らす取り組みやセルフカウンセリングを試みる
- 【第5回】健康リスク要因と行動2(実習):飲酒と健康について考えながら、飲酒行動を減らす取り組みやセルフカウンセリングを試みる
- 【第6回】こころの健康を促進する方法について考える
- 【第7回】こころの健康促進について:発表
- 【第8回】行動変容の実践的適用:自身の運動習慣を行動変容ステージモデルより考える。また、睡眠の質について考える
- 【第9回】子どもの健康問題:どのような心身の問題があるか考え、子どもの心身の健康行動を変容させるための実践的な健康活動について具体的に考える
- 【第10回】女性の健康問題:月経と心身の健康との関連について考える
- 【第11回】高齢者の健康問題:サクセスフルエイジングやターミナルケアについて考える
- 【第12回】健康とソーシャルサポート1:社会的孤立と心身の問題について考える
- 【第13回】健康とソーシャルサポート2:都道府県での健康問題への具体的な取り組みについて知る
- 【第14回】健康とソーシャルサポート3:発表
- 【第15回】まとめ:第1~14回をもとに日常生活における健康心理学の果たす役割を考えながら、自身や他者の健康問題のこれからを考える

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
- 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 授業を受けるにあたってのノート作り 1.0時間
- 【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、健康心理学とは何かを自分なりにまとめるとともに、ノートを準備する 1.0時間
- 第2回
- 【事前】 「アセスメント」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
- 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
- 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「生活習慣病」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
- 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
- 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、喫煙行動と依存について自分なりに調べ、まとめておく 1.5時間
- 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第5回
- 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、お酒が作用する内臓器官や部位について自分なりに調べ、まとめておく 1.5時間

- 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第6回
【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「視床下部」の位置や機能について自分なりに調べ、まとめておく 1.5 時間
【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第7回
【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「ホルモン」や「新陳代謝」とは何か、自分なりに調べ、まとめておく 1.5 時間
【事後】 自身の運動習慣についてさらに考え、実際の行動に移す具体的な案を考える。また、睡眠改善の具体的なプランについても考え、ノートに加筆する。 2.5 時間
- 第8回
【事前】 前週分のノートを復習するとともに、第1回～第7回までに学んだことを今一度自分の言葉でノートにまとめておく 1.5 時間
【事後】 日常生活における自身の行動がどのように心身の健康に影響を及ぼしているかを考えながら、健康心理学が果たす役割について、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第9回
【事前】 子どもの健康問題について自分なりに調べ、まとめておく 1.5 時間
【事後】 子どもの心身の健康な発育に重要な点について考え、ノートに加筆する。 3.5 時間
- 第10回
【事前】 前週分のノートを復習し、「卵胞ホルモン」「黄体ホルモン」について自分なりに調べ、まとめておく 1.5 時間
【事後】 ライフスタイルからみた女性の健康問題について考え、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第11回
【事前】 前週分のノートを復習し、「平均余命」、高齢者の健康問題を自分なりに調べ、まとめておく 1.5 時間
【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第12回
【事前】 前週分のノートを復習し、「ソーシャルサポート」について自分なりに調べ、まとめておく 1.5 時間
【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第13回
【事前】 前週分のノートを復習し、自身が調べた都道府県での健康問題への取り組みについてまとめておく 1.5 時間
【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第14回
【事前】 前週分のノートを復習し、ソーシャルサポートが心身にどのように影響するか改めて考え、自分なりにまとめておく 1.5 時間
【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第15回
【事前】 第1回から第14回のノートを復習する 1.5 時間
【事後】 健康心理学の視点から、自分自身の健康だけでなく、他者の健康にどう関与していけるか考え、説明できるようにノートに加筆する 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、毎授業時に実施する課題について5回以上の未提出、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で提示された課題 (20) 発表 (40)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義を履修する者は前期「健康心理学研究法」も履修しておくが良い。 ・学習の進捗状況により、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13059301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	リラクセーション [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子、山口 直範				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「ストレス社会」にある現代において、私たちは常にストレスに晒されており、ストレスに対応していく必要がある。特にストレス反応に対する対処方法のひとつとして、自分なりのリラクセーション法を身につけておくことである。本講義では、具体的なリラクセーション技法を概観し、自分にあったリラクセーション法に気づき、ストレスコントロールを向上させ、各自の生活や進路に役立てることを目的とする。授業はパワーポイントにて行う講義形式となるが、単に知識の提供だけでなく、各種の具体的なリラクセーション技法を習得することも求められる。そのため、事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や紹介された図書をもとに自身のノートに加筆すること、などの主体的学習が必要となる。

到達目標

1. リラクセーションの効果について説明できる。
2. リラクセーションの効果について記述できる。
3. 各種のリラクセーション技法について説明できる。
4. 各種のリラクセーション技法について記述できる。
5. 各種のリラクセーション技法を使うことができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション:集中講義における学修について
- 【第2回】 事前指導および講義1:履修上の注意およびリラクセーション技法を習得する意味について
- 【第3回】 事前指導および講義2:履修上の注意およびリラクセーションと心身との関連について
- 【第4回】 リラクセーションの必要性とは?
- 【第5回】 呼吸法における心身リラクセスについて
- 【第6回】 自然に触れることによる心身の効果について
- 【第7回】 音楽療法について
- 【第8回】 休息とリラクセーションについて
- 【第9回】 アートセラピーについて(解説と体験)
- 【第10回】 ヨガについて(解説と体験)
- 【第11回】 ヨガが心身に果たす役割について(解説)
- 【第12回】 アロマセラピーについて(解説と体験)
- 【第13回】 アロマセラピーについて(解説と体験)
- 【第14回】 ダンスセラピーについて(解説と体験)
- 【第15回】 まとめ:第1回~第14回までの振り返り

事前事後の学習

学修に必要な総時間数は90時間です。事前事後学習等については、必要に応じて担当教員より指示します。

事前事後学習等については、必要に応じて担当教員より指示するが、以下の事前事後学習内容および時間を参考にすること。

- 第1回
- 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 授業を受けるにあたってのノート作り 1.0時間
 - 【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、普段の自分のリラクセーション法について考え、ノートを準備する 1.0時間
- 第2回
- 【事前】 「リラクセーション」とはなにかについて自分なりに調べ、まとめておく 1.5時間
 - 【事後】 集中講義「リラクセーション」の資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
- 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「心身」の繋がりについて自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 - 【事後】 「心身相関」について、ノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
- 【事前】 現代の生活において「リラクセーション」が果たす役割について自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 - 【事後】 講義資料を熟読し、「リラクセーション」についてノートに加筆する 2.5時間
- 第5回
- 【事前】 「呼吸法」とは何か自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 - 【事後】 講義資料を熟読し、具体的な「呼吸法」についてノートに加筆する 2.5時間
- 第6回
- 【事前】 普段の自身の生活の中で「自然」に触れることで、自分自身にどのような影響があるか考え、まとめる 1.5時間
 - 【事後】 講義資料を熟読し、「自然」が実際に自身の心身にどのような影響を及ぼしていたか、「心身相関」の視点からノートに加筆する 2.5時間
- 第7回

- 【事前】 音楽を「聴く」ことが普段自身にどのような影響があるか観察しておく、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、講義で使用された音楽聴取が、自身の心身にどのような影響を及ぼしていたか、「心身相関」の視点からノートに加筆する 2.5時間
- 第8回
 【事前】 普段の自分の「休息」の仕方について考え、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、実際の「フットマッサージ」が心身にどのような影響を及ぼしていたか、「心身相関」の視点からノートに加筆する 2.5時間
- 第9回
 【事前】 「色彩」が心身にどのような影響があるか自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、「色彩」が、自身の心身にどのような影響を及ぼしていたか、「心身相関」の視点からノートに加筆する 2.5時間3.5時間
- 第10回
 【事前】 「東洋医学」とは何かを自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、「ヨガ」の効果についてノートに加筆する 3.5時間
- 第11回
 【事前】 「自律神経系」とは何かを自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、実際の「ヨガ」が自身の心身にどのような影響を及ぼしていたか、「心身相関」の視点からノートに加筆する 2.5時間
- 第12回
 【事前】 「アロマ」とは何か自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、「香り」が心身に及ぼす影響について、ノートに加筆する 2.5時間
- 第13回
 【事前】 「触れる」ことが心身に及ぼす影響について自分なりに調べ、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、実際に使用したどのようなアロマ成分がどのような効果があったかノートに加筆する 2.5時間
- 第14回
 【事前】 身体を動かすことが心身にどのような影響を及ぼすか考え、まとめる 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、実際の身体の動かし方が、自身の心身にどのような影響を及ぼしていたか、「心身相関」の視点からノートに加筆する 2.5時間
- 第15回
 【事前】 第1回から第14回のノートを復習する 1.5時間
 【事後】 授業後の日常生活上で、自分自身が具体的にどのようにして「リラクゼーション技法」を使っていけるか考え、説明できるようにノートに加筆する 3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、毎授業時に実施する課題について5回以上の未提出、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義中に実施する各種課題	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験	1, 2, 3, 4, 5
その他	20	発言や取り組む姿勢	1, 3, 5

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・本講義は、定員を設定する。定員を超えた場合、各自のGPAに判断する。
- ・本講義は「集中講義」となるため、「事前説明会の参加」が必須となる。
- ・一部講義において、外部講師による講義等を行うため、受講者は学外施設費や研修費を支払う必要が出てくる。
- ・感染症等の社会的な状況により授業形態やその内容、評価方法が変更される場合がある。

授業コード	13078602	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	心理サポート演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

複雑化した世の中において、悩みや不安を抱えることが多くなる。悩みや不安を抱える者を支援するひとつにカウンセリングがある。カウンセリングは世の中に広く知れ渡っているが、実際どのようなことを行っているのだろうか。また、複雑化された現代にあっては、人と人との関わりはますます重要になってくるように思われる。このような中でカウンセリング技法は他者との関わる際に私たちにヒントを与えてくれる。本講義では前期で学んだカウンセリングに必要な基礎知識の説明を行いながら、実際の体験を通してカウンセリングの基礎的技法の習得を目指す。そのため講義では、前期での学んだ技法を実際にどのように活用していけるか具体的な技法について学ぶことを目的とする。授業はパワーポイントにて行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示するとともに、カウンセリングの実習体験、グループワークを通して他者と関わるのが求められる。事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や紹介された図書や論文をもとに自身のノートに加筆すること、さらに、授業で学んだ技法を練習するなどの積極的、主体的学習が必要となる。

到達目標

1. カウンセリングにおける専門用語を記述できる。
2. カウンセリングにおける専門用語を説明できる。
3. カウンセリング基本技法を使うことができる。
4. カウンセリング応用技法を使うことができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション：授業の概要、簡単なワークを通して他者に関わる
- 【第2回】カウンセリング用語：カウンセリングに必要な用語を理解する
- 【第3回】カウンセリングの実際①：カウンセリングがどのように行われているか確認し、どのような「条件」が必要となるか考える
- 【第4回】カウンセリング実際②：子どもの心理カウンセリングについて事例を通して考える
- 【第5回】グループワーク：個人療法と集団療法の違いについて考える
- 【第6回】「仮説」を立てる：他者との関わりから、実際の仮説作りを行う
- 【第7回】前半のまとめ
- 【第8回】カウンセリング実習①：基本技法の確認と、実践
- 【第9回】カウンセリング実習②：応用技法の確認と、実践
- 【第10回】カウンセリング実習③：基本および応答技法を活用し、相手を「理解」する
- 【第11回】カウンセリング実習④：複数人との関わり方について考える
- 【第12回】カウンセリング実習⑤：ロールプレイ
- 【第13回】カウンセリング実習⑥：フォーカシングを学ぶ
- 【第14回】カウンセリング実習⑦：コラージュ療法を体験
- 【第15回】総まとめ：これまでの振り返りと技法実践

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 授業を受けるにあたってのノート作り 1.0時間
 【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、カウンセリングについての基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0時間
- 第2回
 【事前】 カウンセリングにおいて重要となりそうな用語を自分なりに調べ、まとめておく 1.5時間
 【事後】 カウンセリングの基本スタイルについて、ノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「専門性」とは何かを自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 【事後】 「守秘義務」について改めて考え、カウンセリングにおける「倫理」についてノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、他者との関わりにおいて、「非言語」が他者にどのように影響するか自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第5回
 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「集団カウンセリング」について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
 【事後】 講義資料を熟読し、ノートに加筆する 2.5時間
- 第6回
 【事前】 前週分のノートを復習するとともに、「仮説」とは何か自分なりに調べ、考えておく 1.5時間

- 【事後】 インテーク面接の機能と重要性について考えし、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第7回
【事前】 第1回から第7回のノートを復習するとともに、カウンセリングの専門性についてまとめておく 1.5 時間
- 【事後】 事例から、どのように仮説を立てられるか考え、実際の仮説作りについてノートに加筆する 2.5 時間
- 第8回
【事前】 「傾聴」「受容」について確認し、実際にこれらの技法をどのように使っていくことができるか自分なりに考え、まとめておく1.5 時間
- 【事後】 授業内で実践したことを、実生活の場において練習し、どう活用していけるかについてノートに加筆する 2.5 時間
- 第9回
【事前】 前週分のノートを復習するとともに、他者との関わりにおいて「想像する」ことの意味を考え、まとめておく 1.5 時間
- 【事後】 カウンセリングにおける「受容」がどのように有効となるか実際場面から観察し、ノートに加筆する 3.5 時間
- 第10回
【事前】 前週分のノートを復習し、「基本技法」及び「応答技法」について再度自分の言葉で説明、記述しておく 1.5 時間
- 【事後】 知らない他者と関わった場合に、場の「雰囲気」どのように作れるか考え、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第11回
【事前】 前週分のノートを復習し、カウンセリングにおける「記録」の意味を自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
- 【事後】 逐語記録の取り方を練習しておくとともに、逐語記録の作成にあたり、どのような「工夫」ができるか考え、ノートに加筆する2.5 時間
- 第12回
【事前】 前週分のノートを復習し、「ラポール」について今一度調べ、考えておく 1.5 時間
- 【事後】 逐語記録のさらなる練習。他者との関わりにおける自分自身の「癖」をよく観察し、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第13回
【事前】 前週分のノートを復習し、相手の「心情」をどのように理解することができるか自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
- 【事後】 他者を「尊重する」ことの意味を考え、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第14回
【事前】 前週分のノートを復習し、1対複数人との関わり方について自分なりに調べ、考えておく 1.5 時間
- 【事後】 家族療法における基本技法について、ノートに加筆する 2.5 時間
- 第15回
【事前】 第1回から第14回のノートを復習する 1.5 時間
- 【事後】 授業後の日常生活上で、自分自身が具体的にどのようにしてカウンセリング技法を使いながら、他者支援ができるか考え、そのことについて説明できるようにノートに加筆する 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、毎授業時に実施する課題について5回以上の未提出、授業外で実施する課題の未提出、または定期試験に代わるレポートの未提出がある場合においては、評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内で提示された課題、ワークへの取り組み	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ・本講義を履修する者は前期「カウンセリング理論と技法」も履修しておくことを推奨。履修者選抜時には「カウンセリング理論と技法」を受講している者を優先する。
・半期5回以上の課題等の未提出がある場合、または、定期試験に代わるレポートの未提出がある場合は、評価対象外となり、「K」評価となる。

授業コード	13059501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	栄養科学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康維持と増進につながる食生活の基礎、食べ物に含まれる栄養素が私たちの健康にいかに関与しているかを説明し、栄養学の基礎である五大栄養素の代謝と生理的意義、栄養と食生活の関わりについて理解することができるよう説明する。

到達目標

1. 健康と栄養の現状について理解し、説明できる。
2. 食品に含まれる栄養素について理解し、説明できる
3. ライフサイクル(年代)と栄養について理解し、説明できる。
4. 疾患(症状)と栄養の関係について理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 食べることの大切さを知る
- 【第2回】 データでみる健康と栄養の現状
- 【第3回】 栄養素について知る①(栄養基礎)
- 【第4回】 栄養素について知る②(身体・エネルギー源)
- 【第5回】 栄養素について知る③(身体調整)
- 【第6回】 栄養素について知る④(免疫)
- 【第7回】 栄養素の代謝の仕組みについて学ぶ①
- 【第8回】 栄養素の代謝の仕組みについて学ぶ②
- 【第9回】 年代別栄養について学ぶ①(乳幼児期)
- 【第10回】 年代別栄養について学ぶ②(学童・成人期)
- 【第11回】 年代別栄養について学ぶ③(高齢者)
- 【第12回】 食生活について学ぶ
- 【第13回】 症状別栄養について学ぶ①(生活習慣病)
- 【第14回】 症状別栄養について学ぶ②(消化器疾患)
- 【第15回】 症状別栄養について学ぶ③(ストレス)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと
わからないところは放置せず、必ず質問すること
普段の食生活を意識すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料を配布する。

参考書 「栄養の基本がわかる図解辞典」 中村 丁次 監修 成美堂出版 ISBN:978-4-415-32743-3 定価1,540円(税込)

履修条件・他の科目との関連

配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。状況により授業内容の順番など変更する場合があります。

授業コード	13063101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちの健康を維持して幸せに暮らすためには様々な食品を毎日摂りつづけなくてはならないので、食品の分類、食品に含まれている成分や機能、食品の加工などの科学的特徴について正しい知識を身につけることが重要です。食品は安全で美味しいものであることは言うまでもありませんが、人間の健康の維持・増進に寄与することが重要な価値です。現代では、健康と食に関するさまざまな情報が氾濫していますが、これらの情報の真偽や有効性を的確に評価して、科学的に正しい情報を選択して良好な食環境を維持することが大切です。加えて、食品の不適切な摂取に起因する生活習慣病を防ぐこと、乳幼児から高齢者までの様々な世代における低栄養を予防すること、健常状態から要介護へ移行する中間の段階（フレイル）における要介護化を防止することなどにも食品の科学的知識を身につけることが欠かせません。この講義では、食品の分類と成分・機能、加工や微生物の利用、様々な食品と健康との関係などについて具体的な事例をあげながら丁寧に説明します。食品の種類や性質、成分などを的確に把握して健康におよぼす影響について理解し、考察して健康に暮らすために欠かせない基盤的知識とスキルを身につけます。

到達目標

- 1) 食品の分類や成分について理解を深め、有効成分が人間の健康におよぼす影響について、科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。
- 2) 様々な食品の栽培・飼養の歴史や加工の役割と人間の健康におよぼす機能について、科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。
- 3) 健康に暮らし続けるために欠かすことができない様々な食品の成分と機能に関わるスキルを身につけ、食品と健康とのかわりについて、科学的かつ具体的に事例をあげながら的確に説明できるようになります。
- 4) 厚生労働省が発出している「食事摂取基準」や「授乳・離乳の支援ガイド」などを理解して、食品の不適切な摂取に起因する生活習慣病の予防、乳幼児から高齢者までの様々な世代における低栄養予防、健常状態から要介護へ移行する中間の段階（フレイル）における要介護化防止などについて、科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。

授業計画

- 第1回 講義のオリエンテーション（1）：食品の分類や食品成分と機能（健康との関連性）、食品加工などに関するイントロダクション。
- 第2回 食品の分類と食品成分表：複雑な食品分類法（生産様式・原料・栄養素・食習慣などによる分類）と食品成分表の理解（構成と内容・記載項目・表示方法・調理条件・利用上の注意点など）について説明します。
- 第3回 植物性食品（1）：穀類の栽培の歴史、食品科学的特徴や利用などについて具体的な事例をあげながら説明します。
- 第4回 植物性食品（2）：芋類・果実類などの栽培の歴史、食品科学的特徴や利用などについて具体的な事例をあげながら説明します。
- 第5回 植物性食品（3）：果菜類（野菜類・果実類）などの栽培の歴史、食品科学的特徴や利用などについて具体的な事例をあげながら説明します。
- 第6回 植物性食品（4）：スパイス・ハーブ類、伝統的生薬類などの栽培の歴史、食品科学的特徴、薬理的効果（生活習慣病予防など・フレイル化予防効果など）と利用などについて具体的な事例をあげながら説明します。
- 第7回 前半のまとめと復習（中試験・レポート試験）
- 第8回 動物性食品（1）：肉用家畜家禽の飼養の歴史、食品科学的特徴や利用などについて説明します。
- 第9回 動物性食品（2）：乳用家畜家禽・卵用家禽の飼養の歴史、食品科学的特徴や利用などについて説明します。
- 第10回 動物性食品（3）：生命科学的視点からみた食品科学的特徴（乳幼児から高齢者までの様々な世代における低栄養予防効果）と利用などについて具体的な事例をあげながら説明します。
- 第11回 油脂：油脂の分類と製造を解説し、人間の健康におよぼす影響について具体的な事例をあげながら考察します。
- 第12回 発酵食品・調味料・嗜好飲料：発酵食品・調味料・嗜好飲料などの歴史、食品科学的特徴（人間の健康におよぼす様々な効果など）と利用などについて概説し、人間の健康との関わり合いについて具体的な事例をあげながら考察します。
- 第13回 加工食品：食品長期間保存するために発達してきた食品加工の歴史と人間の繁栄にはたしてきた役割について具体的な事例をあげながら説明します。
- 第14回 微生物利用食品・バイオ食品（遺伝子編集食品）などの新規食品：微生物利用の歴史と食品科学的役割を具体的な事例をあげながら説明します。加えて、先端的遺伝子科学を活用した遺伝子組み換え食品や遺伝子編集食品などについて具体的な事例をあげながら説明し、食品の未来について考察します。
- 第15回 後半のまとめと復習
- 第16回 期末試験（レポート試験）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は基本的には対面の講義形式（時にオンデマンド）でおこなうので受動的学習となり、アクティブラーニングの要素を含みませんが、事前に積極的に教科書、参考書の講読やオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfの精読、インターネット検索などによる基礎的知識を身につけたうえで受講することなどが重要です（1. 5時間の事前学習）。事後に講義ノートを整理しながら復習すること、および受講レポートの作成やレポート試験に解答することなどが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

試験などを実施する場合を除いて、授業毎に「講義の概要」と「講義をうけて新たに分かったことや自分で考えたこと、質問したかったことなど」などを記述した受講レポートを実施します。質問があった場合には適時講義中に説明します。「前半のまとめと復習」において実施する中試験や期末試験などを介して自己評価と復習を仰じます。

成績評価の方法・基準(方針)

下記のように、受講の平常点（受講レポートの提出）および授業内試験としてレポート形式で行う小試験と中試験、ならびに期末試験によって成績を総合的に評価します

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内試験として、小試験と中試験としてレポート試験を行います。小試験は適時に実施します。「前半のまとめと復習」と「後半のまとめと復習」の際に中試験を実施します（教員が提示した課題に対するレポートおよび前半の講義の取りまとめ）:30点	1, 2
授業外での評価	40	受講毎の平常点として受講レポートの提出を実施します（受講後に提出する受講レポートの内容を評価します。ただし、小試験・中試験を行う場合には受講レポートの提出を求めないことがあります。):40点	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験を終講後に実施します。教員が提示する課題に対するレポートの内容を評価します:30点	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 「三訂 栄養と健康 第2版」・日本フードスペシャリスト協会編・建帛社・ISBN: 978-4-7679-0661-4。別途、オンラインを通じて授業毎に講義用のパワーポイントのpdfなどを配布します。

参考書 「栄養科学イラストレイテッド食品学Ⅰ」・水品善之ら編・羊土社・ISBN:978-4-7581-0879-9
「栄養科学イラストレイテッド食品学Ⅱ」・栢野新市ら編・羊土社・ISBN:978-4-7581-0880-5
「基礎栄養学(栄養科学イラストレイテッド)」・田地陽一編集・羊土社・ISBN-13:978-4758113502
上記の他に参考資料などを必要に応じて授業の中で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 テキストと参考書およびオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfなどを用いて予習・復習を行って受講してください。講義に際しては、各自がしっかりと自分自身の講義ノートを作成することが求められます。
・状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。
・受講レポート、授業内試験（中試験・レポート試験）、レポート形式の定期試験などは締切期限までに必ず提出してください。提出が遅れた場合は評価しません。

授業コード	13063301	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	基礎調理実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本実習では、調理の基本的な操作の習得と調理理論および各食材の扱い方について学ぶ。授業方法は、調理理論の講義の後、調理方法の説明を行う。調理理論の理解を深めるため、簡単な調理実験を行うこともある。食材選択や調理操作のスキルを身につけ、食から自身の健康管理を行う能力を身につけることを目標とする。

到達目標

1. 調理の基本的な用語を使用できる。
2. 基本的な調理ができる。
3. レシピを読み調理することができる。
4. レシピを作成することができる。

授業計画

【第1回】 テーマ：調理実習を始めるにあたって 内容・方法：オリエンテーション（受講するにあたって、衛生管理、食中毒について）
【第2回】 テーマ：基本的な調理操作（食材と調味料の計量方法） 内容・方法：スコーン、ジャム、紅茶
【第3回】 テーマ：基本的な調理操作と理論（炊飯、包丁、まな板の使い方について） 内容・方法：ピザトースト、サラダ、コーンスープ
【第4回】 テーマ：基本的な調理操作と理論（炊飯の方法、様々な食材の切り方と名称について） 内容・方法：豚汁、白飯
【第5回】 テーマ：基本的な調理操作（食品の下処理方法、オーブンの使い方） 内容・方法：涼伴麺、中華クッキー、中国茶
【第6回】 テーマ：基本的な西洋料理（野菜の切り方、ゲル化剤の使用法） 内容・方法：ハンバーグステーキ、コンソメジュリエヌ、サラダ、ゼリー
【第7回】 テーマ：基本的な中華料理（調理計画、蒸す調理、食材の切り方、ゲル化剤の使用法） 内容・方法：肉とピーマンの炒め物、春雨スープ、中華風茄子のおひたし、牛乳かん、白飯
【第8回】 テーマ：基本的な日本料理（卵の調理、肉の扱い方、だしの取り方、漬物） 内容・方法：親子どんぶり、すまし汁、きゅうりの浅漬け、和菓子
【第9回】 テーマ：実技試験（調理の段取り、調理法の復習） 内容・方法：指定された献立の料理すべてを制限時間内に調理する。
【第10回】 テーマ：基本的な日本料理（魚の焼き方、漬物、酢の物、卵の調理） 内容・方法：鯛の木の芽焼き（新ショウガの甘酢漬け添え）、わかめの酢の物、茶碗蒸し、白飯
【第11回】 テーマ：基本的な西洋料理（魚の焼き方、乳製品の扱い方、イモの調理、魚の臭みの取り方） 内容・方法：サーモンのムニエル、粉ふきいも、スープ、アイスクリーム、サラダ
【第12回】 テーマ：基本的な日本料理 内容・方法：肉じゃが、なめこと豆腐の味噌汁、白飯、白玉あんみつ
【第13回】 テーマ：基本的な行事食（ハレの日の料理等） 内容・方法：ちらし寿司、ほうれん草のゴマ和え、素麺のすまし汁、わらびもち
【第14回】 テーマ：基本的な西洋料理 内容・方法：サンドウィッチ、フルーツポンチ、パウンドケーキ、アイ스티ー
【第15回】 テーマ：小テスト、基本的な調理器具や道具の手入れについて 内容・方法：小テスト、実習器具、食器等の片づけ、大掃除
【第16回】 テーマ：基礎調理実習で学んだことを振り返る 内容・方法：Googleクラスルーム内に指示された課題にとりくみ期限内に提出する

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】

- ①事前学修課題：シラバスを熟読する。教科書第1章「危機管理」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：食中毒についてその原因と予防法についてノートにまとめる。

【第2回】

- ①事前学修課題：教科書第2章「調理の基本と工夫」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、各食材、調味料の計量方法などを感想などととも実習ノートにまとめる。

【第3回】

- ①事前学修課題：教科書第7章「汁物、スープ」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。

【第4回】

- ①事前学修課題：教科書第6章「ご飯」を読んでノートにまとめる。
食材の切り方の名称をノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる

【第5回】

- ①事前学修課題：教科書第14章を読み、小麦および小麦加工品の扱い方、調理のポイントについてノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。実技テストに備え、実技の練習を行う。

【第6回】

- ①事前学修課題：教科書第9章獣鳥肉料理「ハンバーグステーキ」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる

【第7回】

- ①事前学修課題：教科書第13章「寄せ物」を読んでゲル化についてノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。実技テストに備えて、各実習班で手順をまとめる。

【第8回】

- ①事前学修課題：実技試験に備え、各実習班で打ち合わせを行い、担当を決めてノートにまとめる。
- ②事後学修課題：テスト内容と結果、反省点や感想などを実習ノートにまとめる。

【第9回】

- ①事前学修課題：教科書第2章調理作業計画を読み実技テストの手順や計画についてノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。

【第10回】

- ①事前学修課題：教科書第8章「魚料理」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。

【第11回】

- ①事前学修課題：教科書第14章パン、包子、菓子、麺類「小麦の種類と特徴」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。

【第12回】

- ①事前学修課題：アイスクリームの原理と種類について調べ、ノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。

【第13回】

- ①事前学修課題：教科書第15章行事食「菜の花ちらしずし」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。

【第14回】

- ①事前学修課題：第14章「パウンドケーキ」を読んでノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習内容とポイント、感想などを実習ノートにまとめる。

【第15回】

- ①事前学修課題：今まで学んだことを振り返る。
- ②事後学修課題：器具の手入れの方法についてノートにまとめる。

【第16回】

- ① 課題に取り組み提出する。

課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時にフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

レポート課題とはクラスルームに掲示された課題の事を指す。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業に取り組む態度(30)	1
授業外での評価	60	毎回の課題提出 (全15回)(各4)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート課題の提出 (10)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	基礎調理実習/小川宣子/化学同人/2500/978-4-7598-1078-3
参考書	テキストは後期開講科目「応用調理実習」と共通です。
履修条件・他の科目との関連	初回の授業時に授業内容、実習費等説明するので、受講希望者は必ず出席すること。エプロン、三角巾(バンダナ可)を各自準備すること。3回の遅刻は1回の欠席とする。30分以上の遅刻は欠席とする。◎実習費は、別途徴収する。期限までに納入すること(7500円を予定)。◎無断欠席、遅刻等他の受講生に対し迷惑となる行為を繰り返した場合は単位認定しない。実習内容および順序は材料調達の状況や諸事情により変更となることがある。◎レポートの提出は主としてGoogleクラスルーム内で行うため、必ず登録すること。

授業コード	13063401	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	応用調理実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

基本的な調理技術をもとに、各種材料を用いて応用調理を行い、各種調理操作別献立、旬の食品を使用した献立、日本をはじめ各国の食文化について理解を深める。本実習を通して調理技術だけでなく食事を構成する能力を養い、配膳方法や食事マナー、行事食、世界の料理などについても学ぶ。授業は、調理理論や製菓理論、食文化論等の講義および調理技術などの説明を行う。離乳食や咀嚼嚥下困難食、アレルギー対応食等の病者対応、宗教禁忌についても説明を行う。

到達目標

1. 調理の基本的な操作ができる。
2. 調理した食材の特徴を知り、調理することができる。
3. 実習で習得した料理を実生活で作ることができるようになる。
4. 料理に関する歴史や文化について説明することができる。

授業計画

<p>【第1回】 テーマ：オリエンテーション（実習内容、衛生管理、実習室使用法等説明） 内容・方法：後期実習内容の説明、スクラブ法の実践、衛生管理について講義 ＊調理実習室以外の教室で実施予定（教室は後日Googleクラスルーム等で連絡）</p> <p>【第2回】 テーマ：調理の基本操作（日本料理） 内容・方法：鶏そぼろ丼、味噌汁、薄揚げときゅうりのゴマ酢和え</p> <p>【第3回】 テーマ：西洋料理（イタリア料理） 内容・方法：アマトリチャーナ（パスタ）、くるみサラダ、スノーボール、紅茶</p> <p>【第4回】 テーマ：日本料理（味付け飯、和菓子、緑茶の入れ方） 内容・方法：炊き込みご飯、おでん、大根のきんぴら、大福、緑茶</p> <p>【第5回】 テーマ：西洋料理（米料理、焼き菓子、レギュラーコーヒーの入れ方） 内容・方法：鯛のオープン焼き、リゾット、アレルギー対応西洋菓子、コーヒー</p> <p>【第6回】 テーマ：中国料理（卵料理、中国茶の種類と入れ方） 内容・方法：レタスチャーハン、カニ玉、中華風和え物、ウズラ卵のスープ、中国茶</p> <p>【第7回】 テーマ：西洋料理・食事バランスガイドについて（弁当メニュー作成・計画） 内容・方法：エビグラタン、カボチャサラダ、スイートポテト、食事バランスガイドにもとづいた弁当メニューの作成</p> <p>【第8回】 テーマ：食事バランスガイドにもとづいた弁当実習・発表 内容・方法：各実習班で計画した弁当献立に基づき、4名分の弁当を作る。</p> <p>【第9回】 テーマ：日本料理の応用料理2（郷土料理） 内容・方法：煮魚、れんこん饅頭、小松菜の煮浸し、他</p> <p>【第10回】 テーマ：エスニック料理 内容・方法：カレー（スパイスの調合）、ナン、フルーツサラダ、クッキー</p> <p>【第11回】 テーマ：中国料理（豆腐料理、点心） 内容・方法：麻婆豆腐、白菜のカニあんかけ、マラーカオ</p> <p>【第12回】 テーマ：行事食（クリスマス）、テーブルコーディネート 内容・方法：鶏肉料理、トマトのブルスケッタ、ポターージュ、デコレーションケーキ</p> <p>【第13回】 テーマ：行事食（おせち料理） 内容・方法：養老海老、ブリの照り焼き、ごまめ、紅白なます、栗きんとん、赤飯など</p> <p>【第14回】 テーマ：行事食としてのふるさとのお雑煮 調理、試食、発表 内容・方法：各自各家庭、または地域の雑煮の再現。雑煮にみられる地域性について考える。</p> <p>【第15回】 テーマ：確認小テスト・離乳食、咀嚼嚥下困難食について テーブルマナー 内容・方法：実習内容についての小テスト、市販の離乳食や嚥下困難食の試食、テーブルマナー講習、実習室の</p>

掃除
【第16回】
テーマ：応用調理実習の振り返り
内容・方法：適宜課題を提出

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

毎回につき 1.5 時間ほどの事前学習および3時間ほどの事後学習が必要である。

【第1回】

- ①事前学修課題：教科書第1章危機管理について熟読する。
- ②事後学修課題：食品衛生管理について実習ノートにまとめる。

【第2回】

- ①事前学修課題：教科書を参考にし、米の調理、だしの取り方について実習ノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第3回】

- ①事前学修課題：パスタの種類および調理法について調べる。紅茶の種類と入れ方について調べる。種実類（ナッツ）の種類について調べる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第4回】

- ①事前学修課題：教科書第6章ご飯6.3調理のポイントを読み、ノートにまとめる。緑茶の製法と種類、入れ方についてノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第5回】

- ①事前学修課題：リゾットに適した米の種類について調べる。コーヒーの入れ方についてノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第6回】

- ①事前学修課題：中国茶の種類と入れ方についてノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第7回】

- ①事前学修課題：教科書第8章「えびとほうれんそうのグラタン」をノートにまとめる。
- ②事後学修課題：各実習班のメンバーで実習の計画、注意点などを実習ノートにまとめる。

【第8回】

- ①事前学修課題：弁当のレシピを読み、各班で調理方法の注意点や分担を決める等打ち合わせを行い、ノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第9回】

- ①事前学修課題：教科書第8章8.3魚調理のポイントを読み、ノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第10回】

- ①事前学修課題：カレーに使用するスパイスの種類について調べ、ノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第11回】

- ①事前学修課題：中国の調味料、香辛料および中華菓子について調べた内容をノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第12回】

- ①事前学修課題：世界各国のクリスマスの料理について調べる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第13回】

- ①事前学修課題：教科書第15章行事食15.1 正月の献立とその由来について読み、ノートにまとめる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第14回】

- ①事前学修課題：雑煮について調べ、自身が食しているまたは自身が住んでいる地域の雑煮のレシピを完成させる。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

【第15回】

- ①事前学修課題：実習内容の総復習を行う。
- ②事後学修課題：実習の内容、注意点、改善点、感想などを実習ノートにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

各回の実習ノート返却時に適宜実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

実習時の受講態度および課題提出および内容、期末レポートにより評価する。理由なき欠席（5回以上）およびノートや課題提出がなかった場合は評価を「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	受講態度(60)	1, 2, 3
授業外での評価	30	各回の実習ノート(15回提出)(各2)	3, 4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート(10)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	基礎調理実習/小川宣子/化学同人/2500/978-4-7598-1078-3
------	-----------------------------------------

参考書	<p>◎テキストは前期開講「基礎調理実習(旧カリキュラム名:調理実習Ⅰ)」で使用したものと同じです。</p> <p>◎参考書「調理学: おいしく安全に調理を行うための科学の基礎」久木久美子他著、化学同人</p>
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>・「基礎調理実習」を履修済であることが望ましい。受講希望者は、初回の授業に必ず出席、教科書は実習前に購入、必携とする。白衣または割烹着などの長袖のもの(エプロン不可)、帽子または頭全体を覆える大きさの三角巾(バンダナ)を各自準備すること。調理実習室の衛生管理のルールに従うこと。無遅刻が条件。3回の遅刻は1回の欠席、30分以上の遅刻は欠席とする。◎実習費別途徴収(8500円を予定)。無断欠席、遅刻等他の受講生に対し迷惑となる行為を繰り返した場合は単位認定しない。実習内容や実施回は材料調達の状況で変更となる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策等の理由で実習が遠隔となる場合があります。その際は随時ユニパまたはGoogleクラスルーム等で連絡いたします。 ・欠席した講義の資料については、次回の実習時に申し出て受け取ってください。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13063501	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	食品栄養実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾関 清子				
シラバス執筆(主)	尾関 清子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

加工・調理による食品成分の変化について学ぶ。理論を理解し、食品のサンプリング方法や結果の解析手法を身につけることを目的とする。実習はグループで行い、実習終了後にレポートの提出を義務付け、科学的・論理的なものを見方ができる力を養う。
加工・調理による食品成分の変化について学ぶ。

到達目標

1. 調理・加工中の食品成分の変化について理解できる
2. 正しく比較を行うことができる
3. サンプリングの重要性について理解できる

授業計画

【第1回】テーマ：オリエンテーション
内容・方法：授業の進め方について
レポートの書き方について
【第2回】テーマ：計量に関する実験
内容・方法：計量器具を用いてその再現性について確認する
【第3回】テーマ：だし汁に関する実験
内容・方法：鰹節やコンブ、風味調味料を比較する
【第4回】テーマ：乾物の実験
内容・方法：乾物の戻し方と吸水率を調べる
【第5回】テーマ：野菜に関する実験
内容・方法：表面積と脱水率と吸水率について調べる
【第6回】テーマ：イモの種類に関する実験
内容・方法：イモの種類と調理性について比較する
【第7回】テーマ：リンゴの種類と調理性に関する実験
内容・方法：リンゴの種類によってジャムの加工特性がどのように変化するか調べる
【第8回】テーマ：卵の加熱特性を知る
内容・方法：ゆで卵の加熱による変化について調べる
【第9回】テーマ：米粉の実験
内容・方法：米粉の種類と加工特性を調べる
【第10回】テーマ：ゲル化剤に関する実験
内容・方法：各種ゲル化剤の特徴について調べる
【第11回】テーマ：卵液の調理性に関する実験
内容・方法：卵液の希釈割合と副材料による調理性の違いを調べる
【第12回】テーマ：食品の色の変化に関する実験
内容・方法：食品に含まれる成分による色の変化を調べる
【第13回】テーマ：ゼラチンの性質に関する実験
内容・方法：ゼラチンの特性について調べる
【第14回】テーマ：豆乳と牛乳を固める
内容・方法：豆乳とにがり、牛乳と酸の関係を調べる
【第15回】テーマ：溶けないアイスを作ろう
内容・方法：溶けないアイスを作ってなぜ溶けないか考える

* 食材納入状況等により、実習順、実習内容を変更することがあります

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前に教科書(またはプリント)に目を通し、基礎的な知識や事例を身につけておくこと、事後にノート(またはプリント)を整理しながら復習することが必要です。

課題に対するフィードバックの方法

レポートの際の課題の内容を、振り返り授業を行うことで重要な内容を確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での評価：実習へとり組む姿勢を評価
実習内容の把握について評価
班員との協力姿勢(下準備、当番などを含む)を評価

授業外での評価：レポートと課題の完成度について評価

定期試験に代わる課題：15回の授業後、課題の完成度について評価

正当な理由なく、5回を超えて欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実習へのとり組姿勢を評価(30) 実習内容の把握について評価(10) 班員との協力姿勢の評価(10)	1, 2, 3
授業外での評価	30	実習レポートの完成度を評価(30)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	実習授業の振り返りをレポートとして課し、その内容を評価する(20)	1, 2
その他	0		

テキスト	プリント(実験計画書)を配布
------	----------------

参考書	授業中に適宜紹介します
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	<p>この授業は、フードスペシャリストの資格試験に必須です。食品学、栄養学の知識も必要です。また、実習にあたっては、白衣かエプロン、三角巾(バンダナでも可能)が必要です。忘れた場合は実習は受けられません。 実習材料費として2500円徴収します。 実習室への入室に人数制限があります。フードスペシャリストの資格取得希望者を優先して、選別する場合があります。 遅刻3回で1回の欠席、30分以上の遅刻は認めません。5回を超えての欠席は「K」評価となります。</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13063601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	調理学 [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

調理学では、食品を食品衛生上安全で、消化がよくおいしい食べ物にするために必要な調理の基礎的な理論を学ぶ。食物のおいしさは、色、味、香り、口あたり、温度などで左右されるが、それらの要因は調理過程で起こる食品成分の変化により作られる。よりおいしく食べ物を調理するためには、食品材料の種類、食品の機能や調理操作の意義、食品と成分の調理変化等を知る必要がある。本講義で学んだ内容を調理実習にて実践できるように食材（実物）を講義中に使用することもある。

到達目標

1. 食品の調理特性を説明することができる。
2. 調理器具の素材や使用方法について説明することができる。
3. 調理の理論にもとづき、各調理法の説明ができる。
4. おいしさについて科学的に説明することができる。

授業計画

★この授業は、遠隔授業となります。原則として、リアルタイム型授業で実施予定です。参加方法などの詳細は、追って案内します。

【第1回】

テーマ：調理の目的

内容・方法：調理を行う目的について学ぶ

【第2回】

テーマ：食べ物のおいしさ

内容・方法：食べ物のおいしさのメカニズムについて学ぶ

【第3回】

テーマ：調理操作と調理機器

内容・方法：非加熱調理操作、加熱調理操作について学ぶ

【第4回】

テーマ：米と小麦の調理

内容・方法：米と小麦の調理について学ぶ

【第5回】

テーマ：いも類、豆類、種実類の調理

内容・方法：いも類、豆類、種実類の調理について学ぶ

【第6回】

テーマ：野菜、果物、きのこ類、藻類の調理

内容・方法：野菜、果物、きのこ、藻類の調理について学ぶ

【第7回】

テーマ：動物性食品の調理（食肉類）

内容・方法：食肉類の調理について学ぶ

【第8回】

テーマ：動物性食品の調理（魚介類）

内容・方法：魚介類の調理について学ぶ

【第9回】

テーマ：動物性食品の調理（卵類）

内容・方法：卵類の調理について学ぶ

【第10回】

テーマ：動物性食品の調理（牛乳、乳製品）

内容・方法：牛乳、乳製品の調理について学ぶ

【第11回】

テーマ：油脂類の調理

内容・方法：油脂類の調理について学ぶ

【第12回】

テーマ：ゲル化剤、とろみ剤の調理

内容・方法：ゲル化剤、とろみ剤の調理について学ぶ

【第13回】

テーマ：調味料、香辛料の調理

内容・方法：調味料、香辛料の調理について学ぶ

【第14回】

テーマ：フードスペシャリスト対策

内容・方法：フードスペシャリストの試験過去問題解説により資格試験の傾向を知る

【第15回】

テーマ：振り返り小テスト、解説およびまとめ

内容・方法：振り返り小テストの実施、解説、まとめ

【第16回】

テーマ：調理学の振り返り
内容・方法：適宜課題を提出

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容の復習と、授業ノートの整理を行うこと。復習テストのための準備や予習等、毎回1.5時間程度の事前学習および2.5時間程度の事後学習が必要。
授業で使用した資料はGoogleクラスルームに授業終了後に掲示するので適宜使用すること。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト返却時にフィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

授業に取り組む態度および授業内の確認テストの結果、期末レポートにより評価する。教科書を必携とし、講義内で適宜教科書の内容について質問をするのでその際の質疑応答により評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業に取り組む態度 (60) 15回目に実施する確認テスト(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	調理学: おいしく安全に調理を行うための科学の基礎 / 久木久美子 / 化学同人 / 2268 / 978-4-7598-1450-7
------	---------------------------------------------------------------------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修条件・他の科目との関連	毎回講義では教科書を中心に講義を進めるため、指定された教科書を必携とする。 フードスペシャリスト資格取得に必要な科目です。基礎調理実習、応用調理実習を履修することにより、より理解を深めることができます。 欠席した講義の資料はGoogleクラスルームに各回講義終了後に掲示する場合があります。その際は確認し、提出物の指示がある場合は期日までに提出すること。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13063701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品衛生学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

食品の多様化、流通の国際化、健康志向の増大、安全への関心など食品をめぐる環境が著しく変化し、私たちの食生活の内容も大きく変わってきています。それに伴い大規模な食中毒の発生、残留農薬、食品添加物、異物の混入、遺伝子組み換え食品、水質汚染、その他有害物質による食品の汚染など多くの食に関係する問題点や課題を整理し、理解することができるよう説明する。

到達目標

1. 食品の安全性について理解し、説明できる。
2. 食品の腐敗と微生物・食中毒について理解し、説明できる
3. 食品の安全性の確保と維持について理解し、説明できる。
4. 食品の安全管理について理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 食品の安全性
- 【第2回】 食品衛生微生物の基礎知識
- 【第3回】 食品の腐敗・変敗とその防止法
- 【第4回】 食中毒（食中毒の分類、発生状況、微生物性食中毒・自然毒食中毒）
- 【第5回】 食中毒（化学性食中毒、寄生虫・原虫感染症）
- 【第6回】 食品の安全性の確保（食肉加工品、生鮮魚介類、水産加工品、野菜・果実類、乳・乳製品）
- 【第7回】 食品の安全性の確保（鶏卵、惣菜類、弁当等、食用油脂、冷凍食品）
- 【第8回】 食品の安全性の保持
- 【第9回】 環境汚染と食品（環境汚染、残留性有機汚染物質）
- 【第10回】 環境汚染と食品（農薬、有機金属、放射性物質）
- 【第11回】 器具および容器包装
- 【第12回】 水の衛生
- 【第13回】 食品の安全流通と表示（食品の表示、食品添加物）
- 【第14回】 食品の安全流通と表示（輸入食品、遺伝子組み換え食品、食品とアレルギー・癌）
- 【第15回】 食品の安全管理

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと
わからないところは放置せず、必ず質問すること
普段の食生活の安全性を意識すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 「三訂 食品の安全性 第3版」 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN: 978-4-7679-0715-4 定価2,310円(税込)

参考書

履修条件・他の科目との関連

教科書を読み、知らない用語を書きだし、調べておきましょう。専門用語に何度もふれることで、知識が定着します。
配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。
状況により授業内容の順番など変更する場合があります。

授業コード	13063801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品流通論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

食品の安定した供給について生産、流通、加工、消費まで一連の流れを説明し、食品流通を通じてフードシステムの全体像を的確に把握すると同時に、安全な食品を安定して供給するシステムが私たちの幸せな暮らしのために欠かせないものであることを理解することができるように説明する。

到達目標

1. 食生活の多様化など食市場の変化について理解し、説明できる。
2. 食品の流通について理解し、説明できる
3. フードマーケティングについて理解し、説明できる。
4. 食料消費の課題について理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 現代における食市場の変化
- 【第2回】 食品の流通の役割、社会的使命
- 【第3回】 外食・中食産業のマーチャンダイジング
- 【第4回】 主要食品の流通（主食の流通）
- 【第5回】 主要食品の流通（副食の流通）
- 【第6回】 主要食品の流通（中食、嗜好食品の流通）
- 【第7回】 第1回から第6回までのまとめ（食市場、食品流通、外食・中食産業、主要食品流通）
- 【第8回】 フードビジネス
- 【第9回】 デジタルフードマーケティング
- 【第10回】 食料消費の課題（消費と環境問題）
- 【第11回】 食料消費の課題（食品流通の安全性確保）
- 【第12回】 食料消費の課題（さまざまな課題）
- 【第13回】 食料消費の課題（自分達で考えてみよう）
- 【第14回】 食料消費の課題（発表）
- 【第15回】 第8回から第12回までのまとめ（フードマーケティング、食料消費の課題）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと
わからないところは放置せず、必ず質問すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	「四訂 食品の消費と流通」 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN:978-4-7679-0687-4 定価2,090円(税込)
参考書	

履修条件・他の科目との関連

教科書を読み、知らない用語を書きだし、調べておきましょう。専門用語に何度もふれることで、知識が定着します。
配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。
状況により授業内容の順番など変更する場合があります。

授業コード	13063901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品科学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちは、様々な食品を毎日摂りつづることで健康を維持できて幸せに暮らすことができます。様々な食品を適切に摂るためには、食品に含まれている多様な成分の化学的特性や物性、嗜好成分などの健康機能性などについて正しい科学的知識を身につけて食品がどのように生命現象に関わっているのか理解することが重要です。この講義では、食品の一次機能（生命現象を営むために必要不可欠なエネルギー源や生体構成成分の補給に必要な栄養素としての機能）、食品の二次機能（食品自体あるいは食品成分が生体の感覚器に影響を及ぼすことにより発現する嗜好性に関わる機能のことで「感覚機能」と呼ばれることもある）、食品の三次機能（生体リズムの調節、疾病の予防・回復、健康の維持や向上に関与する生体調節機能）などについて具体的な事例をあげながら生命科学的視点にたって説明します。食品成分の種類や特性、生理・薬理的機能などを的確に把握し、各々の食品が健康におよぼす影響について理解し考察することで、健康を維持して幸せに暮らしていくために欠かせない基礎的知識とスキルを身につけます。

到達目標

- 1) 食品に含まれる様々な栄養成分の各々の化学的特性について科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになり、食品成分の化学的基礎力を身につけます。
- 2) 食品の物性や食品成分の変化・変性について理解し、人間の健康を害する場合や健康を増進する場合などについて科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになり、食品の開発・製造・販売などに関わる領域のスペシャリストとしての技能を身につけます。
- 3) 健康に暮らし続けるために欠かすことができない様々な食品の機能、特に疾病の予防や健康の増進などの生体調節機能に関わる生命科学的メカニズムを理解し、食品と健康のかかわりについて科学的かつ具体的に事例をあげながら適切に説明できるようになります。
- 4) 食品の食品の一次機能（生命現象を営むために必要不可欠なエネルギー源や生体構成成分の補給に必要な栄養素としての機能）、食品の二次機能（食品自体あるいは食品成分が生体の感覚器に影響を及ぼすことにより発現する嗜好性に関わる機能のことで「感覚機能」と呼ばれることもある）、食品の三次機能（生体リズムの調節、疾病の予防・回復、健康の維持や向上に関与する生体調節機能）一次機能、二次機能、三次機能について理解を深め、食品が人間の健康におよぼす影響について科学的かつ具体的に事例をあげながら説明できるようになります。

授業計画

- 第1回 講義のオリエンテーション（1）：食品科学の概要ならびに食品に含まれる様々な栄養成分の化学的特性などに関するイントロダクション。
- 第2回 講義のオリエンテーション（2）：人間と食品：食品には単にエネルギー源としての役割だけでなく、常に死滅と再生を繰り返している身体の材料としての役割があることを説明します。次いで、食品の成分のなかには、血圧、血糖、血中脂質などを正常に保つことやお腹の調子を整えたりするのに役立つなどの身体の生理学的機能に影響を与えるものも知られていることを説明します。
- 第3回 食品の一次機能（1）：食品の一次機能とは栄養機能、すなわち生命現象を営むために必要不可欠なエネルギー源や生体構成成分の補給に必要な栄養素としての機能です。3大栄養素のひとつの炭水化物の化学構造や特性について説明します。
- 第4回 食品の一次機能（2）：植物油、動物脂、魚油などの3大栄養素のひとつの油脂の化学構造や特性について説明します。
- 第5回 食品の一次機能（3）：3大栄養素のひとつのタンパクとそれを構成するアミノ酸の化学的特性とタンパクの構造変化と変性について説明します。
- 第6回 食品の二次機能（1）：食品の二次機能とは嗜好性にかかわる機能、すなわち食品自体あるいは食品成分が生体の感覚器に影響を及ぼすことにより発現する嗜好性に関わる機能のことで、「感覚機能」と呼ばれることもあります。食品に含まれる色素成分、呈味成分、香気成分などの化学構造や特性について事例をあげながら説明します。
- 第7回 食品の二次機能（2）：官能評価の方法や特徴、食品に含まれる有害成分などについて事例をあげながら説明します。
- 第8回 前半のまとめと復習（中試験・レポート試験）
- 第9回 食品の三次機能（1）：食品の三次機能とは疾病の予防や健康の増進などの生体調節機能、すなわち生体リズムの調節、疾病の予防・回復、健康の維持や向上に関与する機能のことで、吸収前に口腔内や消化管内で作用する食品について事例をあげながら説明します。
- 第10回 食品の三次機能（2）：吸収後に肝臓や血管などの標的臓器で作用する食品について事例をあげながら説明します。
- 第11回 食品の三次機能（3）：健康食品の作用機構を実例をあげながら説明し、実例をあげながらリスクとベネフィットについて考察します。
- 第12回 食品成分の変化・変性：食品の変化・変性（澱粉の糊化、脂質の酸化、食肉の変色や褐変）がおこる化学機構を理解し、それを予防する手法を考察します。
- 第13回 食品の物性：食品の品質に支配的に影響するコロイド分散、レオロジー（弾性・粘性・粘弾性の測定）、テクスチャーなどについて事例をあげながら説明します。
- 第14回 食品の表示と規格基準：食品にかかわる主要な法令（食品衛生法・健康増進法・農林水産食品の規格化等に関するJAS法）と食品表示の制度について事例をあげながら説明します。

第15回 後半のまとめと復習
第16回 期末試験（レポート試験）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は基本的には対面の講義形式（時にオンデマンド）でおこなうので受動的学習となり、アクティブラーニングの要素を含みませんが、事前に積極的に教科書、参考書の講読やオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfの精読、インターネット検索などによる基礎的知識を身につけたうえで受講することなどが重要です（1. 5時間の事前学習）。事後に講義ノートを整理しながら復習すること、および受講レポートの作成やレポート試験に解答することなどが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

試験などを実施する場合を除いて、授業毎に「講義の概要」と「講義をうけて新たに分かったことや自分で考えたこと、質問したかったことなど」などを記述した受講レポートを実施します。質問があった場合には適時講義中に説明します。「前半のまとめと復習」において実施する中試験や期末試験などを介して自己評価と復習を即します。

成績評価の方法・基準(方針)

下記のように、受講の平常点（受講レポートの提出）および授業内試験としてレポート形式で行う小試験と中試験、ならびに期末試験によって成績を総合的に評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内試験として、小試験と中試験としてレポート試験を行います。小試験は適時に実施します。「前半のまとめと復習」と「後半のまとめと復習」の際に中試験を実施します（教員が提示した課題に対するレポートおよび前半の講義の取りまとめ）:30点	1, 2
授業外での評価	40	受講毎の平常点として受講レポートの提出を実施します（受講後に提出する受講レポートの内容を評価します。ただし、小試験・中試験を行う場合には受講レポートの提出を求めないことがあります。):40点	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験を終講後に実施します。教員が提示する課題に対するレポートの内容を評価します:30点	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 「三訂 栄養と健康 第2版」・日本フードスペシャリスト協会編・建帛社・ISBN: 978-4-7679-0661-4。別途、オンラインを通じて授業毎に講義用のパワーポイントなどのpdfを配布します

参考書 「栄養科学イラストレイテッド食品学Ⅰ」・水品善之ら編・羊土社・ISBN:978-4-7581-0879-9
「栄養科学イラストレイテッド食品学Ⅱ」・栢野新市ら編・羊土社・ISBN:978-4-7581-0880-5
「基礎栄養学(栄養科学イラストレイテッド)」・田地陽一編集・羊土社・ISBN:978-4758113502
上記の他に参考資料などを必要に応じて授業の中で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 テキストと参考書およびオンラインを通じて配布する講義用のパワーポイントのpdfなどを用いて予習・復習を行って受講してください。講義に際しては、各自がしっかりと自分自身の講義ノートを作成することが求められます。
・状況により授業内容の一部および順番、授業形態などを変更する場合があります。
・受講レポート、授業内試験（中試験・レポート試験）、レポート形式の定期試験などは締切期限までに必ず提出してください。提出が遅れた場合は評価しません。

授業コード	13064001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	食品の官能評価・鑑別演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

食品官能評価とは視覚、嗅覚、味覚、触覚、聴覚といった人の五感の能力を利用して食品を評価することであり、人が判断する食品官能評価を科学的な評価法にするためには、再現性の確保や統計的な分析が必要となる。そうした手法を説明するとともに食品の品質に影響するさまざまな事を説明する。フードスペシャリスト資格認定試験の合格に必要な知識を学ぶ。

到達目標

1. 食品官能評価の方法について基礎から応用に至るまでの幅広い知識を持ち説明できる。
2. 食品官能評価を科学的な測定法とするために必要な統計学的な知識と手法を身につけ説明できる。
3. 化学的評価法、物理的評価法についてその特徴と代表的な評価法を理解し説明できる。
4. フードスペシャリスト認定試験の合格に必要な知識をつけ説明できる。

授業計画

- 【第1回】 食品官能評価の基本と実施法を学ぶ
- 【第2回】 食品成分と品質について学ぶ
- 【第3回】 五味の識別テスト
- 【第4回】 化学的品質評価について学ぶ
- 【第5回】 レオロジー、テクスチャーについて学ぶ
- 【第6回】 物理的性質評価法について学ぶ
- 【第7回】 米、麦類、トウモロコシ、雑穀類について学ぶ
- 【第8回】 イモ類、豆類について学ぶ
- 【第9回】 種実類、野菜類、キノコ類について学ぶ
- 【第10回】 果実類、海藻類、魚介類について学ぶ
- 【第11回】 肉類、卵とその加工品について学ぶ
- 【第12回】 乳と乳製品、油脂、菓子類について学ぶ
- 【第13回】 酒類、茶類、コーヒー類、清涼飲料、醸造食品について学ぶ
- 【第14回】 調味料、香辛料、インスタント食品冷凍食品、弁当、機能性食品について学ぶ
- 【第15回】 官能評価、化学的評価法、物理的評価法、個別食品の鑑別について再度理解を深める過去問題の対策を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと
わからないところは放置せず、必ず質問すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 四訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN: 978-4-7679-0753-6 定価2,640円(税込)

参考書	
履修条件・他の科目との関連	<p>日頃から食品を五感で味わう意識を持ち、興味を持って積極的に授業に参加してください。教科書を使った予習が必要。授業前に必ず該当する教科書のページに目を通して、疑問点をまとめてくること。</p> <p>復習では、授業内容に加筆しまとめておくこと教科書を読み、知らない用語を書きだし、調べておきましょう。専門用語に何度もふれることで、知識が定着します。</p> <p>状況により授業内容の順番など変更する場合があります。</p>

授業コード	13064101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	フードコーディネート論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フードスペシャリスト養成課程必修科目であり、資格認定試験科目でもあるフードコーディネート論では、フードスペシャリストとして必要とされるフードコーディネートの知識と技術の習得をめざし、幅広く学んでもらいます。食に関する様々な場において、複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出するフードコーディネートは、食卓や食品を販売するスーパー、食情報を発信するイベントなど、その活用は多岐に渡ります。これを適切な実践のために、食文化やテーブルコーディネート、食環境などの基礎的な知識を理解することができるように説明する。

到達目標

1. フードコーディネートの基本理念について理解し、説明できる。
2. 食卓のコーディネートについての基本的知識について理解し、説明できる
3. メニュープランニングの基本的知識と料理様式、メニュー開発の基礎について理解し、説明できる。
4. 食企画に必要な基本的スキルを身に付ける。

授業計画

【第1回】	おいしさの本質と、おいしさとフードコーディネート
【第2回】	食事とは何か、また食事と宗教のかかわりや日本の食事の歴史について
【第3回】	外国の食事
【第4回】	日本料理の食卓のコーディネート（食器・食具、食卓のセッティング）
【第5回】	中国料理、西洋料理の食卓のコーディネート（食器・食具、食卓のセッティング）
【第6回】	サービスとマナーの基本理念、日本料理のサービスとマナーについて
【第7回】	中国料理・西洋料理のサービスとマナーパーティの種類と企画プロトコルについて
【第8回】	メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎について
【第9回】	食空間のレイアウトやインテリア、設備についてのコーディネート
【第10回】	キッチンのコーディネート（種類、レイアウト、設備）
【第11回】	マネジメントの基本とフードサービス（レストラン）の起業について
【第12回】	投資計画・収支計画の作成、損益分岐点と売上げ高について
【第13回】	食企画の流れについて
【第14回】	食企画に必要な基礎スキルと実践について
【第15回】	まとめと認定試験の過去問

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと
わからないところは放置せず、必ず質問すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト

「三訂 フードコーディネート論」 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN: 978-4-7679-0440-5 定価2,200円(税込)

参考書	
履修条件・他の科目との関連	教科書を読み、知らない用語を書きだし、調べておきましょう。専門用語に何度もふれることで、知識が定着します。 配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。状況により授業内容の順番など変更する場合があります。

授業コード	13064201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	フードスペシャリスト論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フードスペシャリストは消費者の食品に対するニーズの多様化に呼応して生まれた流通・販売分野における食の専門職である。その業務も広く、高度な食の専門知識を駆使しての活躍が期待されている。本科目は養成課程の必修科目であり、フードスペシャリストの意義とその概要、さらにその活動における責務を理解するとともに、フードスペシャリストに求められる食生活に関する知識、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報に関する知識などを身に付け、フードスペシャリストの役割を知り理解することができるように説明する。

到達目標

1. フードスペシャリストの意義と概要、その活動内容と責務を理解し、説明できる。
2. 日本や各国の食文化の形成過程や現在おかれている食の状況や環境、法令など理解し、説明できる。
3. 流通されている食品の品質規格と表示についての知識を習得し、説明できる。
4. フードスペシャリスト資格認定試験に向けて意識を高める。

授業計画

【第1回】 フードスペシャリストとは？
 フードスペシャリストの概念と専門性および活躍分野の概要を学ぶ

【第2回】 人類の歩みと食物
 道具や農耕・牧畜の開発など、人類の食物獲得の歴史と食物の加工・保存技術の歴史を学ぶ

【第3回】 世界の食
 世界の食作法や食事内容の多様性を学び、国際化している食の世界に対応できる視野を養うとともに地域の自然環境により食文化が構築されてきた構造を学ぶ

【第4回】 日本の食①
 先人たちはどのようなものを、どのように食べてきたのか、経時的に特徴を学ぶ

【第5回】 日本の食②
 日本の土地的背景から育まれてきた食の地域差について学ぶ

【第6回】 現代日本の食生活①
 戦後の食生活の変遷と現在置かれている食の状況や課題について学ぶ

【第7回】 現代日本の食生活②
 現在の食の状況を認識し、より良い食生活の営みの基本的な知識について学ぶ

【第8回】 第1回から第7回まとめ（フードスペシャリスト過去問対策）

【第9回】 食品産業の役割①
 フードシステム、食品産業の役割について学ぶ

【第10回】 食品産業の役割②
 食品製造業、外食産業について学ぶ

【第11回】 食品の品質規格と表示①
 消費者が食品を安全に、また自主的かつ合理的に選択するために資する食品の表示について学ぶ

【第12回】 食品の品質規格と表示②
 現在食べている食品の品質規格と表示に関わる法規や規制の概略について学ぶ

【第13回】 食情報と消費者保護①
 食品偽装、フードファディズム、風評被害、トレーサビリティシステムなど食の情報にかかわる問題について学ぶ

【第14回】 食情報と消費者保護②
 食品の安全におけるリスク分析や食品安全基本法、消費者問題と消費者基本法など消費者保護のあり方について学ぶ

【第15回】 第8回から第14回まとめ（フードスペシャリスト過去問対策）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと授業内で質疑応答を行う。
 わからないところは放置せず、必ず質問すること
 普段の食生活の安全性を意識すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前事後学習や授業への取り組み	4
授業外での評価	0		
定期試験	80	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	「四訂 フードスペシャリスト論 第7版」 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN: 978-4-7679-0714-7 定価2,200円(税込)
------	-------------------------------------------------------------------------------

参考書	
-----	--

履修条件・他の科目との関連	教科書を読み、知らない用語を書きだし、調べておきましょう。専門用語に何度もふれることで、知識が定着します。 配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。状況により授業内容の順番など変更する場合があります。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13100501	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	社会福祉援助技術論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

社会福祉実践における社会福祉援助技術の意義や理論、方法の基本的知識について説明する。具体的には、さまざまなトピック（人権・虐待・障がい・貧困・高齢など）を取り上げ、個別援助や集団援助、家族への関わりなどについて概説する。また、ソーシャルワークについての基礎的な理解を深める。授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、将来福祉・介護関係の業務に従事したいと考えている人に対しても実践・理論等役立つ授業を展開する。

到達目標

1. 「共生社会」の阻害要因について具体的に記述することができる。
2. 相談援助に携わる専門職の専門性について説明することができる。
3. ソーシャルワークの実践について説明することができる。
4. さまざまな分野で実践しているソーシャルワーカーについて説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール）
- 【第2回】 「社会生活」と「共に生きる」ことについて
- 【第3回】 生活課題について
- 【第4回】 「共生社会」の阻害要因について
- 【第5回】 ソーシャルインクルージョン
- 【第6回】 対人援助における関わり方の技術
- 【第7回】 対人援助におけるコミュニケーション技術
- 【第8回】 社会福祉援助技術論前半のまとめ
- 【第9回】 ソーシャルワークの概要
- 【第10回】 ソーシャルワークの方法
- 【第11回】 ソーシャルワーカー
- 【第12回】 ソーシャルワークの実践
- 【第13回】 ストレングス
- 【第14回】 エンパワメント
- 【第15回】 利用者主体

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。 1.0時間
 - 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。 2.0時間
- 第2回
 - 【事前】 自分自身が考える「共に生きる社会」とは何か列挙しておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業を振り返り「共生」について感じたことをノートに加筆する。 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 さまざまな社会問題に関する記事やニュースを視聴する。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 人権について自分の意見を記述する。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえ「共生社会」の阻害要因についてノートを加筆する。 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 前回分のノートを復習し「人権」について熟考する。 1.5時間
 - 【事後】 「ソーシャルインクルージョン」について説明できるようノートを加筆する。 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 「個別支援」の必要性について考えておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえ援助の展開過程についてノートを加筆する。 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】 対人援助に必要なコミュニケーションとは何か列挙しておく。 1.5時間
 - 【事後】 「対人援助におけるコミュニケーション技術」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。 1.5時間
 - 【事後】 第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 3.5時間
- 第9回

【事前】	福祉にまつわる地域の社会資源にはどのようなものがあるのか調べておく。	1.5時間
【事後】	「ソーシャルワークの概要」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第10回		
【事前】	ケースワークの概要について調べておく。	1.5時間
【事後】	授業の資料を参照のうえ援助の展開過程についてノートを加筆する。	2.5時間
第11回		
【事前】	前回分のノートを復習し「ソーシャルワーカー」について熟考する。	1.5時間
【事後】	授業の資料を参照のうえソーシャルワーカーについてノートを加筆する。	2.5時間
第12回		
【事前】	前回分のノートを復習し「福祉の専門職」について熟考する。	1.5時間
【事後】	「ソーシャルワークの実践」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第13回		
【事前】	生活していく中で自身の「強み」とは何か列挙しておく。	1.5時間
【事後】	「ストレングス」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第14回		
【事前】	生活する上での「課題」を列挙しておく。	1.5時間
【事後】	「エンパワメント」の資料を参照のうえノートを加筆する。	2.5時間
第15回		
【事前】	前回分のノートを復習し「利用者支援」の福祉的視点について熟考する。	1.5時間
【事後】	ソーシャルワークについて具体的に説明できるようノートを再加筆する。	3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由が無い場合の未提出は評価しない。(正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする)
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性(文章量)などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	定期試験に代わるレポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せずプリント(資料)を配布する
参考書	新編社会福祉概論/松井圭三・今井慶宗/大学教育出版/2200+税/ISBN978-4-86692-190-7
履修条件・他の科目との関連	・介護・福祉関連の科目を履修していることが望ましい。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13078701	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	安全の行動科学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

後期科目の「リスクマネジメント特論」の履修予定者は必ず履修しておくこと。
 本講義では、なぜ人間はリスクを冒してしまうのか、自己、災害、犯罪に対してどのように行動すればいいのかなどを心理学の観点から解説する。
 また、警察本部や国内外の地域の行政機関と連携して交通安全対策に取り組んできた経験をもとに交通安全対策・教育の実践事例を交えてを紹介する。
 なお、本科目は実践的な行動科学であるため、社会的重大事故や事件が発生した際は、授業計画を入れ替えて発生した事象に準じた内容を紹介する場合がある。

到達目標

1. リスクテイキングする人間の心の動きを論理的に説明できる。
2. 重大災害が発生した際に生じる人間の心の動きを論理的に説明できる。
3. リスクテイキングする人間の心の動きを論理的に記述できる。
4. 学んだ安全行動を日常生活に活用し、経緯を適切に記述できる。

授業計画

この授業は、対面の通常授業となります。

【第1回】

テーマ：オリエンテーション、安全とは？行動科学とは？

内容・方法：講義計画の概要を紹介し、行動科学の概念と安全対策への理解を高める。

【第2回】

テーマ：ヒューマンエラーと心理学の関係

内容・方法：人はなぜエラーやミスをするのか、そのメカニズムを学ぶ。

【第3回】

テーマ：事故事例を通して考える

内容・方法：ヒューマンエラーとヒューマンファクターの関係を整理して今後の対策を検討する

【第4回】

テーマ：危険とリスクテイキング

内容・方法：リスクやハザードに限らず幅広い「危険」について解説する。

また、人はなぜ危険であるとわかっていても、危ないことをしてしまうのかを解説する

【第5回】

テーマ：防災安全を考える

内容・方法：事例を交えて地震や津波による災害被害に対しての備えや災害時の適切な行動を解説する。

【第6回】

テーマ：生活安全を考える

内容・方法：日常に潜む危険や犯罪について解説する。

また、事故や犯罪の被害に遭わないためにどのように行動すればいいのかを考える。

【第7回】

テーマ：視覚と注意の特性を理解する

内容・方法：目から入る刺激と人間行動の関係と錯視の理論を説明する。

また、人間の注意について交通心理学の観点から事例を通して紹介する。

【第8回】

テーマ：ワークショップ（自動運転は安全なのか）

内容・方法：近年話題になっている自動運転は本当実現するのか。

また、実現させるためには何が必要なのかを検討する。

【第9回】

テーマ：交通心理学から安全を考えるⅠ

内容・方法：子どもの交通行動を心理学の観点で解説する。

【第10回】

テーマ：交通心理学から安全を考えるⅡ

内容・方法：高齢者の交通行動を心理学の観点で解説する。

【第11回】

テーマ：交通心理学から安全を考えるⅢ

内容・方法：自転車運転者とオートバイ運転者の交通行動を心理学の観点で解説する。

【第12回】

テーマ：交通心理学から安全を考えるⅣ

内容・方法：自動車運転者の交通行動を心理学の観点で解説する。

【第13回】

テーマ：交通環境の変化と運転行動の関係

内容・方法：場の理論では人間行動の決定は、個人特性と環境の相互作用によるものである。

交通環境の変化が運転行動にどのように影響しているのかを事例を通して解説する。

【第14回】

テーマ：なぜ交通事故は無くならないのか

内容・方法：人的要因を中心に事故発生を防ぐ方法を学生同士で検討する。

【第15回】

テーマ：全体のまとめ

内容・方法：講義内容の理解の度合いを確認するために講義時間内に課題を実施する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

災害・犯罪・事故の報道に意識を向け、国内だけではなく、海外の取り組みにも目を向ける。
また、学んだことは日常生活に活用して安全に努めることを復習とする。

【第1回】

①事前学修課題：安全とは何なのか、また安心とはどう違うのか、自分の考えをまとめて講義に臨む。

②事後学修課題：自分が興味を持った大きな事故に関することを調べる。

【第2回】

①事前学修課題：ヒューマンエラー・ヒューマンファクターとは何かを予習しておく。

②事後学修課題：事故に関する本や論文を1冊読んで、事故発生について自分の考えを持つこと。

【第3回】

①事前学修課題：自分の経験から人間の視覚と注意の特性について考える。

②事後学修課題：視覚から入る情報に関する問題を身近なエラーと合わせて考える。

【第4回】

①事前学修課題：阪神および東北の震災について当時の状況を調べておく。

②事後学修課題：南海トラフ地震に備えて何をすべきか自分の中で考えを確立する。

【第5回】

①事前学修課題：日常生活の中に潜む犯罪を探す。

②事後学修課題：犯罪に巻き込まれないためにどのように行動すべきかを考える。

【第6回】

①事前学修課題：なぜ人は危ないことをするのかについて考える。

②事後学修課題：自分の過去を振り返ってリスクテイキング行動を考える。

【第7回】

①事前学修課題：事故発生のメカニズムを知る。

②事後学修課題：国内外問わず重大事故の発生とその要因について調べる。

【第8回】

①事前学修課題：子どもの交通事故の現状を調べる。

②事後学修課題：子どもの事故を防ぐために何ができるかを考える。

【第9回】

①事前学修課題：高齢者の交通事故の現状を調べる。

②事後学修課題：高齢者の事故を防ぐために何ができるかを考える。

【第10回】

①事前学修課題：自転車の交通事故の現状を調べる。

②事後学修課題：自転車の事故を防ぐために何ができるかを考える。

【第11回】

①事前学修課題：オートバイの交通事故の現状と国内にける二輪車の歴史を調べる。

②事後学修課題：オートバイの事故を防ぐための具体策を心理学の観点で考えてみる。

【第12回】

①事前学修課題：自動車の交通事故の現状を調べる。

②事後学修課題：自動車の事故を防ぐために何ができるかを考える。

【第13回】

①事前学修課題：交通事故発生の要因をさまざまな観点で調べる。

②事後学修課題：グループワークの内容をまとめる。

【第14回】

①事前学修課題：安全教育の意味を考える。

②事後学修課題：有効な安全教育の方法を考える。

【第15回】

①事前学修課題：いままで習ったことすべてを復習しておく。

②事後学修課題：確認試験を終えて回答できなかったことを調べる。

課題に対するフィードバックの方法

講義やビデオ視聴の感想に記載された内容や質問に対して次回の講義開始時にコメントしてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

講義内で実施する確認試験、定期試験の結果を最終評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	講義内に実施する講義への意見や考え方の小レポート (40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	60	講義で紹介した安全行動に関する理論を正しく理解し、正しく記述できるのかをレポートで確認する(60)	3, 4
その他	0		
テキスト	適宜プリントを配布する。		
参考書	交通心理学 2012 蓮花一己・向井希弘 放送大学教育振興会 子どものための交通安全教育入門 2016 大谷 亮・金光義弘他 ナカニシヤ出版		
履修条件・他の科目との関連	安全だけではなく危険やリスクについて学ぶため、後期科目の「リスクマネジメント特論」の履修予定者は必ず履修しておくこと。		

授業コード	13078801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	共生のコミュニケーション [対面]				
シラバス執筆(全員)	中上 美雪				
シラバス執筆(主)	中上 美雪				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本語は勿論のこと英語、韓国語、中国語なども全て「音声言語」です。一方、聞こえないろう者の言葉である手話は「視覚言語」です。その仕組みは音声言語とは全く異なります。手話は「日本語を手の動きで表現しているもの」と思っている人が多いですが、それは誤解です。手話の魅力も学習の難しさも、手話が日本語とは根本的にちがう仕組みを持った言葉であるというところに発しています。表現や身体をフルに使って表す手話は、私たちが日本語を使いこなすことに反比例して失いがちな身体全体の表現力を再開してくれます。手話を学ぶという事は、ろう者とコミュニケーションすることを可能にし、今まで気づかなかった日本語の一面や新しい言語の世界が見えてきます。授業では日常会話程度の手話を学ぶと共に、聴覚障害を持った人々が現実に置かれている状況や問題についても学びます。また、皆さん自身の表現や仕種を豊かにして全身の表現力を引き出しコミュニケーションの能力を高めます。

到達目標

1. ろう者が日常的に使用する言語である日本手話を学習します。
2. 手話会話が出来るように学習します。
3. 履歴書に「手話ができる」と書けるレベルを目指します。
4. ろう者の手話を読み取ることが出来る。

授業計画

- 第1講座 聴覚障害の基礎知識
 第2講座 手話の基礎知識
 第3講座 実技:自己紹介(名前)、挨拶
 第4講座 実技:家族を紹介。
 第5講座 実技:数字、時間
 第6講座 実技:趣味、色
 第7講座 実技:食べ物、飲み物
 第8講座 小テスト
 第9講座 実技:指文字を覚えましょう
 第10講座 実技:対話の基礎練習①
 第11講座 実技:対話の基礎練習②
 第12講座 実技:対話の基礎練習③
 第13講座 実技:対話の基礎練習④
 第14講座 復習
 第15講座 まとめとテスト

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に理解度を確認し、誤りがあれば、その場で指摘する

成績評価の方法・基準(方針)

小テスト(20%)、レポート(10%)、最終試験(30%)、授業態度(40%)

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業へ臨む姿勢40%	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レポート20%	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート試験40%	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト

毎回プリントを配布します。

参考書	1.ろう者のトリセツ聴者のトリセツ—ろう者と聴者の言葉のズレ 1200円＋税
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">●テキストはその都度配布します。ファイルに綴じて毎回到持参してください。●教室では指示に従い着席してください。●日本語(音声言語)に頼らず、目と身体を使って楽しく学習します。●学習意欲がなく私語をしたりスマホの使用や居眠りなどは授業の妨げになるのでお断りし、教室から出ていただきます。●必要に応じて授業内にテストを行います。

授業コード	13018401	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	介護の基礎 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

我が国は、少子高齢化社会の進展と障がいなどのために介護を必要とする人も含め、介護の問題は特定の人に対する問題から社会全体の問題となっている。本講義は、当事者である介護が必要な人と、介護者の理解を深め、多種多様な生活課題に対応する制度・政策・サービス・支援について説明する。また、介護に関連する福祉・保健・医療の領域の専門職について概説する。

授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。

長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、将来福祉・介護関係の業務に従事したいと考えている人に対しても実践・理論等役立つ授業を展開する。

到達目標

1. 要介護者の「生活のしづらさ」について個人因子と環境因子の両側面から説明することができる。
2. 介護に関連するフォーマル・インフォーマル支援について実践者として説明することができる。
3. 具体的な居宅サービス、施設サービスについて説明することができる。
4. ICFについて基礎的な事項を説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール）
- 【第2回】 高齢化の進展による介護問題
- 【第3回】 介護の実際：食事介護・入浴介護
- 【第4回】 介護の実際：排泄介護・その他の介護
- 【第5回】 介護保険制度：制度の概要
- 【第6回】 介護保険制度：制度の活用方法
- 【第7回】 障がい者の運動能力の特徴と運動や活動
- 【第8回】 介護の基礎前半のまとめ（中間レポート実施）
- 【第9回】 居宅（在宅）サービスの概要
- 【第10回】 居宅（在宅）サービス：訪問系・通所系サービス
- 【第11回】 居宅（在宅）サービス：さまざまな居宅サービス
- 【第12回】 施設（入所）サービスの概要
- 【第13回】 施設（入所）サービス：介護保険施設
- 【第14回】 施設（入所）サービス：さまざまな高齢者福祉施設
- 【第15回】 ICFの基礎的理解と活用方法

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。 1.0時間
 - 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。 2.0時間
- 第2回
 - 【事前】 介護に関連する記事やニュースなどを視聴し介護の問題を自分なりに考えておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 社会における介護の問題を列挙する。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 自身の地域の要介護者について、人数や要介護度を調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 要介護者と要支援者が説明できるようノートを加筆する。 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 介護保険制度の概要について自分なりに調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 「介護保険制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 介護保険のサービスについて調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 「介護保険制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】 これまで学んだことをノートにまとめておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。 1.5時間
 - 【事後】 第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 2.5時間

第9回	【事前】 居宅サービスにはどのような種類があるのか調べておく。 1.5時間 【事後】 「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第10回	【事前】 訪問系と通所系のサービスについて調べておく。 1.5時間 【事後】 「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第11回	【事前】 これまで学んだ居宅サービス以外にどのようなサービスがあるか調べておく。 1.5時間 【事後】 「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	1.5時間
第12回	【事前】 施設サービスにはどのような種類があるのか調べておく。 1.5時間 【事後】 「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第13回	【事前】 介護保険施設について調べておく。 1.5時間 【事後】 「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第14回	【事前】 これまで学んだ施設以外にどのような施設があるか調べておく。 1.5時間 【事後】 「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第15回	【事前】 自分自身が考える「自立」とは何かノートにまとめておく。 1.5時間 【事後】 「ICF」の資料を参照のうえノートを加筆する。 4.5時間	

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由（公欠等）が無い場合の未提出は評価しない。（正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする）
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性（文章量）などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	定期試験に代わるレポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず適宜プリント(資料)を配布する。
参考書	NIE介護の基本演習/松井圭三・小倉毅・今井慶宗/大学教育出版/2160+税/ISBN978-4-86692-004-7
履修条件・他の科目との関連	・介護・社会福祉関連の科目を履修していることが望ましい。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13107701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	ヘルスケアビジネス演習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子、盛本 浩二、喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業・団体などのビジネスの現場をフィールドとして、90時間以上の就業体験を中心とした演習科目である。授業は、本学とヘルスケア関連企業との「産学連携」に基づき、社会で実際にある課題の解決に向けて挑戦する「課題解決型」(Project Based Learning: PBL)の形式で行う。ヘルスケア産業で活躍する人材育成を目的とし、ヘルスケア関連企業のビジネスノウハウやプロのビジネスパーソンからビジネススキルを学び、学生自らが大学やヘルスケア関連企業のリソースを最大限に活用して「ヘルスケア」に関する新たなビジネスを創出し、大学内外で実践する授業である。

到達目標

- ①ビジネスの現場を体験し、必要なスキルを知る。
- ②マーケティングをはじめビジネスの創出に必要な知識と態度を習得する。
- ③グループで目標を達成するためのリーダーシップ、フォロワーシップといった行動規範を習得する。
- ④与えられたテーマ(社会課題)に対し、ビジネスを創出し、実行するまでのプロセスを描くことができる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション(学内)
授業目的、内容、スケジュール、単位認定条件、受講条件を理解する。

【第2回】事前研修(学内)①
企業紹介、マーケティング基本理論

【第3回】事前研修(学内)②
事例紹介、組織行動、広報戦略

【第4回】事前研修(学内)③
テーマ(社会課題)に対応する製品・サービスを創出する(ワークショップ)

【第5回】事前研修(学内)④
テーマ(社会課題)に対応する製品・サービスを創出する(ワークショップ)

【第6回】ビジネスの創出及び実装(学内又は学外)①
ワークショップで創出したビジネスをグループごとに分かれてマーケティング・プロセスに沿って具体化し、学内外のフィールドで実装する。

【第7回】ビジネスの創出及び実装(学内又は学外)②
ワークショップで創出したビジネスをグループごとに分かれてマーケティング・プロセスに沿って具体化し、学内外のフィールドで実装する。

【第8回】ビジネスの創出及び実装(学内又は学外)③
ワークショップで創出したビジネスをグループごとに分かれてマーケティング・プロセスに沿って具体化し、学内外のフィールドで実装する。

【第9回】ビジネスの創出及び実装(学内又は学外)④
ワークショップで創出したビジネスをグループごとに分かれてマーケティング・プロセスに沿って具体化し、学内外のフィールドで実装する。

【第10回】中間発表(学内又は学外)
各グループの進捗状況及び今後の計画について、中間発表を行う。

【第11回】企画ブラッシュアップ(学内又は学外)①
中間発表でのフィードバックをもとに、企画を修正し、最終化する。

【第12回】企画ブラッシュアップ(学内又は学外)②
中間発表でのフィードバックをもとに、企画を修正し、最終化する。

【第13回】企画ブラッシュアップ(学内又は学外)③
中間発表でのフィードバックをもとに、企画を修正し、最終化する。

【第14回】最終発表会(カゴメ野菜生活ファーム)①
各グループの活動結果に対し、最終発表会を行う。
最終発表会後にフィードバックを行い、マネタイズ可能なプランについては関係企業を中心に事業化に向けて準備を進める。事業化については課外活動として実施する。

【第15回】最終発表会(カゴメ野菜生活ファーム)②
各グループの活動結果に対し、最終発表会を行う。
最終発表会後にフィードバックを行い、マネタイズ可能なプランについては関係企業を中心に事業化に向けて準備を進める。事業化については課外活動として実施する。

【協業企業】
株式会社イブキ(全体設計)
カゴメ株式会社(食と健康分野担当)
株式会社エシア(美容と健康分野担当)
株式会社ブルソワン(美容と健康分野担当)
その他、協力企業多数

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき1.5時間ほどの事前学習および3時間ほどの事後学習が必要である。

【第1回】オリエンテーション（学内）

- ①事前学修課題：ヘルスケアビジネスについて調べて自分自身の考えをノートにまとめておく
- ②事後学修課題：オリエンテーションで説明があった内容と事前に調べた情報をノートにまとめておく

【第2回】事前研修（学内）①

- ①事前学修課題：関係企業のHPを閲覧し、情報をまとめておく
- ②事後学修課題：マーケティング基本理論に基づき、身近なサービスについて考えてノートにまとめる

【第3回】事前研修（学内）②

- ①事前学修課題：組織行動や広報戦略について調べる
- ②事後学修課題：組織行動、広報戦略について身近な企業を例にポイントをまとめる

【第4回】事前研修（学内）③

- ①事前学修課題：第2回、3回の講義内容を振り返り、ワークショップに向けて自分自身の考えをまとめておく
- ②事後学修課題：ワークショップで創出したサービス案について似たようなサービスが他にないか調べる

【第5回】事前研修（学内）④

- ①事前学修課題：前回のワークショップで創出したサービス案について自分の考えをまとめておく
- ②事後学修課題：事前研修のすべての内容を振り返り、ノートにまとめる

【第6回】ビジネスの創出及び実装（学内又は学外）①

- ①事前学修課題：ビジネスの実装に向けてアンケート調査や現地調査などを行い、多面的な視点で調査する
- ②事後学修課題：実装して得たフィードバックを整理して次に繋がる施策を考える

【第7回】ビジネスの創出及び実装（学内又は学外）②

- ①事前学修課題：ビジネスの実装に向けてアンケート調査や現地調査などを行い、多面的な視点で調査する
- ②事後学修課題：実装して得たフィードバックを整理して次に繋がる施策を考える

【第8回】ビジネスの創出及び実装（学内又は学外）③

- ①事前学修課題：ビジネスの実装に向けてアンケート調査や現地調査などを行い、多面的な視点で調査する
- ②事後学修課題：実装して得たフィードバックを整理して次に繋がる施策を考える

【第9回】ビジネスの創出及び実装（学内又は学外）④

- ①事前学修課題：ビジネスの実装に向けてアンケート調査や現地調査などを行い、多面的な視点で調査する
- ②事後学修課題：実装して得たフィードバックを整理して次に繋がる施策を考える

【第10回】中間発表（学内又は学外）

- ①事前学修課題：発表に向けてこれまでの取組についてまとめる
- ②事後学修課題：発表で指導を受けたことについて考えて、ノートにまとめる

【第11回】企画ブラッシュアップ（学内又は学外）①

- ①事前学修課題：これまで取り組んだことと、中間発表で指導を受けたことから次のアクションを考える
- ②事後学修課題：ブラッシュアップした企画について、多面的な視点で調査をしてノートにまとめる

【第12回】企画ブラッシュアップ（学内又は学外）②

- ①事前学修課題：これまで取り組んだことと、中間発表で指導を受けたことから次のアクションを考える
- ②事後学修課題：ブラッシュアップした企画について、多面的な視点で調査をしてノートにまとめる

【第13回】企画ブラッシュアップ（学内又は学外）③

- ①事前学修課題：これまで取り組んだことと、中間発表で指導を受けたことから次のアクションを考える
- ②事後学修課題：ブラッシュアップした企画について、多面的な視点で調査をしてノートにまとめる

【第14回】最終発表会（カゴメ野菜生活ファーム）①

- ①事前学修課題：発表に向けてこれまでの取組についてまとめる
- ②事後学修課題：発表で指導を受けたことについて考えて、ノートにまとめる

【第15回】最終発表会（カゴメ野菜生活ファーム）②

- ①事前学修課題：発表に向けてこれまでの取組についてまとめる
- ②事後学修課題：発表で指導を受けたことについて考えて、ノートにまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で、教員や講師から発表内容や計画内容に対してフィードバックを行います。
また、必要に応じてカゴメ野菜生活ファームの社員とのオンラインミーティングなどを通じてフィードバックを行います。

成績評価の方法・基準（方針）

授業および企画発表への取組み姿勢、積極性および行動力を重視します。評価項目は以下のとおりです。
参加意欲（20%）、自主性（20%）、態度（20%）、理解力（20%）、行動力（20%）の総合評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	100		1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	必要に応じて提示する。

履修条件・他の科目との関連

本科目を受講するための専門知識は必要としませんが、ヘルスケアに興味がある学生、ヘルスケア産業での就職を考えている学生の履修をおすすめします。

授業コード	13107801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	ヘルスケアビジネス演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子、盛本 浩二、喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業・団体などのビジネスの現場をフィールドとして、90時間以上の就業体験を中心とした演習科目である。なお、本科目は「ヘルスケアビジネス演習Ⅰ」の発展形科目としているため、受講するには「ヘルスケアビジネス演習Ⅰ」の科目を修得しなければならない。ヘルスケア産業で活躍する人材育成を目的とし、「ヘルスケアビジネス演習Ⅰ」でヘルスケア関連企業のビジネスノウハウやプロのビジネスパーソンからビジネススキルを学んだ上で、より実社会を体験する場として企業に入っていく「インターンシップ」を行う。

到達目標

- ① ビジネスの現場を体験し、必要なスキルを知る。
- ② マーケティングをはじめビジネスの創出に必要な知識と態度を習得する。
- ③ グループで目標を達成するためのリーダーシップ、フォロワーシップといった行動規範を習得する。
- ④ 与えられたテーマ（社会課題）に対し、ビジネスを創出し、実行するまでのプロセスを描くことができる。

授業計画

【第1回】オリエンテーション（学内）
授業目的、内容、スケジュール、単位認定条件、受講条件を理解する。

【第2回】事前研修（学内又は学外）①
インターンシップ先の事業内容の説明

【第3回】事前研修（学内又は学外）②
インターンシップ先の事業内容の説明

【第4回】現地インターンシップ①
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第5回】現地インターンシップ②
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第6回】現地インターンシップ③
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第7回】現地インターンシップ④
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第8回】現地インターンシップ⑤
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第9回】現地インターンシップ⑥
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第10回】現地インターンシップ⑦
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第11回】現地インターンシップ⑧
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第12回】現地インターンシップ⑨
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第13回】現地インターンシップ⑩
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップ

【第14回】現地インターンシップ⑪
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップの取りまとめ

【第15回】現地インターンシップ⑫
ヘルスケア関連事業に関する現地インターンシップの報告会（開催場所：インターンシップ先）

【インターンシップ先企業（予定）】

- ・カゴメ株式会社東京本社健康事業部（飲料、食品の総合メーカー、東京都）
- ・株式会社イブキ新規事業開発部（健康経営コンサルティング、健康経営新規事業開発、スタジオ経営、東京都）
- ・株式会社ブルソワン（化粧品OEMメーカー、大阪府）
- ・その他、インターンシップ先開拓中

インターンシップ内容（予定）：企業、自治体向けの健康経営事業、営業、セミナーなど

インターンシップ内容（予定）：健康経営新規事業開発設計、調査、健康街づくりプロデュース設計など

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき1.5時間ほどの事前学習および3時間ほどの事後学習が必要である。

- 【第1回】オリエンテーション（学内）
- ① 事前学修課題：ヘルスケアビジネスについて調べて自分自身の考えをノートにまとめておく

- ②事後学修課題：オリエンテーションで説明があった内容と事前に調べた情報をノートにまとめておく
- 【第2回】事前研修（学内又は学外）①
- ①事前学修課題：インターンシップ先企業のHPを閲覧し、情報をまとめておく
- ②事後学修課題：インターンシップ先企業の事業内容についてノートにまとめる
- 【第3回】事前研修（学内又は学外）②
- ①事前学修課題：インターンシップ先企業の事業内容に競合する企業を調べる
- ②事後学修課題：インターンシップで学びたいこと、目的をまとめておく
- 【第4回】現地インターンシップ①
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第5回】現地インターンシップ②
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第6回】現地インターンシップ③
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第7回】現地インターンシップ④
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第8回】現地インターンシップ⑤
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第9回】現地インターンシップ⑥
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第10回】現地インターンシップ⑦
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第11回】現地インターンシップ⑧
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第12回】現地インターンシップ⑨
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第13回】現地インターンシップ⑩
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第14回】現地インターンシップ⑪
- ①事前学修課題：スケジュールを確認し、事前に把握しておくべき事について調べておく
- ②事後学修課題：インターンシップで経験したことをまとめて、最終発表のテーマについて調べる
- 【第15回】現地インターンシップ⑫
- ①事前学修課題：最終発表に向けて資料をまとめる
- ②事後学修課題：最終発表でフィードバックを受けたことに対して自分自身でも振り返り、まとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で、教員や講師から発表内容や計画内容に対してフィードバックを行います。
また、必要に応じてインターンシップ先の社員とのオンラインミーティングなどを通じてフィードバックを行います。

成績評価の方法・基準(方針)

インターンシップまでやインターンシップ中の取組み姿勢、積極性および行動力を重視します。
評価項目は以下のとおりです。
参加意欲（20%）、自主性（20%）、態度（20%）、理解力（20%）、行動力（20%）の総合評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10		2
その他	90		1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	必要に応じて提示する。
履修条件・他の科目との関連	本科目を受講するための専門知識は必要としませんが、ヘルスケアに興味がある学生、ヘルスケア産業での就職を考えている学生の履修をおすすめします。

授業コード	13079701	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	福祉産業論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

従来、公的な要素が多いサービスとして位置付けられていた介護・障がい者福祉・保育・教育・医療の各分野において、さまざまな主体の参入が進展してきている現状について概説する。その上で、福祉業界のサービスのあり方や質の向上に必要な基礎的な知識を学ぶ。経営戦略としてのマネジメント手法の有用性と、もともと営利を目的としていない各分野の特異性と現代社会に有用な福祉産業について概説する。授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、将来福祉・介護関係の業務に従事したいと考えている人に対しても実践・理論等役立つ授業を展開する。

到達目標

1. 福祉産業の現場から見えてくる、今日的な生活課題について記述することができる。
2. 「介護・障がい者福祉・保育」の制度・政策について具体的に説明することができる。
3. 介護予防の為にリハビリテーションやレクリエーションについて説明できる。
4. 福祉関連施設の報酬体系について説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール）
- 【第2回】 社会福祉事業法から社会福祉法へ
- 【第3回】 社会福祉基礎構造改革
- 【第4回】 福祉事業と経営
- 【第5回】 「法人」について
- 【第6回】 福祉産業の実際：児童関連の相談窓口
- 【第7回】 福祉産業の実際：児童関連のサービス事業所
- 【第8回】 福祉産業論前半のまとめ
- 【第9回】 福祉産業の実際：障がい者・児関連の相談窓口
- 【第10回】 福祉産業の実際：障がい者・児関連のサービス事業所
- 【第11回】 福祉産業の実際：高齢者関連の相談窓口
- 【第12回】 福祉産業の実際：高齢者関連のサービス事業所
- 【第13回】 福祉と介護予防
- 【第14回】 福祉関連施設のレクリエーション・リハビリテーション
- 【第15回】 福祉関連施設の検索：WAM NETの活用

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。 1.0時間
 - 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。 1.0時間
- 第2回
 - 【事前】 「社会福祉事業法」と「社会福祉法」について調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業を振り返り「社会福祉法」について感じたことをノートに加筆する。 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 「社会福祉基礎構造改革」について概要を調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえ振り返りノートを加筆する。 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 前回分のノートを復習し「社会福祉法」について熟考する。 1.5時間
 - 【事後】 「福祉事業と経営」の資料を参照のうえ振り返りノートを加筆する。 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 自分自身の出身学校等（幼稚園（保育園）・小学校・中学校）の法人について調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 「法人」の資料を参照のうえ振り返りノートを加筆する。 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 「児童相談所」について概要を調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえ振り返りノートを加筆する。 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】 前回分のノートを復習し「児童福祉の施設」について調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえ「児童福祉の施設」について振り返りノートを加筆する。 2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。 1.5時間
 - 【事後】 第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 3.5時間

第9回	【事前】 市区町村のホームページなどを参照し障がい関連の相談窓口を調べておく。 1.5時間 【事後】 授業の資料を参照のうえ振り返りノートを加筆する。 2.5時間
第10回	【事前】 前回分のノートを復習し「障がい者福祉の施設」について調べておく 1.5時間 【事後】 授業の資料を参照のうえ「障がい者福祉の施設」について振り返りノートを加筆する。 2.5時間
第11回	【事前】 市区町村のホームページなどを参照し高齢者に関する相談窓口を調べておく。 1.5時間 【事後】 授業の資料を参照のうえ振り返りノートを加筆する。 2.5時間
第12回	【事前】 前回分のノートを復習し「高齢者福祉の施設」について調べておく。 1.5時間 【事後】 授業の資料を参照のうえ「高齢者福祉の施設」について振り返りノートを加筆する。 2.5時間
第13回	【事前】 介護予防を実践している事業所や施設について調べておく。 1.5時間 【事後】 介護予防及びリハビリテーションの具体的なサービスが説明できるようノートを加筆する。 2.5時間
第14回	【事前】 福祉施設で実践されているレクリエーションにはどのようなものがあるか調べておく。 1.5時間 【事後】 授業の資料を参照のうえ振り返りノートを加筆する。 2.5時間
第15回	【事前】 さまざまな福祉の問題に関する記事やニュースを視聴し列挙する。 1.5時間 【事後】 福祉産業の具体的な事業所について説明できるようノートを再加筆する。 3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由が無い場合の未提出は評価しない。(正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする)
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性(文章量)などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	定期試験に代わるレポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せずプリント(資料)を配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・介護・福祉関連の科目を履修していることが望ましい。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	13071411	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、前期では専門書、雑誌、新聞、インターネット等から自分自身が関心・興味を持った「食・料理・食文化」に関する事柄を探し出すことから始まります。次に、それをテーマとした研究をどのようにして進めていくかについての討論を行います。討論の内容は、なぜそのテーマに関心を持ったのか、そしてどのような方法を用いてその研究を進めていくのかなどで、例えば文献研究、アンケート調査の実施、実験計画などの研究方法について話し合い、研究計画を立てます。後期では夏休みの研究課題を発表し、研究テーマや分析方法について再検討を行い、必要に応じてアンケートであれば予備調査、実習を行う場合は予備実習を行い、その結果をまとめて研究レポートを提出し、セミナーⅣへとつなげます。また、セミナーⅢでは、食をテーマにした学外での見学会や活動を学生自身が企画し、実施します。さらにセミナーで学んだことを形にし、各コンテストへ参加することも可能です。企業等から商品開発等の依頼があった場合、テーマに沿って商品を考案、開発し、適宜打合せ、試作、プレゼンを実施します。

到達目標

1. 卒業研究に必要な基礎知識について説明することができる。
2. 卒業研究の計画を立て、実践することができる。
3. 様々なテーマについて討論し、自身の考えを理論立てて述べるすることができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：諸連絡、ゼミ内交流
- 【第2回】
 テーマ：日本の食生活および食文化について
 内容・方法：食生活および食文化について講義を行う。
- 【第3回】
 テーマ：学外の見学会および打合せの為の調査（1）
 内容・方法：行き先候補と予算の検討
- 【第4回】
 テーマ：学外の見学会および打合せの為の調査（2）
 内容・方法：行き先の決定、交通手段の決定
- 【第5回】
 テーマ：日本の食生活、食文化（発表）
 内容・方法：発表（各自）
- 【第6回】
 テーマ：世界の食文化について1
 内容・方法：講義、研究発表担当について
- 【第7回】
 テーマ：世界の食文化について2
 内容・方法：講義（宗教上の禁忌など）
- 【第8回】
 テーマ：研究発表準備
 内容・方法：発表原稿の書き方、レジメの作成方法について学ぶ
- 【第9回】
 テーマ：研究発表会
 内容・方法：各自、調べた事を発表する
- 【第10回】
 テーマ：学外見学会の下調べ
 内容・方法：見学先の内容にそった資料をまとめる
- 【第11回】
 テーマ：卒業研究について
 内容・方法：研究活動の方法について（資料等収集）
- 【第12回】
 テーマ：卒業研究について（文献検索）
 内容・方法：研究活動（文献検索）
- 【第13回】
 テーマ：卒業研究について（文献を読む）
 内容・方法：選んだ文献を読む
- 【第14回】
 テーマ：卒業研究について（文献内容をまとめる）
 内容・方法：文献の内容をまとめ、レジメを作成する。
- 【第15回】
 テーマ：卒業研究について（文献発表）

内容・方法：文献内容の発表、夏季休暇中の計画について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき 1.5 時間ほどの事前学習および 2.5 時間ほどの事後学習が必要である。

【第1回】

- ①事前学修課題：なし
- ②事後学修課題：研修先と予算を調べる。

【第2回】

- ①事前学修課題：新聞などから最近の食生活に関する動向について調べる。
- ②事後学修課題：次回の発表内容を考える。

【第3回】

- ①事前学修課題：行き先候補と予算の発表準備
- ②事後学修課題：行き先の施設予約、交通手段を調べる。

【第4回】

- ①事前学修課題：行き先の発表準備
- ②事後学修課題：見学先の下調べ

【第5回】

- ①事前学修課題：発表担当者は発表原稿、レジメをまとめる
- ②事後学修課題：特になし

【第6回】

- ①事前学修課題：日本の食文化について復習する
- ②事後学修課題：世界の食文化についてワークシートを仕上げる。

【第7回】

- ①事前学修課題：研究発表の準備
- ②事後学修課題：世界の食文化についてワークシートを仕上げる。

【第8回】

- ①事前学修課題：発表原稿の作成、レジメの作成
- ②事後学修課題：発表原稿、レジメを完成させる

【第9回】

- ①事前学修課題：発表原稿、レジメを完成させ、発表の準備を行う
- ②事後学修課題：特になし

【第10回】

- ①事前学修課題：学外見学会の資料を集める。
- ②事後学修課題：資料を原稿にまとめる。

【第11回】

- ①事前学修課題：卒業研究のテーマを考える
- ②事後学修課題：卒業研究のテーマにそった資料を集める。

【第12回】

- ①事前学修課題：特になし
- ②事後学修課題：検索した文献を選ぶ。

【第13回】

- ①事前学修課題：読む文献を入手する。
- ②事後学修課題：文献を読み、要点をまとめる。

【第14回】

- ①事前学修課題：文献の内容をまとめる。
- ②事後学修課題：レジメを完成させる。

【第15回】

- ①事前学修課題：文献内容の発表準備
- ②事後学修課題：夏季休暇中計画に基づき、行動する。

【第16回】

テーマ：夏季休暇中の活動計画
内容・方法：夏季休暇中の計画表提出

課題に対するフィードバックの方法

セミナー時に適宜フィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

受講態度および進捗状況報告のためのレポート提出などにより評価する。理由なき欠席およびレポート未提出の場合は評価を「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	受講態度 (40) レポートおよび進捗状況報告 (20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	40	期末レポート(40)	1, 2, 3
テキスト	プリントを配布する		
参考書	「食生活デザイン」川端晶子他共著 家政教育社 2000円		
履修条件・他の科目との関連	<p>◎5回を超えて担当教員への連絡なしに欠席し、欠席課題の提出がなかった学生(公欠を除く)は、単位を取得することができない。</p> <p>◎就職ガイダンス、学校行事等にも積極的に参加すること。</p> <p>◎無断欠席、遅刻、他の受講生に対し迷惑となる行為を繰り返した場合は単位を認定しない。</p> <p>◎欠席した場合は、課題等のプリントを研究室に取りに来ること。また、課題は次回のセミナー時まで に所定の方法で提出すること。</p> <p>・新型コロナウイルス感染対策等の理由で研究活動やゼミ内での発表等が遠隔となる場合があります。その際は随時ユニパまたはGoogleクラスルーム等で連絡いたします。</p>		

授業コード	13071412	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人類の永遠のテーマといっても過言ではない健康を取り巻く業界を視野に置き、「人々が欲するモノやコト」をうまく提供する方法について学び、具体的な活動につなげていけるようにする。学んだ知識を活用する能力は体験からしか得られないため、本セミナーは主としてPBL(Project-Based Learning)により進めていく。PBLとは、プロジェクト(演習)を通じた学習のことで、実践的な知識の獲得や体験による対象の深い理解を目的としている。なお、プロジェクトは企画・問題解決・意思決定・調査を含んでいる。受講者には、長時間自律して課題に取り組む機会が与えられ、最終的にその成果物(プレゼンテーション)を生み出すことが求められる。また、実践によって身につけた社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)とPBLによる成果物を強みとして、就活に前向きに取り組んでいけるようにしていく。

到達目標

1. テーマに関する的確な文献および資料を検索する能力を身につける。
2. 感想文、レポートおよび論文の違いが説明できる。
3. 簡単な課題解決のプロセスを通して、考える力、行動する力、チームワーク力を身につける。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション①
 内容・方法：セミナーⅢaの位置づけと履修についての心構え等を説明する。
- 【第2回】
 テーマ：オリエンテーション② ～セミナーⅢaで学ぶこと～
 内容・方法：これまでに行われてきた、学内や地域での活動事例を紹介する。
- 【第3回】
 テーマ：プレゼンテーション ～自己紹介～
 内容・方法：セミナー構成員に自己開示を行ない、相互理解に努める。
- 【第4回】
 テーマ：年間計画表の作成
 内容・方法：各自で年間計画表を作成し、目標を具体化する。
- 【第5回】
 テーマ：PBLへの取り組み①
 内容・方法：役割分担を決め、具体的にすべきことや準備するものを検討する。
- 【第6回】
 テーマ：PBLへの取り組み②
 内容・方法：ブレインストーミング法などにより、メンバー全員で網羅性を重視してプロジェクト案を挙げる。
- 【第7回】
 テーマ：プロジェクト企画①
 内容・方法：プロジェクトを進める上での検討事項を共有する。
- 【第8回】
 テーマ：プロジェクト企画②
 内容・方法：プロジェクト案の中から候補を選定し、企画概要やスケジュールを決める。
- 【第9回】
 テーマ：広報企画
 内容・方法：使用する広報媒体を検討し、広報企画案やスケジュールを決める。
- 【第10回】
 テーマ：プロジェクト準備①
 内容・方法：プロジェクト企画を細部にわたって検討し、具体化する。
- 【第11回】
 テーマ：全学人権映画会(合同・日程は前後する)
 内容・方法：「人権」に関する映画を視聴することで、より深く「人権」について理解する。
- 【第12回】
 テーマ：プロジェクト準備②
 内容・方法：プロジェクト企画を掘り下げ、より説得力のある内容にする。
- 【第13回】
 テーマ：プレゼンテーション準備①
 内容・方法：企画内容を所定のフォーマットにまとめる方法について解説する。
- 【第14回】
 テーマ：プレゼンテーション準備②
 内容・方法：発表の心得とパワーポイントの有効活用について解説する。
- 【第15回】
 テーマ：振り返り・後期に向けて
 内容・方法：前期を通しての振り返りを行なう。また、後期に実施するプロジェクト運営についての情報共有を

行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
- ①事前学修課題：履修計画を検討しておくこと。2時間
 - ②事後学修課題：指示された方法で自己紹介ができるように考えておくこと。2時間
- 【第2回】
- ①事前学修課題：目標を検討しておくこと。2時間
 - ②事後学修課題：自己紹介の準備をしてくる。2時間
- 【第3回】
- ①事前学修課題：自己分析とは何か、について予習しておくこと。2時間
 - ②事後学修課題：自己紹介と自己分析の関連について検討しておくこと。2時間
- 【第4回】
- ①事前学修課題：年間計画を検討してくる。2時間
 - ②事後学修課題：年間計画表を完成し、提出する。2時間
- 【第5回】
- ①事前学修課題：プロジェクトを企画・運営していく上で必要となる役割を考えてくること。2時間
 - ②事後学修課題：お互いの役割と、すべきことを確認し、情報を共有しておくこと。2時間
- 【第6回】
- ①事前学修課題：プロジェクト案を出来るだけ多く考えてくること。（数を重視する。）2時間
 - ②事後学修課題：プロジェクト案に漏れがないか考えてくる。（追加案を考えてくる。）2時間
- 【第7回】
- ①事前学修課題：プロジェクト案のブラッシュアップしておく。2時間
 - ②事後学修課題：プロジェクト案の中から実現可能性がで、かつ独創性があると思われるものを選んでくる。2時間
- 【第8回】
- ①事前学修課題：プロジェクト案の中から有意義な案を選定し、その選定理由が説明できるようにしておくこと。2時間
 - ②事後学修課題：決まった企画概要に対して、各自で内容を掘り下げて考えてくる。2時間
- 【第9回】
- ①事前学修課題：今回のプロジェクト企画を広報する際に、効果的な媒体について考えてくる。2時間
 - ②事後学修課題：より効果的な広報手段がないか、各自で検討してみる。2時間
- 【第10回】
- ①事前学修課題：各自でプロジェクト企画を掘り下げて考えてくること。2時間
 - ②事後学修課題：プロジェクト企画に曖昧な点がないか、十分に見直しをしておくこと。2時間
- 【第11回】
- ①事前学修課題：「人権」について、書籍やインターネット等を利用して予備知識を得る。2時間
 - ②事後学修課題：「人権」についてさらに深く学ぶ。2時間
- 【第12回】
- ①事前学修課題：各自でプロジェクト企画を細部にわたって再考してくる。2時間
 - ②事後学修課題：プロジェクト企画が完成度の高いものであることを確認しておくこと。2時間
- 【第13回】
- ①事前学修課題：要旨の書き方について予習しておくこと。2時間
 - ②事後学修課題：要旨の作成を進めておくこと。2時間
- 【第14回】
- ①事前学修課題：パワーポイントの機能が駆使できるようにしておくこと。2時間
 - ②事後学修課題：発表原稿およびパワーポイントデータの準備をしておくこと。2時間
- 【第15回】
- ①事前学修課題：前期を振り返り、自分が成長できたと思われる点を挙げておくこと。2時間
 - ②事後学修課題：休み中にすべき事柄を明確にし、実行すること。2時間

課題に対するフィードバックの方法

課題に定型の答えがないため、その都度アドバイスの形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

成績の評価は平常点とその他により行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	情報収集、発表に向けた準備状況の程度	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	50	取り組み姿勢および発表内容の程度	3

テキスト

使用しない。
必要に応じて、適宜、プリントを配布する。

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「ヘルスケアビジネス演習Ⅰ」と同時履修することが望ましい。 5回以上欠席すると単位認定ができない可能性がある。 状況により、授業内容や時間を変更することがある。

授業コード	13071413	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーIIIは卒業研究を行うための基礎固めとなる大事な授業である。本セミナーIIIa、IIIbでは、人間の心や行動について心理学を中心とした学問を共に学ぶ。まずセミナーIIIaでは、自分が興味ある心理学のテーマを「見つける」、「調べる」ことを目的とする。そのために、自分自身の研究テーマに関連する先行研究を見つけて、「まとめる」、「発表する」ことを行い、具体的な卒業研究の計画を行えるようにしていく。その他に、自己理解、他者との積極的な議論を行うなどの取り組みを通して就職活動に向けての準備を行う。

到達目標

1. 専門論文あるいは専門図書を読むことができる。
2. 専門論文あるいは専門図書について説明できる。
3. 専門用語を記述できる。
4. 様々なテーマについて、自身の考えを論理的に述べるができる。
5. 今後の進路に向けた自己理解ができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：セミナー内容の確認、希望する研究テーマの発表およびセミナー内の係・予定を決める。
- 【第2回】 お互いを知る：自己紹介、2年間一緒に学ぶ為、互いのことを知る
- 【第3回】 1年間の目標、行動計画作成
- 【第4回】 図書館見学及び、文献検索の仕方を学ぶ
- 【第5回】 テーマを見つけ、発表する①：文献検索から自身がどのような研究を行いたいかを発表し、議論する
- 【第6回】 テーマを見つけ、発表する②：第5回の発表、議論から、自身の研究をより具体的にしていく
- 【第7回】 研究テーマに関連する論文をまとめて発表①：興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。
- 【第8回】 研究テーマに関連する論文をまとめて発表②：興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。
- 【第9回】 研究テーマに関連する論文をまとめて発表③：興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。
- 【第10回】 研究テーマに関連する論文をまとめて発表④：興味のあるテーマの先行研究を収集し、論文をレビューにまとめて発表する。
- 【第11回】 卒業研究構想ディスカッション①：研究に向けての具体的な方法を考える(予備的研究の実施)
- 【第12回】 卒業研究構想ディスカッション②：研究に向けての具体的な方法を考える(予備的研究の実施)
- 【第13回】 卒業研究構想ディスカッション③：研究構想をまとめる
- 【第14回】 卒業研究構想ディスカッション④：研究構想を発表する
- 【第15回】 振り返り：自身の研究について今一度考える

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
- 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 自分自身はどのようなことに興味関心があるか考える 1.0時間
- 【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、興味関心がどのようなところにあるかノートに加筆する 1.0時間
- 第2回
- 【事前】 自身のことを他者にどのように紹介できるか考え、ノートに加筆する 1.5時間
- 【事後】 他者との関わりから、気づいていなかった新たな自分についてノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
- 【事前】 セミナーIIIa、IIIbでどのような学びができるか自分なりに考え、まとめる 1.5時間
- 【事後】 立てた行動計画を実現させるために、どのようにしていくべきか具体的な実行プランをノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
- 【事前】 文献とは何かを調べ、文献検索の仕方についてノートに加筆する 1.5時間
- 【事後】 興味関心のある文献を実際に探してみる 2.5時間
- 第5回
- 【事前】 興味関心のある文献をさらに絞りこみ、さらに文献検索する 1.5時間
- 【事後】 議論したことから、さらに具体的にどのような研究を行いたいか考え、文献検索する 2.5時間
- 第6回
- 【事前】 興味関心のある文献をさらに絞りこみ、さらに文献検索する 1.5時間
- 【事後】 議論したことから、さらに具体的にどのような研究を行いたいか考え、文献検索する 2.5時間

第7回	【事前】 絞られた文献についてノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 自身の研究について詳細に考え、さらに必要な文献を検索する 2.5 時間
第8回	【事前】 絞られた文献についてノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 自身の研究について詳細に考え、さらに必要な文献を検索する 2.5 時間
第9回	【事前】 調査とは何か自分なりに調べ、ノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 質問紙の作り方について調べ、ノートに加筆する 3.5 時間
第10回	【事前】 統計とは何か自分なりに調べ、まとめる 1.5 時間 【事後】 得られた調査からどのような統計処理ができるか調べ、ノートにまとめておく 2.5 時間
第11回	【事前】 結果のまとめ方について自分なりに調べ、ノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 卒業研究に関連する文献を探し、整理する 2.5 時間
第12回	【事前】 自身が担当した箇所をまとめ、発表原稿を作成する1.5 時間 【事後】 予備的研究結果をまとめ、さらにどのような方法が必要かノートに加筆する 2.5 時間
第13回	【事前】 どのような研究を実際に行いたいかにさらに考え、文献を検索する 1.5 時間 【事後】 自身の研究実施の方向性を固め、具体的にどのような研究を行えるかノートに加筆する 2.5 時間
第14回	【事前】 自身の研究を行うべく、その方法論について文献を検索し、ノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 具体的な研究方法を考え、ノートに加筆する 2.5 時間
第15回	【事前】 セミナーIIIa からどのような学びがあったかを考え、ノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 今一度自身の研究、今後の就職活動についてそれぞれ具体的に考え、ノートに加筆する 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業課題、発表、定期試験に代わるレポート等、その他の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、毎授業時に実施する課題が5 回以上未提出の場合は評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業内課題 (40) 発表 (50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	質疑応答	4

テキスト	特定のテキストは使用しない。
参考書	松井 豊著:心理学論文の書き方,河出書房新社,978-4309245225 価格:1870 円
履修条件・他の科目との関連	学習の進捗状況に応じて、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13071414	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは行動科学系の心理学を中心に学問の実際に触れることを通して、人間の心や行動のしくみについて多くのことを座学や体験を通して共に学ぶ。
また、学外研修では神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船への乗船や兵庫県警察の白バイ隊訓練の視察を予定している。船上における支持・合図・確認などのコミュニケーションや高い運転技能がどのように交通安全や治安の維持に役立っているのかを心理学の観点で体験的に学ぶ（学外研修は天候の影響があるため実施可能かも含めて調整のうえ決定する）。

到達目標

1. 人間の行動を科学的にとらえて論理的に説明することができる。
2. 統計データを客観的な視点で読み解き、新たな観点を見出すことができる。
3. 人間の行動の背景にある心の動きを心理学の観点で説明できる。

授業計画

【第1回】 テーマ：オリエンテーション 内容・方法：メンバーの自己紹介、希望する研究テーマの発表およびセミナー内の係・予定を決める。
【第2回】 テーマ：設定目標の作成 内容・方法：自分のやりたいことと実践できることを客観的に検討し、卒業研究に向けて意識を高める。
【第3回】 テーマ：図書館などで文献探し 内容・方法：自分の興味のある論文を検索して、読み込んでみる。
【第4回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：自分が興味を持っていることについて調べて発表する（1）
【第5回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：自分が興味を持っていることについて調べて発表する（2）
【第6回】 テーマ：学外研修：閉鎖された空間における人間関係の重要性 内容・方法：神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸に乗船して、支持・合図・確認などのコミュニケーションが安全な運行に非常に重要であることを体験的に学ぶ。なお、日程は神戸大学と調整のうえ変更することがある。
【第7回】 テーマ：学外研修：閉鎖された空間で心身の健康を維持するには 内容・方法：神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸に乗船して、心身の健康を保つことが安全な運行に非常に重要であることを体験的に学ぶ。
【第8回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：研究論文を読む（1）
【第9回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：研究論文を読む（2）
【第10回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：研究論文を読む（3）
【第11回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：研究論文を読んで、レジュメ作成、発表、質疑応答（1）
【第12回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：研究論文を読んで、レジュメ作成、発表、質疑応答（2）
【第13回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：研究論文を読んで、レジュメ作成、発表、質疑応答（3）
【第14回】 テーマ：卒業研究に向けて 内容・方法：授業発表＋よりよい話し合いの方法
【第15回】 テーマ：卒業研究に向けて

内容・方法：前期の振り返り＋課題の説明

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第2回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第3回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第4回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第5回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第6回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第7回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第8回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第9回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第10回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第11回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第12回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第13回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第14回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

【第15回】

①事前学修課題：国内・海外を問わずこの1週間で発生した社会の動き・事故・事件など気になった出来事について調べておく。

②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、自分の新たな知識として確実に把握しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のゼミを通じて、個々の学生の課題を指摘する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の2つから総合的に評価する。

- ・ 授業発表や目標設定の内容や取り組み方
- ・ 卒業研究に向けたレポートの内容

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	100	・授業発表や目標設定の内容や取り組み方(50) ・卒業研究に向けたレポートの内容(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	適宜プリントを配布する
参考書	適宜紹介すると同時に研究室の書籍の貸出を認める。
履修条件・他の科目との関連	・無断欠席・遅刻、他の受講生に迷惑になる行為を繰り返す場合は単位を認定しない。 ・止むを得ず欠席、遅刻する場合は担当教員に必ず事前に本人が連絡すること。

授業コード	13071415	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、これまでにセミナーⅠa、セミナーⅠb、セミナーⅠⅠa、セミナーⅠⅠbで養ってきた自ら学習して向上させていこうとする力（自己学習力）をいっそう高めて、3年生と4年生との2年間で行う「卒業研究」に必要な経験・知識・技術などを身につけながら、「卒業研究」の課題を自ら決め、文献検索などを行いながら具体的な研究計画を自ら立てることを主眼としています。

(1) 食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査して、食に関わるビジネスとはなにか具体的なかつ積極的に体験して理解します。

(2) 農村部や都市部などの地域の活性化（地域創生）や地域の健康増進などに食のビジネスがどのように貢献できるのか具体的事例をあげながら考察します。

(3) 研究のために必要な基盤的知識、文献検索法などの研究技術を身につけます。

- ・ 学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などから適切な情報を自ら探し出し、整理して取り纏めたものをパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力を身につけます。
- ・ 本質的な問題点が何なのかを深く掘り下げて考え、それを解決する具体的な方策を考えて「卒業研究」の課題の決定と研究企画を行います。
- ・ 専門書や英文資料の講読を介して英語を活用できる実践力を伸ばします。

これらの受講課題を習熟して人間の健康におよぼす様々な要因について理解し考察することで、健康に暮らすべくために欠かせない基盤的知識とスキルを身につけます。

到達目標

(1) 食品ビジネスについて理解を深め、食に関わるビジネスが人間の健康におよぼす影響について科学的に説明できるようになり、卒業研究の方向性を自ら決められます。

(2) 食品ビジネスに関わる卒業研究の課題を策定し、文献検索をすすめることで、その研究の学術的意義あるいは社会的意義について具体的に説明できるようになります。

(3) 健康に暮らし続けるために欠かすことができない様々な食品ビジネスに関わる多様なスキルを身につけ、食品と健康のかかわりについて具体的に的確な説明ができるようになり、卒業研究の企画を自ら立てることができるようになります。

(4) 卒業研究を遂行できるスキル（学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などからの情報検索、情報検索結果をパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力、英文の専門書・論文・学術資料などを講読できる実践力など）を身につけます。

授業計画

第1回 セミナーのオリエンテーション：卒業研究の課題設定と研究のすすめかたなどの概要を説明します。

第2回 論文検索（1）：卒業研究に欠かせない学術論文のオンライン検索法を説明します。

第3回 書籍検索（2）：図書館で卒業研究に欠かせない学術書籍の検索法を説明します。

第4回 学術英語：卒業研究に欠かせない学術英語について説明します。

第5回 報告会（1）：受講生が、食品の生産農場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第6回 報告会（2）：受講生が、青物市場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第7回 報告会（3）：受講生が、食品の製造工場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第8回 前半のまとめと復習

第9回 卒業研究の進捗状況報告会（1）：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第10回 卒業研究の進捗状況報告会（2）：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第11回 卒業研究の進捗状況報告会（3）：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第12回 卒業研究の課題の決定（1）：各々の卒業生の卒業研究の課題を面談しながら作成します。

第13回 卒業研究の課題の決定（2）：各々の卒業生の卒業研究の課題を面談しながら作成します。

第14回 卒業研究の課題の決定（3）：各々の卒業生の卒業研究の課題を面談しながら作成します。

第15回 後半のまとめと復習

第16回 期末試験：レポート（卒業研究の課題決定と中間報告）の提出

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は講義形式（時にリモートや校外学習）でおこなうので、受動的学習と食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査するアクティブラーニングの要素を含みます。事前に積極的に書籍や論文などの検索やインターネット検索などによる基

礎的知識を身につけたうえで受講したり見学・踏査することが必要です（1. 5時間の事前学習）。事後に講義ノートを整理しながら復習すること、情報検索結果や見学・踏査の成果をパワーポイントに取りまとめて講義中に実施するプレゼンの準備、卒業研究の課題決定、研究企画の策定などが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業毎に「講義をうけて新たに分かったこと」、「講義をうけて自分で考えたこと」、「質問したかったこと」などの講義レポートを実施し、適時質問事項について説明するとともに、講義内に適時実施するプレゼンテーションおよび「前期まとめ」と「後期のまとめ」において実施するレポート試験、期末試験、定期試験などを介して自己評価と復習を即します。

成績評価の方法・基準(方針)

下記のように、受講の平常点、食のビジネス現場の見学や踏査の報告、卒業研究中間報告に取り組む姿勢ならびに卒業研究の課題の決定と研究企画の策定などを総合的に評価し成績を評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	受講の平常点として食のビジネスに関わる適切な情報を探し出してパワーポイントに取りまとめたプレゼンテーションなどを評価します・40%(40点) 食のビジネス現場の見学や踏査した後に提出する受講レポートの内容を評価します・30%(30点)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	30	卒業研究の課題の決定と研究企画の策定および卒業研究の中間報告に取り組む姿勢を評価します・30%(30点)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 「よくわかる卒論の書き方第2版」白井利明・高橋一郎・ミネルヴァ書房・ISBN:978-4-6230-6572-1。別途、オンラインを通じて受講に必要な資料のpdfなどを配布します。

参考書 「健康・スポーツ科学のための卒業論文の書き方」出村慎一・山次俊介・杏林書院・ISBN:978-4-7644-1162-3
「フードサービスの教科書」茂木信太郎・創成社・ISBN:978-4-7944-2504-1
「フードビジネスのための最新飲食業の法律問題と実務マニュアル」服部真和監修・三修社・ISBN:978-4-3840-4688-5
上記の他に日経MJ(流通新聞)や参考資料などを必要に応じて授業の中で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 このセミナーは、講義中のノートテイキングや食のビジネスの事例報告、食品の生産農場や製造工場の見学報告、市場・商店街や中食・外食の踏査報告、卒業研究の進捗状況報告など受講生が積極的に活動することを重視するものですので、各自がしっかりと自分自身のノートを作成するとともに、テキストや参考書などを手元において予習と復習をしっかりと行うことが求められます。受講生は、学外の市町村や会社などの現場の担当者と交わりながら勉強をします。毎週1回開催するセミナーの授業時間は「実際に行ったことの進捗状況の報告」や「計画の相談」などの時間です。授業がなくて空いている時間を有効に使って、研究に取り組んでください。
・状況により授業内容の一部および順番、授業形態などを変更する場合があります。
・授業中のプレゼンテーションは指定された授業日に必ず実施し、卒業研究の課題や企画書などは締切期限までに必ず提出してください。プレゼンテーションをしなかった場合や提出が遅れた場合は評価しません。

授業コード	13071416	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、自分自身が興味や関心を持った「福祉」に関連するテーマを探す。そして、事前に発表の順番を決め、「テーマに沿った文献の収集、集めた文献をもとに報告資料の作成、報告、グループ討議」の流れを基本とする。また、文献の購読とグループ討議を行う。発表、討論を主とする授業である。発表に対する自主学習には積極的な姿勢が必要であり、周りと協力する協調性が求められる授業である。

到達目標

1. 調べた内容をまとめることができる。
2. プレゼンテーション力を高めることができる。
3. 卒業研究のテーマを決める。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション（セミナーⅢの授業説明と自己紹介）
- 【第2回】 年間計画作成（年間の行動計画表の作成、発表順番決めと発表方法の説明）
- 【第3回】 発表と討論①（一番興味のあること）
- 【第4回】 発表と討論②（一番興味のあること）
- 【第5回】 発表と討論③（一番興味のあること）
- 【第6回】 発表と討論④（一番興味のあること）
- 【第7回】 SPI試験
- 【第8回】 発表と質疑応答（卒業研究で取り組みたいテーマ）
- 【第9回】 論文講読と質疑応答①（研究テーマの先行研究）
- 【第10回】 論文講読と質疑応答②（研究テーマの先行研究）
- 【第11回】 人権映画鑑賞
- 【第12回】 論文講読と質疑応答③（研究テーマの先行研究）
- 【第13回】 論文講読と質疑応答④（研究テーマの先行研究）
- 【第14回】 論文講読と質疑応答⑤（研究テーマの先行研究）
- 【第15回】 夏休みの課題について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。授業以外で作業することも多く、毎回につき1.5時間程度の事前学習と2.5時間程度の事後学習が必要です。わからないことがあれば積極的に質問をすること。

- 【事前】 発表の準備（研究についての情報収集や発表資料の作成など）
- 【事後】 議論をしたら発表したものについては修正をしておく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業中やメール、Googleclassroomなどにて個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究中間報告に関する課題と授業内での評価に基づき評価する。課題を提出しなければ、「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題の発表(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	50	課題に取り組む姿勢(50)	1, 2

テキスト

テキストを使用しない

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・やむを得ず欠席や遅刻する場合は必ず本人が担当教員に事前に連絡すること。・30分を超過した遅刻、および30分以上の早退は欠席とする。・3回の遅刻(早退を含む)で、1回の欠席とする。

授業コード	13071417	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、3年生時に4年生で作成する卒業研究に向けて必要な基礎的な内容を学修します。前期は、レクリエーション活動の企画と運営について、独自のレクリエーション活動を企画し、レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会や、レクリエーション活動を実施します。先行研究の検索方法や、資料のまとめ方などについて学修します。

到達目標

1. 情報を収集してまとめることができる。
2. 学術論文を読み、内容をまとめることができる。
3. プレゼンテーションができる。
4. レクリエーション活動の企画・運営を安全に実施することができる。

授業計画

- 【第1回目】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：セミナーⅢの進め方について確認をする。
- 【第2回目】
 テーマ：セミナーの年間計画を立てる
 内容・方法：セミナーの年間計画を立てる
- 【第3回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動1
 内容・方法：企画書を作成する
- 【第4回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動2
 内容・方法：コンペティション1（各自発表し、活動内容の決定）
- 【第5回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動3
 内容・方法：コンペティション2（各自発表し、活動内容の決定）
- 【第6回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動4
 内容・方法：決定した内容について、詳細を決めていく。
- 【第7回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動5
 内容・方法：ルール等の作成
- 【第8回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動6
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会の準備
- 【第9回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動7
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会の準備
- 【第10回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動8
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会の準備
- 【第11回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動9
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会の準備
- 【第12回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動10
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会の準備
- 【第13回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動11
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会リハーサル
- 【第14回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動12
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会最終確認
- 【第15回目】
 テーマ：対象者に適したレクリエーション活動13
 内容・方法：大阪府レクリエーションインストラクター資格課程認定校交流大会まとめ後期に向けての課題について確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容の復習と、授業ノートの整理を行うこと。興味ある内容について、専門書を読んでおくこと。授業時に提示された課題について（課題の作成、発表準備のための資料整理等）、毎回1.5時間程度の事前学習および2.5時間程度の事後学習が必要。

課題に対するフィードバックの方法

翌授業時に学生へ返却し、指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

プレゼンテーション、レクリエーション活動、レポート課題を提出しなければ、不合格（K評価）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度(30)、課題発表の内容(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 2, 3, 4
その他	20	グループワーク貢献度(20)	3, 4

テキスト	使用しません
------	--------

参考書	必要に応じて適宜配布します
-----	---------------

履修条件・他の科目との関連	レクリエーション概論、レクリエーション演習Ⅰ、レクリエーション演習Ⅱ
---------------	------------------------------------

授業コード	13071418	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツパフォーマンス向上に関する文献の講読、プレゼンテーション、討論などを行い、卒業研究に取り組むために必要なスキルを身につけることを目的とする
 スポーツパフォーマンス向上を目指す選手への運動処方に関する知見を明らかにする
 目的や志向に沿ったトレーニング様式・強度・時間・頻度・期間・休憩時間等のプログラム変数に対して最適なものを選び、最大の効果を得られるように至適な組み合わせを検討する
 多くの文献で明らかになっているトレーニングプロトコル(手順)に従い、自身や仲間を被検者とし、トレーニングを行い測定評価を行うことで、その運動処方がパフォーマンスにどのような影響を与えたのかを理解する

到達目標

1. 卒業研究中間発表の準備を行うことができる
2. 文献に表出する専門用語を深く掘り下げ調べることができる
3. 基本的な統計学の知識を有する

授業計画

第1回；ガイダンス 授業の内容・進め方・評価方法の概説
 第2回；グループディスカッション
 スポーツパフォーマンス規定要因である内的要因（運動・精神・健康領域の三領域）
 第3回；文献調査
 第4回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第5回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第6回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第7回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第8回；SPI試験
 第9回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第10回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第11回；人権映画会
 第12回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第13回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第14回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第15回；総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
 授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
 授業で学んだ内容を自身の言葉でサマライズすることができる

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	文献調査を行い、文献中の専門用語を深く掘り下げ調べることができる能力 統計学的有意差に関する理解度	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	卒業研究中間報告対する取り組む姿勢	1, 2, 3

テキスト	適宜授業中に指示する
参考書	適宜授業中に指示する
履修条件・他の科目との関連	履修条件・他の科目との関連 遅刻は3回で欠席1回とみなす。 20分以上の遅刻は欠席。 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外。 担当教員への連絡方法 長野 崇 t-nagano@oiu.jp

授業コード	13071419	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

生活習慣病予防や健康に対する国民の意識の高まりなどから、日々摂取する食品においても機能性を有する成分が含まれた新商品の開発が多く行われています。そこで様々な食品成分の機能性について理解し、機能性表示食品、栄養機能食品、特定保健用食品について知識がつくように説明する。

到達目標

1. 機能性食品、栄養機能食品、特定保健用食品について理解し説明できる。
2. 各種疾患と食品の機能性相互作用について理解し説明できる。
3. 身近にある食品における機能性について興味を持ち各自で調べてみる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション:セミナー内容の確認
- 【第2回】 お互いを知る:自己紹介
- 【第3回】 食品の機能性について学ぶ:機能性食品、栄養機能食品、特定保健用食品について知ろう。
- 【第4回】 食品の機能性について調べる:身近にある機能性食品について考えてみよう。
- 【第5回】 食品の機能性について学ぶ:高血圧、アレルギー免疫、癌と食品機能性との関連性を知ろう。
- 【第6回】 食品の機能性について調べる:高血圧、アレルギー免疫、癌と食品機能性について考えてみよう。
- 【第7回】 食品の機能性について学ぶ:血栓症、肝疾患、糖尿病、痛風と食品機能性との関連性を知ろう。
- 【第8回】 食品の機能性について調べる:血栓症、肝疾患、糖尿病、痛風と食品機能性について考えてみよう。
- 【第9回】 食品の機能性について学ぶ:骨粗しょう症、食欲・肥満、疲労、認知症・記憶学習能低下予防と食品機能性との関連性を知ろう。
- 【第10回】 食品の機能性について調べる:骨粗しょう症、食欲・肥満、疲労、認知症・記憶学習能低下予防と食品機能性について考えてみよう。
- 【第11回】 食品の機能性について学ぶ:機能性糖質、食物繊維、ポリアミン類、キチン・キトサン、クロレラ、乳酸菌と食品機能性との関連性を知ろう。
- 【第12回】 食品の機能性について調べる:食品の機能性について学ぶ:機能性糖質、食物繊維、ポリアミン類、キチン・キトサン、クロレラ、乳酸菌と食品機能性について考えてみよう。
- 【第13回】 食品の機能性について学ぶ:杜仲、ドクダミ、紅麹、培養ニンジン、ハト麦、ニンニクと食品機能性との関連性を知ろう。
- 【第14回】 食品の機能性について調べる:食品の機能性について学ぶ:杜仲、ドクダミ、紅麹、培養ニンジン、ハト麦、ニンニクと食品機能性について考えてみよう。
- 【第15回】 振り返り:前期授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと。
わからないところは放置せず、必ず質問すること。
普段の食生活の中で機能性食品について意識すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	100	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	<p>「新版 食品機能学への招待 ― 生活習慣病予防と機能性食品 ―」 三共出版 ISBN:978-4-7827-0685-5 倉敷芸術科学大学名誉教授 須見洋行、倉敷芸術科学大学教授 矢田貝智恵子 [共著] 定価 2,310円(本体2,100円)</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。 状況により授業内容の順番など変更する場合があります。</p>

授業コード	13071511	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、前期では専門書、雑誌、新聞、インターネット等から自分自身が関心・興味を持った「食・料理・食文化」に関する事柄を探し出すことから始まります。次に、それをテーマとした研究をどのようにして進めていくかについての討論を行います。討論の内容は、なぜそのテーマに関心を持ったのか、そしてどのような方法を用いてその研究を進めていくのかなどで、例えば文献研究、アンケート調査の実施、実験計画などの研究方法について話し合い、研究計画を立てます。後期では夏休みの研究課題を発表し、研究テーマや分析方法について再検討を行い、必要に応じてアンケートであれば予備調査、実習を行う場合は予備実習を行い、その結果をまとめて研究レポートを提出し、セミナーⅣへとつなげます。また、セミナーⅢでは、食をテーマにした学外での見学会や活動を学生自身が企画し、実施します。さらにセミナーで学んだことを形にし、各コンテストへ参加することも可能です。

到達目標

1. 所定の書式の卒業研究中間報告を作成できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：卒業研究について（文献発表）
 内容・方法：文献内容の発表、夏季休暇中の計画について
- 【第2回】
 テーマ：夏季休暇中の報告
 内容・方法：レポート提出、後期のスケジュールについて
- 【第3回】
 テーマ：夏季休暇中の課題発表
 内容・方法：夏季休暇中の課題について各自発表する
- 【第4回】
 テーマ：研究計画発表
 内容・方法：卒業研究テーマの見直し、後期研究計画発表
- 【第5回】
 テーマ：アンケート調査について
 内容・方法：アンケート調査の方法（各テーマに基づいた内容）
- 【第6回】
 テーマ：アンケート調査の実施
 内容・方法：アンケート調査実施
- 【第7回】
 テーマ：アンケート調査の集計
 内容・方法：アンケート調査の集計
- 【第8回】
 テーマ：アンケート調査結果まとめ
 内容・方法：アンケート調査結果をグラフにまとめる
- 【第9回】
 テーマ：アンケート調査結果発表
 内容・方法：アンケート調査結果発表
- 【第10回】
 テーマ：官能検査実験の理論
 内容・方法：官能検査の理論
- 【第11回】
 テーマ：官能検査の実施準備
 内容・方法：実験計画の立て方、予備実験、実習・実験
- 【第12回】
 テーマ：官能検査実験
 内容・方法：官能検査実験の実施
- 【第13回】
 テーマ：官能検査結果のまとめ
 内容・方法：実験結果をまとめる
- 【第14回】
 テーマ：レポート作成
 内容・方法：アンケート、官能検査実験についてレポートをまとめる。
- 【第15回】
 テーマ：進路（就職、進学等）の相談
 内容・方法：進路の相談（個別）
- 【第16回】
 テーマ：春季休暇中の研究計画

内容・方法：春季休暇中の計画表提出

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回につき 1.5 時間ほどの事前学習および 2.5 時間ほどの事後学習が必要である。

【第1回】

- ①事前学修課題：夏季休暇中の研究活動についての報告レポートをまとめる
- ②事後学修課題：今後の研究計画を立てる。夏季休暇中の課題の発表準備

【第2回】

- ①事前学修課題：課題発表の準備（PPT作成）
- ②事後学修課題：特になし

【第3回】

- ①事前学修課題：研究テーマ等について見直す
- ②事後学修課題：研究テーマを再度検討する。

【第4回】

- ①事前学修課題：アンケートの内容を考える
- ②事後学修課題：アンケート調査に関する復習

【第5回】

- ①事前学修課題：アンケートを仕上げる
- ②事後学修課題：アンケート調査用紙の整理

【第6回】

- ①事前学修課題：エクセルの復習
- ②事後学修課題：アンケート調査の集計結果をまとめる

【第7回】

- ①事前学修課題：エクセル図形の作成復習
- ②事後学修課題：アンケートの調査結果をもとに結果考察をまとめる。

【第8回】

- ①事前学修課題：アンケート調査結果について発表原稿をまとめる。
- ②事後学修課題：特になし

【第9回】

- ①事前学修課題：特になし
- ②事後学修課題：資料を読み、復習する。

【第10回】

- ①事前学修課題：官能検査の方法について調べる
- ②事後学修課題：特になし

【第11回】

- ①事前学修課題：実施する官能検査の手順を確認する
- ②事後学修課題：官能検査の結果をまとめる

【第12回】

- ①事前学修課題：官能検査の結果を整理する
- ②事後学修課題：官能検査実験の結果、考察をまとめる

【第13回】

- ①事前学修課題：実験などの結果をまとめる。
- ②事後学修課題：特になし

【第14回】

- ①事前学修課題：進路について考える。
- ②事後学修課題：得た情報をもとに行動する。

【第15回】

- ①事前学修課題：具体的な活動計画を立てる
- ②事後学修課題：エントリーシートの作成等、行動する。

課題に対するフィードバックの方法

セミナー時に適宜フィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

受講態度40%、発表等活動状況30%、最終報告レポート30%の総合評価とする。
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とします。
卒業研究中間報告を提出しなければ、不合格（K評価）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究に取り組む態度(20) 進捗状況確認のためのレポート提出(30)	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究中間報告(30)	1
その他	20	卒業研究中間報告に取り組む姿勢(20)	1

テキスト	プリントを配布する
参考書	「食生活デザイン」川端晶子他共著 家政教育社 2000円
履修条件・他の科目との関連	<p>◎5回以上担当教員への連絡なしに欠席し、欠席時の課題を5回以上未提出の学生(公欠を除く)は、単位を取得することができない。</p> <p>◎就職ガイダンス、学校行事等にも積極的に参加すること。</p> <p>◎無断欠席、遅刻、他の受講生に対し迷惑となる行為を繰り返した場合は単位を認定しない。</p> <p>◎欠席した場合は、課題等のプリントを研究室に取りに来ること。また、課題は次週のセミナー時に提出すること。</p>

授業コード	13071512	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人類の永遠のテーマといっても過言ではない健康を取り巻く業界を視野に置き、「人々が欲するモノやコト」をうまく提供する方法について学び、具体的な活動につなげていけるようにする。
 学んだ知識を活用する能力は体験からしか得られないため、本セミナーは主としてPBL(Project-Based Learning)により進めていく。PBLとは、プロジェクト(演習)を通じた学習のことで、実践的な知識の獲得や体験による対象の深い理解を目的としている。なお、プロジェクトは企画・問題解決・意思決定・調査を含んでいる。受講者には、長時間自律して課題に取り組む機会が与えられ、最終的にその成果物(プレゼンテーション)を生み出すことが求められる。
 また、実践によって身につけた社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)とPBLによる成果物を強みとして、就活に前向きに取り組んでいけるようにしていく。
 さらに、各自で卒業研究テーマを決定し、卒業研究中間報告を作成し提出する。

到達目標

1. テーマに関する的確な文献および資料を検索する能力を身につける。
2. 感想文、レポートおよび論文の違いが説明できる。
3. 簡単な課題解決のプロセスを通して、考える力、行動する力、チームワーク力を身につける。
4. 卒業研究中間報告が作成できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：振り返り
 内容・方法：前期を通しての振り返りを行なう。また、本セミナーで実施するプロジェクト運営についての情報共有を行う。
- 【第2回】
 テーマ：オリエンテーション ～プロジェクトの確認～
 内容・方法：授業計画の概要とプロジェクト運営の手順について説明する。
- 【第3回】
 テーマ：プロジェクトの準備
 内容・方法：プロジェクトを細部にわたって検討し、より具体化していく。
- 【第4回】
 テーマ：プロジェクトの遂行①
 内容・方法：プロジェクトの企画内容に沿って活動を展開する。
- 【第5回】
 テーマ：プロジェクトの遂行②
 内容・方法：プロジェクトの企画内容に沿って活動を展開する。
- 【第6回】
 テーマ：プロジェクトの遂行③
 内容・方法：プロジェクトの企画内容に沿って活動を展開する。
- 【第7回】
 テーマ：プロジェクトの遂行④
 内容・方法：プロジェクトの企画内容に沿って活動を展開する。
- 【第8回】
 テーマ：キャリア教育(日程は前後する)
 内容・方法：大学卒業後の具体的な進路に応じて、その準備に必要な事柄を学ぶ。
- 【第9回】
 テーマ：プロジェクトの遂行⑤
 内容・方法：プロジェクトの企画内容に沿って活動を展開する。
- 【第10回】
 テーマ：卒業研究とは
 内容・方法：卒業研究の意義、卒業研究を行なっていく上での心構え等について説明する。
- 【第11回】
 テーマ：論文とレポートと作文の違い
 内容・方法：論文とレポートと作文の違いについて説明し、今後、論文を書いていくという心構えを持たせる。
- 【第12回】
 テーマ：論文の構成と論文の書き方
 内容・方法：論文の構成と論文の書き方について解説する。
- 【第13回】
 テーマ：文献検索の仕方①
 内容・方法：図書館で文献検索の仕方を学ぶ。(実習)
- 【第14回】
 テーマ：文献検索の仕方②
 内容・方法：各自で興味のあるテーマの文献検索を行ない、指示に従って入手してくる。

【第15回】

テーマ：卒研テーマの検討

内容・方法：卒研テーマの設定について説明する。とくに、経営学をベースとした研究に求められる要件について説明をする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：各自でプロジェクト内容の振り返りを行なっておくこと。2時間

②事後学修課題：プロジェクト内容を全員で共有しておくこと。2時間

【第2回】

①事前学修課題：各自でプロジェクトの内容を掘り下げて考えてくること。2時間

②事後学修課題：プロジェクト内容に曖昧な点がないか、十分に見直しをしておくこと。2時間

【第3回】

①事前学修課題：企画を実行する上で必要なものを準備しておくこと。2時間

②事後学修課題：実施の経緯、結果について詳細な記録をとっておくこと。2時間

【第4回】

①事前学修課題：企画を実行する上で必要なものを準備しておくこと。2時間

②事後学修課題：実施の経緯、結果について詳細な記録をとっておくこと。2時間

【第5回】

①事前学修課題：企画を実行する上で必要なものを準備しておくこと。2時間

②事後学修課題：実施の経緯、結果について詳細な記録をとっておくこと。2時間

【第6回】

①事前学修課題：企画を実行する上で必要なものを準備しておくこと。2時間

②事後学修課題：実施の経緯、結果について詳細な記録をとっておくこと。2時間

【第7回】

①事前学修課題：将来への心構えを新たにし、進路に必要な情報を入手・整理しておく。2時間

②事後学修課題：将来の進路を目指し具体的な活動に取り掛かる。2時間

【第8回】

①事前学修課題：企画を実行する上で必要なものを準備しておくこと。2時間

②事後学修課題：実施の経緯、結果について詳細な記録をとっておくこと。2時間

【第9回】

①事前学修課題：研究とは何かについて予習をしておくこと。2時間

②事後学修課題：卒業研究の意義についてまとめ、理解を深めておくこと。2時間

【第10回】

①事前学修課題：レポートと作文の違いを考えてくること。2時間

②事後学修課題：本時の内容をまとめ、理解を深めておくこと。2時間

【第11回】

①事前学修課題：論文であるための条件を調べてくること。2時間

②事後学修課題：本時の内容をまとめ、理解を深めておくこと。2時間

【第12回】

①事前学修課題：参考資料、参考文献とは何か、について予習してくる。2時間

②事後学修課題：興味のあるテーマの文献検索を行ってみること。2時間

【第13回】

①事前学修課題：さらに、興味のあるテーマの文献検索を行ってみること。2時間

②事後学修課題：興味のあるテーマについて、網羅性を重視して文献検索を行なってみる。2時間

【第14回】

①事前学修課題：卒研テーマ案を考えてみる。2時間

②事後学修課題：卒研テーマ案を検討してみる。2時間

【第15回】

①事前学修課題：さらに、卒研テーマ案を検討してみる。2時間

②事後学修課題：卒研テーマ案を具体的に挙げ、提出する。2時間

課題に対するフィードバックの方法

課題に定型の答えがないため、その都度アドバイスの形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

成績の評価は平常点と卒業研究中間報告の内容により行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	情報収集、発表に向けた準備状況の程度	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	50	取り組み姿勢および発表内容の程度 卒業研究中間報告の内容	3, 4

テキスト	使用しない。 適宜、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	「ヘルスケアビジネス演習Ⅱ」と同時履修が望ましい。 5回以上欠席すると単位認定ができない可能性がある。 状況により、授業内容や時間を変更することがある。

授業コード	13071513	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅢは卒業研究を行うための基礎固めとなる大事な授業である。本セミナーⅢⅠa、ⅢⅠbでは、人間の心や行動について心理学を中心とした学問を共に学ぶ。セミナーⅢⅠbでは、セミナーⅢⅠaで学んだこと(「見つける」、「調べる」、「まとめる」、「発表する」)を活かし、卒業研究に向けての具体的に準備を進めていく。すなわち、卒業研究としてどのような研究を行うか具体化し、各自テーマを絞り込むことを目的とする。

到達目標

1. 研究論文を読むことができる。
2. 研究論文を要約することができる。
3. 様々なテーマについて、自身の考えを論理的に述べるができる。
4. 所定の書式の卒業研究中間報告を作成できる。

授業計画

- 【第1回】 後期行動計画作成①：具体的な行動計画書を作成する
- 【第2回】 グループワーク①：行動観察(主観と客観)について考える
- 【第3回】 グループワーク②：データを収集する
- 【第4回】 データのまとめ方、分析の方法①：収集したデータの分析する方法を考える
- 【第5回】 データのまとめ方、分析の方法②：データが示す意味について考える
- 【第6回】 卒業研究テーマの選定①：前期第11～14回で構想してきた自身の研究テーマについて具体化していく
- 【第7回】 卒業研究テーマの選定②：文献レビュー
- 【第8回】 卒業研究テーマの選定③：テーマについての発表
- 【第9回】 卒業研究テーマの選定④：テーマについての発表
- 【第10回】 卒業研究：具体的方法論の構想①：文献研究、調査、実験について考える
- 【第11回】 卒業研究：具体的方法論の構想②：予備調査、実験の準備
- 【第12回】 卒業研究中間報告書作成①：研究論文の書き方について
- 【第13回】 卒業研究中間報告書作成②：先行研究、方法のまとめ方について
- 【第14回】 調査、実験の実施
- 【第15回】 調査、実験を実施しての報告、およびまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 卒業研究中間報告書を作成するにあたって、自身の実際の行動スケジュールを組む 1.0時間
 - 【事後】 立てた行動計画書を再度見直し、加筆修正する 1.0時間
- 第2回
 - 【事前】 「観察」とは何かを自分なりに調べ、ノートに加筆する 1.5時間
 - 【事後】 研究における客観性について、自分のことばでまとめる 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 「データ」とは何か自分なりに調べ、ノートに加筆する 1.5時間
 - 【事後】 データを「解析する」とはどういうことか自分なりに調べ、ノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 データをどのように収集できるか自分なりに考え、ノートに加筆する 1.5時間
 - 【事後】 得られたデータをグラフ化する(エクセルを使用することが求められる) 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 データが持つ意味について自分なりに調べ、ノートに加筆する 1.5時間
 - 【事後】 様々なデータ例から適した分析方法を考える 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 研究テーマをより具体的にしておく 1.5時間
 - 【事後】 テーマを絞るために、文献検索し、まとめる 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】 文献検索し、まとめておく 1.5時間
 - 【事後】 さらに得られた文献をまとめる 2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 研究テーマをより明確化させ、パワーポイントを作成する 1.5時間
 - 【事後】 指摘を受けたことについて考え、文献検索や研究方法について考え、まとめる 2.5時間
- 第9回
 - 【事前】 文献検索し、まとめおく 1.5時間
 - 【事後】 文献検索や研究方法について考え、まとめる 3.5時間

第10回	【事前】 研究を実施するために、どのような「方法」があるのか自分なりに調べ、まとめる 1.5 時間 【事後】 自身の研究における「方法」を考え、まとめておく 2.5 時間
第11回	【事前】 予備調査、予備実験とは何か自分なりに調べ、ノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 自身の予備調査あるいは予備実験を行うための準備をする 2.5 時間
第12回	【事前】 研究論文の構成について自分なりに調べ、ノートに加筆する 1.5 時間 【事後】 自身の研究に必要な文献の整理をする 2.5 時間
第13回	【事前】 先行研究とはどのようなことであり、自身の研究に必要な文献をどう活用できるか考え、自分なりにまとめおく 1.5 時間 【事後】 「はじめに」および「研究目的」、「方法」について執筆する 2.5 時間
第14回	【事前】 予備実験あるいは予備調査を実施するための準備をしておく 1.5 時間 【事後】 予備調査あるいは予備実験から得られたデータの整理をする 2.5 時間
第15回	【事前】 予備実験あるいは予備調査を実施するための準備をしておく 1.5 時間 【事後】 予備調査あるいは予備実験から得られたデータの整理をする 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業課題、発表、定期試験に代わるレポート等、その他の評価結果に基づき総合的に評価する。なお、「卒業研究中間報告」がない場合は評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内に提示する課題 (20) 発表 (30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究中間報告	4
その他	20	卒業研究中間報告に取り組む姿勢	4

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	松井 豊著:心理学論文の書き方,河出書房新社,978-4309245225 価格:1870 円
履修条件・他の科目との関連	学習の進捗状況によって、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13071514	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自分の興味のあることに対して、素朴な疑問や関心を持ち、学際的な研究に邁進する。各自の研究テーマにそって研究計画を練り、実践し、卒業研究の中間報告を提出する。

到達目標

1. 人間の行動を科学的にとらえて論理的に記述することができる。
2. 統計解析を通じて得られた結果を読み解き、考察を加えることができる。
3. 先行研究を用いて自分の研究の科学性を説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の実施報告。
- 【第2回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：夏休み中の進捗状況の報告
- 【第3回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第4回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第5回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第6回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第7回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第8回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第9回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第10回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第11回】
 テーマ：卒業研究に向けて
 内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第12回】
 テーマ：卒業研発表に向けて
 内容・方法：卒業研究の論集用原稿の作成指導
- 【第13回】
 テーマ：卒業発表に向けて
 内容・方法：卒業研究の論集用原稿の作成指導
- 【第14回】
 テーマ：卒業発表に向けて
 内容・方法：パワーポイントを使用したプレゼンテーション練習・指導
- 【第15回】
 テーマ：卒業発表に向けて
 内容・方法：パワーポイントを使用したプレゼンテーション練習・指導

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。

- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第2回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第3回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第4回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第5回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第6回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第7回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第8回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第9回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第10回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第11回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第12回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究発表会に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第13回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究発表会に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第14回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究発表会に役立てる知識として理解を深めておくこと。
- 【第15回】
- ①事前学修課題：パワーポイントの資料を十分に把握しておく。
- ②事後学修課題：卒業研究の経験を今後の人生に役立てられるように理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のゼミを通じて個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下の2つから総合的に評価する。
- ・授業発表や目標設定の内容や取り組み方卒業研究に取り組む態度 (50)
 - ・レポート：卒業研究中間報告 (30) を含む
 - ・卒業研究中間報告に取り組む姿勢 (20)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業発表や目標設定の内容や取り組み方(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究発表会の要旨を含む(30)	1, 2, 3
その他	20	卒業研究中間報告に取り組む姿勢(20)	

テキスト 適宜プリントを配布する

参考書 特に指定しない。

履修条件・他の科目との関連 特になし。

授業コード	13071515	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、これまでにセミナーⅠa、セミナーⅠb、セミナーⅠⅠa、セミナーⅠⅠb、セミナーⅠⅠⅠaで養ってきた自ら学習して向上させていこうとする力（自己学習力）をいっそう高めて、3年生と4年生との2年間で行う「卒業研究」に必要な経験・知識・技術などを身につけながら、自ら課題を決めた「卒業研究」について文献検索などを行いながら具体的に進めることを主眼としています。

(1) 食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査して、食に関わるビジネスとはなにか具体的なかつ積極的に体験して理解します。

(2) 農村部や都市部などの地域の活性化（地域創生）や地域の健康増進などに食のビジネスがどのように貢献できるのか具体的事例をあげながら考察します。

(3) 研究のために必要な基盤的知識、文献検索法などの研究技術を身につけます。

- ・学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などから適切な情報を自ら探し出し、整理して取り纏めたものをパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力を身につけます。
- ・本質的な問題点が何なのかを深く掘り下げて考え、それを解決する具体的な方策を考えて課題を決定した「卒業研究」の研究企画を深めます。
- ・専門書や英文資料の講読を介して英語を活用できる実践力を伸ばします。

これらの受講課題を習熟して人間の健康におよぼす様々な要因について理解し考察することで健康に暮らすために欠かせない基盤的知識とスキルを身につけます。

到達目標

(1) 食品ビジネスについて理解を深め、食品に関わるビジネスが人間の健康におよぼす影響について科学的に説明できるようになり、卒業研究の方向性を自ら決められます。

(2) 食品ビジネスに関わる卒業研究の課題を策定し、文献検索をすすめることで、その研究の学術的意義あるいは社会的意義について具体的に説明できるようになります。

(3) 健康に暮らし続けるために欠かすことができない様々な食品ビジネスに関わる多様なスキルを身につけ、食品と健康のかかわりについて具体的に的確な説明ができるようになり、卒業研究の企画を自ら立てることができるようになります。

(4) 卒業研究を遂行できるスキル（学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などからの情報検索、情報検索結果をパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力、英文の専門書・論文・学術資料などを講読できる実践力など）を身につけます。

授業計画

第1回 論文検索(1)：卒業研究に欠かせない学術論文のオンライン検索法を説明します。

第2回 論文検索(2)：卒業研究に欠かせない学術論文のオンライン検索法を説明します。

第3回 書籍検索：図書館で卒業研究に欠かせない学術書籍の検索法を説明します。

第4回 学術英語：卒業研究に欠かせない学術英語について説明します。

第5回 報告会(1)：受講生が、食品の生産農場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第6回 報告会(2)：受講生が、青物市場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第7回 報告会(3)：受講生が、食品の製造工場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第8回 前半のまとめと復習

第9回 卒業研究の進捗状況報告会(1)：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第10回 卒業研究の進捗状況報告会(2)：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第11回 卒業研究の進捗状況報告会(3)：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第12回 卒業研究の課題の決定(1)：各々の卒業生の卒業研究の中間報告を面談しながら作成します。

第13回 卒業研究の課題の決定(2)：各々の卒業生の卒業研究の中間報告を面談しながら作成します。

第14回 卒業研究の課題の決定(3)：各々の卒業生の卒業研究の中間報告を面談しながら作成します。

第15回 卒業研究の中間報告の作成および後半のまとめと復習

第16回 期末試験：卒業研究の中間報告の提出

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は講義形式（時にリモートや校外学習）でおこなうので、受動的学習と食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査するアクティブラーニングの要素を含みます。事前に積極的に書籍や論文などの検索やインターネット検索などによる基

基礎的知識を身につけたうえで受講したり見学・踏査することが必要です（1. 5時間の事前学習）。事後に講義ノートを整理しながら復習すること、情報検索結果や見学・踏査の成果をパワーポイントに取りまとめて講義中に実施するプレゼンの準備、卒業研究の課題決定、研究企画の策定などが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業毎に「講義をうけて新たに分かったこと」、「講義をうけて自分で考えたこと」、「質問しなかったこと」などの講義レポートを実施し、適時質問事項について説明するとともに、講義内に適時実施するプレゼンテーションおよび「前期まとめ」と「後期のまとめ」において実施するレポート試験、期末試験などを介して自己評価と復習を即します。

成績評価の方法・基準(方針)

下記のように、受講の平常点、食のビジネス現場の見学や踏査の報告、卒業研究中間報告に取り組む姿勢ならびに卒業研究の課題の決定と研究企画の策定などを総合的に評価し成績を評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	受講の平常点として食のビジネスに関わる適切な情報を探し出してパワーポイントに取りまとめたプレゼンテーションなどを評価します・40%(40点) 食のビジネス現場の見学や踏査した後に提出する受講レポートの内容を評価します・30%(30点)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	30	卒業研究の課題決定・研究企画策定および卒業研究中間報告ならびに卒業研究に取り組む姿勢を評価し、卒業研究の中間報告が提出できて認定されることで評価します・30%(30点)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 「よくわかる卒論の書き方第2版」白井利明・高橋一郎・ミネルヴァ書房・ISBN: 978-4-6230-6572-1。別途、オンラインを通じて受講に必要な資料のpdfなどを配布します。

参考書 「健康・スポーツ科学のための卒業論文の書き方」出村慎一・山次俊介・杏林書院・ISBN: 978-4-7644-1162-3
「フードサービスの教科書」茂木信太郎・創成社・ISBN: 978-4-7944-2504-1
「フードビジネスのための最新飲食業の法律問題と実務マニュアル」服部真和監修・三修社・ISBN: 978-4-3840-4688-5
上記の他に日経MJ(流通新聞)や参考資料などを必要に応じて授業の中で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 このセミナーは、講義中のノートテイキングや食のビジネスの事例報告、食品の生産農場や製造工場の見学報告、市場・商店街や中食・外食の踏査報告、卒業研究の進捗状況報告など受講生が積極的に活動することを重視するものですので、各自がしっかりと自分自身のノートを作成するとともに、テキストや参考書などを手元において予習と復習をしっかりと行うことが求められます。受講生は、学外の市町村や会社などの現場の担当者と交わりながら勉強をします。毎週1回開催するセミナーの授業時間は「実際に行ったことの進捗状況の報告」や「計画の相談」などの時間です。授業がなくて空いている時間を有効に使って、研究に取り組んでください。
・状況により授業内容の一部および順番、授業形態などを変更する場合があります。
・授業中のプレゼンテーションは指定された授業日に必ず実施し、卒業研究の課題や企画書などは締切期限までに必ず提出してください。プレゼンテーションをしなかった場合や提出が遅れた場合は評価しません。

授業コード	13071516	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、自分自身が興味や関心を持った「福祉」に関連するテーマを探す。そして、事前に発表の順番を決め、「テーマに沿った文献の収集、集めた文献をもとに報告資料の作成、報告、グループ討議」の流れを基本とする。また、文献の購読とグループ討議を行う。発表、討論を主とする授業である。発表に対する自主学習には積極的な姿勢が必要であり、周りと協力する協調性が求められる授業である。

到達目標

1. 調べた内容をまとめることができる。
2. プレゼンテーション力を高めることができる。
3. 卒業研究のテーマを決める。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション（セミナーⅢの授業説明と自己紹介）
- 【第2回】 年間計画作成（年間の行動計画表の作成、発表順番決めと発表方法の説明）
- 【第3回】 発表と討論①（一番興味のあること）
- 【第4回】 発表と討論②（一番興味のあること）
- 【第5回】 発表と討論③（一番興味のあること）
- 【第6回】 発表と討論④（一番興味のあること）
- 【第7回】 SPI試験
- 【第8回】 発表と質疑応答（卒業研究で取り組みたいテーマ）
- 【第9回】 論文講読と質疑応答①（研究テーマの先行研究）
- 【第10回】 論文講読と質疑応答②（研究テーマの先行研究）
- 【第11回】 人権映画鑑賞
- 【第12回】 論文講読と質疑応答③（研究テーマの先行研究）
- 【第13回】 論文講読と質疑応答④（研究テーマの先行研究）
- 【第14回】 論文講読と質疑応答⑤（研究テーマの先行研究）
- 【第15回】 夏休みの課題について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。授業以外で作業することも多く、毎回につき1.5時間程度の事前学習と2.5時間程度の事後学習が必要です。わからないことがあれば積極的に質問をすること。

- 【事前】 発表の準備（研究についての情報収集や発表資料の作成など）
- 【事後】 議論したら発表したものについては修正しておく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業中やメール、Googleclassroomなどにて個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究中間報告に関する課題と授業内での評価に基づき評価する。課題を提出しなければ、「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	課題の発表(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究中間報告(50)	1, 2, 3
その他	20	卒業研究中間報告に取り組む姿勢(20)	1, 2

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・やむを得ず欠席や遅刻する場合は必ず本人が担当教員に事前に連絡すること。・30分を超過した遅刻、および30分以上の早退は欠席とする。・3回の遅刻(早退を含む)で、1回の欠席とする。

授業コード	13071517	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

学生が興味関心のあることについて、専門書・新聞・雑誌・インターネットなどを用いて資料を集め、パワーポイントを使用して発表します。また、データ入力の方法、分析方法、まとめ方、図表の作成方法などを学びます。

最終的には、研究計画書を作成し、セミナーⅣにつなげます。

また、大阪府レクリエーションインストラクター課程認定校交流大会へブースを出展し、レクリエーション活動を提供する役割を行います。

到達目標

1. 情報を収集してまとめることができる。
2. 学術論文を読むことができる。
3. プレゼンテーションができる。
4. レクリエーション活動の企画・運営を安全に実施することができる。
5. 所定の書式の卒業研究中間報告を作成できる。

授業計画

- 【第1回目】
テーマ：夏休みの課題報告会
内容・方法：夏休みの課題の進捗状況を報告する。
- 【第2回目】
テーマ：課題の発表と評価 1
内容・方法：興味関心のあることについて、専門書、新聞、雑誌、インターネットから調べて発表する。
- 【第3回目】
テーマ：課題の発表と評価 2
内容・方法：興味関心のあることについて、専門書、新聞、雑誌、インターネットから調べて発表する。
- 【第4回目】
テーマ：論文抄読
内容・方法：卒業論文に関する論文紹介と論文の読み方について
- 【第5回目】
テーマ：論文抄読
内容・方法：卒業論文に関する論文紹介と論文の読み方について
- 【第6回目】
テーマ：課題の発表と評価 3
内容・方法：論文を読み、まとめ、発表する
- 【第7回目】
テーマ：課題の発表と評価 4
内容・方法：論文を読み、まとめ、発表する
- 【第8回目】
テーマ：課題の発表と評価 5
内容・方法：論文を読み、まとめ、発表する
- 【第9回目】
テーマ：データの分析方法 1
内容・方法：データの分析を行う
- 【第10回目】
テーマ：データの分析方法 2
内容・方法：データの分析を行う
- 【第11回目】
テーマ：研究計画書の作成 1
内容・方法：各自のテーマについて論文を抄読し、ディスカッションを行う
- 【第12回目】
テーマ：研究計画書の作成 2
内容・方法：各自のテーマについて論文を抄読し、ディスカッションを行う
- 【第13回目】
テーマ：研究計画書の作成 3
内容・方法：研究計画書の確認、相談
- 【第14回目】
テーマ：研究計画書の作成 4
内容・方法：研究計画書の確認、相談
- 【第15回目】
テーマ：まとめ 卒業研究に向けてスケジュール作成
内容・方法：研究計画書の提出、卒業研究のスケジュールを立てる

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容の復習と、授業ノートの整理を行うこと。興味をもたないようについて、専門書を読んでおくこと。授業時に提示された課題について（課題の作成、発表準備のための資料整理等）、毎回1.5時間程度の事前学習および2.5時間程度の事後学習が必要。

課題に対するフィードバックの方法

翌授業時に学生へ返却し、指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究中間報告と発表、レクリエーション活動、レポート課題に基づき評価する。卒業中間報告を提出しなければ「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	演習課題の達成度(30)、発表内容(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究中間報告 (30)	5
その他	20	グループワーク貢献度(20)	4

テキスト

使用しません

参考書

必要に応じて適宜配布します

履修条件・他の科目との関連

- ・積極的に各種行事に参加できる学生。
- ・セミナー学生同士が協力をして課題に取り組むようすること。
- ・セミナー時間内では不十分なので、時間外でもできるだけ研究室に来室し、研究の進捗状況について報告してください。
- ・欠席した授業時に配布された資料は、次回のお出席時に受け取るようにしてください。
- ・状況により、演習内容が一部変更することがあります。

レクリエーション概論、レクリエーション演習Ⅰ、レクリエーション演習Ⅱ

授業コード	13071518	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツパフォーマンス向上に関する文献の講読、プレゼンテーション、討論などを行い、卒業研究に取り組むために必要なスキルを身につけることを目的とする
 スポーツパフォーマンス向上を目指す選手への運動処方に関する知見を明らかにする
 目的や志向に沿ったトレーニング様式・強度・時間・頻度・期間・休憩時間等のプログラム変数に対して最適なものを選び、最大の効果を得られるように至適な組み合わせを検討する
 多くの文献で明らかになっているトレーニングプロトコル(手順)に従い、自身や仲間を被検者とし、トレーニングを行い測定評価を行うことで、その運動処方がパフォーマンスにどのような影響を与えたのかを理解する

到達目標

1. 卒業研究中間報告を行うことができる
2. 文献に表出する専門用語を深く掘り下げ調べることができる

授業計画

第1回；ガイダンス 授業の内容・進め方・評価方法の概説
 第2回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第3回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第4回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第5回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第6回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第7回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第8回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第9回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第10回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第11回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第12回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第13回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第14回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第15回；総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
 授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
 授業で学んだ内容を自身の言葉でサマライズすることができる
 統計学における予習・復習

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	文献調査を行い、文献中の専門用語を深く掘り下げ調べることができる能力 統計学的有意差に関する理解度	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究中間報告	1
その他	20	卒業研究中間報告に取り組む姿勢	1, 2

テキスト	適宜授業中に指示する
参考書	適宜授業中に指示する
履修条件・他の科目との関連	履修条件・他の科目との関連 遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外

授業コード	13071519	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	盛本 浩二				
シラバス執筆(主)	盛本 浩二				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

生活習慣病予防や健康に対する国民の意識の高まりなどから、日々摂取する食品においても機能性を有する成分が含まれた新商品の開発が多く行われています。そこで様々な食品成分の機能性について理解し、機能性表示食品、栄養機能食品、特定保健用食品について知識がつくように説明する。専門書・インターネットなどを用いて資料を集め、パワーポイントを使用して発表します。パワーポイント作成に関する知識を学びます。

到達目標

1. 機能性食品、栄養機能食品、特定保健用食品について理解し説明できる。
2. 各種疾患と食品の機能性相互作用について理解し説明できる。
3. 食品成分の機能性について理解し説明できる。
4. 身近にある食品における機能性について興味を持ち各自で調べてみる。
5. 機能性素材について自分で調査し、まとめ、プレゼンする。

授業計画

- 【第1回】 機能性食品について振り返り
- 【第2回】 食品の機能性について学ぶ：ホワトールベリーエキス、CPP、EPA、DHA、抗酸化物質、香りと食品機能性との関連性を知ろう。
- 【第3回】 食品の機能性について学ぶ：ホワトールベリーエキス、CPP、EPA、DHA、抗酸化物質、香りと食品機能性との関連性を知ろう。
- 【第4回】 伝統発酵食品、漢方・生薬について知ろう。
- 【第5回】 伝統発酵食品、漢方・生薬について考えてみよう。
- 【第6回】 食品の機能性について探索を行う。
- 【第7回】 食品の機能性について探索を行う。
- 【第8回】 パワーポイント作成について学ぶ。
- 【第9回】 探索した機能性素材についてまとめ発表資料を作成する。
- 【第10回】 探索した機能性素材についてまとめ発表資料を作成する。
- 【第11回】 探索した機能性素材についてまとめ発表資料を作成する。
- 【第12回】 まとめた機能性素材についてプレゼンする。
- 【第13回】 まとめた機能性素材についてプレゼンする。
- 【第14回】 全てのプレゼンに対してディスカッションする。
- 【第15回】 機能性素材を用いた新商品の開発など考えてみよう。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を配布しますので、事前事後学習の資料に活用し、予習復習を行うこと。
わからないところは放置せず、必ず質問すること。
普段の食生活の中で機能性食品を意識すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で質疑応答を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す授業の平常点および定期試験の成績を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	事前事後学習や授業への取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	60	プレゼンテーション資料の作成、発表	4, 5

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	<p>「新版 食品機能学への招待 ― 生活習慣病予防と機能性食品 ―」 三共出版 ISBN:978-4-7827-0685-5 倉敷芸術科学大学名誉教授 須見洋行、倉敷芸術科学大学教授 矢田貝智恵子 [共著] 定価 2,310円(本体2,100円)</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>配布する講義用のパワーポイントに添った資料を用いて予習復習をしっかりと行って受講してください。 状況により授業内容の順番など変更する場合があります。</p>

授業コード	13077911	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

設定したテーマについて実験あるいは調査を行い、中間発表で発表する。

到達目標

1. 卒業研究中間発表を行うことができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：セミナーⅣガイダンス

内容・方法：今年度のスケジュールについて、長期休暇中の指導について、その他個別指導（進路等含む）

【第2回】

テーマ：就職活動、進学に関する指導1

内容・方法：就職活動、進学準備の状況について相互発表

【第3回】

テーマ：研究計画作成

内容・方法：3年次の中間発表内容をもとに、4年次の研究計画を立てる。

【第4回】

テーマ：研究計画および進捗状況発表

内容・方法：文献検索等の成果を報告する。

【第5回】

テーマ：研究計画完成（個別指導）

内容・方法：研究計画について具体的な指導を受ける。

【第6回】

テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談

内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第7回】

テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談

内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第8回】

テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談。

内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第9回】

テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談

内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第10回】

テーマ：中間発表に向けて（準備）

内容・方法：研究データ整理、データのまとめ

【第11回】

テーマ：各自の研究テーマに関する結果報告・相談

内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第12回】

テーマ：各自の研究テーマに関する結果報告・相談

内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第13回】

テーマ：中間発表リハーサル

内容・方法：中間発表の原稿作成。

【第14回】

テーマ：中間発表

内容・方法：中間発表。質疑応答あり。

【第15回】

テーマ：夏季休暇中の卒業研究活動計画相談（個別指導）

内容・方法：夏季休暇中の研究計画を立てる。

【第16回】

テーマ：夏季休暇中の研究計画

内容・方法：夏季休暇中の計画表提出

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料探しや発表やプレゼンテーションなどが行われるため、文献を探し読みこと、さらに資料作りなどが必要となるため、事前事後の学習は毎回4時間以上（事前学習は1.5時間以上、事後学習は2.5時間以上）必要となる。

それ以外にも、卒業研究提出レジュメ作成及び卒業研究発表会に向けての資料作成とプレゼンテーションの練習などに90時間以上の学習時間が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

各回セミナー時にフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究中間発表と卒業研究に取り組む姿勢や研究進捗状況に基づき評価する。卒業研究中間発表を行なわなければ「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	50	卒業研究の進捗状況レポートの作成(50)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究中間発表(30)	1
その他	20	卒業研究に取り組む姿勢(20)	1

テキスト	テキストなし
------	--------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修条件・他の科目との関連	卒業研究指導は、テーマ毎に個別に行うため、定められたセミナーの時間に行なうとは限らない。その場合は、学生と教員が相談して時間を設定する。実験や調査は、授業期間以外夏季休暇や冬期休暇期間にも実施する。 卒研の実施においては、セミナー内でお互いに協力することを求める。 無断欠席、遅刻、他の受講生に対し迷惑となる行為を繰り返した場合は単位を認定しない。 ◎欠席した場合は、課題等のプリントを研究室に取りに来ること。また、課題は次回のセミナー時に提出すること。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13077912	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自分の興味のあることに対して、素朴な疑問や関心を持ち、学際的な研究に邁進する。
各自の研究テーマにそって研究計画を練り、実践し、卒業研究としてまとめ研究発表会で報告する。

到達目標

1. 人間の行動を科学的にとらえて論理的に記述することができる。
2. 統計解析を通じて得られた結果を読み解き、考察を加えることができる。
3. 先行研究を用いて自分の研究の科学性を説明できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：卒業研究にむけてタイムテーブルの作成
- 【第2回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：3年時にまとめた卒業研究に関する文献を読み直す
- 【第3回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第4回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第5回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第6回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第7回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第8回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第9回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第10回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第11回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の具体的方法を検討する。
- 【第12回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の実施報告。
- 【第13回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の実施報告。
- 【第14回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の実施報告。
- 【第15回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の実施報告。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。

- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第2回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第3回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第4回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第5回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第6回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第7回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第8回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第9回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第10回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第11回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第12回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第13回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第14回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第15回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：夏休み中に卒業研究の論文作成の具体的計画を立てておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のゼミを通じて個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下の2つから総合的に評価する。
- ・授業発表や目標設定の内容や研究への取り組み方
 - ・レポートの内容は、卒業研究発表会の要旨を含む

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	・授業発表や目標設定の内容や研究への取り組み方 (50)	1, 2, 3
授業外での評価	20	・卒業研究発表会にむけた講義時間外での調査の実施、文献の検索 (20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	中間発表 (30)	1
その他	0		

テキスト 適宜プリントを配布する

参考書 特に指定しない。

履修条件・他の科目との関連 特になし。

授業コード	13077913	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、これまでにセミナーⅠa、セミナーⅠb、セミナーⅠⅠa、セミナーⅠⅠb、セミナーⅠⅠⅠa、セミナーⅠⅠⅠbで養ってきた自ら学習して向上させていこうとする力（自己学習力）をいっそう高めて、「卒業研究」に必要な経験・知識・技術などを身につけながら、「卒業研究」を遂行することを主眼としています。

(1) 食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査して、食に関わるビジネスとはなにか具体的なかつ積極的に体験して理解します。

(2) 農村部や都市部などの地域の活性化（地域創生）や地域の健康増進などに食のビジネスがどのように貢献できるのか具体的事例をあげながら考察します。

(3) 研究のために必要な基盤的知識、文献検索法などの研究技術を身につけます。

・学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などから適切な情報を自ら探し出し、整理して取り纏めたものをパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力を身につけます。

・本質的な問題点が何なのかを深く掘り下げて考え、それを解決する具体的な方策を考えて「卒業研究」を遂行し、卒業論文を作成します。

・専門書や英文資料の講読を介して英語を活用できる実践力を伸ばします。

これらの受講課題を習熟して人間の健康におよぼす様々な要因について理解し考察することで健康に暮らすために欠かせない基盤的知識とスキルを身につけます。

到達目標

1) 食品ビジネスについて理解を深め、食に関わるビジネスが人間の健康におよぼす影響について科学的に説明できるようになり、卒業研究の学術踏査やアンケート調査などを行うことができるようになります。

2) 食品ビジネスに関わる卒業研究の課題を策定し、文献検索をすすめることで、その研究の学術的意義あるいは社会的意義について具体的に説明できるようになります。

3) 健康に暮らし続けるために欠かすことができない様々な食品ビジネスに関わる多様なスキルを身につけ、食品と健康のかかわりについて具体的に的確な説明ができるようになり、卒業研究を自ら遂行することができるようになります。

4) 卒業研究を遂行できるスキル（学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などからの情報検索、情報検索結果をパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力、英文の専門書・論文・学術資料などを講読できる実践力など）を身につけ卒業研究の遂行にいかし、卒業研究論文の作成や発表をすることができるようになります。

授業計画

第1回 セミナーのオリエンテーション：卒業研究のすすめかたなどの概要を説明します。

第2回 論文検索（1）：卒業研究に欠かせない学術論文の高度なオンライン検索法を説明します。

第3回 書籍検索（2）：図書館で卒業研究に欠かせない学術書籍の高度な検索法を説明します。

第4回 学術英語：卒業研究に欠かせない高度な学術英語について説明します。

第5回 報告会（1）：受講生が、食品の生産農場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第6回 報告会（2）：受講生が、青物市場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第7回 報告会（3）：受講生が、食品の製造工場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第8回 前半のまとめと復習

第9回 卒業研究の進捗状況報告会（1）：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第10回 卒業研究の進捗状況報告会（2）：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第11回 卒業研究の進捗状況報告会（3）：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。

第12回 卒業研究の課題の決定（1）：各々の卒業生の卒業研究のアンケート調査などについてを面談しながら遂行します。

第13回 卒業研究の課題の決定（2）：各々の卒業生の卒業研究のアンケート調査などについてを面談しながら遂行します。

第14回 卒業研究の課題の決定（3）：各々の卒業生の卒業研究のアンケート調査などについてを面談しながら遂行します。

第15回 後半のまとめと復習

第16回 期末試験：レポート（卒業研究のアンケート調査などの報告書）の提出

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は講義形式（時にリモートや校外学習）でおこなうので受動的学習と食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査するアクティブラーニングの要素を含みます。事前に積極的に書籍や論文などの検索やインターネット検索などによる基礎的知識を身につけたうえで受講したり見学・踏査することが必要です（1. 5時間の事前学習）。事後に講義ノートを整理しながら復習すること、情報検索結果や見学・踏査の成果をパワーポイントに取りまとめて講義中に実施するプレゼンの準備、卒業研究のアンケート用紙の作成と報告書の提出、卒業研究論文の作成と発表会の準備などが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業毎に「講義をうけて新たに分かったこと」、「講義をうけて自分で考えたこと」、「質問したかったこと」などの講義レポートを実施し、適時質問事項について説明するとともに、講義内に適時実施するプレゼンテーションおよび「前期まとめ」と「後期のまとめ」において実施するレポート試験、期末試験などを介して自己評価と復習を即します。

成績評価の方法・基準(方針)

下記のように、受講の平常点、食のビジネス現場の見学や踏査の報告、卒業研究に取り組む姿勢ならびに卒業研究のためのアンケート調査、卒業研究論文の作成と発表などの遂行を総合的に評価し成績を評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	受講の平常点として食のビジネスに関わる適切な情報を探し出してパワーポイントに取りまとめたプレゼンテーションなどを評価します・20%(20点) 卒業研究のアンケート調査、卒業研究論文の作成と発表などの遂行能力などを評価します:50%(50点)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	卒業研究のアンケート調査、卒業研究論文の作成と発表などの遂行能力などを取り纏めたレポートなどを評価します:30%(30点)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト
 「よくわかる卒論の書き方第2版」白井利明・高橋一郎・ミネルヴァ書房・ISBN:978-4-6230-6572-1
 「食事調査マニュアル・はじめの一步から実践・応用まで 改訂3版」日本栄養改善学会(監修)・伊達ちぐさ・徳留裕子・吉池信男(編集)・南山堂・ISBN:978-4-525-63333-2
 別途、オンラインを通じて受講に必要な資料のpdfなどを配布します。

参考書
 「よくわかる卒論の書き方第2版」白井利明・高橋一郎・ミネルヴァ書房・ISBN:978-4-6230-6572-1
 「健康・スポーツ科学のための卒業論文の書き方」出村慎一・山次俊介・杏林書院・ISBN:978-4-7644-1162-3
 「フードサービスの教科書」茂木信太郎・創成社・ISBN:978-4-7944-2504-1
 「フードビジネスのための最新飲食業の法律問題と実務マニュアル」服部真和監修・三修社・ISBN:978-4-3840-4688-5
 上記の他に必要に応じて授業の中で紹介します。

履修条件・他の科目との関連
 このセミナーは、講義中のノートテイキングや食のビジネスの事例報告、食品の生産農場や製造工場の見学報告、市場・商店街や中食・外食の踏査報告、卒業研究の進捗状況報告など受講生が積極的に活動することを重視するものですので、各自がしっかりと自分自身のノートを作成するとともに、テキストや参考書などを手元において予習と復習をしっかり行うことが求められます。受講生は、学外の市町村や会社などの現場の担当者と交わりながら勉強をします。毎週1回開催するセミナーの授業時間は「実際に行ったことの進捗状況の報告」や「計画の相談」などの時間で、授業がなくて空いている時間を有効に使って、研究に取り組んでください。
 ・状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。
 ・授業中のプレゼンテーションは指定された授業日に必ず実施し、卒業研究のためのアンケート用紙、要旨原稿、発表用資料などは締切期限までに必ず提出してください。プレゼンテーションをしなかった場合や提出が遅れた場合は評価しません。

授業コード	13077914	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

3回生で設定したテーマについて研究計画を立てる。調査、研究を行い、中間報告をまとめてパワーポイントを活用し発表する。
発表、討論を主とする授業である。発表に対する自主学習には積極的な姿勢が必要であり、周りと協力する協調性が求められる授業である。

到達目標

1. 卒業研究中間発表を行うことができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション（1年間の卒業研究計画を立てます）
- 【第2回】 研究計画発表と討論①
- 【第3回】 研究計画発表と討論②
- 【第4回】 研究計画発表と討論③
- 【第5回】 研究テーマに関する活動報告①（文献検索、調査報告等）
- 【第6回】 研究テーマに関する活動報告②（文献検索、調査報告等）
- 【第7回】 研究テーマに関する活動報告③（文献検索、調査報告等）
- 【第8回】 研究テーマに関する活動報告④（文献検索、調査報告等）
- 【第9回】 研究テーマに関する活動報告⑤（卒業研究中間報告の準備）
- 【第10回】 研究テーマに関する活動報告⑥（卒業研究中間報告の準備）
- 【第11回】 人権映画鑑賞
- 【第12回】 研究テーマに関する活動報告⑦（卒業研究中間報告の準備）
- 【第13回】 卒業研究中間報告①
- 【第14回】 卒業研究中間報告②
- 【第15回】 卒業研究中間発表

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり4.5時間が必要です。
授業以外で作業することも多く、毎回につき1.5時間程度の事前学習と2.5時間程度の事後学習が必要です。わからないことがあれば積極的に質問をすること。

- 【事前】 発表の準備（研究についての情報収集や発表資料の作成など）
- 【事後】 議論をしたら発表したものについては修正しておく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業中やメール、Googleclassroomなどにて個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究中間発表と授業内での評価に基づき評価する。卒業研究中間発表を行わなければ、「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究中間報告(50)	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究中間発表(30)	1
その他	20	卒業研究中間発表に取り組む姿勢(20)	1

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連

- ・やむを得ず欠席や遅刻する場合は必ず本人が担当教員に事前に連絡すること。
- ・30分を超過した遅刻、および30分以上の早退は欠席とする。
- ・3回の遅刻(早退を含む)で、1回の欠席とする。

授業コード	13077915	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

各自のテーマについて研究計画を立て、卒業研究をまとめる

到達目標

1. 卒業研究中間報告を行う
2. テーマにそったプレゼン発表ができる

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：セミナーの進め方について概説する
 セミナーの年間計画を立てる
- 【第2回】
 テーマ：卒業研究中間報告の発表 1
 内容・方法：各自のテーマを発表する
- 【第3回】
 テーマ：卒業研究中間報告の発表 2
 内容・方法：各自のテーマを発表する
- 【第4回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 1
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第5回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 2
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第6回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 3
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第7回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 4
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第8回】 テーマ：進捗状況の報告会 1
 内容・方法：卒業研究の進捗状況を報告し合う
- 【第9回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 5
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第10回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 6
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第11回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 7
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第12回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 8
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第13回】
 テーマ：各自のテーマに沿って研究を進める 9
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第14回】
 テーマ：進捗状況の報告会 2
 内容・方法：卒業研究の進捗状況を報告し合う（中間報告会）
- 【第15回】
 テーマ：前期の振り返り
 内容・方法：前期取り組みの振り返りを行う

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業以外で作業することも多く、毎回につき1.5時間程度の事前学習と2.5時間程度の事後学習が必要です。わからないことがあれば積極的に質問をしてください。

課題に対するフィードバックの方法

個別指導の中で適宜、課題のフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究中間発表と各種活動に基づき評価する。
卒業研究中間発表を行わなければ、「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	テーマにそった発表(50)	2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究中間報告内容(50)	1
その他	20	卒業研究に取り組む姿勢(20)	1, 2

テキスト 使用しません

参考書 必要に応じて適宜配布します

履修条件・他の科目との関連 レクリエーション概論、レクリエーション演習Ⅰ、レクリエーション演習Ⅱ

授業コード	13077916	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツパフォーマンス向上に関する文献の講読、プレゼンテーション、討論などを行い、卒業研究に取り組むために必要なスキルを身につけることを目的とする。
 スポーツパフォーマンス向上を目指す選手への運動処方に関する知見を明らかにする。
 目的や志向に沿ったトレーニング様式・強度・時間・頻度・期間・休憩時間等のプログラム変数に対して最適なものを選び、最大の効果を得られるように至適な組み合わせを検討する。
 多くの文献で明らかになっているトレーニングプロトコル(手順)に従い、自身や仲間を被検者とし、トレーニングを行い測定評価を行うことで、その運動処方がパフォーマンスにどのような影響を与えたのかを理解する。

到達目標

1. 卒業研究予備発表を行うことができる
2. 文献に表出する専門用語を深く掘り下げ調べることができる
3. データ分析を行うことができる

授業計画

第1回；ガイダンス 授業の内容・進め方・評価方法の概説
 第2回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第3回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第4回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第5回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第6回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第7回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第8回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第9回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第10回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第11回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第12回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第13回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第14回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第15回；総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要
 授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要
 授業で学んだ内容を自身の言葉でサマライズすることができる

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	科学的根拠に基づいた研究計画の遂行 アカデミックライティングを行うことができる	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	卒業研究に対する取り組む姿勢	

テキスト 適宜授業中に指示する

参考書	適宜授業中に指示する
履修条件・他の科目との関連	20分以上の遅刻は欠席. 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外. 担当教員への連絡方法 長野 崇 t-nagano@oiu.jp

授業コード	13077917	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅣは自らが考えた研究を形にしていく大事な授業となる。セミナーⅣでは、セミナーⅣa及びⅣbより人間健康科学科で学ぶ、体、食、心、福祉のいずれかの領域において、研究計画、実行、まとめ、発表を行う。本セミナーにおいては、「心」の領域を中心に、人間の心や行動について実際に研究を実際に行い、各自が立てた仮説を検証していくことを目的とする。そのため、セミナーⅣaでは、各自が設定した心理学に関するテーマについての発表、質疑応答だけでなく、実際に調査・実験を実施してもらう。

到達目標

1. 卒業研究中間報告を行うことができる。
2. 心理学に関する研究論文を読むことができる。
3. 心理学に関する専門用語を説明できる。
4. 心理学に関する専門用語を記述できる。
5. データを収集することができる。
6. 様々なテーマについて、自身の考えを論理的に述べるができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション:自身がどのような学びを行うか具体的な計画を立てる
【第2回】 研究計画:自身の研究を今後どのように行っていくか考える
【第3回】 研究計画の見直し、修正①:文献を調べる
【第4回】 研究計画の見直し、修正②:具体的な研究方法を探る
【第5回】 研究計画の見直し、修正③:仮説を立てる(仮説修正を含む)
【第6回】 研究計画書の完成:研究計画書を完成させる
【第7回】 研究計画の実行①:研究計画に従い、具体的な研究方法について考える
【第8回】 研究計画の実行②:第7回で考えた研究方法を実際に行う(予備的研究)
【第9回】 研究計画の実行③:第8回の予備的研究から、研究方法を修正する さらに、研究倫理について考える
- 【第10回】 研究計画の実行④:本調査、本実験の実施
【第11回】 卒業研究中間報告資料作成にあたって①:文献の整理
【第12回】 卒業研究中間報告資料作成にあたって②:先行研究をまとめる
【第13回】 卒業研究中間報告資料にあたって③:自身が実施した(あるいは実施する)研究方法を文章にまとめる
- 【第14回】 卒業研究中間報告
【第15回】 振り返り:これまで自身が実施した研究に不備がないか確認するとともに、どのような補足をしている必要があるかを考える

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 自分自身が卒業研究を行う上でどのような行動ができるか考える 1.0時間
【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、卒業研究に向けた行動計画を、ノートに加筆する 1.0時間
- 第2回
【事前】 卒業研究を行うために、何が必要か考え、どのような資料を集めておく必要があるか調べる 1.5時間
【事後】 自身が立てた研究計画を実行するために、今後何が必要となるかを調べ、ノートに加筆する 2.5時間
- 第3回
【事前】 どのような文献を調べる必要があるか考え、実際に文献検索する 1.5時間
【事後】 調べた文献を自分なりに要約し、その研究の課題について考える 2.5時間
- 第4回
【事前】 さらに必要な文献を検索する 1.5時間
【事後】 追加された文献を要約するとともに、自身の研究における方法論考え、加筆する 2.5時間
- 第5回
【事前】 「仮説」とは何か調べ、自身の研究仮説について考える 1.5時間
【事後】 自身の「仮説」がどのように検証可能となるか考え、具体的な研究方法について考える 2.5時間
- 第6回
【事前】 研究計画資料を作成する。文献を検索する 1.5時間
【事後】 研究計画資料より、自身の研究方法を詳細に考える 2.5時間
- 第7回
【事前】 研究計画より、研究の具体的な実施時期について考える。文献を検索する 1.5時間
【事後】 調査紙の作成、実験準備などを行う 2.5時間
- 第8回

【事前】	調査紙の作成、実験準備。文献を検索する 1.5 時間
【事後】	予備調査、実験から得られたデータを加筆し、本調査、本実験に何が必要かを考える 2.5 時間
第9回	
【事前】	本調査、本実験に向けた準備。文献を検索する 1.5 時間
【事後】	本調査、本実験に向けた最終調整を行う 自身の研究について研究倫理より考える 3.5 時間
第10回	
【事前】	本調査、本実験の最終的な準備。文献を検索する 1.5 時間
【事後】	本調査、本実験から得られるデータをどのように整理できるかをデータ整理について調べ、加筆しておく 2.5 時間
第11回	
【事前】	集めた文献より、今後自身の研究に必要な文献が何か整理するとともに、さらに必要となる文献は何かを考える 1.5 時間
【事後】	整理した文献を報告資料の中にどのように組み込めるか、文章にしてみる 2.5 時間
第12回	
【事前】	研究論文の構成について調べておく 1.5 時間
【事後】	先行研究をまとめる 2.5 時間
第13回	
【事前】	研究方法のまとめ方について調べておく 1.5 時間
【事後】	卒業中間報告資料を完成させる 2.5 時間
第14回	
【事前】	自身が調べ、まとめたことをどのように相手に伝えられるか調べ、プレゼンの練習をしておく 1.5 時間
【事後】	卒業中間報告より今後自身の研究をどのように行っていくべきか考えるとともに、さらに必要な文献を調べる 2.5 時間
第15回	
【事前】	セミナーIVb での卒業研究発表に向けて、今後自身の研究には「何が」必要かを考え、文献を集めておく 1.5 時間
【事後】	本調査、本実験の追加あるいは再修正の必要性を考え、卒業研究発表に向けての準備を行う 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題のフィードバックについては翌週以降の授業あるいは、Google Classroomにて解説や提示をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり授業内での評価、定期試験に代わるレポート等、その他の評価結果に基づき総合的に評価する。なお、「卒業研究中間発表」を行わない場合は評価対象外となり、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	論文要約 (10) データ収集・分析 (20) 発表 (30)	2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	卒業研究中間報告	1, 6
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	松井 豊著:心理学論文の書き方,河出書房新社,978-4309245225 価格:1870 円
履修条件・他の科目との関連	半期5回以上の課題の未提出がある場合、評価対象外となり、「K」評価となる。 学習の進捗状況によって、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

授業コード	13077918	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーにおいては、セミナーⅢで設定したテーマについて、より深い探求を行い、消費者行動の実態や市場の動向を的確に把握することや、マーケティングについての理解をより深めたうえで、起業・独立のための学習やビジネスの実体験等を行なうことによって、研究計画を進展させることを目的とする。

到達目標

1. 専門性を深め、研究テーマにあった研究計画および研究方法を探究する。
2. 長時間自律してテーマに取り組む。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：セミナーⅣの位置づけと履修についての心構え等を説明する。
- 【第2回】
 テーマ：文献研究 1
 内容・方法：テーマに関連した資料の整理方法について解説する。
- 【第3回】
 テーマ：文献研究 2
 内容・方法：テーマに関連した先行研究の収集について解説する。
- 【第4回】
 テーマ：テーマの絞り込み
 内容・方法：個別対応によりテーマの絞り込みと確定を行う。
- 【第5回】
 テーマ：研究計画 1
 内容・方法：研究の背景と目的を明確にする。
- 【第6回】
 テーマ：研究計画 2
 内容・方法：研究方法を明確にする。
- 【第7回】
 テーマ：情報収集 1
 内容・方法：概説書や専門雑誌、新聞、インターネットなどから情報収集を行う。
- 【第8回】
 テーマ：情報収集 2
 内容・方法：概説書や専門雑誌、新聞、インターネットなどから情報収集を行う。
- 【第9回】
 テーマ：情報整理
 内容・方法：収集した資料の整理を行う。
- 【第10回】
 テーマ：情報分析
 内容・方法：収集した資料の分析を行なう。
- 【第11回】
 テーマ：全学人権映画会（合同・日程は前後する）
 内容・方法：「人権」に関する映画を視聴することで、より深く「人権」について理解する。
- 【第12回】
 テーマ：資料作成 1
 内容・方法：パワーポイントを利用し、発表内容をまとめていく。
- 【第13回】
 テーマ：資料作成 2
 内容・方法：発表内容を十分に吟味し、資料の完成度を上げる。
- 【第14回】
 テーマ：セミナー内発表会
 内容・方法：セミナー内で発表を実施する。質疑応答、それに基づく課題提出がある。
- 【第15回】
 テーマ：振り返り・今後に向けて
 内容・方法：前期を振り返り、卒業研究を遂行する上での留意点を明らかにする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：シラバスを熟読しておくこと。（1.5時間）

- ②事後学修課題：卒研テーマの最終確認をしておくこと。(2.5時間)
- 【第2回】
- ①事前学修課題：テーマに関連する資料の所在を調べてくる。(1.5時間)
- ②事後学修課題：テーマに関連する資料を網羅性を重視して収集すること。(2.5時間)
- 【第3回】
- ①事前学修課題：テーマに関連する資料を収集し、分類する。(1.5時間)
- ②事後学修課題：テーマに関連する先行研究の所在を調べてくる。(2.5時間)
- 【第4回】
- ①事前学修課題：テーマ案を明確にしてくること。(1.5時間)
- ②事後学修課題：テーマへのアプローチ(研究方法)について考えてくること。(2.5時間)
- 【第5回】
- ①事前学修課題：研究の背景をまとめてみる。(1.5時間)
- ②事後学修課題：研究の目的をまとめてみる。(2.5時間)
- 【第6回】
- ①事前学修課題：研究方法を具体的に挙げてみる。(1.5時間)
- ②事後学修課題：研究方法をまとめてみる。(2.5時間)
- 【第7回】
- ①事前学修課題：資料収集の方法を考えてくる。(1.5時間)
- ②事後学修課題：資料収集を行う。(2.5時間)
- 【第8回】
- ①事前学修課題：さらなる資料収集に努める。(1.5時間)
- ②事後学修課題：網羅性を重視して資料収集を行う。(2.5時間)
- 【第9回】
- ①事前学修課題：資料の整理方法を考える。(1.5時間)
- ②事後学修課題：資料整理を進める。(2.5時間)
- 【第10回】
- ①事前学修課題：情報の分析方法を考える。(1.5時間)
- ②事後学修課題：情報分析を進める。(2.5時間)
- 【第11回】
- ①事前学修課題：「人権」について、書籍やインターネット等を利用して予備知識を得る。(1.5時間)
- ②事後学修課題：「人権」についてさらに深く学ぶ。(2.5時間)
- 【第12回】
- ①事前学修課題：パワーポイント資料の構成を考えてくること。(1.5時間)
- ②事後学修課題：各自で資料作成を進めること。(2.5時間)
- 【第13回】
- ①事前学修課題：説得力のあるパワーポイント資料の特徴を考えてくる。(1.5時間)
- ②事後学修課題：メンバー間でパネルの内容チェックを行う。(2.5時間)
- 【第14回】
- ①事前学修課題：発表資料を準備しておく。(1.5時間)
- ②事後学修課題：質疑応答内容も含め、卒業研究の作成に活用する。(2.5時間)
- 【第15回】
- ①事前学修課題：前期を振り返り、反省点をまとめておくこと。(1.5時間)
- ②事後学修課題：後期が始まるまでにやっておくべきことを明確にし、行動に移すこと。(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

課題に定型の答えがないため、アドバイスの形でその都度フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得のための前提条件
・卒業研究が十分に進展していること

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	研究計画の進捗度と情報分析の程度	1, 2
授業外での評価	50	文献研究と情報収集の程度	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	積極的な取り組みを重視する。

授業コード	13078011	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	喜多野 宣子				
シラバス執筆(主)	喜多野 宣子				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

設定したテーマについて実験あるいは調査を行い、卒業研究として論文にまとめて発表する。

到達目標

1. 卒業研究要旨を作成することができる。
2. 卒業研究発表を行うことができる。

授業計画

【第1回】
 テーマ：夏期休暇中の卒業研究活動計画相談（個別指導）
 内容・方法：夏期休暇中の研究計画を立てる。

【第2回】
 テーマ：夏期休暇中の研究活動成果報告・相談
 内容・方法：夏期休暇中の研究活動成果報告・相談を行う。

【第3回】
 テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談
 内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第4回】
 テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談。
 内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第5回】
 テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談。
 内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第6回】
 テーマ：各自の研究テーマに関する活動報告・相談
 内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第7回】
 テーマ：研究データ整理・報告・相談
 内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第8回】
 テーマ：研究データ整理・報告・相談
 内容・方法：研究の進捗状況の報告、相談

【第9回】
 テーマ：後期中間発表の準備
 内容・方法：中間発表の準備を行う

【第10回】
 テーマ：後期中間発表会
 内容・方法：後期中間発表会開催

【第11回】
 テーマ：卒業論文作成開始
 内容・方法：卒業論文の進捗状況の報告、相談

【第12回】
 テーマ：卒業論文作成
 内容・方法：卒業論文の進捗状況の報告、相談

【第13回】
 テーマ：卒業研究発表論文完成
 内容・方法：卒業論文の進捗状況の報告、相談

【第14回】
 卒業研究要旨提出

【第15回】
 卒業研究発表の発表媒体および原稿作成

【第16回】
 テーマ：卒業研究発表
 内容・方法：卒業研究発表にて研究内容を発表し、所定の基準をクリアする

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料探しや発表やプレゼンテーションなどが行われるため、文献を探し読みこと、さらに資料作りなどが必要となるため、事前事後の学習は毎回4時間以上（事前学習は1.5時間以上、事後学習は2.5時間以上）必要となる。それ以外にも、卒業研究提出レジュメ作成及び卒業研究発表会に向けての資料作成とプレゼンテーションの練習

などに90時間以上の学習時間が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

各回セミナー時にフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究の用紙の提出と発表に基づき評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究要旨(50)	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究発表(30)	2
その他	20	取り組む姿勢(20)	1, 2

テキスト テキストなし

参考書 適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連 卒業研究指導は、テーマ毎に個別に行うため、定められたセミナーの時間に行なうとは限らない。その場合は、学生と教員が相談して時間を設定する。実験や調査は、授業期間以外の春休み、夏休みの間にも実施する。
卒研の実施においては、セミナー内でお互いに協力することを求める。
無断欠席、遅刻、他の受講生に対し迷惑となる行為を繰り返した場合は単位を認定しない。
◎欠席した場合は、課題等のプリントを研究室に取りに来ること。また、課題は次回のセミナー時に提出すること。

授業コード	13078012	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	山口 直範				
シラバス執筆(主)	山口 直範				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自分の興味のあることに対して、素朴な疑問や関心を持ち、学際的な研究に邁進する。
各自の研究テーマにそって研究計画を練り、実践し、卒業研究として要旨をまとめ卒業研究発表会で報告する。

到達目標

1. 人間の行動を科学的にとらえて論理的に記述することができる。
2. 統計解析を通じて得られた結果を読み解き、考察を加えることができる。
3. 先行研究を用いて自分の研究の科学性を説明できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：自分の卒業研究における質問紙調査・実験・社会調査・事例研究の実施報告。
- 【第2回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：夏休み中の進捗状況の報告
- 【第3回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第4回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第5回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第6回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第7回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第8回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第9回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第10回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第11回】
テーマ：卒業研究に向けて
内容・方法：卒業研究の論文指導・校正
- 【第12回】
テーマ：卒業研究発表に向けて
内容・方法：卒業研究の論集用原稿の作成指導
- 【第13回】
テーマ：卒業研究発表に向けて
内容・方法：卒業研究の論集用原稿の作成指導
- 【第14回】
テーマ：卒業研究発表に向けて
内容・方法：パワーポイントを使用したプレゼンテーション練習・指導
- 【第15回】
テーマ：卒業研究発表に向けて
内容・方法：パワーポイントを使用したプレゼンテーション練習・指導

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。

- ②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第2回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第3回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第4回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第5回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第6回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第7回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第8回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第9回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第10回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第11回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究の論文作成に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第12回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究発表会に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第13回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究発表会に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第14回】
- ①事前学修課題：自分の卒業研究に関する社会の動きや出来事について常に関心を持ち、調べておく。
②事後学修課題：学んだ内容を振り返り、卒業研究発表会に役立てる知識として理解を深めておくこと。
【第15回】
- ①事前学修課題：パワーポイントの資料を十分に把握しておく。
②事後学修課題：卒業研究の経験を今後の人生に役立てられるように理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のゼミを通じて個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の3つから総合的に評価する。

- ・授業発表の要旨
- ・レポート：卒業研究発表
- ・ゼミへの参加姿勢など

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業発表や目標設定の内容や取り組み方(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート:卒業研究発表会の要旨を含む(30)	1, 2, 3
その他	20	科学的な観点から人間行動を考察できる(20)	2, 3

テキスト 適宜プリントを配布する

参考書 特に指定しない。

履修条件・他の科目との関連 特になし。

授業コード	13078013	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	眞鍋 昇				
シラバス執筆(主)	眞鍋 昇				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーは、これまでにセミナーⅠa、セミナーⅠb、セミナーⅠⅠa、セミナーⅠⅠb、セミナーⅠⅠⅠa、セミナーⅠⅠⅠb、セミナーⅠⅣaで養ってきた自ら学習して向上させていこうとする力（自己学習力）をいっそう高めて、「卒業研究」に必要な経験・知識・技術などを身につけながら、「卒業研究」を遂行し、要旨を作成することを主眼としています。

(1) 食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査して、食に関わるビジネスとはなにか具体的なかつ積極的に体験して理解します。

(2) 農村部や都市部などの地域の活性化（地域創生）や地域の健康増進などに食のビジネスがどのように貢献できるのか具体的な事例をあげながら考察します。

(3) 研究のために必要な基盤的知識、文献検索法などの研究技術を身につけます。

・ 学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などから適切な情報を自ら探し出し、整理して取り纏めたものをパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力を身につけます。

・ 本質的な問題点が何なのかを深く掘り下げて考え、それを解決する具体的な方策を考えて課題を決定した「卒業研究」を遂行して要旨をとりまとめます。

・ 専門書や英文資料の講読を介して英語を活用できる実践力を伸ばします。

これらの受講課題を習熟して人間の健康におよぼす様々な要因について理解し考察することで健康に暮らすために欠かせない基盤的知識とスキルを身につけます。

到達目標

- 1) 食品ビジネスについて理解を深め、食に関わるビジネスが人間の健康におよぼす影響について科学的に説明できるようになり、卒業研究の学術踏査やアンケート調査などを行うことができるようになります。
- 2) 食品ビジネスに関わる卒業研究の課題を策定し、文献検索をすすめることで、その研究の学術的意義あるいは社会的意義について具体的に説明できるようになります。
- 3) 健康に暮らし続けるために欠かすことができない様々な食品ビジネスに関わる多様なスキルを身につけ、食品と健康のかかわりについて具体的に的確な説明ができるようになり、卒業研究を自ら遂行することができるようになります。
- 4) 卒業研究を遂行できるスキル（学術書籍・学術論文・新聞・雑誌などからの情報検索、情報検索結果をパワーポイントに取りまとめてプレゼンテーションできる能力、英文の専門書・論文・学術資料などを講読できる実践力など）を身につけ卒業研究の遂行にいかし、卒業研究論文の作成や発表をすることができるようになります。

授業計画

- 第1回 論文検索(1)：卒業研究に欠かせない学術論文のより一層高度なオンライン検索法を説明します。
- 第2回 論文検索(2)：卒業研究に欠かせない学術論文のより一層高度なオンライン検索法を説明します。
- 第3回 論文検索(3)：図書館で卒業研究に欠かせない学術書籍のより一層高度な検索法を説明します。
- 第4回 学術英語：卒業研究に欠かせないより一層高度な学術英語について説明します。
- 第5回 報告会＋アンケート調査(1)：受講生が、食品の生産農場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表するとともに卒論のためのアンケート調査の進捗状況や成果の取り纏めについて発表します。
- 第6回 報告会＋アンケート調査(2)：受講生が、青物市場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表するとともに卒論のためのアンケート調査の進捗状況や成果の取り纏めについて発表します。
- 第7回 報告会＋アンケート調査(3)：受講生が、食品の製造工場を見学した際の知見や市場・商店街や中食・外食の現場を踏査した際の知見をパワーポイントにとりまとめて発表するとともに卒論のためのアンケート調査の進捗状況や成果の取り纏めについて発表します。
- 第8回 前半のまとめと復習
- 第9回 卒業研究の進捗状況報告会(1)：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。
- 第10回 卒業研究の進捗状況報告会(2)：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。
- 第11回 卒業研究の進捗状況報告会(3)：受講生が、各々の卒業研究の進捗状況をパワーポイントにとりまとめて発表します。
- 第12回 卒業研究の課題の決定(1)：各々の卒業生の卒業研究の要旨を面談しながら作成します。
- 第13回 卒業研究の課題の決定(2)：各々の卒業生の卒業研究の要旨を面談しながら作成します。
- 第14回 卒業研究の課題の決定(3)：各々の卒業生の卒業研究の要旨を面談しながら作成します。
- 第15回 後半のまとめと復習
- 第16回 期末試験：卒業研究の要旨の提出と研究成果の発表

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は講義形式（時にリモートや校外学習）でおこなうので受動的学習と食品の生産・流通・販売などの食品産業（フードビジネス）にかかわる現場（農場・市場・食品加工工場・商店街など）を見学・踏査するアクティブラーニングの要素を含みます。事前に積極的に書籍や論文などの検索やインターネット検索などによる基礎的知識を身につけたうえで受講したり見学・踏査することが必要です（1. 5時間の事前学習）。事後に講義ノートを整理しながら復習すること、情報検索結果や見学・踏査の成果をパワーポイントに取りまとめて講義中に実施するプレゼンの準備、卒業研究の要旨の作成と提出および成果の発表の準備などが必須です（2. 5時間の事後学習）。

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業毎に「講義をうけて新たに分かったこと」、「講義をうけて自分で考えたこと」、「質問したかったこと」などの講義レポートを実施し、適時質問事項について説明するとともに、講義内に適時実施するプレゼンテーションおよび「前期まとめ」と「後期のまとめ」において実施するレポート試験、期末試験などを介して自己評価と復習を即します。

成績評価の方法・基準(方針)

下記のように、受講の平常点、食のビジネス現場の見学や踏査の報告、卒業研究に取り組む姿勢ならびに卒業研究のためのアンケート調査、卒業研究論文の作成と発表などの遂行を総合的に評価し成績を評価します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	受講の平常点として食のビジネスに関わる適切な情報を探し出してパワーポイントに取りまとめたプレゼンテーションなどを評価します・20%(20点) 卒業研究のアンケート調査、卒業研究論文の作成と発表などの遂行能力などを評価します:50%(50点)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	30	卒業研究のアンケート調査を取り纏めたレポート、卒業研究論文の要旨と発表などの遂行能力などを評価します:30%(30点)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	「よくわかる卒論の書き方第2版」白井利明・高橋一郎・ミネルヴァ書房・ISBN:978-4-6230-6572-1 「食事調査マニュアル・はじめの一步から実践・応用まで 改訂3版」日本栄養改善学会(監修)・伊達ちぐさ・徳留裕子・吉池信男(編集)・南山堂・ISBN:978-4-525-63333-2 別途、オンラインを通じて受講に必要な資料のpdfなどを配布します。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	「健康・スポーツ科学のための卒業論文の書き方」出村慎一・山次俊介・杏林書院・ISBN:978-4-7644-1162-3 「フードサービスの教科書」茂木信太郎・創成社・ISBN:978-4-7944-2504-1 「フードビジネスのための最新飲食業の法律問題と実務マニュアル」服部真和監修・三修社・ISBN:978-4-3840-4688-5 上記の他に日経MJ(流通新聞)や参考資料などを必要に応じて授業の中で紹介します。
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	このセミナーは、講義中のノートテイキングや食のビジネスの事例報告、食品の生産農場や製造工場の見学報告、市場・商店街や中食・外食の踏査報告、卒業研究の進捗状況報告など受講生が積極的に活動することを重視するものですので、各自がしっかりと自分自身のノートを作成するとともに、テキストや参考書などを手元において予習と復習をしっかりと行うことが求められます。受講生は、学外の市町村や会社などの現場の担当者と交わりながら勉強をします。毎週1回開催するセミナーの授業時間は「実際に行ったことの進捗状況の報告」や「計画の相談」などの時間です。授業がなくて空いている時間を有効に使って、研究に取り組んでください。 ・状況により授業内容の一部および順番を変更する場合があります。 ・授業中のプレゼンテーションは指定された授業日に必ず実施し、卒業研究のためのアンケート用紙、要旨原稿、発表用資料などは締切期限までに必ず提出してください。プレゼンテーションをしなかった場合や提出が遅れた場合は評価しません。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13078014	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

4回生前期に引き続き、研究計画に沿って調査、研究を行い、最終的に卒業研究として論文にまとめてパワーポイントを活用し発表する。発表、討論を主とする授業である。発表に対する自主学習には積極的な姿勢が必要であり、周りとの協力を求める授業である。

到達目標

1. 卒業研究要旨を作成することができる。
2. 卒業研究発表を行うことができる。

授業計画

【第1回】	研究の進捗状況の報告、後期スケジュールの確認
【第2回】	卒業研究の内容の確認①
【第3回】	卒業研究の内容の確認②
【第4回】	卒業テーマ論文の発表と質疑応答①
【第5回】	卒業テーマ論文の発表と質疑応答②
【第6回】	卒業テーマ論文の発表と質疑応答③
【第7回】	卒業テーマ論文の発表と質疑応答④
【第8回】	卒業研究要旨の発表と質疑応答①
【第9回】	卒業研究要旨の発表と質疑応答②
【第10回】	卒業研究要旨の発表と質疑応答③
【第11回】	卒業研究要旨の発表と質疑応答④
【第12回】	卒業研究発表リハーサル①
【第13回】	卒業研究発表リハーサル②
【第14回】	卒業研究要旨提出
【第15回】	卒業研究発表最終リハーサル

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。授業以外で作業することも多く、毎回につき1.5時間程度の事前学習と2.5時間程度の事後学習が必要です。また、卒業研究要旨については全部で少なくとも60時間以上、卒業研究発表会用のスライド作成については少なくとも30時間以上の学習時間が必要となる。わからないことがあれば積極的に質問をすること。

【事前】 発表の準備（研究についての情報収集や発表資料の作成など）

【事後】 議論をしたら発表したものについては修正をしておく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業中やメール、Googleclassroomなどにて個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究の要旨の提出と発表に基づき評価する。卒業研究の要旨を提出しなかったり、発表を行わなければ、「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究要旨(50)	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究発表(30)	2
その他	20	卒業研究に取り組む姿勢(20)	1, 2

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・やむを得ず欠席や遅刻する場合は必ず本人が担当教員に事前に連絡すること。・30分を超過した遅刻、および30分以上の早退は欠席とする。・3回の遅刻(早退を含む)で、1回の欠席とする。

授業コード	13078015	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

各自のテーマについて研究計画を立て、卒業研究をまとめ発表する

到達目標

1. 卒業研究要旨を作成することができる。
2. 卒業研究発表を行うことができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：進捗状況の報告会 3
 内容・方法：卒業研究の進捗状況を報告し合う、後期スケジュールの確認
- 【第2回】
 テーマ：卒業研究に関する報告、相談 1
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第3回】
 テーマ：卒業研究に関する報告、相談 2
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第4回】
 テーマ：卒業研究に関する報告、相談 3
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第5回】
 テーマ：卒業研究に関する報告、相談 4
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第6回】
 テーマ：卒業研究に関する報告、相談 5
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第7回】
 テーマ：進捗状況の報告会 4
 内容・方法：卒業研究の進捗状況を報告し合う
- 【第8回】
 テーマ：卒業研究のレジユメの作成 1
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第9回】
 テーマ：卒業研究のレジユメの作成 2
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第10回】
 テーマ：卒業研究のレジユメの作成 3
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第11回】
 テーマ：卒業研究のレジユメの作成 4
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第12回】
 テーマ：卒業研究のレジユメの作成 5
 内容・方法：卒業研究の内容の確認と相談
- 【第13回】
 テーマ：進捗状況の報告会 5
 内容・方法：卒業研究の進捗状況を報告し合う
- 【第14回】
 テーマ：卒業研究要旨提出
 内容・方法：卒業研究要旨提出
- 【第15回】
 テーマ：卒業研究発表会
 内容・方法：卒業研究発表

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習は卒業研究の計画に沿って卒業研究を進め、事後学習は授業で確認したことを見直す。
 事前学習と事後学習は、それぞれ2時間必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

個別指導の中で、適宜フィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下の通り、卒業研究の要旨の提出と発表に基づき評価する。卒業研究の要旨を提出しなかったり、発表を行わなければ「K」評価で不合格となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究要旨(50)	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	研究発表(30)	2
その他	20	卒業研究に取り組む姿勢(20)	1, 2

テキスト 使用しません

参考書 必要に応じて適宜配布

履修条件・他の科目との関連 セミナー学生が協力しながら、主体的、積極的に取り組んでください。

授業コード	13078016	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	長野 崇				
シラバス執筆(主)	長野 崇				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツパフォーマンス向上に関する文献の講読、プレゼンテーション、討論などを行い、卒業研究に取り組むために必要なスキルを身につけることを目的とする
 スポーツパフォーマンス向上を目指す選手への運動処方に関する知見を明らかにする
 目的や志向に沿ったトレーニング様式・強度・時間・頻度・期間・休憩時間等のプログラム変数に対して最適なものを選び、最大の効果をえられるように至適な組み合わせを検討する
 多くの文献で明らかになっているトレーニングプロトコル(手順)に従い、自身や仲間を被検者とし、トレーニングを行い測定評価を行うことで、その運動処方がパフォーマンスにどのような影響を与えたのかを理解する

到達目標

1. 卒業研究要旨を作成することができる
2. 卒業研究発表を行うことができる

授業計画

第1回；ガイダンス 授業の内容・進め方・評価方法の概説
 第2回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第3回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第4回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第5回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第6回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第7回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第8回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第9回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第10回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第11回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第12回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第13回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第14回；卒業研究で取り組みたいテーマに関するディベート
 第15回；総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
 授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
 授業で学んだ内容を自身の言葉でサマライズすることができる
 統計学における予習・復習

課題に対するフィードバックの方法

Google Class Roomを通じて適宜（得点・コメント）フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究要旨 授業外での評価	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究発表	1, 2
その他	20	卒業研究に対する取り組む姿勢	1, 2

テキスト 適宜授業中に指示する

参考書	適宜授業中に指示する
履修条件・他の科目との関連	遅刻は3回で欠席1回とみなす 20分以上の遅刻は欠席 課題などの未提出および授業の欠席4回以上は評価の対象外

授業コード	13078017	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 直子				
シラバス執筆(主)	岸本 直子				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナーⅣは自らが考えた研究を形にしていく大事な授業となる。セミナーⅣでは、セミナーⅣa及びⅣbより人間健康科学科で学ぶ、体、食、心、福祉のいずれかの領域において、研究計画、実行、まとめ、発表を行う。本セミナーにおいては、「心」の領域を中心に、人間の心や行動について実際に研究を実際に行い、各自が立てた仮説を検証していくことを目的とする。そのため、セミナーⅣbでは、セミナーⅣaにおいて各自が設定した心理学に関するテーマについての調査・実験結果をまとめ、卒業研究を完成させることを目的とする。

到達目標

1. 卒業研究要旨を作成することができる。
2. 卒用研究発表を行うことができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション:自身がどのような学びを行うか具体的な計画を立てる
【第2回】 行動計画:前期より実施している自身の研究についての今後の方向性を検討する
【第3回】 個別調査・実験・文献研究の調整①:調査や実験の実施あるいは、追加調査・実験について考え、計画する前期より取り組んだ文献の整理も行う
【第4回】 個別調査・実験・文献研究の調整②:調査紙の作成・再作成、実験準備・再実験準備などを行う
【第5回】 個別調査・実験・文献研究の調整③:準備した調査、実験を実施する、再調整を行う
【第6回】 結果の整理①:データ入力の方法を学ぶ(エクセルで図表を作る)
【第7回】 結果の整理②:統計的手法について考える(エクセル統計を学ぶ-基本統計量(平均、中央値、標準偏差、標準誤差等)
【第8回】 文献購読①:関連する先行研究を調べる
【第9回】 文献購読②:先行研究についての論文を発表する
【第10回】 提出用原稿作成①:「はじめに」(先行研究の記述の仕方)、「目的」を書く
【第11回】 提出用原稿作成②:「方法」をまとめる
【第12回】 提出用原稿作成③:「結果」の記述の仕方を考える
【第13回】 提出用原稿作成④:「考察」の記述の仕方を考える
【第14回】 提出原稿について、相互確認及び修正
【第15回】 最終修正・卒業発表に向けての準備

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 自分自身が卒業研究を行う上でどのような行動ができるか考える 1.0時間
【事後】 オリエンテーション説明内容に基づき、卒業研究に向けた行動計画を、ノートに加筆する 1.0時間
- 第2回
【事前】 前期より実施している自身の研究の進捗状況を把握するとともに、改善点等を検討する 1.5時間
【事後】 授業内で検討した研究の方向性より、今後必要となる具体的な作業についてノートに加筆する 合わせて「インフォームドコンセント」についても考えておく 2.5時間
- 第3回
【事前】 実施している、あるいは実施する調査や実験への取り組みについて整理する 1.5時間
【事後】 卒業研究要旨を作成するにあたって、論文構成となる、「はじめに」「目的」「方法」「結果」「考察」の構成について調べ、その書き方について ノートに加筆する 2.5時間
- 第4回
【事前】 さらに必要な文献を検索する 1.5時間
【事後】 研究論文のまとめ方を再度調べ、ノートに加筆する 合わせて「研究倫理」について再度調べて、まとめておく 2.5時間
- 第5回
【事前】 「データ」とは何か自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 得られる、あるいは得られたデータをどのように整理するか考え、ノートに加筆する 2.5時間
- 第6回
【事前】 エクセルにどのようにデータを入力するか自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 実際に得られたデータの入力作業 2.5時間
- 第7回
【事前】 「統計」とは何か自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 入力したデータよりどのような統計分析できるか考え、エクセル統計を実施する 2.5時間
- 第8回
【事前】 先行研究について自分なりに調べ、考えておく 1.5時間
【事後】 先行研究から分かる内容をまとめる 2.5時間

第9回	【事前】 先行研究を踏まえて、自身の研究したい内容を考える 1.5 時間 【事後】 自身の研究における計画書を自分なりに書く 3.5 時間
第10回	【事前】 「盗用」「剽窃」などについて調べ、加筆する 1.5 時間 【事後】 「はじめに」の箇所において、正しい引用がなされているか、チェックするとともに、「はじめに」を文章化する 2.5 時間
第11回	【事前】 自身の研究における「方法」がどのようになっているか考え、整理しておく 1.5 時間 【事後】 「方法」を文章化する 2.5 時間
第12回	【事前】 データ分析したことから、どのような「結果」を述べるができるか自分なりに考え、まとめてみる 1.5 時間 【事後】 「結果」を文章化する 2.5 時間
第13回	【事前】 「考察」とは何か自分なりに調べ、まとめておく 1.5 時間 【事後】 「考察」を文章化する 2.5 時間
第14回	【事前】 作成した卒業研究要旨を読み、正しく記載できているか確認、修正を行う 1.5 時間 【事後】 卒業研究要旨の加筆修正を行う 2.5 時間
第15回	【事前】 卒業研究要旨の加筆修正を行う 1.5 時間 【事後】 卒業研究要旨の加筆修正を行うとともに、パワーポイントの作成を行う 3.5 時間

課題に対するフィードバックの方法

卒業研究要旨や卒業研究発表への改善点などその都度個別に提示する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、卒業研究要旨の提出、卒業研究発表に基づき評価する。「卒業研究要旨」の未提出あるいは、「卒業研究発表」を行わない場合は「K」評価で不合格とする。学習の進捗状況により、シラバスの内容を一部変更する場合がある。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究要旨	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究発表	2
その他	20	卒業研究発表要旨及び卒業研究発表に取り組む姿勢	1, 2

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	松井 豊著:心理学論文の書き方,河出書房新社,978-4309245225 価格:1870 円
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出,授業の欠席について半期5回,通年10回以上は評価対象外とする。学習の進捗状況によってはシラバスを一部変更する場合がある。

授業コード	13078018	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	縄田 文子				
シラバス執筆(主)	縄田 文子				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーにおいては、セミナーⅣaで進めてきたテーマについて、
 1) 文献研究と情報収集の程度をさらに深めることによってテーマを深掘し、研究計画の進捗度と情報分析の程度を最大限に高めるとともに、2) 研究内容を抄録としてまとめ、発表する。

到達目標

1. 専門性を深め、研究テーマにあった研究計画および研究方法を探究する。
2. 長時間自律してテーマに取り組む。
3. 最終的にその成果物を卒業研究（抄録）としてまとめ、発表する。

授業計画

- 【第16回】
 テーマ：振り返り・今後に向けて
 内容・方法：前期を振り返り、卒業研究を遂行する上での留意点を明らかにする。
- 【第17回】
 テーマ：卒業研究の構成1
 内容・方法：卒業研究の構成（目次）を考える。
- 【第18回】
 テーマ：卒業研究の構成2
 内容・方法：卒業研究の目次を作成する。
- 【第19回】
 テーマ：卒業研究の作成1
 内容・方法：各章ごとに卒業研究の作成を行う。
- 【第20回】
 テーマ：卒業研究の作成2
 内容・方法：各章ごとに卒業研究の作成を行う。
- 【第21回】
 テーマ：卒業研究の作成3
 内容・方法：各章ごとに卒業研究の作成を行う。
- 【第22回】
 テーマ：卒業研究の作成4
 内容・方法：各章ごとに卒業研究の作成を行う。
- 【第23回】
 テーマ：卒業研究の作成5
 内容・方法：各章ごとに卒業研究の作成を行う。
- 【第24回】
 テーマ：卒業研究の完成
 内容・方法：作成した文章を見直し、提出の体裁を整える。
- 【第25回】
 テーマ：要旨作成1
 内容・方法：所定のフォーマットを使用し、抄録を作成する方法を指導する。
- 【第26回】
 テーマ：要旨作成2
 内容・方法：個別指導によって抄録を完成する。
- 【第27回】
 テーマ：プレゼン資料作成1
 内容・方法：発表の心得とパワーポイントの有効な活用方法について説明する。
- 【第28回】
 テーマ：プレゼン資料作成2
 内容・方法：個別指導によってプレゼン資料を完成する。
- 【第29回】
 テーマ：発表原稿作成1
 内容・方法：発表原稿の作成方法を説明する。
- 【第30回】
 テーマ：発表原稿作成2
 内容・方法：個別指導によって発表原稿を完成する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第16回】

- ①事前学修課題：論文の一般的な構成について予習しておくこと。(1.5時間)
 ②事後学修課題：卒業研究の構成を検討してくる。(2.5時間)
 【第17回】
 ①事前学修課題：卒業研究の目次案を考えてくること。(1.5時間)
 ②事後学修課題：卒表研究の目次を仕上げておくこと。(2.5時間)
 【第18回】
 ①事前学修課題：各章ごとにドラフト(草稿)を執筆する。(1.5時間)
 ②事後学修課題：各章の完成度を高める。(2.5時間)
 【第19回】
 ①事前学修課題：各章ごとにドラフト(草稿)を執筆する。(1.5時間)
 ②事後学修課題：各章の完成度を高める。(2.5時間)
 【第20回】
 ①事前学修課題：各章ごとにドラフト(草稿)を執筆する。(1.5時間)
 ②事後学修課題：各章の完成度を高める。(2.5時間)
 【第21回】
 ①事前学修課題：各章ごとにドラフト(草稿)を執筆する。(1.5時間)
 ②事後学修課題：各章の完成度を高める。(2.5時間)
 【第22回】
 ①事前学修課題：各章ごとにドラフト(草稿)を執筆する。(1.5時間)
 ②事後学修課題：各章の完成度を高める。(2.5時間)
 【第23回】
 ①事前学修課題：誤字、脱字などを点検し、修正する。(1.5時間)
 ②事後学修課題：不都合な部分があれば修正する。(2.5時間)
 【第24回】
 ①事前学修課題：これまでの卒業研究(抄録)を参照しておくこと。(1.5時間)
 ②事後学修課題：抄録を作成してみる。(2.5時間)
 【第25回】
 ①事前学修課題：抄録の内容を十分に推敲する。(1.5時間)
 ②事後学修課題：抄録を完成し、提出する。(2.5時間)
 【第26回】
 ①事前学修課題：パワーポイントの機能が駆使できるようにしておくこと。(1.5時間)
 ②事後学修課題：資料作成を進めること。(2.5時間)
 【第27回】
 ①事前学修課題：プレゼン資料を最後まで作り上げてくること。(1.5時間)
 ②事後学修課題：プレゼン資料の内容を吟味し、説得力のある資料を完成すること。(2.5時間)
 【第28回】
 ①事前学修課題：発表原稿案を考えてみる。(1.5時間)
 ②事後学修課題：発表原稿の作成を進める。(2.5時間)
 【第29回】
 ①事前学修課題：発表原稿を最後まで作り上げてくること。(1.5時間)
 ②事後学修課題：発表原稿の内容を吟味し、説得力のある原稿を完成すること。(2.5時間)
 【第30回】
 ①事前学修課題：各自でプレゼンの練習をしてくること。(1.5時間)
 ②事後学修課題：発表原稿をプリントアウトし、抄録に添付しておくこと。(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

課題に定型の答えがないため、アドバイスの形でその都度フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

単位取得のための前提条件として、以下の3件が揃っていること。

1. 卒業研究(研究内容の十分な進展)
2. 卒業研究(抄録)
3. 卒業研究(口頭発表)

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	研究内容の構成と研究の進捗度 抄録とプレゼン資料の作成	1, 2
授業外での評価	30	テーマへの取り組み	2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	プレゼンテーションスキルと質疑対応	3

テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	積極的な取り組みを重視する。

授業コード	13047901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ医学Ⅱ [対面または遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	篠原 靖司、岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	篠原 靖司				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

生活習慣病（NCD）、特定健診・保健指導、介護予防について学修するとともに、運動による内科的障害や外科的損傷とその救急対応について理解を深める。
さらに、救急救護と外科的応急処置の基礎的知識を学修するだけでなく、心肺蘇生法、AED、RICE処置、テーピング等の取扱手法を身に付ける。

到達目標

- 生活習慣病（NCD）、特定健診・保健指導、介護予防について説明できる。
- 運動による内科的障害や外科的損傷に係る救急対応を説明できる。
- 救急救護と外科的応急処置の基礎的知識を、心肺蘇生法、AED、RICE処置、テーピングの場面に応用できる。

授業計画

第1回	生活習慣病（NCD）と特定健診・保健指導
第2回	介護予防と運動の重要性
第3回	健康診断と運動前のメディカルチェックの重要性
第4回	健診結果・安静時心電図の読み方（1）健常者の場合
第5回	健診結果・安静時心電図の読み方（2）心疾患等罹患患者等の場合
第6回	内科的障害とその予防（1）運動中の突然死、熱中症の病態と処置
第7回	内科的障害とその予防（2）貧血、オーバートレーニング
第8回	外科的損傷（頭部、頸部、上肢、体幹）とその予防 機能解剖、急性疾患、慢性疾患
第9回	外科的損傷（腰部、下肢）とその予防 機能解剖、急性疾患、慢性疾患
第10回	救急救護の基礎 心肺蘇生とAED
第11回	外科的応急処置の基礎 RICE処置とテーピング
第12回	救急処置の実際（1）心肺蘇生法
第13回	救急処置の実際（2）AEDの取扱い方
第14回	外科的応急処置の実際（1）RICE処置（実習）
第15回	外科的応急処置の実際（2）テーピングによる処置（実習）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
事前学修として関連する人体の機能と構造の部分を復習する、事後学修として課題を提出する、この両者を合わせて2時間を必要とします。
課題の内容は、講義に含まれていないので、講義内容を踏まえて自ら積極的に学修することが必要です。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題の評価については、希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

レポート課題の提出状況、その内容による総合評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート課題の内容	1, 2, 3
その他	90	レポート課題の提出状況、その内容	1, 2, 3

テキスト	なし
参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下). 財団法人健康・体力づくり事業財団

参考書	Reference Book. 公益財団法人日本スポーツ協会
履修条件・他の科目との関連	課題は自ら学ぶものであるので、積極的な学びを希望する者が履修してください。 本授業は健康運動実践指導者、健康運動指導士の養成も目的のひとつとしている。

授業コード	13069001	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	スポーツリハビリテーション [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義ではスポーツや運動・身体活動により発生する外傷・障害に対して、医療機関ならびにスポーツフィールドで実施されるリ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）について学ぶ。授業内では外傷・障害に対する基本的な知識を深めるとともに、これまで医療現場等でリ・コンディショニングに携わってきた実務家教員としての経験をもとに、科学的事実と臨床との乖離を明らかとしながら、理論と実践応用をより密接に関連付けながら授業を展開する。本講義の受講により、医療機関およびスポーツフィールドで活躍できる人材の育成を目指す。

到達目標

1. スポーツ外傷・障害に対するリ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）の重要性を理解できる。
2. 各スポーツ外傷・障害の病態生理など、基礎医学的知識が習得できる。
3. 各種の外傷・障害に対するリ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）の知識と技能を習得できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：リ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）とスポーツ指導者の関係
 内容・方法：リ・コンディショニングとアスレティックリハビリテーションの概要
- 【第2回】
 テーマ：リ・コンディショニングとは
 内容・方法：リハビリテーションおよびリ・コンディショニングという用語に関して
- 【第3回】
 テーマ：足関節疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：足関節捻挫の病態生理と競技復帰を目指したり・コンディショニング手法
- 【第4回】
 テーマ：膝関節疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：前十字靭帯損傷の病態生理と競技復帰を目指したり・コンディショニング手法
- 【第5回】
 テーマ：大腿部・下腿部疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：肉離れの評価とリ・コンディショニング
- 【第6回】
 テーマ：股関節疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：鼠径部痛症候群の評価とリ・コンディショニング
- 【第7回】
 テーマ：腰背部疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：腰部痛の分類と各種リ・コンディショニング
- 【第8回】
 テーマ：中間評価ならびに解説
 内容・方法：これまでの内容に関する小テスト
- 【第9回】
 テーマ：肩関節複合体の疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：投球障害に対するリ・コンディショニング
- 【第10回】
 テーマ：上肢疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：肩関節複合体以外の部位の慢性障害に対するリ・コンディショニング
- 【第11回】
 テーマ：内科的疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：生活習慣病に対するコンディショニング
- 【第12回】
 テーマ：競技別リ・コンディショニング 1
 内容・方法：受傷から復帰までのプログラム作成および発表
- 【第13回】
 テーマ：競技別リ・コンディショニング 2
 内容・方法：受傷から復帰までのプログラム作成および発表
- 【第14回】
 テーマ：疾患別リ・コンディショニング
 内容・方法：受傷から復帰までのプログラム作成および発表
- 【第15回】
 テーマ：スポーツ外傷・障害の予防
 内容・方法：スポーツ外傷・障害予防の考え方と安全管理

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学修課題：興味のある外傷・障害について考えてくる
事後学修課題：内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第2回】
事前学修課題：リハビリテーションの種類と関連職種について調べ、まとめておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第3回】
事前学修課題：足関節の機能解剖学について復習しておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第4回】
事前学修課題：膝関節の機能解剖学について復習しておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第5回】
事前学修課題：大腿部・下腿部の機能解剖学について復習しておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第6回】
事前学修課題：股関節・骨盤周囲の機能解剖学について復習しておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第7回】
事前学修課題：体幹部の機能解剖学について復習しておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第8回】
事前学修課題：これまでの資料をまとめ直しておく
事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめておく
- 【第9回】
事前学修課題：肩関節複合体の機能解剖学について復習しておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第10回】
事前学修課題：上肢の機能解剖学について復習しておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第11回】
事前学修課題：生活習慣病の種類と病態について調べておく
事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第12回】
事前学修課題：これまでの資料をまとめ直し、プレゼンテーション資料を作成する
事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめ、次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第13回】
事前学修課題：これまでの資料をまとめ直し、プレゼンテーション資料を作成する
事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめ、次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第14回】
事前学修課題：これまでの資料をまとめ直し、プレゼンテーション資料を作成する
事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめ、次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第15回】
事前学修課題：外傷・障害を予防する上で重要となる項目を自分なりにまとめておく
事後学修課題：これまでの資料を全てまとめ直しておく

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した発表や課題に対しては、本人の希望があれば翌週以降に評価を開示することが可能であり、確認テストについては採点后、希望者に内容を返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・総授業回数に対して、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は「K評価」とする場合がある。
- ・正当な理由なく授業開始時刻より5分以上の遅刻、教員の許可なく途中退室した場合は減点対象とする。
- ・以下に示すとおり、授業期間中に実施されるレポート課題や確認テスト、および定期試験に代わるレポート等の評価結果に基づき総合的に判定する。
- ・総合判定で60点以上を対象に、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で課され課題に対して、内容を理解し、論理的に考察した上で、適切にまとめられているかを評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	30	複数回の課題レポートおよび確認テストにて評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	課された設問に対して、内容を適切かつ合理的に理解し、論理的に考察されているかを評価する。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	<p>テキストは使用しない。 適宜授業内にプリントを配布する。</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『Reference Book』公益財団法人日本スポーツ協会,4,840円(電子版3,520円) ・『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』公益財団法人健康・体力づくり事業財団,16,800円 ・『改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本』公益財団法人日本障がい者スポーツ協会,ぎょうせい,2,970円,ISBN-13:978-4324112502
履修条件・他の科目との関連	<p>講義主体であるが、内容の理解を深めるために一部実技的要素を実施する場合がある。 出席登録は自己責任とし、不正については厳正に対処する。 配慮すべき欠席や公欠については、大学で所定の手続きをした場合のみ認める。</p>

授業コード	13080101	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	フィットネスエクササイズ I [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、トレーニング指導者に必要な基礎的知識およびスキルとして、ストレッチングやウォーミングアップの実技を中心に説明する。その中でプログラムの展開方法や指導のポイントについても解説する。

到達目標

1. 運動・トレーニング指導者としての基礎知識が身についている
2. ストレッチングの理論を理解し、適切な指導ができる
3. ウォームアップとクールダウンの理論を理解し、適切な指導ができる

授業計画

1回	: ガイダンス	コンディショニングとは
2回	: ウォームアップ (1)	ウォームアップの目的と効果
3回	: ウォームアップ (2)	一般的ウォームアップと専門的ウォームアップ
4回	: ウォームアップ (3)	ウォームアップの作成
5回	: ウォームアップの実技および指導スキルの確認 (1)	
6回	: ウォームアップの実技および指導スキルの確認 (2)	
7回	: クールダウンとリカバリー	
8回	: ストレッチング (1)	下半身のセルフストレッチング
9回	: ストレッチング (2)	下半身のパートナーストレッチング
10回	: ストレッチング (3)	上半身のセルフストレッチング
11回	: ストレッチング (4)	上半身のパートナーストレッチング
12回	: ストレッチング (5)	その他のストレッチング
13回	: ストレッチングの実技および指導スキルの確認 (1)	
14回	: ストレッチングの実技および指導スキルの確認 (2)	
15回	: ストレッチングおよびウォームアップ・クールダウン・リカバリーの理論の確認	

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト

参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	特になし

授業コード	13084301	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	アスレティックトレーニングⅠ [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

スポーツ外傷・障害の予防および競技力向上を目的とする筋力・パワー向上のためのレジスタンストレーニングを実技形式で実施する。本授業では、トレーニング指導者として必要な基礎知識や正しいトレーニングテクニックを中心に説明し、プログラム作成や指導スキルの重要なポイントについて解説する。また評価およびプログラム作成から実際の指導までの流れを学修することで、様々なフィールドで活用できる実践的指導スキルを習得することを目指します。

到達目標

1. レジスタンストレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. パワートレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
3. 筋力・パワー向上のためのトレーニングプログラムを作成することができる

授業計画

1回	ガイダンス トレーニングの用語の理解および授業の進め方や評価方法など		
2回	レジスタンストレーニング（1）	理論：レジスタンストレーニングの目的と安全管理、	実技：ビッグ3
3回	レジスタンストレーニング（2）	理論：プログラムデザイン①、	実技：ビッグ3②
4回	レジスタンストレーニング（3）	理論：プログラムデザイン②、	実技：ビッグ3③
5回	レジスタンストレーニング（4）	理論：プログラムデザイン③、	実技：ビッグ3④
6回	ビッグ3のデモンストレーションスキル（1）	実技：ベンチプレス	
7回	ビッグ3のデモンストレーションスキル（2）	実技：スクワット	
8回	レジスタンストレーニング（5）	理論：プログラムデザイン④、	実技：上半身の補助エクササイズ
9回	レジスタンストレーニング（6）	理論：プログラムデザイン⑤、	実技：下半身の補助エクササイズ
10回	レジスタンストレーニング（7）	理論：プログラムデザイン⑥、	実技：その他の補助エクササイズ
11回	パワートレーニング	理論：パワートレーニングの目的と効果、	実技：ハングクリーン
12回	レジスタンストレーニング（8）	理論：プログラムデザイン⑦、	実技：指導演習準備
13回	レジスタンストレーニングの指導演習（1）		
14回	レジスタンストレーニングの指導演習（2）		
15回	レジスタンストレーニング・パワートレーニングの理論の確認		

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
------	--------------------------------------------------

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	安全に配慮しながら、積極的に実技を实践できること。

授業コード	13084303	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	アスレティックトレーニング I [対面]				
シラバス執筆(全員)	鈴木 真代				
シラバス執筆(主)	鈴木 真代				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

スポーツ外傷・障害の予防および競技力向上を目的とする筋力・パワー向上のためのレジスタンストレーニングを実技形式で実施する。本授業では、トレーニング指導者として必要な基礎知識や正しいトレーニングテクニックを中心に説明し、プログラム作成や指導スキルの重要なポイントについて解説する。また評価およびプログラム作成から実際の指導までの流れを学修することで、様々なフィールドで活用できる実践的指導スキルを習得することを目指します。

到達目標

1. レジスタンストレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. パワートレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
3. 筋力・パワー向上のためのトレーニングプログラムを作成することができる

授業計画

1回	: ガイダンス	トレーニングの用語の理解および授業の進め方や評価方法など
2回	: レジスタンストレーニング (1)	理論: レジスタンストレーニングの目的と安全管理、実技: ビッグ3
3回	: レジスタンストレーニング (2)	理論: プログラムデザイン①、実技: ビッグ3②
4回	: レジスタンストレーニング (3)	理論: プログラムデザイン②、実技: ビッグ3③
5回	: レジスタンストレーニング (4)	理論: プログラムデザイン③、実技: ビッグ3④
6回	: ビッグ3のデモンストレーションスキル (1)	実技: ベンチプレス
7回	: ビッグ3のデモンストレーションスキル (2)	実技: スクワット
8回	: レジスタンストレーニング (5)	理論: プログラムデザイン④、実技: 上半身の補助エクササイズ
9回	: レジスタンストレーニング (6)	理論: プログラムデザイン⑤、実技: 下半身の補助エクササイズ
10回	: レジスタンストレーニング (7)	理論: プログラムデザイン⑥、実技: その他の補助エクササイズ
11回	: パワートレーニング	理論: パワートレーニングの目的と効果、実技: ハングクリーン
12回	: レジスタンストレーニング (8)	理論: プログラムデザイン⑦、実技: 指導演習準備
13回	: レジスタンストレーニングの指導演習 (1)	
14回	: レジスタンストレーニングの指導演習 (2)	
15回	: レジスタンストレーニング・パワートレーニングの理論の確認	

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題: 体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題: 授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
------	--------------------------------------------------

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	安全に配慮しながら、積極的に実技を实践できること。

授業コード	13084304	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	アスレティックトレーニングⅠ [対面]				
シラバス執筆(全員)	船戸 淳矢				
シラバス執筆(主)	船戸 淳矢				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

スポーツ外傷・障害の予防および競技力向上を目的とする筋力・パワー向上のためのレジスタンストレーニングを実技形式で実施する。本授業では、トレーニング指導者として必要な基礎知識や正しいトレーニングテクニックを中心に説明し、プログラム作成や指導スキルの重要なポイントについて解説する。また評価およびプログラム作成から実際の指導までの流れを学修することで、様々なフィールドで活用できる実践的指導スキルを習得することを目指します。

到達目標

1. レジスタンストレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. パワートレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
3. 筋力・パワー向上のためのトレーニングプログラムを作成することができる

授業計画

1回	: ガイダンス	トレーニングの用語の理解および授業の進め方や評価方法など
2回	: レジスタンストレーニング (1)	理論: レジスタンストレーニングの目的と安全管理、実技: ビッグ3
3回	: レジスタンストレーニング (2)	理論: プログラムデザイン①、実技: ビッグ3②
4回	: レジスタンストレーニング (3)	理論: プログラムデザイン②、実技: ビッグ3③
5回	: レジスタンストレーニング (4)	理論: プログラムデザイン③、実技: ビッグ3④
6回	: ビッグ3のデモンストレーションスキル (1)	実技: ベンチプレス
7回	: ビッグ3のデモンストレーションスキル (2)	実技: スクワット
8回	: レジスタンストレーニング (5)	理論: プログラムデザイン④、実技: 上半身の補助エクササイズ
9回	: レジスタンストレーニング (6)	理論: プログラムデザイン⑤、実技: 下半身の補助エクササイズ
10回	: レジスタンストレーニング (7)	理論: プログラムデザイン⑥、実技: その他の補助エクササイズ
11回	: パワートレーニング	理論: パワートレーニングの目的と効果、実技: ハングクリーン
12回	: レジスタンストレーニング (8)	理論: プログラムデザイン⑦、実技: 指導演習準備
13回	: レジスタンストレーニングの指導演習 (1)	
14回	: レジスタンストレーニングの指導演習 (2)	
15回	: レジスタンストレーニング・パワートレーニングの理論の確認	

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題: 体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題: 授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
------	--------------------------------------------------

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	安全に配慮しながら、積極的に実技を实践できること。

授業コード	13084401	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	アスレティックトレーニングⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

トレーニング指導者として、より高度な指導スキルを身につけることを目指し、ストレングス&コンディショニングⅠ、Ⅱで学修した内容をさらに深める形で授業を展開する。各種体カトレーニングについて、スポーツフィールドを意識したより実践的な内容とし、スポーツパフォーマンス向上を目指すトレーニングのプログラム作成から実際の指導スキルについて説明する。また各種フィールドテストを活用したトレーニング効果の評価についても学修する。

到達目標

1. 各種トレーニングの方法を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. 各種トレーニングのプログラムを作成することができる
3. 各種フィールドテストを活用し、トレーニング効果を評価できる

授業計画

1回	ガイダンス	
2回	プライオメトリクストレーニング(1)	プライオメトリクストレーニングの理論と実践
3回	プライオメトリクストレーニング(2)	プライオメトリクストレーニングにおける測定と評価
4回	スピードトレーニング(1)	スピードトレーニングの理論と実践
5回	スピードトレーニング(2)	スピードの測定と評価
6回	アジリティトレーニング(1)	アジリティトレーニングの理論と実践
7回	アジリティトレーニング(2)	アジリティの測定と評価
8回	持久カトレーニング(1)	有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの理論と実践
9回	持久カトレーニング(2)	有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの測定と評価
10回	指導演習(1)	各種トレーニングの指導演習
11回	指導演習(2)	各種トレーニングの指導演習
12回	指導演習(3)	各種トレーニングの指導演習
13回	各種トレーニングの実技の確認(1)	
14回	各種トレーニングの実技の確認(2)	
15回	各種トレーニング理論の確認	

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワークでの発言等(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト
「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修

テキスト	館書店
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 「ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版」ブックハウス エイチディ
履修条件・他の科目との関連	事前に「ストレングス&コンディショニングⅠ」および「ストレングス&コンディショニングⅡ」の単位を修得していること。

授業コード	13084402	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	アスレティックトレーニングⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	鈴木 真代				
シラバス執筆(主)	鈴木 真代				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

トレーニング指導者として、より高度な指導スキルを身につけることを目指し、ストレングス&コンディショニングⅠ、Ⅱで学修した内容をさらに深める形で授業を展開する。各種体カトレーニングについて、スポーツフィールドを意識したより実践的な内容とし、スポーツパフォーマンス向上を目指すトレーニングのプログラム作成から実際の指導スキルについて説明する。また各種フィールドテストを活用したトレーニング効果の評価についても学修する。

到達目標

1. 各種トレーニングの方法を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. 各種トレーニングのプログラムを作成することができる
3. 各種フィールドテストを活用し、トレーニング効果を評価できる

授業計画

- 1回 : ガイダンス
- 2回 : プライオメトリクストレーニング (1) プライオメトリクストレーニングの理論と実践
- 3回 : プライオメトリクストレーニング (2) プライオメトリクストレーニングにおける測定と評価
- 4回 : スピードトレーニング (1) スピードトレーニングの理論と実践
- 5回 : スピードトレーニング (2) スピードの測定と評価
- 6回 : アジリティトレーニング (1) アジリティトレーニングの理論と実践
- 7回 : アジリティトレーニング (2) アジリティの測定と評価
- 8回 : 持久カトレーニング (1) 有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの理論と実践
- 9回 : 持久カトレーニング (2) 有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの測定と評価
- 10回 : 指導演習 (1) 各種トレーニングの指導演習
- 11回 : 指導演習 (2) 各種トレーニングの指導演習
- 12回 : 指導演習 (3) 各種トレーニングの指導演習
- 13回 : 各種トレーニングの実技の確認 (1)
- 14回 : 各種トレーニングの実技の確認 (2)
- 15回 : 各種トレーニング理論の確認

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
 事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
 以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワークでの発言等(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト
 「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
 「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修

テキスト	館書店
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 「ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版」ブックハウス エイチディ
履修条件・他の科目との関連	事前に「ストレングス&コンディショニングⅠ」および「ストレングス&コンディショニングⅡ」の単位を修得していること。

授業コード	13084501	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	スポーツトレーナー演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

スポーツや教育の現場、また各種フィールドにおいて傷害発生を完全に予防することは困難である。よって、それらに備えた準備は必要不可欠である。本授業ではアスレティックトレーニングの中から、各種傷害に対する救急処置の必要性を理解し、確実に実践できるよう、講義および実技を交えて学習する。また、CPRおよびAEDの実践方法、緊急時の対応（EAP）などについても実務家教員の立場から説明する。

到達目標

1. アスレティック（スポーツ）トレーナーの職域について理解できる。
2. 健康教育に関する基礎知識を習得できる。
3. 体育・スポーツ活動中に生じる外傷に対する応急処置の重要性を理解できる。
4. 緊急時に備えたCPRやAED、その他状況に応じた応急処置の実践が出来る。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：アスレティック・トレーニング
内容・方法：いわゆる「トレーナー」とは、関連職種との連携など
- 【第2回】
テーマ：アスレティック（スポーツ）・トレーナーの基礎知識
内容・方法：アスレティック・トレーナーの役割と職域
- 【第3回】
テーマ：傷害および疾病の予防
内容・方法：スポーツに伴う傷害や疾病の病態および予防対策について
- 【第4回】
テーマ：傷害および疾病の評価
内容・方法：各種傷害および疾病のプレホスピタルケア（RICE処置含）
- 【第5回】
テーマ：頭頸部外傷に対する応急処置
内容・方法：脳振盪と頸椎（頸髄）損傷を中心に
- 【第6回】
テーマ：体幹部の外傷に対する応急処置
内容・方法：腰背部、胸腹部外傷の評価と応急処置
- 【第7回】
テーマ：上肢外傷に対する応急処置
内容・方法：肩関節および肘関節の骨折・脱臼を中心に
- 【第8回】
テーマ：膝および足関節外傷に対する応急処置
内容・方法：靭帯損傷に対する評価と応急処置
- 【第9回】
テーマ：その他のスポーツ外傷に対する応急処置
内容・方法：熱中症や突然死、特殊環境下における外傷の応急処置
- 【第10回】
テーマ：緊急時対応計画（エマージェンシー・アクション・プラン）
内容・方法：緊急事案発生時の対応計画立案について
- 【第11回】
テーマ：心肺蘇生法（1）
内容・方法：心肺蘇生法およびAEDの取扱いについて
- 【第12回】
テーマ：心肺蘇生法（2）
内容・方法：心肺蘇生法の実践
- 【第13回】
テーマ：アスレティックトレーニングにおける管理
内容・方法：傷害予防のための取組みなど
- 【第14回】
テーマ：グループ発表（1）
内容・方法：急性外傷に対する評価および応急処置、予防対策に関する発表と討論
- 【第15回】
テーマ：グループ発表（2）
内容・方法：急性外傷に対する評価および応急処置、予防対策に関する発表と討論、フィードバック

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学修課題：「トレーナー」という用語の歴史と現状について調べておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第2回】
事前学修課題：日本と米国におけるアスレティックトレーニングの違いについてまとめておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第3回】
事前学修課題：傷害という言葉の意味と、これまでの自身の怪我についてまとめておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第4回】
事前学修課題：プレホスピタルケアおよびRICE処置について調べ、疑問点をまとめておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第5回】
事前学修課題：頭部および頸部の機能解剖学について予習しておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第6回】
事前学修課題：体幹部の機能解剖学について予習しておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第7回】
事前学修課題：肩甲上腕関節および腕尺関節の機能的特徴について調べておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第8回】
事前学修課題：足関節および膝関節の代表的靭帯の機能的役割についてまとめておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第9回】
事前学修課題：暑熱環境下が身体に及ぼす影響についてまとめておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第10回】
事前学修課題：エマージェンシーアクションプランについて調べておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第11回】
事前学修課題：CPR/AEDの取扱いについて調べておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第12回】
事前学修課題：ガイドライン2010・2015・2020の違いについてまとめておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第13回】
事前学修課題：教育現場で生じる可能性の高い外傷について調べ、予防対策を講じておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第14回】
事前学修課題：急性外傷を身体部位別にまとめておく
事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第15回】
事前学修課題：これまでの講義内容についてまとめ、疑問点や不明な点を明確にしておく
事後学修課題：これまでの講義内容をまとめ直す

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した発表や課題に対しては、本人の希望があれば翌週以降に評価を開示することが可能であり、確認テストについては採点后、希望者に内容を返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 総授業回数に対して、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は「K評価」とする場合がある。
- ・ 正当な理由なく授業開始時刻より5分以上遅刻した場合、教員の許可なく途中退室した場合は減点対象とする。
- ・ 以下に示すとおり、授業期間中に実施されるレポート課題や確認テスト、および定期試験に代わるレポート等の評価結果に基づき総合的に判定する。
- ・ 総合判定で60点以上を対象に、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で課された課題に対して、内容を理解し、論理的に考察した上で、適切にまとめられているかを評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	複数回の確認テストにて評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	課された設問に対して、内容を適切かつ合理的に理解し、論理的に考察されているかを評価する。	1, 2, 3
その他	15	実技の成否および積極的な共同活動により評価する。 なお共同活動とは、課題に対して他者との積極的な協力関係をもって評価する。	4

テキスト	<p>テキストは使用しない。 適宜授業内でプリントを配布する。</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『アスレティックトレーニング学』広瀬統一ほか,文光堂,6,050円,ISBN-13:978-4830651915. ・『スポーツ外傷アセスメント』渡辺好博ほか,西村書店,13,200円,ISBN-13:978-4890131969. ・『Reference Book』公益財団法人日本スポーツ協会,4,840円(電子版3,520円)
履修条件・他の科目との関連	<p>授業内で実技を交える場合があることを了承しておくこと。 出席登録は自己責任とし、不正については厳正に対処する。 配慮すべき欠席や公欠については、大学で所定の手続きをした場合のみ認める。</p>

授業コード	13070301	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	陸上競技基礎 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山方 諒平				
シラバス執筆(主)	山方 諒平				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

陸上競技は、歩・走・跳・投の運動種目やそれに関わる基礎的な運動能力を発揮して、相手と競争することや自己の能力に挑戦することを楽しむスポーツである。授業では、陸上競技の運動特性や教育的特性を理解し、走・跳・投種目における基本的技術、実践的運動手段・方法、および基本的なルール・審判法について学修する。また、技能到達のまとめとして、走・跳・投種目のパフォーマンステストを行う。

到達目標

1. 陸上競技の特性について説明できる。
2. 陸上競技の基本技術、実践的な運動手段・方法や、ルール・審判法について説明できる。
3. 走・跳・投種目について一定基準以上のパフォーマンスを発揮できる。

授業計画

【第1回】陸上競技の運動特性の理解、歩・走運動：走・跳・投種目の運動特性と運動構造の理解（理論と実践）を目指す
【第2回】短距離走・リレー：短距離走における運動特性、技術（スタート・加速・等速・減速局面、バトンパス）、運動手段・方法について学ぶ
【第3回】ハードル走①：ハードル走における運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
【第4回】ハードル走②：ハードル走における運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
【第5回】ハードル走③：ハードルにおける運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
【第6回】走幅跳①：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
【第7回】走幅跳②：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
【第8回】走幅跳③：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
【第9回】走高跳①：走高跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中）、運動手段・方法について学ぶ
【第10回】走高跳②：走高跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中）、運動手段・方法について学ぶ
【第11回】砲丸投①：砲丸投における運動特性、技術（構え・グライド・パワポジション・投げ）、運動手段・方法について学ぶ
【第12回】砲丸投②：砲丸投における運動特性、技術（構え・グライド・パワポジション・投げ）、運動手段・方法について学ぶ
【第13回】リレー：各種リレーにおける運動特性、技術（バトンパスワーク・スタンディングスタート）、運動手段・方法について学ぶ
【第14回】長距離走：長距離走における運動特性、技術（ランニングペース・フォーム）、運動手段・方法について学ぶ
【第15回】まとめ：陸上競技の運動特性や技術について確認し、技能修得上の課題である「つまずき」、「修得のコツ」について実践を通して学んだことや課題について話し合う

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習課題（各30分）

- 【第1回】学校体育における陸上競技の意義についてテキストを参考に事前準備をする。
【第2回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第3回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第4回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第5回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第6回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第7回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第8回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第9回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第10回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第11回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第12回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第13回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
【第14回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。

【第15回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。

事後学習課題（各30分）

- 【第1回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第2回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第3回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第4回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第5回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第6回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第7回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第8回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第9回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第10回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第11回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第12回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第13回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第14回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第15回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の最後にまとめとして、学習の達成度を伝えて次回の課題とする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により総合的に判定し、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく5回以上の欠席は評価の対象とせずに「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) タームペーパー未提出者は評価の対象とせずに「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談を行うこと。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	パフォーマンステスト(50) 取り組み姿勢など(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	タームペーパー 30	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストなし
参考書	中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫/小木曾一之(編著)清水茂幸、串間敦郎、得居雅人、小倉幸雄、田附俊一著)/道和書院//978-4-8105-2133-7
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・運動特性、技術、方法、気づきについて毎時ノートにまとめておくこと ・陸上競技用のシューズを履き、実技に適した服装で受講すること ・水分補給用の飲水ボトルを用意すること

授業コード	13007801	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ニュースポーツ [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

仲間との交流、家族のふれあい、健康・体力づくり等様々な目的で行われている「手軽に楽しめるスポーツ」「生涯スポーツ」として「ニュースポーツ」が近年積極的に取りあげられている。子どもから老人まで、障害の有無にかかわらず、だれもが、いつでも、どこでも、気軽に楽しめるレクリエーションとして、地域の人々のスポーツライフに多いに役立つよう普及・定着することが期待されている。

こうした目的に合うスポーツの種目としては

- ①個人の能力を生かし楽しめる
- ②適度な運動量、安全性が高い
- ③ルールが易しい
- ④短時間で技術修得、などの要素が必要であると考えられる。

「ニュースポーツ」は、生涯スポーツの目的にあったより親しみやすく爽快感を味わえる種目として、地域の人々の豊かさスポーツライフに大いに役立つよう、普及・定着することが期待されている。

上記を理解しながら、教育実習や地域スポーツ教室などで教えることの出来るレベルまでスキルの習得を追求する。

到達目標

1. スポーツ＝競技スポーツという狭い枠から抜け出し、幅広いスポーツ経験を体験する機会を持ち、楽しんでスポーツをする、楽しんで体を動かす事の大切さを説明できる。
2. ニュースポーツの特性を理解し、自らプログラムを作成し、そのスキルや楽しさ説明できる。
3. 学校や地域スポーツの現場で「ニュースポーツ」を安全に指導する上で必要な知識やスキルを身につけて応用できる。

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス（教室）
- 【第2回】 フライングディスク（スローイング）
- 【第3回】 フライングディスク（スローイング、コントロールテスト）
- 【第4回】 フライングディスク（ドッジビー）
- 【第5回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第6回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第7回】 キンボール（リードアップゲーム）
- 【第8回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第9回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第10回】 ソフトバレーボール
- 【第11回】 インディアカ
- 【第12回】 シャッフルボード
- 【第13回】 モルック
- 【第14回】 モルック
- 【第15回】 今期まとめ（テスト）

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

- 【第1回】
 - ①事前学修課題：シラバスを確認しておく
 - ②事後学修課題：授業の内容を確認しておく
- 【第2回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第3回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第4回】
 - ①事前学修課題：ドッジビーの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第5回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第6回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第7回】

- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第8回】
- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第9回】
- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第10回】
- ①事前学修課題：ソフトバレーボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第11回】
- ①事前学修課題：インディアカの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第12回】
- ①事前学修課題：シャッフルボードの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第13回】
- ①事前学修課題：モルックの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第14回】
- ①事前学修課題：モルックのアレンジ版プログラムをグループで作成する
 ②事後学修課題：作成したプログラムを実践し課題をみつける
 【第15回】
- ①事前学修課題：前回までの授業内容の確認
 ②事後学修課題：今後の指導に活かすことができるよう、授業内容をまとめる
 ※事前、事後学習には各々2時間程度をかけて学習すること

課題に対するフィードバックの方法

課題の技術習得については即時のアドバイスをを行い、できなければ必要に応じて補講を行う。
 期末の試験については試験終了後、採点を行い、理解が進まなかったところについてはclassroomにて解説を加える。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由のない欠席が3回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	下記の評価項目で総合的に判定する。 ・到達目標への積極的取り組み(特に①安全に配慮できているか、②対人関係構築のために積極的に働きかけているか) 授業準備への積極的参加(授業前の施設環境整備、用具の出し入れなど) 授業進行への積極的協力(自ら動き、スムーズな時間進行に協力できているか) 感染症対策に対する取り組み(授業開始前の検温、手指消毒、用具の消毒が確実にできているか) 出席状況	1, 2
授業外での評価	30	・各回授業後に出题される確認テストの提出状況とテスト結果	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	・期末の理解度テスト ルールの理解、ゲーム成立の背景の理解、Classroomにアップする資料に目を通して自学自習を進めたか	1, 2
その他	0		

テキスト 公認スポーツ指導者養成講習会用テキスト「リファレンスブック」: JSPO(日本スポーツ協会)出版

参考書 適宜指示する

履修条件・他の科目との関連

- ・正当な理由のない3回の欠席でK評価(評価不能)とする。
- ・遅刻および早退3回で欠席1回と評価する。
- ・学外実習や課外活動等による欠席は「公欠ではない」ので注意すること。
- ・本授業は対面で行うが、途中、天候や施設の利用状況、コロナ感染症の対応などでA班とB班に分かれ前後半45分2交代制(対面)で行う場合がある。
- ・この授業は、対面授業である。
- ・授業に関する連絡や課題案内はすべてClassroomに提示する。

授業コード	13007802	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ニュースポーツ [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 誠之				
シラバス執筆(主)	佐藤 誠之				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

仲間との交流、家族のふれあい、健康・体力づくり等様々な目的で行われている「手軽に楽しめるスポーツ」「生涯スポーツ」として「ニュースポーツ」が近年積極的に取りあげられている。子どもから老人まで、障害の有無にかかわらず、だれもが、いつでも、どこでも、気軽に楽しめるレクリエーションとして、地域の人々のスポーツライフに多いに役立つよう普及・定着することが期待されている。

こうした目的に合うスポーツの種目としては

- ①個人の能力を生かし楽しめる
- ②適度な運動量、安全性が高い
- ③ルールが易しい
- ④短時間で技術修得、などの要素が必要であると考えられる。

「ニュースポーツ」は、生涯スポーツの目的にあったより親しみやすく爽快感を味わえる種目として、地域の人々の豊かさスポーツライフに大いに役立つよう、普及・定着することが期待されている。

上記を理解しながら、教育実習や地域スポーツ教室などで教えることの出来るレベルまでスキルの習得を追求する。

到達目標

1. スポーツ＝競技スポーツという狭い枠から抜け出し、幅広いスポーツ経験を体験する機会を持ち、楽しんでスポーツをする、楽しんで体を動かす事の大切さを説明できる。
2. ニュースポーツの特性を理解し、自らプログラムを作成し、そのスキルや楽しさ説明できる。
3. 学校や地域スポーツの現場で「ニュースポーツ」を安全に指導する上で必要な知識やスキルを身につけて応用できる。

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス（教室）
- 【第2回】 フライングディスク（スローイング）
- 【第3回】 フライングディスク（スローイング、コントロールテスト）
- 【第4回】 フライングディスク（ドッジビー）
- 【第5回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第6回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第7回】 キンボール（リードアップゲーム）
- 【第8回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第9回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第10回】 ソフトバレーボール
- 【第11回】 インディアカ
- 【第12回】 シャッフルボード
- 【第13回】 モルック
- 【第14回】 モルック
- 【第15回】 今期まとめ（テスト）

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

- 【第1回】
 - ①事前学修課題：シラバスを確認しておく
 - ②事後学修課題：授業の内容を確認しておく
- 【第2回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第3回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第4回】
 - ①事前学修課題：ドッジビーの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第5回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第6回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第7回】

- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第8回】
- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第9回】
- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第10回】
- ①事前学修課題：ソフトバレーボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第11回】
- ①事前学修課題：インディアカの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第12回】
- ①事前学修課題：シャッフルボードの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第13回】
- ①事前学修課題：モルックの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第14回】
- ①事前学修課題：モルックのアレンジ版プログラムをグループで作成する
 ②事後学修課題：作成したプログラムを実践し課題をみつける
 【第15回】
- ①事前学修課題：前回までの授業内容の確認
 ②事後学修課題：今後の指導に活かすことができるよう、授業内容をまとめる
 ※事前、事後学習には各々2時間程度をかけて学習すること

課題に対するフィードバックの方法

課題の技術習得については即時のアドバイスをを行い、できなければ必要に応じて補講を行う。
 期末の試験については試験終了後、採点を行い、理解が進まなかったところについてはclassroomにて解説を加える。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由のない欠席が3回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	下記の評価項目で総合的に判定する。 ・到達目標への積極的取り組み(特に①安全に配慮できているか、②対人関係構築のために積極的に働きかけているか) 授業準備への積極的参加(授業前の施設環境整備、用具の出し入れなど) 授業進行への積極的協力(自ら動き、スムーズな時間進行に協力できているか) 感染症対策に対する取り組み(授業開始前の検温、手指消毒、用具の消毒が確実にできているか) 出席状況	1, 2
授業外での評価	30	・各回授業後に出题される確認テストの提出状況とテスト結果	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	・期末の理解度テスト ルールの理解、ゲーム成立の背景の理解、Classroomにアップする資料に目を通して自学自習を進めたか	1, 2
その他	0		

テキスト 公認スポーツ指導者養成講習会用テキスト「リファレンスブック」: JSPO(日本スポーツ協会)出版

参考書 適宜指示する

履修条件・他の科目との関連

- ・正当な理由のない3回の欠席でK評価(評価不能)とする。
- ・遅刻および早退3回で欠席1回と評価する。
- ・学外実習や課外活動等による欠席は「公欠ではない」ので注意すること。
- ・本授業は対面で行うが、途中、天候や施設の利用状況、コロナ感染症の対応などでA班とB班に分かれ前後半45分2交代制(対面)で行う場合がある。
- ・この授業は、対面授業である。
- ・授業に関する連絡や課題案内はすべてClassroomに提示する。

授業コード	13048101	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	海洋・野外スポーツ実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗、高山 昌子、津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

※本授業は、中学校教諭一種免許状（保健体育）および高等学校教諭一種免許状（保健体育）の選択必修科目である（免許取得希望者はキャンプ実習またはスキー実習を履修および単位修得すること）。
 ※※本授業は、公益社団法人日本キャンプ協会公認の「キャンプインストラクター」の資格が取得できる授業である（別途手続きと公認料などが必要）。

本授業は、組織キャンプを通してキャンプ技術の知識および人間関係を構築する手段および指導方法を学ぶ。また、キャンプ技術の知識を通して、キャンプの特性である（1）つながる力、（2）楽しむ力、（3）立ち向かう力を養う。
 さらに、指導者として必要な知識、技術や社会人に求められるコミュニケーション力、リーダーシップ能力を身につける。

到達目標

- 1) キャンプを行う際に必要な最低限の知識および技能がある。
- 2) 組織キャンプの教育効果について理解している。
- 3) 安全に運動やスポーツ活動を行おうとする姿勢を身につける。
- 4) 自然体験を通して、環境教育に関心を持っている。

授業計画

【第1回】オリエンテーション

※例年、5月中の木曜6限（18:00-19:30）に実施する。

本授業の概要（日時、場所、活動内容など）、ルールおよびキャンセル規定などの説明をする。

事前：宿泊を伴う授業であることから、自身の各種アレルギーや既往歴などを正確に把握する。

事後：実習に必要な用具等を確認する。

【第2回】キャンプ事前指導1

※例年、前期授業終了後（7月下旬～8月上旬）に実施する。

キャンプの特性・意義、歴史と様々なキャンプの種類について学ぶ。

また、キャンプ実習実施場所の環境を理解し、危険予測トレーニングを通じてキャンプにおける安全の意識を高める。

事前学修：キャンプ実習の実施場所についてインターネット等を活用し、情報を収集する。

事後学修：危険予測トレーニングの結果をもとに、実習時に注意すべき事項をまとめる。

【第3回】キャンプ事前指導2

※例年、前期授業終了後（7月下旬～8月上旬）に実施する。

現地グループおよび宿泊グループ毎に、チームビルディングを行う。

キャンプ実習の活動内容、スケジュール、持ち物、注意事項などの最終確認を行う。

また、宿泊を伴う実習のため、感染症対策について理解を深める。

事前学修：実習に必要な道具等をリストアップする。

事後学修：テキストを再度確認し、安全にキャンプ実習が実施できるよう準備する。

実習

スケジュールは下記の通りであるが、天候等によりスケジュールを変更する場合がある。

※例年、8月中旬に実施している。9月上旬に変更する可能性がある。

【実習1日目】

- ・ ASE
- ・ 集団テント設営
- ・ 野外炊飯
- ・ ロープワーク

事前学修：事前学修の内容を復習する

事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

【実習2日目】

- ・ 地域発見プログラム
- ・ 個人テント設営
- ・ ハイキング
- ・ フォトコンテスト

事前学修：事前学修の内容を復習する

事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

【実習3日目】

- ・ウォータープログラム
 - ・キャンプファイヤー
 - ・パフォーマンスナイト
- 事前学修：事前学修の内容を復習する
 事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

【実習4日目】

- ・ASE
 - ・筆記試験
 - ・実技試験
- 事前学修：事前学修の内容を復習する
 事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業計画に記載の通り。

課題に対するフィードバックの方法

事前指導時は、授業の冒頭にフィードバックを行う。
 実習中は実習のしおりを使用して、フィードバックを行う。
 その他、GoogleクラスルームやEメールを活用して、随時質問等に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 1) 正当な理由がない欠席および事前連絡のない欠席は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 2) 実習に参加できない者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3) 実習時に実施される筆記試験、実技試験を受けていない者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	事前指導および実習中の課題の取り組み(30)、実習のしおりに記載の振り返りシート(30)等	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	筆記試験(30)、実技試験(10)	1, 2
その他	0		

テキスト	公益社団法人日本キャンプ協会 キャンプ指導者入門第5版 ISBN978-4-904008-15-7 ※テキストは事前指導時に配布するため、事前に購入する必要はない。
------	---------------------------------------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。
-----	----------------

履修条件・他の科目との関連	本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)および高等学校教諭一種免許状(保健体育)の選択必修科目である(免許取得希望者は、キャンプ実習またはスキー実習を履修すること)。公益社団法人日本キャンプ協会公認の「キャンプインストラクター」の資格が取得できる授業である(別途手続きと公認料などが必要)。 事前指導の欠席や事務手続き等を怠った場合は、実習の参加を認めない。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13085201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ指導論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康教育及びスポーツコーチングの概念や原理について、単に経験だけに基づくものだけでなく、スポーツバイオメカニクス・生理学・運動学・栄養学・心理学・教育学・倫理学・社会学などを統合したスポーツ科学的な視点から学ぶ。つまり、健康・体力の維持増進や競技力向上を目的に、発育発達や性差など個人差や対象者に応じた効果的で、安全な指導法について、指導者の役割や資質を踏まえて学修する。

到達目標

1. スポーツコーチングの概念や原理について説明できる。
2. 対象者に応じた効果的・安全的な指導法について説明できる。
3. 指導者の役割や資質について説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：健康教育とスポーツコーチング

内容・方法：経験論・根性論とスポーツ科学を生かした指導法について

【第2回】

テーマ：健康・体力とは

内容・方法：健康の定義と体力の分類について

【第3回】

テーマ：健康づくりの施策

内容・方法：健康教育、身体活動基準、アクティブガイドについて

【第4回】

テーマ：健康づくりにおける社会的環境

内容・方法：「健康日本21」について

【第5回】

テーマ：健康な地域づくりの策定方法

内容・方法：健康施策の評価について

【第6回】

テーマ：体力・技術のトレーニング効果

内容・方法：レディネスとトレーニングプロセスについて

【第7回】

テーマ：スキルの分析とフィードバック

内容・方法：動きの獲得と質の評価、獲得されたスキルの矯正方法・プロセスについて

【第8回】

テーマ：指導者の役割

内容・方法：指導者の資質・能力と行動倫理について

【第9回】

テーマ：コーチングスキル

内容・方法：コーチングスタイルとコミュニケーションスキルについて

【第10回】

テーマ：チームマネジメント

内容・方法：指導形態とチームの運営について

【第11回】

テーマ：目標設定とモチベーション

内容・方法：効果的な目標設定と動機づけの種類・方法について

【第12回】

テーマ：発育発達とスポーツ指導①

内容・方法：幼少期における身体、認知、運動、ことばの発達の理解と運動指導時の留意点および運動遊びの具体例について

【第13回】

テーマ：発育発達とスポーツ指導②

内容・方法：ジュニアからシニア期のスポーツパフォーマンスの将来性について

【第14回】

テーマ：個人差を考慮したトレーニング計画

内容・方法：女性アスリートにおけるトレーニングの実際について

【第15回】

テーマ：運動・スポーツ指導論のまとめ

内容・方法：健康教育とスポーツ指導の今後のあり方について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

<p>【第1回】</p> <p>①事前学修課題：スポーツを取り巻く環境や現状について、まとめておくこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第2回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第3回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第4回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第5回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第6回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第7回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第8回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第9回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第10回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p>

課題に対するフィードバックの方法

毎時、確認テストを実施していることから、授業の始めに回答・自己評価を元に、課題点についてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) 最終レポート(タームペーパー)未提出者は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の課題(20), リフレクションノート(20)	1, 2, 3
授業外での評価	15	自修学修(15)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	最終レポート(タームペーパー)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10), 取り組み姿勢(10)等	1, 2, 3

テキスト ・日本スポーツ協会(JSPO) Reference Book, 公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト

参考書 ・健康運動指導士, 健康運動実践指導者テキスト
・トレーニング指導者テキスト(JATI)

履修条件・他の科目との関連

1. 「スポーツ実践指導法」と併せて受講することが望ましい。
2. 授業スケジュールは「①前回テーマの復習・確認, ②本日のテーマ, ③確認テスト・自己評価」である。
3. 最終レポート(タームペーパー)の未提出及び, 5回以上の欠席は評価対象外とする。
4. 日本スポーツ協会(JSPO)公認スポーツ指導者資格の「指導者マイページ」の登録, テキスト購入の確認をする。(第1回目の授業)

授業コード	13057202	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	教育実習研究 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業の目的は、保健体育科教員免許状の取得を目指すために必要な基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることである。
 本授業では、保健体育科教員免許状の取得を目指す者としての心構えを育成しながら自己評価や他者評価、グループワーク等を通じて、上記の目的を達成させることを目指す。

到達目標

1. 適切に自己評価と他者評価ができる。
2. 板書の仕方を理解できる。
3. ラジオ体操第1・2の模範的演技ができ、また集団行動の創作ができる。
4. 模擬の介護等体験をとおして介護に必要な基礎知識を理解し、説明できる。
5. 保健体育科教員に求められる基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え（免許取得条件）
 内容・方法：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え、教免取得条件、施設等体験実習、教育実習の概要と心構えを学習する

【第2回】

テーマ：介護等体験参加者の講話
 内容・方法：介護等体験に参加した学生の話聞くことで、教職課程における取組む姿勢・態度を考える。

【第3回】

テーマ：板書の自己評価と他者評価
 内容・方法：板書の仕方を学習する。

【第4回】

テーマ：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）
 内容・方法：実技領域「体育」の導入・まとめを指導者として実践する。

【第5回】

テーマ：模擬の介護等体験
 内容・方法：車いす介助の方法、視覚障がい者の実体験を通して学習する。

【第6回】

テーマ：ラジオ体操第1
 内容・方法：ラジオ体操第1を指導者として正確に実施できるように学習する。

【第7回】

テーマ：ラジオ体操第2
 内容・方法：ラジオ体操第2を指導者として正確に実施できるように学習する。

【第8回】

テーマ：ラジオ体操第1の自己評価と他者評価
 内容・方法：ラジオ体操第1の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。

【第9回】

テーマ：ラジオ体操第2の自己評価と他者評価
 内容・方法：ラジオ体操第2の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。

【第10回】

テーマ：学習指導案の作成1
 内容・方法：学習指導案を作成する。

【第11回】

テーマ：学習指導案の作成2
 内容・方法：学習指導案を作成する。

【第12回】

テーマ：模擬授業1
 内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。

【第13回】

テーマ：模擬授業2
 内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。

【第14回】

テーマ：模擬授業3
 内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。

【第15回】

テーマ：まとめ
 内容・方法：本授業を総括し、保健体育科教員免許状取得希望者としての心構え、態度等を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：教職課程履修の心構えについてまとめる
- ②事後学修課題：教員としての心構えや姿勢についてまとめる

【第2回】

- ①事前学修課題：介護等体験について調べ、介護等体験参加者に対する質問を考える
- ②事後学修課題：介護等体験に備えて必要なことをまとめる

【第3回】

- ①事前学修課題：板書の仕方を調べる
- ②事後学修課題：板書の自己評価と他者評価を整理する

【第4回】

- ①事前学修課題：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）の動きを確認する
- ②事後学修課題：集団行動指導（集合・整列・隊形移動・行進）の留意点をまとめる

【第5回】

- ①事前学修課題：高齢者及び障がい者対象サービスについて調べる
- ②事後学修課題：介助、介護方法について復習をする

【第6回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第1の動作の留意点をまとめる

【第7回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第2の動作の留意点をまとめる

【第8回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第9回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第10回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第11回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第12回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第13回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第14回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第15回】

- ①事前学修課題：本授業の内容を振り返る。
- ②事後学修課題：本授業をとおして自己評価をする。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で実施する実技、発表、演習等についてはその都度学生一人ひとりにフィードバックを行い、適宜、指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 正当な理由なく3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる（学科規程より）。なお、遅刻3回で1回の欠席とする。
- ・ 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・授業態度・意欲など課題などの取り組み姿勢(30) ・発表に向けた準備状況やその目標到達度(30) ・教員を志望する者として相応の取り組み態度(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート試験(20)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 適宜、資料を配布する。

参考書	<p>文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>履修条件は以下のとおりである。 ・真面目かつ主体的に授業に臨める者。 ・向上心を抱き、ひたむきに教員免許状取得を目指せる者。 欠席者については、各担当教員に連絡して資料を受け取ること。</p>

授業コード	13057303	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	教育実習研究Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業の目的は保健体育科教員としての実践的指導力を養成することである。上記の目的を達成させるために、自ら教育現場の課題を取り上げ、課題解決に向けた道筋を論理立て、受講生同士で議論をすることに加えて、中学校と高等学校における体育理論の模擬授業を実施する。

到達目標

1. 教育現場の課題を把握し、課題解決のための考えを提示することができる。
2. 体育理論の学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：ガイダンス
 内容・方法：授業概要、授業方針、成績評価等について説明する。
- 【第2回】
 テーマ：体罰の防止策を考える
 内容・方法：体罰について発表し、議論する。
- 【第3回】
 テーマ：学校部活動の地域移行事業の現状と課題及び解決案の発表
 内容・方法：学校部活動の地域移行事業について発表し、議論する。
- 【第4回】
 テーマ：中学校体育理論の模擬授業 1
 内容・方法：中学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第5回】
 テーマ：中学校体育理論の模擬授業 2
 内容・方法：中学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第6回】
 テーマ：中学校体育理論の模擬授業 3
 内容・方法：中学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第7回】
 テーマ：中学校体育理論の模擬授業 4
 内容・方法：中学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第8回】
 テーマ：中学校体育理論の模擬授業 5
 内容・方法：中学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第9回】
 テーマ：中学校体育理論の模擬授業 6
 内容・方法：中学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第10回】
 テーマ：高等学校体育理論の模擬授業 1
 内容・方法：高等学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第11回】
 テーマ：高等学校体育理論の模擬授業 2
 内容・方法：高等学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第12回】
 テーマ：高等学校体育理論の模擬授業 3
 内容・方法：高等学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第13回】
 テーマ：高等学校体育理論の模擬授業 4
 内容・方法：高等学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第14回】
 テーマ：高等学校体育理論の模擬授業 5
 内容・方法：高等学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第15回】
 テーマ：高等学校体育理論の模擬授業 6
 内容・方法：高等学校体育理論の模擬授業を実践し、議論する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：シラバスの確認&教育現場の課題について調べる。

- ②事後学修課題：授業内容の復習
【第2回】
①事前学修課題：教育現場における体罰について調べ、発表資料を作成し、発表練習をする。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第3回】
①事前学修課題：学校部活動の地域移行事業について調べ、発表資料を作成し、発表練習をする。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第4回】
①事前学修課題：中学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第5回】
①事前学修課題：中学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第6回】
①事前学修課題：中学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第7回】
①事前学修課題：中学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第8回】
①事前学修課題：中学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第9回】
①事前学修課題：中学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第10回】
①事前学修課題：高等学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第11回】
①事前学修課題：高等学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第12回】
①事前学修課題：高等学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第13回】
①事前学修課題：高等学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第14回】
①事前学修課題：高等学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第15回】
①事前学修課題：高等学校体育理論の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習

課題に対するフィードバックの方法

授業並びにGoogle Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる(学科規程より)。なお、遅刻2回で1回の欠席とする。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において「2」以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	・授業への参加態度並びに発表(内容, 仕方, 資料等)。	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	定期試験に代わるレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	適宜, 授業内で紹介する。
-----	---------------

履修条件・他の科目との関連	履修条件は以下のとおりである。
---------------	-----------------

履修条件・他の科目との関連

- ・真面目かつ主体的に授業に臨める者.
 - ・向上心を抱き, ひたむきに教員免許状取得を目指せる者.
- なお, 教育実習に参加するためには本科目の単位修得が必須である(学科規程).

授業コード	13057402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	教育実習研究Ⅲ [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業の目的は保健体育科教員としての実践的指導力を養成することである。上記の目的を達成させるために、自ら教育現場の課題を取り上げ、課題解決に向けた道筋を論理立て、受講生同士で議論をすることに加えて、中学校と高等学校における保健の模擬授業を実施する。

到達目標

1. 教育現場の課題を把握し、課題解決のための考えを提示することができる。
2. 保健の学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：ガイダンス
 内容・方法：授業概要、授業方針、成績評価等について説明する。
- 【第2回】
 テーマ：いじめの防止策を考える
 内容・方法：いじめについて発表し、議論する。
- 【第3回】
 テーマ：不登校、引きこもりの対策を考える
 内容・方法：不登校、引きこもりについて発表し、議論する。
- 【第4回】
 テーマ：中学校保健の模擬授業 1
 内容・方法：中学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第5回】
 テーマ：中学校保健の模擬授業 2
 内容・方法：中学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第6回】
 テーマ：中学校保健の模擬授業 3
 内容・方法：中学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第7回】
 テーマ：中学校保健の模擬授業 4
 内容・方法：中学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第8回】
 テーマ：中学校保健の模擬授業 5
 内容・方法：中学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第9回】
 テーマ：中学校保健の模擬授業 6
 内容・方法：中学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第10回】
 テーマ：高等学校保健の模擬授業 1
 内容・方法：高等学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第11回】
 テーマ：高等学校保健の模擬授業 2
 内容・方法：高等学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第12回】
 テーマ：高等学校保健の模擬授業 3
 内容・方法：高等学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第13回】
 テーマ：高等学校保健の模擬授業 4
 内容・方法：高等学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第14回】
 テーマ：高等学校保健の模擬授業 5
 内容・方法：高等学校保健の模擬授業を実践し、議論する。
- 【第15回】
 テーマ：高等学校保健の模擬授業 6
 内容・方法：高等学校保健の模擬授業を実践し、議論する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：シラバスの確認&教育現場の課題について調べる。

- ②事後学修課題：授業内容の復習
【第2回】
①事前学修課題：教育現場におけるいじめについて調べ、発表資料を作成し、発表練習をする。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第3回】
①事前学修課題：不登校、引きこもりについて調べ、発表資料を作成し、発表練習をする。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第4回】
①事前学修課題：中学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第5回】
①事前学修課題：中学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第6回】
①事前学修課題：中学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第7回】
①事前学修課題：中学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第8回】
①事前学修課題：中学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第9回】
①事前学修課題：中学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第10回】
①事前学修課題：高等学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第11回】
①事前学修課題：高等学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第12回】
①事前学修課題：高等学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第13回】
①事前学修課題：高等学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第14回】
①事前学修課題：高等学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習
【第15回】
①事前学修課題：高等学校保健の指定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業準備を整える。
②事後学修課題：授業内容の復習

課題に対するフィードバックの方法

授業並びにGoogle Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる(学科規程より)。なお、遅刻2回で1回の欠席とする。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において「2」以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	・授業への参加態度並びに発表(内容, 仕方, 資料等)。	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	定期試験に代わるレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	適宜, 授業内で紹介する。
-----	---------------

履修条件・他の科目との関連	履修条件は以下のとおりである。
---------------	-----------------

履修条件・他の科目との関連

- ・真面目かつ主体的に授業に臨める者.
 - ・向上心を抱き, ひたむきに教員免許状取得を目指せる者.
- なお, 教育実習に参加するためには本科目の単位修得が必須である(学科規程).

授業コード	15003201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育方法・技術論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤本 光司				
シラバス執筆(主)	藤本 光司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「教育の方法及び技術」の授業は、取得する教員免許の種類にかかわらず全員が学ぶべき教職の必修科目です。科目名のとおり教育の方法 (method) や技術 (technic) を扱う。指定した教科書を活用して授業を進めるが、グループ演習などで使用する演習ノートは、随時、授業で配布する。課題提出や予習・復習内容は、この大学のLMS (学習支援システム) である「GoogleClassroom」を活用して提示する。対面授業においては、講義だけでなく共に学ぶ仲間と一緒にディスカッションしたり、学生自らが作成した教材の発表の場を設ける。また、本教科は、教育におけるICTの活用能力の育成も含まれているため、教材作成 (遠隔教材作成も含む) や学習指導案 (簡易) を作成する過程で教職の業務を広く理解してほしい。

到達目標

1. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識を身に付ける。
2. 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方、並びに児童及び生徒に情報活用能力 (情報モラルを含) を育成するための指導法に関する基礎的な知識を身に付ける。
3. 教科等の教材作成に向けてICT活用能力の基礎的な技能を身につける。
4. 授業設計や教材提示の基本的な技能や表現力を身に付ける。
5. 教育方法・技術に関する教授学習理論の基礎的知識を理解している。さらに総合的にこの学びを振り返り、教職について深く文章表現できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス (授業内容・課題・成績評価)、チーム学校の一員として重要な教員の資質と能力
- 第2回：教育方法の基礎的理論と実践の理解 (構成主義・行動主義、承認欲求など)
- 第3回：子どもの主体性と情意面の育成 (自己肯定感、自尊感情、自己効力感)
- 第4回：授業を運営する教室環境、教材や学習指導案を作成するための基礎理論
- 第5回：学習評価 (教育評価の基本的な考え方、ブルームの評価段階、絶対・相対評価など)
- 第6回：授業設計 (レディネス分析、ID理論)、授業展開 (板書・話法、教育メディアの活用)
- 第7回：情報通信技術の活用の意義と在り方 (特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用に応じた留意点を含む) の理解
- 第8回：ICT支援員などの外部との連携や学校におけるICT環境の整備の在り方
- 第9回：情報活用能力を育成するための資質・能力、学習場面に応じたICT活用の指導事例と実践デジタル教材の作成の理解及び基礎的な指導法
- 第10回：教育データ (学習履歴など) の活用ならびにICTを活用した学習評価の方法や個人情報の取り扱いや教育情報セキュリティの重要性の理解
- 第11回：遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用例と活用方法
- 第12回：統合型校務支援システムの活用とICTを効果的に活用した校務推進の理解
- 第13回：教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における横断的な情報活用能力の育成及び情報モラルの授業設計と授業実践
- 第14回：最新の情報機器 (VRやARなど) の理解、STEAM教育の教科横断的な学びとは
- 第15回：まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：オンラインシステムにて、関連する資料やURLを送信するので熟読する。
それらの関心を広げ、質問事項も整理しておくこと。

事後学習：授業後の課題は、オンラインシステムにも掲示するので期限内に提出すること。
講義内容で関心があることは、主体的に調べ学びを深めて欲しい。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインシステムに提出されたレポートなどを添削・点検・採点して、次の授業までにメッセージを添えて返信する。
各回10点満点で採点。(記述分量:3点、誤字脱字:3点、内容表現:4点)

成績評価の方法・基準(方針)

- ・試験は、基本的に第16回目に対面で実施する。
- ・平常点は、課題レポートの評価や授業中の演習での情意面 (取り組み姿勢など) とする。
- ・毎時のレポート課題は、①記述分量、②誤字脱字、③内容表現より採点して蓄積する。
- ・対面授業では、主体的で対話的な深い学びを担保とするため、授業内での発表のパフォーマンス度も評価する。
- ・グループ演習などの取り組み姿勢の評価するため、出席状況 (欠席・遅刻・無断早退など) も評価に関連す

る。

評価基準について

[最低限の到達度]

文章を読み取って理解する能力とともに、テキストや配布資料の解説を通して情報と社会に関する知識と思考力、判断力と表現力を身につけることができている。アクティブラーニングの側面では、一定の討議に参加している。また、授業を概ね理解して課題レポートを書くことができる。(60-69点)

[望ましい到達度]

文章を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストや配布資料の解説を通して情報と社会に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を深め、研究上で活用を可能とする水準まで身につけることができている。アクティブラーニングの側面では、自分の考えを整理して的確に発表することができる。また、授業内容を深く理解した上で、自分の考えを含めたレポートを書くことができる。(80-100点)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	パワーポイント等を活用した発表(10) リフレクション(10) ワークシートの記述(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	復習課題としてのレポート作成(20) レポート作成におけるICT活用技能(10)	1, 2, 3, 4
定期試験	40	対面での筆記試験(25)と記述レポート(15)	5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	林徳治、藤本光司、他、『アクティブラーニングに導く 教学改善のすすめ』、2020、ぎょうせい ISBN978-4-324-10806-2
参考書	稲垣忠／佐藤和紀 編著、『ICT活用の理論と実践 DX時代の教師を目指して』、北大路書房、2021
履修条件・他の科目との関連	履修条件: 教職免許の取得を希望している。 他科目との関連: 教科・教職に関する教職科目に深く関連している。

授業コード	13025801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人体の機能と構造 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	石指 宏通				
シラバス執筆(主)	石指 宏通				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康づくりのための運動処方や、スポーツ技能向上のための指導やトレーニングなどを行うために必要となる人体各部の構造や機能に関する解剖生理学的基礎知識を身につける。加えて、加齢にともなう世代ごとの人体の構造や機能の特性についても理解することを目的とする。この講義では、骨格・筋・神経・感覚器系に関する人体の機能と構造について講義形式で学習する。

到達目標

1. 骨格・筋・神経・感覚器系に関する人体の機能と構造について、仲間に口頭で説明できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション：この授業の位置づけ、授業の概要、および成績評価について解説する。
- 【第2回】細胞と組織：細胞・組織・器官・個体の関連性について解説する。
- 【第3回】骨格系①：骨の成分・構造や、骨の成長と老化について解説する。
- 【第4回】骨格系②：頭蓋骨や脊柱を構成する骨名や構造について解説する。
- 【第5回】骨格系③：胸郭、上肢、下肢を構成する骨名や構造について解説する。
- 【第6回】関節の構造と働き：全身（脊柱・胸郭・上肢・下肢）の関節名やそれを構成する骨名について解説する。
- 【第7回】筋系①：骨格筋の構造と働き、および筋収縮の仕組みについて解説する。
- 【第8回】筋系②（脊柱・胸郭1）：頸部や体幹部の筋名、付着点、およびその働きについて解説する。
- 【第9回】筋系③（脊柱・胸郭2）：肩甲骨を安定させる筋や肩関節を動かす筋の名称、付着点、およびその働きを解説する。
- 【第10回】筋系④（上肢）：上肢筋の筋名、付着点や、その働きについて解説する。
- 【第11回】筋系⑤（下肢）：下肢筋の筋名、付着点や、その働きについて解説する。
- 【第12回】神経系①：神経の仕組みと働き、および中枢神経について解説する。
- 【第13回】神経系②：体性神経と自律神経の仕組みと働き、および神経伝達機序について解説する。加えて、上肢と下肢の神経・血管についても解説する。
- 【第14回】感覚器：視覚・聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚について解説する。
- 【第15回】まとめ：骨格系・筋系・神経系・感覚器の相互関連について解説する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 [各1.5時間]

- 【第1回】「人体の機能と構造」の学習が自己のスポーツ実践や指導者としてスポーツ指導する際にどのように役立つのか考える。
- 【第2回】個体を形成する器官系について調べ、各器官系に属す器官名を調べてみる。
- 【第3回】骨の成分・構造について調べてみる。
- 【第4回】頭蓋骨や脊柱を構成する骨名を調べてみる。
- 【第5回】胸郭、上肢や、下肢を構成する骨名を調べてみる。
- 【第6回】全身の関節名およびそれを構成する骨名を調べてみる。
- 【第7回】筋肉がどのように収縮するのか、中枢から運動神経終末までの伝達、神経筋終末での伝達、および筋収縮のメカニズムを調べてみる。
- 【第8回】頸部や体幹部を構成する筋名を調べてみる。
- 【第9回】肩甲骨を安定させる筋や肩関節を動かす筋名を調べてみる。
- 【第10回】上肢に存在する筋名を調べてみる。
- 【第11回】下肢に存在する筋名を調べてみる。
- 【第12回】中枢神経がどのような働きをしているのか調べてみる。
- 【第13回】体性神経と自律神経の仕組みと働きを調べてみる。
- 【第14回】五感とは何か、また、その受容器の分布場所を調べてみる。
- 【第15回】骨格系・筋系・神経系・感覚器がどのように相互関連しているのか考えてみる。

事後学習 [各2.5時間]

- 【第1回】「人体の機能と構造」の学習が今後スポーツ行動学科の他の科目とどのように関連するのか具体的に考えてみる。
- 【第2回】各器官系とその役割をまとめてみる。
- 【第3回】骨の成分・構造や骨の成長と老化についてまとめてみる。
- 【第4回】頭蓋骨や脊柱を構成する骨名を漢字で書けるようにし、その位置関係を自分の体で説明してみる。
- 【第5回】胸郭、上肢や、下肢を構成する骨名を漢字で書けるようにし、その位置関係を自分の体で説明してみる。
- 【第6回】全身の関節名およびそれを構成する骨名を漢字で書けるようにし、自分の体でそれらを説明してみる。
- 【第7回】筋収縮のメカニズムを復習する。

- 【第8回】頸部や体幹部を構成する筋名を漢字で書けるようにし、その位置関係を自分の体で説明してみる。加えて、各筋肉はどのような運動に参画しているのか説明できるようにする。
- 【第9回】肩甲骨を安定させる筋や肩関節を動かす筋名を漢字で書けるようにし、その位置関係を自分の体で説明してみる。さらに、各筋肉はどのような運動に参画しているのか説明できるようにする。
- 【第10回】上肢の筋名を漢字で書けるようにし、その位置関係を自分の体で説明してみる。さらに、各筋肉はどのような運動に参画しているのか説明できるようにする。
- 【第11回】下肢の筋名を漢字で書けるようにし、その位置関係を自分の体で説明してみる。さらに、それぞれの筋肉はどのような運動に参画しているのか説明できるようにする。
- 【第12回】運動・スポーツ場面で中枢神経がどのように働いているのか自分が実践するスポーツ場面で説明する。
- 【第13回】体性神経（脳神経と脊髄神経）と自律神経（交感神経と副交感神経）の働きをまとめてみる。
- 【第14回】視覚・聴覚・平衡覚がスポーツ場面でどのような役割をしているのか自分が実践するスポーツ場面で説明してみる。
- 【第15回】骨格系・筋系・神経系・感覚器がどのように相互関連しているのか自分が実践するスポーツ場面で説明してみる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内課題を実施し、次の授業時に解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内で課す小テストと定期試験の総合評価により、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。ただし、正当な理由なく、授業回数の1/3以上欠席した場合は「k」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内課題	1
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	目でみるからだのメカニズム, 堺章, 医学書院, 商品コード:9784260027762 ¥3,000+税
参考書	授業内で必要に応じて、適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は、スポーツ行動学科における健康・スポーツ分野に必要な基礎的知識を学習するものである。他の授業の基盤となるので、しっかりと受講してほしい。

授業コード	13025901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人体の機能と構造Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤高 紘平				
シラバス執筆(主)	藤高 紘平				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康づくりのための運動処方や、スポーツ技能向上のための指導やトレーニングを行うために必要となる人体各部の構造や機能に関する解剖生理学的基礎知識を身につける。加えて、加齢にともなう世代ごとの人体の構造や機能の特性についても理解することを目的とする。この講義では、循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器系に関する人体の機能と構造について学習し、器官および器官系がどのように協調しながら個体としての人間を形成しているのかについて理解することを目的とする。

到達目標

1. 循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器系に関する人体の機能と構造について、各機能および構造がどのように協調し形成しているのかを理解する。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション・循環器系①：この授業の位置づけ、講義の進め方、および循環器系の仕組みについて解説する。
- 【第2回】循環器系②：心臓の構造と働きについて解説する。
- 【第3回】循環器系③：心臓の働きを調節する仕組みについて解説する。
- 【第4回】循環器系④：血管の種類と分布について解説する。
- 【第5回】循環器系⑤：血管の血液配分と血流調節について解説する。
- 【第6回】呼吸器系①：呼吸器系を構成する器官、肺の構造と仕組み、および呼吸運動と調節のメカニズムについて解説する。
- 【第7回】呼吸器系②：ガス交換の仕組みについて解説する。
- 【第8回】消化器系①：消化器を構成する器官、口腔・咽頭・食道・胃の構造と働きについて解説する。
- 【第9回】消化器系②：胃・小腸での消化と消化液分泌について解説する。
- 【第10回】消化器系③：肝臓・胆道の構造と働きについて解説する。
- 【第11回】消化器系④：すい臓と大腸の構造と働きについて解説する。
- 【第12回】消化器系⑤：三大栄養素の消化について解説する。
- 【第13回】泌尿器系①：泌尿器系（腎臓・尿管・膀胱・尿道）の仕組みと働きについて解説する。
- 【第14回】生殖器系：女性生殖器の構造と働きや性周期について解説する。
- 【第15回】まとめ：循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系の相互関連について解説する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習 [各1.5時間]

- 【第1回】循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器系の機能と構造の学習が、スポーツ実践や指導にどのように役立つのか考えてみる。
- 【第2回】心臓の構造と働きおよび刺激伝導系について調べてみる。
- 【第3回】安静時および運動時の心拍数がどの範囲変化するのかについて運動・スポーツ場面別に調べてみる。
- 【第4回】動脈・静脈の分布状況およびその主要な血管名を調べてみる。
- 【第5回】安静時の血液配分について調べてみる。
- 【第6回】外呼吸にかかわる器官および肺胞の構造を調べてみる。
- 【第7回】肺胞でのガス交換を促す拡散・分圧について調べてみる。
- 【第8回】消化器系を構成する器官名とその位置を調べてみる。
- 【第9回】口から小腸までの消化管で分泌される消化液を調べてみる。
- 【第10回】肝臓・胆のう・膵臓の働きを調べてみる。
- 【第11回】膵液とインスリンの働きを調べてみる。
- 【第12回】消化液の分泌と水分の関係（水分出納）を調べてみる。
- 【第13回】尿生成の仕組みを調べてみる。
- 【第14回】女性器（卵巣・卵管・子宮）の構造と働きを調べてみる。
- 【第15回】これまでに学んだ循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系の相互関連を考えてみる。

事後学習 [各2.5時間]

- 【第1回】肺循環と体循環を区分させながら血液の流れをまとめてみる。
- 【第2回】心臓の拍動メカニズムを刺激伝導系と心電図記録を対応させて理解する。
- 【第3回】心臓の働きを調節する圧受容器・化学受容器・循環中枢・副交感神経・交感神経・交感神経～副腎系などのネットワークの巧妙さを理解する。
- 【第4回】血管の種類と分布および血圧の高低を決定する要因を理解する。
- 【第5回】安静と運動時の脳・心臓・肝臓と消化管・腎臓・骨格筋への血液配分はどのように変化するのか理解する。
- 【第6回】吸気のしくみや呼気の仕組みを内・外肋間筋、横隔膜、胸腔や、胸腔内圧の働きから説明してみる。
- 【第7回】肺胞と毛細血管でのガス交換（拡散）の仕組みを肺動脈内の静脈血と肺胞気間に観察される酸素と二酸

化炭素分圧差から説明してみる。

【第8回】唾液分泌と食塊を胃に送る仕組みおよび胃の働きをまとめてみる。

【第9回】口から小腸までの消化管で分泌される消化液で炭水化物、タンパク質や、脂肪がどのように消化されるのかまとめてみる。

【第10回】肝臓での胆汁生成、栄養素の貯蔵と加工、解毒作用、生体防御作用、血液凝固作用物質の産生や、造血をまとめてみる。

【第11回】消化されたけブドウ糖が肝臓と筋肉にどのように取り込まれて保存され、必要に応じてどのように取り出されるのか理解する。

【第12回】大腸での水分吸収と糞便形成過程および三大栄養素の消化過程をまとめて理解する。

【第13回】腎臓が尿生成と生体の恒常性維持に果たす役割を理解する。

【第14回】卵巣（成熟卵胞形成・排卵・黄体形成）、子宮内膜、血中女性ホルモンや、基礎体温におけるそれぞれの性周期およびそれらの相互関連を理解する。

【第15回】この授業で学んだ循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系に関する知識を今後のスポーツ実践や指導に役立たせるためには、今後、どのようなことを学習するべきか考えてみる。

課題に対するフィードバックの方法

授業開始前や授業後に適宜、フィードバックを行う。

Google ClassroomやGmailにて質問を受け付けフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内態度（取り組む姿勢、聴講の態度、発言内容など）にて成績評価を行い、定期試験およびレポートにて成績評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	本授業における取り組む姿勢、聴講の態度、発言内容を評価する。	1
授業外での評価	30	本授業内容やグループワークからレポート課題を実施する。	1
定期試験	30	本授業の内容から定期試験を作成し実施する。	1
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 適宜授業内にプリントを配布する。
------	---------------------------------

参考書	授業内で必要に応じて適宜紹介する。
-----	-------------------

履修条件・他の科目との関連	大阪国際大学履修の手引き2024および学科オリエンテーションで定められている事項は厳守すること。 授業内の悪行、レポートやテストにおける不正行為に対しては厳正に対処する。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13900201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ生理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

身体活動時における呼吸器系・循環器系・神経系・骨格筋系・内分泌系・免疫系・体温調節系などの変化やそれらの系の相互連関調節について理解し、スポーツ活動時に生じる生理的適応や安全対策を考究できる応用的能力を身につける。

到達目標

1. スポーツ生理学の基本的な概念を説明できる。
2. 運動やスポーツなどの身体活動にともなう呼吸器系・循環器系・神経系・骨格筋系・内分泌系・免疫系・体温調節系などで生じる生理的な変化や適応の基本的知識について説明できる。
3. 各回の授業内容を理解し、応用できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション・エネルギー供給系と運動①
 内容：授業の概略と授業の進め方や事前・事後課題、授業内試験の取り組み方、到達目標と成績評価等について説明する。また、筋運動を発現させるエネルギーについて解説する。
- 【第2回】
 テーマ：エネルギー供給系と運動②
 内容：筋運動を発現させるエネルギー供給機構について解説する。
- 【第3回】
 テーマ：呼吸循環系と運動①
 内容：呼吸器の構造、運動時の換気亢進や持久性トレーニングが呼吸機能に及ぼす影響について解説する。
- 【第4回】
 テーマ：呼吸循環系と運動②
 内容：循環器の構造、運動時の各種循環指標やそれらの調節について解説する。
- 【第5回】
 テーマ：呼吸循環系と運動③
 内容：運動トレーニングによる心機能・血管機能の変化や運動に対する呼吸循環機能の指標について解説する。
- 【第6回】
 テーマ：骨格筋系と運動①
 内容：骨格筋の働き、骨格筋の形状や神経・筋機能について解説する。
- 【第7回】
 テーマ：骨格筋系と運動②
 内容：骨格筋の力学的特性、運動トレーニングに対する骨格筋の適応について解説する。
- 【第8回】
 テーマ：神経系と運動①
 内容：神経系の構造、脳の運動中枢、運動経路や運動の発現と制御について解説する。
- 【第9回】
 テーマ：神経系と運動②
 内容：運動の発現と制御、脳神経の発育、および加齢変化について解説する。
- 【第10回】
 テーマ：内分泌系と運動
 内容：ホルモンの種類、作用やその機序、および運動とホルモンの関連性について解説する。
- 【第11回】
 テーマ：免疫と運動
 内容：免疫系の概要、体力と感染リスクの関連や、運動が免疫能に及ぼす影響について解説する。
- 【第12回】
 テーマ：環境と運動①
 内容：体温調節の基礎、運動時の体温調節を変化させる要因や高温下での運動について解説する。
- 【第13回】
 テーマ：環境と運動②
 内容：熱中症と水分補給、暑熱順化と運動トレーニングや寒冷順化と運動について解説する。
- 【第14回】
 テーマ：環境と運動③
 内容：低酸素環境が身体機能や運動パフォーマンスに与える影響、および水中環境と運動について解説する。
- 【第15回】
 テーマ：実践のまとめと復習
 内容：これまでに学んだ実践内容を整理して確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学修課題（2時間以上）：前回の講義終了時に与えられた予習課題について調べてくる。
事後学修課題（2時間以上）：授業動画資料を確認するとともに、授業の最後に行う「確認テスト」の修正・間違い直しを行う。

課題に対するフィードバックの方法

「予習課題」は授業の中でフィードバックする。
「授業確認テスト」のスコア通知（採点結果・正誤内容・解答）は、ClassroomおよびOIUメールを介してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由のない欠席が5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への参加状況を授業時に取り組む「空欄補充課題」等から評価する。 ※授業中の積極的な発言等、授業へ参加する姿勢(意欲)からも評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	20	各回の授業開始までに提出が求められる「予習課題」、および授業後半に実施する「授業確認テスト」の課題提出状況や確認テストの結果から評価する。 ※予習課題は、授業終了後に翌週の授業内容をテーマに出題し、Googleフォームを介して次の授業開始時までに提出を求める。 ※確認テストは、Googleフォームを介して授業時間内に実施する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	第15回授業時に最終確認試験を実施する。 ただし、最終試験の得点が100点満点のうち40点未満の場合は、評価「1」、最終試験を受験しなかった場合は評価「K」とする。 なお、再試験は実施しない。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストは特になし。必要があれば授業の中で紹介する。

参考書 運動生理学概論, 浅野勝己, 杏林書院
1から学ぶスポーツ生理学【第3版】, 中里浩一, 岡本孝信他, (有)ナッブ
健康運動指導士養成講習会テキスト, 健康・体力づくり事業財団, 南江堂

履修条件・他の科目との関連

- ・健康運動指導士、JATI認定トレーニング指導者、NSCA認定ストレングス&コンディショニングスペシャリストの資格取得を目指す人は履修してください。
- ・初回授業までにClassroomに参加登録すること。
- ・座席指定のため、指定された座席に必ず着席すること。
- ・正当な理由のない欠席5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。
- ・授業開始時刻以降にUNIPAに出席登録した場合は「遅刻」と評価する（原則、1分でも遅れたら遅刻とする）。
- ・確認テストおよび最終確認テストにおいて不正行為を行った場合はK評価（評価不能）とする。

<持ち物>

- ・筆記用具、ノートもしくはルーズリーフ
- ・PC等（タブレットは可、スマートフォンは不可）、Googleフォームの使用可能な機器

<その他>

- ★この授業は、対面授業となります。
- ★授業に関する連絡や課題案内はすべてClassroomに提示します。

授業コード	13006701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ体力学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、体力の概念を捉えるとともにトレーニングによる体力変化や異なるライフステージ、性、スポーツ種目において求められる体力について学び、安全かつ効果的にスポーツを指導する上で必要な基礎知識および応用的能力を身につける。

到達目標

1. 体力の構成要素を説明できる。
2. トレーニングによる体力変化を説明できる。
3. 異なるライフステージや性、スポーツ種目に求められる体力を説明できる。
4. 各回の授業内容を理解し、応用できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：体力の概念

内容：体力の概念を捉えるとともにトレーニングによる体力変化や異なるライフステージ、性、スポーツ種目において求められる体力について学ぶ。

【第2回】

テーマ：体力の分類と構成要素

内容：体力の分類と構成要素を理解し、低下や向上が日常生活に及ぼす影響について学ぶ。

【第3回】

テーマ：運動条件と反応・運動強度、エネルギー供給

内容：健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則、及び運動生理学との関係性について学ぶ。

【第4回】

テーマ：筋力・筋量増強をねらいとした運動条件とその効果

内容：筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果を理解する。

【第5回】

テーマ：筋パワーと筋持久力の向上をねらいとしたトレーニング

内容：筋パワーと筋持久力を高めるための運動条件とその効果について理解する。

【第6回】

テーマ：全身持久力の向上をねらいとしたトレーニング

内容：有酸素性運動と無酸素性運動の違いを理解し、至適運動強度や時間の違いによる効果の違いを知る。

【第7回】

テーマ：青少年期の成長・発達と運動

内容：青少年期の成長、発育の特徴について理解し、運動の必要性やトレーニング効果について学ぶ。

【第8回】

テーマ：女性の体力の特徴と運動

内容：女性の身体的特徴と体力・運動能力の特徴について理解し、運動の効果、指導上の留意点について学ぶ。

【第9回】

テーマ：高齢者の体力の特徴と運動

内容：加齢に伴う生理学的変化と運動効果について学習し、運動様式別の運動効果についてライフステージ別に理解する。

【第10回】

テーマ：障がい者の体力の特徴と運動

内容：障がい者の区分による運動能力の特徴について理解し、体力測定や指導時の留意点を学ぶ。

【第11回】

テーマ：体力測定・評価の必要性

内容：高齢者や有疾患者に向けた体力測定・評価の必要性について理解する。

【第12回】

テーマ：生活関連体力測定①（実技紹介）

内容：高齢者や有疾患者向けの生活関連体力測定を安全且つ正確に実施する上で必要なノウハウを身につける。

【第13回】

テーマ：生活関連体力測定②（実技紹介）

内容：高齢者や有疾患者向けの生活関連体力測定を安全且つ正確に実施する上で必要なノウハウを身につける。

【第14回】

テーマ：生活関連体力測定（データ処理・評価）

内容：生活関連体力測定で得られた結果のデータ処理および体力年齢算出の方法を習得する。

【第15回】

テーマ：実践のまとめと復習

内容：これまでに学んだ実践内容を整理して確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学修課題（2時間以上）：前回の講義終了時に与えられた予習課題について調べてくる。
事後学修課題（2時間以上）：授業動画資料を確認するとともに、授業の最後に行う「確認テスト」の修正・間違い直しを行う。

課題に対するフィードバックの方法

「予習課題」は授業の中でフィードバックする。
「授業確認テスト」のスコア通知（採点結果・正誤内容・解答）は、ClassroomおよびOIUメールを介してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由のない欠席が5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への参加状況を授業時に取り組む「空欄補充課題」等から評価する。 ※授業中の積極的な発言等、授業へ参加する姿勢(意欲)からも評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	各回の授業開始までに提出が求められる「予習課題」、および授業後半に実施する「授業確認テスト」の課題提出状況や確認テストの結果から評価する。 ※予習課題は、授業終了後に翌週の授業内容をテーマに出題し、Googleフォームを介して次の授業開始時まで提出を求める。 ※確認テストは、Googleフォームを介して授業時間内に実施する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	第15回授業時に最終確認試験を実施する。 ただし、最終試験の得点が100点満点のうち40点未満の場合は、評価「1」、最終試験を受験しなかった場合は評価「K」とする。 なお、再試験は実施しない。	4
その他	0		

テキスト 公認スポーツ指導者養成講習会用テキスト「リファレンスブック」: JSPO(日本スポーツ協会)出版

参考書 健康運動指導士養成講習会テキスト上・下巻
JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト理論編

履修条件・他の科目との関連

- ・健康運動指導士、JATI認定トレーニング指導者、中級パラスポーツ指導員、JSPO公認スポーツ指導者の資格取得を目指す人は履修してください。
- ・初回授業までにClassroomに参加登録すること。
- ・座席指定のため、指定された座席に必ず着席すること。
- ・正当な理由のない欠席5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。
- ・授業開始時刻以降にUNIPAに出席登録した場合は「遅刻」と評価する（原則、1分でも遅れたら遅刻とする）。
- ・確認テストおよび最終確認テストにおいて不正行為を行った場合はK評価（評価不能）とする。

<持ち物>

- ・筆記用具、ノートもしくはルーズリーフ
- ・PC等（タブレットは可、スマートフォンは不可）、Googleフォームの使用可能な機器

<その他>

- ★この授業は、対面授業となります。
- ★授業に関する連絡や課題案内はすべてClassroomに提示します。

授業コード	13004101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツバイオメカニクス I [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

運動・スポーツの指導は、自身の経験知による指導だけでなく、ヒトの身体の構造や機能に基づいた指導、客観的な指標（速度や角度などのデータ）を活用した指導も重要である。本授業では、下記の3点を学ぶことによって、「ヒトの動きがどうなっているのか？（運動の記述）」、「なぜ、そのような動きになるのか？（運動の原因の説明）」、「どのようにしたらうまくできるのか、よくなるのか？（運動の改善や最適化）」が説明できるようになることを目指す。

- 1) ヒトの骨、関節、筋の種類や構造、機能を学ぶ
- 2) ヒトの運動・スポーツにおける力学的な基礎知識を学ぶ。
- 3) 歩く、走る、跳ぶ、投げる、蹴る、泳ぐなどの基本的な運動の仕組みを学ぶ。

到達目標

- 1) ヒトの骨・関節・筋の種類、構造・機能について説明できる。
- 2) ヒトの運動・スポーツにおける力学の基礎知識を理解している。
- 3) 歩く、走る、跳ぶ、投げる、蹴る、泳ぐなどの基本的な身体運動のしくみを説明できる。

授業計画

【第1回】スポーツ・バイオメカニクス概論
スポーツ・バイオメカニクスの領域、基礎と応用、発展的アプローチ

【第2回】からだの構造と運動①
ヒトの骨・関節について解説する。

【第3回】からだの構造と運動②
筋の構造と機能について解説する。

【第4回】からだの構造と運動③
関節運動の種類について解説する。

【第5回】からだの構造と運動④
骨格筋の作用機序について解説する。

【第6回】からだの構造と運動⑤
骨格筋の作用機序について解説する。

【第7回】身体重心
姿勢の安定性と重心について解説する。

【第8回】運動の力学的法則①
並進・回転運動のキネマティクス・キネティクスについて解説する。

【第9回】運動の力学的法則②
運動量および力積について解説する。

【第10回】運動の力学的法則③
角運動量および角運動量の保存について解説する。

【第11回】運動の力学的法則④
力学的エネルギーと仕事について解説する。

【第12回】運動の力学的法則⑤
弾性エネルギーについて解説する。

【第13回】身体運動における基本動作のメカニズム①
歩・走動作のメカニズムについて解説する。

【第14回】身体運動における基本動作のメカニズム②
跳・投動作のメカニズムについて解説する。

【第15回】身体運動における基本動作のメカニズム③
蹴る・泳ぐ動作のメカニズムについて解説する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学修：スポーツパフォーマンスの発展とスポーツ科学の関わりについて、具体例を考える。
事後学修：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業前に確認テストまたは授業後にリフレクションシートの作成を実施する。その内容をもとに課題やポイントを解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
 - 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
- *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(30)、確認テスト(30)等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5), 取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3

テキスト	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 第4版 金子公宥 著 杏林書院 ISBN 9784764412118 ¥2,750-
------	----------------------------------------------------------------------------------

参考書	「目で見る動きの解剖学」 ロルフ・ヴィルヘッド著、大修館書店
-----	--------------------------------

履修条件・他の科目との関連	履修条件 授業態度が悪い場合は、退室を命ずることがあります。 他の科目との関連 「スポーツバイオメカニクスⅡ」と併せて受講することが望ましい。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13004201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツバイオメカニクスⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

身体運動・スポーツ種目における力学的仕組みを知るために、ヒトの骨・関節・筋などの生理・機能解剖学と、力学の基礎について学び、各種スポーツ種目の技術について学修する。さらに、スポーツパフォーマンスを分析・評価するための方法について理解を深める。

到達目標

1. スポーツ・バイオメカニクスの基礎知識を応用できる。
2. 各種スポーツ種目の技術について、スポーツ・バイオメカニクスの観点から説明できる。
3. スポーツパフォーマンスをスポーツ・バイオメカニクスの観点から分析・評価できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：スポーツ・バイオメカニクスとは？
 内容・方法：スポーツ科学における学問的意義
- 【第2回】
 テーマ：筋収縮とエネルギー供給系
 内容・方法：筋収縮による力の発生，エネルギー供給のメカニズム
- 【第3回】
 テーマ：からだの構造と運動
 内容・方法：筋・骨格系
- 【第4回】
 テーマ：運動と力学の法則①
 内容・方法：ニュートンの法則
- 【第5回】
 テーマ：運動と力学の法則②
 内容・方法：運動量と力積，力学的エネルギー
- 【第6回】
 テーマ：スポーツにおける基本動作のメカニズム①
 内容・方法：歩行動作のメカニズム，地面反力，力学的エネルギー
- 【第7回】
 テーマ：スポーツにおける基本動作のメカニズム②
 内容・方法：走動作のメカニズム，キック力と力学的エネルギー，関節トルクとパワー
- 【第8回】
 テーマ：スポーツにおける基本動作のメカニズム③
 内容・方法：走高跳のメカニズム，反動動作の効果，筋のバネ作用
- 【第9回】
 テーマ：スポーツにおける基本動作のメカニズム④
 内容・方法：走幅跳のメカニズム，助走速度と踏切技術
- 【第10回】
 テーマ：スポーツにおける基本動作のメカニズム⑤
 内容・方法：砲丸投・ハンマー投げ・槍投げのメカニズム
- 【第11回】
 テーマ：スポーツにおける基本動作のメカニズム⑥
 内容・方法：打つ動作のメカニズム，運動量保存の法則
- 【第12回】
 テーマ：スポーツにおける基本動作のメカニズム⑦
 内容・方法：蹴る・泳ぐ動作のメカニズム，効率と巧みさ
- 【第13回】
 テーマ：発育に伴う基本動作の習熟過程
 内容・方法：走る・立ち幅跳び・ボール投げ
- 【第14回】
 テーマ：スポーツ技術のバイオメカニクスの分析
 内容・方法：トップアスリートの技術、各種分析方法
- 【第15回】
 テーマ：スポーツ技術のバイオメカニクスの研究方法
 内容・方法：分析・研究方法，フィードバックについて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：筋・骨格系，運動の法則について事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第2回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第3回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第4回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第5回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第6回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第7回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第8回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第9回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第10回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第11回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第12回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第13回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第14回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと
 【第15回】
 ①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと
 ②事後学修課題：授業ノートをまとめ，確認テストを見直すこと

課題に対するフィードバックの方法

毎時，確認テストを実施していることから，授業の始めに回答・自己評価を元に，課題点についてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により，総合的に判定のうえ，60点以上を合格とし，所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく，5回以上の欠席は評価の対象とせず，「K」評価とする。
 - 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - 3) 最終レポート(タームペーパー)未提出者は，評価の対象とせず，「K」評価とする。
- *やむをえない事情がある場合には，事前の連絡・報告・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(30)，リフレクションノート(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	最終レポート(タームペーパー)	1, 2, 3
その他	15	授業に関する質問・発言(5)，取り組み姿勢(10)等	1, 2, 3

テキスト	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート，金子公宥・藤原敏行著，杏林書院，¥2,500+税，978-4-7644-1211-8 C3047
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連

1. 「スポーツバイオメカニクスⅠ」と併せて受講することが望ましい。
2. 授業スケジュールは「①前回テーマの復習・確認, ②本日のテーマ, ③確認テスト・自己評価」である。
3. レポートの未提出, 5回以上の欠席は評価対象外とする。

授業コード	13108901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ医学 [対面または遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	篠原 靖司、岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	篠原 靖司				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

生活習慣病（NCD）、特定健診・保健指導、介護予防について学修するとともに、運動による内科的障害や外科的損傷とその救急対応について理解を深める。
さらに、救急救護と外科的応急処置の基礎的知識を学修するだけでなく、心肺蘇生法、AED、RICE処置、テーピング等の取扱手法を身に付ける。

到達目標

- 生活習慣病（NCD）、特定健診・保健指導、介護予防について説明できる。
- 運動による内科的障害や外科的損傷に係る救急対応を説明できる。
- 救急救護と外科的応急処置の基礎的知識を、心肺蘇生法、AED、RICE処置、テーピングの場面に応用できる。

授業計画

第1回	生活習慣病（NCD）と特定健診・保健指導
第2回	介護予防と運動の重要性
第3回	健康診断と運動前のメディカルチェックの重要性
第4回	健診結果・安静時心電図の読み方（1）健常者の場合
第5回	健診結果・安静時心電図の読み方（2）心疾患等罹患患者等の場合
第6回	内科的障害とその予防（1）運動中の突然死、熱中症の病態と処置
第7回	内科的障害とその予防（2）貧血、オーバートレーニング
第8回	外科的損傷（頭部、頸部、上肢、体幹）とその予防 機能解剖、急性疾患、慢性疾患
第9回	外科的損傷（腰部、下肢）とその予防 機能解剖、急性疾患、慢性疾患
第10回	救急救護の基礎 心肺蘇生とAED
第11回	外科的応急処置の基礎 RICE処置とテーピング
第12回	救急救護の実際（1）心肺蘇生法
第13回	救急救護の実際（2）AEDの取扱い方
第14回	外科的応急処置の実際（1）RICE処置（実習）
第15回	外科的応急処置の実際（2）テーピングによる処置（実習）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
事前学修として関連する人体の機能と構造の部分を復習する、事後学修として課題を提出する、この両者を合わせて2時間を必要とします。
課題の内容は、講義に含まれていないので、講義内容を踏まえて自ら積極的に学修することが必要です。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題の評価については、希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

レポート課題の提出状況、その内容による総合評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート課題の内容	1, 2, 3
その他	90	レポート課題の提出状況、その内容	1, 2, 3

テキスト	なし
参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト(上・下). 財団法人健康・体力づくり事業財団

参考書	Reference Book. 公益財団法人日本スポーツ協会
履修条件・他の科目との関連	課題は自ら学ぶものであるため、積極的な学びを希望する者が履修してください。 本授業は健康運動実践指導者、健康運動指導士の養成も目的のひとつとしている。

授業コード	13109001	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	リコンディショニング [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義ではスポーツや運動・身体活動により発生する外傷・障害に対して、医療機関ならびにスポーツフィールドで実施されるリ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）について学ぶ。授業内では外傷・障害に対する基本的な知識を深めるとともに、これまで医療現場等でリ・コンディショニングに携わってきた実務家教員としての経験をもとに、科学的事実と臨床との乖離を明らかとしながら、理論と実践応用をより密接に関連付けながら授業を展開する。本講義の受講により、医療機関およびスポーツフィールドで活躍できる人材の育成を目指す。

到達目標

1. スポーツ外傷・障害に対するリ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）の重要性を理解できる。
2. 各スポーツ外傷・障害の病態生理など、基礎医学的知識が習得できる。
3. 各種の外傷・障害に対するリ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）の知識と技能を習得できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：リ・コンディショニング（アスレティック・リハビリテーション）とスポーツ指導者の関係
 内容・方法：リ・コンディショニングとアスレティックリハビリテーションの概要
- 【第2回】
 テーマ：リ・コンディショニングとは
 内容・方法：リハビリテーションおよびリ・コンディショニングという用語に関して
- 【第3回】
 テーマ：足関節疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：足関節捻挫の病態生理と競技復帰を目指したり・コンディショニング手法
- 【第4回】
 テーマ：膝関節疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：前十字靭帯損傷の病態生理と競技復帰を目指したり・コンディショニング手法
- 【第5回】
 テーマ：大腿部・下腿部疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：肉離れの評価とリ・コンディショニング
- 【第6回】
 テーマ：股関節疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：鼠径部痛症候群の評価とリ・コンディショニング
- 【第7回】
 テーマ：腰背部疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：腰部痛の分類と各種リ・コンディショニング
- 【第8回】
 テーマ：中間評価ならびに解説
 内容・方法：これまでの内容に関する小テスト
- 【第9回】
 テーマ：肩関節複合体の疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：投球障害に対するリ・コンディショニング
- 【第10回】
 テーマ：上肢疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：肩関節複合体以外の部位の慢性障害に対するリ・コンディショニング
- 【第11回】
 テーマ：内科的疾患に対するリ・コンディショニング
 内容・方法：生活習慣病に対するコンディショニング
- 【第12回】
 テーマ：競技別リ・コンディショニング 1
 内容・方法：受傷から復帰までのプログラム作成および発表
- 【第13回】
 テーマ：競技別リ・コンディショニング 2
 内容・方法：受傷から復帰までのプログラム作成および発表
- 【第14回】
 テーマ：疾患別リ・コンディショニング
 内容・方法：受傷から復帰までのプログラム作成および発表
- 【第15回】
 テーマ：スポーツ外傷・障害の予防
 内容・方法：スポーツ外傷・障害予防の考え方と安全管理

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 事前学修課題：興味のある外傷・障害について考えてくる
 事後学修課題：内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第2回】
 事前学修課題：リハビリテーションの種類と関連職種について調べ、まとめておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第3回】
 事前学修課題：足関節の機能解剖学について復習しておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第4回】
 事前学修課題：膝関節の機能解剖学について復習しておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第5回】
 事前学修課題：大腿部・下腿部の機能解剖学について復習しておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第6回】
 事前学修課題：股関節・骨盤周囲の機能解剖学について復習しておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第7回】
 事前学修課題：体幹部の機能解剖学について復習しておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第8回】
 事前学修課題：これまでの資料をまとめ直しておく
 事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめておく
- 【第9回】
 事前学修課題：肩関節複合体の機能解剖学について復習しておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第10回】
 事前学修課題：上肢の機能解剖学について復習しておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第11回】
 事前学修課題：生活習慣病の種類と病態について調べておく
 事後学修課題：講義内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第12回】
 事前学修課題：これまでの資料をまとめ直し、プレゼンテーション資料を作成する
 事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめ、次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第13回】
 事前学修課題：これまでの資料をまとめ直し、プレゼンテーション資料を作成する
 事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめ、次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第14回】
 事前学修課題：これまでの資料をまとめ直し、プレゼンテーション資料を作成する
 事後学修課題：理解困難であった箇所をまとめ、次回授業時に質問できるようにしておく
- 【第15回】
 事前学修課題：外傷・障害を予防する上で重要となる項目を自分なりにまとめておく
 事後学修課題：これまでの資料を全てまとめ直しておく

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した発表や課題に対しては、本人の希望があれば翌週以降に評価を開示することが可能であり、確認テストについては採点后、希望者に内容を返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・総授業回数に対して、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は「K評価」とする場合がある。
- ・正当な理由なく授業開始時刻より5分以上の遅刻、教員の許可なく途中退室した場合は減点対象とする。
- ・以下に示すとおり、授業期間中に実施されるレポート課題や確認テスト、および定期試験に代わるレポート等の評価結果に基づき総合的に判定する。
- ・総合判定で60点以上を対象に、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で課され課題に対して、内容を理解し、論理的に考察した上で、適切にまとめられているかを評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	30	複数回の課題レポートおよび確認テストにて評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	課された設問に対して、内容を適切かつ合理的に理解し、論理的に考察されているかを評価する。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	<p>テキストは使用しない。 適宜授業内にプリントを配布する。</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『Reference Book』公益財団法人日本スポーツ協会,4,840円(電子版3,520円) ・『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』公益財団法人健康・体力づくり事業財団,16,800円 ・『改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本』公益財団法人日本障がい者スポーツ協会,ぎょうせい,2,970円,ISBN-13:978-4324112502
履修条件・他の科目との関連	<p>講義主体であるが、内容の理解を深めるために一部実技的要素を実施する場合がある。 出席登録は自己責任とし、不正については厳正に対処する。 配慮すべき欠席や公欠については、大学で所定の手続きをした場合のみ認める。</p>

授業コード	13080001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツと栄養 [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

栄養に関する基礎的な知識を理解するとともに、実際のスポーツ現場において必要な栄養管理について理解し、実践する力を身につけることを目的とする。
自分自身の競技力やコンディションの向上を考えている人、スポーツ選手を栄養面からサポートしたいと考えている人、健康のための栄養・食事に関心を持っている人などを対象として、栄養学の基礎知識からスポーツ現場で必要とされる栄養管理の知識・技術について説明する。

到達目標

1. スポーツと栄養の関係について理解し説明できる。
2. 五大栄養素の働きについて説明できる。
3. スポーツ選手の特性に応じた栄養管理について説明できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
内容：「スポーツと栄養」の要点について理解する。
- 【第2回】炭水化物について
内容：炭水化物の特性について理解し、摂取する際のポイントについて学ぶ。
- 【第3回】脂質について
内容：脂質の特性について理解し、摂取する際のポイントについて学ぶ。
- 【第4回】たんぱく質について
内容：たんぱく質の特性について理解し、摂取する際のポイントについて学ぶ。
- 【第5回】ミネラルについて
内容：ミネラルの特性について理解し、摂取する際のポイントについて学ぶ。
- 【第6回】ビタミンについて
内容：ビタミンの特性について理解し、摂取する際のポイントについて学ぶ。
- 【第7回】エネルギー消費量について
内容：エネルギー消費の仕組みについて理解し、エネルギー消費量の測定方法について学ぶ。
- 【第8回】エネルギー補給についてⅠ
内容：エネルギー供給機構について学ぶ。
- 【第9回】エネルギー補給についてⅡ
内容：運動・スポーツ活動時のエネルギー補給方法について学ぶ。
- 【第10回】身体づくりについてⅠ
内容：筋肉づくりに関係する栄養素について理解し、摂取する際のポイントについて学ぶ。
- 【第11回】身体づくりについてⅡ
内容：骨づくりに関係する栄養素について理解し、摂取する際のポイントについて学ぶ。
- 【第12回】スポーツ選手の身体組成について
内容：スポーツ選手の身体組成の特徴とその測定方法について学ぶ。
- 【第13回】貧血予防のための栄養管理について
内容：スポーツ選手における貧血予防のための栄養管理について学ぶ。
- 【第14回】水分補給について
内容：水分の特性について理解し、補給する際のポイントについて学ぶ。
- 【第15回】まとめ
内容：授業内容を振り返り、「スポーツと栄養」の要点について理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学習：スポーツと栄養に関係について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。
事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。
- 【第2回】
事前学習：炭水化物について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。
事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。
- 【第3回】
事前学習：脂質について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。
事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

ましい。

【第4回】

事前学習：たんぱく質について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第5回】

事前学習：ミネラルについて、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第6回】

事前学習：ビタミンについて、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第7回】

事前学習：エネルギー消費量について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第8回】

事前学習：運動・スポーツ活動時におけるエネルギー代謝について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第9回】

事前学習：運動・スポーツ活動時のエネルギー補給法について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第10回】

事前学習：身体づくり（とくに筋肉）について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第11回】

事前学習：身体づくり（とくに骨）について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第12回】

事前学習：スポーツ選手の身体組成について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第13回】

事前学習：貧血予防のための栄養管理について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第14回】

事前学習：運動・スポーツ活動時の水分補給について、専門書等を活用して事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。

事後学習：授業内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、授業内容について実践することが望ましい。

【第15回】

事前学習：これまでの授業内容および自身の実践について振り返り、要点について確認しておくこと。

事後学習：授業内容を復習し、スポーツと栄養の関係について適切な説明ができるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

- ・復習テストは、授業時間中に解説を実施する。
- ・リフレクションペーパーについては、次の授業内で講評する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
- ・授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- ・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。（公共交通機関の遅延等の場合を除く）
- ・遅刻や授業進行の妨げとなるような受講態度は減点の対象となることがある。
- ・レポート未提出者は「K」評価とする。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	65	授業時の課題および復習テストにより評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	15	リフレクションペーパーについて評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポートについて評価する。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する予定。		
------	-----------------------------	--	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ協会 (JSPO) Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト他 ・体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学、田口素子・樋口満編著、市村出版、2,970 円(税込) ・アスリートのための栄養・食事ガイド、小林修平編著、第一出版、2,640 円(税込) 		
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	GFI・JATI・CSCS資格取得希望者は、本科目が資格対応科目となっている。		
---------------	-----------------------------------------	--	--

授業コード	13069101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ栄養指導 [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツ選手に栄養指導を行う際には、様々な栄養素や食品に関する知識が必要とされる。本科目では、トレーニングと食事摂取のタイミングやスポーツ選手の栄養・食事サポートを行う際に必要となる食品や料理の知識を高め、正しい減量方法や身体活動量、体組成測定等について理解を深めることを目的とする。また、スポーツと関わりの深いビタミン・ミネラルについて、体内での生理作用、必要量などに重点を置いて説明する。

到達目標

1. 栄養素の生理作用を理解し説明することができる。
2. 他者に対して食事アドバイスをを行うことができる。
3. 場面にあわせた食事摂取方法を理解し、説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 各栄養素が解糖系・TCA サイクルを通してどの様に代謝し、エネルギー産生に関わるかについて学ぶ。
- 【第2回】 運動継続時間とエネルギー源となる栄養素の関係について学ぶ。
- 【第3回】 生活習慣病の予防・改善に関わりの深い栄養素について理解を深め、体内での働きを学ぶ。
- 【第4回】 摂取した食品に含まれる栄養素の消化吸収時間について学ぶ。
- 【第5回】 スポーツシーン（試合やトレーニングなど）に適した食事摂取のタイミングについて学ぶ。
- 【第6回】 バランスの良い食事とはなにか、バランスが良いとはどのような状態を指すのかについて、ライフステージを踏まえて学ぶ。
- 【第7回】 スポーツ選手にとって食事がどのような役割を果たしているか、スポーツ選手として望ましい食事とは何かについて学ぶ。
- 【第8回】 栄養素の過不足がスポーツ選手の心身におよぼす影響について学ぶ。
- 【第9回】 栄養素の過不足を食事で改善するための方法について、ライフステージを踏まえて学ぶ。
- 【第10回】 自分自身の食事をチェックし、栄養素の過不足について評価を行う。
- 【第11回】 基礎代謝・運動消費を含めた、エネルギー消費量の測定方法と自分自身のエネルギー消費量について学ぶ。
- 【第12回】 健康運動指導者として身につけておく必要のある健康を損なわない適切な減量を行うための方法について学ぶ。
- 【第13回】 体組成および骨密度の測定方法について学ぶ。
- 【第14回】 日本人の健康上望ましいPFC 比を理解し、食事で摂取する3 大栄養素の構成割合について学ぶ。
- 【第15回】 食生活の判定方法を学び、自分自身の食生活の評価を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回のテーマに関する内容について、専門書や新聞記事等を活用し、事前に情報を取得することにより、授業の理解度を高められるように準備すること。
 事後学習：各回の授業終了後、講義内容を復習し、要点をまとめておくこと。可能であれば、講義内容を実践することが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ 復習テストは、授業時間中に解説を実施する。
- ・ リフレクションペーパーについては、次回の授業内で講評する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・ 正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
 - ・ 授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - ・ 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。（公共交通機関の遅延等の場合を除く）
 - ・ 遅刻や授業進行の妨げとなるような受講態度は減点の対象となることがある。
 - ・ レポート未提出者は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	65	授業時の課題および復習テストにより評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	15	リフレクションペーパーについて評価する。	1, 2, 3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポートについて評価する。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する予定。
------	-----------------------------

参考書	やさしいスチューデントトレーナーシリーズ5 新・スポーツ栄養学、メディカルフィットネス・協会監修、嵯峨野書院、2,600円(税別) 健康運動指導士養成講習会テキスト、健康・体づくり事業財団、南江堂
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	健康運動実践指導者・健康運動指導士資格取得希望者は、本科目が資格対応科目となっている。 スポーツと栄養・スポーツと栄養 I を受講していることが望ましい。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13068501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	運動処方基礎 [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人々の健康寿命の延伸や高齢社会対策、医療費の増大などの課題に対し、健康関連体力を向上させるための運動が担う役割は大きい。本講義では、運動処方の基本的な考え方と個々に応じた適切な運動プログラムの提供に関する一般的な原則について学ぶとともに、現場で指導する上で必要な知識および応用的能力を身につける。

到達目標

1. 健康の保持増進における運動の効果や役割について説明できる。
2. 運動処方に関する種々の原則について説明できる。
3. 運動処方の基本的な概念を説明できる。
4. 各回の授業内容を理解し、応用できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：健康の概念と制度
 内容：運動処方の基本的な考え方と個々に応じた適切な運動プログラムの提供に関する一般的な原則について学ぶ。
- 【第2回】
 テーマ：我が国の健康づくり施策と現状
 内容：我が国の健康づくり施策の変遷と現状、運動指導者が果たすべき役割などについて学ぶ。
- 【第3回】
 テーマ：生活習慣病概論と特定検診・保健指導
 内容：生活習慣病について知るとともに、我国で実施されている特定検診・保健指導の必要性について学ぶ。
- 【第4回】
 テーマ：運動プログラム作成の基本
 内容：運動プログラム作成の必要性について学ぶ。
- 【第5回】
 テーマ：運動プログラム作成の実践
 内容：運動プログラム作成の実践について学ぶとともに安全性への配慮について考える。
- 【第6回】
 テーマ：生活習慣病に対する運動療法プログラム作成の基本
 内容：生活習慣病予防に向けた運動の有効性について知るとともに、プログラム作成の基本について学ぶ。
- 【第7回】
 テーマ：過体重（肥満）・肥満症に向けた運動療法プログラム
 内容：過体重（肥満）・肥満症に向けた運動療法プログラム作成について学ぶ。
- 【第8回】
 テーマ：高血糖・糖尿病に向けた運動療法プログラム
 内容：高血糖・糖尿病に向けた運動療法プログラム作成について学ぶ。
- 【第9回】
 テーマ：高血圧症・脂質異常症患者に向けた運動療法プログラム
 内容：高血圧症・脂質異常症患者に向けた運動療法プログラム作成について学ぶ。
- 【第10回】
 テーマ：ロコモティブシンドローム・運動器退行性疾患者に向けた運動療法プログラム①
 内容：ロコモティブシンドローム・運動器退行性疾患者に向けた運動療法プログラム作成について学ぶ。
- 【第11回】
 テーマ：ロコモティブシンドローム・運動器退行性疾患者に向けた運動療法プログラム②
 内容：ロコモティブシンドローム・運動器退行性疾患者に向けた運動療法プログラム作成について学ぶ。
- 【第12回】
 テーマ：脳血管疾患患者に向けた運動療法プログラム
 内容：脳血管疾患患者に向けた運動療法プログラム作成について学ぶ。
- 【第13回】
 テーマ：認知症予防に向けた運動の活用
 内容：認知症予防に向けた運動の活用について学ぶ。
- 【第14回】
 テーマ：高齢者に向けた運動処方プログラムの紹介
 内容：実際の運動処方プログラム実施の様子を観て学ぶとともに、指導者としてどのような配慮が必要かを考える。
- 【第15回】
 テーマ：実践のまとめと復習
 内容：これまでに学んだ実践内容を整理して確認する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学修課題（2時間以上）：前回の講義終了時に出示された予習課題について調べてくる。
事後学修課題（2時間以上）：授業動画資料を確認するとともに、授業の最後に行う「確認テスト」の修正・間違い直しを行う。

課題に対するフィードバックの方法

「予習課題」は授業の中でフィードバックする。
「授業確認テスト」のスコア通知（採点結果・正誤内容・解答）は、ClassroomおよびOIUメールを介してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由のない欠席が5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への参加状況を授業時に取り組む「空欄補充課題」等から評価する。 ※授業中の積極的な発言等、授業へ参加する姿勢(意欲)からも評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	各回の授業開始までに提出が求められる「予習課題」、および授業後半に実施する「授業確認テスト」の課題提出状況や確認テストの結果から評価する。 ※予習課題は、授業終了後に翌週の授業内容をテーマに出題し、Googleフォームを介して次の授業開始時まで提出を求める。 ※確認テストは、Googleフォームを介して授業時間内に実施する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	第15回授業時に最終確認試験を実施する。 ただし、最終試験の得点が100点満点のうち40点未満の場合は、評価「1」、最終試験を受験しなかった場合は評価「K」とする。 なお、再試験は実施しない。	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 特になし。必要があれば授業の中で紹介する。

参考書 健康運動指導士養成講習会テキスト上・下巻
健康運動実践指導者養成用テキスト
中高年の疾病予防・改善のための運動プログラム/田中喜代次 牧田茂(編著)/NAP

履修条件・他の科目との関連

- ・健康運動指導士、JATI認定トレーニング指導者の資格取得を目指す人は履修してください。
- ・初回授業までにClassroomに参加登録すること。
- ・座席指定のため、指定された座席に必ず着席すること。
- ・正当な理由のない欠席5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。
- ・授業開始時刻以降にUNIPAに出席登録した場合は「遅刻」と評価する（原則、1分でも遅れたら遅刻とする）。
- ・確認テストおよび最終確認テストにおいて不正行為を行った場合はK評価（評価不能）とする。

<持ち物>

- ・筆記用具、ノートもしくはルーズリーフ
- ・PC等（タブレットは可、スマートフォンは不可）、Googleフォームの使用可能な機器

<その他>

- ★この授業は、対面授業となります。
- ★授業に関する連絡や課題案内はすべてClassroomに提示します。

授業コード	13069702	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	運動処方の実際 [対面または遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	篠原 靖司、津吉 哲士、新村 由恵				
シラバス執筆(主)	篠原 靖司				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

メタボリックシンドローム、それに関わる疾患、ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、運動に関係する疾患等について学修するとともに、それらの病因、危険因子、合併症等について理解を深める。また、運動負荷試験の目的やその手順、禁忌条件、中止条件について理解を深める。

到達目標

1. メタボリックシンドロームと、それに関わる疾患について説明できる。
2. ロコモティブシンドローム、運動器退行性疾患、運動に関係する疾患等の概要について説明できる。
3. 運動負荷試験の目的やその手順、禁忌条件、中止条件について説明できる。

授業計画

- 第1回 メタボリックシンドロームとは
 第2回 肥満・肥満症
 第3回 高血圧
 第4回 脂質異常症
 第5回 耐糖能異常・糖尿病
 第6回 虚血性心疾患とリハビリテーション
 第7回 ロコモティブシンドロームとADL
 第8回 運動器退行性疾患（変形性関節症・脊椎症、骨粗鬆症、運動器不安定症）
 第9回 呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息）
 第10回 がん（悪性新生物）と生活習慣
 第11回 軽度認知障害（MCI）と認知症
 第12回 服薬者の運動プログラムの作成上の注意
 第13回 運動負荷試験の実際（プロトコール、禁忌条件、運動の中止条件）
 第14回 運動負荷試験（トレッドミル）
 第15回 運動負荷試験（自転車エルゴメータ）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。事前学修として関連する人体の機能と構造の部分を復習する、事後学修として課題を提出する、この両者を合わせて2時間を必要とします。課題の内容は、講義に含まれていないので、講義内容を踏まえて自ら積極的に学修することが必要です。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、毎回の授業内にて実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、成績評価について以下のルールを設ける。

- ①全15回授業のうち欠席5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。
- ②各教員が担当する全5回の講義のうち欠席3回以上の場合は、K評価（評価不能）とする。
- ③本授業は、3名の教員が担当するオムニバス授業であるため、各教員による成績評価得点（100点満点）を集計し、算出された平均点（100点満点）をもとに総合的に評価する。
- ④3名の教員のうち、1名でも担当する授業において評価1やKがついた場合は単位は認定されない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業時の課題および授業への参加状況により評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	30	各回の授業に関する振り返り状況について評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート等の実施により評価する。	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	なし		
参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト 財団法人健康・体力づくり事業財団発行／南江堂		
履修条件・他の科目との関連	課題は自ら学ぶものであるので、積極的な学びを希望する者が履修してください。 本授業は健康運動指導士の養成も目的のひとつとしている。		

授業コード	13018002	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	衛生・公衆衛生学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 智明				
シラバス執筆(主)	佐藤 智明				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

衛生・公衆衛生は集団の健康を対象として、予防医学、健康教育の推進、生活の質の向上、環境改善などを展開する学問である。本科目では、保健体育の教員を目指す学生を対象として、社会の一員として必要な「みんなの健康をみんなで作る」ための、基礎知識について理解を深める。

到達目標

1. 感染症などの予防対策を考えることができる。
2. 自身の生活環境を変えることができる。
3. 社会の一員としての衛生活動を考えることができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：公衆衛生と健康
 内容：公衆衛生の概念と歴史
- 【第2回】
 テーマ：疫学とは
 内容：疫学の三要素と概念
- 【第3回】
 テーマ：感染症対策1
 内容：感染症の成り立ちと感染の3大因子
- 【第4回】
 テーマ：感染症対策2
 内容：感染症に関する法律と院内感染対策
- 【第5回】
 テーマ：学校保健
 内容：学校保健関連法規と学校保健の現状と動向
- 【第6回】
 テーマ：地域保健
 内容：地域保健対策の動向と健康日本21
- 【第7回】
 テーマ：母子保健
 内容：母子保健施策の概要と母子保健法
- 【第8回】
 テーマ：高齢者保健
 内容：高齢者の現状と介護保険によるサービス
- 【第9回】
 テーマ：社会保障と医療経済
 内容：社会保障制度と医療保障制度
- 【第10回】
 テーマ：障害者福祉
 内容：疾病・障害の概念と精神保健福祉
- 【第11回】
 テーマ：産業保健1
 内容：産業保健の総論と関連法規
- 【第12回】
 テーマ：産業保健2
 内容：職業性疾病と作業環境による障害
- 【第13回】
 テーマ：食品衛生・栄養
 内容：食品保健と食事摂取基準
- 【第14回】
 テーマ：環境保健
 内容：環境と適応及び環境基本法
- 【第15回】
 テーマ：国際保健
 内容：日本の経済協力と世界の保健問題

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回：

【事前】	講義シラバスを熟読し、講義構成を理解する。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第2回：		
【事前】	「疫学」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第3回：		
【事前】	「感染症対策」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第4回：		
【事前】	前回の「感染症対策」についての講義ノートとレポートを見直しておく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第5回：		
【事前】	「学校保健」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第6回：		
【事前】	「地域保健」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第7回：		
【事前】	「母子保健」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第8回：		
【事前】	「高齢者保健」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第9回：		
【事前】	「社会保障と医療経済」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第10回：		
【事前】	「障害者福祉」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第11回：		
【事前】	「産業保健」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第12回：		
【事前】	前回の「産業保健」についての講義ノートとレポートを見直しておく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第13回：		
【事前】	「食品衛生・栄養」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第14回：		
【事前】	「環境保健」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間
第15回：		
【事前】	「国際保健」についての書籍や情報ツールなどで基礎的知識を学んでおく事。	1.5時間
【事後】	講義ノートを整理しながら復習し、課題作成を実施する事。	2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

学んだ内容を講義中にレポートとして提出し、次回までに採点をし、復習を可能とする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、講義期間中に実施される通常課題の提出、期末試験（レポート）、その他受講態度を最低採点基準とし、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のない欠席5回以上（毎回の課題が未提出の場合、欠席扱いとなります）、またレポート課題や期末レポート試験を未提出の場合、評価の対象とせず、「I」若しくは「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	講義内で課されるレポート課題	1, 2
授業外での評価	30	授業外で課されるレポート課題	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	15回の講義終了後に課されるレポート課題	1, 2, 3
その他	5	問いへの回答などによる積極的な受講態度	1, 3

テキスト テキストを使用しない。

参考書 必要に応じて講義の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 この科目は教員免許状取得に必須な科目の為、教員免許状希望者のみ受講可とする。

授業コード	13018701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	学校保健 I [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	近藤 翼				
シラバス執筆(主)	近藤 翼				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、学校における保健教育の意義や役割を学び、現代社会における学校保健のあり方を学習することを目的に授業を展開します。また、この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施予定です。

到達目標

1. 学校保健の意義・役割について記述及び説明することができる。
2. 子どもの発育発達及び健康障害について説明することができる。
3. 学校における健康診断について実施する重要性を説明することができる。
4. 学校保健における安全管理について、危険な箇所や行動の判断及び説明することができる。

授業計画

本講義は遠隔オンデマンド方式となります。出席確認は課題レポートの提出にて行います。

- 【第1回】授業オリエンテーション
- 【第2回】学校保健とは何か
- 【第3回】学校保健の歴史
- 【第4回】学校保健の領域1-保健教育
- 【第5回】学校保健の領域2-保健管理
- 【第6回】学校保健の領域3-組織活動
- 【第7回】子どもの発育と発達
- 【第8回】子どもに多い病気と健康障害 1
- 【第9回】子どもに多い病気と健康障害 2
- 【第10回】健康診断
- 【第11回】感染症とその予防
- 【第12回】学校環境衛生
- 【第13回】学校保健計画・安全計画
- 【第14回】熱中症予防
- 【第15回】まとめ

※場合によって、内容を変更する可能性があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】授業オリエンテーション
事前：学校保健の意義について調べる
事後：調べた内容をレポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

- 【第2回】学校保健とは何か
事前：学校保健の役割について調べる
事後：授業の内容をレポートにまとめ、学校保健の課題について整理する

- 【第3回】学校保健の歴史
事前：学校保健の歴史について調べる
事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

- 【第4回】学校保健の領域1-保健教育
事前：学校保健の領域の保健教育について調べる
事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

- 【第5回】学校保健の領域2-保健管理
事前：学校保健の領域の保健管理について調べる
事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

- 【第6回】学校保健の領域3-組織活動
事前：学校保健の領域の組織活動について調べる
事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

- 【第7回】子どもの発育と発達
事前：子どもの発育と発達について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第8回】子どもに多い病気と健康障害 1

事前：子どもに多い病気の種類について調べる

事後：授業内で紹介した疾患についての詳細な内容（原因、症状、治療、予防等）をレポートにまとめ、整理する

【第9回】子どもに多い病気と健康障害 2

事前：生活習慣病について調べる

事後：授業内で紹介した生活習慣病についての詳細な内容（原因、症状、治療、予防等）をレポートにまとめ、整理する

【第10回】健康診断

事前：健康診断の目的と意義について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第11回】感染症とその予防

事前：学校における感染症の種類について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第12回】学校環境衛生

事前：学校環境衛生について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第13回】学校保健計画・安全計画

事前：学校保健計画・安全計画について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第14回】熱中症予防

事前：熱中症の予防・対策について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第15回】まとめ

事前：2～14回目の内容を復習する

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、期限までに提出すること

課題に対するフィードバックの方法

希望者には課題・レポートの評価を開示します。

成績評価の方法・基準(方針)

毎授業後に実施される課題・レポート提出、期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。
正当な理由なく毎授業後に実施される課題・レポートを5回以上未提出、または期末試験（レポート試験）が未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業毎に実施される課題・レポート(80%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業後に行うレポート(20%)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用しません。

参考書 新版 学校保健概論 松岡弘・渡邊正樹 編著(光生館)
ポケット 教育小六法, 教育フロンティア研究会 編(晃洋書房)

履修条件・他の科目との関連 この科目は教免必修科目です。
本授業の実施期間内に教育実習が重なる学生は事前に連絡をお願いします。

授業コード	13018801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	学校保健Ⅱ [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	近藤 翼				
シラバス執筆(主)	近藤 翼				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、保健体育教員として必要な「健康づくり」についての基礎的な知識を取得し、学校現場における児童及び生徒の健全な発育を促すための能力を身につけることを目的に授業を展開します。この授業は、オンデマンド型の遠隔授業となります。リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間に Zoom 等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施します。

到達目標

1. 児童生徒の発育と発達について記述及び説明することができる。
2. 思春期における精神の課題の予防策について説明することができる。
3. 健康を促すための学校生活について説明することができる。
4. 一次救命の手順及びAEDの使い方について説明することができる。

授業計画

本講義は遠隔オンデマンド方式となります。出席確認は課題レポートの提出にて行います。

- 【第1回】 授業オリエンテーション
- 【第2回】 発育と発達1-小児期の特徴
- 【第3回】 発育と発達2-児童期の特徴
- 【第4回】 発育と発達3-思春期の特徴
- 【第5回】 学校生活と健康-運動・食生活・睡眠 1
- 【第6回】 学校生活と健康-運動・食生活・睡眠 2
- 【第7回】 学校生活と健康-運動・食生活・睡眠 3
- 【第8回】 学校生活と健康-疾病予防・喫煙、飲酒、薬物
- 【第9回】 精神保健：思春期における心身の変化
- 【第10回】 学校給食における栄養管理と課題
- 【第11回】 学校安全と危機管理
- 【第12回】 AEDの使用法
- 【第13回】 障害児の健康
- 【第14回】 アレルギー
- 【第15回】 まとめ

※場合によって、内容を変更する可能性があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】 授業オリエンテーション
 事前：現代における学校保健の課題について調べる
 事後：調べた内容をレポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第2回】 発育と発達1-小児期の特徴
 事前：小児期の発育と発達について調べる
 事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第3回】 発育と発達2-児童期の特徴
 事前：児童期の発育と発達について調べる
 事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第4回】 発育と発達3-思春期の特徴
 事前：思春期の発育と発達について調べる
 事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第5回】 学校生活と健康-運動・食生活・睡眠 1
 事前：学校生活における食生活について調べる
 事後：授業の内容をレポートにまとめ、自身の生活習慣（食事）の改善点と問題点を整理する

【第6回】 学校生活と健康-運動・食生活・睡眠 2
 事前：学校生活における睡眠について調べる
 事後：授業の内容をレポートにまとめ、自身の生活習慣（睡眠）の改善点と問題点を整理する

【第7回】 学校生活と健康-運動・食生活・睡眠 3
 事前：学校生活における運動について調べる

事後：授業の内容をレポートにまとめ、自身の生活習慣（運動）の改善点と問題点を整理する

【第8回】学校生活と健康-疾病予防・喫煙、飲酒、薬物

事前：喫煙、飲酒、薬物の危険性について調べる

事後：授業の内容をレポートにまとめ、薬物の危険性を調べ整理する

【第9回】精神保健：思春期における心身の変化

事前：現代における心の健康課題について調べる

事後：授業の内容をレポートにまとめ、精神疾患の課題を抽出し、整理する

【第10回】学校給食における栄養管理と課題

事前：学校給食の役割について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第11回】学校安全と危機管理

事前：学校安全管理について調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第12回】AEDの使用方法

事前：「AED」の用語について調べる

事後：授業の内容をレポートにまとめ、一次救命とAEDの使い方を整理する

【第13回】障害児の健康

事前：通常学級と特別支援学級の違いについて調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第14回】アレルギー

事前：アレルギーの種類・内容に調べる

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、次回の授業開始までに提出すること

【第15回】まとめ

事前：2～14回目の内容を復習する

事後：授業後に課題を課すので、レポートにまとめ、期限までに提出すること

課題に対するフィードバックの方法

希望者には課題・レポートの評価を開示します。

成績評価の方法・基準(方針)

毎授業後に実施される課題・レポート提出、期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

正当な理由なく毎授業後に実施される課題・レポートを5回以上未提出、または期末試験（レポート試験）が未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業毎に実施される課題・レポート(80%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業後に行うレポート(20%)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用しません。

参考書 新版 学校保健概論 松岡弘・渡邊正樹 編著(光生館)
ポケット 教育小六法, 教育フロンティア研究会 編(晃洋書房)

履修条件・他の科目との関連 この科目は教免必修科目です。
本授業の実施期間内に教育実習が重なる学生は事前に連絡をお願いします。

授業コード	13003901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	スポーツの測定・評価 [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

適切なトレーニングプログラムや運動処方案の作成には、対象者の身体能力を正しく把握する測定技法、測定結果の処理、および評価に関する知識や技術が必要となる。この授業科目では、トレーニングプログラムや運動処方案の作成において活用場面の多い新体力テストを中心に、測定方法の理解、およびデータの収集、分析や、評価について理解することを目的として、その内容について解説する。データの分析には、ノートパソコンならびに電卓を使用する。

到達目標

1. 体力測定・評価の意義や活用方法について説明できる
2. 様々な現場で活用される「新体力テスト」の実施方法について注意点も含めて説明できる
3. 収集した測定値を適切に処理することができる
4. 収集した測定値を妥当な方法で評価することができる

授業計画

- 【第1回】体力測定・評価の意義および活用方法：体力測定やその評価を行う意義について、またその活用方法について解説する
- 【第2回】新体力テストの測定法（1）：成人を対象とする場合の新体力テストの測定方法や注意点について解説する
- 【第3回】新体力テストの測定法（2）：高齢者を対象とする場合の新体力テストの測定方法や注意点について解説する
- 【第4回】新体力テストの測定法（3）：子どもを対象とする場合の新体力テストの測定方法や注意点について解説する
- 【第5回】形態、身体組成の測定法：形態や、身体組成を測定する際のポイントや留意点などについて解説する
- 【第6回】測定値を処理する方法（1）：測定したデータを整理する方法（代表値・ばらつき）について解説する
- 【第7回】測定値を処理する方法（2）：測定したデータの特徴を推定する術（確率分布）について解説する
- 【第8回】測定値を処理する方法（3）：測定したデータの特徴を推定する術（不偏推定量と標本分布）について解説する
- 【第9回】測定値を処理する方法（4）：測定したデータの特徴を推定する術（信頼区間の推定）について解説する
- 【第10回】測定値を処理する方法（5）：測定したデータの特徴を推定する術（特徴的な確率分布）について解説する
- 【第11回】測定値を処理する方法（6）：測定したデータの特徴を推定する術（検定の基本）について解説する
- 【第12回】測定値を処理する方法（7）：測定したデータの特徴を推定する術（2群の平均の差の検定）について解説する
- 【第13回】測定値を処理する方法（8）：測定したデータの特徴を推定する術（分散分析）について解説する
- 【第14回】体力、および身体組成を実際に測定・評価してみる（実習）
- 【第15回】介護予防に関連した体力の測定・評価（実習）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習課題（各2時間）

- 【第1回】体力測定・評価を必要とする対象者の種類や、その意義について自らの経験を振り返りつつ考える
- 【第2回】成人（20-64歳）を対象とした新体力テストの項目やポイントについて調べる
- 【第3回】高齢者（65-79歳）を対象とした新体力テストの項目やポイントについて調べる
- 【第4回】子ども（6-11歳）を対象とした新体力テストの項目やポイントについて調べる
- 【第5回】形態や身体組成を測定する方法にはどのようなものがあるのか調べる
- 【第6回】ニュースや雑誌などで利用されている数値の表し方やその「ばらつき」について調べる
- 【第7回】確率分布とはどういうものか考えてみる
- 【第8回】推測する上で重要なこととは何か考えてみる
- 【第9回】信頼区間とはどういうものか考えてみる
- 【第10回】カイニ乗分布・F分布という言葉調べてみる
- 【第11回】多くの人が納得できるデータの評価に必要な条件について考えて見る
- 【第12回】2つの平均値を比較する状況について自らの経験を振り返りつつ考えてみる
- 【第13回】3つ以上の平均値を比較する状況について自らの経験を振り返りつつ考えてみる
- 【第14回】測定・評価を実際に行う上でどのような準備が必要になるか考えてみる
- 【第15回】測定を行う対象者が異なる場合、測定評価の留意点がどのように変化するか考えてみる

事後学習課題（各2時間）

- 【第1回】体力測定・評価を必要とする理由について口頭で説明できるように授業内容を復習する

- 【第2回】成人（20-64歳）を対象とした新体カテストの項目やポイントを口頭で説明できるようにする
- 【第3回】高齢者（65-79歳）を対象とした新体カテストの項目やポイントを口頭で説明できるようにする
- 【第4回】子ども（6-11歳）を対象とした新体カテストの項目やポイントを口頭で説明できるようにする
- 【第5回】形態・身体組成を測定する意義やポイントを口頭で説明できるようにする
- 【第6回】代表値の種類や特徴、およびデータのばらつきを表現する方法とその意義について口頭で説明できるようにする
- 【第7回】確率分布を利用する意義やその種類・特徴について口頭で説明できるようにする
- 【第8回】不偏推定量とはなにか、また母集団と標本について学んだことを口頭で説明できるようにする
- 【第9回】信頼区間の推定の前提となる標本と分布の特徴について口頭で説明できるようにする
- 【第10回】カイ二乗分布・F分布がどのようなものか口頭で説明できるようにする
- 【第11回】統計的検定の手順について口頭で説明できるようにする
- 【第12回】2つの平均値を比較する手順について口頭で説明できるようにする
- 【第13回】3つ以上の平均値を比較する手順について口頭で説明できるようにする
- 【第14回】測定・評価で気を付けるべき点について口頭で説明できるようにする
- 【第15回】異なる対象者の測定・評価で気を付けるべき点について口頭で説明できるようにする

課題に対するフィードバックの方法

授業内、あるいは補助資料などを用いて解説を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示すとおり、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
 正当な理由のない欠席が5回以上の場合は、評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内容の理解度を確認する課題(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	60	筆記試験(60)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト

参考書 JATIトレーニング指導者テキスト[実技編], 大修館書店, 3,080円(税込), ISBN 978-4-469-26711-2
 JATIトレーニング指導者テキスト[実践編]三訂版, 大修館書店, 3,080円(税込), ISBN 978-4-469-26948-2
 健康運動指導士養成講習会テキスト(上)(下), 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団
 心理・教育のための統計法<第3版>, サイエンス社, 2,805円(税込), ISBN 978-4-7819-1235-6

履修条件・他の科目との関連 欠席者は、当日の資料を翌週の授業までに、研究室まで取りに来ること。
 授業内でルート計算が可能な電卓、およびExcelを使用することがあるため、事前に準備すること。
 この授業は次の資格取得に必要な科目です。
 「中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許(保健体育)」「健康運動指導士資格」「健康運動実践指導者」「JATI-ATI資格」「公認スポーツ指導者資格」

授業コード	13109601	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	トレーナー演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツや教育の現場、また各種フィールドにおいて傷害発生を完全に予防することは困難である。よって、それらに備えた準備は必要不可欠である。本授業ではアスレティックトレーニングの中から、各種傷害に対する救急処置の必要性を理解し、確実に実践できるよう、講義および実技を交えて学習する。また、CPRおよびAEDの実践方法、緊急時の対応（EAP）などについても実務家教員の立場から説明する。

到達目標

1. トレーナー（アスレティックトレーナー）の職域について理解できる。
2. 健康教育に関する基礎知識を習得できる。
3. 体育・スポーツ活動中に生じる外傷に対する応急処置の重要性を理解できる。
4. 緊急時に備えたCPRやAED、その他状況に応じた応急処置の実践が出来る。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：アスレティック・トレーニング
内容・方法：いわゆる「トレーナー」とは、関連職種との連携など
- 【第2回】
テーマ：アスレティック(スポーツ)・トレーナーの基礎知識
内容・方法：アスレティック・トレーナーの役割と職域
- 【第3回】
テーマ：傷害および疾病の予防
内容・方法：スポーツに伴う傷害や疾病の病態および予防対策について
- 【第4回】
テーマ：傷害および疾病の評価
内容・方法：各種傷害および疾病のプレホスピタルケア（RICE処置含）
- 【第5回】
テーマ：頭頸部外傷に対する応急処置
内容・方法：脳振盪と頸椎(頸髄)損傷を中心に
- 【第6回】
テーマ：体幹部の外傷に対する応急処置
内容・方法：腰背部、胸腹部外傷の評価と応急処置
- 【第7回】
テーマ：上肢外傷に対する応急処置
内容・方法：肩関節および肘関節の骨折・脱臼を中心に
- 【第8回】
テーマ：膝および足関節外傷に対する応急処置
内容・方法：靭帯損傷に対する評価と応急処置
- 【第9回】
テーマ：その他のスポーツ外傷に対する応急処置
内容・方法：熱中症や突然死、特殊環境下における外傷の応急処置
- 【第10回】
テーマ：緊急時対応計画（エマージェンシー・アクション・プラン）
内容・方法：緊急事案発生時の対応計画立案について
- 【第11回】
テーマ：心肺蘇生法（1）
内容・方法：心肺蘇生法およびAEDの取扱いについて
- 【第12回】
テーマ：心肺蘇生法（2）
内容・方法：心肺蘇生法の実践
- 【第13回】
テーマ：アスレティックトレーニングにおける管理
内容・方法：傷害予防のための取組みなど
- 【第14回】
テーマ：グループ発表（1）
内容・方法：急性外傷に対する評価および応急処置、予防対策に関する発表と討論
- 【第15回】
テーマ：グループ発表（2）
内容・方法：急性外傷に対する評価および応急処置、予防対策に関する発表と討論、フィードバック

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】	事前学修課題：「トレーナー」という用語の歴史と現状について調べておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第2回】	事前学修課題：日本と米国におけるアスレティックトレーニングの違いについてまとめておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第3回】	事前学修課題：傷害という言葉の意味と、これまでの自身の怪我についてまとめておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第4回】	事前学修課題：プレホスピタルケアおよびRICE処置について調べ、疑問点をまとめておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第5回】	事前学修課題：頭部および頸部の機能解剖学について予習しておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第6回】	事前学修課題：体幹部の機能解剖学について予習しておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第7回】	事前学修課題：肩甲上腕関節および腕尺関節の機能的特徴について調べておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第8回】	事前学修課題：足関節および膝関節の代表的靭帯の機能的役割についてまとめておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第9回】	事前学修課題：暑熱環境下が身体に及ぼす影響についてまとめておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第10回】	事前学修課題：エマージェンシーアクションプランについて調べておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第11回】	事前学修課題：CPR/AEDの取扱いについて調べておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第12回】	事前学修課題：ガイドライン2010・2015・2020の違いについてまとめておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第13回】	事前学修課題：教育現場で生じる可能性の高い外傷について調べ、予防対策を講じておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第14回】	事前学修課題：急性外傷を身体部位別にまとめておく 事後学修課題：講義の内容をまとめ、不明な点については次回授業時に質問できるようにしておく
【第15回】	事前学修課題：これまでの講義内容についてまとめ、疑問点や不明な点を明確にしておく 事後学修課題：これまでの講義内容をまとめ直す

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した発表や課題に対しては、本人の希望があれば翌週以降に評価を開示することが可能であり、確認テストについては採点后、希望者に内容を返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 総授業回数に対して、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は「K評価」とする場合がある。
- ・ 正当な理由なく授業開始時刻より5分以上遅刻した場合、教員の許可なく途中退室した場合は減点対象とする。
- ・ 以下に示すとおり、授業期間中に実施されるレポート課題や確認テスト、および定期試験に代わるレポート等の評価結果に基づき総合的に判定する。
- ・ 総合判定で60点以上を対象に、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で課された課題に対して、内容を理解し、論理的に考察した上で、適切にまとめられているかを評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	複数回の確認テストにて評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	課された設問に対して、内容を適切かつ合理的に理解し、論理的に考察されているかを評価する。	1, 2, 3
その他	15	実技の成否および積極的な共同活動により評価する。 なお共同活動とは、課題に対して他者との積極的な協力関係をもって評価する。	4

テキスト	テキストは使用しない。 適宜授業内でプリントを配布する。
参考書	・『アスレティックトレーニング学』広瀬統一ほか,文光堂,6,050円,ISBN-13:978-4830651915. ・『スポーツ外傷アセスメント』渡辺好博ほか,西村書店,13,200円,ISBN-13:978-4890131969. ・『Reference Book』公益財団法人日本スポーツ協会,4,840円(電子版3,520円)
履修条件・他の科目との関連	授業内で実技を交える場合があることを了承しておくこと。 出席登録は自己責任とし、不正については厳正に対処する。 配慮すべき欠席や公欠については、大学で所定の手続きをした場合のみ認める。

授業コード	13109101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	健康・スポーツ科学総論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵、東 亜弓、堀込 孝二、岸本 恵一、谷川 哲朗、田中 淳、寺田 進志、				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、スポーツ行動学科の3本柱である、「スポーツ教育分野」「健康・スポーツ分野」「スポーツマネジメント分野」における導入編として位置づけられており、学問的な知識や理解を深めるとともに、これらの分野が社会でどのように役立てられているかを総合的に修得することを目的としている。

授業は、これらの分野を広く学ぶことができるように、スポーツ行動学科の専任教員12名が1回ずつ担当する「オムニバス形式」で展開する（初回は全体ガイダンス、8回目と最終回はまとめテスト）。スポーツ分野の学問的視野を広げ、様々な観点から「健康・スポーツ科学」について学び、自らの関心を見出すことを意識するとともに、問題解決に積極的に取り組むことが求められる。

さらに、本授業での学びを基に、自身の進むべき将来についても考え、2年次生以降の学びへのさらなる意識の向上や、取得を希望する資格の検討に活かすことを目標としている。

到達目標

1. 【健康・スポーツ分野】健康の保持増進における運動の効果や役割について理解する。
2. 【スポーツ教育分野】スポーツ教育分野に関する情報を理解する。
3. 【スポーツマネジメント分野】地域やプロスポーツ、スポーツイベントなどの本質を理解する。
4. 各回の授業内容を理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】（堀込先生）
 テーマ：ガイダンス
 内容：健康・スポーツ科学総論の全体ならびに各科目に関するガイダンスを行う
- 【第2回】小倉先生
 テーマ：スポーツコーチングの概念と原理
 内容：指導者の役割や資質について学び、効果的で安心・安全な指導法について学修する
- 【第3回】岸本先生
 テーマ：アスレティックトレーニングと基礎学問
 内容：解剖学などの基礎的な学問が、どのようにトレーナー関係の知識・技術につながるのかを考える
- 【第4回】久保田先生
 テーマ：スポーツ指導について考える
 内容：スポーツ指導における倫理観、道徳観を理解し、指導のために必要な知識の概要や視点を学修する
- 【第5回】新村先生
 テーマ：体力の概念と我が国の健康づくり施策における運動の位置づけ
 内容：体力の概念を捉えると同時にトレーニングによる体力変化や異なるライフステージ、性、スポーツ種目において求められる体力について学ぶ
- 【第6回】田中先生
 テーマ：トレーニング指導概論
 内容：トレーニング指導者の役割と身につけるべき能力について
- 【第7回】谷川先生
 テーマ：パラスポーツ概論
 内容：障害がある人にとってのスポーツのあり方について考える。障害とは何か、パラスポーツの歴史、指導者の役割等を学ぶ
- 【第8回】（堀込先生）
 テーマ：前半6回の評価テスト、あるいはレポート
 内容：第2回～第7回の授業に関するテスト、あるいはレポートを実施する
- 【第9回】津吉先生
 テーマ：スポーツと栄養
 内容：スポーツにおける栄養の役割について学び、適切な食事摂取の在り方について考える
- 【第10回】寺田先生
 テーマ：スポーツ運動学概論
 内容：スポーツ運動学の概要を学び、運動指導に必要な指導力を考える
- 【第11回】中村先生

テーマ：ニュージーランドのスポーツと教育

内容：スポーツが教育現場においてどのような位置づけを得て展開されているか、ニュージーランドの事例に学びながら考える

【第12回】東先生

テーマ：教育分野でスポーツ心理学を活用する

内容：体育、運動、スポーツ教育においてスポーツ心理学の理論をどのように用いるのかを学ぶ

【第13回】平野先生

テーマ：生涯スポーツ社会の推進

内容：生涯スポーツ社会を推進する必要性について理解し、健康・スポーツ支援人材が行う取り組みについて考える

【第14回】堀込先生

テーマ：スポーツマネジメント

内容：プロスポーツチーム（クラブ）の経営とは何か。収益構造やプロスポーツの経営の現状を正しく学ぶ

【第15回】（堀込先生）

テーマ：後半6回の評価テスト、あるいはレポート

内容：第9回～第14回の授業に関するテスト、あるいはレポートを実施する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要である。

つまり、本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となることから、各授業（2時間）に加えて、事前学習（2時間以上）、事後学習（2時間以上）を毎回各自で行う必要がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後に、授業の習熟度を評価するための「確認課題」を実施する。
詳細は、初回授業のガイダンスの中で説明するため、必ず出席すること（第1回授業）。

以下、ガイダンス時に必ず確認すべき事項。

※各「確認課題」の形式および提出方法は、各分野の教員により異なるため指示に従うこと。

※各「確認課題」のフィードバックは、各分野の教員により異なるため確認すること。

※各「確認課題」の評価テストのボーダーラインは、各分野の教員により異なるため確認すること。

なお、「確認課題」は、授業時間内に実施するものであり、教員より指示された時間帯に取り組むこと。

また、上記課題に取り組むために、各自「パソコン」を必ず準備すること。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、出席状況について以下のルールを設ける。

①全15回授業のうち欠席5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

②第8回・第15回授業で実施する評価テストの結果が1つでもボーダーラインを下回る場合は評価Iとする。

③本授業は、12名の教員が担当するオムニバス授業であるため、各教員による成績評価得点を集計し、算出された点数をもとに総合的に評価する。

<その他>

授業開始時刻以降にUNIPAに出席登録した場合は「遅刻」、開始30分以降は「欠席」と評価する。

※本授業は受講者が多いため、早めに教室に来て出席端末で登録することを推奨する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	各回確認課題の提出状況、および課題得点により総合的に評価する。(5点×12回)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	第8回・第15回授業に実施する、評価テストもしくはレポート試験により評価する。(20点×2回)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 公認スポーツ指導者養成講習会用テキスト「リファレンスブック」:JSPO(日本スポーツ協会)出版

参考書 必要があれば授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・スポーツ行動学科2022年度入学生以降の学生であること(卒業必修科目)。
- ・Classroomに参加登録すること。
- ・座席指定のため、指定された座席に必ず着席すること。
- ・欠席5回以上(遅刻3回で欠席1回と評価、も含む)の場合は、K評価(評価不能)とする。
- ・授業開始時刻以降にUNIPAに出席登録した場合は「遅刻」と評価する(原則、1分でも遅れたら

履修条件・他の科目との関連

遅刻とする)。

※本授業は受講者が多いため、早めに教室に来て出席端末で登録することを推奨する。

※その他の注意事項については初回ガイダンス時に説明する。

<持ち物>

パソコン、テキスト、筆記用具、ノートもしくはルーズリーフ

※パソコンは必ず充電して持参すること

※スマートフォンの使用は不可

授業コード	13109201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ医科学演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一、田中 淳、津吉 哲士、新村 由恵				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習では健康の維持・増進や栄養管理、スポーツパフォーマンスの向上及び傷害予防など、スポーツ医・科学に関する内容を、講義や実技、実践的なフィールドワークなどを通じて学習する。

到達目標

- 健康・スポーツに関わる知識及び技能を身につけることにより、社会での実践的応用が出来るようになる。
- 競技パフォーマンスや健康に関連する課題を自ら発見し、解決に向けて取り組むことができる。
- 積極的に学内・外で活動することで、社会規範や他者尊重などの態度を身につけることができる。

授業計画

- 第1回目：授業の概要と進め方、受講に対する注意事項等
 第2回目：アスリートのためのトレーニング(1)：トレーニングの目的とトレーニング指導者の役割
 第3回目：アスリートのためのトレーニング(2)：科学的手法を用いたトレーニングとコンディショニング
 第4回目：アスリートのための傷害予防(1)：下肢傷害に対する対応
 第5回目：アスリートのための傷害予防(2)：上肢・体幹傷害に対する対応
 第6回目：アスリートのための栄養管理(1)：食事調査法と栄養価評価
 第7回目：アスリートのための栄養管理(2)：アスリートを対象とした献立作成
 第8回目：高齢者のための健康支援(1)：高齢者の健康チェック-体カテストの実践と評価-
 第9回目：高齢者のための健康支援(2)：高齢者の健康チェック-認知機能テストの実践と評価-
 第10回目：フィールドワーク(1)：健康、栄養、安全、競技力向上を目的とした活動
 第11回目：フィールドワーク(2)：健康、栄養、安全、競技力向上を目的とした活動
 第12回目：フィールドワーク(3)：健康、栄養、安全、競技力向上を目的とした活動
 第13回目：フィールドワーク(4)：健康、栄養、安全、競技力向上を目的とした活動
 第14回目：フィールドワークのまとめ：レポートおよびプレゼンテーション資料の作成
 第15回目：フィールドワーク成果報告会

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外において各回の予習・復習として各2時間ほどの学習が求められる。
 予習は指示されたテキストや論文をもとに、事前に授業内容について把握しておく。
 また、復習として、授業内容をまとめるとともに、反省点や修正点などを洗い出し、次回授業時まで改善されていることを求める。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した発表や課題に対しては、本人の希望があれば翌週以降に評価をフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- 総授業回数に対して、正当な理由なく3分の1以上欠席した場合は「K評価」とする場合がある。
- 正当な理由なく授業開始時刻より5分以上の遅刻、教員の許可なく途中退室した場合は減点対象とする。
- 以下に示す評価基準に基づき、積極性や課題達成度(提出物含)、プレゼンテーションなどを総合的に評価し、総合判定で60点以上を対象に、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内で課され課題に対して、内容を理解し、論理的に考察した上で、適切にまとめられているかを評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	40	フィールドワークに向けた準備などを通じて、積極性や課題達成度を鑑みて評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課された設問に対して、内容を適切かつ合理的に理解し、論理的に考察されているかを評価する。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じて適宜授業内でプリントを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『ストレンクス&コンディショニング(第4版)』ブックハウスHD,13,200円,ISBN-13:978-4909011077. ・『アスレティックトレーニング学』文光堂,6,050円,ISBN-13:978-4830651915 . ・『Reference Book』公益財団法人日本スポーツ協会,4,840円(電子版3,520円) ・『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』公益財団法人健康・体力づくり事業財団,16,800円
履修条件・他の科目との関連	<p>フィールドワークへの参加は必須である。 出席登録は自己責任とし、不正については厳正に対処する。 配慮すべき欠席や公欠については、大学で所定の手続きをした場合のみ認める。 教室については変更する可能性があるため、随時Google Classroomを確認すること。</p>

授業コード	13109301	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニング I [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、トレーニング指導者に必要な基礎的知識およびスキルとして、ストレッチングやウォーミングアップの実技を中心に説明する。その中でプログラムの展開方法や指導のポイントについても解説する。

到達目標

1. 運動・トレーニング指導者としての基礎知識が身についている
2. ストレッチングの理論を理解し、適切な指導ができる
3. ウォームアップとクールダウンの理論を理解し、適切な指導ができる

授業計画

- 1回 : ガイダンス コンディショニングとは
- 2回 : ウォームアップ (1) ウォームアップの目的と効果
- 3回 : ウォームアップ (2) 一般的ウォームアップと専門的ウォームアップ
- 4回 : ウォームアップ (3) ウォームアップの作成
- 5回 : ウォームアップの実技および指導スキルの確認 (1)
- 6回 : ウォームアップの実技および指導スキルの確認 (2)
- 7回 : クールダウンとリカバリー
- 8回 : ストレッチング (1) 下半身のセルフストレッチング
- 9回 : ストレッチング (2) 下半身のパートナーストレッチング
- 10回 : ストレッチング (3) 上半身のセルフストレッチング
- 11回 : ストレッチング (4) 上半身のパートナーストレッチング
- 12回 : ストレッチング (5) その他のストレッチング
- 13回 : ストレッチングの実技および指導スキルの確認 (1)
- 14回 : ストレッチングの実技および指導スキルの確認 (2)
- 15回 : ストレッチングおよびウォームアップ・クールダウン・リカバリーの理論の確認

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト

参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	特になし

授業コード	13109302	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニング I [対面]				
シラバス執筆(全員)	鈴木 真代				
シラバス執筆(主)	鈴木 真代				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、トレーニング指導者に必要な基礎的知識およびスキルとして、ストレッチングやウォーミングアップの実技を中心に説明する。その中でプログラムの展開方法や指導のポイントについても解説する。

到達目標

1. 運動・トレーニング指導者としての基礎知識が身についている
2. ストレッチングの理論を理解し、適切な指導ができる
3. ウォームアップとクールダウンの理論を理解し、適切な指導ができる

授業計画

- 1回 : ガイダンス コンディショニングとは
- 2回 : ウォームアップ (1) ウォームアップの目的と効果
- 3回 : ウォームアップ (2) 一般的ウォームアップと専門的ウォームアップ
- 4回 : ウォームアップ (3) ウォームアップの作成
- 5回 : ウォームアップの実技および指導スキルの確認 (1)
- 6回 : ウォームアップの実技および指導スキルの確認 (2)
- 7回 : クールダウンとリカバリー
- 8回 : ストレッチング (1) 下半身のセルフストレッチング
- 9回 : ストレッチング (2) 下半身のパートナーストレッチング
- 10回 : ストレッチング (3) 上半身のセルフストレッチング
- 11回 : ストレッチング (4) 上半身のパートナーストレッチング
- 12回 : ストレッチング (5) その他のストレッチング
- 13回 : ストレッチングの実技および指導スキルの確認 (1)
- 14回 : ストレッチングの実技および指導スキルの確認 (2)
- 15回 : ストレッチングおよびウォームアップ・クールダウン・リカバリーの理論の確認

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト

参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	特になし

授業コード	13109304	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニング I [対面]				
シラバス執筆(全員)	船戸 淳矢				
シラバス執筆(主)	船戸 淳矢				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、トレーニング指導者に必要な基礎的知識およびスキルとして、ストレッチングやウォーミングアップの実技を中心に説明する。その中でプログラムの展開方法や指導のポイントについても解説する。

到達目標

1. 運動・トレーニング指導者としての基礎知識が身についている
2. ストレッチングの理論を理解し、適切な指導ができる
3. ウォームアップとクールダウンの理論を理解し、適切な指導ができる

授業計画

- 1回 : ガイダンス コンディショニングとは
- 2回 : ウォームアップ(1) ウォームアップの目的と効果
- 3回 : ウォームアップ(2) 一般的ウォームアップと専門的ウォームアップ
- 4回 : ウォームアップ(3) ウォームアップの作成
- 5回 : ウォームアップの実技および指導スキルの確認(1)
- 6回 : ウォームアップの実技および指導スキルの確認(2)
- 7回 : クールダウンとリカバリー
- 8回 : ストレッチング(1) 下半身のセルフストレッチング
- 9回 : ストレッチング(2) 下半身のパートナーストレッチング
- 10回 : ストレッチング(3) 上半身のセルフストレッチング
- 11回 : ストレッチング(4) 上半身のパートナーストレッチング
- 12回 : ストレッチング(5) その他のストレッチング
- 13回 : ストレッチングの実技および指導スキルの確認(1)
- 14回 : ストレッチングの実技および指導スキルの確認(2)
- 15回 : ストレッチングおよびウォームアップ・クールダウン・リカバリーの理論の確認

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
 事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
 以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト

「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
 「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト

参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	特になし

授業コード	13109401	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニングⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

スポーツ外傷・障害の予防および競技力向上を目的とする筋力・パワー向上のためのレジスタンストレーニングを実技形式で実施する。本授業では、トレーニング指導者として必要な基礎知識や正しいトレーニングテクニックを中心に説明し、プログラム作成や指導スキルの重要なポイントについて解説する。また評価およびプログラム作成から実際の指導までの流れを学修することで、様々なフィールドで活用できる実践的指導スキルを習得することを目指します。

到達目標

1. レジスタンストレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. パワートレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
3. 筋力・パワー向上のためのトレーニングプログラムを作成することができる

授業計画

1回	ガイダンス トレーニングの用語の理解および授業の進め方や評価方法など		
2回	レジスタンストレーニング(1)	理論：レジスタンストレーニングの目的と安全管理、	実技：ビッグ3
3回	レジスタンストレーニング(2)	理論：プログラムデザイン①、	実技：ビッグ3②
4回	レジスタンストレーニング(3)	理論：プログラムデザイン②、	実技：ビッグ3③
5回	レジスタンストレーニング(4)	理論：プログラムデザイン③、	実技：ビッグ3④
6回	ビッグ3のデモンストレーションスキル(1)	実技：ベンチプレス	
7回	ビッグ3のデモンストレーションスキル(2)	実技：スクワット	
8回	レジスタンストレーニング(5)	理論：プログラムデザイン④、	実技：上半身の補助エクササイズ
9回	レジスタンストレーニング(6)	理論：プログラムデザイン⑤、	実技：下半身の補助エクササイズ
10回	レジスタンストレーニング(7)	理論：プログラムデザイン⑥、	実技：その他の補助エクササイズ
11回	パワートレーニング	理論：パワートレーニングの目的と効果、	実技：ハングクリーン
12回	レジスタンストレーニング(8)	理論：プログラムデザイン⑦、	実技：指導演習準備
13回	レジスタンストレーニングの指導演習(1)		
14回	レジスタンストレーニングの指導演習(2)		
15回	レジスタンストレーニング・パワートレーニングの理論の確認		

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著、大修館書店
------	--------------------------------------------------

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	安全に配慮しながら、積極的に実技を实践できること。

授業コード	13109403	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニングⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	鈴木 真代				
シラバス執筆(主)	鈴木 真代				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

スポーツ外傷・障害の予防および競技力向上を目的とする筋力・パワー向上のためのレジスタンストレーニングを実技形式で実施する。本授業では、トレーニング指導者として必要な基礎知識や正しいトレーニングテクニックを中心に説明し、プログラム作成や指導スキルの重要なポイントについて解説する。また評価およびプログラム作成から実際の指導までの流れを学修することで、様々なフィールドで活用できる実践的指導スキルを習得することを目指します。

到達目標

1. レジスタンストレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. パワートレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
3. 筋力・パワー向上のためのトレーニングプログラムを作成することができる

授業計画

1回	: ガイダンス	トレーニングの用語の理解および授業の進め方や評価方法など
2回	: レジスタンストレーニング (1)	理論: レジスタンストレーニングの目的と安全管理、実技: ビッグ3
3回	: レジスタンストレーニング (2)	理論: プログラムデザイン①、実技: ビッグ3②
4回	: レジスタンストレーニング (3)	理論: プログラムデザイン②、実技: ビッグ3③
5回	: レジスタンストレーニング (4)	理論: プログラムデザイン③、実技: ビッグ3④
6回	: ビッグ3のデモンストレーションスキル (1)	実技: ベンチプレス
7回	: ビッグ3のデモンストレーションスキル (2)	実技: スクワット
8回	: レジスタンストレーニング (5)	理論: プログラムデザイン④、実技: 上半身の補助エクササイズ
9回	: レジスタンストレーニング (6)	理論: プログラムデザイン⑤、実技: 下半身の補助エクササイズ
10回	: レジスタンストレーニング (7)	理論: プログラムデザイン⑥、実技: その他の補助エクササイズ
11回	: パワートレーニング	理論: パワートレーニングの目的と効果、実技: ハングクリーン
12回	: レジスタンストレーニング (8)	理論: プログラムデザイン⑦、実技: 指導演習準備
13回	: レジスタンストレーニングの指導演習 (1)	
14回	: レジスタンストレーニングの指導演習 (2)	
15回	: レジスタンストレーニング・パワートレーニングの理論の確認	

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題: 体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題: 授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
------	--------------------------------------------------

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	安全に配慮しながら、積極的に実技を实践できること。

授業コード	13109404	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニングⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	船戸 淳矢				
シラバス執筆(主)	船戸 淳矢				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

スポーツ外傷・障害の予防および競技力向上を目的とする筋力・パワー向上のためのレジスタンストレーニングを実技形式で実施する。本授業では、トレーニング指導者として必要な基礎知識や正しいトレーニングテクニックを中心に説明し、プログラム作成や指導スキルの重要なポイントについて解説する。また評価およびプログラム作成から実際の指導までの流れを学修することで、様々なフィールドで活用できる実践的指導スキルを習得することを目指します。

到達目標

1. レジスタンストレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. パワートレーニングの種目を理解し、デモンストレーションや指導ができる
3. 筋力・パワー向上のためのトレーニングプログラムを作成することができる

授業計画

1回	ガイダンス トレーニングの用語の理解および授業の進め方や評価方法など		
2回	レジスタンストレーニング(1)	理論：レジスタンストレーニングの目的と安全管理、	実技：ビッグ3
3回	レジスタンストレーニング(2)	理論：プログラムデザイン①、	実技：ビッグ3②
4回	レジスタンストレーニング(3)	理論：プログラムデザイン②、	実技：ビッグ3③
5回	レジスタンストレーニング(4)	理論：プログラムデザイン③、	実技：ビッグ3④
6回	ビッグ3のデモンストレーションスキル(1)	実技：ベンチプレス	
7回	ビッグ3のデモンストレーションスキル(2)	実技：スクワット	
8回	レジスタンストレーニング(5)	理論：プログラムデザイン④、	実技：上半身の補助エクササイズ
9回	レジスタンストレーニング(6)	理論：プログラムデザイン⑤、	実技：下半身の補助エクササイズ
10回	レジスタンストレーニング(7)	理論：プログラムデザイン⑥、	実技：その他の補助エクササイズ
11回	パワートレーニング	理論：パワートレーニングの目的と効果、	実技：ハングクリーン
12回	レジスタンストレーニング(8)	理論：プログラムデザイン⑦、	実技：指導演習準備
13回	レジスタンストレーニングの指導演習(1)		
14回	レジスタンストレーニングの指導演習(2)		
15回	レジスタンストレーニング・パワートレーニングの理論の確認		

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワーク等での発言(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
------	--------------------------------------------------

テキスト	「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
履修条件・他の科目との関連	安全に配慮しながら、積極的に実技を实践できること。

授業コード	13109501	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニングⅢ [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

トレーニング指導者として、より高度な指導スキルを身につけることを目指し、ストレングス&コンディショニングⅠ、Ⅱで学修した内容をさらに深める形で授業を展開する。各種体カトレーニングについて、スポーツフィールドを意識したより実践的な内容とし、スポーツパフォーマンス向上を目指すトレーニングのプログラム作成から実際の指導スキルについて説明する。また各種フィールドテストを活用したトレーニング効果の評価についても学修する。

到達目標

1. 各種トレーニングの方法を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. 各種トレーニングのプログラムを作成することができる
3. 各種フィールドテストを活用し、トレーニング効果を評価できる

授業計画

1回	ガイダンス	
2回	プライオメトリクストレーニング(1)	プライオメトリクストレーニングの理論と実践
3回	プライオメトリクストレーニング(2)	プライオメトリクストレーニングにおける測定と評価
4回	スピードトレーニング(1)	スピードトレーニングの理論と実践
5回	スピードトレーニング(2)	スピードの測定と評価
6回	アジリティトレーニング(1)	アジリティトレーニングの理論と実践
7回	アジリティトレーニング(2)	アジリティの測定と評価
8回	持久カトレーニング(1)	有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの理論と実践
9回	持久カトレーニング(2)	有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの測定と評価
10回	指導演習(1)	各種トレーニングの指導演習
11回	指導演習(2)	各種トレーニングの指導演習
12回	指導演習(3)	各種トレーニングの指導演習
13回	各種トレーニングの実技の確認(1)	
14回	各種トレーニングの実技の確認(2)	
15回	各種トレーニング理論の確認	

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワークでの発言等(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト
「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修

テキスト	館書店
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 「ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版」ブックハウス エイチディ
履修条件・他の科目との関連	事前に「ストレングス&コンディショニングⅠ」および「ストレングス&コンディショニングⅡ」の単位を修得していること。

授業コード	13109502	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ストレングス&コンディショニングⅢ [対面]				
シラバス執筆(全員)	鈴木 真代				
シラバス執筆(主)	鈴木 真代				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

トレーニング指導者として、より高度な指導スキルを身につけることを目指し、ストレングス&コンディショニングⅠ、Ⅱで学修した内容をさらに深める形で授業を展開する。各種体カトレーニングについて、スポーツフィールドを意識したより実践的な内容とし、スポーツパフォーマンス向上を目指すトレーニングのプログラム作成から実際の指導スキルについて説明する。また各種フィールドテストを活用したトレーニング効果の評価についても学修する。

到達目標

1. 各種トレーニングの方法を理解し、デモンストレーションや指導ができる
2. 各種トレーニングのプログラムを作成することができる
3. 各種フィールドテストを活用し、トレーニング効果を評価できる

授業計画

1回	ガイダンス	
2回	プライオメトリクストレーニング(1)	プライオメトリクストレーニングの理論と実践
3回	プライオメトリクストレーニング(2)	プライオメトリクストレーニングにおける測定と評価
4回	スピードトレーニング(1)	スピードトレーニングの理論と実践
5回	スピードトレーニング(2)	スピードの測定と評価
6回	アジリティトレーニング(1)	アジリティトレーニングの理論と実践
7回	アジリティトレーニング(2)	アジリティの測定と評価
8回	持久カトレーニング(1)	有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの理論と実践
9回	持久カトレーニング(2)	有酸素性・無酸素性持久カトレーニングの測定と評価
10回	指導演習(1)	各種トレーニングの指導演習
11回	指導演習(2)	各種トレーニングの指導演習
12回	指導演習(3)	各種トレーニングの指導演習
13回	各種トレーニングの実技の確認(1)	
14回	各種トレーニングの実技の確認(2)	
15回	各種トレーニング理論の確認	

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学修課題：体調管理に努めるとともに、前回の講義終了時に出された予習課題について調べてくる。
事後学修課題：授業内容を自分なりにまとめ、不明な箇所については次回質問事項として整理しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題や各種試験の評価については、本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく1/3以上欠席した場合や理論課題および実技課題を実施しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする
以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取組み(20)、グループワークでの発言等(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ワークノート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	理論課題(20)、実技課題(20)、指導演習(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト
「トレーニング指導者テキスト[実技編]」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店
「トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修

テキスト	館書店
参考書	「トレーニング指導者テキスト[理論編]3訂版」NPO法人 日本トレーニング指導者協会 編著,大修館書店 「ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版」ブックハウス エイチディ
履修条件・他の科目との関連	事前に「ストレングス&コンディショニングⅠ」および「ストレングス&コンディショニングⅡ」の単位を修得していること。

授業コード	13084601	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	フィットネスエクササイズ指導 [対面]				
シラバス執筆(全員)	生方 美奈子				
シラバス執筆(主)	生方 美奈子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

健康運動実践指導者は健康づくりのための運動を安全かつ適切に指導できる、特に実践指導のための指導技術に重点をおいた指導者として平成元年（1989年）に誕生しました。少子・超高齢社会を健康で活力あるものとしていくためには、単に病気の早期発見や治療にとどまるのではなく、健康を増進し、発病を予防する「一次予防」を重視すること、生活の質を高めることにより、実り豊かで満足できる生涯づくりを目指すことが重要です。

（財団法人 健康・体力づくり事業財団的 テキストより抜粋）

本授業では健康運動実践指導者資格試験である陸上運動・エアロビックダンスとレジスタンストレーニングの指導法と動作練習を行う。エアロビックダンスエクササイズの特徴や構成を理解し動きを展開するための方法論を学習する。レジスタンス運動では動的トレーニングを安全に実践するための姿勢・フォーム・負荷強度について説明できるよう学習する。

到達目標

【授業の到達目標】

1. 健康づくりのための運動指導ができる
2. エアロビックダンスの構成を理解しグループエクササイズの指導ができる
3. ウォーキングおよびジョギングの効果などを説明でき、かつ実践的に指導できる
4. 対象者に応じた運動の目的と内容を理解し安全に効果的に行うための指導説明ができる
5. 表現・伝達能力を身につける

授業計画

【計画】

- 第1回 テーマ：ガイダンス
内 容：健康運動実践指導者と健康運動指導士の社会的役割について
- 第2回 テーマ：エアロビックダンス課題運動の練習①
内 容：ステップタッチ・グレイプバイン・Vテップ・ニーリフト
- 第3回 テーマ：エアロビックダンス課題運動の練習②
内 容：ステップタッチ・グレイプバイン・Vテップ・ニーリフト
- 第4回 テーマ：エアロビックダンスの指導方法について①
内 容：指導の循環について
- 第5回 テーマ：エアロビックダンスのキューイング
内 容：バーバルキューイングの練習
- 第6回 テーマ：エアロビックダンスにおける運動強度の考え方
内 容：運動強度の修正と動きの難易度の修正
- 第7回 テーマ：レジスタンストレーニング
内 容：スクワット・バードドッグ・フォワードランジ・クランチ・プッシュアップ
- 第8回 テーマ：エアロビックダンスパートとレジスタンストレーニング実技
内 容：課題運動の実技テスト
- 第9回 テーマ：ウォーキング・ジョギング1
内 容：それぞれの特性と運動効果、至適運動強度の設定など
- 第10回 テーマ：ウォーキング・ジョギング2
内 容：安全で効果的なウォーキング・ジョギングの実践
- 第11回 テーマ：ウォーキング・ジョギング3
内 容：安全で効果的なウォーキング・ジョギングのプログラム作成と指導
- 第12回 テーマ：対象者に応じたウォーキング・ジョギング、レジスタンストレーニング
内 容：各年代の生理学特性に応じたプログラム作成と指導
- 第13回 テーマ：自重負荷法による介護予防に関する各種エクササイズ1
内 容：自立度に応じた運動のプログラミングと実践
- 第14回 テーマ：自重負荷法による介護予防に関する各種エクササイズ2
内 容：QOLの向上及び転倒予防を目的とした運動指導
- 第15回 テーマ：実践のまとめと復習

事前事後の学習

毎回の授業で指示する。

エアロビックダンス実技の課題に対して動作練習とキューイング練習を行うこと
課題運動（レジスタンストレーニング）の使用部位・動作ポイントをまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表に対する評価は本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく3回以上の欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
10分以上の遅刻および早退は2回で1回欠席とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	エアロビックダンス実技(20) レジスタンストレーニング実技(20) キューイング(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レポート課題	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	エアロビックダンス指導法	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 「健康運動実践指導者養成用テキスト」 財団法人 健康・体力づくり事業財団

参考書 「健康運動実践指導者養成用テキスト」 財団法人 健康・体力づくり事業財団

履修条件・他の科目との関連 服装はトレーニングに適した(教員から指定された)ものを着用し、室内シューズが必要。
筆記用具は毎回持参すること

授業コード	13084701	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	水泳 [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

※本授業は教員免許取得に必要な科目である。
 本授業では、冒頭に泳ぎのコツ、各種泳法のポイントおよび指導上の留意点、水泳と安全等を解説した後、その事項を実技で実践する。
 1) 水泳が持つ独自の楽しさを体験しながら、近代4泳法（バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール）の学習の仕方を学ぶ。
 2) 中学・高等学校やスポーツクラブ等で水泳の安全で効果的な指導ができるようになることを念頭に置き、4泳法の模範泳ができるような技術および能力を身につけ、知識を深めた上で、正しい指導法を習得する。

到達目標

- 1) 近代4泳法の学習の仕方について説明できる。
- 2) 安全を確保した上で、近代4泳法の指導の仕方について説明できる。
- 3) 中学生または高校生に対して、近代4泳法の模範泳を実行できる
- 4) 一定時間、続けて泳げるようになる。

授業計画

- 【第1回】ガイダンス / 水泳と生理 【講義】
 本授業におけるスケジュールやプールの使用方法を説明する。また、女性の生理についても学ぶ。
- 【第2回】水泳の基礎【講義】
 水の特性や水泳に必要な基本的な能力について解説する。
- 【第3回】近代4泳法の泳ぎ方、指導方法【講義】
 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの泳ぎ方について概説し、指導方法を学ぶ。
- 【第4回】水泳と安全【講義】
 水難事故について学ぶ。プールで多い事故（飛び込み、潜水）を避ける方法について学ぶ。
- 【第5回】着衣泳 / 泳力判定（1）【実技】
 着衣時の泳ぎにくさを体験する。クロール、平泳ぎの25m泳のタイムを計測する。
- 【第6回】泳力判定（2） / 水泳の基本動作 浮く・進む 【実技】
 背泳ぎ、バタフライの25m泳のタイムを計測する。水泳の基本動作「浮く」「進む」を体感する。
- 【第7回】クロール【実技】
 クロールに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第8回】平泳ぎ（1）【実技】
 平泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第9回】平泳ぎ（2）【実技】
 平泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第10回】背泳ぎ（1）【実技】
 背泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第11回】背泳ぎ（2）【実技】
 背泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第12回】バタフライ（1）【実技】
 バタフライに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第13回】バタフライ（2）【実技】
 バタフライに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第14回】ターン動作の方法 / 泳距離判定【実技】
 様々なターンの方法を理解・実践する。一定時間泳ぐ練習をする。
- 【第15回】泳力判定（2）：4泳法の25mのタイム測定【実技】
 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの25m泳のタイムを計測する。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】 ガイダンス / 水泳と生理 【講義】

事前：シラバスを読み、授業の流れについて理解する。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第2回】 水泳の基礎【講義】

事前：これまでの水泳の授業について振り返り、内容をまとめておく。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第3回】 近代4泳法の泳ぎ方、指導方法【講義】

事前：前回学んだ水泳に必要な基本的な能力について、再確認する。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第4回】 水泳と安全【講義】

事前：水難事故について、インターネット等で情報を収集し、どのような事故が多いのか調べる。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第5回】 着衣泳 / 泳力判定（1）【実技】

事前：4泳法の泳ぎ方を確認する。

事後：苦手な泳法について、泳ぎのコツを調べてまとめる。

【第6回】 泳力判定（2）/ 水泳の基本動作 浮く・進む 【実技】

事前：授業で学んだ内容を整理する。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第7回】 クロール【実技】

事前：クロールのストローク動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第8回】 平泳ぎ（1）【実技】

事前：平泳ぎの「あおり足」というのはどのような状態なのか、調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第9回】 平泳ぎ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第10回】 背泳ぎ（1）【実技】

事前：背泳ぎのキック動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第11回】 背泳ぎ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第12回】 バタフライ（1）【実技】

事前：バタフライのキック動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第13回】 バタフライ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第14回】 ターン動作の方法 / 泳距離判定【実技】

事前：水泳におけるターンの方法は、どんなものがあるのか調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第15回】 泳力判定（2）：4泳法の25mのタイム測定【実技】

事前：各泳法の注意点とターン動作の方法を確認する。

事後：第5回および第6回で計測した記録と比較し、今後の課題をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

- 1) 見学時のレポートは提出した翌週に評価を伝える。
- 2) 泳力チェックの評価・コメントは終了後に伝える。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 欠席、見学等で5回以上の実技不参加の場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 3) 授業の遅刻または早退3回で欠席1回の扱いとする。
- 4) 1回の出席を1点とした場合、見学（レポート提出）は0.5点と評価する。
ただし、見学レポートを期限までに提出しない場合は欠席扱いとする。
- 5) 泳力チェックは、4泳法の合格基準（泳法・記録）を満たすこと。
- 6) 学期末レポートの提出がない場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業での課題(30)、泳力チェック(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	学期末レポート(10)	1, 2
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢(10)等	1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント(資料)を配布する。
------	--------------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 386円 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 478円
-----	---------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	1) スイムキャップやゴーグルの貸し出しはしない。 2) 安全管理の観点から、スイムキャップの色は黄色とし、プール内では必ず着用すること。 キャップの前面に大きく自分の氏名を油性マジック等で書いておく。 3) 他の受講生の迷惑となる行為をしている者は退出してもらう(欠席扱い)。 4) 見学であっても、積極的に授業に参加すること。 見学時の服装はジャージ等とする。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13084702	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	水泳 [対面]				
シラバス執筆(全員)	栗山 晶代				
シラバス執筆(主)	栗山 晶代				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

※本授業は教員免許取得に必要な科目である。
 本授業では、冒頭に泳ぎのコツ、各種泳法のポイントおよび指導上の留意点、水泳と安全等を解説した後、その事項を実技で実践する。
 1) 水泳が持つ独自の楽しさを体験しながら、近代4泳法（バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール）の学習の仕方を学ぶ。
 2) 中学・高等学校やスポーツクラブ等で水泳の安全で効果的な指導ができるようになることを念頭に置き、4泳法の模範泳ができるような技術および能力を身につけ、知識を深めた上で、正しい指導法を習得する。

到達目標

- 1) 近代4泳法の学習の仕方について説明できる。
- 2) 安全を確保した上で、近代4泳法の指導の仕方について説明できる。
- 3) 中学生または高校生に対して、近代4泳法の模範泳を実行できる
- 4) 一定時間、続けて泳げるようになる。

授業計画

- 【第1回】ガイダンス / 水泳と生理 【講義】
 本授業におけるスケジュールやプールの使用方法を説明する。また、女性の生理についても学ぶ。
- 【第2回】水泳の基礎【講義】
 水の特性や水泳に必要な基本的な能力について解説する。
- 【第3回】近代4泳法の泳ぎ方、指導方法【講義】
 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの泳ぎ方について概説し、指導方法を学ぶ。
- 【第4回】水泳と安全【講義】
 水難事故について学ぶ。プールで多い事故（飛び込み、潜水）を避ける方法について学ぶ。
- 【第5回】着衣泳 / 泳力判定（1）【実技】
 着衣時の泳ぎにくさを体験する。クロール、平泳ぎの25m泳のタイムを計測する。
- 【第6回】泳力判定（2） / 水泳の基本動作 浮く・進む 【実技】
 背泳ぎ、バタフライの25m泳のタイムを計測する。水泳の基本動作「浮く」「進む」を体感する。
- 【第7回】クロール【実技】
 クロールに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第8回】平泳ぎ（1）【実技】
 平泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第9回】平泳ぎ（2）【実技】
 平泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第10回】背泳ぎ（1）【実技】
 背泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第11回】背泳ぎ（2）【実技】
 背泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第12回】バタフライ（1）【実技】
 バタフライに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第13回】バタフライ（2）【実技】
 バタフライに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第14回】ターン動作の方法 / 泳距離判定【実技】
 様々なターンの方法を理解・実践する。一定時間泳ぐ練習をする。
- 【第15回】泳力判定（2）：4泳法の25mのタイム測定【実技】
 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの25m泳のタイムを計測する。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】 ガイダンス / 水泳と生理 【講義】

事前：シラバスを読み、授業の流れについて理解する。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第2回】 水泳の基礎【講義】

事前：これまでの水泳の授業について振り返り、内容をまとめておく。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第3回】 近代4泳法の泳ぎ方、指導方法【講義】

事前：前回学んだ水泳に必要な基本的な能力について、再確認する。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第4回】 水泳と安全【講義】

事前：水難事故について、インターネット等で情報を収集し、どのような事故が多いのか調べる。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第5回】 着衣泳 / 泳力判定（1）【実技】

事前：4泳法の泳ぎ方を確認する。

事後：苦手な泳法について、泳ぎのコツを調べてまとめる。

【第6回】 泳力判定（2）/ 水泳の基本動作 浮く・進む 【実技】

事前：授業で学んだ内容を整理する。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第7回】 クロール【実技】

事前：クロールのストローク動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第8回】 平泳ぎ（1）【実技】

事前：平泳ぎの「あおり足」というのはどのような状態なのか、調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第9回】 平泳ぎ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第10回】 背泳ぎ（1）【実技】

事前：背泳ぎのキック動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第11回】 背泳ぎ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第12回】 バタフライ（1）【実技】

事前：バタフライのキック動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第13回】 バタフライ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第14回】 ターン動作の方法 / 泳距離判定【実技】

事前：水泳におけるターンの方法は、どんなものがあるのか調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第15回】 泳力判定（2）：4泳法の25mのタイム測定【実技】

事前：各泳法の注意点とターン動作の方法を確認する。

事後：第5回および第6回で計測した記録と比較し、今後の課題をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

- 1) 見学時のレポートは提出した翌週に評価を伝える。
- 2) 泳力チェックの評価・コメントは終了後に伝える。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 欠席、見学等で5回以上の実技不参加の場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 3) 授業の遅刻または早退3回で欠席1回の扱いとする。
- 4) 1回の出席を1点とした場合、見学（レポート提出）は0.5点と評価する。
ただし、見学レポートを期限までに提出しない場合は欠席扱いとする。
- 5) 泳力チェックは、4泳法の合格基準（泳法・記録）を満たすこと。
- 6) 学期末レポートの提出がない場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業での課題(30)、泳力チェック(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	学期末レポート(10)	1, 2
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢(10)等	1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント(資料)を配布する。
------	--------------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 386円 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 478円
-----	---------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1) スイムキャップやゴーグルの貸し出しはしない。 2) 安全管理の観点から、スイムキャップの色は黄色とし、プール内では必ず着用すること。 キャップの前面に大きく自分の氏名を油性マジック等で書いておく。 3) 他の受講生の迷惑となる行為をしている者は退出してもらう(欠席扱い)。 4) 見学であっても、積極的に授業に参加すること。 見学時の服装はジャージ等とする。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13084703	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	水泳 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岩田 怜				
シラバス執筆(主)	岩田 怜				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

※本授業は教員免許取得に必要な科目である。
 本授業では、冒頭に泳ぎのコツ、各種泳法のポイントおよび指導上の留意点、水泳と安全等を解説した後、その事項を実技で実践する。
 1) 水泳が持つ独自の楽しさを体験しながら、近代4泳法（バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール）の学習の仕方を学ぶ。
 2) 中学・高等学校やスポーツクラブ等で水泳の安全で効果的な指導ができるようになることを念頭に置き、4泳法の模範泳ができるような技術および能力を身につけ、知識を深めた上で、正しい指導法を習得する。

到達目標

- 1) 近代4泳法の学習の仕方について説明できる。
- 2) 安全を確保した上で、近代4泳法の指導の仕方について説明できる。
- 3) 中学生または高校生に対して、近代4泳法の模範泳を実行できる
- 4) 一定時間、続けて泳げるようになる。

授業計画

- 【第1回】ガイダンス / 水泳と生理 【講義】
 本授業におけるスケジュールやプールの使用方法を説明する。また、女性の生理についても学ぶ。
- 【第2回】水泳の基礎【講義】
 水の特性や水泳に必要な基本的な能力について解説する。
- 【第3回】近代4泳法の泳ぎ方、指導方法【講義】
 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの泳ぎ方について概説し、指導方法を学ぶ。
- 【第4回】水泳と安全【講義】
 水難事故について学ぶ。プールで多い事故（飛び込み、潜水）を避ける方法について学ぶ。
- 【第5回】着衣泳 / 泳力判定（1）【実技】
 着衣時の泳ぎにくさを体験する。クロール、平泳ぎの25m泳のタイムを計測する。
- 【第6回】泳力判定（2） / 水泳の基本動作 浮く・進む 【実技】
 背泳ぎ、バタフライの25m泳のタイムを計測する。水泳の基本動作「浮く」「進む」を体感する。
- 【第7回】クロール【実技】
 クロールに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第8回】平泳ぎ（1）【実技】
 平泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第9回】平泳ぎ（2）【実技】
 平泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第10回】背泳ぎ（1）【実技】
 背泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第11回】背泳ぎ（2）【実技】
 背泳ぎに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第12回】バタフライ（1）【実技】
 バタフライに必要な基礎的技術を習得する。特に、キックを中心に行う。
- 【第13回】バタフライ（2）【実技】
 バタフライに必要な基礎的技術を習得する。特に、腕のストロークを中心に行う。
- 【第14回】ターン動作の方法 / 泳距離判定【実技】
 様々なターンの方法を理解・実践する。一定時間泳ぐ練習をする。
- 【第15回】泳力判定（2）：4泳法の25mのタイム測定【実技】
 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの25m泳のタイムを計測する。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】 ガイダンス / 水泳と生理 【講義】

事前：シラバスを読み、授業の流れについて理解する。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第2回】 水泳の基礎【講義】

事前：これまでの水泳の授業について振り返り、内容をまとめておく。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第3回】 近代4泳法の泳ぎ方、指導方法【講義】

事前：前回学んだ水泳に必要な基本的な能力について、再確認する。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第4回】 水泳と安全【講義】

事前：水難事故について、インターネット等で情報を収集し、どのような事故が多いのか調べる。

事後：本時で学んだ内容を復習する。

【第5回】 着衣泳 / 泳力判定（1）【実技】

事前：4泳法の泳ぎ方を確認する。

事後：苦手な泳法について、泳ぎのコツを調べてまとめる。

【第6回】 泳力判定（2）/ 水泳の基本動作 浮く・進む 【実技】

事前：授業で学んだ内容を整理する。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第7回】 クロール【実技】

事前：クロールのストローク動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第8回】 平泳ぎ（1）【実技】

事前：平泳ぎの「あおり足」というのはどのような状態なのか、調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第9回】 平泳ぎ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第10回】 背泳ぎ（1）【実技】

事前：背泳ぎのキック動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第11回】 背泳ぎ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第12回】 バタフライ（1）【実技】

事前：バタフライのキック動作のコツについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第13回】 バタフライ（2）【実技】

事前：足と手を動かすタイミングについて調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第14回】 ターン動作の方法 / 泳距離判定【実技】

事前：水泳におけるターンの方法は、どんなものがあるのか調べる。

事後：本時で学んだ技能や知識をまとめる。

【第15回】 泳力判定（2）：4泳法の25mのタイム測定【実技】

事前：各泳法の注意点とターン動作の方法を確認する。

事後：第5回および第6回で計測した記録と比較し、今後の課題をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

- 1) 見学時のレポートは提出した翌週に評価を伝える。
- 2) 泳力チェックの評価・コメントは終了後に伝える。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 欠席、見学等で5回以上の実技不参加の場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 3) 授業の遅刻または早退3回で欠席1回の扱いとする。
- 4) 1回の出席を1点とした場合、見学（レポート提出）は0.5点と評価する。
ただし、見学レポートを期限までに提出しない場合は欠席扱いとする。
- 5) 泳力チェックは、4泳法の合格基準（泳法・記録）を満たすこと。
- 6) 学期末レポートの提出がない場合、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業での課題(30)、泳力チェック(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	学期末レポート(10)	1, 2
その他	20	授業に関する質問・発言(10)、取り組み姿勢(10)等	1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント(資料)を配布する。
------	--------------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 386円 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 478円
-----	---------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1) スイムキャップやゴーグルの貸し出しはしない。 2) 安全管理の観点から、スイムキャップの色は黄色とし、プール内では必ず着用すること。 キャップの前面に大きく自分の氏名を油性マジック等で書いておく。 3) 他の受講生の迷惑となる行為をしている者は退出してもらう(欠席扱い)。 4) 見学であっても、積極的に授業に参加すること。 見学時の服装はジャージ等とする。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13067701	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	ウォーターエクササイズ指導実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	奥田 千代				
シラバス執筆(主)	奥田 千代				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

水の物理的特徴を理解し、水環境でのさまざまなエクササイズを体験する。健康の維持・増進を目的としたウォーターエクササイズを受講するとともに、プログラム構成を理解する。各プログラムの特色、指導法、実施時の注意点などを学び、プールデッキ上でウォータースピードでのインストラクションを習得する。

到達目標

1. 水の特性をウォーターエクササイズの特徴をわかりやすく説明できる。
2. ウォーターエクササイズのウォーキング、レジスタンス、アクアダンスの指導プログラムの立案方法を学び立案できる能力を習得する。
3. 適切な姿勢で、それぞれのエクササイズの動作（インストラクション）を実演する能力を身に付ける。
4. 指導の循環を行いながらプログラムを指導・展開すること、タイミングの良いキューイングなどの技術を習得する。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：授業方針の理解・水の物理的特徴の体験、ウォーキングの体験
内容・方法：オリエンテーション、水の物理的特徴、水環境、トレーニングの原則など
- 【第2回】
テーマ：水中エクササイズ①
内容・方法：水の物理的特徴の体験、立位への回復動作、ウォーキングの体験と指導
- 【第3回】
テーマ：水中エクササイズ②
内容・方法：水の物理的特徴、ウォーキングバリエーション、インストラクション練習
- 【第4回】
テーマ：水中エクササイズ③
内容・方法：水の物理的特徴、ウォーキングインストラクション練習、リラクゼーション
- 【第5回】
テーマ：水中エクササイズ④
内容・方法：ウォーキングインストラクション練習、筋コンディショニングとストレッチの体験
- 【第6回】
テーマ：水中エクササイズ⑤
内容・方法：筋コンディショニングとストレッチ、インストラクション練習
- 【第7回】
テーマ：水中エクササイズ⑥
内容・方法：アクアダンス（リニアプログレッション）の体験と構成理解
- 【第8回】
テーマ：水中エクササイズ⑦
内容・方法：アクアダンスインストラクション練習
- 【第9回】
テーマ：水中エクササイズ⑧
内容・方法：口頭プレゼンテーションテスト、プログラムの構成と基本動作の確認
- 【第10回】
テーマ：水中エクササイズ⑨
内容・方法：アクアダンス（コンビネーション）の体験と構成理解
- 【第11回】
テーマ：水中エクササイズ⑩
内容・方法：アクアダンスインストラクション練習
- 【第12回】
テーマ：水中エクササイズ⑪
内容・方法：実技テスト課題練習、プログラム構成の確認
- 【第13回】
テーマ：水中エクササイズ⑫
内容・方法：実技テスト
- 【第14回】
テーマ：水中エクササイズ⑬
内容・方法：実技テスト
- 【第15回】
テーマ：水中エクササイズ⑭
内容・方法：多様なツール体験、授業まとめ

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】

- ①事前学修課題：授業内容の予習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第2回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第3回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第4回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第5回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第6回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第7回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第8回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第9回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第10回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第11回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第12回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第13回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第14回】

- ①事前学修課題：前回授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

【第15回】

- ①事前学修課題：授業内容の復習
- ②事後学修課題：授業内容の確認と授業ノートの整理

課題に対するフィードバックの方法

プログラムシートの添削、口頭にてフィードバック

成績評価の方法・基準(方針)

半期4回以上の欠席、授業の受講態度の悪い者は成績不可、遅刻及び早退は1/3欠席、15分以上の遅刻は欠席扱いとする。
 その他：施設利用のマナー、忘れ物（キャップ・テキスト・資料）など

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	実技試験(40) 授業での課題(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	授業のまとめに関するレポートの実施(20)	1, 2, 3, 4
その他	20	授業に対して積極的な取り組み姿勢(10)、授業に関する質問や発言(10)等	1, 2, 3, 4

テキスト テキストの指定はしません。

参考書 AQWBI・AQWI・AQDBI・AQDIのためのアクアエクササイズ指導理論/編著：深代泰子 著：田中千晶/(公社)日本フィットネス協会

参考書	<p>「水泳指導教本」 日本水泳連盟 「アクアスポーツ科学」 清水富弘(監修) 科学新聞社 「アクアエクササイズ指導教本」 (公社)日本フィットネス協会</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>スタジオでの実技は、運動のできる服装(短パン、Tシャツでその下にタイツ、アンダーウエアは可)、シューズ、筆記用具を用意すること。 また、プールでの実習時は水着、スイムキャップ(必ず名前を書いたもの)を着用する。また指導実習の際プールサイドでの着用できるシューズ、サンダルを用意しておくこと。 時計、アクセサリー類は必ずはずすこと。水分補給のための飲料水を準備しておくこと。 指定テキスト、1年次のエアロビックダンスのテキスト、配布プリントおよび筆記用具を持参する。 見学者は授業内容をレポートとして提出することにより出席扱いとする。</p>

授業コード	13109701	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	陸上競技 [対面]				
シラバス執筆(全員)	山方 諒平				
シラバス執筆(主)	山方 諒平				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

陸上競技は、歩・走・跳・投の運動種目やそれに関わる基礎的な運動能力を発揮して、相手と競争することや自己の能力に挑戦することを楽しむスポーツである。授業では、陸上競技の運動特性や教育的特性を理解し、走・跳・投種目における基本的技術、実践的運動手段・方法、および基本的なルール・審判法について学修する。また、技能到達のまとめとして、走・跳・投種目のパフォーマンステストを行う。

到達目標

1. 陸上競技の特性について説明できる。
2. 陸上競技の基本技術、実践的な運動手段・方法や、ルール・審判法について説明できる。
3. 走・跳・投種目について一定基準以上のパフォーマンスを発揮できる。

授業計画

- 【第1回】陸上競技の運動特性の理解、歩・走運動：走・跳・投種目の運動特性と運動構造の理解（理論と実践）を目指す
- 【第2回】短距離走・リレー：短距離走における運動特性、技術（スタート・加速・等速・減速局面、バトンパス）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第3回】ハードル走①：ハードル走における運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第4回】ハードル走②：ハードル走における運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第5回】ハードル走③：ハードルにおける運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第6回】走幅跳①：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第7回】走幅跳②：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第8回】走幅跳③：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第9回】走高跳①：走高跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第10回】走高跳②：走高跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第11回】砲丸投①：砲丸投における運動特性、技術（構え・グライド・パワポジション・投げ）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第12回】砲丸投②：砲丸投における運動特性、技術（構え・グライド・パワポジション・投げ）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第13回】リレー：各種リレーにおける運動特性、技術（バトンパスワーク・スタンディングスタート）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第14回】長距離走：長距離走における運動特性、技術（ランニングペース・フォーム）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第15回】まとめ：陸上競技の運動特性や技術について確認し、技能修得上の課題である「つまずき」、「修得のコツ」について実践を通して学んだことや課題について話し合う

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習課題（各30分）

- 【第1回】学校体育における陸上競技の意義についてテキストを参考に事前準備をする。
- 【第2回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第3回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第4回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第5回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第6回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第7回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第8回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第9回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第10回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第11回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第12回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第13回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。
- 【第14回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。

【第15回】各テーマの運動特性や実践方法について調べて事前準備をする。

事後学習課題（各30分）

- 【第1回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第2回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第3回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第4回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第5回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第6回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第7回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第8回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第9回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第10回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第11回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第12回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第13回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第14回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第15回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の最後にまとめとして、学習の達成度を伝えて次回の課題とする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により総合的に判定し、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく5回以上の欠席は評価の対象とせずに「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) タームペーパー未提出者は評価の対象とせずに「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談を行うこと。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	パフォーマンステスト(50) 取り組み姿勢など(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	タームペーパー 30	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストなし
参考書	中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫/小木曾一之(編著)清水茂幸、串間敦郎、得居雅人、小倉幸雄、田附俊一著)/道和書院//978-4-8105-2133-7
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・運動特性、技術、方法、気づきについて毎時ノートにまとめておくこと ・陸上競技用のシューズを履き、実技に適した服装で受講すること ・水分補給用の飲水ボトルを用意すること

授業コード	13109703	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	陸上競技 [対面]				
シラバス執筆(全員)	野口 研治				
シラバス執筆(主)	野口 研治				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

陸上競技は、歩・走・跳・投の運動種目やそれに関わる基礎的な運動能力を発揮して、相手と競争することや自己の能力に挑戦することを楽しむスポーツである。授業では、陸上競技の運動特性や教育的特性を理解し、走・跳・投種目における基本技術、実践的運動手段・方法、および基本的なルール・審判法について学修する。また、技能到達のまとめとして、走・跳・投種目のパフォーマンステストを行う。

到達目標

1. 陸上競技の特性について説明できる。
2. 陸上競技の基本技術、実践的運動手段・方法や、ルール・審判法について説明できる。
3. 走・跳・投種目について一定基準以上のパフォーマンスを発揮できる。

授業計画

- 【第1回】陸上競技の運動特性の理解、歩・走運動：走・跳・投種目の運動特性と運動構造の理解（理論と実践）を目指す
- 【第2回】短距離走・リレー：短距離走における運動特性、技術（スタート・加速・等速・減速局面、バトンパス）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第3回】ハードル走①：ハードル走における運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第4回】ハードル走②：ハードル走における運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第5回】ハードル走③：ハードルにおける運動特性、技術（アプローチ・ハードリング・インターバル）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第6回】走幅跳①：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第7回】走幅跳②：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第8回】走幅跳③：走幅跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中・着地）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第9回】走高跳①：走高跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第10回】走高跳②：走高跳における運動特性、技術（助走・踏切準備・踏切・空中）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第11回】砲丸投①：砲丸投における運動特性、技術（構え・グライド・パワポジション・投げ）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第12回】砲丸投②：砲丸投における運動特性、技術（構え・グライド・パワポジション・投げ）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第13回】リレー：各種リレーにおける運動特性、技術（バトンパスワーク・スタンディングスタート）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第14回】長距離走：長距離走における運動特性、技術（ランニングペース・フォーム）、運動手段・方法について学ぶ
- 【第15回】まとめ：陸上競技の運動特性や技術について確認し、技能修得上の課題である「つまずき」、「修得のコツ」について実践を通して学んだことや課題について話し合う

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習課題（各30分）

- 【第1回】学校体育における陸上競技の意義についてテキストを参考に事前準備をする。
- 【第2回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第3回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第4回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第5回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第6回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第7回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第8回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第9回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第10回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第11回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第12回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第13回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。
- 【第14回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。

【第15回】各テーマの運動特性や実践方法についてテキストを読んで事前準備をする。

事後学習課題（各30分）

- 【第1回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第2回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第3回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第4回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第5回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第6回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第7回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第8回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第9回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第10回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第11回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第12回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第13回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第14回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。
- 【第15回】授業の内容・気づきについてノートなどにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の最後にまとめとして、学習の達成度を伝えて次回の課題とする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により総合的に判定し、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく5回以上の欠席は評価の対象とせずに「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) タームペーパー未提出者は評価の対象とせずに「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談を行うこと。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	パフォーマンステスト(50) 取り組み姿勢など(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	タームペーパー(30)	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストなし
参考書	中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫/小木曾一之(編著)清水茂幸、串間敦郎、得居雅人、小倉幸雄、田附俊一著)/道和書院//978-4-8105-2133-7
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・運動特性、技術、方法、気づきについて毎時ノートにまとめておくこと ・陸上競技用のシューズを履き、実技に適した服装で受講すること ・水分補給用の飲水ボトルを用意すること

授業コード	13080301	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	バスケットボール [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 亜紀子				
シラバス執筆(主)	佐藤 亜紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

バスケットボールの技術に対する理論的裏づけを説明し、個人的技能、集団的技能の向上を図るとともに、バスケットボール教科の指導を行うために必要な基礎的知識などを身につける授業を展開する。教科を深めるために、バスケットボールの技術構造の理解の上に立って、見本として必要な基礎・基本技術を実践により習得することを目的とする。また、審判方法に関係する基本的なルールを知ることも目的である。

到達目標

- バスケットボールの基本的な技能及び知識を習得する
技術については、
ボールハンドリング：1分半以内に全ての課題をクリアできる
ドリブル&ランニングシュート：5本中3本以上決めることが出来る(左右)
マイカンドリル：30秒間で10本以上決めることが出来る
知識については、3×3及び5人制のルールを習得する
- 模擬授業(導入)の指導案を作成し授業を行うことが出来る
- 模擬授業に参加し評価することが出来る

授業計画

- 【第1回】
テーマ：ガイダンス(筆記用具を用意すること)
内容・方法：バスケットボールの基礎理論Ⅰ
- 【第2回】
テーマ：ファンダメンタル1
内容・方法：ボールハンドリング、マイカンドリル(リバウンドシュート)、フットワーク
- 【第3回】
テーマ：ファンダメンタル2
内容・方法：ボールハンドリング、ドリブルシュート、1on1
- 【第4回】
テーマ：ハーフコート2on1
内容・方法：ボールハンドリング、パスワーク、パス&ランニングシュート、2on1ゲーム
- 【第5回】
テーマ：ハーフコート2on2
内容・方法：ボールハンドリング、ディフェンスの考え方、パススティールゲーム、2on2ゲーム
- 【第6回】
テーマ：ハーフコート3on2
内容・方法：ボールハンドリングスキルテスト①、スペースの使い方について、3on2ゲーム
- 【第7回】
テーマ：ハーフコート3on3①
内容・方法：マイカンドリルスキルテスト①、3×3ルールの確認及びカスタマイズルールの構築、3×3ゲーム
- 【第8回】
テーマ：ハーフコート3on3②
内容・方法：ドリブル&ランニングシュートスキルテスト①、スクリーンとは、スクリーン練習、3×3ゲーム
- 【第9回】
テーマ：ハーフコート3on3③
内容・方法：チーム練習、3×3ゲーム
- 【第10回】
テーマ：ハーフコート3on3④
内容・方法：ボールハンドリングスキルテスト②、チーム練習、3×3ゲーム
- 【第11回】
テーマ：ハーフコート3on3→3men
内容・方法：マイカンドリルスキルテスト②、オールコートランニングシュート(3men)、ハーフコート3on3→3menゲーム
- 【第12回】
テーマ：オールコート4on4
内容・方法：ドリブル&ランニングシュートスキルテスト②、ハーフコート4on4→4menゲーム
- 【第13回】
テーマ：オールコート5on5①
内容・方法：5人制ルールの確認及びカスタマイズルールの構築、5on5ゲーム
- 【第14回】
テーマ：オールコート5on5②
内容・方法：チーム練習、5on5ゲーム、スキルテスト未合格者再テスト
- 【第15回】
テーマ：オールコート5on5③

内容・方法：チーム練習、5on5ゲーム、スキルテスト未合格者再テスト

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

バスケットボールのルールや競技特性を習得するため、毎回につき1.5時間ほどの事前学習と1.5時間ほどの事後学習が必要です

事前学修課題：実技内容(目的・内容)についてテキスト及び配布資料を読んで理解を深めておくこと

事後学修課題：前回の実技内容についてテキストなどを利用し復習しておくこと。また、模擬授業のフィードバックコメントを提出する。

課題に対するフィードバックの方法

技術に対する評価は、授業内にその場で行う

また、別途課題を課した場合はGoogle classroom内でフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

授業の欠席5回以上(遅刻3回で欠席1回とすることを含む)は、評価の対象外とする。

教職免許取得希望者は、模擬授業の指導案未作成は、評価の対象外とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取り組み(参加・意欲・態度・協力・主体性・協調性等) 教職免許取得希望者は、模擬授業の実施を含む 3つのスキルテスト	1, 2, 3
授業外での評価	30	レポート課題 教職免許取得希望者は、模擬授業の指導案作成を含む	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	全授業終了後にまとめレポートを提出	1
その他	0		

テキスト

適宜プリントを配布又はGoogle classroomに掲示する

参考書

中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 386円
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 478円
日本バスケットボール協会編「バスケットボール指導教本」大修館書店

履修条件・他の科目との関連

運動にふさわしい服装、室内シューズを着用し、時計や装飾品(ピアス、ヘアピンなど)は身に付けないこと。
コートや用具の安全を確認し、自他の健康・安全に留意して受講すること。

授業コード	13084801	授業形態	実技	実務家教員	○
授業科目名	バレーボール [対面]				
シラバス執筆(全員)	福田 康弘				
シラバス執筆(主)	福田 康弘				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

バレーボールに必要なパス（オーバーハンド・アンダーハンド）、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ等の基本的個人技術と各動作に伴う身体の使い方等々技術修得に焦点を当てる。実践前後のストレッチ、ウォーミングアップ、プレー上での安全管理（ケガ防止）（服装）等の基礎を説明し、みんなで理解し、実施する。本授業における試合運営については、構成メンバーと役割、コート面積、ネットの高さ（男女、年齢別）等を理解すると共に、基本ルールを説明し学生が理解する。尚、授業後の評価、ノート提出による復習にてフィードバックを行うことで更なる理解を深めながら基本的技術習得から実践的試合形式へ授業展開していく。国内女子トップリーグ（監督）や日本女子代表チーム（U-18、U-20、A代表）でのコーチング経験をベースに実務家教員として「わかりやすいバレーボール授業」を展開する。

到達目標

個人で基本技術を取得しながら、チームプレーでの3段攻撃（サーブレシーブ→トス→スパイク）習得しゲーム中に展開（ラリー継続）できるようする。
 1 アンダーパス全般の重要性を理解し、次に正確に繋げることができる
 2 オーバーパス全般の重要性を理解し、次に正確に繋げることができる
 3 色々な攻撃の方法（スパイク）を理解し、得点に繋がる展開についてみんなで考えることができる
 4 コート内にボールを落としてはいけない様々な状況を理解しどの手法を使うのが適切か判断しながらゲームを進行できる

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容・方法：授業方針・構成とバレーボールの魅力について（歴史・バレーボールの種類・ルール・用具、器具について）

【第2回】

テーマ：ウォーミングアップと円陣パス

内容・方法：安全に競技を行うためのウォーミングアップとラリーが続く楽しさについて（バレーボールに慣れる）

【第3回】

テーマ：色々なパスのコントロール練習及び継続及び声の重要性とノート提出

内容・方法：バレーボール競技における様々なパスの回数コントロール（オーバーハンドパス、左右ワンハンドパス）

【第4回】

テーマ：オーバーハンドパスの正確性の修得とノート提出

内容・方法：オーバーハンドパスのポイント（コントロール・距離）を知る→基本的パス・2段トス・バックス

【第5回】

テーマ：アンダーハンドパスの正確性の修得とノート提出

内容・方法：アンダーハンドパスのポイント（コントロール・距離）を知る→基本的パス・対人レシーブ・サーブレシーブの実践

【第6回】

テーマ：色々な場面でのアンダーパスの種類と重要性とノート提出

内容・方法：チャンスボール返球・強打レシーブの実践

【第7回】

テーマ：サーブの種類及びスパイクのステップの基本動作の習得とノート提出

内容・方法：サーブ（アンダーサーブ・フローターサーブ）の距離・スピードとコース打ち及びスパイク助走とスイング（ミート）

【第8回】

テーマ：サーブの種類及びスパイクのステップの基本動作の習得Ⅱとノート提出

内容・方法：サーブ（ターゲットを狙うサーブ練習法、タイミングを意識したスパイクの実践

【第9回】

テーマ：攻撃力の向上（スパイク力の安定）の重要性とノート提出

内容・方法：クロス・ストレートのコース打ちを意識して安定性を高める

【第10回】

テーマ：色々な攻撃と総合的なチーム練習とノート提出

内容・方法：色々なスパイク攻撃の応用技術（クイック・時間差攻撃・ダイレクトスパイクなど）

【第11回】

テーマ：ブロックの目的と形及びシステムの理解とノート提出

内容・方法：ブロックステップ（オープンステップ・クロスステップ）及び手の出し方の実践

【第12回】

テーマ：ゲーム①とノート提出

内容・方法：チーム分けによるリーグ戦実施

【第13回】

テーマ：ゲーム②とノート提出
内容・方法：チーム分けによるリーグ戦実施

【第14回】

テーマ：ゲーム①とノート提出
内容・方法：チーム分けによるリーグ戦実施

【第15回】

テーマ：実技確認
内容・方法：基礎技術と連携プレー（正確なパス及び対応力を対人レシーブの継続及びサブコントロールにて確認）

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】

- (1) 事前学習課題：シラバスの確認
- (2) 事後学習課題：講義で行った内容を次回授業に活かす

【第2回】

- (1) 事前学習課題：ルールについて調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容を次回授業で活かす

【第3回】

- (1) 事前学習課題：パスの種類について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第4回】

- (1) 事前学習課題：オーバーハンドパスの方法について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第5回】

- (1) 事前学習課題：アンダーハンドパスの方法について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第6回】

- (1) 事前学習課題：強打レシーブ・チャンスボールについて調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第7回】

- (1) 事前学習課題：サーブの基本動作について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第8回】

- (1) 事前学習課題：スパイクの基本動作について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第9回】

- (1) 事前学習課題：攻撃的な攻撃、守備について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第10回】

- (1) 事前学習課題：クイックスパイクの種類・基本動作について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第11回】

- (1) 事前学習課題：ブロックの基本動作について調べる、効果的な攻撃、守備について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第12回】

- (1) 事前学習課題：チームの戦術について調べる
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第13回】

- (1) 事前学習課題：前回のゲームを踏まえ、戦術を考える
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第14回】

- (1) 事前学習課題：前回のゲームを踏まえ、戦術を考える
- (2) 事後学習課題：実技で行った内容をバレーボールノートに記入

【第15回】

- (1) 事前学習課題：全講義の復習と基本動作について確認と、実技確認と期末レポート提出

課題に対するフィードバックの方法

各自インターネット情報やYouTube動画等を使いルールや動作について調べることを事前学修課題とする。また講義内容や動作技術についてバレーボールノートへの記入を事後学修課題とし、おおよそ約1時間の予習復習を求めたい。

成績評価の方法・基準(方針)

実技種目のため出席を重視します。従って授業態度と貢献度、実技確認、期末レポート課題で総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。また、正当な理由なく3回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	72	出席(60)技術確認(12)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	18	バレーノート作成まとめ(18)	1, 2, 3
定期試験	10	期末レポート、取り組み姿勢(10)	3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	実技授業のためテキストを使用しない		
------	-------------------	--	--

参考書	日本バレーボール協会編集「コーチングバレーボール基礎編」		
-----	------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>実技授業なので必ず運動に適した服装(ジャージ、トレーナー等)、滑らない体育館用シューズ(外履きNG)を準備し、授業に出席すること。運動に適さない場合は出席を認めない。コートや用具の安全を確かめ、自他の健康、安全に注意して、練習、ゲームができるようにする。学生全員で準備・片付け実施。授業には自主的且つ積極的に参加することを望む。</p>		
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13084901	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	サッカー [対面]				
シラバス執筆(全員)	中尾 拓				
シラバス執筆(主)	中尾 拓				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

サッカーの技術に対する理論的裏づけを説明し、個人的技能、集団的技能の向上を図るとともに、教科の指導を行うために必要な基礎的知識などを身につけることができる。教科を深めるために、サッカーの技術構造の理解の上に立って、見本として必要な基礎・基本技術を実践により習得することを目的とする。また、審判方法に関係する基本的なルールを知ることも目的である。

到達目標

1. サッカーの基礎的技術を習得することを目指す
2. サッカーの指導を行う基礎知識を身につける
3. 仲間と共に安全に配慮しながら活動を行う
4. 主体的に活動を行う

授業計画

- * すべての回にGame形式が入ります
- * 参加人数、天候や状況により、内容が変更となることがあります。

【第1回】 テーマ: ガイダンス<筆記用具>を用意 内容・方法: オリエンテーション、ルールづくり
【第2回】 テーマ: 基礎(個人) 技術の習得① 内容・方法: ドリブル、シュート、動きづくり
【第3回】 テーマ: 基礎(個人・複数) 技術の習得② 内容・方法: ドリブル、パス、動きづくり
【第4回】 テーマ: 基礎(個人・複数) 技術の習得③ 内容・方法: パス、シュート、動きづくり
【第5回】 テーマ: 基礎(個人、グループ) 技術/対人技術の習得①(ドリブル)
方法: 各種ドリブル、パス&コントロール、守備がある中でのプレー発揮
【第6回】 テーマ: 基礎(個人、グループ) 技術/対人技術の習得②(パス)
方法: 各種パス&コントロール、守備がある中でのプレー発揮
【第7回】 テーマ: グループ戦術① 内容・方法: 組織的な攻撃
【第8回】 テーマ: グループ戦術② 内容・方法: 組織的な守備
【第9回】 テーマ: ゲームの運営
内容・方法: ゲームの運用、審判方法など
【第10回】～【第15回】 テーマ: 模擬授業
内容・方法: 導入10分、メイン20分を担当、最後に全員から評価表を受け取る

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。ルールや競技特性を習得するため、毎回につき1.5時間ほどの事前学習と1.5時間ほどの事後学習が必要です

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う
その他必要に応じて適宜コミュニケーションをとりながら実施

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。ただし、正当な理由なく3回以上欠席した場合ならびにレポート(指導案等)の未提出は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業に対する積極的な取り組み(45) ドリブル、キック、などの基礎技術の習得度(5) 指導を行う基礎知識(10) 仲間と共に安全に配慮しながら活動を行う(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	指導案等のプリント・提出物の作成、振り返り(20)	1, 2, 3, 4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート提出・完成度(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	適宜配布		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介		
履修条件・他の科目との関連	運動にふさわしい服装とシューズを着用し、時計や装飾品は身につけない。コートや用具の安全を確認し、自他の健康安全に留意して受講すること。		

授業コード	13019101	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	器械運動 [対面]				
シラバス執筆(全員)	内藤 恵				
シラバス執筆(主)	内藤 恵				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

器械運動の運動特性の理解を深めるとともに、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の基本技及び発展技の実践と、その種目の具体的な指導法と安全な補助法を身につける。
さらに、自己の能力に応じた技を習得すること、技が円滑にできるための体の動かし方や具体的な練習方法など、個人が自ら考え、様々な運動課題の解決に取り組む実践的指導方法も学習する。

到達目標

器械運動の運動特性の理解を深める
 1. マット、鉄棒、跳び箱運動の基本技及び発展技の説明・実践できるようにする
 2. 具体的な指導方法と安全な補助法による実践的指導ができる力を身に付ける
 3. 各種目の具体的な指導法と安全な補助法を身に付ける

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：器械運動概論
 内容・方法：半期間における器械運動の内容説明、および基本運動の実践。
- 【第2回】
 テーマ：マット運動
 内容・方法：マット運動の基本回転系種目の説明と実践。
- 【第3回】
 テーマ：マット運動
 内容・方法：マット運動の支持系種目の説明と実践。
 補助法の説明と種目練習
- 【第4回】
 テーマ：跳び箱運動
 内容・方法：跳び箱運動の基本運動種目の説明と実践。
- 【第5回】
 テーマ：跳び箱運動
 内容・方法：跳び箱運動の技術内容の説明と実践。
 補助法の説明と種目練習
- 【第6回】
 テーマ：鉄棒運動
 内容・方法：鉄棒運動の基本運動種目の説明と実践。
- 【第7回】
 テーマ：鉄棒運動
 内容・方法：鉄棒運動の技術内容の説明と実践。
 補助法の説明と種目練習
- 【第8回】
 テーマ：各自練習
 内容・方法：各種目、技の習得に向けての種目練習
- 【第9回】
 テーマ：各自練習
 内容・方法：各種目、技の習得に向けての種目練習
- 【第10回】
 テーマ：発展技
 内容・方法：発展技の技術内容の説明と実践
 各種目、技の習得に向けての種目練習
- 【第11回】
 テーマ：各自練習と技の習熟度テスト
 内容・方法：各自、種目練習と技の習熟度テスト。
- 【第12回】
 テーマ：各自練習と技の習熟度テスト
 内容・方法：各自、種目練習と技の習熟度テスト。
- 【第13回】
 テーマ：各自練習と技の習熟度テスト
 内容・方法：各自、種目練習と技の習熟度テスト。
- 【第14回】
 テーマ：各自練習と技の習熟度テスト
 内容・方法：各自、種目練習と技の習熟度テスト。
- 【第15回】
 テーマ：各自練習と技の習熟度テスト
 内容・方法：各自、種目練習と技の習熟度テスト。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

必要に応じて、担当教員より指示する。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
つまり、本授業は1単位科目であるため、合計45時間の学習が必要となります。
各授業（2時間）に加えて、事前・事後学習時間が毎回1時間必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：基本運動の大切さを正しく理解し、自らの技術習得ならびに指導に役立たせる。

【第2回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第3回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第4回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第5回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第6回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第7回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第8回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第9回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第10回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第11回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第12回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第13回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。
- ②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第14回】

- ①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。

②事後学修課題：各種目における運動のメカニズムを正しく理解し、各自未習得の技術に対して課題を見つけ出し、次回授業にそなえる。

【第15回】

①事前学修課題：器械運動の性質上、柔軟性が高いことは有利である。無理のない程度に日頃よりストレッチに努める。

②事後学修課題：授業を通じて獲得した技術や指導上の知識を整理し、今後に役立たせる。

課題に対するフィードバックの方法

全体指導を行ったあと、学生の質問等に個別対応を行う。
各自、種目練習時にも個別に対応し、補助や質問に応える。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 授業へ取り組む意欲的な姿勢
- ・ 各種目、基本技及び発展技の習熟度テストの評価
- ・ 最終レポートの内容と質

技の習得のみではなく、具体的な指導法と安全な補助法による実践的指導ができる力を身につけること。

3回以上欠席の学生については、評価対象外（不可）とする。
出席確認後までに来ていない学生は、遅刻とする（2回遅刻で1回欠席）
授業開始後、30分を過ぎる場合は欠席扱いとする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業へ取り組む意欲的な姿勢 各種目、技の習熟度テストの評価	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	最終レポートの内容と質	3
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
------	-------------

参考書	
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・ 運動に適した服装を着用すること・ 装飾品は外すこと・ 髪が肩にかかる場合は結うなど、邪魔にならないようにすること 教員関連科目であるため、指導者を目指す者の態度、意欲で受講してください。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13085001	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ソフトボール [対面]				
シラバス執筆(全員)	生方 美奈子				
シラバス執筆(主)	生方 美奈子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ソフトボールは、老若男女に生涯スポーツとして親しまれ、仲間と楽しむことのできるスポーツである。また、学校体育でも多く取り入れられており、中学校ではベースボール型球技が必修となっている。授業では、スローピッチソフトボールとファーストピッチソフトボールのそれぞれのルールを理解し、ソフトボールに必要な守備・打撃・走塁の基本技術を獲得する。また、それらの基本的技術構造を解説し、具体的な指導方法についても学修する。チームの特徴を生かして作戦を立て、具体的な実践の場面で協力しながら攻撃や防衛が出来るようにするとともに、安全な試合運営方法も修得する。また、経験者・初心者関係なく学生間同士でコーチングをすることで、技術や戦術の理解を深め、アドバイスの仕方などの指導力を身につける。そのため自らが積極的に授業や仲間に関わり、主体的に取り組むことを望む。

到達目標

1. ソフトボールの基礎技術（守備、打撃、走塁）について、中学・高校の体育教員として見本となることのできる。
2. ルールを理解し、試合で実践できる。また、メンバー構成や場所によって、ルールや道具を工夫できる。
3. 安全な運営方法を習得し、実践できる。
4. ゲームでは、チームの特性を活かして作戦を立て、仲間と協力し合うことができる。
5. 初心者への指導方法を学修し、他者へアドバイスすることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方、ベースボール型球技・ソフトボールについての基礎理論）
 第2回 キャッチボール基礎①（初心者への投動作指導について、遠くに投げる）
 第3回 キャッチボール基礎②（素早く正確に投げる）
 第4回 捕球基礎①（初心者への守備動作指導について、ゴロ、フライ捕球）
 第5回 捕球基礎②（捕球から送球動作へつなげる）
 第6回 バッティング基礎①（初心者への打撃指導、スイング）
 第7回 バッティング基礎②（ティー台を使用するバッティング）
 第8回 バッティング基礎③（遠くに打つ）
 第9回 走塁とルールの理解（ミニゲームを通して理解をする）
 第10回 投手の投球技術（学校体育ソフトボールのスタンダード投法、競技ソフトボールのウインドミル投法）
 第11回 ゲーム1（安全なゲームの進め方、審判方法）
 第12回 ゲーム2（チーム別課題練習、ルールの工夫）
 第13回 ゲーム3（チーム別課題練習、ルールの工夫）
 第14回 ゲーム4（チーム別課題練習、ルールの工夫）
 第15回 ゲーム5（チーム別課題練習、ルールの工夫、まとめ）
 ※雨天時は、室内にて実施。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

必要に応じて、担当教員より指示する。
 基本技術の解説、練習方法の理解を深めるために、図書室にあるソフトボールに関する書籍やDVDを事前に確認しておく。また、技術を習得しやすくするために、テレビ、インターネット、SNSなどでプロ野球・ソフトボールの試合やプレーを見て、イメージ作りをしておくこと。また事後には、次回授業への課題を明確にするために、その日の授業内容、技術のコツ、など学んだこと、気が付いたことなどを振り返りシートにまとめて提出をする。

課題に対するフィードバックの方法

技術に対する評価は、授業内にその都度行う。
 また毎時間の最後にまとめとして、学習の達成度を伝え、次回の課題とする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の評価方法により、総合的に評価する。
 授業の欠席4回以上は、評価の対象外とする。(遅刻2回で欠席1回とする)
 ※やむをえない事情がある場合には、事前に報告・連絡・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業に対しての取り組み姿勢(30) 走塁・打撃・守備 技術点(30)	1, 2, 3, 4, 5

		ルールの理解(10) 他者へアドバイスをするなど関わる姿勢(5)	
授業外での評価	15	毎時の振り返りシート提出(15)	2, 3, 4, 5
定期試験	0	0	
定期試験に代わるレポート等	10	初心者への指導法についてレポート(10)	5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず必要に応じてプリントを配布する。
------	---------------------------

参考書	中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 文部科学省
-----	---------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・実技に適した服装、シューズで受講すること。アクセサリ類は授業前に外しておくこと。 ・水分補給用の飲水ボトルを用意すること。 ・グラウンドや用具の安全を確認し、自他の健康・安全に留意して受講すること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13109801	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ニュースポーツ（アダプテッドスポーツ含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

仲間との交流、家族のふれあい、健康・体力づくり等様々な目的で行われている「手軽に楽しめるスポーツ」「生涯スポーツ」として「ニュースポーツ」が近年積極的に取りあげられている。子どもから老人まで、障害の有無にかかわらず、だれもが、いつでも、どこでも、気軽に楽しめるレクリエーションとして、地域の人々のスポーツライフに多いに役立つよう普及・定着することが期待されている。

こうした目的に合うスポーツの種目としては

- ①個人の能力を生かし楽しめる
- ②適度な運動量、安全性が高い
- ③ルールが易しい
- ④短時間で技術修得、などの要素が必要であると考えられる。

「ニュースポーツ」は、生涯スポーツの目的にあったより親しみやすく爽快感を味わえる種目として、地域の人々の豊かさスポーツライフに大いに役立つよう、普及・定着することが期待されている。

上記を理解しながら、教育実習や地域スポーツ教室などで教えることの出来るレベルまでスキルの習得を追求する。

到達目標

1. スポーツ＝競技スポーツという狭い枠から抜け出し、幅広いスポーツ経験を体験する機会を持ち、楽しんでスポーツをする、楽しんで体を動かす事の大切さを説明できる。
2. ニュースポーツの特性を理解し、自らプログラムを作成し、そのスキルや楽しさ説明できる。
3. 学校や地域スポーツの現場で「ニュースポーツ」を安全に指導する上で必要な知識やスキルを身につけて応用できる。

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス（教室）
- 【第2回】 フライングディスク（スローイング）
- 【第3回】 フライングディスク（スローイング、コントロールテスト）
- 【第4回】 フライングディスク（ドッジビー）
- 【第5回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第6回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第7回】 キンボール（リードアップゲーム）
- 【第8回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第9回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第10回】 ソフトバレーボール
- 【第11回】 インディアカ
- 【第12回】 シャッフルボード
- 【第13回】 モルック
- 【第14回】 モルック
- 【第15回】 今期まとめ（テスト）

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

- 【第1回】
 - ①事前学修課題：シラバスを確認しておく
 - ②事後学修課題：授業の内容を確認しておく
- 【第2回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第3回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第4回】
 - ①事前学修課題：ドッジビーの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第5回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第6回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第7回】

- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第8回】
 ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第9回】
 ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第10回】
 ①事前学修課題：ソフトバレーボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第11回】
 ①事前学修課題：インディアカの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第12回】
 ①事前学修課題：シャッフルボードの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第13回】
 ①事前学修課題：モルックの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第14回】
 ①事前学修課題：モルックのアレンジ版プログラムをグループで作成する
 ②事後学修課題：作成したプログラムを実践し課題をみつける
 【第15回】
 ①事前学修課題：前回までの授業内容の確認
 ②事後学修課題：今後の指導に活かすことができるよう、授業内容をまとめる
 ※事前、事後学習には各々2時間程度をかけて学習すること

課題に対するフィードバックの方法

課題の技術習得については即時のアドバイスをを行い、できなければ必要に応じて補講を行う。
 期末の試験については試験終了後、採点を行い、理解が進まなかったところについてはclassroomにて解説を加える。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由のない欠席が3回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	下記の評価項目で総合的に判定する。 ・到達目標への積極的取り組み(特に①安全に配慮できているか、②対人関係構築のために積極的に働きかけているか) 授業準備への積極的参加(授業前の施設環境整備、用具の出し入れなど) 授業進行への積極的協力(自ら動き、スムーズな時間進行に協力できているか) 感染症対策に対する取り組み(授業開始前の検温、手指消毒、用具の消毒が確実にできているか) 出席状況	1, 2
授業外での評価	30	・各回授業後に出题される確認テストの提出状況とテスト結果	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	・期末の理解度テスト ルールの理解、ゲーム成立の背景の理解、Classroomにアップする資料に目を通して自学自習を進めたか	1, 2
その他	0		

テキスト 公認スポーツ指導者養成講習会用テキスト「リファレンスブック」: JSPO(日本スポーツ協会)出版

参考書 適宜指示する

履修条件・他の科目との関連
 ・正当な理由のない3回の欠席でK評価(評価不能)とする。
 ・遅刻および早退3回で欠席1回と評価する。
 ・学外実習や課外活動等による欠席は「公欠ではない」ので注意すること。
 ・本授業は対面で行うが、途中、天候や施設の利用状況、コロナ感染症の対応などでA班とB班に分かれ前後半45分2交代制(対面)で行う場合がある。
 ・この授業は、対面授業である。
 ・授業に関する連絡や課題案内はすべてClassroomに提示する。

授業コード	13109802	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ニュースポーツ（アダプテッドスポーツ含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 誠之				
シラバス執筆(主)	佐藤 誠之				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

仲間との交流、家族のふれあい、健康・体力づくり等様々な目的で行われている「手軽に楽しめるスポーツ」「生涯スポーツ」として「ニュースポーツ」が近年積極的に取りあげられている。子どもから老人まで、障害の有無にかかわらず、だれもが、いつでも、どこでも、気軽に楽しめるレクリエーションとして、地域の人々のスポーツライフに多いに役立つよう普及・定着することが期待されている。

こうした目的に合うスポーツの種目としては

- ①個人の能力を生かし楽しめる
- ②適度な運動量、安全性が高い
- ③ルールが易しい
- ④短時間で技術修得、などの要素が必要であると考えられる。

「ニュースポーツ」は、生涯スポーツの目的にあったより親しみやすく爽快感を味わえる種目として、地域の人々の豊かさスポーツライフに大いに役立つよう、普及・定着することが期待されている。

上記を理解しながら、教育実習や地域スポーツ教室などで教えることの出来るレベルまでスキルの習得を追求する。

到達目標

1. スポーツ＝競技スポーツという狭い枠から抜け出し、幅広いスポーツ経験を体験する機会を持ち、楽しんでスポーツをする、楽しんで体を動かす事の大切さを説明できる。
2. ニュースポーツの特性を理解し、自らプログラムを作成し、そのスキルや楽しさ説明できる。
3. 学校や地域スポーツの現場で「ニュースポーツ」を安全に指導する上で必要な知識やスキルを身につけて応用できる。

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス（教室）
- 【第2回】 フライングディスク（スローイング）
- 【第3回】 フライングディスク（スローイング、コントロールテスト）
- 【第4回】 フライングディスク（ドッジビー）
- 【第5回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第6回】 フライングディスク（アルティメット）
- 【第7回】 キンボール（リードアップゲーム）
- 【第8回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第9回】 キンボール（コンペティションゲーム）
- 【第10回】 ソフトバレーボール
- 【第11回】 インディアカ
- 【第12回】 シャッフルボード
- 【第13回】 モルック
- 【第14回】 モルック
- 【第15回】 今期まとめ（テスト）

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

- 【第1回】
 - ①事前学修課題：シラバスを確認しておく
 - ②事後学修課題：授業の内容を確認しておく
- 【第2回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第3回】
 - ①事前学修課題：フライングディスクの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第4回】
 - ①事前学修課題：ドッジビーの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第5回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第6回】
 - ①事前学修課題：アルティメットの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 - ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
- 【第7回】

- ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第8回】
 ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第9回】
 ①事前学修課題：キンボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第10回】
 ①事前学修課題：ソフトバレーボールの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第11回】
 ①事前学修課題：インディアカの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第12回】
 ①事前学修課題：シャッフルボードの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第13回】
 ①事前学修課題：モルックの資料もしくは指定ビデオを見てイメージをつくる
 ②事後学修課題：種目内容と指導方法を整理し、確認テストを行う
 【第14回】
 ①事前学修課題：モルックのアレンジ版プログラムをグループで作成する
 ②事後学修課題：作成したプログラムを実践し課題をみつける
 【第15回】
 ①事前学修課題：前回までの授業内容の確認
 ②事後学修課題：今後の指導に活かすことができるよう、授業内容をまとめる
 ※事前、事後学習には各々2時間程度をかけて学習すること

課題に対するフィードバックの方法

課題の技術習得については即時のアドバイスをを行い、できなければ必要に応じて補講を行う。
 期末の試験については試験終了後、採点を行い、理解が進まなかったところについてはclassroomにて解説を加える。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由のない欠席が3回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	下記の評価項目で総合的に判定する。 ・到達目標への積極的取り組み(特に①安全に配慮できているか、②対人関係構築のために積極的に働きかけているか) 授業準備への積極的参加(授業前の施設環境整備、用具の出し入れなど) 授業進行への積極的協力(自ら動き、スムーズな時間進行に協力できているか) 感染症対策に対する取り組み(授業開始前の検温、手指消毒、用具の消毒が確実にできているか) 出席状況	1, 2
授業外での評価	30	・各回授業後に出题される確認テストの提出状況とテスト結果	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	・期末の理解度テスト ルールの理解、ゲーム成立の背景の理解、Classroomにアップする資料に目を通して自学自習を進めたか	1, 2
その他	0		

テキスト 公認スポーツ指導者養成講習会用テキスト「リファレンスブック」: JSPO(日本スポーツ協会)出版

参考書 適宜指示する

履修条件・他の科目との関連
 ・正当な理由のない3回の欠席でK評価(評価不能)とする。
 ・遅刻および早退3回で欠席1回と評価する。
 ・学外実習や課外活動等による欠席は「公欠ではない」ので注意すること。
 ・本授業は対面で行うが、途中、天候や施設の利用状況、コロナ感染症の対応などでA班とB班に分かれ前後半45分2交代制(対面)で行う場合がある。
 ・この授業は、対面授業である。
 ・授業に関する連絡や課題案内はすべてClassroomに提示する。

授業コード	13073201	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ダンス [対面]				
シラバス執筆(全員)	本山 彩乃				
シラバス執筆(主)	本山 彩乃				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ダンスは身体全体を使ってリズムカルな動きを楽しむ運動である。

2012年度から中学校ではダンスが男女必修化され、中学校・高等学校で実施されるダンスには、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の3つに分類される。

本授業では、教育実習や教員また指導者としてダンス授業ができるように、上記3つのダンスの基礎を習得し、人前に立つ力・考える力を養うことも目的とする

到達目標

1. フォークダンスで動きやステップを覚え、リズムカルに正確におどることができるようにする
2. 創作ダンスで動きを見つけ、工夫し、動きを創作・構成する力をつける
3. 現代的なリズムのダンスで基本的なステップを踏みリズムカルに大きくおどることができるようにする
4. ダンスについて幅広く理解を深める
5. 学習した内容を指導者の視点を持ち考える

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション・ダンスの体験
 テーマ：オリエンテーション・ダンスの体験とフォークダンスの基本ステップ
 内容・方法：ダンスを体験し、フォークダンスで使われるステップを学習する
- 【第2回】フォークダンス
 テーマ：基本ステップ
 内容・方法：フォークダンスのおどり覚える
- 【第3回】フォークダンス
 テーマ：動きのテスト
 内容・方法：動きを正確に動く
- 【第4回】創作ダンス 現代的なリズムダンス
 テーマ：アイソレーションやリズム・ステップの体験
 内容・方法：アイソレーションやステップの練習し習得する、音楽に合わせておどる
- 【第5回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習し、振付を覚える
 内容・方法：習得したステップを覚え練習し、リズムに乗っておどる
- 【第6回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習 振付を覚える
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、他のグループに指導する
- 【第7回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習 振付を覚える
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、他のグループに指導し発表する
- 【第8回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習 振付を覚える
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、指導し発表する
- 【第9回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：振付を覚え、練習し発表に向けて準備する
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、指導し発表する
- 【第10回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：テスト
 内容・方法：覚えたリズムダンスと考えた動きをリズムに乗っておどる
- 【第11回】創作ダンス
 テーマ：創作ダンスの映像を見てテーマを考える
 内容・方法：創作ダンスの映像を見てそれぞれの物語の起承転結を考え、動きを見つける
- 【第12回】創作ダンス

テーマ：スポーツ、日常生活、言葉や感情などから動きを見つける グループ創作①
 内容・方法：いろいろなテーマから動きを見つけ、ダンスの動きに発展させる・発表テーマを考える

【第13回】創作ダンス
 テーマ：グループ創作②
 内容・方法：起承転結を考え、使用する音楽を探し、動きを考える

【第14回】創作ダンス
 テーマ：グループ創作③
 内容・方法：構成も合わせて動きをつなげ、修正や最終調整を行う

【第15回】創作ダンス
 テーマ：テスト
 内容・方法：自分たちで創作したダンスを発表する

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回～第4回】
 ①事前学修課題：中学校・高等学校のダンスについて調べておく
 ②事後学修課題：授業で学んだことについてまとめ、動きの練習をする

【第5回～第10回】
 ①事前学修課題：リズムカルな動きについて、中高学生時代に学んだ経験を思い出しておく
 ②事後学修課題：名前とステップを一致させ、動きを練習する

【第11回～第15回】
 ①事前学修課題：特徴のある動きや日常生活でどのような動きがあるか考え、自分たちで決めたテーマに向けて動きの材料を集める
 ②事後学修課題：今までの授業で学んだことを今回の動きにどう活かせるかまとめ、動きの練習・修正を行う

課題に対するフィードバックの方法

動きのチェックは本人の希望があればチェックすることが可能
 実技に対する評価は本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
 3回以上の欠席は評価対象外とする。
 点呼確認が終わった時点で授業に来ていない者は遅刻扱い、遅刻は1/2欠席とする。

出席・平常：授業への積極的な取り組み姿勢、受講態度
 フォークダンス：リズムカルに正確に動いているか
 現代的リズムダンス：ステップ名と動きの一致、振付に関してリズムカルに大きく動いているか
 創作ダンス：グループ活動への取り組み、関心・意欲、表現力・技術力、イメージ力・テーマ性
 ノート・理論課題：授業および課題の内容を理解し、自分の考えを含め、記述できているか

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	出席・平常(30) フォークダンス(10) 創作ダンス(20) 現代的なリズムダンス(20)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ノート・提出物(10)	4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	理論課題レポート(10)	4, 5
その他	0		

テキスト テキストなし

参考書

履修条件・他の科目との関連
 ダンスに適した動ける服装を着用し、ダンスシューズあるいは運動靴を準備する。
 外靴で室内に入った場合、室内シューズを忘れた場合は減点対象とする。
 教員関連科目であるため、指導者を目指す者の態度・意欲で受講すること。
 受講態度に問題がある場合は速やかに退室願い、欠席扱いとする。

授業コード	13073203	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	ダンス [対面]				
シラバス執筆(全員)	港野 恵美				
シラバス執筆(主)	港野 恵美				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ダンスは身体全体を使ってリズムカルな動きを楽しむ運動である。

2012年度から中学校ではダンスが男女必修化され、中学校・高等学校で実施されるダンスには、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の3つに分類される。

本授業では、教育実習や教員また指導者としてダンス授業ができるように、上記3つのダンスの基礎を習得し、人前に立つ力・考える力を養うことも目的とする

到達目標

1. フォークダンスで動きやステップを覚え、リズムカルに正確におどることができるようにする
2. 創作ダンスで動きを見つけ、工夫し、動きを創作・構成する力をつける
3. 現代的なリズムのダンスで基本的なステップを踏みリズムカルに大きくおどることができるようにする
4. ダンスについて幅広く理解を深める
5. 学習した内容を指導者の視点を持ち考える

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション・ダンスの体験
 テーマ：オリエンテーション・ダンスの体験とフォークダンスの基本ステップ
 内容・方法：ダンスを体験し、フォークダンスで使われるステップを学習する
- 【第2回】フォークダンス
 テーマ：基本ステップ
 内容・方法：フォークダンスのおどり覚える
- 【第3回】フォークダンス
 テーマ：動きのテスト
 内容・方法：動きを正確に動く
- 【第4回】創作ダンス 現代的なリズムダンス
 テーマ：アイソレーションやリズム・ステップの体験
 内容・方法：アイソレーションやステップの練習し習得する、音楽に合わせておどる
- 【第5回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習し、振付を覚える
 内容・方法：習得したステップを覚え練習し、リズムに乗っておどる
- 【第6回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習 振付を覚える
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、他のグループに指導する
- 【第7回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習 振付を覚える
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、他のグループに指導し発表する
- 【第8回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：様々なステップを学習 振付を覚える
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、指導し発表する
- 【第9回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：振付を覚え、練習し発表に向けて準備する
 内容・方法：習得したステップをそれぞれ組み合わせ、指導し発表する
- 【第10回】現代的なリズムのダンス
 テーマ：テスト
 内容・方法：覚えたリズムダンスと考えた動きをリズムに乗っておどる
- 【第11回】創作ダンス
 テーマ：創作ダンスの映像を見てテーマを考える
 内容・方法：創作ダンスの映像を見てそれぞれの物語の起承転結を考え、動きを見つける
- 【第12回】創作ダンス

テーマ：スポーツ、日常生活、言葉や感情などから動きを見つける グループ創作①
 内容・方法：いろいろなテーマから動きを見つけ、ダンスの動きに発展させる・発表テーマを考える

【第13回】創作ダンス
 テーマ：グループ創作②
 内容・方法：起承転結を考え、使用する音楽を探し、動きを考える

【第14回】創作ダンス
 テーマ：グループ創作③
 内容・方法：構成も合わせて動きをつなげ、修正や最終調整を行う

【第15回】創作ダンス
 テーマ：テスト
 内容・方法：自分たちで創作したダンスを発表する

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回～第4回】
 ①事前学修課題：中学校・高等学校のダンスについて調べておく
 ②事後学修課題：授業で学んだことについてまとめ、動きの練習をする

【第5回～第10回】
 ①事前学修課題：リズムカルな動きについて、中高学生時代に学んだ経験を思い出しておく
 ②事後学修課題：名前とステップを一致させ、動きを練習する

【第11回～第15回】
 ①事前学修課題：特徴のある動きや日常生活でどのような動きがあるか考え、自分たちで決めたテーマに向けて動きの材料を集める
 ②事後学修課題：今までの授業で学んだことを今回の動きにどう活かせるかまとめ、動きの練習・修正を行う

課題に対するフィードバックの方法

動きのチェックは本人の希望があればチェックすることが可能
 実技に対する評価は本人の希望があれば翌週以降に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
 3回以上の欠席は評価対象外とする。
 点呼確認が終わった時点で授業に来ていない者は遅刻扱い、遅刻は1/2欠席とする。

出席・平常：授業への積極的な取り組み姿勢、受講態度
 フォークダンス：リズムカルに正確に動いているか
 現代的リズムダンス：ステップ名と動きの一致、振付に関してリズムカルに大きく動いているか
 創作ダンス：グループ活動への取り組み、関心・意欲、表現力・技術力、イメージ力・テーマ性
 ノート・理論課題：授業および課題の内容を理解し、自分の考えを含め、記述できているか

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	出席・平常(30) フォークダンス(10) 創作ダンス(20) 現代的なリズムダンス(20)	1, 2, 3
授業外での評価	10	ノート・提出物(10)	4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	理論課題レポート(10)	4, 5
その他	0		

テキスト テキストなし

参考書 0

履修条件・他の科目との関連
 ダンスに適した動ける服装を着用し、ダンスシューズあるいは運動靴を準備する。
 外靴で室内に入った場合、室内シューズを忘れた場合は減点対象とする。
 教員関連科目であるため、指導者を目指す者の態度・意欲で受講すること。
 受講態度に問題がある場合は速やかに退室願ひ、欠席扱いとする。

授業コード	13057101	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	剣道 [対面]				
シラバス執筆(全員)	高山 昌子				
シラバス執筆(主)	高山 昌子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

生涯スポーツの一つとして、剣道は息の長い種目であることを体験を通して理解を深める。近代スポーツと大きく異なる各種所作や動作を実際に動きを通して体得し、理解を深める。中学校・高等学校保健体育授業の必修科目であることから、初心者が興味関心をもって剣道に親しむ指導技術や内容を実践により修得することを目的とする。剣道の審判方法に関係する基本的なルールを理解することも目的である。

到達目標

1. スポーツと武道の違いについて説明することができる。
2. 剣道の基本技術（所作・足捌き・構え、素振り）を正しくできる。
3. 剣道の防具を正しくつけることができる。
4. 剣道の実践（打返し・打ち込み・受け方・試合）を正しく行うことができる。
5. 剣道のルールを理解し、説明することができる。

授業計画

- 第1回 授業オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール、剣道の用具購入について）
- 第2回 安全事項の徹底・所作 剣道に必要な所作を身につける。竹刀の扱い方・足捌き、防具の着脱（胴・垂）
- 第3回 基本動作（1）踏み込み足・いろいろな素振り
- 第4回 基本動作（2）基本的な技の打ち方を学ぶ。
- 第5回 基本動作（3）「打つ」ということ
- 第6回 基本動作（4）打ち返し（面・胴）
- 第7回 基本動作（5）基本打突（面・小手・胴）、打たせ方・受け方
- 第8回 基本動作（6）基本打突（二段・三段技）、打ち込み
- 第9回 基本動作（7）「気・剣・体」の一致、体当たりの仕方、引き技
- 第10回 基本動作（8）応じ技、打ち込み
- 第11回 互角稽古（1）気剣体一致の技を体得する
- 第12回 互角稽古（2）打突の好機を体得する
- 第13回 互角稽古（3）相手の技に適した技をだす
- 第14回 試合（1）個人戦・審判法を学ぶ
- 第15回 試合（2）団体戦

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

各回を通じて、
 【事前】実技内容について、動画などを利用して動きを予習し、確認しておく。また、わからない内容については質問できるように準備しておく。
 【事後】授業時に学んだ所作や動きの要点、剣道の理論について調べる。また、授業時に実施した各種動きを動画で確認し、個々に次の授業までに理解しておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜、間違いや優れた点の指摘、助言を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 教員免許必須の科目のため、正当な理由なく3回以上の欠席は評価対象とせず「K」評価とする。
- ・ 遅刻および早退は1/3欠席、15分以上の遅刻は欠席扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	正しい防具の着装(10) 基本動作の評価(35) 応用動作の評価(35) 授業時に提示する課題の評価(10)	2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 5
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
------	---------------------------	--	--

参考書	中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 458円 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 552円		
-----	---------------------------------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育教員免許に必要な科目。 ・状況により、実技の内容が一部変更になることもあります。 ・実技科目のため、運動のできる服装(トレーニングウェア)に着替えて参加すること。 ・化粧や、アクセサリー類は事故や怪我につながるので、必ず外すこと。 ・やむなく見学の場合は、授業内レポートを作成し、授業終了時に提出すること。 ・ルールが守れない場合は、受講を取りやめてもらうことがあります。 ・剣道受講には、竹刀他の備品購入が必要です。初回の授業時に説明をするので、必ず出席するようにしてください。 ・備品一覧：竹刀(3.8)鐔・鐔止め、竹刀袋、面下、甲手下手袋、垂袋(330円～3,500円2022年) ・コロナ感染状況によっては、オンライン授業または中止となる可能性があります。 		
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	13085101	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	柔道 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小林 勇介				
シラバス執筆(主)	小林 勇介				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

日本発祥競技でオリンピック種目でもある柔道の歴史について学ぶ。安全に授業を行うために受身など基本動作習得に時間をかける。受身を習得後に立ち技および寝技の基本的な技の習得を目指す。受身、立ち技の基本技、寝技の基本などを習得後に実践形式の試合を行い、ルールや審判法などの学修も行う。柔道は、対人競技であるため相手を尊重することや、仲間と協力し合うことの重要性を学び、実技を通して課題を発見する観察能力を身につけることを目標とする。

到達目標

1. 柔道の歴史と礼儀作法を理解する
2. 柔道衣を正しく着ることができる
3. 受身の特性について理解をし前後左右の受身ができる
4. 前回り受身ができる
5. 立技を理解する
6. 寝技を理解する
7. 試合の作法を理解する

授業計画

第1回：ガイダンス
今後の授業の進め方、成績評価の基準を説明

第2回：基礎知識
柔道の歴史、特性、柔道着の扱い方、礼法など柔道において必要な知識を身に付ける。

第3回：受け身
基本動作である、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身を身に付ける。

第4回：受け身
基本動作である、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身を身に付ける。

第5回：受け身
基本動作である、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身を身に付ける。

第6回：立技
投げ技の基本動作を2人1組になって学ぶ。姿勢、受け身、身体動作、崩し、体さばきを学ぶ。

第7回：立技
投げ技の基本動作を2人1組になって学ぶ。姿勢、受け身、身体動作、崩し、体さばきを学ぶ。

第8回：立技
投げ技の基本動作を2人1組になって学ぶ。姿勢、受け身、身体動作、崩し、体さばきを学ぶ。

第9回：立技
かかり練習、約束練習、自由練習の行い方を身に付ける。

第10回：寝技
固め技の基本動作を2人1組となって学ぶ。固め技の姿勢、簡単な攻め方と返し方を学ぶ。

第11回：寝技
固め技の基本動作を2人1組となって学ぶ。固め技の姿勢、簡単な攻め方と返し方を学ぶ。

第12回：寝技
固め技の基本動作を2人1組となって学ぶ。固め技の姿勢、簡単な攻め方と返し方を学ぶ。

第13回：試合
試合のルールや、審判法を学び簡単な試合を行う。

第14回：試合
試合を行い見つかった課題を修正し、もう一度試合を行う。

第15回：まとめ(団体戦)
グループに分かれ団体戦を行う。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業時に提示された課題について(課題の作成や専門用語の確認など)約1時間の復習を要する。翌授業時に指示された課題を提出する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を翌授業時に提出する。課題内容を確認して後日返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

実技試験が評価の主となるが課題提出も加点对象とする。また、実技授業のため平常点(授業態度や忘れ物)も重視する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	礼儀作法・柔道衣の着こなし・受身・立技・寝技の実演の質	2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	柔道の歴史や礼儀(マナー)についてのレポート及び授業事後のレポート	1
その他	20	第7回目授業で左右前方回転受身の実技テストを実施その質を評価する	3, 4

テキスト	テキストを使用しない。
------	-------------

参考書	必要に応じて資料を配布する。
-----	----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>保健体育教員免許に必要な科目。 半期3回の欠席で成績不可。遅刻早退は1/3欠席、15分以上の遅刻は欠席扱いとする。 化粧やアクセサリー類は怪我や事故につながるので必ず外すこと。 やもなく見学の場合は、授業内容のレポートを作成して授業終了時に提出すること。 授業は学外施設を使用します。施設使用のルールを遵守すること。 柔道衣を持っていないものは初回の授業で注文手続きを行うので必ず出席すること。 柔道衣を持っているものは第2回目の授業から持参すること。 第2回目の授業から下足袋(ビニル袋でかまいません)を持参すること。 初回の授業で説明をするので必ず出席すること。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13003001	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スキー実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志、田中 淳、津吉 哲士、新村 由恵				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、雪山という特別な環境での仲間との集団生活を通じて、団体行動の大切さや仲間との絆、今後の大学生活に積極的に取り組む態度などを確認します。冬季スポーツのひとつであるアルペンスキーについてスポーツ競技や生涯スポーツとして側面を学修し、その理論および基本技術を習得します。また雪山での活動を通じて環境問題や安全管理についても学びます。

到達目標

1. スキーの基礎技術を習得する
2. 規律ある集団生活を通して社会性や人間関係の構築する
3. 指導者としての資質（新しいことに積極的に取り組む態度等）を向上させる
4. 冬季野外スポーツを理解し、環境問題や生涯スポーツとしてのスキーの楽しさを学ぶ

授業計画

第1回	事前指導①	スキー実習の目的および概要／生涯スポーツとしてのスキー
第2回	事前指導②	スキー実習の心構え／スキー事故と安全管理
第3回	事前指導③	スキー実習の注意事項／ウィンタースポーツビジネス
第4回	事前指導④	実習前の最終確認／スキー用具の知識と基礎的な技術
第5回	実技講習①	班分けおよびスキー用具に慣れる
第6回	理論講習①	スキー技術の理論および雪山の知識
第7回	実技講習②	各班にて実技指導
第8回	実技講習③	各班にて実技指導
第9回	スキー技能到達度の確認	班別でのミーティング
第10回	実技講習④	各班にて実技講習
第11回	実技講習⑤	各班にて実技講習
第12回	理論講習②	冬季スポーツ競技とウィンタースポーツ業界
第13回	実技講習⑥	各班にて実技講習
第14回	実技講習⑦	各班にて実技講習
第15回	実技講習⑧	スキー技能到達度確認

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

- 【事前研修】研修内容をしっかりと理解して、不明点などは質問事項として整理しておく。
 【研修期間中】その日の講習内容や感想、反省を実習日誌にまとめて、翌日の講習の準備をする。
 【研修終了後】実習日誌の整理、レポートの作成を通じて本実習の振り返りを行う。

課題に対するフィードバックの方法

講習中に指導者から出される課題や指導に対する質問には、指導の中でその都度対応する。
 また班別ミーティングでは、動画やテキストを使用し、より詳細なフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく事前指導を欠席した場合は、雪上実習に参加することができないため評価の対象とせず、「K」評価とする。
 以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	事前指導での取組み(10)、実習での取組み(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	実習日誌および実習後のレポート(30)	1, 3
その他	30	スキー技術の修得(30)	1, 4

テキスト	実習日誌(必要に応じてプリントを配布する)
------	-----------------------

参考書	全日本スキー連盟 スキー教程
履修条件・他の科目との関連	初回ガイダンスの日程は、UNIPAを通じて連絡します。 すべての事前指導への出席が受講の条件となるので注意すること。

授業コード	13109901	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	キャンプ実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗、高山 昌子、津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

※本授業は、中学校教諭一種免許状（保健体育）および高等学校教諭一種免許状（保健体育）の選択必修科目である（免許取得希望者はキャンプ実習またはスキー実習を履修および単位修得すること）。
 ※※本授業は、公益社団法人日本キャンプ協会公認の「キャンプインストラクター」の資格が取得できる授業である（別途手続きと公認料などが必要）。

本授業は、組織キャンプを通してキャンプ技術の知識および人間関係を構築する手段および指導方法を学ぶ。また、キャンプ技術の知識を通して、キャンプの特性である（１）つながる力、（２）楽しむ力、（３）立ち向かう力を養う。
 さらに、指導者として必要な知識、技術や社会人に求められるコミュニケーション力、リーダーシップ能力を身につける。

到達目標

- 1) キャンプを行う際に必要な最低限の知識および技能がある。
- 2) 組織キャンプの教育効果について理解している。
- 3) 安全に運動やスポーツ活動を行おうとする姿勢を身につける。
- 4) 自然体験を通して、環境教育に関心を持っている。

授業計画

【第1回】オリエンテーション

※例年、5月中の木曜6限（18:00-19:30）に実施する。

本授業の概要（日時、場所、活動内容など）、ルールおよびキャンセル規定などの説明をする。

事前：宿泊を伴う授業であることから、自身の各種アレルギーや既往歴などを正確に把握する。

事後：実習に必要な用具等を確認する。

【第2回】キャンプ事前指導1

※例年、前期授業終了後（7月下旬～8月上旬）に実施する。

キャンプの特性・意義、歴史と様々なキャンプの種類について学ぶ。

また、キャンプ実習実施場所の環境を理解し、危険予測トレーニングを通じてキャンプにおける安全の意識を高める。

事前学修：キャンプ実習の実施場所についてインターネット等を活用し、情報を収集する。

事後学修：危険予測トレーニングの結果をもとに、実習時に注意すべき事項をまとめる。

【第3回】キャンプ事前指導2

※例年、前期授業終了後（7月下旬～8月上旬）に実施する。

現地グループおよび宿泊グループ毎に、チームビルディングを行う。

キャンプ実習の活動内容、スケジュール、持ち物、注意事項などの最終確認を行う。

また、宿泊を伴う実習のため、感染症対策について理解を深める。

事前学修：実習に必要な道具等をリストアップする。

事後学修：テキストを再度確認し、安全にキャンプ実習が実施できるよう準備する。

実習

スケジュールは下記の通りであるが、天候等によりスケジュールを変更する場合がある。

※例年、8月中旬に実施している。9月上旬に変更する可能性がある。

【実習1日目】

- ・ ASE
- ・ 集団テント設営
- ・ 野外炊飯
- ・ ロープワーク

事前学修：事前学修の内容を復習する

事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

【実習2日目】

- ・ 地域発見プログラム
- ・ 個人テント設営
- ・ ハイキング
- ・ フォトコンテスト

事前学修：事前学修の内容を復習する

事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

【実習3日目】

- ・ウォータープログラム
 - ・キャンプファイヤー
 - ・パフォーマンスナイト
- 事前学修：事前学修の内容を復習する
 事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

【実習4日目】

- ・ASE
 - ・筆記試験
 - ・実技試験
- 事前学修：事前学修の内容を復習する
 事後学修：学んだことを整理し、文書にまとめる。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業計画に記載の通り。

課題に対するフィードバックの方法

事前指導時は、授業の冒頭にフィードバックを行う。
 実習中は実習のしおりを使用して、フィードバックを行う。
 その他、GoogleクラスルームやEメールを活用して、随時質問等に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 1) 正当な理由がない欠席および事前連絡のない欠席は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 2) 実習に参加できない者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3) 実習時に実施される筆記試験、実技試験を受けていない者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	事前指導および実習中の課題の取り組み(30)、実習のしおりに記載の振り返りシート(30)等	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	筆記試験(30)、実技試験(10)	1, 2
その他	0		

テキスト 公益社団法人日本キャンプ協会 キャンプ指導者入門第5版 ISBN978-4-904008-15-7
 ※テキストは事前指導時に配布するため、事前に購入する必要はない。

参考書 必要に応じて授業で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)および高等学校教諭一種免許状(保健体育)の選択必修科目である(免許取得希望者は、キャンプ実習またはスキー実習を履修すること)。公益社団法人日本キャンプ協会公認の「キャンプインストラクター」の資格が取得できる授業である(別途手続きと公認料などが必要)。事前指導の欠席や事務手続き等を怠った場合は、実習の参加を認めない。

授業コード	13110001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、運動・スポーツの動機づけ（モチベーション）、身体の発達・こころの発達と運動の関わりなど、スポーツ心理学の基礎的内容を概説します。情報量が多く、予習と復習が必要です。したがって、テキストを授業および小テストで使用します。スポーツ心理学のトピックは、様々な場面で応用することができます。将来、スポーツ関係の指導者や保健体育教員として知識を得るためだけではなく、日常生活をおくる上でヒントとなる内容については、実際に試しながら気づきを深めていくことを望みます。

授業はスライド資料によるプレゼン形式で行い、文字情報、動画などを提示しながらすすめていきます。配布資料は、データでGoogleクラスルームより配信します。事前学習では、授業テーマに該当するテキストページを読み、分からない言葉を調べておくこと。事後学習では、授業で学んだキーワードについて調べ直すことや、テキストをもとにノートに加筆するなどの、主体的学習が必要です。

到達目標

1. スポーツ・運動を実施するための動機づけを理解し説明することができる
2. パフォーマンスを高めるための指導に関する基礎知識を理解し、応用することができる
3. スポーツ・運動の実践を促す理論を説明することができる
4. スポーツ心理学の基本的な用語を理解し、説明することができる

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：スポーツ心理学への導入
 内容・方法：運動の心理的効果および健康運動への影響
- 【第2回】
 テーマ：スポーツ・運動に対する動機づけ（1）
 内容・方法：内発的動機づけ、外発的動機づけ、非動機づけ
- 【第3回】
 テーマ：スポーツ・運動に対する動機づけ（2）
 内容・方法：動機づけとパフォーマンス
- 【第4回】
 テーマ：運動学習（1）
 内容・方法：情報処理モデル
- 【第5回】
 テーマ：運動学習（2）
 内容・方法：指導方法への応用
- 【第6回】
 テーマ：コーチングの心理
 内容・方法：新しいコーチングに必要なこと、スポーツ集団とリーダーシップ
- 【第7回】
 テーマ：健康とスポーツ（1）
 内容・方法：スポーツ傷害、バーンアウト
- 【第8回】
 テーマ：健康とスポーツ（2）
 内容・方法：健康と運動実践（TTMモデル）
- 【第9回】
 テーマ：健康とスポーツ（3）
 内容・方法：運動へのバリア要因
- 【第10回】
 テーマ：健康とスポーツ（4）
 内容・方法：健康づくり運動とカウンセリング
- 【第11回】
 テーマ：心の発達段階
 内容・方法：発育発達における各年代の特徴
- 【第12回】
 テーマ：ストレスマネジメント（1）
 内容・方法：ストレッサーとストレス反応、カウンセリング方法の理解
- 【第13回】
 テーマ：ストレスマネジメント（2）
 内容・方法：ストレスの捉え方、ストレスへの対処法
- 【第14回】
 テーマ：現場における心理サポートの実際
 内容・方法：現場ではどのようにスポーツ心理学が実践されているのか
- 【第15回】
 テーマ：コンサルテーション実習

内容・方法：ロールプレイング（話を聴く）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

毎回の授業までに、テキスト当該箇所を読み、分からない言葉を事前にチェックしておくこと
その他、下記について事前に予習しておく
第2回から第3回までは、日常・競技生活の中で自分自身が何に動機づけられているかを書き出す
第4回から第5回までは、これまでの経験からどうやって練習で出来るようになったのかを書き出す
第6回は、国内で発生した、指導者が関係する様々な記事を調べておく
第7回から第10回までは、スポーツ庁の報告書などから、国内の健康づくり運動に関連する情報を調べておく
第11回から第14回までは、日常・競技生活の中で自分自身が経験した出来事を記録しておく

【事後学習】

授業で学んだ内容や気づきなどについてふり返り、ノートに加筆すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
正当な理由のない欠席5回以上の場合は、評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内容の理解度を確認する小テスト(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	授業内容に関するレポートの提出(計5回を予定)(20)	1, 2, 3, 4
定期試験	50	筆記試験(50)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 『これから学ぶスポーツ心理学 三訂版』荒木雅信・山本真史編著(大修館書店)2,200円(税込)
書籍版 ISBN9784469269550
日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 この授業は次の資格取得に必要な科目です。
「中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許(保健体育)」「健康運動指導士資格」「健康運動実践指導者資格」「JATI-ATI資格」「中級パラスポーツ指導員資格」「JAF A認定GFI資格」
欠席した授業の配布資料は、研究室(5-1002)まで取りに来てください。

授業コード	13110101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツコーチング論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康教育及びスポーツコーチングの概念や原理について、単に経験だけに基づくものだけでなく、スポーツバイオメカニクス・生理学・運動学・栄養学・心理学・教育学・倫理学・社会学などを統合したスポーツ科学的な視点から学ぶ。つまり、健康・体力の維持増進や競技力向上を目的に、発育発達や性差など個人差や対象者に応じた効果的で、安全な指導法について、指導者の役割や資質を踏まえて学修する。

到達目標

1. スポーツコーチングの概念や原理について説明できる。
2. 対象者に応じた効果的・安全的な指導法について説明できる。
3. 指導者の役割や資質について説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：健康教育とスポーツコーチング
内容・方法：経験論・根性論とスポーツ科学を生かした指導法について

【第2回】

テーマ：健康・体力とは
内容・方法：健康の定義と体力の分類について

【第3回】

テーマ：健康づくりの施策
内容・方法：健康教育，身体活動基準，アクティブガイドについて

【第4回】

テーマ：健康づくりにおける社会的環境
内容・方法：「健康日本21」について

【第5回】

テーマ：健康な地域づくりの策定方法
内容・方法：健康施策の評価について

【第6回】

テーマ：体力・技術のトレーニング効果
内容・方法：レディネスとトレーニングプロセスについて

【第7回】

テーマ：スキルの分析とフィードバック
内容・方法：動きの獲得と質の評価，獲得されたスキルの矯正方法・プロセスについて

【第8回】

テーマ：指導者の役割
内容・方法：指導者の資質・能力と行動倫理について

【第9回】

テーマ：コーチングスキル
内容・方法：コーチングスタイルとコミュニケーションスキルについて

【第10回】

テーマ：チームマネジメント
内容・方法：指導形態とチームの運営について

【第11回】

テーマ：目標設定とモチベーション
内容・方法：効果的な目標設定と動機づけの種類・方法について

【第12回】

テーマ：発育発達とスポーツ指導①
内容・方法：幼少期における身体，認知，運動，ことばの発達の理解と運動指導時の留意点および運動遊びの具体例について

【第13回】

テーマ：発育発達とスポーツ指導②
内容・方法：ジュニアからシニア期のスポーツパフォーマンスの将来性について

【第14回】

テーマ：個人差を考慮したトレーニング計画
内容・方法：女性アスリートにおけるトレーニングの実際について

【第15回】

テーマ：運動・スポーツ指導論のまとめ
内容・方法：健康教育とスポーツ指導の今後のあり方について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

<p>【第1回】</p> <p>①事前学修課題：スポーツを取り巻く環境や現状について、まとめておくこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第2回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第3回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第4回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第5回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第6回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第7回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第8回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第9回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第10回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第11回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第12回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第13回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第14回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p> <p>【第15回】</p> <p>①事前学修課題：これまで学修してきたスポーツ科学の分野をふまえ事前準備を行うこと</p> <p>②事後学修課題：授業ノートをまとめ、確認テストを見直すこと</p>

課題に対するフィードバックの方法

毎時、確認テストを実施していることから、授業の始めに回答・自己評価を元に、課題点についてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) 最終レポート(タームペーパー)未提出者は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の課題(20), リフレクションノート(20)	1, 2, 3
授業外での評価	15	自修学修(15)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	最終レポート(タームペーパー)	1, 2, 3
その他	20	授業に関する質問・発言(10), 取り組み姿勢(10)等	1, 2, 3

テキスト ・日本スポーツ協会(JSPO) Reference Book, 公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト

参考書 ・健康運動指導士, 健康運動実践指導者テキスト
・トレーニング指導者テキスト(JATI)

履修条件・他の科目との関連

1. 「スポーツ実践指導法」と併せて受講することが望ましい。
2. 授業スケジュールは「①前回テーマの復習・確認, ②本日のテーマ, ③確認テスト・自己評価」である。
3. 最終レポート(タームペーパー)の未提出及び, 5回以上の欠席は評価対象外とする。
4. 日本スポーツ協会(JSPO)公認スポーツ指導者資格の「指導者マイページ」の登録, テキスト購入の確認をする。(第1回目の授業)

授業コード	13085301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ実践指導法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	船戸 淳矢				
シラバス執筆(主)	船戸 淳矢				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの指導の考え方、スポーツ指導における課題など、いくつかのスポーツ種目を例示しつつ、生涯スポーツにおける健康保持や体力作り、または競技スポーツにおけるパフォーマンスの向上など、それぞれの目的に応じた実践的な指導方法を学修する。
また、スポーツ、スポーツ指導に関する話題がニュースになっている時、授業内で取り上げることもあるので日頃から情報収集などを行っておく。

到達目標

1. スポーツ指導者に必要な基礎的知識を身につけ、活かすことができる。
2. スポーツ科学に基づいた基礎的な指導方法を説明することができる。
3. 対象者に合わせた指導方法を説明することができる。
4. 指導現場の問題点など理解し、指導者の役割・資質について説明できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション、スポーツ指導とは(授業の進め方、コーチ、コーチングについて)
第2回	コーチングスキル(コミュニケーション、言葉がけの影響、GROWモデルについて)
第3回	スポーツ活動と安全管理(スポーツ活動における安全確保の知識、具体的な行動について)
第4回	トレーニングの運営(トレーニング施設の管理・運営、リスクマネジメントについて)
第5回	スポーツ指導者に必要な医学的知識(急性障害、慢性障害、救急処置について)
第6回	スポーツ指導者に必要な医学的知識(活動中に多いケガ、応急処置について)
第7回	対象者に合わせたスポーツ指導(中高年者とスポーツについて)
第8回	対象者に合わせたスポーツ指導(女性とスポーツについて)
第9回	対象者に合わせたスポーツ指導(ジュニア期のスポーツについて①)
第10回	対象者に合わせたスポーツ指導(ジュニア期のスポーツについて②)
第11回	競技力の養成(技術とは、技術トレーニングの指導について)
第12回	競技力の養成(戦術とは、戦術トレーニングの指導について)
第13回	競技力の養成(体力とは、体力トレーニングについて)
第14回	競技トレーニングの計画・立案(目標設定、期分けについて)
第15回	運動指導のための情報収集と活用(情報の収集・活用、スポーツと映像について)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
各回事前に講義テーマについて自ら調べ、概要を把握しておく。今までのスポーツ活動中に気になった場面などがあれば、ノートにまとめておく。また事後には、授業ノートを確認し、講義内容を復習する。興味や疑問をもった内容について、調べる、専門書を読むなど学びを深める。

課題に対するフィードバックの方法

毎時授業終わりに実施する確認テストでのよい回答や、質問などについては、次回授業の冒頭で紹介をし、解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、期末試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
期末レポート試験未提出の場合、評価の対象とせず、「1」もしくは「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	毎時授業後の確認テスト内容にて評価 授業内の発表の内容にて評価	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	全授業終了後に実施するレポート課題	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布。
参考書	リファレンスブックフルバージョン、財団法人日本スポーツ協会 4,400円 トレーニング指導者テキスト[実践編]3訂版、大修館書店 2,800円＋税
履修条件・他の科目との関連	前期に開講される「スポーツ指導論」と併せて受講することが望ましい。 欠席した場合、配布プリントで復習をしておくこと。

授業コード	13079401	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	障がい者スポーツ指導実習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、障がい者にとっての運動・スポーツ活動の意義を考える。また、障がいの知識、スポーツ時および日常生活時の課題、障がい者およびパラスポーツとの関わり方を学ぶ。特に、本授業は「パラスポーツ指導員（初級・中級）」資格のコア・カリキュラムとなる。そのため、日本パラスポーツ協会が実施しているパラスポーツ指導員講習会の内容を基に授業が構成されており、パラスポーツ指導員として必要な知識や指導方法などを中心に展開する。

到達目標

- 1) 障がい者にとっての運動・スポーツ活動の意義が説明できる。
- 2) 障がいの知識、障がいの症状、スポーツ時の課題、日常生活時の課題について説明できる。
- 3) 障がい者およびパラスポーツに関わろうとする姿勢で必要な支援を実行できる。

授業計画

- 【第1回】パラスポーツの意義
パラスポーツの歴史などを通して、パラスポーツのあり方を考える。
- 【第2回】障がい者にとっての運動・スポーツの意義と理念
障がい者にとっての運動・スポーツの意義と理念を理解する。
- 【第3回】パラスポーツに関する諸施策
わが国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）およびパラスポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ基本計画など）について学ぶ。
- 【第4回】全国障がい者スポーツ大会の概要
全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要および大会開催の目的や意義について学ぶ。
本大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。
- 【第5回】各障がいの理解とスポーツ（1）肢体不自由と内部障がい
肢体不自由および内部障がいの主な特性や実際のスポーツ活動場面で活かせる知識と指導上の配慮点を身につける。
- 【第6回】各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（1）実技：ボッチャ
ボッチャのルールや用具の工夫の仕方、指導員としての留意点を学ぶ。
- 【第7回】各障がいの理解とスポーツ（2）視覚障がい / 聴覚障がい
視覚障がい / 聴覚障がいの主な特性や実際のスポーツ活動場面で活かせる知識と指導上の配慮点を身につける。
- 【第8回】障がいに応じたスポーツの工夫・実施（2）実技：視覚障がい者とスポーツ
手引きの方法や視覚障がい者が行うスポーツのルールや用具の工夫の仕方、指導員としての留意点を学ぶ。
- 【第9回】各障がいの理解とスポーツ（3）知的障がい者とスポーツ
知的障がいに関する知識と指導法を学ぶ。
- 【第10回】スポーツインテグリティと指導者に求められる資質
スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。
- 【第11回】各障がいの理解とスポーツ（4）精神障がい者とスポーツ
知的障がい者とスポーツの振り返り / 精神障がいに関する知識と指導法を学ぶ。
- 【第12回】コミュニケーションスキルの基礎
パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。
- 【第13回】安全管理
スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。
- 【第14回】障がいがある人との交流（ゲスト講師の招聘）
スポーツ活動をしている障がい者の体験談を聞き、パラスポーツの現状を学ぶ。
- 【第15回】各地域のパラスポーツ推進の取り組み

資格を取得した後に地域で行われている教室や大会等への積極的に関わられるように、地域のパラスポーツ振興の現状について学ぶ。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】パラスポーツの意義

事前：体育・スポーツ場面での自身のスポーツ経験について振り返る。
事後：障がい者スポーツの現状から障がい者スポーツ実践、運営上の課題をまとめる。

【第2回】障がい者にとっての運動・スポーツの意義と理念

事前：障がい者スポーツの果たす役割とはなにか、自分の考えをまとめる。
事後：障がい者が運動・スポーツをする意義について、自分の考えを整理する。

【第3回】パラスポーツに関する諸施策

事前：これまでの日本国内の障がい者福祉施策の歴史について調べる。
事後：スポーツにおけるユニバーサルデザインについて自分の考えを整理する。

【第4回】全国障がい者スポーツ大会の概要

事前：全国障害者スポーツ大会の種目について調べる。
事後：全国障害者スポーツ大会で行われている種目と障がいの種類、課題について整理する。

【第5回】各障がいの理解とスポーツ（1）肢体不自由と内部障がい

事前：肢体不自由と内部障がいについて、それぞれの概要と症状とそれぞれの関係について調べる。
事後：肢体不自由と内部障がい者のスポーツや指導法について整理する。

【第6回】各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（1）実技：ボッチャ

事前：ボッチャ競技のルールを調べておく。
事後：ボッチャ競技の得点方法や試合の流れについて情報を整理する。

【第7回】各障がいの理解とスポーツ（2）視覚障がい / 聴覚障がい

事前：視覚障がい / 聴覚障がいの概要と症状について調べる。
事後：視覚 / 聴覚障がい者が行うスポーツやその指導法について整理する。

【第8回】障がいに応じたスポーツの工夫・実施（2）実技：視覚障がい者とスポーツ

事前：視覚障がい者の陸上競技のルールを調べておく。
事後：視覚障がい者に対するサポート方法について整理しておく。

【第9回】各障がいの理解とスポーツ（3）知的障がい者とスポーツ

事前：スペシャルオリンピックスについて調べる。
事後：知的障がい者を指導する際の留意事項について整理する。

【第10回】スポーツインテグリティと指導者に求められる資質

事前：スポーツインテグリティの意味を調べておく。
事後：スポーツインテグリティに関するニュースを調べ、対応策について自分の考えをまとめる。

【第11回】各障がいの理解とスポーツ（4）精神障がい者とスポーツ

事前：精神障がいの症状について調べる。
事後：各障がい者を指導する際の留意事項について整理する。

【第12回】コミュニケーションスキルの基礎

事前：ソーシャルスキルの意味を調べ、指導者に必要なソーシャルスキルについて自分の考えをまとめる。
事後：現在行っているスポーツ活動等と本時に学んだ内容の違いを整理する。

【第13回】安全管理

事前：指導者の「安全配慮義務」について調べる。
事後：AEDや救急対応ができるように、情報を整理する。

【第14回】障がいがある人との交流（ゲスト講師の招聘）

事前：ゲスト講師の先生の障がいの概要について調査する。
事後：障がいがある人への指導やサポートの方法について自分の考えをまとめる。

【第15回】各地域のパラスポーツ推進の取り組み

事前：障がい者にとって運動・スポーツが果たす役割とはなにか、自分の考えをまとめる。
事後：日本のパラスポーツの現状と課題について総括的に記述する。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に確認テストを実施する。翌週に、解説や具体的な事例をフィードバックする。講義ではパワーポイントなどを使用し、実技は指導方法、介助方法等、具体的な動作を通してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。

- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(45)、リフレクションシート(15)等	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	3

テキスト	テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。
------	--------------------------

参考書	日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 必要に応じて授業で紹介する。
-----	---------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本科目は、初級・中級パラスポーツ指導員資格取得の必修科目である。講義・実技を行うが、実技の際は、パラスポーツ指導員としてふさわしい服装、みだしなみで参加すること。障がい者スポーツ指導実習ⅡおよびⅢの履修を希望する場合、障がい者スポーツ指導実習Ⅰを理解している前提で授業が展開される。そのため、授業の内容理解の観点から、必ず本授業を履修すること。授業を欠席した場合、担当教員に申し出て、配布資料を受け取ること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13079402	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	障がい者スポーツ指導実習Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	野口 研治				
シラバス執筆(主)	野口 研治				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、障がい者にとっての運動・スポーツ活動の意義を考える。また、障がいの知識、スポーツ時および日常生活時の課題、障がい者およびパラスポーツとの関わり方を学ぶ。特に、本授業は「パラスポーツ指導員（初級・中級）」資格のコア・カリキュラムとなる。そのため、日本パラスポーツ協会が実施しているパラスポーツ指導員講習会の内容を基に授業が構成されており、パラスポーツ指導員として必要な知識や指導方法などを中心に展開する。

到達目標

- 1) 障がい者にとっての運動・スポーツ活動の意義が説明できる。
- 2) 障がいの知識、障がいの症状、スポーツ時の課題、日常生活時の課題について説明できる。
- 3) 障がい者およびパラスポーツに関わろうとする姿勢で必要な支援を実行できる。

授業計画

【第1回】パラスポーツの意義

パラスポーツの歴史などを通して、パラスポーツのあり方を考える。

【第2回】障がい者にとっての運動・スポーツの意義と理念

障がい者にとっての運動・スポーツの意義と理念を理解する。

【第3回】パラスポーツに関する諸施策

わが国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）およびパラスポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ基本計画など）について学ぶ。

【第4回】全国障がい者スポーツ大会の概要

全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要および大会開催の目的や意義について学ぶ。
本大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。

【第5回】各障がいの理解とスポーツ（1）肢体不自由と内部障がい

肢体不自由および内部障がいの主な特性や実際のスポーツ活動場面で活かせる知識と指導上の配慮点を身につける。

【第6回】各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（1）実技：ボッチャ

ボッチャのルールや用具の工夫の仕方、指導員としての留意点を学ぶ。

【第7回】各障がいの理解とスポーツ（2）視覚障がい / 聴覚障がい

視覚障がい / 聴覚障がいの主な特性や実際のスポーツ活動場面で活かせる知識と指導上の配慮点を身につける。

【第8回】障がいに応じたスポーツの工夫・実施（2）実技：視覚障がい者とスポーツ

手引きの方法や視覚障がい者が行うスポーツのルールや用具の工夫の仕方、指導員としての留意点を学ぶ。

【第9回】各障がいの理解とスポーツ（3）知的障がい者とスポーツ

知的障がいに関する知識と指導法を学ぶ。

【第10回】スポーツインテグリティと指導者に求められる資質

スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。

【第11回】各障がいの理解とスポーツ（4）精神障がい者とスポーツ

知的障がい者とスポーツの振り返り / 精神障がいに関する知識と指導法を学ぶ。

【第12回】コミュニケーションスキルの基礎

パラスポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。

【第13回】安全管理

スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。

【第14回】障がいがある人との交流（ゲスト講師の招聘）

スポーツ活動をしている障がい者の体験談を聞き、パラスポーツの現状を学ぶ。

【第15回】各地域のパラスポーツ推進の取り組み

資格を取得した後に地域で行われている教室や大会等への積極的に関わられるように、地域のパラスポーツ振興の現状について学ぶ。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【第1回】パラスポーツの意義

事前：体育・スポーツ場面での自身のスポーツ経験について振り返る。

事後：障がい者スポーツの現状から障がい者スポーツ実践、運営上の課題をまとめる。

【第2回】障がい者にとっての運動・スポーツの意義と理念

事前：障がい者スポーツの果たす役割とはなにか、自分の考えをまとめる。

事後：障がい者が運動・スポーツをする意義について、自分の考えを整理する。

【第3回】パラスポーツに関する諸施策

事前：これまでの日本国内の障がい者福祉施策の歴史について調べる。

事後：スポーツにおけるユニバーサルデザインについて自分の考えを整理する。

【第4回】全国障がい者スポーツ大会の概要

事前：全国障害者スポーツ大会の種目について調べる。

事後：全国障害者スポーツ大会で行われている種目と障がいの種類、課題について整理する。

【第5回】各障がいの理解とスポーツ（1）肢体不自由と内部障がい

事前：肢体不自由と内部障がいについて、それぞれの概要と症状とそれぞれの関係について調べる。

事後：肢体不自由と内部障がい者のスポーツや指導法について整理する。

【第6回】各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫（1）実技：ボッチャ

事前：ボッチャ競技のルールを調べておく。

事後：ボッチャ競技の得点方法や試合の流れについて情報を整理する。

【第7回】各障がいの理解とスポーツ（2）視覚障がい / 聴覚障がい

事前：視覚障がい / 聴覚障がいの概要と症状について調べる。

事後：視覚 / 聴覚障がい者が行うスポーツやその指導法について整理する。

【第8回】障がいに応じたスポーツの工夫・実施（2）実技：視覚障がい者とスポーツ

事前：視覚障がい者の陸上競技のルールを調べておく。

事後：視覚障がい者に対するサポート方法について整理しておく。

【第9回】各障がいの理解とスポーツ（3）知的障がい者とスポーツ

事前：スペシャルオリンピックスについて調べる。

事後：知的障がい者を指導する際の留意事項について整理する。

【第10回】スポーツインテグリティと指導者に求められる資質

事前：スポーツインテグリティの意味を調べておく。

事後：スポーツインテグリティに関するニュースを調べ、対応策について自分の考えをまとめる。

【第11回】各障がいの理解とスポーツ（4）精神障がい者とスポーツ

事前：精神障がいの症状について調べる。

事後：各障がい者を指導する際の留意事項について整理する。

【第12回】コミュニケーションスキルの基礎

事前：ソーシャルスキルの意味を調べ、指導者に必要なソーシャルスキルについて自分の考えをまとめる。

事後：現在行っているスポーツ活動等と本時に学んだ内容の違いを整理する。

【第13回】安全管理

事前：指導者の「安全配慮義務」について調べる。

事後：AEDや救急対応ができるように、情報を整理する。

【第14回】障がいがある人との交流（ゲスト講師の招聘）

事前：ゲスト講師の先生の障がいの概要について調査する。

事後：障がいがある人への指導やサポートの方法について自分の考えをまとめる。

【第15回】各地域のパラスポーツ推進の取り組み

事前：障がい者にとって運動・スポーツが果たす役割とはなにか、自分の考えをまとめる。

事後：日本のパラスポーツの現状と課題について総括的に記述する。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に確認テストを実施する。翌週に、解説や具体的な事例をフィードバックする。

講義ではパワーポイントなどを使用し、実技は指導方法、介助方法等、具体的動作を通してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。

- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(45)、リフレクションシート(15)等	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	3

テキスト	テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。
------	--------------------------

参考書	日本スポーツ協会 Reference Book、公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 必要に応じて授業で紹介する。
-----	---------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	本科目は、初級・中級パラスポーツ指導員資格取得の必修科目である。講義・実技を行うが、実技の際は、パラスポーツ指導員としてふさわしい服装、みだしなみで参加すること。障がい者スポーツ指導実習ⅡおよびⅢの履修を希望する場合、障がい者スポーツ指導実習Ⅰを理解している前提で授業が展開される。そのため、授業の内容理解の観点から、必ず本授業を履修すること。授業を欠席した場合、担当教員に申し出て、配布資料を受け取ること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13079501	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	障がい者スポーツ指導実習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業は「障がい者スポーツ指導実習Ⅰ」で学習した内容（知識・実践）を基に、下記の項目について実施する。

- 1) 身体障がい、知的障がい、精神障がいに焦点をあてた障がいの特性
- 2) 障がい者の体力、トレーニング方法、スポーツ実践の現状と課題
- 3) 二次障がいの予防

なお、本授業は「パラスポーツ指導員（初級・中級）」資格のコア・カリキュラムとなる。そのため、日本パラスポーツ協会が実施しているパラスポーツ指導員講習会の内容を基に授業が構成されており、パラスポーツ指導員として必要な知識や指導方法などを中心に展開する。

到達目標

- 1) 障がいの種類および程度の違いを考慮した運動・スポーツ時の支援の仕方について説明できる。
- 2) 障がいの種類に応じた運動の特性と体力について説明できる。
- 3) 補装具の現状と二次障がいを含めた課題について説明できる。

授業計画

- 【第1回】障がい各論（1）聴覚障がい
聴覚障がい者のスポーツの歴史と実際のスポーツ実践上の課題を学ぶ。
- 【第2回】障がい各論（2）視覚障がい
視覚障がい者の障がい程度（全盲、弱視、視野）とスポーツ実践上の課題を学ぶ。
- 【第3回】障がい各論（3）脳性麻痺
脳性麻痺発症の原因、病症タイプの特徴と配慮について学ぶ。
- 【第4回】障がい各論（4）四肢欠損・切断
四肢欠損・切断者の動きや動作の特徴について学ぶ。義手・義足、補助具についても学ぶ。
- 【第5回】障がい各論（5）脊髄損傷と内部障がい
脊髄損傷と内部障がいの概要とメディカルチェックの方法について学ぶ。
- 【第6回】障がい各論（6）知的障がい
知的障がい者における障がい程度と運動の特性について学ぶ。
- 【第7回】障がい各論（7）発達障がい
発達障がい者における障がい程度と運動の特性について学ぶ。
- 【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
全国障害者スポーツ大会実施種目実技（スラローム）を行う。プレーヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第9回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
全国障害者スポーツ大会実施種目の実技（陸上）を行う。プレーヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第10回】地域におけるパラスポーツ振興【ゲスト講師の招聘】
パラスポーツに関わる諸団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。
- 【第11回】補装具の理解【ゲスト講師の招聘】
補装具の種類とその構造を知り、その取扱について学ぶ。
- 【第12回】リスクマネジメント
リスクマネジメントに関する基礎知識を学び、パラスポーツ指導現場における事例を学ぶ。
- 【第13回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）を行う。
特に、視覚障がい者が用いるブラックゴーグルを使用して泳ぐ体験や壁に近づいたことを知らせるタッピングを体験する。
- 【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）を行う。
特に、肢体不自由で車椅子を使用者の介助方法や運動のサポート方法を学ぶ。
- 【第15回】障がい各論（8）精神障がい

精神障がい者数の推移から症状、原因を学ぶ。
内部障がいの概要とメディカルチェックの方法について学ぶ。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の学修と合わせて、1単位あたり45時間の学修が必要である。
各授業（2時間）に加えて、事前・事後学修1時間が必要である。

【第1回】障がい各論（1）聴覚障がい
事前：デフリンピックの歴史について調べる。
事後：聴覚障がいの特徴と聴覚障がい者のサポート方法を整理しておく。

【第2回】障がい各論（2）視覚障がい
事前：視覚障がい者の手引きの方法と運動時のサポート方法についてそれぞれ調べる。
事後：視覚障がいの特徴と視覚障がい者のサポート方法を整理しておく。

【第3回】障がい各論（3）脳性麻痺
事前：脳性麻痺者の手引きの方法と運動時のサポート方法についてそれぞれ調べる。
事後：脳性麻痺者がスポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第4回】障がい各論（4）四肢欠損・切断
事前：義手、義足、補助具にはどのようなものがあるのか、機能について調べる。
事後：四肢欠損・切断者が運動・スポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第5回】障がい各論（5）脊髄損傷と内部障がい
事前：内部障がいにはどのような種類があるのか調べる。
事後：内部障がいの概要を整理する。

【第6回】障がい各論（6）知的障がい
事前：知的障がいの概要を整理する。
事後：知的障がい者が運動・スポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第7回】障がい各論（7）発達障がい
事前：発達障がいの概要を整理する。
事後：発達障がい者が運動・スポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
事前：陸上（スラローム）のルールについて再確認する。
事後：陸上（スラローム）のルールや審判の方法を整理する。

【第9回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
事前：陸上（走・跳・投）のルールについて再確認する。
事後：陸上（走・跳・投）のルールや審判の方法を整理する。

【第10回】地域におけるパラスポーツ振興【ゲスト講師の招聘】
事前：障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡで学んだことについて復習する。
事後：パラスポーツ協会や障がい者スポーツセンターでの取り組みについて整理しておく。

【第11回】補装具の理解【ゲスト講師の招聘】
事前：補装具の種類について調べる。
事後：補助具の特徴、備えるべき条件を整理する。

【第12回】リスクマネジメント
事前：障がいがある人の指導者として試合に引率する場合、どのような対応が必要か整理する。
事後：授業で学んだリスクを整理し、事故が起こらないような対応策を整理する。

【第13回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）を行う。
事前：水泳の基本的な技術（浮く・進む）について学習する。
事後：視覚障がい者のサポートに必要な内容および方法について整理する。

【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
事前：脊髄損傷者や脳血管障がいがある人に指導する際の留意点を復習する。
事後：車椅子の介助の方法と運動サポートの方法について整理する。

【第15回】障がい各論（8）精神障がい
事前：全国障害者スポーツ大会に参加している精神障がいの特徴を調べる。
事後：精神障がい者のスポーツ場面におけるサポート方法を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業終了前に確認テストを実施する。次回、解説や具体的な事例をフィードバックする。
講義では、パワーポイントなどを使用し、実技は指導方法、介助方法等、具体的な動作を通してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(45)、リフレクションシート(15)等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用しない。 適宜、プリント(資料)を配布する。
------	----------------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。
-----	----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本授業は、中級パラスポーツ指導員の資格取得科目である。講義・実技を行うが、実技の際にはパラスポーツ指導員としてふさわしい服装、身だしなみで参加すること。また、パラスポーツを理解する上で、障がい者とのふれあいを重視するため、補講期間中に学外授業(パラスポーツ観戦・経験・サポート)の実施を予定している(日程の都合上、紹介のみの場合もある)。</p> <p>なお、本授業は障がい者スポーツ指導実習Ⅰの内容を理解している前提で授業が展開される。そのため、授業の内容理解の観点から事前に障がい者スポーツ指導実習Ⅰの単位を取得すること。さらに、障がい者スポーツ指導実習Ⅲの履修を希望する場合、障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡを理解している前提で授業が展開されるため、授業の内容理解の観点から事前に本授業を履修すること。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13079502	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	障がい者スポーツ指導実習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	野口 研治				
シラバス執筆(主)	野口 研治				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業は「障がい者スポーツ指導実習Ⅰ」で学習した内容（知識・実践）を基に、下記の項目について実施する。

- 1) 身体障がい、知的障がい、精神障がいに焦点をあてた障がいの特性
- 2) 障がい者の体力、トレーニング方法、スポーツ実践の現状と課題
- 3) 二次障がいの予防

なお、本授業は「パラスポーツ指導員（初級・中級）」資格のコア・カリキュラムとなる。そのため、日本パラスポーツ協会が実施しているパラスポーツ指導員講習会の内容を基に授業が構成されており、パラスポーツ指導員として必要な知識や指導方法などを中心に展開する。

到達目標

- 1) 障がいの種類および程度の違いを考慮した運動・スポーツ時の支援の仕方について説明できる。
- 2) 障がいの種類に応じた運動の特性と体力について説明できる。
- 3) 補装具の現状と二次障がいを含めた課題について説明できる。

授業計画

- 【第1回】障がい各論（1）聴覚障がい
聴覚障がい者のスポーツの歴史と実際のスポーツ実践上の課題を学ぶ。
- 【第2回】障がい各論（2）視覚障がい
視覚障がい者の障がい程度（全盲、弱視、視野）とスポーツ実践上の課題を学ぶ。
- 【第3回】障がい各論（3）脳性麻痺
脳性麻痺発症の原因、病症タイプの特徴と配慮について学ぶ。
- 【第4回】障がい各論（4）四肢欠損・切断
四肢欠損・切断者の動きや動作の特徴について学ぶ。義手・義足、補助具についても学ぶ。
- 【第5回】障がい各論（5）脊髄損傷と内部障がい
脊髄損傷と内部障がいの概要とメディカルチェックの方法について学ぶ。
- 【第6回】障がい各論（6）知的障がい
知的障がい者における障がい程度と運動の特性について学ぶ。
- 【第7回】障がい各論（7）発達障がい
発達障がい者における障がい程度と運動の特性について学ぶ。
- 【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
全国障害者スポーツ大会実施種目実技（スラローム）を行う。プレーヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第9回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
全国障害者スポーツ大会実施種目の実技（陸上）を行う。プレーヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第10回】地域におけるパラスポーツ振興【ゲスト講師の招聘】
パラスポーツに関わる諸団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。
- 【第11回】補装具の理解【ゲスト講師の招聘】
補装具の種類とその構造を知り、その取扱について学ぶ。
- 【第12回】リスクマネジメント
リスクマネジメントに関する基礎知識を学び、パラスポーツ指導現場における事例を学ぶ。
- 【第13回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）を行う。
特に、視覚障がい者が用いるブラックゴーグルを使用して泳ぐ体験や壁に近づいたことを知らせるタッピングを体験する。
- 【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）を行う。
特に、肢体不自由で車椅子を使用者の介助方法や運動のサポート方法を学ぶ。
- 【第15回】障がい各論（8）精神障がい

精神障がい者数の推移から症状、原因を学ぶ。
内部障がいの概要とメディカルチェックの方法について学ぶ。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の学修と合わせて、1単位あたり45時間の学修が必要である。
各授業（2時間）に加えて、事前・事後学修1時間が必要である。

【第1回】障がい各論（1）聴覚障がい
事前：デフリンピックの歴史について調べる。
事後：聴覚障がいの特徴と聴覚障がい者のサポート方法を整理しておく。

【第2回】障がい各論（2）視覚障がい
事前：視覚障がい者の手引きの方法と運動時のサポート方法についてそれぞれ調べる。
事後：視覚障がいの特徴と視覚障がい者のサポート方法を整理しておく。

【第3回】障がい各論（3）脳性麻痺
事前：脳性麻痺者の手引きの方法と運動時のサポート方法についてそれぞれ調べる。
事後：脳性麻痺者がスポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第4回】障がい各論（4）四肢欠損・切断
事前：義手、義足、補助具にはどのようなものがあるのか、機能について調べる。
事後：四肢欠損・切断者が運動・スポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第5回】障がい各論（5）脊髄損傷と内部障がい
事前：内部障がいにはどのような種類があるのか調べる。
事後：内部障がいの概要を整理する。

【第6回】障がい各論（6）知的障がい
事前：知的障がいの概要を整理する。
事後：知的障がい者が運動・スポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第7回】障がい各論（7）発達障がい
事前：発達障がいの概要を整理する。
事後：発達障がい者が運動・スポーツをする際の注意点とサポート方法を整理しておく。

【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
事前：陸上（スラローム）のルールについて再確認する。
事後：陸上（スラローム）のルールや審判の方法を整理する。

【第9回】全国障害者スポーツ大会実施種目【陸上】
事前：陸上（走・跳・投）のルールについて再確認する。
事後：陸上（走・跳・投）のルールや審判の方法を整理する。

【第10回】地域におけるパラスポーツ振興【ゲスト講師の招聘】
事前：障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡで学んだことについて復習する。
事後：パラスポーツ協会や障がい者スポーツセンターでの取り組みについて整理しておく。

【第11回】補装具の理解【ゲスト講師の招聘】
事前：補装具の種類について調べる。
事後：補助具の特徴、備えるべき条件を整理する。

【第12回】リスクマネジメント
事前：障がいがある人の指導者として試合に引率する場合、どのような対応が必要か整理する。
事後：授業で学んだリスクを整理し、事故が起こらないような対応策を整理する。

【第13回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）を行う。
事前：水泳の基本的な技術（浮く・進む）について学習する。
事後：視覚障がい者のサポートに必要な内容および方法について整理する。

【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目（水泳）
事前：脊髄損傷者や脳血管障がいがある人に指導する際の留意点を復習する。
事後：車椅子の介助の方法と運動サポートの方法について整理する。

【第15回】障がい各論（8）精神障がい
事前：全国障害者スポーツ大会に参加している精神障がいの特徴を調べる。
事後：精神障がい者のスポーツ場面におけるサポート方法を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業終了前に確認テストを実施する。次回、解説や具体的な事例をフィードバックする。
講義では、パワーポイントなどを使用し、実技は指導方法、介助方法等、具体的な動作を通してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(45)、リフレクションシート(15)等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用しない。 適宜、プリント(資料)を配布する。
------	----------------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。
-----	----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本授業は、中級パラスポーツ指導員の資格取得科目である。講義・実技を行うが、実技の際にはパラスポーツ指導員としてふさわしい服装、身だしなみで参加すること。また、パラスポーツを理解する上で、障がい者とのふれあいを重視するため、補講期間中に学外授業(パラスポーツ観戦・経験・サポート)の実施を予定している(日程の都合上、紹介のみの場合もある)。</p> <p>なお、本授業は障がい者スポーツ指導実習Ⅰの内容を理解している前提で授業が展開される。そのため、授業の内容理解の観点から事前に障がい者スポーツ指導実習Ⅰの単位を取得すること。さらに、障がい者スポーツ指導実習Ⅲの履修を希望する場合、障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡを理解している前提で授業が展開されるため、授業の内容理解の観点から事前に本授業を履修すること。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13079601	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	障がい者スポーツ指導実習Ⅲ [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、「障がい者スポーツ指導実習Ⅰ」および「障がい者スポーツ指導実習Ⅱ」で学習した内容を基に、下記の内容を行う。

- 1) 障がい別に依じて開催されている大会の現状を国内大会、国際大会の観点から学習する。
- 2) 全国障害者スポーツ大会の歴史を含めた背景、大会運営状況と課題、クラス分け、競技規則、指導法等を学習する。

なお、本授業は「パラスポーツ指導員（初級・中級）」資格のコア・カリキュラムとなる。そのため、日本パラスポーツ協会が実施しているパラスポーツ指導員講習会の内容を基に授業が構成されており、パラスポーツ指導員として必要な知識や指導方法などを中心に展開する。

到達目標

- 1) 全国障害者スポーツ大会、他大会実施状況について説明できる。
- 2) 全国障害者スポーツ大会実施種目の障がい区分、競技規則について説明できる。
- 3) 障がい者の運動の特性に応じた指導ができる。

授業計画

- 【第1回】全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義
「障がい者スポーツ指導実習Ⅰ」および「障がい者スポーツ指導実習Ⅱ」の復習を行う。
全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義を理解し、大会の現状や競技種目の変遷を学習する。
- 【第2回】全国障害者スポーツ大会の実施競技
全国障害者スポーツ大会の実施競技について解説し、ルールやサポートの方法、審判の方法を学ぶ。
- 【第3回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：フライングディスク】
全国障害者スポーツ大会実施種目の実技（フライングディスク）を行う。プレイヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第4回】障がい者のスポーツ指導における留意点（1）
障がい者がスポーツを行う際や日常生活に必要なサポートについて課題を挙げ、指導計画を作成する。
- 【第5回】発育・発達に応じた指導法（1）
身体の発育・発達の原則を学ぶ。特に、発育・発達の捉え方について学ぶ。
- 【第6回】発育・発達に応じた指導法（2）
精神的な発達、知的障がいの発育発達について学ぶ。特に、からだの発育・発達のパターンについて学ぶ。
- 【第7回】全国障害者スポーツ大会出場選手の声【ゲスト講師の招聘】
全国障害者スポーツ大会出場選手の講演から、障がい区分、実技競技、選手の編成とコーチの役割について学ぶ。
- 【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：バレーボール】
全国障害者スポーツ大会実施種目実技（バレーボール）を行う。プレイヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第9回】全国障害者スポーツ大会の障がい区分
過去の全国障害者スポーツ大会を基に、競技種目、選手選考方法の現状と課題について学習する。
また、クラス分けの現状と課題を学習する。
- 【第10回】重症心身障がい児・者とスポーツの実際
重症心身障がい児・者の運動・スポーツの現状と課題とサポートの方法について学習する。ボッチャを体験する。
- 【第11回】全国障害者スポーツ大会実施種目【バスケットボール】
全国障害者スポーツ大会実施種目実技（バスケットボール）を行う。プレイヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第12回】障がい者のスポーツ指導における留意点（2）
障がい者がスポーツを行う際や日常生活に必要なサポートについて課題を挙げ、指導案を作成する。
- 【第13回】障がい者のスポーツ指導における留意点（3）
障がい者がスポーツを行う際や日常生活に必要なサポートについて課題を挙げ、指導案を作成する。

【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目の大会運営

各障がいに応じた指導の事例を通して指導上の留意点を把握しながら、全国障害者スポーツ大会実施種目（フライングディスク、バスケットボール、ボッチャ、バレーボール）について、学生が主体となって大会を企画・運営方法についてディスカッションを行い、実際にゲームを行う。

【第15回】パラスポーツ指導員としてのキャリア形成

過去と将来の指導者としてのキャリアを考え、自身の指導者像についてディスカッションを通じて、理想的な指導者とはどのような特長があるのか探求する。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の学修と合わせて、1単位あたり45時間の学修が必要である。各授業（2時間）に加えて事前・事後学修1時間が必要である。

【第1回】全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義

事前：障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡで学習した内容について復習しておく。

事後：全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義を理解し、大会の現状や競技種目の変遷について整理する。

【第2回】全国障害者スポーツ大会の実施競技

事前：今年度の全国障害者スポーツ大会の実施競技で実施される競技について、オープン競技も含めて調べておく。

事後：全国障害者スポーツ大会で実施される競技のルールやサポート方法、審判の方法を整理する。

【第3回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：フライングディスク】

事前：フライングディスクのルールについて再確認する。

事後：フライングディスクのルールや審判の方法を整理する。

【第4回】障がい者のスポーツ指導における留意点（1）

事前：視覚障がいの概要とサポート方法について復習する。

事後：サポート方法や指導時の留意点をまとめる。

【第5回】発育・発達に応じた指導法（1）

事前：知的障がい、発達障がいの概要について復習する。

事後：発育・発達の捉え方について、整理する。

【第6回】発育・発達に応じた指導法（2）

事前：スペシャルオリンピックスについて調べる。

事後：からだの発育・発達のパターンについて、整理する。

【第7回】全国障害者スポーツ大会出場選手の声【ゲスト講師の招聘】

事前：全国障害者スポーツ大会に指導者として帯同することを想定して、本年度に開催される全国障害者スポーツ大会について調べる。

事後：全国障害者スポーツ大会の意義について整理する。

【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：バレーボール】

事前：ルールを調べて確認する。

事後：ルールや審判の方法を整理する。

【第9回】全国障害者スポーツ大会の障がい区分

事前：全国障害者スポーツ大会で実施される競技と出場できる障がい区分について確認する。

事後：全国障害者スポーツ大会の障がい区分についてパラリンピックのクラス分けと区別して確認する。

【第10回】重症心身障がい児・者とスポーツの実際

事前：重症心身障がい児・者は、どういった症状がある人のことをいうのか調べる。

事後：重症心身障がい児・者が運動・スポーツを行う際の課題とサポート方法について整理する。

【第11回】全国障害者スポーツ大会実施種目【バスケットボール】

事前：ルールを調べて確認する。

事後：ルールや審判の方法を整理する。

【第12回】障がい者のスポーツ指導における留意点（2）

事前：指導案の作成方法を復習する。

事後：サポート方法や指導時の留意点をまとめる。

【第13回】障がい者のスポーツ指導における留意点（3）

事前：指導案の作成方法を復習する。

事後：サポート方法や指導時の留意点をまとめる。

【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目の大会運営

事前：フライングディスク、バスケットボール、ボッチャ、バレーボールのルールを確認しておく。

事後：各競技の試合や練習での課題を整理する。

【第15回】パラスポーツ指導員としてのキャリア形成

事前：これまでに自身が関わった指導者の特長について整理しておく。

事後：自身が目指す指導者の特長を整理し、そのためには何が必要かを明確にする。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了前に確認テストを実施する。次回、解説や具体的な事例をフィードバックする。講義ではパワーポイントなどを使用し、実技は指導方法、介助方法等、具体的動作を通してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(45)、確認テスト(15)等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3

テキスト テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。

参考書 必要に応じて授業で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 本授業は、中級パラスポーツ指導員の資格取得科目である。講義・実技を行うが、実技の際にはパラスポーツ指導員としてふさわしい服装、身だしなみで参加すること。また、パラスポーツを理解する上で、障がい者とのふれあいを重視するため、補講期間中に学外授業(パラスポーツ観戦・経験・サポート)を予定している(日程の都合上、紹介のみの場合もある)。なお、本授業は障がい者スポーツ指導実習Ⅰおよび障がい者スポーツ指導実習Ⅱの内容を理解している前提で授業が展開されるため、授業の内容理解の観点から事前に障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡの単位を取得していること。

授業コード	13079602	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	障がい者スポーツ指導実習Ⅲ [対面]				
シラバス執筆(全員)	野口 研治				
シラバス執筆(主)	野口 研治				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、「障がい者スポーツ指導実習Ⅰ」および「障がい者スポーツ指導実習Ⅱ」で学習した内容を基に、下記の内容を行う。

- 1) 障がい別に応じて開催されている大会の現状を国内大会、国際大会の観点から学習する。
- 2) 全国障害者スポーツ大会の歴史を含めた背景、大会運営状況と課題、クラス分け、競技規則、指導法等を学習する。

なお、本授業は「パラスポーツ指導員（初級・中級）」資格のコア・カリキュラムとなる。そのため、日本パラスポーツ協会が実施しているパラスポーツ指導員講習会の内容を基に授業が構成されており、パラスポーツ指導員として必要な知識や指導方法などを中心に展開する。

到達目標

- 1) 全国障害者スポーツ大会、他大会実施状況について説明できる。
- 2) 全国障害者スポーツ大会実施種目の障がい区分、競技規則について説明できる。
- 3) 障がい者の運動の特性に応じた指導ができる。

授業計画

- 【第1回】全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義
「障がい者スポーツ指導実習Ⅰ」および「障がい者スポーツ指導実習Ⅱ」の復習を行う。
全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義を理解し、大会の現状や競技種目の変遷を学習する。
- 【第2回】全国障害者スポーツ大会の実施競技
全国障害者スポーツ大会の実施競技について解説し、ルールやサポートの方法、審判の方法を学ぶ。
- 【第3回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：フライングディスク】
全国障害者スポーツ大会実施種目の実技（フライングディスク）を行う。プレイヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第4回】障がい者のスポーツ指導における留意点（1）
障がい者がスポーツを行う際や日常生活に必要なサポートについて課題を挙げ、指導計画を作成する。
- 【第5回】発育・発達に応じた指導法（1）
身体の発育・発達の原則を学ぶ。特に、発育・発達の捉え方について学ぶ。
- 【第6回】発育・発達に応じた指導法（2）
精神的な発達、知的障がいの発育発達について学ぶ。特に、からだの発育・発達のパターンについて学ぶ。
- 【第7回】全国障害者スポーツ大会出場選手の声【ゲスト講師の招聘】
全国障害者スポーツ大会出場選手の講演から、障がい区分、実技競技、選手の編成とコーチの役割について学ぶ。
- 【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：バレーボール】
全国障害者スポーツ大会実施種目実技（バレーボール）を行う。プレイヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第9回】全国障害者スポーツ大会の障がい区分
過去の全国障害者スポーツ大会を基に、競技種目、選手選考方法の現状と課題について学習する。
また、クラス分けの現状と課題を学習する。
- 【第10回】重症心身障がい児・者とスポーツの実際
重症心身障がい児・者の運動・スポーツの現状と課題とサポートの方法について学習する。ボッチャを体験する。
- 【第11回】全国障害者スポーツ大会実施種目【バスケットボール】
全国障害者スポーツ大会実施種目実技（バスケットボール）を行う。プレイヤーと審判の役割を設定し、学習する。
- 【第12回】障がい者のスポーツ指導における留意点（2）
障がい者がスポーツを行う際や日常生活に必要なサポートについて課題を挙げ、指導案を作成する。
- 【第13回】障がい者のスポーツ指導における留意点（3）
障がい者がスポーツを行う際や日常生活に必要なサポートについて課題を挙げ、指導案を作成する。

【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目の大会運営

各障がいに応じた指導の事例を通して指導上の留意点を把握しながら、全国障害者スポーツ大会実施種目（フライングディスク、バスケットボール、ボッチャ、バレーボール）について、学生が主体となって大会を企画・運営方法についてディスカッションを行い、実際にゲームを行う。

【第15回】パラスポーツ指導員としてのキャリア形成

過去と将来の指導者としてのキャリアを考え、自身の指導者像についてディスカッションを通じて、理想的な指導者とはどのような特長があるのか探求する。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の学修と合わせて、1単位あたり45時間の学修が必要である。各授業（2時間）に加えて事前・事後学修1時間が必要である。

【第1回】全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義

事前：障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡで学習した内容について復習しておく。

事後：全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義を理解し、大会の現状や競技種目の変遷について整理する。

【第2回】全国障害者スポーツ大会の実施競技

事前：今年度の全国障害者スポーツ大会の実施競技で実施される競技について、オープン競技も含めて調べておく。

事後：全国障害者スポーツ大会で実施される競技のルールやサポート方法、審判の方法を整理する。

【第3回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：フライングディスク】

事前：フライングディスクのルールについて再確認する。

事後：フライングディスクのルールや審判の方法を整理する。

【第4回】障がい者のスポーツ指導における留意点（1）

事前：視覚障がいの概要とサポート方法について復習する。

事後：サポート方法や指導時の留意点をまとめる。

【第5回】発育・発達に応じた指導法（1）

事前：知的障がい、発達障がいの概要について復習する。

事後：発育・発達の捉え方について、整理する。

【第6回】発育・発達に応じた指導法（2）

事前：スペシャルオリンピックスについて調べる。

事後：からだの発育・発達のパターンについて、整理する。

【第7回】全国障害者スポーツ大会出場選手の声【ゲスト講師の招聘】

事前：全国障害者スポーツ大会に指導者として帯同することを想定して、本年度に開催される全国障害者スポーツ大会について調べる。

事後：全国障害者スポーツ大会の意義について整理する。

【第8回】全国障害者スポーツ大会実施種目【実技：バレーボール】

事前：ルールを調べて確認する。

事後：ルールや審判の方法を整理する。

【第9回】全国障害者スポーツ大会の障がい区分

事前：全国障害者スポーツ大会で実施される競技と出場できる障がい区分について確認する。

事後：全国障害者スポーツ大会の障がい区分についてパラリンピックのクラス分けと区別して確認する。

【第10回】重症心身障がい児・者とスポーツの実際

事前：重症心身障がい児・者は、どういった症状がある人のことをいうのか調べる。

事後：重症心身障がい児・者が運動・スポーツを行う際の課題とサポート方法について整理する。

【第11回】全国障害者スポーツ大会実施種目【バスケットボール】

事前：ルールを調べて確認する。

事後：ルールや審判の方法を整理する。

【第12回】障がい者のスポーツ指導における留意点（2）

事前：指導案の作成方法を復習する。

事後：サポート方法や指導時の留意点をまとめる。

【第13回】障がい者のスポーツ指導における留意点（3）

事前：指導案の作成方法を復習する。

事後：サポート方法や指導時の留意点をまとめる。

【第14回】全国障害者スポーツ大会実施種目の大会運営

事前：フライングディスク、バスケットボール、ボッチャ、バレーボールのルールを確認しておく。

事後：各競技の試合や練習での課題を整理する。

【第15回】パラスポーツ指導員としてのキャリア形成

事前：これまでに自身が関わった指導者の特長について整理しておく。

事後：自身が目指す指導者の特長を整理し、そのためには何が必要かを明確にする。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了前に確認テストを実施する。次回、解説や具体的な事例をフィードバックする。講義ではパワーポイントなどを使用し、実技は指導方法、介助方法等、具体的動作を通してフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(45)、確認テスト(15)等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3

テキスト テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。

参考書 必要に応じて授業で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 本授業は、中級パラスポーツ指導員の資格取得科目である。講義・実技を行うが、実技の際にはパラスポーツ指導員としてふさわしい服装、身だしなみで参加すること。また、パラスポーツを理解する上で、障がい者とのふれあいを重視するため、補講期間中に学外授業(パラスポーツ観戦・経験・サポート)を予定している(日程の都合上、紹介のみの場合もある)。なお、本授業は障がい者スポーツ指導実習Ⅰおよび障がい者スポーツ指導実習Ⅱの内容を理解している前提で授業が展開されるため、授業の内容理解の観点から事前に障がい者スポーツ指導実習ⅠおよびⅡの単位を取得していること。

授業コード	13003201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツカウンセリング [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、アスリートが一般的に抱えるストレスや怪我についての理解、スポーツカウンセリングの目的や理論的背景、アセスメントなどについて概説します。授業の目的は、体育・スポーツ場面における対人理解を深めることです。また内容の性質上、実習形式の授業形態をとることもあります。知識の習得だけでなく、種々の心理テストなどを実施します。

授業はスライド資料によるプレゼン形式で行い、文字情報、動画などを提示しながらすすめていきます。内容に応じて、グループに分かれてディスカッションを行うこともあります。配布資料は、データでGoogleクラスルームより配信します。事前学習では、授業テーマに該当するテキストページを読み、分からない言葉を調べておくこと。事後学習では、授業で学んだキーワードについて調べ直すことや、テキストをもとにノートに加筆するなどの、主体的学習が必要です。

到達目標

1. スポーツカウンセリングの特徴を記述し、説明することができる
2. 体育・スポーツの指導者として、選手理解、生徒理解に活かすことができるカウンセリングマインドを記述し、説明することができる

授業計画

- 【第1回】ガイダンス
内容：スポーツカウンセリングの講義概要
- 【第2回】スポーツカウンセリングの機能と役割
内容：スポーツカウンセリングがどのように活用されているのか
- 【第3回】心理サポートとスポーツカウンセリング
内容：心理サポートの位置づけ
- 【第4回】メンタルトレーニングとスポーツカウンセリング
内容：アスリートに対するサポート
- 【第5回】チームビルディングとスポーツカウンセリング
内容：チームの変容とサポート事例
- 【第6回】競技ストレスとスポーツカウンセリング
内容：アスリートが抱えるストレス
- 【第7回】バーンアウトとスポーツカウンセリング
内容：バーンアウトに対する対応
- 【第8回】負傷とスポーツカウンセリング
内容：スポーツ傷害、スポーツ障害の理解
- 【第9回】こころの健康とスポーツカウンセリング
内容：メンタルヘルス、女性アスリートの特徴
- 【第10回】スポーツカウンセリングへの期待
内容：学校体育におけるカウンセリングマインド
- 【第11回】スポーツカウンセリングの可能性を考える
内容：エンカウンター
- 【第12回】スポーツカウンセリングの実践
内容：アセスメント
- 【第13回】指導者に期待されるスポーツ心理学的支援
内容：学校体育、競技スポーツから考える
- 【第14回】スポーツカウンセリングの実際
内容：現場ではどのようにサポートが行われているのかについて
- 【第15回】総括
内容：講義内容の理解度を確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
毎回の授業までに、授業で指示するトピックについて事前にノートにまとめておくこと
第4回から第9回までは、これまでの経験を思い出し、その経験を書き出しておく

【事後学習】
毎回の授業で学んだ内容や気づきなどについて、ノートに加筆すること
授業内で実践したことについて、その経験をノートに記述しておく

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
 正当な理由のない欠席5回以上、定期試験に代わるレポートの未提出の場合は、評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内容の理解度を確認する小テスト(計3回を予定) (各10点)	1, 2
授業外での評価	20	授業内容に関するふり返りレポートの提出	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	全授業終了後に実施する筆記試験(50)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない 教材がある場合は、授業内に配布する
------	---------------------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	この授業は次の資格取得に必要な科目です。 「中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許(保健体育)」の「3. 教科又は教職に関する科目」のうち「選択」科目に該当 「メンタルトレーニング法」と連携した内容であり、両方の授業をあわせて受講することが望ましい 欠席した場合、当日の配布資料は研究室(5-1002)まで取りに来てください。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13011401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	メンタルトレーニング法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

近年、競技場面での実力発揮をねらいとした心理的スキルトレーニング（メンタルトレーニング）に対する関心が高まっています。この授業では、日本スポーツ心理学会が認定している「スポーツメンタルトレーニング指導士」資格で定義されているメンタルトレーニングの理論的背景と実践例を概説し、この分野の理解を深めていきます。また、体験的な理解を深めるために、心理的なスキルトレーニングの実践を交えた授業を行います。これらを通して、運動・スポーツ指導者ならびに保健体育教員に必要なセルフコントロールや目標設定のスキルを身につけることを目的とします。

授業はスライド資料によるプレゼン形式で行い、文字情報、動画などを提示しながらすすめていきます。配布資料は、プリントを使用します。事前学習では、授業テーマに該当するテキストページを読み、分からない言葉を調べておくこと。事後学習では、毎日の課題に取り組むことや授業で学んだキーワードについて調べ直すなどの、主体的学習が必要です。

到達目標

1. 心理的スキルを実践し、その取り組みを記述し、説明することができる
2. 基本的な専門用語について説明することができる
3. スポーツメンタルトレーニングの心理的スキルとその目的を記述し、説明することができる

授業計画

- 【第1回】ガイダンス
内容：授業の進め方や授業の内容について
- 【第2回】メンタルトレーニングとは
内容：メンタルトレーニングプログラムの概観、心理サポートの必要性
- 【第3回】自己分析の実践
内容：心理検査を用いた自己分析の実践
- 【第4回】アセスメントとふり返り
内容：アセスメントの理解とふり返りの方法
- 【第5回】目標設定
内容：目標設定の理論と実際
- 【第6回】目標設定技法
内容：長期目標、中期目標、短期目標
- 【第7回】リラクゼーション技法
内容：呼吸法、漸進的筋弛緩法、バイオフィードバック
- 【第8回】注意集中技法
内容：注意集中を高めるパフォーマンスルーティン
- 【第9回】イメージトレーニングの基礎
内容：理論と実際
- 【第10回】イメージトレーニングの実践
内容：ピークパフォーマンス分析から
- 【第11回】自信を高める
内容：セルフ・エフィカシー（自己効力感）
- 【第12回】チームワークを向上する
内容：チームビルディングの実践
- 【第13回】心理的スキルトレーニング実践の評価
内容：取り組んだ成果のふり返り
- 【第14回】様々な種目におけるメンタルトレーニング
内容：メンタルトレーニング実践例を発表
- 【第15回】総括
内容：これまでの学習成果を確認

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

毎回の授業までに、テキスト当該箇所を読み、分からない言葉を事前にチェックしておくこと

【事後学習】

授業で学んだ内容や気づきなどについてふり返り、ノートに加筆すること
目標設定課題を毎日記録すること

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施する「小テスト」ならびに、授業内レポート、期末試験の評価結果に基づき、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
ただし、正当な理由のない欠席5回以上の場合は評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内容の理解度を確認する小テスト(30)	2, 3
授業外での評価	30	授業内容に関する実践レポートの提出(30)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施する筆記試験(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	『スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版』日本スポーツ心理学会編(大修館書店) 本体2,420円(税込) 書籍版 ISBN9784469268065
------	--------------------------------------------------------------------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介します
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	欠席者は、当日の配布資料を研究室(5-1002)まで取りに来てください。 「スポーツ心理学」の単位を修得していることが望ましい。
---------------	---------------------------------------------------------------------

授業コード	13110201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	学校教育実践演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業の目的は、保健体育科教員免許状の取得を目指すために必要な基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることである。
本授業では、保健体育科教員免許状の取得を目指す者としての心構えを育成しながら自己評価や他者評価、グループワーク等を通じて、上記の目的を達成させることを目指す。

到達目標

1. 適切に自己評価と他者評価ができる。
2. 板書の仕方を理解できる。
3. ラジオ体操第1・2の模範的演技ができ、また集団行動の創作ができる。
4. 模擬の介護等体験をとおして介護に必要な基礎知識を理解し、説明できる。
5. 保健体育科教員に求められる基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることができる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え（免許取得条件）
内容・方法：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え、教免取得条件、施設等体験実習、教育実習の概要と心構えを学習する
- 【第2回】
テーマ：介護等体験参加者の講話
内容・方法：介護等体験に参加した学生の話聞くことで、教職課程における取組む姿勢・態度を考える。
- 【第3回】
テーマ：板書の自己評価と他者評価
内容・方法：板書の仕方を学習する。
- 【第4回】
テーマ：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）
内容・方法：実技領域「体育」の導入・まとめを指導者として実践する。
- 【第5回】
テーマ：模擬の介護等体験
内容・方法：車いす介助の方法、視覚障がい者の実体験を通して学習する。
- 【第6回】
テーマ：ラジオ体操第1
内容・方法：ラジオ体操第1を指導者として正確に実施できるように学習する。
- 【第7回】
テーマ：ラジオ体操第2
内容・方法：ラジオ体操第2を指導者として正確に実施できるように学習する。
- 【第8回】
テーマ：ラジオ体操第1の自己評価と他者評価
内容・方法：ラジオ体操第1の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。
- 【第9回】
テーマ：ラジオ体操第2の自己評価と他者評価
内容・方法：ラジオ体操第2の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。
- 【第10回】
テーマ：学習指導案の作成1
内容・方法：学習指導案を作成する。
- 【第11回】
テーマ：学習指導案の作成2
内容・方法：学習指導案を作成する。
- 【第12回】
テーマ：模擬授業1
内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。
- 【第13回】
テーマ：模擬授業2
内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。
- 【第14回】
テーマ：模擬授業3
内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。
- 【第15回】
テーマ：まとめ
内容・方法：本授業を総括し、保健体育科教員免許状取得希望者としての心構え、態度等を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：教職課程履修の心構えについてまとめる
- ②事後学修課題：教員としての心構えや姿勢についてまとめる

【第2回】

- ①事前学修課題：介護等体験について調べ、介護等体験参加者に対する質問を考える
- ②事後学修課題：介護等体験に備えて必要なことをまとめる

【第3回】

- ①事前学修課題：板書の仕方を調べる
- ②事後学修課題：板書の自己評価と他者評価を整理する

【第4回】

- ①事前学修課題：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）の動きを確認する
- ②事後学修課題：集団行動指導（集合・整列・隊形移動・行進）の留意点をまとめる

【第5回】

- ①事前学修課題：高齢者及び障がい者対象サービスについて調べる
- ②事後学修課題：介助、介護方法について復習をする

【第6回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第1の動作の留意点をまとめる

【第7回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第2の動作の留意点をまとめる

【第8回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第9回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第10回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第11回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第12回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第13回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第14回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第15回】

- ①事前学修課題：本授業の内容を振り返る。
- ②事後学修課題：本授業をとおして自己評価をする。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で実施する実技、発表、演習等についてはその都度学生一人ひとりにフィードバックを行い、適宜、指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 正当な理由なく3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる（学科規程より）。なお、遅刻3回で1回の欠席とする。
- ・ 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・授業態度・意欲など課題などの取り組み姿勢(30) ・発表に向けた準備状況やその目標到達度(30) ・教員を志望する者として相応の取り組み態度(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート試験(20)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 適宜、資料を配布する。

参考書	<p>文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>履修条件は以下のとおりである。 ・真面目かつ主体的に授業に臨める者。 ・向上心を抱き、ひたむきに教員免許状取得を目指せる者。 欠席者については、各担当教員に連絡して資料を受け取ること。</p>

授業コード	13110202	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	学校教育実践演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業の目的は、保健体育科教員免許状の取得を目指すために必要な基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることである。
本授業では、保健体育科教員免許状の取得を目指す者としての心構えを育成しながら自己評価や他者評価、グループワーク等を通じて、上記の目的を達成させることを目指す。

到達目標

1. 適切に自己評価と他者評価ができる。
2. 板書の仕方を理解できる。
3. ラジオ体操第1・2の模範的演技ができ、また集団行動の創作ができる。
4. 模擬の介護等体験をとおして介護に必要な基礎知識を理解し、説明できる。
5. 保健体育科教員に求められる基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え（免許取得条件）
内容・方法：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え、教免取得条件、施設等体験実習、教育実習の概要と心構えを学習する

【第2回】

テーマ：介護等体験参加者の講話
内容・方法：介護等体験に参加した学生の話聞くことで、教職課程における取組む姿勢・態度を考える。

【第3回】

テーマ：板書の自己評価と他者評価
内容・方法：板書の仕方を学習する。

【第4回】

テーマ：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）
内容・方法：実技領域「体育」の導入・まとめを指導者として実践する。

【第5回】

テーマ：模擬の介護等体験
内容・方法：車いす介助の方法、視覚障がい者の実体験を通して学習する。

【第6回】

テーマ：ラジオ体操第1
内容・方法：ラジオ体操第1を指導者として正確に実施できるように学習する。

【第7回】

テーマ：ラジオ体操第2
内容・方法：ラジオ体操第2を指導者として正確に実施できるように学習する。

【第8回】

テーマ：ラジオ体操第1の自己評価と他者評価
内容・方法：ラジオ体操第1の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。

【第9回】

テーマ：ラジオ体操第2の自己評価と他者評価
内容・方法：ラジオ体操第2の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。

【第10回】

テーマ：学習指導案の作成1
内容・方法：学習指導案を作成する。

【第11回】

テーマ：学習指導案の作成2
内容・方法：学習指導案を作成する。

【第12回】

テーマ：模擬授業1
内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。

【第13回】

テーマ：模擬授業2
内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。

【第14回】

テーマ：模擬授業3
内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。

【第15回】

テーマ：まとめ
内容・方法：本授業を総括し、保健体育科教員免許状取得希望者としての心構え、態度等を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：教職課程履修の心構えについてまとめる
- ②事後学修課題：教員としての心構えや姿勢についてまとめる

【第2回】

- ①事前学修課題：介護等体験について調べ、介護等体験参加者に対する質問を考える
- ②事後学修課題：介護等体験に備えて必要なことをまとめる

【第3回】

- ①事前学修課題：板書の仕方を調べる
- ②事後学修課題：板書の自己評価と他者評価を整理する

【第4回】

- ①事前学修課題：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）の動きを確認する
- ②事後学修課題：集団行動指導（集合・整列・隊形移動・行進）の留意点をまとめる

【第5回】

- ①事前学修課題：高齢者及び障がい者対象サービスについて調べる
- ②事後学修課題：介助、介護方法について復習をする

【第6回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第1の動作の留意点をまとめる

【第7回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第2の動作の留意点をまとめる

【第8回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第9回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第10回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第11回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第12回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第13回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第14回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第15回】

- ①事前学修課題：本授業の内容を振り返る。
- ②事後学修課題：本授業をとおして自己評価をする。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で実施する実技、発表、演習等についてはその都度学生一人ひとりにフィードバックを行い、適宜、指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 正当な理由なく3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる（学科規程より）。なお、遅刻3回で1回の欠席とする。
- ・ 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・授業態度・意欲など課題などの取り組み姿勢(30) ・発表に向けた準備状況やその目標到達度(30) ・教員を志望する者として相応の取り組み態度(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート試験(20)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 適宜、資料を配布する。

参考書	<p>文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>履修条件は以下のとおりである。 ・真面目かつ主体的に授業に臨める者。 ・向上心を抱き、ひたむきに教員免許状取得を目指せる者。 欠席者については、各担当教員に連絡して資料を受け取ること。</p>

授業コード	13110203	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	学校教育実践演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業の目的は、保健体育科教員免許状の取得を目指すために必要な基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることである。
 本授業では、保健体育科教員免許状の取得を目指す者としての心構えを育成しながら自己評価や他者評価、グループワーク等を通じて、上記の目的を達成させることを目指す。

到達目標

1. 適切に自己評価と他者評価ができる。
2. 板書の仕方を理解できる。
3. ラジオ体操第1・2の模範的演技ができ、また集団行動の創作ができる。
4. 模擬の介護等体験をとおして介護に必要な基礎知識を理解し、説明できる。
5. 保健体育科教員に求められる基礎的な知識及び技能、基本的な態度を身につけることができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え（免許取得条件）
 内容・方法：本授業の目的と意義及び教職課程履修の心構え、教免取得条件、施設等体験実習、教育実習の概要と心構えを学習する
- 【第2回】
 テーマ：介護等体験参加者の講話
 内容・方法：介護等体験に参加した学生の話聞くことで、教職課程における取組む姿勢・態度を考える。
- 【第3回】
 テーマ：板書の自己評価と他者評価
 内容・方法：板書の仕方を学習する。
- 【第4回】
 テーマ：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）
 内容・方法：実技領域「体育」の導入・まとめを指導者として実践する。
- 【第5回】
 テーマ：模擬の介護等体験
 内容・方法：車いす介助の方法、視覚障がい者の実体験を通して学習する。
- 【第6回】
 テーマ：ラジオ体操第1
 内容・方法：ラジオ体操第1を指導者として正確に実施できるように学習する。
- 【第7回】
 テーマ：ラジオ体操第2
 内容・方法：ラジオ体操第2を指導者として正確に実施できるように学習する。
- 【第8回】
 テーマ：ラジオ体操第1の自己評価と他者評価
 内容・方法：ラジオ体操第1の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。
- 【第9回】
 テーマ：ラジオ体操第2の自己評価と他者評価
 内容・方法：ラジオ体操第2の模範演技テストと指導上のポイントについて学習する。
- 【第10回】
 テーマ：学習指導案の作成1
 内容・方法：学習指導案を作成する。
- 【第11回】
 テーマ：学習指導案の作成2
 内容・方法：学習指導案を作成する。
- 【第12回】
 テーマ：模擬授業1
 内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。
- 【第13回】
 テーマ：模擬授業2
 内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。
- 【第14回】
 テーマ：模擬授業3
 内容・方法：保健体育等の模擬授業を実践する。
- 【第15回】
 テーマ：まとめ
 内容・方法：本授業を総括し、保健体育科教員免許状取得希望者としての心構え、態度等を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：教職課程履修の心構えについてまとめる
- ②事後学修課題：教員としての心構えや姿勢についてまとめる

【第2回】

- ①事前学修課題：介護等体験について調べ、介護等体験参加者に対する質問を考える
- ②事後学修課題：介護等体験に備えて必要なことをまとめる

【第3回】

- ①事前学修課題：板書の仕方を調べる
- ②事後学修課題：板書の自己評価と他者評価を整理する

【第4回】

- ①事前学修課題：集団行動（集合・整列・隊形移動・行進）の動きを確認する
- ②事後学修課題：集団行動指導（集合・整列・隊形移動・行進）の留意点をまとめる

【第5回】

- ①事前学修課題：高齢者及び障がい者対象サービスについて調べる
- ②事後学修課題：介助、介護方法について復習をする

【第6回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第1の動作の留意点をまとめる

【第7回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2の練習をする
- ②事後学修課題：ラジオ体操第2の動作の留意点をまとめる

【第8回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第1を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第9回】

- ①事前学修課題：ラジオ体操第2を模範的に実施できるよう練習する
- ②事後学修課題：仲間とお互いに教え合い、評価することを通して各人の課題点と指導方法をまとめる

【第10回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第11回】

- ①事前学修課題：学習指導案の書き方を予習する
- ②事後学修課題：学習指導案を見直し、適宜修正する

【第12回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第13回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第14回】

- ①事前学修課題：模擬授業の準備をする
- ②事後学修課題：模擬授業の改善策をまとめる

【第15回】

- ①事前学修課題：本授業の内容を振り返る。
- ②事後学修課題：本授業をとおして自己評価をする。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で実施する実技、発表、演習等についてはその都度学生一人ひとりにフィードバックを行い、適宜、指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・ 正当な理由なく3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる（学科規程より）。なお、遅刻3回で1回の欠席とする。
- ・ 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・授業態度・意欲など課題などの取り組み姿勢(30) ・発表に向けた準備状況やその目標到達度(30) ・教員を志望する者として相応の取り組み態度(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート試験(20)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 適宜、資料を配布する。

参考書	<p>文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>履修条件は以下のとおりである。 ・真面目かつ主体的に授業に臨める者。 ・向上心を抱き、ひたむきに教員免許状取得を目指せる者。 欠席者については、各担当教員に連絡して資料を受け取ること。</p>

授業コード	13110301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	学校教育学特講 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

学校教育を取り巻く環境は、社会によってどのように異なるのだろうか。
本授業では、学校教育を取り巻く諸課題について、異なる社会との比較を通じて学習及び考察していく。
授業は、(1)講義、(2)自由討論、の2本立てで構成していく。

到達目標

1. 学校教育と社会との関係について説明することができる。
2. 学校教育における様々な課題について、比較社会的に説明することができる。
3. 日本の学校教育をめぐる諸課題について、他国の事例に依拠しつつ改善に向けた意見を述べることができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
学校教育を比較社会的に考察する
- 【第2回】若者たちの将来展望
若者たちの将来展望をめぐる現状と課題について考える
- 【第3回】学校から仕事へ
就職と雇用慣行について多国間比較から考える
- 【第4回】教育と平等
義務教育制度における学校間格差について多国間比較から考える
- 【第5回】家庭における教育
少子化について多国間比較から考える
- 【第6回】ひとり親家庭と家族政策
ひとり親家庭の困難と支援のあり方について多国間比較から考える
- 【第7回】教師の地位と役割
教師の労働環境と課題について多国間比較から考える
- 【第8回】保護者の社会経済的状況
保護者の社会経済的背景について多国間比較から学ぶ
- 【第9回】教育とジェンダー
学校教育におけるジェンダーの再生産について多国間比較から考える
- 【第10回】生徒の社会経済的状況
社会経済的に多様な生徒たちへの対応について考える
- 【第11回】若者とつながり
若者の人づきあいのあり方について多国間比較から考える
- 【第12回】いじめ
いじめの実態と特徴について多国間比較から考える
- 【第13回】非行と更生
少年犯罪と更生のあり方について多国間比較から考える
- 【第14回】教育格差
教育格差と「学歴」の意味について多国間比較から学ぶ
- 【第15回】おわりに
教育と社会の関係についてまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業テーマに関連する新聞記事等をよく読み、予備知識をつける事前学習を行うこと。
事後には、学んだ内容に関連する文献や資料についてリサーチすること。

課題に対するフィードバックの方法

最終レポートの結果については、希望があればフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	リアクションペーパー	1, 2

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学: 教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房
-----	------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	学校教育をめぐる諸課題について、ニュースなどを通じて関心を高めておきましょう。
---------------	-----------------------------------------

授業コード	13110401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ教育学演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）または中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す学生を想定した授業です。
また、通常の時間割だけでなく、土曜日、日曜日、祝日等に学外で活動を実施します。
その他、学外活動時の保険代（210円）や交通費等の費用が発生することがあります。

主に下記の3点の内容を実施します。

- 1) 学校現場や障害がある人の運動・スポーツ活動を見学・サポートする。
- 2) 運動・スポーツの指導プログラム、運営、技術指導を実践し、自身の指導方法を振り返る。
- 3) インクルーシブ・スポーツ教室または大会を企画・運営を目指す。

到達目標

- 1) 障害の有無に関わらず、人が運動・スポーツを実施できるようサポートする姿勢が身についている。
- 2) 自分の伝えたいことを文字や言葉で簡潔かつ具体的に話すことができる。
- 3) 障害の有無に関わらず、運動ができる環境を整えるための知識を持っている。

授業計画

【第1回】オリエンテーション

授業の進め方の説明、注意事項などを概説する。
グループ分け、学外授業のスケジュール調整を行う。

事前学修：シラバスを確認する。

事後学修：スケジュールを確認し、すべての授業に参加できるよう調整する。

【第2回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（1）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第3回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（2）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第4回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（3）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第5回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（4）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第6回】指導法を学ぶ（1）

外部指導者を招聘し、スポーツ指導を行う上で重要なポイントを学ぶ。

また、実際に身体を動かしながら指導の練習をする。

さらに、指導に対してフィードバックをもらい、指導力向上を目指す。

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。

事前学修：指導者としての心構えについて調べる。

事後学修：本授業で指摘された課題を整理し、文書にまとめる。

【第7回】指導法を学ぶ（2）

外部指導者を招聘し、スポーツ指導を行う上で重要なポイントを学ぶ。

また、実際に身体を動かしながら指導の練習をする。

さらに、指導に対してフィードバックをもらい、指導力向上を目指す。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：指導者としての心構えについて調べる。
事後学修：本授業で指摘された課題を整理し、文書にまとめる。

【第8回】指導法を学ぶ（3）

外部指導者を招聘し、スポーツ指導を行う上で重要なポイントを学ぶ。
また、実際に身体を動かしながら指導の練習をする。
さらに、指導に対してフィードバックをもらい、指導力向上を目指す。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：指導者としての心構えについて調べる。
事後学修：本授業で指摘された課題を整理し、文書にまとめる。

【第9回】スポーツ教室・大会の準備（1）

スポーツ大会の対象者、規模、スポーツ種目などを決定する。
障害者スポーツセンターの見学および指導上の注意事項について学ぶ。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。
事前学修：障害の有無に関わらずできる運動やスポーツを考える。
事後学修：実際のスポーツ現場で得た知見を整理し、文書にまとめる。

【第10回】スポーツ教室・大会の準備（2）

スポーツ大会の対象者、規模、スポーツ種目などを決定する。
障害者スポーツセンターの見学および指導上の注意事項について学ぶ。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。
事前学修：障害の有無に関わらずできる運動やスポーツを考える。
事後学修：実際のスポーツ現場で得た知見を整理し、文書にまとめる。

【第11回】スポーツ教室・大会の準備（3）

スポーツ大会の対象者、規模、スポーツ種目などを決定する。
障害者スポーツセンターの見学および指導上の注意事項について学ぶ。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。
事前学修：障害の有無に関わらずできる運動やスポーツを考える。
事後学修：実際のスポーツ現場で得た知見を整理し、文書にまとめる。

【第12回】スポーツ教室・大会の開催（1）

体験教室・スポーツ大会を実施する
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：スムーズな進行ができるように、シミュレーションを行う。
事後学修：実施した際の課題を整理し、文書にまとめる。

【第13回】スポーツ教室・大会の開催（2）

体験教室・スポーツ大会を実施する
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：スムーズな進行ができるように、シミュレーションを行う。
事後学修：実施した際の課題を整理し、文書にまとめる。

【第14回】活動の振り返り

これまでの活動をまとめ、レポートおよびプレゼン資料を作成する
事前学修：スポーツ教室または大会を実施し、得られた課題について発表する準備をする。
事後学修：指摘されたポイントや学んだ内容を整理し、文書にまとめる。

【第15回】成果報告会

スポーツ教育分野の活動として、スポーツ行動学科の学生に成果を幅広く公表します。
事前学修：これまでの成果が発表できるように準備する。
事後学修：指摘されたポイントや他の分野の発表内容を整理し、文書にまとめる。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載のとおり。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業中または終了後、翌週に行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	60	授業時の課題(60)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(15)、振り返りの発表(15)	2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2

テキスト	テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。
------	--------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。
-----	----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)または中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す学生を想定した授業です。</p> <p>学外に赴き、人前で話をしたり、運動やスポーツの指導計画および実施をしたり、日常的な介助のサポートを主に実施します。</p> <p>そのため、上記の免許・資格を取得する学生が受講してください。</p> <p>また、通常の間割だけでなく、土曜日、日曜日、祝日等に学外で活動を実施することがあります。</p> <p>その他、学外活動時の保険代(210円)や交通費等の費用が発生することがあります。</p> <p>なお、授業を欠席した場合は、プリント(資料)を研究室(5-1009)まで受け取りに来ること。</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13110402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ教育学演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）または中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す学生を想定した授業です。
また、通常の時間割だけでなく、土曜日、日曜日、祝日等に学外で活動を実施します。
その他、学外活動時の保険代（210円）や交通費等の費用が発生することがあります。

主に下記の3点の内容を実施します。

- 1) 学校現場や障害がある人の運動・スポーツ活動を見学・サポートする。
- 2) 運動・スポーツの指導プログラム、運営、技術指導を実践し、自身の指導方法を振り返る。
- 3) インクルーシブ・スポーツ教室または大会を企画・運営する。

到達目標

- 1) 障害の有無に関わらず、人が運動・スポーツを実施できるようサポートする姿勢が身についている。
- 2) 自分の伝えたいことを文字や言葉で簡潔かつ具体的に話すことができる。
- 3) 障害の有無に関わらず、運動ができる環境を整えるための知識がある。

授業計画

【第1回】オリエンテーション

授業の進め方の説明、注意事項などを概説する。
グループ分け、学外授業のスケジュール調整を行う。

事前学修：シラバスを確認する。

事後学修：スケジュールを確認し、すべての授業に参加できるよう調整する。

【第2回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（1）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第3回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（2）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第4回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（3）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第5回】学校現場の見学・サポート / 障害者スポーツの実際・サポート（4）

学校現場のボランティア活動に参加する。

または、障害者スポーツ大会（大阪市の大会）の補助役員、出場者のサポートを行う

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。

事前学修：障害がある人が運動やスポーツを行う際のサポート方法について調べる

事後学修：現地での課題を整理し、文書にまとめる。

【第6回】指導法を学ぶ（1）

外部指導者を招聘し、スポーツ指導を行う上で重要なポイントを学ぶ。

また、実際に身体を動かしながら指導の練習をする。

さらに、指導に対してフィードバックをもらい、指導力向上を目指す。

※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。

事前学修：指導者としての心構えについて調べる。

事後学修：本授業で指摘された課題を整理し、文書にまとめる。

【第7回】指導法を学ぶ（2）

外部指導者を招聘し、スポーツ指導を行う上で重要なポイントを学ぶ。

また、実際に身体を動かしながら指導の練習をする。

さらに、指導に対してフィードバックをもらい、指導力向上を目指す。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：指導者としての心構えについて調べる。
事後学修：本授業で指摘された課題を整理し、文書にまとめる。

【第8回】指導法を学ぶ（3）

外部指導者を招聘し、スポーツ指導を行う上で重要なポイントを学ぶ。
また、実際に身体を動かしながら指導の練習をする。
さらに、指導に対してフィードバックをもらい、指導力向上を目指す。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：指導者としての心構えについて調べる。
事後学修：本授業で指摘された課題を整理し、文書にまとめる。

【第9回】スポーツ教室・大会の準備（1）

スポーツ大会の対象者、規模、スポーツ種目などを決定する。
障害者スポーツセンターの見学および指導上の注意事項について学ぶ。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。
事前学修：障害の有無に関わらずできる運動やスポーツを考える。
事後学修：実際のスポーツ現場で得た知見を整理し、文書にまとめる。

【第10回】スポーツ教室・大会の準備（2）

スポーツ大会の対象者、規模、スポーツ種目などを決定する。
障害者スポーツセンターの見学および指導上の注意事項について学ぶ。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。
事前学修：障害の有無に関わらずできる運動やスポーツを考える。
事後学修：実際のスポーツ現場で得た知見を整理し、文書にまとめる。

【第11回】スポーツ教室・大会の準備（3）

スポーツ大会の対象者、規模、スポーツ種目などを決定する。
障害者スポーツセンターの見学および指導上の注意事項について学ぶ。
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になります。
事前学修：障害の有無に関わらずできる運動やスポーツを考える。
事後学修：実際のスポーツ現場で得た知見を整理し、文書にまとめる。

【第12回】スポーツ教室・大会の開催（1）

体験教室・スポーツ大会を実施する
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：スムーズな進行ができるように、シミュレーションを行う。
事後学修：実施した際の課題を整理し、文書にまとめる。

【第13回】スポーツ教室・大会の開催（2）

体験教室・スポーツ大会を実施する
※土日祝での実施を想定しています。また、活動場所は学外になる場合があります。
事前学修：スムーズな進行ができるように、シミュレーションを行う。
事後学修：実施した際の課題を整理し、文書にまとめる。

【第14回】活動の振り返り

これまでの活動をまとめ、レポートおよびプレゼン資料を作成する
事前学修：スポーツ教室または大会を実施し、得られた課題について発表する準備をする。
事後学修：指摘されたポイントや学んだ内容を整理し、文書にまとめる。

【第15回】成果報告会

スポーツ教育分野の活動として、スポーツ行動学科の学生に成果を幅広く公表します。
事前学修：これまでの成果が発表できるように準備する。
事後学修：指摘されたポイントや他の分野の発表内容を整理し、文書にまとめる。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業計画に記載のとおり。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業中または終了後、翌週に行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	60	授業時の課題(60)等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(15)、振り返りの発表(15)	2, 3
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2

テキスト	テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。
------	--------------------------

参考書	必要に応じて授業で紹介する。
-----	----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)または中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す学生を想定した授業です。</p> <p>学外に赴き、人前で話をしたり、運動やスポーツの指導計画および実施をしたり、日常的な介助のサポートを主に実施します。</p> <p>そのため、上記の免許・資格を取得する学生が受講してください。</p> <p>また、通常的时间割だけでなく、土曜日、日曜日、祝日等に学外で活動を実施することがあります。</p> <p>その他、学外活動時の保険代(210円)や交通費等の費用が発生することがあります。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13006101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ社会学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツは単なる個人的な営みだけではなく、社会との繋がりが切り離せません。世界的にスポーツのもつ社会的な機能はますます重要な役割を担っています。わが国においても、競技、健康、教育分野だけでなく経済、政治、文化、メディア等々とも密接に関連しています。このようなスポーツをめぐる社会的現象を題材としてスポーツと社会の関連を考察していきます。

本授業では、スポーツとそれに関わる諸問題をスポーツ社会学の文脈から正しい語彙とそれに基づく知識の習得と一般化、さらにはスポーツを理解する力を養います。

到達目標

1. スポーツを社会的な視点から捉え、個人・集団・スポーツ・社会との関わりについて説明することができる。
2. 運動・スポーツに関連する事柄を通して、その社会的意義や価値を見出すことができる。
3. 日常におけるQOLを高めるための知識や理論を実践の場で活かす能力を養うことができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション	スポーツ社会学とは(授業の概要と進め方)
第2回	スポーツの理解①	スポーツ, 運動, 体育の定義と概念
第3回	社会とスポーツ①	遊び, 文化, スポーツの現代的な意義と役割
第4回	社会とスポーツ②	レジャー・スポーツの変遷と政策
第5回	スポーツと経済①	スポーツイベントとスポーツツーリズム
第6回	スポーツと健康①	スポーツとレクリエーションの役割
第7回	スポーツへの社会化①	スポーツへの参与とスポーツプロモーション
第8回	スポーツと地域社会①	総合型地域スポーツクラブ
第9回	スポーツと地域社会②	ささえるスポーツとスポーツボランティア
第10回	スポーツの理解②	スポーツの社会的機能
第11回	スポーツと経済②	スポーツ産業と見るスポーツ
第12回	スポーツと健康②	生涯スポーツとスポーツキャリアの形成
第13回	スポーツと多様性①	ライフステージに応じたスポーツライフ
第14回	スポーツと多様性②	マイノリティーのスポーツ(女性、高齢者、障がい者)
第15回	スポーツへの社会化②	スポーツ環境(インテグリティ、ドーピング、ハラスメント)、スポーツ社会の展望

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回のテーマに関する内容について、専門書や新聞、テレビ、ネット記事などのメディアを活用して、事前に情報を収集し、準備学習を行ってください。

またその事象がどうして起こっているのか、「なぜ？」という問いかけと「どうあるべきか？」の自分なりの意見を持って授業に望んでください。

事後学習：毎回の講義後に出されるテーマに沿った課題に対し、期日までに回答し、提出して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて課題の提出、返却を行います。

提出された課題に対する講評、質問に対する回答は次回の講義内で行います。

成績評価の方法・基準(方針)

- 1) 正当な理由がなく5回以上の欠席は評価の対象とせずに「K」評価とします。
- 2) 授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱います。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎講義後に課される課題の提出状況と内容(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	60	筆記試験(60)	1, 2, 3

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	適宜, 授業ごとにレジメ, 資料を配布します。		
参考書	生涯スポーツ実践論改訂4版、市村出版 2018 現代スポーツ社会学序説、杏林書院, 2003 公認スポーツ指導者養成講習会用テキスト「リファレンスブック」、JSP0(日本スポーツ協会)出版 その他, 適宜, 参考書および資料を紹介します。		
履修条件・他の科目との関連	JSP0公認スポーツ指導員資格、中級パラスポーツ指導員資格取得希望者は、本科目が資格対応科目になっている。 スポーツ経営管理		

授業コード	13005601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ産業 [対面]				
シラバス執筆(全員)	菊地 靖				
シラバス執筆(主)	菊地 靖				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

主に1年生を対象にした講義です。「スポーツ産業」の歴史、成り立ち、仕組み等々、広義的な基本知識を学習する場にしたいと考えています。いわゆる「スポーツ産業」といっても対象業種は多岐に渡ります。世界の中でもスポーツ先進国と言われる米国の最新事情も紹介しながら、講義を進めていく予定です。在米24年間でスポーツ現場で取材を続けてきた経験を生かし、動画や画像などを利用してながらスポーツ産業の現状を紹介していきます。それを踏まえ「スポーツ産業」分野で最先端を走る米国の事情を理解しながら、さらに日本も対比して日本の現状も考察していきます。

到達目標

1. 「スポーツ産業」の歴史を理解する。
2. 「スポーツ産業」の成り立ちを理解する。
3. 「スポーツ産業」の仕組みを理解する。
4. 「スポーツ産業」の最新情報を理解する。
5. 「スポーツ産業」の将来性を授業で得た知識を元に説明できるようにする。

授業計画

- 【第1回】 内容：今後の授業予定とガイダンス
- 【第2回】 内容：スポール産業の概念
- 【第3回】 内容：スポーツ産業の根幹をなすプロスポーツ（その1～基礎知識～）
- 【第4回】 内容：スポーツ産業の根幹をなすプロスポーツ（その2～米トップリーグの現状～）
- 【第5回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（スポーツ用品産業その1～歴史的背景～）
- 【第6回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（スポーツ用品産業その2～現状と戦略～）
- 【第7回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（スポーツ施設その1～各種競技イベントを支えるスポーツ施設）
- 【第8回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（スポーツ施設その2～身近にあるスポーツ施設～）
- 【第9回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（人材育成と派遣）
- 【第10回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（スポーツエージェント）
- 【第11回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（スポーツ情報産業）
- 【第12回】 内容：スポーツ界を支える関連産業（スポーツ関連サービス産業）
- 【第13回】 内容：スポーツ産業の新興勢力eスポーツ（その誕生と歴史）
- 【第14回】 内容：スポーツ産業の新興産業eスポーツ（急成長とその将来性）
- 【第15回】 内容：スポーツ産業の未来像（講義の総括）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学修課題：スポーツ産業のシラバスに目を通して授業全体を把握する。
 - ②事後学修課題：自分なりにスポーツ産業がどんなものかを考える。
- 【第2回】
 - ①事前学修課題：自分が考えるスポーツ産業を列記する。
 - ②事後学修課題：授業を聞いた内容を元にして自分が列記したスポーツ産業を分類分けする。
- 【第3回】
 - ①事前学修課題：世界中の人気プロスポーツを調べる。
 - ②事後学修課題：世界と人気プロスポーツの地域性を復習する。
- 【第4回】
 - ①事前学修課題：プロスポーツの様々な収入源を調べる。
 - ②事後学修課題：各人気スポーツの主要収入源を復習する。
- 【第5回】
 - ①事前学修課題：自分が携わったスポーツと専門用品の関連性を考える。
 - ②事後学修課題：スポーツ用品が各競技の発展を如何に支えたのかを復習する。
- 【第6回】
 - ①事前学修課題：スポーツ用品のファッション性について考える。
 - ②事後学修課題：人気アスリートのシグネチャーモデルを調べる。
- 【第7回】
 - ①事前学修課題：これまで自分が使用してきたスポーツ施設を列記する。
 - ②事後学修課題：これまで使用してきたスポーツ施設の運営面を調べる。
- 【第8回】
 - ①事前学修課題：自分の周りにあるスポーツ施設を調べる。
 - ②事後学修課題：一般生活の中に溶け込むスポーツ施設について復習する。
- 【第9回】
 - ①事前学修課題：これまで自分が携わったスポーツでお世話になった人々を列記する。

- ②事後学修課題：アスリートを支える人たちの重要性を復習する。
 【第10回】
 ①事前学修課題：スポーツエージェントについて調べ予備知識を得る。
 ②事後学修課題：スポーツエージェントがスポーツ界の発展に寄与している構造を復習する。
 【第11回】
 ①事前学修課題：多岐に渡りスポーツ情報を提供する企業について調べる。
 ②事後学修課題：スポーツ界とスポーツ情報との関連性を復習する。
 【第12回】
 ①事前学修課題：スポーツイベント等の運営に携わる企業について調べる。
 ②事後学修課題：スポーツ運営を支える企業の多様性について復習する。
 【第13回】
 ①事前学修課題：eスポーツがいつ頃から認知され始めたのかを調べる。
 ②事後学修課題：eスポーツがなぜ人気を集めるようになったのかを復習する。
 【第14回】
 ①事前学修課題：第13回の授業を聞いてeスポーツの可能性について考える。
 ②事後学修課題：eスポーツとスポーツとの関連性について復習する。
 【第15回】
 ①事前学修課題：今期配布のプリントすべてを持参し目を通しておく。
 ②事後学修課題：授業中に押さえた事項について確実に復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

前述の事前調査、事後調査は、課題として提出を求めるケースもあります。今年度もGoogle Classroomが使用していきますので、同機能を通じて学生の皆さんにフィードバックしていく予定です。

成績評価の方法・基準(方針)

通常通り対面授業で実施される場合は、第15回目に実施する論述試験と提出を義務づける課題によって評価していきます。また多少出席状況も検討する場合があります。もし昨年度のように遠隔授業で実施される場合は、状況に合わせながら対応していく予定です。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容に関する事前調査、事後調査等を課題として提出してもらい、関連事項に関する理解度を確認します。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	第15回目の総括授業終了後にGoogle Classroomを通じて3問程度の論述課題を公開します。これを的試験に代わるレポートとして公開後1週間以内に提出するようにしてください。	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	特にありません。こちらで資料を含め学習教材を用意する予定です。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介していきます。
履修条件・他の科目との関連	明確な履修条件はありません。「スポーツ産業」に興味がある学生であれば、対象学生なら誰でも履修可能です。

授業コード	13005501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ経営・管理 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	未定				
シラバス執筆(主)	未定				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

体育・スポーツにおいて、人的管理、施設・用具の管理、財務管理、情報管理などの経営学的なものの見方、考え方が必要不可欠となっています。本講義では、スポーツ経営・管理に関連する制度や法律を理解するとともに、公共のスポーツ施設、民間のスポーツ施設、学校体育、スポーツイベント等をマネジメント的な観点から捉え、理解を深めることを目的とします。

到達目標

1. スポーツ経営・管理学に関する基礎知識の習得とその応用力を身につけることができる。
2. 学校、地域、民間、公共スポーツ施設等といったスポーツ組織の経営・管理について説明することができる。
3. スポーツ経営・管理に関する知識と理論を生涯スポーツを推進する実践の場で活かす能力を養うことができる。

授業計画

第1回	スポーツ経営・管理学とは（オリエンテーション）
第2回	スポーツマネジメントの基礎理論
第3回	スポーツ経営・組織に関する法律と制度
第4回	スポーツ組織の経営と実践① プロスポーツクラブについて
第5回	スポーツ組織の経営と実践② 地域スポーツクラブについて
第6回	スポーツ施設の経営と管理① 公共スポーツ施設について
第7回	スポーツ施設の経営と管理② 民間スポーツ施設について
第8回	学校体育の経営と管理
第9回	子ども・青少年スポーツのマネジメント
第10回	スポーツイベントのマネジメント
第11回	スポーツマーケティングの基礎理論
第12回	スポーツ消費者行動
第13回	スポーツ・スポンサーシップのマネジメント
第14回	スポーツ・ツーリズムのマネジメント
第15回	スポーツ経営・管理における今後の展望とまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
 事前学習：前週に翌週のテーマについて予告するので各回のテーマに関する内容について、専門書や新聞、テレビ、ネット記事などのメディアを活用して、事前に情報を収集し、準備学習を行ってください。
 事後学習：毎回の講義後に出されるテーマに沿った課題に対し、期日までに回答し、提出して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて課題の提出、返却を行います
 提出された課題に対する講評、質問に対する回答は次回の講義内で行います

成績評価の方法・基準(方針)

- 1) 正当な理由がなく5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	毎講義後に課される課題の提出状況と内容(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	60	筆記試験(60)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	適宜、授業ごとにレジメ、資料を配布します。
参考書	体育・スポーツ経営学講義、八代勉・中村平 編、大修館書店2005 よくわかるスポーツマネジメント、柳沢和雄、清水紀宏、中西純司 編、ミネルヴァ書房2019 その他、必要に応じて授業内で紹介する
履修条件・他の科目との関連	スポーツ社会学

授業コード	13080401	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	スポーツ事業論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では様々なスポーツビジネス（事業）の現場で起こっている現状を知り、それらを専門的に学びに必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。我が国のスポーツ行政などの狙いと仕組みを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得するとともに日米のプロスポーツについても学ぶ。実際のスポーツビジネスでの実例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。担当教員が長年に亘り、「スポーツビジネス」業務に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、「スポーツビジネスとは何か」「スポーツビジネスに従事するために必要な能力」に関する理論と実践への応用を関連付けながら講義を展開する。

到達目標

1. スポーツ事業とは何か説明することができる
2. 様々なスポーツビジネスについてそれぞれの経営方法や成り立ちなど説明することができる
3. 各種プロスポーツビジネスの経営としての違いを理解し説明することができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：現代のスポーツビジネス
- 【第2回】 スポーツ施設産業：公共・民間スポーツ施設のマネジメントを学ぶ
- 【第3回】 プロスポーツマーケティング：スポーツマーケティングを学ぶ
- 【第4回】 教育とスポーツビジネス：教育現場のスポーツビジネスを学ぶ
- 【第5回】 企業とスポーツビジネス：企業スポーツの歴史と今後を学ぶ
- 【第6回】 レジャースポーツ産業：レジャースポーツ産業の実例を学ぶ
- 【第7回】 地域活性化とスポーツビジネス：総合型地域スポーツクラブを学ぶ
- 【第8回】 スポーツ事業論前半まとめ
- 【第9回】 プロスポーツの経営：日本のプロスポーツの現状と課題を学ぶ
- 【第10回】 近年のアスリート支援：大学スポーツのマネジメントを学ぶ
- 【第11回】 オリンピックの効果：オリンピックの開催意義や効果を学ぶ
- 【第12回】 スポーツツーリズム：スポーツツーリズムの事例を学ぶ
- 【第13回】 スポーツビジネスにおける人材：体育会系学生やセカンドキャリアについて学ぶ
- 【第14回】 カレッジスポーツビジネス：日本とアメリカの大学スポーツの違いについて学ぶ
- 【第15回】 スポーツ事業論後半まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回

- 【事前】 授業のシラバスを熟読し授業構成を理解する
- 【事後】 オリエンテーションの説明内容にもとづきスポーツ事業の基礎知識を自修し、ノートを準備する

第2回

- 【事前】 今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
- 【事後】 提示資料「スポーツ施設産業」を参照のうえノートを加筆する

第3回

- 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
- 【事後】 提示資料「プロスポーツマーケティング」を参照のうえノートを加筆する

第4回

- 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
- 【事後】 提示資料「教育とスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する

第5回

- 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
- 【事後】 提示資料「企業とスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する

第6回

- 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
- 【事後】 提示資料「レジャースポーツ産業」を参照のうえノートを加筆する

第7回

- 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
- 【事後】 提示資料「地域活性化とスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する

第8回

- 【事前】 第2回から第7回のノートを復習し範囲であるテキストを熟読し再考しておく
- 【事後】 第2回からこれまでに学んだことの詳細をまとめ、その説明ができるようノートを再加筆する

第9回

- 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
- 【事後】 提示資料「プロスポーツの経営」を参照のうえノートを加筆する

第10回

- 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「近年のアスリート支援」を参照のうえノートを加筆する
 第11回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「オリンピックの効果」を参照のうえノートを加筆する
 第12回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「スポーツツーリズム」を参照のうえノートを加筆する
 第13回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「スポーツビジネスにおける人材」を参照のうえノートを加筆する
 第14回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「カレッジスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する
 第15回
 【事前】 第9回から第14回のノートを復習し範囲であるテキストを熟読し再考しておく
 【事後】 第9回からこれまでに学んだことの詳細をまとめ、その説明ができるようノートを再加筆する

課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業の最初に前回の振り返りを行なうこととする。 それ以外にも必要に応じて適宜フィードバックを行なうこととする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題・レポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のない欠席5回以上、またはレポート課題未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業内で課される課題・レポート	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末に課される課題・レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「スポーツビジネス概論5」黒田次郎・石塚大輔・萩原悟一・秋山大輔編著、株式会社叢文社、2,000円(消費税別)、ISBN978-4794708472
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	提示資料の内容を確実にノートをとることが必要となります。 新型コロナウイルスなどの感染状況により、進め方や内容を一部変更する場合があります。その場合は随時連絡を入れるので気をつけるようにしてください。

授業コード	13004001	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	スポーツの法律・行政 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐竹 春香				
シラバス執筆(主)	佐竹 春香				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「スポーツ」それ自体は現代において、「する」「みる」「支える」とあらゆる立場から誰もが親しみをもってふれあうものである一方、スポーツの世界においても、様々な社会的、法的な問題が生じている。本講義では、法律・行政の観点から、スポーツ界において生じている課題や問題点を学修することを目的とし、また、担当者は弁護士であることから、実務経験を踏まえてスポーツと法律・行政の関係について概説する。

到達目標

1. スポーツと法律・行政の関連性が理解できるようになる。
2. スポーツに関する様々な法的課題や問題点に関して、自分の考えを説明できる。

授業計画

【第1回】
オリエンテーション、スポーツとは
【第2回】
スポーツと法律、スポーツ法とは
【第3回】
スポーツと人権
【第4回】
スポーツと事故(1)
【第5回】
スポーツと事故(2)
【第6回】
スポーツと暴力・体罰
【第7回】
スポーツと犯罪
【第8回】
スポーツとインテグリティ
【第9回】
パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ
【第10回】
スポーツとビジネス
【第11回】
スポーツとガバナンス
【第12回】
スポーツと行政(1) スポーツ基本計画
【第13回】
スポーツと行政(2) 地域スポーツ
【第14回】
スポーツと平和
【第15回】
まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前、事後ともに2時間を目安とする。
事前学修課題：参考書等の関連箇所を目を通して、疑問点をピックアップする。関連しそうなニュースなどにも目を通しておくこと。
事後学修課題：授業で使用したレジュメを見返し、復習するとともに、疑問点について次回までに質問事項がないかを検討する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容についての質問等は、授業の時にその都度受け付けるほか、OIUメールにてもいつでも質問を受け付ける。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回授業の中で出される小テストやミニレポートと、期末レポートによって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	<p>毎回講義内で、小テストもしくはミニレポート等の課題提出で評価する。 課題の内容としては、最近のスポーツ界の動向に関するものや、講義内容に関連するものとする。</p> <p>評価基準 A: 期限までに提出され、指定字数を守り、内容が模範的である。出席を認める。 B: 期限までに提出され、指定字数を守り、課題に沿った内容である。出席を認める。 C: 期限までに提出されたが、指定字数が守られず、課題に沿った回答がされない。出席は認める。 D: 期限までに提出されない。出席を認めない。</p>	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	<p>期末レポートの提出によって評価する。</p> <p>評価基準 A: 期限までに提出され、指定字数を守り、内容が模範的である。 B: 期限までに提出され、指定字数を守り、課題に沿った内容である。 C: 期限までに提出されたが、指定字数が守られず、課題に沿った回答がされない。 D: 期限までに提出されない。</p>	1, 2
その他	0		
テキスト	授業の資料はclassroomにて配布するので、各自印刷して講義に持参すること。		
参考書	<p>「平和学としてのスポーツ法入門」辻口信良(2016年、民事法研究会) ISBN 9784865561302 (価格2800円+税) その他、必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		
履修条件・他の科目との関連	<p>スポーツを法律・行政という観点から見ると、それまでとは違うものが見えてきます。それは意外に身近なもので、皆さんが将来どのような仕事をするにも関わってくる可能性のあるものです。 受講するにあたって、法律の予備的知識は求めません。</p>		

授業コード	13066401	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	ビジネスリテラシー [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では基本的なビジネススキルを学び、社会に出て行く前段階の情報、知識を得ることで社会人生活を営む必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。知識や情報だけでなくビジネスの考え方や心構えなど入社前に知っておくべき内容を乗り込んだ内容としている。実務者教員として長年のビジネス経験より講義を展開する。企業勤務、支店責任者、起業・独立、代表取締役など様々な実績のあるポジションから情報を伝え、就職後に役立つ授業としたい。

到達目標

1. 社会人1年目の心構えや考え方とは何か説明することができる
2. ビジスマナーやビジネスの基本を理解し説明することができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
- 【第2回】 働く前に知っておきたいこと①：1～4
- 【第3回】 働く前に知っておきたいこと②：5～7
- 【第4回】 仕事を面白くするためのツボ①：1～3
- 【第5回】 仕事を面白くするためのツボ②：4～7
- 【第6回】 仕事を面白くするためのツボ③：8～10
- 【第7回】 人間関係を上手くやるポイント①：1～4
- 【第8回】 人間関係を上手くやるポイント②：5～8
- 【第9回】 人間関係を上手くやるポイント③：9～11
- 【第10回】 壁にぶつかった時に意識したいコツ①：1～4
- 【第11回】 壁にぶつかった時に意識したいコツ②：5～9
- 【第12回】 新しい価値観をインストールする奥義①：1～5
- 【第13回】 新しい価値観をインストールする奥義②：6～11
- 【第14回】 将来を見据えて考えておきたいこと
- 【第15回】 ビジネスリテラシーまとめ（実例紹介）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回

【事前】 授業のシラバスを熟読し授業構成を理解する

【事後】 オリエンテーションの説明内容にもとづきビジスマナーを自修し、ノートを準備する

第2回

【事前】 今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「働く前に知っておきたい7つのこと①：1～4」を参照のうえノートを加筆する

第3回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「働く前に知っておきたい7つのこと②：5～7」を参照のうえノートを加筆する

第4回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「仕事を面白くするための10のツボ①：1～3」を参照のうえノートを加筆する

第5回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「仕事を面白くするための10のツボ②：4～7」を参照のうえノートを加筆する

第6回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「仕事を面白くするための10のツボ③：8～10」を参照のうえノートを加筆する

第7回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「人間関係を上手くやる11のポイント①：1～4」を参照のうえノートを加筆する

第8回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「人間関係を上手くやる11のポイント②：5～8」を参照のうえノートを加筆する

第9回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「人間関係を上手くやる11のポイント③：9～11」を参照のうえノートを加筆する

第10回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「壁にぶつかった時に意識したい9つのコツ①：1～4」を参照のうえノートを加筆する

第11回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「壁にぶつかった時に意識したい9つのコツ②：5～9」を参照のうえノートを加筆する

第12回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「新しい価値観をインストールする11の奥義①：1～5」を参照のうえノートを加筆する

第13回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「新しい価値観をインストールする11の奥義②：6～11」を参照のうえノートを加筆する

第14回

【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

【事後】 提示資料「将来を見据えて考えておきたい8つのこと」を参照のうえノートを加筆する

第15回

【事前】 第2回から第14回のノートを復習し範囲であるテキストを熟読し再考しておく

【事後】 これまでに学んだことの詳細をまとめ、その説明ができるようノートを再加筆する

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して次回の最初にフィードバックを行ない情報を共有する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題・レポート、さらに期末に実施されるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席5回以上、またはレポート課題未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業内で課される課題・レポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末に課される課題・レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	ダイヤモンド社「入社1年目の教科書」岩瀬大輔著 ISBN:978-4-478-01542-1
参考書	尾形圭子監修「イラッとされないビジネスマナー 社会常識の正解」サンクチュアリ出版
履修条件・他の科目との関連	講義の内容を確実にノートをとることが必要となる。

授業コード	13066801	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	スポーツイベント演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業ではスポーツを含む様々なイベントにおいて実際に作り上げるために必要な知識、基本を習得すると同時にビジネスの基本の学習も目的とする。
また講義での学びを通して、自ら新たにイベント企画立案を行ない企画書を作成することにより、企画力、企画書作成能力を身につける。
現在も特定非営利活動法人を運営している経験をもとに、実務家教員として理論と実践への応用を関連付けながらの講義としたい。
テキストはイベント検定の公式テキストを使用し、イベント検定の取得へもつながる内容とする。

到達目標

1. イベントを企画・運営するための基本を説明することができる
2. イベントを有効実行するための企画書作成ができる
3. イベントの基本を学習することによりビジネスの基本を説明することができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
- 【第2回】 イベントの概念の分類：イベントの定義、イベントの基本構造、イベントの分類を学ぶ
- 【第3回】 イベントの歴史：社会の発展とイベント、時代を変えた国際博覧会を学ぶ
- 【第4回】 イベントの企画：イベントの企画と計画、立案手法を学ぶ
- 【第5回】 イベントの計画：基本計画・実施計画の構成内容を学ぶ
- 【第6回】 イベント企画書：イベント企画書の考え方や構成を学ぶ
- 【第7回】 イベントの制作推進と管理：イベントの4大管理を学ぶ
- 【第8回】 スポーツイベント演習前半まとめ
- 【第9回】 イベントのプログラム制作：イベントプログラムの概念と制作の考え方、進行台本の作成ポイントを学ぶ
- 【第10回】 イベントの告知・集客：イベントの告知・集客の考え方を学ぶ
- 【第11回】 イベント運営の全体像：イベント実施時の会場運営を学ぶ
- 【第12回】 イベント運営業務のポイント：会場管理やプログラム進行業務を学ぶ
- 【第13回】 リスクマネジメントと安全管理：イベントにおけるリスクを学ぶ
- 【第14回】 これからのイベントマネジメント：イベントのコンプライアンスや規制などを学ぶ
- 【第15回】 スポーツイベント演習後半まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを熟読し授業構成を理解する
 - 【事後】 オリエンテーションの説明内容にもとつきスポーツイベントの基礎知識を自修し、ノートを準備する
- 第2回
 - 【事前】 今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 - 【事後】 提示資料「イベントの概念の分類」を参照のうえノートを加筆する
- 第3回
 - 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 - 【事後】 提示資料「イベントの歴史」を参照のうえノートを加筆する
- 第4回
 - 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 - 【事後】 提示資料「イベントの企画」を参照のうえノートを加筆する
- 第5回
 - 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 - 【事後】 提示資料「イベントの計画」を参照のうえノートを加筆する
- 第6回
 - 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 - 【事後】 提示資料「イベント企画書」を参照のうえノートを加筆する
- 第7回
 - 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 - 【事後】 提示資料「イベントの制作推進と管理」を参照のうえノートを加筆する
- 第8回
 - 【事前】 第2回から第7回のノートを復習し範囲であるテキストを熟読し再考しておく
 - 【事後】 第2回からこれまでに学んだことの詳細をまとめ、その説明ができるようノートを再加筆する
- 第9回
 - 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

- 【事後】 提示資料「イベントのプログラム制作」を参照のうえノートを加筆する
 第10回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「イベントの告知・集客」を参照のうえノートを加筆する
 第11回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「イベント運営の全体像」を参照のうえノートを加筆する
 第12回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「イベント運営業務のポイント」を参照のうえノートを加筆する
 第13回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「リスクマネジメントと安全管理」を参照のうえノートを加筆する
 第14回
 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく
 【事後】 提示資料「これからのイベントマネジメント」を参照のうえノートを加筆する
 第15回
 【事前】 第9回から第14回のノートを復習し範囲であるテキストを熟読し再考しておく
 【事後】 第9回からこれまでに学んだことの詳細をまとめ、その説明ができるようノートを再加筆する

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で振り返りを適時行なうこととする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題・レポート、さらに期末に実施されるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のない欠席5回以上、またはレポート課題未提出の場合、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業内で課される課題・レポート	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末に課される課題・レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「イベント検定公式テキスト 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント」一般社団法人日本イベント産業振興協会、3,000円(消費税別)、ISBN978-4-901173-28-5
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	科目「ビジネスリテラシー」を履修していることが望ましい。

授業コード	13110501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	スポーツマネジメント演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、フィールドワークを通してスポーツマネジメントの基礎を学ぶ。具体的には、ある特定のスポーツ関連施設やスポーツ企業などについてフィールドワークを実施し、スポーツマネジメントの実際の現場を多面的に理解するための基礎的な手法を身につける。授業形態はフィールドワークを取り入れた演習である。学内外でのフィールドワーク練習を行ない最終回にはプレゼンテーションも行なう。

到達目標

1. 問題関心に沿って明確なテーマを設定する
2. スポーツマネジメントの現場を観察する手法を身につける
3. 調査結果を分析し、成果にまとめることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要説明と受講の心構えなどについて）
- 第2回 全体構想・プロジェクト企画
- 第3回 調査計画 テーマの設定
- 第4回 調査計画 資料調査
- 第5回 初回調査実施
- 第6回 資料整理
- 第7回 実施報告
- 第8回 調査方針の確認・修正
- 第9回 第2回調査実施
- 第10回 資料分析
- 第11回 プレゼン資料の作成
- 第12回 グループ発表
- 第13回 調査に対するフィードバック
- 第14回 発表資料の作成
- 第15回 成果報告会にて発表

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内容との関連においてテキストを熟読し、授業内での作業準備を行う。
 事後学習：調査の計画・実施に伴うさまざまな作業（発表スライドの作成やデータの整理、報告書原稿の執筆等）を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説していく

成績評価の方法・基準(方針)

活動への積極性や課題達成度（提出物含）、プレゼンテーションにより総合的に評価し60点以上を合格とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	グループでのプレゼンテーション	1, 2, 3
授業外での評価	40	フィールドワーク調査(40)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート(調査書)作成	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	特になし。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	学外でのフィールドワークへの参加を求める(交通費等は学生負担)。

履修条件・他の科目との関連

フィールドワークに参加しなかった場合は、成績評価の対象とせず、K評価とする。
なお、学外授業実施等を含む演習科目としての性格から、学科の選抜基準に則り履修者制限を設ける。
本演習は個人調査ではなくグループ調査を実施するため、グループワーク中心の授業となる。

授業コード	13110601	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ現場実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士、高山 昌子、堀込 孝二、谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、実際の企業・団体などの仕事の現場をフィールドとして、主に夏休み期間を中心に、40時間（5日）以上の就業体験（以下、現場実習）を行う実習科目である。実際の仕事の現場での実践を通じて、関わる業界や仕事の理解、自身の得意・不得意、向き・不向き、強み・弱みなどの自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、その後の学生生活や将来に向けた自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。通年開講の集中科目である本科目は、年度当初の履修登録はなく、①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③本科目で紹介する受け入れ先での40時間以上の現場実習と実習中課題の期限内提出、これらの単位認定要件を充たした者を成績評価の対象とする。本科目は、授業として行う現場実習であり、受け入れ先も本科目の目的に賛同した企業・団体が前提となるため、就職活動に直接結びつく可能性のある企業主導型のインターンシップではない（企業・団体に採用意図はない）ということと、本科目の目的を理解した上で受講することを求める。

到達目標

1. 現場実習先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる
2. 自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる
3. 目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる
4. 経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる

授業計画

社会情勢やその他の事情により企業・団体の受け入れ状況を考慮し、実施できない場合がある。しかし、実施が実現できることを前提に授業を進める。授業のスケジュールや開講日時などの詳細は、4月に開催する事前研修「ガイダンス」にて案内をするので、必ず参加すること。

- 【事前研修(1)】 ガイダンス（授業：90分）
 授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する
- 【事前研修(2)】 目標設定および各資格に関する説明（授業：90分）
 現場実習の参加目的を明確にし、現場実習参加で果たしたい目標を設定する
 各資格の特徴を理解し、現場実習で取り組むべき課題を設定する
- 【事前研修(3)】 現場実習参加申込書の作成（授業：90分）
 設定した目標および課題をもとに、現場実習参加申込を作成することにより、実習内容を深めるための視点を理解する
- 【エントリープロセス(1)】 学内選考（連絡調整：30分・面談：60分 ※場合により複数回実施する可能性がある）
 学内選考として、学科担当教員との個人面談面談を受ける
- 【事前研修(4)】 個人票の作成（授業：90分）
 現場実習先企業・団体に提出する個人票の作成するとともに、実習先への事前連絡・訪問・面接の目的と具体的方法、訪問マナーについて理解する
- 【エントリープロセス(2)】 事前訪問・受け入れ先選考（連絡調整：30分・面接：60分 ※場合により複数回実施）
 受け入れ先選考として企業・団体を訪問し、面接を受ける
- 【事前研修(5)】 キックオフ研修（授業：90分）
 現場実習にあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する
 身だしなみや挨拶、言葉遣いなどのビジネスマナーについて、その目的と具体的方法について理解する
- 【現場実習実施】（主に夏休み期間を中心に、40時間以上の現場実習を実施）
 各受入先のプログラムで現場実習を行い、毎日、振り返りの上、活動日誌を作成し、必要な課題に取り組む
- 【事後研修】 経験の振り返り・修了報告会（授業：90分）
 現場実習終了後、実務内容の報告と今後のアクションプランに関するプレゼンテーションを行う

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事後、毎回の授業で指示のある授業後の課題に最低1時間取り組み、期限内に提出すること。
 また、エントリープロセスの中で、参加申込書や個人票など、課題の再修正や面談を繰り返す可能性がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で全体に向け課題に対しての振り返りとフィードバックを行うとともに、必要に応じて、個人に対し、課題の添削・コメントを、Googleクラスルーム・OIUメール、または、直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

【単位認定要件】

- ①すべての研修への参加と授業課題の期限内提出
- ②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出
- ③本科目で紹介する受け入れ先での40時間以上の現場実習と実習中課題の期限内提出

【成績評価】

すべての単位認定要件を充たした者を成績評価対象とし、提出課題と評価表を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業課題、エントリー課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	活動日誌	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	修了報告書(最終のレポート課題として提出)	1, 2, 3, 4
その他	30	受入先評価	1, 2, 3, 4

テキスト	授業内で配布する
------	----------

参考書	必要に応じて、授業内で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>年度当初の履修登録はない。 受講者数は40名程度を予定している。 受講希望者は、4月に実施する事前研修「ガイダンス」に必ず参加すること。 事前研修「ガイダンス」の詳細は、受講対象者全員に対し、4月の学科オリエンテーションやUNIPAにて案内する。 本授業は、実習に必要な知識・技術を身につけ、礼節や責任感を有する学生の受講を認めるものとする。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13071421	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーではスポーツ医・科学に関する論文の抄読会やプレゼンテーション、ディスカッションなどを通して分野の理解を深めるとともに、論理的思考を高めていく。また、学外におけるフィールドワークなどを通じて実戦的知識と技術の体得を目指す。

到達目標

1. スポーツ医・科学に関する文献を適切に読み解く力を身につけることができる。
2. 自己の考えを論理的かつ明確に伝えることができるようになる。
3. 研究の手順について理解することができる。
4. プレゼンテーション、ディスカッションのスキルを身につけることができる。
5. 実践的技能を身につけることができる。

授業計画

- 1回 : 授業の概要と進め方
- 2回 : 卒業研究の構想
- 3回 : 文献収集方法 (1) 図書館の利用
- 4回 : 文献収集方法 (2) その他の方法
- 5回 : 論文抄読に向けて
- 6回 : 論文抄読 (1) 興味・関心のある事柄に関する学術雑誌等の内容紹介と討議
- 7回 : 論文抄読 (2) 興味・関心のある事柄に関する学術雑誌等の内容紹介と討議
- 8回 : 論文抄読 (3) 興味・関心のある事柄に関する学術雑誌等の内容紹介と討議
- 9回 : 論文抄読 (4) 興味・関心のある事柄に関する学術雑誌等の内容紹介と討議
- 10回 : 卒業研究テーマの仮選定
- 11回 : テーマに基づく先行研究の収集
- 12回 : 資料のまとめ
- 13回 : プレゼンテーション (1_1) 先行研究の分析
- 14回 : プレゼンテーション (1_2) 先行研究の分析
- 15回 : プレゼンテーション (1_3) 先行研究の分析

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

指示された参考書をもとに事前に概要を把握しておく。また、事後には反省点・修正点をまとめ、次回授業時に改善されていることを求める。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題に対しては、その場または翌週以降にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内でのプレゼンテーションおよび課題達成度(提出物含)により総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	自己または教員から設定された課題に対し、先行研究を踏まえた論理的思考のもと、適切にまとめられ、かつ明快に提示できているのかを評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課された設問に対して論理的考察ができていないかを評価する。	1, 2, 3, 4
その他	30	スポーツ医科学分野のフィールド実習への積極的参加及び課題達成度により評価する。	5

テキスト

テキストは使用しない。

参考書	必要に応じて適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	セミナーⅣを完遂する上で重要な科目です。 積極的な参加と自己運営にて進めていきます。

授業コード	13071422	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 豊司				
シラバス執筆(主)	久保田 豊司				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

体育・スポーツに関する科学的に得た知見を、セミナーの学修を通してさらに深化させる。

具体的には、

「各種スポーツ・コーチング」

「各種スポーツ・運動の動作解析」

「中学校・高等学校の体育の授業」

などのテーマについて、実験、文献、調査などに基づいた基本的分析方法を学習し、その成果をまとめ発表・討論する。

到達目標

「各種スポーツ・コーチング」「各種スポーツ・運動の動作解析」「中学校・高等学校の体育の授業」などのテーマについて、

取り組む過程の中で実践的な行動力と対応力を身につけ、

1. 情報収集の基本的スキルを獲得する、
2. 情報伝達の基本的スキルを獲得する、
3. 問題処理能力の基本的スキルを獲得する。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：これからの授業の進め方、授業で求められる姿勢、評価方法について説明をする。
- 【第2回】
テーマ：資料の収集（1）：図書館の活用法
内容・方法：図書館の協力を得て文献検索に関する知識を得る。
- 【第3回】
テーマ：資料の収集（2）：インターネットの活用法
内容・方法：インターネット活用法し資料を収集する。
- 【第4回】
テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（1）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（1）。
- 【第5回】
テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（2）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（2）。
- 【第6回】
テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（3）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（3）。
- 【第7回】
テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（1）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（1）。
- 【第8回】
テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（2）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（2）。
- 【第9回】
テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（3）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（3）。
- 【第10回】
テーマ：発表・論議（1）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（1）。
- 【第11回】
テーマ：発表・論議（2）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（2）。
- 【第12回】
テーマ：発表・論議（3）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（3）。
- 【第13回】
テーマ：大学祭の準備（1）
内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について話し合う。
- 【第14回】
テーマ：発表・論議（4）
内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（4）。
- 【第15回】
テーマ：発表・論議（5）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（5）。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となります。各授業（2時間）に加えて、事前・事後学習4時間が求められます。

- 【第1回】
- ①事前学修課題：履修の手引き、シラバス、取得単位を確認しておくこと。
 - ②事後学修課題：授業の内容を200字以内にまとめメールで提出すること。履修登録を確認しておくこと。
- 【第2回】
- ①事前学修課題：図書館の使用方法を確認しておくこと。
 - ②事後学修課題：検索したスポーツに関する文献を整理しておくこと。
- 【第3回】
- ①事前学修課題：インターネット使用の注意点をまとめておくこと。
 - ②事後学修課題：収集したスポーツに関する資料を整理しておくこと。
- 【第4回】
- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること（1）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること（1）。
- 【第5回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること（2）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること（2）。
- 【第6回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること（3）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること（3）。
- 【第7回】
- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと（1）。
- 【第8回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと（2）。
- 【第9回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと（3）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと（3）。
- 【第10回】
- ①事前学修課題：発表の準備をしておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること（1）。
- 【第11回】
- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること（2）。
- 【第12回】
- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと（3）。
 - ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること（3）。
- 【第13回】
- ①事前学修課題：1・2回生の大学祭の参加方法についてまとめておくこと。
 - ②事後学修課題：話し合った内容について、原案を作成しておくこと。
- 【第14回】
- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと（4）。
 - ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること（4）。
- 【第15回】
- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと（5）。
 - ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること（5）。

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

事前事後学習の取組30%、レポート課題30%、定期試験に代わるレポート試験40%の評価である。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業参加に対する姿勢、課題に対する仲間との協働、そしてまとめ・発表の完成度を評価する(30)。	1, 2, 3
授業外での評価	30	課題に対して、主体的な取り組みと内容を評価する(30)。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート(課題レポートのまとめ:40)。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	公認スポーツ指導者養成講習会テキスト リファレンスブック、4,400円 実践！グッドコーチング、660円 実践！グッドコーチング(ジュニア指導編)、660円 実践！グッドコーチング(レベルアップ編)、660円
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出、授業の欠席5回以上は評価対象外とする。

授業コード	13071423	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「セミナーⅣ」において実施する卒業研究論文の作成に向け、中高齢者や有疾患者を対象とした健康支援に関する研究法を学ぶ。内容は以下の通りである。

1. 中高齢者や有疾患者の健康支援における現状および課題点について学び、考える。
2. データの収集方法およびまとめ方を学び、実践する。
3. 各評価測定で得られた結果を整理するとともに、ディスカッションする。

到達目標

1. 健康支援意義について理解し、説明できる。
2. データの収集方法およびまとめ方について理解し、説明できる。
3. 各評価測定で得られた結果を理解し、説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：高齢者の生活機能向上に関する知識の習得
生活機能に関する評価方法について学ぶ①

内容・方法：高齢者の生活機能向上に関する基礎知識を学ぶ。
体力測定や心理テスト等について座学・実技の両面から学ぶ。

【第2回】

テーマ：生活機能に関する評価方法について学ぶ②

内容・方法：認知機能測定について座学・実技の両面から学ぶ。

【第3回】

テーマ：健康支援教室開催に向けた説明会の実施
事前テストおよび健康支援教室の準備

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室の説明および事前アンケート調査を行う。
事前テストおよび健康支援教室の準備、各測定方法の復習を行う。

【第4回】

テーマ：介入研究における事前テスト

内容・方法：健康支援教室において介入効果を評価するための事前テストを行なう。

【第5回】

テーマ：事前テストのデータ処理と結果返却資料の作成

内容・方法：返却資料作成、健康支援教室の指導案作成。

【第6回】

テーマ：事前テストの結果説明&健康支援教室 (1)

内容・方法：介入研究の対象者に向けた結果返却説明
地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第7回】

テーマ：事前テストの結果説明&健康支援教室 (2)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第8回】

テーマ：健康支援教室 (3)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第9回】

テーマ：健康支援教室 (4)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第10回】

テーマ：健康支援教室 (5)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第11回】

テーマ：健康支援教室 (6)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第12回】

テーマ：健康支援教室 (7)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第13回】

テーマ：健康支援教室 (8)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第14回】

テーマ：健康支援教室 (9)

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。

【第15回】

テーマ：介入教室における事後テスト

内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室の事後評価を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

★本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となります。
各授業（2時間）に加えて、事前学習（2時間以上）、事後学習（2時間以上）を毎回各自で行ってください。

また、必要に応じて教員から事前・事後課題（宿題）を出します。

【第1回】

①事前学修課題：高齢者の生活機能低下について調べてくる。
事前に配布した体力測定のマニュアルを熟読してくる。

②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第2回】

①事前学修課題：事前に配布した体力測定等のマニュアルを熟読してくる。

②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第3回】

①事前学修課題：健康支援教室の説明会準備をする。

②事後学修課題：事前テストで担当する測定の練習をする。

【第4回】

①事前学修課題：事前テストの準備

②事後学修課題：収集したデータの入力。

【第5回】

①事前学修課題：入力データの評価方法に関する資料を熟読してくる

②事後学修課題：結果説明の準備、次週の健康支援教室の準備をする。

【第6回】

①事前学修課題：結果説明の準備、指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第7回】

①事前学修課題：結果説明の準備、指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第8回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第9回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第10回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第11回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第12回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第13回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第14回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の準備をする。

【第15回】

①事前学修課題：事後テストの準備

②事後学修課題：データ処理および評価。
結果返却資料の作成。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対して口頭や文章（OJUメールやClassroom）で評価・コメントをフィードバックする。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、正当な理由のない欠席が5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への参加状況、および受講態度や取り組み姿勢により評価する。	1, 2, 3
授業外での評価	40	事前・事後課題への取り組み状況から評価する。 各回の課題の提出状況から評価する。	1, 2, 3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	特になし。プリントの配布、もしくは、Classroomを介して授業資料を配信する。
------	-------------------------------------------

参考書	「体育・スポーツ科学研究法」ジェリー・R・トーマス ジャック・K・ネルソン(著)大修館書店
-----	-----------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. セミナーⅢb・セミナーⅣaに続く大切な授業です。無遅刻・無欠席を目標に頑張りましょう！ 2. 授業に関する連絡は、原則、Classroomを介して行います。 3. 私的な言動により授業妨害を行い、他の学生の受講する権利を阻害する場合は退室を指示する場合があります、 4. 必要に応じて、授業時間外に勉強会等を開催することがあります。 5. 必要に応じて、学外で実習を行う場合があります(ゼミ活動)。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13071424	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツ、教育、異文化を中心テーマに据え、必要な文献資料を収集し、先行研究をレビューし、調査研究や企画立案を行うことができるよう指導していく。
前半はテーマ設定と各自のテーマに即した文献リストの作成を中心に、後半は各テーマに関する先行研究の文献購読、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。

到達目標

1. 卒業研究にふさわしいテーマ設定を行い、問いを立てることができる。
2. 設定したテーマに相応しい文献を検索、収集することができる。
3. 必要な諸文献を読解し、内容について説明できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
- 【第2回】ライブラリーツアー
- 【第3回】テーマ設定の意義について学ぶ
- 【第4回】テーマ設定の方法について学ぶ
- 【第5回】文献・資料の収集の意義について学ぶ
- 【第6回】文献・資料の収集法について学ぶ
- 【第7回】文献・資料の収集を行う
- 【第8回】文献・資料の収集リスト作成の意義について学ぶ
- 【第9回】文献・資料の収集リストを作成する
- 【第10回】人権啓発映画会
- 【第11回】文献資料リストの発表と質疑応答(1)
- 【第12回】文献資料リストの発表と質疑応答(2)
- 【第13回】文献資料の読み方とまとめ方について学ぶ
- 【第14回】収集文献の発表と質疑応答(1)
- 【第15回】収集文献の発表と質疑応答(2)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業テーマに即して、作業を事前及び事後に進めていくこと。

課題に対するフィードバックの方法

発表については、その都度フィードバックを行う。
レポートについては、評価を行った後にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業内における課題への取り組み状況(40) 事前事後学習への取り組み状況(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	20	最終レポート	1, 2, 3

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	各自の進度における個別の作業が中心になりますが、互いにアイデアや批判点を出し合う機会とし

履修条件・他の科目との関連 | て、場と時間を共有していきます。

授業コード	13071426	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法、指導方法について教育・研究します。具体的には、競技スポーツ、学校体育、ジュニアスポーツを対象としたコーチング（技術・体力・トレーニング・指導）が研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて、文献精読、体力・パワー測定、動作解析、観察の評価法、生理学的手法、データ・統計分析、プレゼンテーションの基礎演習も行います。セミナーを通して、スポーツの意義や役割の理解、分析や問題解決能力、実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. 対象者に合わせた指導法について説明できる。
2. 体力や技術評価の基礎的な分析ができる。
3. 文献を要約して発表できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：これからの授業の進め方、授業で求められる姿勢、評価方法について説明をする。
- 【第2回】
 テーマ：資料の収集（1）：図書館の活用法
 内容・方法：図書館の協力を得て文献検索に関する知識を得る
- 【第3回】
 テーマ：資料の収集（2）：インターネットの活用法
 内容・方法：インターネット活用法し資料を収集する
- 【第4回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（1）
- 【第5回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（2）
- 【第6回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（3）
- 【第7回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（1）
- 【第8回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（2）
- 【第9回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（3）
- 【第10回】
 テーマ：発表・論議（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（1）
- 【第11回】
 テーマ：発表・論議（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（2）
- 【第12回】
 テーマ：発表・論議（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（3）
- 【第13回】
 テーマ：大学祭の準備（1）
 内容・方法：大学祭の参加方法について話し合う。
- 【第14回】
 テーマ：発表・論議（4）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（4）
- 【第15回】
 テーマ：発表・論議（5）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（5）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

「各テーマにおいて、事前の準備と事後のまとめをノートすること。事前事後の学修時間に1時間は必要である。」

【第1回】

- ①事前学修課題：履修の手引き、シラバス、取得単位を確認しておくこと
- ②事後学修課題：授業の内容を200字以内にまとめメールで提出すること。履修登録を確認しておくこと

【第2回】

- ①事前学修課題：図書館の使用方法を確認しておくこと。
- ②事後学修課題：検索したスポーツに関する文献を整理しておくこと

【第3回】

- ①事前学修課題：インターネット使用の注意点をまとめておくこと。
- ②事後学修課題：収集したスポーツに関する資料を整理しておくこと

【第4回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること(1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(1)

【第5回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること(2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(2)

【第6回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること(3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(3)

【第7回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと(1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(1)

【第8回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと(2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(2)

【第9回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと(3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(3)

【第10回】

- ①事前学修課題：発表の準備をしておくこと(1)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(1)

【第11回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(2)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(2)

【第12回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(3)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(3)

【第13回】

- ①事前学修課題：1・2回生の大学祭の参加方法についてまとめておくこと
- ②事後学修課題：話し合った内容について、原案を作成しておくこと

【第14回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(4)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(4)

【第15回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(5)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(5)

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 - 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - 3) タームペーパー未提出者は、評価の対象とせず、「K」評価とする。
- *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	取り組み姿勢(50), リフレクションノート(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	文献や発表原稿の作成(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	タームペーパー	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
------	------------

参考書	授業の中で、必要に応じて紹介する.
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出, 授業の欠席5回以上は評価対象外とする.

授業コード	13071427	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

テーマとして、スポーツ・運動・体育における「動機づけ」と「スポーツ傷害予防」について主に取り組んでいきます。日常生活の中で起こる事象について問題意識をもって過ごすことにより、自ら課題や疑問を見つけ出し、文献や資料などの調査を行い、他者に自らの考えを分かりやすく伝える（レポート、プレゼンテーション）ことを中心に進めていきます。前半では、テーマに関連する事柄から興味のあるトピックを選択し、発表してもらいます。後半では、心理学実験の結果をExcelなどを使用してまとめ、プレゼンテーションを行い、全員でディスカッションを行うことに取り組むことが増えます。これらを通して、計画性をもった準備や論文としての文章表現などを経験することを目的としています。授業は教員による解説と学生による発表を組み合わせたものです。配布資料は、基本的にデータでGoogleクラスルームより配信します。授業内に直接配布する場合があります。事前学習では、レジュメの作成や実技課題のリハーサルなどの準備を行っておくこと。事後学習では、教員からのフィードバックを元にふり返りを行うなど、主体的に取り組むことが必要です。

到達目標

1. 研究方法を説明することができる。
2. Excelを使用し、統計分析を行うことができる
3. 他者の意見に対して、自分の意見を述べるができる
4. 自らテーマを決めてプレゼンテーションを行うことができる

授業計画

- 【第1回】ガイダンス
内容：履修登録の確認、自己紹介
- 【第2回】文献検索、引用方法
内容：インターネット、図書館を利用した文献検索の方法と文献の引用方法について復習する
- 【第3回】トピックに関連する資料収集
内容：パソコンを使って、トピックに関連する文献を収集しまとめる
- 【第4回】トピックに関連する文献抄読およびディスカッション（1）
内容：レジュメを作成し、発表を行い、ディスカッションをする
- 【第5回】トピックに関連する文献抄読およびディスカッション（2）
内容：レジュメを作成し、発表を行い、ディスカッションをする
- 【第6回】トピックに関連する文献抄読およびディスカッション（3）
内容：レジュメを作成し、発表を行い、ディスカッションをする
- 【第7回】心理学実験実習（1）
内容：認知機能
- 【第8回】心理学実験実習（2）
内容：視覚機能
- 【第9回】質問紙調査に関連する文献抄読およびディスカッション（1）
内容：レジュメを作成し、発表を行い、ディスカッションをする
- 【第10回】質問紙調査に関連する文献抄読およびディスカッション（2）
内容：レジュメを作成し、発表を行い、ディスカッションをする
- 【第11回】フィールド調査について計画立案
内容：計画をレポートにまとめる
- 【第12回】フィールド調査の準備（1）調査票
内容：調査票の準備を行う
- 【第13回】フィールド調査の準備（2）リハーサル
内容：実践に向けて説明、用紙配布、回収、データの整理・入力までのリハーサルを行う
- 【第14回】フィールド調査の実践
内容：ゼミ内で、調査の説明および調査データの収集を行う
- 【第15回】総括、前期の取り組みに関する報告会
内容：前期の取組みをゼミ内で発表する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

下記について事前に予習しておくこと。
第1回から第3回：参考資料を予め読み、分からない箇所は自分で調べておく
第4回から第6回：レジュメの作成、ディスカッションの準備を行っておく
第7回から第8回：参考資料を予め読み、分からない箇所は自分で調べておく

第9回から第14回：必要な資料を集め、フィールド調査の準備を行っておく

【事後学習】

授業内に学んだ内容についてふり返り、資料やノートにまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施するプレゼンテーションと到達目標への達成度に基づき、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
ただし、正当な理由のない5回以上の欠席の場合は評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業内における発表への積極的な参加(25) ディスカッションへの積極的な参加(25) レポート、課題の提出状況(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	後期の行動計画を発表し、レポートを提出(30)	1, 2, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない 教材がある場合は、授業内に配布する
------	---------------------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	卒業要件必修科目です。この授業では、学生の皆さんが主体となるような形式で進めていきます。 授業を欠席した場合、授業内に直接配布された資料を研究室(5-1002)まで受取りに行くこと。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13071428	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナー専門分野である「スポーツビジネス」「スポーツマネジメント」を中心に実践を通して活動する。各グループに分かれてテーマに沿って学習していく。そのために多くの先行研究を読み様々な研究の手法を学ぶだけでなく、社会で即戦力として通用するだけの実践力を習得するためインターンシップや実習等に積極的に参加する機会を設ける。研究と実践の両立を目指す。

到達目標

1. スポーツビジネスの基礎を学習し説明することができる
2. スポーツビジネスの現場を実践を通して体験することによりそれらをまとめ記述することができる
3. グループワークを通してコミュニケーションの重要性について考えることができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
【第2回】 スポーツイベント企画立案1：スポーツイベントの準備を行なう
【第3回】 スポーツイベント企画立案2：スポーツイベントの直前準備を行なう
【第4回】 スポーツイベント振り返り：スポーツイベントの振り返り、改善点の抽出し次に活かすための学習を行なう
【第5回】 ゼミパンフレット作成1：各グループに分かれてゼミパンフレットの作成を行なう
【第6回】 ゼミパンフレット作成2：各グループに分かれてゼミパンフレットの作成を行なう
【第7回】 ゼミパンフレット作成3：各グループに分かれてゼミパンフレットの作成を行なう
【第8回】 ゼミパンフレット作成4：各グループに分かれてゼミパンフレットを完成させる
【第9回】 各グループでのワークショップ1：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第10回】 各グループでのワークショップ2：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第11回】 各グループでのワークショップ3：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第12回】 各グループでのワークショップ1：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第13回】 各グループでのワークショップ2：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第14回】 各グループでのワークショップ3：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第15回】 前期のまとめ：前期の振り返りと後期の活動計画の立案を行なう

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する
【事後】 オリエンテーション説明内容にもとづき授業内ルールや方針などを理解し次回以降に向けてノートを準備する
第2回
【事前】 スポーツイベントの情報を集めてノートにまとめておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
第3回
【事前】 スポーツイベントの情報を集めてノートにまとめておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
第4回
【事前】 スポーツイベント運営の実践を通して学んだことをまとめておく
【事後】 次週からの課題に対して情報収集を行なう
第5回
【事前】 課題に対して情報収集を行なう
【事後】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
第6回
【事前】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
【事後】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
第7回
【事前】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
【事後】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
第8回

【事前】	各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
【事後】	次週からの課題に対して情報収集を行なう 2.5時間
第9回	
【事前】	提示された各テーマを書籍、インターネットなどから調べて検討しておく
【事後】	各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
第10回	
【事前】	各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
【事後】	各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
第11回	
【事前】	各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
【事後】	今回のワークショップの内容を復習し、実践した内容をまとめておく
第12回	
【事前】	提示された各テーマを書籍、インターネットなどから調べて検討しておく
【事後】	各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
第13回	
【事前】	各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
【事後】	各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
第14回	
【事前】	各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
【事後】	今回のワークショップの内容を復習し、実践した内容をまとめておく
第15回	
【事前】	第14回までの内容を復習し、実践した内容をまとめておく
【事後】	第14回までの振り返りを行ない、後期の活動計画を遂行できるようノートの再加筆を行なう

課題に対するフィードバックの方法

課題において各グループごとに指導やアドバイスを適宜行なうこととする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の提示課題に対する内容の達成度、習熟度を総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題の達成度、習熟度	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	活動内容に関する最終レポート	1, 2, 3
その他	40	グループワークにおける貢献度	3

テキスト テキストは使用せずプリントなど資料を適宜配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 スポーツビジネス、ビジネス関連の授業(ビジネスリテラシー、スポーツイベント演習など)を履修していることが望ましい。
授業時間以外でも自らスケジュールなどを調整し積極的にワークに取り組む姿勢を持つことを期待する。

授業コード	13071429	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フィットネス・スポーツトレーナー業界への就職に向けて、フィットネス業界やトレーニング指導に関する知識やスキルを説明する。また卒業研究の作成に向けた基本的な体力測定法、データ処理、統計分析について説明する。

授業は実践的な現場活動を中心とし、主な内容は以下の通りである。

- (1) フィットネス業界・健康スポーツ産業の理解
- (2) 科学的知見を基にしたトレーニングの理論と実践
- (3) 卒業研究および資格取得に向けた基本的知識の習得

到達目標

1. 健康・フィットネス業界を理解する
2. トレーニング指導者として必要な知識と技能を身につける
3. 研究における基本的な手順を理解する

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容：1年間のセミナーの流れや内容について
- 【第2回】
テーマ：フィットネス業界研究 (1)
内容：フィットネス業界で興味のある企業を調べ、まとめる
- 【第3回】
テーマ：フィットネス業界研究 (2)
内容：フィットネス業界で興味のある企業を調べ、まとめる
- 【第4回】
テーマ：フィットネス業界研究 (3)
内容：フィットネス業界で興味のある企業を調べ、まとめる
- 【第5回】
テーマ：フィットネス業界研究 (4)
内容：プレゼンテーション
- 【第6回】
テーマ：スポーツトレーナー研究 (1)
内容：スポーツトレーナーの分野、資格、企業について調べ、まとめる
- 【第7回】
テーマ：スポーツトレーナー研究 (2)
内容：スポーツトレーナーの分野、資格、企業について調べ、まとめる
- 【第8回】
テーマ：スポーツトレーナー研究 (3)
内容：スポーツトレーナーの分野、資格、企業について調べ、まとめる
- 【第9回】
テーマ：スポーツトレーナー研究 (4)
内容：プレゼンテーション
- 【第10回】
テーマ：プログラムデザイン (1)
内容：対象に合わせたプログラム作成を行う
- 【第11回】
テーマ：プログラムデザイン (2)
内容：対象に合わせたプログラム作成を行う
- 【第12回】
テーマ：トレーニング指導 (1)
内容：作成したプログラムをもとにトレーニング指導を実践する
- 【第13回】
テーマ：トレーニング指導 (2)
内容：作成したプログラムをもとにトレーニング指導を実践する
- 【第14回】
テーマ：トレーニング指導 (3)
内容：作成したプログラムをもとにトレーニング指導を実践する
- 【第15回】
テーマ：フィジカル測定準備 (1)
内容：フィジカルテストの方法を確認し、測定の準備を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 事前学修課題：シラバスを読み、内容を確認してくる
 事後学修課題：今後のスケジュール、活動についてまとめる
- 【第2回】
 事前学修課題：興味のあるフィットネス業界の企業を調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第3回】
 事前学修課題：興味のあるフィットネス業界の企業を調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第4回】
 事前学修課題：興味のあるフィットネス業界の企業を調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第5回】
 事前学修課題：プレゼンテーションの準備をする
 事後学修課題：プレゼンテーションの評価から、次回の課題を確認する
- 【第6回】
 事前学修課題：スポーツトレーナーに関わる資格や企業について調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第7回】
 事前学修課題：スポーツトレーナーに関わる資格や企業について調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第8回】
 事前学修課題：スポーツトレーナーに関わる資格や企業について調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第9回】
 事前学修課題：スポーツトレーナーに関わる資格や企業について調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第10回】
 事前学修課題：参考資料を熟読する
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第11回】
 事前学修課題：参考資料を熟読する
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第12回】
 事前学修課題：トレーニング指導の準備をする
 事後学修課題：指導内容の反省点をまとめる
- 【第13回】
 事前学修課題：トレーニング指導の準備をする
 事後学修課題：指導内容の反省点をまとめる
- 【第14回】
 事前学修課題：トレーニング指導の準備をする
 事後学修課題：指導内容の反省点をまとめる
- 【第15回】
 事前学修課題：測定の実施要領を確認する
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての質問には適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のないレポートの未提出および1/3以上の欠席は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	プレゼンテーション(30)	1, 2, 3
授業外での評価	30	レポート(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	40	セミナー活動への取り組み(40)	1, 2, 3

テキスト なし

参考書 「ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版」ブックハウス エイチディ
 「トレーニング指導者テキスト 理論編 3訂版」大修館書店
 「トレーニング指導者テキスト 実践編 3訂版」大修館書店

履修条件・他の科目との関連

フィットネス業界やトレーニング指導に関心を持ち、ゼミ活動に積極的に取り組むことを求めます。
JATI-ATIもしくはCSCSの取得を目指し、体カトレーニング検定2級を取得していることが望ましい。

授業コード	13071430	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業論文（セミナーⅣ）に向け、障がい者スポーツや各種運動・スポーツの動作に関連する課題について取り組む。

また、その過程で次の3つの事項を学ぶ。

- 1) 文献や論文を検索する方法
- 2) PCなどを用いてデータ収集および分析を行う方法
- 3) 自分が伝えたい内容を文字および口頭で簡潔かつ具体的に説明する方法

到達目標

- 1) 各種運動・スポーツに関する文献および論文の検索ができるようになる。
- 2) PCを用いたデータ収集と整理ができるようになる。
- 3) 自身が伝えたい内容について、文字および口頭で説明できるようになる。
- 4) 客観的に物事を考え、目標に向けて計画をたて、主体的に進める姿勢をみにつける。

授業計画

第1回：オリエンテーション

本授業の進め方やゼミのルールなどを解説する。

事前学修：シラバスの内容を確認する。

事後学修：本日の説明内容とシラバスの内容を整理する。

第2回：体力測定の準備

各グループで体力測定の準備・計画を立てる

事前学修：新体力テストの概要を調べておく

事後学修：スムーズな進行のため、事前にシミュレーションをする

第3回～第4回：体力テストの実施

指導者役、生徒役に分かれて、体力測定を実施する。

事前学修：新体力テストに必要な道具の準備

事後学修：それぞれの役割から実施した体力テストを振り返る

第5回：データ整理

収集したデータをExcelで整理し、まとめる方法を学ぶ。関数やマクロを使用する。

事前学修：ノートパソコンにExcelをインストールし、使用できるように準備をする。

事後学修：関数やマクロで不明な点を復習する。

第6回：卒業研究に必要な情報収集（図書館の活用）

論文や文献の検索方法を学ぶ。Google ScholarやGoogle アラートを活用する方法を学ぶ。

事前学修：図書館のホームページを確認し、書籍の検索方法について確認する。

事後学修：PCなどを用いて関心のある文献を調査し、借りる。

第7回：活躍する社会人のお話1（ゲスト講師の招聘）

スポーツを通して活躍されている社会人を招聘し、働く意義について話を伺う。

事前学修：ゲスト講師についてインターネットを活用し、調べる。

事後学修：学んだことを整理し、将来の就職活動に活かす。

第8回：カメラの基礎知識と撮影方法、キネマティクスのデータの測定

スポーツの動作を撮影するために必要なカメラの知識を学ぶ。

事前学修：自身の運動・スポーツの動画を撮影する。運動パフォーマンスの測定準備をする。

事後学修：早い動きを撮影する際に必要な知識をまとめる。撮影した映像を数値化する。

第9回：キネマティクスのデータの収集

主にExcelを活用してキネマティクスデータを整理する方法を学ぶ。

事前学修：Excel VBAについて調べる。

事後学修：VBAを使ってExcelマクロを作成する。

第10回：アダプテッドスポーツの創作

アダプテッドスポーツを創作する。各グループで新しいスポーツを考案する。

事前学修：障害の有無に関わらずできる運動やスポーツをリストアップする。

事後学修：創作したスポーツのルールや必要な用具について情報を整理する。

第11回：アダプテッドスポーツの実施

各グループで創作したアダプテッドスポーツを実施する。

事前学修：スムーズな進行となるようにシミュレーションしておく。
事後学修：実施した内容について振り返り、文書にまとめる。

第12回：パラスポーツの理解

パラスポーツを体験し、障害がある人がスポーツを行う際の課題やサポート方法を学ぶ。
事前学修：対象のスポーツについて概要を調べる。
事後学修：実施した際の課題を整理し、今後の指導に活かす。

第13回：モーションキャプチャ演習

ヒトの動きを計測できるモーションキャプチャの使用方法について概説する。
事前学修：比較したい運動やスポーツの動きをリストアップする。
事後学修：分析結果をもとに、自身の考察をまとめる。

第14回：活躍する社会人のお話2（ゲスト講師の招聘）

スポーツを通して活躍されている社会人を招聘し、働く意義について話を伺う。
事前学修：ゲスト講師についてインターネットを活用し、調べる。
事後学修：学んだことを整理し、将来の就職活動に活かす。

第15回：総括

本授業で学んだことを整理し、今後自身が学ぶべき内容を把握する。
事前学修：本授業で学んだことを整理しておく。
事後学修：自身の課題を解決する方法を実施する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後の学修とあわせて1単位あたり45時間の学修が必要である。つまり、本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学修が必要となる。各授業（2時間）に加えて事前・事後学修4時間必要である。学修内容については、授業計画に記載の通りである。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業中または終了後、翌週に行う。

成績評価の方法・基準（方針）

下記の項目について総合的に評価する。
・レポートや課題の未提出・未提出、授業の1/3以上の欠席は評価の対象外とする。
・遅刻および早退は1/3欠席とする。
・提出期限・時間を遵守し、やむおえない事情がある場合には事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(60)等	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	学期末レポート(30)	1, 2, 3, 4
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3, 4

テキスト テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する

参考書 必要に応じて、授業で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 授業態度が悪い場合、退出を命ずることがあります。
パラスポーツ指導や測定の方法を学ぶため、学外授業を実施する場合があります。
授業を欠席した場合、担当教員に申し出て、授業参加時に配布資料を受け取ってください。

授業コード	13071431	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法、指導方法について教育・研究します。具体的には、競技スポーツ、学校体育、ジュニアスポーツを対象としたコーチングが研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて、文献精読、観察的評価法、プレゼンテーション基礎演習も行います。セミナーを通して、スポーツの意義や役割の理解、分析や問題解決能力、実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. 課題を発見することができる。
2. 課題を解決することができる。
3. 自己の考えを他者に論理的に説明することができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：これからの授業の進め方、授業で求められる姿勢、評価方法について説明する
- 【第2回】
 テーマ：資料の収集（1）：図書館の活用法
 内容・方法：図書館の協力を得て文献検索に関する知識を得る
- 【第3回】
 テーマ：資料の収集（2）：インターネットの活用法
 内容・方法：インターネットを活用して資料を収集する
- 【第4回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料の収集する（1）
- 【第5回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料の収集する（2）
- 【第6回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料の収集する（3）
- 【第7回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめる（1）
- 【第8回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめる（2）
- 【第9回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめる（3）
- 【第10回】
 テーマ：発表・論議（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（1）
- 【第11回】
 テーマ：発表・論議（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（2）
- 【第12回】
 テーマ：発表・論議（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（3）
- 【第13回】
 テーマ：大学祭の準備
 内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について話し合う
- 【第14回】
 テーマ：発表・論議（4）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（4）
- 【第15回】
 テーマ：発表・論議（5）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（5）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各テーマにおいて、事前準備と事後のまとめを記録する。事前事後の学修時間に1時間は必要である。

【第1回】

- ①事前学修課題：履修の手引き、シラバス、取得単位を確認しておくこと
- ②事後学修課題：履修登録を確認し、授業の内容を200字以内にまとめてメールで提出すること

【第2回】

- ①事前学修課題：図書館の使用方法について確認しておくこと
- ②事後学修課題：検索したスポーツに関する文献を整理しておくこと

【第3回】

- ①事前学修課題：インターネットの使用上の注意点をまとめておくこと
- ②事後学修課題：収集したスポーツに関する文献を整理しておくこと

【第4回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること (1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料を整理すること (1)

【第5回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること (2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料を整理すること (2)

【第6回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること (3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料を整理すること (3)

【第7回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと (1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料をまとめ直すこと (1)

【第8回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと (2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料をまとめ直すこと (2)

【第9回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと (3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料をまとめ直すこと (3)

【第10回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (1)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (1)

【第11回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (2)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (2)

【第12回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (3)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (3)

【第13回】

- ①事前学修課題：1・2年生の大学祭の参加方法についてまとめておくこと
- ②事後学修課題：話し合った内容についての原案を作成しておくこと

【第14回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (4)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (4)

【第15回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (5)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (5)

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対してテーマ・内容を討論し、今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し、社会に役立つ能力を身につけ、それを向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・5回以上欠席した者は単位認定の対象外となる(遅刻2回で1回の欠席とする)。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において2以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業態度, 学修に取り組む姿勢.	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	適宜, 資料を配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	保健体育科教員並びにスポーツ・運動指導者をを目指す者。

授業コード	13071432	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢa [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業研究に取り組む上で必要とされる知識および技能について学び、自身の考えを論理的に説明する能力を身につけることを目的とする。
 具体的には、スポーツ栄養サポートを計画・実践し、その取り組みから得た知見を報告する。
 また、報告された内容についてディスカッションを実施した上で、今後の卒業研究の計画について検討する。

到達目標

1. 自身が関心を示す栄養に関する問題点について、論理的に説明することができる。
2. 明確かつ実現可能な課題を設定し、達成するための筋道や調査すべき項目を示すことができる。
3. スポーツ栄養サポート活動の計画および実践について他者に分かりやすく説明することができる。
4. 他者と協働して、活動に取り組むことができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：セミナーⅢaにて取り組む内容や流れについて理解する。
 【第2回】 個人ワーク①：食事調査の方法について理解する。
 【第3回】 個人ワーク②：食事調査を実践し、対象者へのフィードバックを行う。
 【第4回】 個人ワーク③：スポーツ栄養サポートについて課題設定を行う。
 【第5回】 個人ワーク④：スポーツ栄養サポートについて課題設定を行う。
 【第6回】 個人ワーク⑤：スポーツ栄養サポートについて課題設定について発表する。
 【第7回】 グループワーク①：スポーツ栄養サポートの計画を立案する。
 【第8回】 グループワーク②：スポーツ栄養サポートの計画を立案する。
 【第9回】 グループワーク③：スポーツ栄養サポートの計画について発表し、ディスカッションを行う。
 【第10回】 グループワーク④：スポーツ栄養サポートの準備を行う。
 【第11回】 グループワーク⑤：スポーツ栄養サポートの準備を行う。
 【第12回】 グループワーク⑥：スポーツ栄養サポートを実施する。
 【第13回】 グループワーク⑦：スポーツ栄養サポートの報告資料を作成する。
 【第14回】 グループワーク⑧：スポーツ栄養サポートについて報告し、ディスカッションを行う。
 【第15回】 授業まとめ：セミナーⅢaでの取り組みについて振り返り、夏季休暇およびセミナーⅢbに向けた行動計画について検討する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回のテーマに関する内容について、自主的に取り組むことが出来るよう準備すること。内容の詳細については、各回の授業時に連絡する。
 事後学習：各回の授業を振り返り、活動内容や今後の課題等について要点をまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては、個人あるいはグループに向け、口頭やスライド資料等を用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・ 正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
- ・ 授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- ・ 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。(公共交通機関の遅延等の場合を除く)
- ・ 遅刻や授業進行の妨げとなるような受講態度は減点の対象となることがある。
- ・ レポート未提出者は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業時の課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1, 2, 3

その他	30	グループ活動への参加度	4
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する予定。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	「スポーツと栄養」および「スポーツ栄養指導」を履修していることが望ましい。		

授業コード	13071521	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーではセミナーⅣに向けて、スポーツ医・科学に関する論文の抄読会やプレゼンテーション、ディスカッションなどを通して分野の理解を深めるとともに、論理的思考を高めていく。また、学外におけるフィールドワークなどから自身の研究テーマについての基礎を固め、最終的には卒業研究計画書を作成する。

到達目標

1. スポーツ医・科学に関する文献を適切に読み解く力を身につけることができる。
2. 自己の考えを論理的かつ明確に伝えることができるようになる。
3. 研究の手順について理解することができる。
4. プレゼンテーションスキルを身につけることができる。
5. 実践的技能を身につけることができる。

授業計画

- 1回 : 前期授業の復習、プレゼンテーション (1_4) 先行研究の分析
- 2回 : プレゼンテーション (1_5) 先行研究の分析
- 3回 : 先行研究に関する総合討議
- 4回 : 研究計画の立て方
- 5回 : 研究計画書の作成
- 6回 : 研究調査のための準備
- 7回 : 事前研究調査
- 8回 : データ処理
- 9回 : プレゼンテーション (2_1) 事前研究の発表
- 10回 : プレゼンテーション (2_2) 事前研究の発表
- 11回 : プレゼンテーション (2_3) 事前研究の発表
- 12回 : プレゼンテーション (2_4) 事前研究の発表
- 13回 : プレゼンテーション (2_5) 事前研究の発表
- 14回 : レポート作成
- 15回 : まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

指示された参考書をもとに事前に概要を把握しておく。また、事後には反省点・修正点をまとめ、次回授業時に改善されていることを求める。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題に対しては、その場または翌週以降にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内でのプレゼンテーションおよび課題達成度(提出物含)により総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	自己または教員から設定された課題に対し、先行研究を踏まえた論理的思考のもと、適切にまとめられ、かつ明快に提示できているのかを評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課された設問に対して論理的考察ができていないかを評価する。	1, 2, 3, 4
その他	30	スポーツ医科学分野のフィールド実習への積極的参加及び課題達成度により評価する。	5

テキスト	テキストは使用しない。
------	-------------

参考書	必要に応じて適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	セミナーⅣおよび卒業研究論文を完遂する上で重要な科目です。 積極的な参加と自己運営にて進めていきます。

授業コード	13071522	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 豊司				
シラバス執筆(主)	久保田 豊司				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

体育・スポーツに関する科学的に得た知見を、セミナーの学修を通してさらに深化させる。具体的には、
 「各種スポーツ・コーチング」
 「各種スポーツ・運動の動作解析」
 「中学校・高等学校の体育の授業」
 などのテーマについて、実験、文献、調査などに基づいた基本的分析方法を学習し、その成果をまとめ発表・討論する。

到達目標

「各種スポーツ・コーチング」「各種スポーツ・運動の動作解析」「中学校・高等学校の体育の授業」などのテーマについて、
 取り組む過程の中で実践的な行動力と対応力を身につけ、
 1. 情報収集の基本的スキルを獲得する、
 2. 情報伝達の基本的スキルを獲得する、
 3. 問題処理能力の基本的スキルを獲得する。

授業計画

【第1回】
 テーマ：実験実習
 内容・方法：ハイスピードカメラについて学修する。
 【第2回】
 テーマ：実験実習・動作解析（1）
 内容・方法：ハイスピードカメラの操作方法を学修する。
 【第3回】
 テーマ：実験実習・動作解析（2）
 内容・方法：ハイスピードカメラの撮影方法を学修する。
 【第4回】
 テーマ：大学祭の準備（2）
 内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について決定をする。
 【第5回】
 テーマ：大学祭の準備（3）
 内容・方法：決定した大学祭の参加方法について詳細を詰める。
 【第6回】
 テーマ：実験実習・動作解析（3）
 内容・方法：動作解析プログラムについて学修する。
 【第7回】
 テーマ：実験実習・動作解析（4）
 内容・方法：動作解析プログラムの操作方法を学修する（1）。
 【第8回】
 テーマ：実験実習・動作解析（5）
 内容・方法：動作解析プログラムの操作方法を学修する（2）。
 【第9回】
 テーマ：卒業研究紹介（1）
 内容・方法：今までのゼミの卒業研究の内容について解説をする（1）。
 【第10回】
 テーマ：卒業研究紹介（2）
 内容・方法：4回生の卒業研究紹介（2）
 【第11回】
 テーマ：卒業研究紹介（3）
 内容・方法：4回生の卒業研究紹介（3）
 【第12回】
 テーマ：卒業研究のテーマ設定（1）
 内容・方法：卒業研究のテーマを設定する（1）。
 【第13回】
 テーマ：卒業研究のテーマ設定（2）
 内容・方法：卒業研究のテーマを設定する（2）。
 【第14回】
 テーマ：卒業研究についての計画書作成（1）
 内容・方法：卒業研究についての計画書を作成する（1）。
 【第15回】
 テーマ：卒業研究についての計画書作成（2）
 内容・方法：卒業研究についての計画書を作成する（2）。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となります。各授業（2時間）に加えて、事前・事後学習4時間が求められます。

- 【第1回】
- ①事前学修課題：カメラの基本構造を調べておくこと。
 - ②事後学修課題：学修したハイスピードカメラの操作方法を復習すること。
- 【第2回】
- ①事前学修課題：学修したハイスピードカメラの操作方法を整理しておくこと。
 - ②事後学修課題：学修したハイスピードカメラの撮影方法を復習すること。
- 【第3回】
- ①事前学修課題：参加する内容について原案を作成しまとめておくこと。
 - ②事後学修課題：決定内容について具体的な実施案を作成しておくこと。
- 【第4回】
- ①事前学修課題：実施する具体案を整理しておくこと。
 - ②事後学修課題：話し合った詳細な内容について、大学祭当日に問題が起きないようにまとめておくこと。
- 【第5回】
- ①事前学修課題：動作解析の資料を収集しておくこと。
 - ②事後学修課題：学修した動作解析プログラムを復習しておくこと。
- 【第6回】
- ①事前学修課題：動作解析プログラムについて整理しておくこと。
 - ②事後学修課題：学修した動作解析プログラムの操作方法を復習しておくこと（1）。
- 【第7回】
- ①事前学修課題：学修した動作解析プログラムの操作方法を整理しておくこと。
 - ②事後学修課題：学修した動作解析プログラムの操作方法を復習しておくこと（2）。
- 【第8回】
- ①事前学修課題：興味・関心のあるテーマを整理しておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：解説した卒業研究の内容を200字以内にまとめメールで提出すること（1）。
- 【第9回】
- ①事前学修課題：興味・関心のあるテーマを整理しておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：解説した卒業研究の内容を200字以内にまとめメールで提出すること（2）。
- 【第10回】
- ①事前学修課題：興味・関心のあるテーマを整理しておくこと（3）。
 - ②事後学修課題：解説した卒業研究の内容を200字以内にまとめメールで提出すること（3）。
- 【第11回】
- ①事前学修課題：興味・関心のあることから卒業研究のテーマを設定しておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、テーマを再設定すること（1）。
- 【第12回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえてテーマを設定しておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、テーマを再設定すること（2）。
- 【第13回】
- ①事前学修課題：卒業研究の計画書を作成しておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、計画書を見直すこと（1）。
- 【第14回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて計画書を作成しておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、計画書を見直すこと（2）。
- 【第15回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて計画書を作成しておくこと（3）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について、計画書を見直すこと（3）。

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

事前事後学習の取組30%、レポート課題30%、定期試験に代わるレポート試験40%の評価である。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業参加に対する姿勢、課題に対する仲間との協働、そしてまとめ・発表の完成度を評価する(30)。	1, 2, 3
授業外での評価	30	課題に対して、主体的な取り組みと内容を評価する(30)。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート(課題レポートのまとめ:40)。	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	公認スポーツ指導者養成講習会テキスト リファレンスブック、4,400円 実践！グッドコーチング、660円 実践！グッドコーチング(ジュニア指導編)、660円 実践！グッドコーチング(レベルアップ編)、660円
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出、授業の欠席5回以上は評価対象外とする。

授業コード	13071523	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「セミナーⅣ」において実施する卒業研究論文の作成に向け、中高齢者や有疾患者を対象とした健康支援に関する研究法を学ぶ。内容は以下の通りである。

1. 論文の検索方法を学ぶ。
2. データの収集方法およびまとめ方を学ぶ。
3. 自分の関心のある文献を選ぶ力を養う。
4. 卒業研究のテーマを定め、計画する。

到達目標

1. 「セミナーⅣ」において実施する卒業研究論文の作成に向け、必要な知識・技能を習得し、応用できる。
2. 卒業研究論文のテーマおよび研究方法を決定できる。
3. 自分の関心のある文献を選び、熟読し、必要な知識を得て説明できる。
4. 卒業研究のテーマを定め、計画できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：データ入力練習 (1)

内容・方法：データ入力に向けたフォーマットの作成方法について学ぶ。

【第2回】

テーマ：データ入力練習 (2)

内容・方法：データ入力の練習を行う。

【第3回】

テーマ：フィードバック資料の作成

内容・方法：健康支援教室参加者へのフィードバック資料の作成方法について学ぶ。

【第4回】

テーマ：健康支援教室結果説明会

内容・方法：健康支援教室参加者に向けた効果のフィードバックを行う。

【第5回】

テーマ：論文の読み方について学ぶ

内容・方法：論文の検索方法を習得するとともに、各自興味のある文献を検索するまた、図書館の文献複写サービスの利用方法を学ぶ。また、検索した論文の読み方について学ぶとともに、図表の効果的な活用についても学ぶ。

【第6回】

テーマ：オリエンテーション・キャリア教育

内容・方法：現在の大学生における就職状況や就職活動方法、就職部の活用方法について学ぶ。

【第7回】

テーマ：データ入力・図表作成方法の習得

内容・方法：Excelを用い、データ入力・図表作成方法を学び、習得する。

【第8回】

テーマ：データ入力・図表作成方法の習得

内容・方法：Excelを用い、データ入力・図表作成方法を学び、習得する。

【第9回】

テーマ：レポート作成

内容・方法：前回作成した図表を用い、何が言えるのか、自分の考えをまとめてレポートを作成する。図表のワードへの貼り付けや編集方法について学ぶ。

【第10回】

テーマ：論文検索・論文抄読・抄録作成

内容・方法：各自興味のある文献を検索・印刷し、その内容を抄録としてまとめる。

【第11回】

テーマ：プレゼンテーション資料(PowerPoint)の作成 (1)

内容・方法：前回の授業で使用した文献を用い、プレゼンテーション資料(PowerPoint)を作成する。

【第12回】

テーマ：プレゼンテーション資料(PowerPoint)の作成 (2)

内容・方法：前回の授業で使用した文献を用い、プレゼンテーション資料(PowerPoint)を作成する。

【第13回】

テーマ：プレゼンテーションおよびディスカッション

内容・方法：2名ずつプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。

【第14回】

テーマ：プレゼンテーションおよびディスカッション

内容・方法：2名ずつプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。

【第15回】

テーマ：卒業研究計画書の作成

内容・方法：卒業研究に必要な調査や測定方法について調べるとともに、対象者の募集方法等、具体的な準備を進める。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：収集データの整理をする。
- ②事後学修課題：入力ミスがないか確認をする。

【第2回】

- ①事前学修課題：収集データの整理をする。
- ②事後学修課題：入力ミスがないか確認をする。

【第3回】

- ①事前学修課題：フィードバックする内容の確認をする。
- ②事後学修課題：フィードバック資料の再確認。

【第4回】

- ①事前学修課題：結果説明会のタイムスケジュールの確認をする。
- ②事後学修課題：結果説明会の反省ならびに次年度に向けた課題を考える。

【第5回】

- ①事前学修課題：興味のあるキーワードを3～5個準備する。
- ②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第6回】

- ①事前学修課題：卒業後の自分像を考えてくる。
- ②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第7回】

- ①事前学修課題：図表作成に使用するデータの準備。
- ②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第8回】

- ①事前学修課題：図表から何が言えるかを考えてくる。
- ②事後学修課題：レポートを完成させる。

【第9回】

- ①事前学修課題：卒論作成に向けて自分の興味のあるキーワードを考えてくる。
- ②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第10回】

- ①事前学修課題：文献を熟読してくる。
- ②事後学修課題：本時でまとめた抄録を完成させる。

【第11回】

- ①事前学修課題：前回の授業で作成した資料を確認してくる。
- ②事後学修課題：作成したプレゼン資料を完成させる。

【第12回】

- ①事前学修課題：プレゼンテーションの準備。
- ②事後学修課題：発表に対する反省と次の文献を準備する。

【第13回】

- ①事前学修課題：プレゼンテーションの準備。
- ②事後学修課題：発表に対する反省と次の文献を準備する。

【第14回】

- ①事前学修課題：卒業研究における対象者特性や測定・調査方法を考えてくる。
- ②事後学修課題：具体的な研究計画書を完成させる。

【第15回】

- ①事前学修課題：具体的な研究計画書の見直し。
- ②事後学修課題：春休み期間中における卒業研究論文作成に向けた準備計画をたてる（春休み期間中に提出する）。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対して口頭や文章（OJUメールやClassroom）で評価・コメントをフィードバックする。
必要に応じて授業時間外に面談を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由のない欠席が5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	アクティブラーニングを取り入れ、授業への参加状況や取り組み姿勢を評価する。	1
授業外での評価	30	各回の課題提出状況およびその内容。	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学期末に課するレポート課題「卒業研究計画書」より評価。	2, 3, 4

その他	0		
テキスト	特になし。プリント等、資料を配布する。		
参考書	「体育・スポーツ科学研究法」ジェリー・R・トーマス ジャック・K・ネルソン(著)大修館書店		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文抄読の発表者は、事前に配布する論文を基に各自で作成した「資料」を授業の2日前までに必ず提出すること。 2. ディスカッションでは各回の授業で一人一回は必ず発表(質問もしくはコメント)することとします。そのために、自分が発表を担当する論文以外の論文(事前に配布)も、授業の前に目を通し、質問もしくはコメントを準備しておきましょう。 3. 授業に関する連絡は、原則、Classroomを介して行います。 4. 私的な言動により授業妨害を行い、他の学生の受講する権利を阻害する場合は退室を指示する場合があります。 5. 必要に応じて、授業時間外に勉強会等を開催することがあります。 6. 必要に応じて、学外で実習を行う場合があります(ゼミ活動)。 		

授業コード	13071524	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツ、教育、異文化を中心テーマに据え、必要な文献資料を収集し、先行研究をレビューし、調査研究や企画立案を行うことができるよう指導していく。
また各テーマに関する先行研究の文献購読、プレゼンテーション、ディスカッションを行いながら、先行研究について整理ができるよう指導を行っていく。

到達目標

1. 設定したテーマに相応しい文献を検索、収集することができる。
2. 必要な諸文献を読解し、内容について正確に説明することができる。
3. 諸文献の内容について、相互の関連性をふまえつつ、批判的に整理することができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
- 【第2回】就職ガイダンス(1)
- 【第3回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(1)
- 【第4回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(2)
- 【第5回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(3)
- 【第6回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(4)
- 【第7回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(5)
- 【第8回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(6)
- 【第9回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(7)
- 【第10回】就職ガイダンス(2)
- 【第11回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(8)
- 【第12回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(9)
- 【第13回】収集文献の読解・整理及び発表と質疑応答(10)
- 【第14回】先行研究のまとめ方
- 【第15回】まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業テーマに即して、作業を事前及び事後に進めていくこと。

課題に対するフィードバックの方法

発表については毎回の授業の中でフィードバックを行う。
レポートについては評価を行った後フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	毎回の授業における課題への取り組み状況(40) 事前事後学習への取り組み状況(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	文献購読及び整理においては各自の進度における個別の作業が中心になりますが、プレゼンター

授業コード	13071526	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法、指導方法について教育・研究します。具体的には、競技スポーツ、学校体育、ジュニアスポーツを対象としたコーチング（技術・体力・トレーニング・指導）が研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて、文献精読、体力・パワー測定、動作解析、観察的評価法、生理学的手法、データ・統計分析、プレゼンテーションの基礎演習も行います。セミナーを通して、スポーツの意義や役割の理解、分析や問題解決能力、実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. 対象者に合わせた指導法について説明できる。
2. 体力や技術評価の基礎的な分析ができる。
3. 文献を要約して発表できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容・方法：これからの授業の進め方、授業で求められる姿勢、評価方法について説明をする。

【第2回】

テーマ：資料の収集（1）：図書館の活用法

内容・方法：図書館の協力を得て文献検索に関する知識を得る。

【第3回】

テーマ：資料の収集（2）：インターネットの活用法

内容・方法：インターネット活用法し資料を収集する

【第4回】

テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（1）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（1）

【第5回】

テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（2）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（2）

【第6回】

テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（3）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（3）

【第7回】

テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（1）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（1）

【第8回】

テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（2）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（2）

【第9回】

テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（3）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（3）

【第10回】

テーマ：発表・論議（1）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（1）

【第11回】

テーマ：発表・論議（2）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（2）

【第12回】

テーマ：発表・論議（3）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（3）

【第13回】

テーマ：発表・論議（4）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（4）

【第14回】

テーマ：発表・論議（5）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（5）

【第15回】

テーマ：発表・論議（6）

内容・方法：コーチング・体育の授業に関するまとめ・発表会

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

「各テーマにおいて、事前の準備と事後のまとめをノートするこ。事前事後の学修時間に1時間は必要である。」

【第1回】

- ①事前学修課題：履修の手引き、シラバス、取得単位を確認しておくこと
- ②事後学修課題：授業の内容を200字以内にまとめメールで提出すること。履修登録を確認しておくこと

【第2回】

- ①事前学修課題：図書館の使用方法を確認しておくこと
- ②事後学修課題：検索したスポーツに関する文献を整理しておくこと

【第3回】

- ①事前学修課題：インターネット使用の注意点をまとめておくこと
- ②事後学修課題：収集したスポーツに関する資料を整理しておくこと

【第4回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること(1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(1)

【第5回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること(2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(2)

【第6回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること(3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(3)

【第7回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと(1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(1)

【第8回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと(2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(2)

【第9回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと(3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(3)

【第10回】

- ①事前学修課題：発表の準備をしておくこと(1)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(1)

【第11回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(2)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(2)

【第12回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(3)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(3)

【第13回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(4)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(4)

【第14回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(5)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(5)

【第15回】

- ①事前学修課題：発表の準備をしておくこと(6)
- ②事後学修課題：議論・発表した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(6)

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 - 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - 3) タームペーパー未提出者は、評価の対象とせず、「K」評価とする。
- *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	取り組み姿勢(50), リフレクションノート(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	文献や発表原稿の作成(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	タームペーパー	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
------	-----------

参考書	授業の中で、必要に応じて紹介する.
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出, 授業の欠席5回以上は評価対象外とする.

授業コード	13071527	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

テーマとして、スポーツ・運動・体育における「動機づけ」と「スポーツ傷害予防」について主に取り組んでいきます。

日常生活の中で起こる事象について問題意識をもって過ごすことにより、自ら課題や疑問を見つけ出し、文献や資料などの調査を行い、他者に自らの考えを分かりやすく伝える（レポート、プレゼンテーション）ことを中心に進めていきます。前半では、セミナーⅢaで収集したデータについてグループ発表を行います。後半では、卒業研究に向けたテーマ決めを行い、研究計画を立て、最後の授業でそれを発表してもらいます。これらを通して、計画性をもった準備や論文としての文章表現などを経験することを目的としています。

授業は教員による解説と学生による発表を組み合わせたものです。配布資料は、基本的にデータでGoogle Classroomより配信します。授業内に直接配布する場合があります。事前学習では、レジュメの作成や実技課題のリハーサルなどの準備を行っておくこと。事後学習では、教員からのフィードバックを元にふり返りを行うなど、主体的に取り組むことが必要です。

到達目標

1. 研究計画を立て、自分を律したタイムマネジメントを行うことができる
2. データの整理から分析までを適切に行うことができる
3. 質問紙調査法を習得している
4. プレゼンテーションで、聴き手に分かりやすく伝えることができる

授業計画

- 【第1回】ガイダンス
内容：後期の進め方、スケジュールの確認
- 【第2回】フィールド調査の準備
内容：質問紙調査の手続きについて学ぶ
- 【第3回】データの整理と分析
内容：データを整理する方法と分析方法について学ぶ
- 【第4回】結果を図・表にする
内容：精査したデータから、分かりやすい図・表を作成する
- 【第5回】結果を文章にする
内容：結果の書き方を学ぶ
- 【第6回】結果から考察を導く
内容：グループワークとして行う
- 【第7回】結果と考察を発表する
内容：グループで発表し、ディスカッションを行う
- 【第8回】研究テーマの探索
内容：興味があるテーマを抽出し、参考資料、文献を集める
- 【第9回】研究計画を作成する
内容：目的、方法を文章にする
- 【第10回】研究計画の中間発表
内容：レジュメを配布し、研究テーマ、目的、方法を発表する
- 【第11回】情報を集める
内容：インターネットや図書館を利用し、必要な情報を収集する
- 【第12回】情報を整理する
内容：研究計画を文章にまとめ、スライドを作成する
- 【第13回】発表リハーサル
内容：レジュメを配布し、発表リハーサルを行う
- 【第14回】研究計画発表会
内容：研究の計画を発表し、質疑応答を行う
- 【第15回】総括
内容：後期の取組みをふり返る

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

下記について事前に予習しておくこと。
 第1回から第4回：予め参考資料を読み、分からない箇所は自分で調べておく。
 第5回から第7回：レジュメの作成、発表、ディスカッションの準備を行っておく
 第8回から第14回：必要な資料を集め、フィールド調査の準備を行っておく

【事後学習】

次回の授業に必要なレジュメの作成、発表に向けたプレゼンテーション資料の作成に取り組む

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施するプレゼンテーションと、授業内に指示する提出物の評価結果に基づき、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
ただし、正当な理由のない欠席5回以上の場合は、評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内における発表に対する準備(20) ディスカッションへの積極的な参加(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	研究計画を発表(20) 発表内容についてレポートを提出(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない 教材がある場合は、授業内に配布する
------	---------------------------------

参考書	「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 ISBN 9784623039999 「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」ナツメ社 ISBN 9784816350573
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	卒業要件必修科目です。卒業研究に向けて必要となってくる基礎的知識を学びます。 欠席学生への配布資料は、5号館10階(5-1002)まで直接取りに来てください。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13071528	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナー専門分野である「スポーツビジネス」「スポーツマネジメント」を中心に実践を通して活動する。各グループに分かれてテーマに沿って学習していく。そのために多くの先行研究を読み様々な研究の手法を学ぶだけでなく、社会で即戦力として通用するだけの実践力を習得するためインターンシップや実習等に積極的に参加する機会を設ける。研究と実践の両立を目指す。

到達目標

1. スポーツビジネスの基礎を学習し説明することができる
2. スポーツビジネスの現場を実践を通して体験することによりそれらをまとめ記述することができる
3. グループワークを通してコミュニケーションの重要性について考えることができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
【第2回】 各グループでのワークショップ1：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第3回】 各グループでのワークショップ2：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第4回】 各グループでのワークショップ3：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第5回】 各グループでのワークショップ4：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第6回】 各グループでのワークショップ1：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第7回】 各グループでのワークショップ2：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第8回】 各グループでのワークショップ3：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第9回】 各グループでのワークショップ4：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第10回】 各グループでのワークショップ1：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第11回】 各グループでのワークショップ2：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第12回】 各グループでのワークショップ3：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第13回】 各グループでのワークショップ4：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第14回】 各グループでのワークショップ5：各グループに分かれて決められたテーマに沿ってワークショップを行なう
【第15回】 後期のまとめ：後期の振り返りと4年生時の活動計画の検討を行なう

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する
【事後】 オリエンテーション説明内容にもとづき今後の方針などを理解し次回以降に向けてノートを準備する
- 第2回
【事前】 課題に対して情報収集を行なう
【事後】 各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
- 第3回
【事前】 各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
【事後】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第4回
【事前】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
【事後】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第5回
【事前】 各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
【事後】 今回のワークショップの内容を復習し、実践した内容をまとめておく
- 第6回
【事前】 課題に対して情報収集を行なう

- 【事後】各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
- 第7回
- 【事前】各グループで役割分担や今後のスケジュールなどを協議し決めておく
- 【事後】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第8回
- 【事前】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 【事後】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第9回
- 【事前】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 【事後】今回のワークショップの内容を復習し、実践した内容をまとめておく
- 第10回
- 【事前】課題に対して情報収集を行なう
- 【事後】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第11回
- 【事前】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 【事後】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第12回
- 【事前】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 【事後】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第13回
- 【事前】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 【事後】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 第14回
- 【事前】各グループでワークの進行状況を確認しながら不足分や遅延部分を補っておく
- 【事後】今回のワークショップの内容を復習し、実践した内容をまとめておく
- 第15回
- 【事前】第14回までの内容を復習し、実践した内容をまとめておく
- 【事後】第14回までの振り返りを行ない、後期の活動計画を遂行できるようノートの再加筆を行なう

課題に対するフィードバックの方法

課題において各グループごとに指導やアドバイスを適宜行なうこととする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の提示課題に対する内容の達成度、習熟度を総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題の達成度、習熟度	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート(全体の振り返り)	1, 2, 3
その他	40	グループワークにおける貢献度	3

テキスト	テキストは使用せずプリントなど資料を適宜配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	スポーツビジネス、ビジネス関連の授業(ビジネスリテラシー、スポーツイベント演習など)を履修していることが望ましい。 授業時間以外でも自らスケジュールなどを調整し積極的にワークに取り組む姿勢を持つことを期待する。

授業コード	13071529	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フィットネス・スポーツトレーナー業界への就職に向けて、フィットネス業界やトレーニング指導に関する知識やスキルを説明する。また卒業研究の作成に向けた基本的な体力測定法、データ処理、統計分析について説明する。

授業は実践的な現場活動を中心とし、主な内容は以下の通りである。

- (1) フィットネス業界・健康スポーツ産業の理解
- (2) 科学的知見を基にしたトレーニングの理論と実践
- (3) 卒業研究および資格取得に向けた基本的知識の習得

到達目標

1. 健康・フィットネス業界を理解する
2. トレーニング指導者として必要な知識と技能を身につける
3. 研究における基本的な手順を理解する

授業計画

- 【第1回】
テーマ：フィジカル測定準備
内容：フィジカルテストの方法を確認し、測定の準備を行う
- 【第2回】
テーマ：フィジカル測定(1)
内容：フィジカルテストを実施し、集計、分析、フィードバックを実践する
- 【第3回】
テーマ：フィジカル測定(2)
内容：フィジカルテストを実施し、集計、分析、フィードバックを実践する
- 【第4回】
テーマ：フィジカル測定(3)
内容：フィジカルテストを実施し、集計、分析、フィードバックを実践する
- 【第5回】
テーマ：フィジカル測定(4)
内容：フィジカルテストを実施し、集計、分析、フィードバックを実践する
- 【第6回】
テーマ：フィジカル測定(5)
内容：フィジカルテストを実施し、集計、分析、フィードバックを実践する
- 【第7回】
テーマ：フィジカル測定(6)
内容：フィジカルテストを実施し、集計、分析、フィードバックを実践する
- 【第8回】
テーマ：フィジカル測定(7)
内容：フィジカルテストを実施し、集計、分析、フィードバックを実践する
- 【第9回】
テーマ：スポーツトレーナー研修交流会(1)
内容：有資格者の集まる研修交流会へ参加し、業界の事や新しい知見に触れる
- 【第10回】
テーマ：スポーツトレーナー研修交流会(2)
内容：有資格者の集まる研修交流会へ参加し、業界の事や新しい知見に触れる
- 【第11回】
テーマ：スポーツトレーナー研修交流会(3)
内容：有資格者の集まる研修交流会へ参加し、業界の事や新しい知見に触れる
- 【第12回】
テーマ：文献抄読・統計分析練習(1)
内容：卒業研究に関連する文献を読み、基礎的な統計分析を練習する
- 【第13回】
テーマ：文献抄読・統計分析練習(2)
内容：卒業研究に関連する文献を読み、基礎的な統計分析を練習する
- 【第14回】
テーマ：文献抄読・統計分析練習(3)
内容：卒業研究に関連する文献を読み、基礎的な統計分析を練習する
- 【第15回】
テーマ：まとめ
内容：セミナーⅣに向けて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 事前学修課題：測定の実施要領を確認する
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第2回】
 事前学修課題：測定の実施要領および段取りを確認する
 事後学修課題：データの集計、分析を行う
- 【第3回】
 事前学修課題：測定の実施要領および段取りを確認する
 事後学修課題：データの集計、分析を行う
- 【第4回】
 事前学修課題：測定の実施要領および段取りを確認する
 事後学修課題：データの集計、分析を行う
- 【第5回】
 事前学修課題：測定の実施要領および段取りを確認する
 事後学修課題：データの集計、分析を行う
- 【第6回】
 事前学修課題：測定の実施要領および段取りを確認する
 事後学修課題：データの集計、分析を行う
- 【第7回】
 事前学修課題：測定の実施要領および段取りを確認する
 事後学修課題：データの集計、分析を行う
- 【第8回】
 事前学修課題：測定の実施要領および段取りを確認する
 事後学修課題：データの集計、分析を行う
- 【第9回】
 事前学修課題：研修交流会参加に向けた準備を行う
 事後学修課題：研修交流会で体験した内容をまとめる
- 【第10回】
 事前学修課題：研修交流会参加に向けた準備を行う
 事後学修課題：研修交流会で体験した内容をまとめる
- 【第11回】
 事前学修課題：研修交流会参加に向けた準備を行う
 事後学修課題：研修交流会で体験した内容をまとめる
- 【第12回】
 事前学修課題：参考資料を熟読する
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第13回】
 事前学修課題：参考資料を熟読する
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第14回】
 事前学修課題：参考資料を熟読する
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
- 【第15回】
 事前学修課題：1年間の活動について確認しておく
 事後学修課題：セミナーⅣ、卒業研究に向けて考えをまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての質問には適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のないレポートの未提出および1/3以上の欠席は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	プレゼンテーション(30)	1, 2, 3
授業外での評価	30	レポート(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	40	セミナー活動への取組み(40)	1, 2, 3

テキスト なし

参考書 「ストレンジトレーニング&コンディショニング 第4版」ブックハウス エイチディ
 「トレーニング指導者テキスト 理論編 3訂版」大修館書店
 「トレーニング指導者テキスト 実践編 3訂版」大修館書店
 「SPSSとExcelによる[統計力]トレーニング スポーツデータで分析力を身につける」東京図書

履修条件・他の科目との関連

フィットネス業界やトレーニング指導に関心を持ち、ゼミ活動に積極的に取り組むことを求めます。
JATI-ATIもしくはCSCSの取得を目指し、体カトレーニング検定2級を取得していることが望ましい。

授業コード	13071530	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業論文（セミナーⅣ）に向け、パラスポーツや各種運動・スポーツの動作に関連する課題について取り組む。
また、その過程で次の3つの事項を学ぶ。
1) 文献や論文を検索する方法
2) PCなどを用いてデータ収集および分析を行う方法
3) 自分が伝えたい内容を文字および口頭で簡潔かつ具体的に説明する方法

到達目標

- 1) 各種運動・スポーツに関する文献および論文の検索ができるようになる。
- 2) PCを用いたデータ収集と整理ができるようになる。
- 3) 自身が伝えたい内容について、文字および口頭で説明できるようになる。
- 4) 客観的に物事を考え、目標に向けて計画をたて、主体的に進める姿勢をみにつける。

授業計画

第1回：オリエンテーション

授業の進め方について概説する。卒業研究の進め方について説明する。
事前学修：シラバスを確認し、不明点などをリストアップする。
事後学修：卒業研究で取り組みたい内容について考えをまとめる。

第2回：運動・スポーツのパフォーマンス測定計画立案

自身の専門のスポーツや関連する動きを観察し、課題を推論し、課題を解決する方法の仮説をたて、検証するための方法を学び、計画を立てる。
事前学修：測定したい動作について考える。
事後学修：測定のスケジュールをまとめる。

第3回：運動・スポーツのパフォーマンス測定内容の発表

自身が取り組みたい測定について説明する。
また、他者が取り組みたい内容についても確認し、意見およびアドバイスをする。
事前学修：他者の計画書を読み込み。質問等ができるように準備する。
事後学修：指摘された内容について再度検討する。

第4回：運動・スポーツのパフォーマンス測定内容の発表

自身が取り組みたい測定について説明する。
また、他者が取り組みたい内容についても確認し、意見およびアドバイスをする。
事前学修：他者の計画書を読み込み。質問等ができるように準備する。
事後学修：指摘された内容について再度検討する。

第5回：運動・スポーツのパフォーマンス測定内容の発表

自身が取り組みたい測定について説明する。
また、他者が取り組みたい内容についても確認し、意見およびアドバイスをする。
事前学修：他者の計画書を読み込み。質問等ができるように準備する。
事後学修：指摘された内容について再度検討する。

第6回：運動・スポーツのパフォーマンス測定内容の発表

自身が取り組みたい測定について説明する。
また、他者が取り組みたい内容についても確認し、意見およびアドバイスをする。
事前学修：他者の計画書を読み込み。質問等ができるように準備する。
事後学修：指摘された内容について再度検討する。

第7回：就職に向けての学習

就職に向けて、就活の概要や流れを知り、スケジュールをたてる。必要に応じて先輩の体験談を伺う。
事前学修：就職先の希望を決めておく。
事後学修：卒業、就職までのスケジュールをまとめる。

第8回：パラスポーツに関わる企業への訪問

パラスポーツに関わる企業に訪問し、パラスポーツの関わり方などを学ぶ。
事前学修：企業のホームページを確認し、情報を収集する。
事後学修：学んだ内容をまとめる。

第9回：卒論に向けての予備調査・研究の実施

卒業論文に向けて、予備実験を行う。

事前学修：卒業論文の予備調査・測定の前準備を行う。
事後学修：卒業論文の予備調査・測定結果をまとめる。

第10回：卒論に向けての予備調査・研究の実施

卒業論文に向けて、予備実験を行う。

事前学修：卒業論文の予備調査・測定の前準備を行う。
事後学修：卒業論文の予備調査・測定結果をまとめる。

第11回：卒論に向けての予備調査・研究の実施

卒業論文に向けて、予備実験を行う。

事前学修：卒業論文の予備調査・測定の前準備を行う。
事後学修：卒業論文の予備調査・測定結果をまとめる。

第12回：卒論に向けての予備調査・研究の実施

卒業論文に向けて、予備実験を行う。

事前学修：卒業論文の予備調査・測定の前準備を行う。
事後学修：卒業論文の予備調査・測定結果をまとめる。

第13回：卒業研究の予備調査・測定レポートの作成

卒業論文に向けた予備調査・実験について報告書を作成する。

事前学修：測定したデータを分析する。
事後学修：測定の反省点と改善点をまとめる。

第14回：卒業研究の予備調査・測定の発表

卒業論文に向けた予備調査・実験についてパワーポイントを用いて発表する。

事前学修：タームレポートの提出と報告の前準備をする。
事後学修：指摘された内容を踏まえ、再度レポートを加筆・修正する。

第15回：総括 / 卒業論文発表への参加

卒業論文に向けて、上級生の卒業論文発表を聞き、テーマを再検討する。

事前学修：本授業で理解しにくかった点をまとめる。
事後学修：卒業論文作成に向けたスケジュールを立てる。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前・事後の学修とあわせて、1単位あたり45時間の学修が必要である。つまり、本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学修が必要となる。
各授業（2時間）に加えて、事前・事後学修4時間必要である。
学修内容については、授業計画に記載の通りである。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業中または終了後、翌週に行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
 - 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。
- *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(60)等	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	卒業研究発表会の参加および課題提出(10)など	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学期末レポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	10	授業に関する質問・発言(5), 取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3, 4

テキスト テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。

参考書 必要に応じて授業で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 授業態度が悪い場合は、退出を命ずることがあります。
授業を欠席した場合、担当教員に申し出て、配布資料を受け取ってください。
バラスポーツ指導や測定の方法を学ぶため、学外授業を実施する場合があります。

授業コード	13071531	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法、指導方法について教育・研究します。具体的には、競技スポーツ、学校体育、ジュニアスポーツを対象としたコーチングが研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて、文献精読、観察的評価法、プレゼンテーション基礎演習も行います。セミナーを通して、スポーツの意義や役割の理解、分析や問題解決能力、実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. 課題を発見することができる。
2. 課題を解決することができる。
3. 自己の考えを他者に論理的に説明することができる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：これからの授業の進め方、授業で求められる姿勢、評価方法について説明する
- 【第2回】
 テーマ：資料の収集（1）：図書館の活用法
 内容・方法：図書館の協力を得て文献検索に関する知識を得る
- 【第3回】
 テーマ：資料の収集（2）：インターネットの活用法
 内容・方法：インターネットを活用して資料を収集する
- 【第4回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料の収集する（1）
- 【第5回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料の収集する（2）
- 【第6回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料の収集する（3）
- 【第7回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめる（1）
- 【第8回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめる（2）
- 【第9回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめる（3）
- 【第10回】
 テーマ：発表・論議（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（1）
- 【第11回】
 テーマ：発表・論議（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（2）
- 【第12回】
 テーマ：発表・論議（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（3）
- 【第13回】
 テーマ：大学祭の準備
 内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について話し合う
- 【第14回】
 テーマ：発表・論議（4）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（4）
- 【第15回】
 テーマ：発表・論議（5）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料をまとめて発表して議論する（5）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各テーマにおいて、事前準備と事後のまとめを記録する。事前事後の学修時間に1時間は必要である。

【第1回】

- ①事前学修課題：履修の手引き、シラバス、取得単位を確認しておくこと
- ②事後学修課題：履修登録を確認し、授業の内容を200字以内にまとめてメールで提出すること

【第2回】

- ①事前学修課題：図書館の使用方法について確認しておくこと
- ②事後学修課題：検索したスポーツに関する文献を整理しておくこと

【第3回】

- ①事前学修課題：インターネットの使用上の注意点をまとめておくこと
- ②事後学修課題：収集したスポーツに関する文献を整理しておくこと

【第4回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること (1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料を整理すること (1)

【第5回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること (2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料を整理すること (2)

【第6回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること (3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料を整理すること (3)

【第7回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと (1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料をまとめ直すこと (1)

【第8回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと (2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料をまとめ直すこと (2)

【第9回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと (3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について資料をまとめ直すこと (3)

【第10回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (1)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (1)

【第11回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (2)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (2)

【第12回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (3)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (3)

【第13回】

- ①事前学修課題：1・2年生の大学祭の参加方法についてまとめておくこと
- ②事後学修課題：話し合った内容についての原案を作成しておくこと

【第14回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (4)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (4)

【第15回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと (5)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめてメールで提出すること (5)

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対してテーマ・内容を討論し、今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し、社会に役立つ能力を身につけ、それを向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・5回以上欠席した者は単位認定の対象外となる(遅刻2回で1回の欠席とする)。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において2以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業態度, 学修に取り組む姿勢.	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	適宜, 資料を配布します。
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。
履修条件・他の科目との関連	保健体育科教員並びにスポーツ・運動指導者をを目指す者。

授業コード	13071532	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅢb [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業研究に取り組む上で必要とされる知識および技能について学び、自身の考えを論理的に説明する能力を身につけることを目的とする。
 具体的には、スポーツ現場における栄養に関する諸問題について、課題の設定に取り組み、必要となる知見・情報の収集を行う。
 また、グループワークにて討論を実施した上で、卒業研究計画を作成し発表する。

到達目標

1. 自身が関心を示す栄養に関する問題点について、論理的に説明することができる。
2. 研究に関連する文献を検索し、その内容を適切に読み解くことができる。
3. セミナーにおける取組の成果について他者に分かりやすく説明することができる。
4. 他者と協働して、活動に取り組むことができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：セミナーⅢbにて取り組む内容や流れについて理解する。
 【第2回】 グループワーク①：スポーツ栄養に関するトピックについてグループで討論する。
 【第3回】 グループワーク②：スポーツ栄養に関するトピックについてグループで討論する。
 【第4回】 文献収集①：文献の収集方法について学ぶ。
 【第5回】 文献収集②：スポーツ栄養サポートに関する先行研究を収集する。
 【第6回】 文献収集③：スポーツ栄養サポートに関する先行研究を収集する。
 【第7回】 グループワーク③：収集した文献の内容についてグループで討論する。
 【第8回】 グループワーク④：収集した文献の内容についてグループで討論する。
 【第9回】 個人ワーク①：卒業研究計画書を作成する。
 【第10回】 個人ワーク②：卒業研究計画書を作成する。
 【第11回】 個人ワーク③：卒業研究計画書を作成する。
 【第12回】 卒業研究計画発表会①：卒業研究計画について発表する。
 【第13回】 卒業研究計画発表会②：卒業研究計画について発表する。
 【第14回】 卒業研究計画発表会③：卒業研究計画について発表する。
 【第15回】 授業まとめ：セミナーⅢbでの取り組みについて振り返り、セミナーⅣに向けた行動計画について検討する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回のテーマに関する内容について、自主的に取り組むことが出来るよう準備すること。内容の詳細については、各回の授業時に連絡する。
 事後学習：各回の授業を振り返り、活動内容や今後の課題等について要点をまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては、個人あるいはグループに向け、口頭やスライド資料等を用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・ 正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
- ・ 授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- ・ 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。(公共交通機関の遅延等の場合を除く)
- ・ 遅刻や授業進行の妨げとなるような受講態度は減点の対象となることがある。
- ・ レポート未提出者は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業時の課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	卒業研究発表会への参加および課題提出	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1, 2, 3

その他	30	グループ活動への参加度	4
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する予定。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	「スポーツと栄養」および「スポーツ栄養指導」を履修していることが望ましい。		

授業コード	13077921	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは卒業研究の完成に向けて、各自の研究計画に基づき、研究構想および思考などを、より客観的かつ論理的にまとめていくことを中心に展開する。またプレゼンテーションおよびディスカッションを経て、より研究構想を深化させ、具現化してもらう。本セミナーを通して、事柄を多角的視点から客観的かつ論理的に考察し、自身の独創性も交えて具現化、かつ表現する能力を身につける。

到達目標

1. 自己の計画に基づいて卒業研究を完成させることで、遂行能力を高めることができる。
2. 自己の考えを客観的かつ論理的に具現化し、プレゼンテーションすることで、汎用性のある表現方法を身につけることができる。
3. スポーツ医科学に関する知識を深化させることができる。
4. 実践的技能を身につけることができる。

授業計画

- 1回 : 授業の概要と進め方
- 2回 : 年間計画の作成と研究計画書の見直し
- 3回 : 卒業研究の構想発表および討議 (1) 研究題目の作成
- 4回 : 卒業研究の構想発表および討議 (2) 研究の着目点と意義
- 5回 : 卒業研究の構想発表および討議 (3) 研究の対象と方法
- 6回 : 先行研究の調査と分析 (1)
- 7回 : 先行研究の調査と分析 (2)
- 8回 : 各自のテーマに基づく調査・研究 (1)
- 9回 : 各自のテーマに基づく調査・研究 (2)
- 10回 : 各自のテーマに基づく調査・研究 (3)
- 11回 : 中間発表に向けた準備 (1) 抄録の作成
- 12回 : 中間発表に向けた準備 (2) プレゼンテーション
- 13回 : 中間発表に向けた準備 (3) プレゼンテーション
- 14回 : 中間発表に向けた準備 (4) プレゼンテーション
- 15回 : 中間発表に向けた準備 (5) プレゼンテーション

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

活動内容などに関して、指示された参考書などをもとに事前に概要をまとめておく。また、事後には反省点・修正点をまとめ、次回授業時に改善されていることを求める。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題に対しては、その場または翌週以降にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

卒業研究への取り組みと内容により評価する。
また提出物などは期限厳守とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	自己で設定した課題に対し、先行研究を精読し、論理的思考のもとに適切にまとめられているか、またそれを明快に発表できているのかを評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	先行研究を精読し適切にまとめられているかを評価する。	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	研究計画に基づき適切にレポートを作成しているかを評価する。	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	自身のテーマに基づいた研究・調査を実施し、成果物を完成させることができるよう、積極的な参加と自己運営を求めます。 卒業研究の進捗状況に応じて、授業時間外や夏期休業中などに実験などを実施する可能性があることを承知してください。

授業コード	13077922	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 豊司				
シラバス執筆(主)	久保田 豊司				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「セミナーIII」の学修で得られた科学的知見を基礎にして、運動・スポーツ、体育の授業に関するテーマを設定し卒業研究とする。
また、自分自身でテーマを設定し、自らがそのテーマに沿って内容を深めていく中で問題解決能力も高めていく。

到達目標

セミナーⅣ・卒業研究を通して、実践的な行動力と対応力を身につけ、
1. 問題解決能力のスキルを獲得する、
2. 論理的思考のスキルを獲得する。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：卒業研究、教育実習、進路について確認をする。
- 【第2回】
テーマ：卒業研究のテーマ決定、教育実習指導、進路指導
内容・方法：卒業研究のテーマ、教育実習、進路について確認をする。
- 【第3回】
テーマ：研究方法の設定（1）、教育実習指導、進路指導
内容・方法：研究方法の設定（1）、教育実習、進路について確認をする。
- 【第4回】
テーマ：研究方法の設定（2）、教育実習指導、進路指導
内容・方法：研究方法の設定（2）、教育実習指導、進路指導
- 【第5回】
テーマ：中間発表会抄録の作成（1）、教育実習指導、進路指導
内容・方法：中間発表会抄録の作成（1）、教育実習、進路について確認をする。
- 【第6回】
テーマ：中間発表会抄録の作成（2）、教育実習指導、進路指導
内容・方法：中間発表会抄録の作成（2）、教育実習、進路について確認をする。
- 【第7回】
テーマ：中間発表会抄録の作成（3）、教育実習指導、進路指導
内容・方法：中間発表会抄録の作成（3）、教育実習、進路について確認をする。
- 【第8回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成（1）
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする（1）。
- 【第9回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成（2）
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする（2）。
- 【第10回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成（3）
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする（3）。
- 【第11回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成（4）
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする（4）。
- 【第12回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成（5）
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする（5）。
- 【第13回】
テーマ：中間発表会
内容・方法：中間発表をする。
- 【第14回】
テーマ：中間発表会の報告（1）
内容・方法：中間発表会の報告をする（1）。進路について確認をする。
- 【第15回】
テーマ：中間発表会の報告（2）
内容・方法：中間発表会の報告をする（2）進路について確認をする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となります。各授業（2時間）に加えて、事前・事後学習4時間が求められます。

- 【第1回】
- ①事前学修課題：取得単位、進路についてまとめておくこと。
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと。
- 【第2回】
- ①事前学修課題：今までの授業内容から卒業研究のテーマを決めておくこと。
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと。
- 【第3回】
- ①事前学修課題：研究方法を整理しておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと。
- 【第4回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について研究方法をまとめておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと。
- 【第5回】
- ①事前学修課題：抄録を作成しておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと。
- 【第6回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について抄録を作成しておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと。
- 【第7回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について抄録を作成しておくこと（3）。
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと。
- 【第8回】
- ①事前学修課題：中間発表会用の原稿と資料を作成しておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（1）。
- 【第9回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（2）。
- 【第10回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（3）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（3）。
- 【第11回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（4）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（4）。
- 【第12回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（5）。
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（5）。
- 【第13回】
- ①事前学修課題：発表の準備をする。
 - ②事後学修課題：発表の質疑・応答を整理する。
- 【第14回】
- ①事前学修課題：中間発表の質疑についての対策を整理しておくこと（1）。
 - ②事後学修課題：卒業研究、進路について整理しておくこと。
- 【第15回】
- ①事前学修課題：中間発表の質疑についての対策を整理しておくこと（2）。
 - ②事後学修課題：卒業研究、進路について整理しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

事前事後学習の取組30%、卒業研究課題30%、定期試験に代わるレポート試験40%の評価である。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業参加に対する姿勢、課題に対する仲間との協働、そしてまとめ・発表の完成度を評価する(30)。	1, 2
授業外での評価	30	課題に対して、主体的な取り組みと内容を評価する(30)。	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート(課題レポートのまとめ:卒業研究含む:40)。	1, 2
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	実践！グッドコーチング(レベルアップ編)、660円

授業コード	13077923	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

各自、「セミナーⅢ」において提出した卒業論文のテーマを基に研究計画を立て、卒業研究に取り組む。介入方法・調査方法の進め方、評価方法・データ整理・統計手法など、個々の進捗状況に応じて指導する。

到達目標

1. 自身の卒業研究テーマの必要性・実施意義について説明できる。
2. 自身の卒業研究の方法について理解し、説明できる。
3. 自身の卒業研究で収集したデータの分析結果について理解し、説明できる。
4. 自身の卒業研究の仮説とフィードバック方法について説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：高齢者の生活機能向上に関する知識の応用
 生活機能に関する評価方法について学ぶ①
 内容・方法：高齢者の生活機能向上に関する基礎知識を学ぶ。
 体力測定や心理テスト等について座学・実技の両面から学び、説明する力を養う。
- 【第2回】
 テーマ：生活機能に関する評価方法について学ぶ②
 内容・方法：認知機能測定について座学・実技の両面から学び、説明する力を養う。
- 【第3回】
 テーマ：健康支援教室開催に向けた説明会の実施
 事前テストおよび健康支援教室の準備
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室の説明および事前アンケート調査を行う。
 事前テストおよび健康支援教室の準備、各測定方法の復習を行う。
- 【第4回】
 テーマ：介入研究における事前テスト
 内容・方法：健康支援教室において介入効果を評価するための事前テストを行なう。
- 【第5回】
 テーマ：事前テストのデータ処理と結果返却資料の作成
 内容・方法：返却資料作成、健康支援教室の指導案作成。
- 【第6回】
 テーマ：事前テストの結果説明&健康支援教室 (1)
 内容・方法：介入研究の対象者に向けた結果返却説明
 地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第7回】
 テーマ：事前テストの結果説明&健康支援教室 (2)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第8回】
 テーマ：健康支援教室 (3)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第9回】
 テーマ：健康支援教室 (4)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第10回】
 テーマ：健康支援教室 (5)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第11回】
 テーマ：健康支援教室 (6)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第12回】
 テーマ：健康支援教室 (7)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第13回】
 テーマ：健康支援教室 (8)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第14回】
 テーマ：健康支援教室 (9)
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室を行う。
- 【第15回】
 テーマ：介入教室における事後テスト
 内容・方法：地域在住高齢者を対象に健康支援教室の事後評価を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

★本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となります。
各授業（2時間）に加えて、事前学習（2時間以上）、事後学習（2時間以上）を毎回各自で行ってください。

また、必要に応じて教員から事前・事後課題（宿題）を出します。

【第1回】

①事前学修課題：高齢者の生活機能低下について調べてくる。
事前に配布した体力測定のマニュアルを熟読してくる。

②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第2回】

①事前学修課題：事前に配布した体力測定等のマニュアルを熟読してくる。

②事後学修課題：本時の授業内容を復習する。

【第3回】

①事前学修課題：健康支援教室の説明会準備をする。

②事後学修課題：事前テストで担当する測定の練習をする。

【第4回】

①事前学修課題：事前テストの準備

②事後学修課題：収集したデータの入力。

【第5回】

①事前学修課題：入力データの評価方法に関する資料を熟読してくる

②事後学修課題：結果説明の準備、次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第6回】

①事前学修課題：結果説明の準備、指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第7回】

①事前学修課題：結果説明の準備、指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第8回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第9回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第10回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第11回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第12回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第13回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第14回】

①事前学修課題：指導練習および教室準備

②事後学修課題：次週の健康支援教室の指導案作成およびその他の準備をする。

【第15回】

①事前学修課題：事後テストの準備

②事後学修課題：データ処理および評価。
結果返却資料の作成および説明の練習をする。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対して口頭や文章（OJUメールやClassroom）で評価・コメントをフィードバックする。
必要に応じて授業時間外に面談を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、欠席5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	本授業はアクティブラーニングも取り入れるため、出席状況だけではなく、授業への取り組み姿勢も大きく評価に含める。 また、私的な言動により授業妨害を行い、他の学生の受講する権利を阻害する場合は減点対象とする。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	各回の課題提出状況および内容。	1, 2, 3, 4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	「中間審査論文」の提出状況およびその内容で評価する。 セミナー担当が指示した提出期限までに中間審査論文を提出できなかった場合は、K評価(評価不能)とする。 ※前期の最終試験もしくは最終レポート試験と同等の扱い。	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
------	-----------

参考書	特になし.
-----	-------

履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ活動として、学外での活動を伴う場合もあります。 2. 介入研究では、事前・事後課題として時間外活動も実施します。 3. その他、時間外に中間論文作成のためのレクチャーを行います(課題あり)。 4. 私的な言動により授業妨害を行い、他の学生の受講する権利を阻害する場合は退室を指示する場合があります。 5. 必要に応じて、授業時間外に勉強会等を開催することがあります(卒業研究関連等)。 6. 必要に応じて、学外で実習を行う場合があります(ゼミ活動・卒業研究関連等)。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13077924	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業研究における各自のテーマに適した方法論について説明し、先行研究について整理し、調査や企画立案を進めるための指導を行う。
また、論文執筆や報告書作成に向けた準備についても指導を行っていく。

到達目標

1. 既存の研究成果に依拠しながら、オリジナリティのある卒業論文や報告書を構想することができる。
2. 問題設定に相応しい方法により、研究を進めることができる。
3. 研究の成果について、論文執筆や報告書作成のための準備を進めることができる。

授業計画

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 研究テーマの再確認
- 【第3回】 先行研究の再確認
- 【第4回】 先行研究の収集
- 【第5回】 質的調査方法を学ぶ
- 【第6回】 量的調査方法を学ぶ
- 【第7回】 調査デザインを構築する
- 【第8回】 調査を実施する
- 【第9回】 データの分析方法を学ぶ
- 【第10回】 人権啓発映画会
- 【第11回】 データの分析を始める
- 【第12回】 データの分析を進める
- 【第13回】 データの分析をまとめる
- 【第14回】 分析結果について考察する
- 【第15回】 論文執筆や報告書作成の準備をする

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業テーマに即して、事前及び事後に作業を進めていくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、個別に指導及びフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	100	授業内における作業への取り組み状況(50) 事前事後学習における取り組み状況(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	白井利明, 高橋一郎著 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房
履修条件・他の科目との関連	自らの興味関心に正直でありながら、他者に納得してもらえる研究成果を出すことを目指して取り組んでください。

授業コード	13077925	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業研究に取り組む上で必要とされる知識および技能について学び、自身の考えを論理的に説明する能力を身につけることを目的とする。
 具体的には、スポーツ栄養サポート活動を実践し、その取り組みから得た知見を報告する。
 また、報告された内容についてディスカッションを実施した上で、卒業研究の中間報告会にて発表を行う。

到達目標

1. 自身が関心を示す栄養に関する問題点について、論理的に説明することができる。
2. スポーツ栄養サポート活動を実施するための知識・技能を理解することができる。
3. スポーツ栄養サポート活動の成果について他者に分かりやすく説明することができる。
4. 他者と協働して、活動に取り組むことができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：セミナーⅣaにて取り組む内容や流れについて理解する。
 【第2回】 グループワーク①：スポーツ栄養サポート活動の進捗状況を報告し、課題について検討する。
 【第3回】 グループワーク②：スポーツ栄養サポート活動の進捗状況を報告し、課題について検討する。
 【第4回】 グループワーク③：スポーツ栄養サポート活動の進捗状況を報告し、課題について検討する。
 【第5回】 グループワーク④：スポーツ栄養サポート活動の実践について報告する準備を行う。
 【第6回】 グループワーク⑤：スポーツ栄養サポート活動の実践について報告し、内容について議論を行う。
 【第7回】 グループワーク⑥：スポーツ栄養サポート活動の実践について報告し、内容について議論を行う。
 【第8回】 卒業研究中間報告会の資料作成①：卒業研究中間報告会で使用するスライド資料を作成する。
 【第9回】 卒業研究中間報告会の資料作成②：卒業研究中間報告会で使用するスライド資料を作成する。
 【第10回】 卒業研究中間報告会①：自身の卒業研究の進捗状況について報告するとともに、他の学生の報告についてディスカッションを行う。
 【第11回】 卒業研究中間報告会②：自身の卒業研究の進捗状況について報告するとともに、他の学生の報告についてディスカッションを行う。
 【第12回】 卒業研究中間報告会③：自身の卒業研究の進捗状況について報告するとともに、他の学生の報告についてディスカッションを行う。
 【第13回】 卒業研究中間報告会④：自身の卒業研究の進捗状況について報告するとともに、他の学生の報告についてディスカッションを行う。
 【第14回】 卒業研究中間報告会⑤：自身の卒業研究の進捗状況について報告するとともに、他の学生の報告についてディスカッションを行う。
 【第15回】 授業まとめ：セミナーⅣaでの取り組みについて振り返り、セミナーⅣbに向けた行動計画について検討する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回のテーマに関する内容について、自主的に取り組むことが出来るよう準備すること。内容の詳細については、各回の授業時に連絡する。
 事後学習：各回の授業を振り返り、活動内容や今後の課題等について要点をまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては、個人あるいはグループに向け、口頭やスライド資料等を用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・ 正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
 - ・ 授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - ・ 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。(公共交通機関の遅延等の場合を除く)
 - ・ 遅刻や授業進行の妨げとなるような受講態度は減点の対象となることがある。
 - ・ レポート未提出者は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業時の課題	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	1, 2, 3
その他	30	グループ活動への参加度	4

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する予定。
------	-----------------------------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	「スポーツと栄養」および「スポーツ栄養指導」を履修していることが望ましい。
---------------	---------------------------------------

授業コード	13077926	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法、指導方法について教育・研究します。具体的には、競技スポーツ、学校体育、ジュニアスポーツを対象としたコーチング（技術・体力・トレーニング・指導）が研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて、文献精読、体力・パワー測定、動作解析、観察の評価法、生理学的手法、データ・統計分析、プレゼンテーションの基礎演習も行います。セミナーを通して、スポーツの意義や役割の理解、分析や問題解決能力、実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. 対象者に合わせた指導法について説明できる。
2. 体力や技術評価の基礎的な分析ができる。
3. 文献を要約して発表できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：これからの授業の進め方、授業で求められる姿勢、評価方法について説明をする。
- 【第2回】
 テーマ：資料の収集（1）：図書館の活用法
 内容・方法：図書館の協力を得て文献検索に関する知識を得る
- 【第3回】
 テーマ：資料の収集（2）：インターネットの活用法
 内容・方法：インターネット活用法し資料を収集する
- 【第4回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（1）
- 【第5回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（2）
- 【第6回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料の収集（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料を収集する（3）
- 【第7回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（1）
- 【第8回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（2）
- 【第9回】
 テーマ：コーチング・体育の授業に関する資料のまとめ（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する資料をまとめる（3）
- 【第10回】
 テーマ：発表・論議（1）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（1）
- 【第11回】
 テーマ：発表・論議（2）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（2）
- 【第12回】
 テーマ：発表・論議（3）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（3）
- 【第13回】
 テーマ：大学祭の準備（1）
 内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について話し合う。
- 【第14回】
 テーマ：発表・論議（4）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（4）
- 【第15回】
 テーマ：発表・論議（5）
 内容・方法：コーチング・体育の授業に関する収集した資料を発表し議論する（5）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

「各テーマにおいて、事前の準備と事後のまとめをノートすること。事前事後の学修時間に1時間は必要である。」

【第1回】

- ①事前学修課題：履修の手引き、シラバス、取得単位を確認しておくこと
- ②事後学修課題：授業の内容を200字以内にまとめメールで提出すること。履修登録を確認しておくこと

【第2回】

- ①事前学修課題：図書館の使用方法を確認しておくこと。
- ②事後学修課題：検索したスポーツに関する文献を整理しておくこと

【第3回】

- ①事前学修課題：インターネット使用の注意点をまとめておくこと。
- ②事後学修課題：収集したスポーツに関する資料を整理しておくこと

【第4回】

- ①事前学修課題：コーチング・体育の授業に関する資料を収集すること(1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(1)

【第5回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること(2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(2)

【第6回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料を収集すること(3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料を整理すること(3)

【第7回】

- ①事前学修課題：整理した資料をまとめておくこと(1)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(1)

【第8回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと(2)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(2)

【第9回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめておくこと(3)
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、資料をまとめ直すこと(3)

【第10回】

- ①事前学修課題：発表の準備をしておくこと(1)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(1)

【第11回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(2)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(2)

【第12回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(3)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(3)

【第13回】

- ①事前学修課題：1・2回生の大学祭の参加方法についてまとめておくこと
- ②事後学修課題：話し合った内容について、原案を作成しておくこと

【第14回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(4)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(4)

【第15回】

- ①事前学修課題：議論した内容の整理と発表の準備をしておくこと(5)
- ②事後学修課題：議論した内容を200字以内にまとめメールで提出すること(5)

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
 - 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
 - 3) タームペーパー未提出者は、評価の対象とせず、「K」評価とする。
- *やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	取り組み姿勢(50), リフレクションノート(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	文献や発表原稿の作成(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	タームペーパー	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。
------	-------------------

参考書	授業の中で、必要に応じて紹介する.
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出, 授業の欠席5回以上は評価対象外とする.

授業コード	13077927	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日常生活の中で問題意識を持ち、文献や資料の調査を行い、自分の考えを他者に分かりやすく伝えること（レポートやプレゼンテーション）に重点をおいた授業です。
 前半では、卒業研究の研究計画に沿って、フィールド調査の準備と調査を実施します。前期に教育実習が控えている場合は、研究計画に組み込み、スケジュールを作成する必要があります。後半では、その成果と考察をゼミで発表し、全員で議論することで、さらに理解を深めていきます。この授業の目的は、計画や準備、そして研究論文の文章表現について学ぶことです。
 授業は教員による解説と学生による発表を組み合わせたものです。配布資料は、基本的にデータでGoogleクラスルームより配信します。授業内に直接配布する場合があります。事前学習では、レジュメの作成や実技課題のリハーサルなどの準備を行っておくこと。事後学習では、教員からのフィードバックを元にふり返りを行うなど、主体的に取り組むことが必要です。

到達目標

1. 研究計画を立案し、実践することができる
2. 他者の意見に対して、自分の意見を述べるすることができる
3. 適切な情報収集ができる
4. 他者と協力して行動することができる

授業計画

- 【第1回】ガイダンス
 内容：履修登録の確認、およびスケジュールの確認
- 【第2回】研究テーマおよび目的、仮説を設定する
 内容：研究領域を決め、研究の骨組みをつくる
- 【第3回】研究テーマ、仮説を発表する
 内容：プレゼンテーションに対して、質疑応答を行い、内容を深める
- 【第4回】背景、目的、仮説、方法を執筆する
 内容：発表した内容を文章にする
- 【第5回】情報を集める
 内容：図書館やインターネットを利用し、根拠となる情報を収集する
- 【第6回】集めた情報を引用して執筆する
 内容：第4回で作成した文章に書き加える
- 【第7回】執筆した文章を推敲する
 内容：他者の文章を添削し、自分の文章を推敲する
- 【第8回】研究計画の進捗状況を発表する（1）前半
 内容：研究計画をプレゼンテーションし、意見交換を行う
- 【第9回】研究計画の進捗状況を発表する（2）後半
 内容：研究計画をプレゼンテーションし、意見交換を行う
- 【第10回】フィールド調査の準備（1）妥当性と信頼性
 内容：テーマに沿ったものになっているかを確認する
- 【第11回】フィールド調査の準備（2）調査用紙作成
 内容：調査用紙をパソコンを使って作成する
- 【第12回】フィールド調査の準備（3）プレテスト
 内容：作成した調査用紙についてセミナー内で確認する
- 【第13回】取組み成果を発表する（1）前半
 内容：5分程度にまとめ、履修者の2分の1が発表し質疑応答を行う
- 【第14回】取組み成果を発表する（2）後半
 内容：5分程度にまとめ、履修者の2分の1が発表し質疑応答を行う
- 【第15回】中間報告会
 内容：レジュメを作成し、発表する。（3年生はコメンテーターとして参加）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

- 下記について事前に予習しておくこと。
 第1回から第3回：レジュメの作成、ディスカッションの準備
 第4回から第7回：分からない箇所を事前に調べて、理解しておく
 第7回から第9回：レジュメの作成、ディスカッションの準備
 第10回から第12回：必要な資料を集め、フィールド調査の準備を行っておく
 第13回から第15回：レジュメの作成、ディスカッションの準備

【事後学習】

授業内に学んだ内容についてふり返り、資料やノートにまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業内に講評する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施するプレゼンテーションと、到達目標への達成度に基づき、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
ただし、正当な理由のない5回以上の欠席者は評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内における発表、ディスカッションへの積極的な参加(30) レジュメ、スライド資料の完成度(20) 研究計画の実行過程(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	中間報告レポートの提出(30) 中間報告の発表(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト
テキストを使用しない
教材がある場合は、授業内に配布する

参考書
「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 ISBN 9784623039999
「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」ナツメ社 ISBN 9784816350573

履修条件・他の科目との関連
卒業要件必修科目です。「スポーツ心理学」の内容と関連しています。
授業を欠席した場合、授業内に直接配布された資料を研究室(5-1002)まで取りに行くこと。

授業コード	13077928	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナー専門分野である「スポーツビジネス」「スポーツマネジメント」観点から4年間の学習の集大成として研究を行なう。卒業研究論文作成に向け各自でテーマ選定を行なうがあくまで専門分野の内容に沿ったものとする。さらに現場での経験を積み卒業後に活かすため引き続き現場実習への参加も行なっていく。

到達目標

1. 卒業研究を通して、解決すべき問題を発見する方法を実践することができる。
2. 卒業研究を通して、課題解決に必要な調査や分析を行なうことができる。
3. Wordを用いて調査や分析結果を中間論文としてまとめることができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：年間計画・予定確認、卒業研究について
- 【第2回】 研究内容の設定1：先行事例の情報収集
- 【第3回】 研究内容の設定2：先行事例の情報収集
- 【第4回】 研究内容の設定3：先行事例の情報収集
- 【第5回】 研究内容の設定4：先行事例の情報収集
- 【第6回】 中間発表会抄録の作成1：中間発表会抄録を作成する
- 【第7回】 中間発表会抄録の作成2：中間発表会抄録を作成する
- 【第8回】 中間発表会抄録の作成3：中間発表会抄録を作成する
- 【第9回】 中間発表会抄録の作成4：中間発表会抄録を作成する
- 【第10回】 中間発表会抄録の作成5：中間発表会抄録を作成する
- 【第11回】 中間発表会抄録の作成6：中間発表会抄録を作成する
- 【第12回】 中間発表会抄録の作成7：中間発表会抄録を作成する
- 【第13回】 中間発表会抄録の作成8：中間発表会抄録を作成する
- 【第14回】 中間発表会抄録の作成9：中間発表会抄録を作成する
- 【第15回】 前期のまとめ：前期の振り返りと後期の活動計画の立案を行なう

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する
 - 【事後】 オリエンテーション説明内容にもとづき授業内ルールや方針などを理解し次回以降に向けてノートを準備する
- 第2回
 - 【事前】 新聞、ニュースなどから情報収集を行なっておく
 - 【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第3回
 - 【事前】 新聞、ニュースなどから情報収集を行なっておく
 - 【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第4回
 - 【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 - 【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第5回
 - 【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 - 【事後】 次週からの課題に対して情報収集を行なう
- 第6回
 - 【事前】 新聞、ニュースなどから情報収集を行なっておく
 - 【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第7回
 - 【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 - 【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第8回
 - 【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 - 【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第9回
 - 【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 - 【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第10回
 - 【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

第11回

【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

第12回

【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

第13回

【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

第14回

【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

第15回

【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

【事後】第14回までの振り返りを行ない、後期の活動計画を遂行できるようノートの再加筆を行なう

課題に対するフィードバックの方法

課題作成をすすめながら指摘やアドバイスを適宜行なう。セミナー以外での時間も必要であれば活用していく。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の提示課題に対する内容の達成度、習熟度を総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題の達成度、習熟度	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	中間論文の提出	3
その他	20	課題作成に対する取り組む姿勢	1, 2

テキスト テキストは使用せずプリントなど資料を適宜配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 授業以外での時間で新聞や書籍、先行研究などに出来るだけ多く目を通して情報収集を常に行っていくという姿勢が望ましい。
テーマを決めてそれを追究する探究心を持つことを期待する。

授業コード	13077929	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フィットネス業界・健康スポーツ産業への就職に向けて、業界やトレーニング指導に関する最新の情報を説明する。また卒業研究の作成を通して、論理的思考や課題解決のプロセスを学ぶ。

到達目標

1. 社会人として必要な能力が身につけている（フィットネス業界、健康スポーツ産業への就職）
2. トレーニングの専門知識を習得している（トレーニング指導者資格の取得）
3. 卒業研究を通して、論理的思考および課題解決力を身につける

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：ガイダンス①
 内容：年間スケジュール、卒業研究について
- 【第2回】
 テーマ：ガイダンス②
 内容：キャリアガイダンス
- 【第3回】
 テーマ：ガイダンス③
 内容：ゼミの進め方、年間スケジュールの確認
- 【第4回】
 テーマ：研究テーマの設定（1）
 内容：先行研究等の情報収集と文献抄読
- 【第5回】
 テーマ：研究テーマの設定（2）
 内容：先行研究等の情報収集と文献抄読
- 【第6回】
 テーマ：各自の研究テーマに基づく測定・実験・調査（1）
 内容：測定・実験・調査の準備
- 【第7回】
 テーマ：各自の研究テーマに基づく測定・実験・調査（2）
 内容：測定・実験・調査の予行演習
- 【第8回】
 テーマ：各自の研究テーマに基づく測定・実験・調査（3）
 内容：測定・実験・調査の実施
- 【第9回】
 テーマ：各自の研究テーマに基づく測定・実験・調査（4）
 内容：データの集計
- 【第10回】
 テーマ：中間発表会準備（1）
 内容：発表会抄録の作成①
- 【第11回】
 テーマ：中間発表会準備（2）
 内容：発表会抄録の作成②
- 【第12回】
 テーマ：中間発表会準備（3）
 内容：発表会資料・原稿の作成①
- 【第13回】
 テーマ：中間発表会準備（4）
 内容：発表会資料・原稿の作成②
- 【第14回】
 テーマ：中間発表会準備（5）
 内容：発表練習
- 【第15回】
 テーマ：中間発表会
 内容：中間発表の実施

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 事前学修課題：シラバスを読み、内容を確認しておく

事後学修課題：年間スケジュール、卒業研究について確認する
【第2回】
事前学修課題：今までのキャリア関係の授業の復習をしておく
事後学修課題：今後の就職活動についてまとめる
【第3回】
事前学修課題：シラバスを読み、内容を確認しておく
事後学修課題：今後のゼミ活動や卒業研究についてまとめる
【第4回】
事前学修課題：興味のある内容の文献を収集する
事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
【第5回】
事前学修課題：興味のある内容の文献を収集する
事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
【第6回】
事前学修課題：測定・実験・調査方法の確認
事後学修課題：不明な点を明確にして、すべてクリアにする
【第7回】
事前学修課題：予備測定・実験・調査の準備
事後学修課題：改善点をまとめる
【第8回】
事前学修課題：本測定・実験・調査の準備
事後学修課題：反省点をまとめる
【第9回】
事前学修課題：測定・実験・調査データの確認
事後学修課題：まとめたデータを整理する
【第10回】
事前学修課題：発表の全体構成を考える
事後学修課題：発表会抄録の修正
【第11回】
事前学修課題：抄録の構成を考える
事後学修課題：発表会抄録の修正
【第12回】
事前学修課題：発表用スライドの構成を考える
事後学修課題：発表用スライドの修正
【第13回】
事前学修課題：発表用スライドの内容および発表原稿を考える
事後学修課題：発表用スライド、原稿の修正
【第14回】
事前学修課題：事前に発表練習を実施しておく
事後学修課題：指摘された箇所の修正
【第15回】
事前学修課題：発表練習をしておく
事後学修課題：アドバイスされた部分をまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての質問には適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない卒業研究論文の未提出および1/3以上の欠席は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	卒業研究論文(30)、卒業研究発表(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	40	卒業研究への取り組み(40)	1, 2, 3

テキスト	なし
参考書	必要に応じて適宜指示する
履修条件・他の科目との関連	フィットネス業界・健康スポーツ産業への就職を希望し、トレーニング指導者資格の取得を目指していることが望ましい。

授業コード	13077930	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業論文に向け、パラスポーツや各種運動・スポーツの動作に関連する課題について取り組む。
また、その過程で次の3つの事項を学ぶ。

- 1) 文献や論文を検索する方法
- 2) PCなどを用いてデータ収集および分析を行う方法
- 3) 自分が伝えたい内容を文字および口頭で簡潔かつ具体的に説明する方法

到達目標

- 1) 各種運動・スポーツに関する文献および論文の検索ができるようになる。
- 2) PCを用いたデータ収集と整理ができるようになる。
- 3) 自身が伝えたい内容について、文字および口頭で説明できるようになる。
- 4) 客観的に物事を考え、目標に向けて計画をたて、主体的に進める姿勢をみにつける。

授業計画

第1回：卒業研究の測定の計画・立案

自身の卒業研究の測定で何を行うのか発表する。自身の卒業研究の測定スケジュールや必要な道具を整理する。

事前学修：自身が行いたい卒業研究の情報を整理する。

事後学修：指摘された課題を整理し、再度計画を立案する。

第2回：卒業研究の測定の計画・立案

自身の卒業研究の測定で何を行うのか発表する。自身の卒業研究の測定スケジュールや必要な道具を整理する。

事前学修：自身が行いたい卒業研究の情報を整理する。

事後学修：指摘された課題を整理し、再度計画を立案する。

第3回：卒業研究の測定の計画・立案

自身の卒業研究の測定で何を行うのか発表する。自身の卒業研究の測定スケジュールや必要な道具を整理する。

事前学修：自身が行いたい卒業研究の情報を整理する。

事後学修：指摘された課題を整理し、再度計画を立案する。

第4回：卒業研究の測定の計画・立案

自身の卒業研究の測定で何を行うのか発表する。自身の卒業研究の測定スケジュールや必要な道具を整理する。

事前学修：自身が行いたい卒業研究の情報を整理する。

事後学修：指摘された課題を整理し、再度計画を立案する。

第5回：卒業研究の測定の計画・立案

自身の卒業研究の測定で何を行うのか発表する。自身の卒業研究の測定スケジュールや必要な道具を整理する。

事前学修：自身が行いたい卒業研究の情報を整理する。

事後学修：指摘された課題を整理し、再度計画を立案する。

第6回：卒業研究の測定の計画・立案

自身の卒業研究の測定で何を行うのか発表する。自身の卒業研究の測定スケジュールや必要な道具を整理する。

事前学修：自身が行いたい卒業研究の情報を整理する。

事後学修：指摘された課題を整理し、再度計画を立案する。

第7回：卒業研究の測定実施

ゼミの学生全員で卒業研究の測定を実施する。

事前学修：測定のスケジュールや必要な道具を把握しておく。

事後学修：測定したデータを整理、分析する。

第8回：卒業研究の測定実施

ゼミの学生全員で卒業研究の測定を実施する。

事前学修：測定のスケジュールや必要な道具を把握しておく。

事後学修：測定したデータを整理、分析する。

第9回：卒業研究の測定実施

ゼミの学生全員で卒業研究の測定を実施する。

事前学修：測定のスケジュールや必要な道具を把握しておく。
事後学修：測定したデータを整理、分析する。

第10回：卒業研究の測定実施

ゼミの学生全員で卒業研究の測定を実施する。
事前学修：測定のスケジュールや必要な道具を把握しておく。
事後学修：測定したデータを整理、分析する。

第11回：卒業研究の測定実施

ゼミの学生全員で卒業研究の測定を実施する。
事前学修：測定のスケジュールや必要な道具を把握しておく。
事後学修：測定したデータを整理、分析する。

第12回：卒業研究の測定実施

ゼミの学生全員で卒業研究の測定を実施する。
事前学修：測定のスケジュールや必要な道具を把握しておく。
事後学修：測定したデータを整理、分析する。

第13回：中間論文の作成

測定した内容をもとに、中間論文を作成する。
事前学修：測定したデータを分析する。
事後学修：文書を読み直し、加筆・修正を行う。

第14回：中間論文の作成

測定した内容をもとに、中間論文を作成する。
事前学修：測定したデータを分析する。
事後学修：文書を読み直し、加筆・修正を行う。

第15回：総括

卒業研究について、進捗状況を説明する。
事前学修：発表の準備をする。
事後学修：卒業論文作成に向けてのスケジュールを再度確認し、検討する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

本授業は主に発表形式で授業が展開されることから、事前事後の学修が必要になります。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業中または終了後、翌週に行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業時の課題(60)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	中間論文(30)	1, 2, 3, 4
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3, 4

テキスト

テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。

参考書

必要に応じて授業で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

授業態度が悪い場合は、退出を命ずることがあります。
授業を欠席した場合、担当教員に申し出て、配布資料を受け取ってください。

授業コード	13077931	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣa [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	4年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法, 指導方法について教育・研究します。具体的には, 競技スポーツ, 学校体育, ジュニアスポーツを対象としたコーチング(技術・体力・トレーニング・指導)が研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて, 文献精読, 体力・パワー測定, 動作解析, 観察的評価法, 生理学的手法, データ・統計分析, プレゼンテーションの基礎演習も行います。セミナーを通して, スポーツの意義や役割の理解, 分析や問題解決能力, 実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. 課題を的確に把握することができる。
2. 適切な方法を選び, 課題を解決することができる。
3. 自己の考えを他者に論理的に説明し, 他者と建設的に議論し, 新たな物事を創造しようとしている。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：卒業研究, 教育実習, 進路について確認をする。
- 【第2回】
テーマ：卒業研究のテーマ決定, 教育実習指導、進路指導
内容・方法：卒業研究のテーマ, 教育実習, 進路について確認をする。
- 【第3回】
テーマ：研究方法の設定(1), 教育実習指導, 進路指導
内容・方法：研究方法の設定(1), 教育実習, 進路について確認をする。
- 【第4回】
テーマ：研究方法の設定(2), 教育実習指導、進路指導
内容・方法：研究方法の設定(2), 教育実習指導、進路指導
- 【第5回】
テーマ：中間発表会抄録の作成(1), 教育実習指導, 進路指導
内容・方法：中間発表会抄録の作成(1), 教育実習, 進路について確認をする。
- 【第6回】
テーマ：中間発表会抄録の作成(2), 教育実習指導, 進路指導
内容・方法：中間発表会抄録の作成(2), 教育実習, 進路について確認をする。
- 【第7回】
テーマ：中間発表会抄録の作成(3), 教育実習指導、進路指導
内容・方法：中間発表会抄録の作成(3), 教育実習, 進路について確認をする。
- 【第8回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成(1)
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする(1)
- 【第9回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成(2)
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする(2)
- 【第10回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成(3)
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする(3)
- 【第11回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成(4)
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする(4)
- 【第12回】
テーマ：中間発表会用の原稿と資料の作成(5)
内容・方法：中間発表会用の原稿と資料の作成をする(5)
- 【第13回】
テーマ：中間発表会
内容・方法：中間発表をする
- 【第14回】
テーマ：中間発表会の報告(1)
内容・方法：中間発表会の報告をする(1), 進路について確認をする。
- 【第15回】
テーマ：中間発表会の報告(2)
内容・方法：中間発表会の報告をする(2), 進路について確認をする。
- 【第16回】
テーマ：中間発表会の報告(2)
内容・方法：中間発表会の報告をする(2), 進路について確認をする。
- 【第17回】

- テーマ：大学祭の準備（1）
 内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について決定をする。
 【第18回】
- テーマ：大学祭の準備（2）
 内容・方法：決定した大学祭の参加方法について詳細を詰める。
 【第19回】
- テーマ：卒業研究の準備と計画
 内容・方法：卒業研究についての計画書を作成する。
 【第20回】
- テーマ：卒業研究実験・調査（1）
 内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（1）
 【第21回】
- テーマ：卒業研究実験・調査（2）
 内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（2）
 【第22回】
- テーマ：卒業研究実験・調査（3）
 内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（3）
 【第23回】
- テーマ：実験・調査データの整理（1）
 内容・方法：実験・調査データの整理をする（1）
 【第24回】
- テーマ：実験・調査データの整理（2）
 内容・方法：実験・調査データの整理をする（2）
 【第25回】
- テーマ：実験・調査データの整理（3）
 内容・方法：実験・調査データの整理をする（3）
 【第26回】
- テーマ：卒業研究本文の作成（1）
 内容・方法：卒業研究本文の作成をする（1）
 【第27回】
- テーマ：卒業研究本文の作成（2）
 内容・方法：卒業研究本文の作成をする（2）
 【第28回】
- テーマ：卒業研究本文の作成（3）
 内容・方法：卒業研究本文の作成をする（3）
 【第29回】
- テーマ：卒業研究本文の作成（4）、抄録の作成（1）
 内容・方法：卒業研究本文の作成（4）、抄録の作成（1）をする。
 【第30回】
- テーマ：卒業研究本文の作成（5）、抄録の作成（2）
 内容・方法：卒業研究本文の作成（5）、抄録の作成（2）をする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

「各テーマにおいて、事前の準備と事後のまとめをノートすること。事前事後の学修時間に1時間は必要である。」

- 【第1回】
- ①事前学修課題：取得単位、進路についてまとめておくこと
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと
- 【第2回】
- ①事前学修課題：今までの授業内容から卒業研究のテーマを決めておくこと
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと
- 【第3回】
- ①事前学修課題：研究方法を整理しておくこと（1）
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと
- 【第4回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について研究方法をまとめておくこと（2）
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと
- 【第5回】
- ①事前学修課題：抄録を作成しておくこと（1）
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと
- 【第6回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について抄録を作成しておくこと（2）
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと
- 【第7回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について抄録を作成しておくこと（3）
 - ②事後学修課題：卒業研究、教育実習、進路について整理しておくこと
- 【第8回】
- ①事前学修課題：中間発表会用の原稿と資料を作成しておくこと（1）
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（1）
- 【第9回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（2）
 - ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（2）
- 【第10回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（3）

- ②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（3）
【第11回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（4）
②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（4）
【第12回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を作成しておくこと（5）
②事後学修課題：指導を受けた内容について原稿と資料を整理しておくこと（5）
【第13回】
- ①事前学修課題：発表の準備をする。
②事後学修課題：発表の質疑・応答を整理する。
【第14回】
- ①事前学修課題：中間発表の質疑についての対策を整理しておくこと（1）
②事後学修課題：卒業研究、進路について整理しておくこと。
【第15回】
- ①事前学修課題：中間発表の質疑についての対策を整理しておくこと（2）
②事後学修課題：卒業研究、進路について整理しておくこと。
【第16回】
- ①事前学修課題：参加する内容について原案を作成しまとめておくこと。
②事後学修課題：決定内容について具体的な実施案を作成しておくこと。
【第17回】
- ①事前学修課題：実施する具体案を整理しておくこと。
②事後学修課題：話し合った詳細な内容について、大学祭当日に問題が起きないようにまとめておくこと。
【第18回】
- ①事前学修課題：卒業研究の計画書を作成しておくこと。
②事後学修課題：指導を受けた内容について、計画書を見直すこと。
【第19回】
- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（1）
②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（1）
【第20回】
- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（2）
②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（2）
【第21回】
- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（3）
②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（3）
【第22回】
- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（1）
②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（1）
【第23回】
- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（2）
②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（2）
【第24回】
- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（3）
②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（3）
【第25回】
- ①事前学修課題：卒業研究本文を作成すること（1）
②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（1）
【第26回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（2）
②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（2）
【第27回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（3）
②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（3）
【第28回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（4）、抄録を作成すること（1）
②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（4）・抄録（1）を書き直すこと。
【第29回】
- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（5）、抄録を作成すること（2）
②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（5）・抄録（2）を書き直すこと。
【第30回】
- ①事前学修課題：卒業研究発表の準備をすること。
②事後学修課題：発表を通して出た課題を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・5回以上欠席した者は単位認定の対象外となる（遅刻2回で1回の欠席とする）。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において「2」以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	50	授業態度, 学修に取り組む姿勢.	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	適宜, 資料を配布する
------	-------------

参考書	授業の中で, 必要に応じて紹介する.
-----	--------------------

履修条件・他の科目との関連	保健体育科教員並びにスポーツ・運動指導者を目指す者.
---------------	----------------------------

授業コード	13078021	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	岸本 恵一				
シラバス執筆(主)	岸本 恵一				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは卒業研究の完成に向けて、各自の研究計画に基づき、研究構想および思考などを、より客観的かつ論理的にまとめていくことを中心に展開する。またプレゼンテーションおよびディスカッションを経て、より研究構想を深化させ、具現化してもらう。本セミナーを通して、事柄を多角的視点から客観的かつ論理的に考察し、自身の独創性も交えて具現化、かつ表現する能力を身につける。

到達目標

1. 自己の計画に基づいて卒業研究を完成させることで、遂行能力を高めることができる。
2. 自己の考えを客観的かつ論理的に具現化し、プレゼンテーションすることで、汎用性のある表現方法を身につけることができる。
3. スポーツ医科学に関する知識を深化させることができる。
4. 実践的技能を身につけることができる。

授業計画

- 1回 : 卒業研究構想に関する発表
- 2回 : 各自のテーマに基づく調査・研究 (4)
- 3回 : 各自のテーマに基づく調査・研究 (5)
- 4回 : 各自のテーマに基づく調査・研究 (6)
- 5回 : 卒業研究発表会の抄録作成 (1)
- 6回 : 卒業研究発表会の抄録作成 (2)
- 7回 : 卒業研究発表会のスライド作成 (1)
- 8回 : 卒業研究発表会のスライド作成 (2)
- 9回 : プレゼンテーションとディスカッションおよび修正 (1)
- 10回 : プレゼンテーションとディスカッションおよび修正 (2)
- 11回 : プレゼンテーションとディスカッションおよび修正 (3)
- 12回 : プレゼンテーションとディスカッションおよび修正 (4)
- 13回 : プレゼンテーションとディスカッションおよび修正 (5)
- 14回 : 卒業研究発表会の予演 (1)
- 15回 : 卒業研究発表会の予演 (2)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

活動内容などに関して、指示された参考書などをもとに事前に概要をまとめておく。また、事後には反省点・修正点をまとめ、次回授業時に改善されていることを求める。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に課した課題に対しては、その場または翌週以降で開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

卒業研究への取り組みと内容により評価する。
また提出物などは期限厳守とし、原則的に全授業への出席を求める。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	自己の研究内容に関する先行研究を精読し、論理的思考のもとにまとめられていること。 自己の研究内容を明快に発表できること。 プレゼンテーションに対する質疑に適切に回答できること。 上記を総合的に評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	自己の研究内容に関し、論理的思考のもとに完全に理解しており、明快に発表かつ文章化することができているかを評価する。	1, 2, 3, 4

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考書	必要に応じて適宜指示する。		
履修条件・他の科目との関連	<p>自身のテーマに基づいた研究・調査を実施し、成果物を完成させることができるよう、積極的な参加と自己運営を求めます。</p> <p>卒業研究の進捗状況に応じて、授業時間外や冬期休業中などに実験や論文・スライド作成などを実施する可能性があることを承知してください。</p> <p>学科で指定されている提出物を期限内に提出すること、及び成果発表会への出席は必須である。</p>		

授業コード	13078022	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 豊司				
シラバス執筆(主)	久保田 豊司				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「セミナーIII」の学修で得られた科学的知見を基礎にして、運動・スポーツ、体育の授業に関するテーマを設定し卒業研究とする。
また、自分自身でテーマを設定し、自らがそのテーマに沿って内容を深めていく中で問題解決能力も高めていく。

到達目標

セミナーⅣ・卒業研究を通して、実践的な行動力と対応力を身につけ、
1. 問題解決能力のスキルを獲得する、
2. 論理的思考のスキルを獲得する。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：中間発表会の振り返り
内容・方法：中間発表会の振り返りをする（2）進路について確認をする。
- 【第2回】
テーマ：大学祭の準備（1）
内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について決定をする。
- 【第3回】
テーマ：大学祭の準備（2）
内容・方法：決定した大学祭の参加方法について詳細を詰める。
- 【第4回】
テーマ：卒業研究の準備と計画
内容・方法：卒業研究についての計画書を作成する。
- 【第5回】
テーマ：卒業研究実験・調査（1）
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（1）。
- 【第6回】
テーマ：卒業研究実験・調査（2）
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（2）。
- 【第7回】
テーマ：卒業研究実験・調査（3）
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（3）。
- 【第8回】
テーマ：実験・調査データの整理（1）
内容・方法：実験・調査データの整理をする（1）。
- 【第9回】
テーマ：実験・調査データの整理（2）
内容・方法：実験・調査データの整理をする（2）。
- 【第10回】
テーマ：実験・調査データの整理（3）
内容・方法：実験・調査データの整理をする（3）。
- 【第11回】
テーマ：卒業研究本文の作成（1）
内容・方法：卒業研究本文の作成をする（1）。
- 【第12回】
テーマ：卒業研究本文の作成（2）
内容・方法：卒業研究本文の作成をする（2）。
- 【第13回】
テーマ：卒業研究本文の作成（3）
内容・方法：卒業研究本文の作成をする（3）。
- 【第14回】
テーマ：卒業研究本文の作成（4）、抄録の作成（1）
内容・方法：卒業研究本文の作成（4）、抄録の作成（1）をする。
- 【第15回】
テーマ：卒業研究本文の作成（5）、抄録の作成（2）
内容・方法：卒業研究本文の作成（5）、抄録の作成（2）をする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となります。各授業（2時間）に加えて、事前・事後学習4時間が求められます。

【第1回】

- ①事前学修課題：参加する内容について原案を作成しまとめておくこと。
- ②事後学修課題：決定内容について具体的な実施案を作成しておくこと。

【第2回】

- ①事前学修課題：実施する具体案を整理しておくこと。
- ②事後学修課題：話し合った詳細な内容について、大学祭当日に問題が起きないようにまとめておくこと。

【第3回】

- ①事前学修課題：卒業研究の計画書を作成しておくこと。
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、計画書を見直すこと。

【第4回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（1）。
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（1）。

【第5回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（2）。
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（2）。

【第6回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（3）。
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（3）。

【第7回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（1）。
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（1）。

【第8回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（2）。
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（2）。

【第9回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（3）。
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（3）。

【第10回】

- ①事前学修課題：卒業研究本文を作成すること（1）。
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（1）。

【第11回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（2）。
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（2）。

【第12回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（3）。
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（3）。

【第13回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（4）、抄録を作成すること（1）。
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（4）・抄録（1）を書き直すこと。

【第14回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（5）、抄録を作成すること（2）。
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（5）・抄録（2）を書き直すこと。

【第15回】

- ①事前学修課題：卒業研究発表の準備をすること。
- ②事後学修課題：発表を通して出た課題を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

事前事後学習の取組30%、レポート課題30%、定期試験に代わるレポート試験40%の評価である。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業参加に対する姿勢、課題に対する仲間との協働、そしてまとめ・発表の完成度を評価する(30)。	1, 2
授業外での評価	30	課題に対して、主体的な取り組みと内容を評価する(30)。	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート(課題レポートのまとめ:卒業研究含む:40)。	1, 2
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
------	-----------

参考書	実践！グッドコーチング(レベルアップ編)、660円
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出、授業の欠席半期5回は評価対象外とする。

授業コード	13078023	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	新村 由恵				
シラバス執筆(主)	新村 由恵				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

各自、「セミナーⅢ」において提出した卒業論文のテーマを基に研究計画を立て、卒業研究に取り組む。介入方法・調査方法の進め方、評価方法・データ整理・統計手法など、個々の進捗状況に応じて指導する。

到達目標

- 自身の卒業研究テーマの必要性・実施意義について文章で説明できる。
- 自身の卒業研究の方法について理解し、文章で説明できる。
- 自身の卒業研究で収集したデータの分析結果について理解し、文章で説明できる。
- 自身の卒業研究の結果について考察し、文章で説明できる。
- 自身の卒業研究で得られた結果をどのようにフィードバックすべきかを文章で説明できる。
- 自分の力で卒業研究論文を完成させる

授業計画

- 【第1回】
テーマ：データ入力（1）
内容・方法：健康支援教室で収集したデータをコンピューターに入力する。
- 【第2回】
テーマ：データ入力（2）
内容・方法：健康支援教室で収集したデータをコンピューターに入力する。
- 【第3回】
テーマ：結果返却資料作成
内容・方法：健康支援教室参加者に向けた介入結果の返却資料を作成する。
- 【第4回】
テーマ：健康支援教室結果説明会
内容・方法：健康支援教室参加者へ介入結果をフィードバックする。
- 【第5回】
テーマ：緒言作成（1）
内容・方法：卒業研究論文における緒言作成。
- 【第6回】
テーマ：緒言作成（2）
内容・方法：卒業研究論文における緒言作成。
- 【第7回】
テーマ：方法作成
内容・方法：卒業研究論文における方法の作成。
- 【第8回】
テーマ：結果作成（グラフ作成）
内容・方法：卒業研究論文における結果の作成。
- 【第9回】
テーマ：結果作成（統計処理：SPSS）
内容・方法：卒業研究論文における結果の作成。
- 【第10回】
テーマ：考察作成（1）
内容・方法：卒業研究論文における考察を作成。
- 【第11回】
テーマ：考察作成（2）
内容・方法：卒業研究論文における考察作成。
- 【第12回】
テーマ：結論、参考文献の作成
内容・方法：卒業研究論文における結論・参考文献の作成。
- 【第13回】
テーマ：卒表研究論文完成
内容・方法：卒業研究論文を完成させる。
- 【第14回】
テーマ：卒表研究論文抄録の完成
内容・方法：卒業研究論文抄録を完成させる。
- 【第15回】
テーマ：卒業研究論文PowerPoint完成
内容・方法：卒業研究論文PowerPointの作成

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

本授業は2単位科目であるため、合計90時間の学習が必要となります。各授業（2時間）に加えて、事前学習（2時間以上）、事後学習（2時間以上）を毎回各自で行ってください。

【第1回】

- ①事前学修課題：収集したデータの入力準備
- ②事後学修課題：データ入力にミスがないかの確認。

【第2回】

- ①事前学修課題：収集したデータの入力準備
- ②事後学修課題：データ入力にミスがないかの確認。

【第3回】

- ①事前学修課題：結果返却資料の準備
- ②事後学修課題：運動介入によって得られた結果を確認する。

【第4回】

- ①事前学修課題：結果説明会のタイムスケジュールの確認
- ②事後学修課題：結果説明会の反省会

【第5回】

- ①事前学修課題：先行研究を熟読し、諸言の流れを考えてくる。
- ②事後学修課題：本時で作成した緒言を確認する。

【第6回】

- ①事前学修課題：先行研究を熟読し、諸言の流れを考えてくる。
- ②事後学修課題：本時で作成した緒言を確認する。

【第7回】

- ①事前学修課題：方法の流れを考えてくる。
- ②事後学修課題：本時で作成した方法を確認する。

【第8回】

- ①事前学修課題：これまでに作成した結果を見直してくる。
- ②事後学修課題：本時で作成した結果を確認する。

【第9回】

- ①事前学修課題：これまでに作成した結果を見直してくる。
- ②事後学修課題：本時で作成した結果を確認する。

【第10回】

- ①事前学修課題：これまでに作成した考察を見直してくる。
- ②事後学修課題：本時で作成した考察を確認する。

【第11回】

- ①事前学修課題：これまでに作成した考察を見直してくる。
- ②事後学修課題：本時で作成した考察を確認する。

【第12回】

- ①事前学修課題：結論の流れを考えるとともに、参考文献をまとめる。
- ②事後学修課題：これまでに作成した結論・参考文献を見直してくる。

【第13回】

- ①事前学修課題：前の週までに仕上げた卒業研究論文を見直してくる。
- ②事後学修課題：本時で仕上げた卒業研究論文を見直す。

【第14回】

- ①事前学修課題：抄録の流れを考えてくる。
- ②事後学修課題：抄録を完成させる。

【第15回】

- ①事前学修課題：前の週に完成させた抄録を見直してくる。
- ②事後学修課題：PowerPointの確認を行うとともに完成させる。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対して口頭や文章（OJUメールやClassroom）で評価・コメントをフィードバックする。
必要に応じて授業時間外に面談を行う。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、欠席5回以上（遅刻3回で欠席1回と評価、も含む）の場合は、K評価（評価不能）とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	本授業はアクティブラーニングも取り入れるため、出席状況だけではなく、授業への取り組み姿勢も大きく評価に含める。 また、私的な言動により授業妨害を行い、他の学生の受講する権利を阻害する場合は減点対象とする。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	各回の課題提出状況および内容。 ※提出期限を守れない場合は減点対象とする。 授業時間外における卒業研究への取り組み。	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究論文・抄録・発表資料(PowerPoint)の提出状況とその内容。 ※上記評価資料は、本授業における非常に重要な課題であるため、未提出の場合はK評価(評価不能)とする。	1, 2, 3, 4, 5

		※卒業研究関連の課題は、最終試験もしくは最終レポート試験と同等の扱いをする。	
その他	0		
テキスト	プリント等、資料を配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルスの感染状況により、進め方や内容を一部変更する場合があります。その場合は随時連絡します。 2. 大学が定める新型コロナウイルス感染拡大防止のルールに反する行動をとり、他の学生が安心して受講する権利を阻害する場合は退室を指示する場合があります。 3. 私的な言動により授業妨害を行い、他の学生の受講する権利を阻害する場合は退室を指示する場合があります。 4. 必要に応じて、授業時間外に勉強会等を開催することがあります(卒業研究関連等)。 5. 必要に応じて、学外で実習を行う場合があります(ゼミ活動・卒業研究関連等)。 		

授業コード	13078024	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

論文執筆や報告書作成に向けて、ドラフトを作成し、校正作業を進め卒業研究を完成させることができるよう指導を行っていく。
また、完成した卒業研究の内容についてプレゼンテーションができるよう指導を行う。

到達目標

1. 問題設定に相応しい研究方法により、研究を進めることができる。
2. 既存の研究成果を参照しながら、オリジナリティある卒業論文または報告書を作成することができる。
3. 研究の成果について、わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。

授業計画

- 【第1回】論文または報告書ドラフトの骨子を再確認する
- 【第2回】論文または報告書ドラフトの構成を組み立てる
- 【第3回】論文または報告書ドラフトの本論部分を執筆する (1)
- 【第4回】論文または報告書ドラフトの本論部分を執筆する (2)
- 【第5回】論文または報告書ドラフトの本論部分を執筆する (3)
- 【第6回】論文または報告書ドラフトの終章を執筆する
- 【第7回】論文または報告書ドラフトの序章を執筆する
- 【第8回】本論部分の校正 (1)
- 【第9回】本論部分の校正 (2)
- 【第10回】本論部分の校正 (3)
- 【第11回】終章の校正
- 【第12回】序章の校正
- 【第13回】論文または報告書要旨の作成
- 【第14回】卒業研究発表会の準備
- 【第15回】卒業研究発表会リハーサル

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業テーマに即して、事前及び事後に作業を進めていくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、個別に指導及びフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業内における作業への取り組み状況(10) 事前事後学習への取組状況(10)	1, 2
授業外での評価	80	卒業論文(60) 卒業論文要旨集原稿(10) 卒業研究発表会プレゼンテーション(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	白井利明, 高橋一郎著 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房
履修条件・他の科目との関連	自らの興味関心に正直でありながら、他者に納得してもらえる研究成果を出すことを目指して取り組

履修条件・他の科目との関連

んてください。

授業コード	13078025	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	津吉 哲士				
シラバス執筆(主)	津吉 哲士				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本セミナーでは、スポーツ・運動に関連する「栄養」における問題点について、科学的根拠に基づいて分析評価する方法について理解する。それらの取り組みから導き出された結果に関する自身の考えを論理的に説明するための文章作成能力およびプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。授業では、卒業研究の活動を進めて論文を作成し、その内容をまとめて卒業研究発表会にて発表を行う。また、そのために必要となる応用的な知識および技能や研究の成果を適切に伝えるためのプレゼンテーション技法について学修する。

到達目標

1. 自身が関心を示す栄養に関する問題点について、論理的に説明することができる。
2. 研究方法についての適切な知識・技能を理解することができる。
3. 研究結果について、科学的根拠に基づいて考察することができる。
4. 研究成果について他者に分かりやすく発表することができる。
5. 他者と協働して、活動に取り組むことができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：セミナーⅣbにて取り組む内容や流れについて理解する。
内容：セミナーⅣbにて取り組む内容や流れについて理解する。
- 【第2回】 卒業研究論文の作成（1）
内容：卒業研究論文の緒言を作成する。
- 【第3回】 卒業研究論文の作成（2）
内容：卒業研究論文の緒言を作成する。
- 【第4回】 卒業研究論文の作成（3）
内容：卒業研究論文の研究手法を作成する。
- 【第5回】 卒業研究論文の作成（4）
内容：卒業研究論文の研究結果を作成する。
- 【第6回】 卒業研究論文の作成（5）
内容：卒業研究論文の研究結果を作成する。
- 【第7回】 卒業研究論文の作成（6）
内容：卒業研究論文の考察を作成する。
- 【第8回】 卒業研究論文の作成（7）
内容：卒業研究論文の考察を作成する。
- 【第9回】 卒業研究論文抄録の作成（1）
内容：卒業研究論文の抄録を作成する。
- 【第10回】 卒業研究論文抄録の作成（2）
内容：卒業研究論文の抄録を作成する。
- 【第11回】 卒業研究発表会に関する資料作成・発表準備（1）
内容：卒業研究発表会のスライド資料を作成する。
- 【第12回】 卒業研究発表会に関する資料作成・発表準備（2）
内容：卒業研究発表会のスライド資料を作成する。
- 【第13回】 卒業研究発表会に関する資料作成・発表準備（3）
内容：卒業研究発表会のスライド資料を作成する。
- 【第14回】 卒業研究発表予演会（1）
内容：卒業研究発表会の予演会を実施する。
- 【第15回】 卒業研究発表予演会（2）
内容：卒業研究発表会の予演会を実施する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学習：セミナーⅣaまでの進捗状況を確認し、セミナーⅣbにおける卒業研究論文の作成計画を立案するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の計画書を作成しておくこと。
- 【第2回】
事前学習：これまでに調べた先行研究を確認し、卒業研究論文の緒言を作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の緒言の作成を進めておくこと。
- 【第3回】
事前学習：緒言の作成における問題点や疑問点について整理し、卒業研究論文の緒言を完成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の緒言を完成させておくこと。

- 【第4回】
事前学習：これまでに実施した研究方法を確認し、卒業研究論文の研究方法を作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の研究方法を完成させておくこと。
- 【第5回】
事前学習：これまでの研究結果を確認し、卒業研究論文の研究結果を作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の研究結果の作成を進めておくこと。
- 【第6回】
事前学習：研究結果の作成における問題点や疑問点について整理し、卒業研究論文の研究結果を完成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の研究結果を完成させておくこと。
- 【第7回】
事前学習：これまでに作成した卒業研究論文を確認し、卒業研究論文の考察を作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の考察の作成を進めておくこと。
- 【第8回】
事前学習：考察の作成における問題点や疑問点について整理し、卒業研究論文の考察を完成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の考察を完成させておくこと。
- 【第9回】
事前学習：これまでに作成した卒業研究論文を確認し、卒業研究論文の抄録を作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の抄録の作成を進めておくこと。
- 【第10回】
事前学習：抄録の作成における問題点や疑問点について整理し、卒業研究論文の抄録を完成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究論文の抄録を完成させておくこと。
- 【第11回】
事前学習：完成した卒業研究論文を確認し、卒業研究発表会のスライド資料を作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究発表会のスライド資料の作成を進めておくこと。
- 【第12回】
事前学習：スライド資料の作成における問題点や疑問点について整理し、卒業研究発表会のスライド資料を作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究発表会のスライド資料の作成を進めておくこと。
- 【第13回】
事前学習：スライド資料の作成における問題点や疑問点について整理し、卒業研究発表会のスライド資料を完成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究発表会のスライド資料を完成させておくこと。
- 【第14回】
事前学習：完成したスライド資料を確認し、卒業研究発表会の予演会で発表する作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究発表会のスライド資料および発表内容の修正を行っておくこと。
- 【第15回】
事前学習：完成したスライド資料を確認し、卒業研究発表会の予演会で発表する作成するための準備をしておくこと。
事後学習：授業内容を振り返り、卒業研究発表会のスライド資料および発表内容の修正を行っておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しては、個人あるいはグループに向け、口頭やスライド資料等を用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・ 正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする。
- ・ 授業への遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- ・ 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。(公共交通機関の遅延等の場合を除く)
- ・ 遅刻や授業進行の妨げとなるような受講態度は減点の対象となることがある。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	中間報告書(20)、卒業論文(40)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	卒業研究発表	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	グループ活動への参加度	5

テキスト テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する予定。

参考書 必要に応じて紹介する。

履修条件・他の科目との関連

「スポーツと栄養」および「スポーツ栄養指導」を履修していることが望ましい。

授業コード	13078026	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	小倉 幸雄				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法、指導方法について教育・研究します。具体的には、競技スポーツ、学校体育、ジュニアスポーツを対象としたコーチング（技術・体力・トレーニング・指導）が研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて、文献精読、体力・パワー測定、動作解析、観察的評価法、生理学的手法、データ・統計分析、プレゼンテーションの基礎演習も行います。セミナーを通して、スポーツの意義や役割の理解、分析や問題解決能力、実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. スポーツ種目の特性について説明でき、実践指導に応用できる。
2. 体力や技術評価の分析方法を実践指導に応用できる。
3. 論文、抄録、スライドを作成し、口頭発表ができる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：中間発表会の報告（2）
内容・方法：中間発表会の報告をする（2）進路について確認をする。
- 【第2回】
テーマ：大学祭の準備（1）
内容・方法：大学祭の参加方法（模擬店・フリーマーケット等）について決定をする。
- 【第3回】
テーマ：大学祭の準備（2）
内容・方法：決定した大学祭の参加方法について詳細を詰める。
- 【第4回】
テーマ：卒業研究の準備と計画
内容・方法：卒業研究についての計画書を作成する。
- 【第5回】
テーマ：卒業研究実験・調査（1）
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（1）
- 【第6回】
テーマ：卒業研究実験・調査（2）
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（2）
- 【第7回】
テーマ：卒業研究実験・調査（3）
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う（3）
- 【第8回】
テーマ：実験・調査データの整理（1）
内容・方法：実験・調査データの整理をする（1）
- 【第9回】
テーマ：実験・調査データの整理（2）
内容・方法：実験・調査データの整理をする（2）
- 【第10回】
テーマ：実験・調査データの整理（3）
内容・方法：実験・調査データの整理をする（3）
- 【第11回】
テーマ：卒業研究本文の作成（1）
内容・方法：卒業研究本文の作成をする（1）
- 【第12回】
テーマ：卒業研究本文の作成（2）
内容・方法：卒業研究本文の作成をする（2）
- 【第13回】
テーマ：卒業研究本文の作成（3）
内容・方法：卒業研究本文の作成をする（3）
- 【第14回】
テーマ：卒業研究本文の作成（4）、抄録の作成（1）
内容・方法：卒業研究本文の作成（4）、抄録の作成（1）をする。
- 【第15回】
テーマ：卒業研究本文の作成（5）、抄録の作成（2）
内容・方法：卒業研究本文の作成（5）、抄録の作成（2）をする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

「各テーマにおいて、事前の準備と事後のまとめをノートすること。事前事後の学修時間に1時間は必要である。」

【第1回】

- ①事前学修課題：参加する内容について原案を作成しまとめておくこと
- ②事後学修課題：決定内容について具体的な実施案を作成しておくこと

【第2回】

- ①事前学修課題：実施する具体案を整理しておくこと。
- ②事後学修課題：話し合った詳細な内容について、大学祭当日に問題が起きないようにまとめておくこと

【第3回】

- ①事前学修課題：卒業研究の計画書を作成しておくこと
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、計画書を見直すこと

【第4回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（1）
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（1）

【第5回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（2）
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（2）

【第6回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（3）
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（3）

【第7回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（1）
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（1）

【第8回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（2）
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（2）

【第9回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（3）
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（3）

【第10回】

- ①事前学修課題：卒業研究本文を作成すること（1）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（1）

【第11回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（2）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（2）

【第12回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（3）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（3）

【第13回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（4）、抄録を作成すること（1）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（4）・抄録（1）を書き直すこと

【第214回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（5）、抄録を作成すること（2）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（5）・抄録（2）を書き直すこと

【第15回】

- ①事前学修課題：卒業研究発表の準備をすること
- ②事後学修課題：発表を通して出た課題を整理すること

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- 1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず、「K」評価とする。
- 2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。
- 3) タームペーパー未提出者は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	取り組み姿勢(50), リフレクションノート(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	文献や発表原稿の作成(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	タームペーパー	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	授業の中で、必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	レポートの未提出，授業の欠席5回以上は評価対象外とする。

授業コード	13078027	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日常生活の中で問題意識を持ち、文献や資料の調査を行い、自分の考えを他者に分かりやすく伝えること（レポートやプレゼンテーション）に重点をおいた授業です。
 前半では、卒業研究の研究計画に沿って、フィールド調査の準備と調査を実施します。前期に教育実習が控えている場合は、研究計画に組み込み、スケジュールを作成する必要があります。後半では、その成果と考察をゼミで発表し、全員で議論することで、さらに理解を深めていきます。この授業の目的は、計画や準備、そして研究論文の文章表現について学ぶことです。
 授業は教員による解説と学生による発表を組み合わせたものです。配布資料は、基本的にデータでGoogleクラスルームより配信します。授業内に直接配布する場合があります。事前学習では、レジュメの作成や実技課題のリハーサルなどの準備を行っておくこと。事後学習では、教員からのフィードバックを元にふり返りを行うなど、主体的に取り組むことが必要です。

到達目標

1. 研究計画を立案し、実践することができる
2. 他者の意見に対して、自分の意見を述べるすることができる
3. 適切な情報収集ができる
4. 他者と協力して行動することができる
5. 研究の成果を論文形式で執筆し、プレゼンテーションすることができる

授業計画

- 【第1回】ガイダンス
 内容：履修登録の確認、およびスケジュールの確認
- 【第2回】研究テーマおよび目的、仮説を設定する
 内容：研究領域を決め、研究の骨組みをつくる
- 【第3回】研究テーマ、仮説を発表する
 内容：プレゼンテーションに対して、質疑応答を行い、内容を深める
- 【第4回】背景、目的、仮説、方法を執筆する
 内容：発表した内容を文章にする
- 【第5回】情報を集める
 内容：図書館やインターネットを利用し、根拠となる情報を収集する
- 【第6回】集めた情報を引用して執筆する
 内容：第4回で作成した文章に書き加える
- 【第7回】執筆した文章を推敲する
 内容：他者の文章を添削し、自分の文章を推敲する
- 【第8回】研究計画の進捗状況を発表する（1）前半
 内容：研究計画をプレゼンテーションし、意見交換を行う
- 【第9回】研究計画の進捗状況を発表する（2）後半
 内容：研究計画をプレゼンテーションし、意見交換を行う
- 【第10回】フィールド調査の準備（1）妥当性と信頼性
 内容：テーマに沿ったものになっているかを確認する
- 【第11回】フィールド調査の準備（2）調査用紙作成
 内容：調査用紙をパソコンを使って作成する
- 【第12回】フィールド調査の準備（3）プレテスト
 内容：作成した調査用紙についてセミナー内で確認する
- 【第13回】取組み成果を発表する（1）前半
 内容：5分程度にまとめ、履修者の2分の1が発表し質疑応答を行う
- 【第14回】取組み成果を発表する（2）後半
 内容：5分程度にまとめ、履修者の2分の1が発表し質疑応答を行う
- 【第15回】報告会
 内容：レジュメを作成し、発表する。（3年生はコメンテーターとして参加）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

- 下記について事前に予習しておくこと。
- 第1回から第3回：レジュメの作成、ディスカッションの準備
- 第4回から第7回：分からない箇所を事前に調べて、理解しておく
- 第7回から第9回：レジュメの作成、ディスカッションの準備
- 第10回から第12回：必要な資料を集め、フィールド調査の準備を行っておく
- 第13回から第15回：レジュメの作成、ディスカッションの準備

【事後学習】
授業内に学んだ内容についてふり返り、資料やノートにまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業内に講評する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施するプレゼンテーションと、到達目標への達成度に基づき、総合的に判定したうえで60点以上を合格とし所定の単位を認定します。
ただし、正当な理由のない5回以上の欠席者は評価対象とせず「K」評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内における発表、ディスカッションへの積極的な参加(20) レジュメ、スライド資料の完成度(20) 研究計画の実行過程(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究本文の仕上がり程度(25) 卒業研究の発表(25)	4, 5
その他	0		

テキスト
テキストを使用しない
教材がある場合は、授業内に配布する

参考書
「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 3,080円 ISBN 9784623039999
「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」ナツメ社 1,210円 ISBN 9784816350573

履修条件・他の科目との関連
卒業要件必修科目です。「スポーツ心理学」の内容と関連しています。
授業を欠席した場合、授業内に直接配布された資料を研究室(5-1002)まで受取りに行くこと。

授業コード	13078028	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	堀込 孝二				
シラバス執筆(主)	堀込 孝二				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

セミナー専門分野である「スポーツビジネス」「スポーツマネジメント」の観点から4年間の学習の集大成として研究を行なう。卒業研究論文作成に向けてテーマ選定を行なうがあくまで専門分野の内容に沿ったものとする。1月下旬に予定されている卒業研究発表会での発表を最終目標とする。

到達目標

1. 卒業研究を通して、解決すべき問題を発見する方法を実践することができる。
2. 卒業研究を通して、課題解決に必要な調査や分析を行なうことができる。
3. PowerPointを用いて調査や分析結果をまとめ発表することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：後期の計画・予定確認、卒業研究について
- 【第2回】 卒業論文の作成1：卒業論文を作成する
- 【第3回】 卒業論文の作成2：卒業論文を作成する
- 【第4回】 卒業論文の作成3：卒業論文を作成する
- 【第5回】 卒業論文の作成4：卒業論文を作成する
- 【第6回】 卒業論文の作成5：卒業論文を作成する
- 【第7回】 卒業論文の作成6：卒業論文を作成する
- 【第8回】 卒業論文の作成7：卒業論文を完成させる
- 【第9回】 抄録の作成1：抄録を作成する
- 【第10回】 抄録の作成2：抄録を作成する
- 【第11回】 抄録の作成3：抄録を作成する
- 【第12回】 卒業研究発表資料の作成1：卒業研究発表会用のPowerPointを作成する
- 【第13回】 卒業研究発表資料の作成2：卒業研究発表会用のPowerPointを作成する
- 【第14回】 卒業研究発表資料の作成3：卒業研究発表会用のPowerPointを作成する
- 【第15回】 卒業研究発表資料の作成4：卒業研究発表会のリハーサルを行なう

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する
【事後】 オリエンテーション説明内容にもとづき授業内ルールや方針などを理解し次回以降に向けてノートを準備する
- 第2回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第3回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第4回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第5回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第6回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第7回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第8回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第9回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
【事後】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
- 第10回
【事前】 授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく

【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 第11回
 【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 第12回
 【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 第13回
 【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 第14回
 【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 【事後】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 第15回
 【事前】授業内で不足している準備を検討し出来ることは進めておく
 【事後】卒業研究発表会に向けて最終準備を行なっておく

課題に対するフィードバックの方法

課題作成をすすめながら指摘やアドバイスを適宜行なう。セミナー以外での時間も必要であれば活用していく。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の提示課題に対する内容の達成度、習熟度を総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題の達成度、習熟度	2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	卒業研究発表会での発表	1, 2, 3
その他	20	課題作成に対する取り組む姿勢	1

テキスト テキストは使用せずプリントなど資料を適宜配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 授業以外での時間で新聞や書籍、先行研究などに出来るだけ多く目を通して情報収集を常に行っていくという姿勢が望ましい。
 テーマを決めてそれを追究する探究心を持つことを期待する。

授業コード	13078029	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	田中 淳				
シラバス執筆(主)	田中 淳				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

フィットネス業界・健康スポーツ産業への就職に向けて、業界やトレーニング指導に関する最新の情報を説明する。また卒業研究の作成を通して、論理的思考や課題解決のプロセスを学ぶ。

到達目標

1. 社会人として必要な能力が身につけている（フィットネス業界、健康スポーツ産業への就職）
2. トレーニングの専門知識を習得している（トレーニング指導者資格の取得）
3. 卒業研究を通して、論理的思考および課題解決力を身につける

授業計画

- 【第1回】
テーマ：各自の研究に基づく測定・実験・調査（5）
内容：データの分析
- 【第2回】
テーマ：各自の研究に基づく測定・実験・調査（6）
内容：データの統計処理
- 【第3回】
テーマ：各自の研究に基づく測定・実験・調査（7）
内容：表・グラフの検討
- 【第4回】
テーマ：卒業研究論文執筆（1）
内容：目的および方法①
- 【第5回】
テーマ：卒業研究論文執筆（2）
内容：目的および方法②
- 【第6回】
テーマ：卒業研究論文執筆（3）
内容：結果と考察①
- 【第7回】
テーマ：卒業研究論文執筆（4）
内容：結果と考察②
- 【第8回】
テーマ：卒業研究論文執筆（5）
内容：結果と考察③
- 【第9回】
テーマ：卒業研究論文執筆（6）
内容：緒言
- 【第10回】
テーマ：卒業研究論文執筆（7）
内容：結論、参考文献
- 【第11回】
テーマ：卒業研究論文執筆（8）
内容：全体構成の確認①
- 【第12回】
テーマ：卒業研究論文執筆（9）
内容：全体構成の確認②
- 【第13回】
テーマ：卒業研究論文最終確認・提出
内容：卒業論文の完成
- 【第14回】
テーマ：卒業研究発表会準備（1）
内容：抄録の作成
- 【第15回】
テーマ：卒業研究発表会準備（2）
内容：プレゼン用スライドの作成

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学修課題：データの分析方法について調べる

事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
 【第2回】
 事前学修課題：統計処理の方法について調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
 【第3回】
 事前学修課題：図表の作成方法について調べる
 事後学修課題：授業で実施した内容を復習する
 【第4回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第5回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第6回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第7回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第8回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第9回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第10回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第11回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第12回】
 事前学修課題：先行研究や文献、資料を調べる
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第13回】
 事前学修課題：卒業論文の全体を確認する
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第14回】
 事前学修課題：発表会抄録を準備する
 事後学修課題：アドバイスされて部分を修正する
 【第15回】
 事前学修課題：発表用スライドおよび原稿の準備
 事後学修課題：アドバイスされた部分を修正する

課題に対するフィードバックの方法

課題に対しての質問には適宜フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のない卒業研究論文の未提出（発表会の欠席も含む）および1/3以上の欠席は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	卒業研究論文(30)、卒業研究発表(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	40	卒業研究への取り組み(40)	1, 2, 3

テキスト なし

参考書 必要に応じて適宜指示する

履修条件・他の科目との関連 フィットネス業界・健康スポーツ産業への就職を希望し、トレーニング指導者資格の取得を目指していることが望ましい。

授業コード	13078030	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷川 哲朗				
シラバス執筆(主)	谷川 哲朗				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

卒業論文に向け、障がい者スポーツや各種運動・スポーツの動作に関連する課題について取り組む。
また、その過程で次の3つの事項を学ぶ。

- 1) 文献や論文を検索する方法
- 2) PCなどを用いてデータ収集および分析を行う方法
- 3) 自分が伝えたい内容を文字および口頭で簡潔かつ具体的に説明する方法

到達目標

- 1) 各種運動・スポーツに関する文献および論文の検索ができるようになる。
- 2) PCを用いたデータ収集と整理ができるようになる。
- 3) 自身が伝えたい内容について、文字および口頭で説明できるようになる。
- 4) 客観的に物事を考え、目標に向けて計画をたて、主体的に進める姿勢を身につける。

授業計画

【第1回】中間論文の加筆・修正
中間論文の添削を受け、加筆修正を行う。

【第2回】中間論文の加筆・修正
中間論文の添削を受け、加筆修正を行う。

【第3回】卒業研究のスケジュール調整
他の教員からのコメントを確認し、卒業研究の追加調査・追加測定、再分析を検討し、スケジュールを調整する。

【第4回】追加調査・追加測定、再分析の実施
卒業研究の追加調査・追加測定、再分析を実施する。

【第5回】卒業論文の執筆作業
卒業論文の執筆作業を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第6回】卒業論文の執筆作業
卒業論文の執筆作業を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第7回】卒業論文の執筆作業
卒業論文の執筆作業を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第8回】卒業論文の執筆作業
卒業論文の執筆作業を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第9回】卒業論文の執筆作業
卒業論文の執筆作業を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第10回】卒業論文の執筆作業 / 卒業論文の提出
卒業論文の執筆作業を行う。卒業論文を提出する。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第11回】抄録の執筆作業
抄録の執筆作業を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第12回】抄録の執筆作業
抄録の執筆作業を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第13回】抄録の執筆作業 / 抄録の提出
抄録の執筆作業を行う。抄録を提出する。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第14回】卒業研究発表会の発表資料の作成 / 発表練習

卒業研究発表会の発表資料の作成を行う。また、発表練習を行う。
現在の進捗状況を報告し、次の授業までに実施する内容を報告する。

【第15回】セミナー内発表会

ゼミ内で卒業研究の発表を行う。
卒業研究発表会に向けて、発表資料を加筆・修正する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

本授業は主に発表形式で授業が展開されることから、事前事後の学修が必要になる。

事前の学修：これまでの研究の進捗状況をA4用紙1枚にまとめる。

事後の学修：指摘された内容をうけ、作成した研究の進捗状況の用紙に加筆・修正を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業中または終了後、翌週に行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記に示す評価方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1) 正当な理由がなく、5回以上の欠席は評価の対象とせず「K」評価とする。

2) 授業の遅刻および早退は1/3欠席として扱う。

3) レポート未提出者は、評価の対象とせず「K」評価とする。

*やむをえない事情がある場合には、事前の連絡・報告・相談する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	抄録(30)、卒業論文(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	卒業研究発表(30)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	授業に関する質問・発言(5)、取り組み姿勢(5)等	1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用せず、プリント(資料)を配布する。
------	--------------------------

参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	授業態度が悪い場合は、退出を命ずることがあります。 授業を欠席した場合、担当教員に申し出て、配布資料を受け取ってください。 バラスポーツ指導や測定の方法を学ぶため、学外授業を実施する場合があります。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	13078031	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅣb [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	4年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツの種目特性や実践方法, 指導方法について教育・研究します。具体的には, 競技スポーツ, 学校体育, ジュニアスポーツを対象としたコーチング(技術・体力・トレーニング・指導)が研究テーマです。セミナーⅣの卒業研究に向けて, 文献精読, 体力・パワー測定, 動作解析, 観察的評価法, 生理学的手法, データ・統計分析, プレゼンテーションの基礎演習も行います。セミナーを通して, スポーツの意義や役割の理解, 分析や問題解決能力, 実践力の基礎が身につきます。

到達目標

1. 課題を的確に把握することができる。
2. 適切な方法を選び, 課題を解決することができる。
3. 自己の考えを他者に論理的に説明し, 他者と建設的に議論し, 新たな物事を創造しようとしている。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：中間発表会の報告(2)
内容・方法：中間発表会の報告をする(2) 進路について確認をする。
- 【第2回】
テーマ：大学祭の準備(1)
内容・方法：大学祭の参加方法(模擬店・フリーマーケット等)について決定をする。
- 【第3回】
テーマ：大学祭の準備(2)
内容・方法：決定した大学祭の参加方法について詳細を詰める。
- 【第4回】
テーマ：卒業研究の準備と計画
内容・方法：卒業研究についての計画書を作成する。
- 【第5回】
テーマ：卒業研究実験・調査(1)
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う(1)
- 【第6回】
テーマ：卒業研究実験・調査(2)
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う(2)
- 【第7回】
テーマ：卒業研究実験・調査(3)
内容・方法：卒業研究の実験・調査を行う(3)
- 【第8回】
テーマ：実験・調査データの整理(1)
内容・方法：実験・調査データの整理をする(1)
- 【第9回】
テーマ：実験・調査データの整理(2)
内容・方法：実験・調査データの整理をする(2)
- 【第10回】
テーマ：実験・調査データの整理(3)
内容・方法：実験・調査データの整理をする(3)
- 【第11回】
テーマ：卒業研究本文の作成(1)
内容・方法：卒業研究本文の作成をする(1)
- 【第12回】
テーマ：卒業研究本文の作成(2)
内容・方法：卒業研究本文の作成をする(2)
- 【第13回】
テーマ：卒業研究本文の作成(3)
内容・方法：卒業研究本文の作成をする(3)
- 【第14回】
テーマ：卒業研究本文の作成(4), 抄録の作成(1)
内容・方法：卒業研究本文の作成(4), 抄録の作成(1)をする。
- 【第15回】
テーマ：卒業研究本文の作成(5), 抄録の作成(2)
内容・方法：卒業研究本文の作成(5), 抄録の作成(2)をする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

「各テーマにおいて、事前の準備と事後のまとめをノートすること。事前事後の学修時間に1時間は必要である。」

【第1回】

- ①事前学修課題：参加する内容について原案を作成しまとめておくこと
- ②事後学修課題：決定内容について具体的な実施案を作成しておくこと

【第2回】

- ①事前学修課題：実施する具体案を整理しておくこと。
- ②事後学修課題：話し合った詳細な内容について、大学祭当日に問題が起きないようにまとめておくこと

【第3回】

- ①事前学修課題：卒業研究の計画書を作成しておくこと
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、計画書を見直すこと

【第4回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（1）
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（1）

【第5回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（2）
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（2）

【第6回】

- ①事前学修課題：実験・調査を実施する（3）
- ②事後学修課題：実験・調査の問題点を整理する（3）

【第7回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（1）
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（1）

【第8回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（2）
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（2）

【第9回】

- ①事前学修課題：実験・調査データをまとめる（3）
- ②事後学修課題：実験・調査データの問題点を整理する（3）

【第10回】

- ①事前学修課題：卒業研究本文を作成すること（1）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（1）

【第11回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（2）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（2）

【第12回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（3）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文を書き直すこと（3）

【第13回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（4）、抄録を作成すること（1）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（4）・抄録（1）を書き直すこと。

【第214回】

- ①事前学修課題：指導を受けた内容を踏まえて、卒業研究本文を作成すること（5）、抄録を作成すること（2）
- ②事後学修課題：指導を受けた内容について、本文（5）・抄録（2）を書き直すこと

【第15回】

- ①事前学修課題：卒業研究発表の準備をすること
- ②事後学修課題：発表を通して出た課題を整理すること

課題に対するフィードバックの方法

取り組んだ課題に対しては、テーマ・内容を討論し今後の展開までの整理を授業内で確認をします。そうすることで、PDCAサイクルの考え方を理解し社会に役立つ力を向上させます。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・5回以上欠席した者は単位認定の対象外となる（遅刻2回で1回の欠席とする）。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において「2」以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業態度, 学修に取り組む姿勢.	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	適宜, 資料を配布する
参考書	授業の中で, 必要に応じて紹介します。

履修条件・他の科目との関連

保健体育科教員並びにスポーツ・運動指導者を旨する者.

授業コード	15001401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教職概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	川村 光				
シラバス執筆(主)	川村 光				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

【目的】

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について講義とともにアクティブラーニングなどを通して主体的に身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

【概要】

- 本講義では、教職のあり方や教師像を形成した歴史的・社会的背景を広く概観して理解する。
- 専門職としての教職の意義や教師の役割を理解する。

到達目標

- ①我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を説明できる。
- ②教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を説明できる。
- ③教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を説明できる。
- ④学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できる。

授業計画

【第1回】授業オリエンテーション

【第2回】日本の教職観の変遷 … 教科書pp. 33-53

・教職観の歴史と今日教師に求められる役割を学ぶ。

【第3回】教員養成の歴史と現状 … 教科書pp. 54-72

・教師と教員養成の歴史について学ぶ。

【第4回】講義：教職の意義（1）

・野生児の事例の検討を通して、教職の意義を考える。

【第5回】教職の意義（2）

・ポノボの事例の検討を通して、教職の意義を考える。

【第6回】教職の意義（3） … 教科書pp. 27-31

・4回目と5回目の講義内容と社会化理論を関連づけて、教職の意義を考える。

【第7回】教師の役割と仕事 … 教科書pp. 91-113

・教師の職務内容とその特徴（他職業との比較）、勤務実態について学ぶ。

【第8回】管理職・主任の役割とチーム学校 … 教科書pp. 114-130

・管理職・主任の役割の概要と、チーム学校運営とそれへの対応について学ぶ。

【第9回】講義：メディアと教師 … 教科書pp. 43-53

・メディアによって形成される教師像について考える。

【第10回】教員の任用と服務 … 教科書pp. 73-90

・教員の任用と服務の概要について学ぶ。

【第11回】教師の力量形成 … 教科書pp. 153-172

・教師の資質向上と研修について学ぶ。

【第12回】養成段階から初任期への移行 … 教科書pp. 164-172, pp. 192-230

・教職への進路選択と教員採用選考、新任教師の課題について理解する。

【第13回】教師の思考過程

・授業中の教師の思考過程について学ぶ。

【第14回】学校の機能と教師

・学校の機能という観点から教師が子どもに行っている教育について学ぶ。

【第15回】まとめ

・これまでの復習を行い、本科目の自身の学習到達度について理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間以外に各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また、事後には学んだ内容について復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後、希望者に点数と内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示すとおり、授業期間中に実施される課題と期末試験（レポート）の評価結果に基づき総合的に判定したうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・遅刻3回で1回欠席扱いとする。

- ・欠席5回超える場合は、資格喪失として扱う。（5回欠席と1回遅刻で資格喪失）
なお、2回目の授業からカウントする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	30	8回目の授業終了後に実施するレポート課題(30)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	70	全授業終了後に実施するレポート試験(70)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『教職概論 第6次改訂版』佐藤晴雄 著、学陽書房、2,400円(税別)、ISBN 978-4-313-61146-7
参考書	必要に応じて授業のなかで紹介する。
履修条件・他の科目との関連	講義中には確実にノートをとることが必要である。

授業コード	15003401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育原理 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらはどのように現れてきたのか。またこれまでの教育及び学校の営みはどのように捉えられ、変遷してきたのか。こうした問題関心のもと、前半は日本の学校教育の歴史について、後半は西洋における教育思想史について概説していく。

到達目標

1. 教育の基本的概念を用いながら、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係について説明できる。
2. 過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷について説明できる。
3. 教育に関する様々な思想や理念について、実際の教育及び学校教育に照らしつつ説明できる。

授業計画

- 第1回 教育とは何か：教育学の諸概念と教育の本質及び目標
 第2回 近世の教育：江戸時代の子どもと教育について学ぶ
 第3回 近代教育制度の誕生：学制について学ぶ
 第4回 公教育制度の確立：自由教育令と改正教育令について学ぶ
 第5回 大正期の教育：大正自由教育運動から子どもと教員の関係について考える
 第6回 戦時下の教育：国民学校と戦時下の子どもたちについて学ぶ
 第7回 教育の民主化：戦後の学校と子どもたちについて学ぶ
 第8回 高度経済成長期の教育：逆コース期及び高度経済成長期の教育について学ぶ
 第9回 現代社会における教育課題：臨時教育審議会以降の学校教育のあり方と家庭との関係について学ぶ
 第10回 古代の教育思想：ソクラテスの思想について学ぶ
 第11回 市民革命と教育思想：J・ロックの教育思想について学ぶ
 第12回 「子どもの発見」の系譜：ルソーの教育思想について学ぶ
 第13回 啓蒙主義と教育思想：カント、ペスタロッチの教育思想について学ぶ
 第14回 19世紀の教育思想：J・デューイの教育思想について学ぶ
 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

自らが中学と高等学校で受けてきた教育を振り返りながら、毎回の講義内容に関連する書籍を図書館で手にとつて見ること。また事後には、学んだ内容に関連する文献や資料についてリサーチすること。

課題に対するフィードバックの方法

最終レポートについては、希望があればフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく3回以上欠席した場合は、「k」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	リアクションペーパー	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	最終レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストを使用しない

参考書 『教育学の根本問題』奥川義尚ほか著、ミネルヴァ書房
『西洋教育思想史』山崎英則・徳本 達夫編著、ミネルヴァ書房

履修条件・他の科目との関連

本科目は教職関連科目であり、卒業要件単位数に算入することはできませんので注意して下さい。

授業コード	15004601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育心理学 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 昌子				
シラバス執筆(主)	中村 昌子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

教育を行う者は、児童生徒の心身の発達や学習の過程に関する心理学的な見方や考え方を理解した上で、児童生徒に関わる必要がある。本授業は、教育心理学の知見や考え方を学ぶことを通して、教育に携わる際に必要となる実践力を身につけることを目的としている。「教育心理学 I」では、「発達」「記憶と知能」を中心に、各発達段階における発達の様相及び記憶と知能の形態や概念を概説し、児童生徒に対する適切な指導・支援につなげる。授業の形態は、対面授業であり、講義及び演習を組み合わせで行う。グループでの活動など、積極的な参加が必要となる。

到達目標

- 1 「発達」に関する基礎的な事項を説明することができる。
- 2 乳幼児期から老年期に至る心身の発達の様相を通して、発達の観点から児童生徒の状況を判断できる。
- 3 記憶や知能に関する基礎的な事項を説明ことができ、教育実践に応用することができる。

授業計画

- 【第1回】 教育心理学とは、教育心理学とコアカリキュラム
- 【第2回】 教育心理学の歴史と研究法
- 【第3回】 発達の基礎①：発達の基本的法則、成熟説と環境説
- 【第4回】 発達の基礎②：発達段階、発達曲線と原始反射
- 【第5回】 ピアジェの認知発達理論と心の理論
- 【第6回】 愛着理論の基礎と展開
- 【第7回】 児童期・青年期の発達
- 【第8回】 児童期・青年期の発達における現代的課題
- 【第9回】 前半のまとめ
- 【第10回】 コールバーグの道徳性発達理論、道徳への心理学的アプローチ
- 【第11回】 レディネス観とヴィゴツキーの発達理論
- 【第12回】 記憶の基礎①：忘却・記憶のメカニズム
- 【第13回】 記憶の基礎②：記憶の種類と記憶方略
- 【第14回】 知能の基礎①：知能とは、知能理論
- 【第15回】 知能の基礎②：知能検査

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前】 毎回の授業で教育に関わる出来事を確認するので、最新の情報を調べておくこと。
- 【事後】 毎回の授業で課題を課すので、次回の授業までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内で実施する発表やグループワークについては、適時指導助言を行う。
- ・ワークシートは、確認後、次回の授業で返却する。
- ・各回の確認課題については、授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内及び授業外の課題、期末試験の結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	ワークシート(10回を予定)(30)	1, 2, 3
授業外での評価	40	中間課題(20)、各回の確認課題(20)	1, 2, 3
定期試験	30	全授業終了後に実施する期末試験(30)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せずプリントを配付する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・齋藤富由起・守谷賢二(編)『教育心理学の最前線』八千代出版 ・遠藤司(編)『新・教職課程シリーズ 教育心理学』一藝社
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育心理学Ⅱ」への連続科目である。本科目を履修後、「教育心理学Ⅱ」を受講することが望ましい。 ・教員免許取得の必修科目である。教員としての自覚を持ち、主体的に授業に取り組んでいただきたい。 ・欠席した場合、担当教員に欠席を連絡したうえで、資料を取りに来ること。

授業コード	15004701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育心理学Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 昌子				
シラバス執筆(主)	中村 昌子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

教育を行う者は、児童生徒の心身の発達や学習の過程に関する心理学的な見方や考え方を理解した上で、児童生徒に関わる必要がある。本授業は、教育心理学の知見や考え方を学ぶことを通して、教育に携わる際に必要となる実践力を身につけることを目的としている。「教育心理学Ⅱ」では、「教育心理学Ⅰ」を踏まえ、「学習」を中心に、児童生徒の主体的学習を支える考え方や動機付け、学習評価の在り方、学級集団づくりについて概説する。また、特別な支援を必要とする児童生徒や、災害時の児童生徒の理解と支援についても取り上げ、教育実践につなげる。

授業の形態は、対面授業であり、講義及び演習を組み合わせで行う。グループでの活動など、積極的な参加が必要となる。

到達目標

- 1 児童生徒の主体的学習に向けた動機づけ、学習集団、学習評価の在り方について説明できる。
- 2 教育心理学の考え方や知識に基づいて、指導の在り方について考え説明できる。
- 3 発達に課題のある児童生徒や、災害時の児童生徒への適切な指導・支援を考え説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 学習①：条件づけと学習理論
- 【第2回】 学習②：スキナーによるオペラント条件づけ
- 【第3回】 学習③：社会的学習理論
- 【第4回】 学習④：認知理論による学び・動機づけ
- 【第5回】 学習⑤：学習性無力感と原因帰属
- 【第6回】 教授学習過程①：学びの形式
- 【第7回】 教授学習過程②：個別学習
- 【第8回】 教授学習過程③：グループ学習
- 【第9回】 前半のまとめ
- 【第10回】 パーソナリティ①：パーソナリティとは・特性論・類型論
- 【第11回】 パーソナリティ②：パーソナリティ検査
- 【第12回】 教育評価：教育評価の意義・評価の時期と方法・絶対評価と相対評価・完全習得学習
- 【第13回】 学級集団①：集団と集団づくり・教師のリーダーシップ
- 【第14回】 学級集団②：学級経営のアセスメント
- 【第15回】 発達障がいと思春期に見られる精神疾患・災害時の児童生徒への支援

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前】 毎回の授業で教育に関わる出来事を確認するので、最新の情報を調べておくこと。
- 【事後】 毎回の授業で課題を課すので、次回の授業までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内で実施する発表やグループワークについては、適時指導助言を行う。
- ・ワークシートは、確認後、次回の授業で返却する。
- ・各回の確認課題については、授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内及び授業外の課題、期末試験の結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	ワークシート(10回を予定)(30)	1, 2, 3
授業外での評価	40	中間課題(20)、各回の確認課題(20)	1, 2, 3
定期試験	30	全授業終了後に実施する期末試験(30)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用せずプリントを配付する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・齋藤富由起・守谷賢二(編)『教育心理学の最前線』八千代出版 ・遠藤司(編)『新・教職課程シリーズ 教育心理学』一藝社
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育心理学Ⅰ」からの連続科目である。「教育心理学Ⅰ」を履修している前提で授業を行う。 ・教員免許取得の必修科目である。教員としての自覚を持ち、主体的に授業に取り組んでいただきたい。 ・欠席した場合、担当教員に欠席を連絡したうえで、資料を取りに来ること。

授業コード	15003501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育制度論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 武大				
シラバス執筆(主)	吉田 武大				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、現代の教育制度に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などがどのように関わっているのかを解説する。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を説明するとともに、教育制度の現状を批判的に捉えながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身に育成することも目的とする。なお、教育の事例や制度に対して受講者の意見を求めるなど、学生参加型の授業形式も必要に応じて取り入れる予定である。

到達目標

1. 教育法規や教育行政の動向といった教育制度に関する基本的な知識を説明することができる。
2. 日々の学校教育の営みが教育に関する法規などどのように関わっているのかを説明することができる。
3. 教育制度に関する具体的な改善・改革案を構想し、わかりやすく表現することができる。
4. 自らの学習をふりかえり、適切な改善を図ることができる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション（授業のねらい、成績評価、教育法-教育行政-学校教育という3層構造）
 第2回：懲戒・体罰、出席停止、ふりかえり
 第3回：いじめ、就学義務、ふりかえり
 第4回：児童虐待、特別支援教育、ふりかえり
 第5回：学校組織（校務分掌、チームとしての学校）、ふりかえり
 第6回：学校評価と情報公開、開かれた学校（学校運営協議会等）、ふりかえり
 第7回：教育課程、教科書、ふりかえり
 第8回：学校安全、学校事故、ふりかえり
 第9回：教員の服務（法令及び上司の職務上の命令に従う義務、信用失墜行為の禁止等）、ふりかえり
 第10回：分限処分、著作権、ふりかえり
 第11回：教育制度の基本原則（義務性、無償性、中立性等）、ふりかえり
 第12回：教育の市場化（学校選択制、学校の民営化）
 第13回：学校体系（学校体系の概要、日本における教育制度の歴史）
 第14回：教育行政制度（教育委員会、文部科学省）
 第15回：教育制度のまとめとふりかえり（これまでの学習内容の整理、アピールシートの作成）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学修が必要である。
 参考書を手掛かりとしながら各回に対応する内容を熟読し、概要を理解しておくこと。また事後には、法規などの教育制度に関わる基礎知識を整理するとともに、学んだ事例や論点に対する自身の見解を作成すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ふりかえりについて、次の授業回で全体共有や論点の提示等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、授業期間中に実施されるふりかえりとアピールシートと定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ふりかえり(3%×10回)、アピールシート10%	1, 2, 4
授業外での評価	0		
定期試験	60	授業終了後に実施する定期試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト

テキストはありません。毎回資料を配布します。

参考書	<ul style="list-style-type: none">・坂田仰、黒川雅子編『事例で学ぶ学校の法律問題』教育開発研究所、2014年(2200円【税込】、ISBN : 978-4873804477)・篠原清昭編『教育のための法学』ミネルヴァ書房、2013年(2800円＋税、ISBN : 9784623067480)・坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『教育の制度と経営』玉川大学出版部、2017年(2800円＋税、ISBN : 9784623067480)
履修条件・他の科目との関連	・あらかじめ「日本国憲法」を履修しておくことが望ましい。

授業コード	15005301	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	特別支援教育 [対面]				
シラバス執筆(全員)	益子 典子				
シラバス執筆(主)	益子 典子				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

近年、全国的に特別支援を必要とする子どもたちの数が増えています。その様な状況を踏まえ、全ての子どもたちの自立や社会参加を支援するという視点に立ち、特別支援教育に必要な基礎的・基本的事項について講義を進めます。実務家教員としての実際的な講義により、子どもの発達や特性の理解を基盤とし、特別支援教育に意欲的に取り組むことができる人材の養成を目指します。テーマによっては、グループワークも取り入れています。

到達目標

【知識・理解】

1. 特別支援教育にかかわる語句について説明することができる。
2. 特別支援教育の制度的変遷についてその社会的背景も含めて説明することができる。
3. 障害種ごとの一般的な知識や指導法に関して説明することができる。
4. 各技法やチーム支援、関係諸機関との連携による適切な支援方法を考えることができる。

【汎用的技能】

5. 障害を社会的障害として捉えることができる。(主従観の転換)
6. 障害を抱える子どもの支援についてアクティブに捉えることができる。(価値観の転換)
7. 障害を自分たちの問題として捉えることができる。(奉仕観の転換)

【態度・志向性】

8. 他者との協働的取組から多面的に学習し、判断や実行することができる。
9. 自分に解らないこと、納得できないことを表出し、そのような問いを追究することができる。
10. 何のために学ぶのかという学習の意義や目的を持ち続けながら学習し、実行に移すことができる。

授業計画

第1回 特別支援教育の概要

- 障害者権利条約と障害観の変遷
- 障害を抱える子どもの学びの場と教育課程
- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築

第2回 障害についての基礎知識（1）

- 知的障害
- 発達障害・情緒障害
- 肢体不自由障害

第3回 障害についての基礎知識（2）

- 視覚障害
- 聴覚障害
- 病弱・身体虚弱・重複障害

第4回 アセスメントと支援の計画

- アセスメントと心理検査
- 自立活動の指導
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成

第5回 支援の実際（1）

- 応用行動分析
- ソーシャルスキルトレーニング
- ポジティブ行動支援

第6回 支援の実際（2）

- 感覚統合
- 教材教具の作成と情報機器等の活用
- 授業の実際

第7回 保護者及び関係諸機関との連携

- 特別支援教育コーディネーターの役割と校内体制の構築
- 保護者及び医療福祉等関係諸機関との連携
- 学習上又は生活上の困難を抱える子どもの教育的ニーズ

第8回 キャリア教育の推進と進路支援

- 特別支援教育におけるキャリア発達支援
- 進路支援の実際
- 卒業後の生活

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

第1回 特別支援教育の概要

- 【事前】 授業のシラバスを熟読し、何を学ぶのかを理解する
- 【事後】 特別支援教育の制度について整理する

第2回	障害についての基礎知識(1)
【事前】	様々な障害について調べておく
【事後】	それぞれの障害の特性をまとめておく
第3回	障害についての基礎知識(2)
【事前】	様々な障害について調べておく
【事後】	それぞれの障害の特性をまとめておく
第4回	アセスメントと支援の計画
【事前】	様々な心理検査について調べておく
【事後】	自立活動の指導、個別の教育支援計画、個別の指導計画についてまとめておく
第5回	支援の実際(1)
【事前】	支援の方法を調べておく
【事後】	それぞれの支援方法を整理しておく
第6回	支援の実際(2)
【事前】	支援の方法を調べておく
【事後】	それぞれの支援方法、授業の実際について整理しておく
第7回	保護者及び関係諸機関との連携
【事前】	一生涯にわたる支援についてどのような関係機関があるか調べておく
【事後】	支援の引継の重要性についてまとめておく
第8回	キャリア教育の推進と進路指導
【事前】	キャリア教育について調べておく
【事後】	進路支援のあり方についてまとめておく

課題に対するフィードバックの方法

課題の内容について授業の中で解説を行います。希望者には個別に添削指導を行います。

成績評価の方法・基準(方針)

【平常課題(レポート課題を含む) 40%】

授業に関する発言・質問、事前事後学習への取り組み状況、レポート課題講義の振り返りを毎時間提出。 ※希望者には個別に添削指導を行います。

【期末レポート 60%】

期末レポートは学んだことを活かし、架空の事例に対して適切な支援「実態把握(30)・方法(30)」を組み立てられるかどうかを問います。

※ 以上を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

※ 正当な理由なく5回をこえて授業を欠席した場合は「K」評価とします。

※ 他の学生の学びに差し障りのある行為(講義に関係のない話をする、必要ない場面で携帯等をみる、体調が悪いわけでもないのに眠る等)に関しては、2度注意されて改善が見られない場合は、その授業について欠席扱いとします。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	[40%の内訳] 「授業に関する発言・質問」「事前事後学習への取り組み状況」(16%)、「レポート課題」(24%) ・講義のキーワードが含まれている(1点)、授業外学習で学んだこと、授業による気づきや考察が含まれている(2点)。8回のレポート×3点=24点(最高点)	1~10
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	期末レポート 実態把握(30)・方法(30)	1~10
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。 授業毎に適宜資料を配付します。
参考書	『はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために 改訂版』 柘植政義 渡辺匡高 二宮信一 著(有斐閣アルマ)
履修条件・他の科目との関連	「学んだことを他者に説明できる」レベルの内容理解を求めます。また、障害のある子どもの「困り感」に視点を置きながら学んでください。 欠席した場合には次回の授業で申し出て資料を受け取り自習し、レポートを提出すること。

授業コード	15003101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育課程論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	田邊 良祐				
シラバス執筆(主)	田邊 良祐				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、学校教育において、教育活動全体の計画たるカリキュラムや教育課程に関する歴史、理論及び実践に触れながら、教員として教育課程の編成に関する最低限必要な知識の獲得、及び実際のカリキュラム・教育課程の編成ができることを目的とする。
具体的には以下の目標を達成することを演習を交えて目指し、その知識技能の到達度を評価する。

到達目標

- 目標 1 カリキュラムと教育課程の違いを論理的に説明することができる。
 目標 2 カリキュラムの類型とそれぞれの特徴について説明することができる。
 目標 3 学校教育における学習指導要領や教科書の法的位置付け、教員の実践との関係性について説明することができる。
 目標 4 学習指導要領の変遷を、各年代の学習指導要領の特徴やキーワード等、それぞれの具体的な内容に触れながら説明することができる。
 目標 5 学習指導要領や学校関係法規、学校の物的・地理的資源を踏まえ学校における「カリキュラム」を編成することができる。

授業計画

本授業は、大きく3つの内容で構成する。

- ① 講義：カリキュラムに関する基本的な知識を獲得する
 カリキュラムに関する理論、学習指導要領の現在とその変遷、学習指導要領と教科用図書の関係など、教育課程編成に必要な基本的な理論・知識を学ぶ
 ② 分析：①で獲得した基本的な知識を基盤に、高い評価を得ている優れた学校実践・授業・教育活動から「カリキュラム」を分析する
 高い評価を得ている優れた学校実践・授業・教育活動をあらわした映像作品から、安彦の「カリキュラムの構成要素」を手掛かりにしながらカリキュラムを読み取り、なぜ、どこが具体的に優れているのか分析を行う。
 ③ 設計：①②を基盤として、学習指導要領や各種学校関係法令等を踏まえながら、グループ活動を通して自分の考える最良のカリキュラムを設計する
 理論・知識、実践を踏まえ、自身の考える「カリキュラム」の最適解を導く

- 第1回：ガイダンス、「教育課程論」の射程と学ぶ意義
 第2回：（講義）「教育課程」と「カリキュラム」
 第3回：（講義）学習指導要領と教育課程、学習指導要領と教科書
 第4回：（講義）「カリキュラム・マネジメント」の理解
 第5回：（講義）学習指導要領の変遷と今日の学校教育の課題
 第6回：（分析）事例：オランダのイエナプラン教育の実際
 第7回：（設計）学校教育目標と育成したい生徒像の設定
 第8回：（分析）事例：大阪府立西成高校の実践
 第9回：（設計）子どもの貧困及び特別な配慮が必要な生徒へのカリキュラムの設計
 第10回：（分析）事例：鹿島真弓の中等教育での実践
 第11回：（設計）学級経営計画の設計
 第12回：（分析）事例：田尻悟郎の中等教育での実践
 第13回：（設計）生徒指導・キャリア教育を視野に入れた学習活動計画（単元・学習指導案）の設計
 第14回：（分析）事例：井本陽久の中等教育・私塾での実践
 第15回：（設計）「生徒が前のめりで面白いと感じる」学習活動の設計

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回の授業に対して、授業学生は授業準備（予習）と振り返り（復習）をそれぞれ2時間程度行うことを求める。
 具体的に、授業内容の事前把握、授業資料の作成に2時間（予習）。授業で取り扱った理論や知識、受講学生からでたコメントに対する自身の考え等を整理することに2時間（復習）が必要。

課題に対するフィードバックの方法

チャトルカードのやり取りを通して、質問があれば返却時に回答する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定した上で、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	25	第7、9、11、13、15回の各授業時に作成する成果物(5点×5回)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	45	各授業回の学びの振り返りとカリキュラム・教育課程の編成に関する自身の教員としての今後の課題を記入するポートフォリオ(シャトルカード)の作成(3点×15回) なお、各項目フォーマットの5行分、約120文字以上を採点の対象とし、期日(授業日の翌日中)に遅れたものについては採点の対象としない。公欠については提出締め切りを1週間猶予する。	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業内容を踏まえた、カリキュラムの編成に関するレポートを課す。	3, 5
その他	0		

テキスト	平成29・30年度告示の学習指導要領及びその解説。これらはGoogleクラスルームを通じてデータで共有する。
------	--------------------------------------------------------

参考書	<p>授業に関する参考図書として以下のものを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根津朋実編著『MINERVAはじめて学ぶ教職 教育課程』ミネルヴァ書房、2019年 ・フレーク・フェルトハウス著、リヒテルズ直子訳『イェナプラン共に生きることを学ぶ学校』ほんの木、2020年 ・大阪府立西成高等学校『反貧困学習格差の連鎖を断つために』解放出版社、2009年 ・國分康孝、國分久子『構成的グループエンカウンターの実践と方法 半世紀にわたる探求の成果と継承』図書文化社、2018年
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>教育課程論が開講される年次以前に開講が設定されている教職科目の内容は、既知のものとして取り扱う。</p> <p>授業時間内に情報を集め整理し、グループでまとめ発表するという作業を行うため、PCやタブレット等を用いて行う方が効率は良いと思われる。そのためスマートフォン以外にPC またはタブレットを持っている学生は持参することを推奨する。</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	15003601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保健体育科教育法 I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	清野 宏樹				
シラバス執筆(主)	清野 宏樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となるこれまでの歴史や理論と関連させて理解を深めると共に、体的な授業場面を想定した授業設計の行い方を身につける。
 そのために、以下の各目標を掲げる。
 (1) 保健体育の歴史や理論、心理学、単元計画・方法・評価を理解する。
 (2) 学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。

到達目標

学習指導要領の歴史的変遷を学び、その時代に求められてきた保健体育を取り巻く実情を理解する。また、保健体育科教育に求められる安全でかつ運動に親しむ能力を高め、心身の健康の増進を図り、体力の向上を意識した理論を学ぶと共に、具体的な各運動領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション（授業の方針、内容と評価方法等）、中学校・高校の保健体育の専門性
 第2回：保健体育科の歴史
 第3回：保健体育科の現在そして将来
 第4回：運動の特性と分類
 第5回：体育の学習内容
 第6回：体育学習の心理学的基礎
 第7回：単元計画の立案
 第8回：保健体育の方法
 第9回：保健体育の評価
 第10回：中学校・高校の保健体育科の実際（ジョギング・マット運動・走り高跳び・長距離走等）
 第11回：中学校・高校の保健体育科の実際（バスケットボール・サッカー・リズムダンス・タグラグビー等）
 第12回：中学校・高校の保健体育科の実際（保健・特別支援学校（学級）・ICTの活用等）
 第13回：保健の学習内容（心身の発達と健康、健康と環境、傷害の予防、健康な生活と疾病の予防）
 第14回：中学校と高校の学習指導要領の読み方と解釈
 第15回：まとめ、保健体育科教員に求められる資質と能力

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

主体的に、指定教科書や学習指導要領解説、中学校・高校の保健体育科の教科書、副読本である『ステップアップ中学校体育』を事前や事後に読むことによって、授業の内容がより深まり、理解することができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業後に毎回、リフレクションシートを配布する。その為、本時の授業での振り返りや自分自身での気づきや考えを記述することで、より理解を深められる。また、教員採用試験に向けた論作文における記述力の向上も兼ねている。

成績評価の方法・基準(方針)

平常点（意欲・態度・資質）40% 課題等の提出物20% 授業内試験40%の総合評価。
 公立学校の体育・保健体育科の教諭として18年の経験を有している。そうした経験も加味し、周囲の学生との協力的・共同的な学びを望む。他学生の迷惑や教員としての資質に欠ける態度・行動・言動、出席率の著しく低い学生は、K評価とするのは勿論である。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業をうける姿勢、発言や記述内容、課題への取り組み等を総合評価。	1, 2
授業外での評価	20	リフレクションシートやグループワークの自主的・主体的な姿勢や内容による総合評価。	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	保健体育科の目標や内容及び各運動の特性、領域、歴史的な変遷等を理解し説明できているか。	1, 2

その他	0		
テキスト	鈴木秀人他(編)『第二版中学校・高校の体育授業づくり入門』学文社. 文部科学省(編)『中学校学習指導要領解説(平成29年告示) 保健体育編』東山書房. 文部科学省(編)『高等学校学習指導要領解説(平成30年告示) 保健体育編 体育編』東山書房. 大修館書店『2021年度版 最新中学校保健体育(保体703)』. 大修館書店『新高等保健体育(保体702)』. 大修館書店『ステップアップ中学体育 2024』. 		
参考書	岡出美則他(編)『体育科教育学入門[三訂版]』大修館書店.		
履修条件・他の科目との関連	保健体育科教育法 I b		

授業コード	15003701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保健体育科教育法 I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	清野 宏樹				
シラバス執筆(主)	清野 宏樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について実践的な理解を深める。
 そのために、以下の各目標を掲げる。
 (1) 各個人での学習指導案の作成と指導・添削後の再提出の実施（1人1領域）。
 (2) グループにおける学習指導案の作成と模擬授業の実施（1グループで1領域）。

到達目標

前期の「保健体育科教育法 I a」で、学んで来たことから、後期は、実際に単元計画と指導案の作成、模擬授業、評価の仕方について教育実習や教員採用試験を想定して実施する。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション（授業の方針、内容と評価方法等）、単元計画と指導案、評価の作成の仕方
 第2回：保健体育科における教師の役割：生徒の実態を視野に入れた単元計画と指導案、評価の作成（1）
 第3回：保健体育科における運動の場づくりの役割、学習資料の活用方法：単元計画と指導案、評価の作成（2）
 第4回：「ゴール型ゲーム」の模擬授業の実施と反省会
 第5回：「ネット型ゲーム」の模擬授業の実施と反省会
 第6回：「ベースボール型ゲーム」の模擬授業の実施と反省会
 第7回：「陸上競技（1）」の模擬授業の実施と反省会
 第8回：「陸上競技（2）」の模擬授業の実施と反省会
 第9回：「器械運動」の模擬授業の実施と反省会
 第10回：「ダンス」の模擬授業の実施と反省会
 第11回：保健（1）「心身の機能の発達と心の健康」、「健康と環境」の模擬授業の実施と反省会
 第12回：保健（2）「障害の予防」、「健康な生活と疾病の予防」の模擬授業の実施と反省会
 第13回：「武道」や「水泳」、「体づくり運動」、「体育理論」、「保健」について考える
 第14回：特別支援教育やICTの活用、保健体育授業実践の総括と今後の留意点
 第15回：まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

主体的に、指定教科書や学習指導要領解説、中学校・高校の保健体育科の教科書、副読本である『ステップアップ中学校体育』を事前や事後に読むことによって、授業の内容がより深まり、理解することができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業後に毎回、リフレクションシートを配布する。その為、本時の授業での振り返りや自分自身での気づきや考えを記述することで、より理解を深められる。また、教員採用試験に向けた論作文における記述力の向上も兼ねている。

成績評価の方法・基準(方針)

平常点（意欲・態度・資質）40% 課題等の提出物20% 学習指導案や授業内試験40%の総合評価。
 公立学校の体育・保健体育科の教諭として18年の経験を有している。そうした経験も加味し、周囲の学生との協力的・共同的な学びを望む。他学生の迷惑や教員としての資質に欠ける態度・行動・言動、出席率の著しく低い学生は、K評価とするのは勿論である。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業を受けている姿勢、発言や記述内容、課題への取り組み等を総合評価。	1, 2
授業外での評価	20	リフレクションシートや模擬授業への自主的・主体的な姿勢や内容の取り組み方による総合評価。	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	保健体育科の目標や内容及び各運動の特性、体育理論、保健の領域について理解し説明できているか。学習指導案の意義を理解しているか。提出した指導案や授業	1, 2

		内の試験により評価。	
その他	0		
テキスト	鈴木秀人他(編)『第二版中学校・高校の体育授業づくり入門』学文社. 文部科学省(編)『中学校学習指導要領解説(平成29年告示) 保健体育編』東山書房. 文部科学省(編)『高等学校学習指導要領解説(平成30年告示) 保健体育編 体育編』東山書房. 大修館書店『2021年度版 最新中学校保健体育(保体703)』. 大修館書店『新高等保健体育(保体702)』. 大修館書店『ステップアップ中学体育 2024』. 		
参考書	岡出美則他(編)『体育科教育学入門[三訂版]』大修館書店.		
履修条件・他の科目との関連	保健体育科教育法 I a		

授業コード	15003801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	3年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、保健科の目標、内容ならびに健康教育等について理解するとともに、ICTを活用した模擬授業をとおして保健体育科教員としての基礎力養成を目的とする。
上記の目的を達成させるために、学習指導要領（総則編、保健体育編）の内容、保健の授業方法、健康教育、及びICTの活用等を学習し、保健の模擬授業を実施する。

到達目標

1. 保健科の目標、内容を理解し、説明することができる。
2. 作成した保健科の学習指導案を基にして、ICTを活用した模擬授業を実施し、その授業方法の利点、欠点を理解することができる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：本授業の目標、内容、方法、評価、授業方針、心得等を説明する。
- 【第2回】
テーマ：現代社会と保健教育
内容・方法：現代社会における健康問題に基づいて保健教育の意義を説明する。
- 【第3回】
テーマ：保健教育の歴史的概略と目標及び内容
内容・方法：明治期からの保健教育の概略と現行学習指導要領（保健分野）の目標及び内容を説明する。
- 【第4回】
テーマ：保健の教材研究と教育方法
内容・方法：保健の教材並びに教育方法について説明する。
- 【第5回】
テーマ：保健の学習形態と学習評価
内容・方法：保健の学習形態と学習評価について説明する。
- 【第6回】
テーマ：保健の学習指導案の作成方法
内容・方法：学習指導案の作成方法を説明する。
- 【第7回】
テーマ：保健の学習指導案の作成 1
内容・方法：学習指導案を作成する。
- 【第8回】
テーマ：保健の学習指導案の作成 2
内容・方法：グループで学習指導案を作成する。
- 【第9回】
テーマ：ICTを活用した模擬授業の準備
内容・方法：グループごとに模擬授業の準備をする。
- 【第10回】
テーマ：ICTを活用した模擬授業 1
内容・方法：グループで作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施する。
- 【第11回】
テーマ：ICTを活用した模擬授業 2
内容・方法：グループで作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施する。
- 【第12回】
テーマ：ICTを活用した模擬授業 3
内容・方法：グループで作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施する。
- 【第13回】
テーマ：ICTを活用した模擬授業 4
内容・方法：グループで作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施する。
- 【第14回】
テーマ：ICTを活用した模擬授業 5
内容・方法：グループで作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施する。
- 【第15回】
テーマ：まとめ
内容・方法：前期授業のまとめ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】
①事前学修課題：シラバスを確認
②事後学修課題：講義内容の復習
【第2回】
①事前学修課題：現代社会の健康問題と保健教育について調べる
②事後学修課題：講義内容の復習
【第3回】
①事前学修課題：保健教育の歴史、並びに目標及び内容を調べる
②事後学修課題：講義内容の復習
【第4回】
①事前学修課題：保健の教材と教育方法について調べる
②事後学修課題：講義内容の復習
【第5回】
①事前学修課題：保健の学習形態と学習評価について調べる
②事後学修課題：講義内容の復習
【第6回】
①事前学修課題：参考となる保健の学習指導案を調べる
②事後学修課題：講義内容の復習
【第7回】
①事前学修課題：参考となる保健の学習指導案を調べる
②事後学修課題：講義内容の復習
【第8回】
①事前学修課題：参考となる保健の学習指導案を調べる
②事後学修課題：講義内容の復習
【第9回】
①事前学修課題：グループでの模擬授業の準備
②事後学修課題：講義内容の復習
【第10回】
①事前学修課題：グループでの模擬授業の準備
②事後学修課題：講義内容の復習
【第11回】
①事前学修課題：グループでの模擬授業の準備
②事後学修課題：講義内容の復習
【第12回】
①事前学修課題：グループでの模擬授業の準備
②事後学修課題：講義内容の復習
【第13回】
①事前学修課題：グループでの模擬授業の準備
②事後学修課題：講義内容の復習
【第14回】
①事前学修課題：グループでの模擬授業の準備
②事後学修課題：講義内容の復習
【第15回】
①事前学修課題：模擬授業の反省
②事後学修課題：講義内容の復習

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して授業内でフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる(学科規程より)。なお、遅刻2回で1回の欠席とする。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において「2」以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業態度, 学修に取り組む姿勢.	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	定期試験に代わるレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考書	適宜, 授業内で紹介する。
-----	---------------

履修条件・他の科目との関連

履修条件は以下のとおりである。

- ・真面目かつ主体的に授業に臨める者。
- ・向上心を抱き、ひたむきに教員免許状取得を目指せる者。

授業コード	15003901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保健体育科教育法Ⅱb [対面]				
シラバス執筆(全員)	寺田 進志				
シラバス執筆(主)	寺田 進志				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、教育実習を見据え、より良い学習指導案を作成し、その指導案に基づいてより良い模擬授業を実践することをとおして保健体育科教員としての基礎力養成を目的とする。
上記の目的を達成するために、学習指導案の作成と模擬授業の実践、ならびに模擬授業の自己評価と他者評価を実施する。

到達目標

- より良い保健体育科の学習指導案を作成することができる。
- より良い模擬授業を実践し、自己の課題を発見し、その改善策を考え、説明することができる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：本授業の目標、内容、方法、評価、授業方針、心得等について説明する。
- 【第2回】
テーマ：模擬授業1
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第3回】
テーマ：模擬授業2
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第4回】
テーマ：模擬授業3
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第5回】
テーマ：模擬授業4
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第6回】
テーマ：模擬授業5
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第7回】
テーマ：模擬授業6
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第8回】
テーマ：模擬授業7
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第9回】
テーマ：模擬授業8
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第10回】
テーマ：模擬授業9
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第11回】
テーマ：模擬授業10
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第12回】
テーマ：模擬授業11
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第13回】
テーマ：模擬授業12
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第14回】
テーマ：模擬授業13
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。
- 【第15回】
テーマ：模擬授業14
内容・方法：模擬授業を実施し、自己評価と他者評価をする。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：シラバスを確認
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第2回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第3回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第4回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第5回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第6回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第7回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第8回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第9回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第10回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第11回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第12回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第13回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第14回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習
 【第15回】
 ①事前学修課題：学習指導案の作成と模擬の準備
 ②事後学修課題：講義内容の復習

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して授業内でフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・3回以上欠席した者は単位認定の対象外となる（学科規程より）。なお、遅刻2回で1回の欠席とする。
- ・授業内評価と定期試験に代わるレポートを評価し、5段階評価において「2」以上の評価を得られた者に単位が認定される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業態度, 学修に取り組む姿勢.	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	定期試験に代わるレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東山書房. 文部科学省(2019)高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編. 東山書房.
参考書	適宜, 授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	履修条件は以下のとおりである。

履修条件・他の科目との関連

- ・真面目かつ主体的に授業に臨める者。
- ・向上心を抱き、ひたむきに教員免許状取得を目指せる者。

授業コード	15004401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	道徳教育指導論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

到達目標

1. 日本の学校教育における道徳の歴史について説明ができる。
2. 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容について説明できる。
3. 学校の教育活動全体を通して行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画を立てることができる。
4. 道徳科における学習指導案を作成することができる。

授業計画

- 第1回 道徳とは何か
- 第2回 道徳教育の歴史（1） 修身科の誕生について学ぶ
- 第3回 道徳教育の歴史（2） 教育勅語の内容について学ぶ
- 第4回 道徳教育の歴史（3） 教育勅語の扱いについて学ぶ
- 第5回 道徳教育と道徳科の目標について学習指導要領の誕生と変遷とともに学ぶ
- 第6回 現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）について考える
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 コールバーグの道徳性発達理論について学ぶ
- 第9回 道徳科及び教育活動全体における多様な指導方法について学ぶ
- 第10回 道徳教育の指導計画と道徳科における教材と授業設計について学ぶ
- 第11回 授業のねらいと学習指導案の作成方法について学ぶ
- 第12回 学習指導案を作成する
- 第13回 潜在的カリキュラムと授業の会話構造について学ぶ
- 第14回 授業の実施と振り返り及び改善を行う
- 第15回 道徳科における学習評価について学ぶ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

教師を志す者として、自らはどのように道徳教育を行いたいかを常に意識しつつ、これまで自分が受けてきた授業を振り返りながら、毎回の講義内容について事前準備を行うこと。また事後には、学んだ内容に関連する文献や資料についてリサーチすること。

課題に対するフィードバックの方法

中間試験については、採点后に返却する。
レポート試験の結果に関しては、希望があればフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく3回以上欠席した場合は、「k」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	中間試験	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	最終レポート	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
参考書	『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示)、文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(平成29年)、文部科学省 『史料 道徳教育を考える』2017年、浪本勝年ほか(編)、北樹出版 その他は必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	本科目は教職関連科目であり、卒業要件単位数に算入することはできませんので注意して下さい。

授業コード	15005401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	酒井 達哉				
シラバス執筆(主)	酒井 達哉				
開講年次	3年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的知識を学習し、総合的な学習の展開に必要な資質を身につける。

「総合的な学習の時間」の背景と実践の現状を把握し、そのねらいや意義を考察する。その上で、「総合的な学習の時間」の計画・実施・評価のプロセスについて理解を深める。さらに、実践事例をもとに基本的な学習過程や教師の役割について考察するとともに、大学周辺を校区に見立ててテーマを決めて「総合的な学習の時間」の探究活動を体験する。これらの学習を通して、総合的な学習の時間の単元構成のあり方について考察する。

到達目標

1. 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の観点から理解している。
2. 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。
3. 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。
4. 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。
5. 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。
6. 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

授業計画

- 第1回： 創設の趣旨と経緯
 第2回： 目標の構成と趣旨
 第3回： 指導計画の作成にあたっての配慮事項と指導計画の要素
 第4回： 内容と内容の取り扱いについての配慮事項
 第5回： 学校における実践事例（学習指導の基本的な考え方や学習指導のポイント）
 第6回： 総合的な学習の時間の実際 ①（課題設定、情報の収集）
 第7回： 総合的な学習の時間の実際 ②（整理・分析、まとめ・表現）
 第8回： 総合的な学習の時間の評価

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

予習：次回授業までに関連する範囲について教科書などを読み、課題に取り組んでくこと。

復習：授業中に提示する参考文献に基づいて復習を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	各回の提出課題(60)	1, 2, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート試験(40)	3, 4
その他	0		

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』(平成30年)

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

現在の居住地又は出身地における、総合的な学習の時間で活用できる地域教材について理解を深めておいてください。

授業コード	15004501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	特別活動論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	岡邑 衛				
シラバス執筆(主)	岡邑 衛				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、特別活動の理解を基盤として、計画、実践できる能力を育成することを目的とする。特別活動は「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を目標とし、「為すことによって学ぶ」ことを方法原理としながら、さまざまな実践を通して発展してきた。このことを踏まえ、本授業では、インクルーシブ教育、生徒指導、キャリア教育、総合的な学習の時間等の周辺諸領域との関連を含め、特別活動の理解を深めていく。

到達目標

1. 特別活動の目標及び内容を理解し、説明できる。
2. 特別活動の計画、実践、評価ができる。
3. 特別活動と周辺諸領域との関連についての理解し、説明できる。

授業計画

1. 特別活動とは何か
2. 特別活動の指導原理
3. 特別活動で育む資質・能力
4. 特別活動の評価と方法
5. インクルーシブ教育と特別活動
6. 生徒指導と特別活動
7. 学級(ホームルーム)活動の内容と指導
8. 学級(ホームルーム)活動の計画
9. 学級(ホームルーム)活動の実践
10. 児童会活動、生徒会活動の内容と指導
11. 児童会活動、生徒会活動の計画
12. 児童会活動、生徒会活動の実践
13. 学校行事の内容と指導
14. 学校行事の計画
15. 学校行事の実践

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】 事前：特別活動とは何か調べる
事後：特別活動についてまとめる
- 【第2回】 事前：特別活動の指導の特徴をまとめる
事後：特別活動の指導原理についてまとめる
- 【第3回】 事前：特別活動でどのような資質能力が育まれたか考えてまとめる
事後：特別活動で育む資質能力の特徴をまとめる
- 【第4回】 事前：特別活動の評価と方法について調べる
事後：特別活動の評価と方法についてまとめる
- 【第5回】 事前：インクルーシブ教育とは何かを調べる
事後：インクルーシブ教育と特別活動の関係についてまとめる
- 【第6回】 事前：生徒指導提要を読む
事後：生徒指導と特別活動の関係についてまとめる
- 【第7回】 事前：学級(ホームルーム)活動とは何か調べる
事後：学級(ホームルーム)活動の内容をまとめる
- 【第8回】 事前：学級(ホームルーム)活動の計画を立てる
事後：学級(ホームルーム)活動の計画を確認する
- 【第9回】 事前：学級(ホームルーム)活動の実践練習をする
事後：学級(ホームルーム)活動の実践を振り返る
- 【第10回】 事前：児童会活動、生徒会活動の内容を調べる
事後：児童会活動、生徒会活動の内容をまとめる
- 【第11回】 事前：児童会活動、生徒会活動の計画を立てる
事後：児童会活動、生徒会活動の計画を確認する
- 【第12回】 事前：児童会活動、生徒会活動の実践を構想する
事後：児童会活動、生徒会活動の実践を振り返る
- 【第13回】 事前：学校行事の内容を調べる
事後：学校行事の内容をまとめる
- 【第14回】 事前：学校行事の計画を立てる
事後：学校行事の計画を見直す
- 【第15回】 事前：学校行事の実践を構想する
事後：学校行事の実践を振り返る

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
また、定期考査を受験できなかった場合はレポートを課す。定期試験に代わるレポートを未提出の場合、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	ミニレポート、リフレクションシート、発表 等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	40	1~3	
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト

中村豊・原清治編著 新しい教職教育講座 教職教育編9 特別活動 ミネルヴァ書房

参考書

文部科学省 中学校学習指導要領
文部科学省 高等学校学習指導要領
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」東京書籍

履修条件・他の科目との関連

全ての教職科目と関連がある。

授業コード	15005901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤本 光司				
シラバス執筆(主)	藤本 光司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「教育の方法及び技術」の授業は、取得する教員免許の種類にかかわらず全員が学ぶべき教職の必修科目です。科目名のとおり教育の方法（method）や技術（technic）を扱う。指定した教科書を活用して授業を進めるが、グループ演習などで使用する演習ノートは、随時、授業で配布する。課題提出や予習・復習内容は、この大学のLMS（学習支援システム）である「GoogleClassroom」を活用して提示する。対面授業においては、講義だけでなく共に学ぶ仲間と一緒にディスカッションしたり、学生自らが作成した教材の発表の場を設ける。また、本教科は、教育におけるICTの活用能力の育成も含まれているため、教材作成（遠隔教材作成も含む）や学習指導案（簡易）を作成する過程で教職の業務を広く理解してほしい。

到達目標

1. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識を身に付ける。
2. 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方、並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識を身に付ける。
3. 教科等の教材作成に向けてICT活用能力の基礎的な技能を身につける。
4. 授業設計や教材提示の基本的な技能や表現力を身に付ける。
5. 教育方法・技術に関する教授学習理論の基礎的な知識を理解している。さらに総合的にこの学びを振り返り、教職について深く文章表現できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス（授業内容・課題・成績評価）、チーム学校の一員として重要な教員の資質と能力
- 第2回：教育方法の基礎的理論と実践の理解（構成主義・行動主義、承認欲求など）
- 第3回：子どもの主体性と情意面の育成（自己肯定感、自尊感情、自己効力感）
- 第4回：授業を運営する教室環境、教材や学習指導案を作成するための基礎理論
- 第5回：学習評価（教育評価の基本的な考え方、ブルームの評価段階、絶対・相対評価など）
- 第6回：授業設計（レディネス分析、ID理論）、授業展開（板書・話法、教育メディアの活用）
- 第7回：情報通信技術の活用の意義と在り方（特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用に応じた留意点を含む）の理解
- 第8回：ICT支援員などの外部との連携や学校におけるICT環境の整備の在り方
- 第9回：情報活用能力を育成するための資質・能力、学習場面に応じたICT活用の指導事例と実践デジタル教材の作成の理解及び基礎的な指導法
- 第10回：教育データ（学習履歴など）の活用ならびにICTを活用した学習評価の方法や個人情報の取り扱いや教育情報セキュリティの重要性の理解
- 第11回：遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用例と活用方法
- 第12回：統合型校務支援システムの活用とICTを効果的に活用した校務推進の理解
- 第13回：教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における横断的な情報活用能力の育成及び情報モラルの授業設計と授業実践
- 第14回：最新の情報機器（VRやARなど）の理解、STEAM教育の教科横断的な学びとは
- 第15回：まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：オンラインシステムにて、関連する資料やURLを送信するので熟読する。
それらの関心を広げ、質問事項も整理しておくこと。

事後学習：授業後の課題は、オンラインシステムにも掲示するので期限内に提出すること。
講義内容で関心があることは、主体的に調べ学びを深めて欲しい。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインシステムに提出されたレポートなどを添削・点検・採点して、次の授業までにメッセージを添えて返信する。
各回10点満点で採点。（記述分量：3点、誤字脱字：3点、内容表現：4点）

成績評価の方法・基準(方針)

- ・試験は、基本的に第16回目に対面で実施する。
- ・平常点は、課題レポートの評価や授業中の演習での情意面（取り組み姿勢など）とする。
- ・毎時のレポート課題は、①記述分量、②誤字脱字、③内容表現より採点して蓄積する。
- ・対面授業では、主体的で対話的な深い学びを担保とするため、授業内での発表のパフォーマンス度も評価する。
- ・グループ演習などの取り組み姿勢の評価するため、出席状況（欠席・遅刻・無断早退など）も評価に関連す

る。

評価基準について

[最低限の到達度]

文章を読み取って理解する能力とともに、テキストや配布資料の解説を通して情報と社会に関する知識と思考力、判断力と表現力を身につけることができている。アクティブラーニングの側面では、一定の討議に参加している。また、授業を概ね理解して課題レポートを書くことができる。(60-69点)

[望ましい到達度]

文章を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストや配布資料の解説を通して情報と社会に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を深め、研究上で活用を可能とする水準まで身につけることができている。アクティブラーニングの側面では、自分の考えを整理して的確に発表することができる。また、授業内容を深く理解した上で、自分の考えを含めたレポートを書くことができる。(80-100点)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	パワーポイント等を活用した発表(10) リフレクション(10) ワークシートの記述(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	復習課題としてのレポート作成(20) レポート作成におけるICT活用技能(10)	1, 2, 3, 4
定期試験	40	対面での筆記試験(25)と記述レポート(15)	5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	林徳治、藤本光司、他、『アクティブラーニングに導く 教学改善のすすめ』、2020、ぎょうせい ISBN978-4-324-10806-2
参考書	稲垣忠／佐藤和紀 編著、『ICT活用の理論と実践 DX時代の教師を目指して』、北大路書房、2021
履修条件・他の科目との関連	履修条件: 教職免許の取得を希望している。 他科目との関連: 教科・教職に関する教職科目に深く関連している。

授業コード	15001601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	生徒指導（進路指導を含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	岡邑 衛				
シラバス執筆(主)	岡邑 衛				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業では、学校における生徒指導・進路指導についての基礎的理解を深めるとともに、いじめ、不登校、暴力行為等の諸課題の具体的な事例および客観的データを用いて、多面的に課題を捉えられるようになることを目的としています。講義のほか、毎回、グループディスカッションを実施します。また、授業の初めに小テストを実施します。授業前の予習と授業中の積極的な取り組みを求めます。

到達目標

1. 生徒指導・進路指導における、指導・支援の在り方や考え方を説明できる。
2. 生徒を取り巻く諸課題について、理解し、説明できる。
3. 生徒指導・進路指導において、教員に求められる役割を説明できる。

授業計画

- 1 生徒指導の意義と原理
- 2 教育課程と生徒指導
- 3 生徒理解
- 4 生徒指導体制(チーム学校)
- 5 個別指導と集団指導
- 6 いじめ
- 7 不登校・中途退学
- 8 暴力行為
- 9 少年非行
- 10 校則・体罰
- 11 生徒指導の現代的な課題
- 12 進路指導・キャリア教育の意義と原理
- 13 キャリアプラン
- 14 現代の労働問題
- 15 生徒指導・進路指導・キャリア教育の課題と展望

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】 事前：「生徒指導提要」を読み、興味があるものを選ぶ
事後：生徒指導とは何かをまとめる
- 【第2回】 事前：教育課程における生徒指導の役割を考える
事後：教育課程と生徒指導の関係についてまとめる
- 【第3回】 事前：資料を読んで、まとめる
事後：生徒理解の重要性についてまとめる
- 【第4回】 事前：チーム学校とは何かを調べる
事後：生徒指導体制についてまとめる
- 【第5回】 事前：自分が経験した生徒指導について箇条書きにする
事後：集団指導と個別指導についてまとめる
- 【第6回】 事前：いじめ防止対策推進法を読む
事後：自分が住む自治体のいじめの実態、防止策を調べる
- 【第7回】 事前：配布資料を読み、不登校について調べる
事後：不登校についてまとめる
- 【第8回】 事前：配布資料を読み、暴力行為について調べる
事後：暴力行為についてまとめる
- 【第9回】 事前：資料を読み、少年非行について調べる
事後：少年非行についてまとめる
- 【第10回】 事前：校則・体罰にかかわる判例を調べる
事後：校則・体罰についてまとめる
- 【第11回】 事前：自分が関心がある課題について調べる
事後：現代的な課題についてまとめる
- 【第12回】 事前：自分が受けた進路指導について書き出す
事後：進路指導・キャリア教育についてまとめる
- 【第13回】 事前：キャリアプランを書く
事後：さまざまなキャリアについてまとめる
- 【第14回】 事前：現代の労働問題について1つ以上調べる
事後：現代の労働問題についてまとめる
- 【第15回】 事前：生徒指導を行う場面を想定し、課題を挙げる
事後：全体のまとめをおこない、レポートを書く

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
また、定期試験に代わるレポートを未提出の場合、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	ミニレポート、リフレクションシート、発表 等	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	最終レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	中村豊編著『生徒指導提要 改訂の解説とポイント —積極的な生徒指導を目指して—』 ミネルヴァ書房 ISBN9784623094745
------	-----------------------------------------------------------------------

参考書	文部科学省 生徒指導提要(令和4年12月)(インターネットで閲覧可)
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	全ての教職科目と関連がある。
---------------	----------------

授業コード	15001301	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	教育相談 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中川 千夏				
シラバス執筆(主)	中川 千夏				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

教育相談とは、成長期にある子どもたちが学校生活を送る中で生じるさまざまな問題の解決を目指す相談活動である。そのため、この授業では、相談の担い手に求められる子どもの各年代における発達課題や子どもを取り巻く学校内外の環境に関する基礎的知識を概説する。また、実際の相談活動で必要とされるカウンセリングの視点についても言及する。

また、過去に公立中学校にスクールカウンセラーとして勤務した経験をもとに、実務家教員として、将来学校教育にかかわる仕事に就きたいと考えている方にも役立つ実践的な授業にしたい。

到達目標

1. 実際の教育相談における具体的な相談内容を知る
2. 子どもの発達課題を理解する
3. 大人も子どもを取り巻く一つの環境であることを自覚する
4. 実際の教育相談活動においてカウンセリング的視点を持つことができるようにする

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：授業オリエンテーション
 教育相談とは
 内容・方法：授業計画の紹介 評価方法の説明など
 教育相談の歴史、現状、システムなど
- 【第2回】
 テーマ：教育相談の実際①
 内容・方法：「いじめ」 近年のいじめの特徴やその変遷を振り返り、いじめ防止のために必要な視点を概説する。
- 【第3回】
 テーマ：「教育相談の実際②」
 内容・方法：「不登校」 その背景やタイプを説明し、「学校に行かない（行けない）」ということをどのようにとらえるべきか言及する。
- 【第4回】
 テーマ：教育相談の実際③
 内容・方法：「児童虐待」 児童虐待の現状を説明し、その複雑な背景とそれらが子どもにもたらす影響について概説する。
- 【第5回】
 テーマ：教育相談の実際④
 内容・方法：「児童虐待 その2」 児童虐待は、虐待の加害者と被害者だけの問題ではなく、次世代を育てるという観点から社会的養護の必要性について言及する。
- 【第6回】
 テーマ：教育相談の実際⑤
 内容・方法：「非行問題」万引き、金銭問題、性非行、違法薬物など校内で出会う頻度の高い問題について概説する。
- 【第7回】
 テーマ：教育相談の実際⑥
 内容・方法：教育相談の実際①～⑤の確認テスト
- 【第8回】
 テーマ：子どもの発達課題①
 内容・方法：「乳幼児期の発達課題」アタッチメントの形成を中心に乳幼児のコミュニケーション能力の発達について概説する。
- 【第9回】
 テーマ：子どもの発達課題②
 内容・方法：「児童期の発達課題」ピアジェの発生的認識論に基づく思考の発達や仲間関係など社会性の発達について概説する。
- 【第10回】
 テーマ：子どもの発達課題③
 内容・方法：「思春期・青年期の課題」 第二性徴と親からの精神的な自立の過程、アイデンティティの確立について概説する。
- 【第11回】
 テーマ：教育相談とカウンセリング①
 内容・方法：「保護者への支援と教育相談」保護者からの学校への要求やその背景について説明し、信頼関係を築くための姿勢について言及する。
- 【第12回】
 テーマ：教育相談とカウンセリング②
 内容・方法：「教師のメンタルヘルス」教師に特有の悩みやストレスについて説明し、その予防策と支援につい

て概説する。

【第13回】

テーマ：教育相談とカウンセリング③

内容・方法：「スクールカウンセラーとカウンセリング」校内の異職種であるスクールカウンセラーの役割を紹介し、連携の取り方について説明する。

【第14回】

テーマ：教育相談とカウンセリング④

内容・方法：「校外の専門機関とのネットワーク」校外に存在するさまざまな専門機関の利用の仕方について概説する。

【第15回】

テーマ：教育相談とカウンセリング⑤

内容・方法：「まとめ」児童・生徒に寄り添える教員になるために求められる資質について伝える。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業中に配布される資料に関連する時事ニュースについて意識を高めること。また、紹介される書籍等についても積極的に目を通しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、提出していただくリフレクションシートや感想から一部、匿名で紹介し、受講生全体でシェアする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す3つの評価方法の総合で評価する。

①毎回の授業終了後に提出していただくリフレクションシートまたは資料の感想

②小テスト（「履修登録取消期間」前に実施）

③定期試験期間中に行う筆記テスト

以上3つの評価結果に基づき総合的に判定し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由のない欠席5回以上は評価の対象とせず、「K」評価とする。

欠席5回以下であっても、上記②の小テストが基準に到達していなければ、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・リフレクションシートまたは資料の感想:30 ・小テスト:50	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	20	試験 20	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 レジュメを配布する。 その他の参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。
参考書	『よくわかる教育相談』春日井敏之、伊藤美奈子 編 ミネルヴァ書房 その他は必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	教職課程科目、心理学関連の科目を履修していることが望ましい。

授業コード	15001101	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	教育実習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓、中村 浩子				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期、後期	単位数	3単位

授業の目的・概要

教育実習の事前学習として、学校教育の様相、今日的教育課題、教育実習の内容、教育実習に際しての心構えや留意することを説明する。

また、教育実習に際しては、これまでに学んだ教職教養、専門教養、一般教養など教員としての技能を統合し実習を行うとともに、学校現場での教育実践を通して学校教育の内容や今日的課題などを総合的、体験的に学び、教員としての資質と能力の向上を図ることの意義を概説する。

さらに、巡回指導において実習状況に応じた課題の克服にあたり、事後学習においては、自己の教育実習を総括し、卒業生の現任教員等からも教育現場の実際について学び、めざす教師像に反映させることの大切さを説明する。

到達目標

1. 学校教育について教育実践を通して理解を深め、実習の意義について考えることができる。
2. 教師の職務、サービスを確実に遂行できる資質と能力を理解し、実践することができる。
3. 自ら進んで生徒たちと触れ合い、生徒理解を深め、生徒指導力の向上をめざすことができる。
4. 教育課程についての理解を深め、教材及び指導計画作成に努めることができる。

授業計画

教育実践研究（教育実習の事前・事後指導）

- | | | |
|-----|-------|--------------------------------|
| 第1回 | 事前指導① | 教育実習に係る手続き及び教育実習に際する抱負 |
| 第2回 | 事前指導② | 教育実習の意義及び学校教育の様相 |
| 第3回 | 事前指導③ | 教師の職務・サービス及び教育実習の心得 |
| 第4回 | 事前指導④ | 地方自治体における教育の取り組み |
| 第5回 | 事前指導⑤ | 学校教育の全容、実習ノートに関する説明及び教育実習直前まとめ |
| 第6回 | 事後指導① | 教育実習の総括と実践事例研究（1） |
| 第7回 | 事後指導② | 教育実習の総括と実践事例研究（2）及び教員免許申請に関して |
| 第8回 | 事後指導③ | 教育実習の総括と自己の課題研究及び教職セミナー |

教育実習

中学校又は高等学校での教育実習

- (1) 学校教育について教育実践を通して理解を深め、実習の意義について再確認する。
- (2) 教育の今日的課題についての理解を図り、その課題解決に関する意識を高める。
- (3) 教育課程についての理解を深め、その指導の在り方について研修する。
- (4) 自ら進んで生徒たちと触れ合い、生徒理解を深め、生徒指導力の向上を図る。
- (5) 支援を要する生徒について、指導教員の指導の下、適切に支援教育を実践する。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

第1回～第5回の事前指導①～⑤については、教育実習に際する抱負、学習指導案、模擬授業など教育実習の心得としてそれぞれ約2時間の事前学習を要する。また、第6回～第8回の事後指導①～③については、教育実習の総括と自己課題研究としてそれぞれ約2時間の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

実習校への提出物、学習指導案、模擬授業など本人の希望に応じて適宜指導・助言を講じる。

成績評価の方法・基準(方針)

教育実習校の教育実習についての評価並びに事前・事後学習及び巡回指導教員の評価などから総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	・教育実習(事前・事後指導含む)に臨む姿勢、発言内容、課題への取組(意欲、主体性)等を総合評価。(10%)	1, 2
授業外での評価	80	(1)学習指導(30%) ・教材に関する知識と理解の程度 ・教材及び指導計画作成上の研究態度 ・学習指導上の技術と態度	1, 2, 3, 4

		(2)生徒指導(20%) <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する理解の程度 ・生徒指導の能力と態度 ・指導技術(個人指導、学級指導) (3)教職勤務(30%) <ul style="list-style-type: none"> ・自律的な勤務状況 ・教育的熱意 ・教師としての資質 	
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	・総括(教育実習レポート)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 授業内に資料プリントを配付する。		
------	---------------------------------	--	--

参考書	適宜紹介する。		
-----	---------	--	--

履修条件・他の科目との関連	教員への強い志と熱意をもって教育実習に挑む姿勢を持ち合わせていること。 教育実習までに「学校教育実践演習」(2022年度以前は「教育実習研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)の履修を終え単位修得しておくことが必須。		
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	15001201	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	教育実習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	東 亜弓、中村 浩子				
シラバス執筆(主)	東 亜弓				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

教育実習の事前学習として、学校教育の様相、今日的教職課題、教育実習の内容、教育実習に際しての心構えや留意することを説明する。

また、教育実習に際しては、これまでに学んだ教職教養、専門教養、一般教養など教員としての技能を統合し実習を行うとともに、学校現場での教育実践を通して学校教育の内容や今日的課題などを総合的、体験的に学び、教員としての資質と能力の向上を図ることの意義を概説する。

さらに、巡回指導において実習状況に応じた課題の克服にあたり、事後学習においては、自己の教育実習を総括し、卒業生の現任教員等からも教育現場の実際について学び、めざす教師像に反映させることの大切さを説明する。

到達目標

1. 学校教育について教育実践を通して理解を深め、実習の意義について考えることができる。
2. 教師の職務、サービスを確実に遂行できる資質と能力を理解し、実践することができる。
3. 自ら進んで生徒たちと触れ合い、生徒理解を深め、生徒指導力の向上をめざすことができる。
4. 教育課程についての理解を深め、教材及び指導計画作成に努めることができる。

授業計画

教育実践研究（教育実習の事前・事後指導）

- 第1回 事前指導① 教育実習に係る手続き及び教育実習に際する抱負
- 第2回 事前指導② 教育実習の意義及び学校教育の様相
- 第3回 事前指導③ 教師の職務・サービス及び教育実習の心得
- 第4回 事前指導④ 地方自治体における教育の取り組み
- 第5回 事前指導⑤ 学校教育の全容、実習ノートに関する説明及び教育実習直前まとめ
- 第6回 事後指導① 教育実習の総括と実践事例研究（1）
- 第7回 事後指導② 教育実習の総括と実践事例研究（2）及び教員免許申請に関して
- 第8回 事後指導③ 教育実習の総括と自己の課題研究及び教職セミナー

教育実習

中学校又は高等学校での教育実習

- (1) 学校教育について教育実践を通して理解を深め、実習の意義について再確認する。
- (2) 教育の今日的課題についての理解を図り、その課題解決に関する意識を高める。
- (3) 教育課程についての理解を深め、その指導の在り方について研修する。
- (4) 自ら進んで生徒たちと触れ合い、生徒理解を深め、生徒指導力の向上を図る。
- (5) 支援を要する生徒について、指導教員の指導の下、適切に支援教育を実践する。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

第1回～第5回の事前指導①～⑤については、教育実習に際する抱負、学習指導案、模擬授業など教育実習の心得としてそれぞれ約2時間の事前学習を要する。
また、第6回～第8回の事後指導①～③については、教育実習の総括と自己課題研究としてそれぞれ約2時間の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

実習校への提出物、学習指導案、模擬授業など本人の希望に応じて適宜指導・助言を講じる。

成績評価の方法・基準(方針)

教育実習校の教育実習についての評価並びに事前・事後学習及び巡回指導教員の評価などから総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	教育実習(事前・事後指導含む)に臨む姿勢、発言内容、課題への取組(意欲、主体性)等を総合評価。(10%)	1, 2
授業外での評価	80	(1)学習指導(30%) ・教材に関する知識と理解の程度 ・教材及び指導計画作成上の研究態度	1, 2, 3, 4

		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導上の技術と態度 (2)生徒指導(20%) <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する理解の程度 ・生徒指導の能力と態度 ・指導技術(個人指導、学級指導) (3)教職勤務(30%) <ul style="list-style-type: none"> ・自律的な勤務状況 ・教育的熱意 ・教師としての資質 	
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	・総括(教育実習レポート)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 授業内に資料プリントを配付する。		
------	---------------------------------	--	--

参考書	適宜紹介する。		
-----	---------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>教員への強い志と熱意をもって教育実習に挑む姿勢を持ち合わせていること。 教育実習までに「学校教育実践演習(2022年以前の入学生は「教育実習研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)」の履修を終え単位修得しておくことが必須。</p>		
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

授業コード	15003301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	教職実践演習（中・高） [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 浩子、小倉 幸雄				
シラバス執筆(主)	中村 浩子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

教職課程を通じて学習してきたことを振り返りつつ、教員としての心構えと職務内容について再確認し、生徒指導、学級経営、同僚教職員や保護者との連携協力、生徒が今日抱えうる諸課題への対応について、事例等を用いながらロールプレイ、グループ討論を行いつつICTも活用しながら検討し、実践的な力を育む。
また教科指導について、授業計画、学習形態、指導法の工夫について議論・検討する。

到達目標

1. 「教育」という仕事に対する誇り、使命、責任とは何か、自らの意見を他者と共有することができる。
2. 教職員・保護者と協力しつつ、生徒の成長に寄与することができるようになる。
3. 生徒の状況を理解し、生徒との信頼関係を築きながら、生徒への指導及び学級づくりができるようになる。
4. 教科に対する十分な知識をもとに、生徒の理解に応じた授業計画や学習形態、指導法を工夫することができる。

授業計画

- 第1回：イントロダクション：「教職実践演習」の意義と学習内容及び進め方
 第2回：教師としての心構えについて考える
 第3回：特別支援教育について考える
 第4回：保護者への対応と協力のあり方について考える
 第5回：教員としての役割と職務内容について考える
 第6回：学級経営について考える
 第7回：生徒指導について考える
 第8回：近年の学校教育改革について考える
 第9回：進路指導とキャリア教育について考える
 第10回：いじめ問題の事例と対策について考える
 第11回：不登校について考える
 第12回：保健教育の役割と意義（グループ討議）、年間指導計画作成（グループ討議）
 第13回：体育実技指導（インクルーシブ体育含む）における生徒の心情の変化と留意点（各自の経験発表からの検討）
 第14回：体育実技における学習場面及び安全管理（事故事例から討論）
 第15回：総まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回で扱うテーマについて、これまで教職課程を通じて学習してきたことを振り返りつつ事前準備を行うこと。毎回につき2. 5時間ほどの事前学習および1. 5時間ほどの事後学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく3回以上授業に欠席した場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業における課題への取り組み状況	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない
------	------------

参考書	学習指導要領(中学校および高等学校版)各解説。その他、演習の中で適宜紹介する予定。
履修条件・他の科目との関連	「教育実習Ⅰ」及び「教育実習Ⅱ」を履修済みであること。